

平成25年度 SYLLABUS 正誤表

平成25年4月1日

頁	科目名	事項名等
ix	国際理解教育 [期間]	夏期集中 → 前期
39	英語応用 c [テキスト]	未定 → 『Door To Door』
79	環境学概論 [テキスト]	購入保留
117・119	Advanced Reading I D・II D [テキスト]	『Gate way to Britain』 Terry O'brien 南雲堂 → 『Passport to Britain』 Mark Jewel 朝日出版社
383	小学校教育実習 I [配当学年]	34 → 4
383	小学校教育実習 II [配当学年]	34 → 4
384	幼稚園教育実習 I [配当学年]	34 → 4
384	幼稚園教育実習 II [配当学年]	34 → 4
191	日本文化論 [担当者]	(未定) → 阪口 由佳
192	日本語コミュニケーション I [テキスト]	『書いて覚える常用漢字』 → 『書き込み式 漢字ベーシック』
196	日本文学史概論 [担当者]	(未定) → 阪口 由佳
199	国語学特講 [担当者]	(未定) → 阪口 由佳
224	専門演習 I [テキスト]	『情報のみかた』 山田奨治 弘文堂 2005 → テキストなし
334	情報科学概論 [講義コード]	26501801 → 22515302 ※「心理学部心理学科専門教育科目」ではなく、 「人間文化学部人間文化学科専門教育科目」として開
340	国際理解教育 [テキスト]	『テキスト国際理解』 米田伸次他 国土社 2002年 → テキストなし

※テキストは書籍名が変更した場合のみ書籍名のみ記載

【凡例】

- ＝必修科目（クラス指定される科目については別紙参照）
- △＝選択必修科目
- ▲＝選択必修科目（平成24年度以後入学者適用）
- ＝専攻・年度により必修となる科目
- ☆＝他学部・他学科専門教育科目（履修できる科目）
- 旧＝平成25年度から名称変更となった科目（〔旧〕の後継科目。または〔読替〕となる科目）
- 隔年開講1＝隔年で（西暦が奇数の年に）開講される科目
- 隔年開講2＝隔年で（西暦が偶数の年に）開講される科目
- ※＝平成23年度以前入学生履修科目への読替えが設定されている科目（〔読替〕で示す科目名に読替える）
- ◆＝平成24年度以後入学生専用科目
- ▼＝平成23年度以前入学生科目の後継科目（〔旧〕で示す科目名から変更された科目）
- *＝平成23年度以前入学生専用科目
- ♯＝平成21年度以後入学生適用科目
- ◇＝平成19年度以前入学生専用科目
- 留＝外国人留学生履修科目

〔資格科目〕

- 教＝教職課程科目
- 中＝教職課程科目（中学校）
- (英)＝英語の教科に関する科目
- 国＝国語の教科に関する科目
- (家)＝家庭の教科に関する科目
- 小＝教職課程科目（小学校のみ）
- 幼＝教職課程科目（幼稚園のみ）
- 司教＝司書教諭課程科目
- 図＝司書課程科目
- 博＝学芸員課程科目
- 保＝保育士養成課程科目
- 社＝社会福祉士受験資格に係る科目
- 精＝精神保健福祉士受験資格に係る科目
- 建＝二級建築士受験資格に係る科目
- イ＝インテリアプランナー資格に係る科目
- レ＝レクリエーションインストラクター資格に係る科目
- 健＝健康管理士一般指導員受験資格に係る科目
- フ＝フードスペシャリスト受験資格に係る科目
- 情＝情報処理士資格に係る科目
- ウ＝ウェブデザイン実務士資格に係る科目
- プ＝プレゼンテーション実務士資格に係る科目
- 日＝日本語教員養成課程科目
- ホ＝ホスピタリティプログラム科目
- 子＝子ども未来プログラム科目
- 医＝医療サポート語学プログラム科目
- エ＝エアラインプログラム科目

共通教育科目

共通	10103101	ノートルダム学 I A	前期隔週	…	9	共通	10101908	情報演習 I H	夏期集中	…	4
共通	10103102	ノートルダム学 I B	前期隔週	…	9	共通	10101909	情報演習 I I	夏期集中	…	4
共通	10103103	ノートルダム学 I C	前期隔週	…	9	共通	10153501	情報演習 II A	前期	…	80
共通	10103104	ノートルダム学 I D	前期隔週	…	9	共通	10153502	情報演習 II B	前期	…	80
共通	10103201	ノートルダム学 II A	後期隔週	…	10	共通	10153503	情報演習 II C	後期	…	80
共通	10103202	ノートルダム学 II B	後期隔週	…	10	共通	10153504	情報演習 II D	後期	…	80
共通	10103203	ノートルダム学 II C	後期隔週	…	10	共通	10153505	情報演習 II E	後期	…	80
共通	10103204	ノートルダム学 II D	後期隔週	…	10	共通	10152401	情報処理 A	後期	…	77
共通	10103301	ノートルダム学 III	通年集中	…	11	共通	10152402	情報処理 B	後期	…	77
共通	10158101	女性とライフキャリア A	前期	…	89	共通	10152403	情報処理 C	前期	…	77
共通	10158102	女性とライフキャリア B	後期	…	90	共通	10152404	情報処理 D	後期	…	77
共通	10155601	ホスピタリティ入門 A	前期	…	85	共通	10152405	情報処理 E	前期	…	78
共通	10155602	ホスピタリティ入門 B	後期	…	85	共通	10152406	情報処理 F	後期	…	78
共通	10157001	ホスピタリティ 京都	前期	…	88	共通	10152407	情報処理 G	前期	…	78
共通	10154201	キャリア形成 A	前期	…	81	共通	10101501	※健康スポーツ演習 P	前期	…	2
共通	10154202	キャリア形成 B	後期	…	81	共通	10101502	※健康スポーツ演習 Q	前期	…	2
共通	10154203	キャリア形成 C	前期	…	81	共通	10101503	※健康スポーツ演習 S	後期	…	2
共通	10157101	女性の育てとライフキャリア	前期後半	…	92	共通	10101504	※健康スポーツ演習 T	後期	…	2
共通	10158001	キャリア形成ゼミ	集中	…	89	共通	10101601	健康スポーツ実習	後期	…	3
共通	10157201	児童館実践演習	通年集中	…	92	共通	10154401	体育講義	夏期集中	…	82
共通	10184001	インターンシップ	集中	…	92	共通	10183501	資格英語 I	…	91	
共通	10101201	※キリスト教入門 A	前期	…	1	共通	10183601	資格英語 II	…	91	
共通	10101202	※キリスト教入門 B	前期	…	1	共通	10183701	認定日本語	…	91	
共通	10101203	※キリスト教入門 C	後期	…	1	共通	10116101	英語基礎 I (Ⅱ) S	前期	…	11
共通	10101204	※キリスト教入門 D	後期	…	1	共通	10116102	英語基礎 I (Ⅱ) A	前期	…	11
共通	10101205	※キリスト教入門 E	前期	…	1	共通	10116103	英語基礎 I (Ⅱ) B	前期	…	12
共通	10101206	※キリスト教入門 F	後期	…	1	共通	10116104	英語基礎 I (Ⅱ) C	前期	…	12
共通	10102901	宗教音楽 I A	前期隔週	…	7	共通	10116105	英語基礎 I (Ⅱ) D	前期	…	13
共通	10102902	宗教音楽 I B	前期隔週	…	7	共通	10116106	英語基礎 I (Ⅱ) E	前期	…	13
共通	10102903	宗教音楽 I C	前期隔週	…	8	共通	10116107	英語基礎 I (Ⅱ) F	前期	…	14
共通	10102904	宗教音楽 I D	前期隔週	…	8	共通	10116108	英語基礎 I (Ⅱ) G	前期	…	14
共通	10103001	宗教音楽 II A	後期隔週	…	8	共通	10116109	英語基礎 I (Ⅱ) H	前期	…	14
共通	10103002	宗教音楽 II B	後期隔週	…	8	共通	10116110	英語基礎 I (Ⅱ) J	前期	…	15
共通	10103003	宗教音楽 II C	後期隔週	…	9	共通	10116111	英語基礎 I (Ⅱ) K	前期	…	15
共通	10103004	宗教音楽 II D	後期隔週	…	9	共通	10116301	英語総合 I (Ⅱ) S	前期	…	21
共通	10102101	キリスト教思想	後期	…	5	共通	10116302	英語総合 I (Ⅱ) A	前期	…	21
共通	10102401	日本文化と宗教	前期	…	6	共通	10116303	英語総合 I (Ⅱ) B	前期	…	22
共通	10102501	西洋思想	前期	…	6	共通	10116304	英語総合 I (Ⅱ) C	前期	…	22
共通	10102601	死の哲学	前期	…	6	共通	10116305	英語総合 I (Ⅱ) D	前期	…	22
共通	10102701	キリスト教的死生観	後期	…	7	共通	10116306	英語総合 I (Ⅱ) E	前期	…	23
共通	10154801	聖書と文化 A	前期	…	84	共通	10116307	英語総合 I (Ⅱ) F	前期	…	23
共通	10154802	聖書と文化 B	後期	…	84	共通	10116308	英語総合 I (Ⅱ) G	前期	…	24
共通	10102001	キリスト教音楽 A	前期	…	5	共通	10116309	英語総合 I (Ⅱ) H	前期	…	24
共通	10102002	キリスト教音楽 B	後期	…	5	共通	10116310	英語総合 I (Ⅱ) J	前期	…	25
共通	10151601	文章表現法 A	前期	…	71	共通	10116311	英語総合 I (Ⅱ) K	前期	…	25
共通	10151602	文章表現法 B	後期	…	71	共通	10116201	英語基礎 II (Ⅱ) S	後期	…	16
共通	10151603	文章表現法 C	前期	…	71	共通	10116202	英語基礎 II (Ⅱ) A	後期	…	16
共通	10151604	文章表現法 D	後期	…	71	共通	10116203	英語基礎 II (Ⅱ) B	後期	…	17
共通	10101901	情報演習 I A	前期	…	3	共通	10116204	英語基礎 II (Ⅱ) C	後期	…	17
共通	10101902	情報演習 I B	前期	…	3	共通	10116205	英語基礎 II (Ⅱ) D	後期	…	17
共通	10101903	情報演習 I C	前期	…	3	共通	10116206	英語基礎 II (Ⅱ) E	後期	…	18
共通	10101904	情報演習 I D	前期	…	3	共通	10116207	英語基礎 II (Ⅱ) F	後期	…	18
共通	10101905	情報演習 I E	前期	…	4	共通	10116208	英語基礎 II (Ⅱ) G	後期	…	19
共通	10101906	情報演習 I F	夏期集中	…	4	共通	10116209	英語基礎 II (Ⅱ) H	後期	…	19
共通	10101907	情報演習 I G	夏期集中	…	4	共通	10116210	英語基礎 II (Ⅱ) J	後期	…	20
						共通	10116211	英語基礎 II (Ⅱ) K	後期	…	20
						共通	10116401	英語総合 II (Ⅱ) S	後期	…	25

共通	10116402	英語総合Ⅱ (B) A	後期	…	26	共通	10124101	スペイン語Ⅱ A	後期	…	54
共通	10116403	英語総合Ⅱ (B) B	後期	…	26	共通	10124102	スペイン語Ⅱ B	後期	…	54
共通	10116404	英語総合Ⅱ (B) C	後期	…	27	共通	10124201	スペイン語Ⅲ	前期	…	54
共通	10116405	英語総合Ⅱ (B) D	後期	…	27	共通	10124301	スペイン語Ⅳ	後期	…	55
共通	10116406	英語総合Ⅱ (B) E	後期	…	28	共通	10124401	朝鮮語Ⅰ A	前期	…	55
共通	10116407	英語総合Ⅱ (B) F	後期	…	28	共通	10124402	朝鮮語Ⅰ B	前期	…	55
共通	10116408	英語総合Ⅱ (B) G	後期	…	29	共通	10124403	朝鮮語Ⅰ C	前期	…	55
共通	10116409	英語総合Ⅱ (B) H	後期	…	29	共通	10124501	朝鮮語Ⅱ A	後期	…	56
共通	10116410	英語総合Ⅱ (B) J	後期	…	30	共通	10124502	朝鮮語Ⅱ B	後期	…	56
共通	10116411	英語総合Ⅱ (B) K	後期	…	30	共通	10124601	朝鮮語Ⅲ	前期	…	56
共通	10115507	英語Ⅲ (リーディング&ライティング) G	前期	…	30	共通	10124701	朝鮮語Ⅳ	後期	…	57
共通	10115508	英語Ⅲ (リーディング&ライティング) H	前期	…	31	共通	10124801	朝鮮語Ⅴ	前期	…	57
共通	10115509	英語Ⅲ (リーディング&ライティング) J	前期	…	32	共通	10124901	朝鮮語Ⅵ	後期	…	58
共通	10115510	英語Ⅲ (リーディング&ライティング) K	前期	…	33	共通	10125001	中国語Ⅰ A	前期	…	58
共通	10115511	英語Ⅲ (リーディング&ライティング) L	前期	…	33	共通	10125002	中国語Ⅰ B	前期	…	58
共通	10115607	英語Ⅳ (リーディング&ライティング) G	後期	…	34	共通	10125003	中国語Ⅰ C	前期	…	58
共通	10115608	英語Ⅳ (リーディング&ライティング) H	後期	…	34	共通	10125004	中国語Ⅰ D	前期	…	59
共通	10115609	英語Ⅳ (リーディング&ライティング) J	後期	…	35	共通	10125101	中国語Ⅱ A	後期	…	59
共通	10115610	英語Ⅳ (リーディング&ライティング) K	後期	…	36	共通	10125102	中国語Ⅱ B	後期	…	59
共通	10115611	英語Ⅳ (リーディング&ライティング) L	後期	…	36	共通	10125103	中国語Ⅱ C	後期	…	59
共通	10119101	▼英語応用 a (A)	前期	…	37	共通	10125104	中国語Ⅱ D	後期	…	60
共通	10119102	▼英語応用 a (B)	後期	…	38	共通	10125201	中国語Ⅲ	前期	…	60
共通	10119201	▼英語応用 b (A)	前期	…	38	共通	10125301	中国語Ⅳ	後期	…	61
共通	10119202	▼英語応用 b (B)	後期	…	39	共通	10126001	中国語Ⅴ	前期	…	66
共通	10119301	▼英語応用 c	前期	…	39	共通	10126101	中国語Ⅵ	後期	…	67
共通	10119401	英語応用 d (A)	前期	…	40	共通	10156101	※アラビア語Ⅰ	前期	…	86
共通	10119402	英語応用 d (B)	後期	…	40	共通	10156201	※アラビア語Ⅱ	後期	…	86
共通	10119501	▼英語応用 e	前期	…	41	共通	10156301	アラビア語Ⅲ	前期	…	87
共通	10119601	▼英語応用 f	後期	…	41	共通	10156401	アラビア語Ⅳ	後期	…	87
共通	10119701	▼英語応用 g (A)	前期	…	42	共通	10125401	日本語講読Ⅰ A	前期	…	61
共通	10119702	▼英語応用 g (B)	後期	…	42	共通	10125402	日本語講読Ⅰ B	前期	…	61
共通	10119703	▼英語応用 g (C)	後期	…	43	共通	10125501	日本語講読Ⅱ A	後期	…	62
共通	10119801	▼英語応用 h (A)	前期	…	43	共通	10125502	日本語講読Ⅱ B	後期	…	62
共通	10119802	▼英語応用 h (B)	後期	…	44	共通	10125601	日本語表現Ⅰ A	前期	…	62
共通	10119901	英語応用 i (A)	前期	…	44	共通	10125602	日本語表現Ⅰ B	前期	…	63
共通	10119902	英語応用 i (B)	後期	…	45	共通	10125701	日本語表現Ⅱ A	後期	…	64
共通	10120001	▼英語応用 j	後期	…	45	共通	10125702	日本語表現Ⅱ B	後期	…	64
共通	10121401	英会話 (初級) A	前期	…	46	共通	10125801	日本語特講Ⅰ A	前期	…	65
共通	10121402	英会話 (初級) B	前期	…	46	共通	10125802	日本語特講Ⅰ B	前期	…	65
共通	10121501	英会話 (中級) A	後期	…	46	共通	10125901	日本語特講Ⅱ A	後期	…	66
共通	10121502	英会話 (中級) B	後期	…	46	共通	10125902	日本語特講Ⅱ B	後期	…	66
共通	10123001	ドイツ語Ⅰ	前期	…	47	共通	10154101	資格日本語	…	81	
共通	10123101	ドイツ語Ⅱ	後期	…	47	共通	10153401	人間学	後期	…	79
共通	10123201	ドイツ語Ⅲ	前期	…	48	共通	10151001	日本古代中世史 A	前期	…	67
共通	10123301	ドイツ語Ⅳ	後期	…	48	共通	10151002	日本古代中世史 B	前期	…	67
共通	10123401	フランス語Ⅰ A	前期	…	49	共通	10151101	日本近世近代史 A	後期	…	68
共通	10123402	フランス語Ⅰ B	前期	…	49	共通	10151102	日本近世近代史 B	後期	…	68
共通	10123403	フランス語Ⅰ C	前期	…	49	共通	10151201	西洋史 A	前期	…	69
共通	10123501	フランス語Ⅱ A	後期	…	50	共通	10151202	西洋史 B	後期	…	69
共通	10123502	フランス語Ⅱ B	後期	…	50	共通	10151301	東洋史	前期	…	69
共通	10123503	フランス語Ⅱ C	後期	…	50	共通	10151401	日本文学	後期	…	70
共通	10123601	フランス語Ⅲ	前期	…	51	共通	10151501	外国文学	前期	…	70
共通	10123701	フランス語Ⅳ	後期	…	51	共通	10154301	心理学概論 A	前期	…	82
共通	10123801	フランス語Ⅴ	前期	…	52	共通	10154302	心理学概論 B	前期	…	82
共通	10123901	フランス語Ⅵ	後期	…	52	共通	10152101	文化人類学 A	前期	…	74
共通	10124001	スペイン語Ⅰ A	前期	…	53	共通	10152102	文化人類学 B	前期	…	75
共通	10124002	スペイン語Ⅰ B	前期	…	53	共通	10151701	法学概論 A	前期	…	72

共通	10151702	法 学 概 論	B	前期	…	72
共通	10151801	日 本 国 憲 法	A	前期	…	72
共通	10151802	日 本 国 憲 法	B	後期	…	72
共通	10151901	経 済 学 概 論	A	前期	…	73
共通	10151902	経 済 学 概 論	B	後期	…	73
共通	10152001	社 会 学 概 論	A	前期	…	74
共通	10152002	社 会 学 概 論	B	後期	…	74
共通	10152201	女 性 学 概 論	A	前期	…	76
共通	10152202	女 性 学 概 論	B	後期	…	76
共通	10155201	女 性 の 権 利	A	後期	…	84
共通	10155202	女 性 の 権 利	B	後期	…	84
共通	10152301	ボ ラ ン テ ィ ア 概 論	A	前期	…	76
共通	10152302	ボ ラ ン テ ィ ア 概 論	B	後期	…	76
共通	10157301	実 践 の 子 ど も 学	夏期集中	…	88	
共通	10157401	子 ど も と 育 て の た め の 生 活 環 境 学	前期前半	…	89	
共通	10152501	地 球 と 宇 宙 の 科 学	A	前期	…	78
共通	10152502	地 球 と 宇 宙 の 科 学	B	後期	…	78
共通	10152601	環 境 学 概 論	A	前期	…	79
共通	10152602	環 境 学 概 論	B	後期	…	79
共通	10159001	医 学 概 論	I	前期集中	…	90
共通	10155301	生 命 倫 理	A	前期	…	85
共通	10155302	生 命 倫 理	B	前期	…	85
共通	10154601	身 近 な 植 物 学 入 門		前期	…	83
共通	10154701	暮 ら し の 統 計 学		後期	…	83
共通	10181191	特 定 目 的 海 外 研 修 A (英 語 海 外 研 修 II)		集中	…	93
共通	10181192	特 定 目 的 海 外 研 修 A (英 語 海 外 研 修 IV)		集中	…	94
共通	10181193	特 定 目 的 海 外 研 修 A (韓 国 語 海 外 研 修)		集中	…	95
共通	10181194	特 定 目 的 海 外 研 修 A (海 外 イ ン タ ー ナ シ ョ ン シ ョ ン 研 修 I)		集中	…	96
共通	10181195	特 定 目 的 海 外 研 修 B (食 文 化 海 外 研 修)		集中	…	97
共通	10181196	特 定 目 的 海 外 研 修 B (文 学 ・ 文 化 海 外 研 修)		集中	…	98
共通	10183101	ボ ラ ン テ ィ ア 実 践		集中	…	91

人 間 文 化 学 部 共 通 科 目

英人	22900101	○ 基 礎 演 習 I	P	前期	…	100
英人	22900102	○ 基 礎 演 習 I	Q	前期	…	100
英人	22900103	○ 基 礎 演 習 I	R	前期	…	100
英人	22900104	○ 基 礎 演 習 I	S	前期	…	101
英人	22900105	○ 基 礎 演 習 I	T	前期	…	101
英人	22900106	○ 基 礎 演 習 I	U	前期	…	101
英人	22900111	○ ◆ 基 礎 演 習 I	A	前期	…	99
英人	22900112	○ ◆ 基 礎 演 習 I	B	前期	…	99
英人	22900113	○ ◆ 基 礎 演 習 I	C	前期	…	99
英人	22900114	○ ◆ 基 礎 演 習 I	D	前期	…	99
英人	22900201	○ 基 礎 演 習 II	P	後期	…	101
英人	22900202	○ 基 礎 演 習 II	Q	後期	…	101
英人	22900203	○ 基 礎 演 習 II	R	後期	…	102
英人	22900204	○ 基 礎 演 習 II	S	後期	…	102
英人	22900205	○ 基 礎 演 習 II	T	後期	…	102
英人	22900206	○ 基 礎 演 習 II	U	前期	…	102
英人	22900211	○ ◆ 基 礎 演 習 II	A	後期	…	99
英人	22900212	○ ◆ 基 礎 演 習 II	B	後期	…	99
英人	22900213	○ ◆ 基 礎 演 習 II	C	後期	…	100
英人	22900214	○ ◆ 基 礎 演 習 II	D	後期	…	100
英人	18001101	△ ※ 学 び の 扉 I ・ 文 化 学	A	前期	…	103
英人	18001102	△ ※ 学 び の 扉 I ・ 文 化 学	B	後期	…	103
英人	18001201	△ ◆ 学 び の 扉 II ・ 京 都 学	A	前期	…	103

英人	18001202	△ ◆ 学 び の 扉 II ・ 京 都 学	B	後期	…	103
英人	18001301	△ ◆ 学 び の 扉 III ・ 芸 術 学	A	前期	…	104
英人	18001302	△ ◆ 学 び の 扉 III ・ 芸 術 学	B	後期	…	104
英人	18001401	△ ◆ 学 び の 扉 IV ・ 文 学	A	前期	…	105
英人	18001402	△ ◆ 学 び の 扉 IV ・ 文 学	B	後期	…	105
英人	18001501	△ ◆ 学 び の 扉 V ・ こ と ば 学	A	前期	…	105
英人	18001502	△ ◆ 学 び の 扉 V ・ こ と ば 学	B	後期	…	105
英人	18001601	△ ◆ 学 び の 扉 VI ・ 女 性 学	A	前期	…	106
英人	18001602	△ ◆ 学 び の 扉 VI ・ 女 性 学	B	後期	…	106
英人	18010101	医 療 サ ポ ー ト 英 語 I		後期	…	106

人 間 文 化 学 部 英 語 英 文 学 科 専 門 教 育 科 目

英文	20201501	○ ◇ リ ー デ ィ ン グ & ラ イ テ ィ ン グ II (中 級)		前期集中	…	111
英文	20201701	○ ◇ リ ー デ ィ ン グ & ラ イ テ ィ ン グ II (上 級)		後期集中	…	112
英文	20202001	○ ◇ 英 語 LT 演 習 II (中 級)		前期	…	112
英文	20202101	○ ◇ 英 語 LT 演 習 II (上 級)		後期	…	112
英文	20201201	○ Reading and Writing I	A	前期	…	109
英文	20201202	○ Reading and Writing I	B	前期	…	109
英文	20201203	○ Reading and Writing I	C	前期	…	109
英文	20201204	○ Reading and Writing I	D	前期	…	110
英文	20201401	○ Reading and Writing II	A	後期	…	110
英文	20201402	○ Reading and Writing II	B	後期	…	110
英文	20201403	○ Reading and Writing II	C	後期	…	111
英文	20201404	○ Reading and Writing II	D	後期	…	111
英文	20204201	○ Advanced Reading I	A	前期	…	117
英文	20204202	○ Advanced Reading I	B	前期	…	117
英文	20204203	○ Advanced Reading I	C	前期	…	117
英文	20204204	○ Advanced Reading I	D	前期	…	117
英文	20204301	○ Advanced Reading II	A	後期	…	118
英文	20204302	○ Advanced Reading II	B	後期	…	118
英文	20204303	○ Advanced Reading II	C	後期	…	118
英文	20204304	○ Advanced Reading II	D	後期	…	119
英文	20204401	○ Advanced Writing I	A	前期	…	119
英文	20204402	○ Advanced Writing I	B	前期	…	119
英文	20204403	○ Advanced Writing I	C	前期	…	120
英文	20204404	○ Advanced Writing I	D	前期	…	120
英文	20204501	○ Advanced Writing II	A	後期	…	120
英文	20204502	○ Advanced Writing II	B	後期	…	121
英文	20204503	○ Advanced Writing II	C	後期	…	121
英文	20204504	○ Advanced Writing II	D	後期	…	121
英文	20204601	○ Speaking and Listening I	A	前期	…	122
英文	20204602	○ Speaking and Listening I	B	前期	…	122
英文	20204603	○ Speaking and Listening I	C	前期	…	123
英文	20204604	○ Speaking and Listening I	D	前期	…	124
英文	20204701	○ Speaking and Listening II	A	後期	…	124
英文	20204702	○ Speaking and Listening II	B	後期	…	125
英文	20204703	○ Speaking and Listening II	C	後期	…	126
英文	20204704	○ Speaking and Listening II	D	後期	…	126
英文	20204801	○ Speaking and Listening III	A	前期	…	127
英文	20204802	○ Speaking and Listening III	B	前期	…	128
英文	20204803	○ Speaking and Listening III	C	前期	…	128
英文	20204804	○ Speaking and Listening III	D	前期	…	129
英文	20204901	○ Speaking and Listening IV	A	後期	…	129
英文	20204902	○ Speaking and Listening IV	B	後期	…	130
英文	20204903	○ Speaking and Listening IV	C	後期	…	130
英文	20204904	○ Speaking and Listening IV	D	後期	…	131

英文	20205001	○ Academic Writing I A	前期	…	131	英文	20510801	カルチュラルスタディーズ	後期	…	148
英文	20205002	○ Academic Writing I B	前期	…	132	英文	20510901	個別文学・文化研究 I	半年	…	149
英文	20205003	○ Academic Writing I C	前期	…	132	英文	20511001	個別文学・文化研究 II	半年	…	149
英文	20205004	○ Academic Writing I D	前期	…	133	英文	20529001	☆ 英 文 法 III	前期	…	157
英文	20205005	○ Academic Writing I E	前期	…	133	英文	20529101	☆ 英 文 法 IV	後期	…	158
英文	20205101	○ Academic Writing II A	後期	…	133	英文	20523101	☆ 英 語 の 歴 史	前期	…	152
英文	20205102	○ Academic Writing II B	後期	…	134	英文	20529201	☆ 英語のサウンド研究	前期	…	159
英文	20205103	○ Academic Writing II C	後期	…	134	英文	20526001	☆ 英 語 学 概 論	後期	…	152
英文	20205104	○ Academic Writing II D	後期	…	135	英文	20529301	英 語 科 教 育 法 I	前期	…	159
英文	20205105	○ Academic Writing II E	後期	…	135	英文	20529401	英 語 科 教 育 法 II	後期	…	160
英文	20205201	英 会 話 I A	前期	…	136	英文	20529501	英 語 科 教 育 法 III	前期	…	161
英文	20205202	英 会 話 I B	前期	…	136	英文	20529601	英 語 科 教 育 法 IV	後期	…	162
英文	20205301	英 会 話 II A	後期	…	137	英文	20526801	☆ こ と ば の 習 得	後期	…	153
英文	20205302	英 会 話 II B	後期	…	137	英文	20527001	☆ こ と ば と 社 会	前期	…	153
英文	20205401	英 会 話 III A	前期	…	138	英文	20527101	☆ こ と ば と 文 化	後期	…	154
英文	20205402	英 会 話 III B	前期	…	138	英文	20530101	応 用 言 語 学 I	前期	…	164
英文	20205501	英 会 話 IV A	後期	…	139	英文	20530201	応 用 言 語 学 II	後期	…	165
英文	20205502	英 会 話 IV B	後期	…	139	英文	20529701	☆ こどものための英語教育 I	前期集中	…	163
英文	20203201	○ Advanced English	前期集中	…	113	英文	20529801	☆ こどものための英語教育 II	後期集中	…	163
英文	20205601	☆ 英 文 法 I A	前期	…	140	英文	20528101	☆ 児 童 英 語 教 育 I	前期	…	155
英文	20205602	☆ 英 文 法 I B	前期	…	140	英文	20528201	☆ 児 童 英 語 教 育 II	後期	…	156
英文	20205701	☆ 英 文 法 II A	後期	…	141	英文	20528301	英 語 教 材 作 成 演 習	後期	…	156
英文	20205702	☆ 英 文 法 II B	後期	…	141	英文	20527901	個 別 英 語 学 研 究 I	半年	…	154
英文	20203301	イングリッシュ・チャレンジ I	…	…	189	英文	20528001	個 別 英 語 学 研 究 II	半年	…	155
英文	20203401	イングリッシュ・チャレンジ II	…	…	189	英文	20543101	☆ 異文化コミュニケーション	後期	…	165
英文	20203501	英 語 キ ャ リ ア 戦 略	前期	…	113	英文	20543201	☆ 対人コミュニケーション	前期	…	165
英文	20203601	T O E I C I A	前期	…	114	英文	20548201	ス ピ ー チ I	前期	…	169
英文	20203602	T O E I C I B	前期	…	114	英文	20548301	ス ピ ー チ II	後期	…	170
英文	20203603	T O E I C I C	前期	…	114	英文	20543801	コンピュータネットワークコミュニケーション A	前期	…	166
英文	20203701	T O E I C II A	後期	…	115	英文	20543802	コンピュータネットワークコミュニケーション B	後期	…	166
英文	20203702	T O E I C II B	後期	…	115	英文	20543901	マ ル チ メ デ ィ ア 研 究	前期	…	166
英文	20203703	T O E I C II C	後期	…	115	英文	20546801	マ ル チ メ デ ィ ア プ ロ ダ ク シ ョ ン	後期	…	167
英文	20203801	T O E I C III A	前期	…	116	英文	20546901	☆ 言語, 文化, コミュニケーション	後期	…	167
英文	20203802	T O E I C III B	後期	…	116	英文	20547201	個別コミュニケーション研究 I	半年	…	168
英文	20547401	☆ プレゼンテーション概論	前期	…	169	英文	20547301	個別コミュニケーション研究 II	半年	…	168
英文	22508901	☆ プレゼンテーション演習	後期	…	202	英文	20569001	同 時 通 訳 法 I	前期	…	172
英文	20501201	○ 英 米 文 学 概 論	前期	…	143	英文	20569101	同 時 通 訳 法 II	後期	…	172
英文	20521001	○ 言 語 学 概 論	後期	…	151	英文	20569401	ビ ジ ネ ス 英 語 I	前期	…	173
英文	20541001	○ コミュニケーション概論	前期	…	142	英文	20569501	ビ ジ ネ ス 英 語 II	後期	…	173
英文	20561201	同 時 通 訳 入 門 A	前期	…	170	英文	20569601	☆ 時 事 英 語 I A	前期	…	174
英文	20561202	同 時 通 訳 入 門 B	後期	…	170	英文	20569602	☆ 時 事 英 語 I B	前期	…	174
英文	20503301	☆ 詩 の 研 究	後期	…	143	英文	20569701	☆ 時 事 英 語 II A	後期	…	174
英文	20503601	エ ッ セ イ の 研 究	後期	…	143	英文	20569702	☆ 時 事 英 語 II B	後期	…	174
英文	20503901	☆ 劇 の 研 究	前期	…	144	英文	20564701	日 本 文 化 観 光 ガ イ ド	後期集中	…	171
英文	20512001	☆ 英 文 学 の 歴 史 I	前期	…	150	英文	20569801	外 国 語 と し て の 日 本 語 I	前期	…	175
英文	20512101	☆ 英 文 学 の 歴 史 II	前期	…	150	英文	20569901	外 国 語 と し て の 日 本 語 II	後期	…	175
英文	20512201	☆ 米 文 学 の 歴 史	前期	…	151	英文	20568001	英 語 で 学 ぶ 日 本 文 化	前期	…	171
英文	20504901	☆ 映 画 論	前期	…	144	英文	20701001	ホ ス ピ タ リ テ ィ 論 I	前期	…	176
英文	20505201	☆ 日 米 比 較 文 化 (外 国 事 情 を 含 む 。)	前期	…	145	英文	20701101	☆ ホ ス ピ タ リ テ ィ 論 II	後期	…	176
英文	20505501	翻 訳 論 (英 日)	後期	…	145	英文	20701201	☆ エ ア ラ イ ン ・ ビ ジ ネ ス 論	後期	…	177
英文	20505801	翻 訳 論 (日 英)	前期	…	142	英文	20701301	☆ エ ア ラ イ ン ・ サ ー ビ ス 論	前期	…	177
英文	20508001	文 学 ワ ー ク シ ョ ッ プ	後期	…	146	英文	20701401	☆ 旅 行 観 光 業 研 究	夏期集中	…	178
英文	20508801	☆ 児 童 文 学	前期	…	146	英文	20701601	ホ ス ピ タ リ テ ィ ・ ス キ ル A	前期	…	178
英文	20509001	☆ メ デ ィ ア と 文 学	前期	…	147	英文	20701602	ホ ス ピ タ リ テ ィ ・ ス キ ル B	前期	…	178
英文	20512301	☆ 文 学 と 女 性	前期	…	151	英文	20701701	フ ィ ー ル ド 研 究	前期	…	179
英文	20509801	カルチュラルスタディーズワークショップ	後期	…	147	英文	20701801	接 遇 の た め の 英 語 A	前期	…	179
英文	20510101	☆ フ ェ ミ ニ ズ ム 文 化 論	後期	…	148	英文	20701802	接 遇 の た め の 英 語 B	後期	…	179

英文	20701901	☆ 接遇のための日本語 A	前期	…	180
英文	20701902	☆ 接遇のための日本語 B	後期	…	180
英文	20702001	接遇のためのコミュニケーション A	前期	…	181
英文	20702002	接遇のためのコミュニケーション B	後期	…	181
英文	20702101	ビジネスマナー演習	後期	…	181
英文	20702201	キャリアアベロップメント A	後期	…	182
英文	20702202	キャリアアベロップメント B	後期	…	182
英文	20702401	エ ア ラ イ ン 研 修	集中	…	182
英文	20901002	○ 英 語 英 文 学 特 論	通年	…	183
英文	20901003	○ 英 語 英 文 学 特 論	通年	…	184
英文	20901004	○ 英 語 英 文 学 特 論	通年	…	184
英文	20901005	○ 英 語 英 文 学 特 論	通年	…	185
英文	20901006	○ 英 語 英 文 学 特 論	通年	…	186
英文	20901007	○ 英 語 英 文 学 特 論	通年	…	186
英文	20901010	○ 英 語 英 文 学 特 論	通年	…	187
英文	20901011	○ 英 語 英 文 学 特 論	通年	…	187
英文	20901102	○ 卒 業 研 究	集中	…	188
英文	20901103	○ 卒 業 研 究	集中	…	188
英文	20901104	○ 卒 業 研 究	集中	…	188
英文	20901105	○ 卒 業 研 究	集中	…	188
英文	20901106	○ 卒 業 研 究	集中	…	188
英文	20901107	○ 卒 業 研 究	集中	…	188
英文	20901108	○ 卒 業 研 究	集中	…	188
英文	20901110	○ 卒 業 研 究	集中	…	188
英文	20901111	○ 卒 業 研 究	集中	…	188
英文	20901201	スペシャリストセミナー	通年	…	188

人間文化学部人間文化学科専門教育科目

人文	22302101	○ ※日本語コミュニケーションⅠ	前期	…	192
人文	22302201	○ ※日本語コミュニケーションⅡ A	後期	…	192
人文	22302202	○ ※日本語コミュニケーションⅡ B	後期	…	192
人文	22302301	○ ※日本語コミュニケーションⅢ	前期	…	193
人文	22508301	国 文 学 概 論	前期	…	200
人文	22507901	国 語 学 概 論	前期	…	198
人文	22506001	☆ * 日 本 文 学 史 概 論	前期	…	196
人文	22508501	☆ ▼ 日 本 古 典 文 学 講 読	後期	…	201
人文	22508601	☆ ▼ 日 本 近 代 文 学 講 読	後期	…	201
人文	22508101	☆ 日 本 語 文 法	後期	…	199
人文	20521001	言 語 学 概 論	後期	…	151
人文	22508401	書 写 研 究	前期	…	200
人文	22508201	国 語 学 特 講	前期	…	199
人文	22505901	☆ 日 本 伝 統 文 化 論	前期	…	196
人文	22521001	☆ 日 本 年 中 行 事 論	後期	…	210
人文	22510701	☆ 京 都 学	後期	…	206
人文	22521101	☆ 京 都 フィールドワーク研究	後期	…	210
人文	22521201	日 本 語 教 育 入 門	前期	…	211
人文	22301301	☆ 日 本 文 化 論	後期	…	191
人文	22508801	☆ 日 本 語 表 現	前期	…	202
人文	20547401	☆ プレゼンテーション概論	前期	…	169
人文	22508901	☆ プレゼンテーション演習	後期	…	202
人文	22509001	☆ 日 本 語 の 朗 読	後期	…	203
人文	22509101	☆ ス ピ ー チ の 基 礎	前期	…	203
人文	22509201	☆ ビジネスライティング	前期	…	204
人文	22509301	☆ 古 文 書 読 解	後期	…	204
人文	22401501	☆ 現 代 ジャーナリズム論	後期	…	194
人文	22401701	☆ 情 報 シ ス テ ム 論	前期	…	195

人文	22515001	☆ インターネット社会論	後期	…	206
人文	22531101	☆ 情 報 科 学 応 用	前期	…	211
人文	22515301	☆ 情 報 科 学 概 論 A	前期	…	207
人文	22531201	☆ 情 報 科 学 演 習 I	前期	…	212
人文	22531301	☆ 情 報 科 学 演 習 II	後期	…	212
人文	22515501	☆ * コンピュータネットワーク	前期	…	207
人文	22515601	☆ * プログラミング概論	後期	…	208
人文	22516601	☆ ▼ 識字活動と子どもの権利	後期	…	209
人文	22516701	☆ ▼ 昔話とストーリーテリング	前期	…	210
人文	22531401	現 代 出 版 事 情	後期	…	213
人文	22516401	☆ 出 版 文 化 史	前期	…	208
人文	22533001	* ▼ 情報サービス演習Ⅰ	後期	…	216
人文	22531501	* 情 報 検 索 演 習	後期	…	391
人文	90102301	* ▼ 図書・図書館史	前期	…	394
人文	22532101	◆ ウェブデザインⅠ	前期	…	213
人文	22532201	◆ ウェブデザインⅡ	後期	…	213
人文	22532301	◆ ウェブデザイン演習	後期	…	214
人文	22532401	◆ ウェブプログラミング演習	後期	…	214
人文	22532501	◆ マルチメディア演習	前期	…	215
人文	22532601	◆ 色 彩 デ ザ イ ン 論	前期	…	215
人文	22516501	☆ ▼ 博物館情報・メディア論	前期	…	209
人文	22532901	▼ 図書館情報技術論	前期	…	216
人文	22301201	比 較 文 化 概 論	前期	…	191
人文	22401401	☆ 国 際 関 係 論	前期	…	194
人文	22506801	☆ ヨ ー ロ ッ パ 文 化 論	後期	…	197
人文	22542401	☆ ▼ 漢 文 学 入 門	前期	…	218
人文	22542501	☆ ▼ 漢 文 学 特 講	後期	…	219
人文	22543201	☆ ▼ 朝 鮮 文 化 論	前期	…	221
人文	22542601	☆ ▼ アラブ文学特講	前期	…	219
人文	22505401	▼ 比 較 文 学 講 読	後期	…	195
人文	22507301	☆ 多 文 化 理 解	後期	…	197
人文	22507401	☆ 中 東 文 化 論	前期	…	198
人文	22541301	☆ キリスト教美術概論	前期	…	217
人文	22542801	☆ ▼ 西 洋 美 術 史	後期	…	219
人文	22542901	博 物 館 概 論	前期	…	220
人文	22541701	☆ 芸 術 へ の 誘 い	前期	…	217
人文	22543001	▼ 音 楽 鑑 賞 法	前期	…	220
人文	22510301	☆ 音 楽 学 特 講	後期	…	205
人文	22543501	☆ 音 楽 文 化 概 論	前期	…	223
人文	22543601	☆ 歌 曲 論	後期	…	223
人文	22543701	☆ 典 礼 音 楽 特 講	後期	…	224
人文	22543101	☆ ▼ 西洋思想史(古代・中世)	前期	…	221
人文	22401101	☆ 西洋思想史(近世)	後期	…	193
人文	22541901	☆ 哲 学 と キ リ ス ト 教	前期	…	217
人文	22542001	☆ 日 本 思 想	後期	…	218
人文	22401801	☆ 日 本 美 術 史	前期	…	195
人文	22509401	☆ 日 本 美 術 特 講	前期集中	…	205
人文	22543301	☆ ▼ キリスト教とラテン語Ⅰ	前期	…	222
人文	22543401	☆ ▼ キリスト教とラテン語Ⅱ	後期	…	222
人文	22901201	○ ※ 発 展 演 習 I	前期	…	235
人文	22901202	○ ※ 発 展 演 習 I	前期	…	236
人文	22901203	○ ※ 発 展 演 習 I	前期	…	236
人文	22901204	○ ※ 発 展 演 習 I	前期	…	237
人文	22901205	○ ※ 発 展 演 習 I	前期	…	237
人文	22901301	○ ※ 発 展 演 習 II	後期	…	238
人文	22901302	○ ※ 発 展 演 習 II	後期	…	238
人文	22901303	○ ※ 発 展 演 習 II	後期	…	239

人文	22901304	○ ※ 発 展 演 習 II	後期	…	239	生福	24512101	☆ 衣 生 活 材 料 学	前期	…	262
人文	22901305	○ ※ 発 展 演 習 II	後期	…	240	生福	24512201	☆ ア パ レ ル デ ザ イ ン	後期	…	262
人文	22901306	○ ※ 発 展 演 習 II	後期	…	240	生福	24520001	アパレル造形学 (実習を含む)	前期	…	270
人文	22900501	○ 専 門 演 習 I	前期	…	224	生福	24511801	☆ 衣 生 活 情 報 論	後期	…	260
人文	22900502	○ 専 門 演 習 I	前期	…	224	生福	24511901	☆ 衣 生 活 文 化 史	前期	…	261
人文	22900503	○ 専 門 演 習 I	前期	…	225	生福	24512001	☆ 服 飾 文 化 論	後期	…	261
人文	22900504	○ 専 門 演 習 I	前期	…	225	生福	24501601	☆ 食 品 学	前期	…	247
人文	22900505	○ 専 門 演 習 I	前期	…	226	生福	24511001	☆ 食 品 安 全 性 学	後期	…	258
人文	22900506	○ 専 門 演 習 I	前期	…	226	生福	24510901	食品加工学 (実験を含む)	後期	…	258
人文	22900507	○ 専 門 演 習 I	前期	…	227	生福	24515001	食 品 官 能 評 価 論	前期	…	269
人文	22900508	○ 専 門 演 習 I	前期	…	227	生福	24515101	☆ 食 品 流 通 論	後期	…	269
人文	22900509	○ 専 門 演 習 I	前期	…	228	生福	24511101	☆ 栄 養 学 概 論	前期	…	259
人文	22900510	○ 専 門 演 習 I	前期	…	228	生福	24501901	☆ 調 理 学	前期	…	247
人文	22900511	○ 専 門 演 習 I	前期	…	229	生福	24520101	ベーシックキューズイーン (基礎調理実習)	前期	…	270
人文	22900512	○ 専 門 演 習 I	前期	…	229	生福	24520201	アドバンスキューズイーン (応用調理実習)	後期	…	271
人文	22900601	○ 専 門 演 習 II	後期	…	230	生福	24520301	☆ フードコーディネーター論	後期	…	271
人文	22900602	○ 専 門 演 習 II	後期	…	230	生福	24511201	☆ ライフステージと食生活	前期	…	259
人文	22900603	○ 専 門 演 習 II	後期	…	231	生福	24520401	☆ 住 環 境 学 (製図を含む)	後期	…	271
人文	22900604	○ 専 門 演 習 II	後期	…	231	生福	24502401	☆ 住 生 活 学	後期	…	248
人文	22900605	○ 専 門 演 習 II	後期	…	232	生福	24502501	☆ 住 宅 論	前期	…	248
人文	22900606	○ 専 門 演 習 II	後期	…	232	生福	24502601	☆ 住 居 史	前期	…	249
人文	22900607	○ 専 門 演 習 II	後期	…	233	生福	24502301	☆ 空 間 意 匠 論	後期	…	248
人文	22900608	○ 専 門 演 習 II	後期	…	233	生福	24512501	☆ 福 祉 住 環 境 学	前期	…	262
人文	22900609	○ 専 門 演 習 II	後期	…	234	生福	24521901	¶ 住 居 製 図 I	前期	…	279
人文	22900610	○ 専 門 演 習 II	後期	…	234	生福	24522001	¶ 住 居 製 図 II	後期	…	279
人文	22900611	○ 専 門 演 習 II	後期	…	234	生福	24512901	住 計 画 演 習 I	前期	…	264
人文	22900612	○ 専 門 演 習 II	後期	…	235	生福	24513001	住 計 画 演 習 II	後期	…	264
人文	22901101	○ 卒 業 研 究 集 中	…	…	241	生福	24522101	設 計 方 法 論	前期	…	279
人文	22901103	○ 卒 業 研 究 集 中	…	…	241	生福	24522201	¶ 建 築 法 規	後期	…	280
人文	22901104	○ 卒 業 研 究 集 中	…	…	241	生福	24512701	☆ 建 築 一 般 構 造	前期	…	263
人文	22901113	○ 卒 業 研 究 集 中	…	…	241	生福	24522301	建 築 構 造 力 学	前期	…	280
人文	22901106	○ 卒 業 研 究 集 中	…	…	241	生福	24522401	¶ 建 築 施 工	後期	…	281
人文	22901108	○ 卒 業 研 究 集 中	…	…	241	生福	24512601	☆ 建 築 材 料 学	前期	…	263
人文	22901110	○ 卒 業 研 究 集 中	…	…	241	生福	24522501	☆ ¶ 西 洋 建 築 史	前期	…	281
人文	22901111	○ 卒 業 研 究 集 中	…	…	241	生福	24801201	☆ デ ザ イ ン 論 I	前期	…	319
人文	22901112	○ 卒 業 研 究 集 中	…	…	241	生福	24801301	☆ デ ザ イ ン 論 II	後期	…	319
生活福祉文化学部生活福祉文化学科専門教育科目											
生福	24301301	○ 生 活 福 祉 文 化 概 論	前期	…	243	生福	24801101	色 彩 学 A	前期	…	318
生福	24402301	○ ライフデザイン基礎論	前期	…	245	生福	24801102	色 彩 学 B	前期	…	318
生福	24402401	○ ソーシャルワーク基礎論	前期	…	245	生福	24801401	☆ 家 庭 電 気 ・ 機 械 及 び 情 報 処 理	前期	…	319
生福	24402501	○ 生活福祉文化基礎演習 I A	前期	…	246	生福	24520501	☆ 京 都 衣 生 活 論	後期	…	272
生福	24402502	○ 生活福祉文化基礎演習 I B	前期	…	246	生福	24520601	☆ 京 都 食 生 活 論	前期	…	272
生福	24402503	○ 生活福祉文化基礎演習 I C	前期	…	246	生福	24520701	☆ 京 都 住 生 活 論	前期	…	273
生福	24402504	○ 生活福祉文化基礎演習 I D	前期	…	246	生福	24520801	京 都 生 活 産 業 実 習	通年	…	273
生福	24402505	○ 生活福祉文化基礎演習 I E	前期	…	246	生福	24520901	☆ ビジネスの基礎	前期	…	274
生福	24402506	○ 生活福祉文化基礎演習 I F	前期	…	246	生福	24521001	☆ マーケティング論	前期	…	274
生福	24402507	○ 生活福祉文化基礎演習 I G	前期	…	246	生福	24521101	☆ 女 性 起 業 論	前期	…	275
生福	24402601	○ 生活福祉文化基礎演習 II A	後期	…	246	生福	24513301	☆ 家 庭 教 育 学	後期	…	265
生福	24402602	○ 生活福祉文化基礎演習 II B	後期	…	246	生福	24502701	☆ 家 庭 管 理	前期	…	249
生福	24402603	○ 生活福祉文化基礎演習 II C	後期	…	246	生福	24502801	☆ 家 庭 経 済	前期	…	250
生福	24402604	○ 生活福祉文化基礎演習 II D	後期	…	246	生福	24503001	☆ 家 族 関 係	後期	…	250
生福	24402605	○ 生活福祉文化基礎演習 II E	後期	…	246	生福	24521201	☆ 消 費 者 教 育	前期	…	275
生福	24402606	○ 生活福祉文化基礎演習 II F	後期	…	246	生福	24521301	☆ 保 育 学 (実習及び家庭看護を含む)	後期	…	276
生福	24402607	○ 生活福祉文化基礎演習 II G	後期	…	246	生福	24521401	☆ 健 康 科 学 概 論	前期	…	276
生福	24511701	☆ 衣生活学-福祉の視点より-	前期	…	260	生福	24521501	家 庭 科 教 育 法 I (生活の自立と衣食住)	前期	…	277
						生福	24521601	家 庭 科 教 育 法 II (家族・家庭生活と福祉)	後期	…	277
						生福	24521701	家 庭 科 教 育 法 III (指導法と教材作成)	前期	…	278
						生福	24521801	家 庭 科 教 育 法 IV (模擬授業)	後期	…	278

生福	24401401	☆	社会福祉原論Ⅰ	前期	…	243	生福	24508101	レクリエーション実習	通年	…	254	
生福	24801901	☆	社会福祉原論Ⅱ	後期	…	320	生福	24508201	レクリエーション現場実習	集中	…	255	
生福	24506901	☆	老人福祉論Ⅰ	前期	…	251	生福	24508401	☆	福祉レクリエーション論	前期	…	256
生福	24802001	☆	老人福祉論Ⅱ	後期	…	320	生福	24508501	☆	福祉レクリエーション援助論	後期	…	256
生福	24527401	☆	障害者福祉論	前期	…	290	生福	24508601	☆	福祉レクリエーション援助技術	通年	…	257
生福	24527501	☆	児童福祉論	前期	…	290	生福	24508301	リハビリテーション論	後期	…	255	
生福	24525001	☆	社会福祉援助技術Ⅰ	前期	…	282	生福	24530001	保育原理Ⅰ	後期	…	296	
生福	24525101	☆	社会福祉援助技術Ⅱ	後期	…	282	生福	24530101	保育原理Ⅱ	前期	…	297	
生福	24525201	☆	社会福祉援助技術Ⅲ	前期	…	283	生福	24530259	養護原理	後期	…	297	
生福	24525301	☆	社会福祉援助技術Ⅳ	後期	…	283	生福	24530301	教育学	後期	…	297	
生福	24527601	☆	社会福祉援助技術Ⅴ	前期	…	291	生福	24534101	☆	保育の心理学ⅠA	後期	…	312
生福	24527701	☆	社会福祉援助技術Ⅵ	後期	…	291	生福	24534159	保育の心理学ⅠZ	前期	…	312	
生福	24507301		社会福祉援助技術演習ⅠA	通年	…	252	生福	24534259	保育の心理学ⅡZ	後期	…	312	
生福	24507302		社会福祉援助技術演習ⅠB	通年	…	252	生福	24534258	保育の心理学ⅡP	後期	…	312	
生福	24507358		社会福祉援助技術演習ⅠY	通年	…	252	生福	24530659	☆	小児保健Ⅰ	前期	…	298
生福	24507359		社会福祉援助技術演習ⅠZ	通年	…	253	生福	24530759	☆	小児保健Ⅱ	後期	…	298
生福	24802501		社会福祉援助技術演習ⅡA	通年	…	321	生福	24534359	小児保健演習Z	夏期集中	…	313	
生福	24802502		社会福祉援助技術演習ⅡB	通年	…	321	生福	24534358	小児保健演習P	夏期集中	…	313	
生福	24527801		社会福祉援助技術演習Ⅲ	前期	…	291	生福	24530901	小児栄養Z	前期	…	299	
生福	24527901		社会福祉援助技術実習指導Ⅰ	後期	…	292	生福	24530958	小児栄養P	前期	…	299	
生福	24528001		社会福祉援助技術実習指導Ⅱ	前期	…	292	生福	24513401	家族援助論	前期	…	265	
生福	24514101		社会福祉援助技術実習指導Ⅲ	集中	…	267	生福	24534459	保育課程論	前期	…	314	
生福	24514001		社会福祉援助技術現場実習	集中	…	266	生福	24534559	保育内容総論Z	後期後半	…	315	
生福	24507401	☆	医学一般Ⅰ	前期	…	253	生福	24534558	保育内容総論P	後期後半	…	314	
生福	24802901	☆	医学一般Ⅱ	後期	…	321	生福	24531059	保育内容ⅠZ	後期前半	…	300	
生福	24401601	☆	社会保障論Ⅰ	前期	…	244	生福	24531058	保育内容ⅠP	後期前半	…	300	
生福	24803001	☆	社会保障論Ⅱ	後期	…	322	生福	24531159	保育内容ⅡZ	前期	…	301	
生福	24506701	☆	公的扶助論	後期	…	251	生福	24531158	保育内容ⅡP	前期	…	301	
生福	24528101	☆	地域福祉論Ⅰ	前期	…	293	生福	24531259	保育内容ⅢZ	前期	…	302	
生福	24528201	☆	地域福祉論Ⅱ	後期	…	293	生福	24531258	保育内容ⅢP	前期	…	302	
生福	24528301	☆	福祉行財政と福祉計画	前期	…	294	生福	24531301	乳児保育Z	後期	…	302	
生福	24514201		社会福祉運営論	前期	…	267	生福	24531358	乳児保育P	後期	…	303	
生福	24528401	☆	就労支援	前期集中	…	294	生福	24531401	障害児保育Z	後期	…	303	
生福	24528501	☆	権利擁護と成年後見制度	前期	…	295	生福	24531458	障害児保育P	後期	…	304	
生福	24528601	☆	更生保護制度	後期前半	…	295	生福	24531501	養護内容Z	前期	…	304	
生福	24525401	☆	ボランティアマネジメント論	前期	…	283	生福	24531502	養護内容P	前期	…	304	
生福	24514501	☆	社会福祉調査法Ⅰ	後期	…	268	生福	24534659	保育相談支援Z	前期	…	316	
生福	24514601	☆	社会福祉調査法Ⅱ	前期	…	268	生福	24534658	保育相談支援P	前期	…	315	
生福	24513701	☆	社会福祉史	後期	…	266	生福	24531658	基礎技能音楽ⅠY	前期	…	305	
生福	24507501	☆	介護概論	前期	…	254	生福	24531659	基礎技能音楽ⅠZ	前期	…	305	
生福	24508801		介護技術	後期	…	257	生福	24531657	基礎技能音楽ⅠP	前期	…	305	
生福	24525801	☆	精神医学Ⅰ	前期	…	284	生福	24531701	基礎技能音楽ⅡZ	後期	…	306	
生福	24525901	☆	精神医学Ⅱ	後期	…	284	生福	24531758	基礎技能音楽ⅡP	後期	…	306	
生福	24526001	☆	精神保健学Ⅰ	前期	…	285	生福	24531801	基礎技能造形Z	前期	…	306	
生福	24526101	☆	精神保健学Ⅱ	後期	…	285	生福	24531858	基礎技能造形P	後期	…	307	
生福	24526201	☆	精神科リハビリテーション学Ⅰ	前期	…	286	生福	24531901	基礎技能体育Z	前期	…	307	
生福	24526301	☆	精神科リハビリテーション学Ⅱ	後期	…	286	生福	24531958	基礎技能体育P	後期	…	308	
生福	24526401	☆	精神保健福祉論Ⅰ	前期	…	286	生福	24532001	基礎技能演習	後期	…	308	
生福	24526501	☆	精神保健福祉論Ⅱ	後期	…	287	生福	24532701	子どもと言語表現	前期	…	311	
生福	24526601	☆	精神保健福祉論Ⅲ	後期	…	287	生福	24534701	保育実習指導Ⅰ	前期	…	316	
生福	24528701	☆	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	前期	…	296	生福	24534801	保育実習指導ⅡA	後期	…	317	
生福	24526901	☆	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	前期	…	287	生福	24534802	保育実習指導ⅡB	前期	…	317	
生福	24527001	☆	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	後期	…	288	生福	24534901	保育実習指導ⅢA	後期	…	317	
生福	24527101		*精神保健福祉援助演習Ⅰ	前期	…	288	生福	24534902	保育実習指導ⅢB	前期	…	318	
生福	24527201		*精神保健福祉援助演習Ⅱ	後期	…	289	生福	24532201	保育実習Ⅰ-1	集中	…	309	
生福	24527301		*精神保健福祉援助実習	集中	…	289	生福	24532301	保育実習Ⅰ-2	集中	…	309	
生福	24401701	☆	レクリエーション論	前期	…	244	生福	24532401	保育実習ⅡA	集中	…	310	

生福	24532402	保育実習Ⅱ	B	集中	…	310
生福	24532501	保育実習Ⅲ	A	集中	…	310
生福	24532502	保育実習Ⅲ	B	集中	…	310
生福	24532601	保育総合演習		前期	…	311
生福	24901001	○生活福祉文化特論		通年	…	322
生福	24901002	○生活福祉文化特論		通年	…	322
生福	24901003	○生活福祉文化特論		通年	…	322
生福	24901004	○生活福祉文化特論		通年	…	322
生福	24901005	○生活福祉文化特論		通年	…	322
生福	24901006	○生活福祉文化特論		通年	…	322
生福	24901007	○生活福祉文化特論		通年	…	322
生福	24901008	○生活福祉文化特論		通年	…	322
生福	24901009	○生活福祉文化特論		通年	…	322
生福	24901010	○生活福祉文化特論		通年	…	322
生福	24901011	○生活福祉文化特論		通年	…	322
生福	24901012	○生活福祉文化特論		通年	…	322
生福	24901013	○生活福祉文化特論		通年	…	322
生福	24901014	○生活福祉文化特論		通年	…	322
生福	24901015	○生活福祉文化特論		通年	…	322
生福	24901102	○卒業研究		集中	…	323
生福	24901103	○卒業研究		集中	…	323
生福	24901104	○卒業研究		集中	…	323
生福	24901105	○卒業研究		集中	…	323
生福	24901106	○卒業研究		集中	…	323
生福	24901107	○卒業研究		集中	…	323
生福	24901109	○卒業研究		集中	…	323
生福	24901110	○卒業研究		集中	…	323
生福	24901111	○卒業研究		集中	…	323
生福	24901112	○卒業研究		集中	…	323
生福	24901113	○卒業研究		集中	…	323
生福	24901114	○卒業研究		集中	…	323
生福	24901115	○卒業研究		集中	…	323
生福	24901116	○卒業研究		集中	…	323
生福	24901118	○卒業研究		集中	…	323

心理学部心理学科専門教育科目

心理	26311001	○心理学基礎演習Ⅰ		前期	…	331
心理	26311101	○心理学基礎演習Ⅱ		後期	…	331
心理	26301101	○心理学概論(心と行動)		後期	…	325
心理	26301201	○心理学概論(心と社会)		前期	…	325
心理	26303301	●※心理統計法Ⅰ	A	前期	…	329
心理	26303302	●※心理統計法Ⅰ	B	前期	…	329
心理	26303401	●※心理統計法Ⅱ	A	後期	…	330
心理	26303402	●※心理統計法Ⅱ	B	後期	…	330
心理	26301701	●心理テスト入門	Ⅰ	前期	…	326
心理	26301801	●心理テスト実習	Ⅰ	後期	…	326
心理	26303101	●心理検査法実習		前期	…	328
心理	26303501	●※心理学研究法		前期	…	330
心理	26302801	●初級実験実習Ⅰ		前期	…	327
心理	26302901	●初級実験実習Ⅱ		後期	…	327
心理	26301401	●質問紙調査法		後期	…	325
心理	26806101	●推測統計学Ⅰ	A	前期	…	368
心理	26806102	●推測統計学Ⅰ	B	前期	…	368
心理	26806103	●推測統計学Ⅰ	C	前期	…	368
心理	26806201	●推測統計学Ⅱ	A	後期	…	369
心理	26806202	●推測統計学Ⅱ	B	後期	…	369

心理	26806203	●推測統計学Ⅱ	C	後期	…	369
心理	26303201	中級実験実習		後期	…	328
心理	26802101	心理学情報処理	A	前期	…	354
心理	26802102	心理学情報処理	B	後期	…	354
心理	26505201	☆児童心理学		前期	…	342
心理	26502201	学校教育の心理学		後期	…	335
心理	26801401	☆知覚心理学		後期	…	353
心理	26506201	現代青年の心理学	Ⅰ	後期	…	346
心理	26510401	パーソナリティ心理学	Ⅰ	前期	…	350
心理	26502101	学習の心理学		前期	…	335
心理	26505401	☆乳幼児心理学		前期	…	343
心理	26510301	家族心理学		前期集中	…	349
心理	26801601	☆認知心理学		前期集中	…	353
心理	26501701	現代社会の心理学	Ⅰ	後期	…	334
心理	26801201	神経心理学		後期	…	352
心理	26506001	☆障害児心理学		前期	…	345
心理	26805301	犯罪心理学		後期	…	366
心理	26802001	心理関係法規論		夏期集中	…	354
心理	26502601	●学校教育概論		前期	…	337
心理	26401701	●臨床心理学概論	A	前期	…	332
心理	26401702	●臨床心理学概論	B	前期	…	333
心理	26501601	☆教育方法学		後期	…	333
心理	26502901	教育社会学	A	後期	…	338
心理	26504102	教育経営論		後期	…	342
心理	26505601	☆発達検査論		後期	…	344
心理	26510001	カウンセリング概論		後期	…	348
心理	26503001	教育課程論(初)		前期	…	339
心理	26503101	保育概論		後期	…	339
心理	26503201	学校臨床心理学		前期	…	340
心理	26501501	☆教育評価		後期	…	333
心理	26503301	生徒指導・進路指導		後期	…	340
心理	26502501	教育相談論		後期	…	336
心理	26503701	環境教育		後期	…	341
心理	26503901	☆情報教育		前期	…	341
心理	26504001	食と健康の教育		後期	…	342
心理	26509501	臨床心理アセスメント	A	後期	…	346
心理	26509502	臨床心理アセスメント	B	後期	…	346
心理	26510101	無意識の心理学		後期	…	349
心理	26509601	臨床相談実習		前期	…	347
心理	26510501	心理療法概論	Ⅰ	前期	…	350
心理	26802301	☆▼精神医学Ⅰ		前期	…	355
心理	26802401	☆◆精神医学Ⅱ		後期	…	356
心理	26505501	☆老年期の心理学		前期	…	343
心理	26501801	☆情報科学概論	B	後期	…	334
心理	26802201	心理学英文講読		後期	…	355
心理	26521001	心理・教育フィールド研修	a	集中	…	351
心理	26803001	国語科教育		前期	…	356
心理	26807001	書写		後期	…	369
心理	26803101	社会科教育		前期	…	356
心理	26803201	算数科教育		前期	…	357
心理	26803301	理科教育		前期	…	357
心理	26803401	生活科教育		前期	…	358
心理	26803501	音楽科教育		後期	…	358
心理	26803601	図工科教育		後期	…	359
心理	26803701	家庭科教育		後期	…	359
心理	26803801	体育科教育		前期	…	359
心理	26803901	国語科指導法		後期	…	360

心理	26804001	社会科指導法	後期	…	360
心理	26804101	算数科指導法	後期	…	361
心理	26804201	理科指導法	後期	…	361
心理	26804301	生活科指導法	後期	…	361
心理	26804401	音楽科指導法	前期	…	362
心理	26804501	図工科指導法	前期	…	362
心理	26804601	家庭科指導法	前期	…	363
心理	26804701	体育科指導法	前期	…	363
心理	26804801	保育内容指導法(健康)	後期	…	364
心理	26804901	保育内容指導法(人間関係)	前期	…	364
心理	26805001	保育内容指導法(環境)	前期	…	365
心理	26805101	保育内容指導法(言葉)	前期	…	365
心理	26805201	保育内容指導法(表現)	後期	…	366
心理	26805601	教師論 A	前期	…	367
心理	26805801	道徳の指導法 A	前期	…	367
心理	26805901	特別活動の指導法 A	前期	…	367
心理	26401601	● 発達心理学概論	前期	…	332
心理	26401501	学校心理学概論	前期	…	331
心理	26505901	● 発達心理学文献講読	後期	…	345
心理	26800901	心理学文献研究	前期	…	351
心理	26505701	* 発達心理学研究法	前期	…	344
心理	26502301	人間関係論	前期	…	336
心理	26502401	* 教育心理学研究法	前期	…	336
心理	26502701	● 学校心理学文献講読Ⅰ(心理)	前期	…	337
心理	26502801	学校心理学文献講読Ⅱ(教育)	前期	…	338
心理	26503601	* 国際理解教育	前期	…	340
心理	26509901	● 臨床心理学文献講読 A	後期	…	347
心理	26509902	● 臨床心理学文献講読 B	前期	…	348
心理	26509903	● 臨床心理学文献講読 C	後期	…	348
心理	26801001	☆ * 心理学史	後期	…	352
心理	26901402	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901403	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901404	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901405	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901406	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901407	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901408	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901409	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901410	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901411	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901412	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901414	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901415	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901416	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901417	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901418	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901419	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901421	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	370
心理	26901503	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370
心理	26901504	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370
心理	26901505	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370
心理	26901506	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370
心理	26901507	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370
心理	26901508	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370
心理	26901510	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370
心理	26901511	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370
心理	26901512	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370

心理	26901514	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370
心理	26901515	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370
心理	26901516	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370
心理	26901517	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370
心理	26901518	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370
心理	26901519	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370
心理	26901520	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370
心理	26901521	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370
心理	26901522	○ 心理学演習Ⅱ	集中	…	370
心理	26901303	○ 卒業研究	集中	…	371
心理	26901304	○ 卒業研究	集中	…	371
心理	26901305	○ 卒業研究	集中	…	371
心理	26901306	○ 卒業研究	集中	…	371
心理	26901307	○ 卒業研究	集中	…	371
心理	26901308	○ 卒業研究	集中	…	371
心理	26901310	○ 卒業研究	集中	…	371
心理	26901311	○ 卒業研究	集中	…	371
心理	26901312	○ 卒業研究	集中	…	371
心理	26901314	○ 卒業研究	集中	…	371
心理	26901315	○ 卒業研究	集中	…	371
心理	26901316	○ 卒業研究	集中	…	371
心理	26901317	○ 卒業研究	集中	…	371
心理	26901318	○ 卒業研究	集中	…	371
心理	26901319	○ 卒業研究	集中	…	371
心理	26901320	○ 卒業研究	集中	…	371
心理	26901321	○ 卒業研究	集中	…	371
心理	26901322	○ 卒業研究	集中	…	371

資格関係

教職	80001001	教師論 A	前期	…	373
教職	80001002	教師論 B	前期	…	373
教職	80001101	教育学	後期	…	373
教職	80001201	発達と学習の教育心理	前期	…	374
教職	80001302	教育社会学 B	前期	…	374
教職	80003002	教育経営論 A	後期	…	380
教職	80001401	教育課程論	前期	…	375
教職	80004401	国語科教育法Ⅰ	前期	…	381
教職	80004501	国語科教育法Ⅱ	後期	…	381
教職	80004601	国語科教育法Ⅲ	前期	…	382
教職	80004701	国語科教育法Ⅳ	後期	…	382
教職	80001901	道徳の指導法 A	前期	…	375
教職	80001902	道徳の指導法 B	後期	…	376
教職	80002001	特別活動の指導法 A	前期	…	376
教職	80002002	特別活動の指導法 B	前期	…	376
教職	80002101	教育の方法及び技術	後期	…	377
教職	80002201	生徒指導・進路指導の理論及び方法	前期集中	…	377
教職	80002301	教育相談の理論及び方法	後期	…	378
教職	80002501	教育実習事前事後指導 A	集中	…	378
教職	80002502	教育実習事前事後指導 B	集中	…	379
教職	80002601	教育実習Ⅰ	集中	…	379
教職	80002701	教育実習Ⅱ	集中	…	380
教職	80105101	教職実践演習(中・高)	後期集中	…	385
教職	80105001	教職実践演習(幼・小)	後期集中	…	384
教職	80103901	小学校教育実習Ⅰ	集中	…	383
教職	80104001	小学校教育実習Ⅱ	集中	…	383
教職	80104101	幼稚園教育実習Ⅰ	集中	…	384

教職	80104201	幼稚園教育実習Ⅱ	集中	…	384
教職	80201001	介護等体験	集中	…	386
教職	80110101	学校心理学文献講読Ⅲ(教育)	前期	…	386
教職	85001001	健康スポーツ実習(教職)A	前期集中	…	387
司教	92000101	学校経営と学校図書館	前期	…	398
司教	92000201	学校図書館メディアの構成	後期	…	398
司教	92000301	学習指導と学校図書館	前期	…	398
司教	92000401	読書と豊かな人間性	後期	…	399
司教	92000501	情報メディアの活用	前期	…	399
司書	90001001	生涯学習概論	前期	…	387
司書	90001101	図書館概論	前期	…	388
司書	90101101	▼図書館制度・経営論	後期	…	389
司書	90101201	◆図書館情報技術論	前期	…	216
司書	90101301	▼図書館サービス概論	前期	…	390
司書	90101401	▼情報サービス論	前期	…	390
司書	90002101	児童サービス論	前期	…	389
司書	90101501	▼情報サービス演習Ⅰ	後期	…	391
司書	90001601	*情報検索演習	後期	…	391
司書	90101601	▼情報サービス演習Ⅱ	後期	…	391
司書	90001501	*レファレンスサービス演習	後期	…	388
司書	90101701	▼図書館情報資源概論A	後期	…	392
司書	90101702	▼図書館情報資源概論B	後期	…	392
司書	90101801	▼情報資源組織論	夏期集中	…	392
司書	90101901	▼情報資源組織演習	後期	…	393
司書	90102201	▼図書館サービス特論	夏期集中	…	393
司書	90102001	▼図書館情報資源特論	前期前半	…	393
司書	90102301	▼図書・図書館史	前期	…	394
司書	90102401	図書館総合演習	後期	…	395
学芸	90001001	生涯学習概論	前期	…	387
学芸	91000201	博物館概論	前期	…	220
学芸	91000301	博物館経営論	後期	…	395
学芸	91000401	博物館資料論	前期	…	395
学芸	91001001	◆博物館資料保存論	後期	…	396
学芸	91001101	◆博物館展示論	後期	…	397
学芸	91001201	博物館教育論	後期	…	397
学芸	91000801	博物館実習Ⅰ	前期	…	396
学芸	91000901	博物館実習Ⅱ	集中	…	396
ウェブ	92301001	ウェブデザインⅠ	前期	…	213
ウェブ	92301101	ウェブデザインⅡ	後期	…	213
ウェブ	92301201	ウェブデザイン演習	後期	…	214
ウェブ	92301301	ウェブプログラミング演習	後期	…	214
ウェブ	92301401	マルチメディア演習	前期	…	215
ウェブ	92301501	色彩デザイン論	前期	…	215
プレ	94001101	情報機器利用プレゼンテーション演習	後期	…	403
プレ	94001001	応用プレゼンテーション演習	前期	…	403
日語	92205701	日本語教授法	後期	…	400
日語	92205801	日本語教育実習ⅠA	前期	…	400
日語	92205802	日本語教育実習ⅠB	前期	…	401
日語	92205901	日本語教育実習Ⅱ	後期集中	…	401
日語	92206001	日本語教育実習Ⅲ	集中	…	402
日語	92210101	日本語教育実習Ⅳ	集中	…	402

講義コード	10101201			
科目名	キリスト教入門A			
担当者	中里 郁子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	新共同訳『聖書』（旧約聖書続編つき）引照つきが望ましいが、『聖書』（旧約および新約）であれば、他の版でもよい。			
参考文献備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10101205			
科目名	キリスト教入門E			
担当者	中里 郁子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	新共同訳『聖書』（旧約聖書続編つき）引照つきが望ましいが、『聖書』（旧約および新約）であれば、他の版でもよい。			
参考文献備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10101202			
科目名	キリスト教入門B			
担当者	中里 郁子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	新共同訳『聖書』（旧約聖書続編つき）引照つきが望ましいが、『聖書』（旧約および新約）であれば、他の版でもよい。			
参考文献備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10101206			
科目名	キリスト教入門F			
担当者	中里 郁子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	新共同訳『聖書』（旧約聖書続編つき）引照つきが望ましいが、『聖書』（旧約および新約）であれば、他の版でもよい。			
参考文献備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10101203			
科目名	キリスト教入門C			
担当者	中里 郁子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	新共同訳『聖書』（旧約聖書続編つき）引照つきが望ましいが、『聖書』（旧約および新約）であれば、他の版でもよい。			
参考文献備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10101204			
科目名	キリスト教入門D			
担当者	中里 郁子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	新共同訳『聖書』（旧約聖書続編つき）引照つきが望ましいが、『聖書』（旧約および新約）であれば、他の版でもよい。			
参考文献備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本学の教育理念にとつて、カトリック（キリスト教）の精神は大切な柱の一つである。入門コースとしてのこの科目ではまず、聖書がどのような書物であるか、世界の存在や人間をどのように見ているかを学ぶ。次に、新約聖書の福音書の中に描かれているイエスについて、イエスとは誰か、神の国の福音とは、イエスの教えとわざなどについて学んでいく。特にイエスの教えた愛がどのようなものであるか学ぶことにより、人間のあり方へのチャレンジである福音の価値観を理解し、現代社会へのメッセージとして受け止める。

2. 教育・学習の個別課題

- 1 聖書の成立と構成
- 2 救いの歴史と契約
- 3 イエス・キリストの新しい契約
- 4 神の国のメッセージ
- 5 イエス・キリストの教えとわざ
- 6 現代社会における福音の意義

3. 教育・学習の方法

1 授業方法 (1)講義を中心とするが、聖書を共に読み、共にその意味を考え発言するよう受講者の授業への積極的参加が望まれる。(2)随時参考資料を配布する。(3)毎時間リアクションペーパーを提出してもらい、次の講義時に反映させる。

・準備学習の具体的な方法

予め配布される資料と示された聖書の箇所を事前に読んで授業に臨む。

4. 評価方法・評価基準

1. 出席率・授業参加度（30%）、学期末レポート（70%）に基づいて総合的に行う。
2. 3分の2以上の出席を必要とする。

5. 授業予定

- 第1回 キリスト教とは？
- 第2回 キリスト教と聖書
- 第3回 聖書の成立と構成
- 第4回 創造物語
- 第5回 アブラハムの物語と出エジプト
- 第6回 ルカ福音書（1）
- 第7回 ルカ福音書（2）
- 第8回 マルコ福音書（1）
- 第9回 マルコ福音書（2）
- 第10回 マタイ福音書（1）
- 第11回 マタイ福音書（2）
- 第12回 ヨハネ福音書（1）
- 第13回 ヨハネ福音書（2）
- 第14回 新約聖書における愛と赦し（1）
- 第15回 新約聖書における愛と赦し（2）

6. 留意事項

講義コード	10101501			
科目名	健康スポーツ演習P スポーツの理論と実践			
担当者	野村 照夫.野村 晴美			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10101502			
科目名	健康スポーツ演習Q スポーツの理論と実践			
担当者	野村 照夫.野村 晴美			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10101503			
科目名	健康スポーツ演習S スポーツの理論と実践			
担当者	野村 照夫.野村 晴美			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10101504			
科目名	健康スポーツ演習T スポーツの理論と実践			
担当者	野村 照夫			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

スポーツの講義および実践を通して、運動することの楽しさを知り、生涯を通してスポーツに親しむ態度を育成すること及び、自分自身の健康や体力についても理解を深め、普段の生活に役立てることが出来る能力を身に付けることを目的とする。また、他者との関わりの中で、コミュニケーション能力の向上も目指している。

2. 教育・学習の個別課題

1. スポーツテストにより基礎体力の測定を行い、自己の体力や健康につ

いて理解する。

2. スポーツ種目の実践により、「わかる」と「できる」の融合を目指して、各人の身体知を獲得し、運動の楽しさを味わう。
3. グループ活動を通して、他者との関わり方を学ぶ。
4. スポーツの講義を通して、「する」「みる」「支える」といった、スポーツへの様々な関わり方について理解する。
5. スポーツの講義を通して、自分自身の生活を振り返り、健康増進の意識を高める。

3. 教育・学習の方法

(1)スポーツの実技はAコースとBコースから選択する。

Aコースはテニスコート・グラウンド・トレーニングルーム、Bコースはアリーナを使用するスポーツ種目を行う（履修者の要望も踏まえて最終決定する）。

(2)両コース共、簡単なスポーツテストを行う。

(3)講義は原則として合同で行い、場合によっては実技も合同で行うこともある。

・準備学習の具体的な方法

スポーツテストの結果を踏まえ、自らのスポーツライフを計画し、日常生活において意識的に運動やスポーツを実践すること。また、スポーツや健康に関する情報や文献等を収集し、レポート課題の参考にすること。

4. 評価方法・評価基準

受講態度・技能水準（60点）、小レポート・レポート・課題（40点）として総合的に評価する。

5. 授業予定

第1回 オリエンテーション コース選択

第2回 スポーツテスト（握力、反復横とび、腹筋などを測定）

第3回 スポーツテストの結果分析（解説）

第4回 スポーツテストの結果分析（各自レポート作成）

第5回 スポーツ種目の実践

・Aコース…テニス、ニュースポーツ、フィットネス等を担当教官の意向をもとに履修者の要望も踏まえて実施する。

・Bコース…バレーボール、バドミントン、卓球、フィットネス等を担当教官の意向をもとに履修者の要望も踏まえて実施する。

第6回 スポーツ種目の実践

・Aコース…テニス、ニュースポーツ、フィットネス等を担当教官の意向をもとに履修者の要望も踏まえて実施する。

・Bコース…バレーボール、バドミントン、卓球、フィットネス等を担当教官の意向をもとに履修者の要望も踏まえて実施する。

第7回 スポーツ種目の実践

・Aコース…テニス、ニュースポーツ、フィットネス等を担当教官の意向をもとに履修者の要望も踏まえて実施する。

・Bコース…バレーボール、バドミントン、卓球、フィットネス等を担当教官の意向をもとに履修者の要望も踏まえて実施する。

第8回 スポーツ種目の実践

・Aコース…テニス、ニュースポーツ、フィットネス等を担当教官の意向をもとに履修者の要望も踏まえて実施する。

・Bコース…バレーボール、バドミントン、卓球、フィットネス等を担当教官の意向をもとに履修者の要望も踏まえて実施する。

第9回 スポーツ種目の実践

・Aコース…テニス、ニュースポーツ、フィットネス等を担当教官の意向をもとに履修者の要望も踏まえて実施する。

・Bコース…バレーボール、バドミントン、卓球、フィットネス等を担当教官の意向をもとに履修者の要望も踏まえて実施する。

第10回 スポーツの魅力について（ビデオを基に、スポーツについて学ぶ）

第11回 スポーツ種目の実践

・Aコース…テニス、ニュースポーツ、フィットネス等を担当教官の意向をもとに履修者の要望も踏まえて実施する。

・Bコース…バレーボール、バドミントン、卓球、フィットネス等を担当教官の意向をもとに履修者の要望も踏まえて実施する。

第12回 スポーツ種目の実践

・Aコース…テニス、ニュースポーツ、フィットネス等を担当教官の意向をもとに履修者の要望も踏まえて実施する。

・Bコース…バレーボール、バドミントン、卓球、フィットネス等を担当教官の意向をもとに履修者の要望も踏まえて実施する。

第13回 スポーツ種目の実践

・Aコース…テニス、ニュースポーツ、フィットネス等を担当教官の意向をもとに履修者の要望も踏まえて実施する。

・Bコース…バレーボール、バドミントン、卓球、フィットネス等を担当教官の意向をもとに履修者の要望も踏まえて実施する。

第14回 スポーツと健康、体力の向上

第15回 レポート課題

6. 留意事項

実技の回は、必ず運動できる服装（トレーニングウェア、ジャージ等）に

着替えて活動に参加すること。初回にコース選択を行う為、欠席した場合は、自動的にコースを振り分けます。

講義コード	10101601			
科目名	健康スポーツ実習			
担当者	野村 晴美			
単位数	1	配当学年	12	
資格	[教][保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	保育士必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

心身ともに健康で豊かな生涯を送るための基礎知識を身につける。特に、健康の重要性について理解を深め、履修者自身にとってより良い健康づくりの内容と方法を習得し、運動の生活化を図ることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

- ①人間の身体活動の基となる体力・運動能力の向上を図る。
- ②運動の生活化を図ることにより、生涯にわたる健康の土台を築く。
- ③スポーツ実習を通じて、自他を尊重する能力、中間と強しし切琢磨し合う能力、コミュニケーション能力の向上を図る。

3. 教育・学習の方法

①授業方法＝トレーニング・ストレッチ・各種スポーツの実践を中心に行う。特にトレーニングやストレッチに関しては、身体のどの部位に効果があるのかを理解した上で、普段の生活の中でも実践可能なスキルを養成する。②資料＝必要に応じ、随時プリントを配布する。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

- ①評価資格＝出席率が80%以上の者に対して、資格を与える。
- ②遅刻は3回で1回の欠席とし、見学・早退は2分の1出席とする。
- ③代替措置＝「公欠」を含み出席率が80%に満たない場合に限り、レポート等の代替措置を実施する。
- ④評価基準＝授業態度・取り組み(40%)、指導演習(30%)、日常における運動実践(20%)、体力・運動能力(10%)

5. 授業予定

- 第1回 授業に関するガイダンス 体力チェック
- 第2回 部位別筋力トレーニングの実践、有酸素運動の実践、ストレッチの実践
- 第3回 部位別筋力トレーニングの実践、有酸素運動の実践、ストレッチの実践
- 第4回 部位別筋力トレーニングの実践、有酸素運動の実践、ストレッチの実践
- 第5回 部位別筋力トレーニングの実践、有酸素運動の実践、ストレッチの実践
- 第6回 部位別筋力トレーニングの実践、有酸素運動の実践、ストレッチの実践
- 第7回 部位別筋力トレーニングの実践、有酸素運動の実践、ストレッチの実践
- 第8回 ニュースポーツ・各種スポーツ(球技系)の実践
- 第9回 ニュースポーツ・各種スポーツ(球技系)の実践
- 第10回 指導演習1
2～3人のグループに分かれて、各種スポーツの「導入～展開～まとめ」の指導を実施する。
- 第11回 指導演習2
2～3人のグループに分かれて、各種スポーツの「導入～展開～まとめ」の指導を実施する。
- 第12回 指導演習3
2～3人のグループに分かれて、各種スポーツの「導入～展開～まとめ」の指導を実施する。
- 第13回 指導演習4
2～3人のグループに分かれて、各種スポーツの「導入～展開～まとめ」の指導を実施する。
- 第14回 指導演習5
2～3人のグループに分かれて、各種スポーツの「導入～展開～まとめ」の指導を実施する。
- 第15回 まとめ 体力チェック

6. 留意事項

初回の授業より身体活動を行うので、運動用のウェア・シューズを着用し、トレーニングルームに集合すること。(教室変更の際は、口頭あるいはボードで連絡します)

講義コード	10101901			
科目名	情報演習 I A			
担当者	統括 吉田			
単位数	1	配当学年	1	
資格	[情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10101902			
科目名	情報演習 I B			
担当者	統括 吉田			
単位数	1	配当学年	1	
資格	[情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10101903			
科目名	情報演習 I C			
担当者	統括 吉田			
単位数	1	配当学年	1	
資格	[情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10101904			
科目名	情報演習 I D			
担当者	統括 吉田			
単位数	1	配当学年	1	
資格	[情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10101905			
科目名	情報演習 I E			
担当者	統括 吉田			
単位数	1	配当学年	1	
資格	[情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10101909			
科目名	情報演習 I I			
担当者	統括 吉田			
単位数	1	配当学年	1	
資格	[情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10101906			
科目名	情報演習 I F			
担当者	統括 吉田			
単位数	1	配当学年	1	
資格	[情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10101907			
科目名	情報演習 I G			
担当者	統括 吉田			
単位数	1	配当学年	1	
資格	[情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10101908			
科目名	情報演習 I H			
担当者	統括 吉田			
単位数	1	配当学年	1	
資格	[情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

今日の情報化社会では、企業・組織において一人1台のコンピュータが付与され、コンピュータはビジネスや業務を遂行するツールとして利用されている。本コースは、企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、およびプレゼンテーションソフトの実習を通してこれらの基本スキルを習得し、社会へ出る前のIT基礎力を養うことを目的とする。さらに、学内のコンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用方法など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念・操作（ファイル管理、印刷方法など）を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性 2. E-Mail・WWWの利用と情報倫理（ITリテラシー） 3. 大学図書館を中心とした蔵書検索 4. タッチタイピング 5. 日本語文書作成 6. 表計算ソフト 7. プレゼンテーションソフト 8. ファイル管理

3. 教育・学習の方法

実習を中心に授業を行う。

・準備学習の具体的な方法

復習を兼ねた課題を作成してもらうので期日までに提出すること。

4. 評価方法・評価基準

授業参加（40%）、課題（20%）、実技確認テスト（40%）の総合点で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス、タイピング指導、文字・文章入力、ファイル管理
- 第2回 E-Mail (ActiveMail) の利用と Web 検索基礎
- 第3回 MS Word2010 を利用した日本語文書作成（基本機能、書式設定、均等割付、印刷など）
- 第4回 MS Word2010 での表作成機能（表を作成するための基本機能・応用機能）
- 第5回 MS Word2010 での図形描写機能（基本的な図形描画、クリップアート、グループ化など）
- 第6回 MS Excel2010 を利用した表計算（入力、四則演算、関数など）
- 第7回 MS Excel2010 を利用した表計算（グラフ、データベース、参照など）
- 第8回 MS Excel2010 を利用した表計算ソフトの総まとめ
- 第9回 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用、大学内コンピュータシステム利用のパスワードの変更
- 第10回 MS PowerPoint2010 でのスライド作成（スライドデザイン、レイアウト、編集機能など）
- 第11回 MS PowerPoint2010 でのスライド作成（画像利用、アニメーションの作成など）
- 第12回 MS Word2010 での長文作成（改ページ、ページ番号、目次など）
- 第13回 MS Word2010 でのコンテンツ作成（コンテンツの作成、書式設定、テンプレートの利用など）
- 第14回 総合復習と練習問題
- 第15回 まとめ（実技確認テスト中心）

6. 留意事項

P検（ICTプロフェシエンシー検定）3級以上をすでに取得している学生、あるいは今年度の12月末までに取得証明の書類を提出してきた学生は、この科目の単位の取得を認めます。該当すると思われる学生は、履修登録をした上で、ネット上のシラバスの「ファイル」の項目から「P検合格者の単位認定の申請書」のフォーマットを印刷し、必要事項を書き込み、合格証書のコピーを添えて、期日（7月末と12月末）までに教務学事課に申し出てください。ただし、検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能です。その場合、評価の点数を得ることができません（単位認定の場合は、成績表には「認定」と記述されます）。

講義コード	10102001			
科目名	キリスト教音楽A ミサ曲を学ぶ			
担当者	久野 将健			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『ミサ曲 ラテン語・教会音楽ハンドブック』 三カ尻 正 ショパン			
参考文献	『バツハ小伝』 フォルケル 白水Uブックス 2003年 『神には栄光 人の心に喜び』 ヘレーネ・ヴェアテマン 日本基督教団出版局 2006年 そのほか授業中に適宜紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	10102002			
科目名	キリスト教音楽B ミサ曲を学ぶ			
担当者	久野 将健			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『ミサ曲 ラテン語・教会音楽ハンドブック』 三カ尻 正 ショパン			
参考文献	『バツハ小伝』 フォルケル 白水Uブックス 2003年 『神には栄光 人の心に喜び』 ヘレーネ・ヴェアテマン 日本基督教団出版局 2006年 そのほか授業中に適宜紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

ミサ曲は古くから多くの作曲家によって手がけられ現代にまで続いています。この授業では、特に中世からバロック時代にかけてのミサ曲の変遷とドイツの大作作曲家J.S.バッハの作曲した「ロ短調ミサ曲」を学びながら、ミサ曲と典礼との関わりやバッハの音楽の偉大さ・普遍性について学びます。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) ミサ曲のテキストと典礼との関連を理解するように努める。
- (2) J.S.バッハの音楽の特徴や他の時代の音楽との比較をする。
- (3) 音楽を味わう。

3. 教育・学習の方法

1. 授業実施方法
講義。レポートを課すことがある。
2. 学習の方法
音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目を通しておく。
3. 使用教材 テキスト、プリント、CD、DVD等。

・準備学習の具体的な方法

J.S.バッハの生涯と音楽について自分なりに調べ、理解をしておく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加度(30点)、レポート(70点)に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 ミサとミサ曲について
- 第2回 ミサ曲の歴史 ～グレゴリオ聖歌～
- 第3回 中世のミサ曲 ～ギヨーム・ド・マシヨ～
- 第4回 ルネッサンスのミサ曲 ～ギヨーム・デュファイ、ジョスカン・デ・プレ～
- 第5回 宗教改革と音楽 ～パレストリーナ～
- 第6回 初期バロック時代のミサ曲 ～モンテヴェルディ～
- 第7回 後期バロック時代のミサ曲 ～シャルパンティエ～
- 第8回 バツハ「ロ短調ミサ曲」①

- 第9回 バツハ「ロ短調ミサ曲」②
- 第10回 バツハ「ロ短調ミサ曲」③
- 第11回 バツハ「ロ短調ミサ曲」④
- 第12回 バツハ「ロ短調ミサ曲」⑤
- 第13回 バツハ「ロ短調ミサ曲」⑥
- 第14回 バツハ「ロ短調ミサ曲」⑦
- 第15回 バツハ「ロ短調ミサ曲」⑧

6. 留意事項

講義コード	10102101			
科目名	キリスト教思想 イエス・キリスト探究			
担当者	宮永 泉			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『パスカル著作集I』 パスカル(田辺保 訳) 教文館 1980			
参考文献				
備考	選択必修			
科目読替	人間と宗教II ※平成16～19年度入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

あらゆるキリスト教思想の核心に存するのはイエス・キリストである。ところが肝心要のそのイエス・キリストが何者であるかについて、これ迄絶えず論争がなされてきた。聖書学が成立している現代においてもそうであるし、将来においても恐らく同様であろう。

そのような問題であることを充分自覚しつつ、17世紀フランスの自然科学者であると同時にカトリック思想家であったパスカルのイエス・キリスト観を吟味することを通して、イエス・キリストとは何者であるのかを共に探究したい。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) イエス研究史を概観して、イエスとは何者であるかについての理解が絶えず揺れ動いてきたことを確認する。
- (2) パスカル著『要約イエス・キリスト伝』を精読して、パスカルのイエス・キリスト理解の持つ現代的意義を考える。

3. 教育・学習の方法

- (1) 授業方法：講義と講読の併用。
- (2) 学習方法：テキストの予習。

・準備学習の具体的な方法

- (1) 必ずテキストを予習しておくこと。その際絶えず聖書を参照すること。
- (2) 詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度・態度 [40%]、レポートまたはテストなど [60%] を以って総合的に行う。毎回授業に出て、しっかり耳を傾けることが最も大切です。3分の2以上の出席を要す。

5. 授業予定

- 第1回 (1) 授業準備(単位認定の仕方の説明等)
(2) 哲学の三つの型
- 第2回 イエス研究史概観
- 第3回 パスカルの神観
- 第4回 パスカル著『要約イエス・キリスト伝』講読：導入
- 第5回 同上：序論
(1) 全体の結論
(2) 注(執筆目的など)
- 第6回 同上：公生活以前
(1) 降誕前の出来事(BC1年～AD1年)
(2) 私生活(AD1年～AD33年)
- 第7回 同上：公生活1年目(AD34年始め～AD35年3月頃)
- 第8回 同上：同上続き
- 第9回 同上：公生活2年目(AD35年3月頃～AD36年3月頃)
- 第10回 同上：同上続き
- 第11回 同上：公生活3年目(AD36年3月頃～AD37年3月頃)
- 第12回 同上：同上続き
- 第13回 同上：公生活4年目(AD37年3月頃～5月)
- 第14回 同上：同上続き
- 第15回 まとめ：パスカルのイエス・キリスト観が持つ永遠性

6. 留意事項

講義コード	10102401			
科目名	日本文化と宗教			
担当者	宮永 泉			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『十牛図－自己の現象学』 上田閑照・柳田聖山共著 ちくま学芸文庫			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
備考	選択必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

鈴木大拙によれば、日本文化の根底に在るのは禅精神である。その禅精神を絵解きした「十牛図」をカトリック精神によって解説することを試みる。受講生は将来自分自身の人生観・世界観を確立する為のヒントが得られるはずである。後期講義「日本思想」と一対をなす。

2. 教育・学習の個別課題

- 西洋十七世紀のカトリック思想家パスカルが、哲学とキリスト教の関係について、サシ氏と交わした対話の記録である『サシとの対話』を絶えず念頭におきつつ、
- 禅の「十牛図」(人間が本来の自己と世界を見出す過程を絵解きしたもの)を哲学的に考察した上田閑照・柳田聖山共著『十牛図－自己の現象学』を精読する。

3. 教育・学習の方法

- 授業方法： 講義と講読の併用。
- 学習方法： テキストの予習。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポートまたはテストなど[60%]を以て総合的に行う。

毎回授業に出て、しっかり耳を傾けることが最も大切です。3分の2以上の出席を要す。

5. 授業予定

第1回 (1) 授業準備(単位認定の仕方の説明等)

(2) 哲学の三つの型

- 第2回 『サシとの対話』と『十牛図』の対比
 第3回 『十牛図』講読： 第一尋牛～第二見跡
 第4回 同上： 第一尋牛～第二見跡
 第5回 同上： 第三見牛～第五牧牛
 第6回 同上： 第三見牛～第五牧牛
 第7回 同上： 第六騎牛帰家～第七忘牛存人
 第8回 同上： 第六騎牛帰家～第七忘牛存人
 第9回 同上： 第八人牛俱忘
 第10回 同上： 第八人牛俱忘
 第11回 同上： 第九返本還源
 第12回 同上： 第九返本還源
 第13回 同上： 第十入テン垂手
 第14回 同上： 第十入テン垂手
 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10102501			
科目名	西洋思想 苦しみの意味			
担当者	宮永 泉			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	パスカル『病の善用を神に求める祈り』(プリント配布)			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
備考	選択必修			
科目読替	人間と宗教 II ※平成16～19年度入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

苦しみに意味はあるのか。この根本問題を、西洋古典を精読しつつ、共に考えたい。受講生は「死の哲学」(前期)と「キリスト教的死生観」(後期)を履修していることが望ましい。

2. 教育・学習の個別課題

- 西洋十七世紀のカトリック思想家パスカルの著作『病の善用を神に求める祈り』を精読する。
- その他、適当な講演会やビデオなどを利用して、レポートを提出して貰うことがある。

3. 教育・学習の方法

- 授業方法： 講義と講読の併用。
- 学習方法： テキストの予習。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポートまたはテストなど[60%]を以て総合的に行う。毎回授業に出て、しっかり耳を傾けることが最も大切です。3分の2以上の出席を要す。

5. 授業予定

第1回 (1) 授業準備(単位認定の仕方の説明等)

(2) 哲学の三つの型

- 第2回 苦しみの問題と死の問題の関係、キリスト教的立場の死の理解
 第3回 『病の善用を神に求める祈り』講読：「一種の死」としての病苦
 第4回 同上：「一種の死」としての病苦
 第5回 同上：「一種の死」としての病苦
 第6回 同上：神からキリストへの移行
 第7回 同上：神からキリストへの移行
 第8回 同上：キリスト教的回心
 第9回 同上：キリスト教的回心
 第10回 同上：キリスト教的回心
 第11回 同上：善と悪
 第12回 同上：善と悪
 第13回 同上：善と悪
 第14回 同上：キリストの「受難」との一致
 第15回 同上：キリストの「受難」との一致、まとめ

6. 留意事項

講義コード	10102601			
科目名	死の哲学			
担当者	宮永 泉			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『死を見つめる心』 岸本英夫 講談社文庫			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
備考	選択必修			
科目読替	人間と宗教 II ※平成16～19年度入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

死は人生で最大の問題であるが、この問題を哲学的に考察し、受講生が将来自分自身の死生観を確立するためのヒントを提示する。後期の「キリスト教的死生観」と一対をなす。

2. 教育・学習の個別課題

- 臨死体験の考察。
- 死に対する様々な態度あるいは考え方の考察。
- 上記1、2と並行して、各自で岸本英夫著『死を見つめる心』を読み、レポート提出。
- その他、適当な講演会やビデオなどを利用して、レポートを提出して貰うことがある。

3. 教育・学習の方法

- 授業方法： 講義と講読の併用。
- 学習方法： テキスト熟読、講義・講読への積極的参加、レポート作成。

・準備学習の具体的な方法

岸本英夫著『死を見つめる心』(講談社文庫)を予め熟読しておく。授業は受講生が上記書を熟読していることを前提して進める。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポート[60%]を以て総合的に行う。なお、ちょうど数学のように、前回学んだことを前提して次に進みます。従って欠席すると、授業がわからなくなります。3分の2以上の出席を要す。

5. 授業予定

- 第1回 (1) 授業準備 (単位認定の仕方の説明等)
(2) 哲学の三つの型
- 第2回 二つのタブー
第3回 二つのタブー
第4回 二つのタブー
第5回 臨死体験の考察
第6回 臨死体験の考察
第7回 臨死体験の考察
第8回 「死に対する様々な態度あるいは考え方の考察」の全体像
第9回 「死に対する様々な態度あるいは考え方の考察」の全体像
第10回 死の忘却
第11回 死の忘却
第12回 末期の目をもって生きる
第13回 末期の目をもって生きる
第14回 末期の目をもって生きる
第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10102701			
科目名	キリスト教的死生観			
担当者	宮永 泉			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『アウグスティヌス講話』 山田晶 講談社学術文庫 『バスカルの手紙』(プリント配布)			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
備考	選択必修			
科目読替	人間と宗教 II ※平成16~19年度入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

死は人生で最大の問題であるが、この問題を哲学的に考察し、受講生が将来自分自身の死生観を確立するためのヒントを提示する。前期の「死の哲学」と一対をなす。

2. 教育・学習の個別課題

- 死に対する様々な態度あるいは考え方の考察。
- 十七世紀フランスの自然科学者にしてカトリック思想家であったバスカルが、その父の死に際して書いた手紙(内容的には、死の神学が展開された論文)の精読。
- 上と並行して、各自で山田晶著『アウグスティヌス講話』を読み、レポート提出。
- その他、適当な講演会やビデオなどを利用して、レポートを提出して貰うことがある。

3. 教育・学習の方法

- 授業方法：講義と講読の併用。
- 学習方法：テキスト熟読、講義・講読への積極的参加、レポート作成。

・準備学習の具体的な方法

山田晶著『アウグスティヌス講話』(講談社学術文庫)を予め熟読しておく。授業は受講者が上記書を熟読していることを前提して進める。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポート[60%]を以て総合的に行う。なお、ちょうど数学のように、前回学んだことを前提して次に進みます。従って欠席すると、授業がわからなくなります。3分の2以上の出席を要す。

5. 授業予定

- 第1回 (1) 授業準備 (単位認定の仕方の説明等)
(2) 哲学の三つの型
- 第2回 前期講義「死の哲学」の要約
第3回 無神論的立場の死の理解、虚無の自覚
第4回 無神論的立場の死の理解、虚無の自覚
第5回 汎神論的立場の死の理解
第6回 汎神論的立場の死の理解
第7回 キリスト教的立場の死の理解
第8回 キリスト教的立場の死の理解
第9回 バスカルの手紙に開陳された「死の神学」の考察
第10回 バスカルの手紙に開陳された「死の神学」の考察
第11回 バスカルの手紙に開陳された「死の神学」の考察
第12回 バスカルの手紙に開陳された「死の神学」の考察
第13回 バスカルの手紙に開陳された「死の神学」の考察
第14回 バスカルの手紙に開陳された「死の神学」の考察

6. 留意事項

講義コード	10102901			
科目名	宗教音楽 I (新) A キリスト教音楽入門			
担当者	久野 将健			
単位数	0.5	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『キリスト教と音楽』 金澤正剛 音楽之友社 2007年 そのほか授業で使用する資料についてはプリントを配布する。			
参考文献	『キリスト教音楽と歴史』 川端純四郎 日本基督教団出版局 1999年 『キリスト教音楽と歴史』 金澤正剛 日本基督教団出版局 2005年 『宗教音楽対訳集成』 吉村恒編 国書刊行会 2007年			
備考	必修(前期)クラス指定			
科目読替	宗教音楽 I 隔週 1単位 必修 ※平成19年度以前入学者に適用「宗教音楽 I (新)」と「宗教音楽 II (新)」を合わせて履修すること。			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10102902			
科目名	宗教音楽 I (新) B キリスト教音楽入門			
担当者	久野 将健			
単位数	0.5	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『キリスト教と音楽』 金澤正剛 音楽之友社 2007年 そのほか授業で使用する資料についてはプリントを配布する。			
参考文献	『キリスト教音楽と歴史』 川端純四郎 日本基督教団出版局 1999年 『キリスト教音楽と歴史』 金澤正剛 日本基督教団出版局 2005年 『宗教音楽対訳集成』 吉村恒編 国書刊行会 2007年			
備考	必修(前期)クラス指定			
科目読替	宗教音楽 I 隔週 1単位 必修 ※平成19年度以前入学者に適用「宗教音楽 I (新)」と「宗教音楽 II (新)」を合わせて履修すること。			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10102903		
科目名	宗教音楽Ⅰ(新) C キリスト教音楽入門		
担当者	久野 将健		
単位数	0.5	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『キリスト教と音楽』 金澤正剛 音楽之友社 2007年 そのほか授業で使用する資料についてはプリントを配布する。		
参考文献	『キリスト教音楽と歴史』 川端純四郎 日本基督教団出版局 1999年 『キリスト教音楽と歴史』 金澤正剛 日本基督教団出版局 2005年 『宗教音楽対訳集成』 吉村恒編 国書刊行会 2007年		
備考	必修(前期)クラス指定		
科目読替	宗教音楽Ⅰ 隔週 1単位 必修 ※平成19年度以前入学者に適用「宗教音楽Ⅰ(新)」と「宗教音楽Ⅱ(新)」を合わせて履修すること。		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10102904		
科目名	宗教音楽Ⅰ(新) D キリスト教音楽入門		
担当者	久野 将健		
単位数	0.5	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『キリスト教と音楽』 金澤正剛 音楽之友社 2007年 そのほか授業で使用する資料についてはプリントを配布する。		
参考文献	『キリスト教音楽と歴史』 川端純四郎 日本基督教団出版局 1999年 『キリスト教音楽と歴史』 金澤正剛 日本基督教団出版局 2005年 『宗教音楽対訳集成』 吉村恒編 国書刊行会 2007年		
備考	必修(前期)クラス指定		
科目読替	宗教音楽Ⅰ 隔週 1単位 必修 ※平成19年度以前入学者に適用「宗教音楽Ⅰ(新)」と「宗教音楽Ⅱ(新)」を合わせて履修すること。		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあります。また「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言います。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とします。授業では時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきます。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかにかに神と向き合い、作品として表現したのかを考えましょう。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてください。また年間の大学行事で歌う聖歌等の練習も授業内で行います。

2. 教育・学習の個別課題

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) 学歌をはじめさまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

3. 教育・学習の方法

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD、DVD等の視聴覚教材を用いることもある。大学行事に参加し、後にレポートを提出する。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目を通しておく。

・準備学習の具体的な方法

授業で歌う聖歌の楽譜を適宜配布するので歌えるように予習しておく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加度(30点)、まとめ試験(50点)、レポート(20

点)に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 (1) 学歌の練習、宗教と音楽について
- 第2回 (2) 教会暦と音楽
- 第3回 (3) ミサ式次第について①
- 第4回 (4) ミサ式次第について②
- 第5回 (5) ミサ式次第について③
- 第6回 (6) オルガンとその音楽①
- 第7回 (7) オルガンとその音楽②

6. 留意事項

講義コード	10103001		
科目名	宗教音楽Ⅱ(新) A キリスト教音楽入門		
担当者	久野 将健		
単位数	0.5	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『キリスト教と音楽』 金澤正剛 音楽之友社 2007年 『キリスト教音楽の歴史』 川端純四郎 日本基督教団出版局 1999年 『キリスト教音楽の歴史』 金澤正剛 日本基督教団出版局 2005年 『宗教音楽対訳集成』 吉村恒編 国書刊行会 2007年		
参考文献			
備考	必修(後期)クラス指定		
科目読替	宗教音楽Ⅰ 隔週 1単位 必修 ※平成19年度以前入学者に適用「宗教音楽Ⅰ(新)」と「宗教音楽Ⅱ(新)」を合わせて履修すること。		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10103002		
科目名	宗教音楽Ⅱ(新) B キリスト教音楽入門		
担当者	久野 将健		
単位数	0.5	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『キリスト教と音楽』 金澤正剛 音楽之友社 2007年 『キリスト教音楽の歴史』 川端純四郎 日本基督教団出版局 1999年 『キリスト教音楽の歴史』 金澤正剛 日本基督教団出版局 2005年 『宗教音楽対訳集成』 吉村恒編 国書刊行会 2007年		
参考文献			
備考	必修(後期)クラス指定		
科目読替	宗教音楽Ⅰ 隔週 1単位 必修 ※平成19年度以前入学者に適用「宗教音楽Ⅰ(新)」と「宗教音楽Ⅱ(新)」を合わせて履修すること。		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

6. 留意事項

講義コード	10103003			
科目名	宗教音楽Ⅱ(新) C キリスト教音楽入門			
担当者	久野 将健			
単位数	0.5	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『キリスト教と音楽』 金澤正剛 音楽之友社 2007年 『キリスト教音楽の歴史』 川端純四郎 日本基督教団出版局 1999年			
参考文献	『キリスト教音楽の歴史』 金澤正剛 日本基督教団出版局 2005年 『宗教音楽対訳集成』 吉村恒編 国書刊行会 2007年			
備考	必修(後期)クラス指定			
科目読替	宗教音楽Ⅰ 隔週 1単位 必修 ※平成19年度以前入学者に適用「宗教音楽Ⅰ(新)」と「宗教音楽Ⅱ(新)」を合わせて履修すること。			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	10103004			
科目名	宗教音楽Ⅱ(新) D キリスト教音楽入門			
担当者	久野 将健			
単位数	0.5	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『キリスト教と音楽』 金澤正剛 音楽之友社 2007年 『キリスト教音楽の歴史』 川端純四郎 日本基督教団出版局 1999年			
参考文献	『キリスト教音楽の歴史』 金澤正剛 日本基督教団出版局 2005年 『宗教音楽対訳集成』 吉村恒編 国書刊行会 2007年			
備考	必修(後期)クラス指定			
科目読替	宗教音楽Ⅰ 隔週 1単位 必修 ※平成19年度以前入学者に適用「宗教音楽Ⅰ(新)」と「宗教音楽Ⅱ(新)」を合わせて履修すること。			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

宗教音楽Ⅰと同様、この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とします。後期はさまざまな作曲家の宗教音楽、レクイエム、クリスマスに関連した音楽、更にフランスのオルガン音楽を学びます。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてください。また大学行事で歌う聖歌を授業内で練習します。

2. 教育・学習の個別課題

(1) さまざまキリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

3. 教育・学習の方法

1. 授業実施方法

講義および歌唱の練習。レポートを課すことがある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目を通しておく。

3. 使用教材 テキスト、プリント、CD、DVD等。

・準備学習の具体的な方法

授業で歌う聖歌の楽譜をあらかじめ配布するので予習しておく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加度(30点)、まとめ試験(50点)、レポート(20点)に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

第1回 J.S.バッハの宗教音楽

第2回 レクイエムについて

第3回 モーツァルトの宗教音楽

第4回 アドヴェント(待降節)の音楽について

第5回 クリスマスの音楽について

第6回 物故者・追悼ミサ、NDクリスマスに出席

講義コード	10103101			
科目名	ノートルダム学ⅠA			
担当者	菅井 啓之. 喜多 泰子. 中村 久美. 畠山 寛. 笹岡 隆甫			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修(前期)クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10103102			
科目名	ノートルダム学ⅠB			
担当者	菅井 啓之. 喜多 泰子. 中村 久美. 畠山 寛. 笹岡 隆甫			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修(前期)クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10103103			
科目名	ノートルダム学ⅠC			
担当者	菅井 啓之. 喜多 泰子. 中村 久美. 畠山 寛. 笹岡 隆甫			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修(前期)クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10103104			
科目名	ノートルダム学ⅠD			
担当者	菅井 啓之. 喜多 泰子. 中村 久美. 畠山 寛. 笹岡 隆甫			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修(前期)クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

充実した大学生活を送るために、本学の建学の精神である「徳と知」を日々の生活と密着して具体的に体得することを目的とする。徳と知が表裏一体となって生活化することによって、ノートルダム精神を身につけた気品ある教養豊かな女性となることを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1、人間の尊厳に目覚めた生き方の探求 2、愛・信念・謙虚さ・ユーモアに溢れた心のあり方を学ぶ 3、人間関係の常識を身につけるため、様々な方面からの礼儀やマナーを学ぶ 4、人間関係の根底となるもてなしの心を茶道や華道などを通じて学ぶ

3. 教育・学習の方法

この授業は実践的な学びを目的とするので、講義の中にワークショップや見学など体験型の学びの形式を取る予定。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示する。

4. 評価方法・評価基準

授業態度 30%、各授業ごとにコメントや感想等のまとめを提出する小レポート 40%、前期末にはキャリア形成自己評価を作成 30%で評価する。

5. 授業予定

<前期>

第1回 ノートルダム精神とライフキャリアデザイン

(菅井啓之、中村久美、喜多泰子)

第2回 人と交わる(フレッシュマンセミナー) (各学科教員)

第3回 人間関係のあり方 (畠山寛)

第4回 自校を知る (菅井啓之、中村久美)

第5回 華道に学ぶ～心豊かな日常生活への姿勢～ (笹岡隆甫)

第6回 聖母マリアの生き方に学ぶ (シスター)

第7回 自己を知ろう～大学生活への生かし方～ (喜多泰子)

第8回 キャリア形成自己評価 (菅井啓之、中村久美)

6. 留意事項

宗教音楽Ⅰ(1年次生必修)と隔週で授業を実施する。ただし、一斉授業の実施に伴う授業日の振替等があるので、配布プリントや掲示に従うこと。

講義コード	10103201		
科目名	ノートルダム学ⅡA		
担当者	菅井啓之、中村久美		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修(後期)クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10103202		
科目名	ノートルダム学ⅡB		
担当者	菅井啓之、中村久美		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修(後期)クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10103203		
科目名	ノートルダム学ⅡC		
担当者	中村久美、菅井啓之		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修(後期)クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10103204		
科目名	ノートルダム学ⅡD		
担当者	中村久美、菅井啓之		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修(後期)クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

充実した大学生活を送るために、本学の建学の精神である「徳と知」を日々の生活と密着して具体的に体得することを目的とする。徳と知が表裏一体となって生活化することによって、ノートルダム精神を身につけた気品ある教養豊かな女性となることを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1、人間の尊厳に目覚めた生き方の探求 2、愛・信念・謙虚さ・ユーモアに溢れた心のあり方を学ぶ 3、人間生活の常識を身につけるため、様々な方面からの礼儀やマナーを学ぶ 4、人間関係の根底となるもてなしの心を茶道や華道などを通じて学ぶ

3. 教育・学習の方法

この授業は実践的な学びを目的とするので、講義の中にワークショップや見学など体験型の学びの形式を取る予定。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示する。

4. 評価方法・評価基準

授業態度 30%、各授業ごとにコメントや感想等のまとめを提出する小レポート 40%、前期末にはまとめのレポート作成 30%で評価する。

5. 授業予定

<後期>

第1回 茶道に学ぶ～もてなしの心と他者へのふるまい～(千万紀子)

第2回 自己と向き合う・社会や世界を想う～河原町教会でのミサ～
(菅井啓之、中村久美)

第3回 社会に出ていくために～社会人にとっての基礎学力～
(外部講師)

第4回 自校を知る(2) (菅井啓之、中村久美)

第5回 現代社会を生きる (シスター)

第6回 自校を知る(3) (菅井啓之、中村久美)

第7回 マナーと自己表現～姿勢、態度、服装～ (外部講師)

第8回 自校検定 (菅井啓之、中村久美)

6. 留意事項

宗教音楽Ⅱ(1年次生必修)と隔週で授業を実施する。ただし一斉授業の実施に伴う授業日の振替等があるので、配布プリントや掲示に従うこと。

講義コード	10103301		
科目名	ノートルダム学Ⅲ		
担当者	菅井 啓之. 喜多 泰子. 久野 将健. 中里 郁子. 中村 久美		
単位数	1	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

卒業して社会人となることを目前に控え、本学で学んだ大学生活を静かに振り返ることを通して自己の成長を自覚すると共に、社会に出る心構えとしてノートルダム精神を再度自覚し直志を固めることをねらいとする。また本学卒業生からのメッセージを受けることで未来へのデザインを描き、ライフデザインを明確に持つ自立した女性となることを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. 社会人としての自覚を持ち、ノートルダム精神を再認識して卒業に臨む。
2. 黙想会を通して本学での学生生活を静かに振り返り積極的な自己評価を行う。
3. 卒業生によるメッセージから卒業後の心構えを学ぶ。
4. 卒業後のライフデザインを描くことができる。
5. 卒業式に向けての準備と心構え。

3. 教育・学習の方法

この授業では社会人となる心構えとライフプランニングを明確にもつことを目指す。そのため講義だけでなく、実践的な学びやワークショップなど体験型の学びを主とした形式を取る予定。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

出席を重視すると共に、授業態度や各授業ごとのコメントや感想等の提出、キャリア形成自己評価などを総合して評価する。

5. 授業予定

- 第1回 Ⅲ-1、社会人としての自立とノートルダム精神 (菅井啓之)
- 第2回 Ⅲ-2、女性の権利とライフデザイン (喜多泰子)
- 第3回 Ⅲ-3、自立の基本 お金の常識 (外部講師)
- 第4回 Ⅲ-4、専門教育の総括 社会に出て行く準備 (1)
- 第5回 Ⅲ-5、専門教育の総括 社会に出て行く準備 (2)
- 第6回 Ⅲ-6、シスター中里から
- 第7回 Ⅲ-7、卒業式を迎えるにあたって
- 第8回 Ⅲ-8、黙想会 (シスター)

6. 留意事項

講義コード	10116101		
科目名	英語基礎 I S		
担当者	York Weatherford		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『Real Reading 2』 Wiese, David Longman 2010		
参考文献	Graded Readers may be borrowed from the library. An English-English dictionary such as 『Longman Handy Learner's Dictionary』 is highly recommended. An electronic dictionary is also acceptable.		
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

The purpose of this course is to help students become more effective readers by exploring interesting and relevant topics to develop reading and vocabulary skills. Students will have opportunities to improve their reading fluency, and they will learn useful strategies for

vocabulary development.

2. 教育・学習の個別課題

Students will learn about a variety of new and interesting topics and become more confident and motivated readers of English. In addition, students will increase their knowledge of English vocabulary and structure.

3. 教育・学習の方法

Classes will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・準備学習の具体的な方法

Students are expected to complete all homework assignments before class. Assignments include reading, vocabulary review, and writing tasks.

4. 評価方法・評価基準

20% Class Participation

40% Reading Assignments

40% Quizzes

5. 授業予定

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 Why Are We Shy?
- 第3回 Shy Actors
- 第4回 A Basketball Star's Hospital
- 第5回 A Charitable Soccer Team
- 第6回 Online Shopping and the Environment
- 第7回 Eco-Friendly Airplanes
- 第8回 Review
- 第9回 The World's Strangest Hotels
- 第10回 Small Town, Strange Festival
- 第11回 What is American Food?
- 第12回 Why Chilies Are Hot
- 第13回 Why Do We Enjoy Music?
- 第14回 Why Some People Can't Appreciate Music
- 第15回 Review

6. 留意事項

講義コード	10116102		
科目名	英語基礎 I A 正確に読む力を養う		
担当者	村上 裕美		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『学びのデザインノート：MH式ポートフォリオオ大学英語学習者用』 村上裕美 ナカニシヤ出版 2012 学習用テキストとして資料を講義時もしくは事前に毎回配布します。 『学びのデザインノート』は初回の授業から持参して下さい。		
参考文献	授業で紹介しますが、参考 URL でも紹介しています。		
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

この講義を通して英語の力を養い、将来専門分野の英文資料を読む力を養います。

さらに、資料として取り上げる英文を通して毎回意見を構築し、社会、人を中心にさまざまなテーマについて考える機会を提供します。また、英語学習者ポートフォリオ使用を通して自身で計画し、実行し、自己内省する力を養います。

2. 教育・学習の個別課題

英語の知識を活用し、行間も含め英文の内容を正確に読み取り、そこに現れる主題、メッセージを読み取る力を養います。

また、正しく英文を読み取る上で必要な文法力をテーマ別に毎回学習します。

3. 教育・学習の方法

毎回の授業では、テーマとする文法項目を定め、英文の読み取りに影響することを学びます。

また、英文は毎回テーマが変わりますが、各テーマに関する意見を英文で作成し、自身の考えを表現、主張する機会とします。グループによるプレゼンテーションも実施します。

・準備学習の具体的な方法

毎回の授業で事前に次の授業で使用する教材を配布します。その教材について単語を調べ内容を読み取る事前学習の準備をしてください。授業時に予習をして不明だった箇所を集中して学習しましょう。また、英文のテーマや本文中に出てくる内容について事前にインターネット等を利用して調べ、背景知識を豊かにしましょう。

4. 評価方法・評価基準

試験（2回実施する復習テストおよび小テスト） 60%
 取り組み（提出物・予習・発表） 40%

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
英語力自己診断
- 第2回 スキミング・スキヤニング I
パラグラフの大意をつかむⅠ 文の構造（単文・重文）
- 第3回 スキミング・スキヤニング II
パラグラフの大意をつかむⅡ 文の構造（複文・混文）
- 第4回 指示後の働きを読みとる I
接続詞の働き（等位接続詞）
- 第5回 指示後の働きを読みとる II
接続詞の働き（従位接続詞）
- 第6回 人称代名詞の働きを読みとる
時制の働き
- 第7回 復習テスト I
- 第8回 名詞の働きに注目した読みとり I
可算名詞・不可算名詞
- 第9回 名詞の働きに注目した読みとり II
集合名詞・物質名詞
- 第10回 形容詞の働きに注目した読みとり
動詞から派生した形容詞を中心に
- 第11回 比較表現と働きに注目した読みとり
- 第12回 副詞の働きに注目した読みとり
- 第13回 復習テスト
- 第14回 話法の働きに注目した読みとり
- 第15回 前期の学習内容を確認する読みとり
グループ発表

6. 留意事項

毎回学習テーマを掲げて、半期で一通りの読みとりに必要な基本文法を習得するデザインですので、遅刻もしくは欠席は著しくその学習効果を減じます。欠席は5回以上になると単位認定が不可能となります。十分注意してください。携帯電話の辞書機能は教室では使用を認めません。辞書もしくは電子辞書を毎回持参して下さい。

講義コード	10116103			
科目名	英語基礎 I B 総合的な英文法を身に付ける			
担当者	田中 美和子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『PRISM Book2 : Rose, Second Edition』 Timothy Kiggell, Katsuhiko Muto Macmillan Language house LTD 2012			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースの目的は、簡単な英語文を効率よく読み、英語で発信することができる能力の開発です。簡潔にまとめられた平明な英語のテキストを多く読み、様々な主題や表現を経験します。この読む練習を通じて、初級基本英文法の復習や総合的な読解スキルの学習、さらに語彙ビルディングも行われます。そして、発信する能力へとつなげていきます。

入学時のプレースメントテストから、みなさんは、改善すべき弱点、さらに伸ばすべき能力を自覚して、それを基に前期の学習の組み立てが出来るようにしていきます。

2. 教育・学習の個別課題

1. 主題別にディスカッションをして、英語リーディングを行う
2. 初級基本英文法の復習
3. 様々な読解スキルを習得して、パラグラフリーディングをする
4. 語彙力の向上

3. 教育・学習の方法

テキストを用いて、初級基本英文法を復習し、基礎的な読解スキルを身につける。さらに、総合的なコミュニケーション能力を高めるために、ディスカッションや、プレゼンテーションを行う。テキストの主題に沿いながら、特にコミュニケーションに使われる英語表現に親しむ。

・準備学習の具体的な方法

教科書の本文を、前もって読み、わからない単語や表現をチェックしておきましょう。さらに、授業が終わってから、わからなかったところを復習しましょう。授業には、必ず英和辞書を持ってきてください。

4. 評価方法・評価基準

小テスト 20 授業参加度 50 理解度テスト 30
 遅刻・欠席は減点対象となります。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 1 Looking for Lost Luggage
- 第3回 比較表現①
- 第4回 Chapter 2 Working Animals
- 第5回 比較表現②
- 第6回 Chapter 3 Niagara Falls
- 第7回 比較表現③
- 第8回 Chapter 4 Chocolate Buyer Wanted
- 第9回 動名詞
- 第10回 Chapter 5 Cool Sunglasses
- 第11回 動名詞と不定詞
- 第12回 Chapter 6 Mr. "So-and-so" & Mrs. "Such-and-such"
- 第13回 原型不定詞（使役動詞）
- 第14回 Chapter 7 Giant Teddy Bear
- 第15回 理解度調査とまとめ

6. 留意事項

講義コード	10116104			
科目名	英語基礎 I C			
担当者	石川 真美			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Good News 1』 David Peaty 桐原書店 2007			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

簡単な英語文を効率よく読むことができる能力の開発を目指します。平易な英語を多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験します。この読む練習を通じて、基礎的な文法の復習、語彙ビルディングも行われます。

2. 教育・学習の個別課題

1. 主題別の英語リーディング
2. 様々な読解スキルの習得
3. パラグラフリーディング
4. 語彙力の向上
5. 文法事項の定着

3. 教育・学習の方法

毎回 300-400 語程度の英文を読みます。リスニングも含めた種々の練習問題を通して文章の正確な内容を把握し、基本語彙の定着をはかるとともに新聞や雑誌に頻出する語彙の増強を目指します。また文の結合に着目した平易なライティングの練習を通して文法知識を整理し、今までよりも自信を持って英語が使えるようになることを目指します。

・準備学習の具体的な方法

テキストの予習では大意をつかみ、わかりにくいところをチェックし、授業でその部分を確認してください。頻繁に単語の小テストをしますのでしっかり復習しましょう。10種類のライティング課題は必ず提出してください。

4. 評価方法・評価基準

授業評価は小中テストの結果（40%）、課題の提出回数（40%）、授業に向かう姿勢（20%）から総合的に判断します

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション; Unit 1 Positive News
- 第2回 Unit 1 Positive News
- 第3回 Unit 2 Ms. President
- 第4回 Unit 2 Ms. President

- 第5回 Unit 3 Increase in Panda Population
- 第6回 Unit 3 Increase in Panda Population
- 第7回 Unit 4 Educating the Poor
- 第8回 Unit 4 Educating the Poor
- 第9回 Unit 5 Traditional Medicine
- 第10回 Unit 5 Traditional Medicine
- 第11回 Unit 6 Ethical Weddings
- 第12回 Unit 6 Ethical Weddings
- 第13回 Unit 7 A Powerful Gesture for Peace
- 第14回 Unit 7 A Powerful Gesture for Peace
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10116105		
科目名	英語基礎 I D		
担当者	伊村 大樹		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	特になし(プリントを使用)		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

英語の仕組みを理解し、ある程度のレベルの英文を自分で読みこなせるようになる。

2. 教育・学習の個別課題

- ・文型の基礎を理解する
- ・読解に集中した文法の整理
- ・流れに乗った読解

3. 教育・学習の方法

教科書はありません。まず高校までの文法を簡単におさらいし、その後はプリントを配布して教材とします。

・準備学習の具体的な方法

プリントの予習(単語を辞書で調べる・わからないところをチェックする)は欠かさず行うこと。また読み終わった教材に関しての小テストを行うことがあるので、そのための準備も怠らないこと。

4. 評価方法・評価基準

平常点(授業参加度と課題・小テスト)40%、まとめの試験 60%の総合評価を基本とします。まとめのテストに欠席した場合は単位が認められません。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 読解のための文型・文法
- 第3回 プリントを用いた読解の練習
- 第4回 プリントを用いた読解の練習
- 第5回 プリントを用いた読解の練習
- 第6回 プリントを用いた読解の練習
- 第7回 プリントを用いた読解の練習
- 第8回 プリントを用いた読解の練習
- 第9回 プリントを用いた読解の練習
- 第10回 プリントを用いた読解の練習
- 第11回 プリントを用いた読解の練習
- 第12回 プリントを用いた読解の練習
- 第13回 プリントを用いた読解の練習
- 第14回 プリントを用いた読解の練習
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10116106			
科目名	英語基礎 I E			
担当者	小川 典子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『English Grip: Essential English Skills for College Students』 Yoshihiko Honda, Robert Hickling 金星堂 2008年			
参考文献	特になし			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースの目的は、簡単な英語文を効率よく読むことができる能力の開発です。平易な英語のテキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験します。この読む練習を通じて、基礎的な文法の復習、語彙ビルディングも行われます。入学時のプレースメントテストが学生諸君それぞれの英語能力を客観的に示します。改善すべき弱点、さらに伸ばすべき能力などを学生諸君自らが十分自覚し、それを基に一年間の学習の組み立てが出来るようクラス担当者が助けます。クラス終了時には学習の成果を確かめるため再び第三者テストによるアチーブメントテストを受験します。これにより、一年間の英語学習を点検し、次年度の学習計画につなげることができます。

2. 教育・学習の個別課題

1. 主題別に英語リーディングを行う
2. 様々な読解スキルを習得する
3. パラグラフリーディング
4. 語彙力の向上(当初の目標を1500語程度の習得に置き、2000語習得を最終目標とした)

3. 教育・学習の方法

毎回1Unitずつ進めていきます。英語の文章を正確に読むためには、語彙だけでなく文法も必要です。語彙を着実に増やしていくと同時に、各Unitで取り上げられている文法事項をしっかりと身に付けます。

・準備学習の具体的な方法

必ず予習が必要です。分からない単語は必ず辞書で調べ、テキストの問題に対して自分なりの答えを準備してから授業に臨んでください。また、語彙・文法事項の定着を確実にものにするため、毎回の授業開始時に予習・復習確認小テストを行います。

4. 評価方法・評価基準

- ・小テスト、まとめテストの結果(70%)
- ・授業参加点(30%)

なお、単位取得には原則として3分の2以上の出席が必要です。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1: Fashion (文法事項: 名詞)
- 第3回 Unit 2: Companies (文法事項: 代名詞)
- 第4回 Unit 3: Business Trips (文法事項: 自動詞・他動詞・リンキング動詞)
- 第5回 Unit 4: Transportation and Commuting (文法事項: 助動詞)
- 第6回 Unit 5: Marketing, Sales and Products (文法事項: 不定詞・動名詞)
- 第7回 Unit 6: Offices and Supplies (文法事項: 場所・動きを表す前置詞)
- 第8回 前半のまとめ
- 第9回 Unit 7: Meetings and Presentations (文法事項: 時間を表す前置詞)
- 第10回 Unit 8: Art (文法事項: 形容詞・副詞)
- 第11回 Unit 9: Restaurants and Food (文法事項: 原級・比較級・最上級)
- 第12回 Unit 10: Housing (文法事項: 接続詞(1))
- 第13回 Unit 11: The Environment and Recycling (文法事項: 現在時制と現在進行形)
- 第14回 Unit 12: Business Profile (文法事項: 過去時制)
- 第15回 後半のまとめ

6. 留意事項

毎回、英和辞書を持参してください。

講義コード	10116107			
科目名	英語基礎 I F			
担当者	小川 典子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『English Grip: Essential English Skills for College Students』 Yoshihiko Honda, Robert Hickling 金星堂 2008年			
参考文献	特になし			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースの目的は、簡単な英語文を効率よく読むことができる能力の開発です。平易な英語のテキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験します。この読む練習を通じて、基礎的な文法の復習、語彙ビルディングも行われます。入学時のプレースメントテストが学生諸君それぞれの英語能力を客観的に示します。改善すべき弱点、さらに伸ばすべき能力などを学生諸君自らが十分自覚し、それを基に一年間の学習の組み立てが出来るようクラス担当者が助けます。クラス終了時には学習の成果を確かめるため再び第三者テストによるアチーブメントテストを受験します。これにより、一年間の英語学習を点検し、次年度の学習計画につなげることができます。

2. 教育・学習の個別課題

1. 主題別に英語リーディングを行う
2. 様々な読解スキルを習得する
3. パラグラフリーディング
4. 語彙力の向上 (当初の目標を1500語程度の習得に置き、2000語習得を最終目標としたい)

3. 教育・学習の方法

毎回1Unitずつ進めていきます。英語の文章を正確に読むためには、語彙だけでなく文法も必要です。語彙を着実に増やしていくと同時に、各Unitで取り上げられている文法事項をしっかりと身に付けます。

・準備学習の具体的な方法

必ず予習が必要です。分からない単語は必ず辞書で調べ、テキストの問題に対して自分なりの答えを準備してから授業に臨んでください。また、語彙・文法事項の定着を確実なものにするため、毎回の授業開始時に予習・復習確認小テストを行います。

4. 評価方法・評価基準

- ・小テスト、まとめテストの結果 (70%)
- ・授業参加点 (30%)

なお、単位取得には原則として3分の2以上の出席が必要です。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1: Fashion (文法事項: 名詞)
- 第3回 Unit 2: Companies (文法事項: 代名詞)
- 第4回 Unit 3: Business Trips (文法事項: 自動詞・他動詞・リンキング動詞)
- 第5回 Unit 4: Transportation and Commuting (文法事項: 助動詞)
- 第6回 Unit 5: Marketing, Sales and Products (文法事項: 不定詞・動名詞)
- 第7回 Unit 6: Offices and Supplies (文法事項: 場所・動きを表す前置詞)
- 第8回 前半のまとめ
- 第9回 Unit 7: Meetings and Presentations (文法事項: 時間を表す前置詞)
- 第10回 Unit 8: Art (文法事項: 形容詞・副詞)
- 第11回 Unit 9: Restaurants and Food (文法事項: 原級・比較級・最上級)
- 第12回 Unit 10: Housing (文法事項: 接続詞 (1))
- 第13回 Unit 11: The Environment and Recycling (文法事項: 現在時制と現在進行形)
- 第14回 Unit 12: Business Profile (文法事項: 過去時制)
- 第15回 後半のまとめ

6. 留意事項

毎回、英和辞書を持参してください。

講義コード	10116108			
科目名	英語基礎 I G			
担当者	伊村 大樹			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	特になし(プリントを使用)			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

英語の仕組みを理解し、ある程度のレベルの英文を自分で読みこなせるようになる。

2. 教育・学習の個別課題

- ・文型の基礎を理解する
- ・読解に集中した文法の整理
- ・流れに乗った読解

3. 教育・学習の方法

教科書はありません。まず高校までの文法を簡単におさらいし、その後はプリントを配布して教材とします。

・準備学習の具体的な方法

プリントの予習(単語を辞書で調べる・わからないところをチェックする)は欠かせず行うこと。また読み終わった教材に関しての小テストを行うことがあるので、そのための準備も怠らないこと。

4. 評価方法・評価基準

平常点(授業参加度と課題・小テスト)40%、まとめの試験60%の総合評価を基本とします。まとめのテストに欠席した場合は単位が認められません。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 読解のための文型・文法
- 第3回 プリントを用いた読解の練習
- 第4回 プリントを用いた読解の練習
- 第5回 プリントを用いた読解の練習
- 第6回 プリントを用いた読解の練習
- 第7回 プリントを用いた読解の練習
- 第8回 プリントを用いた読解の練習
- 第9回 プリントを用いた読解の練習
- 第10回 プリントを用いた読解の練習
- 第11回 プリントを用いた読解の練習
- 第12回 プリントを用いた読解の練習
- 第13回 プリントを用いた読解の練習
- 第14回 プリントを用いた読解の練習
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10116109			
科目名	英語基礎 I H			
担当者	石川 真美			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Read This! 1』 Daphne Mackey Cambridge 2010			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

簡単な英語文を効率よく読むことができる能力の開発します。平易な英語のテキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験します。この読む練習を通じて、基礎的な文法の復習、語彙ビルディングも行われます。

2. 教育・学習の個別課題

1. 主題別の英語リーディング
2. 様々な読解スキルの習得

3. パラグラフフリーディング

4. 語彙力の向上

3. 教育・学習の方法

毎回 200-300 語程度の英文を読みます。リスニングも含めた種々の練習問題を通して文章の正確な内容を把握し、基本語彙の定着をはかるとともに新聞や雑誌に頻出する語彙の増強を目指します。また文の結合に着目した平易なライティングの練習を通して文法知識を整理し、今までよりも自信を持って英語が使えるようになることを目指します。

・準備学習の具体的な方法

テキストの予習では大意をつかみ、わかりにくいところをチェックし、授業でその部分を確認してください。頻りに単語の小テストをしますのすっきり復習しましょう。10種類の英作文課題は必ず提出してください。

4. 評価方法・評価基準

授業評価は小中テストの結果 (40%)、課題の提出回数 (40%)、授業に向かう姿勢 (20%) から総合的に判断します。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション; Chapter 1 Baby Talk
- 第2回 Chapter 1 Baby Talk
- 第3回 Chapter 2 Face Reading
- 第4回 Chapter 2 Face Reading
- 第5回 Chapter 3 A Language for Women Only
- 第6回 Chapter 3 A Language for Women Only
- 第7回 Chapter 4 Write a Best Seller
- 第8回 Chapter 4 Write a Best Seller
- 第9回 Chapter 5 Who Was That Man @ the Computer
- 第10回 Chapter 5 Who Was That Man @ the Computer
- 第11回 Chapter 6 I Saw It on the Internet
- 第12回 Chapter 6 I Saw It on the Internet
- 第13回 Chapter 7 A Life with Numbers
- 第14回 Chapter 7 A Life with Numbers
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10116110			
科目名	英語基礎 I J 基本的な英文法を身につける			
担当者	田中 美和子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『PRISM Book1 : Red, Second Edition』 Timothy Kiggell, Katsuhiko Muto Macmillan Language house LTD 2012			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースの目的は、簡単な英語文を効率よく読み、英語で発信することができる能力の開発です。簡潔にまとめられた平明な英語のテキストを多く読み、様々な主題や表現を経験します。この読む練習を通じて、初級基本英文法の復習や総合的な読解スキルの学習、さらに語彙ビルディングも行われます。そして、発信する能力へとつなげていきます。入学時のプレースメントテストから、みなさんは、改善すべき弱点、さらに伸ばすべき能力を自覚して、それを基に前期の学習の組み立てが出来るようにしていきます。

2. 教育・学習の個別課題

1. 主題別にディスカッションをして、英語リーディングを行う
2. 初級基本英文法の復習
3. 様々な読解スキルを習得して、パラグラフフリーディングをする
4. 語彙力の向上

3. 教育・学習の方法

テキストを用いて、初級基本英文法を復習し、基礎的な読解スキルを身につける。さらに、総合的なコミュニケーション能力を高めるために、ディスカッションや、プレゼンテーションを行う。テキストの主題に沿いながら、特にコミュニケーションに使われる英語表現に親しむ。

・準備学習の具体的な方法

教科書を、前もって読み、わからない単語や表現をチェックしておきましょう。さらに、授業が終わってから、復習しましょう。そして、授業には、毎回必ず英和辞書を持ってきてください。

4. 評価方法・評価基準

小テスト20 授業参加度50 理解度テスト30
欠席および遅刻は減点対象となります。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション (授業の進め方)
- 第2回 Chapter 1 April Fool's Day
- 第3回 文の要素
- 第4回 Chapter 2 Clever Pigs
- 第5回 文型① (第1~3文型)
- 第6回 Chapter 3 Split the Bill
- 第7回 文型② (第4~5文型)
- 第8回 Chapter 4 Disney's Dream
- 第9回 文の構造① (単文)
- 第10回 Chapter 6 Ryo Ishikawa: Record Breaker
- 第11回 文の構造② (複文)
- 第12回 Chapter 6 Ryo Ishikawa: Record Breaker
- 第13回 時制① (現在形: 現在進行形)
- 第14回 Chapter7 Unusual Pets
- 第15回 理解度調査とまとめ

6. 留意事項

講義コード	10116111			
科目名	英語基礎 I K 正確に読む力を養う			
担当者	村上 裕美			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『学びのデザインノート: MH 式ポर्टフォリオ大学英語学習者用』 村上裕美 ナカニシヤ出版 2012 学習用テキストとして資料を講義時もしくは事前に毎回配布します。 『学びのデザインノート』は初回の授業から持参して下さい。			
参考文献	授業で紹介しますが、参考 URL でも紹介しています。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この講義を通して英語の力を養い、将来専門分野の英文資料を読む力を養います。さらに、資料として取り上げる英文を通して毎回、意見を構築し、社会、人を中心にさまざまなテーマについて考える機会を提供します。また、英語学習者ポर्टフォリオ使用を通して自身で計画し、実行し、自己内省する力を養います。

2. 教育・学習の個別課題

英語の知識を活用し、行間も含め英文の内容を正確に読み取り、そこに現れる主題、メッセージを読み取る力を養います。また、正しく英文を読み取る上で必要な文法力をテーマ別に毎回学習します。

3. 教育・学習の方法

毎回の授業では、テーマとする文法項目を定め、英文の読み取りに影響することを学びます。

また、英文は毎回テーマが変わりますが、各テーマに関する意見を英文で作成し、自身の考えを表現、主張する機会とします。グループによるプレゼンテーションも実施します。

・準備学習の具体的な方法

毎回の授業で事前に次回の授業で使用する教材を配布します。その教材について単語を調べ内容を読み取る事前学習の準備をしてください。授業時に予習をして不明だった箇所を集中して学習しましょう。また、英文のテーマや本文中に出てくる内容について事前にインターネット等を利用して調べ、背景知識を豊かにしましょう。

4. 評価方法・評価基準

試験 (2回実施する復習テストおよび小テスト) 60%
取り組み (提出物・予習・発表) 40%

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
英語力自己診断
- 第2回 スキミング・スキヤニング I
パラグラフの大意をつかむ/ 文の構造 (単文・重文)
- 第3回 スキミング・スキヤニング II

パラグラフの大意をつかむ/ 文の構造 (複文・混文)

- 第4回 指示後の働きを読みとる I
接続詞の働き (等位接続詞)
- 第5回 指示後の働きを読みとる II
接続詞の働き (従位接続詞)
- 第6回 人称代名詞の働きを読みとる
時制の働き
- 第7回 復習テスト I
- 第8回 名詞の働きに注目した読みとり I
可算名詞・不可算名詞
- 第9回 名詞の働きに注目した読みとり II
集合名詞・物質名詞
- 第10回 形容詞の働きに注目した読みとり
動詞から派生した形容詞を中心に
- 第11回 比較表現と働きに注目した読みとり
- 第12回 副詞の働きに注目した読みとり
- 第13回 復習テスト
- 第14回 話法の働きに注目した読みとり
- 第15回 前期の学習内容を確認する読みとり
グループ発表

6. 留意事項

毎回学習テーマを掲げて、半期で一通りの読みとりに必要な基本文法を習得するデザインですので、遅刻もしくは欠席は著しくその学習効果を減じます。欠席は5回以上になると単位認定が不可能となります。十分注意してください。携帯電話の辞書機能は教室では使用を認めません。辞書もしくは電子辞書を毎回持参して下さい。

講義コード	10116201			
科目名	英語基礎 II S			
担当者	York Weatherford			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Real Reading 2』 Wiese, David Longman 2010			
参考文献	Graded Readers may be borrowed from the library. An English-English dictionary such as 『Longman Handy Learner's Dictionary』 is highly recommended. An electronic dictionary is also acceptable.			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

The purpose of this course is to help students continue to become more effective readers by exploring interesting and relevant topics to develop reading and vocabulary skills. As in the first semester, students will have opportunities to improve their reading fluency, and they will learn useful strategies for vocabulary development.

2. 教育・学習の個別課題

Students will learn about a variety of new and interesting topics and become more confident and motivated readers of English. In addition, students will increase their knowledge of English vocabulary and structure.

3. 教育・学習の方法

Classes will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・準備学習の具体的な方法

Students are expected to complete all homework assignments before class. Assignments include reading, vocabulary review, and writing tasks.

4. 評価方法・評価基準

- 20% Class Participation
- 40% Reading Assignments
- 40% Quizzes

5. 授業予定

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 Famous Movie Flops
- 第3回 Sleeper Hits
- 第4回 Birth Order Theory
- 第5回 The Nurture Assumption
- 第6回 The Haiku Master

- 第7回 So You Want to Write a Haiku?
- 第8回 Review
- 第9回 The Race to Build the Tallest Buildings
- 第10回 The Challenges of Maintaining Olympic Stadiums
- 第11回 Pheromone Perfume
- 第12回 The Language of Pheromones
- 第13回 The Chronometer
- 第14回 The Treasure of the SS Central America
- 第15回 Review

6. 留意事項

講義コード	10116202			
科目名	英語基礎 II A 行間を読みとろう			
担当者	村上 裕美			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『学びのデザインノート：MH 式ポータルフォリオオ大学英語学習者用』 村上裕美 ナカニシヤ出版 2012 学習用テキストとして資料を講義時もしくは事前に毎回配布します。 『学びのデザインノート』は前期に引き続き使用しますので初回の授業から持参して下さい。			
参考文献	授業で紹介しますが、参考 URL でも紹介しています。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この講義を通して英語の力を養い、将来専門分野の英文資料を読む力を養います。

さらに、資料として取り上げる英文を通して毎回、意見を構築し、社会、人を中心にさまざまなテーマについて考える機会を提供します。また、英語学習者ポータルフォリオ使用を通して自身で計画し、実行し、自己内省する力を養います。

2. 教育・学習の個別課題

英語の知識を活用し、行間も含め英文の内容を正確に読み取り、そこに現れる主題、メッセージを読み取る力を養います。また、正しく英文を読み取る上で必要な文法力をテーマ別に毎回学習します。

3. 教育・学習の方法

毎回の授業では、テーマとする文法項目を定め、英文の読み取りに影響することを学びます。

また、英文は毎回テーマが変わりますが、各テーマに関する意見を英文で作成し、自身の考えを表現、主張する機会とします。グループによるプレゼンテーションも実施します。

・準備学習の具体的な方法

毎回の授業で事前に次回の授業で使用する教材を配布します。その教材について単語を調べ内容を読み取る事前学習の準備をしてください。

授業時に予習をして不明だった箇所を集中して学習しましょう。また、英文のテーマや本文中に出てくる内容について事前にインターネット等を利用して調べ、背景知識を豊かにしましょう。

4. 評価方法・評価基準

- 試験 (2回実施する復習テストおよび小テスト) 60%
- 取り組み (提出物・予習・発表) 40%

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
英語力自己点検
- 第2回 スキミング・スキヤニング I
Main idea, topic sentence を読み取る
- 第3回 スキミング・スキヤニング II
パラグラフの働きを学ぶ
- 第4回 分詞の働きに注目した読み取り
- 第5回 不定詞の働きに注目した読み取り
- 第6回 助動詞の働きに注目した読み取り
- 第7回 復習テスト
- 第8回 強調・倒置構文に注目した読み取り
- 第9回 否定表現に注目した読み取り
- 第10回 変奏の働きに注目した読み取り I
- 第11回 変奏の働きに注目した読み取り II
- 第12回 無生物主語/ 名詞構文に注目した読み取り

- 第13回 復習テスト
 第14回 一年の学習内容を確認する読みとり
 グループ発表Ⅰ
 第15回 一年の学習内容を確認する読みとり
 グループ発表Ⅱ

6. 留意事項

毎回学習テーマを掲げて、半期で一通りの読みとりに必要な基本文法を習得するデザインですので、遅刻もしくは欠席は著しくその学習効果を減じます。欠席は5回以上になると単位認定が不可能となります。十分注意してください。携帯電話の辞書機能は教室では使用を認めません。辞書もしくは電子辞書を毎回持参して下さい。

講義コード	10116203			
科目名	英語基礎ⅡB 応用のきく英文法を身につける			
担当者	田中 美和子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『PRISM Book2 : Rose, Second Edition』 Timothy Kiggell, Katsuhiko Muto Macmillan Language house LTD 2012			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースの目的は、簡単な英語文を効率よく読み、英語で発信することができる能力の開発です。簡潔にまとめられた平明な英語のテキストを多く読み、様々な主題や表現を経験します。この読む練習を通じて、初級基本英文法の復習や総合的な読解スキルの学習、さらに語彙ビルディングも行われます。そして、発信する能力へとつなげていきます。

そして、後期に実施されるアチーブメントテストで、学習の成果を確かめ、これまでの英語学習を振り返り、次年度の学習計画につなげていきます。

2. 教育・学習の個別課題

1. 主題別にディスカッションをして、英語リーディングを行う
2. 初級基本英文法の復習
3. 様々な読解スキルを習得して、パラグラフリーディングをする
4. 語彙力の向上

3. 教育・学習の方法

テキストを用いて、初級基本英文法を復習し、応用のきく読解スキルを身につける。さらに、総合的なコミュニケーション能力を高めるために、ディスカッションや、プレゼンテーションを行う。テキストの主題に沿いながら、特にコミュニケーションに使われる英語表現に親しむ

・準備学習の具体的な方法

教科書の本文を、前もって読み、わからない単語や表現をチェックしておきましょう。さらに、授業が終わってから、わからなかったところを復習しましょう。授業には、必ず英和辞書を持ってきてください。

4. 評価方法・評価基準

小テスト20 授業参加度50 理解度テスト30

欠席および遅刻は減点対象となります。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 無生物主語
- 第3回 Chapter 8 Charlie the Parrot
- 第4回 不定詞（形式主語、慣用表現）
- 第5回 Chapter 9 Sherlock Holmes Falls to His Death
- 第6回 受動態（受動表現）
- 第7回 Chapter 10 Cell Phone Art
- 第8回 不定代名詞
- 第9回 Chapter 11 Fashion for Dogs
- 第10回 否定①
- 第11回 Chapter 12 Cell Phone Manners
- 第12回 Chapter 13 Animal Astronauts
- 第13回 Chapter 14 Ichiro: Most Valuable Player
- 第14回 Chapter 15 Astro Boy
- 第15回 理解度調査とまとめ

6. 留意事項

講義コード	10116204			
科目名	英語基礎ⅡC			
担当者	石川 真美			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Good News 1』 David Peaty 桐原書店 2007			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

簡単な英語文を効率よく読むことができる能力を開発します。平易な英語のテキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験します。この読む練習を通じて、基礎的な文法の復習、語彙ビルディングも行われます。

2. 教育・学習の個別課題

1. 主題別の英語リーディング
2. 様々な読解スキルの習得
3. パラグラフリーディング
4. 語彙力の向上

3. 教育・学習の方法

毎回300-400語程度の英文を読みます。リスニングも含めた種々の練習問題を通して文章の正確な内容を把握し、基本語彙の定着をはかるとともに新聞や雑誌に頻出する語彙の増強を目指します。また文の結合に着目した平易なライティングの練習を通して文法知識を整理し、今までよりも自信を持って英語が使えるようになることを目指します。

・準備学習の具体的な方法

テキストの予習では大意をつかみ、わかりにくいところをチェックし、授業でその部分を確認してください。頻繁に単語の小テストをしますのでしっかり復習しましょう。10種類の英作文課題は必ず提出してください。

4. 評価方法・評価基準

授業評価は小中テストの結果（40%）、課題の提出回数（40%）、授業に向かう姿勢（20%）から総合的に判断します。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション; Unit 8 Goldman Environmental Awards Announced
- 第2回 Unit 8 Goldman Environmental Awards Announced
- 第3回 Unit 9 Volunteering Holidays
- 第4回 Unit 9 Volunteering Holidays
- 第5回 Unit 10 The Gift of Sight
- 第6回 Unit 10 The Gift of Sight
- 第7回 Unit 11 A Friend of Cambodia
- 第8回 Unit 11 A Friend of Cambodia
- 第9回 Unit 12 Restoring Forests
- 第10回 Unit 12 Restoring Forests
- 第11回 Unit 13 No Smoking Please
- 第12回 Unit 13 No Smoking Please
- 第13回 Unit 14 The Story of Gaviostas
- 第14回 Unit 14 The Story of Gaviostas
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10116205			
科目名	英語基礎ⅡD			
担当者	伊村 大樹			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	特になし(プリントを使用)			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

英語基礎 I までで学んだことに基づき、英文読解の力を養う。

2. 教育・学習の個別課題

- ・文型の基礎を理解する
- ・読解に集中した文法の整理
- ・流れに乗った読解

3. 教育・学習の方法

教科書はありません。まず高校までの文法を簡単におさらいし、その後はプリントを配布して教材とします。

・準備学習の具体的な方法

プリントの予習(単語を辞書で調べる・わからないところをチェックする)は欠かさず行うこと。また読み終わった教材に関しての小テストを行うことがあるので、そのための準備も怠らないこと。

4. 評価方法・評価基準

平常点(授業参加度と課題・小テスト)40%、まとめの試験 60%の総合評価を基本とします。まとめのテストに欠席した場合は単位が認められません。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 プリントを用いた読解の練習
- 第3回 プリントを用いた読解の練習
- 第4回 プリントを用いた読解の練習
- 第5回 プリントを用いた読解の練習
- 第6回 プリントを用いた読解の練習
- 第7回 プリントを用いた読解の練習
- 第8回 プリントを用いた読解の練習
- 第9回 プリントを用いた読解の練習
- 第10回 プリントを用いた読解の練習
- 第11回 プリントを用いた読解の練習
- 第12回 プリントを用いた読解の練習
- 第13回 プリントを用いた読解の練習
- 第14回 プリントを用いた読解の練習
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10116206			
科目名	英語基礎 II E			
担当者	小川 典子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『English Grip: Essential English Skills for College Students』 Yoshihiko Honda, Robert Hickling 金星堂 2008年			
参考文献	特になし			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースの目的は、簡単な英語文を効率よく読むことができる能力の開発です。平易な英語のテキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験します。この読む練習を通じて、基礎的な文法の復習、語彙ビルディングも行われます。入学時のプレースメントテストが学生諸君それぞれの英語能力を客観的に示します。改善すべき弱点、さらに伸ばすべき能力などを学生諸君自らが十分自覚し、それを基に一年間の学習の組み立てが出来るようクラス担当者が助けます。クラス終了時には学習の成果を確かめるため再び第三者テストによるアチーブメントテストを受験します。これにより、一年間の英語学習を点検し、次年度の学習計画につなげることが出来ます。

2. 教育・学習の個別課題

1. 主題別に英語リーディングを行う
2. 様々な読解スキルを習得する
3. パラグラフリーディング
4. 語彙力の向上 (当初の目標を 1500 語程度の習得に置き、2000 語習得を最終目標としたい)

3. 教育・学習の方法

毎回 1Unit ずつ進めていきます。英語の文章を正確に読むためには、語彙だけでなく文法も必要です。語彙を着実に増やしていくと同時に、各 Unit で取り上げられている文法事項をしっかりと身に付けます。

・準備学習の具体的な方法

必ず予習が必要です。分からない単語は必ず辞書で調べ、テキストの問題に対して自分なりの答えを準備してから授業に臨んでください。また、語彙・文法事項の定着を確実なものにするため、毎回の授業開始時に予習・復習確認小テストを行います。

4. 評価方法・評価基準

- ・小テスト、まとめテストの結果 (70%)
- ・授業参加点 (30%)

なお、単位取得には原則として 3 分の 2 以上の出席が必要です。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 13: Schedules (文法事項：未来)
- 第3回 Unit 14: Computers and the Internet (文法事項：現在完了時制・過去完了時制)
- 第4回 Unit 15: Industry and Manufacturing (文法事項：能動態と受動態)
- 第5回 Unit 16: Making Arrangements (文法事項：接続詞 (2) — 従位 (従属) 接続詞)
- 第6回 Unit 17: Business Culture (文法事項：否定文)
- 第7回 Unit 18: Recruitment (文法事項：疑問文・疑問詞・付加疑問文)
- 第8回 前半のまとめ
- 第9回 Unit 19: Entertaining and Socializing (文法事項：関係代名詞・関係副詞)
- 第10回 Unit 20: Education (文法事項：後置修飾)
- 第11回 Unit 21: Banking (文法事項：仮定法)
- 第12回 Unit 22: Health (文法事項：話法)
- 第13回 配布資料
- 第14回 後半のまとめ
- 第15回 配布資料

6. 留意事項

毎回、英和辞書を持参してください。

講義コード	10116207			
科目名	英語基礎 II F			
担当者	小川 典子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『English Grip: Essential English Skills for College Students』 Yoshihiko Honda, Robert Hickling 金星堂 2008年			
参考文献	特になし			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースの目的は、簡単な英語文を効率よく読むことができる能力の開発です。平易な英語のテキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験します。この読む練習を通じて、基礎的な文法の復習、語彙ビルディングも行われます。入学時のプレースメントテストが学生諸君それぞれの英語能力を客観的に示します。改善すべき弱点、さらに伸ばすべき能力などを学生諸君自らが十分自覚し、それを基に一年間の学習の組み立てが出来るようクラス担当者が助けます。クラス終了時には学習の成果を確かめるため再び第三者テストによるアチーブメントテストを受験します。これにより、一年間の英語学習を点検し、次年度の学習計画につなげることが出来ます。

2. 教育・学習の個別課題

1. 主題別に英語リーディングを行う
2. 様々な読解スキルを習得する
3. パラグラフリーディング
4. 語彙力の向上 (当初の目標を 1500 語程度の習得に置き、2000 語習得を最終目標としたい)

3. 教育・学習の方法

毎回 1Unit ずつ進めていきます。英語の文章を正確に読むためには、語彙だけでなく文法も必要です。語彙を着実に増やしていくと同時に、各 Unit で取り上げられている文法事項をしっかりと身に付けます。

・準備学習の具体的な方法

必ず予習が必要です。分からない単語は必ず辞書で調べ、テキストの問題に対して自分なりの答えを準備してから授業に臨んでください。また、語彙・文法事項の定着を確実なものにするため、毎回の授業開始時に予習・復習確認小テストを行います。

4. 評価方法・評価基準

- ・小テスト、まとめテストの結果 (70%)
- ・授業参加点 (30%)

なお、単位取得には原則として 3 分の 2 以上の出席が必要です。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 Unit 13: Schedules (文法事項：未来)
 第3回 Unit 14: Computers and the Internet (文法事項：現在完了時制・過去完了時制)
 第4回 Unit 15: Industry and Manufacturing (文法事項：能動態と受動態)
 第5回 Unit 16: Making Arrangements (文法事項：接続詞 (2) — 従位 (従属) 接続詞)
 第6回 Unit 17: Business Culture (文法事項：否定文)
 第7回 Unit 18: Recruitment (文法事項：疑問文・疑問詞・付加疑問文)
 第8回 前半のまとめ
 第9回 Unit 19: Entertaining and Socializing (文法事項：関係代名詞・関係副詞)
 第10回 Unit 20: Education (文法事項：後置修飾)
 第11回 Unit 21: Banking (文法事項：仮定法)
 第12回 Unit 22: Health (文法事項：話法)
 第13回 配布資料
 第14回 後半のまとめ
 第15回 配布資料

6. 留意事項

毎回、英和辞書を持参してください。

講義コード	10116208		
科目名	英語基礎 II G		
担当者	伊村 大樹		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	特になし(プリントを使用)		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

英語基礎 I までで学んだことに基づき、英文読解の力を養う。

2. 教育・学習の個別課題

- ・文型の基礎を理解する
- ・読解に集中した文法の整理
- ・流れに乗った読解

3. 教育・学習の方法

教科書はありません。まず高校までの文法を簡単におさらいし、その後はプリントを配布して教材とします。

・準備学習の具体的な方法

プリントの予習(単語を辞書で調べる・わからないところをチェックする)は欠かさず行うこと。また読み終わった教材に関しての小テストを行うことがあるので、そのための準備も怠らないこと。

4. 評価方法・評価基準

平常点(授業参加度と課題・小テスト)40%、まとめの試験 60%の総合評価を基本とします。まとめのテストに欠席した場合は単位が認められません。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
 第2回 プリントを用いた読解の練習
 第3回 プリントを用いた読解の練習
 第4回 プリントを用いた読解の練習
 第5回 プリントを用いた読解の練習
 第6回 プリントを用いた読解の練習
 第7回 プリントを用いた読解の練習
 第8回 プリントを用いた読解の練習
 第9回 プリントを用いた読解の練習
 第10回 プリントを用いた読解の練習
 第11回 プリントを用いた読解の練習
 第12回 プリントを用いた読解の練習
 第13回 プリントを用いた読解の練習
 第14回 プリントを用いた読解の練習
 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10116209		
科目名	英語基礎 II H		
担当者	石川 真美		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『Read This! 1』 Daphne Mackey Cambridge 2010		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

簡単な英語文を効率よく読むことができる能力を開発します。平易な英語のテキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験します。この読む練習を通じて、基礎的な文法の復習、語彙ビルディングも行われます。

2. 教育・学習の個別課題

1. 主題別の英語リーディング
2. 様々な読解スキルの習得
3. パラグラフリーディング
4. 語彙力の向上

3. 教育・学習の方法

毎回 200-300 語程度の英文を読みます。リスニングも含めた種々の練習問題を通して文章の正確な内容を把握し、基本語彙の定着をはかるとともに新聞や雑誌に頻出する語彙の増強を目指します。また文の結合に着目した平易なライティングの練習を通して文法知識を整理し、今までよりも自信を持って英語が使えるようになることを目指します。

・準備学習の具体的な方法

テキストの予習では大意をつかみ、わかりにくいところをチェックし、授業でその部分を確認してください。頻繁に単語の小テストをしますののでしっかり復習しましょう。10種類の英作文課題は必ず提出してください。

4. 評価方法・評価基準

授業評価は小中テストの結果 (40%)、課題の提出回数 (40%)、授業に向かう姿勢 (20%) から総合的に判断します。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション; Chapter 8 The Geometry of Beauty
 第2回 Chapter 8 The Geometry of Beauty
 第3回 Chapter 9 Math and Music
 第4回 Chapter 9 Math and Music
 第5回 Chapter 10 Accidental Inventions
 第6回 Chapter 10 Accidental Inventions
 第7回 Chapter 11 Names for Sale
 第8回 Chapter 11 Names for Sale
 第9回 Chapter 12 The Queen of Trash
 第10回 Chapter 12 The Queen of Trash
 第11回 Chapter 13 Amazing Achievements
 第12回 Chapter 13 Amazing Achievements
 第13回 Chapter 14 Almost the Father of Flight
 第14回 Chapter 14 Almost the Father of Flight
 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10116210			
科目名	英語基礎Ⅱ J 応用のきく英文法を身につける			
担当者	田中 美和子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『PRISM Book1 : Red, Second Edition』 Timothy Kiggell, Katsuhiko Muto Macmillan Language house LTD 2012			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースの目的は、簡単な英語文を効率よく読み、英語で発信することができる能力の開発です。簡潔にまとめられた平明な英語のテキストを多く読み、様々な主題や表現を経験します。この読む練習を通じて、初級基本英文法の復習や総合的な読解スキルの学習、さらに語彙ビルディングも行われます。そして、発信する能力へとつなげていきます。

そして、後期に実施されるアチーブメントテストで、学習の成果を確かめ、これまでの英語学習を振り返り、次年度の学習計画につなげていきたいと思います。

2. 教育・学習の個別課題

1. 主題別にディスカッションをして、英語リーディングを行う
2. 初級基本英文法の復習
3. 様々な読解スキルを習得して、パラグラフリーディングをする
4. 語彙力の向上

3. 教育・学習の方法

テキストを用いて、パラグラフ・リーディングを行いながら、応用のきく初級英文法を学習する。そして、さらに総合的なコミュニケーション能力を高めるために、プレゼンテーションを行う。テキストの主題に沿いながら、特にコミュニケーションに使われる語彙や英語表現に親しむ。

・準備学習の具体的な方法

前期と同様に、テキストを用いて、パラグラフ・リーディングを行いながら、応用のきく初級英文法を学習する。そして、さらに総合的なコミュニケーション能力を高めるために、プレゼンテーションを行う。また、テキストの主題に沿いながら、特にコミュニケーションに使われる語彙や英語表現に親しむ。

4. 評価方法・評価基準

小テスト 20 授業参加度 50 理解度テスト 30
欠席および遅刻は減点対象となります。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 時制② (過去形・過去進行形)
- 第3回 Chapter 8 Staying in Touch
- 第4回 時制③ (未来形・未来進行形)
- 第5回 Chapter 9 A Man's Best Friend
- 第6回 時制④ (現在完了形・過去完了形・未来完了形)
- 第7回 Chapter 10 Tying the knot at MacDonald
- 第8回 助動詞
- 第9回 Chapter 11 The Oscars
- 第10回 不定詞
- 第11回 Chapter 12 Unique Names
- 第12回 Chapter 13 Rackets for Champions
- 第13回 Chapter 14 Tasty Music
- 第14回 Chapter 15 Sea Rescue
- 第15回 理解度調査とまとめ

6. 留意事項

講義コード	10116211			
科目名	英語基礎Ⅱ K 行間を読みとろう			
担当者	村上 裕美			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『学びのデザインノート：MH式ポートフォリオ大学英語学習者用』 村上裕美 ナカニシヤ出版 2012 学習用テキストとして資料を講義時もしくは事前に毎回配布します。 『学びのデザインノート』は前期に引き続き初回の授業から持参して下さい。			
参考文献	授業で紹介しますが、参考 URL でも紹介しています。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この講義を通して英語の力を養い、将来専門分野の英文資料を読む力を養います。

さらに、資料として取り上げる英文を通して毎回、意見を構築し、社会、人を中心にさまざまなテーマについて考える機会を提供します。また、英語学習者ポートフォリオ使用を通して自身で計画し、実行し、自己内省する力を養います。

2. 教育・学習の個別課題

英語の知識を活用し、行間も含め英文の内容を正確に読み取り、そこに現れる主題、メッセージを読み取る力を養います。また、正しく英文を読み取る上で必要な文法力をテーマ別に毎回学習します。

3. 教育・学習の方法

毎回の授業では、テーマとする文法項目を定め、英文の読み取りに影響することを学びます。

また、英文は毎回テーマが変わりますが、各テーマに関する意見を英文で作成し、自身の考えを表現、主張する機会とします。グループによるプレゼンテーションも実施します。

・準備学習の具体的な方法

毎回の授業で事前に次の授業で使用する教材を配布します。その教材について単語を調べ内容を読み取る事前学習の準備をしてください。授業時に予習をして不明だった箇所を集中して学習しましょう。また、英文のテーマや本文中に出てくる内容について事前にインターネット等を利用して調べ、背景知識を豊かにしましょう。

4. 評価方法・評価基準

試験 (2回実施する復習テストおよび小テスト) 60%
取り組み (提出物・予習・発表) 40%

5. 授業予定

- 第1回 英語力自己点検
- 第2回 スキミング・スキヤニング I
Main idea, topic sentence を読み取る
- 第3回 スキミング・スキヤニング II
パラグラフの働きを学ぶ
- 第4回 分詞の働きに注目した読み取り
- 第5回 不定詞の働きに注目した読み取り
- 第6回 助動詞の働きに注目した読み取り
- 第7回 復習テスト
- 第8回 強調・倒置構文に注目した読み取り
- 第9回 否定表現に注目した読み取り
- 第10回 変奏の働きに注目した読み取り I
- 第11回 変奏の働きに注目した読み取り II
- 第12回 無生物主語/ 名詞構文に注目した読み取り
- 第13回 復習テスト
- 第14回 一年の学習内容を確認する読みとり
グループ発表 I
- 第15回 一年の学習内容を確認する読みとり
グループ発表 II

6. 留意事項

毎回学習テーマを掲げて、半期で一通りの読み取りに必要な基本文法を習得するデザインですので、遅刻もしくは欠席は著しくその学習効果を減じます。欠席は5回以上になると単位認定が不可能となります。十分注意してください。携帯電話の辞書機能は教室では使用を認めません。辞書もしくは電子辞書を毎回持参して下さい。

講義コード	10116301			
科目名	英語総合 I S			
担当者	York Weatherford			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	There is no required textbook for this course. The instructor will provide handouts and other materials in class.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

The purpose of this course is to help students become better writers, beginning with basic sentence patterns and moving on to paragraph organization. The course will follow a step-by-step approach to guide students through the writing process, from pre-writing to producing a final draft. Students will learn how to brainstorm a topic, organize their ideas, and write a first draft, before revising and editing their work to produce a polished piece of writing.

2. 教育・学習の個別課題

Students will gain the confidence and necessary skills to write well-written and coherent paragraphs on a wide variety of topics. Additionally, students will develop a better understanding of English grammar and vocabulary usage.

3. 教育・学習の方法

Classes will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will work together to help one another improve their writing.

・準備学習の具体的な方法

Students are expected to complete all homework assignments before class. Homework will consist of pre-writing, drafting, and revising written work.

4. 評価方法・評価基準

20% Class Participation
40% Writing Exercises
40% Final Written Work

5. 授業予定

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 Basic Sentence Patterns
- 第3回 Simple, Compound, and Complex Sentences
- 第4回 Common Sentence Pattern Problems
- 第5回 The Writing Process and Paragraph Organization
- 第6回 The Topic Sentence
- 第7回 Supporting Sentences
- 第8回 The Concluding Sentence
- 第9回 Unity
- 第10回 Cohesion and Coherence
- 第11回 Using Examples and Illustrations
- 第12回 Citing Data
- 第13回 Explaining a Process
- 第14回 Comparison and Contrast
- 第15回 Cause and Effect

6. 留意事項

講義コード	10116302			
科目名	英語総合 I A			
担当者	森 ユキエ			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『English Checklist』 小中秀彦 NAN'UN-DO 2009 『Interactive English Book for the TOEIC Test Book 1』 内田雅克 他 松柏社 2013			
参考文献	授業中に指示、または別途配布する			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

これまでに学習してきた英語を基礎に、さらに実際の英語運用能力を開発することに重点を置きます。日本語を直訳することによって起こる英語表現の間違いを豊富な文例で指摘し、正確な英作文が書けるように学習します。英作文の訓練が実際の英会話にも大いに役立つように、授業は構成されています。またクラス終了時に受験する第三者テスト[TOEIC]での成果が向上することを目指します。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) 様々な現場での実際の英語運用の経験
- 2) 文法習得とライティングの統合練習
- 3) 語彙力の向上 ([TOEIC]対策も含む)

3. 教育・学習の方法

- 1) 毎回、惑わされやすい日本語をどのように英語で表現するか、文例を参考に文法事項も加えて解説する。
- 2) テキストの問題に取り組み、自分で英作文しながら文構造を理解する。
- 3) CD, DVD を利用して、日常的に使用する語彙を習得し、それによって読解能力を高め、作文能力の強化をはかる。

・準備学習の具体的な方法

- 1) 授業で学習した箇所を必ず復習する。
- 2) 授業で指示された該当箇所を丁寧に辞書を引いて予習する。
- 3) 毎回課題が出るので、それを次回までに仕上げてくる。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席率・授業参加度 (30%)、小テストを含む提出課題 (40%)、授業時の課題 (30%) の総合評価とする。
欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 Introduction 日本語に引きずられない自然な英語表現とは何か
- 第2回 1 Intransitive Verbs (自動詞) 文法解説・練習問題・英作文
- 第3回 2 Transitive Verbs (他動詞) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 1 Health
- 第4回 3 Tense (基本時制) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 2 Shopping
- 第5回 4 Progressive Form & Perfect Form (進行形・完了形)
文法解説・宿題の解答
- 第6回 5 Phrasal Verbs (句動詞) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 3 Sports
- 第7回 6 Nouns (名詞) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 4 Travel
- 第8回 English Checklist 1-6 小テストとその解説
- 第9回 Book 1 Lesson 1-4 応用問題とその解説
- 第10回 7 Articles (冠詞) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 5 Art & Design
- 第11回 8 Pronouns (代名詞) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 6 Nature
- 第12回 9 Adjectives (形容詞) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 7 Social Issues
- 第13回 10 Adverbs (副詞) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 8 Gender
- 第14回 English Checklist 7-10 小テストとその解説
- 第15回 Book 1 Lesson 5-8 応用問題とその解説

6. 留意事項

講義コード	10116303			
科目名	英語総合 I B 思ったことを的確に伝えるためのライティング			
担当者	藤本 幸治			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Ready to Write 1』 K. Blanchard Longman 2010			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

基本的な英語を用いて、論理的に考え表現するためのライティング演習を行なう。

2. 教育・学習の個別課題

中学～高校までの単語、構文をフル活用して、簡単に効果的な表現を学び、利用する。

3. 教育・学習の方法

テキストに従って、演習問題を消化していく。

・準備学習の具体的な方法

指定された予習範囲の単語の意味調べ

4. 評価方法・評価基準

小テスト、レポート、まとめのテスト

5. 授業予定

- 第1回 writing about yourself
- 第2回 writing about your family
- 第3回 review of the chapters
- 第4回 writing about your activities
- 第5回 giving instructions
- 第6回 writing about your day
- 第7回 review of the chapters
- 第8回 writing about your favorite movies
- 第9回 review of the assignment
- 第10回 voca-grammar training 1
- 第11回 voca-grammar training 2
- 第12回 review of the text
- 第13回 writing a short essay on your own topic
- 第14回 comments on the essays
- 第15回 review of the semester

6. 留意事項

予習と復習は必須です。

講義コード	10116304			
科目名	英語総合 I C			
担当者	津田 喜美代			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『READY TO WRITE 1 THIRD EDITION』 Karen Blanchard, Christine Root Pearson/ Longman			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

このクラスでは、ライティングの技術を習得することを主な目的とし、基本的な文法事項の復習や語彙学習も行う。また、ライティングだけでなくリーディング活動なども行うことにより、英語に親しんでもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の言いたいことが表現できるようになること
4. 自分の力で読み、訳せるようになること

3. 教育・学習の方法

クラス全体でテキストの本文に目を通し、ユニット毎の目標を理解する。その後、個人で英作を行い、クラスメートとお互いにチェックしていく。

・準備学習の具体的な方法

授業内での作業が基本だが、作業が遅れている場合には、次の授業に間に合うよう必ず自宅学習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は課題(50%)、出席と授業態度(30%)、小テスト等(20%)に基づいて総合的に判断する。また全15回のうち3分の1以上欠席すると単位取得が難しくなる。30分以上の遅刻は欠席とみなされ、3回の遅刻で1欠席扱いとなるので注意すること。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 1
- 第3回 Chapter 1
- 第4回 Chapter 1
- 第5回 Chapter 2
- 第6回 Chapter 2
- 第7回 Chapter 2
- 第8回 Chapter 3
- 第9回 Chapter 3
- 第10回 Chapter 3
- 第11回 Chapter 4
- 第12回 Chapter 4
- 第13回 Chapter 4
- 第14回 Chapter 4
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

必ず授業には辞書を持参すること。辞書がない場合には、授業に参加する意思がないとみなされることがあるので、注意すること。

講義コード	10116305			
科目名	英語総合 I D 長い英文を書けるようになりましょう			
担当者	田中 美和子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	テキストは授業中に配布します。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースの目的は、簡単な英語文を効率よく書き、英語で発信することができる能力の開発です。様々な主題で、平明な英語の文で、簡潔にまとめて書くことを、協調自律学習で経験します。この書く練習を通して、初級基本英文法の復習や総合的なライティング・スキルの学習、さらに語彙ビルディングも行われます。そして、発信する能力へとつなげていきます。

入学時のプレースメントテストから、みなさんは、改善すべき弱点、さらに伸ばすべき能力を自覚して、それを基に前期の学習の組み立てが出来るようにしていきます。

2. 教育・学習の個別課題

1. クラスメートと協調しながら、主体的に学習する姿勢を身に付ける
2. 初級基本英文法の復習
3. パラグラフ・ライティングの手法を身に付ける
4. 語彙力の向上

3. 教育・学習の方法

配布テキストを用いて、語彙力を高めながら、初級基本英文法の復習もする。そして、自分の言いたいことを、英語で楽しく相手に伝えられるように、量的に多くの英文を書いていく。また、ときにディスカッションや、プレゼンテーションを行う。

・準備学習の具体的な方法

授業が終わったら、次の授業のために必ず準備をしておきましょう。そして、授業には、必ず英和辞書を持ってきてください。

4. 評価方法・評価基準

授業参加点30 提出物50 発表点20
欠席および遅刻は減点対象となります。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 PBL1:マインドマップ①

- 第3回 PBL1: マインドマップ②
- 第4回 PBL2: アイスブレイク①
- 第5回 PBL2: アイスブレイク②
- 第6回 DBL1: ミニディベート①
- 第7回 DBL1: ミニディベート②
- 第8回 PBL3: 絵本①
- 第9回 PBL3: 絵本②
- 第10回 PBL3: 絵本③
- 第11回 PBL4: 品評会
- 第12回 まとめの英作文①自由課題
- 第13回 まとめの英作文②
- 第14回 まとめの英作文③
- 第15回 前期振り返りと自己評価

6. 留意事項

講義コード	10116306			
科目名	英語総合 I E 学習者主体で英作文を書こう！			
担当者	東郷 多津			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	こちらで印刷した教材を配布します。			
参考文献	『FOREST 6th edition』 ピアソン桐原 2013			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

The purpose of this course is to help Freshmen improve writing skills in English through a Collaborative-Autonomous Learning Method. Students are encouraged to gain confidence in writing in English by reviewing basic English grammar, spelling and punctuation. Students are also encouraged to become proficient in creating and organizing the English paragraph in the course of the year. The result of this course will be a student who is a more efficient communicator in written English.

本コースの目的は英語ライティングの技術を協働学習を通して習得することです。基礎的な文法、スペリング、句読法などを復習して、自信をもって英語で「書く」ことが出来るようになってもらいたい。そして、クラスでの練習を積み重ね、うまく「段落」を組み立てることが出来る能力を身に付けてもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. To encourage students to use what they know
 2. To learn essential grammar for writing simple sentences
 3. To learn how to connect several sentences
 4. To learn ways of paragraph writing
 5. To learn how to study autonomously through team activities
1. すでに身につけている英語を使うこと
 2. 作文のための文法を復習
 3. 数文をうまくつないでまとまった話題について書く
 4. よい段落を構成する
 5. チーム活動を通して自律した学習者になる

3. 教育・学習の方法

The class will be usually carried out in a working project. There will be writing assignments in the classroom and students are encouraged to work together for their assignments. Students are also encouraged to use English to learn how to write in English.

クラスは主としてプロジェクト形式で行われます。クラスでは実際に英語で作文することがグループ作業として求められます。みなさんは教室ではできるだけ英語を使ってコミュニケーションを図り、英語の作文練習につなげていきます。

・準備学習の具体的な方法

Most writing assignments will be completed in class. To complete them students should be required advance preparation for the next classes.

英作文は基本的に授業中に完成させます。授業時間内に完成できるように翌週の授業までに必要な準備を済ませておきます。

4. 評価方法・評価基準

Classroom participation (review sheets and presentations / works / assignments) will account for 50% of the grade, a final written assignment for 40%, and Teacher's Points for 10%. Students are

particularly encouraged to plan/attain their ideal goal at the first/last class.

評価はクラスへの参加（振り返りシート点、並びにプレゼン/作品/課題点）が50%、まとめ作文の評価が40%、教師点10%の総計によって最終成績がでます。みなさんには、最初のクラスで最終的な評価目標を定め、それをクラス作業を通して達成することが求められます。

5. 授業予定

- 第1回 Lesson 1: Orientation
- 第2回 Lesson 2: Introducing Yourself
- 第3回 Lesson 3: Introducing Yourself
- 第4回 Lesson 4: Introducing Your Classmates
- 第5回 Lesson 5: Introducing Your Classmates
- 第6回 Lesson 6: Instant Debate
- 第7回 Lesson 7: Instant Debate
- 第8回 Lesson 8: Making Picture A Picture Book
- 第9回 Lesson 9: Making Picture A Picture Book
- 第10回 Lesson 10: Making Picture A Picture Book
- 第11回 Lesson 11: Exhibition
- 第12回 Lesson 12: Making A Final Writing Assignment
- 第13回 Lesson 13: Making A Final Writing Assignment
- 第14回 Lesson 14: Making A Final Writing Assignment
- 第15回 Lesson 15: Review And Self-Evaluation

6. 留意事項

To attend and participate in various writing activities is most required in this class.

この授業では、出席する、そしてライティングにかかわる活動に参加する、この2つが最も求められます。

講義コード	10116307			
科目名	英語総合 I F 学習者主体で英作文を書こう！			
担当者	東郷 多津			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	こちらで印刷した教材を配布します。			
参考文献	『FOREST 6th edition』 ピアソン桐原 2013			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

The purpose of this course is to help Freshmen improve writing skills in English through a Collaborative-Autonomous Learning Method. Students are encouraged to gain confidence in writing in English by reviewing basic English grammar, spelling and punctuation. Students are also encouraged to become proficient in creating and organizing the English paragraph in the course of the year. The result of this course will be a student who is a more efficient communicator in written English.

本コースの目的は英語ライティングの技術を協働学習を通して習得することです。基礎的な文法、スペリング、句読法などを復習して、自信をもって英語で「書く」ことが出来るようになってもらいたい。そして、クラスでの練習を積み重ね、うまく「段落」を組み立てることが出来る能力を身に付けてもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. To encourage students to use what they know
 2. To learn essential grammar for writing simple sentences
 3. To learn how to connect several sentences
 4. To learn ways of paragraph writing
 5. To learn how to study autonomously through team activities
1. すでに身につけている英語を使うこと
 2. 作文のための文法を復習
 3. 数文をうまくつないでまとまった話題について書く
 4. よい段落を構成する
 5. チーム活動を通して自律した学習者になる

3. 教育・学習の方法

The class will be usually carried out in a working project. There will be writing assignments in the classroom and students are encouraged to work together for their assignments. Students are also encouraged to use English to learn how to write in English.

クラスは主としてプロジェクト形式で行われます。クラスでは実際に英語で作文することがグループ作業として求められます。みなさんは教室ではできるだけ英語を使ってコミュニケーションを図り、英語の作文練習につなげて行きます。

・準備学習の具体的な方法

Most writing assignments will be completed in class. To complete them students should be required advance preparation for the next classes.

英作文は基本的に授業中に完成させます。授業時間内に完成できるように翌週の授業までに必要な準備を済ませておきます。

4. 評価方法・評価基準

Classroom participation (review sheets and presentations/works/assignments) will account for 50% of the grade, a final written assignment for 40%, and Teacher's Points for 10%.

Students are particularly encouraged to plan/attain their ideal goal at the first/last class.

評価はクラスへの参加(振り返りシート点、並びにプレゼン/作品/課題点)が50%、まとめ作文の評価が40%、教師点10%の総計によって最終成績がです。みなさんには、最初のクラスで最終的な評価目標を定め、それをクラス作業を通して達成することが求められます。

5. 授業予定

- 第1回 Lesson 1:Orientation
- 第2回 Lesson 2:Introducing Yourself
- 第3回 Lesson 3:Introducing Yourself
- 第4回 Lesson 4:Introducing Your Classmates
- 第5回 Lesson 5:Introducing Your Classmates
- 第6回 Lesson 6:Instant Debate
- 第7回 Lesson 7:Instant Debate
- 第8回 Lesson 8:Making Picture A Picture Book
- 第9回 Lesson 9:Making Picture A Picture Book
- 第10回 Lesson 10:Making Picture A Picture Book
- 第11回 Lesson 11:Exhibition
- 第12回 Lesson 12:Making A Final Writing Assignment
- 第13回 Lesson 13:Making A Final Writing Assignment
- 第14回 Lesson 14:Making A Final Writing Assignment
- 第15回 Lesson 15:Review And Self-Evaluation

6. 留意事項

To attend and participate in various writing activities is most required in this class.

この授業では、出席する、そしてライティングにかかわる活動に参加する、この2つが最も求められます。

講義コード	10116308			
科目名	英語総合 I G 長い英文を書けるようになりましょう			
担当者	田中 美和子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	テキストは授業中に配布します。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースの目的は、簡単な英語文を効率よく書き、英語で発信することができる能力の開発です。様々な主題で、平明な英語の文で、簡潔にまとめて書くことを、協調自律学習で経験します。この書く練習を通して、初級基本英文法の復習や総合的なライティング・スキルの学習、さらに語彙ビルディングも行われます。そして、発信する能力へとつなげていきます。

入学時のプレースメントテストから、みなさんは、改善すべき弱点、さらに伸ばすべき能力を自覚して、それを基に前期の学習の組み立てが出来るようにしていきます。

2. 教育・学習の個別課題

1. クラスメートと協調しながら、主体的に学習する姿勢を身に付ける
2. 初級基本英文法の復習
3. パラグラフ・ライティングの手法を身に付ける
4. 語彙力の向上

3. 教育・学習の方法

配布テキストを用いて、語彙力を高めながら、初級基本英文法の復習もする。そして、自分の言いたいことを、英語で楽しく相手に伝えられるよう

に、量的に多くの英文を書いていく。また、ときにディスカッションや、プレゼンテーションを行う。

・準備学習の具体的な方法

授業が終わったら、次の授業のために必ず準備をしておきましょう。そして、授業には、必ず英和辞書を持ってきてください。

4. 評価方法・評価基準

授業参加点 30 提出物 50 発表点20

欠席および遅刻は減点対象となります。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 PBL1:マインドマップ①
- 第3回 PBL1:マインドマップ②
- 第4回 PBL2:アイスブレイク①
- 第5回 PBL2:アイスブレイク②
- 第6回 DBL1:ミニディベート①
- 第7回 DBL1:ミニディベート②
- 第8回 PBL3:絵本①
- 第9回 PBL3:絵本②
- 第10回 PBL3:絵本③
- 第11回 PBL3:品評会
- 第12回 まとめの英作文①自由課題
- 第13回 まとめの英作文②
- 第14回 まとめの英作文③
- 第15回 前期振り返りと自己評価

6. 留意事項

講義コード	10116309			
科目名	英語総合 I H			
担当者	津田 喜美代			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『READY TO WRITE 1 THIRD EDITION』 Karen Blanchard, Christine Root Pearson/ Longman			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

このクラスでは、ライティングの技術を習得することを主な目的とし、基本的な文法事項の復習や語彙学習も行う。また、ライティングだけでなくリーディング活動なども行うことにより、英語に親しんでもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の言いたいことが表現できるようになること
4. 自分の力で読み、訳せるようになること

3. 教育・学習の方法

クラス全体でテキストの本文に目を通し、ユニット毎の目標を理解する。その後、個人で英作を行い、クラスメートとお互いにチェックしていく。

・準備学習の具体的な方法

授業内での作業が基本だが、作業が遅れている場合には、次の授業に間に合うよう必ず自宅学習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は課題(50%)、出席と授業態度(30%)、小テスト等(20%)に基づいて総合的に判断する。また全15回のうち3分の1以上欠席すると単位取得が難しくなる。30分以上の遅刻は欠席とみなされ、3回の遅刻で1欠席扱いとなるので注意すること。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 1
- 第3回 Chapter 1
- 第4回 Chapter 1
- 第5回 Chapter 2
- 第6回 Chapter 2
- 第7回 Chapter 2
- 第8回 Chapter 3
- 第9回 Chapter 3
- 第10回 Chapter 3
- 第11回 Chapter 4

- 第12回 Chapter 4
- 第13回 Chapter 4
- 第14回 Chapter 4
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

必ず授業には辞書を持参すること。辞書がない場合には、授業に参加する意思がないとみなされることがあるので、注意すること。

講義コード	10116310			
科目名	英語総合 I J 基礎英語を通して学ぶ書くための英語			
担当者	藤本 幸治			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Ready to Write』 K.Blanchard Longman 2010			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

高校までの英語の総復習と基礎運用能力の伸長をめざす

2. 教育・学習の個別課題

簡単な英語で思ったことを伝える

3. 教育・学習の方法

テキストを中心に課題を演習する

・準備学習の具体的な方法

知らない単語の意味の確認を電子辞書で行う

4. 評価方法・評価基準

小テスト、レポート、まとめのテスト

5. 授業予定

- 第1回 writing about yourself 1
- 第2回 writing about yourself 2
- 第3回 review of the chapter
- 第4回 writing about your friend 1
- 第5回 writing about your friend 2
- 第6回 review of the chapter and assignment
- 第7回 writing about your activities 1
- 第8回 writing about your activities 2
- 第9回 review of the chapter
- 第10回 giving instructions 1
- 第11回 giving instructions 2
- 第12回 review of the chapter
- 第13回 writing about your day 1
- 第14回 writing about your day 2
- 第15回 review of the semester

6. 留意事項

講義コード	10116311			
科目名	英語総合 I K 基礎英語復習と英語リーディング			
担当者	森 ユキオ			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『English Primer <Revised Edition>』 Tetsuzo Sato NAN UN-DO 2012 『Gear up for the TOEIC Test』 Mark D. Stafford KINSEIDO 2013			
参考文献	授業中に指示、または別途配布する。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

英語全体の根底にある文法・語法などを再度復習し、それを英語リーディング

グ・ライティングにつなげ、さらに実地的な英語運用能力を開発することに重点を置きます。テキストの解説を聞くだけの授業ではなく、問題を解いたり英作文をしたりする中で、実際の英語運用の経験を積み重ねます。さらに授業終了時に受験する[TOEIC]での成果が向上することを目指します。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) 様々な現場での実際の英語運用の経験
- 2) 英語基礎の総合的学習
- 3) 語彙力の向上

3. 教育・学習の方法

- 1) 毎回テキスト・配布資料に沿って、文の構造や文法について学習し、「読むこと」と「書くこと」のスキル向上を目指す。
- 2) CD・DVD を利用し、日常的に使用する語彙を習得し、読解能力・作文能力の強化をはかる。

・準備学習の具体的な方法

- 1) 毎回新しいユニットに進むので、指示された箇所の単語を必ず予習すること。
- 2) 毎回課題が出るので、それを必ず仕上げてくること。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席率・授業参加度（30%）、小テスト・レポート（40%）、英作文を含む提出課題（30%）とする。授業中の態度や努力を評価の対象とする。欠席・遅刻は減点対象となる。欠席が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 Introduction 英語学習の方法（辞書の選び方・引き方等）
- 第2回 English Primer Unit 1 be 動詞 基本・発展問題・長文問題
- 第3回 English Primer Unit 2 一般動詞（現在）
Gear up for the Toeic Test Unit 1 Events
- 第4回 English Primer Unit 3 一般動詞（過去）
Gear up for the TOEIC Test Unit 2 Eating out
- 第5回 English Primer Unit 4 進行形
Gear up for the Toeic Test Unit
- 第6回 English Primer Unit 5 未来形
Gear up for the Toeic Test Unit 4 Housing
- 第7回 English Primer Unit 6 助動詞
Gear up for the Toeic Test Unit 5 Employment
- 第8回 English Primer まとめテストと解説
- 第9回 English Primer Unit 7 名詞・冠詞
Gear up for the Toeic Test Unit 6 Personnel
- 第10回 English Primer Unit 8 代名詞
Gear up for the Toeic Test Unit 6 Personnel
- 第11回 English Primer Unit 9 前置詞
Gear up for the Toeic Test Unit 7 Office
- 第12回 English Primer Unit 10 形容詞・副詞
Gear up for the Toeic Test Unit 7 Office
- 第13回 English Primer Unit 11 比較
Gear up for the Toeic Test Unit 8 Finance and Banking
- 第14回 English Primer Unit 12 命令文・感嘆文
Gear up for the Toeic Test Unit 8 Finance and Banking
- 第15回 English Primer まとめテストと解説

6. 留意事項

講義コード	10116401			
科目名	英語総合 II S			
担当者	York Weatherford			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	There is no required textbook for this course. The instructor will provide handouts and other materials in class.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

The purpose of this course is to help students become better writers, building on the skills developed in the first semester. The course will begin with a review of paragraph structure before moving on to essay writing. The course will follow a step-by-step approach to guide

students through the writing process, from pre-writing to producing a final draft. Students will learn how to brainstorm a topic, organize their ideas, and write a first draft, before revising and editing their work to produce a polished piece of writing.

2. 教育・学習の個別課題

Students will gain the confidence and necessary skills to write well-written and coherent essays on a wide variety of topics. Additionally, students will develop a better understanding of English grammar and vocabulary usage.

3. 教育・学習の方法

Classes will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will work together to help one another improve their writing.

・準備学習の具体的な方法

Students are expected to complete all homework assignments before class. Homework will consist of pre-writing, drafting, and revising written work.

4. 評価方法・評価基準

20% Class Participation

40% Writing Exercises

40% Final Written Work

5. 授業予定

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 Sentence Structure Review
- 第3回 Paragraph Organization Review
- 第4回 From Paragraph to Essay
- 第5回 The Thesis Statement
- 第6回 The Introduction
- 第7回 Body Paragraphs
- 第8回 Paragraph Transitions
- 第9回 The Conclusion
- 第10回 Review
- 第11回 Essay-Writing Workshop 1
- 第12回 Essay-Writing Workshop 2
- 第13回 Essay-Writing Workshop 3
- 第14回 Essay-Writing Workshop 4
- 第15回 Essay-Writing Workshop 5

6. 留意事項

講義コード	10116402			
科目名	英語総合ⅡA 日本語に惑わされない英語表現			
担当者	森 ユキエ			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『English Checklist』 小中秀彦 NAN'UN-DO 2009 『Interactive English Book for the TOEIC Test Book 1』 内田雅克 他 松柏社 2013			
参考文献	授業中に指示、または別途配布する			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

これまでに学習してきた英語を基礎に、さらに実際の英語運用能力を開発することに重点を置きます。日本語を直訳することによって起こる英語表現の間違いを豊富な文例で指摘し、正確な英作文が書けるように学習します。英作文の訓練が実際の英会話にも大いに役立つように、授業は構成されています。またクラス終了時に受験する第三者テスト[TOEIC]での成果が向上することを目指します。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) 様々な現場での実際の英語運用の経験
- 2) 文法習得とライティングの統合練習
- 3) 語彙力の向上 ([TOEIC]対策も含む)

3. 教育・学習の方法

- 1) 毎回、惑わされやすい日本語をどのように英語で表現するか、文例を参考に文法事項も加えて解説する。
- 2) テキストの問題に取り組み、自分で英作文しながら文構造を理解する。
- 3) CD,DVD を利用して、日常的に使用する語彙を習得し、それによって読解能力を高め、作文能力の強化をはかる。

・準備学習の具体的な方法

- 1) 授業で学習した箇所を必ず復習する。
- 2) 授業で指示された該当箇所を丁寧に辞書を引いて予習する。
- 3) 毎回課題(穴埋め問題・英作文など)が出るので、それを次回までに仕上げてくる。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席率・授業参加度(30%)、小テストを含む提出課題(40%)、授業時の課題(30%)の総合評価とする。

欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 Introduction 英作文のコツ(辞書の選び方・引き方など)
- 第2回 11 Voice (態)文法解説・練習問題・英作文
- 第3回 12 Infinitives (不定詞)文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 9 Entertainment
- 第4回 13 Gerunds (動名詞)文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 10 Comparative Culture
- 第5回 14 Participles (分詞)文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 11 Science
- 第6回 15 Prepositions (前置詞)文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 12 Environment
- 第7回 English Checklist 1 1-1 5 小テストとその解説
- 第8回 Book 1 Lesson 9-1 2 応用問題とその解説
- 第9回 16 Conjunctions & Interrogatives (接続詞・疑問詞)
文法解説・宿題の解答
- 第10回 17 Relatives (関係詞)文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 13 Sleep & Dream
- 第11回 18 Comparison (比較)文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 14 Taste
- 第12回 19 Negation (否定)文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 15 Biodiversity
- 第13回 20 Subjunctive Mood (仮定法)文法解説・宿題の解答
- 第14回 English Checklist 1 6-2 0 小テストとその解説
- 第15回 Book 1 Lesson 1 3-1 5 応用問題とその解説

6. 留意事項

講義コード	10116403			
科目名	英語総合ⅡB 英語でエッセイを書こう。			
担当者	藤本 幸治			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Ready to Write 1』 K. Blanchard Longman 2010			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

しっかりと熟考した事柄を、論理的に書き言葉で表現できるようになることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

簡単な英語を用いて、初歩的な論理的な文章を書けるようになる。

3. 教育・学習の方法

残材を中心に、毎回課される課題を演習する。

・準備学習の具体的な方法

分からない単語の意味を辞書で調べる。

4. 評価方法・評価基準

小テスト、レポート、まとめのエッセイ

5. 授業予定

- 第1回 Writing descriptions 1
- 第2回 writing descriptions 2
- 第3回 Writing about places 1
- 第4回 writing about places 2
- 第5回 review of the chapters
- 第6回 review of the assignment
- 第7回 writing about your own topic 1
- 第8回 writing about your own topic 2
- 第9回 review of the essays
- 第10回 writing about your opinion 1
- 第11回 writing about your opinion 2

- 第12回 review of the chapter
- 第13回 preparation for the final essay 1
- 第14回 preparation for the final essay 2
- 第15回 review of the semester

6. 留意事項

指定された予習、復習は必須事項です。

講義コード	10116404			
科目名	英語総合ⅡC			
担当者	津田 喜美代			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『READY TO WRITE 1 THIRD EDITION』 Karen Blanchard, Christine Root Pearson/ Longman			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

前期に引き続き、このクラスでは、ライティングの技術を習得することを主な目的とし、基本的な文法事項の復習や語彙学習も行う。また、ライティングだけでなくリーディング活動なども行うことにより、英語に親しんでもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の言いたいことが表現できるようになること
4. 自分の力で読み、訳せるようになること

3. 教育・学習の方法

クラス全体でテキストの本文に目を通し、ユニット毎の目標を理解する。その後、個人で英作を行い、クラスメートとお互いにチェックしていく。

・準備学習の具体的な方法

授業内での作業が基本だが、作業が遅れている場合には、次の授業に間に合うよう必ず自宅学習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は課題(50%)、出席と授業態度(30%)、小テスト等(20%)に基づいて総合的に判断する。また全15回のうち3分の1以上欠席すると単位取得が難しくなる。30分以上の遅刻は欠席とみなされ、3回の遅刻で1欠席扱いとなるので注意すること。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 5
- 第3回 Chapter 5
- 第4回 Chapter 6
- 第5回 Chapter 6
- 第6回 Chapter 7
- 第7回 Chapter 7
- 第8回 Chapter 7
- 第9回 Chapter 8
- 第10回 Chapter 8
- 第11回 Chapter 8
- 第12回 Chapter 9
- 第13回 Chapter 9
- 第14回 Chapter 9
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

必ず授業には辞書を持参すること。辞書がない場合には、授業に参加する意思がないとみなされることがあるので、注意すること。

講義コード	10116405			
科目名	英語総合ⅡD 文法的に正しい英文を書けるようになりましよう			
担当者	田中 美和子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	テキストは授業中に配布します。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースの目的は、簡単な英語文を効率よく書き、英語で発信することができる能力の開発です。様々な主題で、平明な英語の文で、簡潔にまとめて書くことを、協調自律学習で経験します。この書く練習を通して、初級基本英文法の復習や総合的なライティング・スキルの学習、さらに語彙ビルディングも行われます。そして、発信する能力へとつなげていきます。そして、後期に実施されるアチーブメントテストで、学習の成果を確かめ、これまでの英語学習を振り返り、次年度の学習計画につなげていきましょう。

2. 教育・学習の個別課題

1. クラスメートと協調しながら、主体的に学習する姿勢を身に付ける
2. 初級基本英文法の復習
3. パラグラフ・ライティングの手法を身に付ける
4. 語彙力の向上

3. 教育・学習の方法

配布テキストを用いて、初級基本英文法を復習し、文法的に正しく英文を書くスキルを身につける。さらに、総合的なコミュニケーション能力を高めるために、ディスカッションや、プレゼンテーションを行ない、自分の言いたいことを英語で楽しく相手に伝える訓練を行う。主題に沿いながら、平明な英語の文で、簡潔にまとめて英文を書いていく。

・準備学習の具体的な方法

授業が終わったら、次の授業のために必ず準備をしておきましょう。そして、授業には、必ず英和辞書を持ってきてください。

4. 評価方法・評価基準

授業参加点 30 提出物 50 発表点 20
欠席および遅刻は減点対象となります。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション①
- 第2回 オリエンテーション②
- 第3回 PBL1:ポスター1①
- 第4回 PBL1:ポスター1②
- 第5回 PBL1:ポスターセッション1
- 第6回 PBL1:ライティング1
- 第7回 PBL2:ポスター2①
- 第8回 PBL2:ポスター2②
- 第9回 PBL2:ポスター2③
- 第10回 PBL2:ポスターセッション2
- 第11回 PBL2:ライティング
- 第12回 まとめの英作文①自由課題
- 第13回 まとめの英作文②
- 第14回 まとめの英作文③
- 第15回 後期振り返りと自己評価

6. 留意事項

講義コード	10116406			
科目名	英語総合Ⅱ E 学習者主体で英作文を書こう！			
担当者	東郷 多津			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	こちらで印刷した教材を配布します。			
参考文献	『FOREST 6th edition』 ピアソン桐原 2013			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

The purpose of this course is to help Freshmen improve writing skills in English through a Collaborative-Autonomous Learning Method. Students are encouraged to gain confidence in writing in English by reviewing basic English grammar, spelling and punctuation. Students are also encouraged to become proficient in creating and organizing the English paragraph in the course of the year. The result of this course will be a student who is a more efficient communicator in written English.

本コースの目的は英語ライティングの技術を協働学習を通して習得することです。基礎的な文法、スペリング、句読法などを復習して、自信をもって英語で「書く」ことが出来るようになってもらいたい。そして、クラスでの練習を積み重ね、うまく「段落」を組み立てることが出来る能力を身に付けてもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

- To encourage students to use what they know
- To learn essential grammar for writing simple sentences
- To learn how to connect several sentences
- To write English paragraphs autonomously through team activities

- すでに身につけている英語を使うこと
- 作文のための文法を復習
- 数文をうまくつないでまとまった話題について書く
- チーム活動を通して、主体的に英語パラグラフを書く

3. 教育・学習の方法

The class will be usually carried out in a working project. There will be writing assignments in the classroom and students are encouraged to work together for their assignments. Students are also encouraged to use English to learn how to write in English.

クラスは主としてプロジェクト形式で行われます。クラスでは実際に英語で作文することがグループ作業として求められます。みなさんは教室ではできるだけ英語を使ってコミュニケーションを図り、英語の作文練習につなげていきます。

・準備学習の具体的な方法

Most writing assignments will be completed in class. To complete them students should be required advance preparation for the next classes.

英作文は基本的に授業中に完成させます。授業時間内に完成できるように翌週の授業までに必要な準備を済ませておきます。

4. 評価方法・評価基準

Classroom participation (review sheets and presentations / works / assignments) will account for 50% of the grade, a final written assignment for 40%, and Teacher's Points for 10%. Students are particularly encouraged to plan/attain their ideal goal at the first/last class.

評価はクラスへの参加（振り返りシート点、並びにプレゼン/作品/課題点）が50%、まとめ作文の評価が40%、教師点10%の総計によって最終成績がです。みなさんには、最初のクラスで最終的な評価目標を定め、それをクラス作業を通して達成することが求められます。

5. 授業予定

- 第1回 Lesson 1:Orientation
- 第2回 Lesson 2:Icebreaking Activity
- 第3回 Lesson 3:Making Posters
- 第4回 Lesson 4:Making Posters
- 第5回 Lesson 5:Poster Session 1
- 第6回 Lesson 6:Team Review And Writing About Your Topic
- 第7回 Lesson 7:Making Posters 2
- 第8回 Lesson 8:Making Posters 2
- 第9回 Lesson 9:Making Posters 2
- 第10回 Lesson 10:Poster Session 2

- 第11回 Lesson 11:Team Review And Writing About Your Topic 2
- 第12回 Lesson 12:Making A Final Writing Assignment
- 第13回 Lesson 13:Making A Final Writing Assignment
- 第14回 Lesson 14:Peer-Review and Rewriting
- 第15回 Lesson 15:Review And Self-Evaluation

6. 留意事項

To attend and participate in various writing activities is most required in this class.

この授業では、出席する、そしてライティングにかかわる活動に参加する、この2つが最も求められます。

講義コード	10116407			
科目名	英語総合Ⅱ F 学習者主体で英作文を書こう！			
担当者	東郷 多津			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	こちらで印刷した教材を配布します。			
参考文献	『FOREST 6th edition』 ピアソン桐原 2013			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

The purpose of this course is to help Freshmen improve writing skills in English through a Collaborative-Autonomous Learning Method. Students are encouraged to gain confidence in writing in English by reviewing basic English grammar, spelling and punctuation. Students are also encouraged to become proficient in creating and organizing the English paragraph in the course of the year. The result of this course will be a student who is a more efficient communicator in written English.

本コースの目的は英語ライティングの技術を協働学習を通して習得することです。基礎的な文法、スペリング、句読法などを復習して、自信をもって英語で「書く」ことが出来るようになってもらいたい。そして、クラスでの練習を積み重ね、うまく「段落」を組み立てることが出来る能力を身に付けてもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

- To encourage students to use what they know
- To learn essential grammar for writing simple sentences
- To learn how to connect several sentences
- To write English paragraphs autonomously through team activities

- すでに身につけている英語を使うこと
- 作文のための文法を復習
- 数文をうまくつないでまとまった話題について書く
- チーム活動を通して、主体的に英語パラグラフを書く

3. 教育・学習の方法

The class will be usually carried out in a working project. There will be writing assignments in the classroom and students are encouraged to work together for their assignments. Students are also encouraged to use English to learn how to write in English.

クラスは主としてプロジェクト形式で行われます。クラスでは実際に英語で作文することがグループ作業として求められます。みなさんは教室ではできるだけ英語を使ってコミュニケーションを図り、英語の作文練習につなげていきます。

・準備学習の具体的な方法

Most writing assignments will be completed in class. To complete them students should be required advance preparation for the next classes.

英作文は基本的に授業中に完成させます。授業時間内に完成できるように翌週の授業までに必要な準備を済ませておきます。

4. 評価方法・評価基準

Classroom participation (review sheets and presentations / works / assignments) will account for 50% of the grade, a final written assignment for 40%, and Teacher's Points for 10%. Students are particularly encouraged to plan/attain their ideal goal at the first/last class.

評価はクラスへの参加（振り返りシート点、並びにプレゼン/作品/課題点）が50%、まとめ作文の評価が40%、教師点10%の総計によって最終成績がです。みなさんには、最初のクラスで最終的な評価目標を定め、それをクラス作業を通して達成することが求められます。

5. 授業予定

- 第1回 Lesson 1:Orientation
- 第2回 Lesson 2:Icebreaking Activity
- 第3回 Lesson 3:Making Posters
- 第4回 Lesson 4:Making Posters
- 第5回 Lesson 5:Poster Session 1
- 第6回 Lesson 6:Team Review And Writing About Your Topic
- 第7回 Lesson 7:Making Posters 2
- 第8回 Lesson 8:Making Posters 2
- 第9回 Lesson 9:Making Posters 2
- 第10回 Lesson 10:Poster Session 2
- 第11回 Lesson 11:Team Review And Writing About Your Topic 2
- 第12回 Lesson 12:Making A Final Writing Assignment
- 第13回 Lesson 13:Making A Final Writing Assignment
- 第14回 Lesson 14:Peer Review and Rewriting
- 第15回 Lesson 15:Review And Self-Evaluation

6. 留意事項

To attend and participate in various writing activities is most required in this class.

この授業では、出席する、そしてライティングにかかわる活動に参加する、この2つが最も求められます。

講義コード	10116408			
科目名	英語総合ⅡG 文法的に正しい英文を書けるようになります			
担当者	田中 美和子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	テキストは授業中に配布します。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースの目的は、簡単な英語文を効率よく書き、英語で発信することができる能力の開発です。様々な主題で、平明な英語の文で、簡潔にまとめて書くことを、協調自律学習で経験します。この書く練習を通して、初級基本英文法の復習や総合的なライティング・スキルの学習、さらに語彙ビルディングも行われます。そして、発信する能力へとつなげていきます。そして、後期に実施されるアチーブメントテストで、学習の成果を確かめ、これまでの英語学習を振り返り、次年度の学習計画につなげていきましょう。

2. 教育・学習の個別課題

1. クラスメイトと協調しながら、主体的に学習する姿勢を身に付ける
2. 初級基本英文法の復習
3. パラグラフ・ライティングの手法を身に付ける
4. 語彙力の向上

3. 教育・学習の方法

配布テキストを用いて、初級基本英文法を復習し、文法的に正しく英文を書くスキルを身につける。さらに、総合的なコミュニケーション能力を高めるために、ディスカッションや、プレゼンテーションを行ない、自分の言いたいことを英語で楽しく相手に伝える訓練を行う。主題に沿いながら、平明な英語の文で、簡潔にまとめて英文を書いていく。

・準備学習の具体的な方法

授業が終わったら、次の授業のために必ず準備をしておきましょう。そして、授業には、必ず英和辞書を持ってきてください。

4. 評価方法・評価基準

授業参加点30 提出物50 発表点20

欠席および遅刻は減点対象となります。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション①
- 第2回 オリエンテーション②
- 第3回 PBL1:ポスター1①
- 第4回 PBL1:ポスター1②
- 第5回 PBL1:ポスターセッション1
- 第6回 PBL1:ライティング1
- 第7回 PBL2:ポスター2①
- 第8回 PBL2:ポスター2②

- 第9回 PBL2:ポスター2③
- 第10回 PBL2:ポスターセッション2
- 第11回 PBL2:ライティング2
- 第12回 まとめの英作文①自由課題
- 第13回 まとめの英作文②
- 第14回 まとめの英作文③
- 第15回 後期振り返りと自己評価

6. 留意事項

講義コード	10116409			
科目名	英語総合ⅡH			
担当者	津田 喜美代			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『READY TO WRITE 1 THIRD EDITION』 Karen Blanchard, Christine Root Pearson/ Longman			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

前期に引き続き、このクラスでは、ライティングの技術を習得することを主な目的とし、基本的な文法事項の復習や語彙学習も行う。また、ライティングだけでなくリーディング活動なども行うことにより、英語に親しんでもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の言いたいことが表現できるようになること
4. 自分の力で読み、訳せるようになること

3. 教育・学習の方法

クラス全体でテキストの本文に目を通し、ユニット毎の目標を理解する。その後、個人で英作を行い、クラスメイトとお互いにチェックしていく。

・準備学習の具体的な方法

授業内での作業が基本だが、作業が遅れている場合には、次の授業に間に合うよう必ず自宅学習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は課題(50%)、出席と授業態度(30%)、小テスト等(20%)に基づいて総合的に判断する。また全15回のうち3分の1以上欠席すると単位取得が難しくなる。30分以上の遅刻は欠席とみなされ、3回の遅刻で1欠席扱いとなるので注意すること。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 5
- 第3回 Chapter 5
- 第4回 Chapter 6
- 第5回 Chapter 6
- 第6回 Chapter 7
- 第7回 Chapter 7
- 第8回 Chapter 7
- 第9回 Chapter 8
- 第10回 Chapter 8
- 第11回 Chapter 8
- 第12回 Chapter 9
- 第13回 Chapter 9
- 第14回 Chapter 9
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10116410			
科目名	英語総合Ⅱ J 英語で鍛える初歩的論理的思考と表現法			
担当者	藤本 幸治			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Ready to Write』 K.Blanchard Longman 2010			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

初歩的な英語表現や語彙を用いて効果的な表現方法をライティングを通して学ぶ

2. 教育・学習の個別課題

簡単な英語で初歩的論理的な文章を書けるようになる

3. 教育・学習の方法

テキストを中心に与えられた課題を消化していく

・準備学習の具体的な方法

指定されたテキストの予習と単語の意味調べ

4. 評価方法・評価基準

小テスト、レポート、ファイナルエッセイ

5. 授業予定

- 第1回 writing descriptions 1
- 第2回 writing descriptions 2
- 第3回 review of the chapter and assignment
- 第4回 writing about places 1
- 第5回 writing about places 2
- 第6回 review of the chapter
- 第7回 writing a narrative 1
- 第8回 writing a narrative 2
- 第9回 review of the chapter
- 第10回 expressing your opinion 1
- 第11回 expressing your opinion 2
- 第12回 expressing your opinion 3
- 第13回 preparation for the final essay 1
- 第14回 preparation for the final essay 2
- 第15回 review of the semester

6. 留意事項

講義コード	10116411			
科目名	英語総合Ⅱ K 基礎英語復習と英語ライティング			
担当者	森 ユキエ			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『English Primer <Revised Edition>』 Tetsuzo Sato NAN UN-DO 2012 『Gear up for the TOEIC Test』 Mark D. Stafford KINSEIDO 2013			
参考文献	授業中に指示、または別途配布する。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

英語全体の根底にある文法・語法などを再度復習し、それを英語リーディング・ライティングにつなげ、さらに実際の英語運用能力を開発することに重点を置きます。テキストの解説を聞くだけの授業ではなく、問題を解いたり英作文をしたりする中で、実際の英語運用の経験を積みます。さらに授業終了時に受験する[TOEIC]での成果が向上することを目指します。

2. 教育・学習の個別課題

1) 様々な現場での実際の英語運用の経験

2) 英語基礎の総合的学習

3) 語彙力の向上

3. 教育・学習の方法

1) 毎回テキスト・配布資料に沿って、文の構造や文法について学習し、「読むこと」と「書くこと」のスキル向上を目指す。

2) CD・DVD を利用し、日常的に使用する語彙を習得し、読解能力・作文能力の強化をはかる。

・準備学習の具体的な方法

1) 毎回新しいユニットに進むので、指示された箇所の単語を必ず予習すること

2) 毎回課題が出るので、それを必ず仕上げてくること。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席率・授業参加度(30%)、小テスト・レポート(40%)、英作文を含む提出課題(30%)とする。授業中の態度や努力を評価の対象とする。欠席・遅刻は減点対象となる。欠席が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 Introduction 英語学習の方法(日本語に惑わされない英語表現とは)
- 第2回 English Primer Unit 13 接続詞(1)基本・発展問題・長文問題
- 第3回 English Primer Unit 14 不定詞(1)・動名詞(1)
Gear up for the TOEIC Test Unit 9 Management
- 第4回 English Primer Unit 15 受動態
Gear up for the TOEIC Test Unit 9 Management
- 第5回 English Primer Unit 16 完了形
Gear up for the TOEIC Test Unit 10 Transactions
- 第6回 English Primer Unit 17 接続詞(2)(時制の一致を含む)
Gear up for the TOEIC Test Unit 10 Transactions
- 第7回 English Primer Unit 18 5つの基本文型
Gear up for the TOEIC Test Unit 11 Documents
- 第8回 English Primer まとめのテストと解説
- 第9回 English Primer Unit 19 各種疑問文
Gear up for the TOEIC Test Unit 11 Documents
- 第10回 English Primer Unit 20 不定詞(2)
Gear up for the TOEIC Test Unit 12 Public Announcements
- 第11回 English Primer Unit 21 It の特別用法
Gear up for the TOEIC Test Unit 12 Public Announcements
- 第12回 English Primer Unit 22 分詞・動名詞(2)
Gear up for the TOEIC Test Unit 13 Commuting
- 第13回 English Primer Unit 23 関係代名詞
Gear up for the TOEIC Test Unit 14 Travel
- 第14回 English Primer Unit 24 仮定法
Gear up for the TOEIC Test Unit 15 News
- 第15回 English Primer まとめのテストと解説

6. 留意事項

講義コード	10115507			
科目名	英語Ⅲ(リーディング&ライティング) G			
担当者	York Weatherford			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Real Reading 3』 Bonesteel, Lynn Longman 2010			
参考文献	Graded Readers may be borrowed from the library. An English-English dictionary such as 『Longman Handy Learner's Dictionary』 is highly recommended. An electronic dictionary is also acceptable.			
備考	週2コマ 必修 クラス指定(心理学科)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースは、1年次に学習した英語リーディングおよびライティングを基礎に、さらに実際の英語運用能力を開発します。「読むこと」と「書くこと」は一年次では別個のスキルとしてクラスが分けられていますが、2年次では、クラスの名称に示されているように、「読むこと」によって「書くこと」を、そして「書くこと」によって「読むこと」を学ぶためにそれぞれのトレーニングがひとつに統合されます。つまり、言語の訓練がより実際の言語運用の現場に即して構成されることになります。クラス担当者は、客観的な第三者テストによって得られる学生諸君の現実の英語運用能

力に対応するトレーニングのメニューを用意します。そして学生諸君がトレーニングを自己点検して、自覚的な学習プランを組み立てることができるよう助けます。クラス終了時に受験する第三者テスト [TOEIC(R)] の成果ができるだけ向上することを目指します。またその成果のひとつとして、一人でも多くの諸君が「資格英語」に挑戦してもらいたいと考えています。また、本コースで培われる英語運用能力が学生諸君それぞれの専門分野での今後の学習に大いに役立つものであることに注意を払ってクラスが運営される予定です。

2. 教育・学習の個別課題

1) 様々な現場での実際の英語運用の経験 2) リーディングとライティングの統合練習 3) 語彙力の向上 (当初は 2000 語の語彙を確実なものにすることを目標とする。さらに飛躍して、3000 語獲得にチャレンジする)

3. 教育・学習の方法

Classes will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・準備学習の具体的な方法

Students are expected to complete all homework assignments before class. Assignments include reading, vocabulary review, and writing tasks.

4. 評価方法・評価基準

20% Class Participation

30% Reading Assignments

30% Writing Assignments

20% Quizzes

5. 授業予定

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 Jay Chou Takes Hollywood (Reading Skill: Previewing/Predicting/Skimming)
- 第3回 Comprehension Check and Discussion
- 第4回 Pop Culture Trends in the BRICs
- 第5回 Vocabulary Skill: Parts of Speech
- 第6回 Running Around the World (Reading Skill: Basic Text Organization)
- 第7回 Comprehension Check and Discussion
- 第8回 Review
- 第9回 Body Type in Sports
- 第10回 Vocabulary Skill: The Prefix cross-
- 第11回 Your Second Life (Reading Skill: Text Organization-Process)
- 第12回 Comprehension Check and Discussion
- 第13回 Virtual Reality: A Powerful Tool
- 第14回 Vocabulary Skill: Collocations
- 第15回 Fluency Practice
- 第16回 Alternative Lifestyles (Reading Skill: Writing a Summary)
- 第17回 Vocabulary Skill: The Suffix -free
- 第18回 Welcome to Leisureville
- 第19回 Vocabulary Skill: Using a Dictionary
- 第20回 Reading Colors (Reading Skill: Analogies)
- 第21回 Vocabulary Skill: Adverb Placement
- 第22回 The Man Who Tasted Shapes
- 第23回 Vocabulary Skill: Guessing Meaning from Context
- 第24回 Crows Brains and Geckos' Feet
- 第25回 Comprehension Check and Discussion
- 第26回 Unusual Service Animals (Reading Skill: Text Organization-Compare/Contrast)
- 第27回 Vocabulary Skill: Compound Words
- 第28回 Writing: Comparison/Contrast Essay
- 第29回 Fluency Practice
- 第30回 Review

6. 留意事項

講義コード	10115508			
科目名	英語Ⅲ (リーディング & ライティング) H			
担当者	小川 典子			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『A Taste of English: Food and Fiction』 Fiona Wall Minami, Seiichi Taguchi, Fujiko Motoyama 朝日出版社 2013年 『A Shorter Course in Usage and Vocabulary』 Hidehiko Konaka 南雲堂 2012年			
参考文献	特になし			
備考	週2コマ 必修 クラス指定 (心理学科)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースは、1年次に学習した英語リーディングおよびライティングを基礎に、さらに実用的な英語運用能力を開発します。「読むこと」と「書くこと」は一年次では別個のスキルとしてクラスが分けられていますが、2年次では、クラスの名称に示されているように、「読むこと」によって「書くこと」を、そして「書くこと」によって「読むこと」を学ぶためにそれぞれのトレーニングがひとつに統合されます。つまり、言語の訓練がより実際の言語運用の現場に即して構成されることとなります。クラス担当者は、客観的な第三者テストによって得られる学生諸君の現実の英語運用能力に対応するトレーニングのメニューを用意します。そして学生諸君がトレーニングを自己点検して、自覚的な学習プランを組み立てることができるよう助けます。クラス終了時に受験する第三者テスト [TOEIC(R)] の成果ができるだけ向上することを目指します。またその成果のひとつとして、一人でも多くの諸君が「資格英語」に挑戦してもらいたいと考えています。また、本コースで培われる英語運用能力が学生諸君それぞれの専門分野での今後の学習に大いに役立つものであることに注意を払ってクラスが運営される予定です。

2. 教育・学習の個別課題

1) 様々な現場での実際の英語運用の経験 2) リーディングとライティングの統合練習 3) 語彙力の向上 (当初は 2000 語の語彙を確実なものにすることを目標とする。さらに飛躍して、3000 語獲得にチャレンジする)

3. 教育・学習の方法

・リーディング (A Taste of English: Food and Fiction) :

1つの Chapter を 2回の授業を使って進めていきます。各 Chapter で扱われている映画や文学作品に実際に触れながら、誰にとっても身近な「食べ物」にまつわる英文を読んでいきます。英語を正確に理解することはもちろん、内容への理解を深めることも目指します。また、文法の再確認を通して、文法事項を確実に身に付けていきます。

・ライティング (A Shorter Course in Usage and Vocabulary, 資料配布) : 授業の最初に A Shorter Course in Usage and Vocabulary を使って、語彙・文法を強化するとともに、TOEIC の出題形式に慣れます。このテキストとリーディングのテキストで学んだことを活かしながら、英語の発想で文を書くことに慣れるとともに、パラグラフの考え方を身に付けます。

・準備学習の具体的な方法

必ず予習が必要です。予習の際に難しく感じた部分の解説を中心に授業を進めるので、単語の意味を調べるだけという漠然とした予習ではなく、どの文が分かりにくかったのか等、疑問点を明確にして授業に臨んでください。

4. 評価方法・評価基準

評価は以下の点に基づいて総合的に行います。

- ・小テスト、中間・期末試験の結果 (60%)
- ・提出課題 (20%)
- ・授業参加点 (20%)

なお、単位取得には原則として 3分の2以上の出席が必要です。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Writing 1
- 第3回 Reading - Ch.1 Harry Potter and Chocolate Frogs 1
- 第4回 Reading - Ch.1 Harry Potter and Chocolate Frogs 2
- 第5回 Writing 2
- 第6回 Reading - Ch.2 Peter Rabbit and Pie 1
- 第7回 Reading - Ch.2 Peter Rabbit and Pie 2
- 第8回 Writing 3
- 第9回 Reading - Ch.3 Mrs. Rabbit and Herb Tea 1
- 第10回 Reading - Ch.3 Mrs. Rabbit and Herb Tea 2

- 第11回 Writing 4
- 第12回 Reading - Ch.4 Winnie-the-Pooh and Honey 1
- 第13回 Reading - Ch.4 Winnie-the-Pooh and Honey 2
- 第14回 Writing 5
- 第15回 前半のまとめ
- 第16回 Reading - Ch.5 Daddy-Long-Legs and Ice Cream 1
- 第17回 Reading - Ch.5 Daddy-Long-Legs and Ice Cream 2
- 第18回 Writing 6
- 第19回 Reading - Ch.6 Kenji Miyazawa and Tomatoes 1
- 第20回 Reading - Ch.6 Kenji Miyazawa and Tomatoes 2
- 第21回 Writing 7
- 第22回 Reading - Ch.7 O. Henry and "Witches' Loaves" 1
- 第23回 Reading - Ch.7 O. Henry and "Witches' Loaves" 2
- 第24回 Writing 8
- 第25回 Reading - Ch.8 The Old Man and Fish 1
- 第26回 Reading - Ch.8 The Old Man and Fish 2
- 第27回 Writing 9
- 第28回 Reading - Ch.9 East of Eden and Lettuce 1
- 第29回 Reading - Ch.9 East of Eden and Lettuce 2
- 第30回 後半のまとめ

6. 留意事項

毎回、英和辞書を持参してください。

講義コード	10115509			
科目名	英語Ⅲ（リーディング&ライティング）J			
担当者	東郷 多津			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『READ TO WRITE - An Integrated Course for College Students-』 Saeko Noda ASAHI PRESS 2012			
参考文献	『FOREST 6th edition』 桐原書店 2012			
備考	週2コマ 必修 クラス指定（心理学科）			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースは、1年次に学習した英語リーディングおよびライティングを基礎に、さらに実用的な英語運用能力を開発します。「読むこと」と「書くこと」は1年次では別個のスキルとしてクラスが分けられています。2年次では、クラスの名称に示されているように、「読むこと」によって「書くこと」を、そして「書くこと」によって「読むこと」を学ぶためにそれぞれのトレーニングがひとつに統合されます。つまり、言語の訓練がより実際の言語運用の現場に即して構成されることとなります。クラス担当者は、客観的な第三者テストによって得られる学生諸君の現実の英語運用能力に対応するトレーニングのメニューを用意します。そして学生諸君がトレーニングを自己点検して、自覚的な学習プランを組み立てることができるよう助けます。クラス終了時に受験する第三者テスト [TOEIC(R)] での成果ができるだけ向上することを目指します。またその成果のひとつとして、一人でも多くの諸君が「資格英語」に挑戦してもらいたいと考えています。また、本コースで培われる英語運用能力が学生諸君それぞれの専門分野での今後の学習に大いに役立つものであることに注意を払ってクラスが運営される予定です。

2. 教育・学習の個別課題

1) 様々な現場での実際の英語運用の経験 2) リーディング (200~300語程度) とライティング (50~100語) の統合練習 3) 語彙力の向上 (当初は2000語の語彙を確実なものにすることを目標とする。さらに飛躍して、3000語獲得にチャレンジする)

3. 教育・学習の方法

・リーディング:

1回の授業で1Unitのリーディング教材を読み進めていきます。適宜、語意や文法事項の再確認を行いながら、英語のパラグラフの構造を学ぶことで、平易な英文を読む力を高めます。

・ライティング:

リーディングで扱った内容について、英語のパラグラフで自分自身についてだけではなく、自分の意見を表現したり、情報を正しく伝達する力を身につけます。そのために、英語の発想で文を書くこと、英語のパラグラフの考え方を身につけることも求められます。

・準備学習の具体的な方法

特にリーディングにおいては予習が必要です。分からない単語は辞書で調べてから授業に臨んでください。

4. 評価方法・評価基準

評価は以下の点に基づいて総合的に行います。

- ・授業参加点 (小テストを含む) (40%)
- ・中テストの結果 (30%)
- ・課題点(20%)
- ・教師点(10%)

※テキストや辞書がない場合は、授業参加点が入りません。

※1回ずつの授業の積み重ねが重要です。できるだけ授業に多く出席してください。欠席は、授業参加点だけでなく、最終獲得できる英語力にも大きく影響しますので注意してください。

※予習ができていない場合は、授業参加点が入りませんので、必ず予習してください。

※遅刻した場合はテスト点なくなり、評価に影響します。

※授業の性質上出席が重視されますので、各曜日4回以上欠席した場合は減点が大きくなり、単位が認定されないことがあります。また、原則として11回以上の欠席は単位が認定されません。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Lesson 1: Hi Jason
- 第3回 Lesson 2: Crash Closes Bridge during Storm
- 第4回 Lesson 3: Hishtones Reunion Concert
- 第5回 Lesson 4: Dear Sirs: A Letter of Request
- 第6回 Lesson 5: Assembly Instructions for the XYZ Three-self

Bookcase

- 第7回 Lesson 6: The Lesson of the Talking Fish
- 第8回 Lesson 7: Stranded! Leaves Us Cold
- 第9回 Lesson 8: The Big Storm
- 第10回 Lesson 9: This Is Your Captain
- 第11回 Lesson 10: Two Letters
- 第12回 Lesson 11: Japanese Youth: Can There Be Life without a

Cellphone?

- 第13回 Lesson 12: How Long Can People Live?

第14回 中テスト

第15回 まとめと復習

第16回 Lesson 13: Dear Sirs: A Letter of Complaint

第17回 Lesson 14: A Farewell Speech

第18回 Lesson 15: Wind Force 2000 Air Conditioner Limited

Warranty

第19回 Lesson 16: Hollingsworth State Park

第20回 Lesson 17: Super White

第21回 Lesson 18: The Tuft Television Spring Conference

第22回 Lesson 19: The Woman Who Made Cellphone Life Possible

第23回 Lesson 20: Geology Class Field Trip to Yellowstone

第24回 Lesson 21: Country Cottage Potato Salad

第25回 Lesson 22: An Open Hearing

第26回 Lesson 23: A Letter to the Editor

第27回 Lesson 24: The Use of Child Seats

第28回 中テスト

第29回 まとめと復習

第30回 Writing Activity

6. 留意事項

○授業中に辞書を使用しますので、辞書 (最低限、英和辞典) は必ず持参してください。

○テキスト、筆記用具を必ず持参してください。

※これらがなくて授業を受けられない場合、授業参加度は加算されません。

また、予習をしていない場合も授業参加度は加算されません。

○授業外の TOEIC(R)、TOEIC(R) IP の受験を推奨します。受験した場合は点数を報告してください。

※在学中に TOEIC(R) テストで 500 点以上を取得することは、「資格英語」の単位を取得できます。(*英語英文学科は 600 点以上)

講義コード	10115510			
科目名	英語Ⅲ (リーディング&ライティング) K 英語学習再挑戦			
担当者	寺西 みどり			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『First Voyage — From Grammar to Reading』 Keiko Kimura 他 南雲堂 2012			
参考文献				
備考	週2コマ 必修 クラス指定 (心理学科)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースは、英語の基礎をもう一度はじめてから学びなおすものです。「読むこと」と「書くこと」は1年次では別個のスキルとしてクラスが分けられていますが、2年次では、クラスの名称に示されているように、「読むこと」によって「書くこと」を、そして「書くこと」によって「読むこと」を学ぶためにそれぞれのトレーニングがひとつに統合されます。つまり、言語の訓練がより実際の言語運用の現場に即して構成されることとなります。クラス担当者は、本コースで培われる英語運用能力が学生諸君それぞれの専門分野での今後の学習に大いに役立つものであることに注意を払ってクラスが運営される予定です。

2. 教育・学習の個別課題

- ・文法項目の解説を理解し、練習問題に取り組む
- ・Titanic号遭難の物語を前期中に読みきる
- ・既知の映画を英語字幕によって鑑賞する
- ・文字を美しく書く。また筆記体を練習する
- ・語彙力の向上

3. 教育・学習の方法

- ・講義方式であるが、授業中指名し回答や意見を求める
- ・授業中に重要単語を指摘するので、日常的に覚えるように
- ・準備学習の具体的な方法
 - ・予習として本文を読み、単語を調べ、問の答を考えておく。
 - ・筆記体の自習教材 (児童用の罫線付きノートなど) をコース開始前に準備し始めること。筆記体を習ったことのない学生は、休暇中に中学生用ペンマンシップやウェブサイトでアルファベット文字一覧に目を通してよくとよい。

4. 評価方法・評価基準

原則として、欠席が授業回数3分の1を超えると、評価対象外とする。授業参加度やその内容 (20%)、提出物 (30%)、最終授業時のまとめテスト (50%) により、総合的に評価する。最終授業を欠席した場合、理由を示すものの提示により追テストを検討する。

5. 授業予定

- 第1回 コースの概説と模擬授業
- 第2回 First Voyage Unit 1
- 第3回 Unit 2
- 第4回 Unit 3
- 第5回 Unit 4
- 第6回 Unit 5
- 第7回 DVD鑑賞
- 第8回 Unit 6
- 第9回 配布教材により動詞の活用を復習
配布教材によるリーディング
- 第10回 Unit 7
- 第11回 Unit 8
- 第12回 Unit 9
- 第13回 Unit 10
- 第14回 DVD鑑賞
- 第15回 Unit 11
- 第16回 Unit 12
- 第17回 Unit 13
- 第18回 Unit 14
- 第19回 Unit 15
- 第20回 DVD鑑賞
- 第21回 Unit 16
- 第22回 Unit 17
- 第23回 Unit 18
- 第24回 Unit 19
- 第25回 Unit 20

- 第26回 DVD鑑賞
- 第27回 DVD鑑賞
- 第28回 Unit 21
- 第29回 Unit 21
- 第30回 まとめとまとめテスト

6. 留意事項

休講や進度調整および臨時教材の投入により、回数と内容にズレが生じるかもしれない

講義コード	10115511			
科目名	英語Ⅲ (リーディング&ライティング) L 使える英語を楽しく学習しよう!			
担当者	森 ユキエ			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Skills for Better Reading (Revised Edition) 構造で読む英文エッセイ (改訂版)』 南雲堂 『Writing College English E-Mail はじめてのEメール英作文』 南雲堂 『WORD POWER 3000』 Oxford University Press			
参考文献				
備考	週2コマ 必修 クラス指定 (心理学科)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースは、1年次に学習した英語リーディングおよびライティングを基礎に、さらに実際の英語運用能力を開発します。「読むこと」と「書くこと」は1年次では別個のスキルとしてクラスが分けられていますが、2年次では、クラスの名称に示されているように、「読むこと」によって「書くこと」を、そして「書くこと」によって「読むこと」を学ぶためにそれぞれのトレーニングがひとつに統合されます。つまり、言語の訓練がより実際の言語運用の現場に即して構成されることとなります。クラス担当者は、客観的な第三者テストによって得られる学生諸君の現実の英語運用能力に対応するトレーニングのメニューを用意します。そして学生諸君がトレーニングを自己点検して、自覚的な学習プランを組み立てることができるよう助けます。クラス終了時に受験する第三者テスト【TOEIC(R)】での成果ができるだけ向上することを目指します。またその成果のひとつとして、一人でも多くの諸君が「資格英語」に挑戦してもらいたいと考えています。また、本コースで培われる英語運用能力が学生諸君それぞれの専門分野での今後の学習に大いに役立つものであることに注意を払ってクラスが運営される予定です。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) 様々な現場での実際の英語運用の経験
- 2) リーディングとライティングの統合練習
- 3) 語彙力の向上 (当初は2000語の語彙を確実なものにすることを目標とする。さらに飛躍して、3000語獲得にチャレンジする)

3. 教育・学習の方法

リーディング: 英文のそれぞれのパラグラフ (段落) には、まとまった意味が書かれていることに注目して、全体の構造を意識しながら、論理的展開を把握することに重点をおいて学習します。1章をほぼ2回の講義で進めていくので、単語や練習問題の予習に積極的に取り組んでください。

【TOEIC(R)】対策もします。

ライティング: 英語のE-mailはラターペーパー (便箋) に書かれた英語といくらかの相違があります。使われる英語は口語中心で、インフォーマルな文章が多く、そこで学習された表現は日常会話にも役に立ちます。比較的平易な教材を使って、作文の能力を身につけることを目標にします。

・準備学習の具体的な方法

- 1) 毎回新しい課に進むので、分からない単語は必ず辞書をひいて予習しておいて下さい。
- 2) 毎回課題が出るので、それを次回までに必ず仕上げてください。

4. 評価方法・評価基準

出席 (授業参加、予習復習、宿題を含む) 40%
プレゼンテーション 30%
小テスト・レポート 30%

授業中の学習姿勢や努力を評価の対象にします。欠席・遅刻は減点対象となります。

欠席回数が3分の1を超過した場合には原則として単位を与えません。

5. 授業予定

リーディングとライティングを交互に学習していきます。進度に応じて調整します。(リーディング: 第1~15回、ライティング: 第16~30回)

- 第1回 講義に関するオリエンテーション
- 第2回 Chapter 1 Conclusions/Reasons 理由で押し切る!
- 第3回 Chapter 1 Is English the world's most common language?
- 第4回 Chapter 2 Analysis ブームを考える
- 第5回 Chapter 2 The Comic Cafe
- 第6回 Chapter 3 Theory/Proof 説得は実験で
- 第7回 Chapter 3 Mobile Phones may affect your fertility
- 第8回 Chapter 4 Controversy 賛成? 反対?
- 第9回 Chapter 4 Abortion: Murder or Freedom?
- 第10回 Chapter 5 Comparison/Contrast 比べてみよう
- 第11回 Chapter 5 Sociology and Anthropology
- 第12回 Chapter 6 Classification きちんと分類
- 第13回 Chapter 6 Holy Europe
- 第14回 Chapter 7 Instructions アドバイスを与える
- 小テスト
- 第15回 まとめ
- 第16回 講義に関するオリエンテーション
- 第17回 Unit 1 Self-introduction 自己紹介
- 第18回 Unit 2 Expressing thanks 感謝の気持ちを述べる
- 第19回 Unit 3 Giving encouragement がんばってね
- 第20回 Unit 4 Congratulations! お祝いを述べる
- 第21回 Unit 5 Expressing concern 心配している気持ちを表す
- 第22回 Presentation My favorites
- 第23回 Presentation My hometown
- 第24回 Presentation My hobby
- 第25回 Unit 6 An invitation 案内状
- 第26回 Unit 7 Apologizing お詫びを述べる
- 第27回 Unit 8 Talking about a movie 映画を見に行こう
- 第28回 Unit 9 Asking for advice アドバイスを求める
- 第29回 Unit 10 Giving away a pet ペットはいりませんか
- 小テスト
- 第30回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10115607			
科目名	英語Ⅳ (リーディング & ライティング) G			
担当者	York Weatherford			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Real Reading 3』 Bonesteel, Lynn Longman 2010			
参考文献	Graded Readers may be borrowed from the library. An English-English dictionary such as 『Longman Handy Learner's Dictionary』 is highly recommended. An electronic dictionary is also acceptable.			
備考	週2コマ 必修 クラス指定 (心理学科)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースは、1年次に学習した英語リーディングおよびライティングを基礎に、さらに実際の英語運用能力を開発します。「読むこと」と「書くこと」は1年次では別個のスキルとしてクラスが分けられていますが、2年次では、クラスの名称に示されているように、「読むこと」によって「書くこと」を、そして「書くこと」によって「読むこと」を学ぶためにそれぞれのトレーニングがひとつに統合されます。つまり、言語の訓練がより実際の言語運用の現場に即して構成されることとなります。クラス担当者は、客観的な第三者テストによって得られる学生諸君の現実の英語運用能力に対応するトレーニングのメニューを用意します。そして学生諸君がトレーニングを自己点検して、自覚的な学習プランを組み立てることができるよう助けます。クラス終了時に受験する第三者テスト [TOEIC(R)]での成果ができるだけ向上することを目指します。またその成果のひとつとして、一人でも多くの諸君が「資格英語」に挑戦してもらいたいと考えています。また、本コースで培われる英語運用能力が学生諸君それぞれの専門分野での今後の学習に大いに役立つものであることに注意を払ってクラスが運営される予定です。

2. 教育・学習の個別課題

1) 様々な現場での実際の英語運用の経験 2) リーディングとライティングの統合練習 3) 語彙力の向上 (当初は 2000 語の語彙を確かなものにするを目標とする。さらに飛躍して、3000 語獲得にチャレンジする)

3. 教育・学習の方法

Classes will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・準備学習の具体的な方法

Students are expected to complete all homework assignments before class. Assignments include reading, vocabulary review, and writing tasks.

4. 評価方法・評価基準

20% Class Participation

30% Reading Assignments

30% Writing Assignments

20% Quizzes

5. 授業予定

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 Trends in Tourism (Reading Skill: Identifying Purpose)
- 第3回 Comprehension Check and Discussion
- 第4回 Venice is Flooded (Reading Skill: Descriptive Language)
- 第5回 Vocabulary Skill: Core Meanings
- 第6回 A Blossom Lunch (Reading Skill: Making Inferences)
- 第7回 Comprehension Check and Discussion
- 第8回 Review
- 第9回 The First Home-Cooked Meal (Reading Skill: Cause and Effect)
- 第10回 Vocabulary Skill: Words That Signal Cause and Effect
- 第11回 Widows (Reading Skill: Reading Poetry)
- 第12回 Vocabulary Skill: Idioms
- 第13回 Reality TV (Reading Skill: Making Predictions)
- 第14回 Vocabulary Skill: Making Word Cards
- 第15回 Fluency Practice
- 第16回 Review
- 第17回 Branding and Product Placement (Reading Skill: Skimming)
- 第18回 Comprehension Check and Discussion
- 第19回 3M's Entrance into the Russian Market (Reading Skill: Recognizing Text References)
- 第20回 Vocabulary Skill: Collocations
- 第21回 Symbiosis (Reading Skill: Definitions)
- 第22回 Comprehension Check and Discussion
- 第23回 Animal Hybrids (Reading Skill: Skimming)
- 第24回 Vocabulary Skill: -ed and -ing Adjectives
- 第25回 Being a Genius is Hard Work (Reading Skill: Paraphrasing)
- 第26回 Comprehension Check and Discussion
- 第27回 An Autistic Artist
- 第28回 Vocabulary Skill: Prefixes
- 第29回 Fluency Practice
- 第30回 Review

6. 留意事項

講義コード	10115608			
科目名	英語Ⅳ (リーディング & ライティング) H			
担当者	小川 典子			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『A Taste of English: Food and Fiction』 Fiona Wall Minami, Seiichi Taguchi, Fujiko Motoyama 朝日出版 2013年 『A Shorter Course in Usage and Vocabulary』 Hidehiko Konaka 南雲堂 2012年			
参考文献	特になし			
備考	週2コマ 必修 クラス指定 (心理学科)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースは、1年次に学習した英語リーディングおよびライティングを基礎に、さらに実際の英語運用能力を開発します。「読むこと」と「書くこと」は1年次では別個のスキルとしてクラスが分けられていますが、2年次では、クラスの名称に示されているように、「読むこと」によって「書くこと」を、そして「書くこと」によって「読むこと」を学ぶためにそれぞれのトレーニングがひとつに統合されます。つまり、言語の訓練がより

実際の言語運用の現場に即して構成されることになります。クラス担当者は、客観的な第三者テストによって得られる学生諸君の現実の英語運用能力に対応するトレーニングのメニューを用意します。そして学生諸君がトレーニングを自己点検して、自覚的な学習プランを組み立てることができるよう助けます。クラス終了時に受験する第三者テスト【TOEIC(R)】での成果ができるだけ向上することを目指します。またその成果のひとつとして、一人でも多くの諸君が「資格英語」に挑戦してもらいたいと考えています。また、本コースで培われる英語運用能力が学生諸君それぞれの専門分野での今後の学習に大いに役立つものであることに注意を払ってクラスが運営される予定です。

2. 教育・学習の個別課題

1) 様々な現場での実際の英語運用の経験 2) リーディングとライティングの統合練習 3) 語彙力の向上(当初は2000語の語彙を確実にものにすることを目標とする。さらに飛躍して、3000語獲得にチャレンジする))

3. 教育・学習の方法

・リーディング (A Taste of English: Food and Fiction) :

1つのChapterを2回の授業を使って進めていきます。各Chapterで扱われている映画や文学作品に実際に触れながら、誰にとっても身近な「食べ物」にまつわる英文を読んでいきます。英語を正確に理解することはもちろん、内容への理解を深めることも目指します。また、文法の再確認を通して、文法事項を確実に身に付けていきます。

・ライティング (A Shorter Course in Usage and Vocabulary、資料配布) :
授業の最初にA Shorter Course in Usage and Vocabularyを使って、語彙・文法を強化するとともに、TOEICの出題形式に慣れます。このテキストとリーディングのテキストで学んだことを活かしながら、英語の発想で文を書くことに慣れるとともに、パラグラフの考え方を身に付けます。

・準備学習の具体的な方法

必ず予習が必要です。予習の際に難しく感じた部分の解説を中心に授業を進めるので、単語の意味を調べるだけという漠然とした予習ではなく、どの文が分かりにくかったのか等、疑問点を明確にして授業に臨んでください。

4. 評価方法・評価基準

評価は以下の点に基づいて総合的に行います。

- ・小テスト、中間・期末試験の結果 (60%)
- ・提出課題 (20%)
- ・授業参加点 (20%)

なお、単位取得には原則として3分の2以上の出席が必要です。

5. 授業予定

- 第1回 Writing 10
- 第2回 Reading - Ch.10 Laura and Cheese - Making on the Prairie 1
- 第3回 Reading - Ch.10 Laura and Cheese - Making on the Prairie 2
- 第4回 Writing 11
- 第5回 Reading - Ch.11 Breakfast and Tiffany's 1
- 第6回 Reading - Ch.11 Breakfast and Tiffany's 2
- 第7回 Writing 12
- 第8回 Reading - Ch.12 "Mujina" and "Soba" 1
- 第9回 Reading - Ch.12 "Mujina" and "Soba" 2
- 第10回 Writing 13
- 第11回 Reading - Ch.13 Bridget Jones and Dieting 1
- 第12回 Reading - Ch.13 Bridget Jones and Dieting 2
- 第13回 Writing 14
- 第14回 Reading - Ch.14 Agatha Christie and Apples 1
- 第15回 Reading - Ch.14 Agatha Christie and Apples 2
- 第16回 前半のまとめ
- 第17回 Writing 15
- 第18回 Reading - 資料配布
- 第19回 Reading - 資料配布
- 第20回 Writing 16
- 第21回 Reading - 資料配布
- 第22回 Reading - 資料配布
- 第23回 Writing 17
- 第24回 Reading - 資料配布
- 第25回 Reading - 資料配布
- 第26回 Writing 18
- 第27回 Reading - 資料配布
- 第28回 Reading - 資料配布
- 第29回 後半のまとめ
- 第30回 Writing 19

6. 留意事項

毎回、英和辞書を持参してください。

講義コード	10115609			
科目名	英語IV (リーディング & ライティング) J			
担当者	東郷 多津			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Writing for Presentation in English』 Y. Sugita & R.R. Caraker 南雲堂 2013			
参考文献	『FOREST 6th edition』 桐原書店 2011			
備考	週2コマ 必修 クラス指定 (心理学科)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースは、1年次に学習した英語リーディングおよびライティングを基礎に、さらに実際の英語運用能力を開発します。「読むこと」と「書くこと」は一年次では別個のスキルとしてクラスが分けられていますが、2年次では、クラスの名称に示されているように、「読むこと」によって「書くこと」を、そして「書くこと」によって「読むこと」を学ぶためにそれぞれのトレーニングがひとつに統合されます。つまり、言語の訓練がより実際の言語運用の現場に即して構成されることになります。クラス担当者は、客観的な第三者テストによって得られる学生諸君の現実の英語運用能力に対応するトレーニングのメニューを用意します。そして学生諸君がトレーニングを自己点検して、自覚的な学習プランを組み立てることができるよう助けます。クラス終了時に受験する第三者テスト【TOEIC(R)】での成果ができるだけ向上することを目指します。またその成果のひとつとして、一人でも多くの諸君が「資格英語」に挑戦してもらいたいと考えています。また、本コースで培われる英語運用能力が学生諸君それぞれの専門分野での今後の学習に大いに役立つものであることに注意を払ってクラスが運営される予定です。

2. 教育・学習の個別課題

1) 様々な現場での実際の英語運用の経験 2) リーディングとライティングの統合練習 3) 語彙力の向上(当初は2000語の語彙を確実にものにすることを目標とする。さらに飛躍して、3000語獲得にチャレンジする))

3. 教育・学習の方法

前期の基礎的な知識を生かしながら、講義と演習を通して、さまざまな形式のプレゼンテーションを行う。

・準備学習の具体的な方法

特にリーディングにおいては予習が必要です。分からない単語は辞書で調べてから授業に臨んでください。

4. 評価方法・評価基準

評価は以下の点に基づいて総合的に行います。

- ・授業参加点 (小テストを含む) (30%)
- ・プレゼンテーション(30%)
- ・まとめの英作文(30%)
- ・教師点(10%)

※テキストや辞書がない場合は、授業参加点が入りません。

※1回ずつの授業の積み重ねが重要です。できるだけ授業に多く出席してください。欠席は、授業参加点なくなるだけではなく、最終獲得できる英語力にも大きく影響しますので注意してください。

※予習ができていない場合は、授業参加点が入りませんので、必ず予習してください。

※遅刻した場合はテスト点がなくなり、評価に影響します。

※授業の性質上出席が重視されますので、7回以上欠席した場合は減点が大きくなり、単位が認定されないことがあります。また、原則として11回以上の欠席は単位が認定されません。

5. 授業予定

- 第1回 Chapter1: Informative Presentation
Section 1: The History of Our University
- 第2回 Section 1: The History of Our University
- 第3回 Section 2: My Favorite Country
- 第4回 Section 2: My Favorite Country
- 第5回 Section 3: The Four Basic Food Groups
- 第6回 Section 3: The Four Basic Food Groups
- 第7回 Section 4: Japan's Education System
- 第8回 Section 4: Japan's Education System
- 第9回 Section 6: Social Networking Services
- 第10回 Section 6: Social Networking Services
- 第11回 Preparation for Presentation 1
- 第12回 Preparation for Presentation 1
- 第13回 Preparation for Presentation 1

- 第14回 Presentation 1
- 第15回 まとめと英作文
- 第16回 Chapter 2: Persuasive Presentations
Section 1: Should Students Wear School Uniforms?
- 第17回 Section 1: Should Students Wear School Uniforms?
- 第18回 Section 2: The Case for Organ Donation
- 第19回 Section 2: The Case for Organ Donation
- 第20回 Section 3: Global Warming
- 第21回 Section 3: Global Warming
- 第22回 Section 4: Exercise and Physical Fitness
- 第23回 Section 4: Exercise and Physical Fitness
- 第24回 Section 5: Overpopulation
- 第25回 Section 5: Overpopulation
- 第26回 Preparation for Presentation 2
- 第27回 Preparation for Presentation 2
- 第28回 Preparation for Presentation 2
- 第29回 Presentation 2
- 第30回 まとめと英作文

6. 留意事項

各回とも、かならず辞書を持参してください。

講義コード	10115610			
科目名	英語Ⅳ（リーディング&ライティング）K 英語学習再挑戦			
担当者	寺西 みどり			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Starting from Essential English』 Simon Rosati 他 松柏社 2013年			
参考文献				
備考	週2コマ 必修 クラス指定（心理学科）			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースは、大学生が英語の基本をもう一度はじめから学びなおすことをねらいとする。英語 III で学習した英語リーディングおよびライティングを基礎に、「読むこと」によって「書くこと」を、そして「書くこと」によって「読むこと」を学ぶためにそれぞれのトレーニングがひとつに統合されます。つまり、言語の訓練がより実際の言語運用の現場に即して構成されることとなります。また、音読すること、単語を発音することに積極的に取り組んでもらいたい。本コースで培われる英語運用能力が学生諸君それぞれの専門分野での今後の学習に大いに役立つものであることに注意を払ってクラスを運営する予定です。

2. 教育・学習の個別課題

- ・様々な現場での英語運用の練習
- ・リーディングとライティングの統合練習
- ・語彙力の向上
- ・音読と発音
- ・短文の英訳

3. 教育・学習の方法

講義方式であるが、授業中指名し回答や意見を求めます。

- ・テキストの説明を読み講義を聞く
- ・発音練習をする
- ・練習問題の解答と説明
- ・美しい文字を書く（筆記体の習得を求めます。提出課題あり）
- ・テキスト各課に重要単語が紹介されているので日常的に覚えるように
- ・外国映画の鑑賞（英語の字幕を読む練習）

準備学習の具体的な方法

毎回の予習が不可欠です。

- ・単語を調べ、問の答を考えておく
- ・ストーリーの要約を日本語で書いてみる
- ・筆記体の自習教材（児童用の罫線付きノートなど）をコース開始前に準備し始めること。筆記体を習ったことのない学生は、休暇中に中学生用ペンマンシップやウェブサイトでもアルファベット文字一覧に目を通しておくとい

4. 評価方法・評価基準

原則として、欠席が授業回数の3分の1を超えると、評価対象外とする。授業参加度やその内容（20%）、提出物（30%）、最終授業時のまとめテスト（50%）により、総合的に評価する。最終授業に欠席した場合、理由を

示すものの提示により追テストを検討する。

5. 授業予定

- 第1回 コース概説と模擬授業
- 第2回 Starting from Essential English Chapter 1
- 第3回 Chapter 2
- 第4回 Chapter 3
- 第5回 Chapter 3
- 第6回 Chapter 4
- 第7回 Chapter 4
- 第8回 Chapter 5
- 第9回 Chapter 6
- 第10回 DVD鑑賞
- 第11回 Chapter 7
- 第12回 Chapter 8
- 第13回 Chapter 8
- 第14回 Chapter 9
- 第15回 Chapter 9
- 第16回 Chapter 10
- 第17回 Chapter 10
- 第18回 DVD鑑賞
- 第19回 Chapter 11
- 第20回 Chapter 11
- 第21回 Chapter 12
- 第22回 Chapter 12
- 第23回 Chapter 13
- 第24回 Chapter 14
- 第25回 Chapter 14
- 第26回 DVD鑑賞
- 第27回 Chapter 15
- 第28回 Chapter 15
- 第29回 予備日
- 第30回 まとめとまとめテスト

6. 留意事項

休講や進度調整および臨時教材の投入により、回次と内容にズレが生じるかもしれない

講義コード	10115611			
科目名	英語Ⅳ（リーディング&ライティング）L 使える英語を楽しく学習しよう！			
担当者	森 ユキエ			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Skills for Better Reading (Revised Edition) 構造で読む英文エッセイ（改訂版）』 南雲堂 2008 『Writing College English E-Mail はじめてのEメール英作文』 南雲堂 2006 『WORD POWER 3000』 Oxford University Press			
参考文献				
備考	週2コマ 必修 クラス指定（心理学科）			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースは、1年次に学習した英語リーディングおよびライティングを基礎に、さらに実際の英語運用能力を開発します。「読むこと」と「書くこと」は1年次では別個のスキルとしてクラスが分けられていますが、2年次では、クラスの名称に示されているように、「読むこと」によって「書くこと」を、そして「書くこと」によって「読むこと」を学ぶためにそれぞれのトレーニングがひとつに統合されます。つまり、言語の訓練がより実際の言語運用の現場に即して構成されることとなります。クラス担当者は、客観的な第三者テストによって得られる学生諸君の現実の英語運用能力に対応するトレーニングのメニューを用意します。そして学生諸君がトレーニングを自己点検して、自覚的な学習プランを組み立てることができるよう助けます。クラス終了時に受験する第三者テスト [TOEIC(R)]での成果ができるだけ向上することを目指します。またその成果のひとつとして、一人でも多くの諸君が「資格英語」に挑戦してもらいたいと考えています。

また、本コースで培われる英語運用能力が学生諸君それぞれの専門分野での今後の学習に大いに役立つものであることに注意を払ってクラスが運営される予定です。

2. 教育・学習の個別課題

- 様々な現場での実際の英語運用の経験
- リーディングとライティングの統合練習
- 語彙力の向上 (当初は 2000 語の語彙を確実なものにすることを目標とする。さらに飛躍して、3000 語獲得にチャレンジする)

3. 教育・学習の方法

リーディング：英文のそれぞれのパラグラフ (段落) には、まとまった意味が書かれていることに注目して、全体の構造を意識しながら、論理的展開を把握することに重点をおいて学習します。1 章をほぼ 2 回の講義で進めていくので、単語や練習問題の予習に積極的に取り組んでください。

[TOEIC(R)] 対策もします。

ライティング：英語の E-mail はレターペーパー (便箋) に書かれた英語といくらかの相違があります。使われる英語は口語中心で、インフォーマルな文章が多く、そこで学習された表現は日常会話にも役に立ちます。比較的平易な教材を使って、作文の能力を身につけることを目標にします。

・準備学習の具体的な方法

- 毎回新しい課に進むので、分からない単語は必ず辞書をひいて予習しておいて下さい。
- 毎回課題が出るので、それを次回までに必ず仕上げてください。

4. 評価方法・評価基準

出席 (授業参加、予習復習、宿題を含む) 40%

プレゼンテーション 30%

小テスト・レポート 30%

授業中の学習姿勢や努力を評価の対象にします。欠席・遅刻は減点対象となります。

欠席回数が 3 分の 1 を超過した場合には原則として単位を与えません。

5. 授業予定

リーディングとライティングを交互に学習していきます。進度に応じて調整します。(リーディング：第 1~15 回、ライティング：第 16~30 回)

- 第 1 回 Chapter 8 Chronological order (History) 歴史をたどる
- 第 2 回 Chapter 8 Christmas
- 第 3 回 Chapter 9 Cause and Effect 原因を探る
- 第 4 回 Chapter 9 The Second World War and Japan
- 第 5 回 Chapter 10 Process 手順を説明する
- 第 6 回 Chapter 10 Cricket
- 第 7 回 Chapter 11 Explanation (New Product) 新製品の紹介
- 第 8 回 Chapter 11 Nintendo DS
- 第 9 回 Chapter 12 Definition 最近気になる言葉を考えよう
- 第 10 回 Chapter 12 NEET
- 第 11 回 Chapter 13 Explanation (Statistics) データで説得
- 第 12 回 Chapter 13 What's your main aim in life?
- 第 13 回 [TOEIC(R)] 対策
- 第 14 回 小テスト
- 第 15 回 まとめ
- 第 16 回 Unit 11 Making a suggestion 提案をする
- 第 17 回 Unit 12 Asking a favor お願いがあるのですが
- 第 18 回 Unit 13 Making an appointment アポイントメントをとる
- 第 19 回 Unit 14 Sending a gift 贈り物をする
- 第 20 回 Unit 15 Asking for clarification 説明を求める
- 第 21 回 Unit 16 A polite request ていねいな依頼
- 第 22 回 Unit 17 An enquiry 質問
- 第 23 回 小テスト
- 第 24 回 Presentation
- 第 25 回 Presentation
- 第 26 回 Unit 18 Internet shopping インターネット・ショッピング
- 第 27 回 Unit 19 Making a complaint 苦情を述べる
- 第 28 回 Unit 20 Booking a plane ticket 航空券の予約
- 第 29 回 小テスト
- 第 30 回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10119101			
科目名	英語応用 a (A) 英語応用 a (A): English Communication Strategies			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	There is no textbook for this class. I will prepare handouts, worksheets, materials, etc. for you.			
参考文献				
備考	定員 25 人 (旧)101178 英語応用IV リビングイングリッシュ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

This course will focus on developing English conversation skills. The goal of this course is for students to be able to understand "daily conversation" and communicate with each other using easier, daily expressions in English. Primary attention will be given to listening and speaking; however, some reading and writing will also be required. This course is intended for students who want to improve their English listening skills and conversation fluency. Topics covered in the course will be based upon student interests. Special emphasis will be placed on the vocabulary and structures required for everyday living situations.

2. 教育・学習の個別課題

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements. THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY IN ENGLISH! The majority of class time will be spent on group discussion. Every student is expected to actively participate and share their ideas and opinions.

3. 教育・学習の方法

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics. Every student is expected to actively participate and share their ideas and opinions.

・準備学習の具体的な方法

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

4. 評価方法・評価基準

Class Participation (40%): Your participation grade in this class includes work done in

class, your attitude, being on-task, and completed homework.

NOTE: Just being present in class does NOT automatically guarantee a high participation grade.

Assignments/Role-Plays/Homework/Etc. (60%)

5. 授業予定

There will be 15 classes this semester. The class schedule will be FLEXIBLE depending on the flow of the class.

- 第 1 回 Unit 1: Introductions: Small Talk: & Using Rejoinders
- 第 2 回 Unit 2: Answering with Additional Information; Asking Follow-Up Questions
- 第 3 回 Unit 3: Confirmation Questions: Asking Someone to Repeat; Eliciting Confirmation
- 第 4 回 Unit 4: Clarifications with Question Words; Backchanneling
- 第 5 回 Unit 5: Sustaining a Conversation; Showing Interest
- 第 6 回 Unit 6: Expressing Probability
- 第 7 回 Unit 7: Sureness Phrases
- 第 8 回 Unit 8: Giving Opinions; Expressing Opinions; Asking for Opinions
- 第 9 回 Unit 9: Agreeing & Disagreeing
- 第 10 回 Unit 10: Echoing Someone; Echoing Instructions
- 第 11 回 Unit 11: Getting a Response from Someone; Sustaining a Conversation

- 第12回 Unit 12: Soliciting Details: Sustaining a Conversation
 第13回 Unit 13: Responding with Details: Explaining with Details
 第14回 Unit 14: Giving Advice: Asking for Advice
 第15回 Unit 15: Free Talk: Daily English

6. 留意事項

An English-English dictionary is highly recommended.
 Please read the graded reader books in the library and the AV-room!
 READ AS MUCH AS YOU CAN EVERYDAY!

講義コード	10119102			
科目名	英語応用 a (B)			
担当者	Eric Hail			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『English Firsthand 1』 Michael Rost Pearson Longman 2010 Michael Rost, English Firsthand 1 (Pearson Longman) ISBN978-988-00-3059-8			
参考文献				
備考	定員 25 人 〈旧〉101178 英語応用Ⅳ リビングイングリッシュ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

The focus of this course is the improvement of the oral communicational abilities of the students. However, the development of the students' listening, writing and reading skills will also be addressed. Special emphasis will be placed on the vocabulary and structures required for everyday living situations.

2. 教育・学習の個別課題

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements.

3. 教育・学習の方法

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

・準備学習の具体的な方法

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

4. 評価方法・評価基準

Students will be evaluated based on class participation, tests and behavior.

5. 授業予定

- 第1回 Exercise 1
 第2回 Exercise 2
 第3回 Exercise 3
 第4回 Exercise 4
 第5回 Exercise 5
 第6回 Exercise 6
 第7回 Exercise 7
 第8回 Exercise 8
 第9回 Exercise 9
 第10回 Exercise 10
 第11回 Exercise 11
 第12回 Exercise 12
 第13回 Exercise 13
 第14回 Exercise 14
 第15回 Exercise 15

6. 留意事項

All students must buy a NEW textbook.
 All students must bring an English dictionary to every class.
 Schedule subject to change.

講義コード	10119201			
科目名	英語応用 b (A) 英語応用 b: English for Travel Abroad			
担当者	Eric Hail			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『English Firsthand 1』 Michael Rost Pearson Longman 2010 Michael Rost, English Firsthand 1 (Pearson Longman) ISBN978-988-00-3059-8			
参考文献				
備考	定員 25 人 〈旧〉101180 英語応用Ⅵ 旅行のための英語			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

This course is designed to help to prepare students for a study abroad trip. Students will engage in a variety of activities using role-plays, activities, pair work, and group work to learn about various aspects of English speaking countries. The goal in this course is for students to be able to understand and use "survival Travel English" when they travel abroad (e.g., how to pass through immigration, how to exchange money, how to order a meal, how to check in/out of a hotel, etc...) In addition, students will improve their overall English skills and knowledge of countries and places around the world.

2. 教育・学習の個別課題

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements. THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY IN ENGLISH! Every student is expected to actively participate!

3. 教育・学習の方法

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice for traveling abroad. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

・準備学習の具体的な方法

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

4. 評価方法・評価基準

Students will be evaluated based on class participation, tests and behavior.

5. 授業予定

- 第1回 Exercise 1
 第2回 Exercise 2
 第3回 Exercise 3
 第4回 Exercise 4
 第5回 Exercise 5
 第6回 Exercise 6
 第7回 Exercise 7
 第8回 Exercise 8
 第9回 Exercise 9
 第10回 Exercise 10
 第11回 Exercise 11
 第12回 Exercise 12
 第13回 Exercise 13
 第14回 Exercise 14
 第15回 Exercise 15

6. 留意事項

All students must buy a NEW textbook.
 All students must bring an English dictionary to every class.

講義コード	10119202			
科目名	英語応用 b (B) 英語応用 b (B) : English for Travel Abroad			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	A textbook will be decided at a later date.			
参考文献				
備考	定員 25 人 <旧>101180 英語応用VI 旅行のための英語			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

This course is designed to help to prepare students for a traveling abroad to foreign countries. Students will engage in a variety of activities using the textbook (if available) and handouts/worksheets to learn about various aspects of English (and non-English) speaking countries when traveling. In addition, important issues and life skills necessary to traveling in a foreign country will also be explained and discussed.

2. 教育・学習の個別課題

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements. NOTE: This class will be conducted (taught) entirely (100%) in ENGLISH!

3. 教育・学習の方法

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics. ACTIVE participation is a must!

・準備学習の具体的な方法

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

4. 評価方法・評価基準

Students will be evaluated based on attendance, class participation, tests and behavior.

Class Participation 授業参加 (40%)

Assignments, Role-Plays, Tasks, Quizzes, Tests (60%)

5. 授業予定

- 第1回 Unit 1: Class Introduction: Understanding Flight Information; Check In for a Flight
- 第2回 Unit 2: Introduce Yourself: Talk about Topics of Interest
- 第3回 Unit 3: Check In at a Hotel; Make Special Requests
- 第4回 Unit 4: Choose a Day Trip; Plan a Day Trip
- 第5回 Unit 5: Review Unit 1-4
- 第6回 Unit 6: Arrange Transportation: Pay for Transportation
- 第7回 Unit 7: Choose a Restaurant; Order a Meal at a Restaurant
- 第8回 Unit 8: Understand Locations; Follow Simple Directions
- 第9回 Unit 9: Shop for Items; Understand Prices
- 第10回 Unit 10: Review Unit 6-9
- 第11回 Unit 11: Report Found Items; Describe Lost Items
- 第12回 Unit 12: Understand Health Situations; Talk with a Doctor
- 第13回 Unit 13: Talk about a Trip; Ask Follow-Up Questions
- 第14回 Unit 14: Ask For and Give Advice: Learn about Travel Safety
- 第15回 Unit 15: Review Unit 11-14

6. 留意事項

All students must bring an English dictionary to every class. An English-English dictionary is better!

The class schedule is subject to change.

講義コード	10119301			
科目名	英語応用 c 英語応用 c: Preparation for Study Abroad			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	Textbook will be decided at a later date. Additional handouts and materials will be prepared by the instructor.			
参考文献				
備考	定員 25 人 <旧>101180 英語応用VII 留学のための英語			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

This course will focus on preparing students for studying abroad. Students will be given various tasks to complete throughout the course. These tasks will help students develop their awareness and self-reliance. They will also learn how to establish realistic and concrete goals. In addition, students will improve their overall English skills and knowledge of countries and places around the world while studying abroad.

2. 教育・学習の個別課題

Students will improve their overall English skills. They will also develop greater fluency and the ability to express their ideas and opinions effectively using English. Students will become more comfortable and confident using English. They will become more autonomous and self-reliant in their approach to learning. They will be prepared to study abroad.

3. 教育・学習の方法

THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY IN ENGLISH and the majority of class time will be spent on group discussion. Every student is expected to actively participate and share their ideas and opinions. Students will be encouraged to work as a team towards preparing themselves for study abroad.

・準備学習の具体的な方法

Students should prepare for each lesson by reading the assigned topic before class. Students should also think about the topic carefully and form their opinions ahead of time.

4. 評価方法・評価基準

Class Participation 授業参加: 40%: Your participation grade in this class includes work done in class, your attitude, being on-task, and completed homework. NOTE: Just being present in class does NOT automatically guarantee a high participation grade.

Assignments/Role-Plays/Tasks/Homework/Etc.: 60%

5. 授業予定

- 第1回 Unit 1: Before You Go: Me - Talking About Myself
- 第2回 Unit 2: Before You Go: Introducing My Family
- 第3回 Unit 3: Before You Go: My Typical Day
- 第4回 Unit 4: Before You Go: My Hometown: Australia - Fact File
- 第5回 Unit 5: Before You Go: Visiting Popular Tourist Attractions
- 第6回 Unit 6: Before You Go: Holidays & Festivals
- 第7回 Unit 7: Before You Go: Sport in Japan
- 第8回 Unit 8: Before You Go: Talking About Pictures & Places; Canada - Fact File
- 第9回 Unit 9: Before You Go: Introducing Something Japanese
- 第10回 Unit 10: Before You Go: Modern Japanese Lifestyles/Culture
- 第11回 Unit 11: Review
- 第12回 Unit 12: Homestay Advice; The UK - Fact File
- 第13回 Unit 13: Culture & Manners
- 第14回 Unit 14: Security & Safety; The USA - Fact File
- 第15回 Unit 15: Thinking About Your Trip

6. 留意事項

Students will be expected to actively participate by contributing their ideas and opinions in classroom discussions and should prepare for each class by reviewing topics and completing homework assignments beforehand. Students need to attend class and arrive on time. An English-English dictionary is highly recommended. Please read the

graded reader books in the library and the AV-room! READ AS MUCH AS YOU CAN EVERYDAY!

The schedule for instruction will be FLEXIBLE and based upon needs of the class and the flow of the class. However, the course will present various tasks for learners to complete. There will be 15 classes this semester.

講義コード	10119401			
科目名	英語応用 d (A) 英語応用 d (A): Hospitality English			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教][ホ]			
前提科目				
テキスト	There is no required textbook for this course. The instructor will provide handouts and other materials in class.			
参考文献				
備考	定員 25 人 おもてなし英会話			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

This course will help prepare students to use English for work in the tourism, hospitality and travel industries. Classes will cover a variety of situations including travel agencies, hotels, restaurants, or even just helping a stranger on the street. Students will practice realistic communication tasks to build confidence and improve fluency.

2. 教育・学習の個別課題

Students will be able to handle various hospitality situations with confidence and fluency. In addition, students will improve their pronunciation skills through awareness-building, recognition, and production activities.

3. 教育・学習の方法

Classes will be conducted (taught) entirely (100%) in ENGLISH! In each class, students will participate in paired dialog practice and role-play activities to simulate a variety of service situations.

・準備学習の具体的な方法

Students are expected to complete all homework assignments before class. Assignments will include role-play practice, vocabulary review, and pronunciation activities.

4. 評価方法・評価基準

CLASS PARTICIPATION 授業参加 (40%)

ASSIGNMENTS, ROLE-PLAYS, TASKS, QUIZZES, HOMEWORK (60%)

5. 授業予定

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 Being Friendly and Polite
- 第3回 Making Travel Arrangements
- 第4回 Talking on the Phone
- 第5回 Helping Hotel Guests
- 第6回 Dealing with Guests' Problems
- 第7回 Explaining How Things Work
- 第8回 Review
- 第9回 Taking Bar Orders
- 第10回 Serving Restaurant Customers
- 第11回 Dealing with Money
- 第12回 Giving Directions
- 第13回 Suggesting Attractions and Activities
- 第14回 Explaining Local Culture and History
- 第15回 Review

6. 留意事項

The class schedule is subject to change depending on the needs of the students.

講義コード	10119402			
科目名	英語応用 d (B) 英語応用 d (B): Hospitality English			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教][ホ]			
前提科目				
テキスト	Textbook will be decided at a later time. Also, I will prepare handouts, worksheets, materials, etc. for you.			
参考文献				
備考	定員 25 人 おもてなし英会話			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

This course will help prepare students to use English for work in the tourism, hospitality and travel industries. Classes will cover a variety of situations including travel agencies, hotels, restaurants, or even just helping a stranger on the street. Students will practice realistic communication tasks to build confidence and improve fluency. Primary attention will be given to listening and speaking; however, some reading and writing will also be required.

2. 教育・学習の個別課題

Students will be able to handle various hospitality situations with confidence and fluency. In addition, students will improve their pronunciation skills through awareness-building, recognition, and production activities. Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements. THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY IN ENGLISH! The majority of class time will be spent on group discussion. Every student is expected to actively participate and share their ideas and opinions.

3. 教育・学習の方法

Students will learn how to use simple sentence structures for using "English in daily life in Japan" through listening activities and pair work (or group work) conversational practice. Every student is expected to actively participate!

・準備学習の具体的な方法

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading (the library has a large amount of English as a Second Language reading books) and watching movies in English.

4. 評価方法・評価基準

The class grade will be determined using a continuous evaluation assessment model based on the following formula:
Class Participation 授業参加: 40%: Your participation grade in this class includes work done in class, your attitude, being on-task, and completed homework. NOTE: Just being present in class does NOT automatically guarantee a high participation grade.
Assignments/Role-Plays/Tasks/Presentations/Etc.: 60%

5. 授業予定

There will be 15 classes in the semester. The class will be FLEXIBLE depending on the students' needs and the flow of the class.

- 第1回 Unit 1: Course Introduction
- 第2回 Unit 2: Being Friendly and Polite: Talking about your Hometown
- 第3回 Unit 3: Making Travel Arrangements: Talking at a Travel Agency
- 第4回 Unit 4: Talking on the Phone: Beginning and Ending a Phone Call
- 第5回 Unit 5: Helping Hotel Guests
- 第6回 Unit 6: Dealing with Guest's Problems
- 第7回 Unit 7: Explaining How Things Work: Explaining Japanese Things
- 第8回 Unit 8: Giving Directions & Asking for Directions

- 第9回 Unit 9: At a Restaurant: Talking about Japanese Food
- 第10回 Unit 10: Suggesting Attractions and Activities Visiting Temples and Shrines
- 第11回 Unit 11: Visiting Temples and Shrines
- 第12回 Unit 12: Explaining Local Culture and History
- 第13回 Unit 13: Special Days and Events
- 第14回 Unit 14: School and College/University Life
- 第15回 Unit 15: Review of Units

6. 留意事項

An English-English dictionary is highly recommended.
Please read the graded reader books in the library and the AV-room!
READ AS MUCH AS YOU CAN EVERYDAY!
The class schedule is subject to change.

講義コード	10119501		
科目名	英語応用 e リスニング初級 - 映画で英語		
担当者	東郷 多津		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	毎時プリントを配布します		
参考文献			
備考	定員 40 人 (旧)101176 英語応用Ⅱ リスニング(初級)		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

国際社会において「相手の言っていることを理解する」ことは非常に重要です。そのためには総合的な英語力を向上させる必要がありますが、本コースでは、必要な英語力を身に付ける第一歩として、特にリスニング力強化に焦点をしばって練習します。まず、英語の音声と文字情報を連動させる学習から始め、英語特有のリズム、イントネーション、発音などを、いつでもどこでも誰にでも手に入る映画や唄やラジオ劇などを利用して習得することを目指します。

2. 教育・学習の個別課題

実際の映画を利用することにより、以下の課題習得を目指します。

1. 英語への興味が深まる。
2. 英単語を見て正確に発音できるようになる。
3. 英語の発音を正確に聞き取れるようになる。
4. 自然な日常表現を覚えることができる。

3. 教育・学習の方法

授業では、音声や映像を利用して、英語の語、句、文の聞き取り練習を行います。また、それらについて音声上の特徴を理解した上で発声の練習をします。具体的には以下の活動を含みます。

- Vocabulary: 日常的に使用する基本語彙を習得する
- Reading : 字幕を素早く読んで、内容を把握する
- Listening : 字幕無しで台詞を聞き取る
- Speaking : 映画のシーンに合わせて台詞を言う

・準備学習の具体的な方法

欠席した場合は翌週の課題に影響しますので、かならずプリントを取りにきて、翌週の授業までに課題を済ませてください。

4. 評価方法・評価基準

評価は以下を目安として総合的に判断します。

- 授業参加点 (小テストを含む) 60%
- 中テスト点 30%
- 教師点 10%

※1 回ずつの授業の積み重ねが重要です。できるだけ授業に多く出席してください。欠席は、授業参加点がなくなるだけでなく、最終獲得できる英語力にも大きく影響しますので注意してください。

※テストは基本的に授業の最初に行います。遅刻をするとテストが受けられませんので注意してください。

※授業の性質上出席が重視されますので、4 回以上欠席した場合は大きく減点されます。また、6 回以上欠席した場合は原則として単位が認定されません。

5. 授業予定

第1回 Orientation

※授業予定の詳細については初回の授業で説明します。受講希望者はできるだけ初回の授業に出席してください。

第2回 Unit 1

- 第3回 Unit 2
- 第4回 Unit 3
- 第5回 Unit 4
- 第6回 Unit 5
- 第7回 Unit 6
- 第8回 Unit 7
- 第9回 Unit 8
- 第10回 Unit 9
- 第11回 Unit 10
- 第12回 Unit 11
- 第13回 Unit 12
- 第14回 Unit 13
- 第15回 Review

6. 留意事項

- リスニング初級者対象です。どなたでも受講可能ですが、根気強く英語を聞こうとする姿勢のある方に受講をお勧めします。
- 授業中に辞書を使用しますので、辞書(最低限、英和辞典)は必ず持参してください。
- 筆記用具、辞書などがなくて授業を受けられない場合、授業参加度は加算されません。

講義コード	10119601		
科目名	英語応用 f リスニング中級一もつと映画で英語		
担当者	東郷 多津		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	毎時プリントを配布します		
参考文献			
備考	定員 40 人 (旧)101177 英語応用Ⅲ リスニング(中級)		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

国際社会において「相手の言うことがわかる」ことは非常に重要です。そのためには総合的な英語力を向上させる必要がありますが、本コースでは、さらなるリスニング力強化を目指して練習します。英語特有のリズム、イントネーション、発音などを理解しながら、さらに自然で、複雑な文や会話をいつでも習得することを目指します。

本コースではどこでも誰にでも手に入る映画や唄やラジオ劇などを利用してします。つまり、このコースでは、単なるリスニングの練習だけではなく、身の回りにある機会を生きた英語学習法として利用する方法を習得する練習も行います。

2. 教育・学習の個別課題

英語によるドラマ・映画を利用することにより、以下の課題習得を目指します。

1. 英語への興味が深まる。
2. 英語の発音を正確に聞いたり発声したりできる。
3. より早いスピードあるいはより複雑な内容の英語の会話が聞き取れるようになる。
4. 自然な日常表現を覚えることができる。

3. 教育・学習の方法

授業では、音声や映像を利用して、英語の句、文、会話などの聞き取り練習を行います。また、それらについて音声上の特徴を理解した上で発声の練習を行います。具体的には以下の活動を含みます。

- Vocabulary: 日常に使用する基本語彙を習得する
- Reading : テキストを素早く読んで、内容を把握する
- Listening : ドラマの台詞を聞き取る
- Writing : 聞き取った単語を正確に書き取る
- Speaking : ドラマのシーンに合わせて台詞を言う

・準備学習の具体的な方法

欠席した場合は翌週の課題に影響しますので、かならずプリントをもらって課題を翌週の授業までに済ませてください。

4. 評価方法・評価基準

評価は以下を目安として総合的に判断します。

- 授業参加点 (小テストを含む) 60%
- 中テスト点 30%
- 教師点 10%

※1 回ずつの授業の積み重ねが重要です。できるだけ授業に多く出席して

ください。欠席は、授業参加点なくなるだけでなく、最終獲得できる英語力にも大きく影響しますので注意してください。

※テストは基本的に授業の最初に行います。遅刻をするとテストが受けられませんので注意してください。

※授業の性質上出席が重視されますので、4回以上欠席した場合は大きく減点されます。また、6回以上欠席した場合は原則として単位が認定されません。

5. 授業予定

第1回 Orientation

授業予定の詳細については初回の授業で説明します。受講希望者はできるだけ初回の授業に出席してください。

第2回 Unit 1

第3回 Unit 2

第4回 Unit 3

第5回 Unit 4

第6回 Unit 5

第7回 Unit 6

第8回 Unit 7

第9回 Unit 8

第10回 Unit 9

第11回 Unit 10

第12回 Unit 11

第13回 Unit 12

第14回 Unit 13

第15回 Review

6. 留意事項

◎リスニング中級者対象のクラスです。どなたでも受講可能ですが、最後まで授業を続けるために以下の目安を参考にしてください。(目安:「リスニング初級」既履修者(すでに単位を取得した学生、および、TOEIC400点以上、あるいは、TOEICリスニングスコア200点以上)

●授業中に辞書を使用しますので、辞書(最低限、英和辞典)は必ず持参してください。

●筆記用具、辞書などがなくて授業を受けられない場合、授業参加点および課題点は加算されません。

講義コード	10119701			
科目名	英語応用 g (A) Extensive Reading			
担当者	York Weatherford			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	Graded Readers (図書館2階閲覧室 Readers コーナーに置いています。)			
参考文献				
備考	定員 50 人 <旧>101175 英語応用 I 小説を読もう			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

このコースの目的は、英語を多読 (extensive reading) することによって、英語の学力を全体的にのばし、英語学習を楽しむことです。受講生は、多くの英語文献 (平易で楽しめる教材) を読むことによって、だんだんと辞書に頼らずに早く読めるようになるでしょう。このクラスの受講生は English graded readers の教材を図書館から借りることができます。それらの教材の中で興味のあるものを選び、選んだ本について他の受講生と話し合う機会を持ちます。

2. 教育・学習の個別課題

Students will become better readers, increase their knowledge of vocabulary, improve their listening and speaking skills, and experience increased motivation to learn English.

3. 教育・学習の方法

Classes will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will have time in class for sustained silent reading. Additionally, students will work together to discuss the books they have read. In order to keep track of the books they have read, students will use an online quiz system that is designed to check whether they have read the books.

・準備学習の具体的な方法

Students are expected to complete all homework assignments before

class. Homework will consist of reading at least one book per week and preparing short presentations for their classmates.

4. 評価方法・評価基準

Weekly reading assignments: 50%

Presentations: 30%

Participation in group discussions: 20%

5. 授業予定

第1回 Introduction to Extensive Reading and the Moodle Reader

第2回 Book 1

第3回 Book 2

第4回 Book 3

第5回 Book 4

第6回 Book 5

第7回 Book 6

第8回 Mid-term Presentations

第9回 Book 7

第10回 Book 8

第11回 Book 9

第12回 Book 10

第13回 Book 11

第14回 Book 12

第15回 Final Presentations

6. 留意事項

講義コード	10119702			
科目名	英語応用 g (B) 英語応用 g (B): Extensive Reading			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	Graded Readers (図書館2階閲覧室 Readers コーナーに置いています。)			
参考文献				
備考	定員 50 人 <旧>101175 英語応用 I 小説を読もう			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

このコースの目的は、英語を多読 (extensive reading) することによって、英語の学力を全体的にのばし、英語学習を楽しむことです。受講生は、多くの英語文献 (平易で楽しめる教材) を読むことによって、だんだんと辞書に頼らずに早く読めるようになるでしょう。このクラスの受講生は English graded readers の教材を図書館から借りることができます。それらの教材の中で興味のあるものを選び、選んだ本について他の受講生と話し合う機会を持ちます。

2. 教育・学習の個別課題

"Students will become better readers, increase their knowledge of vocabulary, improve their listening and speaking skills, and experience increased motivation to learn English."

3. 教育・学習の方法

Classes will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will have time in class for sustained silent reading. Additionally, students will work together to discuss the books they have read. In order to keep track of the books they have read, students will use an online quiz system that is designed to check whether they have read the books.

・準備学習の具体的な方法

Students are expected to complete all homework assignments before class. Homework will consist of reading at least one book per week and preparing short presentations for their classmates.

4. 評価方法・評価基準

"Weekly reading assignments: 50%

Presentations: 30%

Participation in group discussions: 20%"

5. 授業予定

第1回 Introduction to Extensive Reading and the Moodle Reader

第2回 Book 1

第3回 Book 2

第4回 Book 3

- 第5回 Book 4
- 第6回 Book 5
- 第7回 Book 6
- 第8回 Mid-term Presentations
- 第9回 Book 7
- 第10回 Book 8
- 第11回 Book 9
- 第12回 Book 10
- 第13回 Book 11
- 第14回 Book 12
- 第15回 Final Presentations

6. 留意事項

An English-English dictionary is highly recommended.

Please read the graded reader books in the library and the AV-room!

READ AS MUCH AS YOU CAN EVERYDAY!

The class schedule is subject to change.

講義コード	10119703			
科目名	英語応用 g (C) ネット上で英語の童話を読もう			
担当者	小林 順			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	Beatrix Potter, Peter Rabbit			
参考文献				
備考	定員 50 人 <旧>101175 英語応用 I 小説を読もう			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

このクラスでは、あなたたちのこれまでの読書経験と英語学習の接点を探りましょう。実用的で社会的なコミュニケーションを重視する英語の学習ではなく、物語の「読み」を楽しむ学習にチャレンジしましょう。童話を読みましょう。

2. 教育・学習の個別課題

- 1 英語テキスト読解の経験をつむ
- 2 童話の言語の特徴を知る
- 3 外国語学習の楽しさを知る

3. 教育・学習の方法

このクラスでは「読む」ことを楽しみたい。「味読」とまでは行かなくとも、的確な「読み」の楽しみを経験してみよう。

・準備学習の具体的な方法

常に辞書を参照して語彙の不足を補い、さらに文構造については適宜文法解説書などを参照してください。クラスでの練習はいわゆる英文和訳作業を基本とします。英文テキストの翻訳作業を行います。

4. 評価方法・評価基準

クラスに参加することが一番大切なことです。成績の50%は授業参加度。プレゼンテーションが、20%。期末試験が30%。

5. 授業予定

- 第1回 テキストを探す。タブレットかスマホあるいはノートパソコンを持参。
- 第2回 Peter Rabbit をディスプレイに映し出してみよう。
- 第3回 一文ずつ丁寧に音読して意味を理解しよう。
- 第4回 ピーターの性格を表すワードを見つけよう。
- 第5回 ピーターはなぜ衣服を身につけているのでしょうか。
- 第6回 ピーターと兄弟姉妹の違いを読み取ろう。
- 第7回 ピーターが入る庭の持ち主は人間なのかウサギなのか？
- 第8回 人間はウサギをどうしようとしているのか？
- 第9回 ピーターの父親の悲劇とは？
- 第10回 ピーターが遭遇する危険を列挙しよう。
- 第11回 もし、捕まっていたら、ピーターはどうなったでしょう？
- 第12回 マグレガーは人間的でしょうか？
- 第13回 作者 Beatrix Potter とはどのような人だったのでしょうか？
- 第14回 農園経営と文筆活動の関係を探ろう。
- 第15回 プレゼンテーションにチャレンジしよう。テーマは、ウサギと農園、です。

6. 留意事項

特になし。

講義コード	10119801			
科目名	英語応用 h (A) 実用英語基礎			
担当者	東郷 多津			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Let's Read Aloud & Learn English』 Teruhiko Kadoyama & Simon Capper SEIBIDO 2013			
参考文献				
備考	定員 40 人 <旧>101179 英語応用 V 実用英語基礎			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本授業では、実用英語基礎能力の習得をめざします。その手段として、「音読」や「筆者」という基礎的な訓練を取り入れます。また、オフィスを舞台とした教材を通して、TOEIC (R)に出題される基本的なビジネス英語を習得することを目指します。実際の TOEIC (R)にチャレンジできるように、上記の目標達成を目指しましょう。

2. 教育・学習の個別課題

総合的な教材を通じて、より実用的な英語力を身に付けることを目指します。具体的には以下のことを目指します。

1. ビジネス基礎に必要な語彙力を身につける
2. ビジネス対話を身につける
3. 基本的な文法力を復習する
4. TOEIC (R)の問題形式になれる

3. 教育・学習の方法

テキストに沿って問題を進めます。授業中はみなさんの解答を聞きながら、解説を中心として授業を進めます。したがって、予習をしておくことが大変重要です。授業中は積極的な発言や態度が求められます。クラス全体の点数向上を目指しますので、お互いに学び合う姿勢で臨んでください。

・準備学習の具体的な方法

毎回授業では順不同に答えを尋ねますので、週週に行う箇所を必ず予習してきてください。

また、毎回単語を覚えてきてください。授業始めに確認テストをします。

4. 評価方法・評価基準

評価は以下を目安として総合的に判断します。

授業参加点 (予習を含む) 30%

小・中テストの結果 60%

教師点 10%

※テキストや辞書がない場合は、授業参加点が入りません。

※1回ずつの授業の積み重ねが重要です。できるだけ授業に多く出席してください。欠席は、授業参加点がなくなるだけではなく、最終獲得できる英語力にも大きく影響しますので注意してください。※予習ができていない場合は、授業参加点が入りませんので、必ず予習してください。

※遅刻した場合はテスト点がなくなり、評価に影響します。

※授業の性質上出席が重視されますので、4回以上欠席した場合は減点が大きくなり、単位が認定されないことがあります。また、原則として6回以上の欠席は単位が認定されません。

5. 授業予定

- 第1回 Orientation
- Lesson 1 Pleased to meet you.
- 第2回 Lesson 2 Do you remember me?
- 第3回 Lesson 3 I spoke to Ms. Hayashi yesterday.
- 第4回 Lesson 4 When does the meeting start?
- 第5回 Lesson 5 Can you meet me at the airport?
- 第6回 Lesson 6 Feel free to ask me anytime.
- 第7回 Lesson 7 I'm thinking about quitting my job.
- 第8回 Lesson 8 I'll give her your message.
- 第9回 Lesson 9 I haven't received the latest figures.
- 第10回 Lesson 10 The cafeteria is closed today.
- 第11回 Lesson 11 We expect higher sales in China.
- 第12回 Lesson 12 I'd like to check in.
- 第13回 Lesson 13 How about going to the theater?
- 第14回 Lesson 14 I like to travel a lot.
- 第15回 Lesson 15 What are your plans for the future?

6. 留意事項

○授業中に辞書を使用しますので、辞書 (最低限、英和辞典) は必ず持参してください。

○テキスト、筆記用具を必ず持参してください。
 ※これらがなくて授業を受けられない場合、授業参加度は加算されません。
 また、予習をしていない場合も授業参加度は加算されません。
 ○授業外の TOEIC(R)、TOEIC(R) IP の受験を推奨します。受験した場合は点数を報告してください。
 ※在学中に TOEIC(R) テストで 500 点以上を取得することは、「資格英語」の単位を取得できます。(*英語英文学科は 600 点以上)

講義コード	10119802			
科目名	英語応用 h (B) 実用英語基礎			
担当者	田中 美和子			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Framework English Grammar in 23 Lessons 6th Edition』 桐原書店編集部 株式会社 ピアソン桐原 2009			
参考文献	『総合英語フォレスト 6th edition』 石黒昭博 株式会社桐原書店 2009			
備考	定員 40 人 <旧>101179 英語応用 V 実用英語基礎			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースの目的は、英語の初級基本文法を、初歩から学習することである。基本的な構文から仮定法まで、文法事項の核となる概念をとらえ、その上で知識を積み重ねていく。15 レッスン修了時は、英語に苦手意識を持っている人も、基礎的文法を理解して、実用的に英語を使えるようになる。そして、身近な主題の平明な英語のテキストならば強いストレスなしに読解できるようになることを、最終的な目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 基本英文法の復習と習得
2. 標準的な語彙力を身に付ける
3. The Japan Times などの英語記事を読む

3. 教育・学習の方法

文型から始まる初級基本文法の復習をする。文法的な意味の違いを「理解」すること、実際に文法事項を「使う」ことを大切にしていく。毎回、基本的英文を暗記する。

・準備学習の具体的な方法

授業には、必ず英和辞書を持ってきてください。そして、授業が終わったら、その日の授業の復習をして、次の授業のために予習をしておきましょう。

4. 評価方法・評価基準

授業参加点 30 小テスト 30 理解度テスト 40

欠席および遅刻は減点対象となります。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション 品詞と文の要素
- 第2回 動詞と文型 (80-83)
- 第3回 疑問詞と疑問文 (84-89)
- 第4回 まとめ1
- 第5回 分詞 (1) (2)
- 第6回 分詞 (3) 接続詞 (96-97)
- 第7回 比較 (1) (2)
- 第8回 まとめ2
- 第9回 関係詞 (1) (2)
- 第10回 関係詞 (3)
- 第11回 仮定法 (1)
- 第12回 仮定法 (2)
- 第13回 英語で読んでみよう 1
- 第14回 英語で読んでみよう 2
- 第15回 まとめ3

6. 留意事項

講義コード	10119901			
科目名	英語応用 i (A) 英語の読み書き ABC			
担当者	田中 美和子			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Framework English Grammar in 23 Lessons 6th Edition』 桐原書店編集部 株式会社 ピアソン桐原 2009			
参考文献	『総合英語フォレスト 6th edition』 石黒昭博 株式会社桐原書店 2009			
備考	定員 40 人 英語の読み書き ABC			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースの目的は、英語の初級基本文法を、初歩の初歩から学習することである。15 レッスン修了時は、基礎的文法事項を習得して、日常的な英語会話表現、動詞の活用など基本的な語彙力が身に付く。旅行や買い物など日常的な場面で用いられる英語を理解することができるようになることを最終的な目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 初級基本英文法の復習をする
2. 動詞の活用など基本的な語彙力を身に付ける
3. 日常的な英語会話表現を学習する

3. 教育・学習の方法

初級基本文法の復習を基礎から始め、語彙力、表現力をつけていく。基本的文法を土台にしながら、英語で「書く」、「読む」というさまざまなタスクへとつなげる。毎回、基本的英文を暗記していく。

・準備学習の具体的な方法

授業には、必ず英和辞書を持ってきてください。そして、授業が終わったら、その日の授業の復習をして、次の授業のために予習をしておきましょう。

4. 評価方法・評価基準

授業参加点 30 小テスト 30 理解度テスト 40

欠席および遅刻は減点対象となります。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション 品詞と文の要素
- 第2回 文の種類：肯定文、否定文、疑問文
- 第3回 文の種類：命令文、感嘆文、存在文
- 第4回 まとめ1
- 第5回 時制：現在形と現在進行形
- 第6回 時制：過去形と過去進行形、未来と未来進行形
- 第7回 現在完了、過去完了、未来完了
- 第8回 まとめ2
- 第9回 助動詞(1)(2)(3)
- 第10回 能動態と受動態(1)(2)
- 第11回 不定詞(1)(2)
- 第12回 動名詞
- 第13回 日本語を英語にしてみよう 1
- 第14回 日本語を英語にしてみよう 2
- 第15回 まとめ3

6. 留意事項

講義コード	10119902			
科目名	英語応用 i (B) 会話で英文法!			
担当者	東郷 多津			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『English Companion』 T. SATO, Y. KOTEGAWA, M. KIDO, Y. SHIMAI & F. SHIMOSONO 南雲堂 2013			
参考文献				
備考	定員40人 英語の読み書きABC			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

英語学習は読み・書き・対話いずれの練習においても時間をかけて積み重ねることが大切であり、初歩の練習段階でこの積み重ねにつまずくとそれ以降の練習の成果がなかなか得られなくなる。英語学習の成果が得られない学習者の中でこのつまずきを経験している学習者は多い。本コースはこれまでの英語学習において初歩の積み重ねが不十分であった学生諸君のために英語の基礎学習再チャレンジを応援する。15レッスン修了時は、基礎的文法事項の習得、確かな語彙として1200語程度獲得、そしてgraded readers(語彙1200語程度)が強いストレスなしに読解できるようになること、さらにそれらの積み重ねを基礎に英語で初歩的対話ができるようになることを具体的目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

この科目の教育・学習の個別課題は、基本的な英文法をおさらいすることです。また、それらを通じて実際の英語の会話表現を向上させることにあります。みんなが理解できるようにゆっくり進めます。

3. 教育・学習の方法

授業では、基本的には毎回1章ずつテキストを進めながら、基本的な英文法をおさらいします。日常の会話の中に、英文法の知識が詰まっていることを確認することによって、会話力、聴く力、読解力、英作力の向上を目指して学習していきます。

・準備学習の具体的な方法

復習を中心に勉強していただきますが、予習を課すこともあります。

4. 評価方法・評価基準

評価は以下を目安として総合的に判断します。

授業参加点(小テストを含む) 50%

中テストの結果 40%

教師点 10%

※テキストや辞書がない場合は、授業参加点が入りません。

※1回ずつの授業の積み重ねが重要です。できるだけ授業に多く出席してください。欠席は、授業参加点がなくなるだけではなく、最終獲得できる英語力にも大きく影響しますので注意してください。

※遅刻した場合はテスト点がなくなり、評価に影響します。

※授業の性質上出席が重視されますので、4回以上欠席した場合は減点が大きくなり、単位が認定されないことがあります。また、原則として6回以上の欠席は単位が認定されません。

5. 授業予定

第1回 Chapter 1: 5つの基本文型

第2回 Chapter 2: 動詞

第3回 Chapter 3: 進行形・未来形・助動詞

第4回 Chapter 4: 名詞・冠詞・代名詞

第5回 Chapter 5: 前置詞・接続詞 <I>

第6回 Chapter 6: 形容詞・副詞と比較級

第7回 Chapter 7: 命令文・感嘆文

第8回 Chapter 8: 不定詞

第9回 Chapter 9: 動名詞と分詞

第10回 Chapter 10: 各種疑問文・Itの特別用法

第11回 Chapter 11: 受動態

第12回 Chapter 12: 完了形

第13回 Chapter 13: 接続詞 <II>

第14回 Chapter 14: 仮定法

第15回 まとめと復習

6. 留意事項

この授業には、必ず辞書を持ってきて下さい。携帯の辞書ではなく、電子辞書・冊子辞書のどちらかに限ります。

講義コード	10120001			
科目名	英語応用 j English for Academic Purposes			
担当者	York Weatherford			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	The instructor will provide handouts and other materials in class. テキストはクラスで配布する。			
参考文献				
備考	<旧>101182 英語応用VIII アカデミックイングリッシュ			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

このクラスの教育目標はきわめて現実的である。日本国内の大学院進学を目指している学生諸君が入試などで評価される英語能力が高い「英語読解能力」であることを前提として、このクラスはその能力育成を目指す。このクラスでは、受講生が興味をもつ題材について読み、議論することに重きをおきます。また、研究の進め方を学び、また研究内容を短りサーチャーペーパーとしてまとめ、口頭での発表をする機会を持ちます。

2. 教育・学習の個別課題

Students will acquire essential reading, writing, speaking, and discussion skills for academic purposes. They will also gain greater confidence in effectively expressing their ideas and opinions in English.

3. 教育・学習の方法

Classes will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・準備学習の具体的な方法

Students are expected to complete all homework assignments before class. Homework will consist of reading, preparing for discussion, conducting research, writing, and preparing presentations.

4. 評価方法・評価基準

30% Class Participation and Discussion

35% Mini Research Paper

35% Oral Presentation

5. 授業予定

第1回 Course Introduction

第2回 Basic Research and Discussion Skills

第3回 Choosing a Topic

第4回 Group Discussion 1

第5回 Group Discussion 2

第6回 Group Discussion 3

第7回 Group Discussion 4

第8回 Writing a Working Thesis

第9回 Organizing Your Ideas

第10回 Researching Concrete Support

第11回 Basic Presentation Skills

第12回 Presentations 1

第13回 Presentations 2

第14回 Presentations 3

第15回 Presentations 4

6. 留意事項

講義コード	10121401			
科目名	英会話（初級）A			
担当者	Eric Hail			
単位数	1	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『Let's Talk 1 (2nd Edition)』 L. Jones Cambridge University Press 2008 L. Jones, Let's Talk 1 (Cambridge University Press) 2nd Edition ISBN978-0-521-69281-6			
参考文献				
備考	英語英文学科は履修できない（平成19年度以前入学の生活福祉文化学科・心理学科教職必修）			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	10121402			
科目名	英会話（初級）B			
担当者	Eric Hail			
単位数	1	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『Let's Talk 1 (2nd Edition)』 L. Jones Cambridge University Press 2008 L. Jones, Let's Talk 1 (Cambridge University Press) 2nd Edition ISBN978-0-521-69281-6			
参考文献				
備考	英語英文学科は履修できない（平成19年度以前入学の生活福祉文化学科・心理学科教職必修）			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

The focus of this course is the improvement of the oral communicational abilities of the students. However, the development of the students' listening, writing and reading skills will also be addressed.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students will be evaluated based on class participation, and behavior.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Exercise 1
- 第2回 Exercise 2
- 第3回 Exercise 3
- 第4回 Exercise 4
- 第5回 Exercise 5
- 第6回 Exercise 6
- 第7回 Exercise 7
- 第8回 Exercise 8
- 第9回 Exercise 9
- 第10回 Exercise 10
- 第11回 Exercise 11
- 第12回 Exercise 12
- 第13回 Exercise 13
- 第14回 Exercise 14
- 第15回 Exercise 15

6. Special Information (留意事項)

All students must buy a NEW textbook.

All students must bring an English dictionary to every class.

講義コード	10121501			
科目名	英会話（中級）A			
担当者	Eric Hail			
単位数	1	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『Let's Talk 1 (2nd Edition)』 L. Jones Cambridge University Press 2008 L. Jones, Let's Talk 1 (Cambridge University Press) 2nd Edition ISBN978-0-521-69281-6			
参考文献				
備考	英語英文学科は履修できない（平成19年度以前入学の生活福祉文化学科・心理学科教職必修）			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	10121502			
科目名	英会話（中級）B			
担当者	Eric Hail			
単位数	1	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『Let's Talk 1 (2nd Edition)』 L. Jones Cambridge University Press 2008 L. Jones, Let's Talk 1 (Cambridge University Press) 2nd Edition ISBN978-0-521-69281-6			
参考文献				
備考	英語英文学科は履修できない（平成19年度以前入学の生活福祉文化学科・心理学科教職必修）			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

The focus of this course is the improvement of the oral communicational abilities of the students. However, the development of the students' listening, writing and reading skills will also be addressed.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students will be evaluated based on class participation, and behavior.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Exercise 1
- 第2回 Exercise 2
- 第3回 Exercise 3
- 第4回 Exercise 4
- 第5回 Exercise 5
- 第6回 Exercise 6
- 第7回 Exercise 7
- 第8回 Exercise 8
- 第9回 Exercise 9
- 第10回 Exercise 10

- 第11回 Exercise 11
- 第12回 Exercise 12
- 第13回 Exercise 13
- 第14回 Exercise 14
- 第15回 Exercise 15

6. Special Information (留意事項)

All students must buy a NEW textbook.

All students must bring an English dictionary to every class.

講義コード	10123001		
科目名	ドイツ語 I ドイツ語という新しい世界		
担当者	小川 光		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『Deutschlernen Deutschland kennenlernen [3., neu bearbeitete Aus-gabe]』 信岡資生 三修社 『Deutsche Gramtik fur Anfanger』 岩崎英二郎 同 学社 2011年 辞書は、担当者が経験から薦められるものを授業にお いて伝える。		
参考文献 備考			
科目読替	ドイツ語(初級)通年 2単位「ドイツ語 I」と「ド イツ語 II」を合わせて履修すること ※平成 19 年度以 前入学者に適用		
社会人 基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

ドイツ語は英語と同じく、日本語とはまったく言語系統の違う言語であり、また英語と比べて、その文法は複雑であると考えられている。しかしドイツ語と英語とは近親言語であるのだから、これまで身につけた英語の基本的な知識を十二分に活用して学ぶことによって、自然にドイツ語の初級文法を習得していく。授業では、できるかぎり多くのドイツ語の話しことば・書きことばの基本的な用例にあたり、前期授業終了時には、日常の日本語を簡単なドイツ語で表現できるようになることを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. 英語の基本単語とドイツ語の単語との類似性を実際に調べてみて、ドイツ語の単語をおぼえるのは、まったくゼロからの作業ではないと安心感をいкакようにする。 2. 英語の基礎的知識を確認しながら英語とドイツ語それぞれの基本文法を比較し、両者の類似に気づき、それを学習に活かすことで、ドイツ語学習において難解な文法を偏重することの無意味さを確認する。 3. 英語とドイツ語の近親性を利用して、考えを平明なドイツ語で書き表す。

3. 教育・学習の方法

登録者数によるが、可能な限り教員と学生双方向の意思疎通のある学習を図りながら、コミュニケーションの手段としてのドイツ語の有機的な学習を目指す。特に将来の専攻上ドイツ語が必要となる者は、いかなる難解な言語的問題も地道な基礎の積み上げが解決するのだということを心に留め、出発点での基本から大切に学んでいくこと。

・準備学習の具体的な方法

予習・復習は必須であり、予習は必ず既習の授業の内容を反復と確認をした上で行うこと。復習が予習より重要であることを念頭におき、学習することが望ましい。

4. 評価方法・評価基準

全授業数の3分の1を欠席すると評価対象にならない。また、一度の欠席によっても理解が大変遅れるので、毎回の出席は絶対条件。評価は、授業中の質問への正答率への評価 20%、まとめフィードバック・テスト 80%とする。特に、初回の授業において授業の方針その他の重要な注意を話すので、それらをしっかりと確認すること。

5. 授業予定

- 第1回 ドイツ語という言語の世界言語の中の位置づけードイツ語の特色
- 第2回 ドイツ語のアルファベットと発音
- 第3回 ドイツ語単語の発音
- 第4回 動詞の現在人称変化(主語による動詞の形の変化)、簡単なあいさつ表現
- 第5回 人称変化練習問題
- 第6回 名詞の性と冠詞
- 第7回 名詞の性と冠詞、ドイツ語の文構造

- 第8回 定冠詞と不定冠詞練習問題
- 第9回 定冠詞と名詞の格変化
- 第10回 定冠詞と名詞の格変化練習問題
- 第11回 不定冠詞の格変化
- 第12回 不定冠詞の格変化練習問題
- 第13回 助動詞とその現在人称変化
- 第14回 助動詞の現在人称変化練習問題
- 第15回 不規則動詞の現在人称変化と前期全学習のまとめ

6. 留意事項

ドイツ語 I の履修者は、ドイツ語 II を引きつづき履修することが望ましい。

講義コード	10123101		
科目名	ドイツ語 II 初級からの発展		
担当者	小川 光		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『Deutschlernen Deutschland kennenlernen [3., neu bearbeitete Aus-gabe]』 信岡資生 三修社 『Deutsche Gramtik fur Anfanger』 岩崎英二郎 同 学社 2011年 辞書は、担当者が経験から薦められるものを授業にお いて伝える。		
参考文献 備考	「ドイツ語 I」を履修済み又はそれと同程度のドイツ語学力を有すること		
科目読替	ドイツ語(初級)通年 2単位「ドイツ語 I」と「ド イツ語 II」を合わせて履修すること ※平成 19 年度以 前入学者に適用		
社会人 基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

ドイツ語 I では、ドイツ語と英語とは近親性に留意しながら英語の基本的な知識を十二分に活用することで、ドイツ語の初級文法を習得してきた。ドイツ語 II では、ドイツ語の話しことば・書きことばのさらに微妙な表現を可能にする単元を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 英語の基本単語とドイツ語の単語との類似性を実際に調べてみて、ドイツ語の単語をおぼえるのは、まったくゼロからの作業ではないと安心感をいкакようにする。 2. 英語の基礎的知識を確認しながら英語とドイツ語それぞれの基本文法を比較し、両者の類似に気づき、それを学習に活かすことで、ドイツ語学習において難解な文法を偏重することの無意味さを確認する。 3. ドイツ語 I で学んだことを応用し、さらに微妙な表現の仕方を習得する。

3. 教育・学習の方法

登録者数によるが、可能な限り教員と学生双方向の意思疎通のある学習を図りながら、ドイツ語 I で習得した基本をもとに、それをコミュニケーションの手段としてのドイツ語の表現に有機的に応用していく。

・準備学習の具体的な方法

予習・復習は必須であり、予習は必ず既習の授業の内容を反復と確認をした上で行うこと。特にドイツ語 II の学習においては、ドイツ語 I で学んだ基礎が重要であることを念頭におき、各単元の復習を常に心がけながら学習することが望ましい。

4. 評価方法・評価基準

全授業数の3分の1を欠席すると評価対象にならない。また、一度の欠席によっても理解が大変遅れるので、毎回の出席は絶対条件。評価は、授業中の質問への正答率への評価 20%、まとめフィードバック・テスト 80%とする。特に、初回の授業において授業の方針その他の重要な注意を話すので、それらをしっかりと確認すること。

5. 授業予定

- 第1回 前置詞の概念とその特色の説明"
- 第2回 前置詞とその格支配、分離動詞
- 第3回 前置詞とその格支配練習問題
- 第4回 名詞の複数形、複数の格変化
- 第5回 zu 不定詞
- 第6回 名詞の複数形と複数の格変化練習問題
- 第7回 zu 不定詞練習問題
- 第8回 形容詞(付加語形)の格変化
- 第9回 形容詞の名詞化、現在分詞とその用法
- 第10回 形容詞練習問題

- 第11回 動詞の過去人称変化（動詞の3基本形，非人称のes
- 第12回 動詞の過去人称変化練習問題
- 第13回 現在完了形，過去完了形
- 第14回 現在完了形，過去完了形練習問題
- 第15回 再帰代名詞と再帰代名詞関連練習問題と後期全学習のまとめ

6. 留意事項

ドイツ語Ⅱの履修者は、原則としてドイツ語Ⅰを履修した者とする。

講義コード	10123201		
科目名	ドイツ語Ⅲ 本格的なドイツ語を学ぶ		
担当者	小川 光		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『Deutschlernen Deutschland kennenlernen [3., neu bearbeitete Aus-gabe]』 信岡資生 三修社 『Deutsche Gramtik fur Anfanger』 岩崎英二郎 同 学社 2011年 辞書は、担当者が経験から薦められるものを授業にお いて伝える。		
参考文献			
備考	「ドイツ語Ⅱ」を履修済み又はそれと同程度のドイツ 語学力を有すること		
科目読替	ドイツ語(中級)通年 2単位「ドイツ語Ⅲ」と「ド イツ語Ⅳ」を合わせて履修すること ※平成19年度以 前入学者に適用		
社会人 基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

ドイツ語Ⅰ・Ⅱ(初級)においては、ドイツ語と英語との近親性に注目し、英語の知識に照らして、自然にドイツ語の初級文法を習得することを試みた。ドイツ語ⅢとⅣ(中級)では、さらに多くのドイツ語の話しことば・書きことばの応用例にあたりながら、ドイツ語の基本的な会話や手紙文などの日常の書きことばの表現が可能になることを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. 初級(ドイツ語Ⅰ・Ⅱ)と同様、英語の基本単語とドイツ語の単語との近親性に注目しながら、ドイツ語のヴォキャブラリーの増加を図る。2. ドイツ語Ⅲでは、関係代名詞を中心に学ぶ。中学校の英語学習以来多くの学習者が持つ、この文法項目に対する苦手意識をなくし、実際の表現において応用することを試みる。

3. 教育・学習の方法

登録者数によるが、可能な限り教員と学生双方向の意思疎通のある学習を図りながら、初級で習得した基本をもとに、視聴覚教材も使用しながら、コミュニケーションの手段としてのドイツ語の有機的な習得を目指す。

・準備学習の具体的な方法

予習・復習は必須であり、予習は必ず既習の授業の内容を反復と確認をした上で行うこと。ドイツ語Ⅲの学習においては、関係代名詞が最も重要な学習課題である。これは、ドイツ語ⅠとⅡで学んだ単元と関わるものが多く、学習者自らこれまでに学んだ全単元の復習を常に心がけながら学習することが望ましい。

4. 評価方法・評価基準

全授業数の3分の1を欠席すると評価対象にならない。また、一度の欠席によっても理解が大変遅れるので、毎回の出席は絶対条件。評価は、授業中の質問への正答率への評価20%、まとめフィードバック・テスト80%とする。特に、初回の授業において授業の方針その他の重要な注意を話すので、それらをしっかりと確認すること。

5. 授業予定

- 第1回 ドイツ語ⅠとⅡの復習
- 第2回 ドイツ語ⅠとⅡの復習
- 第3回 ドイツ語ⅠとⅡの復習と重要単元復習問題
- 第4回 関係代名詞の概念説明
- 第5回 ドイツ語関係代名詞と英語関係代名詞の比較
- 第6回 関係代名詞基礎練習問題
- 第7回 指示代名詞
- 第8回 指示代名詞基礎練習問題
- 第9回 不定関係代名詞(先行詞のない関係代名詞)の概念説明
- 第10回 ドイツ語の不定関係代名詞と英語の不定関係代名詞の比較
- 第11回 不定関係代名詞基礎練習問題
- 第12回 関係代名詞応用練習問題
- 第13回 指示代名詞応用練習問題

- 第14回 不定関係代名詞応用練習問題
- 第15回 前期全学習のまとめ

6. 留意事項

ドイツ語Ⅲの履修者は、ドイツ語Ⅳを引きつづき履修することが望ましい。

講義コード	10123301		
科目名	ドイツ語Ⅳ ドイツ語で自己表現をしてみよう		
担当者	小川 光		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『Deutschlernen Deutschland kennenlernen [3., neu bearbeitete Aus-gabe]』 信岡資生 三修社 『Deutsche Gramtik fur Anfanger』 岩崎英二郎 同 学社 辞書は、担当者が経験から薦められるものを授業にお いて伝える。		
参考文献			
備考	「ドイツ語Ⅲ」を履修済み又はそれと同程度のドイ ツ語学力を有すること		
科目読替	ドイツ語(中級)通年 2単位「ドイツ語Ⅲ」と「ド イツ語Ⅳ」を合わせて履修すること ※平成19年度以 前入学者に適用		
社会人 基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

ドイツ語Ⅰ・Ⅱ(初級)においては、ドイツ語と英語との近親性に注目し、英語の知識に照らして、自然にドイツ語の初級文法を習得することを試みた。ドイツ語ⅢとⅣ(中級)では、さらに多くのドイツ語の話しことば・書きことばの応用例にあたりながら、ドイツ語の基本的な会話や手紙文などの日常の書きことばの表現が可能になることを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. 初級(ドイツ語Ⅰ・Ⅱ)と同様、英語の基本単語とドイツ語の単語との近親性に注目しながら、ドイツ語のヴォキャブラリーの増加を図る。2. ドイツ語Ⅳでは、ドイツ語学習の難所といわれる「接続法」なるものを中心に学ぶ。接続法は文法書にいたずらに難解に示されているために難しく見えるだけで、英語とドイツ語それぞれの基本文法を比較することで、難解そうな文法を平易なものとして理解できるようにする。そして、理解できたものを活用しながら、ドイツ語作文なども試みる。

3. 教育・学習の方法

登録者数によるが、可能な限り教員と学生双方向の意思疎通のある学習を図りながら、初級で習得した基本をもとに、視聴覚教材も使用しながら、コミュニケーションの手段としてのドイツ語の有機的な習得を目指す。

・準備学習の具体的な方法

予習・復習は必須であり、予習は必ず既習の授業の内容を反復と確認をした上で行うこと。ドイツ語Ⅳの学習においては、接続法が最も重要な学習課題である。この学習には、ドイツ語Ⅰ～Ⅲで学んだことの総動員が必要となる。したがって、学習者自らこれまでに学んだ全単元の復習を常に心がけながら学習することが望ましい。

4. 評価方法・評価基準

全授業数の3分の1を欠席すると評価対象にならない。また、一度の欠席によっても理解が大変遅れるので、毎回の出席は絶対条件。評価は、授業中の質問への正答率への評価20%、まとめフィードバック・テスト80%とする。特に、初回の授業において授業の方針その他の重要な注意を話すので、それらをしっかりと確認すること。

5. 授業予定

- 第1回 ドイツ語Ⅰ～Ⅲの復習
- 第2回 ドイツ語Ⅰ～Ⅲの復習
- 第3回 ドイツ語Ⅰ～Ⅲの復習と重要単元復習問題
- 第4回 再帰代名詞，未来形，命令形
- 第5回 再帰代名詞，未来形，命令形練習問題
受動態の概念説明
ドイツ語受動態と英語の受動態の比較
- 第6回 受動態練習問題
- 第7回 形容詞・副詞の比較級と最上級
- 第8回 形容詞・副詞の比較級と最上級練習問題
- 第9回 接続法の概念説明
- 第10回 ドイツ語接続法と英語仮定法の比較
- 第11回 間接話法，非現実話法(仮定法)，要求話法

- 第12回 接続法第1式と接続法第2式基礎練習問題
 第13回 接続法第1式と接続法第2式応用練習問題
 第14回 基数, 時刻表現, 序数, 日付表現
 第15回 後期全学習のまとめ

6. 留意事項

ドイツ語 IV の履修者は、原則としてドイツ語 III を履修した者とする。

講義コード	10123401		
科目名	フランス語 I A		
担当者	Andre Andjey		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『Mini de Concert』 朝日出版		
参考文献			
備考			
科目読替	フランス語(初級)通年 2単位「フランス語 I」と「フランス語 II」を合わせて履修すること ※平成 19年度以前入学者に適用		
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

初めて学ぶフランス語をとおして、国際社会への視野を広げ異文化に対する理解と尊敬を深めることを主たる目標とする。そのために、ただ言語としてのフランス語を学ぶだけでなく、フランスの歴史、社会、文化、さらにはヨーロッパ社会全体についても感心をもつことを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

フランス語は日本語と完全に異なった言語であるということを経験的に知る必要がある。また英語との共通点や相違点を十分に学ぶこと。

「語学に王道なし」といわれる。辞書を引く手間を惜しまないこと。

語学の習得の妨げとなる完全主義や羞恥心から解放されること。

フランス語に対する関心を持続させること。

3. 教育・学習の方法

主としてテキストに従って少しずつ知識を増やしてゆくが、折に触れてAV教材なども使用する。また文章や詩などの暗記学習も効果的に利用する予定である。

・準備学習の具体的な方法

毎回授業の後で、学習したテキストを読み(大きな声で朗読する)、文法事項を暗記してください。

4. 評価方法・評価基準

定期試験(65%) 授業態度(25%) 授業参加度(10%)

5. 授業予定

- 第1回 あいさつ・紹介・フランス語の表記法
 第2回 別れのあいさつ・母音字の読み方・アクセント記号
 第3回 感謝・わび・発音練習
 第4回 問いと答の形式・数字1~10
 第5回 問いと答の形式・数字11~20
 第6回 人称代名詞・動詞 être
 第7回 第1群規則動詞の活用
 第8回 第1群規則動詞・リエゾン・アンシュスマン
 第9回 国籍・職業・動詞の否定形
 第10回 好き・好きではない、動詞 aller
 第11回 否定文・数字21~69・動詞 avoir+体の状態
 第12回 年齢の表現・定冠詞・不定冠詞
 第13回 動詞 avoir+身のまわりの物
 第14回 強勢人称代名詞・数字70~90
 第15回 否定文+不定冠詞、vacances について会話

6. 留意事項

講義コード	10123402			
科目名	フランス語 I B			
担当者	崔 達用			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献				
備考				
科目読替	フランス語(初級)通年 2単位「フランス語 I」と「フランス語 II」を合わせて履修すること ※平成 19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10123403			
科目名	フランス語 I C			
担当者	崔 達用			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献				
備考				
科目読替	フランス語(初級)通年 2単位「フランス語 I」と「フランス語 II」を合わせて履修すること ※平成 19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「言葉は光だった」。世界は言葉の光に照らされることではじめてわれわれ人間の前に立ち現れる。言葉の光によってわれわれは日々世界の創造に参画しているといってもよい。人間にとっての世界は言葉とともに存在しているから。この言葉を鍛錬すると、理性には整然とした秩序が生まれ、感情には繊細な感受性が深い陰影を落とすようになる。また「知は力なり」という。その人間の知恵と知識は言葉なくしてはありえない。よって、命ある言葉を、言葉の妙なる働きを、言葉の無上の大切さを知らねばならない。これを外国語習得の目標として立てる。

2. 教育・学習の個別課題

「明晰でないものはフランス語ではない」。フランス語は明快な言語である。文の構造である文法が幾何学のように整然としている。おそらく、フランス語ほど学びやすい外国語はないに違いない。「なによりも音楽を」。フランスの詩人たちは幾世代にもわたり、自国の詩を可能な限り音楽に近づけたいと苦心した。フランス語は、その音声が音楽のように滑らかで美しい言語である。この明晰さと音楽性を実感していただきたい。

3. 教育・学習の方法

教材は、すべて私自身が作成する。市販の語学テキストは使用しない。テキストはその都度前もってプリント配布する。学習したことがらが十分に「血と肉」となって身につくように復習テストが毎回行われる。これはまた、各自が学習した内容の理解度を確認するためのものでもある。したがって、答案用紙は添削されて次週に返却される。こうして年間を通して講義の再確認と復習がたえず行われるので、学期末の定期試験は実施しない。毎週フランス語に注いだ情熱と努力が君の成績となる。

・準備学習の具体的な方法

学習した授業内容をしっかりとノートに書きとめ、それを理解して次回の復習テストに備えておく。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業態度(20%)、ノート作成(30%)、毎週の確認テスト(50%)の総合評価によるものとする。欠席・遅刻は減点対象となります。欠席回数が3分の1を超過した場合、原則として単位は与えません。

5. 授業予定

- 第1回 アルファベと綴字記号 発音記号
 第2回 名詞の性数と不定冠詞 音節と発音 挨拶
 第3回 指示代名詞 ce 疑問文と否定文 疑問代名詞 que
 第4回 主語人称代名詞 定冠詞 前置詞 疑問副詞 ou
 第5回 形容詞の性数一致 疑問副詞 comment
 第6回 動詞 être 国名と国籍
 第7回 動詞 avoir 否定冠詞 de 疑問副詞 combien 数(1-10)
 第8回 所有形容詞(1)指示形容詞 人称代名詞強勢形 数(11-20)

- 第9回 所有形容詞(2)疑問代名詞 qui 数(21-60)
- 第10回 動詞 aller 時間表現 数(61-100)
- 第11回 動詞 venir 年齢表現 部分冠詞
- 第12回 動詞 faire 職業・身分 挨拶(2)
- 第13回 第一規則動詞(-er 動詞) 疑問形容詞
- 第14回 第二規則動詞(-ir 動詞) ilya 構文
- 第15回 非人称構文 天気表現 avoir 成句

6. 留意事項

講義コード	10123501		
科目名	フランス語Ⅱ A		
担当者	Andre Andjey		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『Mini de Concert』 朝日出版		
参考文献			
備考	「フランス語Ⅰ」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。		
科目読替	フランス語(初級)通年 2単位「フランス語Ⅰ」と「フランス語Ⅱ」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

初めて学ぶフランス語をととして、国際社会への視野を広げ異文化に対する理解と尊敬を深めることを主たる目標とする。そのために、ただ言語としてのフランス語を学ぶだけでなく、フランスの歴史、社会、文化、さらにはヨーロッパ社会全体についても感心をもつことを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

フランス語は日本語と完全に異なった言語であるということを経験的に知る必要がある。また英語との共通点や相違点を十分に学ぶこと。

「語学に王道なし」といわれる。辞書を引く手間を惜しまないこと。

語学の習得の妨げとなる完全主義や羞恥心から解放されること。

フランス語に対する関心を持続させること。

3. 教育・学習の方法

主としてテキストに従って少しずつ知識を増やしてゆくが、折に触れてAV教材なども使用する。また文章や詩などの暗記学習も効果的に利用する予定である。

・準備学習の具体的な方法

毎回授業の後で、学習したテキストを読み(大きな声で朗読する)、文法事項を暗記してください。

4. 評価方法・評価基準

定期試験(65%) 授業態度(25%) 授業参加度(10%)

5. 授業予定

- 第1回 動詞 prendre・飲み物・カフェ
- 第2回 レストランにて・数字90~100
- 第3回 何故?何故なら〜・動詞 faire
- 第4回 命令形・数字100以上
- 第5回 指示形容詞・il ya・・・場所
- 第6回 街の様子・会話
- 第7回 所有形容詞
- 第8回 家の中で・家族
- 第9回 方向をたずねる・乗り物に乗る
- 第10回 複合過去形1・会話
- 第11回 複合過去形2・会話
- 第12回 時間・動詞 partir・mettre
- 第13回 部分冠詞・食事のレシピ
- 第14回 天気・天気予報
- 第15回 全世界の国・旅行・文化遺産

6. 留意事項

講義コード	10123502		
科目名	フランス語Ⅱ B		
担当者	崔 達用		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	「フランス語Ⅰ」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。		
科目読替	フランス語(初級)通年 2単位「フランス語Ⅰ」と「フランス語Ⅱ」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10123503		
科目名	フランス語Ⅱ C		
担当者	崔 達用		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	「フランス語Ⅰ」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。		
科目読替	フランス語(初級)通年 2単位「フランス語Ⅰ」と「フランス語Ⅱ」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

「言葉は光だった」。世界は言葉の光に照らされることがはじめてわれわれ人間の前にたち現れる。言葉の光によってわれわれは日々世界の創造に参画しているといってもよい。人間にとっての世界は言葉とともに存在しているから。この言葉を鍛錬すると、理性には整然とした秩序が生まれ、感情には繊細な感受性が深い陰影を落とすようになる。また「知は力なり」という。その人間の知恵と知識は言葉なくてはありえない。よって、命ある言葉を、言葉の妙なる働きを、言葉の無上の大切さを知らねばならない。これを外国語習得の目標として立てる。

2. 教育・学習の個別課題

「明晰でないものはフランス語ではない」。フランス語は明快な言語である。文の構造である文法が幾何学のように整然としている。おそらく、フランス語ほど学びやすい外国語はないに違いない。「なによりも音楽を」。フランスの詩人たちは幾世代にもわたり、自国の詩を可能な限り音楽に近づけたいと苦心した。フランス語は、その音声が音楽のように滑らかで美しい言語である。この明晰さと音楽性を実感していただきたい。

3. 教育・学習の方法

教材は、すべて私自身が作成する。市販の語学テキストは使用しない。テキストはその都度前もってプリント配布する。学習したことがらが十分に「血と肉」となって身につくように復習テストが毎回行われる。これはまた、各自が学習した内容の理解度を確認するためのものでもある。したがって、答案用紙は添削されて次週に返却される。こうして年間を通して講義の再確認と復習がたえず行われるので、学期末の定期試験は実施しない。毎週フランス語に注いだ情熱と労力が君の成績となる。

・準備学習の具体的な方法

学習した授業内容をしっかりノートに書きとめ、それを理解して次の復習テストに備えておく。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業態度(20%)、ノート作成(30%)、毎週の確認テスト(50%)の総合評価によるものとする。欠席・遅刻は減点対象となります。欠席回数数が3分の1を超過した場合、原則として単位は与えません。

5. 授業予定

- 第1回 前期学習内容の総復習
- 第2回 人称代名詞直接目的補語 動詞 connaitre
- 第3回 人称代名詞間接目的補語 動詞 ecrire
- 第4回 比較級 指示代名詞 命令形(1) 動詞 pouvoir と vouloir.
- 第5回 最上級 関係代名詞 qui と que 動詞 prendre と partir.
- 第6回 疑問代名詞 前置詞+疑問代名詞 動詞 attendre

- 第7回 代名動詞 se promener 命令形(2) 疑問副詞 pourquoi
- 第8回 代名動詞再帰的用法 関係代名詞 ou
- 第9回 代名動詞相互的用法 関係代名詞 dont
- 第10回 代名動詞受身的用法 近接未来と近接過去
- 第11回 代名動詞本質的用法 単純未来
- 第12回 複合過去(avoir+pp.) 中性代名詞 y 詩《une chanson》を読む
- 第13回 複合過去(etre+pp.) 中性代名詞 en
- 第14回 大過去と前未来
- 第15回 詩《Pour Toi Mon Amour》を読む

6. 留意事項

講義コード	10123601			
科目名	フランス語Ⅲ 仏語中級			
担当者	野田 四郎			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『De Concert 1』 大阪日仏センター 朝日出版 2005			
参考文献				
備考	「フランス語 II」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。			
科目読替	フランス語(中級) 通年 2 単位 「フランス語 III」と「フランス語 IV」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

フランス語 III (中級) を受講する者は、すでにフランス語 II (初級) を終えている場合、もしくは初級修了と同じ程度のフランス語学力を有することを前提としている。勿論、「言語はまずコミュニケーションの手段として存在する」という基本的考えは、その学習対象の難易度いかにかわらず通用する命題である。そこで、初級の基礎学習より一歩踏み込んで、自らの考え・意見をフランス語で表現する力、更に生のフランス語を聞き取り、理解する能力、即ちコミュニケーションを行う能力を育むことを目指す。また、同時に、一つのジャンルにとらわれることなく、多種多様な分野から随時適切な文献を選択し、読解能力を培い、文法上の知識、作文能力なども強化することを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. フランス語を能動的に使えるように、発音訓練も含めて、会話能力をつける。
2. ある程度長い文章を採り上げながら、フランス語の文章構造を分析すると同時に、初級より多少高度な文法を学ぶ。
3. 自分の意見をフランス語で述べるができるように、ある程度長い文章を作成する。
4. フランス人が普通にしゃべっている言葉を耳で聞いて理解する聴解能力をつける。
5. 各課の最初にある会話を、クラスの全員が二人一組となり、「ロールプレイ」形式で練習することで、正しい発音とイントネーションを学ぶ。

3. 教育・学習の方法

視聴覚教材をできるだけ活用して、フランス語を能動的に使う訓練を行う。動詞活用表と仏和辞典は各自、必ず購入すること。

・準備学習の具体的な方法

- ① 週1回のクラスでは、外国語の習得に限界があるので、必ず自宅で予習・復習をすること。
- ② フランス語の発声方法を教えるので、自宅で発声訓練を行うこと。
- ③ 使用するテキストに含まれる練習問題は、授業に出席する前に、必ず準備を終えておくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度および学期末試験によって評価する。

5. 授業予定

- 第1回 人物の説明 (1): 窓口にて
- 第2回 人物の説明 (1): 窓口にて; 数字
- 第3回 人物の説明 (2): 視聴者参加型 テレビ・クイズ番組
- 第4回 人物の説明 (2): 職業・国籍・名を尋ねる (基本文法一人称代名詞・主語・動詞・etre)
- 第5回 挨拶と人の紹介: 公共の場所
- 第6回 挨拶と人の紹介: 文法一定冠詞
- 第7回 挨拶と人の紹介: 文法-動詞(行く=aller)
- 第8回 電話をかける: 謝る・許す、数字
- 第9回 電話をかける: 文法-否定文・de+定冠詞

- 第10回 電話をかける: 文法一人称代名詞・自立形・動詞 venir
- 第11回 喫茶店: 注文する、飲み物
- 第12回 喫茶店: 文法-avoir を使う熟語、不定冠詞
- 第13回 喫茶店: 文法-動詞 prendre/avoir
- 第14回 職場: 曜日; 否定の冠詞 de
- 第15回 職場: 命令法、動詞 faire

6. 留意事項

フランス語(中級)の学習は、フランス語 III と IV でセットになっているので、III を履修する者は、IV も履修するようにして下さい。外国語学習には、辞書が不可欠です。小辞典でもかまわないので、仏和辞典を必ず準備すること。電子辞書でも可。

講義コード	10123701			
科目名	フランス語Ⅳ 仏語中級			
担当者	野田 四郎			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『De Concert 1』 大阪日仏センター 朝日出版 2005			
参考文献				
備考	「フランス語 III」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。			
科目読替	フランス語(中級) 通年 2 単位 「フランス語 III」と「フランス語 IV」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

フランス語 IV (中級) を受講する者は、すでにフランス語 II (初級) を終えている場合、もしくは初級修了と同じ程度のフランス語学力を有することを前提としている。勿論、「言語はまずコミュニケーションの手段として存在する」という基本的考えは、その学習対象の難易度いかにかわらず通用する命題である。そこで、初級の基礎学習より一歩踏み込んで、自らの考え・意見をフランス語で表現する力、更に生のフランス語を聞き取り、理解する能力、即ちコミュニケーションを行う能力を育むことを目指す。また、同時に、一つのジャンルにとらわれることなく、多種多様な分野から随時適切な文献を選択し、読解能力を培い、文法上の知識、作文能力なども強化することを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. フランス語を能動的に使えるように、発音訓練も含めて、会話能力をつける。
2. ある程度長い文章を採り上げながら、フランス語の文章構造を分析すると同時に、初級より多少高度な文法を学ぶ。
3. 自分の意見をフランス語で述べるができるように、ある程度長い文章を作成する。
4. フランス人が普通にしゃべっている言葉を耳で聞いて理解する聴解能力をつける。
5. 各課の最初にある会話を、クラス全員が二人一組となり、「ロールプレイ」形式で練習することにより、正しい発音とイントネーションを学ぶ。

3. 教育・学習の方法

視聴覚教材をできるだけ活用して、フランス語を能動的に使う訓練を行う。なお、動詞活用表と仏和辞典は各自、必ず購入すること。

・準備学習の具体的な方法

- ① 週1回のクラスでは、外国語の習得に限界があるので、必ず自宅で予習・復習をすること。
- ② フランス語の発声方法を教えるので、自宅での発声訓練を継続すること。
- ③ 使用するテキストに含まれる練習問題は、授業に出席する前に、必ず準備を終えておくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度および学期末試験によって評価する。

5. 授業予定

- 第1回 場所: 位置関係の表現、街の建物
- 第2回 場所: 文法-指示形容詞
- 第3回 所有の表現: 家・部屋・家族
- 第4回 所有の表現: 文法-所有形容詞
- 第5回 家族: 身の回り品
- 第6回 家族: 文法-命令法の否定形
- 第7回 話しかける・道を尋ねる
- 第8回 地下鉄に乗る・パリ市内を移動する
- 第9回 表現法(時制): 過去・現在

- 第10回 表現法 (時制): 未来・近接未来
 第11回 表現法 (時制): 複合過去 (1)
 第12回 時の表現: 時刻・月・日付
 第13回 時の表現: 文法-疑問文の作り方、時に関する疑問文、動詞 pouvoir
 第14回 複合過去 (2): 動詞 partir
 第15回 複合過去 (2): 動詞 mettre

6. 留意事項

フランス語 (中級) の学習は、フランス語 III と IV でセットになっているので、IV を履修する者は、III も履修するようにして下さい。外国語学習には、辞書が不可欠です。小辞典でもかまわないので、仏和辞典を必ず準備すること。電子辞書でも可。

講義コード	10123801			
科目名	フランス語V 仏語上級			
担当者	野田 四郎			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Initial 1』 S. Poisson-Quinton Cle International 1999 現在、フランスで用いられているものを随時選択し、使用する。従って、受講生には、プリントをテキストとして配布する。			
参考文献				
備考	「フランス語 IV」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。			
科目読替	フランス語 (上級) 通年 2 単位 「フランス語 V」と「フランス語 VI」を合わせて履修すること ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

フランス語 V (上級) を受講する者は、すでにフランス語 IV (中級) を終えている場合、あるいは中級修了と同じ程度のフランス語学力を有することを前提としている。勿論、「言語はまずコミュニケーションの手段として存在する」という基本的考えは、その学習対象の難易度いかにかわらず通用する命題である。そこで、このクラスでは、とりわけ実践的フランス語の運用能力を習得することを目指す。具体的には、生のフランス語を聞き取り、理解する能力を育むと共に、自らの考え・意見を簡単なフランス語で表現することができるレベルを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. フランス人が普通にしゃべっている言葉を聞いて理解する訓練を行う。
2. 自分が欲しい情報を得る、あるいは相手に情報を与える表現の練習。更に、自分が置かれたある状況において反応する、あるいは相手との情報交換をするといった具体的訓練をする。
3. 実際にフランスに行ったとき、日常生活で最低限必要なことを、他人に頼らず自分一人で行えるようになることを目指す。
4. 各課に、フランス人の日常生活を採り上げたスケッチがあるので、クラス全員が二人一組となり、「ロールプレイ」形式で練習することにより、正しい発音とイントネーションを学ぶ。また、実際にフランス語圏へ行った際、役に立つ口語表現を習得する。

3. 教育・学習の方法

視聴覚教材をできるだけ活用して、フランス語を能動的に使う訓練を行う。他方において、印刷された教材については、現在フランスで用いられているものから随時選択し、使用する。

・準備学習の具体的な方法

- ① 週1回のクラスでは、外国語の習得とりわけ上級では限界があるので、必ず自宅で予習・復習をすること。
- ② フランス語の発音及び発声訓練を自宅で続けること。
- ③ フランス語の録音されたテープを日常的に聴いて、フランス語の音色に耳を慣らす訓練を行うこと。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度および学期末試験によって評価する。

5. 授業予定

- 第1回 第1課: 自己紹介 (スケッチ)、ロールプレイと発音練習/会話 (応用編) と関連文法
 第2回 第1課: 応用と練習問題
 第3回 第2課: 「フランス語は話せますか」 (スケッチ)、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話 (応用編) と関連文法

- 第4回 第2課: 応用と練習問題
 第5回 第3課: 「あなたのお名前は」 (スケッチ)、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話 (応用編) と関連文法
 第6回 第3課: 応用と練習問題
 第7回 第4課: 「この人は女優です。何と美しい人でしょう・・・」 (スケッチ)、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話 (応用編) と関連文法
 第8回 第4課: 応用と練習問題
 第9回 1課から4課までの「復習とまとめ」
 第10回 第5課: 「彼女には子供が7人います」 (スケッチ)、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話 (応用編) と関連文法
 第11回 第5課: 応用と練習問題
 第12回 第6課: 「誕生日おめでとう」 (スケッチ)、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話 (応用編) と関連文法
 第13回 第6課: 応用と練習問題
 第14回 第7課: 「それはいくらですか」 (スケッチ)、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話 (応用編) と関連文法
 第15回 第7課: 応用と練習問題

6. 留意事項

フランス語 (上級) の学習は、フランス語 V と VI がセットになっているので、V を履修する者は、VI も履修するようにして下さい。外国語学習には、辞書が不可欠です。仏語辞典 (できれば中辞典)、あるいは電子辞書のどちらかを必ず準備すること。学生一人一人の積極的参加が求められるので、そのつもりで選択してください。

講義コード	10123901			
科目名	フランス語VI 仏語上級			
担当者	野田 四郎			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Initial 1』 Sylvie Poisson-Quinton Cle International 1999 現在、フランスで用いられているものを随時選択し、使用する。			
参考文献				
備考	「フランス語 V」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。			
科目読替	フランス語 (上級) 通年 2 単位 「フランス語 V」と「フランス語 VI」を合わせて履修すること ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

フランス語 VI (上級) を受講する者は、すでにフランス語 IV (中級) を終えている場合、あるいは中級修了と同じ程度のフランス語学力を有することを前提としている。勿論、「言語はまずコミュニケーションの手段として存在する」という基本的考えは、その学習対象の難易度いかにかわらず通用する命題である。そこで、このクラスでは、とりわけ実践的フランス語の運用能力を習得することを目指す。具体的には、生のフランス語を聞き取り、理解する能力を育むと共に、自らの考え・意見を簡単なフランス語で表現することができるレベルを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. フランス人が普通にしゃべっている言葉を聞いて理解する訓練を行う。
2. 自分が欲しい情報を得る、あるいは相手に情報を与える表現の練習。更に、自分が置かれたある状況において反応する、あるいは相手との情報交換をするといった具体的訓練をする。
3. 実際にフランスに行ったとき、日常生活で最低限必要なことを、他人に頼らず自分一人で行えるようになることを目指す。
4. 各課に、フランス人の日常生活を採り上げたスケッチがあるので、クラス全員が二人一組となり、「ロールプレイ」形式で練習することにより、正しい発音とイントネーションを学ぶ。また、実際にフランス語圏へ行った際、役に立つ口語表現を習得する。

3. 教育・学習の方法

視聴覚教材をできるだけ活用して、フランス語を能動的に使う訓練を行う。他方において、印刷された教材については、現在フランスで用いられているものから随時選択し、使用する。

・準備学習の具体的な方法

- ① 週1回のクラスでは、外国語の習得とりわけ上級では限界があるので、必ず自宅で予習・復習をすること。
- ② フランス語の発音及び発声訓練を自宅で続けること。
- ③ フランス語の録音されたテープを日常的に聴

いて、フランス語の音色に耳を慣らす訓練を行うこと。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度および学期末試験によって評価する。

5. 授業予定

- 第1回 第8課：「お勘定おねがいします」（スケッチ）、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話（応用編）と関連文法
 第2回 第8課：応用と練習問題
 第3回 「復習とまとめ」5課～8課
 第4回 第9課：「どこにお出かけですか」（スケッチ）、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話（応用編）と関連文法
 第5回 第9課：応用と練習問題
 第6回 第10課：「レジは、奥の左手にあります」（スケッチ）、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話（応用編）と関連文法
 第7回 第10課：応用と練習問題
 第8回 第11課：「部屋数3つのアパートを探しています」（スケッチ）、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話（応用編）と関連文法
 第9回 第11課：応用と練習問題
 第10回 第12課：「B棟はどこですか」（スケッチ）、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話（応用編）と関連文法
 第11回 第12課：応用と練習問題
 第12回 第13課：「シリアル、出かける用意できた？」（スケッチ）、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話（応用編）と関連文法
 第13回 第13課：応用と練習問題
 第14回 第14課：「人生は：地下鉄・仕事・睡眠!!」（スケッチ）、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話（応用編）と関連文法
 第15回 第14課：応用と練習問題

6. 留意事項

フランス語上級のクラスは、フランス語VとVIでセットになっているので、上級の履修を希望する者は、フランス語Vとフランス語VIを履修するようにしてください。外国語学習には、辞書が不可欠です。仏和辞典（できれば中辞典）、あるいは電子辞書のどちらかを必ず準備すること。学生一人一人の積極的参加が求められるので、そのつもりで選択してください。

講義コード	10124001			
科目名	スペイン語 I A			
担当者	シルビア パリス 木野			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Sencillez』 岡本 信照・ 三木 一郎 三修社			
参考文献				
備考				
科目読替	スペイン語（初級）通年 2単位「スペイン語 I」と「スペイン語 II」を合わせて履修すること ※平成 19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10124002			
科目名	スペイン語 I B			
担当者	シルビア パリス 木野			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Sencillez』 岡本 信照・ 三木 一郎 三修社			
参考文献				
備考				
科目読替	スペイン語（初級）通年 2単位「スペイン語 I」と「スペイン語 II」を合わせて履修すること ※平成 19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

スペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化に親しむ事は、今日の国際化時代に応じるためにも、望ましい事でしょう。他民族のものの考え方、生き方少しでも理解していくことは、大学に於ける語学教育としては非常に大切な事だと思います。人間としての視野を広げ、他の人、他の民族をよりよく理解できる人間となって、彼らとのコミュニケーションを深める事により、自分自身が豊かになると

同時に、社会に何らかの貢献ができる一助となる事を願っています。

2. 教育・学習の個別課題

スペイン人が普通にしゃべっている言葉を聞いて理解する。自分が欲しい情報を得る、あるいは相手との情報交換をするといった具体的な練習をする。

3. 教育・学習の方法

スペイン語の教科書に書かれている重要なポイントをまとめつつ、質問形式で受講者に答えてもらう。考え易いように、ヒントが与えられる。授業では毎回、小テストを実施するので必ず前回授業の復習をしておくこと。CDの聞き取りも必要です。

毎回の授業では、次回授業で取り上げる内容を指示するのでテキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

授業への参加点、小テスト、提出物をまとめて平常点として 50%、期末テストの結果を 50%で計算する。

5. 授業予定

- 第1回 1.アルファベット、母音、子音、音節の区切り方、アクセントの位置、音の連結。
 第2回 2.名詞の性、名詞の数、冠詞、動詞 HAY
 第3回 3.動詞 HAY と場所の副詞、ejercicios.1
 第4回 4.主語人称代名詞、動詞 Ser と Estar
 第5回 5.形容詞 1、Ejercicios 2.
 第6回 6.形容詞 2、所在、状態の表現
 第7回 7.動詞 Tener の活用と用法
 第8回 8.否定文、疑問文、Ejercicios 3
 第9回 9.動詞直説法現在の規則変化
 第10回 10.一人称単数のみ不規則になる動詞
 第11回 11.その他の-IR 型不規則動詞
 第12回 12.等位接続詞、Ejercicios 4.
 第13回 13.指示形容詞と指示代名詞、所有形容詞、前置詞 A と DE の用法、Ejercicios 5
 第14回 14.不規則動詞 IR と VENIR の活用と用法、語幹母音変化動詞、接続詞 Ejercicios 6
 第15回 15.目的格人称代名詞、前置詞格人称代名詞、Gustar 動詞、Ejercicios 7

6. 留意事項

講義コード	10124101			
科目名	スペイン語ⅡA			
担当者	シルビア・パリオス 木野			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Sencillez』 岡本 信照・ 三木 一郎 三修社			
参考文献				
備考	「スペイン語Ⅰ」履修済み又はそれと同程度のスペイン語学力を有すること。			
科目読替	スペイン語(初級)通年 2単位「スペイン語Ⅰ」と「スペイン語Ⅱ」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10124102			
科目名	スペイン語ⅡB			
担当者	シルビア・パリオス 木野			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Sencillez』 岡本 信照・ 三木 一郎 三修社			
参考文献				
備考	「スペイン語Ⅰ」履修済み又はそれと同程度のスペイン語学力を有すること。			
科目読替	スペイン語(初級)通年 2単位「スペイン語Ⅰ」と「スペイン語Ⅱ」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

スペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化に親しむ事は、今日の国際化時代に応じるためにも、望ましい事でしょう。他民族のものの考え方、生き方少しでも理解していくことは、大学に於ける語学教育としては非常に大切な事であると思います。人間としての視野を広げ、他の人、他の民族をよりよく理解できる人間となつて、彼らとのコミュニケーションを深める事により、自分自身が豊かになると同時に、社会に何らかの貢献ができる一助となる事を願っています。

2. 教育・学習の個別課題

スペイン人が普通にしゃべっている言葉を聞いて理解する。自分が欲しい情報を得る、あるいは相手との情報交換をするといった具体的な練習をする。

3. 教育・学習の方法

スペイン語の教科書に書かれている重要なポイントをまとめつつ、質問形式で受講者に答えてもらう。考え易いように、ヒントが与えられる。

授業では毎回、小テストを実施するので必ず前回授業の復習をしておくこと。CDの聞き取りも必要です。

毎回の授業では、次回授業で取り上げる内容を指示するのでテキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

授業への参加点、小テスト、提出物をまとめて平常点として50%、期末テストの結果を50%で計算する。

5. 授業予定

- 第1回 1.直説法点過去(完了過去)
- 第2回 2.直説法点過去(完了過去)の不規則変化
- 第3回 3.中性定冠詞のLo、Ejercicios 8.
- 第4回 4.直説法線過去(不完了過去)の活用と用法 Ejercicios 9
- 第5回 5.無主語文、副詞mente、不定語と否定語
- 第6回 6.再帰動詞の用法、Ejercicios10
- 第7回 7.無人称文、関係詞que Ejercicios11
- 第8回 8.現在分詞の語形と用法
- 第9回 9.過去分詞の語形と用法
- 第10回 10.直接法現在完了の活用と用法 Ejercicios 12
- 第11回 11.受動態
- 第12回 12.直説法未来の活用と用法、比較表現 Ejercicios 13
- 第13回 13.感嘆文、Ejercicios14

- 第14回 14.接続法現在の活用、名詞節における接続法、願望文
- 第15回 15.肯定命令、否定命令、Ejercicios15

6. 留意事項

講義コード	10124201			
科目名	スペイン語Ⅲ			
担当者	シルビア・パリオス 木野			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『El español y yo. (スペイン語とわたし)』 Concha Moreno, Juan Carlos Moyano, Josefa Vivancos, Yoshimi Hiroyasu 朝日出版社			
参考文献				
備考	「スペイン語Ⅱ」履修済み又はスペイン語検定4級程度の理解力を有すること。			
科目読替	スペイン語(中級)通年 2単位「スペイン語Ⅲ」と「スペイン語Ⅳ」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

スペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化に親しむ事は、今日の国際化時代に応じるためにも、望ましい事でしょう。他民族のものの考え方、生き方少しでも理解していくことは、大学に於ける語学教育としては非常に大切な事であると思います。人間としての視野を広げ、他の人、他の民族をよりよく理解できる人間となつて、彼らとのコミュニケーションを深める事により、自分自身が豊かになると同時に、社会に何らかの貢献ができる一助となる事を願っています。

2. 教育・学習の個別課題

スペイン人が普通にしゃべっている言葉を聞いて理解する。自分が欲しい情報を得る、あるいは相手との情報交換をするといった具体的な練習をする。

3. 教育・学習の方法

スペイン語の教科書に書かれている重要なポイントをまとめつつ、質問形式で受講者に答えてもらう。考え易いように、ヒントが与えられる。

授業では毎回、小テストを実施するので必ず前回授業の復習をしておくこと。CDの聞き取りも必要です。

毎回の授業では、次回授業で取り上げる内容を指示するのでテキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

授業への参加点、小テスト、提出物をまとめて平常点として50%、期末テストの結果を50%で計算する。

5. 授業予定

- 第1回 1.すでに知っているスペイン語のこぼれ
- 第2回 2.スポーツと私 Ejercicios 1
- 第3回 3.食べ物と私、動詞と場所の副詞、ejercicios.2
- 第4回 4.スペイン料理の解説、Gustar 動詞の活用と用法
- 第5回 5.旅行と私、季節、Ejercicios 3
- 第6回 6.Querer 動詞の活用と用法、Ejercicios 4
- 第7回 7.動詞 Tener の活用と用法、動詞の過去未来活用
- 第8回 8.否定文、疑問文、感嘆文 Ejercicios 5
- 第9回 9.体調表現、Doler 動詞の活用 Ejercicios.6
- 第10回 10.条件文 Ejercicios7
- 第11回 11.その他の-IR 型不規則動詞
- 第12回 12.等位接続詞、Ejercicios 8
- 第13回 13.前置詞の用法、Ejercicios 9
- 第14回 14.規則動詞未来の活用と用法、接続詞 Ejercicios10
- 第15回 15 音楽と私 Ejercicios10

6. 留意事項

本コースのⅢⅣとは、ⅠⅡコースとは異なり学習者は実際的なコミュニケーションの場にスペイン語が話せる現場を想定している。

それはクラスにおけるディスカッションであったり、指導教員との面接場面であったりするだろう。

講義コード	10124301			
科目名	スペイン語Ⅳ			
担当者	シルビア・パリス 木野			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『E! español y yo. (スペイン語とわたし)』 Concha Moreno, Juan Carlos Moyano, Josefa Vivancos, Yoshimi Hiroyasu 朝日出版社			
参考文献				
備考	「スペイン語Ⅲ」履修済み又はそれと同程度のスペイン語学力を有すること。			
科目読替	スペイン語(中級) 通年 2単位「スペイン語Ⅲ」と「スペイン語Ⅳ」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

スペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化に親しむ事は、今日の国際化時代に応じるためにも、望ましい事でしょう。他民族のものの考え方、生き方少しでも理解していくことは、大学に於ける語学教育としては非常に大切な事であると思います。人間としての視野を広げ、他の人、他の民族をよりよく理解できる人間となつて、彼らとのコミュニケーションを深める事により、自分自身が豊かになると同時に、社会に何らかの貢献ができる一助となる事を願っています。

2. 教育・学習の個別課題

スペイン人が普通にしゃべっている言葉を聞いて理解する。自分が欲しい情報を得る、あるいは相手との情報交換をするといった具体的な練習をする。

3. 教育・学習の方法

スペイン語の教科書に書かれている重要なポイントをまとめつつ、質問形式で受講者に答えてもらう。考え易いように、ヒントが与えられる。授業では毎回、小テストを実施するので必ず前回授業の復習をしておくこと。CDの聞き取りも必要です。

毎回の授業では、次回授業で取り上げる内容を指示するのでテキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

授業への参加点、小テスト、提出物をまとめて平常点として50%、期末テストの結果を50%で計算する。

5. 授業予定

- 第1回 1. 直説法過去(完了過去) Interesar, Dejar, quedar の活用と用法
- 第2回 2. 趣味と仕事、比較活用、Empezar a, Ir a,
- 第3回 3. 中性定冠詞の Lo, Ejercicios11
- 第4回 4. 直説法線過去(不完了過去) 物語 Ejercicios 12
- 第5回 5. 無主語文、副詞、不定語と否定語
- 第6回 6. 映画、演劇、テレビとわたし Ejercicios13
- 第7回 7. 無人称文、関係詞、 Ejercicios14
- 第8回 8. 現在分詞、～ながら、色々な習慣。
- 第9回 9. 過去分詞の語形と用法と受け身、Ejercicios15
- 第10回 10. 直接法過去完了の活用と用法 Ejercicios 16
- 第11回 11. 丁寧表現、買い物に行く Ejercicios 17
- 第12回 12. 直説法未来の活用と用法、古い Ejercicios 18
- 第13回 13. 家族と友達、紹介する Ejercicios19
- 第14回 14. 接続法現在の活用、行事、お祭り等とわたし
- 第15回 15. 否定命令、Deber 動詞の用法 Ejercicios20

6. 留意事項

本コースのⅢⅣとは、ⅠⅡコースとは異なり学習者は実際的なコミュニケーションの場にスペイン語が話せる現場を想定している。

それはクラスにおけるディスカッションであったり、指導教員との面接場面であったりするだろう。

講義コード	10124401			
科目名	朝鮮語ⅠA ハングル・ワールドへの旅立ち			
担当者	高 賛侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『韓国語初級』 李昌圭 白帝社			
参考文献				
備考				
科目読替	朝鮮語(初級) 通年 2単位「朝鮮語Ⅰ」と「朝鮮語ⅠⅠ」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10124402			
科目名	朝鮮語ⅠB ハングル・ワールドへの旅立ち			
担当者	高 賛侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『韓国語初級』 李昌圭 白帝社			
参考文献				
備考				
科目読替	朝鮮語(初級) 通年 2単位「朝鮮語Ⅰ」と「朝鮮語ⅠⅠ」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10124403			
科目名	朝鮮語ⅠC ハングル・ワールドへの旅立ち			
担当者	高 賛侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『韓国語初級』 李昌圭 白帝社			
参考文献				
備考				
科目読替	朝鮮語(初級) 通年 2単位「朝鮮語Ⅰ」と「朝鮮語ⅠⅠ」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

日本と朝鮮半島は隣国であり、長い交流の歴史を共有してきました。とりわけ近年、日本と韓国の政治・経済・文化的交流が急進展する中で、朝鮮語を学ぶ人が急増しています。

ハングル(韓国文字)はわずか19個の子音字と21個の母音字の組み合わせで構成された非常に合理的な文字なので、簡単に学ぶことができます。また朝鮮語は日本語と語順や文法が驚くほど似ているので、最も学びやすい外国語と言えるでしょう。

初級では、ハングルの読み書きをマスターし、初歩的な文法や会話を学ぶことができます。これだけでも手軽な韓国旅行に大変役立ちます。旅行に役立つ情報や豆知識も学んでいきます。ぜひハングル・ワールドへの旅立ちを!

2. 教育・学習の個別課題

1. ハングルの特徴・構成を理解し、読み書きをマスターします。
2. 平仮名のハングル表記法を学び、人名や地名をハングルで書けるようにします。
3. 朝鮮語と日本語の共通点・類似性を理解し、簡単な挨拶、自己紹介、初歩的な文法を学びます。

3. 教育・学習の方法

1. 講義とグループ学習を併用しながら、楽しく効率的に学んでいきます。
2. 随時、テープやビデオも利用します。
3. 進度に応じて小テストを行います。
4. 教材は「韓国語初級」(李昌圭著。白帝社)。

・準備学習の具体的な方法

予習より復習に重点を置いて学習することが大切です。特に宿題は必ず提出して下さい。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加態度(30%)、小テスト(20%)、学期末試験(50%)に基づいて総合的に行います。語学の学習は段階的に進んでいくので、欠席・遅刻は減点対象となります。

5. 授業予定

- 第1回 韓国語について。ハングル学習開始
- 第2回 基本母音・子音
- 第3回 激音・濃音
- 第4回 合成母音
- 第5回 合成母音
- 第6回 パッチム。人名・地名をハングルで書く
- 第7回 連音。ハングルの全てをマスター
- 第8回 会話学習開始。私は学生です。
- 第9回 私は学生です。
- 第10回 あの方はだれですか。
- 第11回 あの方はだれですか。
- 第12回 これは何ですか。
- 第13回 これは何ですか。
- 第14回 小テスト・復習
- 第15回 復習・会話練習

6. 留意事項

ハングルの習得する段階では、階段を1段ずつ昇るように着実に学んでいくので、決して休講や遅刻をしないこと。

講義コード	10124501			
科目名	朝鮮語ⅡA ハングル・ワールドへの旅立ち			
担当者	高 賛侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	「朝鮮語Ⅰ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替	朝鮮語(初級)通年 2単位「朝鮮語Ⅰ」と「朝鮮語Ⅱ」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10124502			
科目名	朝鮮語ⅡB ハングル・ワールドへの旅立ち			
担当者	高 賛侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	「朝鮮語Ⅰ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替	朝鮮語(初級)通年 2単位「朝鮮語Ⅰ」と「朝鮮語Ⅱ」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

日本と朝鮮半島は隣国であり、長い交流の歴史を共有してきました。とりわけ近年、日本と韓国の政治・経済・文化的交流が急進展する中で、朝鮮語を学ぶ人が急増しています。

ハングル(韓国文字)はわずか19個の子音字と21個の母音字の組み合わせで構成された非常に合理的な文字なので、簡単に学ぶことができます。また朝鮮語は日本語と語順や文法が驚くほど似ているので、最も学びやすい外国語と言えるでしょう。

初級では、ハングルの読み書きをマスターし、初歩的な文法や会話を学ぶことができます。これだけでも手軽な韓国旅行に大変役立ちます。また旅行に役立つ情報や豆知識も学んでいきます。ぜひハングル・ワールドへの旅立ちを!

2. 教育・学習の個別課題

1. ハングルの特徴・構成を理解し、読み書きをマスターします。
2. 平仮名のハングル表記法を学び、人名や地名をハングルで書けるようにします。
3. 朝鮮語と日本語の共通点・類似性を理解し、簡単な挨拶、自己紹介、初歩的な文法を学びます。

3. 教育・学習の方法

1. 講義とグループ学習を併用しながら、楽しく効率的に学んでいきます。
2. 随時、テープやビデオも利用します。
3. 進度に応じて小テストを行います。
4. 教材は「韓国語初級」(李昌圭著。白帝社)。

・準備学習の具体的な方法

予習より復習に重点を置いて学習することが大切です。特に宿題は必ず提出して下さい。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加態度(30%)、小テスト(20%)、学期末試験(50%)に基づいて総合的に行います。語学の学習は段階的に進んでいくので、欠席・遅刻は減点対象となります。

5. 授業予定

- 第1回 ここはどこですか。
- 第2回 ここはどこですか。
- 第3回 ここはどこですか。
- 第4回 ここはどこですか。
- 第5回 今日は何をしますか。
- 第6回 今日は何をしますか。
- 第7回 今日は何をしますか。
- 第8回 今日は何をしますか。
- 第9回 土曜日には何をなさいますか。
- 第10回 土曜日には何をなさいますか。
- 第11回 土曜日には何をなさいますか。
- 第12回 土曜日には何をなさいますか。
- 第13回 土曜日には何をなさいましたか。
- 第14回 小テスト・復習
- 第15回 復習・会話練習

6. 留意事項

講義コード	10124601			
科目名	朝鮮語Ⅲ アンニョンハセヨ! 人と文化との出逢い			
担当者	高 賛侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『韓国語初級』 李昌圭 白帝社			
参考文献				
備考	「朝鮮語Ⅰ・Ⅱ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替	朝鮮語(中級)通年 2単位「朝鮮語Ⅲ」と「朝鮮語Ⅳ」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「朝鮮語ⅠⅡ」履修済み、もしくは同じ程度の学力を有する学生を対象とします。

初級で学んだことをより発展させ、基本的な文法を修得することができます。聞き取り、テープの聴取、発音の反復練習などを通じて、日常会話に必要な読解、会話、作文の能力が向上します。きっと、いつの間にか、旅行会話力や情報誌の読解力が身についた自分に驚くときが来ることでしょう。

またサッカーW杯日韓共催や韓流によって一層身近になった韓国に対する理解を深めるため、伝統的な民族文化や最近の映画、音楽などに関する情報も一緒に学んでいきましょう。

2. 教育・学習の個別課題

1. 初級で学んだ内容を復習し確実にマスターします。
2. 日常会話に必要な文法を学びます。
3. やや高度な文章の翻訳を行い、対話の練習をします。

3. 教育・学習の方法

1. 講義とグループ学習を併用しながら、学生同士で対話の練習をします。
2. 随時、テープやビデオも利用します。
3. 進度に応じて小テストを行います。
4. 日常会話に必要な文章を韓国語から日本語に、日本語から韓国語に訳し、口で言えるようにします。
5. 教材は、「韓国語初級」(李昌圭著。白帝社)を使用。

・準備学習の具体的な方法

復習に重点を置きつつ、各課の練習問題を解いて下さい。特に宿題は必ず提出して下さい。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加態度(30%)、小テスト(20%)、学期末試験(50%)に基づいて総合的に行います。欠席・遅刻は減点対象となります。

5. 授業予定

- 第1回 今日は何月何日ですか。
- 第2回 今日は何月何日ですか。
- 第3回 今日は何月何日ですか。
- 第4回 何時に起きますか。
- 第5回 何時に起きますか。
- 第6回 何時に起きますか。
- 第7回 どこに行かれますか。
- 第8回 どこに行かれますか。
- 第9回 どこに行かれますか。
- 第10回 昨日は私の誕生日でした。
- 第11回 昨日は私の誕生日でした。
- 第12回 昨日は私の誕生日でした。
- 第13回 復習
- 第14回 小テスト・復習
- 第15回 復習・会話練習

6. 留意事項

講義コード	10124701			
科目名	朝鮮語Ⅳ アンニョンハセヨ! 人と文化との出逢い			
担当者	高 賛 侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『韓国語中級』 李昌圭 白帝社			
参考文献				
備考	「朝鮮語Ⅲ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替	朝鮮語(中級)通年 2単位「朝鮮語Ⅲ」と「朝鮮語Ⅳ」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「朝鮮語ⅢⅢ」履修済み、もしくは同じ程度の学力を有する学生を対象とします。

IからⅢで学んだことをより発展させ、基本的な文法を修得することができます。聞き取り、テープの聴取、発音の反復練習などを通じて、日常会話に必要な読解、会話、作文の能力が向上します。きっと、いつの間にか、旅行会話力や情報誌の読解力が身についてきた自分に驚くときが来ることでしょう。

またサッカーW杯日韓共催や韓流によって一層身近になった韓国に対する理解を深めるため、伝統的な民族文化や最近の映画、音楽などに関する情報と一緒に学んでいきましょう。

2. 教育・学習の個別課題

1. 「朝鮮語ⅠⅡⅢ」で学んだ内容を復習し確実にマスターします。
2. 日常会話に必要な文法を学びます。
3. より高度な文章の翻訳を行い、対話の練習をします。

3. 教育・学習の方法

1. 講義とグループ学習を併用しながら、学生同士で対話の練習をします。
2. 随時、テープやビデオも利用します。
3. 進度に応じて小テストを行います。
4. 日常会話に必要な文章を朝鮮語から日本語に、日本語から朝鮮語に訳し、口で言えるようにします。

し、口で言えるようにします。

5. 教材は、「韓国語中級」(李昌圭著。白帝社)を使用。

・準備学習の具体的な方法

復習に重点を置きつつ、各課の練習問題を解いて下さい。特に宿題は必ず提出して下さい。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加態度(30%)、小テスト(20%)、学期末試験(50%)に基づいて総合的に行います。欠席・遅刻は減点対象となります。

5. 授業予定

- 第1回 サッカーをお好きですか。
- 第2回 サッカーをお好きですか。
- 第3回 サッカーをお好きですか。
- 第4回 明日は何をなさいますか。
- 第5回 明日は何をなさいますか。
- 第6回 明日は何をなさいますか。
- 第7回 郵便局に行く。
- 第8回 郵便局に行く。
- 第9回 郵便局に行く。
- 第10回 郵便局に行く。
- 第11回 喫茶店にて。
- 第12回 喫茶店にて。
- 第13回 喫茶店にて。
- 第14回 小テスト。復習
- 第15回 復習・会話練習

6. 留意事項

講義コード	10124801			
科目名	朝鮮語Ⅴ 人と文化を結ぶ橋			
担当者	高 賛 侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『韓国語中級』 李昌圭 白帝社			
参考文献				
備考	「朝鮮語Ⅳ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替	朝鮮語(上級)通年 2単位「朝鮮語Ⅴ」と「朝鮮語Ⅵ」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「朝鮮語ⅢⅣ」履修済み、もしくは同じ程度の学力を有する学生を対象とします。

さらに高度な目標に向かって、重要な文法をすべてマスターすることができます。韓国旅行に行けば、自分の力でコースを選んだり、ショッピングを楽しんだりできるほどの会話力が身につきます。辞書さえあれば、新聞、雑誌が読める読解力を持ち、ハンズ版のネットサーフィンを楽しみ、日記やメールを書けるようになります。

また日本と朝鮮半島の歴史や文化交流についても学びながら、両国間の橋渡し役としての役割などについても語り合ってみましょう。

2. 教育・学習の個別課題

1. 高度な文章の翻訳
2. 実践的な会話の反復練習
3. 自分の意志を朝鮮語で書き、話す能力の向上

3. 教育・学習の方法

1. 講義とグループ学習を併用しながら、高度な会話力の向上に重点を置きます。
2. 毎回、一人ずつ朝鮮語によるスピーチを行います。
3. 進度に応じて小テストを行います。
4. 教材は、「韓国語中級」(李昌圭著。白帝社)。

・準備学習の具体的な方法

復習に重点を置きつつ、各課の練習問題を解いて下さい。特に宿題は必ず提出して下さい。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加態度(30%)、小テスト(20%)、学期末試験(50%)に基づいて総合的に行います。欠席・遅刻は減点対象となります。

5. 授業予定

- 第1回 韓食堂にて。
- 第2回 韓食堂にて。

- 第3回 韓食堂にて。
- 第4回 道を尋ねる。
- 第5回 道を尋ねる。
- 第6回 道を尋ねる。
- 第7回 地下鉄駅にて。
- 第8回 地下鉄駅にて。
- 第9回 地下鉄駅にて。
- 第10回 タクシーに乗る。
- 第11回 タクシーに乗る。
- 第12回 タクシーに乗る。
- 第13回 復習・会話練習
- 第14回 小テスト・会話練習
- 第15回 復習・会話練習

- 第14回 小テスト・会話練習
- 第15回 復習・会話練習

6. 留意事項

6. 留意事項

講義コード	10124901			
科目名	朝鮮語VI 人と文化を結ぶ橋			
担当者	高 賛侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『韓国語中級』 李昌圭 白帝社			
参考文献				
備考	「朝鮮語 V」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替	朝鮮語(上級) 通年 2単位 「朝鮮語 V」と「朝鮮語 VI」を合わせて履修すること ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「朝鮮語 IV V」を履修済み、もしくは同じ程度の学力を有する学生を対象とします。

さらに高度な目標に向かって、重要な文法をすべてマスターすることができます。韓国旅行に行けば、自分の力でコースを選んだり、ショッピングを楽しんだりできるほどの会話力が身につきます。辞書さえあれば、新聞、雑誌が読める読解力を持ち、ハンダ版のネットサーフィンを楽しみ、日記やメールを書けるようになります。また日本と朝鮮半島の歴史や文化交流についても学びながら、両国間の橋渡し役としての役割などについても語り合ってみましょう。

2. 教育・学習の個別課題

1. 高度な文章の翻訳
2. 実践的な会話の反復練習
3. 自分の意志を朝鮮語で書き、話す能力の向上

3. 教育・学習の方法

1. 講義とグループ学習を併用しながら、高度な会話力の向上に重点を置きます。

2. 毎回、一人ずつ朝鮮語によるスピーチを行います。
3. 進度に応じて小テストを行います。
4. 教材は、「韓国語中級」(李昌圭著。白帝社)。

・準備学習の具体的な方法

復習に重点を置きつつ、各課の練習問題を解いて下さい。特に宿題は必ず提出して下さい。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加態度(30%)、小テスト(20%)、学期末試験(50%)に基づいて総合的に行います。欠席・遅刻は減点対象となります。

5. 授業予定

- 第1回 約束する。
- 第2回 約束する。
- 第3回 約束する。
- 第4回 天気。
- 第5回 天気。
- 第6回 天気。
- 第7回 電話をかける。
- 第8回 電話をかける。
- 第9回 電話をかける。
- 第10回 ショッピング。
- 第11回 ショッピング。
- 第12回 ショッピング。
- 第13回 復習・会話練習

講義コード	10125001			
科目名	中国語 I A			
担当者	朱 鳳			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語 1』 朱捷 朱鳳 白帝社 2009 年			
参考文献	『漢語学習詞典』 相原 茂 朝日出版社			
備考				
科目読替	中国語(初級) 通年 2単位 「中国語 I」と「中国語 II」を合わせて履修すること ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10125002			
科目名	中国語 I B			
担当者	柴 礼敏			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語 1』 朱捷 朱鳳 白帝社 2009 年			
参考文献	『漢語学習詞典』 相原 茂 朝日出版社			
備考				
科目読替	中国語(初級) 通年 2単位 「中国語 I」と「中国語 II」を合わせて履修すること ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10125003			
科目名	中国語 I C			
担当者	王 嵐			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語 1』 朱捷 朱鳳 白帝社 2009 年			
参考文献	『漢語学習詞典』 相原 茂 朝日出版社			
備考				
科目読替	中国語(初級) 通年 2単位 「中国語 I」と「中国語 II」を合わせて履修すること ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10125004			
科目名	中国語 I D			
担当者	柴 礼敏			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語 1』 朱捷 朱鳳 白帝社 2009年			
参考文献備考	『漢語学習詞典』 相原 茂 朝日出版社			
科目読替	中国語（初級）通年 2単位「中国語 I」と「中国語 II」を合わせて履修すること ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10125101			
科目名	中国語 II A			
担当者	朱 鳳			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語 1』 朱捷 朱鳳 白帝社 2009			
参考文献備考	『漢語学習詞典』 相原 茂 朝日出版社			
備考	「中国語 I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替	中国語（初級）通年 2単位「中国語 I」と「中国語 II」を合わせて履修すること ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

中国語と日本語は共通の文字（漢字）と語彙を持っているが、その一方で、文法や発音などは随分違う。本授業では中国語の簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことが本授業の目標である。また中国語会話の学習を通じて、中国の文化にも触れてほしい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 基本的な発音と声調をマスターする。
2. 簡単な日常会話をいくつか身につける。
3. 現代中国事情もある程度学習する。

3. 教育・学習の方法

1. テープを聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

・準備学習の具体的な方法

本教科書では、課ごとに学生に宿題を用意している。繰り返し宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席及び授業態度（30点）、試験（70点）により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 使用する教科書の第1課から第6課まで授業する予定。
中国語についての紹介
- 第2回 声調
- 第3回 単母音と複合母音音
- 第4回 子音
- 第5回 名前の言い方
- 第6回 疑問詞疑問文
- 第7回 判断文“是”
- 第8回 動詞述語文
- 第9回 数詞の使い方
- 第10回 形容詞述語文
- 第11回 曜日、時の言い方
- 第12回 時刻の言い方
- 第13回 比較の言い方
- 第14回 量詞について
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10125102			
科目名	中国語 II B			
担当者	柴 礼敏			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語 1』 朱捷 朱鳳 白帝社 2009			
参考文献備考	『漢語学習詞典』 相原 茂 朝日出版社			
備考	「中国語 I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替	中国語（初級）通年 2単位「中国語 I」と「中国語 II」を合わせて履修すること ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10125103			
科目名	中国語 II C			
担当者	王 嵐			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語 1』 朱捷 朱鳳 白帝社 2009			
参考文献備考	『漢語学習詞典』 相原 茂 朝日出版社			
備考	「中国語 I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替	中国語（初級）通年 2単位「中国語 I」と「中国語 II」を合わせて履修すること ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10125104			
科目名	中国語ⅡD			
担当者	柴 礼敏			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語1』 朱捷 朱鳳 白帝社 2009			
参考文献	『漢語学習詞典』 相原 茂 朝日出版社			
備考	「中国語Ⅰ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替	中国語（初級）通年 2単位「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

中国語と日本語は共通の文字（漢字）と語彙を持っているが、その一方で、文法や発音などは随分違う。本授業では中国語の簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。中国語Ⅱでは、中国語Ⅰに引き続き、基礎的な中国語文法と会話を中心に授業を進む。時には中国に関する最新映像を上映し、中国文化に触れることもある。

2. 教育・学習の個別課題

1. 基本的な文法をマスターする。
2. 簡単な日常会話をいくつか身につける。
3. 中国現代事情もある程度学習する。

3. 教育・学習の方法

1. テープを聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

・準備学習の具体的な方法

本教科書には課ごとに宿題を用意している。繰り返し宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席及び授業態度（30点）、試験（70点）により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 前期学んだ中国語の復習
- 第2回 程度・度合いを指す指示詞
- 第3回 連動文
- 第4回 願望表現
- 第5回 選択疑問文
- 第6回 完了形
- 第7回 進行形
- 第8回 経験相
- 第9回 誘いや相手の意見を求める表現
- 第10回 動詞の重ね用法
- 第11回 前置詞の「在」
- 第12回 修飾語としての疑問詞
- 第13回 趣味、嗜好の言い方
- 第14回 時間の量の表現
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10125201			
科目名	中国語Ⅲ			
担当者	朱 鳳			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語2』 朱捷 朱鳳 白帝社 2010年			
参考文献	『漢語学習詞典』 相原 茂 朝日出版社			
備考	「中国語Ⅱ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替	中国語（中級）通年 2単位「中国語Ⅲ」と「中国語Ⅳ」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

本講義はすでに一年間中国語を学習した学生を対象とするものである。前に勉強した中国語知識を生かし、より高度な中国語を身につけることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 発音と文法の復習。
2. 日常会話をさらにグレードアップする。
3. 中国語検定準4級合格を目指す。

3. 教育・学習の方法

1. テープを使い、聞き取り練習をする。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

・準備学習の具体的な方法

授業ごとに学生に宿題を用意している。繰り返し宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席及び授業態度（30点）、試験（70点）により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 使用する教科書の第1課から第6課まで授業する予定。
初級中国語の復習
- 第2回 ささまざまな前置詞
- 第3回 将来の完了
- 第4回 願望表現
- 第5回 比較の表現
- 第6回 結果補語
- 第7回 伝聞の言い方
- 第8回 方向補語
- 第9回 存現文
- 第10回 受動の表現
- 第11回 間接目的語
- 第12回 処置文「把」の使い方
- 第13回 変化を表す「了」
- 第14回 推量の表現
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10125301			
科目名	中国語Ⅳ			
担当者	朱 鳳			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語2』 朱捷 朱鳳 白帝社 2010年			
参考文献	『漢語学習詞典』 相原 茂 朝日出版社			
備考	「中国語 III」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替	中国語(中級) 通年 2単位 「中国語 III」と「中国語 IV」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

本講義はすでに一年中国語を学習した学生を対象とするもの。前に勉強した中国語知識を生かし、より高度な中国語を身につけることを目標とする。また授業において、中国語検定試験4級の受験支援も行いたい。

2. 教育・学習の個別課題

- 1.発音と文法の復習。
- 2.日常会話をさらにグレードアップする。
- 3.中国語検定準4級合格を目指す。

3. 教育・学習の方法

- 1.テープを使い、聞き取り練習をする。
- 2.日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
- 3.ビデオによる映像資料を多用する。

・準備学習の具体的な方法

授業ごとに学生に宿題を用意している。繰り返し宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席及び授業態度(30点)、試験(70点)により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

第1回 使用する教科書の第9課から第15課まで授業する予定。
前期の復習

- 第2回 願望表現
- 第3回 主述述語文
- 第4回 目的を表す「為了」
- 第5回 様態補語
- 第6回 程度補語
- 第7回 許可、可能の表現
- 第8回 仮定文
- 第9回 方向補語
- 第10回 変化を表す「了」
- 第11回 未来完了を表す「了」
- 第12回 同一疑問詞による呼応表現
- 第13回 理由、原因の言い方
- 第14回 間接目的語
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10125401			
科目名	日本語講読ⅠA			
担当者	稲垣 顕子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』『トピックによる日本語総合演習 上級用資料集 第4版』『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』『シャドーイング 日本語を話そう・中～上級編』『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』			
備考	必修 外国人留学生履修科目(留学生以外は履修できない) クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10125402			
科目名	日本語講読ⅠB			
担当者	稲垣 顕子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』『トピックによる日本語総合演習 上級用資料集 第4版』『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』『シャドーイング 日本語を話そう・中～上級編』『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』			
備考	必修 外国人留学生履修科目(留学生以外は履修できない) クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

日本語を母語としない外国人留学生が日本の大学で学び、卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を身につけます。

2. 教育・学習の個別課題

1. 多様な文章を読み解く読解力の強化
2. 現代日本と世界を取り巻く社会事情を理解するための語彙および表現の習得
3. 日本語の自然な発話の習得
4. 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化

3. 教育・学習の方法

1. 多様な新聞・雑誌・専門書・グラフ等を教材として読んでいきます。学生にはその都度資料(教材)を配布します。また、学生各自が情報収集し、それについて発表・意見交換します。テーマは主に生命倫理・「ことば」に見るジェンダーなど。2. 毎回シャドーイング練習を行います。3. 授業進度に合わせて適宜小テストを行います。

・準備学習の具体的な方法

学生は毎回配付資料の事前予習および授業への積極的参加が求められます。また、適宜各自の興味に沿っての情報収集(新聞・インターネットなど)を課します。

4. 評価方法・評価基準

出席・授業参加度(40%)、提出課題(10%)、小テスト(20%)、到達度確認テスト(30%)に基づいて総合的にを行います。遅刻3回で欠席1回とします。出席が授業回数の3分の2に満たない者には単位を認定しません。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション、自己紹介
- 第2回 シャドーイング練習①『シャドーイング 日本語を話そう・中～上級編』p.24、聴解
- 第3回 シャドーイング練習②同 p.26、文章読解①(遣伝子組み換え)
- 第4回 シャドーイング練習③同 p.28、文章読解②(生命倫理)
- 第5回 キーワードネット検索・発表
- 第6回 シャドーイング練習④同 p.30、文章読解③(出生前診断)
- 第7回 シャドーイング練習⑤同 p.32、文章読解④(遣伝子診断)

- 第8回 シャドーイング練習⑥同 p.46、ディスカッション〈生命倫理〉
 第9回 シャドーイング練習⑦同 p.48、文章読解⑤〈ジェンダーとは?〉
 第10回 シャドーイング練習⑧同 p.50、文章読解⑥〈ことばに焼きつけられているもの〉
 第11回 シャドーイング練習⑨同 p.52、文章読解⑦〈子育て女性の就労希望〉
 第12回 シャドーイング練習⑩同 p.66、文章読解⑧〈草食系男子〉
 第13回 シャドーイング練習⑪同 p.68、ディスカッション〈ジェンダー〉
 第14回 到達度確認テスト
 第15回 到達度確認テスト解答とフィードバック

6. 留意事項

講義コード	10125501			
科目名	日本語講読Ⅱ A			
担当者	稲垣 顕子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』『シャドーイング 日本語で話そう・中～上級編』『トピックによる日本語総合演習 上級用資料集 第4版』			
備考	必修 外国人留学生履修科目(留学生以外は履修できない) クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10125502			
科目名	日本語講読Ⅱ B			
担当者	稲垣 顕子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』『シャドーイング 日本語で話そう・中～上級編』『トピックによる日本語総合演習 上級用資料集 第4版』			
備考	必修 外国人留学生履修科目(留学生以外は履修できない) クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

日本語を母語としない外国人留学生が日本の大学で学び、卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を身につけます。

2. 教育・学習の個別課題

1. 多様な文章を読み解く読解力の強化 2. 現代日本と世界を取り巻く社会事情を理解するための語彙および表現の習得 3. 日本語の自然な発話の習得 4. 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化

3. 教育・学習の方法

1. 多様な新聞・雑誌・専門書・グラフ等を教材として読んでいきます。学生にはその都度資料(教材)を配布します。また、学生各自が興味のあるものを情報収集し、それについて発表・意見交換します。テーマは主に環境問題、他 2. 毎回シャドーイング練習を行います。 3. 授業進度に合わせて適宜小テストを行います。

・準備学習の具体的な方法

学生は毎回配付資料の事前予習および授業への積極的参加が求められます。また、適宜各自の興味に沿っての情報収集(新聞・インターネットなど)を課します。

4. 評価方法・評価基準

出席・授業参加度(30%)、課題発表・(20%)、小テスト(20%)、到達度確認テスト(30%)に基づいて総合的に行います。遅刻3回で欠席1回とします。出席が授業回数の3分の2に満たない者には単位を認定しません。

5. 授業予定

- 第1回 シャドーイング練習①『シャドーイング 日本語で話そう・中～上級編』p.70、文章読解①(地球温暖化)
 第2回 シャドーイング練習②同 p.72、文章読解②(大気汚染)
 第3回 シャドーイング練習③同 p.74、発表・意見交換①(オゾン層の破壊)
 第4回 シャドーイング練習④同 p.76、文章読解③(廃棄物の増加)
 第5回 シャドーイング練習⑤同 p.84、文章読解④(環境破壊)
 第6回 シャドーイング練習⑥同 p.86、発表・意見交換②(森林の減少)
 第7回 シャドーイング練習⑦同 p.88、文章読解⑤(環境商品の選択)
 第8回 シャドーイング練習⑧同 p.90、文章読解⑥(気候変動締約国会議)
 第9回 シャドーイング練習⑨同 p.102、発表・意見交換④(江戸のリサイクル社会)
 第10回 シャドーイング練習⑩同 p.104 発表・意見交換③(リサイクル)
 第11回 シャドーイング練習⑪同 p.106 文章読解⑦(イヤと言う勇氣)
 第12回 シャドーイング練習⑫同 p.108 文章読解⑧(いじめを防ぐ加害者と向き合おう)
 第13回 シャドーイング練習⑬同 p.110 発表・意見交換⑤(豊かな生活とは?)
 第14回 到達度確認テスト
 第15回 到達度確認テスト解答とフィードバック

6. 留意事項

講義コード	10125601			
科目名	日本語表現Ⅰ A			
担当者	高岸 雅子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	別途指示			
参考文献	『大学生と留学生のための論文ワークブック』 浜田 麻里他著 くろしお出版 『カデミック・プレゼンテーション入門』 三浦香苗 他著 ひつじ書房 『日本語口頭発表と討論の技術 ～コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために～』 東海大学留学生センター口頭発表教材研究会 東海大学出版会 『小論文への12のステップ』 友松悦子著 スリーエーネットワーク 『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』 石黒圭・筒井千絵著 スリーエーネットワーク 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他著、ひつじ書房)			
備考	必修 外国人留学生履修科目(留学生以外は履修できない) クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

日本語を母語としない留学生が、日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て分析し、そこから自分の考えを適切な日本語の表現で文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養います。

2. 教育・学習の個別課題

1. 現代の日本を取り巻く様々な社会事情を理解するための時事用語および表現型の習得
 2. 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化
 3. 提示用資料を使用した効果的なプレゼンテーションの方法の習得

3. 教育・学習の方法

まず、小論文やレポートを作成するための知識や方法などを学びます。そして日本の社会問題を扱った読み物を教材に精読や速読を行なうこと

によって、高いレベルでの長文読解力を身につけます。それらの教材から得た情報に基づきレポートを作成し、口頭発表を行います。さらに質問紙調査用紙を作成し、実際に質問紙調査を行ないます。こうしたクラス活動を進めていく中で、学生たちは、発表用レポート、発表のための提示用資料、質問紙調査計画書、調査票などを、その都度設定された提出期限までに仕上げることが求められます。

・準備学習の具体的な方法

授業では、自分の感じたことや思いを述べる「感想文」ではなく、客観的な根拠を提示しながら読み手を論理的に説得する「論述文」を書くことが求められます。そのため『小論文への12のステップ』『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』などのテキストの問題に取り組みながら論文の書き方の基礎から学習し、『大学生と留学生のための論文ワークブック』の「序論、本論、結びの役割と書き方」の章を参考にしながら論文形式のレポートを書きます。また効果的な口頭発表を行なうために、『アカデミック・プレゼンテーション入門』の「スライドの作り方」の章を参考に提示用資料を作成し、さらに発表内容の構成や順序を工夫する、口頭発表の練習をする、などの準備をします。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業態度 30%、1回目の口頭発表 10%、2回目の口頭発表 20%、論文形式のレポート作成 20%、プロジェクトワーク（質問紙調査計画書、調査票作成）20%に基づいて総合的にを行います。遅刻は3回で欠席1回とします。出席が授業回数の3分の2に満たない者には単位を認定しません。

5. 授業予定

- 第1回 口頭発表の仕方を学ぶ。『外国人留学生研究発表小論文集』（2006-2012）に掲載されている先輩留学生の調査報告書を読み、第一回口頭発表のテーマを決める。
- 第2回 論文の「序論・本論・結論」という構成を学ぶ。
- 第3回 第一回口頭発表で全員が発表する。そこで、各自が選んだ「先輩留学生が書いた調査報告書」を紹介する。
- 第4回 日本や他の国々の社会問題について書かれた論説文や新聞記事を読み、第二回口頭発表のテーマを決める。
- 第5回 選んだテーマに関連した先行研究や調査報告書をさらに収集し、それらの資料に基づき「報告書」の構想を練る。
- 第6回 報告書を作成する（1）（「序論」を書く）。
- 第7回 報告書を作成する（2）（「本論」「結論」を書く）。
- 第8回 報告書を作成する（3）（「引用の仕方」を学び、報告書の最後に「参考・引用文献」を書く。発表用資料（おもにパワーポイント）を作成する）。
- 第9回 第二回口頭発表で「関心のあるテーマについての報告」を行う（1）。クラスメートの発表を批評する。
- 第10回 第二回口頭発表で「関心のあるテーマについての報告」を行う（2）。クラスメートの発表を批評する。口頭発表のフィードバックをする。
- 第11回 「質問紙調査票」の作り方を学ぶ。質問紙調査の実施方法、対象者、調査目的を考えて「質問紙調査計画書」を書く。
- 第12回 質問紙調査計画書をもとに、質問紙調査票を作成する。
- 第13回 ピア・ラーニングを行う（1）（ペアで、お互いの質問紙調査票に回答し合い、不備な点を指摘し合い、質問紙調査票を訂正する）。
- 第14回 ピア・ラーニングを行う（2）（ペアで、訂正した調査票を再び検討し合い、質問紙調査票を完成させる）。
- 第15回 質問紙調査票の最終チェックを行う。質問紙調査実施時に注意する点を確認する。

6. 留意事項

講義コード	10125602			
科目名	日本語表現 I B			
担当者	稲垣 顕子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『大学で学ぶための 日本語ライティング』 佐々木 瑞枝・細井和代・藤尾喜代子 The Japan Times 2006			
参考文献	『大学生と留学生のための論文ワークブック』 浜田 麻里他 くろしお出版 『カデミック・プレゼンテーション入門』 三浦香苗 他 ひつじ書房 『日本語口頭発表と討論の技術 ～コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために～』 東海大学留学生センター口頭発表教材研究会 東海大学出版会 『小論文への12のステップ』 友松悦子 スリーエーネットワーク 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』 大島弥生他 ひつじ書房 ・『改訂版 トピックによる日本語総合演習 上級』安藤 節子他著 スリーエーネットワーク ・『トピックによる日本語総合演習 上級用資料集 第4版』佐々木 薫他編 スリーエーネットワーク ・『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』石黒圭・筒井千絵著 スリーエーネットワーク			
備考	必修 外国人留学生履修科目（留学生以外は履修できない） クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

日本語を母語としない留学生が、日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て理解・分析し、そこから自分の考えを適切な日本語の表現で文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養います。

2. 教育・学習の個別課題

1. 現代の日本を取り巻く様々な社会事情を理解するための時事用語および表現型の習得
2. 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化
3. 提示用資料を使用した効果的なプレゼンテーションの方法の習得

3. 教育・学習の方法

1. 使用テキスト『大学で学ぶための 日本語ライティング』を第7課まで学習することにより、様々な文章を書く基本を習得します。
2. 『改訂版 トピックによる日本語総合演習 上級』の各トピックのグラフについて、グループあるいは個人で口頭発表を行い、意見交換をします。

・準備学習の具体的な方法

学生は、毎回当該課から課題が与えられ、次回学習課の予習を求められます。また、グラフ口頭発表においては、担当分の準備と意見交換への積極的参加が求められます。テキストの各課課題は指示された期限に提出しなければなりません。

4. 評価方法・評価基準

出席・授業への参加度（40%）、提出課題（20%）、口頭発表（20%）、到達度確認テスト（20%）に基づいて総合的に評価します。遅刻は3回で欠席1回とします。出席が授業回数の3分の2に満たない者には単位を認定しません。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション、自己紹介、第1課 簡潔に回答する
- 第2回 グラフ発表についての表現・語彙、発表グループと担当グラフを決める
- 第3回 グラフ口頭発表①（食文化）、意見交換
- 第4回 第2課 情報を文章にする
- 第5回 グラフ口頭発表②（仕事）、意見交換
- 第6回 第3課 状況を説明し、意見を述べる
- 第7回 グラフ口頭発表③（生活習慣と宗教）、意見交換
- 第8回 第4課 段落を作る
- 第9回 グラフ口頭発表④（ジェンダー）、意見交換
- 第10回 第5課 体験したことを報告する分を書く
- 第11回 第6課 テーマに沿った意見文を書く

- 第12回 第7課 自分をアピールする分を書く
 第13回 提出課題の個人指導
 第14回 到達度確認テスト
 第15回 到達度確認テストの解答とフィードバック

6. 留意事項

講義コード	10125701			
科目名	日本語表現ⅡA			
担当者	高岸 雅子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	別途指示			
参考文献	『大学生と留学生のための論文ワークブック』 浜田麻里他著 くろしお出版 『アカデミック・プレゼンテーション入門』 三浦香苗他著 ひつじ書房 『日本語口頭発表と討論の技術 ～コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために～』 東海大学留学生センター口頭発表教材研究会編 東海大学出版会 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』 大島弥生他著 ひつじ書房 『小論文への12のステップ』 友松悦子著 スリーエーネットワーク 『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』 (石黒圭・筒井千絵著、スリーエーネットワーク)			
備考	必修 外国人留学生履修科目 (留学生以外は履修できない) クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

日本語を母語としない留学生が、日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て分析し、そこから自分の考えを適切な日本語の表現で発表し、文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養います。

2. 教育・学習の個別課題

- 現代の日本を取り巻く様々な社会事情を理解するための時事用語および表現文型の習得
- 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化
- 提示用資料を使用した効果的なプレゼンテーションの方法の習得
- 論理的で説得力のある主張の仕方、相手の話を理解し分析する聞き方、相手の意見の矛盾を発見しそれを的確に指摘する方法などの習得

3. 教育・学習の方法

夏期休暇中に収集した質問紙調査の結果などをもとに、調査の途中経過報告書、調査報告書を作成し、その都度設定された期限までに提出することが求められます。また作成した調査報告書をもとに発表原稿、発表資料、提示用資料を準備し、『調査発表会』において口頭発表を行います。ディベート形式の討論の場においては、決められたルールに従って積極的に討論に参加することが求められます。

・準備学習の具体的な方法

「口頭発表」に向けて、まず『大学生と留学生のための論文ワークブック』の『序論、本論、結びの役割と書き方』の章を参考にしながら「調査報告書」を書きます。また効果的な口頭発表を行なうために、『アカデミック・プレゼンテーション入門』の「スライドの作り方」の章を参考に提示用資料を作成し、さらに発表内容の構成や順序を工夫する、口頭発表の練習をする、などの準備をします。そして「ディベート形式の討論」に向けて、『日本語口頭発表と討論の技術～コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために～』の「討論」の章を読んで討論の方法とルールを学びます。そしてテーマに関連した資料を探しそれをもとに自己の主張をまとめ基調演説を考え、さらに相手の基調演説や反論を予測し、その解答を考えるなどの準備をします。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業態度30%、調査報告書作成30%、口頭発表25%、ディベート形式の討論15%に基づいて総合的に行います。遅刻は3回で欠席1回とします。出席が授業回数の3分の2に満たない者には単位を認定しません。

5. 授業予定

第1回 「質問紙調査の進み具合」の中間報告をする。質問紙調査に

よって得られたデータをもとに、「調査報告書」の全体の流れを考え、「構成表」を作成する。

- 第2回 ピア・ラーニングを行う(1)(ペアで、お互いが作った構成表を検討し合い、構成表を訂正する)。
 第3回 ピア・ラーニングを行う(2)(構成表の訂正版を再度ペアで検討し合い、全体の流れを決める)。
 第4回 調査報告書を作成する(1)〔序論〕を書く。
 第5回 調査報告書を作成する(2)〔本論〕を書く。
 第6回 調査報告書を作成する(3)〔結論〕を書く。
 第7回 調査報告書を作成する(4)(配布用資料(レジュメ)を作成する)。質疑応答の表現を学ぶ。
 第8回 調査報告書を作成する(5)(発表用資料(おもにパワーポイント)を作成する)。
 第9回 第三回口頭発表の練習を行う(1)。クラスメートの発表を批評する。
 第10回 第三回口頭発表の練習を行う(2)。クラスメートの発表を批評する。口頭発表のフィードバックをする。
 第11回 学内で開催予定の『外国人留学生研究発表会』において第三回口頭発表を行う。
 第12回 『外国人留学生研究発表会』における第三回口頭発表のフィードバックをする。
 ディベート形式の討論について学ぶ。13回目授業のディベートのテーマを「身近な問題」から選び、役割を決める。
 第13回 ディベート形式の討論の練習を行う。14回目授業のディベートのテーマを「価値論題(ある考えが良いか悪いかなど価値に関する論題を議論する)」から選び、役割を決める。
 第14回 ディベート形式の討論を行う(1)。15回目授業のディベートのテーマを「政策論題(政府が打ち出したある政策に賛成か反対かを議論する)」から選び、役割を決める。
 第15回 ディベート形式の討論を行う(2)。反省とまとめ。

6. 留意事項

講義コード	10125702			
科目名	日本語表現ⅡB			
担当者	稲垣 顕子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『大学で学ぶための日本語ライティング』 佐々木瑞枝・細井和代・藤尾喜代子 The Japan Times 2006 『大学生と留学生のための論文ワークブック』 浜田麻里他著 くろしお出版 『アカデミック・プレゼンテーション入門』 三浦香苗他著 ひつじ書房 『日本語口頭発表と討論の技術～コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために～』 東海大学留学生センター口頭発表教材研究会編 東海大学出版会 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』 大島弥生他著 ひつじ書房 『小論文への12のステップ』 友松悦子著 スリーエーネットワーク ・『改訂版 トピックによる日本語総合演習 上級』安藤節子他著 スリーエーネットワーク ・『トピックによる日本語総合演習 上級資料集 第4版』佐々木薫他編 スリーエーネットワーク ・『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』石黒圭・筒井千絵著 スリーエーネットワーク ・『上級レベル ロールプレイで学ぶビジネス日本語』村野節子他著 スリーエーネットワーク			
備考	必修 外国人留学生履修科目 (留学生以外は履修できない) クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

日本語を母語としない留学生が、日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て理解・分析し、そこから自分の考えを適切な日本語の表現を

って文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養います。

2. 教育・学習の個別課題

1. 現代の日本を取り巻く様々な社会事情を理解するための時事用語および表現文型の習得
2. 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化
3. 提示用資料を使用した効果的なプレゼンテーションの方法の習得
4. 論理的で説得力のある主張の仕方、相手の話を理解し分析する聞き方、相手の意見の矛盾を発見しそれを的確に指摘する方法などの習得

3. 教育・学習の方法

1. 前期に続いて使用テキスト『大学で学ぶための日本語ライティング』を最終課まで学習し、各課の課題レポートを書いていきます。
2. 最終的にまとめたレポートについて各自口頭で発表します。
3. ディベート式討論について学び（プリント配布）、テーマを決めて実際に練習します。

・準備学習の具体的な方法

学生は、毎回当該課から課題が与えられ、次回学習課の予習を求められます。また、適宜課されるレポート作成は指示された期限内に提出しなければなりません。仕上げたレポートについての分かりやすい口頭発表が求められます。

ディベートでは、各テーマについて各自の担当分について調べ、自分の考えを口頭で論理的に表現することが求められます。

4. 評価方法・評価基準

出席・授業への参加度（30%）、提出課題（25%）、口頭発表（15%）、ディベート（25%）、自己評価（5%）に基づいて総合的に評価します。遅刻は3回で欠席1回とします。出席が授業回数の3分の2に満たない者には単位を認定しません。

5. 授業予定

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | レポートを書くための基礎知識 |
| 第2回 | 第8課 順序立てて、レポートを書く |
| 第3回 | 第8課 課題レポート作成 |
| 第4回 | 第8課 各自の書いたレポートについて口頭発表、意見交換 |
| 第5回 | 第9課 引用してレポートを書く、引用の仕方 |
| 第6回 | 第9課 課題レポート作成 |
| 第7回 | 第9課 各自の書いたレポートについて口頭発表、意見交換 |
| 第8回 | 第10課 資料を利用して、レポートを書く |
| 第9回 | 第10課 課題レポート作成 |
| 第10回 | 第10課 各自の書いたレポートについて口頭発表、意見交換 |
| 第11回 | ディベートについて |
| 第12回 | ディベート練習 |
| 第13回 | ディベート① |
| 第14回 | ディベート②（①とは違うテーマ） |
| 第15回 | 今年度の振り返り、自己評価 |

6. 留意事項

講義コード	10125801
科目名	日本語特講 I A
担当者	田中 貴子
単位数	1 配当学年 2
資格	
前提科目	
テキスト	『インタビュープロジェクト（日本人の価値観発見）』くろしお出版
参考文献	『留学生のためのここが大切文章表現のルール』 『日本への招待』 『留学生のための時代を読み解く上級日本語』 『新完全マスター日本語能力試験語彙 N1』スリーエーネットワーク 『改訂版トピックによる日本語総合演習』スリーエーネットワーク
備考	必修 外国人留学生履修科目（留学生以外は履修できない）クラス指定
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓

1. 科目の教育目標

現在の日本の文化や社会問題について、資料を読むことにより認識を深める。インタビューや発表、ディスカッションなどの自主的な学習活動を通してコミュニケーション能力を高める。日本語の多様な表現の理解と運用能力を身につける。

2. 教育・学習の個別課題

1. 講義だけでなく自主的に学習する方法を学ぶ。 2. 各テーマに沿った

資料、グラフ、文献などを読む力をつける。 3. インタビューやディスカッションなどを通じて適切な話し方を学び、コミュニケーション能力を養う。 4. 発表やレポートによって、自分の考えをまとめて伝える技能を学ぶ。 5. 日本人の価値観を認識し、相互理解を深める。 6. 宿題プリントにより、複雑な日本語の表現を身につける。

3. 教育・学習の方法

講義：各テーマについて様々な資料を読み、学生の知識の確認および動機づけを行う。 次週：学生の発表およびディスカッション、次週にレポート提出 言語知識（語彙・文法など）の宿題プリント提出（2週目からは：学生発表・ディスカッションの後、次週のテーマについて講義）

・準備学習の具体的な方法

学生は順番に、各テーマにそって、調査・発表準備をする。次週、レポートおよび宿題プリントを提出。次週のテーマについて、テキストを読んでおく事が求められる。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率、授業参加度（30点）、発表、レポート（50点）、提出課題（20%）により総合的に行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- | | |
|------|--------|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 若者の価値観 |
| 第3回 | 街（今と昔） |
| 第4回 | 災害対策 |
| 第5回 | 男女の役割 |
| 第6回 | 食生活 |
| 第7回 | 教育相談 |
| 第8回 | 環境問題 |
| 第9回 | 民話・昔話 |
| 第10回 | 冠婚葬祭 |
| 第11回 | 季節感 |
| 第12回 | 人権 |
| 第13回 | 仕事の意識 |
| 第14回 | 豊かさ |
| 第15回 | まとめ |

6. 留意事項

講義コード	10125802
科目名	日本語特講 I B
担当者	日比 伊奈穂
単位数	1 配当学年 2
資格	
前提科目	
テキスト	
参考文献	
備考	必修 外国人留学生履修科目（留学生以外は履修できない）クラス指定
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 共生・協働する力 コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

話す・聞く・読む・書くの4技能を駆使し、総合的な日本語力を養うことを目標とする。特に、プレゼンテーションや論文のための基本技能を身につける。

2. 教育・学習の個別課題

- ・様々な話題の文章を読んで理解する、また、話を聞いて理解する。
- ・わかりやすく的確に説明し、説得力をもって意見が言えるようにする。

3. 教育・学習の方法

- ・社会、文化に関するものを中心に様々な文章を読み、語彙を増やす。
- ・様々なテーマのTV番組を見て内容を理解し、文章にまとめる。
- ・読解教材、視聴教材をもとに、討論を行う。

・準備学習の具体的な方法

日頃から様々な話題に関心を持つこと。

4. 評価方法・評価基準

平常点（出席率、授業参加度、等）：40%、課題・試験：60%

5. 授業予定

- | | |
|-----|-----------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 日本の文化（1） |
| 第3回 | 日本の文化（2） |
| 第4回 | 日本の文化（3） |
| 第5回 | 日本の文化（4） |
| 第6回 | 日本の文化（5） |

- 第7回 日本の社会 (1)
- 第8回 日本の社会 (2)
- 第9回 日本の社会 (3)
- 第10回 日本の社会 (4)
- 第11回 比較文化 (1)
- 第12回 比較文化 (2)
- 第13回 比較文化 (3)
- 第14回 比較文化 (4)
- 第15回 総括

6. 留意事項

講義コード	10125901			
科目名	日本語特講Ⅱ A			
担当者	田中 貴子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	適宜プリントを配布する			
参考文献	『上級学習者のための日本語読解ワークブック』アルク 『中上級学習者のための日本語読解ワークブック』アルク 『留学生のための現代日本語読解』 Jリサーチ 『新完全マスター日本語能力試験語彙 N1』 スリーエーネットワーク 『超級表現+使える名句』 ユニコム 現代の小説、新書、新聞記事など 落語、テレビ番組など			
備考	必修 外国人留学生履修科目 (留学生以外は履修できない) クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

さまざまな分野の文章読解やニュース番組視聴を通して、現代社会の諸問題を知る。それを基にクラスでディスカッションをしながら、自分の意見をまとめ、わかりやすく相手に伝える演習をする。また論理的に文章にまとめることで書く力も養う。洗練された多様な日本語表現を身につける。

2. 教育・学習の個別課題

- ・幅広い分野の教材を通じて現代日本社会の理解を深める
- ・多様な語彙や表現などの言語知識を身につける
- ・わかりやすく論理的であり、かつ場にふさわしい話す力を身につける
- ・論理的で正確な文章を書く力を身につける

3. 教育・学習の方法

- ・さまざまな分野の資料を読む
- ・ビデオによる映像資料等も用いる
- ・ディスカッションを行う
- ・考えを文章にまとめる
- ・語彙や表現の確認をする

・準備学習の具体的な方法

事前に配布資料を読んでおくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席率・授業参加度 (30%)、課題 (40%)、試験 (30%) の総合評価とする。出席回数が3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 読解1、ディスカッション、作文
- 第3回 読解2、ディスカッション、作文
- 第4回 読解3、ディスカッション、作文
- 第5回 ビデオ視聴1、ディスカッション、作文
- 第6回 読解4、ディスカッション、作文
- 第7回 読解5、ディスカッション、作文
- 第8回 読解6、ディスカッション、作文
- 第9回 ビデオ視聴2、ディスカッション、作文
- 第10回 読解7、ディスカッション、作文
- 第11回 読解8、ディスカッション、作文
- 第12回 読解9、ディスカッション、作文
- 第13回 ビデオ視聴3、ディスカッション、作文
- 第14回 読解10、ディスカッション、作文
- 第15回 フィードバック、表現確認、今までの復習

6. 留意事項

講義コード	10125902			
科目名	日本語特講Ⅱ B			
担当者	日比 伊奈穂			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	授業時に適宜指示する。			
備考	必修 外国人留学生履修科目 (留学生以外は履修できない) クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

話す・聞く・読む・書くの4技能を駆使し、総合的な日本語力を養うことを目標とする。

- ・日本語で調査・発表ができる。
- ・自ら調査した内容を考察を加えて文章にまとめることができる。

2. 教育・学習の個別課題

- ・テーマに沿って資料収集をする。
- ・資料を読んで理解する。
- ・内容をわかりやすくまとめ、発表する。
- ・資料を分析、考察し、レポートとしてまとめる。

3. 教育・学習の方法

グループ、または個人の発表を中心に授業を進める。

・準備学習の具体的な方法

日頃から様々な話題に関心を持つこと。

4. 評価方法・評価基準

平常点 (出席率、授業参加度、等) : 40%、課題・発表 : 60%

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「発表」「論文」とは
- 第3回 発表の方法 (1)
- 第4回 発表の方法 (2)
- 第5回 発表の方法 (3)
- 第6回 第1回発表 (1)
- 第7回 第1回発表 (2)
- 第8回 第1回発表 (3)
- 第9回 レポート・論文の書き方 (1)
- 第10回 レポート・論文の書き方 (2)
- 第11回 レポート・論文の書き方 (3)
- 第12回 第2回発表 (1)
- 第13回 第2回発表 (2)
- 第14回 第2回発表 (3)
- 第15回 総括

6. 留意事項

講義コード	10126001			
科目名	中国語Ⅴ			
担当者	朱 鳳			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『中国語検定対策3級・4級 文法編』 郭 春貴 白帝社 『中国語検定対策3級・4級 リスニング編 改訂版 CD付』 郭 春貴 白帝社			
参考文献				
備考	「中国語Ⅳ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること ※平成22年度以後入学者に適用			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

この授業は一年後の中国語検定4級あるいは3級を受けることを目標にする。

2. 教育・学習の個別課題

中国語での「聞く、話す、書く」能力を強化する。中国語検定4級と3級に必要な単語を覚え、文章の読解力をヒアリング能力を向上させる。

3. 教育・学習の方法

中国語検定4級あるいは3級のレベルを目指して、過去の問題集や受験用の問題集を繰り返す練習する。

・準備学習の具体的な方法

授業ごとに学生に宿題を用意している。繰り返し宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また小テストも実施する予定。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席及び授業態度（30点）、試験（70点）により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 中国検定4級の単語 (1)
- 第2回 中国検定4級の文法 (1)
- 第3回 中国検定4級のリスニング (1)
- 第4回 中国検定4級の漢字 (1)
- 第5回 中国検定4級の記事 (1)
- 第6回 中国検定4級の会話 (1)
- 第7回 模擬テスト (1)
- 第8回 中国検定4級の単語 (2)
- 第9回 中国検定4級の文法 (2)
- 第10回 中国検定4級のリスニング (2)
- 第11回 中国検定4級の漢字 (2)
- 第12回 中国検定4級の記事 (2)
- 第13回 中国検定4級の会話 (2)
- 第14回 模擬テスト (2)
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10126101			
科目名	中国語VI 中国語検定対策授業			
担当者	朱 鳳			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『中国語検定対策3級・4級 リスニング編 改訂版 CD付』 郭 春貴 白帝社 『中国語検定対策3級・4級 文法編』 郭 春貴 白帝社			
参考文献				
備考	「中国語 V」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること ※平成22年度以後入学者に適用			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

この授業は中国語Vを受けた学生、あるいは同レベルに達した学生を対象にし、一年後の中国語検定4級あるいは3級を受けることを目標にする。

2. 教育・学習の個別課題

中国語Vに引き続き、中国語での「聞く、話す、書く」能力を強化する。中国語検定4級と3級に必要な単語を覚え、文章の読解力をヒアリング能力を向上させる。

3. 教育・学習の方法

中国語検定4級あるいは3級のレベルを目指して、過去の問題集や受験用の問題集を繰り返す練習する。

・準備学習の具体的な方法

授業ごとに学生に宿題を用意している。繰り返し宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また小テストも実施する予定。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席及び授業態度（30点）、試験（70点）により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 中国検定3級の単語 (1)
- 第2回 中国検定3級の文法 (1)
- 第3回 中国検定3級のリスニング (1)
- 第4回 中国検定3級の漢字 (1)
- 第5回 中国検定3級の記事 (1)

- 第6回 中国検定3級の会話 (2)
- 第7回 模擬テスト
- 第8回 中国検定3級の単語 (2)
- 第9回 中国検定3級の文法 (2)
- 第10回 中国検定3級のリスニング (2)
- 第11回 中国検定3級の漢字 (2)
- 第12回 中国検定3級の記事 (2)
- 第13回 中国検定3級の会話 (2)
- 第14回 模擬テスト (2)
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10151001			
科目名	日本古代中世史A			
担当者	大喜 直彦			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10151002			
科目名	日本古代中世史B			
担当者	大喜 直彦			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

皆さんの中には「歴史嫌い」の人も多いと思います。その原因は暗記中心の中・高校の歴史の授業にあると思います。私たちが進むべき正しい未来を選択するには、正しい現在社会の理解がまず必要です。これには当該の社会がどのように成り立ってきたかという、正しい歴史認識が必要不可欠です。すなわち歴史学は正しい歴史認識＝現在社会の理解のためという、すぐれた現在の学問なのです。本講義は従来歴史学が対象としなかった、日常性を重視した「身近な歴史学」を基本に進め、正しい日本（日本論）の理解に努めたいと思います。

2. 教育・学習の個別課題

1. 中・高校の日本史の授業のように、日本史は「政治過程の概観」（鎌倉幕府と朝廷との対立経緯等）、「政治制度の説明」（徳川将軍が大名を支配する幕藩体制等）、「経済構造の解説」（江戸時代の農業の発展等）、と考える歴史意識や先入観を排除することに重点を置く。

2. 身近なもののすべてに歴史があること＝多様な歴史の存在を認識してもらおう。

3. 多様なものが連続あるいは消滅し、変化しつつ現在に至る点を理解してもらい、社会が不変でなく、未来に向かい変化していることを理解してもらおう。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法

(1) 配布プリントを使用し、講義形式で行う。必要に応じてビデオ等を使用する。

(2) 講義は従来の平安時代の歴史の次に、鎌倉時代が来るという時間経過の授業ではなく、身近な歴史を重視する立場から、5.で提示した5編のテーマにそった授業を行う。

2. テキスト・文献等

テキストは特に使用しない。参考文献等は講義時に適宜紹介する。

・準備学習の具体的な方法

各テーマに関係した著書・論文・メディア情報などより、自分で問題点・疑問点を考えておくこと。

4. 評価方法・評価基準

1. 評価は、確認テストまたはレポート（人数による）で行う。
2. 講義3分の2以上の出席をテスト（レポート）の参加（提出）資格とする。
3. 毎講義時に提出してもらおう当該講義の意見の記述も、必要に応じ評価の参考とする。

5. 授業予定

- 第1回 基礎知識編－身近な日本史について
- 第2回 生活編－広告の歴史（1）広告のはじまり
- 第3回 生活編－広告の歴史（2）中世の広告
- 第4回 生活編－広告の歴史（3）近世・近代の広告
- 第5回 自然編－環境という社会問題（1）環境問題とは
- 第6回 自然編－環境という社会問題（2）中世の自然と人間
- 第7回 自然編－環境という社会問題（3）近世の自然と人間
- 第8回 人間編－史実と伝承～源義経、本当の話と作られた話～（1）義経の古文書と史実
- 第9回 人間編－史実と伝承～源義経、本当の話と作られた話～（2）義経伝説
- 第10回 人間編－史実と伝承～源義経、本当の話と作られた話～（3）江戸時代の義経・近代の伝説
- 第11回 政治編－天皇の歴史～肖像画と身体～（1）天皇の歴史
- 第12回 政治編－天皇の歴史～肖像画と身体～（2）中世～近世の天皇の肖像画
- 第13回 政治編－天皇の歴史～肖像画と身体～（3）天皇の肖像画を読む
- 第14回 社会編－戦国の女性
- 第15回 総まとめと確認テスト

6. 留意事項

講義コード	10151101			
科目名	日本近世近代史A			
担当者	大喜 直彦			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10151102			
科目名	日本近世近代史B			
担当者	大喜 直彦			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

皆さんの中には「歴史嫌い」の人も多いと思います。その原因は暗記中心の中・高校の歴史の授業にあると思います。私たちが進むべき正しい未来を選択するには、正しい現在社会の理解がまず必要です。これには当該の社会がどのように成立してきたかという、正しい歴史認識が必要不可欠です。すなわち歴史学は正しい歴史認識＝現在社会の理解のためという、すぐれて現在の学問なのです。本講義は従来歴史学が対象としなかった、日常性を重視した「身近な歴史学」を基本に進め、正しい日本（日本論）の理解に努めたいと思います。

2. 教育・学習の個別課題

1. 中・高校の日本史の授業のように、日本史は「政治過程の概観」（鎌倉幕府と朝廷との対立経緯等）、「政治制度の説明」（徳川将軍が大名を支配する幕藩体制等）、「経済構造の解説」（江戸時代の農業の発展等）、と考える歴史意識や先入観を排除することに重点を置く。
2. 身近なものすべてに歴史があること＝多様な歴史の存在を認識しても

らう。
3. 多様なものが連続あるいは消滅し、変化しつつ現在に至る点を理解してもらい、社会が不変でなく、未来に向かい変化していることを理解してもらおう。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法

(1) 配布プリントを使用し、講義形式で行う。必要に応じてビデオ等を使用する。

(2) 講義は従来の平安時代の歴史の次に、鎌倉時代が来るという時間経過の授業ではなく、身近な歴史を重視する立場から、5.で提示した5編のテーマにそった授業を行う。

2. テキスト・文献等

テキストは特に使用しない。参考文献等は講義時に適宜紹介する。

・準備学習の具体的な方法

各テーマに関係した著書・論文・メディア情報などより、自分で問題点・疑問点を考えておくこと。

4. 評価方法・評価基準

1. 評価は、確認テストまたはレポート（人数による）で行う。
2. 講義3分の2以上の出席をテスト（レポート）の参加（提出）資格とする。
3. 毎講義時に提出してもらおう当該講義の意見の記述も、必要に応じ評価の参考とする。

5. 授業予定

- 第1回 基礎知識編－日本史の現状と展望
- 第2回 生活編－縁切寺～自由・結婚・離婚・女性～（1）現代の結婚事情
- 第3回 生活編－縁切寺～自由・結婚・離婚・女性～（2）江戸時代の結婚
- 第4回 生活編－縁切寺～自由・結婚・離婚・女性～（3）江戸時代の離婚・縁切寺
- 第5回 生活編－縁切寺～自由・結婚・離婚・女性～（4）江戸時代の自由とは～アジュール～
- 第6回 自然編－人口と三大飢饉（1）人口からみる歴史
- 第7回 自然編－人口と三大飢饉（2）三大飢饉
- 第8回 自然編－人口と三大飢饉（3）災害伝説
- 第9回 社会編－見世物の世界（1）江戸時代の見世物
- 第10回 社会編－見世物の世界（2）近代の見世物
- 第11回 社会編－見世物の世界（3）現代に生きる見世物
- 第12回 社会編－見世物の世界（4）現代見世物を観る
- 第13回 政治編－切腹の心（1）本当にあった切腹
- 第14回 政治編－切腹の心（2）武士の切腹
- 第15回 総まとめと確認テスト

6. 留意事項

講義コード	10151201		
科目名	西洋史A イギリス文化史		
担当者	坂本 優一郎		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[日]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『イギリス文化史入門』 井野瀬久美恵 (編) 昭和堂 1994 『イギリス文化史』 井野瀬久美恵 (編) 昭和堂 2010 『路地裏の大英帝国—イギリス都市生活史—』 角山 榮・川北稔 (編著) 平凡社 1982 『新版世界各国史 11 イギリス史』 川北稔 (編) 山川出版社 1998 『世界各国歴史大系 イギリス史 2—近世—』 今井 宏 (編) 山川出版社 1990 村岡健次・木畑洋一 (編)『世界歴史大系 イギリス史 3—近現代—』(山川出版社、1991年) 村岡健次・川北稔 (編著)『イギリス近代史—宗教改革から現代まで—』(ミネルヴァ書房、1986年) その他の参考文献は、講義中に指示する。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10151202		
科目名	西洋史B イギリス文化史		
担当者	坂本 優一郎		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[日]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『イギリス文化史入門』 井野瀬久美恵 (編) 昭和堂 1994 『イギリス文化史』 井野瀬久美恵 (編) 昭和堂 2010 『路地裏の大英帝国—イギリス都市生活史—』 角山 榮・川北稔 (編著) 平凡社 1982 『新版世界各国史 11 イギリス史』 川北稔 (編) 山川出版社 1998 『世界各国歴史大系 イギリス史 2—近世—』 今井 宏 (編) 山川出版社 1990 村岡健次・木畑洋一 (編)『世界歴史大系 イギリス史 3—近現代—』(山川出版社、1991年) 村岡健次・川北稔 (編著)『イギリス近代史—宗教改革から現代まで—』(ミネルヴァ書房、1986年) その他の参考文献は、講義中に指示する。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

いわゆる「西洋史学」があつかう空間は、ヨーロッパ大陸をはじめとして、近世・近代以降ヨーロッパ人が進出したほとんどすべての地域にわたる。この講義では、とりわけヨーロッパ文明を体現した近代イギリスの歩みに着目し、文明としてのヨーロッパがいかにかに自己を形成し、さらには世界各地の地域と相互交渉をもつにいたったのかについて、歴史的に考察する。そのためには、政治・経済・社会の諸局面についてバランスがとれた理解が必要とされるが、本講義では「文化史」のアプローチを採用したい。ここでいう「文化史」とは、高等学校世界史における「偉大な文化人」が生み出した諸成果（ハイ・カルチャー）ではなく、社会の中で人びとが暗黙のうちに了解していた事項や社会の規範を歴史的に理解することを意味する。そのうえで、社会学や人類学・文学といった歴史学に隣接する諸科学の成果を援用しつつ、近代イギリスの歴史的経験を「文化史」の立場か

ら総合的に理解することを目的とする。講義では、もっぱらイギリスの歴史的な経験がとありあつかわれる。したがって、高等学校の「世界史」のような各国別の歴史が展開されるわけではないことに留意されたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. イギリスの近世から現代に至る基本的な歴史について理解を深める。
2. 歴史学の理論的な側面（政治史・経済史・社会史・文化史）を、近代イギリスの事例に即して理解する。
3. イギリス帝国の歴史的な経験から、ヨーロッパ世界と非ヨーロッパ世界との接触・相互交渉・衝突について理解する。
4. 「文化史」と隣接諸科学との関係を理解する。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法

- (1) 講義形式で授業をすすめる。基本的にパワー・ポイントを援用する。
- (2) 視覚資料（画像・写真・ビデオ・映画など）をできるだけ利用する。
- (3) 理解の状態を確認するため、小テストを実施することがある。
- (4) 講義の進め方などについてアンケートをおこない、可能なかぎりフィードバックする。

2. 学習の方法

- (1) 参考文献を利用して、講義内容を確認することが推奨される。
- (2) わからない点については、講義終了時に積極的に質問することが望まれる。

・準備学習の具体的な方法

各回の授業冒頭でその回のポイントを1～3点ほど明示する。それらのポイントにそくして前回の授業内容を整理し復習したうえで、授業に臨むことが望ましい。

4. 評価方法・評価基準

期末に実施する筆記試験（全体の80%）と小テスト（全体の20%）の成績を総合して評価する。小テストおよび期末筆記試験は論述形式にて実施する。なお、正当な理由がない欠席が5回以上におよんだ場合は、単位は認定されない。

5. 授業予定

- 第1回 導入—イギリスという国—
- 第2回 イギリス社会のありかた
- 第3回 民衆文化論（1）：歴史学・史料・「民衆文化」
- 第4回 民衆文化論（2）：「妻売り」
- 第5回 民衆文化（3）：シャリヴアリと民衆文化論
- 第6回 民衆文化（4）実践編1：ホガースとライフサイクル
- 第7回 民衆文化（5）実践編2：ホガースと民衆文化
- 第8回 帝国と文化（1）：物質文化と植民地
- 第9回 帝国と文化（2）：見えない帝国・見える帝国
- 第10回 帝国と文化（3）：衰退と文化
- 第11回 『日の名残り』とジェントルマン文化（前半部）
- 第12回 『日の名残り』とジェントルマン文化（後半部）
- 第13回 『日の名残り』のストーリー確認
- 第14回 『日の名残り』と、階級・帝国・衰退
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義中の私語と携帯電話の使用など、他の受講生に迷惑を及ぼすと考えられる行為は厳禁する。目に余る場合は、退場の上、以後の受講を認めない場合もありうる。

講義コード	10151301		
科目名	東洋史 20世紀の中国		
担当者	小都 晶子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[日]		
前提科目			
テキスト	『原典で読む 20世紀中国政治史』 田中仁 白帝社 2003		
参考文献	別途指示する		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

20世紀の中国は大きく変化をとげた。清朝の崩壊から、日本との14年間の戦争をへて、戦後は社会主義にもとづく独自の発展と混乱の時代を経験してきた。さらに近年は、「社会主義市場経済」による新たな発展の方向を模索している。本講義は、日本と「一衣帯水」の関係にある隣国、中国

の近現代史を通時的に理解することを目的とする。それによって、現在の中国社会に対する認識も深める。

受講者には、個別の事項を暗記するのではなく、近現代中国の歴史の全体的な流れを日本のそれとは異なるものとして理解し、国際的視野に立って、日本と中国、また日本とアジアの関係を見直すための契機としてもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 中国近現代史の流れを習得する。
2. 中国近現代史に関する理解を通して、現在の中国、さらに現在の日中関係についての認識を深める。

3. 教育・学習の方法

・授業方法

①授業はパワーポイントを利用した講義形式で実施する。

②随時、関連する映像資料を見る。

③プリントを配布する。

・学習方法

①講義を通して、中国近現代史に関する理解を深める。

②授業時に、理解を深められたこと、疑問点などを数回のコメントによって提出する。

③授業で取り上げられた個別の課題を学習し、学期末試験を受ける。

・準備学習の具体的な方法

毎回、授業後にテキストの該当する部分をしっかりと読んで復習すること。

4. 評価方法・評価基準

成績は、学期末試験（50%）、授業時の課題（数回実施、50%）の総合評価とし、欠席・遅刻は減点の対象とする。また欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 導入
- 第2回 19世紀の中国
- 第3回 中華帝国最後の10年
- 第4回 中華民国の成立
- 第5回 南京国民政府と中国共産党
- 第6回 「抗戦」の時代
- 第7回 戦後の内戦と中華人民共和国の成立
- 第8回 社会主義中国の建設
- 第9回 「動乱」の時代
- 第10回 日中国交正常化
- 第11回 「改革・開放」の時代
- 第12回 香港、マカオと台湾
- 第13回 天安門事件から「南巡講話」へ
- 第14回 21世紀の中国
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10151401			
科目名	日本文学			
担当者	長沼 光彦			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	『読むための理論』 石原千秋・他 世織書房 『岩波講座文学』 小森陽一・他 岩波書店 『小説の方法』 真鍋正宏 萌書房			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

日本文学には、様々な表現がある。まずは高校の教科書に載っていた小説や詩、物語や短歌だけが文学ではないことは知っておこう。文学に対する考え方は時代によって異なる。現在の評論や研究の世界では、大衆文学やライトノベルを取り上げるものもあり、文学の概念は以前よりも広がっている。本講義では、日本の近現代文学を中心に、文学表現とは何かを考える。その際に、マンガや映画など他の文化表現をとりあげる場合もあるが、主たる課題は、日本文化における言語表現の特徴を考えることである。小説の表現上の工夫など、日本語による文章表現の方法に興味を持つ学生に受講を勧める。

2. 教育・学習の個別課題

- ・文学表現の鑑賞法を知り、表現の豊かさを理解する。
- ・具体的な文学表現にふれ、日本文学の特徴を理解する。

・近年の批評・研究を参照し、日本文学の今日的意義を理解する。

3. 教育・学習の方法

・配布したプリントにより、様々な文学表現に実際に触れ、講義をとおして、文学表現に対する理解を深める。

・考えをまとめ表現する力を養うために、毎時間の終わりに、講義の内容に関わる簡単なワーク作業を行うか、または感想・意見をまとめて提出する。

・準備学習の具体的な方法

・授業で紹介した参考文献や小説作品を実際に自分で読んでみる。

・紹介したもの以外にも読書体験を広げ、日本語表現について自分の考えをまとめる。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（30%）、毎時間の意見文（30%）、学期末のレポート（40%）により行う。

5. 授業予定

- 第1回 文学とは何か
- 第2回 小説の三人称と一人称
- 第3回 描写とは何か
- 第4回 風景描写と心理描写
- 第5回 描写論の生まれた時代背景
- 第6回 日本近代小説の始まり
- 第7回 近代小説の様々な表現論
- 第8回 文学思想と表現
- 第9回 客観性と主観性
- 第10回 写実と描写
- 第11回 写生論
- 第12回 夢の表現
- 第13回 一人称と語り
- 第14回 様々な表現の可能性
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

・レポートを書く際に、他人の書いた文章をコピーペーストしたものは認めない。

講義コード	10151501			
科目名	外国文学			
担当者	小林 順			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

—動物と植物の風景—

古今東西にわたって文学作品には多くの動物や植物が登場します。小さいアリから大きな象、あるいは薔薇の花やモミの木など、まことに多彩です。本コースは、主に英米文学にあらわれる興味深い動物や植物たちを取り上げ、その描かれ方や作品テーマとの関わりなどを考えます。

動物や植物は必ずしもストーリーや詩の中心ではありません。しかし、どの作品においてもその動物や植物が決定的な意味を担っているものばかりです。

2. 教育・学習の個別課題

- 1 作品のテーマを考える
- 2 動物・植物の描かれ方を分析する
- 3 個々の動物・植物の持つ文化的、歴史的な意味を知る
- 4 作品テーマと動物・植物の関係性を分析する

3. 教育・学習の方法

それぞれのテキストを「読む」ことがクラスの準備となります。ひとつのテキストに2レッスン程度予定しています。視聴覚リソースなども可能な限り紹介します。

・準備学習の具体的な方法

クラスで取り上げるテキストは必ず前もって味読しておくことが必要です。いくつかの作品は英語ですので、英語の読解練習も求められます。

4. 評価方法・評価基準

テキストごとに簡単な記述テストをおこないます。テストが評価の60パーセント。クラスへの参加を重視するので、欠席1回につき評価の8パーセントを失います。

5. 授業予定

- 第1回 外国文学を読むために
 第2回 馬と旅人
 フロスト「雪の降る夕に立ち止まる旅人」その①
 (英語テキスト)
 第3回 馬と旅人
 フロスト「雪の降る夕に立ち止まる旅人」その②
 (英語テキスト)
 第4回 魚の啓示
 ヘミングウェイ「インディアンキャンプ」その①
 第5回 魚の啓示
 ヘミングウェイ「インディアンキャンプ」その②
 第6回 ナルキッソスの神話を読む
 第7回 薔薇のミステリー
 エリザベス・ボウエン「あの薔薇を見てよ」その①
 第8回 薔薇のミステリー
 エリザベス・ボウエン「あの薔薇を見てよ」その②
 第9回 クリスマスの動物と植物
 ハーディー「牛」(英語テキスト) その①
 第10回 クリスマスの動物と植物
 ハーディー「牛」(英語テキスト) その②
 第11回 フロスト「もみの木の手紙」その①
 第12回 フロスト「もみの木の手紙」その②
 第13回 樹木の精
 ハーン「青柳」(英語テキスト) その①
 第14回 樹木の精
 ハーン「青柳」(英語テキスト) その②
 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10151601		
科目名	文章表現法A		
担当者	濱野 寛子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[国][情]		
前提科目			
テキスト	必要に応じて授業時にプリント等を随時配布		
参考文献	『ことばの知識百科』三省堂編修所 三省堂 1995		
備考	定員50人		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10151602		
科目名	文章表現法B		
担当者	濱野 寛子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[国][情]		
前提科目			
テキスト	必要に応じて授業時にプリント等を随時配布		
参考文献	『ことばの知識百科』三省堂編修所 三省堂 1995		
備考	定員50人		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10151603		
科目名	文章表現法C		
担当者	濱野 寛子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[国][情]		
前提科目			
テキスト	必要に応じて授業時にプリント等を随時配布		
参考文献	『ことばの知識百科』三省堂編修所 三省堂 1995		
備考	定員50人		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10151604		
科目名	文章表現法D		
担当者	濱野 寛子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[国][情]		
前提科目			
テキスト	必要に応じて授業時にプリント等を随時配布		
参考文献	『ことばの知識百科』三省堂編修所 三省堂 1995		
備考	定員50人		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

大学生に求められる論述の諸能力(語彙力、表現力、構成力、論理的思考力等)が総合的に向上する。また、様々な事柄に対して自ら明確な主張を持ち、それを「分かりやすい」日本語の文章で伝えることができる。

2. 教育・学習の個別課題

1. 日本語文章作成のための基本的な語彙力、表現力、構成力を磨く。
2. 様々な資料や文献等から必要な情報を適切に読み取り、文章作成に反映させる。
3. 議論の基本を学び、論述の基本姿勢を身につける。
4. 論述のスキルやテクニックについて、学術的な文章のみならず、他のタイプの文章においても適宜利用することができるような、より実用的なものとしていく。

3. 教育・学習の方法

本授業では、文章作成に関する一連の講義に加え、指定されたテーマについて学生自ら文章を作成するといった、実践的な作業に取り組む。そして、最終課題として、各々自由に設定したテーマで文章を作成する。また、日本語の基本的な語彙力や表現力を高めるための小テストを行う予定。

・準備学習の具体的な方法

小テストの為の予習をすること。また授業時に作成する課題文のテーマに関して、各自で見識を深めておくことが望ましい。

課題文は、基本的に授業時間内で作成するように授業計画されているが、終わらなかった者は、次の授業までに作成し提出となる(詳細は第1回目のガイダンスにて説明)。

4. 評価方法・評価基準

授業の参加姿勢(10%)、授業時の小テスト(15%)提出課題(35%)、確認テスト(40%)から総合的に評価をする。出席については、全授業回数の2/3以上の出席を条件とする。さらに、単位取得には、第15回目の授業で行う確認テストを受けることが必要である。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス/概説
 第2回 文法と文のわかりやすさ/言葉の意味について
 第3回 主題について/主張とは
 第4回 話題を考える/要約する・詳細に書く
 第5回 文章の基本構造
 第6回 根拠と事実
 第7回 引用する・1
 第8回 引用する・2
 第9回 議論する・1
 第10回 議論する・2
 第11回 レビュー
 第12回 課題文の作成:主題の設定・作成
 第13回 課題文の発表・評価
 第14回 発展

6. 留意事項

講義コード	10151701		
科目名	法学概論 A		
担当者	重井 輝忠		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[社][精]		
前提科目			
テキスト	『法学入門(第6版)』末川博(編) 有斐閣 2009 『ポケット六法(平成25年版)』西田典之ほか(編) 有斐閣 2012		
参考文献備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

講義コード	10151702		
科目名	法学概論 B		
担当者	重井 輝忠		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[社][精]		
前提科目			
テキスト	『法学入門(第6版)』末川博(編) 有斐閣 2009 『ポケット六法(平成25年版)』西田典之ほか(編) 有斐閣 2012		
参考文献備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. 科目の教育目標

複雑化、多様化する現代社会では、法律もまた量的増大、質的変容を遂げています。その中で、我々は法律に取り囲まれて生活しているといっても過言ではありません。法学に関する最低限の知識を身に付けることは、社会生活を営む上で必須ともいえます。

また、日々の報道を目的にすれば明らかのように、犯罪をはじめとして、様々な生活領域で法律に関係する多様な事象が起きている。これらの事象に際しては、感情に走らない冷静な判断力・批判力が求められます。

そこで本講義では、法とは何か、また、現代において法の果たすべき役割とは何かを把握した上で、現行法に規定される各条文の解釈を通じて、法的思考の枠組みを習得することを目的としています。

2. 教育・学習の個別課題

1. 法とは何か・法学とは何か—法学の目標・法の役割を理解する
2. 日本国憲法下の法体系—憲法の基本理念とその下にある現行実定法の大枠を理解する
3. 民事法の基礎(実体法・手続法)—民事法の基本原則、代表的な法制度を理解する
4. 行政法の基礎(含む、手続法・地方自治)—法治主義に基づく行政活動の骨格を理解する

3. 教育・学習の方法

1. 教育方法 口述による講義形式。簡単なメモを配布します。
必要に応じて、視聴覚教材を用いることがあります。
2. 学習方法 原則としてノート筆記。講義中にコメント(B6 1枚程度)の提出を求めることがあります。教科書該当箇所の予習は必須。
3. その他 必要資料は講義中に配布する予定。参考文献は必要に応じて講義中に指示します。

・準備学習の具体的な方法

毎回、次回に取り扱う教科書該当範囲(おおよそ教科書1講分)を配布メモで指示しますので、最低限必ず目を通し、述べられている事項の大きな内容を把握しておいてください。教科書を用いた予習の仕方については、第1回目のガイダンスの際に紹介します。

4. 評価方法・評価基準

期末試験の成績を中心とし、講義中に課されるコメントに対する評価を総合する(計70%)。平常点(30%)—講義内での課題・欠席は減点対象を加味して最終評価とする。欠席回数が授業総数の3分の1を超える者に

は、特段の事情がある場合を除き単位を認めない。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス・法学とは何か
- 第2回 社会規範としての法の性質
- 第3回 法の発展と現代実定法体系
- 第4回 憲法の基本原則
- 第5回 日本国憲法における統治機構
- 第6回 日本国憲法と基本的人権
- 第7回 民法の基本原則
- 第8回 契約法の基礎
- 第9回 物権法の基礎
- 第10回 不法行為法
- 第11回 家族法
- 第12回 民事裁判制度
- 第13回 行政活動と法
- 第14回 行政争訟・行政手続
- 第15回 地方自治

6. 留意事項

講義コード	10151801		
科目名	日本国憲法 A		
担当者	佐藤 潤一		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[教][社][精]		
前提科目			
テキスト	『法学と憲法入門』佐藤潤一 敬文堂 2006年 『基礎からの公法入門 地方自治法』佐藤潤一・松原幸恵・露木美幸 敬文堂 2008年 『新解説世界憲法集』初宿正典・辻村みよ子編 三省堂 2006年 『世界の憲法集 第4版』阿部照哉・畑博行編 有信堂 2009年 『憲法判例集 第10版』野中俊彦・江橋崇 有斐閣 2008年 『平和と人権』佐藤潤一 晃洋書房 2011年		
参考文献備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

講義コード	10151802		
科目名	日本国憲法 B		
担当者	佐藤 潤一		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[教][社][精]		
前提科目			
テキスト	『法学と憲法入門』佐藤潤一 敬文堂 2006年 『基礎からの公法入門 地方自治法』佐藤潤一・松原幸恵・露木美幸 敬文堂 2008年 『新解説世界憲法集』初宿正典・辻村みよ子編 三省堂 2006年 『世界の憲法集 第4版』阿部照哉・畑博行編 有信堂 2009年 『憲法判例集 第10版』野中俊彦・江橋崇 有斐閣 2008年 『平和と人権』佐藤潤一 晃洋書房 2011年		
参考文献備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. 科目の教育目標

大学生が身につけておくべき教養としての憲法を身につけること。これは各種資格試験のうち法律専門職以外の試験で憲法が課されている場合に求められる素養と同じである。

教養という場合、知識があることを指す同時に、判断力、方法論(わからないときの調べ方)を理解していることをも指す。本講義はこのすべての意味での「教養としての憲法」を身につけることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

序. 法学入門—著作権をテーマに

1. 立憲主義
2. 平和主義
3. 基本的人権の保障—総論
4. 人身の自由
5. 表現の自由
6. 統治機構の諸問題
7. 「定住外国人」の人権問題

まとめ—比較憲法の意義

3. 教育・学習の方法

基本的にテキストに沿って講義する。ただし、時事的話題を適宜加味して進めるため、また理解を容易にするため、パワーポイントによるスライド、板書を活用し、講義の一つのテーマが終わるごとに口述でのまとめを行う。ノートを用意し自分なりのまとめを行うことを強く推奨する。

なお講義で使用するスライドはPDFデータとしてダウンロードできるようにするので、予習復習に適宜活用されたい。

・準備学習の具体的な方法

各回についてテキストの頁または課題を示すので、テキストの頁が示されている場合には一読しておくこと。シラバスには第1回講義(ガイダンス)用のスライドデータを添付しておくので、目を通しておくことと雰囲気をつかめるかもしれない。

4. 評価方法・評価基準

期末テスト100%で評価する。講義中に小テストを実施するが、これは理解度の確認のためのものであり、点数には加味しない。

5. 授業予定

第1回 法学入門—著作権をテーマに(テキスト序章, 第1章第1節)
日常生活でも問題となりうる著作権をテーマに、法学入門と憲法入門を講義する。テキストには著作権について触れていないが、売買契約の基礎知識と関係させながら講義する。

第2回 憲法入門(テキスト第1章第4節, 第2章第1節)
法学入門知識を整理した上で、大学における憲法が高校までの学習とどのような点で異なるのかを講義する。

第3回 立憲主義(1)(テキスト第2章第1節)
憲法を学ぶ上で重要な立憲主義について講義する。イギリス, アメリカ, カナダ, オーストラリア, ドイツ, フランスといった古くから憲法に基づく政治が行われてきたそれぞれの国について紹介して、理解を深めたい。

第4回 立憲主義(2)(テキスト第2章第1節, 第2章第2節, 第2章第4節1)
日本における立憲主義理解の特殊性を、天皇制の問題と国民主権をテーマに講義する。

第5回 平和主義(テキスト第2章第3節)
時事的話題を中心にテーマを絞って講義する。テキストでは十分に触れられていないが、平和主義について比較法的に検討する。

第6回 基本的人権の尊重—総論(テキスト第3章第1節)
第2次世界大戦以前との比較, 諸外国との比較, 国際人権法との関係に重点を置きながら、基礎知識の整理を行う。

第7回 人身の自由(1)(テキスト第3章第3節)
日本国憲法が詳細に過ぎるほど人身の自由を保障する規定を置いているのはなぜか、歴史的視点を重視して講義する。

第8回 人身の自由(2)(テキスト第3章第3節)
判例を少なくとも二つ取り上げ、具体的課題に対する考察方法を講義する。

第9回 表現の自由(1)(テキスト第3章第2節)
表現の自由が立憲主義諸国に於いて最も重要な権利と考えられているのはなぜかについて様々な視点から考える。

第10回 表現の自由(2)(テキスト第3章第2節)
表現の自由と衝突する権利として個人の名誉とプライバシーが挙げられる。この両者の調整について判例をいくつか取り上げる。

第11回 表現の自由(3)(テキスト第3章第2節)
初回講義で扱った著作権問題について、改めて憲法の視点から詳説する。著作権が表現の自由とプライバシー問題の両者と密接に関わることを考察することが中心となる。

第12回 統治機構の諸問題(1)(テキスト第2章第4節)
基本的人権の保障を支える統治機構について、憲法改正論との関係に重点を置いて講義する。

第13回 統治機構の諸問題(2)(テキスト第2章第4節)
違憲審査権について入門知識を講義し、他国の状況も若干紹介する。

第14回 「定住外国人」の人権問題(テキスト第3章第4節, 第3章第5節)
人権保障と統治機構の問題を「定住外国人」問題からとらえ直す。自らが「外国人」となった場合について(留学生は自らの問題として)憲法問題を考える視点を提供する。

第15回 比較憲法の意義(テキストのColumn, 新聞記事<第14回に

紹介>)

第14回までの講義をまとめなおし、あわせて諸外国の憲法との比較をすることの重要性について講義する。

6. 留意事項

携帯電話を講義中に操作すること、講義中の着帽、飲食、私語については当然に禁じられ、厳正に対処する。

講義コード	10151901			
科目名	経済学概論A 市場経済のしくみと現代日本の経済問題			
担当者	上田 雅弘			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日][情][ブ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『マンキュー 入門経済学』 グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2008年			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10151902			
科目名	経済学概論B 市場経済のしくみと現代日本の経済問題			
担当者	上田 雅弘			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日][情][ブ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『マンキュー 入門経済学』 グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2008年			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

近年、経済のグローバル化やさまざまな分野における規制緩和によって社会や経済の構造が大きく変革し、市場メカニズムの役割はますます重要になっている。本講義の目標は、市場経済のしくみとその特徴について学ぶと同時に、その限界についても理解することである。いま日本社会が直面している問題は、雇用問題、格差問題、財政赤字、少子高齢化、年金問題などさまざまなあるが、この講義で習得した理論的な知識をもとに、多様な社会・経済問題について議論できる力を養ってもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

- ・市場メカニズムを通じて、需要と供給が一致する仕組みなど、市場経済に関する基本的な概念や特徴を理解する。
- ・家計、企業、政府が、互いに市場を通じてどのようにつながり、どのような役割を果たしているか理解する。
- ・景気変動と政府による経済政策の考え方について理解する。
- ・貨幣経済社会の取引とリスクについて理解する。
- ・授業で取り上げる時事問題の現状を理解する。

3. 教育・学習の方法

講義は基本的にレジュメ中心で行う予定であるが、必要に応じて参考文献を紹介する。

・準備学習の具体的な方法

授業は、前回までの授業内容を理解しているという前提で行われるため、必ず前回までの授業内容を復習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

講義内容は積み上げ方式であるため、前回までの内容を復習し、理解している必要がある。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション～経済学とは～
- 第2回 市場経済とその特徴
- 第3回 消費者の効用最大化
- 第4回 需要曲線の諸概念
- 第5回 企業の利潤最大化と供給曲線
- 第6回 市場の競争形態と余剰分析

- 第7回 課税の転嫁と帰着
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 貿易と国際経済
- 第10回 情報の非対称性
- 第11回 ゲームの理論
- 第12回 マクロ経済分析の基礎
- 第13回 財政政策と景気変動
- 第14回 貨幣の流れと金融政策
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

- ・授業中は周りの人に迷惑をかける行為をしないようにすること。
- ・授業予定については、進行の都合により、変更される可能性がある。

講義コード	10152001			
科目名	社会学概論A			
担当者	大野 順子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日][情][ブ]			
前提科目				
テキスト	『基礎社会学 新訂第2版』 片桐新自、永井良和、山本雄二編 世界思想社 2010年			
参考文献	その都度、指示する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10152002			
科目名	社会学概論B			
担当者	大野 順子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日][情][ブ]			
前提科目				
テキスト	『基礎社会学 新訂第2版』 片桐新自、永井良和、山本雄二編 世界思想社 2010年			
参考文献	その都度、指示する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本講義は社会学の基礎知識を習得していただくことを主な目的としています。そのために、さまざまな社会問題や現象を取り上げ、ひとつひとつ検討しながら社会のメカニズムを明らかにしていきます。「社会」とは個々の家庭・家族から日常的な社会生活の場、さらには国際社会に至るまでを指しており、そこに生じている社会現象や諸問題を学ぶことによって、物事に対する多角的な視点を獲得し、日常生活の中に隠された「ひと・自己」と「社会」の関係性に気づいていくことを目指します。そして最終的に、それぞれが「社会」に対する考え方や見方を養い、積極的に「社会」に対して関わっていきけるような姿勢や態度、行動力を育成していきたいと考えています。

2. 教育・学習の個別課題

1. 社会学の基礎知識について学ぶことによって、「社会」に対する興味・関心を喚起する。
2. 社会的思考力を高める。
3. 「社会」と「私（自己）」の関係性について再認識する。
4. 多様な社会問題に向き合うことによってそれら諸問題に共感し、主体的に「社会」に関わろうとする行動力、「社会」への発信力を養う。

3. 教育・学習の方法

講義形式を中心としますが、適時、ビデオ等の視聴、ディスカッション等の手法を取り入れ、出来るだけ履修する学生の皆さんも主体的に講義に参加する機会を持ちたいと思います。

・準備学習の具体的な方法

基本的にテキストに沿った形で進めていくため、指定しているテキストを必ず購入してください。各自講義の前までに該当する章を最低一度は読み、講義に準備してください。それが講義内容の理解をより一層深めることにつながります。また、日頃から新聞・雑誌・テレビニュース等を見、「どのような社会問題が世間では語られているか?」「それら問題に対してどのような見方がなされているか?」「あなた自身はその問題に対してどの

ように考えるか?」を自問自答しながら考える作業も同時に行ってください。こうした一連の準備作業が、本講義の教育目標や教育・学習の個別課題を達成することにつながります。

4. 評価方法・評価基準

出席・授業参加度(20%)、試験(50%)、課題・レポート(30%)により総合的に評価します(予定)。

※途中退出、出席が80%に満たない場合は成績評価の対象外とします。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション 社会学とは
- 第2回 社会学の基礎概念
- 第3回 社会学の調査方法
- 第4回 家族・家庭生活
- 第5回 都市空間とサブカルチャー
- 第6回 学歴社会
- 第7回 逸脱のレッテル
- 第8回 アイデンティティ
- 第9回 私的空間と公的空間
- 第10回 これからの社会福祉
- 第11回 差別とは何か(差異と排除)
- 第12回 ジェンダー
- 第13回 グローバル化と人口移動
- 第14回 多文化「共生」の真実
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義計画については、履修学生の皆さんの状況により若干予定を変更する場合がありますのでご了承ください。

皆さんの積極的な授業への参加を期待しています。

実習や就職活動などで長期に欠席する場合は単位取得にも影響するので相談してください

講義コード	10152101			
科目名	文化人類学A 文化を知り、自己と社会とのつながりを考えよう			
担当者	橘 健一			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	テキストは用いませんが、適宜資料やレジュメを配布します。			
参考文献	『神話と意味』 レヴィ=ストロース みすずライブラリー 『身体の零度』 三浦雅士 講談社選書メチエ 『定本想像の共同体』 ベネディクト・アンダーソン 書籍工房早山 予定では、1は授業の5、6回目、2は9、10回目、3は12、13回目です。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

「文化」は、人と人が結びつくところに生まれます。しかしながら、文化には様々な違いがあり、異なる文化同士が、対立することもあります。資本主義が発展、グローバル化が進み、異文化間の交流が盛んになる現在、そうした異文化間の対立が、様々なかたちで現れ、それらを解消することがますます重要になっています。

本講義では、豊富な資料を観ながら、一見近寄りがたく感じるような「異文化」や当たり前になっている「自文化」を見つめ直していきます。それにより、「異文化」と「自文化」との関わりや、「伝統文化」と「近代文明」との関係、自己と社会との関わりについて理解を深め、文化的な対立の解消を図る道筋を探っていきます。

2. 教育・学習の個別課題

- ・異文化との多様な接し方とそれぞれの問題点を知る。
- ・神話、儀礼、贈答など、今日軽視されがちな文化の役割を知る。
- ・ファッションに関わる貨幣、流行、消費社会などについて学び、現代文化の特徴を理解する。
- ・国民国家や文化の相対化の問題について理解する。
- ・「伝統」と「近代」との関係を理解する。

3. 教育・学習の方法

教員は、毎回、参考文献や具体的な資料を紹介し、分析もおこなって個別の課題について問題提起します。受講者は、そこから各人で、状況次第ではグ

ループでそれについての考えをまとめ、自らの言葉でそれを表現します。

・準備学習の具体的な方法

配布資料や参考文献を読み込んで予習、復習し、課題をこなすことで、学習を定着させ、さらに広げることが可能になります。

4. 評価方法・評価基準

毎回の提出物や課題の内容から授業への参加度を確認し、評価をおこないます。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション：授業の内容と方法の説明をおこないます。
- 第2回 文化って何だろう？意味って何だろう？意味が分かるって何だろう？：意味の体系としての文化とは何か、考えます。
- 第3回 文化は気持ち悪い？：異文化や他者に対する嫌悪感とどう向き合うべきか考えます。
- 第4回 文化は進化するの？：文化が「遅れている」とか「進んでいる」ということの意味を考えます。
- 第5回 神話って何だろう？：現代では迷信と見なされがちな神話や昔話の成り立ちや仕組みについて考えます。
- 第6回 儀礼って何だろう？：現代では、無意味なものと思われがちな儀礼の成り立ちや仕組みについて考えます。
- 第7回 人はなぜ贈り物をするの？：現代では軽視されがちな、贈答の成り立ちや仕組みについて考えます。
- 第8回 おかねって何だろう？：現代の生活で重要視される「貨幣」の成り立ちや変遷、役割や仕組みについて考えます。
- 第9回 市って何だろう？：現代の生活で重要視される「市場」の成り立ちや変遷、役割や仕組みについて考えます。
- 第10回 ファッションって何だろう？：商品の生産効率化や宣伝とそれらに対する好みの文化的な意味について考えます。
- 第11回 純粋で美しい身体って何だろう？：身体のある方の歴史的な変化を考えます。
- 第12回 意味が軽くなるって何だろう？：メディアと欲望、文化との関係について考えます。
- 第13回 人はなぜ傷つけ合うの？：現代の民族紛争、人種差別について考えます。
- 第14回 文化を尊重するってどういうこと？：文化相対主義の問題と可能性を考えます。
- 第15回 全体のまとめ：異文化と自文化との関わり、社会と自己との関わり、伝統と近代との関わりについて、もう一度考えます。

6. 留意事項

この講義の目的は、「文化について考える」ことで、単なる「異文化の紹介」ではありません。その点を理解して受講して下さい。授業内容の詳細は、進捗を見て、適宜修正します。なお、文化人類学Bでは、フィールドワークによる文化の研究手法を解説します。

講義コード	10152102			
科目名	文化人類学B フィールドワークで世界を広げよう			
担当者	橋 健一			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	テキストは用いませんが、適宜資料やレジュメを配布します。			
参考文献	『フィールドワーク入門』 市川健夫 古今書院 『新版 民俗調査ハンドブック』 宮田登他編 吉川弘文堂 『ハマータウンの野郎ども』 ポール・ウィリス ちくま学芸文庫 『フィールドワークの経験』 桜井厚、好井裕明編 せりか書房 『発想法』 川喜田二郎 中公新書 その他、授業中に指示します。			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

こんにち「フィールドワーク」は、様々な分野で当たり前のようにおこなわれるようになっていますが、そのフィールドワークを研究の手法として本格的に導入し、練り上げてきたのが「文化人類学」です。

最近では、小学校の段階でも「フィールドワーク」が行われるようになり、単に現地に行って様子を記録する、ということを「フィールドワーク」

と考える人が少なくありません。しかし「フィールドワーク」には、それ以上の何かが含まれています。では、それは一体何なのでしょう。

「フィールドワーク」は、特定の時代状況の中で生まれ、変化してきており、その多様な手法を比較していくと、フィールドワークが時代ごとの科学、哲学的認識や倫理観と深く結びついていることがわかります。つまり、「単なる現地の記録」以上の部分は、そうした認識や倫理に関わる問題なのです。

本授業では、文化人類学に関わるフィールドワークの主な調査方法（主に質的調査法）を具体的に紹介しながら、それらに関わる時代的な認識や倫理について解説していきます。

ただし、そうした時代的な認識や倫理に基づいたフィールドワークの手法は、解説を受けるだけでは身につけません。そこで本授業では、講義と並行して受講者自身がワークシート形式の課題をこなし、「自分たちをフィールドワークする」機会も設けます。それによって受講者のフィールドワークの実践的な能力、その応用力を涵養することも目指します。

2. 教育・学習の個別課題

- ・文化人類学的な研究手法としてのフィールドワークについての理解を深める。
- ・フィールドワークの多様な方法論とそれぞれと社会との関わりについての理解を深める。
- ・フィールドワークの代表的な方法を習得し、その利点や弱点を把握する。
- ・フィールドワークを企画・実施する能力を身につける。

3. 教育・学習の方法

毎回授業の際、ワークシート形式の課題を出します。それ以外にも授業時間外の課題を数回出します。レジュメの内容をよく読み、こうした課題をこなしていくことで、確実にフィールドワーク力を身につけることができます。

・準備学習の具体的な方法

配布資料や参考文献を読み込み、さらに課題を復習することで、学習を定着させ、さらに理解を広げることが可能になります。

4. 評価方法・評価基準

毎回の提出物や課題の内容から授業への参加度を確認し、評価をおこないます。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション：文化人類学とフィールドワーク：文化人類学とは何か、フィールドワークがそこからどのようにして生まれたのか解説します。
- 第2回 フィールドワークと記憶、認識：人間の記憶、認識のあり方について考え、フィールドワークの基本を学びます。
- 第3回 フィールドワークと異文化：フィールドワークが異文化や他者の理解として展開した背景を考え、研究テーマの設定の仕方学びます。
- 第4回 フィールドワークと探検：探検や冒険の記録について考え、フィールドワークと記録の方法を学びます。
- 第5回 フィールドワークと博物館：博物館のコレクションについて考え、資料の蒐集の仕方を学びます。
- 第6回 フィールドワークと分類：分類学の成り立ちについて考え、科学的な調査、記述の仕方を学びます。
- 第7回 フィールドワークと景観：地図や景観の読み取り方を考え、空間的なフィールドワーク手法や観察方法を学びます。
- 第8回 フィールドワークと民俗：歴史や起源の問題を考え、歴史的なフィールドワーク手法や聞き書きを学びます。
- 第9回 フィールドワークと組織：組織と全体の問題を考え、構造機能主義的フィールドワーク手法を学びます。
- 第10回 フィールドワークと機能：機能と役割について考え、機能主義的フィールドワーク手法を学びます。
- 第11回 フィールドワークと解釈：文化の解釈学や現象学について考え、厚い記述やエスノメソドロジーの方法を学びます。
- 第12回 フィールドワークと構造：構造主義について考え、ハビトゥスの調査分析法について学びます。
- 第13回 フィールドワークとライフヒストリー：インタビューについて考え、ライフヒストリーの作成方法を学びます。
- 第14回 フィールドワークとKJ法：資料のまとめかた、グループワークについて考え、発想、協働の方法を学びます。
- 第15回 フィールドワークを学び直す：調査計画書と報告書の作成法、新たなフィールドワークの可能性を考えます。

6. 留意事項

この講義の目的は、「文化を調査し、記述する方法」を学ぶことで、単なる「異文化の紹介」ではありません。その点を理解して受講して下さい。授業内容の詳細は、進捗を見て、適宜修正します。なお、文化人類学Aでは文化とは何か、伝統的な文化と近代的な文化との違い等について解説します。

講義コード	10152201			
科目名	女性学概論A 歴史における日米の女性			
担当者	寺西 みどり			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	特定のテキストはない			
参考文献	随時紹介する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10152202			
科目名	女性学概論B 歴史における日米の女性			
担当者	寺西 みどり			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	特定のテキストはない			
参考文献	随時紹介する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

男性中心とされる歴史において女性は社会とどのように係わりいかなる変容をとげたのか。アメリカと日本を中心に、文化史・宗教史・社会史上重要な役割を果たした女性達の思想や活動を歴史的に考察する。本学の母体であるノートルダム教育修道女会にも触れる。

2. 教育・学習の個別課題

1. 女性学・女性史の始まり
2. 女性と社会進出・女性解放運動
3. アメリカ史・日本史の概観、社会背景と女性の変容を考察する
4. 修道女の場合
5. 映画鑑賞や読書により、個別の女性の生涯について考える

3. 教育・学習の方法

1. 講義を中心とする
2. 文献を指示し読書課題を与える
3. 映画鑑賞後レポートを提出する

・準備学習の具体的な方法

1. 「アメリカ文化」を自分なりにイメージしてみる。
2. 日本史の流れ（高校教科書の目次程度でよい）に目を通しておくこと。上記二点は発表や提出課題ではなく、講義を聴きやすくするためです。

4. 評価方法・評価基準

1. 欠席回数が全授業回数の3分の1を超えると原則として評価対象外とする。
2. 学期中数回の提出物・出席状況や授業参加度を総合し30%とする。
3. 期末試験を70%とする。

5. 授業予定

- 第1回 コース概説・女性学とは・女性学の歴史
- 第2回 アメリカの女性：建国以前～南北戦争まで、女性の社会参加、フェミニズム第1波
- 第3回 アメリカの女性：南北戦争～第1次世界大戦まで
- 第4回 アメリカの女性：第1次世界大戦～第2次世界大戦まで
- 第5回 アメリカの女性：第2次世界大戦～現在、フェミニズム第2波
- 第6回 映画鑑賞
- 第7回 日本の女性：古代・中世
- 第8回 日本の女性：近世・近代
- 第9回 日本の女性：現代
- 第10回 日本の女性：伝統文化と女性
- 第11回 世界の女性と参政権、女性の種類、修道女概論
- 第12回 映画鑑賞
- 第13回 映画鑑賞
- 第14回 移民と修道女、ノートルダム教育修道女会について
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

映画鑑賞の回次は変更があるかもしれない

講義コード	10152301			
科目名	ボランティア概論A 共に生きる道			
担当者	沼野 尚美			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	テキストは使用しない。例題・例示をあげる。			
参考文献	『「人の生き方としてのボランティア」』 徳久球雄編 嵯峨野書院 1997 『ボランティアのための福祉心理学』 藤野信行 NHK 出版 2000			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10152302			
科目名	ボランティア概論B 共に生きる道			
担当者	沼野 尚美			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	テキストは使用しない。例題・例示をあげる。			
参考文献	『「人の生き方としてのボランティア」』 徳久球雄編 嵯峨野書院 1997 『ボランティアのための福祉心理学』 藤野信行 NHK 出版 2000			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

キリスト教に影響された西欧倫理を土台にもつボランティアの性格は、日本において変化がみられ、ボランティア理解はあいまいである。ボランティアは、自由や正義のために、またよりよい社会のために、自ら進んで活動であり、共に生きる社会の実現をめざし、相手の立場に立つてものを考え行動する心のはたらきが不可欠である。ここではまず基礎から、ボランティアの根本精神の理解と、多種のボランティア活動への認識にあらうとするものである。

2. 教育・学習の個別課題

1. ボランティアの理念とは何かを理解する。
2. 共に生きる心を、聖書から理解する。
3. ボランティア活動には多様なあり、一人ひとりが必要とされていることを知る。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法
講義形式とする。
2. 学習方法
(1) 大切な根本精神を理解するよう努力すること。
(2) 講義内容を知識として留めるだけでなく、活動に参加してみようと考えてみるのが大切である。
3. テキスト・参考文献
テキストは使用しない。例題・例示をあげる。

・準備学習の具体的な方法

- ① 講義内容を家族や友達同志と話し合う。
- ② 講義内容にそった本を読んでみる。

4. 評価方法・評価基準

1. 3分の2以上の出席を必要とする。
2. 評価は、レポートを50%とする。授業参加度と授業態度を総合して50%とする。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ボランティアとは

- 第3回 ボランティアとは
- 第4回 ボランティアと聖書
- 第5回 ボランティアと聖書
- 第6回 日本国内ボランティア活動の種類
- 第7回 NGOとNPO
- 第8回 NGOとNPO
- 第9回 ホスピタリティ
- 第10回 ボランティア活動の心得え
- 第11回 障害者と共に生きるとは
- 第12回 高齢者と共に生きるとは
- 第13回 ボランティア・コーディネーターとは
- 第14回 自立への援助とは
- 第15回 まとめと補充

6. 留意事項

講義コード	10152401			
科目名	情報処理A ～ネットワークリテラシーを身につける～			
担当者	吉田 智子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[教][情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	『「新インターネット講座～ネットワークリテラシーを身につける～」』 有賀妙子、吉田智子著 北大路書房 2005			
参考文献				
備考	定員35人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

講義コード	10152402			
科目名	情報処理B ～ネットワークリテラシーを身につける～			
担当者	吉田 智子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[教][情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	『「新インターネット講座～ネットワークリテラシーを身につける～」』 有賀妙子、吉田智子著 北大路書房 2005			
参考文献				
備考	定員35人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールと Web ページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしいが、それを活用できる能力（ネットワークリテラシー）を身につけるには、教育が必要である。

この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Web ページの制作では、HTML タグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。

2. 教育・学習の個別課題

- ・大学で利用するパソコンの OS (Windows と Linux)
- ・インターネットの機能としくみ
- ・電子メールのコミュニケーション特性
- ・Web ページを利用した情報検索
- ・情報発信の役割を持つ Web サーバーや全文検索システムのしくみの理解
- ・プログラミング実習（体験）
- ・画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
- ・HTML で記述する WWW の情報提供のしくみと可能性
- ・HTML と CSS による Web ページ制作実習

3. 教育・学習の方法

講義と実習を交えながら授業を行なう。適宜、レポート課題も課す。教

科書として、有賀妙子+吉田智子著『新インターネット講座～ネットワークリテラシーを身につける～（北大路書房）』を使う。

・準備学習の具体的な方法

毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は、事前に予告するので、準備をして参加すること。

4. 評価方法・評価基準

授業参加（30%）、レポート・課題（20%）、期末試験（50%）の総合点で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 OS (Windows と Linux) の理解、起動と切り替え
- 第3回 ディレクトリ (フォルダ) の階層構造の理解
- 第4回 インターネット上の機能 (電子メール、Web ページなど) の理解と利用
- 第5回 インターネットのしくみの理解、電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解
- 第6回 Web ページを利用した情報検索、批判的閲覧
- 第7回 プログラミング実習 ～逐次処理～
- 第8回 プログラミング実習 ～条件分岐～
- 第9回 プログラミング実習 ～繰り返し処理～
- 第10回 画像ファイルを含むバイナリデータ、テキストデータのファイル形式と役割
- 第11回 HTML で記述する WWW の情報提供のしくみと可能性
- 第12回 HTML と CSS による Web ページ制作実習(1)
- 第13回 HTML と CSS による Web ページ制作実習(2)
- 第14回 ファイル転送による Web ページの学内公開
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

本科目を履修するにあたっては、「情報演習 I」を履修済か、その内容をすでに習得していること。

講義コード	10152403			
科目名	情報処理C ～ネットワークリテラシーを身につける～			
担当者	伊藤 泰子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[教][情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	『「新インターネット講座～ネットワークリテラシーを身につける～」』 有賀妙子、吉田智子著 北大路書房 2005			
参考文献				
備考	定員35人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10152404			
科目名	情報処理D ～ネットワークリテラシーを身につける～			
担当者	伊藤 泰子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[教][情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	『「新インターネット講座～ネットワークリテラシーを身につける～」』 有賀妙子、吉田智子著 北大路書房 2005			
参考文献				
備考	定員35人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10152405		
科目名	情報処理 E ～ネットワークリテラシーを身につける～		
担当者	伊藤 泰子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[教][情][日][ウ]		
前提科目			
テキスト	『新インターネット講座～ネットワークリテラシーを身につける～』 有賀妙子、吉田智子著 北大路書房 2005		
参考文献			
備考	定員 35 人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10152406		
科目名	情報処理 F ～ネットワークリテラシーを身につける～		
担当者	伊藤 泰子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[教][情][日][ウ]		
前提科目			
テキスト	『新インターネット講座～ネットワークリテラシーを身につける～』 有賀妙子、吉田智子著 北大路書房 2005		
参考文献			
備考	定員 35 人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10152407		
科目名	情報処理 G ～ネットワークリテラシーを身につける～		
担当者	伊藤 泰子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[教][情][日][ウ]		
前提科目			
テキスト	『新インターネット講座～ネットワークリテラシーを身につける～』 有賀妙子、吉田智子著 北大路書房 2005		
参考文献			
備考	定員 35 人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールと Web ページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力（ネットワークリテラシー）を身につけるには、教育が必要である。

この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Web ページの制作では、HTML タグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。

2. 教育・学習の個別課題

- ・大学で利用するパソコンの OS (Windows と Linux)
- ・インターネットの機能としくみ
- ・電子メールのコミュニケーション特性
- ・Web ページを利用した情報検索
- ・情報発信の役割を持つ Web サーバーや全文検索システムのしくみの理解
- ・プログラミング実習（体験）
- ・画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
- ・HTML で記述する WWW の情報提供のしくみと可能性
- ・HTML と CSS による Web ページ制作実習

3. 教育・学習の方法

講義と実習を交えながら授業を行なう。適宜、レポート課題も課す。教科書として、有賀妙子+吉田智子著『新インターネット講座～ネットワークリテラシーを身につける～（北大路書房）』を使う。

・準備学習の具体的な方法

毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は、事前に予告するので、準備をして参加すること。

4. 評価方法・評価基準

出席・授業参加（30%）、レポート・課題（20%）、期末試験（50%）の総合点で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 コンピュータの基礎知識
- 第3回 インターネット上の機能（電子メール、Web ページなど）の理解と利用、電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解
- 第4回 ディレクトリ（フォルダ）の階層構造の理解
- OS (Windows と Linux) の理解、起動と切り替え
- 第5回 画像ファイルを含むバイナリデータ、テキストデータのファイル形式と役割
- 第6回 Web ページを利用した情報検索、批判的閲覧
- 第7回 HTML で記述する WWW の情報提供のしくみと可能性
- 第8回 Web ページ制作実習(1) HTML
- 第9回 Web ページ制作実習(2) HTML
- 第10回 Web ページ制作実習(3) CSS
- 第11回 Web ページ制作実習(4) CSS
- 第12回 プログラミング実習
- 第13回 Web ページ課題作成(1)
- 第14回 Web ページ課題作成(2)
- 第15回 ファイル転送による Web ページの学内公開、まとめ

6. 留意事項

本科目を履修するにあたっては、「情報演習 I」を履修済みか、その内容をすでに習得していること。

講義コード	10152501		
科目名	地球と宇宙の科学 A 地球環境のしくみ		
担当者	玉井 雅人		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	使用しない。		
参考文献	『地震・プレート・陸と海-地学入門』 深尾良夫 岩波書店 1985 『新版地球進化論』 松井孝典 岩波書店 2010 その他は、必要があれば授業中に紹介する。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10152502		
科目名	地球と宇宙の科学 B 地球環境のしくみ		
担当者	玉井 雅人		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	使用しない。		
参考文献	『地震・プレート・陸と海-地学入門』 深尾良夫 岩波書店 1985 『新版地球進化論』 松井孝典 岩波書店 2010 その他は、必要があれば授業中に紹介する。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

地球環境がどのように機能しているのかを学び、その科学的な理解を深めることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 地球内部の構造と大地の動きについて理解し、それに基づいて、地殻変動現象（地震・火山活動・造山運動）のしくみを説明できる。
2. 大気と太陽エネルギーの性質について理解し、それに関連した地球環境問題（オゾン層の破壊・地球温暖化）を考えるための科学的基礎を養う。
3. 地球形成時と現在の地球環境の比較を通じて、大気の進化と生命との関係性を概観できる。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法：講義形式で行う。必要な場合には資料プリントを配布する。
2. 学習方法：授業中は、講義内容を、その場で理解するように努めること。
2. 授業後には、ノートや資料プリントを見直して、理解を確認しておくことが望ましい。

・準備学習の具体的な方法

ノートや資料プリントを見直して、前回までの講義内容を理解しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

定期試験（学期末の筆記試験により、講義内容全体の理解度を判断する）（80%）

平常点（講義内容の簡単なまとめや感想により、授業への集中度を判断する）（20%）

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス・地球環境とは？
- 第2回 地球内部の構造 1
- 第3回 地球内部の構造 2
- 第4回 アイソスタシー（大陸と海洋の地下構造）
- 第5回 大陸移動説
- 第6回 海洋底拡大説
- 第7回 プレートテクトニクス
- 第8回 プレート境界での地殻変動現象（地震・火山活動・造山運動）
- 第9回 日本列島での地殻変動現象（地震・火山活動・造山運動）
- 第10回 大気と太陽エネルギー
- 第11回 大気による紫外線の吸収
- 第12回 地球の熱収支と温室効果
- 第13回 地球の誕生
- 第14回 大気の進化と生命 1
- 第15回 大気の進化と生命 2

6. 留意事項

概ね上記の順に講義を進める予定であるが、変更する場合もある。

講義コード	10152601		
科目名	環境学概論A		
担当者	原田 智代		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[日]		
前提科目			
テキスト	『地球のなおり方』 ド・ホ・H・ド・ウガ 他 ダイヤモンド社 2008年（2005年初版）		
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10152602		
科目名	環境学概論B		
担当者	原田 智代		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[日]		
前提科目			
テキスト	『地球のなおり方』 ド・ホ・H・ド・ウガ 他 ダイヤモンド社 2008年（2005年初版）		
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

授業を通じて、深刻さを増す環境問題と現代社会のライフスタイルが直結していることに気づくことを目指す。生身の自分を取りまく環境がどのようなものであるかを考える機会にし、その上で、受講者および授業者が同時代、同社会に生きる「人」として共に生きていく姿について考えていきたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 「環境」、「環境問題」について理解する
2. 環境問題とライフスタイル（および自分）との関連に気づく
3. 今後の社会（および自分）のビジョンについて考える

3. 教育・学習の方法

1. 講義が主であるが、受講者が考え、体験する機会とするために教室の条件下で行なえるワークを取り入れる。
2. テキスト

・準備学習の具体的な方法

「テキストの関連ページ」、「発展学習のテーマ」を授業（レジュメ）にて提示する

4. 評価方法・評価基準

毎回のコメント、筆記試験を総合的に評価する

5. 授業予定

- 第1回 環境および環境問題の根本的な認識(1) 環境とは
- 第2回 環境および環境問題の根本的な認識(2) 現代という時代
- 第3回 環境および環境問題の根本的な認識(3) エコシステム①
- 第4回 環境および環境問題の根本的な認識(4) エコシステム②
- 第5回 環境および環境問題の根本的な認識(5) ネイチャーゲーム
- 第6回 環境の危機(1) データで知る環境の危機 “もの”の流れ
- 第7回 環境の危機(2) 水環境1 “水”に関する基本的知識
- 第8回 環境の危機(3) 水環境2 “水環境とは”
- 第9回 環境の危機(4) 公害をふりかえる
- 第10回 環境の危機(5) 食環境1 一気になる食の問題
- 第11回 環境の危機(6) 食環境2 一食の安心・安全
- 第12回 環境の危機(7) 食環境-食と地球環境
- 第13回 環境の危機(8) エネルギー1 エネルギー資源の需給・地球温暖化
- 第14回 環境の危機(9) エネルギー2 原子力発電・エネルギー選択
- 第15回 環境の危機(10) 廃棄物問題-ごみ問題を見る視点、現状

6. 留意事項

講義コード	10153401			
科目名	人間学			
担当者	宮永 泉			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	『パンセ』 パスカル（由木康訳）白水社			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

現代は科学の時代であるが、同時に思想的混迷の時代でもある。このような時代状況を踏まえた上で、人間は一体何のために生きているのか、また如何に生きるべきなのかを、十七世紀フランスの自然科学者にしてカトリック思想家であったパスカルの著作を精読しつつ、共に考えたい。哲学の授業なので、受講者は2回生以上であることが望ましい。前期講義「哲学とキリスト教」と一対をなす。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) パスカルの思想上の名著である『パンセ』を精読する。
- 2) 上と並行して、各自『パンセ』を読み、レポート提出。
- 3) その他、適当な講演会やビデオなどを利用してレポートを提出して貰うことがある。

3. 教育・学習の方法

- 1) 授業方法： 講義と講読の併用。
- 2) 学習方法： テキストの予習。

・準備学習の具体的な方法

パスカル著（由木康訳）『パンセ』（白水社）について、授業で読む箇所を必ず予習してくること。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポート[60%]を以て総合的に行う。毎回必ず予習をして授業に出て、しっかり耳を傾けることが最も大切である。

3分の2以上の出席を要す。

5. 授業予定

- 第1回 (1) 授業準備 (単位認定の仕方の説明等)
 (2) 哲学の三つの型
 第2回 バスカルについての概説、『サシとの対話』
 第3回 『サシとの対話』と『パンセ』の関係
 第4回 『パンセ』講読：断章60
 第5回 同上：断章61
 第6回 同上：断章62
 第7回 同上：断章63
 第8回 同上：断章64～68
 第9回 同上：断章69～71
 第10回 同上：断章72
 第11回 同上：断章72
 第12回 同上：断章72
 第13回 同上：断章72
 第14回 同上：断章73
 第15回 同上：断章73、まとめ

6. 留意事項

講義コード	10153501
科目名	情報演習ⅡA
担当者	統括 吉田
単位数	1 配当学年 1234
資格	[情][日][ウ]
前提科目	
テキスト	授業内で、Word/Excel/PowerPoint2010 の活用を扱ったテキスト(1500円程度)を購入していただきます。
参考文献	
備考	定員35人 「情報演習Ⅰ」を履修していることが望ましい
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 共生・協働する力 コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 主体的に行動する力

講義コード	10153502
科目名	情報演習ⅡB
担当者	統括 吉田
単位数	1 配当学年 1234
資格	[情][日][ウ]
前提科目	
テキスト	授業内で、Word/Excel/PowerPoint2010 の活用を扱ったテキスト(1500円程度)を購入していただきます。
参考文献	
備考	定員35人 「情報演習Ⅰ」を履修していることが望ましい
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 共生・協働する力 コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 主体的に行動する力

講義コード	10153503
科目名	情報演習ⅡC
担当者	統括 吉田
単位数	1 配当学年 1234
資格	[情][日][ウ]
前提科目	
テキスト	授業内で、Word/Excel/PowerPoint2010 の活用を扱ったテキスト(1500円程度)を購入していただきます。
参考文献	
備考	定員35人 「情報演習Ⅰ」を履修していることが望ましい
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 共生・協働する力 コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 主体的に行動する力

講義コード	10153504
科目名	情報演習ⅡD
担当者	統括 吉田
単位数	1 配当学年 1234
資格	[情][日][ウ]
前提科目	
テキスト	授業内で、Word/Excel/PowerPoint2010 の活用を扱ったテキスト(1500円程度)を購入していただきます。
参考文献	
備考	定員35人 「情報演習Ⅰ」を履修していることが望ましい
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 共生・協働する力 コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 主体的に行動する力

講義コード	10153505
科目名	情報演習ⅡE
担当者	統括 吉田
単位数	1 配当学年 1234
資格	[情][日][ウ]
前提科目	
テキスト	授業内で、Word/Excel/PowerPoint2010 の活用を扱ったテキスト(1500円程度)を購入していただきます。
参考文献	
備考	定員35人 「情報演習Ⅰ」を履修していることが望ましい
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 共生・協働する力 コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

本コースは「情報演習Ⅰ」の内容をすでに学んでいることを前提に授業を進める。よって「情報演習Ⅰ」の履修済であることが望ましい。本コースは、企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、およびプレゼンテーションソフトの実習を通して応用スキルを習得し、社会へ出る前のIT応用力を養うことを目的とする。コースで使用するソフト(Microsoft Office2010製品)の知識、操作などのレベルを客観的に測る基準とされる、Microsoft Office Specialist【MOS】資格への対応力を養い、資格取得のための一助とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 日本語文書ソフト
2. 表計算ソフト (表計算、グラフ、データベース、関数)
3. プレゼンテーションソフト
4. ソフトとソフト間の相互利用

3. 教育・学習の方法

実習を中心に授業を行う。

・準備学習の具体的な方法

復習を兼ねた課題を作成してもらおうので期日までに提出すること。

4. 評価方法・評価基準

授業参加 (40%)、課題 (20%)、実技確認テスト (40%) の総合点で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス、表計算ソフトの基本操作 (入力、四則演算、罫線、基本的な関数など)
- 第2回 表計算ソフトの基本操作 (絶対参照、グラフ、データベースなど)
- 第3回 表計算ソフトの応用操作 (round 関数・if 関数など、各種印刷など)
- 第4回 表計算ソフトの応用操作 (関数を組み合わせて使用)
- 第5回 表計算ソフトの応用操作 (データベース、3D集計など)
- 第6回 表計算ソフトの応用操作 (データとコンテンツの作成・書式設定、ブックの管理など)
- 第7回 プレゼンテーションソフト (コンテンツの作成・書式設定、グループ作業、プレゼンテーションの管理と実行など)
- 第8回 プレゼンテーション (グループ発表、フィードバック)
- 第9回 プレゼンテーション (グループ発表、フィードバック)
- 第10回 日本語文書作成ソフト (コンテンツの作成・整理、書式設定、グループ作業、文書の書式設定と管理など)
- 第11回 日本語文書作成ソフト (コンテンツの作成・整理、書式設定、グループ作業、文書の書式設定と管理など)

- 第12回 Microsoft Office Specialist【MOS】(Word2010・Excel2010) 対策
 第13回 Microsoft Office Specialist【MOS】(Word2010・Excel2010) 対策
 第14回 総合実習 (ソフトとソフト間の相互利用の実習を含む)
 第15回 まとめ (実技確認テスト中心)

6. 留意事項

講義コード	10154101		
科目名	資格日本語		
担当者	吉田 智子		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	留学生以外は履修できない		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

外国人留学生在が本学での勉学に対応できる日本語の能力向上を目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

3. 教育・学習の方法

・準備学習の具体的な方法

4. 評価方法・評価基準

平成22年度以前の場合、日本留学試験において日本語の得点が290点以上の者に2単位認定する。

290点以上：C、330点以上：B、360点以上：A。

平成23年度以降の場合、日本留学試験において日本語の得点が290点以上の者に2単位認定する。

290点以上：可 330点以上：良、360点以上：優 400点以上：秀

5. 留意事項

独立行政法人 学生支援機構の成績通知書を教務学事課に提出すること。

講義コード	10154201		
科目名	キャリア形成A		
担当者	喜多 泰子		
単位数	2	配当学年	2
資格	[情]		
前提科目			
テキスト	伊ハル・ブルックス・マイヤーズ 著 園田由紀訳『MBTIタイプ入門』JPP 株式会社 予価2,100円		
参考文献	MBTIの検査費用として別途1050円必要。		
備考	定員40人 <旧>101554 キャリア形成I・101555 キャリア形成II		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10154202		
科目名	キャリア形成B		
担当者	喜多 泰子		
単位数	2	配当学年	2
資格	[情]		
前提科目			
テキスト	伊ハル・ブルックス・マイヤーズ 著 園田由紀訳『MBTIタイプ入門』JPP 株式会社 予価2,100円		
参考文献	MBTIの検査費用として別途1050円必要。		
備考	定員40人 <旧>101554 キャリア形成I・101555 キャリア形成II		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10154203		
科目名	キャリア形成C		
担当者	喜多 泰子		
単位数	2	配当学年	3
資格	[情]		
前提科目			
テキスト	伊ハル・ブルックス・マイヤーズ 著 園田由紀訳『MBTIタイプ入門』JPP 株式会社 予価2,100円		
参考文献	MBTIの検査費用として別途1050円必要。		
備考	定員40人 <旧>101554 キャリア形成I・101555 キャリア形成II		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

大学生活の中盤を迎える2年生・3年生を対象に、大学生活の振り返りを行い、今後のキャリアプランについて考える科目である。そのために少人数のグループワークを中心に行い、グループワークから得た気づきを今後のキャリアプランの作成や実践に生かしていく。また社会の情報収集や他者との関わり方を学ぶことで社会への理解を深め、実社会へ役立てていくものである。

自己理解のメソッド「MBTI」(セルフアセスメント心理検査)を活用することで自己肯定観を高め、人の多様性も理解した上で、自分自身のキャリア形成に対し、興味や関心の動機についての「気づき」を得ることができる。さらに、個々の学生に対するキャリアカウンセリングを充実させ、学生一人一人に応じたキャリア意識形成をサポートする。

2. 教育・学習の個別課題

①一人ひとりのキャリアプランの作成ができる

②卒業後に出ていく社会について必要な情報を探することができるようになる。

③自己分析ができ、自分の強みがPR(自己表現)できるようになること

④社会で求められる核となるコミュニケーションスキルを習得し、活用できること

3. 教育・学習の方法

①講義を積極的に傾聴すること

②グループワークに積極的に参加すること

③講義中に指示したレポートを通して自己理解を深めること

・準備学習の具体的な方法

・社会の一員としての心構えを持って、授業に臨むことを基本ルールとする。

・授業では、グループワークを中心に展開するので積極的に参加すること。

4. 評価方法・評価基準

参加態度(60%)、授業後の小レポート(20%)、最終レポート(20%)の評価を基本とする。

5. 授業予定

第1回 総合ガイダンス(講義の目的) 受講ルールの説明 宿題など

第2回 キャリアプランを考える 理論編

第3回 自己理解①自分について考えよう 自分の価値観を洗い出す

第4回 自己理解②MBTI性格検査とFB 1回目

第5回 自己理解③MBTI性格検査とFB 2回目

第6回 自己理解④MBTI性格検査とFB 3回目

第7回 社会を知る①社会で求められる力とは 就職活動を通して考える

第8回 社会を知る②社会で求められる力とは グループワークを通して考える

第9回 社会を知る③社会で求められる力 働く力を考える

第10回 自己表現①コミュニケーションとは

第11回 自己表現②インタビュー形式での自己分析

第12回 自己表現③履歴書の書き方、自己PRを書く

第13回 自己表現④面接で自分を表現する

第14回 自己表現⑤グループで自分を表現する 自己PRをプレゼンする

第15回 講義のまとめ 自分のキャリアデザインを実践する

6. 留意事項

キャリア形成A、B、Cは同じ内容になります。また制限人数を40人未満とするため人数が超えた場合には1回目のガイダンスで抽選とします。また自己理解のためのMBTI性格検査は集中講義として3回分を土曜日1日で行います。詳細は1回目のガイダンスで確認すること。

講義コード	10154301		
科目名	心理学概論A		
担当者	服部 郁子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[社][精][日][フ]		
前提科目			
テキスト	『ダイアグラム心理学』 石田・岡・桐木・富永・道田 北大路書房 1995		
参考文献	必要に応じて講義の中で紹介する。		
備考	※平成19年度以後入学者に適用		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10154302		
科目名	心理学概論B		
担当者	服部 郁子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[社][精][日][フ]		
前提科目			
テキスト	『ダイアグラム心理学』 石田・岡・桐木・富永・道田 北大路書房 1995		
参考文献	必要に応じて講義の中で紹介する。		
備考	※平成19年度以後入学者に適用		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

心理学とは「心」を対象とした非常に幅広い学問である。「心理学」と言われたときに一般的にイメージされやすい臨床的なものから、知覚や思考といった認知過程、個人と集団や社会との関わりまで、さまざまな研究がある。この講義では、認知的な基礎研究を中心に、心理学の様々な研究領域とそこで積み重ねられてきた知見を幅広く概観する。また、この講義では、さまざまな視覚教材や実習教材を使うことで、心理学とはどのような学問であるのかを初めて学ぶ人にもわかりやすく理解してもらうことを目指している。

2. 教育・学習の個別課題

1. 心理学研究の基本的な考え方 … その歴史とアプローチ … 2. 脳の基本構造とところ 3. 記憶の性質としくみ 4. 知識と表象 5. 注意とエラー 6. 認知と情動 7. 学習と発達 8. 社会とところ—対人関係・集団—

3. 教育・学習の方法

・パワーポイントおよび教科書を用いて講義をおこなう。プリントを必要に応じて配布する。

・授業では、教科書の該当する章の記述内容、図・表等を参照しながら講義を進めていくので、授業開始までに教科書を用意しておくこと。ただし、教科書にない最新の研究やより詳しい説明も適宜行うので、各自で必ずノートを取り、ノートも合わせて復習すること。

・準備学習の具体的な方法

・教科書、プリントおよび自分のノートを参照して、こまめに復習すること。
・各回の講義前に、教科書の該当部分を予習しておくことが望ましい。

4. 評価方法・評価基準

・最終試験の成績に基づいて、講義内容の理解度を評価する(100%)。
・出席点は評価にいけない。ただし、最終試験の受験資格は、最終試験日を除く授業日の60%以上(9回以上)に出席していることとする。
・講義の復習を各自できちんとに行い、不明な点があれば質問して、理解を深めるよう努力すること。

5. 授業予定

第1回 授業の概要と導入/この授業で扱う心理学とはどのようなものか

成績評価方法等、受講に関する諸注意/心理学とは(1章)

第2回 心理学研究の基本的な考え方 … その歴史とアプローチ … 心理学とは(1章)

第3回 脳の基本構造とところ

脳と行動(10章)

第4回 記憶の性質としくみ(1) 記憶(7章)

第5回 記憶の性質としくみ(2)

記憶(7章)

第6回 記憶の性質としくみ(3)

記憶(7章)

第7回 知識と表象(1)

記憶(7章)

第8回 知識と表象(2)

記憶(7章)

第9回 注意とエラー

認知(6章)

第10回 認知と情動

情動と動機づけ(9章)、脳と行動(10章)

第11回 学習と行動(1)ーレスポナント条件付けー

学習(8章)、情動と動機づけ(9章)

第12回 学習と行動(2)ーオペラント条件付けー

学習(8章)、情動と動機づけ(9章)

第13回 学習における社会の役割

学習(8章)、社会の中の個人(4章)、対人関係・集団(5章)

第14回 心の発達

生涯発達(2章)、パーソナリティ(3章)

第15回 試験と解説、および講義のまとめ

6. 留意事項

最終日の試験では、教科書、参考書、ノートなどの使用は一切不可とする。授業をきちんと聴いて、教科書の該当する章を予習、復習し、講義内容をあらかじめよく理解しておくこと。

講義コード	10154401		
科目名	体育講義		
担当者	内田 和寿		
単位数	1	配当学年	1234
資格	[教][保]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	前期集中 ※平成19年度以後入学者に適用		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

適度な運動は、健康増進につながるということは誰でも知っているが、現代の青少年は運動する機会がさまざまな要因によって少なくなってきており、体力が低下しているのが実情である。本科目では、青少年の体力の低下が、日常生活にどのような影響を及ぼすのかについて学び、スポーツ、運動の重要性について理解することを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

・3つの「間」の喪失が、現代の子どもにも与える影響について理解する。
・体力、運動能力の低下が引き起こす問題について理解する。
・スポーツや運動の実践が、身体・精神に与える影響について理解する。
・日常生活にスポーツ、運動をどのように取り入れるかについて考察する。
・発育発達とスポーツ・運動、発達段階に応じたトレーニングについて理解する。

3. 教育・学習の方法

・講義とそれに基づく課題についてのディスカッションを中心に展開する。
・テキストについては授業の中で指示を行い、資料については適宜配布する。

・準備学習の具体的な方法

初回に、講義を通して使用する資料をすべて配布するので、休み時間を用いて資料を熟読して参加することが望ましい。

4. 評価方法・評価基準

テスト90点、レポート10点として総合評価を行う。テストは、すべての講義に出席した受講者に受験資格を認める。テストとレポートの合計得点が60点に満たない場合、単位認定には至らない。

5. 授業予定

第1回 現代生活における健康、体力の問題

第2回 加齢現象、健康とは、体力の分類

第3回 スポーツの概念と歴史

第4回 スポーツ、運動の心理的効果

第5回 生涯にわたるスポーツ、運動の必要性

第6回 子ども時代のスポーツ、運動が大人のQOLに及ぼす影響

第7回 運動中に起こりやすい怪我と処置について

第8回 (45分)：発育発達期の身体的特徴について

第9回 テスト

6. 留意事項

2日間の集中講義。 昨年度のテスト平均点 58/90 点 (64%)、単位認定者は 35/42 名。

講義コード	10154601		
科目名	身近な植物学入門		
担当者	菅井 啓之		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献	『写真で見る植物用語』 岩瀬徹、大野啓一 全国農村教育協会 2004		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

身近な植物に目を向け、植物学の視点から詳しく観察することで、今まで見過ごしていた植物の生きる知恵に気づき、たくましく生きている姿を実感的に学ぶことができる。さらに植物の生態や進化、人と植物との関係などより一層興味関心を広げると共に、自分で植物を観察する楽しみを深めることができる。

2. 教育・学習の個別課題

- ・植物の観察の仕方、見る視点を学ぶ。
- ・植物の形態・生態の特徴を学ぶ。
- ・植物図鑑の使い方が分かる。
- ・植物と人との深い関係が理解できる。

3. 教育・学習の方法

スライドやVTR、図等を使って植物の見方を学ぶと共に、できる限り野外において直接植物に接し実感的に植物の生き方や知恵を学ぶ。

・準備学習の具体的な方法

今までの自分の植物に関する体験や知識を振り返り、植物という生物の生き様をどれ程深く認識できているかを再検討する。また、雑草と呼ばれる草本類やコケなどに対する自分自身の興味関心度を振り返る。できれば自分が持っているあるいは今までに使ったことのある植物図鑑を取り出してみる。

4. 評価方法・評価基準

野外実習のレポート 30%、毎回の授業の振り返り 30%、小テスト 30%、授業態度 10%

5. 授業予定

- 第1回 植物観察の仕方
- 第2回 植物図鑑の使い方
- 第3回 植物の形とくらし
- 第4回 植物の記録とスケッチ
- 第5回 植物学から見た野菜や果物の観察
- 第6回 植物野外実習 (1) 学内・公園の植物
- 第7回 街路樹と庭木
- 第8回 植物野外実習 (2) 野原の植物
- 第9回 田畑の雑草と野原の野草
- 第10回 植物野外実習 (3) 里山の植物 (宝が池の雑木林)
- 第11回 雑木林の植物
- 第12回 植物野外実習 (4) 下賀茂神社の森の植物
- 第13回 樹木と日本文化
- 第14回 植物野外実習 (5) 京都府立植物園
- 第15回 園芸植物と私たちの暮らしを考える

6. 留意事項

京都府立植物園の入園料 200 円

野外実習においては、歩きやすい服装・靴、帽子などが必要但し、受講人数によっては実習内容を変更する場合もある。

講義コード	10154701		
科目名	暮らしの統計学		
担当者	廣瀬 直哉		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献	『統計数字を読み解くセンス』 青木繁伸 化学同人 2009 『マンガでわかる統計学』 高橋信 オーム社 2004 『統計数字を疑う なぜ実感とズレるのか?』 門倉貴史 光文社 2006 『悩めるみんなの統計学入門』 中西達夫 技術評論社 2010		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

統計学は、数学の中で最も生活に密着した分野であり、また、企業においても、数学の中で学んでもらいたい分野の上位にあげられることが多い。本科目では身近な暮らしに関係した統計データを基に、統計学を学ぶことで、社会における様々な統計データを読み解く能力を身につけることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 統計データの種類や集計法の理解
2. グラフの種類と特徴の理解
3. 統計データの代表的な指標の理解
4. 二変量データの表現の理解

3. 教育・学習の方法

PowerPoint、Excel、統計ソフトなどを使って、主として講義形式により、それぞれのトピックの解説を行う。また、授業時に簡単な演習を行ってもらうことがある。テキストは使用せず、必要な授業資料等は、Web から入手してもらう。

・準備学習の具体的な方法

各授業前に、Web から授業資料を入手・印刷して、読んで予習しておくこと (具体的な方法は、初回に説明する)。

4. 評価方法・評価基準

数回課題レポートを提出してもらう。提出物(100%)に基づき評価を行う。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 データの種類
- 第3回 データの集計
- 第4回 様々なグラフ
- 第5回 代表値
- 第6回 期待値
- 第7回 散布度
- 第8回 調査の方法
- 第9回 標本調査
- 第10回 分布
- 第11回 標準化得点
- 第12回 2変数の関係
- 第13回 相関と因果
- 第14回 帰帰
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

本科目の目標は、統計データの理解であり、自力で統計分析ができるようになることではない。したがって複雑な計算式等は扱わないが、理解するためには多少の計算や数式は必要であるので、最低限の数学的な素養は必要である。

講義コード	10154801			
科目名	聖書と文化A			
担当者	中里 郁子			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『新共同訳『聖書』(旧約聖書続編つき)』 日本聖書協会			
参考文献	『キリスト教以前のイエス』 アルバート・ノーラン 新世社 1994 その他の参考文献は授業中に紹介する。			
備考	選択必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10154802			
科目名	聖書と文化B			
担当者	中里 郁子			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『新共同訳『聖書』(旧約聖書続編つき)』 日本聖書協会			
参考文献	『キリスト教以前のイエス』 アルバート・ノーラン 新世社 1994 その他の参考文献は授業中に紹介する。			
備考	選択必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

新約聖書の福音書に描かれるイエスを一世紀のパレスチナで生きた一人の人間として眺め、当時の文化的背景を考慮しつつ、キリスト教成立以前のありのままの人間としてのイエスを探究し、当時の人々にとってイエスが信仰の対象となるに至る過程をイエス時代の文化との関係において理解する。

2. 教育・学習の個別課題

1 福音書に描かれるイエスの言葉と行為 2 イエス時代のユダヤ人の文化 3 イエス時代の人々の生活 4 イエスの裁判とユダヤ人の伝統 5 イエスへの信仰

3. 教育・学習の方法

1 授業方法は講義を中心とするが、聖書を読み、参考文献を調べて積極的に発言する対話の時間を設けて、受講者の能動的学習を促す。2 随時参考資料を配布する。

・準備学習の具体的な方法

関連する聖書の箇所、参考文献をあらかじめ読んで授業に臨む。

4. 評価方法・評価基準

1. 出席率・授業参加度(30%)、学期末レポート(70%)に基づいて総合的に行う。 2. 3分の2以上の出席を必要とする。

5. 授業予定

- 第1回 イエスの時代の文化的背景
- 第2回 洗礼者ヨハネとその預言
- 第3回 イエスと当時の人々
- 第4回 イエスによる癒し
- 第5回 イエスによる赦し
- 第6回 神の国と初代教会の共同体
- 第7回 イエスの生きた連帯
- 第8回 古代ユダヤ人の時の観念と歴史感覚
- 第9回 神の国の到来
- 第10回 イエスの時代の政治的背景
- 第11回 神殿の清め
- 第12回 ユダヤ人のメシア待望
- 第13回 ユダヤ人の殉教の伝統
- 第14回 イエスの裁判
- 第15回 イエスへの信仰

6. 留意事項

講義コード	10155201			
科目名	女性の権利A			
担当者	藤田 朋子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[子]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10155202			
科目名	女性の権利B			
担当者	藤田 朋子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[子]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

学生が今後社会で出会うかもしれない出来事を想定し、それらを社会制度や女性にとっての権利と結び付けて考えること。

2. 教育・学習の個別課題

- ・労働
- ・結婚
- ・子育て

3. 教育・学習の方法

授業時にプリントを配布するとともに、課題提出を求める。

・準備学習の具体的な方法

日常生活において、時事問題などに関心を持つこと。

4. 評価方法・評価基準

平常点50%(出席、課題)、筆記試験50%に基づいて、総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 序論
- 第2回 これからの人生
- 第3回 今までの学校生活で出会ったかもしれないこと
- 第4回 学生生活で出会うかもしれないこと①
- 第5回 就職活動で出会うかもしれないこと
- 第6回 卒業後に出会うかもしれないこと①
- 第7回 卒業後に出会うかもしれないこと②
- 第8回 社会で出会うかもしれないこと①
- 第9回 「ワーク・ライフ・バランス」
- 第10回 社会で出会うかもしれないこと②
- 第11回 社会で出会うかもしれないこと③
- 第12回 社会で出会うかもしれないこと④
- 第13回 社会で出会うかもしれないこと⑤
- 第14回 試験
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10155301			
科目名	生命倫理A 医療技術の進歩と我々の生命観			
担当者	松井 吉康			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	なし			
参考文献	授業中に指示する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	10155302			
科目名	生命倫理B 医療技術の進歩と我々の生命観			
担当者	松井 吉康			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	なし			
参考文献	授業中に指示する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

「臓器移植」「薬害」「障害者問題」さらには女性の人生にとって大きな問題である「妊娠、出産、中絶」といった「リプロダクティブヘルス」に係る事柄について、その背景となる基本的知識を習得し、それらを通して自らの生命観を捉え直してもらう。

2. 教育・学習の個別課題

現代社会における善悪の理解、先端医療技術についての知識の習得、経済原理と生命の尊厳、リプロダクティブヘルスについての基礎知識の習得、障害学、「私の生命」へのまなざし

3. 教育・学習の方法

倫理学についての基本的知識を習得した後、様々な問題についてドキュメンタリーを見せ、それらについて考えてもらう。

・準備学習の具体的な方法

普段から自分の身の回りで起こっている出来事やニュースなどで報じられる医療問題、社会問題について関心を持つようにしておくことが望ましい。

4. 評価方法・評価基準

主に最終試験による。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 倫理学とは
- 第3回 現代社会の善悪の基準
- 第4回 技術の進歩と善悪
- 第5回 薬害
- 第6回 先端医療、安楽死
- 第7回 卵子老化
- 第8回 リプロダクティブヘルス
- 第9回 出生前診断
- 第10回 様々な障がい
- 第11回 性と生
- 第12回 中絶、減胎手術
- 第13回 出産のリスク
- 第14回 ダウン症
- 第15回 「私」と「私の生命」

6. 留意事項

出来るだけ質疑応答の多い授業にしたいと思っています。教師が毎回、様々な問いを投げ掛けますが、学生の側からも色々な質問や発言が出てくる事を期待しています。

講義コード	10155601			
科目名	ホスピタリティ入門A			
担当者	岩田 真理子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[木][医]			
前提科目				
テキスト	テキストは使用しない。都度、資料を配布しながらすすめる。			
参考文献	別途指示			
備考	定員100人 英語英文学科は履修できない			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10155602			
科目名	ホスピタリティ入門B			
担当者	岩田 真理子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[木][医]			
前提科目				
テキスト	テキストは使用しない。都度、資料を配布しながらすすめる。			
参考文献	別途指示			
備考	定員100人 英語英文学科は履修できない			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「ホスピタリティ」という概念について多角的に探究する。「ホスピタリティ」を受ける側の視点について主に取り上げ、理解を深める。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

- ・「ホスピタリティ」を考察する中で、人として大切なことについても学ぶ。
- ・文字面だけで理解するのではなく、授業態度も含め、日常生活でのホスピタリティを体得する。

3. 教育・学習の方法

パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。テーマに沿ったディスカッション・発表など随時取り入れる。毎回、小レポートによりホスピタリティを考察する。

・準備学習の具体的な方法

授業で配布される資料をよく理解し、次週のテーマに関連性を持たせ考察してくる。日常生活でホスピタリティを出来るだけ実践する。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業態度(30%)、小レポート(20%)、確認テスト(50%)に基づいて総合的に評価する。

授業総日数の2/3以上の出席を求める。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーションーホスピタリティへのアプローチーホスピタリティの概念を理解する。本講座で取り上げるホスピタリティへのアプローチの方法を理解する。
- 第2回 ホスピタリティとは一言葉からのアプローチー「ホスピタリティ」の語源からアプローチする。ホスピタリティの定義とはどのようなものであるのかを考察する。
- 第3回 ホスピタリティと人間ー人間の感情とホスピタリティーホスピタリティを提供する動物としての人間の存在からホスピタリティを紐解いていく試みをする。
- 第4回 ホスピタリティと文化①ー文化・感情表現・地域のおもてなしーホスピタリティの表出の仕方、感じ方などに文化や時代による違いなど、地域や文化・文明による差異を考察してみる。
- 第5回 ホスピタリティと文化②ー歴史とホスピタリティーホスピタリティの歴史を考察する。時代の変遷と社会の変遷においてなにか変わりがあるのかないのかを考察する。
- 第6回 ホスピタリティと産業①ー産業構造の変化とホスピタリティの重要性ーサービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。
- 第7回 ホスピタリティと産業②ー産業・社会の変化とホスピタリティを考えるーホスピタリティ産業の変化を予測し、社会の変化に

- ともなってホスピタリティ産業というものの変化を推測してみる。
- 第8回 ホスピタリティと産業③—エアラインにおけるホスピタリティ— 航空機を運航する商品とはどのような特徴があるのかを考える。実際のエアライン（ANA）をモデルとして考えてみる。
- 第9回 ホスピタリティとチームワーク—チームの力と個人の力— 企業や地域社会など、ホスピタリティをチームで生み出す為に必要な要素とは何かを検討する。
- 第10回 ホスピタリティとコミュニケーション—相互作用を生み出すコミュニケーション— ホスピタリティを相手に伝えるためにはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。
- 第11回 点と点をむすぶホスピタリティ—地域とホスピタリティとの関係— 人は航空機によって点と点を移動する。地域と航空輸送との関係からホスピタリティを考える。
- 第12回 ホスピタリティと観光産業①—観光産業で発揮されるホスピタリティ— ホスピタリティが観光産業の中で発揮されるべきこととその必要性を考える。
- 第13回 ホスピタリティと観光産業②—旅行者心理を考える— 観光の主体である旅行者についてとりあげ、旅行者にとってのホスピタリティはどのようにあるべきかを考える。
- 第14回 ホスピタリティと観光産業③—現在の（場所）での観光産業でホスピタリティが発揮できるもの— 観光および航空輸送に焦点をあてて演習を組み込みながら観光客に対するホスピタリティを考える。
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10156101		
科目名	アラビア語 I		
担当者	鷲見 朗子		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『初歩のアラビア語』 鷲見朗子 放送大学教育振興会 2011		
参考文献	『パスポート日本語アラビア語辞典』 本田幸一他編 白水社 2004 『パスポート初級アラビア語辞典』 本田幸一他編 白水社 1997		
備考	定員40人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力 ✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力 ✓

1. 科目の教育目標

「アラビア語」と聞いて、どこで、だれが話しているのかと疑問に思う人も多いだろう。日本ではまだ馴染みの少ない言語であるが、実は中東・北アフリカを中心とする国々で用いられ、世界の言語の中でも大変広い地域で話されているのである。また国連の公用語の1つにも教えられている（他の5つは英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語）。このアラビア語を母語とする人々をアラブ人、大多数がアラブ人である地域をアラブ地域と呼んでいる。またアラビア語は世界三大宗教の1つであるイスラームの言葉として重要な位置を占めている。

この科目はそんなアラビア語に興味を持ち始めてみたい学生、以前に勉強したことはあるがもっと上達したい、もう一度復習をしたいという学生を対象とする。

科目の目標はアラビア語の読み・書き・聞く・話す基本を習得することである。またアラブ・イスラーム文化特有の言語表現法やコミュニケーション法を学んで、スピーキング能力を養う。

2. 教育・学習の個別課題

- 28文字から成るアラビア語のアルファベットの書き方・発音を学ぶ。
- 教科書の基本文や会話を理解し、文法を学ぶ。
- ドリルで応用力をつける。
- アラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化を理解する。

3. 教育・学習の方法

- 予習で事前に課題を理解し、語彙など必要事項を記憶する。
- 授業で十分に理解する。
- 授業中のテストで理解の確認を行う。
- 復習で学習したことを把握し、保持する。

・準備学習の具体的な方法

- 教科書の課された範囲を毎回予習する。
- 小テストがある場合は、それに備える。

4. 評価方法・評価基準

授業参加（25%）、小テスト・宿題（25%）、試験（50%）。
5回以上の欠席者には単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 アラビア語とは
- 第2回 「こんにちは」アラビア語のアルファベット
- 第3回 「おはよう」アラビア語のアルファベット
- 第4回 「またお会いするまで」アラビア語のアルファベット
- 第5回 「こんばんは」アラビア語のアルファベット
- 第6回 「ありがとう」アラビア語のアルファベット
- 第7回 「ようこそ」アラビア語のアルファベット
- 第8回 「お元気ですか」アラビア語のアルファベット以外の文字と記号
- 第9回 「アッサラーム・アライクム」太陽文字と月文字
- 第10回 「あなたの名前は？」〇〇人という表現、数字1~10
- 第11回 「私の名前は…」名前の書き方
- 第12回 「はい」「いいえ」格について
- 第13回 「ごめんなさい」名詞の性について
- 第14回 「あなたは学生ですか」独立人称代名詞
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	10156201		
科目名	アラビア語 II		
担当者	鷲見 朗子		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『初歩のアラビア語』 鷲見朗子 放送大学教育振興会 2011		
参考文献	『パスポート日本語アラビア語辞典』 本田幸一他編 白水社 2004 『パスポート 初級アラビア語辞典』 本田幸一他編 白水社 1997		
備考	定員40人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力 ✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力 ✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力 ✓

1. 科目の教育目標

この科目は前期科目「アラビア語 I」に続いて開講される科目である。前期で培ったアラビア語の読み・書き・聞く・話す能力をさらに伸ばし、応用力をつけていく。基本フレーズと会話表現から文法を理解し、実践力を身につける。実際のアラブ・イスラーム文化に触れながら、さらなる言語表現法やコミュニケーション法の習得に努める。

2. 教育・学習の個別課題

- 教科書の基本文や会話を理解しながら、文法を学ぶ。
- ドリルで応用力をつける。
- アラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化を理解する。

3. 教育・学習の方法

- 予習で事前に課題を理解し、語彙など必要事項を記憶する。
- 授業で十分に理解する。
- 授業中のテストで理解の確認を行う。
- 復習で学習したことを把握し、保持する。

・準備学習の具体的な方法

- 教科書の課された範囲を毎回予習する。
- 小テストがある場合は、それに備える。

4. 評価方法・評価基準

授業参加（25%）、小テスト（25%）、試験（50%）。
5回以上の欠席者には単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 前期の復習
- 第2回 「モスクはどこですか」定冠詞
- 第3回 「それはここから近いですか」形容詞
- 第4回 「こちらはどなたですか」接尾人称代名詞
- 第5回 「これは私の父です」「〇〇があります」指示代名詞
- 第6回 「いつもみなさんがお元気でありますように」イダーファ
- 第7回 「あなたたちは車を持っていますか」前置詞を使った所有表現
- 第8回 「これらのお寺や神社は素晴らしいです」双数・複数
- 第9回 「2つの有名な公園があります」名詞と形容詞の一致
- 第10回 「アラビア語を勉強しています」動詞未完了形
- 第11回 「この石けんはいくらですか」動詞未完了形

- 第12回 「パレスチナ料理を食べましたか」 動詞完了形・語根
- 第13回 「私は彼がとても好きなの」等位文の否定ライサ
- 第14回 「彼は日本では知られていないよ」自己紹介
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

前期科目「アラビア語Ⅰ」の履修者およびそれと同等のアラビア語の学力を備えていると担当教員がみなした者を対象とする。

講義コード	10156301		
科目名	アラビア語Ⅲ		
担当者	鷲見 朗子		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	参考文献を組み合わせたものを授業で配布する。		
参考文献	『AlKitaab Part1 2nd ed.』 AlBatal Georgetown UP 『Mastering Arabic 1 2nd ed.』 Wightwick Hippocrene 『初歩のアラビア語』 鷲見朗子 放送大学教育振興会 2011 参考URL にあげたコンテンツも授業で使用する。		
備考	定員40人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		✓
	コミュニケーションする力	✓	✓
	思考・解決する力		✓
	共生・協働する力		✓

1. 科目の教育目標

本科目の目標は、「アラビア語Ⅰ」「アラビア語Ⅱ」で学んだことを基盤に、新しい挨拶表現、語彙、動詞活用、文法事項、正しい発音を習得し、スキット、ドリル、会話を通じて、より高度なコミュニケーション力を伸ばすことである。また、アラビア語学習のなかでアラブ・イスラーム文化の理解もさらに育んでいく。

2. 教育・学習の個別課題

1. コミュニケーション力を伸ばす。
2. 文法事項を正確に理解する。
3. 語彙・表現力をつける。
4. 正しい発音を身につける。
5. アラブ文化の理解を促進する。

3. 教育・学習の方法

1. ペア・グループ学習
2. 講義
3. 演習

・準備学習の具体的な方法

1. 予習・復習
2. CD, DVD の視聴
3. 小テストに備えて学習

4. 評価方法・評価基準

授業参加 (20%)、小テスト・宿題 (30%)、試験 (50%)。

5回以上の欠席者には単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「いつ旅行から帰りましたか」(動詞の復習)
- 第3回 「私は彼がとても好きなの」(曜日・月の表現)
- 第4回 「僕は教師だったんだ」(カーナの活用)
- 第5回 「何時ですか」(時間の表現)
- 第6回 「3本のペンがあります」(基数と序数 0~10)
- 第7回 「ジュースが飲みたいです」(動詞完了接続法)
- 第8回 「月曜日に彼女に会いました」(曜日・月)
- 第9回 「犬はテーブルの下にいます」(前置詞と接尾人称代名詞)
- 第10回 「今日は何度ですか」(基数と序数 11~19)
- 第11回 「親愛なるアフマドへ」(はがきの書き方)
- 第12回 「毎朝何時に家を出ますか」(日常行動の表現)
- 第13回 「大学ではアラブ文学を専攻しています」(教育についての表現)
- 第14回 「砂糖を1袋とりんごを3つください」(動詞命令形)
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

「アラビア語Ⅰ」「アラビア語Ⅱ」の単位取得者およびそれと同等のアラビア語の学力を備えていると担当教員がみなした者を対象とする。

講義コード	10156401		
科目名	アラビア語Ⅳ		
担当者	鷲見 朗子		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	参考文献を組み合わせたものを授業で配布する。		
参考文献	『AlKitaab Part1 2nd ed.』 AlBatal Georgetown UP 『Mastering Arabic 1 2nd ed.』 Wightwick Hippocrene 『初歩のアラビア語』 鷲見朗子 放送大学教育振興会 2011 参考URL にあげたコンテンツも授業で使用する。		
備考	定員40人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		✓
	コミュニケーションする力	✓	✓
	思考・解決する力		✓
	共生・協働する力		✓

1. 科目の教育目標

「アラビア語Ⅰ」「アラビア語Ⅱ」「アラビア語Ⅲ」で学んだことを基盤に、新しい挨拶表現、語彙、動詞活用、文法事項を習得し、スキット、ドリル、会話を通じて、より高度なコミュニケーション力を身につけることをめざす。また、アラビア語学習のなかでアラブ・イスラーム文化の理解もさらに育んでいく。

2. 教育・学習の個別課題

1. コミュニケーション力を伸ばす。
2. 文法事項を正確に理解する。
3. 語彙・表現力をつける。
4. 正しい発音を身につける。
5. アラブ文化の理解を促進する。

3. 教育・学習の方法

1. ペア・グループ学習
2. 講義
3. 演習

・準備学習の具体的な方法

1. 予習・復習
2. CD, DVD の視聴
3. 小テストに備えて学習

4. 評価方法・評価基準

授業参加 (20%)、小テスト・宿題 (30%)、試験 (50%)。

5回以上の欠席者には単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクションと復習
- 第2回 「彼女はまだ家に帰っていません」(動詞完了形要求法)
- 第3回 「トマトサラダをお願いします」(飲食物の表現)
- 第4回 「彼女は彼より背が高い」(比較級の表現)
- 第5回 「それはその国でもっとも古い宮殿です」(最上級の表現)
- 第6回 「この本は1980年に書かれました」(受動態)
- 第7回 「花瓶が割れました」(動詞派生形)
- 第8回 「国際会議が東京で開催されました」(動詞派生形)
- 第9回 「もしあなたが来るなら、私も来ます」(条件節)
- 第10回 「あなたが送った手紙を読みました」(関係代名詞)
- 第11回 「教授は椅子に座っています」(能動分詞)
- 第12回 「この作家は彼の国では知られています」(受動分詞)
- 第13回 「新聞を読むのが好きです」(動名詞)
- 第14回 「あの女性はなんと美しいのだろう！」(感嘆文)
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

「アラビア語Ⅲ」の履修者およびそれと同等のアラビア語の学力を備えていると担当教員がみなした者を対象とする

講義コード	10157001		
科目名	ホスピタリティ京都		
担当者	長沼 光彦・笹岡 隆甫		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[ホ]		
前提科目			
テキスト	プリント配布		
参考文献	『文化としてのマナー（日本の50年 日本の200年）』熊倉功夫 岩波書店 『茶の湯入門』熊倉功夫 平凡社 『いけばな—知性で愛でる日本の美』笹岡隆甫 新潮新書 『香清話—香に聞く、香を聞く』畑正高 淡交社		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 コミュニケーションする力 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力		

1. 科目の教育目標

ライフキャリア・プログラム「京都ホスピタリティ・プログラム」の導入となる授業である。華道・茶道など日本の伝統文化を継承する方、旅行業界・ホテル業界など現代の京都で活躍する方の貴重な話をうかがい、京都とホスピタリティ（もてなし）に関わる理念と実践について、広く具体的に学ぶことが目標となる。また、プログラム全体の目的を知り心構えをすると共に、自分の専門分野と結びつけながら、興味を広げよう。

2. 教育・学習の個別課題

- ・京都を中心とした日本文化とホスピタリティの関わりを知る。
- ・ホスピタリティ実践のために必要な心構えを知る。
- ・人の関わりと文化について自分なりの考えを持つことができる。

3. 教育・学習の方法

・講義をとおして、様々なホスピタリティの理念や実践を知り、京都の文化に対する理解を深める。

・考えをまとめ表現する力を養うために、毎時間の終わりに、講義の内容に対する感想・意見をまとめて提出する。

・準備学習の具体的な方法

- ・授業で紹介した参考文献などを実際に自分で読んでおく。
- ・紹介した参考文献以外にも読書体験を広げ、京都の文化について考えを深める。
- ・授業で紹介された京都の地を実際に自分で歩いてみる。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（30%）、毎時間の意見文（30%）、学期末のレポート（40%）により行う。

5. 授業予定

- 第1回 はじめに
- 第2回 日本の伝統文化ともてなし
- 第3回 華道ともてなし①
- 第4回 華道ともてなし②
- 第5回 華道ともてなし③
- 第6回 華道ともてなし④
- 第7回 華道ともてなし⑤
- 第8回 京都のもてなしと現代
- 第9回 現代京都のもてなし①
- 第10回 現代京都のもてなし②
- 第11回 現代京都のもてなし③
- 第12回 現代京都のもてなし④
- 第13回 現代京都のもてなし⑤
- 第14回 現代京都のもてなし⑥
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

・レポートを書く際に、他人の書いた文章をコピーペーストしたものは認めない。

講義コード	10157301		
科目名	実践の子ども学 創造的学びを挑発する学習環境デザイン		
担当者	上田 信行		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[子]		
前提科目			
テキスト	『プレイフル・ラーニングワークショップの源流と学びの未来』上田信行・中原淳 三省堂 2013		
参考文献	『プレイフル・シンキングー仕事を楽しむ思考法』上田信行 宣伝会議 2009 『協同と表現のワークショップー学びのための環境のデザイン』茂木一司編著 東信堂 2010		
備考	定員30人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓		

1. 科目の教育目標

現代社会を生きる子どもの可能性を、ワークショップなどの実践を通して探求することができる。学びとは何かを根源的に問い直し、これからの時代に必要な子ども学のヴィジョンとミッションを描く。子どもたちの創造力を刺激するための「空間」「道具(オブジェクト)」「学びの共同体」「活動」をデザインし、ワークショップを展開できる。

2. 教育・学習の個別課題

MIT（マサチューセッツ工科大学）で開発されているこども向けプログラミング言語 Scratch を使って作品をつくる。この経験をベースにして多様な「学びの場のデザイン」を考え、実際にワークショップを企画・実施し、評価・改善を行う。

3. 教育・学習の方法

授業はレクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。レクチャーで学んだデザインの枠組みを使って、実際にワークショップを行い、そのプロセスをビデオで記録、編集する。

・準備学習の具体的な方法

教科書をよく読んで、重要概念を整理する。
Scratch でプログラミングして作品をつくる。
デジカメで五感の写真を撮り、アルバムを作成する。
ビデオ編集を Macintosh の iMovie ソフトを使って行う。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（30%）ワークショップへの貢献度（30%）、プレゼンテーション（10%）、レポート（30%）に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 実践の子ども学とは何か
- 第2回 実践の子ども学研究へのアプローチ1：セサミストリートにおける形成的評価の方法
- 第3回 実践の子ども学研究へのアプローチ2：構成主義的な学習環境をどうデザインするか
- 第4回 実践の子ども学研究へのアプローチ3：学びの動機づけとメタ認知
- 第5回 「空間」「道具(オブジェクト)」「学びの共同体」「活動」をデザインする
- 第6回 プレイフル・ラーニング：ワークショップの源流と学びの未来
- 第7回 ワorkshopデザインの方法
- 第8回 MIT Media Lab・Lifelong Kindergarten Group のヴィジョンとミッション
- 第9回 Scratch プログラミング・ワークショップ 1
- 第10回 Scratch プログラミング・ワークショップ 2
- 第11回 Scratch プログラミング・ワークショップ 3
- 第12回 ビデオドキュメンテーションとリフレクション
- 第13回 五感を撮るプロジェクト 1
- 第14回 五感を撮るプロジェクト 2
- 第15回 実践の子ども学「展覧会」

6. 留意事項

授業のワークショップの様子をビデオで記録し、その場で編集し、受講者全員で視聴する。

講義コード	10157401		
科目名	子どもと子育てのための生活環境学		
担当者	中村 久美・牛田 好美・加藤 佐千子・竹原 広実・山本 智也		
単位数	1	配当学年	1234
資格	[子]		
前提科目			
テキスト	毎回の担当教員が資料を配布		
参考文献	授業の中で、関連参考図書を紹介する		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

子どもの発達にとって、さらにその子どもを育てる親も含めた子育て世帯や親の暮らしにとって重要な生活環境の問題を、「衣」「食」「住」「家族」の視点から考える。社会状況や政府の少子化対策、女性の生き方など、子どもと子育て世帯をめぐる諸情勢と関連付けて理解し、将来の自己の問題として主体的に考えていけるようにすることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

- ・子どもと子育て世帯をめぐる社会問題を理解する
- ・子どもの発達、および子育てにとって必要な生活環境条件を理解する
- ・子どもが成長していくことや子どもを育てていくことの価値意識をもつ

3. 教育・学習の方法

・毎回の授業を振り返るとともに、7回にわたるオムニバス授業を、自分で総合し、子どもと子育てのための「生活環境」像を構築する。

・準備学習の具体的な方法

- ・シラバスによって授業展開を理解しておく
- ・新聞の家庭欄、生活欄を読む習慣をつける

4. 評価方法・評価基準

毎回の授業参加度（50%）とまとめの課題（50%）で評価する

5. 授業予定

- 第1回 「子どもと子育てのための生活環境学」概説(中村)
子どもの育ちと親の役割(山本)
- 第2回 子どもと子育てファッション1(牛田)
- 第3回 子どもと子育てファッション2(牛田)
- 第4回 子どもと母親の食生活(加藤)
- 第5回 子どもの成長と食生活(加藤)
- 第6回 子どもの遊びと住環境(竹原)
- 第7回 子どもと家族の住空間(中村)
- 第8回 まとめ(中村)

6. 留意事項

8回目の授業は、前半45分で本授業のまとめを行います。

講義コード	10158001			
科目名	キャリア形成ゼミ			
担当者	喜多 泰子・神月 紀輔・酒井 久美子・長沼 光彦			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[情][フ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

社会で必要とされる力を社会人基礎力*1と定義し、特に実践力を身につけることを目標とする実践型科目である。そのため、本学の学生が社会で活動する「場」をゼミとして設定し、各ゼミにおいては企画、立案、実践、検証の一連のプロセスを経験するものである。またこのプロセスの中で、企画、立案することで考え抜く力を、実践することで前に踏み出す力を、またグループワークを通してチームで働く力をつけ、社会人基礎力を身につけていくものである。

*1社会人基礎力とは「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として「前に踏み出す力、考え抜く力、チームで

働く力」の3つの能力と12の能力要素をH18年に経済産業省が定義づけたもの。

2. 教育・学習の個別課題

- ①各ゼミに関連した業界分析、職業知識、また情報収集力、分析力をつけること。
- ②企画書を作成する力をつけること。
- ③グループでの協同力や、コミュニケーション力をつけること。
- ④企画を立案し、実行する力を身につけること。
- ⑤企画を伝える力、プレゼンテーション力を身につけること。

3. 教育・学習の方法

ゼミごとに取り込むべき課題を十分に認識し、情報収集、分析をして取り組むこと。

・実践演習は学外での活動が中心となるため、マナー、社会人としての心構えなど事前の指導をしっかりと受け、事前指導から終了後の報告会まで積極的に参加すること。

・グループワークや他者との協同作業が中心となるため、積極的なコミュニケーションを心がけること。

・具体的なスケジュールはキャリアセンターの指示に従うこと。

・事前の指導から成果発表まで必ず出席し、やむをえず欠席する場合は担当教員の指示に従うこと。

・キャリア形成ゼミの活動については、専用の報告書に従って作成し、提出すること。

・準備学習の具体的な方法

・具体的な内容や、スケジュールは全体説明会に必ず参加し確認すること。そのうえで、ゼミの選択を行うこと。

・ゼミにより求められていることが違うため、不明な点は喜多または、担当教員に確認すること。

4. 評価方法・評価基準

参加態度（50%）、企画書、成果に対する評価（30%）、最終プレゼンに対する評価（20%）を基本とする。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マナー研修等事前研修
- 第3回 講義
- 第4回 現場見学
- 第5回 現場実践等の情報収集
- 第6回 企画のテーマ設定から企画立案①
- 第7回 企画のテーマ設定から企画立案②
- 第8回 中間発表①
- 第9回 中間発表②
- 第10回 グループワーク①
- 第11回 グループワーク②
- 第12回 現場にて企画実施、プレゼンテーション①
- 第13回 現場にて企画実施、プレゼンテーション②
- 第14回 最終発表①
- 第15回 最終発表②

6. 留意事項

・各ゼミの内容については、旅行プランナーやウェディングプランナーなどを予定しているが、詳細については4月中旬にキャリア形成ゼミの説明会を実施するので、必ず出席し、確認すること。

・キャリア形成ゼミ手引書及び実施報告書を配布するので、各ゼミの担当の先生の指示に従いプログラムの内容を確認し、また報告書に状況を記載しながら進めていくこと。

・各ゼミによって一定の人数が集まらなければ実施しないゼミや定員が決まっているゼミもあるので説明会時に確認すること。

講義コード	10158101			
科目名	女性とライフキャリアA			
担当者	喜多 泰子			
単位数	2	配当学年	12	
資格				
前提科目				
テキスト	講義内で適時指定する。			
参考文献	講義内で適時指定する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	10158102		
科目名	女性とライフキャリアB		
担当者	喜多 泰子		
単位数	2	配当学年	12
資格			
前提科目			
テキスト	講義内で適時指定する。		
参考文献	講義内で適時指定する。		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

大学生活をこれから過ごす1回生、及び2回生を対象に、大学生活の過ごし方を考え、今後のキャリアプランについて考える科目である。特に女性の特性を認識し、社会でその特性をどう生かしていくのか、またどのようなリスクがあるのかを知ることで各自のキャリアプランに生かしていく。またそこから大学生活で取り組んでおくべき課題を考え、今後の大学生活で実践していくことを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

キャリアプランは自分の生き方であり、一人ひとり違うものであり、自己表現であるということが理解できること。そのうえで、自分らしい生き方をするためには、女性の特性を知ること、自分と他者、社会を知ることが大切であるということが理解できること。

3. 教育・学習の方法

- ①一人ひとりのキャリアプランの作成ができる
- ②卒業後に出ていく社会について必要な情報を探することができるようになる。
- ③女性の特性が理解でき、自分の強みを社会に生かすことができるようになること

・準備学習の具体的な方法

- ・社会の一員としての心構えを持って、授業に臨むことを基本ルールとする。
- ・授業では、学外の方のお話やグループワークを講義中に行うので積極的に傾聴し、参加すること。

4. 評価方法・評価基準

参加態度 (60%)、授業後の小レポート (20%)、最終レポート (20%) の評価を基本とする。

5. 授業予定

- 第1回 総合ガイダンス (講義の目的) 受講ルールの説明 宿題など
- 第2回 ライフキャリアを考える 理論編
- 第3回 自己理解①自己分析ワーク
- 第4回 情報収集①社会を知る 先輩体験談1
- 第5回 情報収集②社会を知る 先輩体験談2
- 第6回 情報収集③ワークライフバランスを考える その1
正社員の働き方
- 第7回 情報収集④ワークライフバランスを考える その2
正社員以外の働き方
- 第8回 情報収集⑤社会を知る 働くことと税金
- 第9回 情報収集⑥働くための知識 業種・職種・企業について
- 第10回 自己理解②働くための能力 コミュニケーションの重要性
- 第11回 情報収集⑦女性の就職活動 就職活動体験談 (在学生の体験)
- 第12回 情報収集⑧地域での生き方 京都の産業構造と求められる人材について
- 第13回 情報収集⑨昨今の就職・転職状況とは
- 第14回 情報収集⑩女性のリスクを考える
- 第15回 講義のまとめ 女性としてキャリアデザインを実践する

6. 留意事項

女性とライフキャリアA、Bは同じ内容になります。前期ではAを、後期ではBを受講すること。

講義コード	10159001		
科目名	医学概論 I 医療英語に必要な医学の基礎知識		
担当者	河瀬 雅紀・萩原 暢子		
単位数	2	配当学年	123
資格	[医]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

医療語学プログラムとの基礎となる医療用語および代表的な疾患の診断方法、治療などを体系的に理解していく。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 医療における基礎的な用語を使うことができる
2. 代表的な疾患の概念を説明できる
3. 代表的な疾患の診断・検査法を説明できる
4. 代表的な疾患の治療方法を説明できる
5. 代表的な疾患の予防法について説明できる

2. 教育・学習の個別課題

1. 生活習慣病の代表的な疾患 (糖尿病、脳卒中、心臓病、高血圧など) について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
2. 代表的な悪性腫瘍 (胃がん、大腸がん、肺がん、白血病) について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
3. 代表的な消化器系疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
4. 代表的な呼吸器疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
5. 代表的な内分泌疾患、腎臓病、膠原病、血液疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
6. 代表的な精神疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
7. 代表的な婦人科疾患、小児疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
8. その他日常の診療で遭遇することの多い疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する

3. 教育・学習の方法

講義形式で、テキスト、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する

・準備学習の具体的な方法

該当箇所をテキストおよび参考図書で予習する

4. 評価方法・評価基準

授業参加度・授業態度 (20%) と確認試験 (80%) により総合判断する。欠席・遅刻は減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 糖尿病について
- 第2回 高血圧について
- 第3回 脳卒中について
- 第4回 心臓疾患について
- 第5回 消化器がん (胃がん、大腸がんなど) について
- 第6回 肺がんについて
- 第7回 血液疾患について
- 第8回 肝臓・胆のう・膵臓の炎症性疾患について
- 第9回 呼吸器の炎症性疾患、喘息について
- 第10回 腎臓疾患、膠原病について
- 第11回 甲状腺疾患、その他の主な内分泌疾患について
- 第12回 精神疾患について
- 第13回 婦人科疾患について
- 第14回 小児疾患について
- 第15回 頭痛、めまい、腰痛など

6. 留意事項

- ・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。
- ・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント (レジュメ) を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

講義コード	10183101			
科目名	ボランティア実践			
担当者	小林 多津子			
単位数	1	配当学年	234	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

幼稚園、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校において各教科や、部活動の指導補助などの教育活動を支援するという目的の京都府教育委員会や京都市教育委員会及び各自治体の学生ボランティア事業に参加する。この事業の実施目的を理解し、参加するための方法や心構えについて学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

事業目的について理解する。
各学校の教育支援活動に参加する。
事業に参加した結果をまとめる。

3. 教育・学習の方法

オリエンテーション、事前指導に参加する。
実施要項に基づき、書類等を作成する。
大学の授業に支障をきたさない。
教育現場の実際を学ぶ。

・準備学習の具体的な方法

学生ボランティア事業等の情報をインターネット等で収集する。

4. 評価方法・評価基準

課題レポートの提出
各教育委員会からの報告書
学生ボランティアの述べ30時間以上参加すること
上記のことをすべて満たすことで単位は修得できる

5. 留意事項

講義コード	10183501			
科目名	資格英語 I			
担当者				
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	英語英文学科は履修できない			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

英語は実質的に「世界共通語」の役割をもつようになって来ています。特に政治経済、文化交流、そして情報メディアなど、国や地域の「枠」を越えて問題の把握あるいは問題の解決が求められる分野では特に共通言語が必要とされ、英語がますます重要な位置を占める言語となっています。本学ではすべての学生諸君がこのような「言葉」をめぐる現実をよく理解し、英語運用能力育成を自らのキャリアビジョン中に明確に位置づけるように強く期待し、一方で様々な面で指導体制の充実を図っております。「資格英語 I」及び「資格英語 II」は、学生諸君の英語運用能力の育成を目指して配置された科目のひとつで、第三者機関の行う英語の標準テストでの一定の成果に対し単位を認める制度です。

2. 教育・学習の個別課題

英語の標準テストで現状よりも高い成果をあげる。

3. 教育・学習の方法

各自に合った方法を見いだすよう日頃から心がける。

・準備学習の具体的な方法

長期的観点からの英語力向上のための学習方略を編み出すとともに、TOEIC などの標準テストについて過去問を研究し、回答方法に慣れるなど、短期的な戦術の向上も図る。

4. 評価方法・評価基準

単位認定のために求められる成果の基準、また単位認定の手順などについては国際教育センターへ問い合わせください。

5. 留意事項

講義コード	10183601			
科目名	資格英語 II			
担当者				
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	英語英文学科は履修できない			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

英語は実質的に「世界共通語」の役割をもつようになって来ています。特に政治経済、文化交流、そして情報メディアなど、国や地域の「枠」を越えて問題の把握あるいは問題の解決が求められる分野では特に共通言語が必要とされ、英語がますます重要な位置を占める言語となっています。本学ではすべての学生諸君がこのような「言葉」をめぐる現実をよく理解し、英語運用能力育成を自らのキャリアビジョン中に明確に位置づけるように強く期待し、一方で様々な面で指導体制の充実を図っております。「資格英語 I」及び「資格英語 II」は、学生諸君の英語運用能力の育成を目指して配置された科目のひとつで、第三者機関の行う英語の標準テストでの一定の成果に対し単位を認める制度です。

2. 教育・学習の個別課題

英語の標準テストで自分の目指す目標レベルを設定し、それを達成するための戦略を練る。

3. 教育・学習の方法

各自に合った方法を見いだすよう日頃から心がける。

・準備学習の具体的な方法

長期的観点からの英語力向上のための学習方略を編み出すとともに、TOEIC などの標準テストについて過去問を研究し、回答方法に慣れるなど、短期的な戦術の向上も図る。

4. 評価方法・評価基準

単位認定のために求められる成果の基準、また単位認定の手順などについては国際教育センターへ問い合わせください。

5. 留意事項

講義コード	10183701			
科目名	認定日本語 日本語検定 3級～2級合格をめざして			
担当者				
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

言語力の育成が社会的要請として重視されるなか、大学生として一定の国語力を習得することは、きわめて重要な学習課題である。この科目は、本学学生が国語力を向上させるために自主的・積極的に学習を積み重ね、かつその成果として資格が取得できるように、「日本語検定試験」合格を単位として認定するものである。

2. 教育・学習の個別課題

社会人として必要な、漢字の読み書き、語彙、敬語表現、文章読解等、国語に関する能力を総合的に習得する。

3. 教育・学習の方法

各自、公式テキスト等で日本語検定試験の過去問題や練習問題にとりくみ、自学自習を重ね、6月もしくは1月に学内で実施される日本語検定を受検する。3級以上の合格認定を受けた者に、単位を与える。

・準備学習の具体的な方法

以下の文献により、各自学習を進めること。

東京書籍『日本語検定 公式練習問題集 2級』 1,000円
東京書籍『日本語検定 公式練習問題集 3級』 900円
東京書籍『日本語検定 公式 2級 過去問題集』 1,000円
東京書籍『日本語検定 公式 3級 過去問題集』 900円
東京書籍『公式領域別問題集 敬語』 1,200円

東京書籍『公式領域別問題集 語彙・言葉の意味』 1,200円
 東京書籍『公式領域別問題集 文法』 1,200円
 東京書籍『公式領域別問題集 漢字・表記』 1,200円
 東京書籍『日本語検定必勝単語帳 入門編』 1,050円
 東京書籍『日本語検定必勝単語帳 応用編』 1,050円
 東京書籍『日本語検定公式テキスト 日本語上級』 1,575円
 東京書籍『日本語検定公式テキスト 日本語中級』 1,470円

4. 評価方法・評価基準

日本語検定試験において3級以上の合格認定を受けた者に2単位を与える。

5. 留意事項

NPO法人日本語検定委員会が実施する日本語検定試験個人カルテおよび認定証を教務学事課に提出すること。

講義コード	10184001			
科目名	インターンシップ			
担当者	喜多 泰子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[情][ブ][ホ][子]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

景気の回復が不透明な時代に入り、求人数の減少、就職環境は非常に難しくなっている。学生が就業体験の実習に取り組むことにより、社会の厳しさや難しさを学ぶことはもとより、一般常識の習得、さらにはコミュニケーション能力や積極性の重要性を実感し、明確なキャリア意識の確率を目指す。

2. 教育・学習の個別課題

- ・参加する前に各自十分に企業研究を行うこと
- ・実際の就業体験から得られた仕事に対する明確な目的・ビジョンに基づき、進路選択をしていくこと。
- ・就業体験により、明確な目的意識を持ち、意欲的に勉強や学生生活を送り、ひいては自分のキャリアプランを考えていくこと。

3. 教育・学習の方法

履修に関しては、キャリアセンターの指示に従うこと。
 キャリアセンターからの連絡、掲示による指示は各自で確認しておくこと

・準備学習の具体的な方法

- ・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究をすること
- ・実習に行く前に指示を待つだけでなく、自分から進んで何ができるのかを考えること。

- ・現場で働く社会人に質問できる内容を考えておくこと。
- ・夏休みの暑い時期にあたるので体調管理を完全に整えること。

4. 評価方法・評価基準

・事前指導、実習中、事後指導の出席およびプレゼンテーション、最終レポートにより総合的に評価する。

・遅刻、欠席厳禁。

5. 留意事項

自己開拓したインターンシップについてはキャリアセンターの規定を満たせば単位として認める。申請方法等詳細については4月に行うインターンシップ説明会で確認すること。

講義コード	10157101			
科目名	女性の子育てとライフキャリア			
担当者	岩崎 れい			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[子]			
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	授業中に紹介			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

現代日本の子育ておよび女性のライフキャリアの現状や課題について、基礎的な知識を得るとともに、企業や教育現場、地域社会など、さまざまな分野で活躍している「母」「父」の立場の方や関連する仕事をしている方

にお話をうかがい、受講生自身の生き方について考えます。

2. 教育・学習の個別課題

1. 現代女性を取り巻く現状について学びます。
2. さまざまな事例を知り、そこから生き方のヒントを得て、自分の生き方を考えます。

3. 教育・学習の方法

講義によって基本的な知識を得るとともに、外部講師のお話から、女性の生き方について深く考察します。

・準備学習の具体的な方法

日頃から新聞をよく読み、現代日本の子育てを取り巻く環境に関心を持つようにしてください。

4. 評価方法・評価基準

授業中の課題 40%、学期末レポート 60%の割合で評価します。

5. 授業予定

- 第1回 子育てとライフキャリアを考える (入門)
- 第2回 外部講師による講義1: キャスターの仕事と子育て (仮題)
- 第3回 外部講師による講義2: 男性の子育て (仮題)
- 第4回 外部講師による講義3:
育児雑誌に見る近年の親世代の関心事 (仮題)
- 第5回 女性の子育て環境 法律と現状
- 第6回 外部講師による講義4: 仕事をしながら子育て (仮題)
- 第7回 外部講師による講義5:
仕事と子育ての両立における課題 (仮題)
- 第8回 子育てとライフキャリアを考える (まとめ)

6. 留意事項

授業の順番を変更する場合があります。

講義コード	10157201			
科目名	児童館実践演習			
担当者	岩崎 れい、矢島 雅子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[子]			
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	授業中に紹介			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

児童館でのお話会、行事企画、支援の必要な子どもの介助などを実践的に学び、授業で得た知識を現場に生かしていく演習です。

2. 教育・学習の個別課題

1. 児童館における子どもの支援に必要な知識・技術を学びます。
2. 学んだことを実践的に生かす方法を習得します。

3. 教育・学習の方法

以下のうち1つ以上の実習に参加してください。

1. 学童クラブにおける支援の必要な子どもの介助
2. 学童クラブ等における児童館の仕事の補助
3. 行事の企画への参加
4. 行事や学童クラブ等におけるお話会の実施

・準備学習の具体的な方法

各自が参加する実習に必要な知識を確実に得ておくこと、準備段階から打ち合わせ等に必ず参加することを心がけてください。

4. 評価方法・評価基準

実習報告書・レポート70%、成果報告会での発表30%の割合で評価します。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 事前指導①
- 第3回 事前指導②
- 第4回 実習
- 第5回 実習
- 第6回 実習
- 第7回 実習
- 第8回 実習
- 第9回 実習
- 第10回 実習
- 第11回 実習
- 第12回 実習
- 第13回 事後指導①
- 第14回 事後指導②
- 第15回 成果発表会

6. 留意事項

講義コード	10181191			
科目名	特定目的海外研修A（英語海外研修Ⅱ）			
担当者	エジンバラ大学専任教員			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	研修国：英国・スコットランド 定員14名（最少催行人数12名）			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

- (1) 英会話を中心としたコミュニケーションスキルと総合的な英語運用能力を向上させる。特に英語を聴く力、話す力を伸ばすことに重点をおく。
- (2) 英国（スコットランド）の生活、文化、歴史、社会事情等の理解を深める。
- (3) 海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野を身に付ける。
- (4) 英国の大学におけるキャンパスライフを通して、英国人学生や他国からの留学生との交流を深める。
- (5) 英国人家庭でのホームステイを通して、英語による日常生活を体験する。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) Communication Skills
話す力、聴く力を伸ばすために様々な状況を設定して実用的な日常会話を修得する。ネイティブスピーカーやホストファミリーとの会話の進め方、日本文化を紹介する方法、食事の席での会話、質問、要求、選択の表現方法など、英会話の応用力を伸ばす。
- (2) British Culture
さまざまな英国文化をテーマに英語力を強化する。スコットランド文化、エジンバラの風物、英国における家庭生活、スコットランドの民話と伝説、英国のメディア、英国の社会問題などを取り上げる。
- (3) Project
スコットランドの文化、歴史などから各自でテーマを設定して研究し、研修の最後に口頭発表を行う。
- (4) Field Trip
本研修の課題に基づきエジンバラ及びその近郊の文化遺産等を見学研修する。

3. 教育・学習の方法

- (1) 海外研修日程（予定）
平成25年8月30日（土）～9月22日（日）（23日間）
- (2) 研修先大学 エジンバラ大学（国立）
- (3) 研修スケジュール（予定）下表のとおり。
- (4) 授業計画
エジンバラ大学にて3週間の授業を受講する。
英語研修：週平均20時間×3週＝計60時間
- (5) 学習方法
 - ① 毎日の授業への積極的な受講姿勢、出席率はもとより、学習に対する努力度や英語による積極的な発言が望まれる。
 - ② 研修先大学での研修中は日本語を話さないようにする。

4. 準備学習の具体的な方法

- (1) 英語の語彙数を増やしておくこと。
- (2) 旅行書やインターネット等で英国（スコットランド）について事前知識を得ること（地理、大まかな歴史、文化等）。

5. 評価方法

研修終了時にエジンバラ大学より授与される修了証書をもって、帰国後に本学における単位を認定する。（「特定目的海外研修A」：2単位）

6. 留意事項

- (1) 研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。
- (2) 受講者が最少催行人数（12名）に達しない場合、又は研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、研修スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。
- (3) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション（7月25日（木）予定）に必ず出席すること。

日程	地名	摘要	宿泊
8月24日（土）	関西国際空港発 エジンバラ着	空路、英国へ（乗継） 着後、ホームステイ先へ	機内泊 ホームステイ
8月25日（日）	エジンバラ	午前：休憩、午後：市内見学	ホームステイ
8月26日（月） ↓ 9月13日（金）	エジンバラ	エジンバラ大学にて3週間の英語研修	ホームステイ
9月14日（土） 9月15日（日）	エジンバラ発 関西国際空港着	空路、日本へ（乗継） 帰国	機内泊

（交通機関及び現地の都合により変更することがある）

講義コード	10181192			
科目名	特定目的海外研修A（英語海外研修IV）			
担当者	モナシュ大学専任教員			
単位数	2	配当学年	123	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	研修国：オーストラリア 定員24名（最少催行人数12名）			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

- (1) スピーキングを中心とした英語コミュニケーションスキルを習得し、短期間で英会話能力を向上させる。
- (2) オーストラリアの生活、文化、自然、歴史、社会事情等への理解を深め、オーストラリアの多文化社会を知る。
- (3) 海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野を身に付ける。
- (4) オーストラリア人との交流やホームステイを通して英語による日常生活の実際を体験する。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) Student Talks
毎朝、各自がニュースや話題を提供し、英語で話す機会を増強する。
- (2) Spoken English
日常生活に必要な英会話表現や質問のしかたを徹底して学ぶことにより自ら英語で話す自信と英語によるコミュニケーション能力を身につける。ライフスタイル、ファッション、旅行、買い物、教育、環境問題、オーストラリアのスラングとイディオム、スポーツ、オーストラリアの自然等、毎回指導テーマに基づき英語で話す力を伸ばす。
- (3) Australian Studies
オーストラリアの歴史や自然体系について、講義とフィールドスタディを通して理解を深めながら英語力を強化する。
- (4) Oral Presentations
研修の最後に各自が選択したテーマについて口頭でプレゼンテーションを行う。
- (5) Conversation Groups
3～4名の小グループごとにオーストラリア人が会話パートナーとしてグループセッションに参加する。ネイティブスピーカーとの実践的な会話練習を行い、積極的に英語を話す機会を増やすとともに、身近な話題や日常の出来事を英語で話すことにより相互理解と交流を深める。

3. 教育・学習の方法

- (1) 海外研修日程（予定）
平成26年2月12日（水）～3月8日（土）（25日間）
- (2) 研修先大学 モナシュ大学（国立）
- (3) 研修スケジュール（予定）下表のとおり。
- (4) 授業計画
モナシュ大学にて3週間の授業を受講する。
英語研修：週平均20時間×3週間＝計60時間
- (5) 学習方法
 - ① 研修初日にプレースメントテストを行い、英語レベルに応じて2クラスに分ける。
 - ② 毎日の授業への積極的な受講姿勢、出席率はもとより、学習に対する努力度や英語による積極的な発言力を重視する。また研修中は、全てのプログラムに出席すること。
 - ③ 研修中は日本語を一切話さないようにする。

4. 準備学習の具体的な方法

- (1) 英語の語彙数を増やしておくこと。
- (2) 旅行書やインターネット等でオーストラリアについて事前知識を得ること（地理、大まかな歴史、文化等）。

5. 評価方法

研修終了時にモナシュ大学より授与される修了証書をもって帰国後に単位を認定する。
〔特定目的海外研修A〕：2単位

6. 留意事項

- (1) 研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。
- (2) 受講者が最少催行人数（12名）に達しない場合、または研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、研修スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。
- (3) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション計2回（第1回目（ホームステイ関係）：平成25年10月11日（金）、第2回目（研修・渡航関係）：平成26年1月17日（金）予定）に必ず出席すること。
- (4) 本学からの引率者は往路と復路のみ同行する。研修期間中の2月19日（水）～3月4日（火）は、モナシュ大学の日本人担当者が本学の引率者に代わって緊急時の対応にあたる。

日 程	地 名	摘 要	宿 泊
2月12日（水） 2月13日（木）	関西国際空港発 メルボルン着	空路、メルボルンへ（乗継） 着後、大学にてオリエンテーション後、 ホームステイ先へ	機 内 泊 ホ ー ム ス テ イ
2月14日（金） ↓ 3月6日（木）	メルボルン	モナシュ大学にて3週間の英語研修	ホ ー ム ス テ イ
3月7日（金） 3月8日（土）	メルボルン発 関西国際空港着	空路、日本へ（乗継） 帰国	機 内 泊

（交通機関及び現地の都合により変更することがある）

講義コード	10181194			
科目名	特定目的海外研修A (海外インターンシップ 研修 I)			
担当者	オークランド大学専任教員			
単位数	2	配当学年	(夏期) 1234 (春期) 123	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	TOEIC470 点以上 個別参加の形態をとる。1名から参加可能。オークランド大学での語学研修は、現地で開講する General English のコースに参加する。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

- 2 週間の集中英語研修を通して、インターンシップに必要な英会話やコミュニケーションスキルを習得する。特に英語を聴く力、話す力を伸ばすことに重点をおく。
- 英語を使って仕事をする体験を行うことにより、英語応用力を習得するとともに、国際性とコミュニケーション能力の涵養、積極性や責任感、キャリア意識を身につける。
- ニュージーランドの生活、文化、社会事情等への理解を深め、海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野を身に付ける。
- ニュージーランド人家庭でのホームステイを通して、英語による日常生活を体験する。

2. 教育・学習の個別課題

- 英語研修
英語力を総合的に伸ばすための授業。日常生活に必須となる実用的な会話力やインターンシップで応用できる英語力を習得する。
- インターンシップ
各自の英語力に応じて、インターンシップ先となる企業、学校、団体等が決まる。主な業務内容と必要とされる英語力の目安は以下のとおりである。
 - 一般企業 (TOEIC 550 点以上)
 - 観光関連企業 (TOEIC 550 点以上)
 - 幼児教育機関 (TOEIC 500 点以上)
 - 福祉施設 (TOEIC 500 点以上)
 - 学校での日本語教育 (TOEIC 600 点以上)

3. 教育・学習の方法

- 海外研修日程 (予定) いずれも 23 日間
 - 夏期開講 平成 25 年 8 月 24 日 (土) ~ 9 月 15 日 (日)
 - 春期開講 平成 26 年 2 月 15 日 (土) ~ 3 月 9 日 (日)
- 研修先
(語学研修) オークランド大学 (国立)
(インターンシップ) オークランド市内の企業、団体
- 研修スケジュール (予定) 下表のとおり。

夏期	春期	地名	摘要	宿泊
8/24 (土)	2/15 (土)	関西国際空港発	空路、ニュージーランドへ	機内泊
8/25 (日)	2/16 (日)	オークランド着	着後、空港で出迎え、ホームステイ先へ	ホームステイ
8/26 (月)	2/17 (月)	オークランド	オークランド大学にて 2 週間の英語研修	ホームステイ
↓ 9/13 (金)	↓ 3/7 (金)		↓ インターンシップ先で 1 週間の就業体験	
9/14 (土)	3/8 (土)	オークランド	自由行動	ホームステイ
9/15 (日)	3/9 (日)	オークランド発 関西国際空港着	空路、日本へ 帰国	

(交通機関及び現地の都合により変更することがある)

(4) 研修計画

- 英語授業：週 23 時間×2 週間＝計 46 時間
- インターンシップ：1 日 6 時間×1 週間 (計 5 日) ＝計 30 時間

(5) 学習方法

- 英語研修では、毎日の授業への積極的な受講姿勢、出席率をはじめ、学習に対する努力度や英語による積極的な発言力を重視する。
- インターンシップに際して事前に行われるオリエンテーションに必ず出席すること。
- インターンシップ研修中は、遅刻、欠席しない。仕事に対する責任感と研修生としての自覚をもち、研修先で与えられた仕事に意欲的に取り組む。
- インターンシップについて研修後レポートを提出すること。

4. 準備学習の具体的な方法

- ビジネス英語に関する語彙や文書に少しでも触れておく。
- 旅行書やインターネットでニュージーランドの事前知識を得ること (地理、大まかな歴史、文化など)。

5. 評価方法

語学研修に関しては、研修終了時にオークランド大学より授与される修了証書をもって、またインターンシップについては、オセアニア交流センターが発行する履修証明書をもって帰国後に単位を認定する。(「特定目的海外研修 A」：2 単位)

6. 留意事項

- 研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに 4 月に開催する募集説明会において知らせる。
- 研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、下記スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。
- 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション計 2 回 (夏期の場合 第 1 回目：6 月 21 日 (金)、第 2 回目：7 月 17 日 (水)、春期の場合 第 1 回目：12 月 12 日 (木)、第 2 回目：平成 26 年 1 月 15 日 (水) 予定) に必ず出席すること。
- 本研修は、個別参加の形態をとるため、引率は同行しないが、オークランド大学日本代表事務所であるオセアニア交流センターオークランド事務所の日本人担当者が現地での対応にあたる。

講義コード	10181195			
科目名	特定目的海外研修B（食文化海外研修）			
担当者				
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	研修国：フランス・ドイツ 定員 24 名（最少催行人数 10 名）			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

日本の食料自給率は 40%を切ろうとしている。何故このように低くなってしまったのか。最も大きな理由として考えられるのは、日本人が他国のありとあらゆるものを受け入れることのできる国民性をもつということであろう。食べ物に関しても、日本は 1965 年頃から世界の食べ物を受け入れ出し、その風潮は留まることを知らない。ところがフランスやドイツのようにヨーロッパの中でも先進国でありながら食料自給率の高い国がある。本研修では、実際に現地ではどのようにして高い食料自給率を維持しているのか、生産→流通→消費のメカニズムをたどるとともに、フランスやドイツにおける食生活形態や食文化などを実際に現地で研修することを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

テーマ：食料自給率が高いフランス、ドイツの食料生産から食形態を訪ねる。

- (1) 食料自給率のメカニズムと日仏比較
- (2) フランスやドイツの食料生産と流通
- (3) フランス人やドイツ人の食生活（日常食と外食）
- (4) 食料自給率を高める食生活とは

3. 教育・学習の方法

(1) 事前講義

前期に開講する事前講義（計 4 回・17:00～18:30）を必ず受講すること。

- ① 6 月 24 日（月）食料自給率と食生活
- ② 7 月 8 日（月）フランスやドイツの食料生産と流通
- ③ 7 月 22 日（月）フランス人、ドイツ人の食生活
- ④ 7 月 29 日（月）食生活と食文化の日仏比較

(2) 海外研修

平成25年9月1日（日）～9月9日（月）9日間
スケジュール（予定）は下表のとおり。

(3) 学習方法

- ① すべての事前講義に出席すること。
- ② 海外研修における積極的な受講姿勢が望まれる。
- ③ 研修後にレポートの提出が求められる。

(4) テキスト・文献

事前講義で資料を適時配布する。

4. 準備学習の具体的な方法

- (1) 日本の食文化、食料自給率の事前知識を得ること。
- (2) 旅行書やインターネット等でフランスやドイツについて事前知識を得ること（地理、歴史、文化等）。

5. 評価方法

事前講義の出席状況、海外研修時の課題、参加態度、レポート提出などにより総合的に評価し、帰国後単位を認定する。（「特定目的海外研修B」：2単位）

6. 留意事項

- (1) 研修の詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催される募集説明会において知らせる。
- (2) 受講者が最少催行人数（10名）に達しない場合、または研修先の情勢によって研修の実施を取り止める場合がある。また、研修スケジュールは、現地受け入れ期間や交通機関などの都合により変更になることがある。
- (3) 研修参加決定者は、事前講義（計4回）および渡航前オリエンテーション（7月26日（金）予定）に必ず出席すること。

日 程	地 名	摘 要	宿 泊
9月1日（日）	関西国際空港発	空路、フランクフルトへ（ドバイ経由）	機 内 泊
9月2日（月）	ドバイ着 / 発 フランクフルト着	ゲーテ・ハウス・ゲーテ博物館見学	フランクフルト泊
9月3日（火）	フランクフルト	老舗ビール会社訪問（ビール醸造工場を見学） ハイデルベルク城、マルクト広場、精霊教会見学	フランクフルト泊
9月4日（水）	フランクフルト フランクフルト発 パリ着	フランクフルト市内常設市場・パン屋見学（生産者から消費者へ） ハム・ソーセージ加工会社訪問（生産現場見学） 高速列車でパリへ	パ リ 泊
9月5日（木）	イルド・フランス地方	ルシェット農場訪問（生産現場見学） エリシー教育ファーム（教育施設）見学 教育ファームとは、生産者の指導のもと、農業や酪農について、育てるところから食べるところまでを体験的に学べる施設。	パ リ 泊
9月6日（金）	パリ	ランジス中央市場訪問（流通事情見学）・老舗デパートでの食文化セミナー受講 フランス独自の食材を使った料理のデモンストレーション並びに試食	パ リ 泊
9月7日（土）	シャンパーニュ地方 パリ	ブドウの収穫からワイン製造見学・ワイン市場見学（ワイン畑、ワイン貯蔵庫、ワイン市場見学を通して生産者から消費者への流通を学ぶ） ランス市内見学・ノートルダム大聖堂見学 有名レストランにてフランス料理体験	パ リ 泊
9月8日（日）	パリ発	ドバイ経由で関西空港へ	機 内 泊
9月9日（月）	ドバイ着 / ドバイ発 関西空港着	帰国	

（交通機関および現地の都合により変更する場合がある）

講義コード	10181196			
科目名	特定目的海外研修B(文学・文化海外研修)			
担当者				
単位数	2	配当学年	123	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	研修国：英国・フランス 定員16名(最少催行人数12名)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

英国(ケンブリッジ・ロンドン)およびフランス(パリ)の生活と文化を現地で実体験する。ケンブリッジ大学における学寮生活体験をしながらクリスマスを実感を体得する。また、ロンドンやパリにおいては、現代が過去の集積であることを、例えば、中世の街区と現代の街並みが隣接している歴史的集積の現場を実体験する。その他、演劇・ミュージカルのメッカであるウェスト・エンド地区でミュージカルを観劇し、シェクスピアの故国に根づく演劇魂の体験やパリのソルボンヌ大学やルーブル美術館の見学を行う。実際に現地で見聞することによりグローバルな視点で物事を評価する体験を蓄積することを目的とする。なお、参加者には事前に読書を課すことになる。

2. 教育・学習の個別課題

(1) 学寮(College)体験

13世紀に発足したケンブリッジ大学は、学寮(College)の集合体である。また、大学学部と学寮に所属することがケンブリッジ大学学生の証である。その一部の Pembroke College に4日間滞在し、伝統的学寮生活を実体験する。キーワードは、食事・掃除・洗濯そして水。

(2) 近代資本主義のメッカ:ロンドン、ザ・シティ地区探索
世界の金融システムの中核であるザ・シティを歩き、17世紀に始まるマネーを巡るから騒ぎの痕をそして現場を見る。さらに、ウェスト・エンドでのミュージカル観劇を通し演劇文化を味わう。キーワードは、舞台、喝采。

(3) カルチェ・ラタンとルーブル探検

パリの学問・文化の中心であるカルチェ・ラタン(Quartier Latin)を訪れる。ソルボンヌ大学では現地大学学生の案内のもとパリの大学の実情を知る。また、ルーブル美術館では、名作の鑑賞の他、美術館の建築構造への興味も深める。

キーワードは、ニケ、ポンパドゥール、ドラクロアの女神。

3. 教育・学習の方法

(1) 事前・事後講義

前期に開講する事前講義(計3回)および研修後の事後講義(計1回)(いずれも17:30~18:30)を必ず受講すること。

- ① 7月8日(月) 旅程の作り方
- ② 7月22日(月) ペンブルーク学寮での生活法
- ③ 12月9日(月) 演劇、美術品などの鑑賞法
- ④ 1月10日(金) 旅日記公開法

(2) 海外研修

平成24年12月23日(月)~平成25年1月4日(土)(13日間) スケジュール(予定)は下表のとおり。

(3) 学習方法

- ① すべての事前講義・事後講義に出席すること。
- ② 課題図書を読むこと。
- ③ 海外研修における積極的な受講姿勢が望まれる。
- ④ 研修後にレポートの提出が求められる。

(4) テキスト・文献

事前講義・事後講義で資料を適時配布する。

4. 準備学習の具体的な方法

旅行書やインターネット等で英国、フランスについて事前知識を得ること(地理、大まかな歴史、文化等)。

5. 評価方法

事前講義の出席状況、海外研修時の課題、参加態度、レポート提出などにより総合的に評価し、帰国後単位を認定する。(「特定目的海外研修B」:2単位)

6. 留意事項

- (1) 研修の詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催される募集説明会において知らせる。
- (2) 受講者が最少催行人数(12名)に達しない場合、または研修先の情勢によって研修の実施を取り止める場合がある。また、下記スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。
- (3) 研修参加決定者は、事前講義・事後講義(計4回)および渡航前オリエンテーション(11月20日(水)予定)に必ず出席すること。

日程	地名	摘要	宿泊
12月23日(月)	関西国際空港発 ロンドン着	空路、英国へ(乗継) 着後、ケンブリッジへ	ケンブリッジ 大学寮泊
12月24日(火) ~ 12月26日(木)	ケンブリッジ	ケンブリッジにて3日間の実地研修 (ケンブリッジ大学見学、講義、クリスマス体験等)	ケンブリッジ 大学寮泊
12月27日(金)	ケンブリッジ発 ロンドン着	ケンブリッジからロンドンへ移動 着後、ナショナル・ギャラリー等見学	ロンドン泊
12月28日(土) 12月30日(月)	ロンドン	ロンドンにて3日間の実地研修 (シティ地区研修、文学の背景・文学者の軌跡をたどる、 ミュージカル鑑賞等)	ロンドン泊
12月31日(火)	ロンドン発 パリ着	ユーロスターにてパリへ移動 着後、パリ市内見学	パリ泊
1月1日(水) 1月2日(木)	パリ	パリにて2日間の実地研修 (ソルボンヌ大学見学、ルーブル美術館等)	パリ泊
1月3日(金)	パリ発	空路、日本へ(乗継)	機内泊
1月4日(土)	関西国際空港	帰国	

(交通機関および現地の都合により変更する場合があります)

講義コード	22900111			
科目名	基礎演習ⅠA			
担当者	小山 哲春			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『広げる知の世界：大学でのまなびのレッスン』 北尾謙治他 ひつじ書房 2005			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900112			
科目名	基礎演習ⅠB			
担当者	吉野 啓子			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『広げる知の世界：大学でのまなびのレッスン』 北尾謙治他 ひつじ書房 2005			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900113			
科目名	基礎演習ⅠC			
担当者	橘堂 弘文			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『広げる知の世界：大学でのまなびのレッスン』 北尾謙治他 ひつじ書房 2005			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900114			
科目名	基礎演習ⅠD			
担当者	Gregory Peterson			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『広げる知の世界：大学でのまなびのレッスン』 北尾謙治他 ひつじ書房 2005			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本科目は、英語英文学科初年次生を対象とし、大学での「学び」について理解し、基本的な「学び方」を習得することを目的とします。

これまでとは違う大学というシステムの中で4年間自律的に学び成長するために、大学初年度に身につけるべき知識、態度、アプローチ、スキルなどを総合的に学ぶための科目です。

2. 教育・学習の個別課題

1. 大学における学びの仕組み（単位の取得やカリキュラム）を理解し、

そのシステムの中で有効に機能するための知識と技能を身につけること。
2. 大学における自立的な学びの方法を理解し、具体的な方法（授業への臨み方、情報収集と整理の仕方、レポートや論文作成の方法、プレゼンテーションやディスカッションの技術）を習得する。

3. 英語英文学科の4年間のカリキュラムを理解し、その中で自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を構築する。

4. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティを形成し、自律的であると同時に関わりが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

3. 教育・学習の方法

2回の全体講義および演習と1回の個別セッションに分かれての演習（計3週間）を1セットとし、これを繰り返しながら上記の個別課題の達成を目指す。個人の課題とグループ課題等をバランスよく取り入れ、既存知を受動的に受け入れるのではなく、能動的に自らの中に知識と技術を確立していくための方法を採用する。

・準備学習の具体的な方法

毎回の授業において、各トピックに適切な準備方法が提示される。

4. 評価方法・評価基準

1. 出席およびクラス内演習課題の遂行 50%

2. 諸課題レポートやグループ課題 50%

5. 授業予定

第1回 オリエンテーション、学会紹介/大学の魅力(1章)、英文科のカリキュラム

第2回 有意義な大学生生活と学習・研究(2章)/大学の学習・研究の実際(3章)/英語学習について

第3回 個別セッション(振り返りレポート作成、他作業)

第4回 ノートの取り方(4章)/大学生のための読解(5章)

第5回 情報収集(6章)/インターネット(7章)/ワープロの有効な利用方法(18章)

第6回 個別セッション(振り返りレポート作成、他作業)

第7回 書くことの重要性(10章)/レポートや論文を書く(11章)/剽窃(15章)

第8回 テストの準備と受け方(13章)

第9回 個別セッション(演習課題、振り返りレポート作成)

第10回 教授と知り合い、指導を受けよう(16章)

第11回 オフィスアワー、ハラスメント、相談室

第12回 個別セッション(演習課題、振り返りレポート作成)

第13回 クリティカル・シンキング(14章)/テーマの選び方(8章)/情報の整理(9章)

第14回 プレゼンテーション(12章)/PowerPoint プレゼンテーション(19章)

第15回 個別セッション(振り返りレポート作成、他作業)

6. 留意事項

クラス指定

講義コード	22900211			
科目名	基礎演習ⅡA			
担当者	小山 哲春			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900212			
科目名	基礎演習ⅡB			
担当者	吉野 啓子			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900213			
科目名	基礎演習ⅡC			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900214			
科目名	基礎演習ⅡD			
担当者	Gregory Peterson			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

基礎演習Ⅰにおける教育目標に加え、基礎演習Ⅱでは、英語英文学科での「学び」の各となる四つのトピック（英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学、英語学）に関して具体的な学びを開始することを目標とする。二年次配当の必修科目である概論科目（英語圏文学文化概論、コミュニケーション概論、言語学概論、英語学概論*）の導入を行い、二年次以降の専門教育の履修が円滑に進むよう、準備を行う科目となる。（*ただし英語学概論は選択）

2. 教育・学習の個別課題

- 英語英文学科の学びの中心である、英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学、および英語学の基礎を概観し、それぞれに対する知的関心と興味を養う。
- 上記それぞれの学術領域における基本的な学びの手段を習得し、二年次以降の本格的な専門学習に必要なアカデミックスキルを養う。

3. 教育・学習の方法

英語英文学科の学びの中心である四つの学術領域に関して、それぞれ3週間づつの導入演習を行う。この際、四つのセッションがローテーションを組んで各学術領域の担当者の演習を受講することで、少人数による効果的な演習を行えるようにする。

授業内での具体的な学習の方法については、それぞれの領域の担当者が具体的に指示する。

・準備学習の具体的な方法

具体的な準備学習の方法は、それぞれの学術領域の担当者より授業前に指示される。

4. 評価方法・評価基準

出席および授業内の演習課題： 50%

レポートおよびグループ課題： 50%

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 第一クール①（英語圏文化／文学、言語学、コミュニケーション学、英語学のいずれか）
- 第3回 第一クール②（英語圏文化／文学、言語学、コミュニケーション学、英語学のいずれか）
- 第4回 第一クール③（英語圏文化／文学、言語学、コミュニケーション学、英語学のいずれか）
- 第5回 第二クール①（英語圏文化／文学、言語学、コミュニケーション学、英語学のいずれか）
- 第6回 第二クール②（英語圏文化／文学、言語学、コミュニケーション学、英語学のいずれか）
- 第7回 第二クール③（英語圏文化／文学、言語学、コミュニケーション学、英語学のいずれか）
- 第8回 個別セッション（演習課題、振り返りレポート作成）

第9回 第三クール①（英語圏文化／文学、言語学、コミュニケーション学、英語学のいずれか）

第10回 第三クール②（英語圏文化／文学、言語学、コミュニケーション学、英語学のいずれか）

第11回 第三クール③（英語圏文化／文学、言語学、コミュニケーション学、英語学のいずれか）

第12回 第四クール①（英語圏文化／文学、言語学、コミュニケーション学、英語学のいずれか）

第13回 第四クール①（英語圏文化／文学、言語学、コミュニケーション学、英語学のいずれか）

第14回 第四クール①（英語圏文化／文学、言語学、コミュニケーション学、英語学のいずれか）

第15回 まとめと振り返り

6. 留意事項

講義コード	22900101			
科目名	基礎演習ⅠP 大学でどう学ぶか			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	人間文化学概論Ⅰ ※平成16～19年度入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900102			
科目名	基礎演習ⅠQ 大学でどう学ぶか			
担当者	吉田 朋子			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	人間文化学概論Ⅰ ※平成16～19年度入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900103			
科目名	基礎演習ⅠR 大学でどう学ぶか			
担当者	岩崎 れい			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	人間文化学概論Ⅰ ※平成16～19年度入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900104			
科目名	基礎演習 I S 大学でどう学ぶか			
担当者	野田 四郎			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	人間文化学概論 I ※平成 16~19 年度入学者に適用			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900105			
科目名	基礎演習 I T 大学でどう学ぶか			
担当者	朱 鳳			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	人間文化学概論 I ※平成 16~19 年度入学者に適用			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900106			
科目名	基礎演習 I U 大学でどう学ぶか			
担当者	吉田 智子			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	人間文化学概論 I ※平成 16~19 年度入学者に適用			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

大学の授業をどのように受ければよいのか、4年間の大学生活でどんなことができるのか、卒業までにしておいたほうがよいことは何か、人間文化学科で何を学ぶのかなど、新入生にとって必要な心構えを身につけることをねらいとする。相互にささあう友人を作ること、担任教員との人間関係を築くこと、学習フィールドとしての京都に親しむことも、この科目の大きな目標の一つである。また、学科として、卒業後の自分を見据え、社会の即戦力となるために必要なさまざまな資格に挑むことも推奨している。この科目によって4年間の過ごし方や卒業後の進路について、およその見通しが持てるようになることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 大学で何をどう学ぶかについて考える
2. 人間文化学科でどんなことが学べるかを理解する
3. 卒業後の進路について考え、そのために必要なさまざまな資格や課外活動に挑戦する
4. 学生同士、また教員との人間関係を築く
5. 関心領域の本や資料を計画的に読む

3. 教育・学習の方法

1. 人間文化学科が制作したテキストにより、カリキュラム、勉強法、情

報検索法、進路、現代諸事情等について学ぶ

2. テキスト以外に、担当教員の専門分野に関わる教材も使用する
3. 座学だけでなく、調査発表やフィールドワークといった方法も取り入れる
4. 資格やボランティア活動にチャレンジするため、授業の中で系統的に指導を行う
5. クラスごとに何らかのプロジェクトを企画し、その制作・発表に向けて取り組む
6. 半期15回の授業のうち、1回はフレッシュマンセミナー、2回は人間文化学科専門教育に関わる合同授業、最後の1回は各クラスで取り組んだプロジェクトの発表会にあてる

・準備学習の具体的な方法

1. テキストをあらかじめ読んでおくこと
2. 指名された発表課題や役割分担については、積極的にかつ責任をもって取り組むこと

4. 評価方法・評価基準

発表内容や提出課題の成績、また試験結果を評価の基本とするが、出席状況や取り組む姿勢をも重視する(欠席5回以上で、単位取得は困難となる)

5. 授業予定

- 第1回 フレッシュマンセミナー
- 第2回 導入授業—キャリアチャレンジプログラムについて
- 第3回 プロジェクト発表について
- 第4回 大学の勉強・成績
- 第5回 人間文化学科カリキュラムについて
- 第6回 レポート・試験の対策
- 第7回 大学生生活の送り方—課外活動
- 第8回 情報検索のしかた
- 第9回 学生生活のデザイン
- 第10回 海外留学について
- 第11回 進路と就職
- 第12回 京都フィールドワーク
- 第13回 合同授業 (実施回未定)
- 第14回 合同授業 (実施回未定)
- 第15回 総括

6. 留意事項

講義コード	22900201			
科目名	基礎演習 II P 大学でどう学ぶか			
担当者	小川 光			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	人間文化学概論 II ※平成 16~19 年度入学者に適用			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900202			
科目名	基礎演習 II Q 大学でどう学ぶか			
担当者	鎌田 均			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	人間文化学概論 II ※平成 16~19 年度入学者に適用			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900203			
科目名	基礎演習ⅡR 大学でどう学ぶか			
担当者	平野 美保			
単位数	2 配当学年 1			
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	人間文化学概論Ⅱ ※平成16～19年度入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900204			
科目名	基礎演習ⅡS 大学でどう学ぶか			
担当者	長沼 光彦			
単位数	2 配当学年 1			
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	人間文化学概論Ⅱ ※平成16～19年度入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900205			
科目名	基礎演習ⅡT 大学でどう学ぶか			
担当者	鷲見 朗子			
単位数	2 配当学年 1			
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	人間文化学概論Ⅱ ※平成16～19年度入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900206			
科目名	基礎演習ⅡU 大学でどう学ぶか			
担当者	吉田 智子			
単位数	2 配当学年 1			
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	人間文化学概論Ⅱ ※平成16～19年度入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

大学の授業をどのように受ければよいのか、4年間の大学生活でどんなことができるのか、卒業までしておいたほうがよいことは何か、人間文化学科で何を学ぶのかなど、新入生にとって必要な心構えを身につけることをねらいとする。相互にささえあう友人を作ること、担任教員との人間関係を築くこと、学習フィールドとしての京都に親しむことも、この科目の大きな目標の一つである。また、学科として、卒業後の自分を見据え、社会の即戦力となるために必要なさまざまな資格に挑むことも推奨している。この科目によって4年間の過ごし方および卒業後の進路について、おおよその見通しが持てるようになることが望ましい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 大学で何をどう学ぶかについて考える
2. 人間文化学科でどんなことが学べるかを理解する
3. 卒業後の進路について考え、そのために必要なさまざまな資格や課外活動に挑戦する
4. 学生どうし、また学生・教員間の人間関係を築く
5. 関心領域の本を計画的に読む

3. 教育・学習の方法

1. 人間文化学科が制作したテキストにより、カリキュラム、勉強法、情報検索法、進路、現代諸事情等について学ぶ
2. テキスト以外に、担当教員の専門分野に関わる教材も使用する
3. 座学だけでなく、調査発表やフィールドワークといった方法も取り入れる
4. 資格やボランティア活動にチャレンジするため、授業の中で系統的に指導を行う
5. クラスごとに何らかのプロジェクトを企画し、その制作・発表に向けて取り組む
6. 半期15回の授業のうち、1回はフレッシュマンセミナー、2回は人間文化学科専門教育に関わる合同授業、最後の1回は各クラスで取り組んだプロジェクトの発表会にあてる

・準備学習の具体的な方法

1. テキストをあらかじめ読んでおくこと
2. 指名された発表課題や役割分担については、積極的にかつ責任をもって取り組むこと

4. 評価方法・評価基準

発表内容や提出課題の成績、また試験結果を評価の基本とするが、出席状況や取り組む姿勢をも重視する(欠席5回以上で、単位取得は困難となる)

5. 授業予定

- 第1回 フレッシュマンセミナー
- 第2回 導入授業—キャリアチャレンジプログラムについて
- 第3回 プロジェクト発表について
- 第4回 大学の勉強・成績
- 第5回 人間文化学科カリキュラムについて
- 第6回 レポート・試験の対策
- 第7回 大学生生活の送り方—課外活動
- 第8回 情報検索のしかた
- 第9回 学生生活のデザイン
- 第10回 海外留学について
- 第11回 進路と就職
- 第12回 京都フィールドワーク
- 第13回 合同授業 (実施回未定)
- 第14回 合同授業 (実施回未定)
- 第15回 総括

6. 留意事項

講義コード	18001101			
科目名	学びの扉Ⅰ・文化学A 世界遺産空想ツアーに行こう！			
担当者	鷲見 朗子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	特別なテキストは使用しない。			
参考文献	参考文献は、適宜、授業中に提示する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	18001102			
科目名	学びの扉Ⅰ・文化学B 世界遺産空想ツアーに行こう！			
担当者	鷲見 朗子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	特別なテキストは使用しない。			
参考文献	参考文献は、適宜、授業中に提示する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

世界遺産とは、ユネスコの世界遺産条約に基づいて登録された、人類全体にとって「顕著で普遍的な価値」をもつ遺跡、芸術、景観、自然などを指す。まず世界遺産として登録される基準、世界遺産の3種類（文化遺産、自然遺産、複合遺産）、危機遺産等についての基本的な知識を得る。次に、例として授業でとりあげる、いくつかの世界遺産の歴史的・地域的背景やその特徴を学ぶ。さいごに、自分が興味のある世界遺産を選び、それについて発表することで、主体的に考え、発信する力をつける。

2. 教育・学習の個別課題

1. 世界遺産の歴史と分類
2. 世界遺産登録基準と登録の流れ
3. 世界遺産の保全
4. 日本の文化遺産と自然遺産
5. 世界の文化遺産と自然遺産

3. 教育・学習の方法

1. 文化と自然について考えを深めるため、基礎文献を読む
2. 世界遺産について話し合い、登録されることの意義を考える
3. 世界の世界遺産を写真や映像で見る
4. 授業でとりあげなかった世界遺産から1つを選び、それについて発表を行なう

・準備学習の具体的な方法

毎授業、指示された課題（文献を読む、調べるなど）をきっちりと行ない、提出物があれば、締切日までに提出する。予習・復習を欠かさない。

4. 評価方法・評価基準

評価は、発表30%、授業への貢献度（小テストを含む）20%、レポート50%とする。授業を5回以上欠席した受講者には単位を与えない。また遅刻2回で欠席1回に数える。

5. 授業予定

- 第1回 世界遺産の歴史、3つの種類、登録基準
- 第2回 危機遺産、保全、遺産を見る時のマナー
- 第3回 日本の文化遺産：古都京都の文化財、古都奈良の文化財
- 第4回 日本の文化遺産：姫路城、白川郷・五箇山の合掌造り集落、原爆ドーム
- 第5回 日本の自然遺産：屋久島、白神山、知床
- 第6回 世界の文化遺産：パリのセーヌ河岸、モンサンミッシェルとその湾
- 第7回 世界の文化遺産：ロンドンと近郊、エディンバラの旧市街と新市街、ストーンヘンジ
- 第8回 世界の文化遺産：バルセローナのガウディ作品群、グラナダのアルハンブラ宮殿
- 第9回 世界の文化遺産：エルサレム旧市街、イスタンブールの歴史

地区

- 第10回 世界の文化遺産：タージ・マハル、アンコールの遺跡群、万里の長城、始皇帝陵
- 第11回 世界の自然遺産：グランド・キャニオン、ガラパゴス諸島、ラバ・ヌイ国立公園
- 第12回 世界の複合遺産：マチュピチュ、カッパドキア、タスマニア原生地帯
- 第13回 発表
- 第14回 発表
- 第15回 発表

6. 留意事項

授業予定にあげた各遺産は、時間その他の都合で変更することがある。また、必ずしもこの順序で授業が進められるとは限らない。

講義コード	18001201			
科目名	学びの扉Ⅱ・京都学A 京の〈地歴女〉になろう			
担当者	小川 光			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	担当教員が作成し、適宜、授業で配布する。			
参考文献	授業の中で紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	18001202			
科目名	学びの扉Ⅱ・京都学B 京の〈地歴女〉になろう			
担当者	小川 光			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	担当教員が作成し、適宜、授業で配布する。			
参考文献	授業の中で紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

千年の都・京都に本学はあり、われわれは様々な意味で日本文化を日々身近に感じる環境にいる。しかし、近年刊行されている多くの「京都本」の中で京都文化について読むと、意外と京都について知らないことが多くあることに気づかされる。それだけ京都はその歴史や文化の奥が深いということだろう。この授業では、京都の地理や歴史の概要を学びなおし、それにより千年の都・京都を再発見するための手引きをし、京都学の入門とする。

2. 教育・学習の個別課題

太古の京都と平安時代から明治時代に至る京都の歴史、そして明治時代以降、特に第二次大戦後に京都が大きく変貌させられる近現代の京都史の概要、そしてこれらの歴史の進展と関連した京都の地理、地勢の変化を学ぶ。また、これと並行して京都に残る寺社や祭などの文化財や文化について学んでいく。授業では、京都の古地図と現代の地図を比較したり、年表を参照しながら京都の歴史の変遷において埋没した諸事の再発見をする。受講生の希望により、これらの古地図を歩き、長い歴史に埋もれたものを訪ね、現地学ぶフィールドワークを行うことも視野に入れている。また、グループワークを課すこともある。

1. 古地図と現代の地図を比較し、変わったもの、変らざるものを見出すことにより、京都の文化の現れとしての地理をよく理解して「京の地理女」になる。
2. 京都の歴史の概要をつかむことで京文化を体感して「京の歴史女」になる。
3. 伝承や説話に興味を持ち、京都の歴史・文化の深さを体感する。

3. 教育・学習の方法

1. 京都の歴史についての知識を整理し、千年の都・京都の歴史・文化の概要をつかむ。
2. 古代の京都の地勢図を参照しながら、今日の京都の地理の原形を考え、

各時代における地理の変遷を考える手がかりとする。

3. 京都史上において大きな変化があった、特に中世以降の地理の変遷について、古地図と現代の地図の比較を通じて考察する。

4. 京都史の各時代について、歴史と地理を融合させたトピックを取り上げて学んでいく。

5. 学んだ知識をもとにして、京都の町歩きが千年の都・京都にある大学での自分の学びに意義を添えるようにする。

・準備学習の具体的な方法

普段より京都の町を歩くときには、目に入る物で少しでも自分の興味を引く物があれば書き留めておいて、インターネットなどで調べるようにしておく。また、京都の町中には史蹟やその説明文が多く見られるが、それらには特別な注意を払いながら、日ごろから京都についての関心を深めていくことが大切である。

4. 評価方法・評価基準

全授業の3分の1の欠席で授業を放棄したものと見做し、定期試験の受験資格を失う。一度の欠席によっても総合的な京都観の知識が欠損するので、毎回の出席は絶対条件。評価は授業への貢献度(質問に対する正答率など)20%、定期試験80%とする。初回の授業で、京都学を扱う授業として方針その他の重要な注意を伝えるので、それらをしっかりと確認すること。

5. 授業予定

- 第1回 京都の太古の地勢を知る一本学の立地場所は湖際だった？
- 第2回 古代から平安時代にかけての京都—地史から見た京都の「奈良時代」
- 第3回 平安時代の京都の地勢—なぜ「京都=洛」なのか
- 第4回 平安京の町並みと大内裏—今の御所は何代目？
- 第5回 平安時代の暮らし—絵巻物や古典にみる都人の生活文化
- 第6回 平安時代から鎌倉時代にかけての京都—貴族に代わる武家の文化
- 第7回 室町時代から戦国時代にかけての京都—中世の終わりとう京都のリセット
- 第8回 信長と秀吉の時代—桃山文化と秀吉の京都改造土木事業
- 第9回 江戸時代の京都—朝鮮通信使やケンペルその他の外国人が見聞したこと
- 第10回 幕末の京都—千年の都・京都に何が起きていたか
- 第11回 明治維新後の京都—新しい文化の受容の始まりと変貌する町並み
- 第12回 明治時代の京都—勸業政策(博覧会、疏水事業など)と文化政策(京都国立博物館、京都府立図書館や大学の創設)
- 第13回 2つの世界大戦と京都—変わるものと変わらざるもの
- 第14回 第二次大戦後の京都:「発展」の光と影
- 第15回 総まとめ—それぞれの京都学事始め

6. 留意事項

授業予定に挙げた以上の項目は、京都の歴史・文化を総合的に学ぶために必要なものを時代順に示しているが、時間その他の都合で変更することがある。また、必ずしもこの順序で授業が進められるとは限らない。

講義コード	18001301			
科目名	学びの扉Ⅲ・芸術学A 空想美術館をつくろう			
担当者	吉田 朋子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	特になし			
参考文献	適宜紹介する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	18001302			
科目名	学びの扉Ⅲ・芸術学B 空想美術館をつくろう			
担当者	吉田 朋子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	特になし			
参考文献	適宜紹介する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

絵画を気楽に眺め、自由に話し合うことができるようになる。絵画には様々な見方があることを知る。自分の良いと思う作品について、他の人に伝えるような説明をできるようにする。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 気楽に絵画を鑑賞することに慣れる
- (2) 絵画作品は様々な角度から見るができることを知る
- (3) 自分の好きな美術作品を何か見つける

3. 教育・学習の方法

- (1) 絵画作品のスライド(またはカラーコピー)を見て、自由に話し合う(毎回)
- (2) 説明を聞きながら、ワークシートを用いて情報の整理・理解・感想文作成(毎回)
- (3) 自分の「おすすめ作品」を探し、自分の言葉で推薦文を作成する。これを集成して、クラスの「空想美術館」の発表を行う(最終回)

・準備学習の具体的な方法

絵画や彫刻、デザインなど、私たちの身の回りには様々な視覚的表現があります。自分はどうのような表現が好きなのか、日ごろから気をつけてみてください。そして、どこが良いと思うのか、言葉にするように心がけてみてください。

4. 評価方法・評価基準

毎回の参加状況50%・ワークシートや課題50%で評価します

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション〜《モナ・リザ》
- 第2回 《ケルズの書》
- 第3回 ミケランジェロ 《アダムの創造》
- 第4回 ファン・エイク 《アルノルフィーニ夫妻の肖像》
- 第5回 レンブラント 《放蕩息子の帰還》
- 第6回 ルーベンス 《戦争の惨禍》
- 第7回 ベラスケス 《官女たち》
- 第8回 フェルメール 《絵画芸術》
- 第9回 ゴヤ 《わが子をくらくらサトゥルヌス》
- 第10回 「空想美術館」に向けての説明
- 第11回 モネ 《睡蓮》
- 第12回 ゴッホ 《星月夜》
- 第13回 ピカソ 《ゲルニカ》
- 第14回 ポロック 《No. 1》
- 第15回 「空想美術館」発表会

6. 留意事項

授業予定に入れた作品はあくまで予定であり、変更する可能性があります。

講義コード	18001401			
科目名	学びの扉Ⅳ・文学A ディズニーのおとぎ話を解説する			
担当者	須川 いずみ			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『不思議の国のアリス』ルイス・キャロル(角川文庫) その他プリント			
参考文献	Alice in Wonderland by Lewis Carroll(Norton Critical Edition, 『不思議の国のアリス』ミュージ カル・ファンタジー(ソニー)			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	18001402			
科目名	学びの扉Ⅳ・文学B ディズニーのおとぎ話を解説する			
担当者	須川 いずみ			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『不思議の国のアリス』ルイス・キャロル(角川文庫) その他プリント			
参考文献	Alice in Wonderland by Lewis Carroll(Norton Critical Edition, 『不思議の国のアリス』ミュージ カル・ファンタジー(ソニー)			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

ディズニープロデュースの「おとぎ話」を主軸に、原作との比較論を展開し、ディズニーの意図したことと原作の意味を考えることがこの科目の研究目標である。それぞれの作品を比較研究することによって、ヨーロッパの文学背景とディズニーのアメリカの価値観の違いを認識することになると思う。また、日本にはない文学作品にみられる生き方、価値観についても深く考えることができる。授業では、予め読んできた作品について分析したり、積極的に発言することを求められる。また、ワークシートをそれぞれ完成させ提出しなければならない。

2. 教育・学習の個別課題

1. 作品を深く読み理解する能力をつける。
2. 映画を鑑賞し、理解できるようにする。
3. 文学的要素を理解できるようにする。
4. 文化的背景を研究できるようにする。
5. 比較検討できるようにする。

3. 教育・学習の方法

1. 原作の「おとぎ話」を読み、作品を理解する。
2. 映画を鑑賞し、原作と比較研究する。
3. 文化的背景を学ぶ。
4. ワークシートを仕上げる。
5. 文献調査をして、発表する。

・準備学習の具体的な方法

1. 課題の作品を読んでくる。
2. 課題の映画を観てくる。
3. 課題のワークシートの部分をする。
3. 文献研究をする。
4. ワークシートを仕上げる。

4. 評価方法・評価基準

クラスリスボンズ(50%)、試験(30%)、ワークシート、小テスト(20%) 欠席回数が3分の1を超過した場合原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文学入門
- 第3回 『人魚姫』(アンデルセン、デンマーク)
- 第4回 『リトル・マーメイド』(ディズニー・アメリカ)

- 第5回 ワークシート作成とグループ発表
- 第6回 『シンデレラ』(ディズニー・アメリカ)
- 第7回 『灰かぶり』(グリム兄弟、ドイツ)
- 第8回 『魔法にかけられて』(ディズニー・アメリカ)
- 第9回 『不思議の国のアリス』(ルイス・キャロル)
- 第10回 『不思議の国のアリス』アニメーション(ルイス・キャロル)
(ディズニー、アメリカ)
- 第11回 『不思議の国のアリス』ジョニー・デップ出演映画(ルイス・キャロル)
(ディズニー、アメリカ)
- 第12回 登場人物の意味と比較
- 第13回 ワークシート作成
- 第14回 グループ発表
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

学生の要望によって扱う教材を変更することがある。

講義コード	18001501			
科目名	学びの扉Ⅴ・ことば学A			
担当者	杉村 美奈			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	テキストにはスライドとハンドアウトを使います。			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	18001502			
科目名	学びの扉Ⅴ・ことば学B			
担当者	杉村 美奈			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	テキストにはスライドとハンドアウトを使います。			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

我々が日々当たり前のように使用している言葉(言語)について考えていきたい。ここでいう「言語」とは思想や意思の伝達といったコミュニケーションの道具としての意味ではなく、「言語そのもの」の性質を意味する。「なぜ我々はいとも簡単に母語を話し、また理解する事ができるのか」といった疑問や、「文法に良い/悪いは存在するのか」といったテーマを始め「言語はどのような規則に基づいて成り立っているのか」について深く考察することで、人間のみに備わった能力である「言語」の本質に迫りたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 言語とは何かという言語の本質に迫る。
2. 言語の科学的側面を考察する。
3. 言語の社会的側面を考察する。

3. 教育・学習の方法

授業スタイルは「講義と演習」とする。テーマにそってまず講義を行い、その後、課題が与えられるのでその課題についてディスカッションをペア、またはグループで行ってもらい、最終的に個人で意見をまとめる。

・準備学習の具体的な方法

言語に関するさまざまなテーマを扱い、それについて議論をしていくのがこのクラスの基本的なスタイルであるので、自発的に「考える」ことを常に心がけてほしい。次のクラスで議論する事をあらかじめ伝えるので自分なりに意見をまとめておく事が期待される。

4. 評価方法・評価基準

授業参加(ワークシート、ディスカッションなど)20%、課題50%、レポート30%の総合評価とする。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション 言語とは何か
- 第2回 文法とは何か

- 第3回 言語学とは何か
- 第4回 言語と思考
- 第5回 話し言葉と書き言葉
- 第6回 語とは何か
- 第7回 文とは何か
- 第8回 文の意味
- 第9回 言語表現と文脈
- 第10回 言語の類似性と差異
- 第11回 言語獲得と言語習得
- 第12回 脳と言語
- 第13回 社会における言語
- 第14回 動物のコミュニケーション
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	18001601			
科目名	学びの扉Ⅵ・女性学A 「ガーリー・ムービー」から学ぶ女性の生き方			
担当者	山本 裕子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	教科書は使用しない。			
参考文献	授業時に適宜紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	18001602			
科目名	学びの扉Ⅵ・女性学B 「ガーリー・ムービー」から学ぶ女性の生き方			
担当者	山本 裕子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	教科書は使用しない。			
参考文献	授業時に適宜紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本授業は、「女性学」という比較的新しい学術領域が扱う諸問題についてディスカッションやディベートをとおして検討することにより、学生各自がそれらの諸問題に関する自分の意見や立場を明確にもてるようになることを目標として計画されている。これらの諸問題への導入としては、学生にとって身近ないわゆる「ガーリー・ムービー」と呼ばれる映画を使用する。実は、女性の生き方を扱ったこれらの大ヒット映画には、様々な問題を論じるのに恰好の題材が隠れているのである。授業を通して、学生は、女性学が取り扱う諸問題について様々な考え方や立立場の違いがあり得ることを理解したうえで、自分の意見や立場を明確にもち、相手に論理的に発信することを学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 女性学の分野の確立の歴史的背景を知る。
2. 女性学の分野内における異なる考え方や立場を理解する。
3. 女性学が扱う様々なトピックについて検討し、それらについての自分の意見や立場を明確にもつ。
4. 自分の意見を論理的に組み立てて発信する。

3. 教育・学習の方法

授業は、原則的にディスカッション・ディベート形式で進められるので、事前準備と授業時の積極的な参加が必要不可欠である。授業前には、図書館やインターネットで関連情報を採る等の情報収集や、自分の意見をまとめておくことが必要となる。授業時には、自分の調べてきた情報を発信したり、相手の意見を尊重したうえで反駁したり、という積極的な貢献が望まれる。また、ディスカッション・ディベートの後には、リフレクション・ペーパーの提出が義務付けられる。

・準備学習の具体的な方法

授業時のディスカッション・ディベートに備えて、自分の意見をノートにまとめておくこと。

4. 評価方法・評価基準

平常点 20%
課題・提出物 50%
レポート 30%

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション 「女性学」ってなんだろう？
- 第2回 『プリティ・ウーマン』（1990年）
- 第3回 論点整理とディスカッションの準備
- 第4回 コール・ガールというお仕事？ ——女性の身体と職業選択の自由
- 第5回 シンデレラ・シンドローム？ ——女性のキャリア選択
- 第6回 『キューティーマン・ブロンド』（2001年）
- 第7回 論点整理とディスカッションへの準備
- 第8回 見た目って大事？ ——「女らしさ」の固定観念、外見と中身という「二項対立」
- 第9回 オトコと仕事、どちらを選ぶ？ ——家庭/仕事という「二項対立」の畏
- 第10回 『セックス・アンド・ザ・シティ』（2008年）
- 第11回 論点整理とディスカッションの準備
- 第12回 四人の中で、いちばん好きなのは・・・！でも、どうして？ ——女性の人生選択
- 第13回 スーパー・ウーマン・シンドローム？ ——女性の自立と「しあわせ」のかたち
- 第14回 総まとめ（論点確認とレポート準備）
- 第15回 レポート準備のつづき

6. 留意事項

講義コード	18010101			
科目名	医療サポート英語 I			
担当者	須川 いずみ			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト	『Because We Care』 Inoue & Ihara センゲージラーニング			
参考文献	『講義録 医学英語 I』 清水雅子 メディカルビュー社 2011年 『そのまま使える病院英語表現5000』 仁木久恵等 医学書院 2009年			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本学が京都府立医科大学と提携した契機に、本学が今まで取り組んできたホスピタリティを基盤に語学力のある高度な医療サポートスタッフの養成を考えている。まずは、将来の医療現場で役立つような医学的英語の基礎力をこのクラスでは養成する。特に病院での受付を英語でできるように訓練する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 医療関係英語語彙の習得
2. 医療に使われる基本的英語フレーズの習得
3. 医療現場で役立つ実践的英語の基礎力養成

3. 教育・学習の方法

1. 医療文献のリーディング
2. 語彙テスト
3. フレーズの練習
4. ロールプレイ
5. 医療英語演習

・準備学習の具体的な方法

1. 医療語彙学習
2. 予備的医療知識習得
3. CDでの練習
4. 課題準備

4. 評価方法・評価基準

授業態度30%、課題30%、クイズ10%、試験30%

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 専門科目と専門医の名称

- 第3回 身体の部位名、筋骨格系部位名
- 第4回 受付での英語
- 第5回 患者のプロフィール
- 第6回 症状の英語1
- 第7回 症状の英語2
- 第8回 症状の英語3
- 第9回 症状の英語4
- 第10回 症状の英語5
- 第11回 診察の説明
- 第12回 検査の説明
- 第13回 薬剤投与の説明
- 第14回 総合
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

学生のレベルによって中身が変わる可能性がある。

講義コード	20201201			
科目名	Reading and Writing I A			
担当者	Peter Cheyne			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	The teacher will provide students with workbooks for the course modules.			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Reading and writing will be taught in thematically organized units of study to promote fluency and accuracy. Previously studied grammatical structures and vocabulary will initially be reviewed before being built upon. Critical reading skills will also be developed. Writing skills in the first semester will focus on penmanship and the proper use of topic sentences, supporting sentences, and punctuation at the paragraph level. Students will increase their vocabulary knowledge at both the receptive and productive levels.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. All students will read self-selected books from the Extensive Reading collection on a regular basis. Students are expected to learn 500 new words in the first semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will contextualize and develop grammar and vocabulary knowledge through extensive reading.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student absent to more than 10 classes will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20201202			
科目名	Reading and Writing I B			
担当者	小山 哲春			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Curing the Future』 Atsushi Mukuhira, et al SEIBIDO 2003			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Reading and writing will be taught in thematically organized units of study to promote fluency and accuracy. Previously studied grammatical structures and vocabulary will initially be reviewed before being built upon. Critical reading skills will also be developed. Writing skills in the first semester will focus on penmanship and the proper use of topic sentences, supporting sentences, and punctuation at the paragraph level. Students will

increase their vocabulary knowledge at both the receptive and productive levels.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. All students will read self-selected books from the Extensive Reading collection on a regular basis. Students are expected to learn 500 new words in the first semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will contextualize and develop grammar and vocabulary knowledge through extensive reading.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student absent to more than 10 classes will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20201203			
科目名	Reading and Writing I C			
担当者	杉村 美奈			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『PATHWAYS 1』 Mari Vargo & Laurie Blass CENGAGE Learning 2013			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Reading and writing will be taught in thematically organized units of study to promote fluency and accuracy. Previously studied grammatical structures and vocabulary will initially be reviewed before being built upon. Critical reading skills will also be developed. Writing skills in the first semester will focus on penmanship and the proper use of topic sentences, supporting sentences, and punctuation at the paragraph level. Students will increase their vocabulary knowledge at both the receptive and productive levels.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. All students will read self-selected books from the Extensive Reading collection on a regular basis. Students are expected to learn 500 new words in the first semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will contextualize and develop grammar and vocabulary knowledge through extensive reading.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student absent to more than 10 classes will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20201204			
科目名	Reading and Writing I D			
担当者	山本 裕子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	Weaving It Together 2			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Reading and writing will be taught in thematically organized units of study to promote fluency and accuracy. Previously studied grammatical structures and vocabulary will initially be reviewed before being built upon. Critical reading skills will also be developed. Writing skills in the first semester will focus on penmanship and the proper use of topic sentences, supporting sentences, and punctuation at the paragraph level. Students will increase their vocabulary knowledge at both the receptive and productive levels.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. All students will read self-selected books from the Extensive Reading collection on a regular basis. Students are expected to learn 500 new words in the first semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will contextualize and develop grammar and vocabulary knowledge through extensive reading.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student absent to more than 10 classes will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20201401			
科目名	Reading and Writing II A			
担当者	Peter Cheyne			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	Teacher will give students workbooks for each module.			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed for success in academic contexts. As in the first semester, reading and writing skills will be taught in thematically organized units of study to promote fluency and accuracy. Previously studied grammatical structures and vocabulary will continue to be reviewed before being built upon. Critical reading skills will also be further developed. Writing skills in the second semester will focus on cohesion and coherence at the paragraph level. Students will continue to increase their vocabulary knowledge at both the receptive and

productive levels.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. All students will read self-selected books from the Extensive Reading collection on a regular basis. Students are expected to learn an additional 500 new words in the second semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will contextualize and develop grammar and vocabulary ability through extensive reading.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student absent to more than 10 classes will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20201402			
科目名	Reading and Writing II B			
担当者	小山 哲春			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『JACET 8000 読書記録手帳』			
参考文献	『Curing the Future』 Atsushi Mukuhira, et all SEIBIDO 2003			
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed for success in academic contexts. As in the first semester, reading and writing skills will be taught in thematically organized units of study to promote fluency and accuracy. Previously studied grammatical structures and vocabulary will continue to be reviewed before being built upon. Critical reading skills will also be further developed. Writing skills in the second semester will focus on cohesion and coherence at the paragraph level. Students will continue to increase their vocabulary knowledge at both the receptive and productive levels.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. All students will read self-selected books from the Extensive Reading collection on a regular basis. Students are expected to learn an additional 500 new words in the second semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will contextualize and develop grammar and vocabulary ability through extensive reading.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student absent to more than 10 classes will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20201403			
科目名	Reading and Writing II C			
担当者	杉村 美奈			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『PATHWAYS 1』 Mari Vargo & Laurie Blass CENGAGE Learning 2013			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed for success in academic contexts. As in the first semester, reading and writing skills will be taught in thematically organized units of study to promote fluency and accuracy. Previously studied grammatical structures and vocabulary will continue to be reviewed before being built upon. Critical reading skills will also be further developed. Writing skills in the second semester will focus on cohesion and coherence at the paragraph level. Students will continue to increase their vocabulary knowledge at both the receptive and productive levels.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. All students will read self-selected books from the Extensive Reading collection on a regular basis. Students are expected to learn an additional 500 new words in the second semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will contextualize and develop grammar and vocabulary ability through extensive reading.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student absent to more than 10 classes will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20201404			
科目名	Reading and Writing II D			
担当者	山本 裕子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Weaving It Together 2』			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed for success in academic contexts. As in the first semester, reading and writing skills will be taught in thematically organized units of study to promote fluency and accuracy. Previously studied grammatical structures and vocabulary will continue to be reviewed before being built upon. Critical reading skills will also be further developed. Writing skills in the second semester will focus on cohesion and coherence at the paragraph level. Students will continue to increase their vocabulary knowledge at both the receptive and

productive levels.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. All students will read self-selected books from the Extensive Reading collection on a regular basis. Students are expected to learn an additional 500 new words in the second semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will contextualize and develop grammar and vocabulary ability through extensive reading.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student absent to more than 10 classes will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20201501			
科目名	リーディング & ライティング II (中級)			
担当者	小山 哲春			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is twofold: to continue to help students improve their reading skills and to continue to expand students' ability to express themselves fluently in writing.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is strongly encouraged. Students will read either "Level 2" or "Level 3" graded readers in class and as homework assignments. Students will write five essays in the first semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Classes will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Most writing assignments will be completed as homework.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined according to a continuous assessment model using the following formula: 50% Class Participation, 25% Reading Assignments, 25% Writing Assignments

5. Course Schedule (授業予定)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

6. Special Information (留意事項)

Students are expected to attend class regularly. Three points will be subtracted from the final grade for each absence, and one point will be subtracted for each tardy. Deadlines must also be respected. No late homework will be accepted.

講義コード	20201701			
科目名	リーディング&ライティングⅡ（上級）			
担当者	小山 哲春			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is twofold: to continue to help students improve their reading skills and to continue to expand students' ability to express themselves fluently in writing.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is strongly encouraged. Students will read either "Level 2" or "Level 3" graded readers in class and as homework assignments. Students will write ten essays in the second semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Classes will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Most writing assignments will be completed as homework.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined according to a continuous assessment model using the following formula: 50% Class Participation, 25% Reading Assignments, 25% Writing Assignments

5. Course Schedule (授業予定)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

6. Special Information (留意事項)

Students are expected to attend class regularly. Three points will be subtracted from the final grade for each absence, and one point will be subtracted for each tardy. Deadlines must also be respected. No late homework will be accepted.

3. Produce at least 4 works of about 250 words each.
4. Speak about each work in English.
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
1. Select resources online.
2. Send e-mail to instructor.
3. Create and edit works in English.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Participation (50%), writing (50%).

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction and planning
- 第2回 Activity (1)
- 第3回 Review vocabulary and grammar (1)
- 第4回 Edit student work (1)
- 第5回 Present student work (1)
- 第6回 Activity (2)
- 第7回 Review vocabulary and grammar (2)
- 第8回 Edit student work (32)
- 第9回 Present student work (2)
- 第10回 Activity (3)
- 第11回 Review vocabulary and grammar (3)
- 第12回 Edit student work (3)
- 第13回 Present student work (3)
- 第14回 Edit final work (4)
- 第15回 Present final work (4)

6. Special Information (留意事項)

Students will stay in contact with the instructor through e-mail during the semester.

講義コード	20202101			
科目名	英語L.T演習Ⅱ（上級）			
担当者	Gregory Peterson			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	There is no required text. Students will select materials with guidance by the instructor.			
参考文献				
備考	必修（再履修者）			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

Students will gain proficiency and confidence in English reading, listening, writing, and speaking. Instruction will be based on topics that students choose. Activities will be conducted online and in face-to-face tutorials.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. Demonstrate increasing confidence and English language proficiency in writing and speaking about contemporary topics.
2. Make appropriate use of media for discovery, learning, and sharing information, ideas, and experiences.

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. Meet with instructor for planning and feedback.
2. Exchange e-mail in English with instructor.
3. Produce at least 4 works of about 250 words each.
4. Speak about each work in English.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. Select resources online.
2. Send e-mail to instructor.
3. Create and edit works in English.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Participation (50%), writing (50%).

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction and planning
- 第2回 Activity (1)
- 第3回 Review vocabulary and grammar (1)
- 第4回 Edit student work (1)
- 第5回 Present student work (1)
- 第6回 Activity (2)
- 第7回 Review vocabulary and grammar (2)
- 第8回 Edit student work (2)

講義コード	20202001			
科目名	英語L.T演習Ⅱ（中級）			
担当者	Gregory Peterson			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	There is no required text. Students will select materials with guidance by the instructor.			
参考文献				
備考	必修（再履修者）			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

Students will gain proficiency and confidence in English reading, listening, writing, and speaking. Instruction will be based on topics that students choose. Activities will be conducted online and in face-to-face tutorials.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. Demonstrate increasing confidence and English language proficiency in writing and speaking about contemporary topics.
2. Make appropriate use of media for discovery, learning, and sharing information, ideas, and experiences.

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. Meet with instructor for planning and feedback.
2. Exchange e-mail in English with instructor.

- 第9回 Present student work (2)
- 第10回 Activity (3)
- 第11回 Review vocabulary and grammar (3)
- 第12回 Edit student work (3)
- 第13回 Present student work (3)
- 第14回 Edit final work (4)
- 第15回 Present final work (4)

6. Special Information (留意事項)

Students will stay in contact with the instructor through e-mail during the semester.

講義コード	20203201		
科目名	Advanced English		
担当者	Gregory Peterson		
単位数	2	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献	Each student's Study Plan will include a list of materials.		
備考	必修		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

Advanced English is an independent study course for seniors. The course has two primary goals:

1. Students will improve their English language proficiency in topics that interest them.
2. Students will develop learning strategies that enable them to continue to learn and use English independently.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. Plan an English language study course for the semester.
2. Locate and select texts and other materials in English.
3. Use English regularly.
4. Study autonomously (independently).
5. Evaluate progress in learning.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This is an independent study course. Students will attend an orientation meeting, but there are no required weekly class meetings. Students will determine their own objectives, select their own English language materials, and work at their own schedules. The instructor will be available for consultation and advising, but students will be responsible for their own learning.

1. Orientation: Students will receive an Advanced English Orientation, which will include detailed procedures and recommendations.
2. Materials: Students will select their own learning materials. The instructor and other English Department faculty members will make recommendations, but students will be responsible for their selections.
3. Internet: An Advanced English Web site will include course information, blank forms, and other materials. A mailing list will be used for announcements.
4. Consultations: The instructor will be available for consultation at scheduled times and by appointment. Students are responsible for scheduling consultations.
5. Reports: Each student shall submit her own Study Plan, three monthly Progress Reports, and a Self-evaluation.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Each student will follow her own Advanced English Plan and prepare her monthly reports. The instructor will be available for consultation. Students should check KNDU e-mail (Active! mail) for announcements at least once a week.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades: There are no numerical grades. Students will be given credit (Pass) upon satisfactory completion of all reports.

5. Course Schedule (授業予定)

Advanced English Orientation will be held during Orientation Week. Those who are absent must arrange to meet one or more times with the instructor. Required assignments will be due at the end of each month:

1. April: Study Plan

2. May: Progress Report 1
3. June: Progress Report 2
4. July: Progress Report 3
5. July: Self-evaluation

6. Special Information (留意事項)

1. Students are encouraged to consult with the instructor or other English Department teachers regarding their goals, plans, study methods, and progress.

2. Students will use KNDU e-mail (Active! mail) for e-mail communication with the instructor.

3. See my Web site for more information:

<http://www.notredame.ac.jp/~peterson/>

講義コード	20203501		
科目名	英語キャリア戦略		
担当者	須川 いずみ		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	プリント		
参考文献			
備考	※平成19年度以後入学者に適用		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

本コースは、英語英文学科に入学してきた学生が、卒業後の夢を描いて4年間をそれぞれ充実して過ごせるように自分の可能性について考える場を提供する。教員、秘書、航空関係、ホテル、マスコミ、金融、アパレルなど将来の自分の夢を探せるように、毎回オムニバス形式でそれぞれの業界のゲストを招いて職場の話だけでなく、どのような人材を希望しているのか、どんなことを準備してほしいのかを話してもらう。就職のための戦略を一緒に考える。

2. 教育・学習の個別課題

1. 講演を聴いて内容を理解できる。
2. 講演の内容を整理できる。
3. 自分の将来構想を考える。
4. 努力目標をつくれる。
5. 英語で通信及び履歴書作成

3. 教育・学習の方法

1. 講演をしっかりと聴く。
2. 質問を考える。
3. テーマによってグループで話し合う。
4. 課題文を仕上げる。

・準備学習の具体的な方法

毎回レポートの提出を課すので、意見をまとめる練習が要る。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業態度 (40%) レポート (30%) 定期試験 (30%)

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 女の生き方と仕事
- 第3回 エアライン
- 第4回 テレビ
- 第5回 データベース：就職カルテ
- 第6回 マスコミ
- 第7回 輸入ブランドとボランティア
- 第8回 エアライン
- 第9回 一流旅館とホスピタリティ
- 第10回 国際特許
- 第11回 輸入販売
- 第12回 金融
- 第13回 ホテル
- 第14回 広告
- 第15回 総括

6. 留意事項

ゲストの都合で順番が変わる可能性があります。

講義コード	20203601			
科目名	TOEIC IA			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『BARRON'S TOEIC 5TH EDITION』 Dr. Lin Lougheed BARRON 2010			
参考文献	『一日一分レッスン! TOEIC Test』 中村澄子 詳伝 社黄金文庫 2006年第11刷発行			
備考	定員40人			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

TOEIC テストは、世界約60ヶ国で毎年450万人以上が受験している、英語コミュニケーション能力を評価するための世界共通テストです。日本の企業でも、新入社員の英語能力測定、英語研修の効果測定、あるいは海外出張・昇進・昇格の要件として利用されており、また、英語を使用する職種では社員採用の際の評価の一部として利用される場合もあります。本科目ではTOEIC ;テストに必要な基礎的あるいは応用的な英語力の習得を目指し、その結果としてTOEIC で高得点を獲得することを目標とします。

2. 教育・学習の個別課題

1. TOEIC ;テストの形式、指示、問題の傾向になれ、受験時の適切な時間管理と効率的な情報処理能力を養う 2. TOEIC ;テストでよく使用される語彙を身につける 3. TOEIC ;テストのためだけの英語ではなく、一般的な英語コミュニケーションの基礎力を身につける

3. 教育・学習の方法

「TOEIC テストの勉強はしたい。でも、どんなふうに 勉強したらいいの だろう?」基本的な学習は大切です。音声と文法の練習問題を入口→基礎→実践と 段階的に学習します。

・準備学習の具体的な方法

高校時代に慣れ親しんだテキストや参考書(例: FOREST)入試問題集を再度復習。姉妹版の TOEIC Bridge からさらに、進んで TOEIC 公式問題集 Vol.1,2,3 を、自主学習し、問題数をこなし、TOEIC テスト形式に慣れること。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 30%, voca (単語) テスト 20回 30%, Mini-test 3回 30%, H.W.10%

5. 授業予定

- 第1回 Orientation TOEIC と TOEIC Bridge の違い
How to Study TOEIC
- 第2回 Mini-test 1
問題と解答、解説
- 第3回 Chapter 1 Part 1 & 5
- 第4回 Chapter 2
- 第5回 Chapter 3
- 第6回 Chapter 4
- 第7回 Chapter 5
- 第8回 Chapter 6
- 第9回 Chapter 7
Mini-Test 2
- 第10回 Chapter 8
- 第11回 Chapter 9
- 第12回 Chapter 10
- 第13回 Chapter 11
- 第14回 Chapter 12
- 第15回 Mini-Test 3

6. 留意事項

① 本学は平成19年度から TOEIC I および TOEIC II を開講しました。TOEIC IA と IB では、初めて TOEIC を受験する学生から 400~500 点を 目指す学生、TOEIC IIA と IIB では、500~600 点を 目指す学生を対象とした演習を展開します。600 以上をめざす TOEIC III のクラスの 前には是非 TOEIC I から履修しましょう。② それぞれのクラスを履修できる条件は以下の通りです。TOEIC I は 履修条件なし TOEIC II は TOEIC I の履修者、または TOEIC 400 点以上取得者 Note :TOEIC は Test of English for International Communication の略称です。

講義コード	20203602			
科目名	TOEIC IB			
担当者	伊藤 佳世子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Gear Up for the TOEIC Test』 Mark D. Stafford 金星堂 2013			
参考文献	授業中に適宜指示する			
備考	定員40人			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード 20203603

科目名	TOEIC IC			
担当者	伊藤 佳世子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Gear Up for the TOEIC Test』 Mark D. Stafford 金星堂 2013			
参考文献	授業中に適宜指示する			
備考	定員40人			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

TOEIC(R)テストは、世界約60ヶ国で毎年450万人以上が受験している、英語コミュニケーション能力を評価するための世界共通テストです。日本の企業でも、新入社員の英語能力測定、英語研修の効果測定、あるいは海外出張・昇進・昇格の要件として利用されており、また、英語を使用する職種では社員採用の際の評価の一部として利用される場合もあります。本科目ではTOEIC(R)テストに必要な基礎的あるいは応用的な英語力の習得を目指し、その結果としてTOEIC で高得点を獲得することを目標とします。

2. 教育・学習の個別課題

1. TOEIC(R)テストの形式、指示、問題の傾向になれ、受験時の適切な時間管理と効率的な情報処理能力を養う
2. TOEIC(R)テストでよく使用される語彙を身につける
3. TOEIC(R)テストのためだけの英語ではなく、一般的な英語コミュニケーションの基礎力を身につける
4. 400点~500点にスコアをのぼす

3. 教育・学習の方法

1. TOEIC の出題形式や意図を理解する。
2. 解答ストラテジー (=解法) のポイントをおさえる。
3. ストラテジー定着のために同じような問題を繰り返し解く。
4. 進捗状況を確認する。 TOEIC テストに準拠した問題集等を使用し、難易度の低い問題からスタートし、段階的にレベルをあげていきます。練習問題を解きながら重要ポイントを繰り返し学び、自然にスキルを身につけます。

・準備学習の具体的な方法

教室で指示した教材を予習する

4. 評価方法・評価基準

出席を重視する。(授業には出席することは基本であり単に出席したことをもって大きく加点することはない)。定期試験のほか、毎回単語テストを実施したり提出物によって評価する。

5. 授業予定

- 第1回 教科書の Chapter 1 ~Chapter 7 には下記の内容の TOEIC テストと同じパターンの練習問題が含まれている。
リスニング ・ Photographs 写真描写問題 ・ Question-Reponse 応答問題 ・ Short Conversations 会話問題 ・ Short Talks 説明文問題 リーディング ・ Short Talks 説明文問題 ・ Incomplete Sentences 短文穴埋め問題 ・ Text Completion 長文穴埋め問題 ・ Reading Comprehension 読解問題
オリエンテーション プレテスト

- 第2回 Unit 1 Event. Listening 問題
- 第3回 Unit 1 Event. Reading 問題、文法 (動詞)
- 第4回 Unit 2 Eating Out. Listening 問題
- 第5回 Unit 2. Eating Out. Reading 問題、文法 (名詞、代名詞)
- 第6回 Unit 3. Shopping. Reading 問題
- 第7回 Unit 3. Shopping. Reading 問題、文法 (動詞の時制)
- 第8回 Unit 4. Housing. Listening 問題
- 第9回 Unit 4. Housing. Reading 問題、文法 (名詞2)
- 第10回 Unit 5. Employment. Listening 問題
- 第11回 Unit 5. Employment. Reading 問題、文法 (形容詞 副詞)
- 第12回 Unit 6. Personnel. Listening 問題
- 第13回 Unit 6. Personnel. Reading 問題、文法 (品詞の選択)
- 第14回 Unit 7. Office. Listening 問題、Reading 問題、文法 (前置詞)
- 第15回 まとめ復習テスト

6. 留意事項

・初めて TOEIC を受験する学生から 400~500 点をを目指す学生に適切なレベルのクラスです。・授業で勉強した聴解および読解能力は繰り返し復習することで定着し、TOEIC のスコアをあげることができます。

Note : TOEIC は Test of English for International Communication の略称です。

講義コード	20203701			
科目名	TOEIC II A			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『ESSENTIAL WORDS FOR THE TOEIC』 Dr. Lin Lougheed BARRON'S 2011 BARRON'S ESSENTIAL WORDS FOR THE TOEIC を使用する目的は WORD の構築、TOEIC のスコア up に最適な世界一のテキスト			
参考文献	『TOEIC TEST 3 か月で高得点を出す人の共通点』 中村澄子 詳伝社 2000 『新 TOEIC TEST 英文法出るとこだけ!』 小石裕子 アルク 2007 特に『新 TOEIC TEST 英文法出るとこだけ!』は Part 5 に最適なバイブルとなる。			
備考	定員 40 人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

前期 TOEIC I に引き続き、問題を数多く解いてさらなるスコアアップを目標とする。

すでにスコアが 450 以上取得者は この TOEIC II からチャレンジしていただきたい。

2. 教育・学習の個別課題

TOEIC I と同じく

1. TOEIC : テストの形式、指示、問題の傾向になれ、受験時の適切な時間管理と効率的な情報処理能力を養う。
2. TOEIC : テストでよく使用される語彙を身につける。
3. TOEIC : テストのためだけの英語ではなく、一般的な英語コミュニケーションの基礎力を身につける。

3. 教育・学習の方法

アジアの学生向けの洋書版 TOEIC 練習問題を使用し、英米との英語に対する発想の違いや、学習方法が日本での TOEIC 対策ドリルと異なるユニークな方法です。練習問題を解きながら重要ポイントを繰り返し学べる効果の高いテキストを使用します。

・準備学習の具体的な方法

TOEIC 400 から、500, 600 とスコアを伸ばすためには、毎日 TOEIC 学習態勢をとる。VOCA を増やすこと。図書館で TOEIC voca 集、推薦図書をチェック。学内 IP はすべて、チャレンジすること。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 30%、Voca (単語) テスト 20 回 30%、中間テスト 20%、期末テスト 20%

5. 授業予定

- 第1回 Getting Started
- 第2回 Lesson 1 & 2
- 第3回 Lesson 3 & 4

- 第4回 Lesson 5 & 6
- 第5回 Lesson 7 & 8
- 第6回 Lesson 9 & 10
- 第7回 Lesson 11 & 12
- 第8回 Mid-term Exam
- 第9回 Lesson 13 & 14
- 第10回 Lesson 15 & 16
- 第11回 Lesson 17 & 18
- 第12回 Lesson 19 & 20
- 第13回 Lesson 21 & 22
- 第14回 End-term Exam
- 第15回 Summing Up

6. 留意事項

TOEIC I は、初めて TOEIC を受験する学生もしくは基本スコアをあげたい学生が対象ですが、TOEIC II はすでに 450 以上あり、TOEIC I 履修者でなくてもスコアを 500~600 点をを目指す学生を対象とした演習を展開します。

講義コード	20203702			
科目名	TOEIC II B TOEIC TEST で高得点を習得する			
担当者	伊藤 佳世子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Gear Up for the TOEIC Test』 Mark D. Stafford 金星堂 2013			
参考文献	教室で適宜指示する			
備考	定員 40 人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20203703			
科目名	TOEIC II C TOEIC TEST で高得点を習得する			
担当者	伊藤 佳世子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Gear Up for the TOEIC Test』 Mark D. Stafford 金星堂 2013			
参考文献	教室で適宜指示する			
備考	定員 40 人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

TOEIC テストは、世界約 60 ヶ国で毎年 450 万人以上が受験している、英語コミュニケーション能力を評価するための世界共通テストです。日本の企業でも、新入社員の英語能力測定、英語研修の効果測定、あるいは海外出張・昇進・昇格の要件として利用されており、また、英語を使用する職種では社員採用の際の評価の一部として利用される場合もあります。本科目では TOEIC テストに必要な基礎的あるいは応用的な英語力の習得を目指し、その結果として TOEIC で高得点を獲得することを目標とします。

2. 教育・学習の個別課題

1. TOEIC テストの形式、指示、問題の傾向になれ、受験時の適切な時間管理と効率的な情報処理能力を養う
2. TOEIC テストでよく使用される語彙を身につける
3. TOEIC テストのためだけの英語ではなく、一般的な英語コミュニケーションの基礎力を身につける
4. 400 点~500 点にスコアをのぼす

3. 教育・学習の方法

1. TOEIC の出題形式や意図を理解する。
2. 解答ストラテジー (= 解法) のポイントをおさえる。
3. ストラテジー定着のために同じような問題を繰り返し解く。
4. 進捗状況を確認する。TOEIC テストに準拠した問題集等を使用し、難易度の低い問題からスタートし、段階的にレベルをあげていきます。練

習問題を解きながら重要ポイントを繰り返し学び、自然にスキルを身につけます。

・準備学習の具体的な方法

授業中に配布した教材の予習を必ずすること。

4. 評価方法・評価基準

出席を重視する(授業には出席することが基本であり単に出席をしたことをもって大きく加点することはない)。定期試験のほかに、小テストや提出物の評価を総合的に判断する。

5. 授業予定

第1回 教科書の Chapter8~Chapter15 には下記の内容の TOEIC テストと同じパターンの練習問題が含まれている。

リスニング・Photographs 写真描写問題・Question-Response 応答問題・Short Conversations 会話問題・Short Talks 説明文問題 リーディング・Short Talks 説明文問題・Incomplete Sentences 短文穴埋め問題・Text Completion 長文穴埋め問題・Reading Comprehension 読解問題
オリエンテーション プレテスト

第2回 Unit 8 finance and Banking. Listening 問題

第3回 Unit 8 finance and Banking. Reading 問題、文法(不定詞動名詞)

第4回 Unit 9 Management. Listening 問題 Reading 問題、文法(代名詞)

第5回 Unit 10 Transportation. (接続詞)

第6回 Unit 10 Transportation . Reading 問題

第7回 Unit 11 Documents. Listening, Reading 問題、文法(現在完了)

第8回 Unit 12 Public Announcement. Listening 問題

第9回 Unit 12 Public Announcement. Reading 問題、文法(助動詞)

第10回 Unit 13 Commuting. Listening 問題

第11回 Unit 13 Commuting. Reading 問題、文法(仮定法)

第12回 Unit 14 Travel. Listening Reading 問題 文法(関係詞)

第13回 Unit 15 News. Listening 問題、Reading 問題、文法(関係詞受動態)

第14回 総まとめ講義

第15回 後期試験

6. 留意事項

・初めて TOEIC を受験する学生から 400~500 点を目標とする学生に適切なレベルのクラスです。・授業で勉強した聴解および読解能力は繰り返し復習することで定着し、TOEIC のスコアをあげることができます。

Note : TOEIC は Test of English for International Communication の略称です。

講義コード	20203801			
科目名	TOEIC III A			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト	『TOEIC テスト本番攻略リーディング10回』 GAKKEN 学研教育出版 2010 『新TOEICテスト 英文法出るとこだけ!』 小石裕子 アルク 『TOEIC テスト本番攻略リーディング10回』 TOEIC 3 のテキストは韓国のカリスマ TOEIC 著者2名が編集したものです。スコアアップには問題数をこなすことが重要な鍵となる。2100 円			
参考文献	『新アメリカ文化事典』 森美恵子 他 成美堂 2000			
備考	定員 40 人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20203802			
科目名	TOEIC III B			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト	『TOEIC テスト本番攻略リーディング10回』 GAKKEN 学研教育出版 2010 『新TOEICテスト 英文法出るとこだけ!』 小石裕子 アルク 『TOEIC テスト本番攻略リーディング10回』 TOEIC 3 のテキストは韓国のカリスマ TOEIC 著者2名が編集したものです。スコアアップには問題数をこなすことが重要な鍵となる。2100 円			
参考文献	『新アメリカ文化事典』 森美恵子 他 成美堂 2000			
備考	定員 40 人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

英語学習の秘訣は「大きな慣れ」です。TOEIC を受験するという行為は英語を学習するためのとてもよい動機とエネルギーをあたえてくれます。もちろん、TOEIC で高得点を取ると就職や転職に役立ちます。せっかく勉強してきた英語力ですから、ビジネスや旅行などで活用できるレベルにすることが目標です。

2. 教育・学習の個別課題

リスニングで400点を達成して、リーディングでも同じ点を取れば800点を達成できます。目標とするスコアは高いほうがいいです。まずは250前後からスタートして、このTOEIC III のコースでTOEICの問題攻略のこつをつかみます。自分にあった学習方法でスコアアップを目指します。

3. 教育・学習の方法

リスニングは米、英、加、豪に慣れること。4つのパートの特色を踏まえて訓練すること。特にリスニングのパート4はフライト関係のアナウンスメントの訓練に役に立ちます。リーディングは文法問題の鉄則と速読の訓練問題をやります。

・準備学習の具体的な方法

TOEIC 600, 700, 800 とチャレンジするためには、スピードリスニングとスピードリーディングが必要となる。図書館、AVルームの教材を利用して、たくさん聞く、速読の訓練のため、英字新聞、百科事典英語、日本語の速読要約練習が必要。クラスでも、具体的にアドバイスあり。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 30%、Voca(単語) テスト 20 回 20%、中間テスト 20%、期末テスト 20%

5. 授業予定

第1回 Orientation & Review

第2回 Test 1

第3回 Test 1 & strategy

第4回 Test 2

第5回 Test 2 & Strategies II

第6回 Test 3

第7回 Test 3

第8回 Test 4

第9回 Test 4 Strategies

第10回 Test 5

第11回 Test 6

第12回 Test 7

第13回 Test 8

第14回 Test 9

第15回 Test 10

6. 留意事項

すでに TOEIC スコア 500 以上の取得者は TOEIC II,III を履修してなくても受講できます。また、同時通訳法 II,III は 500 以上のスコアが必要です。TOEIC II,III はできるかぎり、履修することを薦めます。この TOEIC III コースは、定員 30 名の少数精鋭主義です。ハイスコア 600 から 730 が目標です。

講義コード	20204201			
科目名	Advanced Reading I A			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to continue to help students improve their reading skills, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Individual instructors will provide readings for each class appropriate to the level of the students. Emphasis will be placed on vocabulary acquisition and strategies for reading quickly without translating into Japanese. In addition, all instructors will continue with the JACET 8000 vocabulary program that was started in Reading and Writing I/II, and students will be tested on vocabulary every week. Furthermore, the Extensive Reading program initiated in Reading and Writing I/II will also be continued, with students reading between two and five books a month, depending on their level, and writing short reports on what they have read.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Will vary depending on the teacher.

• Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and vocabulary quizzes : 30% Homework and classroom performance : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

The Advanced Reading syllabus will include intensive reading, extensive reading, and vocabulary building. The week-by-week lesson plans will be decided individually by the teacher of each section.

6. Special Information (留意事項)

reports on what they have read.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Will vary depending on the teacher.

• Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Homework and vocabulary quizzes 35%, Midterm exam 25%, Final exam 25%, Classroom performance 15%

5. Course Schedule (授業予定)

The Advanced Reading syllabus will include intensive reading, extensive reading, and vocabulary building. The week-by-week lesson plans will be decided individually by the teacher of each section.

6. Special Information (留意事項)

none

講義コード	20204203			
科目名	Advanced Reading I C			
担当者	川上 伊都子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	別途指示。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to continue to help students improve their reading skills, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Individual instructors will provide readings for each class appropriate to the level of the students. Emphasis will be placed on vocabulary acquisition and strategies for reading quickly. In addition, all instructors will continue with the JACET 8000 vocabulary program that was started in Reading and Writing I/II, and students will be tested on vocabulary every week. Furthermore, the Extensive Reading program initiated in Reading and Writing I/II will also be continued, with students reading between two and five books a month, depending on their level, and writing short reports on what they have read.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Will vary depending on the teacher

• Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Vocabulary quizzes and weekly quizzes : 30% Homework and classroom performance : 10% Final exam : 60%

5. Course Schedule (授業予定)

The Advanced Reading syllabus will include intensive reading, extensive reading, and vocabulary building. The week-by-week lesson plans will be decided individually by the teacher of each section.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20204202			
科目名	Advanced Reading I B			
担当者	杉村 美奈			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Reading EXPLORER 3』 Nancy Douglas CENGAGE Learning 2010			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to continue to help students improve their reading skills, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Individual instructors will provide readings for each class appropriate to the level of the students. Emphasis will be placed on vocabulary acquisition and strategies for reading quickly without translating into Japanese. In addition, all instructors will continue with the JACET 8000 vocabulary program that was started in Reading and Writing I/II, and students will be tested on vocabulary every week. Furthermore, the Extensive Reading program initiated in Reading and Writing I/II will also be continued, with students reading between two and five books a month, depending on their level, and writing short

講義コード	20204204			
科目名	Advanced Reading I D			
担当者	吉野 啓子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Passport to Britain』 Mark Jewel 朝日出版社			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to continue to help students improve their reading skills, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Individual instructors will provide readings for each class appropriate to the level of the students. Emphasis will be placed on vocabulary acquisition and strategies for reading quickly without translating into Japanese. In addition, all instructors will continue with the JACET 8000 vocabulary program that was started in Reading and Writing I/II, and students will be tested on vocabulary every week. Furthermore, the Extensive Reading program initiated in Reading and Writing I/II will also be continued, with students reading between two and five books a month, depending on their level, and writing short reports on what they have read.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Will vary depending on the teacher

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and vocabulary quizzes : 30% Homework and classroom performance : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

The Advanced Reading syllabus will include intensive reading, extensive reading, and vocabulary building. The week-by-week lesson plans will be decided individually by the teacher of each section.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20204301			
科目名	Advanced Reading II A			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

(This course is a continuation of Advanced Reading I) The purpose of this course is to continue to help students improve their reading skills, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(This course is a continuation of Advanced Reading I) Individual instructors will provide readings for each class appropriate to the level of the students. Emphasis will be placed on vocabulary acquisition and strategies for reading quickly without translating into Japanese. In addition, all instructors will continue with the JACET 8000 vocabulary program that was started in Reading and Writing I/II, and students will be tested on vocabulary every week. Furthermore, the Extensive Reading program initiated in Reading and Writing I/II will also be continued, with students reading between two and five books a month, depending on their level, and writing short reports on what they have read.

3. Course Method (教育・学習の方法)

(This course is a continuation of Advanced Reading I)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

(This course is a continuation of Advanced Reading I)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and vocabulary quizzes : 30% Homework and classroom performance : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

The Advanced Reading syllabus will include intensive reading, extensive reading, and vocabulary building. The week-by-week lesson plans will be decided individually by the teacher of each section.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20204302			
科目名	Advanced Reading II B			
担当者	杉村 美奈			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Reading EXPLORER 3』 Nancy Douglas CENGAGE Learning 2010			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

(This course is a continuation of Advanced Reading I)

The purpose of this course is to continue to help students improve their reading skills, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(This course is a continuation of Advanced Reading I)

Individual instructors will provide readings for each class appropriate to the level of the students. Emphasis will be placed on vocabulary acquisition and strategies for reading quickly without translating into Japanese. In addition, all instructors will continue with the JACET 8000 vocabulary program that was started in Reading and Writing I/II, and students will be tested on vocabulary every week. Furthermore, the Extensive Reading program initiated in Reading and Writing I/II will also be continued, with students reading between two and five books a month, depending on their level, and writing short reports on what they have read.

3. Course Method (教育・学習の方法)

(This course is a continuation of Advanced Reading I)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

(This course is a continuation of Advanced Reading I)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Homework and vocabulary quizzes 35%, Midterm exam 25%, Final exam 25%, Classroom performance 15%

5. Course Schedule (授業予定)

The Advanced Reading syllabus will include intensive reading, extensive reading, and vocabulary building. The week-by-week lesson plans will be decided individually by the teacher of each section.

6. Special Information (留意事項)

none

講義コード	20204303			
科目名	Advanced Reading II C			
担当者	川上 伊都子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	別途指示。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

(This course is a continuation of Advanced Reading I) The purpose of this course is to continue to help students improve their reading skills, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(This course is a continuation of Advanced Reading I) Individual instructors will provide readings for each class appropriate to the level of the students. Emphasis will be placed on vocabulary acquisition and strategies for reading quickly. In addition, all instructors will continue with the JACET 8000 vocabulary program that was started in Reading and Writing I/II, and students will be tested on vocabulary every week.

Furthermore, the Extensive Reading program initiated in Reading and Writing I/II will also be continued, with students reading between two and five books a month, depending on their level, and writing short reports on what they have read.

3. Course Method (教育・学習の方法)

(This course is a continuation of Advanced Reading I)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

(This course is a continuation of Advanced Reading I)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Vocabulary quizzes and weekly quizzes : 30% Homework and classroom performance : 10% Final exam : 60%

5. Course Schedule (授業予定)

The Advanced Reading syllabus will include intensive reading, extensive reading, and vocabulary building. The week-by-week lesson plans will be decided individually by the teacher of each section.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20204304			
科目名	Advanced Reading II D			
担当者	吉野 啓子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Gateway to Britain』 Terry O' Brien 南雲堂			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

(This course is a continuation of Advanced Reading I) The purpose of this course is to continue to help students improve their reading skills, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(This course is a continuation of Advanced Reading I) Individual instructors will provide readings for each class appropriate to the level of the students. Emphasis will be placed on vocabulary acquisition and strategies for reading quickly without translating into Japanese. In addition, all instructors will continue with the JACET 8000 vocabulary program that was started in Reading and Writing I/II, and students will be tested on vocabulary every week. Furthermore, the Extensive Reading program initiated in Reading and Writing I/II will also be continued, with students reading between two and five books a month, depending on their level, and writing short reports on what they have read.

3. Course Method (教育・学習の方法)

(This course is a continuation of Advanced Reading I)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

(This course is a continuation of Advanced Reading I)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and vocabulary quizzes : 30% Homework and classroom performance : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

The Advanced Reading syllabus will include intensive reading, extensive reading, and vocabulary building. The week-by-week lesson plans will be decided individually by the teacher of each section.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20204401			
科目名	Advanced Writing I A			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to continue to help students improve their ability to express themselves in writing, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The development of paragraphs and the composition of short essays will be stressed. Students will review the topic sentence and learn how to use a thesis statement to help them organize their essays coherently.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Will vary according to the teacher.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher, including completion of all drafts of essays.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and vocabulary quizzes : 30% Essays and classroom performance : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Colors 1
- 第2回 Colors 2
- 第3回 Numbers 1
- 第4回 Numbers 2
- 第5回 Holidays 1
- 第6回 Holidays 2
- 第7回 Jumping frogs 1
- 第8回 Jumping frogs 2
- 第9回 Personality 1
- 第10回 Personality 2
- 第11回 Medicine 1
- 第12回 Medicine 2
- 第13回 Shakers 1
- 第14回 Shakers 2
- 第15回 George Washington Carver 1

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20204402			
科目名	Advanced Writing I B			
担当者	杉村 美奈			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Writing from Within 1』 Curtis Kelly & Arlen Gargagliano Cambridge University Press 2011			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to continue to help students improve their ability to express themselves in writing, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The development of paragraphs and the composition of short essays will be stressed. Students will review the topic sentence and learn how to use a thesis statement to help them organize their essays coherently.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Will vary according to the teacher.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher, including completion of all drafts of essays.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and vocabulary quizzes : 30% Essays and classroom performance : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Self-Introduction
- 第2回 An important place
- 第3回 An ideal partner
- 第4回 My favorite photo
- 第5回 My seal
- 第6回 Party time
- 第7回 Thank-you note
- 第8回 Movie review
- 第9回 Friendship
- 第10回 Superhero powers
- 第11回 Advertisements
- 第12回 Lessons learned
- 第13回 Holiday plans
- 第14回 Interactive stories
- 第15回 Summary

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20204403			
科目名	Advanced Writing I C Advanced Writing			
担当者	川上 伊都子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Write Better with Patterns』 Yuri Komuro, Braven Smille Kinseido			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to continue to help students improve their ability to express themselves in writing, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The development of paragraphs and the composition of short essays will be stressed. Students will review the topic sentence and learn how to use a thesis statement to help them organize their essays coherently.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Will vary according to the teacher.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher, including completion of all drafts of essays.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and short essays : 30% Essays and classroom performance : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Course Description
- 第3回 Daily Schedule
- 第4回 Weekly Schedule
- 第5回 Punctuality
- 第6回 Dream
- 第7回 Future Plan
- 第8回 Tests
- 第9回 Being Healthy
- 第10回 Personality
- 第11回 Comparison 1
- 第12回 Comparison 2
- 第13回 Volunteer Work 1
- 第14回 Volunteer Work 2

第15回 General Review

6. Special Information (留意事項)

Do all the assignments. All the essays must be typed. Submit assignments on time.

講義コード	20204404			
科目名	Advanced Writing I D			
担当者	杉村 美奈			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Writing from Within 1』 Curtis Kelly & Arlen Gargagliano Cambridge University Press 2011			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to continue to help students improve their ability to express themselves in writing, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The development of paragraphs and the composition of short essays will be stressed. Students will review the topic sentence and learn how to use a thesis statement to help them organize their essays coherently.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Will vary according to the teacher.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher, including completion of all drafts of essays.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and vocabulary quizzes : 30% Essays and classroom performance : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Self-Introduction
- 第2回 An important place
- 第3回 An ideal partner
- 第4回 My favorite photo
- 第5回 My seal
- 第6回 Party time
- 第7回 Thank-you note
- 第8回 Movie review
- 第9回 Friendship
- 第10回 Superhero powers
- 第11回 Advertisements
- 第12回 Lessons learned
- 第13回 Holiday plans
- 第14回 Interactive stories
- 第15回 Summary

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20204501			
科目名	Advanced Writing II A			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

(This class is a continuation of Advanced Writing I) The purpose of this course is to continue to help students improve their ability to

express themselves in writing, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

3. Course Method (教育・学習の方法)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and vocabulary quizzes : 30% Essays and classroom performance : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 George Washington Carver 2
- 第2回 Food 1
- 第3回 Food 2
- 第4回 Tea 1
- 第5回 Tea 2
- 第6回 Language 1
- 第7回 Language 2
- 第8回 English 1
- 第9回 English 2
- 第10回 Zoos 1
- 第11回 Zoos 2
- 第12回 Genetically modified food 1
- 第13回 Genetically modified food 2
- 第14回 Fable 1
- 第15回 Fable 2

6. Special Information (留意事項)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

講義コード	20204502			
科目名	Advanced Writing II B			
担当者	杉村 美奈			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Writing from Within 2』 Curtis Kelly & Arlen Gargagliano Cambridge University Press 2012			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

(This class is a continuation of Advanced Writing I) The purpose of this course is to continue to help students improve their ability to express themselves in writing, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

3. Course Method (教育・学習の方法)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and vocabulary quizzes : 30% Essays and classroom performance : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 About me
- 第2回 Career consultant
- 第3回 A dream come true
- 第4回 Invent
- 第5回 It changed my life!
- 第6回 Exciting destinations
- 第7回 Classifying classmates
- 第8回 The job interview
- 第9回 Personal goals
- 第10回 Architect
- 第11回 My role models
- 第12回 Be a reporter
- 第13回 Holiday plans

第14回 Interactive stories

第15回 Summary

6. Special Information (留意事項)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

講義コード	20204503			
科目名	Advanced Writing II C Advanced Writing			
担当者	川上 伊都子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Write Better with Patterns』 Yuri Komuro, Braven Smillie Kinseido			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

(This class is a continuation of Advanced Writing I) The purpose of this course is to continue to help students improve their ability to express themselves in writing, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

3. Course Method (教育・学習の方法)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and short essays : 30% Essays and classroom performance : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Prediction
- 第3回 Eco-friendly
- 第4回 Vacation 1
- 第5回 Vacation 2
- 第6回 What to wear
- 第7回 Going to a Hairdresser
- 第8回 Email Message 1
- 第9回 Email Message 2
- 第10回 Classification
- 第11回 Meeting Old Friends
- 第12回 Describing People 1
- 第13回 Describing People 2
- 第14回 Responsibility
- 第15回 Favorite Writers

6. Special Information (留意事項)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

講義コード	20204504			
科目名	Advanced Writing II D			
担当者	杉村 美奈			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Writing from Within 2』 Curtis Kelly & Arlen Gargagliano Cambridge University Press 2012			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

(This class is a continuation of Advanced Writing I) The purpose of

this course is to continue to help students improve their ability to express themselves in writing, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

3. Course Method (教育・学習の方法)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

• Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and vocabulary quizzes : 30%

Essays and classroom performance : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 About me
- 第2回 Career consultant
- 第3回 A dream come true
- 第4回 Invent
- 第5回 It changed my life!
- 第6回 Exciting destinations
- 第7回 Classifying classmates
- 第8回 The job interview
- 第9回 Personal goals
- 第10回 Architect
- 第11回 My role models
- 第12回 Be a reporter
- 第13回 Holiday plans
- 第14回 Interactive stories
- 第15回 Summary

6. Special Information (留意事項)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

講義コード	20204601			
科目名	Speaking and Listening I A			
担当者	York Weatherford			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	Textbooks will be announced later.			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this speaking and listening course is for students to begin developing the skills needed at higher levels of communicative interaction. In a step-by-step procedure, students will first be given extensive practice in a variety of strategies for actively participating in naturalistic conversations. The following linguistic and sociolinguistic skills will be taught in the first semester:

- a. Using rejoinders
- b. Asking follow-up questions
- c. Echoing (Repeating)
- d. Asking confirmation questions
- e. Asking clarifications with question words
- f. Giving and Asking For Opinions

In addition, the following bottom-up and top-down listening skills and strategies will be practiced and developed in class for both interactional and transactional purposes:

- a. Retaining input while it is being processed
- b. Recognizing word divisions
- c. Recognizing key words in utterances
- d. Recognizing the function of word stress and intonation in sentences
- e. Using key words to understand discourse

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely (100%) in English. In-class tasks

will be completed individually, in pairs, in small groups. Students will be given ample opportunity to contextualize and build on previously studied vocabulary, expressions, and grammar.

• Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete all homework in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined according to a continuous assessment model using the following formula:

Class Participation 授業参加: 40%

Quizzes: 20%

PowerPoint Presentation: 10%

FINAL Listening Test: 10%

FINAL Speaking Proficiency Exam: 20%

Vocabulary Journal/Flashcards: 5% BONUS

Any student who is absent 10 or more classes will NOT receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Unit 1: Understanding Greetings; Introductions; Farewells
- 第2回 Unit 1: Understanding Formal and Informal Language
- 第3回 Unit 2: Using Rejoinders in Conversations
- 第4回 Unit 2: Rejoinders continued; Identifying Relatives; Understanding Personal and Family News
- 第5回 Unit 3: Asking Follow-Up Questions
- 第6回 Unit 3: Asking Follow-Up Questions continued; Understanding Directions and Destinations; Identifying Locations, Places, and Buildings
- 第7回 Unit 4: Echoing (Repeating)
- 第8回 Unit 4: Echoing continued; Understanding Appointment Details; Identifying Times
- 第9回 Unit 5: Confirmation Questions
- 第10回 Unit 5: Confirmation Questions continued; Clarifications with Question Words; Understanding Sports and Hobby Preferences; Identifying Spare Time Activities
- 第11回 Unit 6: Giving and Asking For Opinions
- 第12回 Unit 6: Giving and Asking For Opinions continued; Understanding Travel Arrangements; Identifying Personal Details
- 第13回 Unit 1-6 Review
- 第14回 PowerPoint Presentations
- 第15回 Final Listening Test; Final Speaking Test

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

講義コード	20204602			
科目名	Speaking and Listening I B			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	Textbooks will be announced later.			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this speaking and listening course is for students to begin developing the skills needed at higher levels of communicative interaction. In a step-by-step procedure, students will first be given extensive practice in a variety of strategies for actively participating in naturalistic conversations. The following linguistic and sociolinguistic skills will be taught in the first semester:

- a. Using rejoinders
- b. Asking follow-up questions
- c. Echoing (Repeating)
- d. Asking confirmation questions
- e. Asking clarifications with question words

f. Giving and Asking For Opinions

In addition, the following bottom-up and top-down listening skills and strategies will be practiced and developed in class for both interactional and transactional purposes:

- a. Retaining input while it is being processed
- b. Recognizing word divisions
- c. Recognizing key words in utterances
- d. Recognizing the function of word stress and intonation in sentences
- e. Using key words to understand discourse

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely (100%) in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, in small groups. Students will be given ample opportunity to contextualize and build on previously studied vocabulary, expressions, and grammar.

• **Class Preparation (準備学習の具体的な方法)**

Students are expected to complete all homework in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined according to a continuous assessment model using the following formula:

Class Participation 授業参加: 40%

Quizzes: 20%

PowerPoint Presentation: 10%

FINAL Listening Test: 10%

FINAL Speaking Proficiency Exam: 20%

Vocabulary Journal/Flashcards: 5% BONUS

Any student who is absent 10 or more classes will NOT receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 Unit 1: Understanding Greetings; Introductions; Farewells

第2回 Unit 1: Understanding Formal and Informal Language

第3回 Unit 2: Using Rejoinders in Conversations

第4回 Unit 2: Rejoinders continued; Identifying Relatives;

Understanding Personal and Family News

第5回 Unit 3: Asking Follow-Up Questions

第6回 Unit 3: Asking Follow-Up Questions continued;

Understanding Directions and Destinations; Identifying

Locations, Places, and Buildings

第7回 Unit 4: Echoing (Repeating)

第8回 Unit 4: Echoing continued; Understanding Appointment

Details; Identifying Times

第9回 Unit 5: Confirmation Questions

第10回 Unit 5: Confirmation Questions continued; Clarifications

with Question Words; Understanding Sports and Hobby

Preferences; Identifying Spare Time Activities

第11回 Unit 6: Giving and Asking For Opinions

第12回 Unit 6: Giving and Asking For Opinions continued;

Understanding Travel Arrangements; Identifying Personal

Details

第13回 Unit 1-6 Review

第14回 PowerPoint Presentations

第15回 Final Listening Test; Final Speaking Test

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

講義コード	20204603		
科目名	Speaking and Listening I C		
担当者	York Weatherford		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	Textbooks will be announced later.		
参考文献			
備考	必修 週2コマ クラス指定		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		✓
	コミュニケーションする力	✓	
	思考・解決する力		✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this speaking and listening course is for students to begin developing the skills needed at higher levels of communicative interaction. In a step-by-step procedure, students will first be given extensive practice in a variety of strategies for actively participating in naturalistic conversations. The following linguistic and sociolinguistic skills will be taught in the first semester:

- a. Using rejoinders
- b. Asking follow-up questions
- c. Echoing (Repeating)
- d. Asking confirmation questions
- e. Asking clarifications with question words
- f. Giving and Asking For Opinions

In addition, the following bottom-up and top-down listening skills and strategies will be practiced and developed in class for both interactional and transactional purposes:

- a. Retaining input while it is being processed
- b. Recognizing word divisions
- c. Recognizing key words in utterances
- d. Recognizing the function of word stress and intonation in sentences
- e. Using key words to understand discourse

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely (100%) in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, in small groups. Students will be given ample opportunity to contextualize and build on previously studied vocabulary, expressions, and grammar.

• **Class Preparation (準備学習の具体的な方法)**

Students are expected to complete all homework in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined according to a continuous assessment model using the following formula:

Class Participation 授業参加: 40%

Quizzes: 20%

PowerPoint Presentation: 10%

FINAL Listening Test: 10%

FINAL Speaking Proficiency Exam: 20%

Vocabulary Journal/Flashcards: 5% BONUS

Any student who is absent 10 or more classes will NOT receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 Unit 1: Understanding Greetings; Introductions; Farewells

第2回 Unit 1: Understanding Formal and Informal Language

第3回 Unit 2: Using Rejoinders in Conversations

第4回 Unit 2: Rejoinders continued; Identifying Relatives;

Understanding Personal and Family News

第5回 Unit 3: Asking Follow-Up Questions

第6回 Unit 3: Asking Follow-Up Questions continued;

Understanding Directions and Destinations; Identifying

Locations, Places, and Buildings

第7回 Unit 4: Echoing (Repeating)

第8回 Unit 4: Echoing continued; Understanding Appointment

Details; Identifying Times

- 第9回 Unit 5: Confirmation Questions
- 第10回 Unit 5: Confirmation Questions continued; Clarifications with Question Words; Understanding Sports and Hobby Preferences; Identifying Spare Time Activities
- 第11回 Unit 6: Giving and Asking For Opinions
- 第12回 Unit 6: Giving and Asking For Opinions continued; Understanding Travel Arrangements; Identifying Personal Details
- 第13回 Unit 1-6 Review
- 第14回 PowerPoint Presentations
- 第15回 Final Listening Test; Final Speaking Test

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

講義コード	20204604			
科目名	Speaking and Listening I D			
担当者	アレキサンダー ウェザー			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Conversation Strategies』 David Kehe/Peggy Kehe Pro Lingua Associates 1994, 2004, 2007 『Topic Talk (2nd edition)』 David Martin EFL Press 2006 Request to have copies of the following: Text, Teacher's Manual, and CD.			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this speaking and listening course is for students to begin developing the skills needed at higher levels of communicative interaction. In a step-by-step procedure, students will first be given extensive practice in a variety of strategies for actively participating in naturalistic conversations. The following linguistic and sociolinguistic skills will be taught in the first semester.

- a. Using rejoinders
- b. Asking follow-up questions
- c. Asking confirmation questions
- d. Asking clarifications with question words
- e. Maintaining or stopping a conversation
- f. Expressing probability
- g. Interrupting someone
- h. Echoing someone
- i. Making polite requests, responses, and excuses
- j. Soliciting a response
- k. Soliciting details
- l. Responding with details

In addition, the following bottom-up and top-down listening skills and strategies will be practiced and developed in class for both interactional and transactional purposes:

- a. Retaining input while it is being processed
- b. Recognizing word divisions
- c. Recognizing key words in utterances
- d. Recognizing the function of word stress and intonation in sentences
- e. Using key words to understand discourse

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, in small groups. Students will be given ample opportunity to contextualize and build on previously studied vocabulary, expressions, and grammar.

- Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete all homework in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined according to a continuous assessment model using the following formula:

- 70% Class Participation
- 30% Homework & Quizzes

Any student absent 10 or more classes may not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Conversation Strategies (CS): 1. Rejoinders. Topic Talk (TT): 1. Family.
- 第2回 CS: 2. Follow-up Questions. TT: 2. Food
- 第3回 CS: 3. Confirmation Questions. TT: 3. Time
- 第4回 CS: 4. Clarifications with Question Words. TT: 4. House and Home.
- 第5回 CS: 5. Keeping or Killing the Conversation. TT: 5. Music.
- 第6回 CS: 6. Expressing Probability. TT: 6. Transportation.
- 第7回 CS: 7. Interrupting Someone. TT: 7. Sports.
- 第8回 CS: 8. Echoing Instructions. TT: 8. Numbers.
- 第9回 CS: 9. Polite Requests, Responses, and Excuses. TT: 9. Best Friends.
- 第10回 CS: 10. Getting a Response. TT: 10. TV.
- 第11回 CS: 11. Soliciting Details. TT: 11. Work.
- 第12回 CS: 12. Responding with Details. TT: 12. Vacation.
- 第13回 CS: 13. Making Comparisons. TT: 13. School.
- 第14回 CS: 14. Finding the Right Word. TT: 14. Movies.
- 第15回 CS: 15. Exploring a Word. TT: 15. Money.

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

講義コード	20204701			
科目名	Speaking and Listening II A			
担当者	York Weatherford			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	Textbooks will be announced later.			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this speaking and listening course is for students to begin developing the skills needed at higher levels of communicative interaction. In a step-by-step procedure, students will continue to be given extensive practice in a variety of strategies for actively participating in naturalistic conversations. The following linguistic and sociolinguistic skills will be taught in the second semester:

- a. Expressing Probability
- b. Sureness Phrases
- c. Getting a Response
- d. Soliciting Details
- e. Responding with Details
- f. Exploring a Word

In addition, the following bottom-up and top-down listening skills and

strategies will be practiced and developed in class for both interactional and transactional purposes:

- Recognizing key transitions in a discourse
- Recognizing relations between key elements in sentences
- Inferring the topics of discourse
- Inferring the outcomes and cause or effect of an event
- Inferring unstated details of a situation

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities will continue to be required. Students will be encouraged to participate in the Lunchtime English program to apply what they learn in class in an authentic language immersion environment.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will continue to be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, in small groups. Students will be given ample opportunity to contextualize and build on previously studied vocabulary, expressions, and grammar.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined according to a continuous assessment model using the following formula:

Class Participation 授業参加: 40%

Quizzes: 20%

PowerPoint Presentation: 10%

FINAL Listening Test: 10%

FINAL Speaking Proficiency Exam: 20%

Vocabulary Journal/Flashcards: 5% BONUS

Any student who is absent 10 or more classes will NOT receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Unit 1: Identifying Different Foods
- 第2回 Unit 1: Expressing Probability; Understanding How to Order at a Restaurant
- 第3回 Unit 2: Identifying Medical Problems
- 第4回 Unit 2: Sureness Phrases; Understanding Medical Advice
- 第5回 Unit 3: Identifying Clothes and Accessories
- 第6回 Unit 3: Getting a Response; Understanding Expressions about Money
- 第7回 Unit 4: Identifying New Gadgets
- 第8回 Unit 4: Soliciting Details; Understanding Problems and Solutions
- 第9回 Unit 5: Identifying Sports
- 第10回 Unit 5: Responding with Details; Understanding Sports Broadcasts
- 第11回 Unit 6: Identifying Personal Qualities
- 第12回 Unit 6: Exploring a Word; Understanding Zodiac Signs
- 第13回 Unit 1-6 Review
- 第14回 PowerPoint Presentations
- 第15回 Final Listening Test; Final Speaking Test

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will remain flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

講義コード	20204702		
科目名	Speaking and Listening II B		
担当者	Jodie Campbell		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	Textbooks will be announced later.		
参考文献			
備考	必修 週2コマ クラス指定		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		✓
	コミュニケーションする力	✓	
	思考・解決する力		✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this speaking and listening course is for students to begin developing the skills needed at higher levels of communicative interaction. In a step-by-step procedure, students will continue to be given extensive practice in a variety of strategies for actively participating in naturalistic conversations. The following linguistic and sociolinguistic skills will be taught in the second semester:

- Expressing Probability
- Sureness Phrases
- Getting a Response
- Soliciting Details
- Responding with Details
- Exploring a Word

In addition, the following bottom-up and top-down listening skills and strategies will be practiced and developed in class for both interactional and transactional purposes:

- Recognizing key transitions in a discourse
- Recognizing relations between key elements in sentences
- Inferring the topics of discourse
- Inferring the outcomes and cause or effect of an event
- Inferring unstated details of a situation

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities will continue to be required. Students will be encouraged to participate in the Lunchtime English program to apply what they learn in class in an authentic language immersion environment.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will continue to be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, in small groups. Students will be given ample opportunity to contextualize and build on previously studied vocabulary, expressions, and grammar.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined according to a continuous assessment model using the following formula:

Class Participation 授業参加: 40%

Quizzes: 20%

PowerPoint Presentation: 10%

FINAL Listening Test: 10%

FINAL Speaking Proficiency Exam: 20%

Vocabulary Journal/Flashcards: 5% BONUS

Any student who is absent 10 or more classes will NOT receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Unit 1: Identifying Different Foods
- 第2回 Unit 1: Expressing Probability; Understanding How to Order at a Restaurant
- 第3回 Unit 2: Identifying Medical Problems
- 第4回 Unit 2: Sureness Phrases; Understanding Medical Advice
- 第5回 Unit 3: Identifying Clothes and Accessories
- 第6回 Unit 3: Getting a Response; Understanding Expressions

- about Money
 第7回 Unit 4: Identifying New Gadgets
 第8回 Unit 4: Soliciting Details; Understanding Problems and Solutions
 第9回 Unit 5: Identifying Sports
 第10回 Unit 5: Responding with Details; Understanding Sports Broadcasts
 第11回 Unit 6: Identifying Personal Qualities
 第12回 Unit 6: Exploring a Word; Understanding Zodiac Signs
 第13回 Unit 1-6 Review
 第14回 PowerPoint Presentations
 第15回 Final Listening Test; Final Speaking Test

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will remain flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

講義コード	20204703			
科目名	Speaking and Listening II C			
担当者	York Weatherford			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	Textbooks will be announced later.			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this speaking and listening course is for students to begin developing the skills needed at higher levels of communicative interaction. In a step-by-step procedure, students will continue to be given extensive practice in a variety of strategies for actively participating in naturalistic conversations. The following linguistic and sociolinguistic skills will be taught in the second semester:

- Expressing Probability
- Sureness Phrases
- Getting a Response
- Soliciting Details
- Responding with Details
- Exploring a Word

In addition, the following bottom-up and top-down listening skills and strategies will be practiced and developed in class for both interactional and transactional purposes:

- Recognizing key transitions in a discourse
- Recognizing relations between key elements in sentences
- Inferring the topics of discourse
- Inferring the outcomes and cause or effect of an event
- Inferring unstated details of a situation

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities will continue to be required. Students will be encouraged to participate in the Lunchtime English program to apply what they learn in class in an authentic language immersion environment.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will continue to be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, in small groups. Students will be given ample opportunity to contextualize and build on previously studied vocabulary, expressions, and grammar.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined according to a continuous assessment model using the following formula:

Class Participation 授業参加: 40%

- Quizzes: 20%
 PowerPoint Presentation: 10%
 FINAL Listening Test: 10%
 FINAL Speaking Proficiency Exam: 20%
 Vocabulary Journal/Flashcards: 5% BONUS

Any student who is absent 10 or more classes will NOT receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Unit 1: Identifying Different Foods
 第2回 Unit 1: Expressing Probability; Understanding How to Order at a Restaurant
 第3回 Unit 2: Identifying Medical Problems
 第4回 Unit 2: Sureness Phrases; Understanding Medical Advice
 第5回 Unit 3: Identifying Clothes and Accessories
 第6回 Unit 3: Getting a Response; Understanding Expressions about Money
 第7回 Unit 4: Identifying New Gadgets
 第8回 Unit 4: Soliciting Details; Understanding Problems and Solutions
 第9回 Unit 5: Identifying Sports
 第10回 Unit 5: Responding with Details; Understanding Sports Broadcasts
 第11回 Unit 6: Identifying Personal Qualities
 第12回 Unit 6: Exploring a Word; Understanding Zodiac Signs
 第13回 Unit 1-6 Review
 第14回 PowerPoint Presentations
 第15回 Final Listening Test; Final Speaking Test

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will remain flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

講義コード	20204704			
科目名	Speaking and Listening II D			
担当者	アレクサンダー ウェザーフォード			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Conversation Strategies』 David Kehe/Peggy Kehe Pro Lingua Associates 1994, 2004, 2007 『Topic Talk (2nd edition)』 David Martin EFL Press 2006			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this speaking and listening course is for students to begin developing the skills needed at higher levels of communicative interaction. In a step-by-step procedure, students will continue to be given extensive practice in a variety of strategies for actively participating in naturalistic conversations. The following linguistic and sociolinguistic skills will be taught in the second semester:

- Making comparisons
- Finding the right word
- Exploring a word
- Correcting someone
- Eliciting confirmation
- Starting and stopping a conversation
- Beginning and ending a phone call
- Expressing opinions
- Making group decisions
- Using discussion connectors
- Summarizing speech
- Volunteering information

In addition, the following bottom-up and top-down listening skills and strategies will be practiced and developed in class for both interactional and transactional purposes:

- a. Recognizing key transitions in a discourse
- b. Recognizing relations between key elements in sentences
- c. Inferring the topics of discourse
- d. Inferring the outcomes and cause or effect of an event
- e. Inferring unstated details of a situation

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities will continue to be required. Students will be encouraged to participate in the Lunchtime English program to apply what they learn in class in an authentic language immersion environment.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will continue to be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, in small groups. Students will be given ample opportunity to contextualize and build on previously studied vocabulary, expressions, and grammar.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will continue to be determined according to a continuous assessment model using the following formula:

- 70% Class Participation
- 30% Homework & Quizzes

Any student absent 10 or more classes may not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Conversation Strategies (CS): 16. Correcting Someone.
Topic Talk (TT): 16. Restaurants.
- 第2回 CS: 17. Eliciting Confirmation.
TT: 17. Animals.
- 第3回 CS: 18. Starting and Stopping a Conversation.
TT: 18. Shopping.
- 第4回 CS: 19. Beginning and Ending a Phone Call.
TT: 19. Health and Fitness.
- 第5回 CS: 20. Expressing Opinions.
TT: 20. Fashion.
- 第6回 CS: 21. Making a Group Decision.
TT: 21. Travel.
- 第7回 CS: 22. Discussion Connectors.
TT: 22. Books, Magazines, and Newspapers.
- 第8回 CS: 23. Summarizing.
TT: 23. Sickness.
- 第9回 CS: 24. Conducting a Formal Meeting.
TT: 24. Holidays.
- 第10回 CS: 25. For Fun: Find the Strange Word.
TT: 25. Fears.
- 第11回 CS: 26. Volunteering an Answer.
TT: 26. Dating.
- 第12回 CS: 27. Applying All the Conversation Strategies: Review - Fun.
TT: 27. Marriage.
- 第13回 CS: 28. Applying All the Conversation Strategies: Review - Emotions. TT: 28. Beliefs.
- 第14回 CS: 29. Applying All the Conversation Strategies: Review - Advisors. TT: 29. Crime.
- 第15回 TT: 30. Opinions.
Review and Discussion.

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will remain flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

講義コード	20204801		
科目名	Speaking and Listening III A Speaking & Listening III A		
担当者	Jodie Campbell		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	Textbooks will be announced later.		
参考文献			
備考	必修 週2コマ クラス指定		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		✓
	コミュニケーションする力	✓	
	思考・解決する力		✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this speaking and listening course is for students to continue developing the skills needed at higher levels of authentic communicative interaction. In a step-by-step procedure, students will be given extensive practice in the discussion strategies and techniques needed for active participation in naturalistic conversations. The following linguistic and sociolinguistic skills will be reviewed and built upon in the first semester: a. Using rejoinders, b. Asking follow-up questions, c. Seeking and giving clarification, d. Using comprehension checks, e. Answering with details, f. Soliciting more details from others, g. Interrupting others during discussion, h. Recounting something students have heard, i. Volunteering an answer, j. Helping the leader of a discussion, k. Expressing an opinion, l. Referring to a source when giving an opinion, m. Leading a discussion. In addition, students will practice listening for a variety of purposes and hear examples of different types of spoken English including casual conversations, instructions, directions, requests, descriptions, apologies, and suggestions. Essential listening skills to be practiced include listening for key words, details, and gist; listening and making inferences; listening for attitudes; and recognizing and identifying information.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is strongly encouraged.

3. Course Method (教育・学習の方法)

THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY (100%) IN ENGLISH! In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will be given ample opportunity to further contextualize and build upon previously studied vocabulary, expressions, and grammar.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined according to a continuous assessment model using the following formula:

- Class Participation 授業参加: 40%
- Quizzes: 20%
- PowerPoint Presentation: 10%
- FINAL Listening Test: 10%
- FINAL Speaking Proficiency Exam: 20%
- Vocabulary Journal/Flashcards: 5% BONUS

Any student who is absent 10 or more classes will NOT receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Unit 1: Understanding Introductions and Life Stories
- 第2回 Unit 1: Understanding Life Plans and Dreams
- 第3回 Unit 2: Understanding Different Relationships
- 第4回 Unit 2: Identifying Issues in Family Life
- 第5回 Unit 3: Understanding University Life
- 第6回 Unit 3: Identifying Cultural Differences
- 第7回 Unit 4: Understanding Common Pet Peeves
- 第8回 Unit 4: Understanding Advice: Giving and Asking For Advice
- 第9回 Unit 5: Identifying Outdoor Activities
- 第10回 Unit 5: Understanding Schedules of Events
- 第11回 Unit 6: Identifying Travel Experiences

- 第12回 Unit 6: Understanding Travel Advice
- 第13回 Unit 1-6 Review
- 第14回 PowerPoint Presentations
- 第15回 Final Listening Test; Final Speaking Test

6. Special Information (留意事項)

An English-English dictionary is highly recommended. Please read the graded reader books in the library and the AV-room! READ AS MUCH AS YOU CAN EVERYDAY!

講義コード	20204802			
科目名	Speaking and Listening III B			
担当者	アレキサンダー ウェグナー			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Interchange 2 (4th edition)』 Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor Cambridge University Press 2005 Request to have copies of the following: Textbook (4th edition), Teacher's Manual, and CD packet.			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this speaking and listening course is for students to continue developing the skills needed at higher levels of authentic communicative interaction. In a step-by-step procedure, students will be given extensive practice in the discussion strategies and techniques needed for active participation in naturalistic conversations. The following linguistic and sociolinguistic skills will be reviewed and built upon in the first semester: a. Using rejoinders, b. Asking follow-up questions, c. Seeking and giving clarification, d. Using comprehension checks, e. Answering with details, f. Soliciting more details from others, g. Interrupting others during discussion, h. Recounting something students have heard, i. Volunteering an answer, j. Helping the leader of a discussion, k. Expressing an opinion, l. Referring to a source when giving an opinion, m. Leading a discussion In addition, students will practice listening for a variety of purposes and hear examples of different types of spoken English including casual conversations, instructions, directions, requests, descriptions, apologies, and suggestions. Essential listening skills to be practiced include listening for key words, details, and gist; listening and making inferences; listening for attitudes; and recognizing and identifying information..

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is strongly encouraged. Students will also be encouraged to participate in the Lunchtime English program.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will be given ample opportunity to further contextualize and build upon previously studied vocabulary, expressions, and grammar.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined according to a continuous assessment model using the following formula: 70% Class Participation 30% Homework & Quizzes

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Course overview; Teacher's self-introduction; Student interviews.
- 第2回 Students' Introductions.
- 第3回 Unit 1 A Time to Remember: People; Childhood; Memories.
- 第4回 Unit 1 A Time to Remember: People; Childhood; Memories.
- 第5回 Unit 2 Caught in the Rush: Transportation; Transportation Problems; City Services.

- 第6回 Unit 3 Time for a Change: Houses & Apartments; Lifestyle Changes; Wishes.
- 第7回 Unit 4 I've Never Heard of That!: Food; Recipes; Instructions; Cooking Methods.
- 第8回 Unit 4 I've Never Heard of That!: Food; Recipes; Instructions; Cooking Methods.
- 第9回 Unit 5 Going Places: Travel; Vacations; Plans.
- 第10回 Unit 5 Going Places: Travel; Vacations; Plans.
- 第11回 Unit 6 OK. No Problem!: Complaints; Household Chores; Requests; Excuses; Apologies.
- 第12回 Unit 7 What's This For?: Technology; Instructions.
- 第13回 Unit 8 Let's Celebrate!: Holidays; Festivals; Customs; Celebrations.
- 第14回 Unit 8 Let's Celebrate!: Holidays; Festivals; Customs; Celebrations.
- 第15回 Review and discussion.

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

講義コード	20204803			
科目名	Speaking and Listening III C Speaking & Listening III C			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	Textbooks will be announced later.			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this speaking and listening course is for students to continue developing the skills needed at higher levels of authentic communicative interaction. In a step-by-step procedure, students will be given extensive practice in the discussion strategies and techniques needed for active participation in naturalistic conversations. The following linguistic and sociolinguistic skills will be reviewed and built upon in the first semester: a. Using rejoinders, b. Asking follow-up questions, c. Seeking and giving clarification, d. Using comprehension checks, e. Answering with details, f. Soliciting more details from others, g. Interrupting others during discussion, h. Recounting something students have heard, i. Volunteering an answer, j. Helping the leader of a discussion, k. Expressing an opinion, l. Referring to a source when giving an opinion, m. Leading a discussion In addition, students will practice listening for a variety of purposes and hear examples of different types of spoken English including casual conversations, instructions, directions, requests, descriptions, apologies, and suggestions. Essential listening skills to be practiced include listening for key words, details, and gist; listening and making inferences; listening for attitudes; and recognizing and identifying information.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is strongly encouraged.

3. Course Method (教育・学習の方法)

THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY (100%) IN ENGLISH! In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will be given ample opportunity to further contextualize and build upon previously studied vocabulary, expressions, and grammar.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined according to a continuous assessment model using the following formula:

Class Participation 授業参加: 40%
Quizzes: 20%

PowerPoint Presentation: 10%
 FINAL Listening Test: 10%
 FINAL Speaking Proficiency Exam: 20%
 Vocabulary Journal/Flashcards: 5% BONUS

Any student who is absent 10 or more classes will NOT receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Unit 1: Identifying Countries, Nationalities, and Languages
- 第2回 Unit 1: Understanding Personal Information
- 第3回 Unit 2: Understanding Festival Traditions
- 第4回 Unit 2: Identifying Festival Vocabulary
- 第5回 Unit 3: Identifying the Pros and Cons of City and Country Life
- 第6回 Unit 3: Understanding Environmental Issues
- 第7回 Unit 4: Identifying Chores
- 第8回 Unit 4: Understanding Duties
- 第9回 Unit 5: Identifying Leisure Activities
- 第10回 Unit 5: Understanding Entertainment Options
- 第11回 Unit 6: Understanding Air Travel
- 第12回 Unit 6: Identifying Hotel and Travel Options
- 第13回 Unit 1-6 Review
- 第14回 PowerPoint Presentations
- 第15回 Final Listening Test; Final Speaking Test

6. Special Information (留意事項)

An English-English dictionary is highly recommended. Please read the graded reader books in the library and the AV-room! READ AS MUCH AS YOU CAN EVERYDAY!

講義コード	20204804			
科目名	Speaking and Listening III D Speaking & Listening III D			
担当者	Peter Cheyne			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	Textbooks will be announced later.			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this speaking and listening course is for students to continue developing the skills needed at higher levels of authentic communicative interaction. In a step-by-step procedure, students will be given extensive practice in the discussion strategies and techniques needed for active participation in naturalistic conversations. The following linguistic and sociolinguistic skills will be reviewed and built upon in the first semester: a. Using rejoinders, b. Asking follow-up questions, c. Seeking and giving clarification, d. Using comprehension checks, e. Answering with details, f. Soliciting more details from others, g. Interrupting others during discussion, h. Recounting something students have heard, i. Volunteering an answer, j. Helping the leader of a discussion, k. Expressing an opinion, l. Referring to a source when giving an opinion, m. Leading a discussion In addition, students will practice listening for a variety of purposes and hear examples of different types of spoken English including casual conversations, instructions, directions, requests, descriptions, apologies, and suggestions. Essential listening skills to be practiced include listening for key words, details, and gist; listening and making inferences; listening for attitudes; and recognizing and identifying information.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is strongly encouraged.

3. Course Method (教育・学習の方法)

THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY (100%) IN ENGLISH! In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will be given ample opportunity to further contextualize and build upon previously studied vocabulary,

expressions, and grammar.

• Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined according to a continuous assessment model using the following formula:

- Class Participation 授業参加: 40%
- Quizzes: 20%
- PowerPoint Presentation: 10%
- FINAL Listening Test: 10%
- FINAL Speaking Proficiency Exam: 20%
- Vocabulary Journal/Flashcards: 5% BONUS

Any student who is absent 10 or more classes will NOT receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Unit 1: Identifying Countries, Nationalities, and Languages
- 第2回 Unit 1: Understanding Life Plans and Dreams
- 第3回 Unit 2: Understanding Different Relationships
- 第4回 Unit 2: Identifying Issues in Family Life
- 第5回 Unit 3: Understanding University Life
- 第6回 Unit 3: Identifying Cultural Differences
- 第7回 Unit 4: Understanding Common Pet Peeves
- 第8回 Unit 4: Understanding Advice: Giving and Asking For Advice
- 第9回 Unit 5: Identifying Outdoor Activities
- 第10回 Unit 5: Understanding Schedules of Events
- 第11回 Unit 6: Identifying Travel Experiences
- 第12回 Unit 6: Understanding Travel Advice
- 第13回 Unit 1-6 Review
- 第14回 PowerPoint Presentations
- 第15回 Final Listening Test; Final Speaking Test

6. Special Information (留意事項)

An English-English dictionary is highly recommended. Please read the graded reader books in the library and the AV-room! READ AS MUCH AS YOU CAN EVERYDAY!

講義コード	20204901			
科目名	Speaking and Listening IV A Speaking & Listening IV A			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	Textbooks will be announced later.			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this speaking and listening course is for students to complete their development of the skills needed for high levels of communicative interaction. In a step-by-step procedure, students will continue to be given extensive practice in the discussion strategies and techniques needed for active participation in real world situations. This course will also develop students' communication and language skills through the planning and delivery of effective presentations.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. Students will continue to be encouraged to participate in the Lunchtime English program.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will continue to be given ample opportunity to contextualize and build upon previously studied vocabulary, expressions, and grammar.

• Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined according to a continuous assessment model using the following formula:

Class Participation 授業参加: 40%
 Quizzes: 20%
 PowerPoint Presentation: 10%
 FINAL Listening Test: 10%
 FINAL Speaking Proficiency Exam: 20%
 Vocabulary Journal/Flashcards: 5% BONUS

Any student who is absent 10 or more classes will NOT receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Unit 1: Identifying Foods, Ingredients, and Food Preferences
- 第2回 Unit 1: Understanding Steps in Cooking
- 第3回 Unit 2: Identifying Extreme Sports
- 第4回 Unit 2: Understanding Physical Training and Motivation
- 第5回 Unit 3: Understanding Changes in Fashion
- 第6回 Unit 3: Identifying Different Fashion Items
- 第7回 Unit 4: Identifying Different Jobs and Careers
- 第8回 Unit 4: Understanding Skills for Different Jobs
- 第9回 Unit 5: Understanding News Reports
- 第10回 Unit 5: Identifying Feelings
- 第11回 Unit 6: Identifying Dilemmas and Responsibilities
- 第12回 Unit 6: Understanding Life Choices
- 第13回 Unit 1-6 Review
- 第14回 PowerPoint Presentations
- 第15回 Final Listening Test: Final Speaking Test

6. Special Information (留意事項)

An English-English dictionary is highly recommended. Please read the graded reader books in the library and the AV-room! READ AS MUCH AS YOU CAN EVERYDAY!

講義コード	20204902			
科目名	Speaking and Listening IV B			
担当者	アレクサンドル ウェグナー			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Interchange 2 (4th edition)』 Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor Cambridge University Press 2005			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this speaking and listening course is for students to complete their development of the skills needed for high levels of communicative interaction. In a step-by-step procedure, students will continue to be given extensive practice in the discussion strategies and techniques needed for active participation in real world situations. This course will also develop students' communication and language skills through the planning and delivery of effective presentations.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. Students will continue to be encouraged to participate in the Lunchtime English program.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will continue to be given ample opportunity to contextualize and build upon previously studied vocabulary, expressions, and grammar.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined according to a continuous assessment model using the following formula: 70% Class Participation 30% Homework & Quizzes

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Unit 9 Back to the Future: Life in the Past; Present & Future; Changes & Contrasts; Consequences.
- 第2回 Unit 9 Back to the Future: Life in the Past; Present & Future; Changes & Contrasts; Consequences.
- 第3回 Unit 10 I Don't Like Working on Weekends!: Abilities & Skills; Job Preferences; Personality Traits; Careers.
- 第4回 Unit 10 I Don't Like Working on Weekends!: Abilities & Skills; Job Preferences; Personality Traits; Careers.
- 第5回 Unit 11 It's Really Worth Seeing!: Landmarks & Monuments; World Knowledge.
- 第6回 Unit 11 It's Really Worth Seeing!: Landmarks & Monuments; World Knowledge.
- 第7回 Unit 12 It Could Happen to You!: Information About Someone's Past; Recent Past Events.
- 第8回 Unit 12 It Could Happen to You!: Information About Someone's Past; Recent Past Events.
- 第9回 Unit 13 Good Book, Terrible Movie!: Entertainment; Movies & Books; Reactions & Opinions.
- 第10回 Unit 13 Good Book, Terrible Movie!: Entertainment; Movies & Books; Reactions & Opinions.
- 第11回 Unit 14 So That's What It Means!: Nonverbal Communication; Gestures & Meanings; Signs; Drawing Conclusions.
- 第12回 Unit 14 So That's What It Means!: Nonverbal Communication; Gestures & Meanings; Signs; Drawing Conclusions.
- 第13回 Unit 15 What Would You Do?: Money; Hopes; Predicaments; Speculations.
- 第14回 Unit 16 What's Your Excuse?: Requests; Excuses; Invitations.
- 第15回 Review and Discussion.

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

講義コード	20204903			
科目名	Speaking and Listening IV C Speaking and Listening IV C			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	Textbooks will be announced later.			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this speaking and listening course is for students to complete their development of the skills needed for high levels of communicative interaction. In a step-by-step procedure, students will continue to be given extensive practice in the discussion strategies and techniques needed for active participation in real world situations. This course will also develop students' communication and language skills through the planning and delivery of effective presentations.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. Students will continue to be encouraged to participate in the Lunchtime English program.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will continue to be given ample opportunity to contextualize and build upon previously studied vocabulary, expressions, and grammar.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined according to a continuous assessment model using the following formula:

Class Participation 授業参加: 40%

Quizzes: 20%

PowerPoint Presentation: 10%

FINAL Listening Test: 10%

FINAL Speaking Proficiency Exam: 20%

Vocabulary Journal/Flashcards: 5% BONUS

Any student who is absent 10 or more classes will NOT receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Unit 1: Identifying Different Types of Food
- 第2回 Unit 1: Understanding Different Table Manners
- 第3回 Unit 2: Understanding Fitness and Diet Options
- 第4回 Unit 2: Identifying Personal Workouts and Diets
- 第5回 Unit 3: Identifying Clothing and Fashions
- 第6回 Unit 3: Understanding Clothing Choices
- 第7回 Unit 4: Identifying Computer Technology
- 第8回 Unit 4: Understanding Telephone Helpline Information
- 第9回 Unit 5: Understanding Movie Reviews
- 第10回 Unit 5: Identifying Movie Terms
- 第11回 Unit 6: Understanding Personal Qualities
- 第12回 Unit 6: Identifying Feelings
- 第13回 Unit 1-6 Review
- 第14回 PowerPoint Presentations
- 第15回 Final Listening Test; Final Speaking Test

6. Special Information (留意事項)

An English-English dictionary is highly recommended. Please read the graded reader books in the library and the AV-room! READ AS MUCH AS YOU CAN EVERYDAY!

講義コード	20204904			
科目名	Speaking and Listening IV D			
担当者	Peter Cheyne			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this speaking and listening course is for students to complete their development of the skills needed for high levels of communicative interaction. In a step-by-step procedure, students will continue to be given extensive practice in the discussion strategies and techniques needed for active participation in real world situations. This course will also develop students' communication and language skills through the planning and delivery of effective presentations.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. Students will continue to be encouraged to participate in the Lunchtime English program.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will continue to be given ample opportunity to contextualize and build upon previously studied vocabulary, expressions, and grammar.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Class Participation 授業参加: 40%

Quizzes: 20%

PowerPoint Presentation: 10%

FINAL Listening Test: 10%

FINAL Speaking Proficiency Exam: 20%

Vocabulary Journal/Flashcards: 5% BONUS

5. Course Schedule (授業予定)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

6. Special Information (留意事項)

An English-English dictionary is highly recommended. Please read the graded reader books in the library and the AV-room! READ AS MUCH AS YOU CAN EVERYDAY!

講義コード	20205001			
科目名	Academic Writing I A			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	Academic Writing (中級) 必修 ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course builds upon what was learned in the second-year Advanced Writing course. Students practice writing longer essays that become more academic in nature by the end of the semester.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will learn to edit and improve their own writing by producing several drafts of each essay. They will learn how to formulate topics that are of interest to themselves and their audience and to evaluate critically their own writing and the writing of others. Students are expected to understand how to avoid plagiarism by properly acknowledging their sources.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Teachers will regularly assign writing projects. Student writing may be discussed in class and used as models, and students should expect help and criticism not only from the teacher but from their classmates as well.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher, including completion of all drafts of essays.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance, class participation, completion of all drafts: 30%
Essays: 70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introductory class
- 第2回 Narrative essay first draft
- 第3回 Narrative essay second draft
- 第4回 Narrative essay third draft : peer consultation
- 第5回 Narrative essay fourth draft : teacher consultation
- 第6回 Narrative essay fourth draft : teacher consultation continued
- 第7回 Narrative essay final draft : introduction to persuasive essay
- 第8回 Persuasive essay first draft
- 第9回 Persuasive essay second draft
- 第10回 Persuasive essay third draft : peer consultation
- 第11回 Persuasive essay fourth draft : teacher consultation
- 第12回 Persuasive essay fourth draft : teacher consultation
- 第13回 Grammar review
- 第14回 Persuasive essay final draft : in-class writing
- 第15回 Persuasive essay returned : consultations.

6. Special Information (留意事項)

Students are expected to attend class regularly and to complete all writing assignments.

講義コード	20205002			
科目名	Academic Writing I B			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	Academic Writing (中級) 必修 ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course builds upon what was learned in the second-year Advanced Writing course. Students practice writing longer essays that become more academic in nature by the end of the semester.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will learn to edit and improve their own writing by producing several drafts of each essay. They will learn how to formulate topics that are of interest to themselves and their audience and to evaluate critically their own writing and the writing of others. Students are expected to understand how to avoid plagiarism by properly acknowledging their sources.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Teachers will regularly assign writing projects. Student writing may be discussed in class and used as models, and students should expect help and criticism not only from the teacher but from their classmates as well.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher, including completion of all drafts of essays.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance, class participation, completion of all drafts : 30%
Essays : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introductory class
- 第2回 Narrative essay first draft
- 第3回 Narrative essay second draft
- 第4回 Narrative essay third draft : peer consultation
- 第5回 Narrative essay fourth draft : teacher consultation
- 第6回 Narrative essay fourth draft : teacher consultation continued
- 第7回 Narrative essay final draft : introduction to persuasive essay
- 第8回 Persuasive essay first draft
- 第9回 Persuasive essay second draft
- 第10回 Persuasive essay third draft : peer consultation
- 第11回 Persuasive essay fourth draft : teacher consultation
- 第12回 Persuasive essay fourth draft : teacher consultation
- 第13回 Grammar review
- 第14回 Persuasive essay final draft : in-class writing
- 第15回 Persuasive essay returned : consultations.

6. Special Information (留意事項)

Students are expected to attend class regularly and to complete all writing assignments.

講義コード	20205003			
科目名	Academic Writing I C			
担当者	Eric Hail			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『First Steps in Academic Writing』 Ann Houge Peason 2008 "First Steps in Academic Writing" second edition by Ann Houge			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	Academic Writing (中級) 必修 ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The objective of this class is to acquaint students with the specific skills used for writing in English for university classes. As many Notre Dame students study abroad, one additional purpose is to prepare them for writing assignments made by foreign teachers.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will learn to critically evaluate their own work. Beginning with the selection of a topic, continuing through outlining, writing and editing, they will be encouraged to analyze both the structure and technical skills needed for effective writing. A special emphasis will be placed on quotations in papers.

3. Course Method (教育・学習の方法)

There will be medium-length writing assignments, broken down into task-oriented units. There will be weekly consultation with the teacher, however emphasis will be placed on developing the students' ability to analyze their own writing. Some peer editing will also be practiced.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades will be based on timely completion of writing assignment, class participation and behavior.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Exercise 1
- 第2回 Exercise 2
- 第3回 Exercise 3
- 第4回 Exercise 4
- 第5回 Exercise 5
- 第6回 Exercise 6
- 第7回 Exercise 7
- 第8回 Exercise 8
- 第9回 Exercise 9
- 第10回 Exercise 10
- 第11回 Exercise 11
- 第12回 Exercise 12
- 第13回 Exercise 13
- 第14回 Exercise 14
- 第15回 Exercise 15

6. Special Information (留意事項)

Regular attendance is required in addition to the timely completion of all writing assignments. All students must buy a NEW textbook. All students must bring an English dictionary to every class.

講義コード	20205004			
科目名	Academic Writing I D			
担当者	山本 裕子			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	プリント教材を配布する。			
参考文献	授業時に適宜紹介する。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替	Academic Writing (中級) 必修 ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業では、身近なトピックに関して、文法的に正しい英語の文章を用い、かつ、効果的にパラグラフ構成されたアカデミック・エッセイを書くことを目標とします。エッセイを書く前段階として、トピックの選び方、アウトラインの組み立て等を習慣づける。授業を通して、エッセイの様々な展開法を学習します。展開法に従って、4～5パラグラフから成るエッセイ(500 words 程度)に取り組み、卒業論文執筆の準備とします。毎授業、英文を書くことになるので、電子辞書等を必ず持参のこと。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 伝えたいことを正確かつ効果的に英語で表現できる。
- 2 様々な展開法を適切に用いてエッセイを書くことができる。
- 3 身近な話題について、4～5パラグラフから成るエッセイを書けるようになる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業時間中に、テキスト・補助プリント・辞書を使用して出来るだけ多くの英文を作成します。提出されたエッセイは添削のうえ返却するので、書き直して再度提出すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

エッセイ・トピックの選定においても、エッセイの内容充実においても、授業外での情報検索が必要不可欠となります。トピックに関連する事柄を事前に図書館で調査することが肝要です。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and Class Participation 15%
Class Activities and Submitted Papers 55%
Final Essay 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業説明、Diagnostic Writing
- 第2回 Narrative
- 第3回 Narrative
- 第4回 Narrative
- 第5回 Description
- 第6回 Description
- 第7回 Description
- 第8回 Classification
- 第9回 Classification
- 第10回 Classification
- 第11回 Movie Shooting
- 第12回 Movie Shooting
- 第13回 Movie Review
- 第14回 Movie Review
- 第15回 Movie Review

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20205005			
科目名	Academic Writing I E			
担当者	小林 順			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	Academic Writing (中級) 必修 ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業では、身近なトピックに関して、文法的に正しい英語の文章を書く、かつ、効果的にパラグラフ構成されたアカデミック・エッセイを書くことを目標とします。まずは、エッセイを書く前段階として、トピックの選び方、アウトラインの組み立て、トピック・センテンスの書き方等を学びます。つぎに、パラグラフの様々な展開法を学習します。最終的に、4～5パラグラフから成るエッセイ(400 words 程度)に取り組み、卒業論文執筆の準備とします。毎授業、英文を書くことになるので、電子辞書等を必ず持参のこと。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 伝えたいことを正確かつ効果的に英語で表現できる。
- 2 様々な展開法を適切に用いてパラグラフを書くことができる。
- 3 身近な話題について、4～5パラグラフから成るエッセイを書けるようになる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業時間中に、テキスト・補助プリント・辞書を使用して出来るだけ多くの英文を作成します。提出されたエッセイは添削のうえ返却するので、書き直して再度提出すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

エッセイ・トピックの選定においても、エッセイの内容充実においても、授業外での情報検索が必要不可欠となります。トピックに関連する事柄を事前に図書館で調査することが肝要です。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and Class Participation 15%, Class Activities and Submitted Papers 55%, Final Essay 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業説明、Diagnostic Writing
- 第2回 Unit 1 Pre-Writing
- 第3回 Unit 2 Drafting
- 第4回 Unit 3 Revision/Proof-Reading
- 第5回 Unit 12 E-mail Writing
- 第6回 Unit 12 E-mail Writing
- 第7回 Unit 4 Narratives: Traveling in London
- 第8回 Unit 4 Narratives: Traveling in London
- 第9回 Unit 5 Description: Abbey Road
- 第10回 Unit 5 Description: Abbey Road
- 第11回 Unit 6 Classification: Individuality Emphasized in Exams
- 第12回 Unit 6 Classification: Individuality Emphasized in Exams
- 第13回 Unit 11 Essay Writing
- 第14回 Unit 11 Essay Writing
- 第15回 Unit 11 Essay Writing

6. Special Information (留意事項)

特になし。

講義コード	20205101			
科目名	Academic Writing II A			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	Academic Writing (上級) 必修 ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will continue the work begun in Academic Writing I. Students will practice writing expository prose.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

One of the major goals of the course is to help get students ready to embark on an extended research project, their graduation theses. Therefore, student writing should become progressively more complex and sophisticated in the course of the semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Teachers will regularly assign writing projects. Student writing may be discussed in class and used as models, and students should expect help and criticism not only from the teacher but from their classmates as well.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher, including completion of all drafts of essays.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance, class participation, completion of all drafts : 30%

Essays : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction to informative essay
- 第2回 Informative essay first draft
- 第3回 Informative essay second draft
- 第4回 Informative essay third draft : peer consultation
- 第5回 Informative essay fourth draft : teacher consultation
- 第6回 Informative essay fourth draft : teacher consultation continued
- 第7回 Informative essay final draft : introduction to informative essay with references
- 第8回 Informative essay with references first draft
- 第9回 Informative essay with references second draft
- 第10回 Informative essay with references third draft : peer consultation
- 第11回 References workshop
- 第12回 Informative essay with references fourth draft : teacher consultation
- 第13回 Informative essay with references fourth draft : teacher consultation
- 第14回 Informative essay returned : consultations
- 第15回 Informative essay with references final draft

6. Special Information (留意事項)

Students are expected to attend class regularly and to complete all writing assignments.

講義コード	20205102			
科目名	Academic Writing II B			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	Academic Writing (上級) 必修 ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will continue the work begun in Academic Writing I. Students will practice writing expository prose.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

One of the major goals of the course is to help get students ready to embark on an extended research project, their graduation theses. Therefore, student writing should become progressively more complex and sophisticated in the course of the semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Teachers will regularly assign writing projects. Student writing may be discussed in class and used as models, and students should expect help and criticism not only from the teacher but from their classmates as well.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher, including completion of all drafts of essays.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance, class participation, completion of all drafts : 30%

Essays : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction to informative essay
- 第2回 Informative essay first draft
- 第3回 Informative essay second draft
- 第4回 Informative essay third draft : peer consultation
- 第5回 Informative essay fourth draft : teacher consultation
- 第6回 Informative essay fourth draft : teacher consultation continued

第7回 Informative essay final draft : introduction to informative essay with references

第8回 Informative essay with references first draft

第9回 Informative essay with references second draft

第10回 Informative essay with references third draft : peer consultation

第11回 References workshop

第12回 Informative essay with references fourth draft : teacher consultation

第13回 Informative essay with references fourth draft : teacher consultation

第14回 Informative essay returned : consultations

第15回 Informative essay with references final draft

6. Special Information (留意事項)

Students are expected to attend class regularly and to complete all writing assignments.

講義コード	20205103			
科目名	Academic Writing II C			
担当者	Eric Hail			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『First Steps in Academic Writing』 Ann Hogue Peason 2008 "First Steps in Academic Writing" second edition by Ann Hogue			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替	Academic Writing (上級) 必修 ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The objective of this class is to acquaint students with the specific skills used for writing in English for university classes. As many Notre Dame students study abroad, one additional purpose is to prepare them for writing assignments made by foreign teachers.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will learn to critically evaluate their own work. Beginning with the selection of a topic, continuing through outlining, writing and editing, they will be encouraged to analyze both the structure and technical skills needed for effective writing. A special emphasis will be placed on quotations in papers.

3. Course Method (教育・学習の方法)

There will be medium-length writing assignments, broken down into task-oriented units. There will be weekly consultation with the teacher, however emphasis will be placed on developing the students' ability to analyze their own writing. Some peer editing will also be practiced.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades will be based on timely completion of writing assignment, class participation and behavior.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Exercise 1
- 第2回 Exercise 2
- 第3回 Exercise 3
- 第4回 Exercise 4
- 第5回 Exercise 5
- 第6回 Exercise 6
- 第7回 Exercise 7
- 第8回 Exercise 8
- 第9回 Exercise 9
- 第10回 Exercise 10
- 第11回 Exercise 11
- 第12回 Exercise 12
- 第13回 Exercise 13
- 第14回 Exercise 14

6. Special Information (留意事項)

Regular attendance is required in addition to the timely completion of all writing assignments. All students must buy a NEW textbook. All students must bring an English dictionary to every class.

講義コード	20205104		
科目名	Academic Writing II D		
担当者	山本 裕子		
単位数	2	配当学年	3
資格	[英]		
前提科目			
テキスト	プリント教材を配布する。		
参考文献	授業時に適宜紹介する。		
備考	必修 クラス指定		
科目読替	Academic Writing (上級) 必修 ※平成 19 年度以前入学者に適用		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業では、身近なトピックに関して、文法的に正しい英語の文章を用い、かつ、効果的にパラグラフ構成されたアカデミック・エッセイを書くことを目標とします。エッセイを書く前段階として、トピックの選び方、アウトラインの組み立て等を学びます。パラグラフの様々な展開法を学習する。同時に、適正な引用の仕方を学び、4～5パラグラフから成るリサーチ・ペーパー (550 words 程度) に取り組み、卒業論文執筆の準備とします。毎授業、英文を書くことになるので、電子辞書等を必ず持参のこと。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 伝えたいことを正確かつ効果的に英語で表現できる。
- 2 様々な展開法を適切に用いてパラグラフを書くことができる。
- 3 身近な話題について、4～5パラグラフから成るエッセイを書けるようになる。
- 4 引用を適正に行ったりリサーチ・ペーパーを書くことができる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業時間中に、テキスト・補助プリント・辞書を使用して出来るだけ多くの英文を作成します。提出されたエッセイは添削のうえ返却するので、書き直して再度提出すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

エッセイ・トピックの選定においても、エッセイの内容充実においても、授業外での情報検索が必要不可欠となります。トピックに関連する事柄を事前に図書館で調査することが肝要です。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and Class Participation 15%
Class Activities and Submitted Papers 55%
Final Essay 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション Diagnostic Writing
- 第2回 Paraphrasing
- 第3回 MLA
- 第4回 MLA
- 第5回 Comparison and Contrast
- 第6回 Comparison and Contrast
- 第7回 Comparison and Contrast
- 第8回 Cause and Effect
- 第9回 Cause and Effect
- 第10回 Cause and Effect
- 第11回 Cause and Effect
- 第12回 Argumentation
- 第13回 Argumentation
- 第14回 Argumentation
- 第15回 Argumentation

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20205105		
科目名	Academic Writing II E		
担当者	小林 順		
単位数	2	配当学年	3
資格	[英]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替	Academic Writing (上級) 必修 ※平成 19 年度以前入学者に適用		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業では、身近なトピックに関して、文法的に正しい英語の文章を用い、かつ、効果的にパラグラフ構成されたアカデミック・エッセイを書くことを目標とします。まずは、エッセイを書く前段階として、トピックの選び方、アウトラインの組み立て、トピック・センテンスの書き方等を学びます。つぎに、パラグラフの様々な展開法を学習します。最終的に、4～5パラグラフから成るエッセイ (400 words 程度) に取り組み、卒業論文執筆の準備とします。毎授業、英文を書くことになるので、電子辞書等を必ず持参のこと。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 伝えたいことを正確かつ効果的に英語で表現できる。
- 2 様々な展開法を適切に用いてパラグラフを書くことができる。
- 3 身近な話題について、4～5パラグラフから成るエッセイを書けるようになる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業時間中に、テキスト・補助プリント・辞書を使用して出来るだけ多くの英文を作成します。提出されたエッセイは添削のうえ返却するので、書き直して再度提出すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

エッセイ・トピックの選定においても、エッセイの内容充実においても、授業外での情報検索が必要不可欠となります。トピックに関連する事柄を事前に図書館で調査することが肝要です。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and Class Participation 15%
Class Activities and Submitted Papers 55%
Final Essay 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業説明、Diagnostic Writing
- 第2回 Unit 1 Pre-Writing, Unit 2 Drafting,
Unit 3 Revision / Proof-Reading
- 第3回 Unit 13 Resume Writing
- 第4回 Unit 13 Resume Writing
- 第5回 Unit 7 Contrast: The Difference between London and
Tokyo
- 第6回 Unit 7 Contrast: The Difference between London and
Tokyo
- 第7回 Unit 8 Problem Solving: Ways to Release Stress
- 第8回 Unit 8 Problem Solving: Ways to Release Stress
- 第9回 Unit 9 Cause and Effect: The Status of Japanese Women
- 第10回 Unit 9 Cause and Effect: The Status of Japanese Women
- 第11回 Unit 10 Personal Opinion: Mr. Bean
- 第12回 Unit 10 Personal Opinion: Mr. Bean
- 第13回 Final Essay Writing
- 第14回 Final Essay Writing
- 第15回 Final Essay Writing

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20205201			
科目名	英会話 I A			
担当者	Robin Russ			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『Reading Keys Book 2』 Miles Craven Macmillan 2009			
参考文献				
備考	定員 20 人 「Speaking & Listening I ~IV」履修者であること			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

This is a discussion based course that will use authentic reading text as a basis for discussion. Emphasis in class is on speaking and you will be expected to participate and speak only in English. Vocabulary and grammar study will be part of the preparation, as introduced with the reading section. This course will be conducted exclusively in English and students should be prepared to actively participate and share their ideas and opinions in English.

2. 教育・学習の個別課題

The interactive activities in this class involve learning and practicing oral communication skills that can be applied to academic situations. We will work on aspects of accuracy and organization of ideas as well as strategies for gleaning meaning from content.

3. 教育・学習の方法

The class will include activities to strengthen critical thinking skills by brainstorming, supporting opinions, considering values, making decisions, problem solving and analyzing issues based on authentic English text.

・準備学習の具体的な方法

There will be weekly homework assignments. You will be expected to search English web sites and contribute materials and discussion topics. Students will give presentations.

4. 評価方法・評価基準

40% class participation
30% presentation and homework
30% tests

5. 授業予定

第1回 Unit 1
第2回 Unit 1
第3回 Unit 2
第4回 Unit 2
第5回 test/presentation
第6回 Unit 3
第7回 Unit 3
第8回 Unit 4
第9回 Unit 4
第10回 test/presentation
第11回 Unit 5
第12回 Unit 5
第13回 Unit 6
第14回 Unit 6
第15回 discussion topic

6. 留意事項

講義コード	20205202			
科目名	英会話 I B			
担当者	アレックス ウェガワ			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『Tell Me Your Stories - Storytelling in Conversational English』 Bob Jones / David Coulson MacMillan Language House 2008 Request to have copies of the following: Textbook, Teacher's Manual, and CD.			
参考文献				
備考	定員 20 人 「Speaking & Listening I ~IV」履修者であること			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

English Conversation I builds on communicative skills previously studied in Speaking & Listening III/IV. The aim of this course is to further develop these skills and gain competence in conversational English through storytelling.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

a) Increase confidence in using English. b) To help students become better communicators by expressing their feelings, emotions, opinions, and ideas in a coherent, logical and natural manner. c) To build vocabulary. d) Assist students to appropriately use English in a number of social situations and interactions. e) provide an opportunity to apply storytelling techniques and to develop presentation skills.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Class time will be largely devoted to pair and small group work, and activities involving the class as a whole. The course will require students to participate in role-plays, interviews, and small group discussions. A number of presentations (sharing of stories) will be assigned during the year.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Taking the Initiative and Engaging in Self-Study Activities to Improve Speaking & Listening Skills: 1. Listen to both long and short everyday conversational dialogues on a variety of topics and situations. First, without looking at the script, just do general listening. Then repeat aloud after the speakers for rhythm, fluency, and pronunciation practice. A number of techniques may be applied. 2. Tongue twisters are also very helpful. I believe many (if not all) TV newscasters practice saying and repeating tongue twisters on a daily basis to improve their speaking fluency. 3. Listen to and watch various English radio and TV programs, e.g., news, talk shows, interviews, and documentaries. 4. Watch movies first without any subtitles, then with English subtitles as deemed necessary. Avoid looking at Japanese subtitles, especially in the beginning. This should be the last step. 5. If music is of personal interest and enjoyment, listen to songs and sing along, projecting your voice at the same time. 6. Indulge yourself in reading books, short novels, newspapers, magazines, journals, and articles, focusing on comprehension, grammar and vocabulary. 7. Do not be afraid of making mistakes. Listen attentively and do not hesitate to offer your personal opinions on different matters. Be willing to participate and ask questions in class. Along this line, always try to ask follow-up questions. 8. Learn and employ the use of gestures and facial expressions, vary pitch/ tone of voice, and express your feelings when speaking. 9. Study storytelling techniques. 10. Always try to make eye contact with your listener(s) in a conversation or a presentation of some kind. This helps to build your confidence.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Semester grade will be based on attitude & participation (30%), role plays (10%), presentations (40%), completion & quality of assignments (10%), and quizzes (10%). Although attendance has not been assigned a percentage, 2 points will be deducted from the final numerical grade for each unexcused absence. Exceeding the attendance cutoff (30%) may result in a failing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 Course introduction: teacher's self-introduction; Student

interviews.

- 第2回 Students' Self-Introductions.
- 第3回 Stage Fright: Confidence: Fear versus Phobia.
- 第4回 A Specific Fear.
- 第5回 Unit 1 Talking About Movies.
- 第6回 Unit 1 Talking About Movies.
- 第7回 Unit 2 My Little Accident.
- 第8回 Unit 2 My Little Accident.
- 第9回 Unit 3 I Was So Embarrassed.
- 第10回 Unit 3 I Was So Embarrassed.
- 第11回 My Prized Possession.
- 第12回 My Prized Possession.
- 第13回 Unit 4 It Made Me Feel So Good.
- 第14回 Unit 4 It Made Me Feel So Good.
- 第15回 Review & discussion. The teaching schedule will be flexible and vary according to the specific needs of the class.

6. Special Information (留意事項)

The language of instruction is English. Students are required to attend class on a regular basis and to complete all assignments on time. Active participation is highly encouraged. Quizzes may be given occasionally.

講義コード	20205301			
科目名	英会話ⅡA			
担当者	Robin Russ			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『Reading Keys Book 2』 Miles Craven Macmillan 2009			
参考文献				
備考	定員20人 「英会話Ⅰ」の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

This is a discussion based course that will use authentic reading text as a basis for discussion. Emphasis in class is on speaking and you will be expected to participate fully in English only. Vocabulary and grammar study will be part of the preparation, as introduced with the reading section. This course will be conducted exclusively in English and students should be prepared to actively participate and share their ideas and opinions in English.

2. 教育・学習の個別課題

The interactive activities in this class involve learning and practicing oral communication skills that can be applied to academic situations. We will work on aspects of accuracy and organization of ideas and various ways of gleaming meaning from content.

3. 教育・学習の方法

The class will include activities to strengthen critical thinking skills by brainstorming, supporting opinions, considering values, making decisions, problem solving and analyzing issues based on authentic English text.

・準備学習の具体的な方法

There will be weekly homework assignments. You will be expected to search English web sites and contribute materials and discussion topics. Students will give presentations.

4. 評価方法・評価基準

Evaluation:

- 40% class participation
- 30% presentation and assignments
- 30% tests

5. 授業予定

- 第1回 Unit 9
- 第2回 Unit 9
- 第3回 Unit 10
- 第4回 Unit 10
- 第5回 unit test/presentation
- 第6回 Unit 11
- 第7回 Unit 11

- 第8回 Unit 12
- 第9回 Unit 12
- 第10回 unit test/presentation
- 第11回 Unit 13
- 第12回 Unit 14
- 第13回 Unit 15
- 第14回 Unit 16
- 第15回 test

6. 留意事項

講義コード	20205302			
科目名	英会話ⅡB			
担当者	アレクサンダー ウェガワ			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『Tell Me Your Stories - Storytelling in Conversational English』 Bob Jones / David Coulson MacMillan LanguageHouse 2008			
参考文献				
備考	定員20人 「英会話Ⅰ」の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

Because the second semester builds on the communicative skills previously studied in the first semester, the general objectives are the same as for the first semester.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will be provided with opportunities to apply and demonstrate the skills and strategies learned in the first semester through communicative activities/exercises, discussions, presentations, and a final speech introduced into the curriculum.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will continue to interact in mainly pairs, small groups, the class as a whole, and, at the same time, the learning strategies applied in the second semester can be more flexibly tailored to individual student abilities, needs, and interests.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Taking the Initiative and Engaging in Self-Study Activities to Improve Speaking & Listening Skills: 1. Listen to both long and short everyday conversational dialogues on a variety of topics and situations. First, without looking at the script, just do general listening. Then repeat aloud after the speakers for rhythm, fluency, and pronunciation practice. A number of techniques may be applied. 2. Tongue twisters are also very helpful. I believe many (if not all) TV newscasters practice saying and repeating tongue twisters on a daily basis to improve their speaking fluency. 3. Listen to and watch various English radio and TV programs, e.g., news, talk shows, interviews, and documentaries. 4. Watch movies first without any subtitles, then with English subtitles as deemed necessary. Avoid looking at Japanese subtitles, especially in the beginning. This should be the last step. 5. If music is of personal interest and enjoyment, listen to songs and sing along, projecting your voice at the same time. 6. Indulge yourself in reading books, short novels, newspapers, magazines, journals, and articles, focusing on comprehension, grammar and vocabulary. 7. Do not be afraid of making mistakes. Listen attentively and do not hesitate to offer your personal opinions on different matters. Be willing to participate and ask questions in class. Along this line, always try to ask follow-up questions. 8. Learn and employ the use of gestures and facial expressions, vary pitch/tone of voice, and express your feelings when speaking. 9. Study storytelling techniques. 10. Always try to make eye contact with your listener(s) in a conversation or a presentation of some kind. This helps to build your confidence.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Semester grade will be based on attitude & participation (30%), role plays (10%), presentations (40%), completion & quality of assignments (10%), and quizzes (10%). Although attendance has not been assigned a percentage, 2 points will be deducted from the final numerical grade for each unexcused absence. Exceeding the attendance

cutoff (30%) may result in a failing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Unit 5 That Must Have Been Disappointing.
- 第2回 Unit 5 That Must Have Been Disappointing.
- 第3回 Unit 6 I Know What You Mean.
- 第4回 Unit 6 I know What You Mean.
- 第5回 Unit 7 The Day Everything Went Wrong.
- 第6回 Unit 7 The Day Everything Went Wrong.
- 第7回 Unit 8 We Used To Have So Much Fun.
- 第8回 Unit 8 We Used To Have So Much Fun.
- 第9回 Unit 9 She's A Brave Girl, Isn't She?
- 第10回 Unit 9 She's A Brave Girl, Isn't She?
- 第11回 Unit 10 "Oh, Talking About ..."
- 第12回 Unit 10 "Oh, Talking About ..."
- 第13回 A Personal Opinion Speech Preparation.
- 第14回 Personal Opinion Speeches.
- 第15回 Review and discussion.

The teaching schedule will be flexible and vary according to the specific needs of the class.

6. Special Information (留意事項)

The language of instruction is English. Students are required to attend class on a regular basis and to complete all assignments on time. Active participation is highly encouraged. Quizzes may be given occasionally.

講義コード	20205401			
科目名	英会話ⅢA			
担当者	Robin Russ			
単位数	1	配当学年	4	
資格	[英][医]			
前提科目				
テキスト	『Practice makes Perfect』 Jane Ward (self published) 2011 2nd edition 2012 (self published text, will be provided by the teacher at a cost of approximately 1,500 yen)			
参考文献				
備考	定員15人 「英会話Ⅰ・Ⅱ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

This course will focus on English fluency, conversation strategies and a review of vocabulary. It is suitable for those who would like to develop their speaking and listening skills and who are prepared to communicate for the entire class period in English. The objective is to develop fluency in discussing various common topics, and improve communicative ability and confidence.

2. 教育・学習の個別課題

To improve listening to extended speech and to develop fluency. Vocabulary and conversation strategies will be presented and students will use those strategies (agree/disagree, ask for clarification, paraphrase) in group work and pair work and in writing.

3. 教育・学習の方法

Vocabulary study, pair work, group work, free writing.

・準備学習の具体的な方法

Homework will be assigned every week. You will also have assignments which require searching English web sites and contribute materials and discussion topics.

4. 評価方法・評価基準

- 40% class participation
- 30% homework assignments
- 30% unit tests

5. 授業予定

- 第1回 Unit 1
- 第2回 Unit 1
- 第3回 Unit 2
- 第4回 Unit 2
- 第5回 Test Unit 1&2
- 第6回 Unit 3

- 第7回 Unit 3
- 第8回 Unit 4
- 第9回 Unit 4
- 第10回 Test Unit 3&4
- 第11回 Unit 5
- 第12回 Unit 5
- 第13回 Unit 6
- 第14回 Unit 6
- 第15回 Test Unit 5&6

6. 留意事項

講義コード	20205402			
科目名	英会話ⅢB English Conversation III B			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	4	
資格	[英][医]			
前提科目				
テキスト	There is no textbook for this class. I will prepare handouts, worksheets, materials, etc. for you.			
参考文献	None			
備考	定員15人 「英会話Ⅰ・Ⅱ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

This course will focus on developing English conversation skills. Primary attention will be given to listening and speaking, however, some reading and writing will also be required. This course is recommended for students who want to improve their English listening, speaking skills, and conversation fluency. Topics covered in the course will be based upon the interests of the class.

2. 教育・学習の個別課題

Students will improve their overall oral communication skills. They will also develop greater fluency and the ability to express their ideas.

3. 教育・学習の方法

THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY IN ENGLISH and students are expected to actively participate and share their ideas. There are no exceptions! The majority of class time will be spent on group discussion. Every student is expected to actively participate and share their ideas and opinions.

・準備学習の具体的な方法

Students are expected to come to class on time and actively participate. To do this, students must prepare for each class by reviewing the homework from the previous week.

4. 評価方法・評価基準

- Class Participation 授業参加: 40%
- Assignments/Role-Plays/Tasks/Presentations/Etc.: 60%

5. 授業予定

- 第1回 Introduction
- 第2回 Topic #1
- 第3回 Topic #2
- 第4回 Topic #3
- 第5回 Topic #4
- 第6回 Topic #5
- 第7回 Topic #6
- 第8回 Topic #7
- 第9回 Topic #8
- 第10回 Topic #9
- 第11回 Topic #10
- 第12回 Topic #11
- 第13回 Topic #12
- 第14回 Topic #13
- 第15回 Topic #14

6. 留意事項

※ 原則として、TOEIC460点以上取得している学生はAクラスを履修をすること。

それ以外の学生は、Bクラスを履修のこと。

An English-English dictionary is highly recommended. Please read the graded reader books in the library and the AV-room! READ AS MUCH

講義コード	20205501			
科目名	英会話ⅣA			
担当者	Robin Russ			
単位数	1	配当学年	4	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『Practice makes Perfect』 Jane Ward self published 2011 2nd edition 2012 (self published text, will be provided by the teacher. The approximate cost will be 1,500 yen)			
参考文献				
備考	定員15人 「英会話Ⅲ」履修者であること			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

This course will focus on English fluency, conversation strategies and a review of vocabulary. It is suitable for those who would like to develop their speaking and listening skills and who are prepared to communicate for the entire class period in English. The objective is to develop fluency in discussing various common topics, and improve communicative ability and confidence.

2. 教育・学習の個別課題

To improve listening to extended speech and to develop fluency. Vocabulary and conversation strategies will be presented and students will use those strategies (agree/disagree, ask for clarification, paraphrase) in group work and pair work and in writing.

3. 教育・学習の方法

Vocabulary study, pair work, group work, free writing.

・準備学習の具体的な方法

Homework will be assigned every week. You will also have assignments which require searching English web sites and contribute materials and discussion topics.

4. 評価方法・評価基準

40% class participation
30% homework assignments
30% unit tests

5. 授業予定

- 第1回 Unit 7
- 第2回 Unit 7
- 第3回 Unit 8
- 第4回 Unit 8
- 第5回 test Unit 7 & 8
- 第6回 Unit 9
- 第7回 Unit 9
- 第8回 Unit 10
- 第9回 Unit 10
- 第10回 Test Unit 9 & 10
- 第11回 Unit 11
- 第12回 Unit 11
- 第13回 Unit 12
- 第14回 Unit 12
- 第15回 Test Unit 11 & 12

6. 留意事項

講義コード	20205502			
科目名	英会話ⅣB English Conversation IV B			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	4	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	There is no textbook for this class. I will prepare handouts, worksheets, materials, etc. for you.			
参考文献	None			
備考	定員15人 「英会話Ⅲ」履修者であること			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

This course will continue focusing on developing English conversation skills. Primary attention will be given to listening and speaking, however, some reading and writing will also be required. This course is recommended for students who want to improve their English listening and speaking skills. Topics covered in the course will be based upon the interests of the class.

2. 教育・学習の個別課題

Students will improve their overall oral communication skills. They will also develop greater fluency and the ability to express their ideas.

3. 教育・学習の方法

THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY IN ENGLISH and students are expected to actively participate and share their ideas. There are no exceptions! The majority of class time will be spent on group discussion. Every student is expected to actively participate and share their ideas and opinions.

・準備学習の具体的な方法

Students are expected to come to class on time and actively participate. To do this, students must prepare for each class by reviewing the homework from the previous week.

4. 評価方法・評価基準

Class Participation: 40% Your participation grade in this class includes work done in class, your attitude, being on-task, and completed homework. NOTE: Just being present in class does NOT automatically guarantee a high participation grade.

Assignments/Role-Plays/Tasks/Etc.: 60%

5. 授業予定

- 第1回 Introduction
- 第2回 Topic #1
- 第3回 Topic #2
- 第4回 Topic #3
- 第5回 Topic #4
- 第6回 Topic #5
- 第7回 Topic #6
- 第8回 Topic #7
- 第9回 Topic #8
- 第10回 Topic #9
- 第11回 Topic #10
- 第12回 Topic #11
- 第13回 Topic #12
- 第14回 Topic #13
- 第15回 Topic #14

6. 留意事項

※ 原則として、TOEIC460点以上取得している学生はAクラスを履修をすること。

それ以外の学生は、Bクラスを履修のこと。

An English-English dictionary is highly recommended. Please read the graded reader books in the library and the AV-room! READ AS MUCH AS YOU CAN EVERYDAY!

講義コード	20205601		
科目名	英文法 I A コミュニケーションのための英文法 I		
担当者	沖原 勝昭		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『Basic Grammar in Use (3rd Ed.)』 R. Murphy Cambridge U.P. 2011		
参考文献	『大学生のための英文法』 伊藤健三ほか 開拓社 2009 『英文法解説』 江川泰一郎 金子書房 2000		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to make you, the students, aware of the basic concepts of grammar, specifically English grammar. This is to help you in reading, writing, listening, and speaking classes. We expect you to be aware of the basic concepts of grammar, which are used in these English classes.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

What we expect you to be aware of after the course: (1) You should be aware that words belong to different parts of speech, such as nouns, verbs, adjectives, prepositions, etc. (2) You should be aware of the patterns the verbs take; e.g., intransitives, transitives, etc. (3) You should be aware that, for each verb, the form it takes when in the present and past tenses, or the form each take when put in different aspects; i.e., progressive and perfect aspects, or the form each take in different voices; i.e., active and passive voices. (4) You should be aware of some of the concepts used when talking about grammars of languages, such as subject, object, modification, etc. (5) You should be aware of names of constructions and what they mean, such as Relative Clauses, Yes-No questions, etc. (6) You should be aware of the different types of sentences, such as declarative, interrogative, and imperative sentences.

3. Course Method (教育・学習の方法)

We will explain each of the above in class and you will do exercises or other forms of practice to see if you understand what has been explained. We will expect you to do the exercises in class and compare your answers with those of other students.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Make sure you read the chapter or section of the book you will be using before going to class. After the class, make sure you understood the parts that were gone over in class and move on to the next lesson.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined by your participation in class, the scores you receive in the exercises you do, and the scores of quizzes given in class.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 (The order and the topics of presentation may not coincide with the list below, but most of the topics listed will be covered in each class.) Lecture: 1. Parts of Speech: Nouns and Verbs
- 第2回 Parts of Speech: Adjectives and Adverbs
- 第3回 Parts of Speech: Prepositions and Connectives
- 第4回 Grammatical Functions: Subject and Predicate
- 第5回 Grammatical Functions: Object and Complement
- 第6回 Verbs and Sentence Types: SV (intransitive) and SVO (transitive)
- 第7回 Verbs and Sentence Types: SVC and SVOC (modification)
- 第8回 Verbs and Sentence Types: SVOO (ditransitive)
- 第9回 Types of Sentences: Declarative Sentences
- 第10回 Types of Sentences: Interrogative Sentences
- 第11回 Types of Sentences: Imperative Sentences
- 第12回 Tenses: Present and Past
- 第13回 Aspects and Moods: Progressive and Perfect, Active and Passive
- 第14回 Constructions: Yes-No Questions/Wh-Questions, Relative Clauses
- 第15回 Complex Sentences: That-complement, Infinitives, and Wh-complements

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20205602		
科目名	英文法 I B Your First Step to English Grammar!		
担当者	東郷 多津		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『総合英語 Forest Intensive English Grammar in 27 Lessons [6th edition]』 (株)ピアソン桐原 2013 『総合英語 Forest Intensive English Grammar Training Book [6th edition]』 (株)ピアソン桐原 2013		
参考文献	『FOREST 6th edition』 Kirihara Shoten 2013		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to make you, the students, aware of the basic concepts of grammar, specifically English grammar. This is to help you in reading, writing, listening, and speaking classes. We expect you to be aware of the basic concepts of grammar, which are used in these English classes.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

What we expect you to be aware of after the course: (1) You should be aware that words belong to different parts of speech, such as nouns, verbs, adjectives, prepositions, etc. (2) You should be aware of the patterns the verbs take; e.g., intransitives, transitives, etc. (3) You should be aware that, for each verb, the form it takes when in the present and past tenses, or the form each take when put in different aspects; i.e., progressive and perfect aspects, or the form each take in different voices; i.e., active and passive voices. (4) You should be aware of some of the concepts used when talking about grammars of languages, such as subject, object, modification, etc. (5) You should be aware of names of constructions and what they mean, such as Relative Clauses, Yes-No questions, etc. (6) You should be aware of the different types of sentences, such as declarative, interrogative, and imperative sentences.

3. Course Method (教育・学習の方法)

We will explain each of the above in class and you will do exercises or other forms of practice to see if you understand what has been explained. We will expect you to do the exercises in class and compare your answers with those of other students.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Make sure you read the chapter or section of the book you will be using before going to class. After the class, make sure you understood the parts that were gone over in class and move on to the next lesson.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined by your participation in class, the scores you receive in the exercises you do(40%), and the scores of quizzes(60%) given in class.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 (The order and the topics of presentation may not coincide with the list below, but most of the topics listed will be covered in each class.) Orientation
- 第2回 Chapter 1
- 第3回 Chapter 2
- 第4回 Chapter 3
- 第5回 Chapter 4
- 第6回 Chapter 5
- 第7回 Chapter 6
- 第8回 Chapter 7
- 第9回 Review (Chap.1-5)
- 第10回 Chapter 8
- 第11回 Chapter 9
- 第12回 Chapter 10
- 第13回 Review (Chap.6-10)
- 第14回 Chapter 11
- 第15回 Chapter 12

6. Special Information (留意事項)

This class is for learners who wants to study English grammar again from the very beginning level.

講義コード	20205701		
科目名	英文法ⅡA コミュニケーションのための英文法Ⅱ		
担当者	沖原 勝昭		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『Basic Grammar in Use (3rd Ed.)』 R. Murphy Cambridge U.P. 2011		
参考文献	『大学生のための英文法』 伊藤健三ほか 開拓社 2009 『英文法解説』 江川泰一郎 金子書房 2000		
備考	「英文法Ⅰ」履修者であること		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to make you, the students, aware of the basic concepts of grammar, specifically English grammar. This is to help you in reading, writing, listening, and speaking classes. We expect you to be aware of the basic concepts of grammar which are used in these English classes.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

What we expect you to be aware of after the course: 1. You should be aware of the many types of sentences that you experience while learning to speak English. 2. You should be aware of the different types of complements that are at work. 3. You should be aware of the kind of complements taken by different verbs. 4. You should be aware of some of the concepts used when talking about grammar of English, such as 'finite vs. non-finite,' 'to infinitives,' etc. 5. You should be aware of names of constructions and what they mean, such as simple, complex, compound sentences, etc.

3. Course Method (教育・学習の方法)

We will explain each of the above in class and you will do exercises or other forms of practice to see if you understand what has been explained. We will expect you to do the exercises in class and compare your answers with those of other students.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Make sure you read the chapter or section that will be covered before going to class. After class, make sure you understood all that had been gone over in class and go on to the readings for the next lesson.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined by your participation in class, the scores you receive in the exercises you do, and the scores of quizzes given in class.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 The following topics will be treated in the second semester, but not necessarily in the order given. Topics: 1. Simple, Compound, and Complex Sentences
第2回 Different Classes of Verbs
第3回 Psychological Verbs: 'interest,' 'worry,' 'amaze,' etc.
第4回 Types of Complements
第5回 Verbs Taking Questions
第6回 Finite Complements
第7回 Non-finite Complements
第8回 To-infinitive Complements
第9回 Different Types of Movements
第10回 Movement of Verbs
第11回 Movement of Noun Phrases
第12回 Movement of Wh-words
第13回 Movement of Adverbial Phrases and Clauses
第14回 Back to Basics: Word Order
第15回 Some Differences between English and Japanese

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20205702		
科目名	英文法ⅡB Your First Step to English Grammar!		
担当者	東郷 多津		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『総合英語 Forest Intensive English Grammar in 27 Lessons [6th edition]』 ピアソン桐原 2013 『総合英語 Forest Intensive English Grammar Training Book [6th edition]』 ピアソン桐原 2013		
参考文献	『FOREST 6th edition』 Kirihara Shoten 2013		
備考	「英文法Ⅰ」履修者であること		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to make you, the students, aware of the basic concepts of grammar, specifically English grammar. This is to help you in reading, writing, listening, and speaking classes. We expect you to be aware of the basic concepts of grammar, which are used in these English classes.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

What we expect you to be aware of after the course: (1) You should be aware that words belong to different parts of speech, such as nouns, verbs, adjectives, prepositions, etc. (2) You should be aware of the patterns the verbs take; e.g., intransitives, transitives, etc. (3) You should be aware that, for each verb, the form it takes when in the present and past tenses, or the form each take when put in different aspects; i.e., progressive and perfect aspects, or the form each take in different voices; i.e., active and passive voices. (4) You should be aware of some of the concepts used when talking about grammars of languages, such as subject, object, modification, etc. (5) You should be aware of names of constructions and what they mean, such as Relative Clauses, Yes-No questions, etc. (6) You should be aware of the different types of sentences, such as declarative, interrogative, and imperative sentences.

3. Course Method (教育・学習の方法)

We will explain each of the above in class and you will do exercises or other forms of practice to see if you understand what has been explained. We will expect you to do the exercises in class and compare your answers with those of other students.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Make sure you read the chapter or section of the book you will be using before going to class. After the class, make sure you understood the parts that were gone over in class and move on to the next lesson.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined by your participation in class, the scores you receive in the exercises you do(40%), and the scores of quizzes(60%) given in class.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 (The order and the topics of presentation may not coincide with the list below, but most of the topics listed will be covered in each class.) Chapter 13
第2回 Chapter 14
第3回 Chapter 15
第4回 Chapter 16
第5回 Chapter 17
第6回 Chapter 18
第7回 Review (Chap. 13-17)
第8回 Chapter 19
第9回 Chapter 20
第10回 Chapter 21
第11回 Chapter 22
第12回 Chapter 23
第13回 Chapter 24
第14回 Review (Chap.20-24)
第15回 Review and Wrap-up

6. Special Information (留意事項)

In this class you will review your proficiency in English grammar from the very beginning level.

講義コード	20505801			
科目名	翻訳論 (日英)			
担当者	新井 康友			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員30人			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to make you, the students, see the difference between writing and translating. When you write, you are directly putting words together to express your thoughts. In translating, you have someone else's work in front of you, which you must transfer into another language. In this course, the source language is Japanese and the translation or the resulting language is in English. Most of you, when composing a sentence in English, write first in Japanese and then put it into English word for word. However, this is transferring. In translation, not only do you replace an English word with a Japanese word, but you must also think of the whole message that the sentence expresses and translate that message, rather than replacing a sentence word for word. (It is sometimes very difficult to do so, so difficult that it has been proven that it is too difficult for a machine to do, as you may have learned in using some of the translation engines available on the internet.)

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

You will learn the intricacies of language by translating some texts. You will learn that translating is not replacing a sentence in Japanese into English word for word. The structures of the two languages may differ. There may be some idiomatic expression in the sentence that defy a simple word for word replacement. You may find something that is simply not expressed in the other language. All this is just a part of the many intricacies you will find in language.

3. Course Method (教育・学習の方法)

The best way to learn the skill of translation is to actually translate some texts. We will begin with a simple text, such as a newspaper article that we all read everyday. However, no text is simple. You will begin to find problems immediately. It will take some effort at the beginning, but will become easier, even automatic, as you go on translating. By experiencing many different kinds of texts (e.g., newspaper articles, business letters, essays, short stories, etc.), you will begin to feel a certain limitation in transferring a text in one language to another. When this happens, you will have mastered the art of translation.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

You will be asked to translate some text at home every lesson. In the beginning, it will take forever to complete even a simple short text. However, you will gradually get used to transferring texts from one language to another. It is at this point that translation begins. It is a skill as much as an art and as all skills, you must make yourself practice.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Evaluation will take the form of exercises you will be asked to do each week, which will constitute 60% of your grade (this includes attendance). The remaining 40% will be for the final project you will do. For the final project, you will select your own Japanese text (newspaper article, a part of a story, etc.) and translate it into English.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction to the course and course aims. Initial attempts at translation, and what we can learn from these for our later efforts.
- 第2回 Introducing different types of translation
- 第3回 Dynamic Equivalence
- 第4回 Sentence at a time
- 第5回 Watching out for Word Order
- 第6回 The Modifiers, where to put them
- 第7回 Complex Sentences and their translation
- 第8回 Tricky words

- 第9回 Reworking first drafts
- 第10回 Arriving at a polished translation
- 第11回 Translating longer passages I
- 第12回 Translating longer passages II
- 第13回 Translating longer passages III
- 第14回 Translating longer passages IV
- 第15回 Summary

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20541001			
科目名	コミュニケーション概論 Introduction to Communication			
担当者	Gregory Peterson			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	Introduction to Communication			
参考文献				
備考	クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course introduces the field of communication to non-native speakers of English. You will gain an understanding of communication processes, improve your communication skills, and learn to express your ideas more clearly.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Attitudes and values: You will appreciate the importance and complexity of communication. You will learn to express your own ideas and values while respecting the ideas and values of others. You will gain more confidence.

Knowledge and understanding: You will increase your understanding of basic communication principles and of various communication contexts.

Skills: You will improve your ability to write about communication in English. You will learn to set goals for yourself, and you will show improvement in at least one communication skill.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Class meetings: Lectures will be followed by time for comments and questions.

Homework: Each week you will write a report in English. Reports require creative thinking and personal reflection on material presented in the text.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. Review the text and lecture.
2. Prepare homework.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Participation (30%), homework (70%).

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 What is communication?
- 第2回 Human needs and communication skills
- 第3回 Changing your communication behavior
- 第4回 Socializing skills
- 第5回 Interpersonal relationships
- 第6回 Active listening
- 第7回 Nonverbal communication
- 第8回 Intercultural communication
- 第9回 Media history
- 第10回 Media in society
- 第11回 Advertising
- 第12回 News and journalism
- 第13回 Internet media production
- 第14回 Human rights and communication
- 第15回 Course review and evaluation

6. Special Information (留意事項)

See my Web pages for more information:
<http://www.notredame.ac.jp/~peterson/>

講義コード	20501201			
科目名	英米文学概論			
担当者	須川 いずみ			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『A Guide to Literary Study』 Leon T. Dickinson Naundo 2007年			
参考文献				
備考	クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

本コースは、英語英文学科の学生として最低限知っておくべき文学作品や文学用語を教えるクラスである。小説、劇、詩の三分野を紹介しながら、具体的に作品も鑑賞する。特に物語の構造を理解するために映画を使ったり、短編や、詩などは原文をじっくり読みこなす。また、その作者や時代・文化背景についても研究する。専門分野で文学を専攻する学生のみならず、他分野に進む学生にとっても意味あるように、文学自体の魅力を紹介するつもりである。

2. 教育・学習の個別課題

1. 英語講読の力をつける 2. 文学的基礎知識をつける 3. 学用語を理解し、使えるようにする 4. 個々の文学作品の鑑賞と分析

3. 教育・学習の方法

1. クラスで文学についての本を読む 2. 作品を鑑賞する 3. ビデオを観る場合もある 4. 作品について話合う 5. 小テストを受けて、採点する。 6. 課題をする。

・準備学習の具体的な方法

小テストをするので、教科書とプリントの復習が毎回必要である。小テストもあるので、その準備をする。またホームワークは必ず提出のこと。

4. 評価方法・評価基準

出席・クラスレスポンス(30%) 試験(50%) レポート・小クイズ(20%) 欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文学入門
- 第3回 小説について
- 第4回 性格描写
- 第5回 映画『バック・トゥ・ザ・フューチャー』を使って物語の組み立てを学ぶ
- 第6回 伏線
- 第7回 視点とナレーター論
- 第8回 劇について
- 第9回 『ロミオとジュリエット』を使って劇の登場人物と構成について学ぶ。
- 第10回 シェイクスピアとその時代
- 第11回 劇の文法
- 第12回 詩について
- 第13回 詩の文法
- 第14回 ソネットから現代詩まで
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	20503301			
科目名	詩の研究			
担当者	吉田 秀生			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Shakespeare's Sonnets』 川西 進編注 鶴見書店 『シェイクスピアのソネット集』 吉田秀生訳 南雲堂 2008年			
参考文献	『The Sonnets and A Lover's Complaint』 John Kerrigan (ed.) Penguin Books 1986 『The Sonnets (The New Cambridge Shakespeare)』 G. Blakemore Evans (ed.) Cambridge University Press 1996			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

イギリスの詩の形式のひとつに、ソネットという十四行詩がある。この詩形は、14世紀のイタリアに始まり、16世紀にイギリスに取り入れられた。それ以来、多くのソネットが書かれてきたが、中でも、もっとも有名なものが、シェイクスピアのソネット集である。この講義の目標は、ソネット集を読み、シェイクスピアの思想の一端に触れることにある。

2. 教育・学習の個別課題

- 1. シェイクスピアのソネット形式とシェイクスピアの英語に慣れる
- 2. ソネット集が提示する問題点について考える
- 3. ソネット集で展開されるテーマについて考える

3. 教育・学習の方法

Shakespeare's Sonnets 川西 進編注、鶴見書店をテキストとして使用する。他に参考書としては、John Kerrigan (ed.), The Sonnets and A Lover's Complaint (Penguin Books), G. Blakemore Evans (ed.), The Sonnets (The New Cambridge Shakespeare) がある。

・準備学習の具体的な方法

次回の授業で扱う作品を事前に読んでおく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度とまとめのテストによって行う。

5. 授業予定

- 第1回 Introduction
- 第2回 ソネット集講読 Sonnets 1-5
- 第3回 Sonnets 6-10
- 第4回 Sonnets 11-15
- 第5回 Sonnets 16-20
- 第6回 Sonnets 127-131
- 第7回 Sonnets 132-136
- 第8回 Sonnets 137-141
- 第9回 Sonnets 142-146
- 第10回 Sonnets 147-151
- 第11回 Sonnets 152-154
- 第12回 Sonnets 21-126 における偉大なソネット
- 第13回 Sonnets 21-126 における偉大なソネット
- 第14回 Sonnets 21-126 における偉大なソネット
- 第15回 まとめとテスト

6. 留意事項

必ず2/3以上出席すること

講義コード	20503601			
科目名	エッセイの研究			
担当者	吉野 啓子			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	担当者のオリジナルプリントを使用する。			
参考文献				
備考	定員50人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

英米文学において、小説、詩、劇と並んで、ひとつの文学形式を持つ随筆への理解を深める。

2. 教育・学習の個別課題

1) 他のジャンルと比較しながら、随筆という文学形式の特質を理解する。 2) 英米と日本の随筆の相違や、それぞれの民族の発想や観点の相違なども理解する。 3) 其々の作品を分析し、技法や主題を理解する。そして、自らの言語表現や文章技法などを高める。

3. 教育・学習の方法

1) 個々の作品を精読し、構造や特質などの基本的な内容を理解する。 2) 同じような方法で、代表的な作品を精読し、観賞、分析しながら理解を深め、制限時間内で自分の考えをまとめる練習も試みる。

・準備学習の具体的な方法

多方面の分野に対して興味を持ち、読むことを心掛ける。予め渡された教材などに関しては、下調べをしておく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加度 (30%)、小テスト、提出物等 (40%)、学期末試験 (30%) に基づいて総合的に行なう。欠席や遅刻は減点対象となる。欠席回数が3/1を超過した場合は、単位を認めない。

5. 授業予定

- 第1回 授業の進め方やコースの説明
- 第2回 随筆に関する序説
- 第3回 文化に関するエッセイ
- 第4回 文化に関するエッセイ
- 第5回 文化に関するエッセイ
- 第6回 文化に関するエッセイ
- 第7回 社会に関するエッセイ
- 第8回 社会に関するエッセイ
- 第9回 社会に関するエッセイ
- 第10回 歴史に関するエッセイ
- 第11回 歴史に関するエッセイ
- 第12回 歴史に関するエッセイ
- 第13回 世界情勢に関するエッセイ
- 第14回 世界情勢に関するエッセイ
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

1) 英語力を高める目的から、受講生は各自の予習を必要条件とする。 2) 提出物等の期限は、厳守のこと。 3) 特別な理由の無い限り、遅刻や欠席は認めない。

講義コード	20503901		
科目名	劇の研究		
担当者	吉田 秀生		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	『マクベス』 今西雅章編注 大修館書店 1987		
参考文献	『Macbeth』 Kenneth Muir (ed.) Methuen 1964 『Macbeth』 A. R. Braunmuller (ed.) Cambridge University Press 1997		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

シェイクスピアは様々なジャンルの戯曲を書いているが、この講義では『マクベス』を取り上げる。『マクベス』はいわゆる四大悲劇のひとつである。シェイクスピア研究の原点は、具体的な作品を読むことにある。『マクベス』を読み終えて、執筆年代の決定、材源との関係、その他いくつかのアプローチについて触れる。

2. 教育・学習の個別課題

- 1. シェイクスピアの英語に慣れる
- 2. 『マクベス』を戯曲として楽しみ、その面白さを発見する
- 3. 『マクベス』に展開されるテーマについて考察を深める

3. 教育・学習の方法

今西雅章 編注『マクベス』(大修館書店、1987年)(大修館シェイクスピア双書)をテキストとして使用する。他に、以下のテキストの序文と注は有益である。 Kenneth Muir (ed.), Macbeth (London: Methuen, 1964) (The Arden Shakespeare) A. R. Braunmuller (ed.), Macbeth (Cambridge: Cambridge University Press, 1997) (The New

Cambridge Shakespeare)

・準備学習の具体的な方法

次回の授業で扱う部分を事前に読んでおく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度とまとめのテストによって行う。

5. 授業予定

- 第1回 Introduction
- 第2回 Macbeth 講読 I.1, I.2
- 第3回 I.3
- 第4回 I.4, I.5
- 第5回 I.6, I.7
- 第6回 II.1, II.2
- 第7回 II.3
- 第8回 II.4, III.1
- 第9回 III.1-3
- 第10回 III.4
- 第11回 III.6
- 第12回 III.6, IV.1
- 第13回 V.1-3
- 第14回 V.4-9
- 第15回 まとめとテスト

6. 留意事項

必ず2/3以上出席すること。

講義コード	20504901		
科目名	映画論 女性映画		
担当者	須川 いずみ		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	プリント		
参考文献	『The Desire to Desire』 Mary Ann Doane Indiana Univ. Press 1987年 『フェミニスト映画/性幻想と映像表現』 E. アン・カプラン 田畑書店 1985年 『フィルム・ノワールの光と影』 編集: 遠山純生 エクスクアアイ・マガジン 1999年 『A Feminist Reader in Early Cinema』 Ed. J. Bean & D. Negra Duke Univ. Press 2002年		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

まだ誕生して100年そこそこのメディアである映画をフェミニズムの視点で読みこなししてみようと思う。もともと映画は男性の規範だけで書き込まれた言説の一つであったわけだが、第2次世界大戦のときに期待できる観客が女性しかいなくなってしまう、女性が主役である「女性映画」というものが誕生することになる。かくして『風と共に去りぬ』の誕生である。「女性映画」を中心に映画とはどういうメディアなのかをしっかりと学ぶコースである。

2. 教育・学習の個別課題

- 1. 近代史と映画という文化の理解
- 2. 映画というメディアの把握
- 3. 女性映画誕生の背景の理解
- 4. フェミニズム批評研究

3. 教育・学習の方法

- 1. 映画観賞のあと講義形式をとる。
- 2. 積極的授業の参加を求める。
- 3. レポート、試験あり。

・準備学習の具体的な方法

観た映画の情報を整理することと、レポート提出のために準備が必要である。

4. 評価方法・評価基準

評価は、クラス出席レスポンス (30%)、試験 (50%)、レポート (20%)、授業総日数の2/3以上出席しなければ、評価しない。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 映画の歴史
- 第3回 映画の中の女性像
- 第4回 初期映画
- 第5回 チャップリン映画と女性
- 第6回 第二次世界大戦と映画

- 第7回 『ステラ・ダラス』と母子もの映画
- 第8回 『ギルダ』とフィルム・ノワールの悪女
- 第9回 『レベッカ』と悪夢のシンデレラ物語
- 第10回 『忘れじの面影』典型的メロドラマ
- 第11回 『風と共に去りぬ』と南北戦争
- 第12回 聖女とファムファタール
- 第13回 女性映画と女の現実
- 第14回 フェミニズム批評と映画
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	20505201			
科目名	日米比較文化（外国事情を含む） 文化、メディア、社会に見る日本とアメリカ			
担当者	隅井 孝雄			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英][日]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『アメリカの20世紀上』 有賀夏紀 中公新書 2002 『アメリカの20世紀下』 有賀夏紀 中公新書 2002 『アリスティア・クックのアメリカ史』 アリスティア・クック NHKブックス 1994 『アメリカ文化のヒーローたち』 本間長世 新潮選書 1991			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

日本とアメリカの現代社会を比較しながら、その文化がどのような特徴を持っているのか、どのような共通点や違いを持っているのかを学びます。21世紀に入ってテレビやインターネットなど新しいメディア社会の中で日本やアメリカの文化はグローバルな広がりを見せています。したがってこの授業では国際的な視点からメディア文化と社会のかかわりについてあわせて学習します。

2. 教育・学習の個別課題

1) デジタル時代の中での文化の新しい展開 2) 大衆文化、大衆娯楽の日米比較 3) 日米の若者文化の現状 4) グローバル化の進展と文化 5) メディア社会の日米の現状と問題、そして未来 などについて具体例を学習しながら日本文化とアメリカ文化について豊富で多角的な知識を身につけます。

3. 教育・学習の方法

関連する映像を見ながら日米文化の現在についての理解を深めます。レジュメを配布し、さまざまな事象のバックグラウンドを解説します。授業内で意見発表、討論を行います。学んだことを毎回簡潔に文章にまとめます。

・準備学習の具体的な方法

1. 授業ごとのタイトルに含まれるキーワードについて事前に調べる、2. 興味をもてるタイトルを選んでくわしく調べて見る、3. 隅井のホームページにある次週の講義レジュメ、関連した講義のレジュメ、解説を参考に読む、4. 新聞、雑誌、テレビなどでアメリカ文化に関するニュースに触れるよう心がけましょう。興味のある事柄については、ノートに書き留めましょう。

4. 評価方法・評価基準

出席を重視します。学期の終わりにレポートを提出してもらいます。試験を実施します。

5. 授業予定

- 第1回 ミュージカルの世界、ブロードウェイ
- 第2回 ミュージカルの世界、日本の場合（劇団四季、宝塚歌劇など）
- 第3回 遂にやってきたデジタルテレビと電子出版の時代
- 第4回 進化するケイタイコミュニケーション社会の行方
- 第5回 テレビとインターネットの融合を考える
- 第6回 世界を席巻するマクドナルド
- 第7回 ディズニーが描く世界
- 第8回 日本のアニメが世界を駆ける
- 第9回 スヌーピーとチャーリーブラウンの世界、もう一つのアメリカ
- 第10回 ハリウッドの中の日本
- 第11回 セレブが救う地球、アメリカ編
- 第12回 セレブが救う地球、日本編
- 第13回 融合、即興、ジャズの誕生
- 第14回 ジャズ イン アメリカ
- 第15回 まとめと復習

6. 留意事項

授業のレジュメ、資料は隅井孝雄のホームページの中の京都ノートルダム女子大学講義レジュメの項に掲載されています。ホームページは「隅井孝雄」で検索すると表示されます。

講義コード	20505501			
科目名	翻訳論（英日） より自然な日本語への翻訳のために			
担当者	山内 信幸			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員 50人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

このクラスでは、できるだけ多様なジャンルの英文を対象に、いかに「正しい」日本語から「自然な」日本語に翻訳できるかを研究することを目指します。そのためには、英文構造の正確な把握はいうまでもなく、英語から日本語への過不足のない「移し変え」は、単なる訳読のレベルにとどまらず、語彙の重層的な理解や文化的背景の複合的理解をとらえることを確認します。

2. 教育・学習の個別課題

1. 英語と日本語の表現構造の特質を理解すること。
2. 翻訳対象である英語の正確な語学的理解を向上させること。
3. 日本語表現力の精度を高めるため、日本語の感性を涵養すること。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法
授業では、まず、英語と日本語の表現構造の相違について概説的な解説を与え、次に、数行からなる少し複雑な文構造をもつ英文を基にして、その正確な語学的理解を目指します。その際には、英英辞典の活用などによって、語彙の徹底的な吟味など、できるだけこなれた日本語となるよう実践的な演習をおこないます。さらに、できるだけ多様なジャンルからの英文を素材とし、翻訳の実践を試みることにします。

2. 学習方法

この授業では、受講生の積極的な参加が前提となりますので、課題については毎回徹底的な準備を求めます。また、日本語への内省もふくめ、翻訳という作業の「厳しさ」を実感してもらうことになるでしょうが、「授業は楽しく」をモットーとしています。皆さんの期待は裏切らないつもりです。

・準備学習の具体的な方法

与えられた課題のうち、指示された分について、辞書や文法書を参考にし、訳読を必ず準備して、授業に出席することを求めます。その際、訳読を読みなおして、日本語として十分意味が通るものとなっているかを必ずチェックして下さい。

4. 評価方法・評価基準

評価は、平常点（出席・授業参加：20%）、課題（毎回提出分：30%）、確認テスト（50%）を総合して判断します。

なお、1回欠席すれば3点、1回遅刻すれば1点を最終評価から減じることになります。また、4回以上の欠席は単位取得資格を失うこととなりますので、注意してください。

5. 授業予定

- 第1回 序論
- 第2回 英語と日本語の表現構造の特質
- 第3回 翻訳のための基礎知識
- 第4回 正しい英文理解から自然な日本語表現へ
- 第5回 基礎的演習1
- 第6回 基礎的演習2
- 第7回 応用的演習1
- 第8回 応用的演習2
- 第9回 応用的演習3
- 第10回 翻訳の実践的演習1
- 第11回 翻訳の実践的演習2
- 第12回 翻訳の実践的演習3
- 第13回 翻訳の実践的演習4
- 第14回 翻訳の実践的演習5
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	20508001			
科目名	文学ワークショップ 自分史を英語で書こう			
担当者	小林 順			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『The Adventures of Sherlock Holmes』 Arthur Conan Doyle Penguin Books			
参考文献	『文章読本』 谷崎潤一郎 中央公論社			
備考	定員35人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20508801			
科目名	児童文学			
担当者	吉野 啓子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[子]			
前提科目				
テキスト	『日本昔ばなし 2』 講談社英語文庫 『The Tale of Peter Rabbit』 Frederick Warne			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「読む」こととして「書く」こと、その関係を考えてみましょう。読むこと自体はごく普通のいとなみです。でも、小説を読むことはどうでしょう。かならずしも日常的ではないかもしれませんが。ましてや小説を書くとなると、ほとんど非日常的の絵空事かもしれません。ところが、実際には、まるで逆なのです。きわめて日常的ないとなみなのです。毎日の生活のなかに「書く」といういとなみがぎざぎざしている、そのことに目を向けましょう。そして、小説を書きましょう。

2. 教育・学習の個別課題

「読む」練習からはじめます。イギリスの短編小説を読みましょ。シャーロック・ホームズをとりあげます。自分の英語力と日本語力のすべてを使って読解をこころみましょ。つぎに、実際に「書く」ことにチャレンジです。粗筋（プロット）からはじめて、つぎに全体を仕上げましょ。自分史のできあがりとなります。プロの物書きの出現がたのみです。

3. 教育・学習の方法

テキストの読解を出発点と考えています。シノプシスの作成をおこない、つづいて、全体を仕上げるといふプロセスを考えています。いうまでもなく、ウェブ上に多彩な情報の利用にもとりくみましょ。クラスでは、ノート・パソコンや手のひらサイズのマシンをもちこみ、あるいはつねに携帯しているモバイル・フォンで、アクセスという場面もあるかもしれましょ。

・準備学習の具体的な方法

毎週、「自分史」を書きつづり、その週の分を送信する。このようにして、連載的継続を試みる。

4. 評価方法・評価基準

評点は100。その内訳は、期末試験＝小説執筆が60点。小テスト20点。出席およびクラスでの勉強態度に20点。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション：テキスト、関連資料の探索・収集法、ノート作成法、など。
- 第2回 テキストの通読：テキスト、1章の読解。
- 第3回 テキストの通読：テキスト、1章の研究。小説としての特徴の分析。
- 第4回 「書く」テーマ：テーマの特定。
- 第5回 粗筋を「書く」1：「書く」べきトピックの特定。
- 第6回 粗筋を「書く」2：「粗筋」の相互批評。
- 第7回 テキストの通読および解説：小説的要素の分析。
- 第8回 小説を「書く」1：「草稿」第一段階
- 第9回 小説を「書く」2：「草稿」第二段階
- 第10回 小説を「書く」3：「完成稿」
- 第11回 「自作」を「読む」1：「自作」の配布および紹介。
- 第12回 「自作」を「読む」2：「自作」の相互批評。
- 第13回 「読む」と「書く」の関係を探る1：「テキスト」と「自作」の比較。
- 第14回 「読む」と「書く」の関係を探る2：「自作」評価。ベスト・ストーリーの選定。
- 第15回 テスト：テキスト

6. 留意事項

提出物、連載「自分史」は、英語で執筆。クラスでは、英語散文の絶頂に立つコナン・ドイルの作品を読み、できるかぎり模倣を試みる。そのため、予習には十分な時間を割くこと。

1. 科目の教育目標

人は知的、身体的に成長する。その成長過程に子供には子供の、青年期には青年期の、そして成人には成人の世界があり、其々の文化と出会う。「三つ子の魂百まで」というが、子供の世界における文化は誰もが一生涯持ち続けるようである。それは、昔話や伝承文学などは子供向けに書かれた文学ではあるが、決して子供だけの読み物ではなく、人間全ての心をも捉えるからである。その心のふるさとである児童文学を通して、将来は人の子の母となるだろう学生に、何らかの糧となればと思うのである。

2. 教育・学習の個別課題

1. 自由で創造力や、想像力の旺盛な子供の世界を知る。 2. 人為的環境で育ち、遊ぶ空間がなく、テレビやパソコンの仮想現実さらさらされている現代の多くの子供が持つ問題を考える。 3. 人間性の回復、潤いのある人生を送るのに必要な心の教育とは何かを考える。

3. 教育・学習の方法

1. 西欧の児童文学を読む 2. 日本の児童文学を読む 3. それぞれの作品についての特徴や比較等を学ぶ

・準備学習の具体的な方法

辞書を引いて、作品全体を把握する。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加度（30%）、小テストや提出物等（40%）、学期末テスト（30%）に基づいて総合的に行う。欠席や遅刻は減点対象となる。欠席回数が超過した場合は、原則として単位を認めない。

5. 授業予定

- 第1回 児童文学について
- 第2回 日本の児童文学概要
- 第3回 世界の児童文学概要
- 第4回 日本の児童文学から
- 第5回 日本の児童文学から
- 第6回 日本の児童文学から
- 第7回 日本の児童文学から
- 第8回 日本の児童文学から
- 第9回 欧米の主な児童文学について
- 第10回 英・米を中心にした諸外国の児童文学、"Peter Rabbit"等
- 第11回 英・米を中心にした諸外国の児童文学、"Peter Rabbit"等
- 第12回 英・米を中心にした諸外国の児童文学、"Peter Rabbit"等
- 第13回 英・米を中心にした諸外国の児童文学、"Peter Rabbit"等
- 第14回 英・米を中心にした諸外国の児童文学、"Peter Rabbit"等
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

1. 英語力を高める目的から、受講生は予習を必要条件とする。 2. 提出物の期限は厳守する。 3. 特別な理由がない限り、遅刻や欠席は認めない。 4. 2/3以上の出席を必要とする。

講義コード	20509001			
科目名	メディアと文学 筆記用具の歴史を紐解こう			
担当者	小林 順			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『筆記用具のイギリス文学』 晃洋書房			
参考文献	適宜オンライン情報・データに言及。			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

英米文学（文学一般）に共通の一要素は「メディア」（媒体）です。作品（情報）を読者に伝えるための伝達技術の問題です。この歴一作品と読者をつなぐメディアの歴史をふりかえりその跡をたどります。高度な情報伝達の時代、すなわち 20 世紀末から 21 世紀初頭という歴史的にはきわめて特殊な時代性の認識が前提ともいえます。

2. 教育・学習の個別課題

まず文字を媒体としない「口伝」というメディアをとりあげます。つづいてパピルスや皮紙に記した手書きの時代、それにつづく活版印刷の時代、印刷物大量生産の時代、そして電子メディアの現代へとつらなる「メディアと文学」の歴史の概観をおこないます。

3. 教育・学習の方法

テキストを読むことを出発点と考えています。くわえて、ウェブ上に多彩な情報の利用にもとりくみましょう。クラスにノート・パソコンや手のひらサイズのマシンをもちこみ、あるいは携帯電話を用いてアクセスという場面もあるかもしれません。

・準備学習の具体的な方法

テキストの熟読。オンライン情報・データの調査。

4. 評価方法・評価基準

評点は 100。その内訳は、期末試験が 60 点。小テスト 20 点。出席およびクラスでの勉学態度に 20 点。

5. 授業予定

- 第 1 回 イントロダクション：テキスト、関連資料の探索・収集法、ノート作成法、など。
- 第 2 回 テキストの通観：採用テキスト、3 章から 5 章までの内容の紹介
- 第 3 回 テキストの通読：テキスト、3 章の解説
- 第 4 回 テキストの通読：テキスト、4 章の解説
- 第 5 回 テキストの通読：テキスト、5 章の解説
- 第 6 回 筆記用具の歴史、概観
- 第 7 回 筆記用具関連資料の探索 ウェブ上の資料を検索・収集
- 第 8 回 特定作家（17 世紀）と筆記用具
- 第 9 回 特定作家（18 世紀）と筆記用具
- 第 10 回 特定作家（19 世紀）と筆記用具
- 第 11 回 特定作品（17 世紀）の創作を支えた筆記用具
- 第 12 回 特定作品（17 世紀）の創作を支えた筆記用具
- 第 13 回 特定作品（18 世紀）の創作を支えた筆記用具
- 第 14 回 特定作品（19 世紀）の創作を支えた筆記用具
- 第 15 回 まとめ。羽ペン、付けペン、万年筆、タイプライター、PC キーボード、さらにクラウド・コンピューティングへの展開を展望。

6. 留意事項

筆記用具の歴史を調査する。その際、テキストにとどまらず、オンライン情報・データの調査に挑んでほしい。また、オンライン状態における研究という動向を体得して、今後の急速な変転に備えてほしい。レポート発表はオンラインに調査・収集した成果を貯え、それをオンライン状態で取り出し履歴というシステムを体験・習得してほしい。

講義コード	20509801			
科目名	カルチュラル・ステイーズ ワークショップ 英語圏文化実践講座			
担当者	須川 いずみ			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント			
参考文献				
備考	定員 30 人			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

英語圏の文化を深く理解するために、実践的に文化に触れることを目的とする。今まで知識だけで知っていた英語圏の文化を幅広く実践を交えて学ぶことで、国際人としての視野と教養を身につけられるようにする。

2. 教育・学習の個別課題

・英語圏の国や歴史を理解する ・それぞれの文化を学習する ・文化を体験する

1. 授業方法 (1) 講義だけでなく実習が伴う授業である (2) そのジャンルの講師を招いて授業をする場合がある (3) 実費が必要である (5,000 円程度)

2. 学習方法 (1) 予め与えられた英語の資料をきちんと読んでくる (2) 実践学習の準備が必要 (3) 実践学習には積極的に参加することが必須 (4) 理解できないときは、必ず質問すること

3. テキスト・文献等 (1) テキスト：プリント

3. 教育・学習の方法

- 1. 出席が不可欠
- 2. 実習の内容によって実費
- 3. 学生の反応によって授業の内容を多少変更する場合がある
- 4. 抽選の授業なので出席意志が確定している人だけ登録すること。

・準備学習の具体的な方法

英語の文章を読む場合、前もって読んでこななければならない。授業のテーマによって材料の準備が必要である。

4. 評価方法・評価基準

クラスレスポンス (30%)、レポート (20%)、試験 (50%)

5. 授業予定

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 英国を英語で言うと？
- 第 3 回 英国という国、スコットランド、ウエールズ、アイルランドを含めて
- 第 4 回 イギリスの歴史（先史時代から）
- 第 5 回 イギリスの歴史（アングロサクソン侵略）
- 第 6 回 イギリスの歴史（15 世紀）
- 第 7 回 イギリスの歴史（16 世紀）
- 第 8 回 イギリスの歴史（近代）
- 第 9 回 英国人の暮らし
- 第 10 回 ブックカバーもしくはカルトナージュ
- 第 11 回 クリスマスのフラワーアレンジメント
- 第 12 回 ステンドグラスをつくってみる
- 第 13 回 英語のレセビーを読む
- 第 14 回 イギリスのお茶をする。紅茶の入れ方とサンドイッチ
- 第 15 回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	20510101			
科目名	フェミニズム文化論			
担当者	吉野 啓子			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト	『いじめからあなたの笑顔を取り戻したい』 吉野 啓子 浪速社 2011年 担当者のオリジナル教材			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

英米文学を読みながら、女性の登場人物に焦点をあて、女性が直面する問題を考える。そして作品の世界と現実世界を照らし合わせながら、女性の人生や社会への認識を深めることを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 原文を精読する。(読解力が必要)
2. 作者や時代背景の理解を深めるために、副読本や参考文献も読む。
3. 女性の登場人物に焦点を当て、さまざまな角度から検討する。レポート提出なども課す。

3. 教育・学習の方法

作品を翻訳しながら内容を把握していく。そして作品にみられる女性の諸問題を取り上げる。時代背景、作品と作者なども理解する。各自の考えをまとめたり、討論しながらさらに認識をひろめる。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度 (30%) 小テストや提出物等 (40%)、確認テスト (30%) に基づいて総合的に行う。欠席・遅刻は減点対象となる。欠席回数が 1/3 を超過した場合は、原則として単位を認めない。

5. 授業予定

- 第1回 授業の進め方やコースの説明
- 第2回 「フェミニズムとは」の説明
- 第3回 19世紀の女性作家の作品を読み、フェミニズムに関する諸問題を考え、課題ごとに討論し、レポートなどの提出も課す。
- 第4回 19世紀の女性作家の作品を読み、フェミニズムに関する諸問題を考え、課題ごとに討論し、レポートなどの提出も課す。
- 第5回 19世紀の女性作家の作品を読み、フェミニズムに関する諸問題を考え、課題ごとに討論し、レポートなどの提出も課す。
- 第6回 19世紀の女性作家の作品を読み、フェミニズムに関する諸問題を考え、課題ごとに討論し、レポートなどの提出も課す。
- 第7回 19世紀の女性作家の作品を読み、フェミニズムに関する諸問題を考え、課題ごとに討論し、レポートなどの提出も課す。
- 第8回 19世紀の女性作家の作品を読み、フェミニズムに関する諸問題を考え、課題ごとに討論し、レポートなどの提出も課す。
- 第9回 19世紀C・20Cの女性作家の作品を読み、フェミニズムに関する諸問題を考え、課題ごとに討論し、レポートなどの提出も課す。
- 第10回 20世紀の女性作家の作品を読み、フェミニズムに関する諸問題を考え、課題ごとに討論し、レポートなどの提出も課す。
- 第11回 20世紀の女性作家の作品を読み、フェミニズムに関する諸問題を考え、課題ごとに討論し、レポートなどの提出も課す。
- 第12回 20世紀の女性作家の作品を読み、フェミニズムに関する諸問題を考え、課題ごとに討論し、レポートなどの提出も課す。
- 第13回 20世紀の女性作家の作品を読み、フェミニズムに関する諸問題を考え、課題ごとに討論し、レポートなどの提出も課す。
- 第14回 20世紀の女性作家の作品を読み、フェミニズムに関する諸問題を考え、課題ごとに討論し、レポートなどの提出も課す。
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

1. 自分の英語力を高める目的から、受講生は各自の予習を必要条件とする。
2. 成人女性としての自覚や、将来のしっかりした展望のある3年次生以上が望ましい。
3. 提出物等の期限は、厳守のこと。
4. 特別な理由の無い限り、遅刻・欠席は認められない。

講義コード	20510801			
科目名	カルチュラル・スタディーズ イギリスに学ぼう			
担当者	小林 順			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『イギリスの豊かな生活の知恵』 出口 保夫 ランダムハウス講談社文庫 て1-8			
参考文献	『日本とイギリス—日英交流の400年』 宮永孝 山川出版 『756 日英同盟—同盟の選択と国家の盛衰』 佐久間 康夫編著 PHP 新書 『概説イギリス文化史』 中野葉子編著、太田雅孝編著 ミネルヴァ書房			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

イギリスの文化に親しむためのクラスです。いくつかのトピックを取りあげ、ネット上に情報・データを渉猟し、あるいは図書情報に当たり、さらに現地へ飛び実地に学び、ブリティッシュ島の現在を過去をひも解くクラスです。

2. 教育・学習の個別課題

イギリスを学ぶコースです。英語の情報・データを、なにより、読み解くことが最重要です。読み解いた内容をまとめて使いやすい情報の単位をこしらえます。道具は？あるいは筆記用具は？パソコン、インターネット・アクセス、デジタル・プレゼンテーション、などなど、それらを使って成果を表しましょう。

3. 教育・学習の方法

パソコンとインターネットを使い、課題の調査と成果を表す準備が必要。英文読解のための道具類 (オンライン辞書など) の活用、オンライン指導、どこでも指導を受けられる環境など、クラスの課題にとりくむ環境をととのえたい。

・準備学習の具体的な方法

テキストの下調べ。クラスで指摘する課題の下調べ。

4. 評価方法・評価基準

評点は100。その内訳は、期末試験が60点。小テスト20点。出席およびクラスでの勉学態度に20点。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション：テキスト、関連資料の探索・収集法、ノート作成法、など。
- 第2回 テキストの通観
- 第3回 テキストの通読
- 第4回 テキストの通読
- 第5回 テキストの通読
- 第6回 課題1-5の紹介
- 第7回 課題1 (王室) の解題
- 第8回 課題2 (Fox Hunting)の解題
- 第9回 課題3 (土地制度)の解題
- 第10回 課題4 (Land Rover と Jaguar)の解題
- 第11回 課題5 (London) の解題
- 第12回 学生発表 クラスで提示する課題に関する発表。
- 第13回 学生発表 クラスで提示する課題に関する発表。
- 第14回 学生発表 クラスで提示する課題に関する発表。
- 第15回 まとめ (一言であらわすイギリス)

6. 留意事項

テキスト同様にオンライン情報を活用。自習には通信機器を活用すること。オンライン出席を希望する場合、担当者に事前に相談すること。

講義コード	20510901		
科目名	個別文学・文化研究Ⅰ		
担当者			
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

個別研究は、当該の領域の主たる科目を履修した学生が、さらに発展的な学習を進めるための科目である。個別研究を指導する学生は、①特定の研究課題を設定し、②研究計画を立て、③担当教員の指導のもとで自主的に研究を行う。原則として卒業研究と同じテーマを選ぶことは出来ないが、卒業研究の指導教員および個別研究の担当教員両方が適切かつ有益と認められた場合には、卒業研究に関連するトピックについて個別研究を行うことも可能である。

2. 教育・学習の個別課題

1. アクティブラーナーとして学習目標を定められる。
2. 学習計画が作成できる。
3. 個別課題を遂行できる。
4. 指導教員の指導をうける。
5. 期日までに指導教員に課題提出ができる。

3. 教育・学習の方法

履修登録について

条件

個別研究を履修するためには、原則として担当教員が教授する専門科目を少なくとも一科目以上履修していなければならない。

手続き

履修を希望する学生は、研究計画書を担当教員に提出し、担当教員および学科長の承認を得なければならない。研究計画書様式は教務学事課で入手すること（ただし、担当教員が別個の研究計画書の作成を指示する場合にはその様式に従うこと）。

履修期間と登録について

個別研究は、各年度の前期・後期にそれぞれ集中で開講され、原則として通常の履修登録期間内に上記のプロセスを経て登録することが必要である。

ただし、研究内容によって、長期休暇（夏休み・春休み）を利用して研究を進めることが適切であると判断される場合には、担当教員および学科長の承認を得ることによって、履修登録前に研究を開始することも可能である。この場合、夏休みを利用した研究に関してはその夏休み後の秋学期、春休みを利用した研究に関してはその春休み後の春学期に履修登録を行い、成績はそれぞれの学期末に通知される。

詳しくは英語英文学科に問い合わせること。

・準備学習の具体的な方法

1. 前もって提示している課題を読んでくる。
2. 英語の語彙学習
3. 文章の理解と要約

4. 評価方法・評価基準

1. 課題達成度30%、指導時の学習姿勢30%、クイズ10%、レポートもしくは試験30%

5. 留意事項

指導教員によって多少変更がある。

講義コード	20511001		
科目名	個別文学・文化研究Ⅱ		
担当者			
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

個別研究は、当該の領域の主たる科目を履修した学生が、さらに発展的な学習を進めるための科目である。個別研究を指導する学生は、①特定の研究課題を設定し、②研究計画を立て、③担当教員の指導のもとで自主的に研究を行う。原則として卒業研究と同じテーマを選ぶことは出来ないが、卒業研究の指導教員および個別研究の担当教員両方が適切かつ有益と認められた場合には、卒業研究に関連するトピックについて個別研究を行うことも可能である。

2. 教育・学習の個別課題

1. アクティブラーナーとして学習目標を定められる。
2. 学習計画が作成できる。
3. 個別課題を遂行できる。
4. 指導教員の指導をうける。
5. 期日までに指導教員に課題提出ができる。

3. 教育・学習の方法

履修登録について

条件

個別研究を履修するためには、原則として担当教員が教授する専門科目を少なくとも一科目以上履修していなければならない。

手続き

履修を希望する学生は、研究計画書を担当教員に提出し、担当教員および学科長の承認を得なければならない。研究計画書様式は教務学事課で入手すること（ただし、担当教員が別個の研究計画書の作成を指示する場合にはその様式に従うこと）。

履修期間と登録について

個別研究は、各年度の前期・後期にそれぞれ集中で開講され、原則として通常の履修登録期間内に上記のプロセスを経て登録することが必要である。

ただし、研究内容によって、長期休暇（夏休み・春休み）を利用して研究を進めることが適切であると判断される場合には、担当教員および学科長の承認を得ることによって、履修登録前に研究を開始することも可能である。この場合、夏休みを利用した研究に関してはその夏休み後の秋学期、春休みを利用した研究に関してはその春休み後の春学期に履修登録を行い、成績はそれぞれの学期末に通知される。

詳しくは英語英文学科に問い合わせること。

・準備学習の具体的な方法

1. 前もって提示している課題を読んでくる。
2. 英語の語彙学習
3. 文章の理解と要約

4. 評価方法・評価基準

1. 課題達成度30%、指導時の学習姿勢30%、クイズ10%、レポートもしくは試験30%

5. 留意事項

授業内容に変更が入ることがある。

講義コード	20512001			
科目名	英文学の歴史Ⅰ 国際的教養の源泉			
担当者	小林 順			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『初めて学ぶイギリス文学』 ミネルヴァ書店			
参考文献				
備考				
科目読替	英米文学の歴史（近世の文学） ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

英文学の歴史にかんする知識は、国際人に必須の素養といえます。国文学の素養が知性を支えるいわばバックボーンとすれば、それに加えるべきグローバルな素養の柱が英文学といえます。その意味で、このクラスでは主に近世イギリス文学の歴史を紐解いて、国際人の素養を身につけることにしましょう。

2. 教育・学習の個別課題

大急ぎで古英語の時代と中英語の時代そして 17 世紀後半から 18 世紀のイギリス文学の概観をこころみます。そのためのキーワードとして「メディア」を選びます。具体的には、作家が用いた筆記用具であり、同時に出版という新たな産業の誕生となります。作家がどのような道具で執筆をおこなったような経路を経て作品を出版したのかというテーマを巡って近世までのイギリス文学史の概観を行います。

3. 教育・学習の方法

テキストを読むことを出発点と考えています。くわえて、ウェブ上に多彩な情報の利用にもとりくみましょう。クラスにノート・パソコンや携帯電話＝新種の情報端末をもちこみ、アクセスという場面もあるかもしれません。

・準備学習の具体的な方法

クラスでとりあげる作品の下調べ。クラスで指摘する課題の下調べ。

4. 評価方法・評価基準

評点は 100。その内訳は、期末試験が 60 点。小テスト 20 点。出席およびクラスでの勉強態度に 20 点。

5. 授業予定

- 第 1 回 イントロダクション テキスト、関連資料の探索・収集法、ノート作成法、など。
- 第 2 回 テキストの通読 イギリス文学の通観
- 第 3 回 テキストの通読 テキスト、4 章の解説、17 世紀後半
- 第 4 回 テキストの通読 テキスト、5 章の解説、18 世紀前半
- 第 5 回 テキストの通読 テキスト、5 章の解説、18 世紀後半
- 第 6 回 ウェブ・データの利用 18 世紀探索
- 第 7 回 ウェブ・データの利用 18 世紀探索
- 第 8 回 ウェブ・データの利用 17 世紀後半、社会背景の調査 1
- 第 9 回 ウェブ・データの利用 18 世紀前半、社会背景の調査 2
- 第 10 回 研究テーマの特定 1 学期末レポートのテーマを考える
- 第 11 回 研究テーマの特定 2 学期末レポートのテーマ、発表
- 第 12 回 研究テーマの特定 3 学期末レポートのテーマ、発表
- 第 13 回 研究方法の研究 1 書物とウェブ 1
- 第 14 回 研究方法の研究 2 書物とウェブ 2
- 第 15 回 まとめ

6. 留意事項

作品を体験するには作品そのものを読むこと以外には途はない。しかし、映像化された作品はビデオ情報などを活用して体験可能であり、文学作品が多様な表現形式のための材料として扱われる場合がふえている。この点を念頭におき、オンライン上の情報・データはもとより映像・音楽などのメディアにも注意を怠ってはならない。

講義コード	20512101			
科目名	英文学の歴史Ⅱ			
担当者	吉野 啓子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	担当者のオリジナル教材			
参考文献				
備考				
科目読替	英米文学の歴史（現代の文学） ※平成 19 年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

英米それぞれの文学の歴史は、異なった民族や環境そして文化のもとで、独特の流れがある。そのために英米文学を学習する上で、その歴史を知ることが重要なことである。文学の歴史を知ることによって視野が広がり、様々なジャンルの作品への興味が広がり、また関連性などを知ることによって味わいを深められるはずである。歴史の流れをしっかりと把握しながら、代表的な作家の作品を精読して、作家に対する知識と同様に英語力も養っていききたいと考えている。

2. 教育・学習の個別課題

時代背景や文化の把握と共に、代表的な作家について、そしてその作家の代表的な作品を理解できるようにする。

3. 教育・学習の方法

1) 文化、時代背景の理解 2) 教材の読解、分析 3) 学生の発表やレポートなど

・準備学習の具体的な方法

各週にプリントを配布するので、それを読んで授業に臨んでください。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（30%）、小テストや提出物等（40%）、確認試験（30%）、に基づいて総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第 1 回 授業の進め方やコースの説明
英文学の歴史について
- 第 2 回 18 世紀英文学の散文や詩、劇について
- 第 3 回 18 世紀英文学の散文や詩、劇について
- 第 4 回 18 世紀英文学の小説について
- 第 5 回 18 世紀英文学の小説について
- 第 6 回 ロマン主義時代の英文学について
- 第 7 回 ビクトリア朝時代の英文学について
- 第 8 回 ビクトリア朝時代の英文学について
- 第 9 回 ビクトリア朝時代の英文学について
- 第 10 回 20 世紀英文学について
- 第 11 回 20 世紀英文学について
- 第 12 回 20 世紀英文学について
- 第 13 回 ロマンティズム時代の文学について
- 第 14 回 リアリズム時代の文学について
- 第 15 回 まとめ

6. 留意事項

- 1) 英語力を高める目的から、受講生は各自の予習を必要条件とする。
- 2) 提出物等の期限は厳守すること。
- 3) 特別な理由が無い限り、遅刻や欠席は認めない。
- 4) 欠席は三分の一以内とし、それ以上になると、期末試験の受験資格はないものとする。

講義コード	20512201			
科目名	米文学の歴史			
担当者	山本 裕子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『はじめて学ぶアメリカ文学史』 板橋好枝、高田賢一 ミネルヴァ書房 1991年			
参考文献備考	講義中に適宜指示する。			
科目読替	英米文学の歴史 (アメリカの文学) ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

アメリカにおける文学の歴史を、その背景となる社会や文化の流れとあわせて概観する。アメリカ文学史上、著名な作家とその代表作を学び、教養を深めることを目的とする。また、伝統的な文学史の範疇に収まらない少数民族や女性による作品も、できるだけ多く紹介したいと考えている。背景知識を習得するだけでなく、個別作品の有名なパッセージの読解なども適宜補足的に行う。

2. 教育・学習の個別課題

1. 文学を通してアメリカの歴史・文化・社会・思想を理解する。
2. アメリカ「文学」の誕生とその変容を歴史的に概観する。
3. アメリカの著名な作家とその作品についての幅広い知識を習得する。

3. 教育・学習の方法

授業は基本的には講義形式で、テキストに基づいて進められる。主要作品の原文の一部をできるだけ多く紹介するので、その内容を理解し文体に親しむこと。

・準備学習の具体的な方法

開講時に指示する。

4. 評価方法・評価基準

平常点 (30%)

期末試験 (70%)

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション：アメリカ文学史について
- 第2回 植民地時代の文学と独立革命の文学
- 第3回 アメリカン・ルネッサンス
- 第4回 アメリカン・ルネッサンス
- 第5回 アメリカン・ルネッサンス
- 第6回 南北戦争後の文学 (リアリズム小説)
- 第7回 自然主義文学
- 第8回 モダニズム文学
- 第9回 モダニズム文学
- 第10回 1920年代の文学 (ロストジェネレーション)
- 第11回 1920年代の文学 (ロストジェネレーション)
- 第12回 1920年代の文学 (ロストジェネレーション)
- 第13回 1930年代の文学 (プロレタリア文学)
- 第14回 1930年代の文学 (プロレタリア文学)
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	20512301			
科目名	文学と女性			
担当者	吉野 啓子			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Wuthering Heights』 Emily Bronte Penguin book			
参考文献備考				
科目読替	女性と文学 ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

英国文学に対する興味を深め、原文の読解力を高めることと、作品に登場する女性を通して、人生や社会への係わり等を学んでいく。作者の主張

や作品の特徴は勿論のことであるが、そこに登場する女性の人生を通して、生き方や社会への処し方など、「女性としてどうあるべきか」という課題への認識を深めることが目標である。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) 原文を精読する。(従って、読解力が必要とされる)
- 2) 作者や時代背景の理解を深めるために、また作品の内容を多角的観点から理解するために、参考文献を読む。
- 3) 討論やレポートの提出なども要求される。

3. 教育・学習の方法

作品を翻訳しながら内容を把握していく。そして作品の作者や時代背景などを理解し、作品の主題や技巧なども把握する。最後にこれらのことを踏まえて、登場人物の生き方、社会へのあるいは人生の処し方について各々の考えをまとめたり、討論してさらに認識を深めていく。

・準備学習の具体的な方法

基本的には、辞書を使ってテキストを読むことであるが、詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 (30%)、小テストや提出物等 (40%)、確認試験 (30%)、に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 授業の進め方やコースの説明など
- 第2回 作者と作品について
- 第3回 Chapter I, II
- 第4回 Chapter III, IV,
- 第5回 Chapter V, VI, VII
- 第6回 Chapter VIII, IX
- 第7回 Chapter X, XI, XII
- 第8回 Chapter XIII, XIV
- 第9回 Chapter XV, XVI, XVII
- 第10回 Chapter XVIII, XIX, XX
- 第11回 Chapter XXI, XXII, XXIII, XXIV
- 第12回 Chapter XXV, XXVI, XXVII,
- 第13回 Chapter XXVIII, XXIX, XXX, XXXI,
- 第14回 Chapter XXXII, XXXIII, XXXIV
- 第15回 総まとめ

6. 留意事項

- 1) テキストを精読し、多角的な観点から作品を理解するには、しっかりと英語力が必要である。従って基礎的な能力がしっかりと備わっていることが望ましい。
- 2) 自分の英語力を高める目的から、受講生は各自の予習を必要条件とする。
- 3) 提出物などの期限は厳守すること。
- 4) 特別な理由の無い限り、遅刻や欠席は認めない。また2/3以上の出席を必要とし、それが総合点数に大きく影響する。

講義コード	20521001			
科目名	言語学概論			
担当者	杉村 美奈			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[英][日]			
前提科目				
テキスト	テキストにはスライドとハンドアウトを使います。			
参考文献備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

言語の理論とそれを用いた言語の分析の仕方を学ぶことを目標とする。扱うトピックはPhonetics (音声学)、Phonology (音韻論)、Morphology (形態論)、Syntax (統語論)、Semantics (意味論)と多岐にわたり、それぞれ言語の音声、音の機能とパターン、語の構造、文の構造、そして文の意味を深く考察する。主に英語と日本語を対象言語として扱うが、必要に応じて他言語も扱っていく。言語学の観点から見た「言語」の面白さをじっくり味わってもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. Phonetics: 言語の音声
2. Phonology: 音の機能とパターン
3. Morphology: 語の構造と語形成
4. Syntax: 文の構造
5. Semantics: 文の意味

3. 教育・学習の方法

授業スタイルは「講義と演習」とする。理論の説明などは講義形式で行い、

適宜練習問題などを個人やペア、またはグループワークにより行ってもらう。

・準備学習の具体的な方法

授業で習った理論を使って言語を分析するのがこのクラスの基本であるため、理論をしっかりと理解していなければならない。必ず毎回の授業をしっかりと復習しておくこと、「何が分からないか」を自分で分かる様にしておくこと。分からないところはすぐに担当教員に質問することを常に心がけてほしい。

4. 評価方法・評価基準

- 1. Quizzes & Assignments: 40%
- 2. Final Exam: 40%
- 3. Class Participation: 20%

5. 授業予定

- 第1回 Introduction
- 第2回 Phonetics 1
- 第3回 Phonetics 2
- 第4回 Phonology 1
- 第5回 Phonology 2
- 第6回 Morphology 1
- 第7回 Morphology 2
- 第8回 Summary (1-7)
- 第9回 Syntax 1
- 第10回 Syntax 2
- 第11回 Syntax 3
- 第12回 Semantics 1
- 第13回 Semantics 2
- 第14回 Semantics 3
- 第15回 Summary (9-14)

6. 留意事項

講義コード	20523101		
科目名	英語の歴史 英語発達史から見た英語の文法と語彙		
担当者	児玉 一宏		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	講義資料をプリントにして配布する。		
参考文献	『言語学の領域 (I)』 中島平三編 朝倉書店 2009 上記の文献以外にも、授業中に適宜、指示する。		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

本授業では、英語が歴史的にどのように発達してきたかを概観し、現代英語の諸相（音韻、形態、語彙、文法の諸相）をより深く理解することを目的とする。英語史を学習する意義を理解するために、英語の外史と呼ばれる英語の発達にかかわる歴史上の出来事が現代英語の形成にどのような影響を与えたかを学習する。また、現代英語の代表的な構文（二重目的語構文、与格構文、動詞・不変化詞構文など）を取り上げて、生成文法や認知言語学の観点から分析し、英語史研究と英語教育の接点についても理解を深める。

2. 教育・学習の個別課題

以下の7項目を取り上げて講義を進める。

- 1) 英語の外史（歴史上の出来事）の基本事項
- 2) 英語の語彙（「本来語」の語彙と「ラテン系」の語彙の諸特性）
- 3) 語の音韻的特性（英語の音韻法則）
- 4) 語の形態的特性（語形成）
- 5) 米語のインパクト
- 6) 現代英語構文研究
- 7) 英語史研究と英語教育の接点

講義ノート・講義資料以外に参考文献も十分に活用し、学習内容の定着に努力してもらいたい。

3. 教育・学習の方法

授業は、講義形式を中心とする。適宜、小テストを行う。毎回の講義の最後に、次回の学習内容を予告するので、その都度、指示に従って予習してもらいたい。全体的には、講義ノート、講義資料、参考文献を活用して、十分な復習を履行し、講義内容の定着を図ってもらいたい。詳細については初回の授業で説明する。

・準備学習の具体的な方法

授業中に指示する参考文献、資料等の該当箇所について熟読し、予習をし

てもらう。口頭発表を担当する場合には発表資料（ハンドアウト）の作成を行う。

4. 評価方法・評価基準

成績評価は、レポート試験（50%）、小テスト・課題提出等（30%）、授業への参加態度（20%）とし、総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 序論（英語史への招待）
- 第2回 英語の歴史（古英語の成立）
- 第3回 英語の歴史（古英語から中英語へ）
- 第4回 英語の歴史（フランス語の影響）
- 第5回 英語本来語の語彙とラテン系の語彙の諸特性
- 第6回 英語の音韻・形態特性と英語史の関係①
- 第7回 英語の音韻・形態特性と英語史の関係②
- 第8回 英語の歴史（中英語から近代英語へ）
- 第9回 英語の歴史（近代英語から現代英語へ）
- 第10回 英語と米語（米語のインパクト）
- 第11回 英語構文研究（言語理論および英語史）
- 第12回 英語構文研究（言語理論および英語史）
- 第13回 英語構文研究（言語理論および英語史）
- 第14回 英語史と英語教育の接点
- 第15回 本講義の総括

6. 留意事項

講義コード	20526001		
科目名	英語学概論		
担当者	新井 康友		
単位数	2	配当学年	234
資格	[英]		
前提科目			
テキスト	ハンドアウトを使います。		
参考文献	適宜紹介する		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

This class introduces you to different theories of grammar that appeared in past and present. We will especially take up Traditional Grammar, Structuralist Grammar, and Generative Grammar.

2. 教育・学習の個別課題

This class will introduce you to different ways in which you can look at language. It should help you in your work with English or if you teach, it should help you in talking about language.

3. 教育・学習の方法

This class is half lecture and half analysis. I will talk about some aspect of a grammatical theory and we will try to apply it in actual analysis of English. I will ask you to do some problems at home and we will discuss them during the following class.

・準備学習の具体的な方法

We will work with some of the books and papers that different grammarians have written. The materials will be copied and given to you in class. We will read them in class and apply the ideas written in them to English (and sometimes to Japanese). This way you will have a better understanding of what the grammarians meant.

4. 評価方法・評価基準

class participation (60%)
final test (40%)

5. 授業予定

- 第1回 A Short History of the Study of Language
- 第2回 Levels in Study of Language
- 第3回 Study of (English) Language Sounds: Phonetics
- 第4回 System of Sounds: Phonology
- 第5回 Lexicon and Sentences
- 第6回 Theories of Grammar
- 第7回 Traditional and School Grammar
- 第8回 (American) Structuralist Grammar
- 第9回 Generative Grammar
- 第10回 Grammatical Categories
- 第11回 Concept of Constructions
- 第12回 Treatment of Constructions under Different Theories
- 第13回 Construction 1

6. 留意事項

講義コード	20526801		
科目名	ことばの習得 英語を母語にすることもはどのように文法を獲得するか		
担当者	児玉 一宏		
単位数	2	配当学年	234
資格	[日]		
前提科目			
テキスト	『言語習得と用法基盤モデル』 山梨正明編 研究社 2009		
参考文献	『言語学の領域(1)』 中島平三編 朝倉書店 2009		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

本授業では、英語を母語とする子どもが、どのようにして大人の文法（英文法）を獲得するかという問題を取り上げる。特に、生得的な言語獲得機構の存在を仮定する生成文法と、汎用的な学習機構によって言語習得を説明しようとする認知言語学に焦点を当てて、英語の文法習得過程についての基本的な考え方を講義する。ことばの不思議、ことばについて思索することの面白さを知ってもらえれば幸いである。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) 生成文法が仮定する言語獲得の論理的問題を理解する
- 2) 句構造規則と言語の階層構造を理解する
- 3) 動詞の意味と構文選択の仕組みを理解する
- 4) 構文文法の考え方を理解する
- 5) 認知言語学的な言語習得論を理解する

3. 教育・学習の方法

授業は講義形式を中心とする。今回の講義内容、予習の範囲を授業の最後に指示する。テキストおよび配布教材の中から、適宜小テストを実施する。

・準備学習の具体的な方法

授業中に指示するテキスト、参考文献、資料等の該当箇所について熟読する。口頭発表を担当する場合には、発表資料（ハンドアウト）の作成を行う。小テストに向けて指定された範囲の内容を学習する。

4. 評価方法・評価基準

成績評価は、レポート試験（50%）、小テスト・課題提出（30%）、授業への参加態度（20%）とし、総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 序論
- 第2回 生成文法の言語獲得理論①
- 第3回 生成文法の言語獲得理論②
- 第4回 英語の句構造①
- 第5回 英語の句構造②
- 第6回 語彙意味論と言語習得①
- 第7回 語彙意味論と言語習得②
- 第8回 構文文法と言語習得①
- 第9回 構文文法と言語習得②
- 第10回 構文文法と言語習得③
- 第11回 講義内容の復習とまとめ
- 第12回 認知言語学と言語習得①
- 第13回 認知言語学と言語習得②
- 第14回 認知言語学と言語習得③
- 第15回 総括

6. 留意事項

講義コード	20527001			
科目名	ことばと社会 社会言語学入門			
担当者	川上 伊都子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	特になし。			
参考文献	『「社会のなかの言語」』 スザーン ロメイン 三省堂 1997 別途指示。			
備考	「言語学概論」「英語の歴史」又は「英語学概論」どれかの履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

言語は、コミュニケーションの道具としてのみ使われている訳ではありません。言語は、それぞれの社会や文化と密接な関係があり、切り離して考える事はできないのです。では、言語は社会／文化の中でどのような役割や機能をはたし、また、社会／文化からどのような影響や拘束を受けているのでしょうか。人間と言語とはどのように関係し合っているのでしょうか。これらの問いに答えるため、このコースでは、社会言語学の基礎を学びます。

2. 教育・学習の個別課題

現実社会での言語使用の分析研究を通して、いかに社会／文化と言語との相互作用があるかを、検証していく。例えば、多言語使用、コミュニケーション・コンパタンス、スピーチコミュニティ、など。

3. 教育・学習の方法

参考文献、重要論文などにそっての講義、質疑応答、現実社会における諸問題に関してグループディスカッション、またレポートの提出。

1. 参考文献：スザーン ロメイン「社会のなかの言語」

2. 重要論文（適宜配布）

・準備学習の具体的な方法

受講者は、毎週出される宿題／課題を必ずしてくる。予習としては、指定された読み物を精読してくる事が第一であり、それ以外の課題が出された時には、しっかり準備すること。具体的には、あたえられたテーマに関して、調べてくる事、それらをまとめてレポートにして提出すること等である。精読とは、単に「目を通す」という事ではなく、そこに書かれている内容を、「十分深く理解する」という事である。よって、授業中には、読んで来た内容について質問される。答えられなかった場合、又、明らかに準備不足と判断される場合には、減点の対象となり得る。

4. 評価方法・評価基準

評価は、期末テスト（60%）、グループレポート+提出物（30%）、授業参加度（10%）に基づいて、総合的に行う。欠席、遅刻は、減点対象となる。欠席回数が、3分の1を超過したばあいは、原則として単位を認めない。

5. 授業予定

- 第1回 What is Sociolinguistics?—Orientation (1)
- 第2回 What is Sociolinguistics?—Orientation (2)
- 第3回 Language & Dialect (1)
- 第4回 Language & Dialect (2)
- 第5回 Language & Dialect (3)
- 第6回 Competence & Performance (1)
- 第7回 Competence & Performance (2)
- 第8回 Communicative Competence(1)
- 第9回 Communicative Competence(2)
- 第10回 Speech Communities (1)
- 第11回 Speech Communities (2)
- 第12回 Speech Communities (3)
- 第13回 Register (1)
- 第14回 Register (2)
- 第15回 General Review

6. 留意事項

毎週、必ず予習をしてくること。授業には積極的に参加すること。予習が出来てない場合、又、居眠り、私語、携帯等、授業への積極的参加が認められない場合は、減点の対象となる。

講義コード	20527101			
科目名	ことばと文化 社会言語学初級			
担当者	川上 伊都子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	特になし。			
参考文献	『「社会のなかの言語」』 スザーンロメイ 三省堂 1997 『You Just Don' t Understand』 Deborah Tannen 別途指示。			
備考	「ことばと社会」履修者であること			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

言語が、それぞれの社会／文化の中でどのような役割や機能をはたし、又、社会／文化からどのような影響や拘束を受けているのか。人間と言語はどの様に関係し合っているのか。これらの問いに答えるため、このコースでは、社会言語学の基礎を学びます。

2. 教育・学習の個別課題

現実社会での言語使用の分析研究を通して、いかに社会／文化と言語との相互作用があるかを、検証していく。特に、多言語使用における「言語の選択」を通して言語とアイデンティティーについて、又 discourse analysis の手法を用いて、言語とジェンダーとの関係について考察する。

3. 教育・学習の方法

参考文献、重要論文などにそっての講義、質疑応答、現実社会における諸問題に関してグループディスカッション、グループ発表、さらにレポートの提出。

1. 参考文献：スザーンロメイ「社会のなかの言語」
Deborah Tannen "You Just Don't Understand"

2. 重要論文（適宜配布）

・準備学習の具体的な方法

受講者は、毎週出される宿題／課題を必ずしてくる事。予習としては、指定された読み物を精読してくる事が第一であり、それ以外の課題が出された時には、しっかり準備すること。具体的には、あたえられたテーマに関して、調べてくる事、それらをまとめてレポートにして提出すること等である。精読とは、単に「目を通す」という事ではなく、そこに書かれている内容を、「十分深く理解する」という事である。よって、授業中には、読んで来た内容について質問される。答えられなかった場合、又、明らかに準備不足と判断される場合には、減点の対象となり得る。

4. 評価方法・評価基準

評価は、期末テスト（60%）、グループ発表+レポート（30%）、授業参加度（10%）に基づいて、総合的に行う。欠席、遅刻は、減点対象となる。欠席回数が、3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。

5. 授業予定

- 第1回 Multilingualism & Language Choice (1)
- 第2回 Multilingualism & Language Choice (2)
- 第3回 Multilingualism & Language Choice (3)
- 第4回 GROUP DISCUSSION (1)
- 第5回 Diglossia & Polyglossia
- 第6回 Language Shift & Language Death (1)
- 第7回 Language Shift & Language Death (2)
- 第8回 Language and Identity (1)
- 第9回 Language and Identity (2)
- 第10回 Language and Identity (3)
- 第11回 GROUP DISCUSSION (2)
- 第12回 Language and Gender (1)
- 第13回 Language and Gender (2)
- 第14回 Language and Gender (3)
- 第15回 General Review

6. 留意事項

毎週必ず予習してくる事。授業には積極的に参加する事。十分な準備が認められない場合や、授業中の居眠り、私語、携帯等の、授業への積極的な参加が認められない場合は、減点の対象となる。

講義コード	20527901			
科目名	個別英語学研究 I			
担当者				
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

個別研究は、当該の領域の主たる科目を履修した学生が、さらに発展的な学習を進めるための科目である。個別研究を指導する学生は、①特定の研究課題を設定し、②研究計画を立て、③担当教員の指導のもとで自主的に研究を行う。原則として卒業研究と同じテーマを選ぶことは出来ないが、卒業研究の指導教員および個別研究の担当教員両方が適切かつ有益と認められた場合には、卒業研究に関連するトピックについて個別研究を行うことも可能である。

2. 教育・学習の個別課題

1. アクティブラーナーとして学習目標を定められる。
2. 学習計画が作成できる。
3. 個別課題を遂行できる。
4. 指導教員の指導をうける。
5. 期日までに指導教員に課題提出ができる。

3. 教育・学習の方法

履修登録について

条件

個別研究を履修するためには、原則として担当教員が教授する専門科目を少なくとも一科目以上履修していなければならない。

手続き

履修を希望する学生は、研究計画書を担当教員に提出し、担当教員および学科長の承認を得なければならない。研究計画書様式は教務学事課で入手すること（ただし、担当教員が別個の研究計画書の作成を指示する場合にはその様式に従うこと）。

履修期間と登録について

個別研究は、各年度の前期・後期にそれぞれ集中で開講され、原則として通常の履修登録期間内に上記のプロセスを経て登録することが必要である。ただし、研究内容によって、長期休暇（夏休み・春休み）を利用して研究を進めることが適切であると判断される場合には、担当教員および学科長の承認を得ることによって、履修登録前に研究を開始することも可能である。この場合、夏休みを利用した研究に関してはその夏休み後の秋学期、春休みを利用した研究に関してはその春休み後の春学期に履修登録を行い、成績はそれぞれの学期末に通知される。

詳しくは英語英文学科に問い合わせること。

・準備学習の具体的な方法

1. 前もって提示している課題を読んでくる。
2. 英語の語彙学習
3. 文章の理解と要約

4. 評価方法・評価基準

1. 課題達成度 30%、指導時の学習姿勢 30%、クイズ 10%、レポートもしくは試験 30%

5. 留意事項

講義コード	20528001			
科目名	個別英語学研究Ⅱ			
担当者				
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

個別研究は、当該の領域の主たる科目を履修した学生が、さらに発展的な学習を進めるための科目である。個別研究を指導する学生は、①特定の研究課題を設定し、②研究計画を立て、③担当教員の指導のもとで自主的に研究を行う。原則として卒業研究と同じテーマを選ぶことは出来ないが、卒業研究の指導教員および個別研究の担当教員両方が適切かつ有益と認められた場合には、卒業研究に関連するトピックについて個別研究を行うことも可能である。

2. 教育・学習の個別課題

1. アクティブラーナーとして学習目標を定められる。
2. 学習計画が作成できる。
3. 個別課題を遂行できる。
4. 指導教員の指導をうける。
5. 期日までに指導教員に課題提出ができる。

3. 教育・学習の方法

履修登録について

条件

個別研究を履修するためには、原則として担当教員が教授する専門科目を少なくとも一科目以上履修していなければならない。

手続き

履修を希望する学生は、研究計画書を担当教員に提出し、担当教員および学科長の承認を得なければならない。研究計画書様式は教務学事課で入手すること（ただし、担当教員が別個の研究計画書の作成を指示する場合にはその様式に従うこと）。

履修期間と登録について

個別研究は、各年度の前期・後期にそれぞれ集中で開講され、原則として通常の履修登録期間内に上記のプロセスを経て登録することが必要である。

ただし、研究内容によって、長期休暇（夏休み・春休み）を利用して研究を進めることが適切であると判断される場合には、担当教員および学科長の承認を得ることによって、履修登録前に研究を開始することも可能である。この場合、夏休みを利用した研究に関してはその夏休み後の秋学期、春休みを利用した研究に関してはその春休み後の春学期に履修登録を行い、成績はそれぞれの学期末に通知される。

詳しくは英語英文学科に問い合わせること。

・準備学習の具体的な方法

1. 前もって提示している課題を読んでくる。
2. 英語の語彙学習
3. 文章の理解と要約

4. 評価方法・評価基準

1. 課題達成度30%、指導時の学習姿勢30%、クイズ10%、レポートもしくは試験30%

5. 留意事項

講義コード	20528101			
科目名	児童英語教育Ⅰ			
担当者	中本 登美子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日][子]			
前提科目				
テキスト	『Welcome to Learning World Yellow Book Text』 Mikiko Nakamoto アプリコット出版 1996 『Welcome to Learning World Yellow Book 生徒用CD』 Mikiko Nakamoto アプリコット出版 1996 上記以外に、毎回プリント配布			
参考文献				
備考	定員30人			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

子供たちは言語習得の天才です。楽しい歌やチャンツ、動作、活動を通じて、英語表現を覚えていきます。本講義では、楽しく英語を教えると同時に、児童英語教育を高校3年生までの英語教育の基礎段階ととらえ、英語の総合的な運用能力の習得を目的とした英語教育法を学びます。楽しいだけでは終わらない言語教育を実践できる素養を養います。

2. 教育・学習の個別課題

発達段階に応じた子供たちへの言語材料、教え方を理解し実践する。子供たちの心を開き、楽しく、効果的なクラス運営ができるファシリテーターとしての指導者を理解し、実践する。

3. 教育・学習の方法

一方的に講義を聴くのではなく、予習、ディスカッション、まとめ、発表を通して、実践的に学びます。小学生用テキストWelcome to Learning World Yellow Book と準拠のCDを使って、児童英語教育の実際を子供目線から学びます。授業には必ず英和・和英の辞書持参の事（電子辞書可）（携帯電話、スマート phone 辞書は不可）

・準備学習の具体的な方法

毎回配布されるプリントの予習。
小学生用テキストWelcome to Learning World Yellow Book のCDを聴いて覚える。

4. 評価方法・評価基準

・出席回数が3分の2に満たない場合は、原則として評価しない
遅刻や欠席等は減点対象となる
・評価は、出席状況、授業中の参加度（30%）、10週目に配布される課題の達成70%（内40%は授業の理解、20%は小学生用テキストWelcome to Learning World の把握）

5. 授業予定

- 第1回 児童英語教育とは
- 第2回 どうして話せない？ 使えない？ 日本の英語教育
- 第3回 児童英語教育の dos & don'ts
- 第4回 4種類の英語 どの英語を教えるべきか
- 第5回 英語を使う
- 第6回 音（発音、リズム、イントネーション）の教え方
- 第7回 発話教育
- 第8回 国際教育
- 第9回 コミュニケーション能力
- 第10回 Communicative Approach & Humanistic Approach
- 第11回 ファシリテーターとしての指導者の在り方
- 第12回 英語を使うための活動
インフォメーションギャップのある活動
- 第13回 英語の定着を図る活動
- 第14回 児童英語教育における評価
一到達度評価一
- 第15回 課題テストと実技発表

6. 留意事項

講義コード	20528201			
科目名	児童英語教育Ⅱ 楽しく、効果的に子供たちを英語の世界に導く授業			
担当者	中本 登美子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日][子]			
前提科目				
テキスト	『Learning World Book3 改訂版 Text』 Mikiko Nakamoto アプリコット出版 2009 『Learning World Book 3 改訂版生徒用CD』 Mikiko Nakamoto アプリコット出版 2009 上記以外に毎回プリント配布			
参考文献				
備考	定員30人 205281「児童英語教育Ⅰ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

前期で習得した基礎知識を基に、歌、チャンツ、チャット、フォニックス絵本に関する知識や指導技術を学びます。Task-based Language Teachingの基礎を学び、英語運用能力をそだてるレッスンプランの作り方をまなびます。後半は、グループで、絵本または小学生中級用英語教材を使った模擬授業の発表があります。

2. 教育・学習の個別課題

小学生中級用英語教材を実際に使って task-based Language Teaching のレッスンを理解します。

さまざまな歌やチャンツ、ゲーム、活動を学び、実践します。

学習意欲の高め方、クラス運営を学び実践します。

模擬授業を通して体験的に個別の課題を知ります。

3. 教育・学習の方法

それぞれの課題に合わせて講義、実習を行います。

演習、模擬授業は事前の準備を必要とします。

小学生中級用英語教材 Learning World Book 3 のテキストと準拠のCDを使って、児童英語教育の実際の子供目線、指導者目線からまなびます。授業には必ず、英和・和英の辞書持参の事

・準備学習の具体的な方法

事前に前期の授業内容を復習しておくこと

Learning World Book 3 のCDを所定のページを聞いて、発表の宿題が毎回あります。

4. 評価方法・評価基準

・出席回数が3分の2に満たない場合は、原則として評価しない

遅刻や欠席等は減点対象となる

・評価は、出席状況、授業中の態度 (30%)、模擬授業発表 (30%)、課題テスト (20%)、Learning World Book 3 の把握 (20%)

5. 授業予定

第1回 指導の実際

第2回 発話を促す活動 ①

第3回 文、語彙を効果的に覚える活動・ゲーム

第4回 児童英語教育における songs/chants の役割

第5回 児童英語教育における chat の役割

第6回 情報をとる reading の教え方

第7回 文字の持つ音、音読、フォニックスの教え方

第8回 Creative Writing の教え方

第9回 絵本を使って教える

第10回 学習意欲をたかめる。Self-esteem を高める教え方

第11回 レッスンプランの立て方

第12回 模擬授業、まとめ

第13回 模擬授業、まとめ

第14回 模擬授業、まとめ

第15回 課題テストと実技発表

6. 留意事項

講義コード	20528301			
科目名	英語教材作成演習 作成教材利用スクールインターンシップ参加			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『小学校英語教育の進め方』 岡秀夫・金森強 成美堂 『小学校英語教育の進め方』 岡秀夫・金森強 (成美堂)			
参考文献	『小学校英語活動アイデアバンクーゲーム・ソング集一』 金山、橋堂 教育出版 『ONE WORLD Kids, アントコース、バードコース』 樋口編著、橋堂、教育出版 『小学校英語活動実践の手引き』 文部科学省・開隆堂 『小学校からの外国語教育』 樋口編著 研究社 『小学校からの外国語教育(研究社) 小学校英語活動実践の手引き(文部科学省・開隆堂) 小学校英語活動アイデアバンクーゲーム・ソング集一(教育出版) 小学校英語活動アイデアバンクーゲーム・ソング集一(教育出版) 実践編: ONE WORLD Kids, アントコース、バードコース、(教育出版)』			
備考	定員30人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

教職課程/塾講師希望の3回生以上の学生の履修が望ましいが、2回生の履修も積極的なインターンシップ参加希望ならば問題はない。公立小学校で教える「外国語活動」、総合的な学習の時間の中であつかう英語活動、私立小学校や(特区指定や研究指定校の)公立小学校における教科としての英語を指導するための必要な知識と技能を身につける。特に公立小学校での「外国語活動」の望ましい指導法をその教材作成を通して、考案・実践できるように演習を行う。1.2011年完全実施の学習指導要領における「外国語活動」とそれ以外の英語教育のねらいと指導実践の方法を理解し、その指導案を書くことができる。2.「外国語活動」の模擬授業あるいはインターンシッププログラムで実際に授業ができる。3.小学校英語指導のために必要な、正確な英語の音素の発音、クラスルームイングリッシュ、小学校英語活動・教育の中で扱う英語表現やダイアログを習得する。4.小学校英語授業で使われる教材とそれを使った授業を見たとき、その善し悪しが判断でき、改善案を作ることができる。5.英語ノートに沿った教材あるいは先進的な私立小学校で開発されたデジタル教材のその作成における理論を学ぶ。理論編では、学習指導要領の小学校の外国語活動の内容を踏まえて、授業実践を進める上で必要となる、指導目標と関連した指導内容、カリキュラムの組み方、指導案の事例研究と教材作成の基礎理論を学ぶ。次に、小学校の英語活動や外国語活動で使用する英語教育の授業で使用する副教材の作成をし、模擬授業の訓練をした上で、その作成教材を利用して、公立/私立の小学校で実際の授業実践に生かす経験をすることを目的とする。この授業で作成した教材や指導実践したアクティビティは、中学校の教育実践にも生かせるものとする。

2. 教育・学習の個別課題

小学校の英語活動の以下の教材作成とその活用が中心になる。①ストーリーテリング出来る紙芝居やピクチャーブック、エプロンシアター、英語の歌を利用した教材、チャンツ、ライム、フォニックス、様々なオーディオビジュアルエイズやカードなど。②個人/グループで作成した教材は、模擬授業をした上で、実際の小学校などの指導の経験に生かす。

3. 教育・学習の方法

①理論編：小学校の英語活動を進める上で必要となる、指導目標と関連した指導内容、カリキュラムの組み方、指導案の事例研究と基礎理論を学ぶ。②指導方法の理解と模擬授業 ③実践編：個人/グループの教材作成。④実践編：公立/私立の小学校で実際の授業実践 1.この授業のねらいと進め方、学習指導要領における英語活動の目的、指導案例 自己紹介(名前、挨拶、出身、誕生日)およびフォニックスジングルの指導の体験と英語練習 自己紹介(既習のことに加えて、好きなこと、もの、趣味など)の指導の単元構成、復習の仕方 およびチャンツと歌の活用について体験と英語練習 2.数、形、色、朝食(昼食)のメニュー、文化比較や自己表現と絡めてこのトピックと指導に必要な英語表現の練習、教材の収集と加工 3.絵本の活用と実習、教材の作成と提示 これまでにできてきた、指導方法の実習、指導に必要な英語の練習 4.1時間の指導の組み立て方、指導者と指導形態、マルチメディア教材およびICTの活用 5.指導に必要な教案作成、模擬授業準備 6.サンプル授業視聴、模擬授業準備 色やそれにかからめたもの(動物、食べ物、衣服他)の学習を含む授業 模擬授業 朝食もしくは昼

食のメニューについての学習を含む授業 模擬授業 読みかきかせの学習を含む授業 模擬授業 時刻やスケジュールの学習を含む授業 模擬授業 動作動詞（スポーツ、お手伝い、一日の行動）の学習を含む授業 模擬授業 数字や方向の学習を含む授業 模擬授業 季節と季節の行事の学習を含む授業 模擬授業 文字の指導とフォニックスの学習を含む授業 まとめと課題 ディスカッション

・準備学習の具体的な方法

毎回の授業における教材の作成+指導案+模擬授業の準備等
公立小学校やND小学校の授業見学やスクールインターンシップは、相手先の小学校のスケジュール等で授業計画通りに進まない場合がある。

4. 評価方法・評価基準

1. 積極的な授業への参加（科目の特質上、特に重視する。欠席を減点法で評価する。） 2. 教材の作成+指導案+模擬授業（30%） 4. 公立/私立の小学校で実際の授業実践と事後の評価と反省（30%） 5. 教材作成や授業実践に対する積極的な態度（40%）などの総合評価

5. 授業予定

- 第1回 1. 理論編：小学校の英語活動を進める上で必要となる、指導目標と関連した指導内容、カリキュラムの組み方、指導案の事例研究と基礎理論（橋堂担当）テキストや資料利用、教材作成演習 学習指導要領 総合学習 英語活動 小中高の外国語
- 第2回 2. 学習指導用要領 英語活動と外国語活動の相違と実践
- 第3回 3. 実践編：個人/グループの教材作成（田縁、橋堂、行田）
テキスト利用の模擬授業
- 第4回 4. 演習①（上記参照）インターンシップ準備
- 第5回 5. 演習②（上記参照）インターンシップ準備
- 第6回 6. 演習③（上記参照）インターンシップ準備
- 第7回 7. デジタル教材作成演習①ND小学校：行田校長先生
- 第8回 8. デジタル教材作成演習②ND小学校：行田校長先生
- 第9回 9. 演習④（上記参照）インターンシップ準備
- 第10回 10. 演習⑤（上記参照）インターンシップ準備
- 第11回 11. 演習⑥（上記参照）インターンシップ準備
- 第12回 12. 大阪教育大学附属平野小学校① / ND小学校インターンシップ①：行田校長先生
- 第13回 13. 大阪教育大学附属平野小学校② / ND小学校インターンシップ②：行田校長先生
- 第14回 14. ICT および インタラクティブボードを使った教材
- 第15回 15. まとめ 授業実践と事後の評価と反省*これ以降、実践編：授業見学と英語活動・外国語活動インターンシップ：大阪教育大学附属平野小学校とノートルダム小学校：行田教頭先生実施 スクール・インターンシップ実施

6. 留意事項

特に、作成教材を利用した公立/私立の小学校での授業実践の際には、ご迷惑の無いようしながら、教材作成、模擬授業、特に授業実践では、楽しみながら真剣に取り組んで欲しい。（学生課で傷害保険500円程度加入必要：教育実習、介護等体験、総合演習等で既に加入している場合は不必要）橋堂の関わるNPO法人JAE主催の産学連携「ドリカムスクール」インターンシップや、特に教育委員会主催のスクールインターンシップにも、積極的に参加して、教育現場を説教的に経験してもらいたいと思っています。他にも、以下の英文学科の英語教育領域の開講科目：公立小学校の英語活動科目：「こどものための英語」や塾やホームティーチャー用の「児童英語教育」も履修することが望ましい。

講義コード	20529001			
科目名	英文法Ⅲ 教えることは学ぶこと（中等高等学校の6社の検定教科書を利用し教材研究&模擬授業をしながら主体的に「文法を学びながら使い、使いながら学ぶ」）			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『NEW HORIZON English』 東京書籍 『NEW CROWN ENGLISH』 三省堂 『SUNSHINE ENGLISH』 開隆堂 『TOTAL ENGLISH』 学校図書 『頻出英文法・語法問題1000』 桐原書店 6. ONE WORLD English 教育出版 7. COLUMBUS ENGLISH 光村図書 原則として検定教科書は研究室と図書館に所蔵するものを利用する。 *毎回の授業の開始時の文法復習小テストに『頻出英文法・語法問題1000』桐原書店を利用する。必ず購入すること。（英語科教育法Ⅱでも利用するので必ず購入すること） 6. COLUMBUS 21 ENGLISH 光村図書			
参考文献	各自が中等高等学校時代に利用した 学習参考書やドリル等			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

将来、中学高等学校の教育実習に参加して、教諭を目指す学生の為の「学びながら使い、使いながら学ぶ」英文法の指導を通して、自分自身が実際の場面で適切な表現や英文法を活かして使うことが出来るようになる事が目標となる。

文部科学省の検定教科書：外国語（英語）の教科書（平成17年検定）の6冊の中学校の教科書（コロムブス；ニュークラウン；ニューホライズン；トータル；サンシャイン；ワンワールド）や高等学校の教科書を用い、自身で学習英文法の参考書等を利用して教材研究をしながら英文法を4技能に活かす方法を考え、実際に模擬授業を実施する。その後、補足的な文法の説明や参加者全員で「文法を学びながら使い、使いながら学ぶ」という観点から考察し議論する。

言語は自分を相手に理解してもらおう。また、相手も理解する。その為のツールとである。国際語である英語の表現力をつけるためには、規則を意識的に扱う英文法を学ぶのが近道である。このクラスでは、場面に適切な表現や英文法の運用力を身につけるため、英文法を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

英語のしくみについての理解を深め、フルーエンシーのみならず正確なコミュニケーションができるアキュラシーのある英語力を養成する。以下の諸相について、専門的な知識を得る。

1. 文構成に必要な要素
2. 文の構造
3. 語句の形態
4. 言語使用場面における表現の適切性

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法

(1)文部科学省の中等高等学校の検定教科書：外国語（英語）の教科書（平成17年検定）の6冊の教科書（コロムブス；ニュークラウン；ニューホライズン；トータル；サンシャイン；ワンワールド）等を用いて自分自身で、学習英文法の参考書等を利用して教材研究をしながら英文法を4技能に活かす方法を考え、実際に模擬授業を実施する。その後、追加的・補足的な文法の説明事後指導した後、参加者全員で「文法を学びながら使い、使いながら学ぶ」という観点から模擬授業を振り返り考察し議論する。各自が模擬授業での文法項目を簡単に解説した後、設問や、英作文形式・英文和訳形式を利用して定着を図る。

(2)各模擬授業では、事前や事後の質問を受け付けるので、積極的な発言や質問等の参加が望まれる。

(3)毎回の授業の開始時に、前回の授業で扱った文法復習小テスト（『頻出英文法・語法問題1000』桐原書店利用して）を実施する。

2. 学習方法

(1)授業の予定課題は教材研究し、各自が予習しておくこと。

(2)練習問題は、中等高等学校の検定教科書やドリル等も利用する。

・準備学習の具体的な方法

1. 自身で学習英文法の参考書等を利用して、「文法を学びながら使い、使いながら学ぶ」という観点から、教材研究をしながら英文法を学び4技能に活かす方法を考え、実際に模擬授業の準備をする。
2. 参加者全員が、模擬授業の文法項目の予復習をする。
3. 文法用語の意味調べ
4. 前回の授業で扱った文法復習小テスト（『頻出英文法・語法問題 1000』桐原書店利用）の準備

4. 評価方法・評価基準

1. 期末試験（80%）：授業で扱った文法項目
前回の授業で扱った文法項目の小テストの評価&授業への参加度（20%）
2. 欠席・遅刻は減点対象とする。授業総回数の3分の2以上の出席を求める。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 基本文型（1）
- 第3回 基本文型（2）
- 第4回 文の構造一句と節、構造上の文の種類
- 第5回 文の構造一意味による文の種類、文の意味階層
- 第6回 文の構造一音声による文の種類
- 第7回 動詞一分類と形態
- 第8回 動詞一時制と相（進行相と完了相）
- 第9回 動詞一現実の「時」と動詞の形態、文法形式の視点から
- 第10回 動詞一法（直説法と仮定法）
- 第11回 否定文一基本的な特徴と種類
- 第12回 否定文一否定の作用域と焦点、否定と複文・重文
- 第13回 否定文一否定と疑問文・命令文・感嘆文
- 第14回 助動詞一種類、配列、意味と用法
- 第15回 受動文一能動文と受動文、能動受動文

6. 留意事項

- 1) Aクラスは原則として教職課程履修者専用とし、その内容に関しても、教職課程における必要性に鑑みて上述の予定から多少の変更がありうる。
- 2) 教職課程履修者でAクラスを受講できない学生は、英語英文学科に相談すること。
- 3) 教職課程履修者以外でAクラスを受講を希望する学生は、英語英文学科に相談すること。

自身で学習英文法の参考書等を利用して教材研究をしながら英文法を4技能に活かす方法を考え、実際に模擬授業を実施する。その後、補足的な文法の説明や参加者全員で「文法を学びながら使い、使いながら学ぶ」という観点から考察し議論する。

言語は自分を相手に理解してもらう。また、相手も理解する。その為のツールとである。国際語である英語の表現力をつけるためには、規則を意識的・明示的に扱う英文法を学ぶのが近道である。このクラスでは、場面に適切な表現や英文の運用力を身につけるため、英文法を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

英語のしくみについての理解を深め、フルーエンシーのみならず正確なコミュニケーションができるアキュラシーのある英語力を養成する。以下の諸相について、専門的な知識を得る。

1. 文構成に必要な要素
2. 文の構造
3. 語句の形態
4. 言語使用場面における表現の適切性

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法

- (1) 文部科学省の中学高等学校の検定教科書：外国語（英語）の教科書（平成17年検定）の6冊の教科書（コロンブス；ニュークラウン；ニューホライズン；トータル；サンシャイン；ワンワールド）等を用いて自分自身で、学習英文法の参考書等を利用して教材研究をしながら英文法を4技能に活かす方法を考え、実際に模擬授業を実施する。その後、追加的・補足的な文法の説明事後指導した後、参加者全員で「文法を学びながら使い、使いながら学ぶ」という観点から模擬授業を振り返り考察し議論する。各自が模擬授業での文法項目を簡単に解説した後、設問や、英作文形式・英文和訳形式を利用して定着を図る。

(2) 各模擬授業では、事前や事後の質問を受け付けるので、積極的な発言や質問等の参加が望まれる。

(3) 毎回の授業の開始時に、前回の授業で扱った文法復習小テスト（『頻出英文法・語法問題 1000』桐原書店利用して）を実施する。

2. 学習方法

- (1) 授業の予定課題は教材研究し、各自が予習しておくこと。
- (2) 練習問題は、中学高等学校の検定教科書やドリル等も利用する。

・準備学習の具体的な方法

1. 自身で学習英文法の参考書等を利用して、「文法を学びながら使い、使いながら学ぶ」という観点から、教材研究をしながら英文法を学び4技能に活かす方法を考え、実際に模擬授業の準備をする。

2. 参加者全員が、模擬授業の文法項目の予復習をする。
3. 文法用語の意味調べ
4. 前回の授業で扱った文法復習小テスト（『頻出英文法・語法問題 1000』桐原書店利用）の準備

4. 評価方法・評価基準

1. 期末試験（80%）：授業で扱った文法項目
前回の授業で扱った文法項目の小テストの評価&授業への参加度（20%）
2. 欠席・遅刻は減点対象とする。授業総回数の3分の2以上の出席を求める。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス、英文速読の方法
- 第2回 準動詞一定義・形態・用法
- 第3回 準動詞一意味上の主語、準動詞の表す「時」
- 第4回 準動詞一形容詞的用法、不定詞と動名詞の意味の相違
- 第5回 形容詞一定義、意味的特性
- 第6回 形容詞一比較構文、「形容詞」の全体像
- 第7回 名詞句と文構造の多様性一主要部、同格、文名詞句
- 第8回 名詞句と文構造の多様性一間接疑問文、話法、句読法
- 第9回 代用表現一代名詞、代用形
- 第10回 代用表現一省略
- 第11回 関係詞一機能と種類、基本的な関係節構文
- 第12回 関係詞一制限用法と非制限用法、擬似関係節構文
- 第13回 関係詞一関係詞の省略、関係節の二重制限
- 第14回 特殊構文一特殊構文とは、文法的な仕組みとしての特殊構文
- 第15回 特殊構文一音声的な仕組み、特殊構文の存在理由

6. 留意事項

- 1) Aクラスは原則として教職課程履修者専用とし、その内容に関しても、教職課程における必要性に鑑みて上述の予定から多少の変更がありうる。
- 2) 教職課程履修者でAクラスを受講できない学生は、英語英文学科に相談すること。
- 3) 教職課程履修者以外でAクラスを受講を希望する学生は、英語英文学科に相談すること。

講義コード	20529101			
科目名	英文法IV 教えることは学ぶこと（中等高等学校の6社の検定教科書を利用し教材研究&模擬授業をしながら主体的に「文法を学びながら使い、使いながら学ぶ」）			
担当者	橘堂 弘文			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『NEW HORIZON English』 東京書籍 『NEW CROWN ENGLISH』 三省堂 『SUNSHINE ENGLISH』 開隆堂 『TOTAL ENGLISH』 学校図書 『頻出英文法・語法問題 1000』 桐原書店 6. ONE WORLD English 教育出版 7. COLUMBUS ENGLISH 光村図書 原則として検定教科書は研究室と図書館に所蔵するものを利用する。 * 毎回の授業の開始時の文法復習小テストに『頻出英文法・語法問題 1000』桐原書店を利用する。必ず購入すること。（英語科教育法ⅠⅡでも利用するので必ず購入すること） 6. COLUMBUS 21 ENGLISH 光村図書			
参考文献	各自が中等高等学校時代に利用した 学習参考書やドリル等			
備考	「英文法 III」履修者であること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

将来、中学高等学校の教育実習に参加して、教諭を目指す学生の為の「学びながら使い、使いながら学ぶ」英文法の指導を通して、自分自身が実際の場面で適切な表現や英文法を活かして使うことが出来るようになる事が目標となる。

文部科学省の検定教科書：外国語（英語）の教科書（平成17年検定）の6冊の中学校の教科書（コロンブス；ニュークラウン；ニューホライズン；トータル；サンシャイン；ワンワールド）や高等学校の教科書を用い、自

講義コード	20529201		
科目名	英語のサウンド研究 英語の発音と音体系のよりよい理解のために		
担当者	山内 信幸		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	『発音型実践英語音声学』 石黒昭博・高坂京子・山内信幸 金星堂		
参考文献			
備考			
科目読替	英語の発音 ※平成19年度以前入学者に適用		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

このクラスでは、調音音声学の立場に基づいた英語音声学の基礎知識を学ぶとともに、英語音韻論に関する入門的知識を修得することを目指します。日本語の音体系に慣れている私たちにとって、異なった音体系をもつ英語の音の特徴を実践的な面からのみならず、理論的な面からも理解することこそが、「英語らしく発音できること」、つまり、ネイティブスピーカーの発音に近づくための早道といえるでしょう。まず、英語の母音・子音に関して、音が正確に聞きとれること、それを正確に発音できること（あるいは、それを正確に発音記号に転写できること）、さらに、英語のサウンドシステムの理論的背景を確実におさえながら、有機的な学習へとつなげていくことを目指します。

2. 教育・学習の個別課題

1. 音声学の基本概念を理解すること。
2. 英語の母音・子音の個々の音を正確に聞きとり、発音すること（音声転写すること）。
3. 音連続の理論的背景を理解すること。
4. 音連続を正確に聞きとり、発音すること（音声転写すること）。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法

授業では、まず、音声学の基礎知識として、音声学の領域、音声器官、言語音の分類などについて概説を与え、次に、母音と子音の解説および発音練習をおこないます。さらに、音連続におけるさまざまな現象について理論的な側面から説明をおこない、できる限りさまざまな課題をこなすことで、音声学ならびに音韻論全般についての理解が深まるようになります。

2. 学習方法

この授業が、いわゆる、「発信型」のコミュニケーションに役立つものとしたので、授業中のみならず、授業外でも、積極的に英語の音に慣れ親しむよう心がけてください。ただ座っているだけでは英語らしい発音には近づくことはできません。また、いわゆる、「耳のよい人」は発音のきれいな人といわれています。不安のある向きには、音楽などによって「音感」を養っておくことをお勧めします。

授業では、該当学習項目の十分な予習・復習は要求しますが、授業の内外での各自の主体的な取り組みを最大限に評価する予定です。「授業は楽しく」をモットーとしています。皆さんの期待は裏切らないつもりです。

・準備学習の具体的な方法

授業の進度に応じて、該当範囲の音読を予習として課します。その際、辞書で与えられている発音記号などを転記し、正確な発音となるように努めて下さい。

4. 評価方法・評価基準

評価は、平常点（出席および授業参加：20%）、小テスト（20%）、中間・学期末に予定している2回の確認テストを総合して判断します。なお、1回欠席すれば3点、1回遅刻すれば1点を最終評価から減じることになります。また、4回以上の欠席は単位取得資格を失うことになるので、注意してください。

5. 授業予定

- 第1回 序論
- 第2回 音声学とは
- 第3回 音声器官
- 第4回 言語音の分類
- 第5回 母音の発音
- 第6回 子音の発音
- 第7回 プロソディー入門
- 第8回 文のリズム
- 第9回 語強勢
- 第10回 句強勢
- 第11回 文強勢
- 第12回 音の変化（連結、脱落、同化）

- 第13回 文の音調
- 第14回 その他
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	20529301		
科目名	英語科教育法 I 英語教育学理論演習		
担当者	橋堂 弘文		
単位数	2	配当学年	2
資格	[教]		
前提科目			
テキスト	『新編英語科教育法入門』 土屋澄男編著他 研究社 『頻出英文法・語法問題1000増補改定版』 桐原書店 『その他、英語教育や採用試験の資料を、適宜プリントし配付する。』		
参考文献	『英語授業事例典』 青木昭六編、橋堂 大修館 『英語授業の組立て』 青木昭六編著、橋堂 開隆堂 『小学校英語活動実践の手引き』 文部科学省：開隆堂 『小学校英語活動アイデアバンク』 樋口忠彦編著、橋堂 教育出版 『学校用語英語小事典』 大修館 英語教育用語辞典（大修館） ロングマン応用言語学用語辞典（南雲堂） DICTIONARY OF TEACHING & APPLIED LINGUISTIC (LONGMAN)		
備考			
科目読替	英語科教育法 I 通年 4単位「英語科教育法 I (新)」と「英語科教育法 II (新)」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

（英語科教育法 I の単位を取得しなければ、英語科教育法 II を受講することは出来ない。）英語教師になる上での必須項目（4技能の各指導法の留意点、発音指導の留意点、学習指導要領の研究、学習者論、教授法、日本語・英語使用の teaching plan、学習評価など）の研究と、教育実習に際して必要となる、指導案の作成、それに基づく後期科目の模擬授業の基礎的な訓練（後期：英語科教育法 II 模擬授業中心の活動）を課す。現職教員（本学卒業生を含む）との研修会「教育を考える橋の会」や現職教員の授業の研究会「英語授業研究会」への参加も推薦したい。また、公立校教員採用試験への対策や特に文法力の養成にも配慮したい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 教材や教具等の習熟
2. 副教材等の作成
3. 評価と調整
4. クラスルーム・イングリッシュの習熟

日頃から、英語教育に限らず教育問題について関心を持ち、自分なりに考えるように心がける。自分が、中学・高校の生徒であった時、英語の授業に何を期待し、どうあって欲しいと願ったか。学校教育の実態に即して、自分ならどういう授業を展開してみたいか。授業外でも考え、積極的に実践発表してもらいたい。

5. 問題集を利用した文法力の養成：問題集：頻出英文法・語法問題1000（桐原書店）を使用する。授業中に指定した範囲で確認テストを実施する。日本語・英語による指導案の作成

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法

グループまたは個人での研究発表や（模擬授業：後期中心）の実施と議論。座席は、最初の講義で指定する。

教師になるのだという自覚を持ち、積極的な参加姿勢で臨んで欲しい。問題集：頻出英文法・語法問題1000（桐原書店）を利用して、指定した範囲の範囲の小テストを課す。小テストの平均70%以上と、TOEIC500点以上の取得も、後期：英語科教育法 II の受講のめやすとした。

2. 学習方法

図書館の文献や資料、研究室前の、授業案集や参考文献、過去に使用した教材・教具、自主作成の教材授業ビデオ等を貸し出すので、課題発表や授業案作成、模擬授業実施の際に利用して欲しい。

・準備学習の具体的な方法

グループまたは個人での教科書ベースの研究発表のプレゼンテーションや議論の準備 文法力の養成：問題集：頻出英文法・語法問題1000（桐原書店）の指定した範囲の確認テストの準備 夏季と冬季休暇中のレポート

課題

4. 評価方法・評価基準

1. 積極的な授業への出席（科目の特質上重視する）（欠課を減点法で評価する。）
2. 指導案作成+模擬授業、文法課題等（20%）
3. レポート（10%）
4. 授業中のまとめテスト（30%）
5. グループまたは個人での教科書ベースの研究発表のプレゼンテーションへの積極的な態度などの総合評価（40%）

5. 授業予定

《授業の内容と進め方》

1. テキストを主に利用して、グループまたは個人で研究発表し、英語教育の基本問題について、参加者全員でディスカッションし、教科教育の学習を深めたい。参加者全員の前で、ハンドアウトを利用し、理解できるように説明する経験は、将来の授業実践に生かされると確信している。テキストの各章の終わりに有る「研究課題」から課題を選び、指導案作成とともに課題とする。
2. 教育実習に向けて、実際の教科書を用いて、各自指導案を作成し、模擬授業を全員が行う。時間の許すかぎり、授業期間中を通じて、学習指導要領及び教員採用試験についても研究する。

《授業予定》

- 第1回 英語教育の目標（学習指導要領）
第2回 新編英語科教育法入門 土屋澄男著（研究社）の第1章
第3回 第1章
第4回 第2章
第5回 第3章
第6回 第4章
第7回 第5章
第8回 第6章
第9回 第7章
第10回 第8章
第11回 第9章
第12回 第10章
第13回 第11章
第14回 第12章
第15回 まとめ

6. 留意事項

遅刻や欠課には、教職科目なので留意すること。私の関わる「ドリカムスクール」や、特に教育委員会主催のスクールインターンシップにも、積極的に参加して、教育現場を体験してもらいたいと思っています。公立小学校の英語活動科目：「こどものための英語」や塾やホームティーチャー用の「児童英語教育」、自分で作成した教材を、実際の小学校での指導に使用する：「教材作成演習」も履修することが望ましい。

講義コード	20529401			
科目名	英語科教育法Ⅱ 英語教育学理論演習			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『新編英語科教育法入門』 土屋澄男編著他 研究社 『頻出英文法・語法問題1000 増補改定版』 桐原書店 『その他、英語教育や採用試験の資料を、適宜プリントし配付する。』			
参考文献	『英語授業実例事典』 青木昭六編、橋堂 大修館 『英語授業の組立て』 青木昭六編著、橋堂 開隆堂 『小学校英語活動実践の手引き』 文部科学省：開隆堂 『小学校英語活動アイデアバンク』 樋口忠彦編著、橋堂 教育出版 『学校用語英語小事典』 大修館 英語教育用語辞典（大修館） ロングマン応用言語学用語辞典（南雲堂） DICTIONARY OF TEACHING & APPLIED LINGUISTIC（LONGMAN）			
備考				
科目読替	英語科教育法Ⅰ 通年 4単位「英語科教育法Ⅰ(新)」と「英語科教育法Ⅱ(新)」を合わせて履修すること ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

（英語科教育法Ⅰの単位を取得しなければ、英語科教育法Ⅱを受講することは出来ない。）英語教師になる上での必須項目（4技能の各指導法の留意点、発音指導の留意点、学習指導要領の研究、学習者論、教授法、日本語・英語使用の teaching plan、学習評価など）の研究と、教育実習に際して必要となる、指導案の作成、それに基づき後期科目の模擬授業の基礎的な訓練（後期：英語科教育法Ⅱ 模擬授業中心の活動）を課す。現職教員（本学卒業生を含む）との研修会「教育を考える橋の会」や現職教員の授業の研究会「英語授業研究会」への参加も推薦したい。また、公立校教員採用試験への対策や特に文法力の養成にも配慮したい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 教材や教具等の習熟
2. 副教材等の作成
3. 評価と調整
4. クラブルーム・イングリッシュの習熟
日頃から、英語教育に限らず教育問題について関心を持ち、自分なりに考えるように心がける。自分が、中学・高校の生徒であった時、英語の授業に何を期待し、どうあって欲しいと願ったか。学校教育の実態に即して、自分ならどういった授業を展開してみたいか。授業外でも考え、積極的に実践発表してもらいたい。
5. 問題集を利用した文法力の養成：問題集：頻出英文法・語法問題1000（桐原書店）を使用する。授業中に指定した範囲で確認テストを実施する。日本語・英語による指導案の作成

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法

グループまたは個人での研究発表や（模擬授業：後期中心）の実施と議論。座席は、最初の講義で指定する。

教師になるのだという自覚を持ち、積極的な参加姿勢で臨んで欲しい。
問題集：頻出英文法・語法問題1000（桐原書店）を利用して、指定した範囲の範囲の小テストを課す。小テストの平均70%以上と、TOEIC500点以上の取得も、後期：英語科教育法Ⅱの受講のめやすとしたい。

2. 学習方法

図書館の文献や資料、研究室前の、授業案集や参考文献、過去に使用した教材・教具、自主作成の教材授業ビデオ等を貸し出すので、課題発表や授業案作成、模擬授業実施の際に利用して欲しい。

・準備学習の具体的な方法

グループまたは個人での教科書ベースの研究発表のプレゼンテーションや議論の準備 文法力の養成：問題集：頻出英文法・語法問題1000（桐原書店）の指定した範囲の確認テストの準備 夏季と冬季休暇中のレポート課題

4. 評価方法・評価基準

1. 積極的な授業への出席（科目の特質上重視する）（欠課を減点法で評価する。）
2. 指導案作成+模擬授業、文法課題等（20%）

3. レポート (10%)
4. 授業中のまとめテスト (30%)
5. グループまたは個人での教科書ベースの研究発表のプレゼンテーションへの積極的な態度などの総合評価 (40%)

5. 授業予定

《授業の内容と進め方》

1. テキストを主に利用して、グループまたは個人で研究発表し、英語教育の基本問題について、参加者全員でディスカッションし、教科教育の学習を深めたい。参加者全員の前で、ハンドアウトを利用し、理解できるように説明する経験は、将来の授業実践に生かされると確信している。テキストの各章の終わりに有る「研究課題」から課題を選び、指導案作成とともに課題とする。
2. 教育実習に向けて、実際の教科書を用いて、各自指導案を作成し、模擬授業を全員が行う。時間の許すかぎり、授業期間中を通じて、学習指導要領及び教員採用試験についても研究する。

《授業予定》

第1回	英語教育の目標 (学習指導要領)
第2回	新編英語科教育法入門 土屋澄男著 (研究社) の第1章
第3回	第13章
第4回	第14章
第5回	第15章
第6回	第16章
第7回	第17章
第8回	第18章
第9回	第19章
第10回	第20章
第11回	第21章
第12回	第22章
第13回	指導案の作成
第14回	模擬授業
第15回	まとめ

6. 留意事項

遅刻や欠課には、教職科目なので留意すること。私の関わる「ドリカムスクール」や、特に教育委員会主催のスクールインターンシップにも、積極的に参加して、教育現場を体験してもらいたいと思っています。公立小学校の英語活動科目：「こどものための英語」や塾やホームティーチャー用の「児童英語教育」、自分で作成した教材を、実際の小学校での指導に使用する：「教材作成演習」も履修することが望ましい。

意事項に基づき、中学高校の教科書を利用して、指導事項の精選、指導案の作成、模擬授業の準備、模擬授業、形成的な評価、他者と自己評価等の実践を、時間が許す限り行う。教育の課題や問題点、最近の話題にも触れ、公立校教員採用試験への対策にも配慮したい。現職教員(本学卒業生を含む)との研修会「教育を考える橋の会」や現職教員の授業の研究会「英語授業研究会」への参加も推薦したい。目の前の課題をポジティブに捕らえ、考え行動出来る、実践的な教員としての資質を高める努力を、授業全期間を通じて惜しまずしたい。文法のテキスト「頻出英文法・語法問題1000」(桐原書店)を、英語科教育法Iに引き続き利用して、文法・語法力の養成に努める。

特にデジタル教材やICTの取り扱いについても練習する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 日本語文・英文使用の指導案の作成；単元や本時の到達目標の作成等
2. 教材や教具等の準備
3. 副教材等の作成
4. 授業の形成評価とフィードバック
5. クラスルーム・イングリッシュの習熟練習
6. 日頃から、英語教育に限らず教育問題について関心を持ち、自分なりに考えるように心がける。自分が、中学・高校の生徒であった時、英語の授業に何を期待し、どうあって欲しいと願ったか。学校教育の実態に即して、自分ならどういう授業を展開してみたいか、授業外でも日頃から考え、積極的に実践発表してもらいたい。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法

グループまたは個人での模擬授業の実施と議論。座席は、最初の講義で指定する。教師になるのだという自覚を持ち、積極的な参加姿勢で臨んで欲しい。模擬授業終了後に、受講者全員に、授業評価表を配布して、相互評価を行う。指導案作成課題、テスト、前期課題、後期課題の提出を求める。「頻出英文法・語法問題1000」(桐原書店)を、英語科教育法Iに引き続き利用し、文法・語法力の養成に努める。指定した範囲の文法・語法テストを課す。

2. 学習方法

研究室前の、授業案集や参考文献、過去に使用した教材・教具、自主作成の教材授業ビデオ等を貸し出すので、授業案作成や模擬授業実施の際に利用して欲しい。

・準備学習の具体的な方法

1. 指導案の作成；単元や本時の到達目標の作成等
2. 教材や教具等の準備
3. 副教材等の作成
4. 授業の形成評価とフィードバック
5. クラスルーム・イングリッシュの習熟練習

4. 評価方法・評価基準

1. 積極的な授業への出席(科目の特質上、特に重視する。)欠課を減点法で評価する。
2. 指導案+模擬授業、ディスカッション、課題発表等：80%
3. レポート：10%
4. 授業中のテスト：10%

授業中の積極的な態度などの総合評価：2月の教職課程の補講で2年生の英語科教育法IIの受講生に対して全員が模擬授業を展開する。

5. 授業予定

《授業の内容と進め方》

教育実習に向けて、実際の教科書を用いて、各自指導案を作成し、模擬授業を全員が行う。50分模擬授業を個人で最低4回は実践する。模擬授業実施後は、受講者相互で授業評価を行う。授業時間の許すかぎり、授業期間中を通じて、教育問題に対する議論を実施し、学習指導要領及び教員採用試験についても研究する。

《授業予定》

第1回	1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施
第2回	1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施
第3回	1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施
第4回	1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施
第5回	1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施
第6回	1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施
第7回	1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施
第8回	1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施
第9回	1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施
第10回	1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施
第11回	1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施
第12回	1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施
第13回	1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施
第14回	1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施
第15回	1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施

6. 留意事項

役員をしている非営利NPO法人主催の公立小中高校のスクールインター

講義コード	20529501			
科目名	英語科教育法III 教育実習指導案作成と模擬授業			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『英語授業ハンドブック』 金谷憲 大修館 『英語科教育法I使用教科書：新英語科教育法入門』 土屋澄男著 研究社 『文法のテキスト「頻出英文法・語法問題1000」(桐原書店)を、英語科教育法Iに引き続き利用して、文法・語法力の養成に努める。』			
参考文献	『英語授業事例事典』 青木昭六編著、橋堂 大修館 『英語授業の組立て』 青木昭六編著、橋堂 開隆堂 『小学校英語活動実践の手引き』 文部科学省：開隆堂 『小学校英語活動アイデアバンクソング・ゲーム集』 樋口忠彦編著、橋堂 教育出版 『学校用語英語小事典I・II』 大修館 英語教育用語辞典 (大修館) ロングマン応用言語学辞典 (南雲堂) DICTIONARY OF LANGUAGE TEACHING & APPLIED LINGUISTIC (LONGMAN)			
備考	英語英文学科の必修科目(1・2年次配当)を履修済みであること。学科の定めたTOEICの基準点を満たしていること。「英語科教育法I-II」履修済みであること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

英語科教育法Iで学習した理論や学習指導要領、4言語技能の指導の留

ンシップ「ドリカムスクール」や、特に教育委員会主催のスクールインターンシップにも、積極的に参加して、教育現場を体験してもらいたいと思っています。公立小学校の英語活動科目：「こどものための英語」や塾やホームティーチャー用の「児童英語教育」、自分で作成した教材を、実際の小学校での指導に使用する：スクール・インターンシップを伴う「教材作成演習」も履修することが望ましい。

講義コード	20529601			
科目名	英語科教育法Ⅳ 教育実習指導案作成と模擬授業			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『英語授業ハンドブック』 金谷憲 大修館 『英語科教育法Ⅰ使用教科書：新英語科教育法入門』 土屋澄男著 研究社 『文法のテキスト「頻出英文法・語法問題 1000」(桐原書店)を、英語科教育法Ⅰに引き続き利用して、文法・語法力の養成に努める。』			
参考文献	『英語授業事例事典』 青木昭六編著、橋堂 大修館 『英語授業の組立て』 青木昭六編著、橋堂 開隆堂 『小学校英語活動実践の手引き』 文部科学省：開隆堂 『小学校英語活動アイデアバンクソング・ゲーム集』 樋口忠彦編著、橋堂 教育出版 『学校用語英語小事典Ⅰ・Ⅱ』 大修館 英語教育用語辞典 (大修館) ロンガン応用言語学辞典 (南雲堂) DICTIONARY OF LANGUAGE TEACHING & APPLIED LINGUISTIC (LONGMAN)			
備考	英語英文学科の必修科目(1・2 年次配当分)を履修済みであること。学科の定めたTOEICの基準点を満たしていること。「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」履修済みであること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

英語科教育法Ⅰで学習した理論や学習指導要領、4言語技能の指導の留意事項に基づき、中学/高校の教科書を利用して、指導事項の精選、指導案の作成、模擬授業の準備、模擬授業、形成的な評価、他者と自己評価等の実践を、時間が許す限り行う。教育の課題や問題点、最近の話題にも触れ、公立校教員採用試験への対策にも配慮したい。現職教員(本学卒業生を含む)との研修会「教育を考える橋の会」や現職教員の授業の研究会「英語授業研究学会」への参加も推薦したい。目の前の課題をポジティブに捕らえ、考え行動出来る、実践的な教員としての資質を高める努力を、授業全期間通じて惜しまずしたい。文法のテキスト「頻出英文法・語法問題 1000」(桐原書店)を、英語科教育法Ⅰに引き続き利用して、文法・語法力の養成に努める。

特にデジタル教材やICTの取り扱いについても練習する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 日本語文・英文使用の指導案の作成；単元や本時の到達目標の作成等
2. 教材や教具等の準備
3. 副教材等の作成
4. 授業の形成評価とフィードバック
5. クラスルーム・イングリッシュの習熟練習
6. 日頃から、英語教育に限らず教育問題について関心を持ち、自分なりに考えるように心がける。自分が、中学・高校の生徒であった時、英語の授業に何を期待し、どうあつて欲しいと願ったか。学校教育の実態に即して、自分ならどういう授業を展開してみたいか、授業外でも日頃から考え、積極的に実践発表してもらいたい。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法

グループまたは個人での模擬授業の実施と議論。座席は、最初の講義で指定する。教師になるのだという自覚を持ち、積極的に参加姿勢で臨んで欲しい。模擬授業終了後に、受講者全員に、授業評価表を配布して、相互評価を行う。指導案作成課題、テスト、前期課題、後期課題の提出を求める。

「頻出英文法・語法問題 1000」(桐原書店)を、英語科教育法Ⅰに引き続き利用し、文法・語法力の養成に努める。指定した範囲の文法・語法テストを課す。

2. 学習方法

研究室前の、授業案集や参考文献、過去に使用した教材・教具、自主作成の教材授業ビデオ等を貸し出すので、授業案作成や模擬授業実施の際に利用して欲しい。

・準備学習の具体的な方法

1. 指導案の作成；単元や本時の到達目標の作成等
2. 教材や教具等の準備
3. 副教材等の作成
4. 授業の形成評価とフィードバック
5. クラスルーム・イングリッシュの習熟練習

4. 評価方法・評価基準

1. 積極的な授業への出席(科目の特質上、特に重視する。)欠課を減点法で評価する。

2. 指導案+模擬授業、ディスカッション、課題発表等：80%

3. レポート：10%

4. 授業中のテスト：10%

授業中の積極的な態度などの総合評価：2月の教職課程の補講で2年生の英語科教育法Ⅱの受講生に対して全員が模擬授業を展開する。

5. 授業予定

《授業の内容と進め方》

教育実習に向けて、実際の教科書を用いて、各自指導案を作成し、模擬授業を全員が行う。50分模擬授業を個人で最低4回は実践する。模擬授業実施後は、受講者相互で授業評価を行う。授業時間の許すかぎり、授業期間中を通じて、教育問題に対する議論を実施し、学習指導要領及び教員採用試験についても研究する。

《授業予定》

第1回 1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施

第2回 1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施

第3回 1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施

第4回 1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施

第5回 1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施

第6回 1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施

第7回 1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施

第8回 1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施

第9回 1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施

第10回 1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施

第11回 1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施

第12回 1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施

第13回 1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施

第14回 1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施

第15回 1~15時間の個人とチーム・ティーチングによる模擬授業準備と実施

6. 留意事項

役員をしている非営利NPO法人主催の公立小中高校のスクールインターンシップ「ドリカムスクール」や、特に教育委員会主催のスクールインターンシップにも、積極的に参加して、教育現場を体験してもらいたいと思っています。公立小学校の英語活動科目：「こどものための英語」や塾やホームティーチャー用の「児童英語教育」、自分で作成した教材を、実際の小学校での指導に使用する：スクール・インターンシップを伴う「教材作成演習」も履修することが望ましい。

講義コード	20529701			
科目名	こどものための英語教育 I 小学校外国語活動(英語教育)に効果的な教授法と具体的な指導について			
担当者	高橋 美由紀			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Sunshine kids book1/2』 高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版 2001 『Hello, Kids! Book 1/2』 高橋美由紀 他 開隆堂出版 2009 『新しい小学校英語科教育法』 高橋美由紀・柳善和(編著) 協同出版 2011 なお、洋書の文献は、授業中にプリントを配布します。			
参考文献	『これからの小学校英語教育の構想』 高橋美由紀(編著) アプリコット 2009 『これからの小学校英語教育の展開』 高橋美由紀(編著) アプリコット 2010 『これからの小学校英語教育の発展』 高橋美由紀(編著) アプリコット 2011 テキストと同様 洋書の参考文献は授業で紹介いたします。			
備考	こどものための英語教育 II も併せて履修することが望ましい			
科目読替	こどものための英語教育(理論篇) ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

小学校での外国語活動(英語教育)が高学年で必修化された。本講座は、小学校で外国語活動(英語教育)を指導するための教師を養成することを目的としている。子どもの英語教育 I では、小学校外国語活動(英語教育)に必須の基本的な知識について、言語政策、認知心理学、教授法、教育学、実践の知識など多方面から学ぶ。また、それらの理論的な背景を基にした具体的な指導方法についても学ぶ。授業終了時には、小学校英語の指導に対する理論的な背景が理解でき、また、その指導法についても実践学として理解できるようになっている。

2. 教育・学習の個別課題

子どもの英語教育 I では、小学校外国語活動(英語教育)の基本的な知識について、講義する。とりわけ、教授法については、子どもの外国語教育として効果的な教授法や、コミュニケーション能力を育成するための教授法などをとりあげ、マイクロティーチングを通して、指導法の実践を行う。
(1) アジア諸国や我が国の言語政策から小学校英語教育の目指す方向性、(2) 言語習得理論や教授法から、児童に効果的な英語教育の指導法、(3) 教材・教具の基本的な知識やその指導法の知識、(4) 小・中連携の英語教育の在り方、について学ぶ。

3. 教育・学習の方法

授業は講義・発表・ディスカッション形式で行う。上記で紹介したテキスト、さらに、授業中に配布するプリントを使用し、小学校英語の理論と実践の知識について様々な角度から学ぶ。また、受講者によるマイクロティーチングで、指導法の実践、評価のあり方なども学ぶ。

・準備学習の具体的な方法

- 第1回 序論(小学校英語教育とは)
小学校外国語活動について、ネットや文献で調べる。
第2・3回 我が国と諸外国の小学校外国語活動・英語教育について
諸外国の小学校での言語教育について、調べる。
第4～6回 小学校外国語活動(英語教育)に効果的な教授法について
自分が受けた英語教育についてまとめてくる。小学校で英語を教えることと、自分が受けた中学校での英語教育について、考察する。
第7回 児童英語で使用したい教授法の発表とディスカッション
教授法について、TPR と CLT について、調べる。
第8～11回 児童の認知発達と発達段階に応じた指導法について
マイクロティーチングを行う
子どもの発達段階について調べ、どんな指導法が適切かを考察し、マイクロティーチングの準備をする。
第12回 発達段階に応じた指導法の発表とディスカッション
指導法を発表する準備をする
第13～14回 教材・教具の基本的な知識について
小学校外国語活動や英語教育に適している教材や教具を調べる
第15回 教材・教具の発表とディスカッション
発表準備

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 10%と授業中の態度、提出物 40%、発表 50%で評価を行う。意欲的に取り組むことが大切である。欠席・遅刻は、減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 序論(小学校外国語活動・英語教育とは)
第2回 学習指導要領について
第3回 我が国と諸外国の小学校英語について
第4回 コミュニケーション能力育成を目的とした外国語教育のあり方、小中連携の英語教育について
第5回 小学校外国語活動(英語教育)に効果的な教授法について—TPR とその具体的な指導法
第6回 小学校外国語活動(英語教育)に効果的な教授法について—コミュニケーション重視の教授法とその具体的な指導法
第7回 小学校外国語活動(英語教育)に効果的な教授法について—文字指導に効果的な指導法
第8回 小学校外国語活動(英語教育)に効果的な教授法について—タスクを用いた指導法
第9回 児童英語で使用したい教授法の発表とディスカッション
第10回 児童の認知発達と発達段階に応じた指導法について
マイクロティーチング
第11回 児童の認知発達と発達段階に応じた指導法について
マイクロティーチング
第12回 発達段階の応じた指導法の発表とディスカッション
第13回 教材・教具の基本的な知識について
第14回 教材・教具の作成とそれを使用した指導法について
第15回 教材・教具の発表とディスカッション

6. 留意事項

こどものための英語教育 II も履修することが望ましい。子どもの英語教育に興味・関心がある学生が履修すること。

講義コード	20529801			
科目名	こどものための英語教育 II 小学校外国語活動の理論と指導法			
担当者	高橋 美由紀			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Sunshine kids book1/2』 高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版 2001 『Hell, Kids! Book 1/2』 高橋美由紀 他 開隆堂出版 2009 『新しい小学校英語科教育法』 高橋美由紀・山岡多美子柳善和(編著) 協同出版 2011 なお、洋書の文献は、授業中にプリントを配布します。			
参考文献	『これからの小学校英語教育の構想』 高橋美由紀(編著) アプリコット 2009 『これからの小学校英語教育の展開』 高橋美由紀(編著) アプリコット 2010 『これからの小学校英語教育の発展』 高橋美由紀(編著) アプリコット 2011 テキストと同様 なお、洋書は授業中に紹介する。			
備考	こどものための英語教育 I を併せて履修することが望ましい。			
科目読替	こどものための英語教育(実践篇) ※平成19年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

公立小学校で小学校外国語活動(英語教育)は必修化になった。本講座では、公立小学校で外国語活動(英語教育)の指導者を育成するための講座である。こどものための英語教育 II では、前期で学んだ小学校外国語活動(英語教育)の指導に関する理論的な背景(教育学、教授法、コミュニケーション)や実践指導の教材・教具知識から、実際に、小学校現場で実践指導ができるようになっている。また、小学校英語のカリキュラムを立案や、教材・教具の作成などを行い、実践指導へと繋げる力を育成する。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 効果的な歌やチャンツ等、音声教材の指導法、(2) 絵本や DVD、マルチメディア等視聴覚教材の指導法、(3) ゲームの指導とその内容、(4) ごっこ遊びやインタビューを通じたコミュニケーション活動の在り方、(5) 中学校英語教育へ繋げる指導法等について、実際に模擬授業を通して指導

法を学習する。また、友人の模擬授業の評価をレポートする。

3. 教育・学習の方法

授業は講義・発表・ディスカッション・レポート形式で行う。上記のテキストと、配布するプリント、さらに、自らが作成した教材・教具等を使用し、小学校外国語活動（英語教育）の理論と実践について様々な角度から学ぶ。

・準備学習の具体的な方法

第1・2回 序論（小学校英語教育とは） 諸外国・日本の英語教育の現状と課題

こどものための英語教育Iで学習した内容を復習してくる。

第3・4回 歌やチャンツなど音声教材を使用した指導法について

歌やチャンツを聴き、小学校外国語活動で使用できそうなものを選んでくる。

第5・6回 絵本やDVD、マルチメディア等視聴覚教材を使用した指導法について

絵本や視覚教材を作成するために、小学校英語で使用できそうな教材を選んでくる。

第7・8回 ゲームやごっこ遊びを通したコミュニケーション活動の指導法について

ゲームやごっこ遊びについて、どんな活動があるのかをインターネットで調べる。

第9・10回 授業計画・シラバスの立て方、教材・教具の作成方法、模擬授業の方法について

公立小学校で実施されているシラバスを調べる。模擬授業の準備として、教材・教具を作成する。

第11～15回 模擬授業と評価

模擬授業の準備と練習

他の受講生の授業を見た、評価とコメントを書く。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 10%と授業中の態度、提出物 40%、発表 50%で評価を行う。

意欲的に取り組むことが大切である。欠席・遅刻は、減点対象となる。

欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. 授業予定

第1回 序論（小学校英語教育とは） 諸外国・日本の英語教育の現状と課題

第2回 小学校外国語活動ー学習指導要領について

第3回 歌やチャンツなど音声教材を使用した指導法について

第4回 歌やチャンツなど音声教材を使用した指導法について

第5回 絵本やDVD、マルチメディア等視聴覚教材を使用した指導法について

第6回 絵本やDVD、マルチメディア等視聴覚教材を使用した指導法について

第7回 ゲームやごっこ遊びを通したコミュニケーション活動の指導法について

第8回 ゲームやごっこ遊びを通したコミュニケーション活動の指導法について

第9回 授業計画・シラバスの立て方

第10回 授業計画・シラバスの立て方、教材・教具の作成方法

第11回 教材・教具の使用法、模擬授業の方法について

第12回 模擬授業のあり方について

第13回 模擬授業と評価

第14回 模擬授業と評価

第15回 模擬授業と評価

6. 留意事項

講義コード	20530101			
科目名	応用言語学 I 教科学習と言語 I			
担当者	沖原 勝昭			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『学習言語とは何か:教科学習に必要な言語能力』 パトラー後藤裕子 三省堂 2011			
参考文献	『英語科教育のフロンティア』 青木昭六(編著) 保育出版社 2012 『英語教育政策』 矢野安剛ほか 大修館書店 2011 『Longman Dictionary of Language Teaching & Applied Linguistics (4th Ed.)』 Richards, J. C. & R. Schmidt Longman 2010			
備考 科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

応用言語学の主要な目標は、外国語（英語）の教授・学習過程を解明し、より効果的な理論と実践についての知見を提供することである。本科目では、応用言語学の諸分野を鳥瞰しつつ、焦点を学校教育における言語（母語と外国語）の役割に当てて、教科学習に求められる言語能力とは何かを考察する。

2. 教育・学習の個別課題

本授業では、以下のテーマについて、理解を深める。

- ・「話しことば」と「書きことば」のちがひ
- ・言語能力の構成要素
- ・教科学習に必要な言語能力（＝「学習言語」能力）
- ・学習言語の指導と評価

3. 教育・学習の方法

本授業は、指定のテキストの講読を中心として進める。はじめに、教員がテーマを導入し、解説を加える。受講生はテーマ毎に分担し、テキストの要約を発表し、全員で討議する。

・準備学習の具体的な方法

指定されたテキストの範囲や課題について、教員が予告指示したことに對して、受講生は担当を決めて準備し、輪番でクラスで発表する。

4. 評価方法・評価基準

担当を含む授業参加度（50%）、レポート課題（50%）

5. 授業予定

- 第1回 学習言語の教育的背景：日本語学習
- 第2回 学習言語の教育的背景：英語学習
- 第3回 日本の実情
- 第4回 アメリカの実情
- 第5回 学習言語の定義
- 第6回 学習言語のとらえ方
- 第7回 BICSとCALP
- 第8回 言語能力の区分法
- 第9回 学習言語の構成要素：言語的側面
- 第10回 学習言語の構成要素：認知的側面
- 第11回 教科学習に必要な語彙
- 第12回 学習語彙の選定
- 第13回 学習語彙の評価
- 第14回 語彙力とは
- 第15回 語彙習得と学習

6. 留意事項

講義コード	20530201			
科目名	応用言語学Ⅱ 教科学習と言語Ⅱ			
担当者	沖原 勝昭			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『学習言語とは何か:教科学習に必要な言語能力』バ トラー後藤裕子 三省堂 2011			
参考文献	『英語科教育のフロンティア』青木昭六(編著)保 育出版社 2012 『英語教育政策』矢野安剛ほか 大修館書店 2011			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

応用言語学の主要な目標は、外国語(英語)の教授・学習過程を解明し、より効果的な理論と実践についての知見を提供することである。本科目では、応用言語学の諸分野を鳥瞰しつつ、焦点を学校教育における言語(母語と外国語)の役割に当て、教科学習に求められる言語能力とは何かを考察する。

2. 教育・学習の個別課題

本授業では、以下のテーマについて、理解を深める。

- ・「話しことば」と「書きことば」のちがひ
- ・言語能力の構成要素
- ・教科学習に必要な言語能力(=「学習言語」能力)
- ・学習言語の指導と評価

3. 教育・学習の方法

本授業は、指定のテキストの講読を中心として進める。はじめに、教員がテーマを導入し、解説を加える。受講生はテーマ毎に分担し、テキストの要約を発表し、全員で討議する。

・準備学習の具体的な方法

指定されたテキストの範囲や課題について、教員が予告指示したことに対して、受講生は担当を決めて準備し、輪番でクラスで発表する。

4. 評価方法・評価基準

担当を含む授業参加度(50%)、レポート課題(50%)

5. 授業予定

- 第1回 学習言語としての書きことば
- 第2回 英語 EAP の研究
- 第3回 書きことばの特徴
- 第4回 書きことばの理解
- 第5回 学習言語としての話しことば
- 第6回 授業中の談話の特徴
- 第7回 母語での音声言語能力
- 第8回 第2言語での音声言語能力
- 第9回 学習言語の指導
- 第10回 学習者のニーズ
- 第11回 学習言語習得の診断
- 第12回 学習言語の評価
- 第13回 学習言語のとらえ方
- 第14回 学習言語習得の支援
- 第15回 学習言語についてのまとめ

6. 留意事項

講義コード	20543101			
科目名	異文化コミュニケーション Intercultural Communication			
担当者	Gregory Peterson			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英][日][ホ][医]			
前提科目				
テキスト	Changes in Intercultural Communication			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will help students understand intercultural contact, appreciate cultural and individual differences, adapt to unfamiliar situations, and communicate with confidence, empathy, and integrity.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. Understand identity and affiliation.
2. Identify elements of subjective culture.
3. Recognize stereotypes and prejudices.
4. Appreciate differences between people.
5. Manage intercultural anxiety and conflict.
6. Articulate important personal value

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. Each class will include a lecture and writing.
2. We will use KNDU e-mail and the Web.
3. I will prepare a weekly podcast (audio).
4. Students will send e-mail about the podcast.
5. Report: a 500-word case study in English.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. Read the class text.
2. Listen to the weekly podcast.
3. Send e-mail to the instructor.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Participation (attendance, writing, e-mail) 50%, Report 50%.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 The study of culture
- 第3回 Intercultural contact
- 第4回 Nonverbal communication
- 第5回 Communication on the Internet
- 第6回 Group affiliation and identity
- 第7回 Intergroup tension and prejudice
- 第8回 Promoting tolerance
- 第9回 Sojourner adaptation: culture shock
- 第10回 Sojourner adaptation: coping strategies
- 第11回 Empathy and world views in contact
- 第12回 Ethical dilemmas and social issues
- 第13回 Universal Declaration of Human Rights
- 第14回 Course review, discuss reports
- 第15回 Evaluation and feedback

6. Special Information (留意事項)

See my Web site for more information:
<http://www.notredame.ac.jp/~peterson/>

講義コード	20543201			
科目名	対人コミュニケーション Interpersonal Communication			
担当者	Gregory Peterson			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[日][ブ][ホ][医]			
前提科目				
テキスト	Choices in Interpersonal Communication: An Intercultural Approach to Personal Encounters			
参考文献	Links to resources will be on the class Web site.			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will help students understand interpersonal communication processes and become more effective and confident communicators. Each student will also strive to achieve her own personal communication goals.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. Gain confidence in interpersonal encounters.
2. Understand interpersonal processes.
3. Recognize nonverbal communication patterns.
4. Improve listening skills and show empathy.
5. Improve speaking and self-disclosure skills.
6. Recognize and cope with ethical dilemmas.

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. Each class will include a lecture and writing.
2. We will use KNDU e-mail and the Web.
3. I will prepare a weekly podcast (audio).
4. Students will send e-mail about the podcast.
5. Report: a 500-word case study in English.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. Read the class text.
2. Listen to the weekly podcast.
3. Send e-mail to the instructor.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Participation (attendance, writing, e-mail) 50%, Report 50%.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Changing your communication behavior
- 第3回 Active listening
- 第4回 Meeting people and socializing
- 第5回 Self-disclosure and trust
- 第6回 Nonverbal communication
- 第7回 Interpersonal communication technology
- 第8回 Conflict causes and styles
- 第9回 Conflict resolution strategies
- 第10回 Small group interaction
- 第11回 Personal beliefs and values
- 第12回 Ethics in interpersonal communication
- 第13回 Empathy and appreciation
- 第14回 Course review
- 第15回 Evaluation and feedback

6. Special Information (留意事項)

See my Web site for more information:
<http://www.notredame.ac.jp/~peterson/>

講義コード	20543801		
科目名	コンピュータネットワークコミュニケーションA Computer-Mediated Communication (CMC)		
担当者	Gregory Peterson		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ウ]		
前提科目			
テキスト	Materials will be on the class Web site.		
参考文献	The class Web site will include links to examples, tutorials, and appropriate Web standards.		
備考	定員20人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	20543802		
科目名	コンピュータネットワークコミュニケーションB Computer-Mediated Communication (CMC)		
担当者	Gregory Peterson		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ウ]		
前提科目			
テキスト	Materials will be on the class Web site.		
参考文献	The class Web site will include links to examples, tutorials, and appropriate Web standards.		
備考	定員20人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

Students will learn to use the global Internet as a medium of communication in English. Topics include Internet technologies, legal and social issues, and writing skills. Each student will maintain a weekly Web log (blog) in English.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. Use the Internet safely and responsibly.
2. Understand legal and ethical issues.

3. Edit XHTML and CSS source files with Emacs.
4. Create accessible Web pages in English.
5. Use photographs and other media appropriately.

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. We will meet in a Unix or Linux computer lab.
2. Students will maintain English Web portfolios.
3. All necessary resources will be on the Web.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. Read e-mail and Web pages.
2. Prepare weekly blog content.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades: participation (30%), Web logs (70%).

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 GNU/Linux environment
- 第2回 Managing Unix files for Web logs
- 第3回 Hypertext Markup Language (XHTML)
- 第4回 Cascading Style Sheets (CSS)
- 第5回 Using photographs in Web logs
- 第6回 Information technology standards
- 第7回 Web design for universal access
- 第8回 Internet security for bloggers
- 第9回 Legal issues for bloggers
- 第10回 Ethical issues for bloggers
- 第11回 Podcasting and syndication
- 第12回 Media and participatory culture
- 第13回 Global youth media
- 第14回 Web log reviews
- 第15回 Course review and evaluation

6. Special Information (留意事項)

1. Class size is limited to 20 members.
2. Student Web pages are visible only on campus.
3. See my Web site for more information:
<http://www.notredame.ac.jp/~peterson/>

講義コード	20543901		
科目名	マルチメディア研究 Multimedia Studies		
担当者	Gregory Peterson		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	Class materials will be available on the class Web site.		
参考文献	The class Web site will include links to current examples, tutorials, reviews, and technical information.		
備考	定員20人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

Multimedia Studies will enable you to more fully understand and appreciate digital text, photography, audio, and documentary film/video for Global communication on the Internet. You will develop a critical understanding of media produced in English by learning basic principles of multimedia storytelling; media technology; and legal, ethical, and cultural issues in the use of media.

The study of media will help you make sound judgments in the selection and use of multimedia for various purposes. We will focus on nonfiction works produced by individuals and small groups for education, journalism, and cultural exchange.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. Show understanding of storytelling principles.
2. Recognize elements of audio and visual media.
3. Demonstrate legal and ethical behavior in media use.
4. Locate and select media content on the Internet.
5. Describe and share links to works on the Internet.
6. Create digital collections for the Web.

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. We will meet weekly in a GNU/Linux computer lab.

- We will share information and ideas by e-mail.
- Each student will create a Web portfolio that will include an annotated list of works and a collection of digital objects, such as photographs. Collections may include digitized versions of photographs and other analog materials.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- Read class materials and notes.
- Exchange e-mail with classmates and the instructor.
- Locate and review materials on the Web.
- Prepare contents for Web portfolios.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and participation (30%), e-mail contributions (20%), Web portfolios (50%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Storytelling with media
- 第3回 Web portfolio preparation
- 第4回 Text and typography
- 第5回 Photography and graphics
- 第6回 Sound (field recordings, interviews, narration, music)
- 第7回 Audio slideshows
- 第8回 Film and video documentaries
- 第9回 Technical standards for the Web
- 第10回 Legal issues
- 第11回 Ethical issues
- 第12回 Preservation of visual materials
- 第13回 Digital collections
- 第14回 Portfolio presentations
- 第15回 Review and feedback

6. Special Information (留意事項)

- Class size is limited to 20 members.
- All class work will be in English.
- Student Web pages are visible only from computers on campus.
- See my Web pages for more information:
<<http://www.notredame.ac.jp/~peterson/>>

- You will collaborate on multimedia projects.
- You will create Web portfolios or your creative work, including photo albums, audio recordings, and movies.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- Read class materials.
- Locate relevant materials on the Web.
- Create text, audio, and visual works.
- Collaborate with classmates and the instructor.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and participation (30%), preparation and collaboration (20%), Web portfolios (50%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Web portfolio preparation
- 第3回 Photography
- 第4回 Photo editing
- 第5回 Photo albums
- 第6回 Digital audio
- 第7回 Audio recording
- 第8回 Audio editing
- 第9回 Audio on the Web
- 第10回 Movie planning
- 第11回 Movie production
- 第12回 Movie postproduction
- 第13回 Movie editing
- 第14回 Web portfolio editing
- 第15回 Web portfolio presentation

6. Special Information (留意事項)

- Class size is limited to 20 members.
- All class work will be in English.
- Student Web pages are visible only from computers on campus.
- See my Web pages for more information:
<<http://www.notredame.ac.jp/~peterson/>>

講義コード	20546801			
科目名	マルチメディア制作 Multimedia Production			
担当者	Gregory Peterson			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	Class materials will be available on the class Web site.			
参考文献	The class Web site will include links to current examples, tutorials, reviews, and technical information.			
備考	定員 20人 「マルチメディア研究」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

In this class you will gain knowledge and skill for active participation as a media producer on the global Internet. In Multimedia Production you will learn to make high-quality digital photo albums, sound recordings, audio slideshows, and video recordings. We will use low-cost mobile technology, such as smartphones, digital cameras, and digital audio recorders. Knowledge and skills gained in this class is useful to people in many professions, such as teaching, journalism, and media-related occupations.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

You will demonstrate basic competence in storytelling with media: photography and image editing, time-based recording and editing (audio and video), and presentation of media on the Web. As you create media content, you will apply your understanding of digital standards, legal issues (e.g., copyright), ethical issues (e.g., privacy), and effective communication for global audiences.

3. Course Method (教育・学習の方法)

- We will meet weekly in a Unix (GNU/Linux) computer lab.

講義コード	20546901			
科目名	言語, 文化, コミュニケーション			
担当者	小山 哲春			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[情][ブ][ホ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『A first look at communication』 Griffin, E. McGraw Hill 2006			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

本講義では、コミュニケーションという現象の中心となる『言語』、コミュニケーションのあり方に多大な影響を与える『文化』、という二つの側面からコミュニケーションにアプローチし、そのメカニズムと現象の多様性を考察していく。

2. 教育・学習の個別課題

- コミュニケーションの基本的メカニズムを考察し、様々な形態のコミュニケーションの成り立ちとダイナミズムを理解する。
- コミュニケーションにおいて言語の果たす役割を考察し、人がメッセージを受け取り理解するプロセスを理解する。
- コミュニケーションに与える文化の影響を考察し、異文化コミュニケーションのメカニズムを理解する。

3. 教育・学習の方法

テキスト、参考文献に基づいた講義を行い、質疑応答、指定課題の理解を前提としたディスカッション等を行っていく。その他、授業内容の理解に関する試験、およびレポートの提出。

・準備学習の具体的な方法

Web上に掲載する講義ノート (PowerPoint スライド) をダウンロードして予習を行う。

4. 評価方法・評価基準

出席・授業参加 (20%)、個別課題 (20%)、試験 (40%)、ペーパー (20%) に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 コミュニケーションの定義
- 第2回 コミュニケーションの起源

- 第3回 コミュニケーションと記号(1): 言語記号の性質と役割
- 第4回 コミュニケーションと記号(2): 動物のコミュニケーション
- 第5回 ことばの意味の生成: 象徴的相互作用論
- 第6回 ことばの意味の伝達: 推論による意図理解
- 第7回 メッセージの役割(1): 構築主義コミュニケーション論と他者視点取得
- 第8回 メッセージの役割(2): 人中心メッセージ
- 第9回 対人コミュニケーションスキル(1): 葛藤管理
- 第10回 対人コミュニケーションスキル(2): アサーション
- 第11回 対人コミュニケーションスキル(3): 双方向議論
- 第12回 対人コミュニケーションスキル(4): 嘘と欺瞞
- 第13回 文化と認識とコミュニケーションの関係
- 第14回 異文化間コミュニケーションスキル
- 第15回 コミュニケーション能力について(総括)

6. 留意事項

講義コード	20547201		
科目名	個別コミュニケーション研究 I		
担当者			
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

個別研究は、当該の領域の主たる科目を履修した学生が、さらに発展的な学習を進めるための科目である。個別研究を指導する学生は、①特定の研究課題を設定し、②研究計画を立て、③担当教員の指導のもとで自主的に研究を行う。原則として卒業研究と同じテーマを選ぶことは出来ないが、卒業研究の指導教員および個別研究の担当教員両方が適切かつ有益と認めた場合には、卒業研究に関連するトピックについて個別研究を行うことも可能である。

2. 教育・学習の個別課題

1. アクティブラーナーとして学習目標を定められる。
2. 学習計画が作成できる。
3. 個別課題を遂行できる。
4. 指導教員の指導をうける。
5. 期日までに指導教員に課題提出ができる。

3. 教育・学習の方法

履修登録について

条件

個別研究を履修するためには、原則として担当教員が教授する専門科目を少なくとも一科目以上履修していなければならない。

手続き

履修を希望する学生は、研究計画書を担当教員に提出し、担当教員および学科長の承認を得なければならない。研究計画書様式は教務学事課で入手すること(ただし、担当教員が別個の研究計画書の作成を指示する場合にはその様式に従うこと)。

履修期間と登録について

個別研究は、各年度の前期・後期にそれぞれ集中で開講され、原則として通常の履修登録期間内に上記のプロセスを経て登録することが必要である。

ただし、研究内容によって、長期休暇(夏休み・春休み)を利用して研究を進めることが適切であると判断される場合には、担当教員および学科長の承認を得ることによって、履修登録前に研究を開始することも可能である。この場合、夏休みを利用した研究に関してはその夏休み後の秋学期、春休みを利用した研究に関してはその春休み後の春学期に履修登録を行い、成績はそれぞれの学期末に通知される。

詳しくは英語英文学科に問い合わせること。

・準備学習の具体的な方法

1. 前もって提示している課題準備
2. 英語の語彙学習
3. 文章の理解と要約

4. 評価方法・評価基準

1. 課題達成度30%、指導時の学習姿勢30%、クイズ10%、レポートもしくは試験30%

5. 留意事項

講義コード	20547301		
科目名	個別コミュニケーション研究 II		
担当者			
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

個別研究は、当該の領域の主たる科目を履修した学生が、さらに発展的な学習を進めるための科目である。個別研究を指導する学生は、①特定の研究課題を設定し、②研究計画を立て、③担当教員の指導のもとで自主的に研究を行う。原則として卒業研究と同じテーマを選ぶことは出来ないが、卒業研究の指導教員および個別研究の担当教員両方が適切かつ有益と認めた場合には、卒業研究に関連するトピックについて個別研究を行うことも可能である。

2. 教育・学習の個別課題

1. アクティブラーナーとして学習目標を定められる。
2. 学習計画が作成できる。
3. 個別課題を遂行できる。
4. 指導教員の指導をうける。
5. 期日までに指導教員に課題提出ができる。

3. 教育・学習の方法

履修登録について

条件

個別研究を履修するためには、原則として担当教員が教授する専門科目を少なくとも一科目以上履修していなければならない。

手続き

履修を希望する学生は、研究計画書を担当教員に提出し、担当教員および学科長の承認を得なければならない。研究計画書様式は教務学事課で入手すること(ただし、担当教員が別個の研究計画書の作成を指示する場合にはその様式に従うこと)。

履修期間と登録について

個別研究は、各年度の前期・後期にそれぞれ集中で開講され、原則として通常の履修登録期間内に上記のプロセスを経て登録することが必要である。

ただし、研究内容によって、長期休暇(夏休み・春休み)を利用して研究を進めることが適切であると判断される場合には、担当教員および学科長の承認を得ることによって、履修登録前に研究を開始することも可能である。この場合、夏休みを利用した研究に関してはその夏休み後の秋学期、春休みを利用した研究に関してはその春休み後の春学期に履修登録を行い、成績はそれぞれの学期末に通知される。

詳しくは英語英文学科に問い合わせること。

・準備学習の具体的な方法

1. 前もって提示している課題準備
2. 英語の語彙学習
3. 文章の理解と要約

4. 評価方法・評価基準

1. 課題達成度30%、指導時の学習姿勢30%、クイズ10%、レポートもしくは試験30%

5. 留意事項

講義コード	20547401			
科目名	プレゼンテーション概論			
担当者	小山 哲春			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『実践プレゼンテーション入門』 三宅隆之 慶応義塾大学出版会 2006 『大学生からのプレゼンテーション入門』 中野美香 ナカニシヤ出版 2012 『プレゼンテーション zen デザイン』 レイノルズ, G ビアソン桐原 2010			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	20548201			
科目名	スピーチ I			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Chicken Soup for the Working Woman's Soul』 Jack Canfield, 他 HGI 2010 (再販)			
参考文献	『Life Lessons for Women』 Stephanie Marston, M. EF. HGI 2010(再販) 『Inspire a Woman's Soul』 Jack Canfield, 他 HGI 2010(再販) 『Working Woman's Soul』 Jack Canfield 他 HGI 2010 (再販)			
備考	定員 30 人			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本科目は、現代社会におけるオーラルプレゼンテーション（パブリック・スピーキング）の重要性と方法論を理解し、実践へ応用するための素地を養うことを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. オーラルプレゼンテーションの一般的重要性や効果についての理解
2. オーラルプレゼンテーションの一般的/基本的方法論の習得
3. 様々な目的別プレゼンテーションの型の理解と、それぞれの特殊方法論の習得
4. オーラルプレゼンテーションにおける言語/非言語チャンネルの重要性と効果に関する理解
5. 情報伝達型プレゼンテーション（10-15分程度）を作成し、実演する技能の習得。

3. 教育・学習の方法

単なる技法としてのプレゼンテーションスキルを学ぶのではなく、対人コミュニケーションの一形態としてのオーラルプレゼンテーションのあり方を理解し、効果的なプレゼンテーションを実践するための本質的原理を理解することを目指す。この目的の達成のため、約 11 週間の講義（適宜授業内での演習を含む）、および 3 週間の実習（グループプレゼンテーション）の組み合わせによって、オーラルプレゼンテーションの基礎的な知識と技術を身につける。

・準備学習の具体的な方法

様々な形態の準備学習が要求されるため、別途授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

小レポート 25%（毎回の授業で作成）

期末レポート試験 25%

グループプレゼンテーション 30%

授業への参加/貢献 20%

5. 授業予定

- 第1回 パブリック・スピーキング概説：重要性と倫理（含オリエンテーション）
- 第2回 対人コミュニケーションとしてのプレゼンテーション：コミュニケーション論
- 第3回 プレゼンテーションの種類と目的：情報伝達/説得/調査発表/記念（ビデオ分析）
- 第4回 プレゼンテーションと聴衆：聴衆分析とリスニングスキル
- 第5回 情報の収集と管理方法：含図書館演習
- 第6回 オーラルプレゼンテーションの基本構成：主要3要素/効果的な序論と結論
- 第7回 ロゴス：妥当な議論の仕方と主張に対するサポート（根拠提示）の方法
- 第8回 エトスとパトス：信頼性アピールと感情的アピール
- 第9回 プレゼンテーションにおける非言語チャンネル：デリバリー
- 第10回 プレゼンテーションにおける言語チャンネル：レトリックと誤謬
- 第11回 情報伝達プレゼンテーションと説得プレゼンテーションの基本
- 第12回 グループプレゼンテーション演習 (1)
- 第13回 グループプレゼンテーション演習 (2)
- 第14回 グループプレゼンテーション演習 (3)
- 第15回 総括

6. 留意事項

プレゼンテーション実務士資格取得のための必須、および中核の科目である。

1. 科目の教育目標

スピーチの構造やスピーチの発表の方法のスキルの構築を目標とする。U.S.A.ベストセラーである”Chicken Soup”実在する読者からの実話を読んだ後、要約とコメント作り、と語彙の増加にも努める。

2. 教育・学習の個別課題

前期はペアおよびグループ・プレゼンテーションで課題ごとの発表となる。Reading と Writing をベースに資料収集など、役割分担で基礎的なスピーチの発表力をつける。

3. 教育・学習の方法

U.S.A.ベストセラーである”Chicken Soup”実在する読者からの実話が残した珠玉の言葉は今を生きる私達への「贈り物」です。魂をゆさぶる「名言」から英語を学び、かつ、人生を幸せにするヒントをつかんでいきましょう。ペア、グループでストーリーを選び、輪読して、内容把握のためのディスカッション、語彙リスト、Quiz 作成、発表となる。

・準備学習の具体的な方法

自分たちでチョイスしたストーリーの読み込みと発表があるので、日ごろより英文になれるため、英字新聞をたくさん読むこと。映画から英米人のジェスチャーや顔の表情などを研究することを薦める。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 35%、授業参加（ペアおよびグループ活動参加と発表態度）35%、小テスト（語彙）30%

5. 授業予定

- 第1回 Orientation/Introduction for Speech Class
- 第2回 How to read and how to make a presentation
- 第3回 Chapter 1 ALL IN A DAY'S WORK
- 第4回 presentation 1 Quiz 1
- 第5回 presentation 2 Report 1
- 第6回 Chapter 2 BALANCING WORK AND FAMILY
- 第7回 presentation 1 Quiz 2
- 第8回 presentation 2 Report 2
- 第9回 Chapter 3 TEAMWORK
- 第10回 presentation 1 Quiz 3
- 第11回 presentation 3 Report 3
- 第12回 Chapter 4 SPECIAL MOMENTS
- 第13回 presentation 1 Quiz 4
- 第14回 presentation 4 Report 4
- 第15回 Summing Up

6. 留意事項

前期、後期通年での受講が効果的であるが、半期のみも可能。
注意：通年登録ではなく、前期はI、後期はIIで、登録すること。

講義コード	20548301			
科目名	スピーチⅡ			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Chicken Soup for the Working Woman's Soul』 Mark Victor HCl 2010 (再販)			
参考文献	『Inspire a Woman's Soul』 Mark Victor Hansen HCl 2010(再販) 『Volunteer's Soul』 Mark Victor HCl 2010(再販)			
備考	定員30人 「スピーチⅠ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

前期に引き続き、発表のスキルの改善と流暢さを磨く。語彙の構築にも励む。

2. 教育・学習の個別課題

ReadingとWritingをベースに資料収集など積極的にすること。プレゼンテーションはレシテーションとペーパーなしの発表となるのでよく準備し、事前の練習が必要となる。

3. 教育・学習の方法

後期は個人プレゼンテーションが主体となるが、事前のディスカッション及び、輪読やquizづくりはペアまたはグループで行う。

・準備学習の具体的な方法

クラスは原則として、すべて英語で展開する。講義も発表も英語である。日ごろより、簡単な表現を口にするようこころがける。ジェスチャーなど、豊かな表現力を身につける。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 35%、授業参加 (ペアおよびグループ活動参加と発表態度) 35%、小テスト (語彙) 30%

5. 授業予定

- 第1回 Orientation
- 第2回 Special Moments
- 第3回 presentation 1 Quiz 1
- 第4回 presentation 2 Report 1
- 第5回 Unit 5: OVERCOMING OBSTACLES
- 第6回 presentation 1 Quiz 2
- 第7回 presentation 2 Report 2
- 第8回 Unit 6: A MOTHER'S WORK
- 第9回 presentation 1 Quiz 3
- 第10回 presentation 3 Report 3
- 第11回 Unit 7: MAKING A DIFFERENCE
- 第12回 presentation 1 Quiz 4
- 第13回 presentation 4 Report 4
- 第14回 Summing Up
- 第15回 Summing Up

6. 留意事項

前期、後期通年での受講が効果的であるが、半期のみも可能。注意：通年登録ではなく、前期はⅠ、後期はⅡで、登録すること。

講義コード	20561201			
科目名	同時通訳入門A			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト	なし 独自の教材 毎回配布			
参考文献				
備考	定員48人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20561202			
科目名	同時通訳入門B			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト	なし 独自の教材 毎回配布			
参考文献				
備考	定員48人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

通訳を志し、いずれは通訳者にといい憧れをもって外国語学習にはげている人々が多い。このクラスでは、初めて通訳訓練の学習に取り組む。通訳とは、なにかを理解し、基本的な通訳訓練を通して総合的な英語運用力のアップも目標とする。同時に英語・日本語のVoice Trainingもおこなう。

2. 教育・学習の個別課題

1. 英語力 (Listening Comprehension, Speaking, Building Up Vocabulary)

- 2. 日本語力の強化
- 3. 通訳の歴史、日本での発展
- 4. 通訳の種類
- 5. 通訳者に求められるもの
- 6. LL装置を使った通訳訓練

3. 教育・学習の方法

単語レベルでの発話訓練、数字の訓練、NHKの2ヶ国語放送、CNNニュースなどから、通訳の基本的な訓練のシャドウイング、プロソディ、新聞、雑誌の記事、会議からのプリントを使用 (特定教科書なし) し、ゆっくり丁寧に、基礎力をつける。自宅で復習し練習をすることが大切である。

・準備学習の具体的な方法

NHK 2ヶ国語放送のニュースの後追い声だし練習をしておくこと。新聞、書物は音読をこころがける。旧約聖書、ギリシャ神話など、漫画でもよいので、目をとす。英語のリズムに慣れるため、歌、映画などで、歌詞、台詞の声だし練習をする。アンドロイド、I-POD,i-PAD,から、nprでMORNING NEWSを聞く。

4. 評価方法・評価基準

出席、授業中の態度 (熱意)、意欲的な取り組み、単語テスト、筆記テスト、オラルテストなどを総合して評価する。通訳の仕事に必要な前向きな性格とやる気を取り組む。

授業参加度 30% 小テスト 10% オラルテスト 30% プレゼンテーション 30%

5. 授業予定

- 第1回 Orientation & Introduction
- 第2回 Interpretation VS Translation
- 第3回 Voice Training in Japanese
- 第4回 Voice Training in English
- 第5回 Mother Goose I
- 第6回 Numbers I
- 第7回 Movie
- 第8回 Story / Tale
- 第9回 Newspaper
- 第10回 Mother Goose II
- 第11回 Numbers II
- 第12回 Sightseeing
- 第13回 Sightseeing
- 第14回 Presentation I
- 第15回 Presentation II (テープ、C.D、MD、Micro SDで提出)

6. 留意事項

講義コード	20564701			
科目名	日本文化観光ガイド 日本のことを英語で伝える			
担当者	広石 万佐子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『カラーペディア 英文日本大事典』 講談社 『茶一利休と今をつなぐ』 千 宗屋 新潮新書 『漢字と日本人』 高島 俊男 文春新書 『神社の系譜』 宮元 健次 光文社新書 『能楽への招待』 梅若 猶彦 岩波新書 世にもおもしろい狂言 茂山 千三郎 集英社新書 あやつられ文楽鑑賞 三浦 しをん ポプラ社 團十郎の歌舞伎案内 市川 團十郎 PHP 新書			
備考	定員25人 後期集中			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

国際交流においては、相手の国のことを理解するだけでなく、自国のことを知ってもらうことが不可欠です。益々国際化が叫ばれる中、外国人と接するに当たり、真の国際人となる為に、英語という世界共通語を通して日本の姿を正しく伝えることが出来るように学習します。

2. 教育・学習の個別課題

1. テーマ毎に日本の生活・文化全般の基本的知識を身につける。
2. 上記を英語で的確に伝える方法を学習する。
3. 以上のことを通じて英会話能力の向上をも目指す。

3. 教育・学習の方法

(1) 講義 (日・英)、質疑応答 (英語)、テーマ毎の小テスト並びに学生による発表 (英語) (2) 期間中に一度、学外実習として現役の通訳ガイドである担当講師の英語による京都市内半日観光ツアーに参加。

・準備学習の具体的な方法

毎回採り上げるテーマに関して次の回に実施する小テストに備えて復習し、且つ次のテーマの予習を上記参考文献やインターネットなどを利用して各自行う。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業参加度 (30%) 小テスト・模擬プレゼンテーション (30%) 最終回のプレゼンテーション (40%) に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション/日本の地理
- 第2回 日本の地理 (続き)・自然
- 第3回 日本の住まい
- 第4回 和食
- 第5回 茶の湯・生け花
- 第6回 能楽・歌舞伎・文楽
- 第7回 //
- 第8回 和服
- 第9回 学生による模擬プレゼンテーション
- 第10回 漢字・かな、日本語の特徴
- 第11回 宗教 (神道)
- 第12回 // (仏教)
- 第13回 学外での英語による市内ツアー (講義2回分に相当)
- 第14回 学生によるプレゼンテーション
- 第15回

6. 留意事項

授業の一環である学外ツアーは、2014年1月25日(土)の9:00~12:00に実施予定ですので、その心積もりをしておいて下さい。参加費用は登録時に実費¥4,500程度徴収しますが、金額は登録者数に応じて決定されます。尚、本講座は集中講義で短期間に多くを学ぶこととなりますが、毎回採り上げるテーマが異なっても、全体に関連性がありますので、欠席が続くと理解の妨げとなります。従って、登録時に講義日を確認の上、授業に皆勤する熱意のある学生が履修することを希望します。また、第1回目に本講座を受講する上での必要事項を説明しますので、必ず出席するようにして下さい。

講義コード	20568001			
科目名	英語で学ぶ日本文化 English Readings in Japanese Culture			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	『Religion in Contemporary Japan』			
参考文献				
備考	定員30人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	92203701			
科目名	英語で学ぶ日本文化 English Readings in Japanese Culture			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	『Religion in Contemporary Japan』			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

This class provides an introduction to contemporary Japanese religion. The language of instruction is English.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The course will emphasize reading and discussion. It will be especially appropriate for advanced students who both are interested in the topic and wish to use English at a high level.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Most of each class will be devoted to comprehension checking and discussion in groups. This is not a lecture course.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students must do all the assigned reading according to the teacher's instructions.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and classroom performance : 30% Midterm : 25%
Final exam : 45%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Am I Religious?
- 第2回 Introduction to Some Main Themes
- 第3回 Religious Activities
- 第4回 Kamis, Buddhas, and Ancestors I
- 第5回 Kamis, Buddhas, and Ancestors II
- 第6回 Shinto
- 第7回 Buddhism I
- 第8回 Buddhism II
- 第9回 Midterm test
- 第10回 Individual Religious Practice I
- 第11回 Individual Religious Practice II
- 第12回 Religious Sites and Pilgrimages
- 第13回 New Religions
- 第14回 New Religions (video)
- 第15回 Final test

6. Special Information (留意事項)

Students are expected to attend class regularly. There will be a midterm and final exam, and grades will be based on attendance, class performance, and exam scores.

講義コード	20569001			
科目名	同時通訳法 I			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト	『TOEIC150点アップを目指す通訳訓練法』 越智美枝 大阪教育図書 2010			
参考文献	『新アメリカ文化事典』 森美恵子 他 成美堂 2002			
備考	定員 20 人 TOEIC500 点前後、又は「同時通訳入門」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

聞いたことを瞬時に口頭で訳す通訳者の頭の中はどのようなのだろうか。通訳をいろいろな角度から観察し、解剖してその中身を覗いて見よう。また、プロとして活躍する通訳者はきわめて高い語学力をもっていると言われる。このクラスでは、実際の通訳訓練法を取り入れ、受講生の英語力を養成する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 英語力 (Listening Comprehension, Speaking, Building Up Vocabulary)
2. 日本語力の強化
3. 通訳実例の鑑賞と分析 (同時通訳、逐次通訳、時差通訳)
4. Slashreading, shadowing, quickresponse
5. 通訳のプロセス
6. 通訳と翻訳の違い

3. 教育・学習の方法

新聞、雑誌、BS 放送、テレビなどからの記事を使って通訳の基本的なトレーニングを行う。現場の通訳に役に立つ実際に使われた教材で、必要な語彙を強化する。前向き志向で自分の意見を日本語でも英語でもはっきり主張できるように学習する。復習を十分にすること。

・準備学習の具体的な方法

音読を常にこころがける。速読、多読をする。(対訳本を推薦) 新聞、雑誌の記事の要約練習、サイトラをする。映画の字幕声だし。

4. 評価方法・評価基準

出席、授業中の態度、意欲的な取り組み、単語テスト、筆記テスト、オーラルテスト、通訳テストなどの結果を総合して評価する。

授業参加度 30% 小テスト 10% オラルテスト 30% プレゼンテーション 30%

5. 授業予定

- 第1回 Orientation & Introduction
- 第2回 Unit 1
社会 (自己紹介)
- 第3回 Unit 2
社会 (家族)
- 第4回 Unit 3
教育 (大学生生活)
- 第5回 Unit 4
教育 (留学)
- 第6回 Unit 5
社会 (ファッション)
- 第7回 Unit 6
医療 (メタボリック症候群)
- 第8回 Presentation Trial
- 第9回 Unit 7
日本文化 (アニメ・漫画)
- 第10回 Unit 8
教育 (ボランティア活動)
- 第11回 Unit 9
社会 (長寿社会)
- 第12回 Unit 10
国際交流 I (実践演習)
- 第13回 Unit 11
日本文化 (伝統的な行事) または環境 (地球温暖化)
- 第14回 Presentation for Summing Up
- 第15回 Presentation for Summing Up

6. 留意事項

同時通訳の訓練は TOEIC のスコアを up します。

できれば、TOEIC III の履修と併用して、TOEIC スコアを 600 から 700 以上を目指すことを薦めます。

講義コード	20569101			
科目名	同時通訳法 II			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト	なし 独自の教材 毎回配布			
参考文献				
備考	定員 20 人 TOEIC550 点以上、又は「同時通訳法 I」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

世界の出来事が日常洪水のようにメディア情報で流れる昨今、我々は互いに理解し、国際的に協力し合って人類の平和と安定、繁栄を求めていかなければならない 21 世紀である。大切な国際交流の場になくはないのが言葉であり、諸処の分野で、より高度な通訳者の活躍が求められている。このクラスでは入門・基礎のクラスを終了し、興味が増し、もっと通訳技能を学んでみたいと思う人を対象とする。英語・日本語の voice Training も同時におこなう。

2. 教育・学習の個別課題

1. 英語力 (Listening Comprehension, Speaking) 日本語力の強化、語彙増強
2. 一般常識、専門知識を増やす
3. 通訳者の諸知識と心得
4. 相手をひきつける話し方の研究
5. 逐次、同時通訳の実践

3. 教育・学習の方法

スピーチテープ、新聞、雑誌、BS 放送、CNN テレビなどからの記事を使って通訳の基礎強化をする。時事問題を知り、必要な語彙を増やす。自ら時事問題に対して、意見をもち日本語でも英語でもはっきり主張できるように学習する。復習を十分にすること。

・準備学習の具体的な方法

TOEIC 600,700 を目標に音読しながら、書いていく。

アナウンサーの訓練、PC のスキル、所作を磨く。すべて英語磨きに通ずる。

4. 評価方法・評価基準

出席、授業中の態度、意欲的な取り組み、単語テスト、筆記テスト、オーラルテスト、通訳テストなどの結果を総合して評価する。特にやる気と熱意が必要である。

授業参加度 30%, 小テスト 10%, プレゼンテーション 2回 60%

5. 授業予定

- 第1回 Orientation / Introduction
- 第2回 Newspaper
- 第3回 Announcement
- 第4回 International Conference I
- 第5回 International Conference II
- 第6回 Plant Tour
- 第7回 International Operator
- 第8回 Flight / Cabin Attendant
- 第9回 Super Presentation
- 第10回 Super Presentation
- 第11回 NPR
- 第12回 NPR
- 第13回 NPR
- 第14回 Presentation I(Summing Up)
- 第15回 Presentation II(Summing Up)

6. 留意事項

講義コード	20569401			
科目名	ビジネス英語 I Business English I			
担当者	Peter Cheyne			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Communicating in Business English』 Digness, Bob Compass Publishing 2003			
参考文献				
備考	定員 30 人			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will introduce basic business English. It will focus on developing all four language skills (listening, speaking, reading and writing) in business settings. It will also help increase TOEIC score.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is essential. Students are expected to complete all assignments, attend regularly, and be on time.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Most of the course will involve in-class activities based on the topics and language acquisition targets given by the instructor. The instructor will give short exams and quizzes when appropriate. Some written homework will be assigned to the students.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to prepare for lessons beforehand and share their opinions and ideas with classmates.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Class Participation 授業参加: 70%

Assignments/Role-Plays/Tasks/Presentations/Etc.: 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Theme 1
- 第3回 Theme 2
- 第4回 Theme 3
- 第5回 Theme 4
- 第6回 Theme 5
- 第7回 Theme 6
- 第8回 Theme 7
- 第9回 Theme 8
- 第10回 Theme 9
- 第11回 Theme 10
- 第12回 Theme 11
- 第13回 Theme 12
- 第14回 Theme 13
- 第15回 Theme 14

6. Special Information (留意事項)

Students will be expected to actively participate by contributing their ideas and opinions in classroom discussions. An English-English dictionary is highly recommended. Please read the graded reader books in the library and the AV-room! READ AS MUCH AS YOU CAN EVERYDAY!

講義コード	20569501			
科目名	ビジネス英語 II Business English II			
担当者	Peter Cheyne			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Improve Your English: English in the Workplace』 Brown, Stephen, & Lucas, Ceil McGraw-Hill 2008 Improve Your English: English in the Workplace (DVD w/ Book)			
参考文献				
備考	定員 30 人 「ビジネス英語 I」履修者であること			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will continue basic business English from the previous semester's course. It will further develop all four language skills (listening, speaking, reading and writing) in business settings. It will also help increase TOEIC score.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is essential. Students are expected to complete all assignments, attend regularly, and be on time.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Most of the course will involve in-class activities based on the topics and language acquisition targets given by the instructor. The instructor will give short exams and quizzes when appropriate. Some written homework will be assigned to the students.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to prepare for lessons beforehand and share their opinions and ideas with classmates.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Class Participation 授業参加: 70%

Assignments/Role-Plays/Tasks/Presentations/Etc.: 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Theme 1
- 第3回 Theme 2
- 第4回 Theme 3
- 第5回 Theme 4
- 第6回 Theme 5
- 第7回 Theme 6
- 第8回 Theme 7
- 第9回 Theme 8
- 第10回 Theme 9
- 第11回 Theme 10
- 第12回 Theme 11
- 第13回 Theme 12
- 第14回 Theme 13
- 第15回 Theme 14

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20569601			
科目名	時事英語 I A ニュースで学ぶ生きた英語			
担当者	隅井 孝雄			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	BBC, ABC, CBS, PBS, CNN の英語ニュース。NHK News7, NHK news9 の二カ国語英語音声。New York Times, Time, Newsweek			
備考	定員 50 人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20569602			
科目名	時事英語 I B ニュースで学ぶ生きた英語			
担当者	隅井 孝雄			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	BBC, ABC, CBS, PBS, CNN の英語ニュース。NHK News7, NHK news9 の二カ国語英語音声。New York Times, Time, Newsweek			
備考	定員 50 人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

その時々の世界の動きの中に生きている英語に接することによって、日常生活の中に英語を取り入れて考える力を身につけます。

2. 教育・学習の個別課題

英語ニュースを日常生活の中で読んだり聞いたりする習慣を身につけます。ニュースの中で使われる大事な言葉や、言い回しを勉強します。そして取り上げたニュースの背景、人間像などを理解することも目標にします。

3. 教育・学習の方法

日本で放送されている英語ニュースのクリップを毎回視聴し、放送、新聞などのニュース記事をテキストとして学習します。正しい読み方、発音、イントネーションを覚えるため、毎回数名の学生にテキストを読んでもらい、指導します。

・準備学習の具体的な方法

日本で放送されている各種の英語ニュースを日常聞き取るよう努力してもらいます。また英語新聞、週刊誌にも目を通す習慣を身につけます。

4. 評価方法・評価基準

出席、テスト、授業内小テスト、日常点を総合します。

5. 授業予定

- 第1回 政治、経済、国際ニュース 1
- 第2回 政治、経済、国際ニュース 2
- 第3回 政治、経済、国際ニュース 3
- 第4回 社会問題(環境、健康、教育、その他)ニュース 1
- 第5回 社会問題ニュース 2
- 第6回 社会問題ニュース 3
- 第7回 エンターテインメント(映画、音楽、ファッション、セレブ、文化)ニュース 1
- 第8回 エンターテインメントニュース 2
- 第9回 エンターテインメントニュース 3
- 第10回 ハイテク(デジタルメディア、IT 関連、SNS 関連、インターネット)ニュース 1
- 第11回 ハイテクニュース 2
- 第12回 ハイテクニュース 3
- 第13回 メディア関連(テレビ、新聞、報道、広告)ニュース
- 第14回 メディア関連ニュース 2
- 第15回 到達度テスト。

6. 留意事項

出席を重視します。テキストは「隅井孝雄ホームページ」にのせます。

講義コード	20569701			
科目名	時事英語 II A ニュースで学ぶ生きた英語			
担当者	隅井 孝雄			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	BBC, ABC, CBS, PBS, CNN の英語ニュース、NHK News7, NHK News9 の二カ国語英語音声、New York Times, Time, News Week			
備考	定員 50 人 「時事英語 I」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20569702			
科目名	時事英語 II B ニュースで学ぶ生きた英語			
担当者	隅井 孝雄			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	BBC, ABC, CBS, PBS, CNN の英語ニュース、NHK News7, NHK News9 の二カ国語英語音声、New York Times, Time, News Week			
備考	定員 50 人 「時事英語 I」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

国際人にふさわしい国際英語を身につける。ビジネス会話に必要な単語、フレーズを増やす。正確でわかりやすい日本語に訳す力をつける。

2. 教育・学習の個別課題

ニュースを英語で聞いて理解する力をつける。正しい発音、イントネーションで英語表現する力をつける。理解しやすいやさしい日本語に英語を翻訳できる力をつける。

3. 教育・学習の方法

英語ニュースを繰り返し聞き中身を理解する訓練をする。授業内で英語の文章を読む訓練をする。耳で聞いた英語、文字に書いた英語を平易な日本語に訳す訓練をする。

・準備学習の具体的な方法

放送されている英語ニュースを視聴する。英語新聞、英語週刊誌を読む。

4. 評価方法・評価基準

出席、家庭学習、授業内小テスト、平常評価、テストを総合評価する。

5. 授業予定

- 第1回 政治、経済 1
- 第2回 政治、経済 2
- 第3回 社会、環境 1
- 第4回 社会、環境 2
- 第5回 社会、環境 3
- 第6回 文化(映画、音楽、ファッション)1
- 第7回 文化(映画、音楽、ファッション)2
- 第8回 文化(映画、音楽、ファッション)3
- 第9回 スポーツ(オリンピック、サッカー、野球)1
- 第10回 スポーツ(オリンピック、サッカー、野球)2
- 第11回 スポーツ(オリンピック、サッカー、野球)3
- 第12回 メディア(テレビ、新聞、IT)1
- 第13回 メディア(テレビ、新聞、IT)2
- 第14回 メディア(テレビ、新聞、IT)3
- 第15回 到達度テスト

6. 留意事項

出席を重視します。

講義コード	20569801・92208601		
科目名	外国語としての日本語Ⅰ 日本語の歴史と現代日本語の諸相		
担当者	荘司 育子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[日]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『日本語の歴史』 山口明穂他 東京大学出版会 1997 『日本語学入門』 山口堯二 昭和堂 2005		
備考	定員 30人		
科目読替	外国語としての日本語(初級) ※平成19年度以前入学者に適用		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

日本語を「国語」として見るのではなく、諸言語の中の一言語として見ることによって初めて、日本語という言語の特徴を知ることができる。客観的に日本語を考察するという視点は、日本語を母語としない学習者に日本語を教える際には特に重要な要素となる。

本授業では、日本語教育において必要な日本語文法知識を獲得するための前提として、日本語一般に関する基礎知識、特に日本語の歴史と現代日本語における諸相を言語学的に解説する。

2. 教育・学習の個別課題

(1)日本語の起源と変遷について、文字・表記、音声・音韻、語彙・意味、文法・構文の観点から概観する。

(2)現代日本語における諸相について、文字・表記、音声・音韻、語彙・意味、文法・構文の観点から概観する。

3. 教育・学習の方法

プリントを配布し講義形式で行う。

・準備学習の具体的な方法

各回の授業後に指示した内容について考察してくること。

4. 評価方法・評価基準

出席・平常点(20%)及び試験(80%)の総合評価とする。

5. 授業予定

- 第1回 序説－日本語を「知らない」ことに気づく－
- 第2回 日本語の歴史について－日本語の起源－
- 第3回 日本語の歴史について－文字・表記(1)－
- 第4回 日本語の歴史について－文字・表記(2)－
- 第5回 日本語の歴史について－音声・音韻(1)－
- 第6回 日本語の歴史について－音声・音韻(2)－
- 第7回 日本語の歴史について－語彙・意味－
- 第8回 日本語の歴史について－文法・構文－
- 第9回 現代日本語について－文字・表記(1)－
- 第10回 現代日本語について－文字・表記(2)－
- 第11回 現代日本語について－音声・音韻(1)－
- 第12回 現代日本語について－音声・音韻(2)－
- 第13回 現代日本語について－語彙・意味－
- 第14回 現代日本語について－文法・構文－
- 第15回 日本語に関する基礎知識の総まとめ

6. 留意事項

後期の授業「外国語としての日本語Ⅱ」も併せて履修することが望ましい。

講義コード	20569901		
科目名	外国語としての日本語Ⅱ 現代日本語における言葉のしくみ		
担当者	荘司 育子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[日]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『ケーススタディ日本文法』 寺村秀夫他 おうふう 1987 『ここからはじまる日本語文法』 森山卓郎 ひつじ書房 2000		
備考	定員 30人 「外国語としての日本語Ⅰ」履修者であること		
科目読替	外国語としての日本語(上級) ※平成19年度以前入学者に適用		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

ひとくちに日本語の「文法」と言っても、それが構築された時代や目的によってさまざまな体系があった。特に日本語教育の必要性とともに台頭してきたのは、「学校文法」とは全く異なる視点をもった「文法」である。日本語「文法」は、日本語母語話者の脳内に確実に存在するにもかかわらず、容易には明示できない、複雑怪奇なものであると言える。

本授業は、現代日本語におけるいくつかの興味深い構文を考察することによって、奥底に潜む言葉の原理・普遍性を、論理的に読み解こうとするものである。

2. 教育・学習の個別課題

(1)これまでの文法研究史を振り返りながら、「学校文法」の目的と視点について学ぶ。

(2)現代日本語の文法構文の中から、「は」と「が」、格助詞、文末表現、連体修飾、ウナギ文について考察する。

3. 教育・学習の方法

プリントを配布し講義形式で行う。

・準備学習の具体的な方法

各回の授業後に指示した内容について考察してくること。

4. 評価方法・評価基準

出席・平常点(50%)及び試験(50%)の総合評価とする。

5. 授業予定

- 第1回 序説－「文法」とは覚えるものではなく創るものである－
- 第2回 「国語」と「日本語」－文法研究の歴史－
- 第3回 「国語」と「日本語」－主な国文法の枠組み－
- 第4回 「国語」と「日本語」－「学校文法」の意義－
- 第5回 現代日本語の文法構文－「は」と「が」(1)－
- 第6回 現代日本語の文法構文－「は」と「が」(2)－
- 第7回 現代日本語の文法構文－格助詞(1)－
- 第8回 現代日本語の文法構文－格助詞(2)－
- 第9回 現代日本語の文法構文－文末表現(1)－
- 第10回 現代日本語の文法構文－文末表現(2)－
- 第11回 現代日本語の文法構文－連体修飾(1)－
- 第12回 現代日本語の文法構文－連体修飾(2)－
- 第13回 現代日本語の文法構文－ウナギ文(1)－
- 第14回 現代日本語の文法構文－ウナギ文(2)－
- 第15回 日本語の構文に関する考察の総まとめ

6. 留意事項

「外国語としての日本語Ⅰ」履修者であること。

講義コード	20701001			
科目名	ホスピタリティ論Ⅰ			
担当者	岩田 真理子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[エ][ホ][医]			
前提科目				
テキスト	テキストは使用しない。都度、資料を配布しながらすすめる。			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「ホスピタリティ」という概念について多角的に探究する。「ホスピタリティ」を受ける側の視点について主に取り上げ、理解を深める。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

・「ホスピタリティ」を考察する中で、人として大切なことについても学ぶ。
・文字面だけで理解するのではなく、授業態度も含め、日常生活でのホスピタリティを体得する。

3. 教育・学習の方法

パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。
テーマに沿ったディスカッション・発表など随時取り入れる。
毎回、小レポートによりホスピタリティを考察する。

・準備学習の具体的な方法

授業で配布される資料をよく理解し、次週のテーマに関連性を持たせ考察してくる。日常生活でホスピタリティを出来るだけ実践する。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業態度 (30%)、小レポート (20%)、確認テスト (50%) に基づいて総合的に評価する。

授業総日数の 2/3 以上の出席を求める。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーションーホスピタリティへのアプローチーホスピタリティの概念を理解する。本講座で取り上げるホスピタリティへのアプローチの方法を理解する。
- 第2回 ホスピタリティとは一言業からのアプローチー「ホスピタリティ」の語源からアプローチする。ホスピタリティの定義とはどのようなものであるのかを考察する。
- 第3回 ホスピタリティと人間ー人間の感情とホスピタリティーホスピタリティを提供する動物としての人間の存在からホスピタリティを紐解いていく試みをする。
- 第4回 ホスピタリティと文化①ー文化・感情表現・地域のおもてなしーホスピタリティの表出の仕方、感じ方などに文化や時代による違いなど、地域や文化・文明による差異を考察してみる。
- 第5回 ホスピタリティと文化②ー歴史とホスピタリティーホスピタリティの歴史を考察する。時代の変遷と社会の変遷においてなにか変わりがあるのかないのかを考察する。
- 第6回 ホスピタリティと産業①ー産業構造の変化とホスピタリティの重要性ーサービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。
- 第7回 ホスピタリティと産業②ー産業・社会の変化とホスピタリティを考察するーホスピタリティ産業の変化を予測し、社会の変化にともなうホスピタリティ産業というものの変化を推測してみる。
- 第8回 ホスピタリティと産業③ーエアラインにおけるホスピタリティー航空機を運航する商品とはどのような特徴があるのかを考える。実際のエアライン (ANA) をモデルとして考えてみる。
- 第9回 ホスピタリティとチームワークーチームの力と個人の力ー企業や地域社会など、ホスピタリティをチームで生み出す為に必要な要素とは何かを検討する。
- 第10回 ホスピタリティとコミュニケーションー相互作用を生み出すコミュニケーションーホスピタリティを相手に伝えるためにはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。
- 第11回 点と点をむすぶホスピタリティマインドー地域とホスピタリティとの関係ー人は航空機によって点と点を移動する。地域と航空輸送との関係からホスピタリティを考える。
- 第12回 ホスピタリティと観光産業①ー観光産業で発揮されるホスピタリティーホスピタリティが観光産業の中で発揮されるべきこととその必要性を考える。
- 第13回 ホスピタリティと観光産業②ー旅行者心理を考えるー

観光の主体である旅行者についてとりあげ、旅行者にとってのホスピタリティはどのようにあるべきかを考える。

第14回 ホスピタリティと観光産業③ー現在の (場所) での観光産業でホスピタリティが発揮できるものー観光および航空輸送に焦点をあてて演習を組み込みながら観光客に対するホスピタリティを考える。

第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	20701101			
科目名	ホスピタリティ論Ⅱ			
担当者	岩田 真理子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[エ][ホ][医]			
前提科目	207011「ホスピタリティ論Ⅰ」又は 101556「ホスピタリティ入門」			
テキスト	テキストは使用しない。都度、資料を配布しながらすすめる。			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「ホスピタリティ」についての理解を深めると同時に、「ホスピタリティ」を発揮する側にとって必要な要素や構造について考察する。ホスピタリティ論Ⅰを理解した学生が、さらにホスピタリティをマネジメントを行うことができるまでを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

・「ホスピタリティ論Ⅰ」で学んだことを更に一歩踏み込んで学習する。
・他者に対する思いやり・気遣いについての考察を深める。
・日常におけるホスピタリティに関する気付きや発揮が求められる。

3. 教育・学習の方法

パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。テーマに沿ったディスカッション・発表など随時取り入れる。

・準備学習の具体的な方法

ホスピタリティⅠ (ホスピタリティ入門) で学んだことがベースとなるため、以前の資料を振り返りながら、考察を深める。ホスピタリティが体現できるよう日常の中で実践を重ねる。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業態度 (30%)、小レポート (20%)、確認テスト (50%) に基づいて総合的に評価する。

授業総日数の 2/3 以上の出席を求める。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーションー授業概要の理解ー授業概要説明。授業全体の進め方の理解とホスピタリティとはどのようなものかという復習を行う。
- 第2回 ホスピタリティの発揮①ーホスピタリティの高い人間とは一個人のホスピタリティの発揮について、ひとりの人間としてどのようにあるべきなのかを考える。
- 第3回 ホスピタリティの発揮②ーホスピタリティと企業との関係ーホスピタリティが企業にとって必要なものはどのような要素が必要とされるのかについて考察する。CS との関係を考える。
- 第4回 ホスピタリティの発揮③ーホスピタリティの醸成ーホスピタリティマインドを高めていく方法や個人の中での重要性を認識させることができるのかを考えてみる。人材教育。
- 第5回 ホスピタリティと評価①ー評価方法の検討ーホスピタリティはどのように評価するのか。ホスピタリティの評価尺度について考えてみる。
- 第6回 ホスピタリティと評価②ー評価とフィードバックーホスピタリティを評価ーフィードバックする効果的なサイクルを考える。
- 第7回 ホスピタリティとマニュアルー伝える/伝わる「ホスピタリティ」ーお客様へ伝えるための留意点を考える。マニュアルとホスピタリティマインドについて考察する。
- 第8回 ホスピタリティとコミュニケーション①ー場の重要性ーお客様にホスピタリティを届けるためにどのような場面を重要に考えるべきか、検証する。
- 第9回 ホスピタリティとコミュニケーション②ー働く個人と集団の連携ー集団としてのホスピタリティが発揮されるときに働く力を考える。

- 第10回 ホスピタリティマネジメントーホスピタリティマインドを生み出す背景ー ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。
- 第11回 事例検討①ーエアライン(ANA)<予定>ー 事例とともにホスピタリティを考える
- 第12回 事例検討②ーエアライン(ANA)<予定>ー 事例とともにホスピタリティを考える
- 第13回 事例検討③ー飲食店 <予定>ー ホスピタリティ産業の中から例をとりあげ検証する。
- 第14回 事例検討④ー飲食店 <予定>ー ホスピタリティ産業の中から例をとりあげ検証する。
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	20701201			
科目名	エアライン・ビジネス論			
担当者	岩田 真理子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[エ]			
前提科目				
テキスト	『航空産業入門』(株)ANA総合研究所 東洋経済新報社 2008			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

航空会社を一企業として取り上げ、受講生が現代の企業の仕組みや取り組みを理解することを旨とする。また、受講生の広く受講生の就業意識を高めることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

世界及び国内の政治・経済・文化・環境情勢の変動が航空業界に与える影響を推考する。

3. 教育・学習の方法

パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。

テーマによって関連DVDなど視聴する。

・準備学習の具体的な方法

- ・「航空産業入門」の該当の章を熟読して授業に臨むこと。
- ・日頃から航空関係のTVニュース、新聞記事などに目を配ること。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業態度(30%)、小レポート(20%)、確認テスト(50%)にて総合評価する。

授業総日数の2/3以上の出席を求める。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーションー授業概要ー 授業の進め方、学習内容と求めるレベル、授業上の注意事項などを理解する。自己紹介を実施する。
- 第2回 航空の歴史と変遷の理解 航空産業の変遷・流れを理解する
- 第3回 日本の空の体制と航空会社 戦後の民間航空の規制と緩和について理解する。
- 第4回 企業としての航空会社 航空運送業の特徴や事業概要を理解する。
- 第5回 航空会社の収入と支出① 航空会社の収益マネジメントとして航空運賃やレベニューマネジメントについて学ぶ。
- 第6回 航空会社の収入と支出② 航空業界のアライアンスの仕組みについて学ぶ。
- 第7回 航空会社の収入と支出③ FFP(マイレージプログラム)戦略について学ぶ。
- 第8回 航空会社の収入と支出④ 経費削減への取り組みについて学ぶ。
- 第9回 TOPIC 「LCC 躍進」
- 第10回 航空会社とCSR 航空会社のCSRを参考として現代企業とCSRについて学ぶ。
- 第11回 顧客満足(CS) 航空会社におけるCSの捉えかたを、考え方、具体例、対応の3点から紹介する。
- 第12回 ブランド戦略

ブランドについて学ぶ。

第13回 航空と安全

航空の安全について現状を知り、その重要性を理解する。

第14回 航空と環境問題

航空産業と環境との関係を考える。

第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	20701301			
科目名	エアライン・サービス論			
担当者	岩田 真理子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[エ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『エアラインオペレーション入門』(株)ANA総合研究所(編集)(株)ぎょうせい 2010			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

エアライン業界を広く一般的に理解し、主にエアラインで提供しているサービス部分(オペレーション部門・カスタマー部門)について焦点をあわせエアラインの業務の構成やエアライン・サービスに必要な要素を理解することを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

ホスピタリティ産業の代表として、航空業界を取り上げ、エアラインサービスを幅広く学ぶなかで、多様な職種について理解を深める。

3. 教育・学習の方法

パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。テーマによって関連DVDなど視聴する。

・準備学習の具体的な方法

日頃より、航空業界やサービス業に関するTVニュース・新聞記事等に関心をもって目配りすること。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業態度(40%)、小レポート(20%)、確認テスト(40%)に基づいて総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方、目的、評価など。エアラインのサービス全体を考える。
- 第2回 エアライン業務の多様性・役割分担・専門性 エアラインがお客様に提供するサービスとはどのような職種、特徴があるのかを考える。
- 第3回 情報・予約・販売① 顧客が航空会社を選択するにいたるまでに、航空会社にどのような業務があり、どのように活動しているのかを理解する
- 第4回 情報・予約・販売② エアラインとお客様とを結ぶ予約・販売部門などの提供しているサービスについて理解する。
- 第5回 空港サービス① 空港での仕事をお客様からの視点でとりあげ、旅客の流れにそって空港業務を理解する。
- 第6回 空港サービス② 飛行機が飛び立つ迄の流れの中で運航を支えるグランドスタッフ業務
- 第7回 機内サービス① 客室乗務員の役割を考え、業務の流れを追いながら、その仕事の内容を理解する。
- 第8回 機内サービス② 機内サービスをより向上させるための客室乗務員の機外業務・取り組み内容を知る。
- 第9回 機内サービス③ 機内の特性を知り、より良いサービスを考える。
- 第10回 オペレーションI 運航乗務員の仕事を上げる。お客様と接する機会は少ないが「運航」を通じたサービスを考える。
- 第11回 オペレーションIIー運航の定時性を守る業務ー 運航を支える定時性をコントロールする部門がどのような動きをしているのか概要を紹介する。
- 第12回 SPECIAL TOPIC 「ANAと中国」 By Guest Speaker
- 第13回 オペレーションIIIー整備部門の業務ー 運航を支える安全に一番近い整備部門がどのように構成されているのか、安全とサービスについて考える。
- 第14回 その他の業務ー貨物輸送業務ー 貨物のサービスをとりあげる。
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	20701401		
科目名	旅行観光業研究		
担当者	坂下 正憲		
単位数	2	配当学年	234
資格	[エ][ブ][ホ][医]		
前提科目			
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	『観光学入門』 岡本伸之 有斐閣 2001 『観光読本』 (財)日本交通公社編 東洋経済社 2004 『観光概論』 今井成男他 ジェイティービー能力開発 2009		
備考	隔年開講1		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

観光・旅行産業に関心を持つ受講生に、観光・旅行産業の基礎的な事業知識やその実態について分かり易く説明する。また、旅行社をはじめとする観光関連産業で働くためにどうすれば良いのか、どういう意識を持てば良いのか等、就業意識や社会で働く力を高めることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

- ・観光の意義と意味を理解し、観光・旅行産業が実社会でどのような役割を果たしているかを理解する。
- ・観光資源の保護と観光との係わりを理解し、観光・旅行産業の在り方を考える。
- ・観光関連産業の現状と将来性を理解することにより、自身の進路決定の判断材料とすることが出来る。

3. 教育・学習の方法

主にパワーポイントを使用しての授業となる。講義を理解しやすいように適宜関連プリントを配布する。また、参考に関連映像を視聴する。

・準備学習の具体的な方法

観光・旅行産業に関して最新の情報を取れ入れて講義を進めるので、受講に当たっては、日頃よりそれらの報道に関心を払う事。事前にプリントを配布するので毎回予習し、疑問点、関心事を整理するなどの事前準備をしてくる事。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加度（30%）、小テスト・レポート（20%）定期試験（50%）に基づいて総合的に行う。欠席・遅刻は減点対象となる。欠席回数が3分の1を経過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス 講師紹介。授業概要、到達点の説明。講義方法の説明。成績評価、履修上の注意点などの説明。
- 第2回 観光の意味と仕組み 観光・旅行産業を学ぶにあたり観光の概念（意味と仕組み）について説明する。
- 第3回 観光の意義と効果 前回に続き、観光・旅行産業の基礎となる観光の意義とその効果について説明する。
- 第4回 世界の観光の歴史 世界の観光の歴史を欧州を例にとり現代観光までの遷り変わりを説明する。
- 第5回 日本の観光の歴史 我が国の観光と旅の始まりから、現代までの遷り変わりを説明する。
- 第6回 国内旅行の現状 我が国の国内旅行の市場規模、その推移と現状について説明する。
- 第7回 海外旅行の歴史と現状 我が国の海外観光旅行の市場規模、その推移と現状について説明する。
- 第8回 訪日外国人旅行 我が国を訪れる外国人旅行者の推移、実態と課題について解説する。
- 第9回 観光対象と観光資源・観光施設 どのようなものが観光対象となりうるのか、自然観光資源と人文観光資源に分類して分かり易く解説する。また、それらを補足する観光施設についても触れる。
- 第10回 観光地の形態 温泉観光地、社寺観光地、町並み観光地、都市観光地などそれぞれの特性や魅力について説明する。
- 第11回 観光産業（定義と構成、J/R/クルーズ）観光関連産業の定義やそれらを構成する要因を解説したのち、個々の観光関連産業について具体的に説明する。
- 第12回 観光産業（航空と宿泊産業）前回の続きで観光産業の重要な構成要因である航空と宿泊産業について説明する。
- 第13回 観光産業（旅行業）観光産業の中心と言える旅行業を取り上げ、その歴史や現状について説明。また、具体的に旅行業にほ

のような種類があり、どのような業務をしているかも解説する。

第14回 観光資源の保護と観光産業の将来 これまでの講義を踏まえて観光資源の保護と観光産業の将来について論じる。

第15回 全体講義のまとめ、記述式試験

6. 留意事項

講義コード	20701601		
科目名	ホスピタリティ・スキルA		
担当者	岩田 真理子		
単位数	2	配当学年	34
資格	[エ]		
前提科目			
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。		
参考文献			
備考	定員16人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	20701602		
科目名	ホスピタリティ・スキルB		
担当者	岩田 真理子		
単位数	2	配当学年	34
資格	[エ]		
前提科目			
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。		
参考文献			
備考	定員16人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

「ホスピタリティ」を他者に伝える言語・非言語コミュニケーションスキルやマナー、社会生活上の好ましいルールの遵守など一般的な内容をとりあげ、ホスピタリティを感じさせる行動が適切にとれるようになることを目指す。各回必ず演習を行い繰り返し指導を受けることにより実践的な学習を目指す。

2. 教育・学習の個別課題

- ・ホスピタリティを表現することを実習形式で進めるが、内容は多岐に渡るため、授業で実施したことは、日々の生活で繰り返し表現し身につけることが大切である。考察、実習を繰り返すなかで、感性を磨くことを意識して参加すること。

3. 教育・学習の方法

・配布資料に基づき、ホスピタリティについて考察しながら、実習を重ねる。

・準備学習の具体的な方法

各回で実施する内容は、日常生活に直結するものばかりである。授業はきっかけにしか過ぎず、自身で出来るようにするという意識を持ち、繰り返しの実践によってのみ身につけることが出来る。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業態度（50%）実技習得度（50%）に基づいて総合的に評価する。授業総日数の2/3以上の出席を求める。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション-授業概要- 授業の進め方、学習内容と求めるレベル、授業上の注意事項などを理解する。自己紹介を実施する。
- 第2回 ホスピタリティを伝える要素-伝わるコミュニケーションとは- コミュニケーションの考え方、高いコミュニケーションスキルを身に付けることの重要性を理解する。聞くことと話すこと。
- 第3回 ホスピタリティを伝える基本-異文化コミュニケーション- 自己と他者とのコミュニケーションを考え表現する。
- 第4回 言葉で表すホスピタリティI-敬語で伝える気持ち- 言語コミュニケーションのうち、会話における敬語表
- 第5回 言葉で表すホスピタリティII-敬語を文章に表す- 言語コミュニケーションのうち、文章表現について基本を学ぶ。
- 第6回 表現力 I-非言語コミュニケーション- 非言語コミュニケーションにおいて相手に印象つける要素は何かを考える。自己表現と他者認知のずれを確認する。
- 第7回 表現力 II-印象を高めるために- 印象を左右するのは何か。印象をよくするためにはどのような工夫をすれば良いの

- かを理解する。
- 第8回 表現力 III-好印象の表情とはー 相手に与える印象において大きな影響を与える表情について個人ごとに指導を行う。
- 第9回 表現力 IV-行動で伝える思いやりー 礼儀作法を含め、一般的に体得しておくことを求められる一般社会の動作、振る舞いを体得する。
- 第10回 表現力 V-声だけのコミュニケーションー 電話対応をとりあげ、演習を行いながら好印象の対応を体得する。
- 第11回 表現力 VI-文字だけの思いやりー 文章やメールなど相手の立場にたった表現力を考え、実践する。
- 第12回 社会のルール・マナー-他者尊重のコミュニケーションー 人間は社会的な存在であることを認識し、社会上のコミュニケーションのあり方を考えて実践できるようにする。
- 第13回 総合演習I-ロールプレイングー 場面の設定を行い、習得状況を自己判断する。
- 第14回 総合演習II-ロールプレイングー 場面の設定を行い、習得状況を自己判断する。
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	20701701			
科目名	フィールド研究			
担当者	岩田 真理子			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[工]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員 16 人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「ホスピタリティ産業」について理解を深める。それぞれの学生が産業の中のホスピタリティ要素の高い業種や企業を探究し、実社会における「ホスピタリティ」のあり方を自分なりに評価・研究した内容をまとめあげる。課題の発見・調査と評価・発表までのプロセスを体験することを旨とする。学生には考え抜く力を積極的な意見の発表を求める。

2. 教育・学習の個別課題

調査研究する中で、P-D-C-A サイクルを理解し、体感すること。自分で考え抜く力を養い、考えたことを他人に伝える。

3. 教育・学習の方法

ホスピタリティ産業を紹介している資料に基づき、何社かをグループワークで事例検討を行う。その後、各自が研究したいホスピタリティ産業を選び、個人研究を進める。研究結果をプレゼンテーションにより発表する。

・準備学習の具体的な方法

日常生活の中で、ホスピタリティを発揮している産業に着目し、その背景を可能な限り探ることを求める。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業態度 (50%) プレゼンテーション (50%) に基づいて総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション-授業理解- 授業の進め方の説明、及び、フィールドワークの意義やプロセスの踏み方を理解する。
- 第2回 ホスピタリティを再考する ホスピタリティとは何か、各自の学んできたこと、考えを述べ、振り返る。
- 第3回 ホスピタリティ産業とは ホスピタリティ産業の概要を確認するとともに、今後の授業方針を検討する。
- 第4回 事例検討I ホスピタリティが高いといわれる企業や集团の特徴を検討する。
- 第5回 事例検討II 同上
- 第6回 事例検討III 同上
- 第7回 事例検討IV I~IV で検討した企業や集团の共通項などを考察する。
- 第8回 課題検討I 研究する産業の決定を行う。意見交換を行いながら個人課題を決定する。
- 第9回 課題検討II 研究する産業の評価尺度の検討を行う。意見交換を行いながら個人評価の方法を検討する。
- 第10回 フィールドワーク PLAN 個人計画をたてる。PLAN-DO-CHECK-ACTION のあり方を理解し、最終ゴールを確認する。
- 第11回 フィールドワーク ① フィールドワークの実施

- 第12回 フィールドワーク ② フィールドワークの実施
- 第13回 プレゼンテーション準備
- 第14回 プレゼンテーション② 個人発表及び、他者の発表を受けての質疑応答への参加。
- 第15回 プレゼンテーション③ 個人発表及び、他者の発表を受けての質疑応答への参加。

6. 留意事項

自分の考えを表現し、積極的に授業に参加すること。

講義コード	20701801			
科目名	接遇のための英語 A			
担当者	Peter Cheyne			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[工]			
前提科目				
テキスト	『Travel English: For Tourism Industry Professionals』 Fujita, Reiko Macmillan Language House 2008			
参考文献				
備考	定員 20 人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20701802			
科目名	接遇のための英語 B			
担当者	Peter Cheyne			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[工]			
前提科目				
テキスト	『Travel English: For Tourism Industry Professionals』 Fujita, Reiko Macmillan Language House 2008			
参考文献				
備考	定員 20 人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will help prepare students for careers in the airline industry.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will contextualize their previously acquired knowledge of the English language in an English for Specific Purposes environment. Active participation in all classroom-based activities is required.

3. Course Method (教育・学習の方法)

THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY IN ENGLISH!

In-class tasks will be completed individually and in pairs. Students will improve their communicative ability through extensive pronunciation and intonation drills. All students will participate in role-playing activities every week.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Class Participation 授業参加: 50%
Assignments/Role-Plays/Tasks/Presentations/Etc.: 30%
Quizzes: 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation
- 第2回 Unit 1 (Basic Flight Phrases)
- 第3回 Unit 1 (Basic Flight Phrases)
- 第4回 Unit 2 (In-flight Service for Domestic Flights)
- 第5回 Unit 2 (In-flight Service for Domestic Flights)
- 第6回 Unit 3 (Economy Class Service)
- 第7回 Unit 3 (Economy Class Service)

- 第8回 Unit 4 (Business Class Service)
- 第9回 Unit 4 (Business Class Service)
- 第10回 Unit 5 (Personal Service in Business Class)
- 第11回 Unit 5 (Personal Service in Business Class)
- 第12回 Unit 6 (First Class Service)
- 第13回 Unit 6 (First Class Service)
- 第14回 Unit 7 (Duty Free Sales)
- 第15回 Unit 8 (Customs, Immigration, and Quarantine)

The instructor will adjust the pace of instruction according to the ability level and interests of the class.

6. Special Information (留意事項)

This course is best suited for third-year students with TOEIC scores of over 500.

An English-English dictionary is highly recommended. Please read the graded reader books in the library and the AV-room! READ AS MUCH AS YOU CAN EVERYDAY!

講義コード	20701901			
科目名	接遇のための日本語A ~Practical Communication~			
担当者	春川 修子			
単位数	1	配当学年	234	
資格	[工][ホ][医]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員 20 人			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

大学教育の中で育まれる「学士力」。これを構成するのは学問分野の専門知識に加えてコミュニケーションスキルや自己管理能力などですが、これは社会でも求められる重要な能力です。実社会において人生の様々な節目に自己を表現し未来を切り開く力を身につけるためには、大学教育の場で「人に伝わる伝え方」を身につけることが必要です。その重要なツールとしての「美しく正しい日本語」を15回の講義の中で、ラジオやテレビの経験豊富な元放送局アナウンサーがプロ養成のメソッドを取り入れ、パブリックスピーキング・プレゼンテーション・面接コミュニケーションに焦点を当て実践的にトレーニングします。話し言葉としての日本語・敬語の知識を広げるだけでなく、常に社会の一員であることを意識し社会の動向を理解した責任あるスピーキングが出来るようにメディアなどからの『情報の取り入れ方』も指導し、総合的な人間力向上を目指します。「プラクティカル・コミュニケーション・アプローチ」や「ブロードキャスト・スピーキング・メソッド」を学び「常に選ばれる自分」になるため今から歩んで行きましょう！

2. 教育・学習の個別課題

1. 日常や、将来のビジネス・コミュニケーションの中で敬語を自在に操れるようにする。
2. 一般常識として必要なレベルの、四字熟語・ことわざ・慣用句などを、筆記テストにより学習する。
3. 発音・発声法を学び、はっきりした声で、人に伝わる話し方ができるようになる。同時に積極性も養う。
4. 日常的に、主に新聞やニュースなどを情報ソースに、社会常識や今必要な新しい情報をどう取り入れるかを実践的に学習する。
5. また4.で得た情報を要約し人に伝える力を身につける。

3. 教育・学習の方法

参加型授業で、毎回の講義の中で各自、声を出しながら、自然で有効的に人に伝わる話し方やコミュニケーションを実践的にトレーニング。また必要な知識を講義により学習する。

・準備学習の具体的な方法

日常が学習の場であることを認識し、常に周りにある日本語に耳を傾け、意識を高め、そこから必要な『情報』や『社会の一員として生きるための教訓』を見出す。新聞講読の習慣づけ。辞書（電子辞書など）の利用・携帯。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度（25%）、授業への積極性(25%)、レポート・習熟度チェックテストなど（50%）の成績を総合して評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 言語コミュニケーションの役割と重要性

学生から社会へ ～産業社会が求める人間力とは～

- 第2回 キャリアを意識した自己表現とアウトプット
プロのメソッドによる発音発声法
- 第3回 スピーチ・コミュニケーション論と実践
(パブリックスピーキングとプレゼンテーション演習)
- 第4回 日常の気になる言葉ⅰと実践パブリックスピーキング
- 第5回 日常の気になる言葉ⅱと応用パブリックスピーキング
- 第6回 アナウンスメントを生かした敬語表現Ⅰと慣用句
- 第7回 アナウンスメントを生かした敬語表現Ⅱとカタカナ言葉
- 第8回 アナウンスメントを生かした敬語表現Ⅲと数字にまつわる言葉
- 第9回 アナウンスメントを生かした敬語表現Ⅳと季節の言葉とその使い方
- 第10回 アナウンスメントを生かした敬語表現Ⅴと読み方に迷いやすい言葉
- 第11回 アナウンスメントを生かした敬語表現Ⅵと変わりつつある言葉
- 第12回 新聞を活用した演習とマスメディアの中の言葉
- 第13回 プロによるグループ面接コミュニケーションセッション
- 第14回 プロによる個人面接コミュニケーション
- 第15回 接遇のための日本語講座~Practical Communication~のまとめと習熟度チェック

6. 留意事項

第13.14.15回では実践形式で面接コミュニケーション演習または習熟度チェックを行うため、それに適した服装で受講すること。詳細は授業時間内に説明の予定。

講義コード	20701902			
科目名	接遇のための日本語B 日本語の力とコミュニケーションの力を磨く			
担当者	富川 和代			
単位数	1	配当学年	234	
資格	[工][ホ][医]			
前提科目				
テキスト	資料を用意する。			
参考文献	授業で指示する。			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

敬語を中心に、総合的な日本語の力を高め、日常生活を基本に、ビジネス場面においても、効果的なコミュニケーションが取れるようにする。

2. 教育・学習の個別課題

- 1 コミュニケーションをとる際に好印象を与えるような、発声・発音・アクセント・表情・姿勢・動作などを身につける。
- 2 尊敬表現と謙譲表現の違いを正確に理解し、場面に応じたレベルで、丁寧な表現が使えるようにする。
- 3 情報を正確に伝えるために、また会話を豊かにするために、類義語・対義語・ことわざ・慣用表現・四字熟語などの正しい使い方を身につける。
- 4 将来の社会人として必要な、電話によるコミュニケーションの取り方を身につける。
- 5 ビジネスシーンにおけるコミュニケーションの取り方を練習する。

3. 教育・学習の方法

- 1 ロールプレイなどの方法を用い、知識に裏打ちされた、実践力を養う。
- 2 主に誤用を通して、正しくかつ自然な、表現を学ぶ。

・準備学習の具体的な方法

- 1 自分自身と周りの日本語を客観的に観察する目と耳を養い、日本語・日本語コミュニケーションに対する意識を高める。特に自分自身の日本語を内省することが重要である。
- 2 日常生活の中で、コミュニケーションのトレーニングになる機会を積極的にとらえ、「相手を動かすことのできる」コミュニケーションとはどのようなものかを考える。
- 3 コミュニケーションをとる場合、最も大切なことは、表面的な言葉の運用ではなく、「相手への思いやり、心遣い」であることを認識する。
- 4 コミュニケーションをとる場合、話す力と同様に聞く力を養うことが重要であることを認識する。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度（30%）、授業への積極性(30%)、小テスト・レポート・習熟度チェックテストなど（40%）の成績を総合して評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 総合的な日本語力の診断
- 第2回 発声・発音・アクセント・話し方・聞き方 口頭での「自己アピール」の練習

- 第3回 日本語の敬語の使い方 ①尊敬表現 ②謙譲表現Ⅰ ③謙譲表現Ⅱ
- 第4回 日本語の敬語の使い方 ④丁寧語と美化語 ⑤敬語のまとめ
- 第5回 日本語の文法(ら抜き言葉・さ入れ言葉・れ足す言葉等)
- 第6回 語彙(和語・漢語・外来語の使い分け等) 話し言葉と書き言葉の使い分け
- 第7回 気を付けた言葉・表現 類義語と対義語の使い方
- 第8回 ことわざ・慣用表現・四字熟語等の正しい意味と使い方
- 第9回 ビジネス電話 ①慣用的な表現 ②ロールプレイ(個人客からの苦情に対応する)
- 第10回 ビジネスシーンにおける表現 ①慣用的な表現 ②ロールプレイ7(個人客からの苦情を上司に引き継ぐ)
- 第11回 マナーと接遇①
- 第12回 マナーと接遇②
- 第13回 発表とフィードバック(相互フィードバック 教師からのフィードバック)
- 第14回 発表とフィードバック(相互フィードバック 教師からのフィードバック)
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	20702001			
科目名	接遇のためのコミュニケーションA			
担当者	田中 まみ			
単位数	1	配当学年	234	
資格	[工]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員20人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20702002			
科目名	接遇のためのコミュニケーションB			
担当者	田中 まみ			
単位数	1	配当学年	234	
資格	[工]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員20人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

人が関わっていくことから始まるコミュニケーション。人として生きるうえでも重要とされているホスピタリティー。ホスピタリティーを育てる大切なコミュニケーション。演習を通じて、自分を語り、表現する力を身につけ、人との豊かな交流が生まれる方法を伝えます。この講義では、社会福祉学・人間科学を専門的に学び多分野に渡るコミュニケーショントレーナーとして活躍する講師が、毎回の演習を通して、あなたに多くの学びと成長を提供し、面接に必要なコミュニケーション能力を高めていきます。

2. 教育・学習の個別課題

- 自己理解が深まり、自己の価値観が明確になり、自己の魅力を相手にアピールできる魅力が培われる。
- 話し上手、聞き上手を演習により、身につけることで「聴くこと」の力「伝える力」を養い、相手を受容できるホスピタリティーの心を養う。
- 人をひきつけるコミュニケーション、バイタリティーを引き出すコミュニケーション、ストレスをパワーへと変えるコミュニケーションなど、コミュニケーションのセンスを身につける。

3. 教育・学習の方法

毎回の講義の中では、自己表現演習や、グループワークを通しての合議など、参加型授業を展開します。論理的な思考を身につけ、客観的な文章表現、日本語表現を通じてコミュニケーションを深めるワークの体験を通じて学びを深めます。コミュニケーション力を養い、社会人として生きていく上でヒントとなる著書、映画、催しなども紹介します。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度(30%) 授業参加態度(20%) レポート提出(20%) 期末試験(30%)を総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 コミュニケーションとは? (コミュニケーションの種類を知る)
- 第2回 今までの自分を振り返り、今の自分を知ろう(自己覚知、自己概念、自己成長をワークを通じて学ぶ)
- 第3回 自分を表現しよう(主観的表現・客観的表現)
- 第4回 グループワークを通してコミュニケーションを深める(KJ法を使ってグループディスカッションを学ぶ)
- 第5回 グループワークを通して合議の仕方を学ぶ(自分の価値を知り相手の価値を知る)
- 第6回 ジョハリのこころの窓をワークを通して実際に学ぶ(自分が気づいていない自分に気づく)
- 第7回 自己覚知から自己開示、そして自己活用への表現力を学ぶ
- 第8回 聴くこと、話すこと、伝えることをワークを通して学ぶ(会話の実際から演習を通してアサーションを学び、他者とともに、肯定・発展しながら成長できる方法を知る)
- 第9回 自分をコントロールする方法を学ぶ(自己の思い込みを知り、自己概念を広げる)
- 第10回 物語を分析して、自分の思考を知るコミュニケーション
- 第11回 共感、励ましなど相互交流から生まれる感情コミュニケーション
- 第12回 コーチングスキル演習(自分の無限の力を感じ、自分の夢の描き方を学ぶ)
- 第13回 ソーシャルワーク(社会福祉援助技術)論に基づく、コミュニケーションスキル向上のまとめ(人に対する肯定的理解、平等観、社会の中の個人の客観的理解などの重要性)
- 第14回 エントリーシートを使って、面接演習(個別指導)
- 第15回 接遇のためのコミュニケーションのまとめ

6. 留意事項

講義コード	20702101			
科目名	ビジネスマナー演習			
担当者	岩田 真理子			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[工]			
前提科目				
テキスト	『ビジネスマナーの基本講座』 ANA ラーニング監修 成美堂出版 2007			
参考文献				
備考	定員16人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

ホスピタリティーを学んだ学生に対し、卒業後社会に出る前に一定度のソーシャルマナーを体得しておくことを目指す。ビジネスマナーのみにかかわらず、ひろく社会においてホスピタリティーの精神を自分以外の人間に伝えるようになることが目的である。(基礎的な表現方法を習得したことを前提とする。少人数8~10名程度で行い、実践力を身に付けさせる。)

2. 教育・学習の個別課題

課題テキストを参考としながら、必要に応じ、資料を配布する。説明を基に、実技も多く取り入れる。

3. 教育・学習の方法

実践の内容を積み重ねていく。日常生活で取り入れることが身につけるためには大切である。社会で常識とされている事柄を広く体得する。

・準備学習の具体的な方法

課題テキストの関連箇所を予習して臨むこと。習得したことは速やかに実践すること。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度(60%)、確認テスト(40%)にて総合的に評価する。授業総日数の2/3以上の出席を求める。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション 授業概要説明・ソーシャルマナーとはなにか
- 第2回 社会人の身だしなみと基本的な心構え 身だしなみチェックと社会人としての基本的な心構えを学ぶ
- 第3回 社会人としての立ち居振舞い

- 品位・印象度を高める動作、身振り、表現力
- 第4回 交通のマナー
交通関係一般的な知識、理解、同行者へのホスピタリティを考える
- 第5回 正しい言葉遣いと敬語
社会人にふさわしい言葉遣いと敬語のルールを学ぶ
- 第6回 感じのよい電話応対 ①
態度・表情を伴わない電話のマナーを体得する
- 第7回 感じのよい電話応対 ②
様々な事例を体得する
- 第8回 訪問のマナー
訪問時の一般的な手順を学ぶ。(名刺交換)
- 第9回 応接のマナー
一般的な来客応対を体得する。(受付、案内、応接席次など)
- 第10回 手紙のマナー
一般的な手紙(ビジネス文書、礼状、詫状など)のマナーを体得する
- 第11回 ビジネス文書の基本
社内文書・社外文書など一般的な文書の作成方法を理解する
- 第12回 レストランのマナー
レストランで食事をとる際のマナーを体得する
※可能な限りレストラン利用により実習を行う(有料)
- 第13回 冠婚葬祭のマナー
結婚式に招かれた場合、訃報を受けた場合
- 第14回 ソーシャルマナー総合 総合的な表現力を体得・強化する。
社会においてふさわしい、かつ品位のある言動がとれるように個別指導を行う
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

原則として、二回目からスーツ着用を求める。

講義コード	20702201			
科目名	キャリアアデベロップメントA			
担当者	岩田 真理子			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[エ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員16人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20702202			
科目名	キャリアアデベロップメントB			
担当者	岩田 真理子			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[エ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員16人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

1. 私たちにとってのキャリアというものはいかにどのように考えられているの基本的な点を理解する。
2. 講義全体を通して、自分の職業生活がイメージできるようになる。
3. 自分の考えを他の人の前で述べる際、文章を丸暗記したものではなく自分の言葉で述べるができるようになっていく。

2. 教育・学習の個別課題

自分のキャリアを考えていくということは、自分の人生をどのように生きるかという点につながる。キャリアを単に就職先の選択というのではなく、自分の強みや弱み、自分の志望や将来図を描けるようになることが実りある学生生活を送ることになる。あわせて自分自身の未来をイメージすることが心の中にとどのような変化を生み出すかを体感しながら臨むことを期待する。

キャリアの理解につとめ、自分が進むべき方向性を模索する。

3. 教育・学習の方法

- ・配布資料に基づき、自分で考える
- ・インターネットを使用し、業界研究を行う

・準備学習の具体的な方法

- ・課題シートは確実に取り組んでくること。
- ・授業で学んだことを積み重ね、将来を見据えて自分の方向性を考える。
- ・日常的に新聞を読んだり日本・世界の出来事に関心をもつこと。

4. 評価方法・評価基準

授業態度(40%)、課題達成度(30%)、理解度確認(30%)を総合的に評価する。

授業総日数の2/3以上の出席を求める。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーションー授業理解ー 授業の進め方、目的、注意事項などを理解する。
- 第2回 キャリア理解 <基礎>
・キャリアの基本的理解
・キャリアと自分の生き方との関連性を考える
- 第3回 社会で求められる力
・社会、産業、組織について
・社会で求められる力とは
・社会に出るまでに出来ること
- 第4回 自己理解①ー
・自分自身に関心と興味を持つ
・自分自身に内在する力を整理する
・目指す方向性を理解する
- 第5回 自己理解②
・自分自身を客観的に理解する
・「就職」について考える
・職業の3つの機能を理解する
- 第6回 キャリア理解① <業界研究>
・業界-企業の関係を通して、日本企業の特徴を理解する
- 第7回 キャリア理解② <事例検討>
・仕事、業界、ライフキャリアの関連性をもとに職業選択において直面することを全体で考える。
- 第8回 キャリア理解③ <業界研究>
・グループプレゼンテーションを実施する
- 第9回 自己表現 STEP I ①
・言語、非言語の表現方法の基礎を学ぶ
・実習を通して自己の課題を発見する
- 第10回 自己表現 STEP I ②
・面接の模擬練習を通して、気付き・観察力を養う
- 第11回 自己表現 STEP II ①
・自分の意見を述べる
- 第12回 自己表現 STEP II ②
・グループディスカッションを体験する
- 第13回 自己理解とストレス
- 第14回 個別相談
- 第15回 まとめ(理解度確認)

6. 留意事項

講義コード	20702401			
科目名	エアライン研修			
担当者	須川 いずみ			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[エ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

エアラインプログラムを履修した者を対象として、ANAグループおよびホテルの主な職場を実際に訪れ、航空業界で働くということを内側から体験し、高い職業意識の育成、自主性・創造性のある人材育成を目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. これまでに学んできたことの集大成として、ホテルや航空業界の現場を訪問し、実践してみる。何より、実際のお客様がいらっしゃる現場であることをしっかりと認識し、挨拶はもとより、良識ある行動を期待する。
2. 実際の現場を体験することにより、自身の適正との確認、ならびに業

界の様々な職種を自分の目で確認し、将来への足がかりとする。

3. 教育・学習の方法

一般の人がなかなか目にすることが少ないコールセンター業務やグランドスタッフの業務の裏側などエアラインプログラムならではの業務体験を行う。また、全日空ゲートタワーホテル大阪では、ホテル業務全般に加えて、テーブルマナー講習会も開催し、サービスする側と受ける側のマナーやホスピタリティをベテランのホテルマンから学ぶ。

・準備学習の具体的な方法

本研修を希望する方は、日常的にマナーや言葉遣いに関心を持ち、自己を高める努力を期待する。事前研修にて実施する内容を、現場訪問までの間、繰り返し復習し身につけること。

4. 評価方法・評価基準

研修中の受講態度(40%)、事前課題シート(20%)、事後レポート(40%)を総合的に評価する。原則として、欠席した場合は単位認定が認められない。

5. 授業予定

- 第1回 事前教育
- 第2回 同上
- 第3回 ANA テレマート株式会社 「エアラインのコールセンター業務について」
- 第4回 同上 「応対品質を学ぶ」
- 第5回 同上 「able 端末操作体験」
- 第6回 全日空ゲートタワーホテル大阪 「講話:ホテルの接客とは」
- 第7回 同上 「ホテルの仕事学ぶ」
- 第8回 同上 「テーブルマナー研修 ～宿泊～」
- 第9回 関西空港 (KIX) 「国内線、国際線の地上業務を学ぶ」
- 第10回 KIX ANA 関空支店長講話
- 第11回 KIX 関空島見学
- 第12回 KIX 地上ハンドリング業務を学ぶ
- 第13回 KIX ANA グループ職場見学
- 第14回 KIX 同上
- 第15回 事後研修

6. 留意事項

エントリーシートによる応募制とする。人数枠を超えた場合は原則として上級生を優先とする。実習費用は本人負担となる(宿泊費用、テーブルマナー実習、交通費)。訪問先企業は、調整により変更の可能性もある。

講義コード	20901002			
科目名	英語英文学特論 (小・中・高校)英語教材の作成やハンドブック、 (ホームステイ・観光異文化・伝統・伝説・民話紹介等)ガイドブック・論文作成			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『How to be a more successful language learner』 Joan Rubin			
参考文献	『英語教材開発マニュアル』 田中正道著 開隆堂 『小学校英語活動アイデアバンク ソング・ゲーム集 CD 付』 樋口忠彦編著、橋堂 教育出版 『ONEWORLDKIDS パードコース・アントコース』 樋口忠彦編著、橋堂 教育出版 『英語授業の組み立て』 青木昭六編著、橋堂 開隆堂 『学校用語英語小事典』 大修館 最新刊 DICTIONARY OF LANGUAGE TEACHING & APPLIED LINGUISTICS (LONGMAN) 英語教育用語辞典(大修館)最新刊			
備考	クラス指定 講義概要を参照すること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

(小・中・高校)英語教材の作成やハンドブック、(ホームステイ・観光異文化・伝統・伝説・民話紹介等)ガイドブック、教育関連の論文の作成をめざす。必ずしも、(小)中・高の英語教員志望者でなくても構わない。英語の教材・ガイドブック等の作成(個人/グループ)や論文作成(個人)が目標となる。

2. 教育・学習の個別課題

英語教材の作成とそのマニュアルの作成、または論文の作成をもって、卒業論文とする。

特に、教材作成は、個人または3～4人のグループで、英語教材(総合

学習(国際理解)用教材、オーラル・コミュニケーション用英語教材、児童英語教育用教材、リーディング用英語教材、インターネット利用の英語教材等)を作成する活動に取り組みたい。

特に、教材作成は、3年生から4年生に及ぶ長期にわたる活動で、議論し、役割分担し、まとめ上げ、製作していく、根気と努力が必要となる。

英語教育に関連する研究会等への積極的な参加も期待したい。希望者には、公立学校(中学・高校)と私立学校・私塾等の(教員)採用試験対策も実施する。

3. 教育・学習の方法

昨年は、先輩達や社会人、他学科の学生達との宿泊研修会「第8回 教育を考える橋の会」(6月:希望者の参加)を実施し、教育問題、ワーキングホリデー参加、フランス留学を終えての感想、社会問題、社会人としての生き方等、多岐にわたり話し合う機会が持てた。

教育関連の学校等に勤務する先輩や教員たちとの研修会「教育を考える橋の会」参加や交流会、英語授業研究会等への参加の機会を作りたい。

(英語)教材作成に関連する話題や問題を、調査したり、議論したり、小論文にまとめたり、発表する活動が中心になる。

・準備学習の具体的な方法

1. 英語教育に関連する話題や問題を調査し、議論し、小論文にまとめ発表する。
2. 英語教材、ガイドブック等の製作/卒業論文の作成
3. 4年生のゼミ生による、3年生のゼミ生に対する、教材/卒業論文の中間発表(interimreport)を4月に課する。

4. 評価方法・評価基準

1. ゼミ生各自の発表をもとにして、ディスカッションを行う。ゼミ生全員が、問題点を発見し、報告者の発表を聞き、活発な議論をすることを期待する。最近の教育問題の討議も時間の許す限り行う。30%
2. 上記の英語教材・ガイドブック等の個人/グループ製作、または論文をもって、評価する。演習室でワードやパブリッシャー等利用で毎回のゼミでノルマを課す。20%
3. 研修会やフィールドワーク、ボランティア・インターンシップ等の活動への積極的な参加。10%
4. 論文、教材、ガイドブック作成40%
5. 出席減点法

5. 授業予定

- 第1回 京都府立植物園でフィールドワークオリエンテーション
- 第2回 興味・関心の発表
- 第3回 興味関心による教材・ガイドブック作のグループ分け
論文:個人
- 第4回 各グループの教材・ガイドブックや論文の内容の発表
- 第5回 仮のアウトラインの作成:アドバイス
- 第6回 教材・ガイドブック・論文作成開始
(演習室3利用で、ワードやパブリッシャー、パワーポイント利用)
- 第7回 教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作
- 第8回 年間・夏休み中のフィールドワーク企画やボランティア企画(スクール)インターンシップの運営企画(学園祭の企画含む):個人面談開始
- 第9回 教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作:個人面談
- 第10回 教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作:個人面談
- 第11回 教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作:個人面談
- 第12回 教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作:個人面談
- 第13回 教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作:個人面談
- 第14回 ゼミ主催の社会人OG傘下の15年目の「教育を考える橋の会」の企画運営の話し合い
- 第15回 教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作:個人面談
- 第16回 教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作:個人面談
- 第17回 教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作:個人面談
- 第18回 中間発表(34回生ゼミ生全員)
- 第19回 教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作:個人面談
- 第20回 教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作:個人面談
- 第21回 教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作:個人面談
- 第22回 教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作:個人面談
- 第23回 教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作:個人面談
- 第24回 教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作:個人面談
- 第25回 教材・ガイドブックの校正作業:個人面談
- 第26回 教材・ガイドブックの校正作業:個人面談
- 第27回 教材・ガイドブックの校正作業:個人面談
- 第28回 教材・ガイドブックの校正作業:個人面談
- 第29回 教材・ガイドブックの校正作業:個人面談
- 第30回 教材・ガイドブックの最終指導:個人面談

6. 留意事項

土・日曜日や長期休暇期間中にフィールドワークも実施する。

講義コード	20901003		
科目名	英語英文学特論 Buddhism		
担当者	Robert Kritzer		
単位数	4	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト	『仏教』 渡辺照宏		
参考文献			
備考	クラス指定 講義概要を参照すること		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

The purpose of this course is to familiarize students with Buddhism, which is not only an important religion in Japan but also one of the major religions of the world. Most Japanese students have been exposed to various aspects of Buddhism in their daily lives, and many may come from families that consider themselves Buddhist. However, few students know about the original forms of Buddhism in India or the changes Buddhism underwent during its transmission from India to Japan via China and Korea. This course aims to help students understand the background of an important component of Japanese culture as well as to appreciate the religious messages of Buddhism.

2. 教育・学習の個別課題

Students will study both the history of Buddhism and its most important teachings. Topics covered may include: the life of the Buddha; an introduction to basic Buddhist doctrines (such as the teaching of the Four Noble Truths, karma, reincarnation, heavens and hells, meditation, and nirvana); the Buddhist monastic order; Buddhist sectarianism; the development of Mahayana Buddhism; and Buddhism in Japan.

3. 教育・学習の方法

I have chosen a book in Japanese so that students will be able to absorb unfamiliar and difficult material more easily. However, most classroom activities and all papers will be in English. Additional reading in English will be assigned and provided in the form of photocopies.

Although I shall explain some of the material in class, students should not expect the classes to consist of lectures. Activities will include comprehension-checking, full-class discussions, group discussions, and in-class writing. Students must be prepared to do all the assigned reading and to participate regularly in class.

・準備学習の具体的な方法

Students must do all assigned reading. They are responsible for looking up all unfamiliar vocabulary. They must also be ready for their presentation on the assigned day, and they must submit their zemi report on time.

4. 評価方法・評価基準

Attendance and classroom performance : 40%

Presentation and zemi paper : 60%

5. 授業予定

- 第1回 Introduction to course
- 第2回 Pre-Buddhist Indian religion
- 第3回 Life of the Buddha 1
- 第4回 Life of the Buddha 2
- 第5回 Life of the Buddha 3
- 第6回 The First Sermon
- 第7回 Important Buddhist ideas
- 第8回 Buddhist order 1
- 第9回 Buddhist order 2
- 第10回 Buddhist languages and the councils
- 第11回 Discussion
- 第12回 Library orientation
- 第13回 In-class material review
- 第14回 In-class writing
- 第15回 Writing returned, Consultation on thesis topics, Instructions for summer
- 第16回 Consultation on thesis topics and progress
- 第17回 Schisms and abhidharma
- 第18回 Origins of Mahayana

- 第19回 Mahayana and Lotus Sutra
- 第20回 Kukai 1
- 第21回 Kukai 2
- 第22回 Shingon
- 第23回 Pure Land
- 第24回 References and citations workshop
- 第25回 Progress conferences 1
- 第26回 Progress conferences 2
- 第27回 Practise for presentations
- 第28回 Presentations
- 第29回 Presentations
- 第30回 Seminar paper due ; consultations

6. 留意事項

講義コード	20901004			
科目名	英語英文学特論 アメリカ文化研究			
担当者	山本 裕子			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』（村上春樹翻訳ライブラリー）村上春樹（翻訳） フィッツジェラルド『華麗なるギャツビー』（英語版ルビ訳付）講談社 ヘミングウェイ『日はまた昇る』（新潮文庫）高見浩（翻訳） Hemingway, Ernest. _The Sun Also Rises_ Scribner			
参考文献	授業時に適宜指示する。			
備考	クラス指定 講義概要を参照すること			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースは、1920年代アメリカの表象文化について研究する。具体的には、ディズニー初期アニメーション・シュルレアリスム・モダニズム小説・映画をとおり、光と影にみちた1920年代の文化を多面的に学ぶ。それぞれの作品世界への理解を深めるだけでなく、作品の背景となる1920年代のモダニズム文化についての知識を身につけることを目指す。また、上記と平行して、各自、夏休み明けまでに卒論のテーマを選定し、文献収集をすることが求められる。授業で取り上げる作品は「授業予定」にある通りを予定しているが、適宜受講者と相談して決めたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 原典の味読
2. アニメーション・文学作品・映画の鑑賞眼を培う
3. アメリカのモダニズム文化についての幅広い知識を身につける。
4. 作品解釈の方法論について学ぶ
5. 文献収集と論文作成の方法について学ぶ

3. 教育・学習の方法

予習および出席は必須である。ディスカッションを中心とした演習形式であるため、積極的なクラス参加が必要となる。前期は、最後に小テストを課す。後期には、アウトラインと口頭発表、卒論の第一章となる部分(Final Paper Project)の提出が課せられる。

・準備学習の具体的な方法

授業時までにリーディング・アサイメントの読解を済ませておくこと。

4. 評価方法・評価基準

平常点30% 出席、授業態度、予習、クラス貢献を総合して判断する。
課題40% 小テスト、口頭発表、アウトライン
レポート30% Final Paper Project

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション ―― 「モダニズム」とは？
- 第2回 アメリカン・モダニズム①
――ガートルード・スタインと芸術の都パリ
- 第3回 アメリカン・モダニズム②
――ニューヨークとヨーロッパ前衛芸術
- 第4回 大衆文化の誕生 ――ディズニー初期のアニメーション
- 第5回 ディズニーとダリのシュールな出会い
――幻の映像「デスティニー」
- 第6回 スコット・F・フィッツジェラルド『華麗なるギャツビー』
- 第7回 スコット・F・フィッツジェラルド『華麗なるギャツビー』

- 第8回 映画『華麗なるギャッツビー』
- 第9回 映画『華麗なるギャッツビー』
- 第10回 ディスカッション
- 第11回 アーネスト・ヘミングウェイ『日はまた昇る』
- 第12回 アーネスト・ヘミングウェイ『日はまた昇る』
- 第13回 映画『陽はまた昇る』
- 第14回 映画『陽はまた昇る』
- 第15回 卒論に向けての文献収集について
- 第16回 卒論テーマとアウトラインについて
- 第17回 William Faulkner, "A Rose for Emily"
- 第18回 William Faulkner, "A Rose for Emily"
- 第19回 William Faulkner, "A Rose for Emily"
- 第20回 William Faulkner, "A Rose for Emily"
- 第21回 William Faulkner, "A Rose for Emily"
- 第22回 ディスカッション
- 第23回 ディスカッション
- 第24回 口頭発表
- 第25回 口頭発表
- 第26回 口頭発表
- 第27回 口頭発表
- 第28回 卒論アウトライン
- 第29回 映画『ミッドナイト・イン・パリ』
- 第30回 映画『ミッドナイト・イン・パリ』

6. 留意事項

講義コード	20901005			
科目名	英語英文学特論 The Beatles を、そして、ビートルズの歌詞を読み解く			
担当者	小林 順			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『The Beatles Lyrics: The songs of Lennon, McCartney, Harrison and Starr (ペーパーバック)』 Hal Leonard Publishing Corporation			
参考文献	クラスで紹介			
備考	クラス指定 講義概要を参照すること			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

第一に、科目教育目標の大前提として、英語圏文学・文化の理解という目標を掲げたい。そのために、教育目標の第二でもある、ザ・ビートルズの歌詞を読解することによって、20世紀中期における経済的、社会的、そして政治的な停滞のイギリスを突き動かし世界のメインステージに上らした、いわゆる「Fab Four」[fabulous four]、「奇跡の四人」と言われるザ・ビートルズの実像に迫りたい。第三には、ロックンロールという流行歌の潮流が、アメリカからイギリスに還流したアフリカ起源の音楽であり、18世紀に奴隷貿易の拠点であったリバプールに20世紀中盤に突如現れた「奇跡の四人」には自己の血脈に潜む遠い記憶を呼び覚ます音であった。アフリカの地に発するリズムと音が英語表現を得てグローバルなメッセージを伝達する形式となり、逆にいえば、アフリカと英語との結び付きが、単純ではあるが生命力溢れる表現を創出したのであり、グローバルに土着的表現が現れることとなったわけであり、その途上に「奇跡な」ーfabulousー展開となったのである。その軌跡を彼らの歌詞に読み解きによって体得すること、これが第三の目標である。

2. 教育・学習の個別課題

歌詞の詳細な「読み」に加えて以下のテーマを取り上げる。リバプールの歴史にこそザ・ビートルズの奇跡の淵源であることを理解する。リバプールから見える世界にはアメリカがアフリカが鮮やかに横臥している。リズムと音は海洋の拠点であったリバプールにだれだれ運んできた。その潮流に洗われた記憶の中に、突如現れたリズムと音の魔術師四人がアメリカとアフリカを強烈に意識していたことを改めて確認する。そして、現在のリバプールはいかに？ザ・ビートルズの栄光に春眠を貪るだけなのか？新たな奇跡を生み出せるのであろうか？ユーラシアの極東から極西に向けて問いを發しよう。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法
作品の演習と講義。
2. 学習方法

作品の下読み。二次資料の網羅と調査。

・準備学習の具体的な方法

歌詞の読解を試みる。
音に耳を傾ける。
情報・データはオンライン収集。
プレゼンもまたオンライン。

4. 評価方法・評価基準

評点は100。その内訳は、期末試験が60点。小テスト20点。出席およびクラスでの発表に20点。

5. 授業予定

【前期】

- 第1回 時代背景とザ・ビートルズの個人的バックグラウンドなどのトピックを講義。学生は歌詞の自習に取り掛かる。
- 第2回 時代背景とザ・ビートルズの個人的バックグラウンドなどのトピックを講義。学生は歌詞の自習に取り掛かる。
- 第3回 時代背景とザ・ビートルズの個人的バックグラウンドなどのトピックを講義。学生は歌詞の自習に取り掛かる。
- 第4回 初期の歌詞を鑑賞、演習。
- 第5回 初期の歌詞を鑑賞、演習。
- 第6回 初期の歌詞を鑑賞、演習。
- 第7回 初期の歌詞を鑑賞、演習。
- 第8回 初期の歌詞を鑑賞、演習。
- 第9回 初期の歌詞を鑑賞、演習。
- 第10回 初期の歌詞を鑑賞、演習。
- 第11回 中期の歌詞。学生はおのおのテーマを定め、調査と研究を行い、その成果を教室で発表してもらう。
- 第12回 中期の歌詞。学生はおのおのテーマを定め、調査と研究を行い、その成果を教室で発表してもらう。
- 第13回 中期の歌詞。学生はおのおのテーマを定め、調査と研究を行い、その成果を教室で発表してもらう。
- 第14回 中期の歌詞。学生はおのおのテーマを定め、調査と研究を行い、その成果を教室で発表してもらう。
- 第15回 中期の歌詞。学生はおのおのテーマを定め、調査と研究を行い、その成果を教室で発表してもらう。

【後期】

- 第16回 ブルーエットの『「ロビンソン・クルーソー」挿絵物語』を取り上げる。後期の歌詞を鑑賞、演習。
- 第17回 後期の歌詞を鑑賞、演習。
- 第18回 後期の歌詞を鑑賞、演習。
- 第19回 後期の歌詞を鑑賞、演習。
- 第20回 後期の歌詞を鑑賞、演習。
- 第21回 後期の歌詞を鑑賞、演習。
- 第22回 ザ・ビートルズの歌詞を中心に置いて、研究とは何かというテーマに取り組む。資料の収集とその整理、それらの効率的な利用法がテーマとなる。
- 第23回 ザ・ビートルズの歌詞を中心に置いて、研究とは何かというテーマに取り組む。資料の収集とその整理、それらの効率的な利用法がテーマとなる。
- 第24回 ザ・ビートルズの歌詞を中心に置いて、研究とは何かというテーマに取り組む。資料の収集とその整理、それらの効率的な利用法がテーマとなる。
- 第25回 ザ・ビートルズの歌詞を中心に置いて、研究とは何かというテーマに取り組む。資料の収集とその整理、それらの効率的な利用法がテーマとなる。
- 第26回 ザ・ビートルズの歌詞を中心に置いて、研究とは何かというテーマに取り組む。資料の収集とその整理、それらの効率的な利用法がテーマとなる。
- 第27回 ザ・ビートルズの歌詞を中心に置いて、研究とは何かというテーマに取り組む。資料の収集とその整理、それらの効率的な利用法がテーマとなる。
- 第28回 一次資料と二次資料を網羅した論文形式のレポートに挑戦してもらいたい。
- 第29回 一次資料と二次資料を網羅した論文形式のレポートに挑戦してもらいたい。
- 第30回 卒業研究
 1. 対象
英語圏文学・文化にかかわるテーマ、たとえば、イギリス小説。ただし材料は英語で書かれたもの。イギリス以外の地域から選んでもよい。
 2. 方法
資料と材料の詳細な調査が条件。さらに批評や研究論文などいわゆる二次資料の調査を踏まえて、英語で執筆。
 3. スケジュール
3回生時、原典を克明に読み、ノートの作成。

4 回生時、テーマを絞り込む、批評と研究論文の調査。同時に卒論の執筆。

4. 評価方法

「英語英文学特論」の評価に依る。

6. 留意事項

オンライン状態を保持する。

空間の制約を打ち破る試みを行う。

研究の基本を体得する。

英語力を培うという根本命題を忘れるべからず。

講義コード	20901006			
科目名	英語英文学特論 英語スペシャリスト			
担当者	小山 哲春			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『The Art of Public Speaking (9th ed)』 Lucas, S. McGraw Hill 2007			
参考文献				
備考	クラス指定 講義概要を参照すること			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースは、スペシャリスト領域専攻の学生を対象に、将来英語を使う職業に就いた時に必要となる実践能力の訓練と習得を目指す。「英語を使って」実務をこなしていこうとする者は、英文を読解・作成する能力、日常会話の能力、あるいは映画・文学等を文化的に解釈できる能力などに加え、自分の信頼性をアピールし、自分の持つ情報・意見・プランなどを仕事上の仲間・相手に受け入れてもらうための能力が必要不可欠となる。このような目標を達成するため、本コースでは、主に多数の Audience を対象とした英語での Public Speaking の理論と実践、そして他の話者あるいはグループと議論を交わす Debate の初歩的な訓練を中心にすすめられる。

また、本コースでの必修プロジェクトとして、Portfolio の作成（特定のテーマについて行った個人の Speech をデジタル録画、本ゼミ・他の授業・その他の機会で行った英語に関する活動等を CD あるいは DVD 等に焼き付け、英語の履歴書などを添えて就職活動その他で使用できるような Portfolio を作成）、本学提携校との交流プログラム（Summer Communication Program）の学生自身による企画・参加、等を予定している。

2. 教育・学習の個別課題

1. 基礎英語力の向上：具体的な目標を持てるよう、TOEFL/TOEIC 等の対策に役立つような教材を適宜使用する。

2. Public Speaking：文献・資料の検索、アウトラインの作成、実際のスピーチの準備と実践、自己・相互評価等の訓練と実践を行う。（主に三年次：英語英文学特論）

3. Debate：特定のトピックを設定し、複数のチームがそれぞれ別の視点から議論を交わす。トピックに関するグループごとの予習、相手チームまたは audience を説得するための議論の構築、さらに相手チームの議論に適切に反駁する方法などの訓練と実践を行う。（四年次：スペシャリスト・セミナー）

4. Summer Communication Program：本学の提携校であるカナダ・レジャイナ大学から CP(Conversation Partner)を招聘し、短期間の英語強化プログラムを行う。このプログラムは、企画の段階から実際の運営まで、すべて学生が主体となって行う。（四年次：スペシャリスト・セミナー）

3. 教育・学習の方法

クラスは実践練習の場となり、積極的な参加態度が望まれる。その場での相互評価、さらにはビデオ録画を見ての自己評価などで、客観的に実践能力を評価してさらなるスキルの向上を目指す。ただし、英語を使って人前で英語を話す、他人と高度な議論を交わすといったスキルの向上には、不安・羞恥心・気後れなどが障壁となることも多く、こういった要因をクラス全体の協力で乗り越えていくことも一つの大切な目標となる。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

演習型、プロジェクト型授業であり、Speech と Debate でのパフォーマンス、Discussion への参加・貢献、プロジェクト等を総合的に評価する。

5. 授業予定

第1回	Introduction
第2回	Preliminary SPEECH
第3回	Effective Presentation

第4回	Introduction to Informative Speech
第5回	Audience Analysis
第6回	Supporting Ideas
第7回	Organization of the Speech
第8回	Beginning and Ending of the Speech
第9回	Outlining the Speech
第10回	Visual Aids
第11回	Impression Management
第12回	Delivery
第13回	Review
第14回	SPEECH: Day 1
第15回	SPEECH: Day 2
第16回	Introduction to Persuasion
第17回	Critical Thinking (1)
第18回	Critical Thinking (2)
第19回	Claims for Persuasive Speech
第20回	Organization for Persuasive Speech
第21回	Psychology of Persuasion
第22回	Value and Policy Claims
第23回	Methods of Persuasion
第24回	Reasoning
第25回	Various Persuasive Communication
第26回	Case Study (1)
第27回	Case Study (2)
第28回	Case Study (3)
第29回	SPEECH: Day 1
第30回	SPEECH: Day 2

6. 留意事項

このコースを履修するには、TOEFL(CBT) で 175 点以上とっていること（あるいは TOEIC 600 点以上）が望ましい。不安のある場合は担当教員に相談のこと。実際の授業の内容は、学生のレベル・目標によってある程度の変更がありえる。

講義コード	20901007			
科目名	英語英文学特論 映像芸術			
担当者	須川 いずみ			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント			
参考文献				
備考	クラス指定 講義概要を参照すること			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本コースは、今まで観てきた映画を、映像をメディアとした一つの芸術様式として読み直す場を提供する。その導入のために映像芸術を、文学の一つの解釈として扱うところから始める。やがて、映画独自のメディアを深く理解することによって映像芸術の読み方を習得し、次にそこに描かれている人間、文化、世界観について考えてみたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 映像芸術の基本的知識の把握
2. 個別作品の深い理解
3. 映画を読む
4. 作品及び映画作家の研究法の習得
5. 論文作成のための作品選択及び資料収集

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法
 - (1) 個々の作品およびスクリプトの精読
 - (2) 映画観賞（クラスで観る場合と課題で予め観ていなければならない場合がある）
 - (3) 個人及びグループ発表
 - (4) ディスカッション
2. 学習方法
 - (1) 授業で扱う作品は前もって配布するので、予め読んでおく。英語のレベルでの質問に答えられるようにしておくこと。作品について必ず意見を求めるのでその準備が必要である。
 - (2) 指定された映画は観なければならない。
 - (3) 個々の作品についてレポートを提出する。

(4) テーマ別に個人及びグループ発表の時間ある。

・準備学習の具体的な方法

毎回観た映画に関して、しっかりと意見が言えるよう準備してこなければならぬ。レポートの提出もある。また、グループ発表ではハンドアウトの作成とプレゼンテーションが期待されているので、その準備が必要である。

4. 評価方法・評価基準

評価は、提出レポート (60%)

クラス・レスポンス (40%)

試験はしないので積極的授業への参加が不可欠である。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 映画の構造
- 第3回 ジョイスの「死者たち」を読む
- 第4回 ジョイスの「死者たち」を読む
- 第5回 ジョイスの「死者たち」を読む
- 第6回 ジョン・ヒューストンの『ザ・デッド』を考える
- 第7回 エピファニーを読む
- 第8回 映画のエンディングの違い
- 第9回 ジョン・ヒューストンとアイルランド性
- 第10回 ヒッチコックの『サイコ』を考える
- 第11回 ヒッチコックの『めまい』の完成度
- 第12回 ヒッチコックとサスペンス映画
- 第13回 ハリウッド映画史
- 第14回 ハリウッド映画を考える
- 第15回 前半総括
- 第16回 小津安二郎の『東京物語』を考える
- 第17回 小津安二郎の『晩秋』を考える
- 第18回 小津安二郎の影響
- 第19回 黒澤明の『乱』を考える
- 第20回 黒澤明の『蜘蛛の巣城』を考える
- 第21回 クロサワとシェイクスピア
- 第22回 世界のクロサワ
- 第23回 ビスコンティの『ベニスに死す』を考える
- 第24回 ビスコンティの『家族の肖像』を考える
- 第25回 ビスコンティを読む
- 第26回 発表 A
- 第27回 発表 B
- 第28回 発表 C
- 第29回 発表 D
- 第30回 総括

6. 留意事項

講義コード	20901010			
科目名	英語英文学特論			
担当者	吉野 啓子			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『Katherine Mansfield Selected Stories of Katherine Mansfield』 Katherine Mansfield Penguin Books 『キャサリン・マンフィールドの醜態』 吉野 啓子 朝日出版			
参考文献				
備考	クラス指定 講義概要を参照すること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

How to research を念頭に、たくさんの短編小説を読み進める。作品に表れる子供や女性の世界、そして人間関係に含まれる様々な問題をはじめ、女性独自の繊細な心理や風景の描写に対する理解を深める。

2. 教育・学習の個別課題

文学作品の理解と学術論文の書き方など。卒業論文の research 方法は勿論のこと、作品の登場人物の分析、作者の技巧など様々な観点から作品を理解する方法を探る。

3. 教育・学習の方法

作品の理解を中心に、参考文献との係わり方などの習得。

・準備学習の具体的な方法

作品については勿論のこと、参考文献なども辞書を使って準備をすること。

方法については、授業で詳しく説明する。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 40%、レポート 20%、予習 20%、卒論1章 20%

5. 授業予定

- 第1回 授業の進め方等の説明
- 第2回 近代英国小説について
- 第3回 近代英国小説について
- 第4回 近代英国小説と卒業論文について
- 第5回 卒業論文の取り組み方について
- 第6回 卒業論文の書き方などを中心に
- 第7回 卒業論文の書き方などを中心に
- 第8回 卒業論文の書き方などを中心に
- 第9回 Bliss にある作品から
- 第10回 Bliss にある作品から
- 第11回 Bliss にある作品から
- 第12回 The Garden Party にある作品から
- 第13回 The Garden Party にある作品から
- 第14回 The Garden Party にある作品から
- 第15回 The Garden Party にある作品から
- 第16回 個人発表
- 第17回 個人発表
- 第18回 個人発表
- 第19回 The Dove's Nest にある作品から
- 第20回 The Dove's Nest にある作品から
- 第21回 The Dove's Nest にある作品から
- 第22回 The Dove's Nest にある作品から
- 第23回 The Dove's Nest にある作品から
- 第24回 Bliss にある作品から
- 第25回 Bliss にある作品から
- 第26回 Something Childish にある作品から
- 第27回 Something Childish にある作品から
- 第28回 Outline について
- 第29回 Outline と卒論について
- 第30回 まとめ

6. 留意事項

英語力を高める目的から、各自の予習を必要条件とする。提出物等の期限は、厳守のこと。特別な理由の無い限り、遅刻や欠席は認められない。

講義コード	20901011			
科目名	英語英文学特論 英語教育ゼミ			
担当者	沖原 勝昭			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『英語教育のフロンティア』 青木昭六編著 保育出版社 2012			
参考文献	『外国語教育学大辞典』 Johnson, K. 他著, 岡秀夫ほか訳編 大修館書店 1999 『世界の外国語教育政策』 大谷泰照・沖原勝昭ほか編著 東信堂 2004 『Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics (4th Ed.)』 Richards, J.C. and R.W. Schmidt Longman 2010 『英語教育用語辞典』 白畑知彦ほか編 大修館書店 2009 『新編 英語教育指導法事典』 米山朝二 研究社 2011 『新編・英語科教育入門』 土屋澄男編著, 研究社, 2011			
備考	クラス指定 講義概要を参照すること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本授業の受講生は、英語教育についての基礎的な知識を得るとともに、卒業研究のテーマとして、英語教育やその他英語に関するテーマについて調査・研究し、自分の考えをまとめることができるようになることを目標とする。諸外国の外国語(英語)教育を調査して、日本の英語教育と比較する視点も重視する。このような学習を通して、最終的には、卒業研究のテ

一マを決定し、研究計画を作成する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 英語教育および英語や英語文化に関することについて、学生が興味や関心を持っているテーマを選定する。
2. 関連する資料を収集・読解して、卒業研究のテーマにできるものに、深化・発展させる。
3. 卒業研究の章立てを練る。
4. 卒業研究を独自で進めるための研究計画を作成する。

3. 教育・学習の方法

1. 教員による講義：研究内容と研究方法について
2. 教員主導の文献講読&演習
3. 個別指導（卒業研究を進めていくための指導・助言）
4. 集団指導（学生の口頭発表とそれに対する教員による指導・助言&学生同士の助言）

・準備学習の具体的な方法

次回授業のための予習内容を毎回指示するので、必ず予習を励行すること。たとえば、以下のような作業を課す。

1. テキストの指定箇所やプリントの読解
2. ハンドアウトを作成して、分担箇所の口頭発表
3. 個別研究課題の進捗報告、最終発表の準備

4. 評価方法・評価基準

授業での担当・発表（30%）と課題レポート（70%）により、総合的に評価する。課題レポートは、卒業論文の作成計画に関すること。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション：英語を教え、学ぶとは？
 第2回 英語教育の目的・目標
 （以下第15回まで、テキストをベースにした講読と討論）
 第3回 国際社会における英語の役割
 第4回 求められる英語力
 第5回 英語教材と教材研究
 第6回 英語教材リソース&ICTの活用
 第7回 学習者の認知的特質
 第8回 学習者の情意的特質
 第9回 古典的英語指導法
 第10回 言語学的基盤に立つ指導法
 第11回 コミュニケーション重視の指導法
 第12回 小学校の英語教育：制度・政策的側面
 第13回 小学校の英語教育：指導法的側面
 第14回 英語学力の測定と評価
 第15回 英語教師教育：求められる資質と能力
 第16回 個別研究テーマの決定と研究計画の作成
 （教員による説明と指示）
 第17回 海外の英語教育：近隣諸国
 第18回 海外の英語教育：東南アジア諸国
 第19回 海外の英語教育：ヨーロッパ諸国
 第20回 英語論文の具体的な執筆過程についての講義
 第21回 論文構成についての指導
 第22回 引用表記についての指導
 第23回 英語表現についての指導
 第24回 和書からの英訳についての指導
 第25回 参考文献作成についての指導
 第26回 論文の体裁についての指導
 第27回 論文の論展開についての指導
 第28回 学生による発表：論文の構成（Outline）
 第29回 学生による発表：研究計画
 第30回 学生による発表：第1章サンプル原稿

6. 留意事項

教職志望学生はもちろんのこと、「ことばの習得やことばの教育」一般に関心を持つ学生であれば、受講を歓迎します。

講義コード	20901101～20901111			
科目名	卒業研究 卒業論文指導			
担当者	専任教員			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	クラス指定 4 年次生で英文の卒業論文を作成し、学科会議で審査の上、教授会の承認を得て 8 単位が与えられる。（スペシャリストゼミ生のみ選択科目）			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

卒業研究では、英語英文学特論（ゼミ）で学習した専門的知識を基盤に、それぞれの興味と関心に従って特定の研究テーマを選び、実際に研究を行い、これを研究論文（卒業論文）としてまとめ提出する。

卒業論文は大学における学習/研究活動の総決算であると同時に、大学を卒業してそれぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会となる。

2. 教育・学習の個別課題

- ・各自の研究目的と明確なテーマの設定
- ・一次資料の収集と分析
- ・二次資料の収集と分析
- ・それぞれの研究テーマに相応しい論文構成の学習と実践
- ・それぞれの研究テーマに相応しい論述方法の学習と実践

3. 教育・学習の方法

各指導教員（三年次に履修した英語英文学特論担当者）の個人指導による。本科目は集中開講となるため、指導教員のガイダンスに忠実に従い、必要なミーティング、面談、その他の形式での指導を受けること。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。（上記教育・学習の方法欄も参照のこと）。

4. 評価方法・評価基準

提出された論文に対し、査読を行う。査読の方法および評価の観点には所属する領域、ゼミによって異なるので、指導教員の説明を受け、これを良く理解すること。

5. 留意事項

- ・各指導教員の説明および指示を十分に理解し、研究論文制作のための十分な個人指導を受けられるよう注意すること。
- ・各段階での締め切りや、要求されるフォーマットには忠実に従うこと。
- ・英語英文学科「卒業論文作成の手引き」を熟読し、理解すること。

講義コード	20901201			
科目名	スペシャリストゼミ 英語スペシャリスト			
担当者	小山 哲春			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト	『The Art of Public Speaking (9th ed)』 Lucas, S. McGraw Hill 2007			
参考文献				
備考	スペシャリストゼミ生対象の必修科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

本コースは、スペシャリスト領域専攻の学生を対象に、将来英語を使う職業に就いた時に必要となる実践能力の訓練と習得を目指す。「英語を使って」実務をこなしていこうとする者は、英文を読解・作成する能力、日常会話の能力、あるいは映画・文学等を文化的に解釈できる能力などに加え、自分の信頼性をアピールし、自分の持つ情報・意見・プランなどを仕事上の仲間・相手に受け入れてもらうための能力が必要不可欠となる。このような目標を達成するため、本コースでは、主に多数の Audience を対象とした英語で

の Public Speaking の理論と実践、そして他の話者あるいはグループと議論を交わす Debate の初歩的な訓練を中心にすすめられる。

また、本コースでの必修プロジェクトとして、Portfolio の作成（特定のテーマについて行った個人の Speech をデジタル録画、本ゼミ・他の授業・その他の機会で行った英語に関する活動等を CD あるいは DVD 等に焼き付け、英語の履歴書などを添えて就職活動その他で使用できるような Portfolio を作成）、本学提携校との交流プログラム（Summer Communication Program）の学生自身による企画・参加、等を予定している。

2. 教育・学習の個別課題

1. 基礎英語力の向上：具体的な目標を持てるよう、TOEFL/TOEIC 等の対策に役立つような教材を適宜使用する。

2. PublicSpeaking：文献・資料の検索、アウトラインの作成、実際のスピーチの準備と実践、自己・相互評価等の訓練と実践を行う。（主に三年次：英語英文学特論）

3. Debate：特定のトピックを設定し、複数のチームがそれぞれ別の視点から議論を交わす。トピックに関するグループごとの予習、相手チームまたは audience を説得するための議論の構築、さらに相手チームの議論に適切に反駁する方法などの訓練と実践を行う。（四年次：スペシャリスト・セミナー）

4. Summer Communication Program：本学の提携校であるカナダ・レジャイナ大学から CP(Conversation Partner)を招聘し、短期間の英語強化プログラムを行う。このプログラムは、企画の段階から実際の運営まで、すべて学生が主体となって行う。（四年次：スペシャリスト・セミナー）

3. 教育・学習の方法

クラスは実践練習の場となり、積極的な参加態度が望まれる。その場での相互評価、さらにはビデオ録画を見ての自己評価などで、客観的に実践能力を評価してさらなるスキルの向上を目指す。ただし、英語を使って人前で英語を話す、他人と高度な議論を交わすといったスキルの向上には、不安・羞恥心・気後れなどが障壁となることも多く、こういった要因をクラス全体の協力で乗り越えていくことも一つの大切な目標となる。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

演習型、プロジェクト型授業であり、Speech と Debate でのパフォーマンス、Discussion への参加・貢献、プロジェクト等を総合的に評価する。

5. 授業予定

第1回	Introduction
第2回	Preliminary SPEECH
第3回	Effective Presentation
第4回	Introduction to Informative Speech
第5回	Audience Analysis
第6回	Supporting Ideas
第7回	Organization of the Speech
第8回	Beginning and Ending of the Speech
第9回	Outlining the Speech
第10回	Visual Aids
第11回	Impression Management
第12回	Delivery
第13回	Review
第14回	SPEECH: Day 1
第15回	SPEECH: Day 2
第16回	Introduction to Persuasion
第17回	Critical Thinking (1)
第18回	Critical Thinking (2)
第19回	Claims for Persuasive Speech
第20回	Organization for Persuasive Speech
第21回	Psychology of Persuasion
第22回	Value and Policy Claims
第23回	Methods of Persuasion
第24回	Reasoning
第25回	Various Persuasive Communication
第26回	Case Study (1)
第27回	Case Study (2)
第28回	Case Study (3)
第29回	SPEECH: Day 1
第30回	SPEECH: Day 2

6. 留意事項

このコースを履修するには、TOEFL (CBT) で 175 点以上とっていること（あるいは TOEIC 600 点以上）が望ましい。不安のある場合は担当教員に相談のこと。実際の授業の内容は、学生のレベル・目標によってある程度の変更がありえる。

講義コード	20203301		
科目名	イングリッシュ・チャレンジ I		
担当者			
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

英語は実質的に「世界共通語」の役割を持つようになって来ています。特に政治経済、文化交流、そして情報メディアなど、国や地域の「枠」を越えて問題の把握あるいは問題の解決が求められる分野では特に共通言語が必要とされ、英語がますます重要な位置を占める言語となっています。本学ではすべての学生諸君がこのような「言葉」をめぐる現実をよく理解し、英語運用能力育成を自らのキャリアビジョン中に明確に位置づけるよう強く期待し、また様々な面で指導体制の充実を図っております。「イングリッシュ・チャレンジ I」及び「イングリッシュ・チャレンジ II」は、学生諸君の英語運用能力の育成を目指して設置された科目のひとつで、第三者機関の行う英語の標準テストでの一定の成果に対し単位を認める制度です。

2. 教育・学習の個別課題

TOEIC で 600 点以上、または 730 点以上を獲得する。

3. 教育・学習の方法

TOEIC で 600 点以上、または 730 点以上を獲得する。

・準備学習の具体的な方法

TOEIC で 600 点以上、または 730 点以上を獲得する。

4. 評価方法・評価基準

単位認定のために求められる成果の基準、また単位認定の手順などについては英語英文学科長へ問い合わせてください。（TOEIC の場合、English Challenge I は 600 点、English Challenge II は 730 点の取得をもって単位を認定します。）

5. 留意事項

講義コード	20203401		
科目名	イングリッシュ・チャレンジ II		
担当者			
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

英語は実質的に「世界共通語」の役割を持つようになって来ています。特に政治経済、文化交流、そして情報メディアなど、国や地域の「枠」を越えて問題の把握あるいは問題の解決が求められる分野では特に共通言語が必要とされ、英語がますます重要な位置を占める言語となっています。本学ではすべての学生諸君がこのような「言葉」をめぐる現実をよく理解し、英語運用能力育成を自らのキャリアビジョン中に明確に位置づけるよう強く期待し、また様々な面で指導体制の充実を図っております。「イングリッシュ・チャレンジ I」及び「イングリッシュ・チャレンジ II」は、学生諸君の英語運用能力の育成を目指して設置された科目のひとつで、第三者機関の行う英語の標準テストでの一定の成果に対し単位を認める制度です。

2. 教育・学習の個別課題

TOEIC で 600 点以上、または 730 点以上を獲得する。

3. 教育・学習の方法

TOEIC で 600 点以上、または 730 点以上を獲得する。

・準備学習の具体的な方法

TOEIC で 600 点以上、または 730 点以上を獲得する。

4. 評価方法・評価基準

単位認定のために求められる成果の基準、また単位認定の手順などについては英語英文学科長へ問い合わせてください。(TOEIC の場合、English Challenge I は 600 点、English Challenge II は 730 点の取得をもって単位を認定します。)

5. 留意事項

講義コード	22301201			
科目名	比較文化概論 複眼思考の勧め			
担当者	野田 四郎			
単位数	2	配当学年	12	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『個人主義と集団主義』 H.C. トリアンディス (著) 神山・藤原編訳 北大路書房 2003 『日本人とユダヤ人』 イザヤ・ベンダサン 山本書店 1970 『比較文化入門』 狐野利久 北星書店 1995 『フランスの社会』 原輝史・宮島喬 (編) 早稲田大学出版会 1993 『個人主義の社会-日本』 浜口恵俊 東洋経済新聞社 1992			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

今日の日本において、異文化とりわけ西欧文化を語るとき、そこにおける『西欧』とは、一般にヨーロッパ及び北アメリカを指している。しかし、私自身の25年間にわたる日本外での生活体験から得た結論は、ヨーロッパと北アメリカではかなりの相違があり、これら二つの地域・文化圏を西欧という一つの単語でとらえること自体、かなり無理があるということである。従って、この科目では、私自身の25年間にわたる海外生活(フランス・アルジェリア・イギリス・カナダなど)での体験も織り交ぜながら、ヨーロッパとアメリカ大陸、更には、アラブ文化圏等も含めた違いについて考察する。こうした考察を通して異文化を理解する窓口を学生と共に創っていききたい。

2. 教育・学習の個別課題

21世紀の今日、否応なしに世界はグローバル化の時代を迎えている。そうした中で、インターネット、国際ビジネス、自然科学等の分野において英語が圧倒的強みを発揮している。今後とも、英語が国際交流において重要な言語であることに変わりはないであろう。同時に、世界とは多種多様な言語・民族より構成されており、その実態は、一つの言語のみで把握するには余りにも複雑であることも事実である。そこで、日本人が21世紀において、真の意味での国際的視野を持つには、英語の習得のみに止まらず、他の言語・文化圏に関する知識を深めることが不可欠である。こうした複数の言語・文化圏に関する考察を通して比較文化を行うことで、『複眼思考』の大切さを学ぶ。

3. 教育・学習の方法

下記の授業予定に紹介する幾つかのテーマごとに、日本と異文化圏とりわけ西欧社会の違いを探り上げ、そうした違いは一体どこからきているのかについて各自が考える。こうした考察を通して、異文化理解を自分の問題として捉える意識・習慣を育む。

・準備学習の具体的な方法

教科書は特に定めないので、上記にあげた参考書のうち、少なくとも一つは読むこと。

4. 評価方法・評価基準

出席を重視する。学期末に小論文形式の試験を行う。自らの考えを、論理的に展開し、文章にまとめる能力が問われる。

5. 授業予定

- 第1回 文化とは何か
- 第2回 エゴ(自我)をめぐる西欧と日本の違い
- 第3回 個人主義と集団主義
- 第4回 文化圏による「自然観」の違い
- 第5回 死と生をめぐる比較文化
- 第6回 仕事・労働に対する価値観
- 第7回 対立・紛争処理をめぐる異文化比較(1)
- 第8回 対立・紛争処理をめぐる異文化比較(2)
- 第9回 沈黙と雄弁に関する比較文化
- 第10回 教育の在り方-東西比較(1)
- 第11回 教育の在り方-東西比較(2)
- 第12回 信仰と宗教-東西比較
- 第13回 人間関係をめぐる比較文化
- 第14回 家族の在り方をめぐる比較文化
- 第15回 社会における女性の地位をめぐる比較文化

6. 留意事項

授業中の私語は、他のクラスメートに迷惑となるので、つつむこと。大学生は、大人としてのマナーを身につけて下さい。

講義コード	22301301			
科目名	日本文化論			
担当者	阪口 由佳			
単位数	2	配当学年	12	
資格	[国][日][ホ]			
前提科目				
テキスト	プリント配付			
参考文献	『光源氏が愛した王朝ブランド品』 河添房江 角川選書 『エピソードで語る日本文化史(上・下)』 松井秀明 地歴社 『サブカルチャー文学論』 大塚英志 朝日新聞社			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「日本文化」という言葉から連想されるのは、どのような単語でしょうか。伝統芸能としての能や歌舞伎、お茶・お花をはじめとする「〜道」という世界、或いは神社仏閣や庭園といった建築など、どちらかという日常生活とは一線を画した世界を思い浮かべるかもしれません。この科目では、そういった「日本文化」の華に対する理解を深めるとともに、暮らしの中の「日本らしさ」を感じさせる風習についても学ぶことを目的としています。受講に際しては各自授業に参加するという意欲をもって臨んでくれることを願っています。

2. 教育・学習の個別課題

- ・日本を中心とした、文化の多様な表現や実態にふれ、その特徴を理解する。
- ・文化研究の方法を知り、現代や過去の文化の在り方を理解する。
- ・日本文化を生きたものとして理解し、自分の生活と結びつけて考察する。

3. 教育・学習の方法

- ・配布したプリントにより、様々な文化表現や実態に触れ、講義をとおして、日本文化に対する理解を深める。
- ・考えをまとめ表現する力を養うために、毎時間の終わりに、講義の内容に対する感想・意見をまとめて提出する。

・準備学習の具体的な方法

- ・授業で紹介した参考文献や文学、映像作品などを実際に自分で味わってみる。
- ・紹介した参考文献以外にも読書体験を広げ、日本文化について考えをまとめる。
- ・京都を実際に自分で歩いてみる。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度(50%)、まとめテスト(50%)により行う。

5. 授業予定

- 第1回 日本文化とは何か
- 第2回 日本文化とグローバル社会
- 第3回 日本の神話と世界の神話
- 第4回 幻想と怪異の世界
- 第5回 平安時代の人と交流
- 第6回 中世と心の文化
- 第7回 近世の町民文化
- 第8回 京都の成り立ち
- 第9回 京都と伝統文化
- 第10回 京都と国際交流
- 第11回 サブカルチャーとカウンターカルチャー
- 第12回 マンガ、アニメ、おたく
- 第13回 クールジャパンと政治経済
- 第14回 現代日本文化の多様性
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22302101・92208801			
科目名	日本語コミュニケーションⅠ			
担当者	長沼 光彦			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[国][情][日]			
前提科目				
テキスト	『書き込み式 漢字ベーシック』 明治書院 プリント配布			
参考文献	『大学生のためのレポート・論文術』 小笠原喜康 講談社現代新書 『「分かりやすい説明」の技術』 藤沢晃司 講談社ブルーバックス 『相手に「伝わる」話し方』 池上彰 講談社現代新書 『人生の教科書 人間関係』 藤原和博 ちくま文庫 『大人の敬語コミュニケーション』 蒲谷宏 ちくま新書			
備考	必修 文章表現を含む			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

人に意思を伝えるのは難しい。頭に浮かぶまま言葉に置き換えても、なかなか理解してはもらえない。言葉にできない思いもある。思いを伝えるには、表現の工夫や言葉の知識が必要になる。

本講座では、コミュニケーションのための基礎知識や方法を紹介しながら、表現に慣れ親しんでもらうことを目的とする。作文を書くのは苦手だという人たちは、まずは気楽に言葉を書き連ねる習慣を身につけてほしい。そのうえで、人に自分の気持ちをよりうまく伝える方法を学んでいこう。

また、1年次の必修であるため、レポート作成方法など、大学で学ぶための方法も身につける。

2. 教育・学習の個別課題

- ・コミュニケーションの基礎知識の学習
- ・漢字検定準2級から2級レベルの漢字能力の養成
- ・句読法・接続詞など文法事項の習得
- ・段落構成など、表現方法の習得
- ・レポートの書き方の学習
- ・敬語表現の基礎の習得

3. 教育・学習の方法

- ・プリントやビデオなどにより教材を提示する。
- ・毎回作文用紙やワークシートなどを用いて、文章表現の練習を行う。
- ・毎回漢字テストを行い、文章表現のための基礎力を身につける。
- ・グループ学習を通じて、コミュニケーション能力を養う。
- ・準備学習の具体的な方法
- ・授業で紹介した参考文献などを読み、コミュニケーションに関する知識を広げる。
- ・授業で学んだことを、大学生活で実践し、自分のコミュニケーション活動を省みる。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度(30%)、毎時間の提出物(30%)、漢字テスト(10%)、学期末のレポート(30%)により行う。大学で学ぶための入門講座でもあるので、出席することを重視する。出席しなければ、毎時間の提出物や漢字テストの評価もできないので注意しよう。

5. 授業予定

- 第1回 自己表現としての自己紹介
- 第2回 文の構造と句読点の使い方、原稿用紙の使い方
- 第3回 論理的に考える(案の出し方と単純化)
- 第4回 論理的に考える(対立点を見つける)
- 第5回 論理的に考える(カテゴリーに分ける)
- 第6回 グループワーク(異なる意見を整理する)
- 第7回 わかりやすく発表する
- 第8回 文章の整理・文章の組み立て
- 第9回 対比の構造(「しかし」を使いこなす)
- 第10回 敬語表現の基礎
- 第11回 手紙の書き方
- 第12回 レポートの書き方(形式を整える)
- 第13回 レポートの書き方(構成を意識する)
- 第14回 レポートの実践指導
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22302201・92208901			
科目名	日本語コミュニケーションⅡA 口頭表現の基礎			
担当者	平野 美保			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[国][情][日]			
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	『声のトレーニング』 福島英 岩波ジュニア新書 2005 『テレビの日本語』 加藤昌男 岩波新書 2012			
備考	必修 文章表現を含む			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22302202・92208902			
科目名	日本語コミュニケーションⅡB 口頭表現の基礎			
担当者	平野 美保			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[国][情][日]			
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	『声のトレーニング』 福島英 岩波ジュニア新書 2005 『テレビの日本語』 加藤昌男 岩波新書 2012			
備考	必修 文章表現を含む			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

口頭表現に関する基礎技法の習得を目指す。

2. 教育・学習の個別課題

- ・人前で話すことに慣れること
- ・口頭表現の基礎技法を習得すること
- ・よりよいコミュニケーションのための話し方を考え、実践に役立てるように行うこと

3. 教育・学習の方法

- ・理解するだけでなく、練習を通して、その基礎技法を習得する
- ・随時、学習してきたことについてグループで討議を行い、全体で発表する
- ・人前で話すための練習をする
- ・毎回、一週間のコミュニケーションに関する自己の振り返り、毎回の授業の自己目標、自己課題、学習内容、意見・感想について記録し、知識や技能向上に努める

・準備学習の具体的な方法

今回の課題の準備をしておいてください。

4. 評価方法・評価基準

評価は、全体発表(30%)、出席率・授業参加度(30%)、記録ノート(40%)に基づいて、総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 授業のオリエンテーション
- 第2回 日本語コミュニケーション学習の必要性
- 第3回 わかりやすく話す
- 第4回 もののいい方とグループでの活動
- 第5回 発声・発音と音声表現の基礎
- 第6回 アナウンサー体験：準備
- 第7回 アナウンサー体験：練習
- 第8回 アナウンサー体験：リハーサル
- 第9回 ゲストを迎えてアナウンサー体験
- 第10回 グループ討議と発表
- 第11回 スピーチの準備(情報収集と内容構成)、グループ内練習
- 第12回 スピーチリハーサル①(相互評価)
- 第13回 スピーチ本番
- 第14回 朗読
- 第15回 まとめ：ミニスピーチ

6. 留意事項

ゲストの日程等の都合によって、予定を変更する可能性があります。

講義コード	22302301・92209001			
科目名	日本語コミュニケーションⅢ 国語力を磨くー漢字と書写を中心に			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[国][情][日]			
前提科目				
テキスト	『ことばの常識問題 1849』 日栄社			
参考文献	『日本語検定公式2級過去・練習問題集』 東京書籍 『日本語検定公式3級過去・練習問題集』 東京書籍 『漢字検定過去問題集2級』 漢字能力検定協会 『問題な日本語』 北原保雄編 大修館書店			
備考	必修 文章表現を含む			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

現代の日本人は、歌を忘れたカナリヤのように、対人コミュニケーションが苦手である。ケータイやパソコンは駆使できても、挨拶ができない、敬語は使えない、手紙も書けない、漢字もあやふや、マナーを知らない……。こんなことでよいのだろうか。この科目の最大の目的は、「徳と知」を兼ね備えた大人にふさわしい高いコミュニケーション能力を養うことである。とくに、この「Ⅲ」の授業では、日本語検定3級、漢字検定2級程度の国語力習得を旨とするとともに、就職活動や社会に出た時にきつと役立つであろう、さまざまな文書の書き方、美しい文字を書くためのペン習字など、具体的、実践的なトレーニングを行い、国語力にいつそうの磨きをかける。

2. 教育・学習の個別課題

1. 言語コミュニケーションやマナーに関するさまざまな考え方について学ぶ。
2. 二度にわたるレポート作成により、文章表現力を錬磨する。
3. 漢字検定2級程度の漢字能力を養成する。
4. 日本語検定準2級程度の日本語能力を養成する。
5. 手紙、履歴書、ビジネス文書など、さまざまなスタイルの文章表現を演習する。
6. 敬語を使えるようにする。
7. ペン習字などさまざまな書写課題にとりくみ、字を書くことの楽しさを味わう。

3. 教育・学習の方法

テキストにより、毎回範囲を決めて、漢字小テストを実施する。その他、日本語検定準2級程度の演習問題、視聴解問題、書写練習等、さまざまな学習課題に取り組む。

・準備学習の具体的な方法

1. 課題テストの出題範囲を学習しておくこと
2. 事前に指示されたレポートや文章作成課題に取り組むこと

4. 評価方法・評価基準

授業態度の評点40%、レポート点30%、平常点10%、学期末試験20%で評価する。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. 授業予定

- 第1回 導入授業
- 第2回 文字を書く
- 第3回 漢字検定、日本語検定など
- 第4回 常識検定、秘書検定など
- 第5回 文章表現力をつける
- 第6回 語彙力をつける
- 第7回 レポート・論文の書き方再説
- 第8回 添え状の書き方
- 第9回 履歴書を書く
- 第10回 手紙を書く
- 第11回 ビジネス文書を書く
- 第12回 メールのマナー
- 第13回 ビジネスマナーを身につける
- 第14回 方言と標準語
- 第15回 総括

6. 留意事項

講義コード	22401101			
科目名	西洋思想史(近世)			
担当者	宮永 泉			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『西洋哲学史』 岩崎武雄 有斐閣 『デカルトー省察・情念論ー』 デカルト(井上庄七他訳) 中公クラシックス			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

17世紀の3人の哲学者(デカルト、ホッブズ、スピノザ)に焦点をあてつつ、近世の西洋思想史を概観し、人間と世界についての哲学的な考え方を学ぶ。受講生は、将来自分自身の人生観・世界観を確立する為のヒントが得られるはずである。前期の「西洋哲学史(古代・中世)」と一対をなす。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) 岩崎武雄著『西洋哲学史』を読む。
- 2) 上と平行して、各自でデカルト著(井上庄七訳)『省察』を読み、レポート提出。
- 3) その他、適当な講演会やビデオなどを利用して、レポートを提出して貰うことがある。

3. 教育・学習の方法

- 1) 授業方法: 講義と講読の併用。
- 2) 学習方法: テキストの予習。

・準備学習の具体的な方法

岩崎武雄著『西洋哲学史』について、授業で読む箇所を毎回必ず予習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポートまたはテストなど[60%]を以て総合的に行う。毎回授業に出て、しっかり耳を傾けることが最も大切。3分の2以上の出席を要す。

5. 授業予定

- 第1回 (1) 授業準備(単位認定の仕方の説明等)
(2) 哲学の三つの型
- 第2回 『西洋哲学史』講読: 近世哲学史概観、過渡時代の哲学
- 第3回 同上 : 過渡時代の哲学
- 第4回 同上 : デカルト哲学
- 第5回 同上 : 同上
- 第6回 同上 : 同上
- 第7回 同上 : 同上
- 第8回 同上 : ホッブズ哲学
- 第9回 同上 : 同上
- 第10回 同上 : 同上
- 第11回 同上 : スピノザ哲学
- 第12回 同上 : 同上
- 第13回 同上 : 同上
- 第14回 同上 : 同上
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22401401			
科目名	国際関係論			
担当者	野田 四郎			
単位数	2	配当学年	12	
資格	[情][日]			
前提科目				
テキスト	『国際政治の21世紀像』 細谷・臼井(編) 有信堂 1996			
参考文献	『国際政治』 藤原帰一 放送大学教育振興会 2007 『世界変動の見方』 猪口孝 ちくま新書 1994 『転換期の国際政治』 武者小路公秀 岩波新書 1996 『二十世紀をどう見るか』 野田宣雄 文春新書 1998 『国際文化論』 平野健一郎 東京大学出版会 2000 6. 『アイデンティティの国際政治学』 馬場伸也, 1980年 7. 『講座 旧超大国の国際関係 世紀間の世界政治』 嶋武彦編, 日本評論社, 1993~1994年 8. 『国際政治の構造変動』 坂本義和編, 岩波書店, 1995~1997年 9. 『文明の衝突』 サミュエル・ハンチントン, 集英社, 1998年 10. 『大崩壊の時代 上・下』 フランシス・フクヤマ, 早川書房, 2000年			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

国際関係は20世紀末から21世紀にかけ劇的とも言える変化をとげてきた。第二次世界大戦後誕生した米ソ2極構造を基盤とした冷戦時代は1980年代末には終わりを告げ、90年代以降顕著になってきたのがグローバリゼーションである。冷戦後、唯一の軍事超大国としてグローバル覇権を確立し、一極支配の気配さえ感じさせていたアメリカは、2008年の世界金融危機で震源地となり、経済構造の「もろさ」を露呈した。同時に、中国・インド・ブラジルといった新興国が益々その存在感を強めており、国際社会は世界勢力の再編成を伴った多極化へと向かっている。こうした激変にもかかわらず、一貫して国際システムの基本的行動主体（アクター）であり続けているのが、国民国家である。そこで本講では、国民国家が誕生するウェストファリア体制以降の国際関係を概観しつつ、国際関係の変化が、日本にとってどのような意味を持ってきたのか、学生と共に考えてみたい。

2. 教育・学習の個別課題

国際システムの主要な行動主体である国民国家にとって、重要な構成要素となる言語・文化・宗教・民族などの役割に注目しながら、国際関係のあり方と変遷について考える。

3. 教育・学習の方法

授業に出て、講義ノートをとるという事で満足するだけではなく、上記の参考文献に紹介されている著書の中から必ず1冊を選び、自分の関心に応じて読むこと。

・準備学習の具体的な方法

① 新書版は手ごろな価格であり、参考文献として上掲した、ちくま新書・岩波新書・文春新書のうちから、どれか一冊を購入し読むこと。② グローバリゼーションに伴い、21世紀の世界は「地球村化」していることから、国内と国際の境界線は引きにくいのが現状です。そこで、自分の毎日の生活が、世界で起きている出来事とどの様につながっているか考える習慣をつける為に、新聞を必ず毎日読むこと。また、新聞を購読していない場合は、インターネットのNHKオンライン等で「国際」のニュースを週に2~3回はチェックするよう心がける。

4. 評価方法・評価基準

出席を重視する。学期末に小論文形式の試験を行う。単位取得には、全15回の3分の2に相当する10回は、少なくとも出席すること。

5. 授業予定

- 第1回 なぜ国際関係論を学ぶのか：国際問題の国内化と国内問題の国際化
- 第2回 日常生活に関係する国際問題：具体例を通して見る、国際問題の国内化及び国内問題の国際化のプロセス
- 第3回 近代的な意味での「国際関係」の出現：ウェストファリア条約への道程
- 第4回 ウェストファリア体制の誕生
- 第5回 ヨーロッパにおける近代的意味での「国家」の誕生
- 第6回 フランス革命と国民国家：傭兵から国民皆兵へ
- 第7回 ナポレオン戦争とヨーロッパの変貌
- 第8回 ヨーロッパ諸国に見るナショナリズムの台頭

- 第9回 大英帝国の構築とパクス・ブリタニカ
- 第10回 ドイツ帝国の誕生と新たな勢力図
- 第11回 第一次大戦への道程と両陣営の構成／ロシア革命と社会主義国家の出現
- 第12回 戦間期の意味：なぜ平和は保たれなかったのか
- 第13回 第二次大戦に伴う国際政治の枠組み再編：アメリカとソ連・冷戦の勃発
- 第14回 ヨーロッパにおける統合運動の発展
- 第15回 冷戦の終焉と世界経済のグローバリゼーション／日本の立ち位置：日米関係とアジアの狭間で

6. 留意事項

授業中の「おしゃべり」は、他のクラスメートに迷惑となるばかりでなく、授業の進行を妨げるので、厳につしむこと。大学では、大人としてのマナーを身につけるように心がけてください。

講義コード	22401501			
科目名	現代ジャーナリズム論 ニュースが世界を回している			
担当者	荻原 靖史			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[情][日]			
前提科目				
テキスト	特になし。テキストは日々のニュースです。			
参考文献	図書（ノンフィクションなど）、雑誌、映画などは講義に合わせて紹介します。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

ニュースに対する読解力とさまざまな事象を総合的にみる感覚を養います。社会人として必要な時事問題、時事用語をはじめ将来、自分の仕事にも生かせる情報整理の初歩も学びます。

2. 教育・学習の個別課題

- 1 新聞、雑誌、ネットなどのテキストを複眼思考で読む。
- 2 伝える文章、読ませる文章の要点を知り、書くことに慣れる。
- 3 自分の意見をまとめる、鍛える、語る。

3. 教育・学習の方法

- 1 テーマに関連する活字メディア、電波・映像メディアなどを読む・見る。
- 2 自分の気になるテーマを選んで文献や資料を収集
- 3 日常を観察すること、「聞く」「話す」「書く」ことを意識的に。

・準備学習の具体的な方法

日々のニュースやノンフィクションに親しんでおく。できればジャーナリズム関連の書籍も読んでおく。

4. 評価方法・評価基準

成績は授業参加・受講態度（50%）、3回のレポート（50%）の総合評価です。

5. 授業予定

- 第1回 序論（講義の進め方など）
- 第2回 ジャーナリズムの現在 その1
- 第3回 取材の現場から
- 第4回 政治・選挙報道
- 第5回 国際報道
- 第6回 経済報道
- 第7回 社会、調査報道
- 第8回 ジャーナリズムの現在 その2
- 第9回 「書く」「伝える」講座
- 第10回 文化・生活・エンタメ報道
- 第11回 科学・学術報道
- 第12回 スポーツ、写真報道
- 第13回 世界が動くとき 2012⇒2013
- 第14回 論壇
- 第15回 ジャーナリズムの未来

6. 留意事項

最新のニュースを題材とするため、その日のテーマや順番は大きく変わる可能性があります。

講義コード	22401701			
科目名	情報システム論			
担当者	吉田 智子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[情]			
前提科目				
テキスト	『基礎から学ぶ情報処理』 榎原博之 他著 培風館 2009年			
参考文献	『新インターネット講座』 有賀妙子、吉田智子著 北大路書房 2005年 『オープンソースの逆襲』 吉田智子著 出版文化社 2007年			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

現代社会のいたる所に、情報ネットワークが存在している。企業の情報ネットワーク化によって、さまざまな新しい取引形態も出現している。この新しい情報ネットワークは、マスメディアとは異なる双方向的な情報の送受信を実現している。この科目では、高度情報ネットワーク社会における人文・社会科学的情報概念と自然科学的情報概念との両面から、この社会に対する理解を深める。つまり、情報処理技術の背景や社会現象に注目して、社会の中でコンピュータや情報ネットワークがどのような役割を演じているかについて、幅広く理解することを目標とする。情報処理技術の可能性や限界を認識することもできるであろう。

2. 教育・学習の個別課題

- ・コンピュータの歴史と原理
- ・情報のデジタル表現
- ・コンピュータのハードウェアとソフトウェア
- ・コンピュータ・ネットワークのしくみと発展
- ・情報セキュリティ（暗号のしくみとセキュリティ技術）
- ・情報モラルと倫理
- ・情報とメディアに関する法制度
- ・情報産業の構造と社会的責任
- ・コンピューティングの変遷と将来

3. 教育・学習の方法

講義方式で授業を行う。教科書である「基礎から学ぶ情報処理」（培風館）の内容を基本とするが、参考書として、担当者が執筆に関わっている2冊の本（「新インターネット講座」、「オープンソースの逆襲」）の関係ページもあわせて読むことを希望する。（指定図書として図書館に置いている。）

・準備学習の具体的な方法

毎回の授業の講義対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。

4. 評価方法・評価基準

授業参加（20%）、課題など（20%）、確認テスト（60%）の総合点で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス、コンピュータの技術史（真空管、トランジスタ、・・・）教科書1章より
- 第2回 コンピュータの歴史と原理 教科書1章より
- 第3回 情報のデジタル表現 教科書2章より
- 第4回 コンピュータのハードウェアとソフトウェア 教科書3章より
- 第5回 オペレーティングシステムとは、CUIとGUIとは 教科書3章より
- 第6回 コンピュータ・ネットワークのしくみと発展(1) 教科書4章より
- 第7回 コンピュータ・ネットワークのしくみと発展(2) 教科書4章より
- 第8回 情報セキュリティ（暗号のしくみとセキュリティ技術）教科書5章より
- 第9回 情報モラルと倫理 教科書6章より
- 第10回 情報とメディアに関する法制度 教科書7章より
- 第11回 情報産業の構造と社会的責任 教科書9章より
- 第12回 コンピューティングの変遷と将来(1) 教科書10章より
- 第13回 コンピューティングの変遷と将来(2) 教科書10章より
- 第14回 コンピューティングの変遷と将来(3) 教科書10章より
- 第15回 まとめ（復習問題と解説）

6. 留意事項

講義コード	22401801			
科目名	日本美術史			
担当者	山田 由希代			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『日本美術の歴史』 辻惟雄 東京大学出版会 2005			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

縄文から近現代までの絵画、彫刻、工芸、建築、庭園など、たくさんの分野にまたがる日本の美術の流れに沿って、「美術」とは何か？を探る。

2. 教育・学習の個別課題

- 1.日本美術の基礎的知識の習得
- 2.作り手と受け手の関係

3. 教育・学習の方法

講義を中心とする。その際、作品鑑賞のために情報機器を用いて、視覚によっても理解を深める。必要に応じて資料を配布する。

・準備学習の具体的な方法

あらかじめ、図書館などで日本美術に関する図書に目を通しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業に臨む態度、期末のまとめテスト、出席状況を総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 日本美術とは
- 第2回 縄文
- 第3回 弥生・古墳
- 第4回 飛鳥・白鳳
- 第5回 奈良
- 第6回 平安1
- 第7回 平安2
- 第8回 鎌倉
- 第9回 南北朝・室町
- 第10回 桃山
- 第11回 江戸1
- 第12回 江戸2
- 第13回 明治
- 第14回 大正・昭和
- 第15回 期末のまとめ

6. 留意事項

日頃から、美術館や博物館などで、なるべく多くの作品に接すること。

講義コード	22505401			
科目名	比較文学講読			
担当者	鷲見 朗子			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『ハリー・ポッターと賢者の石 携帯版』 ローリング 静山社 2003			
参考文献				
備考	隔年開講2			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

比較文学とは、特定の国という枠を超えた文学の研究であり、さらに文学とその他の芸術（絵画、建築、彫刻、音楽など）、宗教、哲学、歴史、社会科学（政治学、経済学、社会学など）、自然科学など他分野の知識や教養との関係を研究するものである。この科目では、世界の文学を深く読むことにより、それぞれの作品の背景や作品の意図を理解することを目的とする。今年度は『ハリー・ポッター』を題材にする。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 文学作品の読み方・理解の仕方を学ぶ

- (2) 文学が人々に与える力を学ぶ
- (3) 他の学生が感じていることを共有する
- (4) 「語り」「視点」「話法」などの物語論の観点から作品を分析する

3. 教育・学習の方法

- (1) 『ハリー・ポッター』に関する講義をきく
- (2) 『ハリー・ポッター』第1巻を注意深く読む
- (3) 『ハリー・ポッター』シリーズから映画をみる
- (4) 発表を行う
- (5) 英語で原書を読む

・準備学習の具体的な方法

授業に備えて、『ハリー・ポッター』シリーズから課された範囲を読み、内容を理解する。

4. 評価方法・評価基準

授業参加・発言 20%、発表 20%、レポートまたは試験 60%によって評価を行う。

5. 授業予定

- 第1回 (1) イントロダクション
- 第2回 (2) 『ハリー・ポッター』(作者と背景)
- 第3回 (3) 『ハリー・ポッター』(登場人物)
- 第4回 (4) 『ハリー・ポッター』(語り・視点)
- 第5回 (5) 『ハリー・ポッター』(話法)
- 第6回 (6) 『ハリー・ポッター』(構造)
- 第7回 (7) 『ハリー・ポッター』原書(英語)読解
- 第8回 (8) 『ハリー・ポッター』(現代社会とのつながり)
- 第9回 (9) 『ハリー・ポッター』(家族)
- 第10回 (10) 『ハリー・ポッター』(宗教とのかかわり)
- 第11回 (11) 『ハリー・ポッター』映画
- 第12回 (12) 発表
- 第13回 (13) 発表
- 第14回 (14) 発表
- 第15回 (15) まとめ

6. 留意事項

講義コード	22505901		
科目名	日本伝統文化論 雅楽はどこからきたのか		
担当者	鳥居本 幸代		
単位数	2	配当学年	234
資格	[日][木]		
前提科目			
テキスト	『雅楽—時空を超えた遙かな調べ—』 鳥居本幸代 春秋社 2008年		
参考文献	『日本の古典芸能第2巻『雅楽・王朝の宮廷芸能』 芸能史研究会編 平凡社 1970年 『雅楽のデザイン・王朝装束の美意識』 多忠磨編 小学館 1990年 『日本音楽叢書1『雅楽』』 木戸敏郎編 音楽友之社 1990年 『雅楽・重要無形文化財』 下中記念財団編 平凡社 1990年 『雅楽入門』 増本伎共子 音楽友之社 2000年		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

雅楽は伝統芸能のなかで最も長い歴史を有しているが、日本古来のものではない。6世紀中葉、仏教伝来とともに中国、朝鮮、ベトナムなどから伝来した外来の音楽と舞である。大宝律令に雅楽寮を置いて育成保護に務め、平安時代には宮廷行事に不可欠な存在となり、貴族の教養科目の1つに数えられるほど愛好された。千年の時を隔てて継承された雅楽を通して、伝統文化の一端を探る。

2. 教育・学習の個別課題

- 1. 雅楽の歴史
- 2. 雅楽をとりまく環境
- 3. 雅楽と舞楽
- 4. 雅楽と装束
- 5. 平安朝文学作品と雅楽

3. 教育・学習の方法

講義形式で授業を進めるが、ビデオなどを活用してテキストの内容を補足する。さらに、雅楽器を手にとって演奏の体験をし、舞楽の観賞も実施す

る。

・準備学習の具体的な方法

第1回の授業以降、次回の授業内容に相応するテキストの箇所を指定し、読んでおくこと。その結果確認のため、授業冒頭で小テストを行う。

- 第2回 P3~13
- 第3回 P15~27
- 第4回 P28~45
- 第5回 P46~65
- 第6回 P46~65
- 第7回 P5~12
- 第8回 P75~94
- 第9回 P95~122
- 第10回 P123~146、P172~182
- 第11回 P46~50、P183~196
- 第12回 P147~163
- 第13回 P36~39、P200~201
- 第14回 P251~268
- 第15回 P218~250

4. 評価方法・評価基準

評価は授業参加度(30%)、小テスト(20%)、確認テスト(50%)に基づいて総合的に行う。欠席・遅刻は、減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 序論 日本音楽の流れ
- 第2回 雅楽の定義
- 第3回 三韓楽と伎楽の伝来
- 第4回 外国音楽の消化
- 第5回 正倉院宝物の雅楽器を見る
- 第6回 正倉院宝物の伎楽面
- 第7回 雅楽器の演奏体験
- 第8回 雅楽の日本化
- 第9回 平安貴族のくらしと雅楽
- 第10回 平安朝の宮廷行事と雅楽
- 第11回 東大寺大仏開眼会にみる法会と雅楽
- 第12回 祭礼と雅楽
- 第13回 『源氏物語』と雅楽
- 第14回 雅楽の現代
- 第15回 舞楽の鑑賞

6. 留意事項

授業冒頭に小テストを行うため、遅刻厳禁。

講義コード	22506001		
科目名	日本文学史概論 日本文学のエッセンスを味わう		
担当者	阪口 由佳		
単位数	2	配当学年	234
資格	[国][日]		
前提科目			
テキスト	配付プリント		
参考文献	『別冊国文学、古典文学史必携』 久保田淳 学燈社 1992 『別冊国文学、新古典文学研究必携』 市古貞次 学燈社 1990		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

「文学史」というと、年表を見、作品名と作者の名前とを結びつけて覚えるもの、というイメージを持っているかもしれません。様々な基礎的事項を覚えることが重要であるのももちろんですが、この授業では、各時代の代表的作品に触れ、具体的なイメージを持つことを通じて、作品に対する理解を深めることを第一の目標とします。

優れた文学作品には様々な人間の姿が描かれています。「文学史」を学び多彩な作品に触れ、それぞれの時代を生きた人々の生を想像したり、時間を超えても変わらない心の在りようを再発見したりといった経験を通して、豊かな感受性を育むことを目指したいと思います。

2. 教育・学習の個別課題

- ・日本文学が生まれた背景を学ぶ。
- ・各時代の特徴を踏まえ、作品の個性を知る。
- ・優れた文学作品の魅力を味わう。

- ・各作品について自らの感想を抱く。
- ・古代から近代、現代に至る日本文学の流れを概括する。

3. 教育・学習の方法

講義は配布プリントを中心に進めていきますが、ただプリントを眺めるだけではなく、取り上げる様々な作品の魅力についての感想を教室で発表するなど、積極的に作品に向き合うことができるような時間にしたいと考えています。

受講に際しては、各自授業に参加するという意欲をもって臨んでもらいたいと願っています。また、取り上げる作品毎に様々な媒体を使用する予定です。(例：現代語訳、古写本、漫画、翻訳小説等)

・準備学習の具体的な方法

高校までに学習した、文学史や日本史の知識を復習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

成績は、発表等授業参加度（50%）、まとめテスト（50%）により判断します。

5. 授業予定

- 第1回 平安京の光と闇—『今昔物語』、『枕草子』
- 第2回 「みやび」と「もののあはれ」—『伊勢物語』、『源氏物語』
- 第3回 女の一生—『蜻蛉日記』、『更級日記』
- 第4回 概観—上代から中古にかけての文学
- 第5回 「無常」の世—『方丈記』、『平家物語』
- 第6回 中世の美学—『徒然草』、『風姿花伝』
- 第7回 概観—中世の文学
- 第8回 和歌と俳句を味わう—「三大歌集」、松尾芭蕉・与謝蕪村・小林一茶
- 第9回 江戸時代の文化—井原西鶴、近松門左衛門
- 第10回 読者の存在—上田秋成、十返舎一九
- 第11回 「新聞小説」—尾崎紅葉、夏目漱石
- 第12回 小説家の苦悩—芥川龍之介、太宰治
- 第13回 概観—近世から近代、現代にかけての文学
- 第14回 世界への発信—川端康成、村上春樹
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

主的に作品に向き合う姿勢を求めます。講義中は、質問以外、私語は厳禁です。

講義コード	22506801			
科目名	ヨーロッパ文化論 文化交流の視点から			
担当者	野田 四郎			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	①北村勇（訳）『中世近世日欧交流史』（原著：Richard Hildreath “Japan as it was and is”, Boston, 1855）、現代思潮社、1981。 ②松田毅一『日欧のかけはし—南蛮学の窓から』（思文閣出版、1990年） ③松田毅一『南蛮人の日本発見』（中央公論社、1982年） ④松田毅一監修『日本の南蛮文化』（淡交社、1993年） ⑤相川忠臣（長崎大学刊行会代表）『出島の科学』（九州大学出版会、2002年） ⑥西川長夫・松宮秀治編『「米欧回覧実記			
備考	コンソーシアム提供科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

ヨーロッパとは、実に様々な民族、伝統、文化が混在する多様性に富む地域であり、27というEU加盟国の数が象徴するように、ヨーロッパの多様な文化を包括的に捉えるのは至難の業である事が理解されよう。そこで本講では、ヨーロッパ文化を、基本的に日欧文化交流史の観点から見ていく。因みに、交流と言う場合、相互性が表現自体に含まれるが、実際には、日本は圧倒的にヨーロッパ文化の受信国であり、自国文化の積極的発信国であったとは言えない。そこで、それぞれの時代でヨーロッパにおける社会・文化がどのような状況にあったかを概観した後、そうしたヨーロッパの文化がどのように日本社会に受容されていったかについて考察する。こうして、各時代ごとに日本とヨーロッパの間を往還するのが、本講の特徴である。そうした中、日本の大衆文化がヨーロッパに発信され、

且つ現地で根付いている極めて例外的なケースが「マンガ」や「アニメ」である。そこで、学期の最後（2～3回）では、今日のフランスにおけるマンガ・アニメの浸透と普及の実態を紹介すると同時に、現代ヨーロッパの若者文化について考える。

2. 教育・学習の個別課題

- ・ヨーロッパ文化の到来と戦後期におけるアメリカ文化流入の対比
- ・異文化の象徴たるヨーロッパ文化への日本人の反応
- ・ヨーロッパ文化の担い手とキリスト教
- ・ヨーロッパ政治・社会情勢の変化と担い手の新旧交代
- ・一方的受信から発信へ—日本の大衆文化「マンガ」・「アニメ」と現代ヨーロッパの若者文化

3. 教育・学習の方法

授業は、基本的に講義形式で行う。随時、授業のテーマに沿って関連資料をプリント配布する。また、教員がパリでインタビューを行った「マンガ・カフェ」のビデオを紹介する。

・準備学習の具体的な方法

特定の教科書は指定しないので、その代わり、書店あるいは図書館において、「ヨーロッパ文化」を扱った書籍を必ず一冊選び、自分にとってヨーロッパ文化とは「何を意味するのか」について考えてみる。

4. 評価方法・評価基準

出席を重視する。単位取得には、全15週のうち少なくとも10回の出席が必要となるので、要注意。学期末に、小論文形式の試験を行う。

5. 授業予定

- 第1回 「文化」の定義
- 第2回 種子島への鉄砲伝来とヨーロッパ人との出会い
- 第3回 ザビエルの鹿児島来航とキリスト教
- 第4回 ヨーロッパの膨張：大発見の時代—スペインとポルトガル
- 第5回 信長とキリスト教の布教
- 第6回 バテレンと南蛮文化
- 第7回 秀吉と禁教政策への「兆し」
- 第8回 ヨーロッパにおける宗教改革：カトリックとプロテスタント間の分裂
- 第9回 家康と禁教令
- 第10回 禁教令から鎖国へ
- 第11回 ヨーロッパ文化の窓口としての「蘭学」
- 第12回 欧米列強からの外圧と開国
- 第13回 日本の近代化とヨーロッパ文化の積極的導入：遣欧使節団
- 第14回 受信から発信へ：フランスにおける社会現象・「マンガ・アニメ」の普及
- 第15回 受信から発信へ：フランスにおける社会現象・「マンガ・アニメ」の普及

6. 留意事項

大学生は大人であるという自覚を持つと同時に、大人としてのマナーを守る。講義中は私語を慎み、また携帯電話の電源は事前に切っておくこと。

講義コード	22507301			
科目名	多文化理解 映画を通して中東の文化を学ぶ			
担当者	鷲見 朗子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	必要な資料は授業で配布する。			
参考文献	参考文献は適宜、授業で紹介する。			
備考	隔年開講2			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本科目の目標は、中東を舞台とする映画を通して、そこに住む人々の歴史、生活、宗教、伝統などについて学ぶことである。戦争、抵抗運動、スポーツ、恋愛・結婚等のテーマを描いたイランやアラブ映画を鑑賞するが、各映画についての背景知識も学習する。映画に登場する人々の生活や思考・行動様式は、わたしたち日本人とどのように違うのか、その違いをどのように受け止めればいいのかを考える。

2. 教育・学習の個別課題

1. 各映画が扱う主題の背景知識（地理、歴史、宗教など）
2. 映画の理解
3. ほかの文化の理解
4. 日本の文化との比較

3. 教育・学習の方法

1. 講義
2. 映画鑑賞
3. 映画のあらすじの作成
4. 作品に対する意見発表・討議
5. レポート作成

・準備学習の具体的な方法

1. 映画が舞台となっている国・地域に関して事前に調査する。
2. 見た映画のストーリーをまとめる。
3. 見た映画に対する意見をまとめる。

4. 評価方法・評価基準

授業参加・課題プリント等 20%
映画を選んで、それについての発表 20%
レポート 60%

5回以上の欠席者には単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 イラン映画「オフサイド・ガールズ」(テーマは女子サッカー) : 背景知識と映画鑑賞
- 第3回 イラン映画「オフサイド・ガールズ」: 映画鑑賞とディスカッション
- 第4回 アルジェリア映画「アルジェの戦い」(テーマは戦争) : 背景知識と映画鑑賞
- 第5回 アルジェリア映画「アルジェの戦い」: 映画鑑賞とディスカッション
- 第6回 シリア映画「シリアの花嫁」(テーマは結婚と家族) : 背景知識と映画鑑賞
- 第7回 シリア映画「シリアの花嫁」: 映画鑑賞とディスカッション
- 第8回 アメリカ映画「ビン・ラディンを探せ」(テーマはテロ) : 背景知識と映画鑑賞
- 第9回 アメリカ映画「ビン・ラディンを探せ」: 映画鑑賞とディスカッション
- 第10回 パレスチナ映画「パラダイス・ナウ」(テーマは抵抗運動) : 背景知識と映画鑑賞
- 第11回 パレスチナ映画「パラダイス・ナウ」: 映画鑑賞とディスカッション
- 第12回 発表の準備
- 第13回 発表
- 第14回 発表
- 第15回 発表

6. 留意事項

とりあげる映画作品は諸事情によりほかの作品に変更されることもある。また扱う順序が変わる可能性もある。

講義コード	22507401			
科目名	中東文化論			
担当者	鷲見 朗子			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	必要な資料は、授業でプリント配布をする。			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

ニュースでは頻繁に見聞きするものの、日本人にとってはまだまだ異質の文化圏である中東・アラブ世界。そこはいくつかの重要な共通点をかかえつつも、異なる諸要素が複雑多様に絡み合った地域である。地域をより身近なものとして理解するために、さまざまな側面を幅広く観察・学習し、基本的知識を身に付ける。

2. 教育・学習の個別課題

1. 中東・アラブについての基本的な知識
2. イスラーム文明
3. 中東・アラブの社会・文化

3. 教育・学習の方法

1. 主に講義によって授業をすすめる。
2. 簡単な小テストによって、学んだことから基礎的な事柄の復習と確認を行う。
3. 各自テーマを領域から選び(または与えられ)、発表を行い、討論によ

り他の学生とその知識を共有し意見交換する。受講者数によっては、グループ発表になることもある。

・準備学習の具体的な方法

1. 講義内容を復習する。
2. 随時行われる小テストに備えて、学習を行う。

4. 評価方法・評価基準

授業参加 30%、小テスト 10%、試験 60% により行う。5回以上の欠席者には単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 中東・アラブの概念・定義・地理
- 第3回 言語
- 第4回 言語
- 第5回 宗教
- 第6回 宗教
- 第7回 女性をとりまく環境
- 第8回 女性をとりまく環境
- 第9回 食文化
- 第10回 食文化
- 第11回 生活
- 第12回 生活
- 第13回 近代史
- 第14回 近代史
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22507901・92207501			
科目名	国語学概論			
	日本語とはどんな言語か			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	12	
資格	[国][日]			
前提科目				
テキスト	使用しない			
参考文献	『国語学大辞典』 国語学会 東京堂出版 『国語概説』 佐伯哲夫他 和泉書院			
備考	音声言語を含む			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

毎日国語を使って生活していても、それを客観的に分析するとなるとなかなか難しいものである。「あ」と「い」は、音としてどう違うか、「生」という漢字は、中国語では sheng 一種類しか読み方がないのに、国語ではなぜ何種類もの読み方があるのか、「花が咲く」と「花は咲く」とどう違うのか…などなど。この授業は、そういった具体的な問題から説き起こして、音韻、文字、文法、語彙、文体、国語政策、方言、言語生活、系統論など、さまざまな観点から国語を概観し、国語学の基礎知識を習得することをねらいとする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 国語の音声、音韻の概略を理解する
2. 国語の文字、表記の特徴を理解する
3. 国語の文法、文体、語彙、系統に関する基礎知識を習得する
4. 国語の方言について学習する

3. 教育・学習の方法

1. 講義形式で授業を進める。
2. 毎時間、身近なテーマにより、国語を分析する小テストを出題する。

・準備学習の具体的な方法

事前に指示される課題やレポートについて、辞典類やインターネットで調べ、講義までに準備しておく。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 40%、定期試験の成績 60% で評価する。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. 授業予定

- 第1回 1. 導入授業
- 第2回 2. 音声器官
- 第3回 3. 母音と子音
- 第4回 4. 音節とモーラ
- 第5回 5. 音韻変化
- 第6回 6. 仮名遣い
- 第7回 7. アクセントとイントネーション

- 第8回 8. 漢字と国語
- 第9回 9. 平仮名と片仮名
- 第10回 10. 国語の文法的特徴
- 第11回 11. 国語語彙の諸問題
- 第12回 12. 方言と共通語
- 第13回 13. 国語の系統
- 第14回 14. 国語・国字問題
- 第15回 15. 総括

6. 留意事項

国語科教諭免許課程履修者および日本語教員養成課程履修者必修科目。

講義コード	22508101・92207701		
科目名	日本語文法 学校文法と日本語教育文法		
担当者	堀 勝博		
単位数	2	配当学年	234
資格	[国][日]		
前提科目			
テキスト	プリントを配布する		
参考文献	『日本文法大辞典』 佐藤喜代治編 明治書院 『コミュニケーションのための日本語教育文法』 野田尚史編 くろしお出版 『日本語の謎を探る』 森本順子著 ちくま新書		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

日本語は、世界でも難しい言語の一つとされる。助詞「が」と「は」の使い分けなど、その最たるものである。この授業は、そのような具体的な問題を取り上げつつ、日本語を文法的に概観することを目標とする。学校文法(口語文法)の概要を解説し、国語学や現代日本語学で用いられる術語、また日本語教育文法の考え方もまじえて、理解を深めていく。

2. 教育・学習の個別課題

1. 日本語文法の概略について理解する。
2. 伝統的文法論で用いられる術語について理解する。
3. 現代日本語学で用いられる術語について理解する。
4. 日本語教育文法の概略を把握し、伝統文法との違いについて理解する。

3. 教育・学習の方法

1. 講義により、学校文法の概略を把握し、現代日本語学の主な述語について習熟する。
2. 日本語教育において問題にされる文法的事項について、具体的に考察する。

・準備学習の具体的な方法

事前に配布された課題プリントもしくは指示された事項について、取り組み、文法への問題意識をもって授業に臨む。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度40%、定期試験の成績60%で評価する。ただし、出席回数総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. 授業予定

- 第1回 導入授業 ― 文法とは何か
- 第2回 文法論と形態論
- 第3回 品詞
- 第4回 名詞
- 第5回 代名詞
- 第6回 動詞の活用
- 第7回 他動詞と自動詞
- 第8回 補助動詞その他各説
- 第9回 形容詞と形容動詞
- 第10回 副詞と連体詞
- 第11回 接続詞と感動詞
- 第12回 助詞
- 第13回 助動詞
- 第14回 テンス、アスペクト、モダリティなど
- 第15回 総括

6. 留意事項

日本語教員養成課程履修者必修科目。国語科教諭免許課程履修者も受講することが望ましい。

講義コード	22508201・92207901		
科目名	国語学特講 国語の歴史をさかのぼる		
担当者	阪口 由佳		
単位数	2	配当学年	34
資格	[国][日]		
前提科目			
テキスト	プリントを配布する		
参考文献	『国語学史』 馬淵和夫 他 笠間書院 『古代語を読む』 古代語誌刊行会 桜楓社 『日本古辞書を学ぶ人のために』 西崎亨 他 世界思想社		
備考	国語史を含む		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

国語学の諸分野、すなわち音韻、文法、文字・表記、語彙、方言、文体等について、歴史的に概観しながら、国語および国語学への理解を深める。

2. 教育・学習の個別課題

1. 国語音韻の歴史や日本漢字音の歴史について学習する。
2. 国語における文字使用の歴史について学習する。
3. 国語における仮名遣いの歴史について学習する。
4. 国語における文法の歴史について学習する。
5. 国語における語彙の歴史について学習する。
6. 国語における辞書の歴史について学習する。
7. 国語における文章の歴史について学習する。
8. 国語方言について学習する。

3. 教育・学習の方法

1. プリントを講読しながら、国語の歴史について概説を行う。
2. 資料の会読・訳解を行う。
3. 資料中の語彙や文法について、適宜レポートを課す。

・準備学習の具体的な方法

1. 事前に指示された調査課題・発表課題を準備しておくこと。
2. 配付資料について、講義であつかう予定範囲を事前に読み、口語訳をしておくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度、受講態度、レポートの成績を総合して評価する。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. 授業予定

- 第1回 導入授業 ― さまざまな国語史資料
- 第2回 上古国語について
- 第3回 国語音韻史
- 第4回 日本漢字音の歴史
- 第5回 国語文字史
- 第6回 仮名遣いの歴史
- 第7回 語彙の研究―名詞①
- 第8回 語彙の研究―名詞②
- 第9回 語彙の研究―形容詞①
- 第10回 語彙の研究―形容詞②
- 第11回 語彙の研究―動詞①
- 第12回 語彙の研究―動詞②
- 第13回 方言の世界①
- 第14回 方言の世界②
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

受講者数により、講義の進め方などを多少変更する場合がある。

講義コード	22508301			
科目名	国文学概論			
担当者	長沼 光彦			
単位数	2	配当学年	12	
資格	[国][日]			
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	『哲学ってなんだ』 竹田青嗣 岩波ジュニア新書 『岩波講座文学』 小森陽一・他 岩波書店 『文学入門』 伊藤整 講談社文芸文庫 『精神としての身体』 市川浩 講談社 『都市空間のなかの文学』 前田愛 筑摩書店			
備考	国文学史を含む			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	22508401			
科目名	書写研究			
担当者	安岡 素子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[国]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『中学校学習指導要領解説国語編』 東洋館出版社 2008年 『すぐわかる中国の書』 東京美術 2006年 『すぐわかる日本の書』 東京美術 2010年			
備考	定員 30人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

「文学とは何か」と問えば、多くの人は心の表現だと答えるかもしれない。だが、文学で描かれる人間は、心だけで生きているわけではない。肉体を持ち、人と関わり、行動する。それら人間の全体像を文学は描こうとするのである。また、文学が描くのは人間だけではない。人の生きる社会、世界のあり方を、私たちに示すのである。

本講義では、日本の近現代文学を中心に、モラル・身体・空間という言葉を用いて、文学に表されたテーマを考察する。テーマの多様性を知るとともに、自身の人間観を広げよう。特に国語科教員希望者は、具体的な文学表現の考察の仕方を学び、教材研究に生かしてほしい。

2. 教育・学習の個別課題

- ・具体的な文学表現を読解しながら、多様なテーマを理解する。
- ・文学研究の方法について、基礎的な知識を身につける。
- ・自己の文学観を養い、人に伝える力を鍛える。

3. 教育・学習の方法

- ・配布したプリントにより、様々な文学表現を実際に読み、講義をとおして、テーマやモチーフに対する理解を深める。
- ・考えをまとめ表現する力を養うために、毎時間の終わりに、講義の内容に関わる簡単なワークを行うか、または感想・意見をまとめて提出する。

4. 準備学習の具体的な方法

- ・授業で紹介した参考文献や小説作品を実際に自分で読んでみる。
- ・紹介したものの以外にも読書体験を広げ、日本文学について自分の考えをまとめておく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（30%）、毎時間の意見文（30%）、学期末のレポート（40%）により行う。

5. 授業予定

- 第1回 講義の導入・紹介
- 第2回 文学のモラル（坂口安吾「文学のふるさと」）
- 第3回 壊すモラル・壊れる日常
- 第4回 文学と現実のモラルとの関係
- 第5回 現代のモラルと昔のモラル（芥川龍之介と「今昔物語集」）
- 第6回 モラルと空間（芥川龍之介「羅生門」）
- 第7回 居場所と身体
- 第8回 見られる身体（芥川龍之介「鼻」）
- 第9回 身体のイメージ
- 第10回 心と空間（芥川龍之介「蜃気楼」）
- 第11回 心の広がり、人とのつながり
- 第12回 やつす都市（谷崎潤一郎「秘密」）
- 第13回 夢想と都市空間
- 第14回 現実と夢の間
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

- ・レポートを書く際に、他人の書いた文章をコピーペーストしたものは認めない。

1. 科目の教育目標

教育職員免許状取得（中学校1種免許状国語科）で必要とされる「書写」の知識と技能の基本を理解し、実技を通して学習指導の方法や技術を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 漢字、平仮名、片仮名成立と特性を理解し、実技に於いては、中学校国語科書写教育指導で必要となる毛筆「楷書」、「行書」の基本用筆を習得する。
2. 中学校国語科書写教育指導で必要となる硬筆、および教育実習、就職活動に於いて求められる書写能力（ペン字）を高める。

3. 教育・学習の方法

講義は参考文献をもとに、プリントを配布して行う。講義後は実習を行う。実技では、毛筆、硬筆を中心に、個人添削を行う。毛筆（楷書、行書）および硬筆（ペン字）については、まとめとして実習課題作品を提出。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

評価は授業内の積極性30%、(欠席は一回につき2点減点する。) 実習中提出物(課題作品)30%、学期末提出物(レポート)40%により総合的に行う。なお、出席は授業回数数の3分の2以上を必要とする。

5. 授業予定

- 第1回 講義：書写教育について、実習について
- 第2回 講義：中国書道史概要、文房四宝について
- 第3回 講義：用筆法 実習：用筆法を理解して基本点面を書く
- 第4回 講義：楷書について 実習：楷書を書く
- 第5回 実習：楷書を書く（古典臨書）
- 第6回 実習：楷書を書く（古典臨書）、実習課題提出
- 第7回 実習：行書を書く
- 第8回 実習：行書を書く（古典臨書）、実習課題提出
- 第9回 講義：硬筆書写について 実習：（平仮名、片仮名を書く、ペン字）
- 第10回 講義：硬筆書写について 実習：（漢字、ペン字）
- 第11回 講義：教育実習現場における書写、ペン字 実習：教育実習簿、レポートの美しく見える書き方
- 第12回 実習：就職活動におけるペン字、履歴書、手紙の書き方
- 第13回 ペン字総合（実習課題提出）
- 第14回 講義：日本書道史（仮名成立まで）と日本の書写教育について、古筆鑑賞
- 第15回 書写教育まとめ（板書指導含む）

6. 留意事項

講義コード	22508501		
科目名	日本古典文学講読 源氏物語を読む		
担当者	堀 勝博		
単位数	2	配当学年	234
資格	[国][日]		
前提科目			
テキスト	『シグマ新日本文学史』 文英堂 『仮名手引』 和泉書院		
参考文献	『源氏物語大成』 池田亀鑑 中央公論社 『対校源氏物語新釈』 吉澤義則 平凡社 『源氏物語湖月抄』 北村季吟 講談社 『源氏物語評釈』 玉上琢弥 角川書店		
備考	〈旧〉225077 日本文学講読 I		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

和菓子に「玉椿」「錦秋」「淡雪」といった名前をつけたり、手紙に「新緑の候」「梅の花の香しい季節となりました」といった挨拶を書いたりする日本人の感性はどこから来たのか——その起源は、日本古典文学の伝統にあるといつてよい。この授業では、日本古典の代表作『源氏物語』をとりあげる。全編から印象的な一節をいくつか抄出し、講読する。また、別途テキストにより、日本文学史と変体仮名についても学習する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 源氏物語の書誌や受容史について学習する。
2. 源氏物語の語彙や表現に習熟する。
3. 源氏物語の主題について考える。
4. 源氏物語本文の音読に熟達する。
5. 白楽天「長恨歌」について学ぶ。
6. 日本古典文学に描かれた男女の物語について学ぶ。
7. 日本古典文学史について、大略を把握する。
8. 変体仮名の読み方を学ぶ。

3. 教育・学習の方法

1. 源氏物語、古典文学史、変体仮名の三種の教材を毎回取り上げる。
2. 源氏物語の原文を音読し、解釈する。
3. 受講者には事前学習を義務づける。
4. 口頭発表を求める。また適宜小テストを実施する。
5. 電子辞書ではなく、紙媒体の古語辞典を各自用意すること。

・準備学習の具体的な方法

1. 事前に配布する源氏物語のテキストを音読し、所定の課題に取り組むこと
2. 毎回課される小テストに向け、変体仮名と文学史のテキストを事前に学習しておくこと

4. 評価方法・評価基準

授業態度の評点40%、平常点10%、定期試験50%で評価する。ただし、出席回数総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. 授業予定

- 第1回 導入授業 一源氏物語とは
- 第2回 源氏物語原文朗読のために
- 第3回 作者紫式部について
- 第4回 源氏物語の写本
- 第5回 源氏物語と古注釈
- 第6回 源氏物語の参考書・口語訳・翻訳
- 第7回 源氏物語の時代設定・モデル
- 第8回 源氏物語と漢文学—長恨歌
- 第9回 源氏物語の巻名と人物名
- 第10回 源氏物語の有職故実
- 第11回 源氏物語の自然描写
- 第12回 源氏物語の語彙
- 第13回 源氏物語と日本文化
- 第14回 源氏物語の主題
- 第15回 総括

6. 留意事項

国語科教諭免許課程履修者必修科目（平成20年度以後入学者）。

講義コード	22508601		
科目名	日本近代文学講読		
担当者	長沼 光彦		
単位数	2	配当学年	234
資格	[国][日]		
前提科目			
テキスト	『行人』 夏目漱石 新潮文庫		
参考文献	『文豪・夏目漱石』 江戸東京博物館 朝日新聞社 『漱石研究16号特集『行人』 小森陽一他編 翰林書房 『漱石論集成』 柄谷行人 第三文明社 『漱石とその時代1～5部』 江藤淳 新潮社 『講座夏目漱石1～5巻』 三好行夫他編 有斐閣		
備考	隔年開講 I		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

小説は基本的には自分の思うままに読み楽しめばよいものだ。だが、先人の優れた読解や指摘は、自分では気づかない小説の魅力に気づかせてくれる。また自分で気づいていても、うまく言葉にできない場合もあるだろう。

本講義では、夏目漱石の「行人」を通読しながら、その構成やテーマを分析するとともに、様々な読み方ができる小説の豊かさについて考えることにする。講義をヒントに、次は自分で発見した小説の魅力や、自分の言葉で語るができるようになってほしい。

2. 教育・学習の個別課題

- ・作品を通して読解することにより、鑑賞眼、批評力を養う。
- ・作品の具体的な表現の技巧を意識しながら、分析ができるようにする。
- ・研究文献に触れ、様々な文学研究の方法があることを知る。
- ・自分なりの読解方法を養い、表現し人に伝えられる力を身につける。

3. 教育・学習の方法

- ・テキストを購入してあらかじめ作品を読み、自分の考えをまとめる。また、講義で紹介した読解法をふまえて読み直してみる。
- ・配布したプリントにより、様々な文学研究方法や読解法を学び、文学に対する理解を深める。
- ・考えをまとめ表現する力を養うために、毎時間の終わりに、講義の内容に対する感想・意見をまとめて提出する。

・準備学習の具体的な方法

- ・次の講義で読解する章をあらかじめ一読しておく。
- ・講義で紹介された夏目漱石や同時代に関する文献を読む。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度(30%)、毎時間の意見文(30%)、学期末のレポート(40%)により行う。

5. 授業予定

- 第1回 夏目漱石概説
- 第2回 「行人」講読(1)
- 第3回 「行人」講読(2)
- 第4回 「行人」講読(3)
- 第5回 「行人」講読(4)
- 第6回 「行人」講読(5)
- 第7回 「行人」講読(6)
- 第8回 「行人」講読(7)
- 第9回 「行人」講読(8)
- 第10回 「行人」講読(9)
- 第11回 「行人」講読(10)
- 第12回 「行人」講読(11)
- 第13回 「行人」講読(12)
- 第14回 「行人」講読(13)
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

- ・レポートを書く際に、他人の書いた文章をコピーペーストしたものは認めない。

講義コード	22508801			
科目名	日本語表現 職業を中心とした社会生活との関連から日本語表現を考える			
担当者	平野 美保			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『大学生のための日本語表現実践ノート 改訂版』 米田明美他 風間書房 2010 その他、適宜プリントを配付します			
参考文献	『日本語表現法』 沖森卓也・半沢幹一 三省堂 2007			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

職業生活を中心とした社会生活において、よりよいコミュニケーションとなるための日本語表現を学習する。そのために、次の3点を目標とする。

- (1) 授業で扱った内容から、自分の考えをもつ。
- (2) 自分の伝えたいことを具体的にわかりやすく説明し、相手に正しく理解してもらうための文章表現ができる。
- (3) 正しい日本語の理解をベースに、マナーやビジネスシーンでの公的な文書の書き方まで含め、有効な意思伝達ができるよう、その知識、技能を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

- ・授業で扱った内容について、自分はどう思うのか考えること
- ・正しい日本語を書けるようにすること
- ・コミュニケーションの心(あり方)を考えること
- ・公的文書の技能の基礎を習得すること
- ・グループ学習では、協力して準備・発表をし、学習してきたことを深めること

3. 教育・学習の方法

- ・受講生が書いたコメント(次回の授業時に紹介)、各回の話題やテーマから、自分の意見を、正しい日本語表現になるよう留意してまとめる。
- ・関連の内容から、知識を確認したり、意識を高めたりする。
- ・各回のテーマの内容について練習する。
- ・小テストを実施し、知識や技能の習得を確認する。
- ・最終の単元では、グループで課題を作成し、発表する。
- ・準備学習の具体的な方法
- ・授業内でできなかった課題を進めておいてください。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加度(15%)、毎回のコメント(30%)、小テスト(30%)、最終のグループ発表・レポート(25%)に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 授業のオリエンテーション
- 第2回 日本語を知らう：日本語の特質
- 第3回 日本語を知らう：話しことばと書きことばの違い
- 第4回 日本語を知らう：表記
- 第5回 日本語を知らう：敬語・敬意表現
- 第6回 ビジネス文書：社外文書「日本語を知らう」小テスト
- 第7回 ビジネス文書：社外文書
- 第8回 ビジネス文書：社内文書
- 第9回 「ビジネス文書」小テスト、わかりやすい表現の導入(グループ分けと説明)
- 第10回 わかりやすい表現：グループ演習(マニュアル作成：企画)
- 第11回 わかりやすい表現：グループ演習(マニュアル作成：資料作成)
- 第12回 わかりやすい表現：グループ演習(リハーサル)
- 第13回 わかりやすい表現：発表
- 第14回 わかりやすい表現：発表
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22508901			
科目名	プレゼンテーション演習 口頭表現と身体表現			
担当者	平野 美保			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	『ビジネスプレゼンテーション』 武田秀子編 実教出版 2011 『パブリックスピーキング人を動かすコミュニケーション術』 蔭山洋介 NTT出版 2011 『プレゼンテーションの教科書<増補版>』 脇山真治 日経BP 2009			
備考	定員30人			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

プレゼンテーションの意義、目的、内容、進め方、ツールの活用等について学び、特に口頭表現・身体表現についての技法を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

- ・人前で話すことに慣れること
- ・充実したプレゼンテーションになるよう工夫を凝らしてプレゼンテーションに取り組むこと
- ・皆で協力して最終プレゼンテーションを成功させること

3. 教育・学習の方法

- ・口頭表現(論理表現、音声表現)や身体表現についての基礎を学習し、数多く練習する。
- ・事前調査、聴衆分析、ストーリー作り、適切な用語の選択について実践的に行う。

- ・発表ごとに、発表に関する自己評価(工夫点、反省点)、他者の発表から得たこと、今後の課題、感想等についての報告書を提出する(3回)。

4. 評価方法・評価基準

評価は、最終プレゼンテーション(30%)、出席率・授業参加度(40%)、報告書(30%)に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 授業のオリエンテーション
- 第2回 基礎スキル：身体表現とミニプレゼンテーション演習(情報伝達)
- 第3回 基礎スキル：話のわかりやすさとミニプレゼンテーション演習(情報伝達)
- 第4回 基礎スキル：音声表現とミニプレゼンテーション演習(情報伝達)
- 第5回 プレゼンテーション演習①：事前調査、ストーリー作り等準備(個人)(説得)
- 第6回 プレゼンテーション演習①：発表と振り返り
- 第7回 グループプレゼンテーション演習②：事前調査、ストーリー作り等準備(説得)
- 第8回 グループプレゼンテーション演習②：各グループリハーサル(ビデオ撮影と視聴)
- 第9回 グループプレゼンテーション演習②：発表と振り返り
- 第10回 プレゼンテーション演習③：準備(事前調査、聴衆分析等)
- 第11回 プレゼンテーション演習③：全体での役割分担と視覚物等準備
- 第12回 プレゼンテーション演習③：リハーサル(グループで相互評価)
- 第13回 プレゼンテーション演習③：発表
- 第14回 プレゼンテーション演習③：本番と振り返り
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22509001			
科目名	日本語の朗読			
担当者	平野 美保			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『日本語の発声レッスン 俳優編』 川和孝 新水社 1981			
参考文献	『声のトレーニング 歌える！話せる！自信がつく！』 小林由紀子 NHK出版 2004 『新版 NHK アナウンス・セミナー』 日本放送協会編 日本放送協会 2005 『日本語発音アクセント辞典新版』 NHK放送文化研究所編 NHK出版 1998 『群読ふたり読み』 家本芳郎編 高文研 2003 『新版 楽しい群読脚本集』 家本芳郎 高文研 2000			
備考	定員30人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

発声・発音の基礎を習得し、豊かな表情ある音声表現力を身につけ、その成長を実感することを目指す。
朗読の難しさを楽しみながら味わう。

2. 教育・学習の個別課題

- ・自らの「音声表現」を聞き、その難しさなどを実感する。また、最初と最後の音声表現の違いから、その成長を実感すること（実感できるようになるまで成長すること）
- ・恥ずかしがらず豊かな表情ある音声表現を目指してチャレンジし続けること
- ・皆で協力して朗読ミニコンサートを成功させること

3. 教育・学習の方法

- ・あらかじめ決められた文章で最初と最後に発話（朗読）する。それを録音しておき、聞き比べる。
- ・発声・発音の基礎を毎授業で行い、基礎技能を向上させる。
- ・朗読のコンサート準備や実施を通して、また、協同的に取り組むことを通して、楽しさや責任感を感じながら、音声表現力（朗読）の向上を目指す。

・準備学習の具体的な方法

- ・次回の課題の準備をしておいてください。
- ・発音練習等の基礎練習を、各人で毎日行ってください。

4. 評価方法・評価基準

評価は、最終のコンサート時の朗読（30%）、出席率・授業参加度（40%）、毎回の記録（30%）に基づき、総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 授業のオリエンテーション
- 第2回 同じ内容での音声表現を聞き比べてみよう
- 第3回 音声表現に関する知識と発声・発音の基礎
- 第4回 グループ分け、グループ演習（作品の選定、練習）、発表①
- 第5回 「解釈」、グループ演習（作品の選定、解釈、練習）、発表②
- 第6回 「問」、グループ演習（作品の選定、解釈、練習）、発表③
- 第7回 「表現力」、グループ演習（練習、準備）、発表④
- 第8回 朗読ミニコンサートと討議
- 第9回 朗読コンサートの準備：グループ演習（計画、解釈、練習）、発表⑤
- 第10回 朗読コンサートの準備：グループ演習（練習）、発表⑥
- 第11回 朗読コンサートの準備：進行上の準備（プログラム、司会、会場レイアウト等）とグループ演習（練習）、発表⑦
- 第12回 朗読コンサートの準備：各グループでリハーサル
- 第13回 朗読ミニコンサート：本番
- 第14回 朗読ミニコンサート：振り返り
- 第15回 まとめ：最初の録音（第2回の授業）と聞き比べてみよう

6. 留意事項

- ・コンサートについては、学外や教室外で実施したり、授業以外の日に設定したりする場合があります。
- ・皆で作上げる授業です。積極的な参加を期待します。

講義コード	22509101			
科目名	スピーチの基礎 スピーチを楽しもう			
担当者	平野 美保			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	『パブリック・スピーキング—人を動かすコミュニケーション術—』 蔭山洋介 NTT出版 2011 『日本語の発声レッスン』 川和孝 親水社 1981			
備考	定員30人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

聞き手に受け入れられやすい話し方についての理解を深め、スピーチに関する基礎技法と考え方・心構えを習得する。

2. 教育・学習の個別課題

- ・人前で話すことに慣れること
- ・『スピーチ』オリジナル！チェック・ポイント」をグループや全体で作成し、毎回チェックすることを通して、深い理解とスピーチの改善につけること
- ・皆で協力して、ゲストとの授業や最終のスピーチイベントを成功させること

3. 教育・学習の方法

- ・「スピーチビデオ」等の視聴を通して、望ましい話し方についてのチェックポイントをグループや全体で検討する。
- ・そのチェックポイントに基づき、スピーチの基礎を学習する（発声・発音、音声言語表現等）。
- ・毎回、チェックポイントを確認するとともに、自己課題、学習内容、意見・感想等について記録し、知識や技能向上に努める。
- ・様々なテーマ・場面によるスピーチを練習する。またその際、随時相互評価をする。
- ・グループおよび受講者全員で協力して準備をし、ゲストとの授業を作り上げる。
- ・最終のスピーチイベント（例えば模擬結婚披露宴）を準備し実施する。

・準備学習の具体的な方法

- ・次回の課題の準備をしておいてください。

4. 評価方法・評価基準

評価は、スピーチイベントでのスピーチ（30%）、出席率・授業参加度（40%）、「スピーチの基礎の記録」記入（30%）に基づいて、総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 この授業のオリエンテーション
- 第2回 「『スピーチ』オリジナル！チェック・ポイント」の検討①
- 第3回 「『スピーチ』オリジナル！チェック・ポイント」の検討②
- 第4回 発声・発音の基礎と音声表現、ミニスピーチ
- 第5回 ゲストを迎える準備：グループで質問内容の検討、ミニスピーチ
- 第6回 ゲストを迎える準備：全体で準備・練習
- 第7回 ゲストを迎える準備：全体で準備・練習
- 第8回 ゲストを迎える準備：全体で準備・練習
- 第9回 ゲストインタビュー
- 第10回 スピーチイベントの準備①
- 第11回 スピーチイベントの準備②
- 第12回 スピーチイベントのリハーサル①
- 第13回 スピーチイベントのリハーサル②
- 第14回 スピーチイベント
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

- ・ゲスト関連を中心に、スケジュールを変更する場合があります。
- ・皆で作上げる授業です。積極的な参加を期待します。

講義コード	22509201			
科目名	ビジネスライティング 「私のビジネス・ライティング・ファイル」の作成			
担当者	平野 美保			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	適宜プリント配布			
参考文献	『ビジネス文書 458 文例』 田辺麻紀他 こう書房 2003 『ビジネスメール表現事典』 ビジネス文書マナー研究会 ナツメ社 2007			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

ビジネスの現場のTPOに応じた書式、慣用的な文章表現に慣れ、簡潔でわかりやすい文書作成のための知識と技能を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

- ・実務者へのインタビューを通して、また、具体的な場面や対象を想定して作成することを通して、現実感を持って取り組むこと
- ・ビジネス・ライティングの技能および関連の知識を習得すること
- ・最終的に、就職活動や、今後の社会生活で役立つファイルに仕上がることを目指すこと

3. 教育・学習の方法

- ・最初は、グループで協力して実務者へのインタビューと文書作成（依頼文書、お礼状）をする。以後の課題は、個人演習が中心である。
- ・グループ演習・個人演習ともに図書やインターネット等で調べながら課題に取り組む。課題の文書を完成させ、随時「私のビジネス・ライティング・ファイル」に収めていく。最終的に、前述の各人のファイルを全員が閲覧し、どのような文書処理が、仕事で役立つか考える。
- ・課題では、就職関連、社内・社外文書など多様な文書に取り組む。
- ・随時、小テストを行い、文書作成技能の習得度を確認する。
- ・関連の内容の知識も得る。
- ・準備学習の具体的な方法
- ・次回までに、毎回の課題を仕上げておいて下さい。

4. 評価方法・評価基準

評価は、私のビジネス・ライティング・ファイルの完成度（40%）、出席率・授業参加度（40%）、小テスト（20%）に基づき、総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 授業のオリエンテーション
- 第2回 ビジネス・ライティング・インタビュー：グループで依頼文書作成
- 第3回 ビジネス・ライティング・インタビュー：グループで依頼文書作成
- 第4回 課題演習：ビジネス文書の種類
- 第5回 インタビューの準備と課題演習：慣用表現
- 第6回 ビジネス・ライティング・インタビュー：実務者インタビュー
- 第7回 ビジネス・ライティング・インタビュー：インタビュー報告と礼状の作成、確認後送付
- 第8回 課題演習：社外文書
- 第9回 課題演習：社外文書
- 第10回 課題演習：社外文書
- 第11回 課題演習：メール文書
- 第12回 課題演習：メール文書
- 第13回 課題演習：ファイルの充実
- 第14回 ファイルの表紙や目次等作成（ファイル提出）
- 第15回 まとめ：ファイル閲覧会

6. 留意事項

- ・A4クリアブックを用意していただきます。

講義コード	22509301			
科目名	古文書読解 古文書学入門			
担当者	青盛 透			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	教員作成のテキストを適宜授業内に配布する。			
参考文献	『古文書検定入門編』 油井宏子 柏書房 2005年 『概説古文書学』 日本歴史学会 吉川弘文館 2008年 『演習古文書選近世編』 日本歴史学会 吉川弘文館 1971年 調べ物のときの手がかりなので、各自購入の必要はない。			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本授業では、文献の原典に対処できるように、前近代特有の文章の読み方や崩し字読解の基礎力を身につけるのが目標である。

2. 教育・学習の個別課題

テキストを通じて前近代の文法や慣用句に慣れ、変体仮名、古代中世の古文書、近世古文書の読解力を向上させる。

3. 教育・学習の方法

最初は日本漢文の文法や慣用句の説明が中心となるが、途中からテキスト中心の授業とする。

テキストに直に書込みをしないで、必ず別にノートをとって復習で読むときのヒントにならないようにする。

授業中によく読めなかったところをつぎに読めるように繰り返し復習する。

・準備学習の具体的な方法

日常では使わないような漢字が出てくるので、予習の際には漢和辞典で下調べする。また原始的だが、音読して発声練習をして慣用的な読み方に慣れることが、上達の秘訣である。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度・読解力評価 40%、小テスト評価 30%、最終授業での読解力評価 30%の総合的評価をおこなう。

5. 授業予定

- 第1回 古文書とはなにか -導入-
- 第2回 日本漢文の読み方基礎編（1） -文法と慣用句になれる-
- 第3回 日本漢文の読み方基礎編（2） -翻刻文で実習1-
- 第4回 日本漢文の読み方基礎編（3） -翻刻文で実習2-
- 第5回 翻刻文の読み方 まとめ
- 第6回 崩し文字読解 ひらかな編（1） -変体仮名をおぼえよう
- 第7回 崩し文字読解 ひらかな編（2）
- 第8回 古代中世の古文書（漢文）実例1 -公文書の書き方を知ろう
- 第9回 古代中世の古文書（漢文）実例2
- 第10回 近世の古文書1 実例編 -庶民の暮らし・送り手形・三下り編
- 第11回 近世の古文書2 実例編 -お金と年貢 年貢関連の古文書
- 第12回 近世の古文書3 実例編 -村のもめ事 訴訟文書を読む
- 第13回 近世の古文書4 実例編 -町のもめ事 江戸の事件を読む
- 第14回 近世の古文書5 実例編 -庶民の娯楽 旅行案内を読む
- 第15回 実例編 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22509401			
科目名	日本美術特講 新しい視点による新世紀仏教美術史			
担当者	安藤 佳香			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本講義は日本古代の仏教美術を主たる素材として、受講生がそれらに対する個性的な鑑賞力を獲得することを第1の目標とする。インドにはじまる仏教はアジア全域に広がり、それに伴って各地にすばらしい仏教美術が遺された。本講義では、日本古代に立脚点を置きつつもインド・中国・朝鮮半島の様相に着目し、インド始源の仏教美術がその東伝の過程でどのような変容を遂げていくのかについて検証していく。それにより受講生が「和様」とは何かということを感じ取ることを第2の目標としたい。あわせて近年のシルクロード文化圏の新しい研究成果を日本美術史上に位置づける試みを行いたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 仏教美術の基礎的知識の習得
2. 形式と様式の相違の理解

3. 教育・学習の方法

毎回できうる限り上質のスライドを用いて講義を進める。また必要に応じて資料を配布する。

・準備学習の具体的な方法

授業は、夏期集中中であるが、授業開始までに、博物館や拝観可能な寺院を実際に訪れ、「仏像」の存在を実感しておいてほしい。京都市内では、例えば、東寺・広隆寺・蓮華王院（三十三間堂）などがお勧めである。授業は講義を中心とし、毎回必要に応じて、コピーを配布する。スライドを多用するので、各受講生は自らの眼で作例を「意識して見ること」に努めて欲しい。なお、授業期間に一度、小テストを行う予定である。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度（30%）、授業内小テスト（20%）および期末テスト（50%）によって総合的に判断する。

5. 授業予定

- | | | |
|------|---------|----------------------------------|
| 第1回 | 1. | 仏教美術の始まり |
| 第2回 | 2. | 仏像の種類と技法 |
| 第3回 | 3. | 人のかたちと仏のかたち |
| 第4回 | 4. | 仏像の顔 |
| 第5回 | 5. | 仏像の肉身と着衣 |
| 第6回 | 6. | 蓮華化生の造形 |
| 第7回 | 6. | 蓮華化生の造形 |
| 第8回 | 8. | 「氣」の思想とその表現 |
| 第9回 | 9. | 霊木から出現する仏たち |
| 第10回 | 10. | 霊木から出現する仏たち |
| 第11回 | 11. | 図像仏と感得仏 |
| 第12回 | 12. | 感得仏の世界 |
| 第13回 | 13. 14. | 新発見資料（シルクロード西域南道）の紹介と日本古代美術史との関連 |
| 第14回 | 13. 14. | 新発見資料（シルクロード西域南道）の紹介と日本古代美術史との関連 |
| 第15回 | 15. | まとめ |

6. 留意事項

講義コード	22510301			
科目名	音楽学特講 西洋音楽とその文化の背景を探る			
担当者	小川 光			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『精神と音楽の交響』 今西友信編 音楽之友社 『図解音楽辞典』 U・ミヒェルス著/角倉監訳 白水社			
備考	コンソーシアム提供科目			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

西洋音楽は古来、種々の音楽論において教理的な考えと関連づけて論じられてきた。しかし音楽によって喚起される様々な情動は、数理によってのみ論じることは不可能であり、それには歴史における音楽の在り方と場が問われなければならない。そのために音楽というものを、音楽史だけでなく諸芸術の歴史上の様々な例・文献と関連づけて考察し、特にバロックから古典主義を経てロマン主義にいたる音楽の、芸術としての本質を歴史・文化的に明らかにする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 音楽学というものの歴史
2. ムジカ・スペクラティヴァ
3. 音楽と教理の関連性
4. ポリフォニーとモノディー
5. 情緒―描出から感情―表現へ
6. 音楽上の古典主義とは
7. ロマン派の音楽：感情美学

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法 ゼミ形式で、音楽の本質を克明に研究する。 2. テキスト・参考書 参考書：①今西友信編『精神と音楽の交響』（音楽之友社） ②U・ミヒェルス著/角倉監訳『図解音楽辞典』（白水社）

・準備学習の具体的な方法

個々の学習者が予備知識として、このシラバスの「教育・学習の個別課題」や「授業予定一覧」に示される名称のもつ意味を、学術情報センター（図書館）で調べておくことが求められる。そのことによって、講義であつた音楽史上の各時代とそれに関連する時代背景の優れた予備知識ができ、講義で聴く楽曲の響きと、それを生み出した歴史・社会的背景の関連の理解が助長される。

4. 評価方法・評価基準

全授業数の3分の1を欠席すると評価対象にならない。また、一度の欠席によっても理解が大変遅れるので、毎回の出席は絶対条件。評価は、授業中の質問への正答率への評価20%、まとめフィードバック・テスト80%とする。特に、初回の授業において授業の方針その他の重要な注意を話したので、それらをしっかりと確認すること。

5. 授業予定

- | | |
|------|----------------------|
| 第1回 | 原初としてのギリシア音楽 |
| 第2回 | 西洋音楽史概観Ⅰ |
| 第3回 | 西洋音楽史概観Ⅱ |
| 第4回 | 西洋音楽史概観Ⅲ |
| 第5回 | ポエティウスの音楽論 |
| 第6回 | ムジカ・テオレティカとムジカ・ポエティカ |
| 第7回 | 「バロック」という時代の社会的背景 |
| 第8回 | バロックの宇宙論と音楽論 |
| 第9回 | ポリフォニーからモノディーへ |
| 第10回 | 情緒の描出から感情の表現へ |
| 第11回 | グルックの音楽改革：音楽の古典主義 |
| 第12回 | ベートーヴェン：ロマン主義の先駆者 |
| 第13回 | 音楽のロマン主義 |
| 第14回 | 「和声の危機」：現代音楽への道程 |
| 第15回 | 全まとめ |

6. 留意事項

音楽の様々の事項に関して、学生一人ひとりの意見や見解が求められることに留意しておくこと。

講義コード	22510701		
科目名	京都学 京都の食文化を知る		
担当者	鳥居本 幸代		
単位数	2	配当学年	234
資格	[日][木]		
前提科目			
テキスト	『精進料理と日本人』 鳥居本 幸代 春秋社 2007年 『日本食生活史』 渡辺 実 吉川弘文館 2007年 『食の文化を知る事典』 岡田 哲編 東京堂出版 2003年 『京都たべもの風土記』 京都新聞社編 京都新聞社 1988年		
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

京料理をキーワードに京都学を展開する。日本料理の歴史を探ることは、京料理の歴史を考察することであるといっても過言ではない。平安貴族の饗宴で提供された大饗料理をはじめ、室町時代には式正料理、その後、本膳料理、懐石料理、会席料理と展開したが、寺院の多い京都では食材を限定した精進料理が発展したのである。地の利を生かした野菜を多く用いる精進料理は懐石料理へと集約され、さらには京料理の特色ともなっている。精進料理に主眼を置きながら、京都の食文化を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

- ①日本料理の変遷
- ②精進料理の確立
- ③京菓子
- ④京野菜
- ⑤京都の食習慣

3. 教育・学習の方法

講義で行い、第2回以降は予習として指定したテキストの該当ページに沿った小テストを授業冒頭で行い、授業時間内で回答を示す。予習のない第13回、第15回については、講義終了後に確認小テストを行う。

・準備学習の具体的な方法

下記のように指定されたテキストの該当ページを読んでおくこと。

- 第2回 P11～32
第3回 P32～48
第4回 P6～7,P49～61
第5回 P63～74,P98～102
第6回 P74～84
第7回 P103～124
第8回 P85～97
第9回 P124～133,P189～195
第10回 P212～228
第11回 P156～168,P172～174,P195～212
第12回 P135～141,P169～171,P174～180,P232～236
第14回 P141～156

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度(30%)、小テスト(20%)、確認テスト(50%)に基づいて総合的に行う。欠席・遅刻は、減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 序論 日本料理の歴史的変遷から京料理の体系を明らかにする
- 第2回 大宮人の食生活を彩る食材と調味料
- 第3回 大饗料理 王朝人の食環境と食習慣
- 第4回 仏教伝来によって変貌する食文化
- 第5回 武士の台頭による食習慣の変化
- 第6回 茶の湯の展開と喫茶習慣
- 第7回 式正料理から本膳料理へ
- 第8回 禅と懐石料理 食事作法の誕生
- 第9回 卓袱料理と普茶料理
- 第10回 隠元と豆腐料理
- 第11回 江戸の料理本にみる精進料理
- 第12回 京料理と江戸前料理
- 第13回 京菓子の歴史
- 第14回 京野菜について
- 第15回 京料理と伝統行事

6. 留意事項

授業冒頭で小テストを実施するため、遅刻厳禁とする。

講義コード	22515001		
科目名	インターネット社会論 ～オープンソース・ソフトウェアの存在に注目してネット社会を考察～		
担当者	吉田 智子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[情]		
前提科目			
テキスト	『オープンソースの逆襲』 吉田智子著 出版文化社 2007年		
参考文献			
備考	平成22年度以前入学者は34年次配当		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

インターネットはここ数年で、急速に世界中に広まった。これほど短期間に急速に普及したメディアは他にはないであろう。しかもこの新しいメディアは、かつてのものとは異なる発展形態をもっているため、従来のメディア研究の常識では理解しきれない要素も多い。この科目では、インターネットが出現してからの歴史を整理し、インターネットが一般化した十数年の間に生じた様々な問題点を列挙し、この新しいメディアを研究する基礎とする。特に、このネットワークコミュニティから生まれたオープンソース・ソフトウェアの意味と可能性についての理解を深めた上で、ネットの新時代についての考察を深める。

2. 教育・学習の個別課題

- ・コンピュータおよびインターネットの歴史と発展
- ・ネットワークコミュニティから生まれたオープンソース・ソフトウェア(OSS)
- ・代表的なオープンソース・ソフトウェアの存在意義
- ・教育現場でのオープンソース環境の利用の意味
- ・オープンソースはビジネスに使えるのか
- ・ネット新時代に関する考察
- ・代表的なオープンソース・ソフトウェアの利用と評価

3. 教育・学習の方法

講義中心で行うが、グループごとのディスカッションや発表も交える。

・準備学習の具体的な方法

毎回の授業の講義対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。

4. 評価方法・評価基準

授業参加(20%)、課題・レポートなど(20%)、確認テスト(60%)の総合点で評価する

5. 授業予定

- 第1回 授業概要、オープンソースとウェブ新時代の関係、オープンソースって何？オープンソース文化って何？などの説明
- 第2回 インターネットの歴史(1) インターネット誕生と発展
- 第3回 インターネットの歴史(2) ビル・ゲイツの攻撃文書からの二十年
- 第4回 インターネットの歴史(3) ブラウザ戦争勃発からの約十年
- 第5回 インターネットの歴史(4) オープンソース運動の開始と発展
- 第6回 オープンソース誕生の歴史と種類について
- 第7回 教育現場でのオープンソース環境の利用の意味
- 第8回 オープンソースのビジネス利用に関する考察
- 第9回 NPO活動とオープンソースの関係
- 第10回 ネット新時代に関する考察(1)
- 第11回 ネット新時代に関する考察(2)
- 第12回 代表的なオープンソース・ソフトウェアの利用実習(1)
- 第13回 代表的なオープンソース・ソフトウェアの利用実習(2)
- 第14回 各学生によるネット新時代に関するレポートの提出と情報共有
- 第15回 まとめ(復習問題と解説)

6. 留意事項

「情報システム論」を履修している事が望ましい。

講義コード	22515301			
科目名	情報科学概論 A コンピュータと親友になろう			
担当者	松本 雅生			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[情][ウ][ブ]			
前提科目				
テキスト	『痛快コンピュータ学』 坂村 健 集英社 2002 上記のテキストを主とするが、それ以外にも、随時、プリント資料を配布して使用する。			
参考文献	『大人のための「情報」教科書』 坂村 健 数研出版 2003 『計算機科学入門』 L. ゴールドシュレーガー, A. リスター 近代科学社 2000 『計算機科学入門』 M. アービブ他 サイエンス社 1984 『ファイマン計算機科学』 R. P. ファインマン 岩波書店 1999 『新版 情報工学』 都倉 信樹 放送大学教育振興会 1999 ※ 配布プリントで引用する可能性のあるものを挙げた。文献 4, 5 は品切れ中。ただし、4 の原著は出ている。これ以外にも、授業時に随時、参考文献を紹介する。			
備考	3 年次生は A クラスを履修すること 4 年次生はどちらかを履修してもよい			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

21 世紀になり 10 年以上経つ今日、われわれの日常生活はかつてないほどコンピュータ(パソコンのみならず、携帯電話、家電製品に組み込まれているコンピュータも含む)、およびそのネットワークと結びついて来ている。世界的に観ても、インターネットや携帯電話の力を介した政治体系の改革まで生じている。

本授業は、このコンピュータという驚異の箱の舞台裏を垣間見、その動作のからくりを迫ろうとするものである。それは情報科学の基礎を概観する旅をすることでもある。地味ではあるが、受講者のコンピュータとのつき合いに資するものがある。情報技術をふかいところから理解し、その新たな変化にたいしても自信をもって対応することができるようにする。と確信している。

2. 教育・学習の個別課題

1. 情報のデータ表現について学ぶ。
2. コンピュータの構成とデータ処理の仕組みについて学ぶ。(ソフトウェアおよびハードウェア)
3. コンピュータを効率よく運用する仕組みについて学ぶ。
4. 人間や社会とコンピュータの関わりについてかんがえる。

3. 教育・学習の方法

講義形式でおこなう。大筋は教科書に沿ってすすむ。必要に応じてプリント資料を配布して補強する。ときどき問題演習の時間も取る予定である。

・準備学習の具体的な方法

授業中にプリント等で採りあげた演習問題などを復習する。新たなトピックに入る前にキーワードを提示する。それらについて教科書・参考書等をざっと目とおしておくとよい。

4. 評価方法・評価基準

定期試験(100%)

基礎的な内容にする予定である。

5. 授業予定

- 第 1 回 序論: 情報とコンピュータ
- 第 2 回 情報のデータ表現 --- 整数、p 進法
- 第 3 回 情報のデータ表現 --- 実数
- 第 4 回 情報のデータ表現 --- 文字
- 第 5 回 情報のデータ表現 --- 画像
- 第 6 回 情報の効率的なデータ表現 --- 符号化
- 第 7 回 情報の効率的なデータ表現 --- ハフマン符号
- 第 8 回 情報の効率的なデータ表現 --- 符号化の効率
- 第 9 回 情報の誤りを見つける、訂正する
- 第 10 回 コンピュータの動作原理 --- 全体の構成
- 第 11 回 コンピュータの動作原理 --- ソフトウェア
- 第 12 回 コンピュータの動作原理 --- ハードウェア
- 第 13 回 オペレーティングシステム

第 14 回 通信・ネットワーク、フリーソフト

第 15 回 総まとめ

6. 留意事項

「情報科学応用」、「プログラミング概論」などの実習科目も、本授業と同時あるいはその後に、選択するとよりいっそう理解が深まると思う。

講義コード	22515501			
科目名	コンピュータネットワーク 能動的学習によるネットワークリテラシの修得			
担当者	日置 尋久			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[情]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員 20 人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

メールをやりとりする、調べものや買い物をする、SNS でコミュニケーションを行う、あるいはブログを公開するなど、いまやネットワークの利用は、すっかり日常なことになっている。しかし、ネットワークの使い方が適切でなければ、さまざまなトラブルの被害者となったり、場合によっては知らないうちに加害者になってしまう危険性さえもある。本科目では、ネットワークを快適に利用するために必要となる倫理、セキュリティ、あるいはネットワークの仕組みについて能動的に学び、ネットワーク社会で自立できるようになることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

ネットワークサービスの理解、ネットワーク倫理の修得、ネットワークセキュリティおよびネットワークの仕組みの理解

3. 教育・学習の方法

3 つの大きなテーマを設け、各テーマに関して、各個人での学習、クラス全体での学習の 2 段階で取り組む。まず個人でテーマに関する資料をまとめて提出する。その後、提出された資料に基づいて、クラス全体で発表(受講者によるミニ講義)を行う。なお授業での活動のために「コンピュータの基礎」あるいは「情報演習 I」を履修済みか、その内容を修得していることが望ましい。

・準備学習の具体的な方法

他の受講者の発表内容を理解するために、自分のテーマに関して学習するとともに他の受講者の選択する可能性のあるテーマについても適宜学習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価項目は以下の通りである。

1. 提出資料(60%)
2. 発表(25%)
3. 発表に対する質問・コメント(15%)

必ずしも受講者全員が発表を行うわけではない。発表が割り当てられない場合には、発表に対する質問・コメントなどで評価する。

5. 授業予定

- 第 1 回 ガイダンス (授業の進め方などの説明)
- 第 2 回 第 1 テーマに関する調査 (1)
- 第 3 回 第 1 テーマに関する調査 (2)
- 第 4 回 第 1 テーマ資料まとめ
- 第 5 回 第 1 テーマ発表会
- 第 6 回 発表に関する講評、プレゼンテーション技法
- 第 7 回 第 2 テーマに関する調査 (1)
- 第 8 回 第 2 テーマに関する調査 (2)
- 第 9 回 第 2 テーマ資料まとめ
- 第 10 回 第 2 テーマ発表会
- 第 11 回 第 3 テーマに関する調査 (1)
- 第 12 回 第 3 テーマに関する調査 (2)
- 第 13 回 第 3 テーマ資料まとめ
- 第 14 回 第 3 テーマ発表会
- 第 15 回 全体に関するまとめ

6. 留意事項

講義コード	22515601		
科目名	プログラミング概論 コンピュータでのモノ作りの方法を学ぶ		
担当者	日置 尋久		
単位数	2	配当学年	234
資格	[情]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『初めてのプログラミング』 Chris Pine(著), 西山伸(訳) オライリー・ジャパン		
備考	定員30人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	22516401		
科目名	出版文化史		
担当者	鎌田 均		
単位数	2	配当学年	234
資格	[国][日]		
前提科目			
テキスト	『和本への招待：日本人と書物の歴史』 橋口候之助 角川学芸出版 2011		
参考文献	授業の中で随時紹介する		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

コンピュータはソフトウェアに忠実にしたがってデータ処理を行うものであり、ソフトウェア（と電気）がなければ一切機能しない。ソフトウェアは自動で作られるものではなく、すべて人手で作られるものであり、個人でも作ることができる。自分でソフトウェアを作れば、自分の思ったようにコンピュータに仕事をさせることができる。ソフトウェアのことをプログラムともいい、プログラムを作ることをプログラミングという。本科目ではプログラミングの基礎を演習を通じて学ぶ。プログラミングの素養を身につけることで、本当の意味ではじめてコンピュータを使いこなすことができるようになるという。

2. 教育・学習の個別課題

- ・プログラミングによるモノ作りの楽しさを知る
- ・プログラムの基本概念を理解する
- ・問題解決能力と論理的思考力を養う

3. 教育・学習の方法

講義と実習を交えて授業を進める。実習はLinuxで行い、プログラミング言語としてRubyを用いる。教科書は指定しない。授業中に適宜参考書を示す。本科目を履修するにあたっては、「コンピュータの基礎I」あるいは「情報演習I」を履修済か、その内容を修得していることが望ましい。

・準備学習の具体的な方法

新たなトピックに入る前にキーワードを提示する。それらについて参考書やオンライン教材で学習を進めておくこと。また授業中にスムーズに演習を行えるようコンピュータの基本操作に十分に習熟しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価項目は以下の通りである。

1. レポート課題の内容(70%)
 2. 授業・演習への取組み(30%)
- レポートに独自の工夫が加えてあれば、積極的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 プログラム、プログラミングとは何か
- 第2回 プログラミングのための準備
- 第3回 タートルグラフィクスによる演習(0)
- 第4回 タートルグラフィクスによる演習(1)
- 第5回 変数: モデルとデータ(0)
- 第6回 変数: モデルとデータ(1)
- 第7回 メソッド: プログラムの部品を作る(0)
- 第8回 メソッド: プログラムの部品を作る(1)
- 第9回 繰り返し: 同じ作業を何度も実行する(0)
- 第10回 繰り返し: 同じ作業を何度も実行する(1)
- 第11回 制御構造: 条件によって処理を変える(0)
- 第12回 制御構造: 条件によって処理を変える(1)
- 第13回 配列: 大量のデータの扱い(0)
- 第14回 配列: 大量のデータの扱い(1)
- 第15回 総まとめ

6. 留意事項

1. 科目の教育目標

出版、書物に関する様々な事象の歴史について、江戸時代及びそれ以前の和本を中心に学習しつつ、新たな関心を引き出し、それらについての理解を深める。

2. 教育・学習の個別課題

- 1 出版文化の歴史の変遷についての基礎知識を得る
- 2 出版の歴史における文化的事象について発見、検証できる能力を身につける

3. 教育・学習の方法

授業は、学生の主体的参加による内容を中心として進める。授業の前半はテキストの内容に沿って、江戸時代及びそれ以前の和本について学ぶ。学生は、それに関連する事項について事前に調べ、授業で発表、議論する。後半は、テキストの内容に捉われず、出版文化に関して自由にテーマを設定し、グループで調べ、発表することを通して、様々な事項について考え、能動的に学習する機会を提供する。

・準備学習の具体的な方法

- 1 テキストの内容を理解する。
- 2 授業中のグループワークに必要な準備を行う。
- 3 担当する発表内容について必要な事項を調べ、プレゼンテーションの準備をする。

4. 評価方法・評価基準

平常点（授業への参加） 30%

前半における個人発表（1回） 30%

グループ発表の成果 20%

期末レポート 20%

5. 授業予定

- 第1回 授業全般のオリエンテーション
- 第2回 個人発表課題の説明、参考資料、情報の紹介
- 第3回 『源氏物語』をめぐって（1）テキスト1章1、2節
- 第4回 『源氏物語』をめぐって（2）1章3、4、5節
- 第5回 中世の本 2章
- 第6回 出版の始まり（1）3章1、2節
- 第7回 出版の始まり（2）3章3、4節
- 第8回 江戸時代の出版 4章
- 第9回 本と読者との関わり 5章
- 第10回 グループと発表テーマ決定
- 第11回 準備作業
- 第12回 準備作業
- 第13回 準備作業
- 第14回 グループ発表（1）
- 第15回 グループ発表（2）

6. 留意事項

シラバスの内容は受講者の人数によって多少変更される場合がある。

講義コード	22516501		
科目名	博物館情報・メディア論 美術をもっと楽しむためのメディア		
担当者	森山 貴之		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[博][情][日]		
前提科目			
テキスト	特に使用しない。適宜レジュメを用意する。		
参考文献	都度授業中に指示する。		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

この科目では、主に博物館施設における視聴覚メディアについての基本的な技術知識を学ぶと同時に、メディアによって伝達される様々なコンテンツについて造形文化論的な見地から考察を行うことにより、学生自身のメディアリテラシー（能力）を高めることができる。

2. 教育・学習の個別課題

- 1 博物館における情報・メディアの意義を理解する
- 2 博物館における情報・メディアの理論について習得する
- 3 博物館における情報発信について理解する
- 4 博物館における知的財産上の諸問題について考察する

3. 教育・学習の方法

授業は、パワーポイントや動画、レジュメなどを活用したプレゼンテーションを中心に進める。

・準備学習の具体的な方法

博物館の活動、ならびに様々なメディア機器、コンテンツについて日頃から親しんでおくと同時に、それらが持つ可能性や課題について常に考えておいて欲しい。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度評価（30%）毎回の授業時に授業内容に関するコメントを書いてもらい、そのコメントの内容をもって授業参加度を判断し評価を行う（出席点ではない。またコメントが無い場合、出席とは見なさないので注意）。期末に授業内容に関連する課題の提出（全評価の70%）。

5. 授業予定

- 第1回 はじめに：私たちのメディアリテラシーと博物館学におけるメディアリテラシー
- 第2回 視聴覚メディア史1：絵画
- 第3回 視聴覚メディア史2：写真、音楽、映画
- 第4回 視聴覚メディア史3：パフォーマンス
- 第5回 バーチャルリアリティの技術史
- 第6回 メディア・アートの世界1
- 第7回 メディア・アートの世界2
- 第8回 施設における視聴覚メディアの活用：美術館／博物館施設の場合
- 第9回 ユニバーサルデザインの視点から見た視聴覚メディア
- 第10回 WEB上の視聴覚メディアとコンテンツ
- 第11回 メディアコンテンツの諸問題1：著作権について
- 第12回 メディアコンテンツの諸問題2：二次創作と著作権侵害、クリエイティブ・コモンズの有効性
- 第13回 メディアをアーカイブする1：ドキュメンテーションとデータベース化
- 第14回 メディアをアーカイブする2：ドキュメントの公開
- 第15回 まとめ：視聴覚メディアの可能性と課題

6. 留意事項

内容や進行状況に応じて各回の内容は変わります。

講義コード	22516601		
科目名	識字活動と子どもの権利 リテラシー育成の社会的意義		
担当者	岩崎 れい		
単位数	2	配当学年	234
資格	[国][日][子]		
前提科目			
テキスト	プリントを配布する		
参考文献			
備考	隔年開講1		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

読み書き能力すなわち識字能力は、人間が社会的な生活を送る上で欠くことのできない能力であり、その育成には出版物の充実も重要である。国際社会における識字教育及び出版支援への取り組みや考え方を学ぶことを通して、「書くこと」や「読むこと」を学ぶことの意義とそれにおける国語科教育の役割を理解することを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. 識字活動をめぐる世界の現状について知る。
2. 識字活動を支えた図書館や国際機関の役割について知る。
3. 識字活動の果たす社会的役割について考察する。
4. 子どもにとっての識字教育・出版支援の意義を考察する。

3. 教育・学習の方法

1. 講義・演習を併せて行う。
2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。

・準備学習の具体的な方法

1. テーマに日頃から興味を持ち、新聞記事などに目を通しておく。

4. 評価方法・評価基準

授業回数の2/3以上の出席を前提条件とする。
筆記試験70%、授業中の課題・出席等の平常点30%として、その合計で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 1. 識字活動をめぐる世界の現状
- 第2回 2. 図書館・国際機関のリテラシー育成支援とその考え方
- 第3回 3. 基本的人権と識字能力との関連性
1) 紛争地域における識字教育支援
- 第4回 3. 基本的人権と識字能力との関連性
2) 少年労働と学校教育
- 第5回 3. 基本的人権と識字能力との関連性
3) 人間らしく生きるための識字能力の重要性
- 第6回 4. 乳幼児を対象とする識字教育・読書支援
1) 英国の事例
- 第7回 4. 乳幼児を対象とする識字教育・読書支援
2) 米国の事例
- 第8回 4. 乳幼児を対象とする識字教育・読書支援
3) 日本の現状と課題
- 第9回 5. 母語以外で学ぶ就学時への識字教育・読書支援(1)
- 第10回 5. 母語以外で学ぶ就学時への識字教育・読書支援(2)
- 第11回 6. 読書にハンディキャップを抱える子どもたちへの読書支援(1)
1) 身体的なハンディキャップを抱える子どもたちへの支援
2) ディスレクシアの子どもたちへの支援
- 第12回 6. 読書にハンディキャップを抱える子どもたちへの読書支援(2)
1) 身体的なハンディキャップを抱える子どもたちへの支援
2) ディスレクシアの子どもたちへの支援
- 第13回 6. 読書にハンディキャップを抱える子どもたちへの読書支援(3)
1) 身体的なハンディキャップを抱える子どもたちへの支援
2) ディスレクシアの子どもたちへの支援
- 第14回 7. 子どもにとっての識字活動と子どもの権利
- 第15回 8. まとめ

6. 留意事項

講義コード	22516701			
科目名	昔話とストーリーテリング 語りの文化を継承する			
担当者	岩崎 れい			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[国][子]			
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	授業中に紹介			
備考	〈旧〉225160 口承文化としての昔話・伝説			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

日本をはじめ世界中の昔話を知り、その特徴や歴史的な役割の変遷を知る。また、実践を通して、口承文化がどのように継承されてきたかを学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 昔話を数多く読み、その時代や地域による特徴や普遍性について学ぶ。
2. 昔話の生まれた文化的背景を学ぶ。
3. 子ども向けに編纂された昔話とその課題について学ぶ。
4. 昔話を実際に語ってみる。

3. 教育・学習の方法

1. 講義では、基本的な事項を把握する。
2. 演習では、昔話をさまざまな方法で実際に語ってみる。

・準備学習の具体的な方法

1. 提示された昔話をあらかじめ読んでくる。
2. さまざまな工夫をこらして、昔話を語るための準備をする。

4. 評価方法・評価基準

授業中の課題 40%、筆記試験 60%で評価する。授業中の課題には、昔話を語る課題を含む。

5. 授業予定

- 第1回 概論 昔話とは何か。
- 第2回 昔話を読む(1) 2、3、7、12：数字の持つ意味
- 第3回 昔話を読む(2) 異類婚：日本とヨーロッパの違い
- 第4回 昔話を読む(3) 異形のものたち：人の心が生み出した妖しい存在
- 第5回 昔話を読む(4) 由来話：ものの起源、ことの起こり
- 第6回 昔話の歴史的な役割の変遷と文化的背景(1) 古代～中世
- 第7回 昔話の歴史的な役割の変遷と文化的背景(2) 近代～現代
- 第8回 子どもと昔話(1) グリムの登場
- 第9回 子どもと昔話(2) 昔話絵本
- 第10回 子どもと昔話(3) 昔話の残酷性
- 第11回 昔話を語る(1) ストーリーテリング
- 第12回 昔話を語る(2) さまざまな語り方
- 第13回 昔話を語る(3-1) 実践
- 第14回 昔話を語る(3-2) 実践
- 第15回 まとめ 口承文化としての昔話の継承

6. 留意事項

講義コード	22521001			
科目名	日本年中行事論 日本の年中行事について考える			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[木]			
前提科目				
テキスト	『日本年中行事論講義資料集・同別冊』 堀勝博 京都ノートルダム女子大学 平成23年			
参考文献	『日本年中行事辞典』 鈴木棠三 角川書店 『日本民俗事典』 弘文堂 大塚民俗学会 『年中行事大辞典』 加藤友康他 吉川弘文館			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

日本には、さまざまな年中行事が今も行われているが、それぞれがどのよ

うな由来をもち、どのような意味をもつものであるのかということについては、存外知られていない。正月にしめ縄を飾るのはなぜ？盆踊りは、何の意味がある？この授業は、そのようにわれわれが忘れてしまった年中行事の意味について、由来や歴史をたどりつつ考察することを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 日本の年中行事にはどのようなものがあるかを知る。
2. 日本の年中行事の特徴について学ぶ。
3. 日本の年中行事の由来や歴史について探求する。
4. 年中行事と関わりの深い暦法について理解する。
5. 日本の年中行事にゆかりのある名所・旧蹟に出かけ、実地で学習を深める（受講者多数の場合は実施せず）。

3. 教育・学習の方法

1. 日本の主な年中行事の由来や意味について、講義形式で解説する。
2. 日本年中行事を記録した画像や映像を見る。
3. 京都市内の寺社へ出かけ、年中行事について、実地学習を行う、もしくは京都の寺社関係者を講師としてお招きし、年中行事に関する特別講義をしていただく（予定）。

・準備学習の具体的な方法

1. 事前にテキストを読んでくること。
2. 事前に指示された調査課題・発表課題を準備しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業態度の評点40%、定期試験の成績60%で評価する。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. 授業予定

- 第1回 年中行事とは何か（導入授業）
- 第2回 日本文化と日本年中行事
- 第3回 日本年中行事の特徴 その1
- 第4回 日本年中行事の特徴 その2
- 第5回 日本年中行事研究の方法と視点
- 第6回 日本年中行事の発祥と暦法
- 第7回 日本年中行事と改暦
- 第8回 日本年中行事各論—正月と年越し
- 第9回 正月行事の諸相
- 第10回 フィールドワークまたは特別講義
- 第11回 小正月の行事
- 第12回 雑祭り、涅槃会、彼岸など
- 第13回 七夕と盂蘭盆
- 第14回 中秋、重陽、七五三など
- 第15回 京都の祭り —祇園祭を中心に

6. 留意事項

講義コード	22521101			
科目名	京都フィールドワーク研究 フィールドワークで京都を生きる			
担当者	小川 光			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[木]			
前提科目				
テキスト	担当者が作成し、初回の授業で配布する。			
参考文献	授業の過程で随時紹介する。			
備考	定員20人			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

1. 「フィールドワーク」という学びの方法を会得しその楽しさを実感する。 2. フィールドワークにおける方法論（手立てや技術）を的確に学び、それを駆使して京都の町を再発見していく。 3. 古地図を現在のものと重ね合わせながら、歴史時代の地形・地勢を歩く。 4. 古来の戦乱や近代化によって失われた京都の有形・無形の風物を「埋没史跡」として捉え、それらを資料の調査・研究を通じて「発掘」する。

2. 教育・学習の個別課題

1. フィールドワークの方法を体得し、今後の学びに役立てる。
2. 京都の昔、京都の今を調査検討し、その変容の様子や保存の実情を理解する。
3. 京都の歴史の各時代・時期に起こった変化について文献資料を通して学び、近代以降の変化を写真資料で確認した上で、京都のこれらの変容を比較・論議し、それをフィールドワークにおいて実地に観ることにより確認する。

3. 教育・学習の方法

1. フィールドワークの基礎を学び、文献資料などにより予備調査をおこない、フィールドワークの準備をする。
2. 担当者が設定したテーマに

従ってフィールドワークに出る。3. フィールドワークの際に書いたフィールド・ノートは資料として、教室での座学において得た知識・情報を補充させ、レポートをまとめる。

・準備学習の具体的な方法

初回の授業で手渡されるテキストに現れる歴史上の名称その他について、2回目以降、個々の学習者があらかじめ調べて授業に臨む必要がある。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度：50%、レポート：50%。なお、フィールドワークへの参加は必須で、これらすべてを満たしてはじめて評価の対象になる。なお、実地研修であるフィールドワーク前の授業数の3分の1の欠席をもって定期試験の受験資格を失い、レポート提出による評価対象とならなくなる。

5. 授業予定

- 第1回 フィールドワークの基礎：その歴史にみる意義と手法
 第2回 資料調査による古都の「復元」：「資料に当たる」ということの意義
 第3回 資料による「史跡発掘」先史：太古の京都巨大湖の名残（「巨椋池」と名水）
 第4回 資料による「史跡発掘」先史～古代：渡来人の足跡と平安京の建設
 第5回 資料による「史跡発掘」古代1：平京城と平安京のはざまの歴史
 第6回 資料による「史跡発掘」古代2：オリジナルの平安京と現在の京都を重ね合わせる
 第7回 資料による「史跡発掘」古代3：平安京異聞の真偽をさぐる
 第8回 資料による「史跡発掘」中世～近世1：鴨東の発展（法勝寺「九重塔」、六波羅周辺）
 第9回 資料による「史跡発掘」中世～近世2：相国寺「七重塔」、足利義輝の「二条城」、聚楽第と御土居と京の七口
 第10回 資料による「史跡発掘」中世～近世3：方広寺「大仏殿」、瑞泉寺、徳川家康の二条城と神泉苑
 第11回 まとめとフィールドワーク準備としての資料の読み込み
 第12回 土曜日にまとめてフィールドワーク
 第13回 土曜日にまとめてフィールドワーク
 第14回 土曜日にまとめてフィールドワーク
 第15回 資料とフィールド・ノートの整理：フィールドワークを振り返る

6. 留意事項

フィールドワークは原則土曜日に1回実施する。3コマ分を1日で回る予定である。ただし、「授業予定一覧」にある1・2、3・4のフィールドワークは、実施時期のおおよその目安を示すもので、必ずしも1・2回目の授業に替えて行うのではないことに留意すること。フィールドワークの日時・日程は授業において伝える。単位を修得するためには、このフィールドワークに参加することが必須である。

講義コード	22521201・92205601			
科目名	日本語教育入門 外国人に日本語を教えるということ			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	『日本語教育を学ぶ 第二版』 遠藤織枝 三修社			
参考文献	『日本語教育事典』 大修館書店 『講座 日本語と日本語教育』 明治書院 『日本語教師・分野別マスターシリーズ』 アルク			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

グローバル化とともに、日本を訪れる外国人は年々増え、日本語を学ぶ外国人は世界全体で1000万人を超えていると言われている。そのような内外の外国人学習者に日本語を教える「日本語教育」とはどのような仕事なのか。この授業は、日本語教育の現況、内容、方法、問題点等について概観し、日本語を教える人にとって必要な基礎知識を習得してもらうことをねらいとする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 日本語教育とはどのような仕事なのかを理解する。
2. 日本語教育の方法について理解する。
3. 日本語の学習段階N1～N5について理解する。
4. 日本語教育で用いられる専門用語に習熟する。

5. 日本語教育能力検定試験に関する知識を深める。

3. 教育・学習の方法

1. テキストにもとづき講義を行う。
2. 毎回課題を出し、その発表や提出を求める。
3. 毎回テキストに関する小テストを実施する。
4. 日本語教育能力検定試験の問題にとりくむ。

・準備学習の具体的な方法

1. 事前に指示された調査課題・発表課題を準備しておくこと。
2. 講義であつかう予定のテキスト該当箇所を読んでおくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業態度の評点40%、定期試験の成績60%で評価する。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. 授業予定

- 第1回 導入授業 一日本語教育とは
 第2回 日本語教育の現状
 第3回 日本語教育と言語学
 第4回 日本語教育と異文化コミュニケーション
 第5回 コースデザインとシラバス
 第6回 学習段階別指導内容
 第7回 読み書きの指導
 第8回 技能別学習活動
 第9回 さまざまな学習活動
 第10回 さまざまな教授法
 第11回 さまざまな評価法
 第12回 海外における日本語教育
 第13回 第二言語習得研究
 第14回 社会とことば
 第15回 総括

6. 留意事項

日本語教員養成課程必修科目。人間文化学科学学生以外は、卒業要件単位に入らない。

講義コード	22531101			
科目名	情報科学応用 ～Linuxを使ってOSやサーバーのしくみを学ぶ～			
担当者	吉田 智子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[情][ウ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『らくらくUNIX』 よしだともこ監修 技術評論社 2004			
備考	定員40人 Linux基礎			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

複数のOS (Windows と Linux) を使いこなすことで、一つのOSしか使っていなかったときにはブラックボックスに思っていたコンピュータのハードウェア、ソフトウェアの理解が深まるものである。この科目では、情報科学を学ぶために、Linux という OS での操作実習をおこなう。具体的には、UNIX コマンドを利用したファイル操作やディレクトリの理解、Linux 上のソフトウェアの活用などを通じて、OS やサーバーの働きやしくみを理解する。

2. 教育・学習の個別課題

- ・ コンピュータ操作に必要な基本知識と基本技術
- ・ マルチユーザ、マルチタスク OS である UNIX の概念理解と操作
- ・ Linux OS とその上で動くアプリケーションソフトウェアの活用
- ・ コンピュータネットワークシステムのしくみの理解と活用

3. 教育・学習の方法

実習を中心に授業を行なうが、必要に応じて講義も行なう。

・準備学習の具体的な方法

毎回の授業の講義対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。

4. 評価方法・評価基準

授業参加 (40%)、課題など (30%)、学期末レポート (30%) の総合点で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 OS(Windows と Linux)の理解、起動と切り替え

- 第2回 Linux 上での電子メール利用、Web ページの閲覧、日本語入力
- 第3回 Linux という OS の機能と特長 (マルチユーザ、マルチタスクなど)
- 第4回 ディレクトリ (フォルダ) の階層構造、ホームディレクトリの理解
- 第5回 ディレクトリ移動に関する UNIX コマンドの理解、絶対パス・相対パス
- 第6回 Emacs エディタの利用
- 第7回 シェルの便利な使い方(1) ~ 補完、ヒストリー、エイリアス ~
- 第8回 シェルの便利な使い方(2) ~ パイプ、リダイレクトなど ~
- 第9回 アクセス権限 (パーミッション) の理解と UNIX コマンドの利用
- 第10回 プロセス管理のための UNIX コマンドの利用
- 第11回 FTP、遠隔ログイン、通信テスト用コマンドの利用
- 第12回 Linux OS の上で動く画像処理アプリケーションの利用
- 第13回 正規表現とそのコマンドの利用
- 第14回 シェルスクリプト入門
- 第15回 まとめ (総合復習と Emacs での学期末レポート作成)

6. 留意事項

本科目を履修するにあたっては、「情報処理」を履修済か、その内容を修得していることが望ましい。

講義コード	22531201		
科目名	情報科学演習 I 情報技術に関する基礎知識の習得		
担当者	伊藤 泰子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[情]		
前提科目			
テキスト	『情報処理教科書 IT パスポート CBT 対応 2013 年版』 芦屋広太 翔泳社 2012		
参考文献			
備考	定員 25 人 週 2 コマ連続 「情報科学演習 I」と「情報科学演習 II」 を合わせて履修すること		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

いまや情報技術は、国家の社会基盤となりつつある。このような社会の中では、情報技術に関する一定の知識・技能を持つ人材が必要とされている。この科目では、国家試験である「IT パスポート試験」の技術水準をガイドラインとし、IT (information technology : 情報技術) 人材として共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識を習得することを目標とする。主に、コンピュータのしくみ・基礎理論を理解し、どのような技術があり、それをどのように活用すべきかを学習していく。

2. 教育・学習の個別課題

- ・コンピュータシステムのしくみと基礎知識
- ・コンピュータの基礎理論
- ・ヒューマンインターフェイスとマルチメディア
- ・データベース

3. 教育・学習の方法

- ・講義中心で行うが、必要に応じて実習も交える。
- ・定期的に小テストを行う。
- ・準備学習の具体的な方法

詳細は授業内に指示します。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 (40%)、小テスト、期末テスト (60%)

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コンピュータシステムのしくみ
- 第3回 ハードウェア
- 第4回 ソフトウェア
- 第5回 コンピュータの基礎理論
- 第6回 アルゴリズムとプログラミング 1
- 第7回 アルゴリズムとプログラミング 2
- 第8回 ヒューマンインターフェイス
- 第9回 マルチメディア
- 第10回 データベースの基礎知識
- 第11回 データベースの操作 1
- 第12回 データベースの操作 2

- 第13回 インターネットの基礎知識
- 第14回 インターネットサービス
- 第15回 試験とまとめ

6. 留意事項

講義コード	22531301		
科目名	情報科学演習 II 情報技術を活用するための関連知識の習得		
担当者	伊藤 泰子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[情]		
前提科目	情報科学演習 I		
テキスト	『情報処理教科書 IT パスポート CBT 対応 2013 年版』 芦屋広太 翔泳社 2012		
参考文献			
備考	定員 25 人 週 2 コマ連続 「情報科学演習 I」と「情報科学演習 II」 を合わせて履修すること		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

いまや情報技術は、国家の社会基盤となりつつある。このような社会の中では、情報技術に関する一定の知識・技能を持つ人材が必要とされている。この科目では、国家試験である「IT パスポート試験」の技術水準をガイドラインとし、IT (information technology : 情報技術) 人材として共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識を習得することを目標とする。コンピュータシステムを利用する場における問題分析手法や、情報技術の活用方法、ネットワーク社会における安全に活動するための知識、企業のコンプライアンス向上に資するための知識を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

- ・ネットワーク・セキュリティ
- ・企業と法務
- ・経営戦略
- ・システム戦略
- ・システム開発技術
- ・プロジェクト・サービスマネジメント

3. 教育・学習の方法

- ・講義中心で行うが、必要に応じて実習も交える。
- ・定期的に小テストを行う。
- ・準備学習の具体的な方法

詳細は授業内に指示します。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 (50%)、小テスト、期末テスト (50%)

5. 授業予定

- 第1回 ネットワークのしくみ 1
- 第2回 ネットワークのしくみ 2
- 第3回 セキュリティに関する基礎知識
- 第4回 セキュリティの技術
- 第5回 企業活動における基礎知識
- 第6回 業務分析・解決手法
- 第7回 情報技術に関連する法律やガイドライン
- 第8回 経営・技術戦略
- 第9回 データ収集・分析技術 (ソフトウェアパッケージの利用)
- 第10回 システム戦略
- 第11回 システム開発に関する基礎知識
- 第12回 プロジェクトマネジメント
- 第13回 IT サービスマネジメント
- 第14回 システム監査
- 第15回 試験とまとめ

6. 留意事項

講義コード	22531401		
科目名	現代出版事情 出版メディアの文化		
担当者	鎌田 均		
単位数	2	配当学年	12
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献	授業の中で紹介していく。		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

本や雑誌をめぐる状況は、大きく変貌をとげている。古書でありながらそれをコンビニ感覚で販売する「新古書店」、インターネットで便利に購入できる「オンライン書店」、さまざまな形でコンテンツが入手できる「オンデマンド出版」、そして街の本屋や古本屋など。そして電子出版の新しい動きにより、出版そのものの成り立ちも今後大きく変わらう。この授業では、こうした出版の歴史と現代的な実情について、国際的な視点を取り入れつつ検討していく。また、まんがなどの日本独特の出版形態、事情についても考察し、理解を深める。

2. 教育・学習の個別課題

1. 出版の歴史、現状および将来の展望について理解する。
2. 出版に関わる文化とその固有性と多様性について理解する。

3. 教育・学習の方法

講義を主体とし、講義内容に沿った課題についてレポートを作成することで理解を深める。

・準備学習の具体的な方法

課題レポートに必要な資料を見つけ、その内容を理解する。

4. 評価方法・評価基準

レポート（2回）により、講義内容の理解度を評価する。

5. 授業予定

- 第1回 授業内容のレビュー
- 第2回 書店について
- 第3回 書籍流通の変化
- 第4回 書店のヴァーチャル化と国際比較
- 第5回 現代の読書形態
- 第6回 出版、書物の歴史概観
- 第7回 現代の出版の形態
- 第8回 レポート（1）講評
- 第9回 インターネット社会における情報発信と出版
- 第10回 学術情報の流通
- 第11回 出版文化の国際比較
- 第12回 海外から見た日本に関する出版物
- 第13回 まんがとその文化
- 第14回 まんがを学ぶこと、まんがの越境
- 第15回 まとめ、レポート（2）講評

6. 留意事項

講義コード	22532101・92301001		
科目名	ウェブデザイン I		
担当者	吉田 智子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ウ]		
前提科目			
テキスト	『マルチメディア表現～図形と画像の処理～』 有賀 妙子 他著 実教出版 2005 『新インターネット講座』 吉田智子、他著 北大路 書房 2005		
参考文献			
備考	定員 24 人		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

インターネット技術の総合的な理解から、ウェブサイトの規格や使用する言語、文字・画像などの情報の関連付けと視覚化と各種形式、さらにサイト運営における著作権問題などを学びます。

2. 教育・学習の個別課題

毎回の授業は演習室で行いますが、実習は概要を理解するための実験と位置付けていますので、基本的に講義を行います。まず、教科書として「新インターネット講座」（北大路書房）を利用し、インターネットのしくみ、World Wide Web のしくみ、HTML と CSS を利用した Web ページの記述、JavaScript を利用した Web ページについて、CGI を利用した Web ページのしくみについて、操作実習も交えて学びます。

合わせて、もう一冊の教科書である「マルチメディア表現～図形と画像の処理～」を利用し、各種の画像形式、動画ファイル形式、音楽データ形式について知識を整理し、最後に、知的財産権、特に著作権についてや、意匠権、商標権、また、肖像権についても学びます。

3. 教育・学習の方法

講義形式を基本としますが、実習を伴った方が理解が促進される内容については、パソコンを利用した操作実習を交えます。

・準備学習の具体的な方法

毎回の授業に関して、教科書の該当ページを示しますので、事前に読んで参加してください。

「Web ページの批判的閲覧」に関しての発表を、各自に一度ずつしてもらいます。

4. 評価方法・評価基準

授業参加（30%）、提出物（20%）、確認テスト（50%）の総合点で評価します。なお、授業での発表点は、授業参加（30%）の中に含まれます。

5. 授業予定

第1回 ガイダンス

この授業と「ウェブデザイン実務士」資格について、大学内の各演習室で使えるアプリケーション（Adobe PhotoShop CS2, Adobe DreamWeaver CS5.5）について、授業での発表内容（Web ページの批判的閲覧）に関して

第2回 マルチメディアコンテンツ、マルチメディア表現の基礎要素

第3回 インターネット技術に関して（IPアドレス、ドメイン名など）

第4回 インターネット標準のプロトコル「TCP/IP」の仕事とは、WWW 以外のインターネットのサービス（電子メール、FTP、遠隔利用など）

第5回 World Wide Web のしくみ（TCP/IP と WWW を具体的に学ぶ）、Web ブラウザの歴史と W3C の役割とは

第6回 HTML と CSS を利用した Web ページの記述

第7回 JavaScript を利用したインタラクティブな Web ページの記述(1)

第8回 JavaScript を利用したインタラクティブな Web ページの記述(2)

第9回 CGI を利用したインタラクティブな Web ページの記述(2)

第10回 CGI を利用したインタラクティブな Web ページの記述(1)

第11回 ウェブマスターとしての Web デザインとブランディング戦略について

第12回 各種の画像形式、動画ファイル形式、音楽データ形式について

第13回 知っておくべき法的知識（著作権、意匠権、商標権、肖像権）

第14回 既存の Web ページの批判的閲覧による総合復習

第15回 まとめ（確認問題と解説）

6. 留意事項

「情報処理～ネットワークリテラシーを身につける～」を履修済であることが好ましい。

講義コード	22532201・92301101		
科目名	ウェブデザイン II		
担当者	向井 智香		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ウ]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	定員 24 人		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

Adobe Dreamweaver を活用した web サイトの制作。実習と課題制作をと

おして Adobe Dreamweaver の特性を理解し、魅力的かつ効率的な情報の発信力を身につける。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) Adobe Dreamweaver 基本操作
 - ・ローカルサイト作成
 - ・テキスト入力と画像配置
 - ・html/css 基本操作
- 2) Adobe Dreamweaver 応用操作
 - ・高度なレイアウトの作成
 - ・css 応用技術
- 3) Adobe Dreamweaver を活用した web サイト制作

3. 教育・学習の方法

毎回の授業の前半 60 分では Adobe Dreamweaver の機能を実習形式で紹介、後半 30 分ではその機能を活用した簡単な課題制作を行う。最終課題では、Adobe Dreamweaver を活用して web サイトを制作する。

・準備学習の具体的な方法

【予復習】

不要

【課題】

授業毎の課題制作や最終課題が授業時間内に完了しなかった場合は、各自で取り組むこと。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 (30%)、授業毎の課題提出 (20%)、最終課題の完成度 (50%) の総合点で評価する。

5. 授業予定

- 第 1 回 オリエンテーション、Adobe Dreamweaver 基本操作
- 第 2 回 HTML 基本操作 (ローカルサイト・HTML ファイル作成、テキスト・画像入力、リンクの設置)
- 第 3 回 CSS 基本操作 (HTML・CSS 復習、CSS 記述と外部ファイルへの書き出し)
- 第 4 回 テーブル作成 (作成・編集、CSS の適応、ローカルサイトの書き出し)
- 第 5 回 クラスセクタの活用 (テーブルを用いたクラスセクタ活用例)
- 第 6 回 ボックスの活用 (div タグを活用したレイアウト作成)
- 第 7 回 ナビゲーションのレイアウト (ul タグを活用したナビゲーションバーの作成)
- 第 8 回 復習課題 (第 7 回までの知識を活用し web ページを作成)
- 第 9 回 復習課題 (第 7 回までの知識を活用し web ページを作成)
- 第 10 回 web デザイン応用技術 1 (リストのデザイン)
- 第 11 回 web デザイン応用技術 2 (リンク画像の設置)
- 第 12 回 web デザイン応用技術 3 (定義リストの活用)
- 第 13 回 最終課題制作 (Adobe Dreamweaver を活用した web サイト制作)
- 第 14 回 最終課題制作 (動作確認、アドバイス等)
- 第 15 回 最終課題制作、提出

6. 留意事項

人数制限：24 名

講義コード	22532301・92301201			
科目名	ウェブデザイン演習			
担当者	向井 智香			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[ウ]			
前提科目				
テキスト	『新インターネット講座』 有賀妙子・吉田智子 北大路書房 2005 『マルチメディア表現 図形と画像の処理』 有賀妙子・渡部隆志・由良泰人 実教出版			
参考文献				
備考	定員 24 人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

web デザイン関連科目で学んだ内容の集大成として、具体的な web サイトの制作に取り組む。企画から情報収集、デザイン、素材作成、コーディングまですべての流れをグループまたは個人で行い、学内ネットワークにて公開することを最終目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) 企画
 - ・ワークシートの作成
- 2) デザイン
 - ・Adobe Photoshop によるデザイン作成
 - ・素材の書き出し
- 3) コーディング
 - ・html/css の手打ちまたは Dreamweaver の活用
- 4) 公開
 - ・学内ネットワークへのアップ
 - ・プレゼンテーション

3. 教育・学習の方法

グループまたは個人で web サイトを企画、必要な情報を収集し、他の授業で得た知識を活用してページを作成し、学内ネットワークにて公開する。具体的には、テーマ企画、素材作成、インタラクション検討、コーディング、知的所有権を含む情報倫理の再確認、およびプレゼンテーションを行う。

・準備学習の具体的な方法

【予復習】

不要

【その他】

授業内容に遅れている場合は、必要に応じた作業を行う。

4. 評価方法・評価基準

web サイトの学内公開を単位取得の条件とする。

授業参加度 (30%)、web サイトの完成度 (70%) の総合点で評価する。なお、「ウェブデザイン実務士」の資格認定を希望するものは、70 点以上の評価を受ける必要がある。

5. 授業予定

- 第 1 回 オリエンテーション、web サイトの企画 (企画ワークシート作成)
- 第 2 回 デザイン (全体の構成とテンプレート作成)
- 第 3 回 デザイン (テンプレート作成、各自のサイトに必要な要素のデザイン)
- 第 4 回 デザインチェック (グループごとにプレゼンテーション)
- 第 5 回 デザイン修正 (デザインチェックで指摘を受けた箇所の修正)
- 第 6 回 ページ作成 (コーディング)
- 第 7 回 ページ作成 (コーディング)
- 第 8 回 ページ作成 (コーディング)
- 第 9 回 中間チェック (グループごとにプレゼンテーション、チェックリストの記入)
- 第 10 回 ページ作成 (中間チェックで指摘を受けた箇所の修正)
- 第 11 回 ページ作成 (中間チェックで指摘を受けた箇所の修正)
- 第 12 回 ページ作成 (最終調整)
- 第 13 回 公開テスト
- 第 14 回 公開
- 第 15 回 合評 (一人 1 グループ 15 分の持ち時間で web サイトをプレゼン)

6. 留意事項

人数制限：25 名

本授業を受講するにあたり、「マルチメディア演習」を履修済み (もしくは Photoshop が扱える)、および「ウェブデザイン II」を履修済み (もしくは Dreamweaver を扱える、または HTML と CSS の手打ちができる) であるか、その条件を満たす人物とグループを組むことを必須条件とする。

講義コード	22532401・92301301			
科目名	ウェブプログラミング演習			
担当者	伊藤 泰子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[ウ]			
前提科目				
テキスト	使用しない。 適宜、必要資料を配布。			
参考文献				
備考	定員 24 人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

プログラム言語 JavaScript を利用して、動的な Web コンテンツを作成する。

Web の情報を単に受け取るだけの利用者ではなく、インタラクティブな情報発信の技術を養い、プログラミングの技術、Web サーバとのやりとりなど、Web における一歩進んだ知識・技術を身につける。

2. 教育・学習の個別課題

- ・基本制御構造
- ・オブジェクト指向プログラミング
- ・フォーム部品との連携
- ・ウィンドウ操作
- ・応用技術

3. 教育・学習の方法

実習形式で行う。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業内に指示します。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 (50%)、課題 (50%)

5. 授業予定

- 第1回 JavaScript とは
- 第2回 基本制御構造1 (順次、反復)
- 第3回 基本制御構造2 (選択)
- 第4回 オブジェクト指向とは (クラス概念、フィールドやメソッドの利用)
- 第5回 フォームタグとの連携1 (文字列操作、デザイン変更)
- 第6回 フォームタグとの連携2 (演算処理)
- 第7回 ウィンドウ操作 (alert メソッドの利用、ウィンドウの作成、ウィンドウ制御)
- 第8回 DOM CSS の操作1 (JS を利用して動的にデザインを変更する)
- 第9回 DOM CSS の操作2 (JS を利用して動的に HTML コンテンツを変更する)
- 第10回 Ajax の概要
- 第11回 Ajax 外部ファイルのデータをプログラムに反映させる
- 第12回 Ajax Google Maps の操作・利用
- 第13回 課題作成 (JavaScript を利用したコンテンツ作成)
- 第14回 課題作成 (JavaScript を利用したコンテンツ作成)
- 第15回 課題作成、合評

6. 留意事項

講義コード	22532501・92301401		
科目名	マルチメディア演習		
担当者	向井 智香		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ウ]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『マルチメディア表現 図形と画像の処理』 有賀妙子 渡部隆志 由良泰人 実教出版		
備考	定員 24 人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

デジタル画像編集ソフト Adobe Photoshop を活用した画像編集技術の習得。実習と課題制作をおとして、Photoshop の特性を理解し、魅力的かつ効率的な視覚情報の発信力を身につける。

画像加工に留まらず、web ページ全体のデザインを Photoshop で完成させることを本授業の最終目標とする。

また、制作した課題の合評を行うことにより、情報発信者としての在り方と理論的なデザインの構築能力を養う。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) Adobe Photoshop 基本操作
 - ・画面構成
 - ・レイヤーの概念
- 2) 外部画像の取り込みと編集
 - ・保存形式
 - ・色調補正
 - ・トリミング
- 3) テキスト入力/編集
 - ・文字ツール活用
- 4) デザイン補助機能活用
 - ・ベジェ曲線
- 5) 中間課題：フライヤーデザイン

- ・画像解像度
- ・デザインのプレゼンテーション

※印刷を目的とした画像編集を行うことにより、web 上での使用を目的とした画像編集 (最終課題) との違いを明確化し、理解を深める

6) 最終課題：web ページデザイン

- ・「大学紹介 web ページ」作成
- ・デザインのプレゼンテーション

3. 教育・学習の方法

毎回の授業の前半 60 分では Adobe Photoshop の機能を実習形式で紹介、後半 30 分ではその機能を活用した簡単な課題制作を行う。

また、中間課題ではフライヤーデザインを、最終課題ではウェブページデザインを制作することにより、印刷物とインターネットという 2 種類のメディアの差異を理解し、それぞれに対応した画像編集技術を身につける。

・準備学習の具体的な方法

【予復習】

不要

【課題】

授業毎の課題、中間課題、最終課題制作が授業時間内に完了しなかった場合は、各自で取り組むこと。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 (15%)、授業毎の課題提出 (15%)、中間課題の完成度 (20%)、最終課題の完成度 (50%) の総合点で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション、Adobe Photoshop 基本操作 (画面構成、レイヤーの概念)
- 第2回 外部画像の取り込みと編集1 (保存形式の理解を含む)
- 第3回 外部画像の取り込みと編集2 (完成見本とそっくりの画像を作ってみる)
- 第4回 外部画像の取り込みと編集3 (授業時間に撮影したデジカメ画像の編集)
- 第5回 テキストの入力と編集 (文字ツール、文字パネル、文字編集)
- 第6回 デザイン補助機能の活用 (ベジェ曲線の解説や、ペンツール、アンカーポイントの追加と削除など)
- 第7回 印刷を目的とした画像編集 (画像解像度についての復習も含む)
- 第8回 中間課題制作：フライヤーデザイン
- 第9回 中間課題制作：フライヤーデザイン
- 第10回 中間課題合評 (フライヤーデザインを一人 3 分の持ち時間でプレゼン)
- 第11回 最終課題制作：web ページデザイン (「大学紹介ウェブページ」作成)
- 第12回 最終課題制作：web ページデザイン (「大学紹介ウェブページ」作成)
- 第13回 最終課題制作：web ページデザイン (「大学紹介ウェブページ」作成)
- 第14回 最終課題合評 (web ページデザインを一人 10 分の持ち時間でプレゼン)
- 第15回 最終課題合評 (web ページデザインを一人 10 分の持ち時間でプレゼン)

6. 留意事項

人数制限：24 名

講義コード	22532601・92301501		
科目名	色彩デザイン論		
担当者	森田 麻祐子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ウ]		
前提科目			
テキスト	『カラーコーディネーター入門 色彩』 大井義雄・川崎秀昭 日本色研事業 (株) 2007 年 『新配色カード 199a』 日本色彩研究所		
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

視覚のメカニズムを学ぶことによって、視認性や、色のもつ心理的なイメ

ージなどを理解し、目的に合ったイメージを色で表現できるよう具体的な例を見ながら、色彩の基礎的な知識を身につける。

2. 教育・学習の個別課題

1. 12色相環、明度スケール、トーン一覧表 2. 色の三属性の理解、イメージと配色 3. 配色技法を用いたカラープランニング

3. 教育・学習の方法

テキストの内容と画像資料を用いて理論を学び、配色カードによる確認作業を行う。

・準備学習の具体的な方法

気に入ったグラフィックデザインやウェブページがどのような配色になっているかを観察すること。

4. 評価方法・評価基準

授業内の課題 30%、筆記試験 70%

5. 授業予定

- 第1回 導入 (色とは)
- 第2回 色と光 (視覚のメカニズムについて)
- 第3回 色の記録、伝達の方法
- 第4回 様々な表色系① (色の三属性、PCCS、マンセルシステム)
- 第5回 様々な表色系② (オストワルト、XYZ 表色系、L*a*b*表色系)
- 第6回 色の混合 (加法混色、減法混色について)
- 第7回 色彩の心理① 色の見えの効果
- 第8回 色彩の心理② 色のイメージ
- 第9回 色彩調和① 色相、明度、彩度、トーンを基準にした配色
- 第10回 色彩調和② 様々な効果をねらった配色
- 第11回 色彩調和③ イメージと配色
- 第12回 色彩調和論 (シユブルーールの色彩調和論など)
- 第13回 カラーユニバーサルデザイン (視認性、バリアフリーと色について)
- 第14回 カラープランニング① (配色技法を用いたカラープランニング)
- 第15回 カラープランニング② (配色技法を用いたカラープランニング)

6. 留意事項

配色カードを用いる課題を行う際、はさみとのりが必要です。各自持参して下さい。

講義コード	22532901・90101201		
科目名	図書館情報技術論 図書館業務における情報技術について		
担当者	鎌田 均		
単位数	2	配当学年	234
資格	[図][ウ][ブ]		
前提科目			
テキスト	『情報検索の基礎知識 新訂2版』原田 智子他 情報科学技術協会 2011年		
参考文献	適宜紹介する。		
備考	定員 46人 <旧>225318 情報機器論		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

私たちを取り巻く情報技術はまさに日進月歩である。そのような中でも特に図書館業務における情報機器・情報技術に焦点を当て、基礎的な知識を習得することを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. データの作成から情報の活用に至るまでのプロセスを理解する。
2. 情報と社会とのかわりについて、考えられるようになる。
3. 社団法人 情報科学技術協会が実施している「情報検索基礎能力試験」等、関連する資格試験に通用する基礎力を身につける。

3. 教育・学習の方法

講義を中心に授業を行う。

・準備学習の具体的な方法

指定した教科書を必ず読んで授業に出席して下さい。

4. 評価方法・評価基準

出席・授業参加度 10%・小テスト 20%・定期試験 70%

5. 授業予定

- 第1回 情報の定義
- 第2回 情報技術と社会
- 第3回 情報管理のプロセス

- 第4回 検索システムの実際
- 第5回 コンピュータに関する基礎知識
- 第6回 コンピュータシステムの管理
- 第7回 インターネットに関する基礎知識
- 第8回 データベース
- 第9回 図書館における情報技術活用の現状
- 第10回 図書館業務システムの仕組み
- 第11回 情報の蓄積と組織化
- 第12回 電子資料の管理
- 第13回 デジタルアーカイブ
- 第14回 最新の情報技術と図書館
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22533001		
科目名	情報サービス演習 I 必要な知識・情報を探索する技術		
担当者	鎌田 均		
単位数	2	配当学年	234
資格	[図][ブ]		
前提科目			
テキスト	課題を授業中に配布		
参考文献			
備考	定員 46人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

情報の氾濫する状況のもとで情報検索を行う場合には、まず何が検索の主題であるかを明確にすることが必要であり、それによって検索を効率的に行うことができるようになる。本演習では実習を通して、その情報検索能力を習得する。また、情報ニーズを認識し、情報を探索し、評価・選択し、利用する能力である情報リテラシーを身につける。

2. 教育・学習の個別課題

1. 探索事項と検索語の関係の分析ができるようにする。
2. 利用するデータベースの性質を理解する。
3. 実習を通じて、情報検索に習熟する。
4. 情報を探索・評価・選択・利用する体験を通して、情報リテラシーを身につける。

3. 教育・学習の方法

1. コンピュータ端末を利用して、検索インターフェイスの利用に慣れる。
2. 各種データベースによる情報検索を学ぶ。
3. 論理演算等の情報検索の基礎的事項を学ぶ。
4. 演習を通じて、情報の入手、評価・選択、利用の方法を習得する。

・準備学習の具体的な方法

この演習においては事前学習よりも、課題についての授業中の説明を理解し、提示された課題をこなすことが重要である。そのため各演習課題について、わからないことは必ず質問し、提出締切日までに各演習課題をすべて終えるようにする。

4. 評価方法・評価基準

演習課題の提出 100%とし、その合計で総合的に評価する。その内訳は演習課題 1～13は各7%、総合演習問題 9%である。筆記試験は実施しない。

5. 授業予定

- 第1回 演習方法説明、基本事項に関する講義
- 第2回 本学図書館 OPAC の利用法 (演習課題 1)
- 第3回 資料検索法 (総合目録等を利用する図書館の探索法) (演習課題 2)
- 第4回 雑誌記事の探索法 (演習課題 3)
- 第5回 新聞記事の探索法(1) (演習課題 4)
- 第6回 新聞記事の探索法(2) (演習課題 5)
- 第7回 各種情報探索法 1 (単位・通貨の換算) (演習課題 6)
- 第8回 各種情報探索法 2 (日時情報の探索) (演習課題 7)
- 第9回 各種情報探索法 3 (就職情報の探索) (演習課題 8)
- 第10回 各種情報探索法 4 (画像情報の探索) (演習課題 9)
- 第11回 情報の評価・選択 (演習課題 10)
- 第12回 情報の利用(1) (演習課題 11)
- 第13回 情報の利用(2) (演習課題 12)
- 第14回 復習問題 (演習課題 13)
- 第15回 総合演習問題

6. 留意事項

1. 演習室利用のため、人数制限がある。
2. 出席し、演習に参加する

ことが第一条件である。

講義コード	22541301		
科目名	キリスト教美術概論 基礎的知識をおさえる		
担当者	吉田 朋子		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『知識ゼロからのキリスト教絵画入門』 池上英洋 幻冬舎 2012年 あわせて、適宜資料を配布する。		
参考文献	『キリスト教美術図典』 柳宗玄・中森義宗 吉川弘 文館 1990 このほか、適宜指示する。		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

4世紀以降、長い時間をかけて成立したキリスト教美術には、繰り返し描かれ続けてきた主題と表現上の約束事がある。さまざまな地域・時代に制作された作品を通して、未知の作品に出会ったときにも、ある程度主題を推測できる力を養うことを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

- キリスト教美術の主要な主題と表現上の約束の基本を知る。
- キリスト教美術の歴史的な流れの基本を知る。

3. 教育・学習の方法

・スライド(パワーポイント)を用いた講義形式とするが、意見や感想などの発言を求めることもある。

・準備学習の具体的な方法

テキストや配布資料の指示した箇所を読んでおくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 50%、学期末試験またはレポート 50%で評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- イントロダクション・旧約聖書 (1)
- 旧約聖書 (2)
- 旧約聖書 (3)
- 旧約聖書 (4)
- 旧約聖書 (5)
- 新約聖書 (1)
- 新約聖書 (2)
- 新約聖書 (3)
- 新約聖書 (4)
- 新約聖書 (5)
- キリスト教のさらなる世界 (1)
- キリスト教のさらなる世界 (2)
- キリスト教のさらなる世界 (3)
- キリスト教のさらなる世界 (4)
- まとめ (歴史的概観)

6. 留意事項

講義コード	22541701		
科目名	芸術への誘い 芸術の学とは？		
担当者	小川 光		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献	『芸術学ハンドブック』 神林恒道他編 勁草書房		
備考			
科目読替	芸術学概論 ※平成19年度以前入学者に適用		
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

今日われわれは何を芸術の範疇においてあつかうか、またそれらが歴史のいかにして芸術と見做されるにいたったかを考察する。それをもとに各論として、絵画、彫刻、建築、音楽、文芸など諸芸術の作品とそれらに関する基本的な文献に接し、人間の営みと芸術の相互の関連を考察することで、芸術の概念を明確にする。

2. 教育・学習の個別課題

「授業予定一覧」を参照のこと。

3. 教育・学習の方法

講義は論述中心ではあるが、適宜、ビデオ、CD、OHCなどの視聴覚教材を用い、理解を深める。

・準備学習の具体的な方法

個々の学習者が予備知識として、「授業予定一覧」などを参照して、講義であつかう西洋美術や芸術全般に関する文献資料を、学術情報センター(図書館)で読んでおくことが求められる。そのことによって得られる優れた予備知識が、芸術(作品)とその時代背景の連関の理解を助けることになる。

4. 評価方法・評価基準

全授業数の3分の1を欠席すると評価対象にならない。また、一度の欠席によっても理解が大変遅れるので、毎回の出席は絶対条件。評価は、授業中の質問への正答率への評価20%、まとめフィードバック・テスト80%とする。特に、初回の授業において授業の方針その他の重要な注意を話すので、それらをしっかりと確認すること。

5. 授業予定

- 芸術を歴史的に概観する
- 芸術の概念
- 芸術の時代区分
- 美学と芸術学
- 芸術の分類
- 芸術「作品」とは？
- イコノロジーの意義
- 絵画
- 彫刻
- 建築
- 音楽
- 文芸
- 写真
- 諸文化圏の芸術と構造主義
- 全まとめ

6. 留意事項

将来の研究分野として美学・芸術学など、ドイツ語を必要とする者がいることを考慮し、原語の文献に慣れるという意味で、講義ではドイツ語、英語の文献を紹介することもある。

講義コード	22541901		
科目名	哲学とキリスト教		
担当者	宮永 泉		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	『サシとの対話』(プリント配布)		
参考文献	授業中に適宜紹介する		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

現代は科学の時代であるが、同時に思想的混迷の時代でもある。このような時代状況を踏まえた上で、人間は一体何のために生きているのか、また如何に生きるべきなのかを、十七世紀フランスの自然科学者にしてキリスト教思想家であったパスカルの著作を精読しつつ、共に考えたい。後期の「人間学」と一対をなす。

2. 教育・学習の個別課題

- パスカルが、哲学とキリスト教の関係について、カトリック修道僧サシ氏と交わした対話の記録である『サシとの対話』を精読する。
- その他、適当な講演会やビデオなどを利用して、レポートを提出して貰うことがある。

3. 教育・学習の方法

- 授業方法： 講義と講読の併用。
- 学習方法： テキストの予習。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポートまたはテストなど[60%]を以て総合的に行う。

毎回必ず予習をして授業に出て、しっかり耳を傾けることが最も大切です。3分の2以上の出席を要す。

5. 授業予定

第1回 (1) 授業準備 (単位認定の仕方の説明等)

(2) 哲学の三つの型

第2回 (1) パスカルのための概説

(2) パスカルの宗教体験の記録である「覚書」講読

第3回 (1) 「覚書」講読

(2) 『サシとの対話』講読：導入

第4回 『サシとの対話』講読：モンテーニュ哲学

第5回 『サシとの対話』講読：モンテーニュ哲学

第6回 『サシとの対話』講読：モンテーニュ哲学

第7回 『サシとの対話』講読：エピクテテス哲学

第8回 『サシとの対話』講読：エピクテテス哲学

第9回 『サシとの対話』講読：エピクテテス哲学

第10回 『サシとの対話』講読：懐疑論と汎神論の「対立」

第11回 『サシとの対話』講読：懐疑論と汎神論の「対立」

第12回 『サシとの対話』講読：キリスト教

第13回 『サシとの対話』講読：キリスト教

第14回 『サシとの対話』講読：キリスト教

第15回 まとめ (キリスト教と仏教)

6. 留意事項

第10回 同上：第十回とブーバー

第11回 同上：第九回とジレジウス及びリルケ

第12回 同上：第八回とエックハルト及びニーチェ

第13回 同上：第八回再説

第14回 同上：同上

第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22542401			
科目名	漢文学入門			
担当者	朱鳳			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[国]			
前提科目				
テキスト	『史記物語 楚漢篇』 森野繁夫編 白帝社 2011年			
参考文献	『中国古典を読むために』 頼性勤 大修館書店 『漢文【まとめと要点】』 森野繁夫、佐藤利行 白帝社			
備考	定員 50人 <旧>225071 文学特講Ⅱ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	22542001・92203301			
科目名	日本思想			
担当者	宮永 泉			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	『十牛図－自己の現象学』 上田閑照・柳田聖山共著 ちくま学芸文庫			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

ヨーロッパのカトリック思想と日本の禅思想とを比較研究することを通して、人間とは何か・如何に生きるべきかを哲学的に深く考える。受講生は、将来自分自身の人生観・世界観を確立する為のヒントが得られるはずである。前期講義「日本文化と宗教」と一対をなす。

2. 教育・学習の個別課題

- 西洋十七世紀のカトリック思想家パスカルが、哲学とキリスト教の関係について、サシ氏と交わした対話の記録である『サシとの対話』を絶えず念頭におきつつ、
- 禅の「十牛図」(人間が本来の自己と世界を見出す過程を絵解きしたもの)を哲学的に考察した上田閑照・柳田聖山共著『十牛図－自己の現象学』を精読する。

3. 教育・学習の方法

- 授業方法：講義と講読の併用。
- 学習方法：テキストの予習。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポートまたはテストなど[60%]を以て総合的に行う。毎回授業に出て、しっかり耳を傾けることが最も大切です。3分の2以上の出席を要す。

5. 授業予定

第1回 (1) 授業準備 (単位認定の仕方の説明等)

(2) 哲学の三つの型

第2回 前期講義「日本文化と宗教」概括

第3回 同上

第4回 『十牛図』講読：第八回牛俱忘

第5回 同上：第九回返本還源

第6回 同上：第十回テン垂手

第7回 同上：絶対無／自一然／人一間

第8回 同上：同上

第9回 同上：同上

1. 科目の教育目標

明治時代までに日本人によく読まれていた『史記』を抜粋した『史記物語 楚漢篇』を中心に講読する。日本の言語、文学、思想などは、中国から強い影響を受けつつ独自の発展を遂げてきたが、古代中国人と日本人が共通に享受していた漢文の古典作品を現代人の視点より再読することによって、特に言語と文学の面における日本文化と中国文化の関係について考えたい。

2. 教育・学習の個別課題

- 中国古典を読むことによって、現在使われている熟語の意味を辞典にさかのぼり、さらに深く理解する。
- 漢文訓読みの基礎を身につける。

3. 教育・学習の方法

1. 時代背景、人物背景などを細かく説明することを通して、漢文の内容への理解を深めて行く。

2. 漢文の読み下しを朗読する。

・準備学習の具体的な方法

課ごとに予習と復習することを学生に課す。予習の過程で、漢和字典の使い方、漢字の表外訓などの知識を身につけることができると考える。また、復習によって、漢文の基本的な語法、返り点の付け方などをマスターしてもらう。

4. 評価方法・評価基準

評価は授業参加度 (30点)、試験 (70点) により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

第1回 「項羽本紀」秦末の大乱

第2回 「項羽本紀」鴻門の会

第3回 「項羽本紀」漢楚の争い

第4回 「項羽本紀」四面楚歌

第5回 「高祖本紀」法三章

第6回 「高祖本紀」大風の歌

第7回 「蕭相国世家」秦の律令・図書を収む

第8回 「蕭相国世家」功狗と功臣

第9回 「留侯世家」始皇帝狙撃

第10回 「留侯世家」孺子 教ふ可し

第11回 「留侯世家」鴻門の会

第12回 「淮陰侯列伝」俛して袴下より出づ

第13回 「淮陰侯列伝」国士無双

第14回 「淮陰侯列伝」背水の陣

第15回 まとめ

6. 留意事項

漢和辞典を用意すること。

講義コード	22542501		
科目名	漢文学特講 漢詩を読む		
担当者	朱 鳳		
単位数	2	配当学年	234
資格	[国][日]		
前提科目			
テキスト	『唐代の詩』 森野繁夫編 白帝社 2004		
参考文献			
備考	隔年開講 1		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

本講義は日本人に親しまれている唐代の詩、特に李白と杜甫の詞を中心に読む予定である。本講義は、学習を通して、漢詩に関する基本知識を把握し、文学作品としての漢詩への知識を深めることを目標とする。また、漢詩の学習を通して、日本と中国が共有している漢字文化についても再認識してもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

- 漢詩に関する基本知識を把握する。
- 「律詩」「絶句」「五言」「七言」について学習する。
- 日本語の独特な「返り点」の付け方、「読み下し」の方法をマスターする。

3. 教育・学習の方法

- 授業中、声を出して漢詩を読む。
- ビデオを利用して、視覚的な映像を使って漢詩への知識と理解を深めて行く。
- 作品ごとに文学的、歴史的な背景を詳細に説明する。

・準備学習の具体的な方法

- 予習復習をしっかりと行う。
- 漢詩を読むための準備知識として、押韻と平仄をまず説明する。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席及び授業態度（30点）、試験（70点）により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 漢詩の種類について
- 第3回 押韻と平仄について
- 第4回 孟浩然「春暁」
- 第5回 王維「送元二使安西」
- 第6回 王之涣「涼州詞」
- 第7回 王翰「涼州詞」
- 第8回 李白「黃鶴樓送孟浩然之廣陵」
- 第9回 李白「早發白帝城」
- 第10回 李白「送友人」
- 第11回 杜甫「春望」
- 第12回 杜甫「月夜」
- 第13回 杜甫「絶句」
- 第14回 杜甫「旅夜書懷」
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22542601		
科目名	アラブ文学特講 アラビアンナイト		
担当者	鷲見 朗子		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	必要な資料は授業で配布する。		
参考文献	『百一夜物語—もうひとつのアラビアンナイト』 鷲見朗子 河出書房新社 2011		
備考	<旧>225072 文学特講Ⅲ 隔年開講 1		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

いまや世界文学として人々に親しまれているアラビアンナイトの形成の歴史をおおまかにたどる。その写本、刊本、翻訳、映画等を通して、どのように世界に広まり、また日本に紹介されてきたのかを学ぶ。アラビアンナイト（『千一夜物語』と『百一夜物語』）から、いくつかの物語をとりあげ、それらの読解により、文学テキストの読み方と分析の仕方を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

- アラビアンナイトの形成
- 『千一夜物語』
- 『百一夜物語』
- 枠物語（物語のなかにはほかの物語を埋め込む手法）
- いくつかのほかの物語

3. 教育・学習の方法

- 講義
- 文学テキストの読解・比較
- 発表・討議
- レポートの作成

・準備学習の具体的な方法

文学テキストを事前に読んで理解する。課題をこなし、締切日に提出する。

4. 評価方法・評価基準

授業参加・課題（小テストを含む）20%、発表30%、レポート50%
5回以上の欠席者には単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 アラビアンナイトとは
- 第3回 世界におけるアラビアンナイト
- 第4回 日本におけるアラビアンナイト
- 第5回 『千一夜物語』の枠物語
- 第6回 『百一夜物語』の枠物語
- 第7回 『千一夜物語』の枠物語と『百一夜物語』の枠物語の比較
- 第8回 「王子と七人の大臣の物語」
- 第9回 「王子と七人の大臣の物語」
- 第10回 「王子と七人の大臣の物語」
- 第11回 発表の準備
- 第12回 発表
- 第13回 発表
- 第14回 発表
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22542801		
科目名	西洋美術史 バロックから印象派まで		
担当者	吉田 朋子		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目	※平成23年度以前入学者：キリスト教美術概論		
テキスト	『カラー版 西洋美術史』 高階秀爾 監修 美術出版社 2002年		
参考文献	適宜指示する。		
備考	<旧>西洋近代美術 隔年開講 1		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

17世紀のバロック美術から19世紀印象派に至る基本的な流れを把握する。代表的な作品を知り、様式の変化を学ぶ。また、作品を観察して、自分なりの感想を述べられるようにする。

2. 教育・学習の個別課題

・時代区分について基本的な知識をおさえる。 ・代表的な作品をよく観察し、基本的な情報を知る。

3. 教育・学習の方法

・スライド(パワーポイント)を用いた講義形式とするが、意見や感想などの発言を求めることもある。

・準備学習の具体的な方法

テキストや配布資料の指示された箇所を読んでおくこと。不明な地域や地名について、地図やインターネットで確認すること。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度50%、学期末試験またはレポート50%で評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 17世紀美術 (1) イタリア-1
- 第2回 17世紀美術 (2) イタリア-2
- 第3回 17世紀美術 (3) フランドル-1
- 第4回 17世紀美術 (4) フランドル-2
- 第5回 17世紀美術 (5) オランダ-1
- 第6回 17世紀美術 (6) オランダ-2
- 第7回 17世紀美術 (7) スペイン
- 第8回 17世紀美術 (8) フランス
- 第9回 ロココ美術 (1)
- 第10回 ロココ美術 (2)
- 第11回 新古典主義
- 第12回 ロマン主義美術
- 第13回 写実主義
- 第14回 印象派 (1)
- 第15回 印象派 (2)

6. 留意事項

講義コード	22542901・91000201			
科目名	博物館概論			
担当者	吉田 朋子			
単位数	2	配当学年	123	
資格	[博]			
前提科目				
テキスト	『新時代の博物館学』 全国大学博物館学講座協議会 西日本部会 芙蓉出版 2012			
参考文献	適宜指示する			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

博物館に関する基礎的知識を身につける。身近にある博物館の活動内容を知り、博物館学的な観点からそれを考察できるようになる。

2. 教育・学習の個別課題

博物館や学芸員の活動について、基本的な事項と実例、歴史を学ぶ。また、これらの活動の根拠となる法律や倫理規定を理解する。身近な博物館を知り、考察する。

3. 教育・学習の方法

講義が中心であるが、受講者に課題発表を求めることがある。

・準備学習の具体的な方法

1. テキストや資料の指示された箇所を読んでくること。
2. 指示された課題を準備しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

講義への参加態度 50%・レポート評価 50% (3分の1以上の欠席で単位取得は困難となる)

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 博物館と博物館学について
- 第3回 博物館の機能・学芸員の役割
- 第4回 博物館に関する法令 (博物館法など)
- 第5回 諸外国の博物館史
- 第6回 諸外国の博物館の活動例
- 第7回 日本の博物館史
- 第8回 日本の博物館の活動例
- 第9回 博物館における「収集」
- 第10回 資料の「保存」
- 第11回 博物館における「展示」
- 第12回 博物館における「教育普及」
- 第13回 博物館における「調査研究」と情報発信
- 第14回 博物館の現状と課題
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22543001			
科目名	音楽鑑賞法 名曲を深く知るために			
担当者	小川 光			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	特定のテキストはないが、理解の補助として適宜ハンドアウトを配布する。			
参考文献	『図解音楽事典』 U・ミヒェルス著/角倉監訳 白水社 上記以外のものも授業の過程で随時紹介する。			
備考	<旧>225114 音楽学概論			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

音楽鑑賞は多くの人が大学以前の学校教育で経験するが、たいていは、鑑賞する音楽についての印象の話し合いにとどまり、その曲の響きに潜むものの解明などに踏み込むことは多くはなかったのではないかと。この講義の目的は、楽曲の背景にある作曲家と作曲家が生きた歴史・文化・社会的背景を分析・考察することを通してその響きの深層を解明し、音楽鑑賞に新しい視点を持つことである。

2. 教育・学習の個別課題

1. 音楽とは何か? : 音楽と歴史・文化との関連
2. 西洋音楽の基盤 : キリスト教音楽とグレゴリオ聖歌
3. 中世音楽とルネサンス音楽 : 人間中心の音楽への響きの変遷
4. バロック音楽 : 「クラシック音楽」の響きの起源
5. 古典派音楽 : ハイドンとモーツァルトの音楽の響き
6. ベートーヴェンの音楽 : 心を音楽で表現するとは?
7. ロマン派音楽 : ショパン、シューマン、リストの音楽の響きの特色
8. 後期ロマン派→印象派の音楽 : 崩れゆく調性とその響き
9. 現代音楽 : 音と音楽の同化

3. 教育・学習の方法

音楽を実際に聴き、歴史・文化的背景の裏付けを通して各時代の音楽の具体的な響きが表すことの解明をの能力を高める。随時質問し、質問も受けつける。レポートを課すこともある

・準備学習の具体的な方法

個々の学習者が予備知識として、このシラバスの「教育・学習の個別課題」や「授業予定一覧」を参照して、講義で勧める音楽史上のそれぞれの時代に関する文献資料を、学術情報センター (図書館) で読んでおくことが求められる。それによって得られる予備知識が、各時代の音楽の時代背景の理解を助け、講義で聴く楽曲の響きと、それを生み出した歴史・社会的背景の連関の理解を助長する。

4. 評価方法・評価基準

全授業数の3分の1を欠席すると評価対象にならない。また、一度の欠席によっても理解が大変遅れるので、毎回の出席は絶対条件。評価は、授業中の質問への正答率への評価 20%、まとめフィードバック・テスト 80%とする。特に、初回の授業において授業の方針その他の重要な注意を話すので、それらをしっかりと確認すること。

5. 授業予定

- 第1回 音楽とはそもそも何か? : 音楽の歴史・文化的背景を読む
- 第2回 西洋音楽の響きの基盤 : キリスト教音楽とグレゴリオ聖歌
- 第3回 中世音楽とルネサンス音楽の響き : 神の音楽の教会旋法と人間の音楽の機能と和声
- 第4回 バロック音楽の響き : 機能と和声の音楽と「クラシック音楽」
- 第5回 古典派音楽の響き : 「クラシック音楽」としてのハイドンとモーツァルトの音楽
- 第6回 ベートーヴェンの音楽の響き : 内なる声としての和声
- 第7回 ロマン派音楽の響き : ショパン、シューマン、リストの音楽の特色
- 第8回 印象派音楽の響き : 現代音楽への道
- 第9回 現代の音楽の響き : 音と音楽の同化
- 第10回 音楽鑑賞の実践 1
- 第11回 音楽鑑賞の実践 2
- 第12回 音楽鑑賞の実践 3
- 第13回 音楽鑑賞の実践 4
- 第14回 音楽鑑賞の実践 5
- 第15回 学習内容の総合としての音楽鑑賞法のみまとめ

6. 留意事項

講義コード	22543101			
科目名	西洋思想史（古代・中世）			
担当者	宮永 泉			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『西洋哲学史』 岩崎武雄 有斐閣 『パイドン』 プラトン（岩田靖夫訳） 岩波文庫			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
備考	〈旧〉225108 西洋思想史（古代）			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

古代ではプラトン、中世ではアウグスティヌス、に焦点をあてつつ古代・中世の西洋思想史を概観し、人間と世界についての哲学的な考え方を学ぶ。受講生は、将来自分自身の人生観・世界観を確立する為のヒントが得られるはずである。後期の「西洋思想史（近世）」と一対をなす。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) 岩崎武雄著『西洋哲学史』を読む。
- 2) 上と平行して、各自でプラトン著（岩田靖夫訳）『パイドン』を読み、レポート提出。
- 3) その他、適当な講演会やビデオなどを利用して、レポートを提出して貰うことがある。

3. 教育・学習の方法

- 1) 授業方法：講義と講読の併用。
- 2) 学習方法：テキストの予習。

・準備学習の具体的な方法

岩崎武雄著『西洋哲学史』について、授業で読む箇所を毎回必ず予習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度・態度〔40%〕、レポートまたはテストなど〔60%〕を以て総合的に行う。毎回授業に出て、しっかり耳を傾けることが最も大切です。3分の2以上の出席を要す。

5. 授業予定

- 第1回 (1) 授業準備（単位認定の仕方の説明等）
(2) 哲学の三つの型
- 第2回 『西洋哲学史』講読：古代哲学史概観、創始期の哲学、ソフィスト、ソクラテス
- 第3回 同上：同上
- 第4回 同上：プラトン哲学
- 第5回 同上：同上
- 第6回 同上：同上
- 第7回 同上：同上
- 第8回 同上：アリストテレス哲学
- 第9回 同上：同上
- 第10回 同上：ヘレニズム・ローマ時代の哲学、特にプロティノス哲学
- 第11回 同上：同上
- 第12回 同上：中世哲学史概観、アウグスティヌス哲学
- 第13回 同上：アウグスティヌス哲学
- 第14回 同上：同上
- 第15回 同上：同上、まとめ

6. 留意事項

講義コード	22543201			
科目名	朝鮮文化論			
担当者	金 真須美			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『羅聖の空』 金真須美 著 草風館			
参考文献				
備考	〈旧〉225064 朝鮮文学講読			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

韓半島と日本は、古来から親しい関係にあった。又、京都には渡来人ゆかりの場も多い。似ていて異なる国、最も新しい国を、過去の悲劇にとらわれず、KPOPや韓流ブームを扉にして、文学を通じ、学ぶ事で、深い相互理解を育成する。美術や伝統舞、神話等、他方面からも文学を学習する。現役作家の講師として、文学創作秘話等も交え、真の国際交流を旨とする。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) 朝鮮文学を学ぶための基礎知識の修得
- 2) 朝鮮文学と近現代史
- 3) 在日文学人の認識

3. 教育・学習の方法

- 1) 発表
- 2) ディスカッション
- 3) レポート提出 テキスト『羅聖の空』 その他、配布プリントは毎回多数の本から用意します。

・準備学習の具体的な方法

現代に人気のある韓流ドラマ、KPOP、映画等を通じ、日韓文化の比較、又その根底となったコリアン文学の本質を学ぶ。又、希望者には現役作家の立場から、小説の書き方、創作方法等も講義し、コリアン文学のみならず小説も一作仕上げるよう指導する。広い観点から文学を研究し、時にコリアゆかりの歴史博物館等へも出かける。

4. 評価方法・評価基準

- (評価)
- 1) 授業参加度 50点
 - 2) 平常点 20点
 - 3) レポート 30点
- (成績)
- 1) レポート 50%
 - 2) 授業参加 50%

5. 授業予定

- 第1回 序論 朝鮮文学とは（配布冊子あり）「京都と韓国の交流の歴史」
- 第2回 日本文化の中の朝鮮文学（プリントあり）
- 第3回 朝鮮の神話と伝説（プリントあり）
- 第4回 韓国、近い者の旅（プリントあり）
- 第5回 分断と対立を越えて（近現代史）（配布プリントあり）
- 第6回 韓国現代作家（プリントあり）
- 第7回 在日文学について（プリントあり）
- 第8回 心で知る韓国文学（プリントあり）
- 第9回 在日女流作家を読む（プリントあり）
- 第10回 キリスト同信会の朝鮮伝道（プリントあり）
- 第11回 キリスト教と韓国の詩人（プリントあり）
- 第12回 近くて近いコリアン文学（プリントあり）
- 第13回 韓国伝統美術と文学の関係（プリントあり）
- 第14回 韓国文学と日本文学の関係（プリントあり）
- 第15回 まとめと試験

6. 留意事項

講義コード	22543301			
科目名	キリスト教とラテン語Ⅰ 学ぼう、ラテン語。味読しよう、グレゴリア聖歌。			
担当者	山口 雅広			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『ラテン語初歩 改訂版』 田中利光 岩波書店 2002 以上の「テキスト」は各自、入手の上、授業時には毎回持参してください。			
参考文献	『Novum Testamentum Latine』 Kurt Asand and Barbara Aland (eds.) American Bible Society 1984 『新約聖書 原文校訂による口語訳』 フランシスコ会聖書研究所 (訳注) サンパウロ 2012 『はじめてのラテン語』 大西英文 講談社現代新書 1353 1997 『羅和辞典 改訂版』 水谷智洋 (編) 研究社 2009 『グレゴリオ聖歌選集』 十枝正子 (編著) サンパウロ 2004			
備考	<旧>225421 初歩のラテン語Ⅰ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

「アヴェ・マリア」や「グローリア」、それに「マニフィカト」の歌詞を、必ずしも既訳に頼らないで、自分自身の力で味わいながら読み、訳してみませんか。

本講では、以上の代表的なグレゴリア聖歌の歌詞を味読することもできるようなラテン語力の習得を目指し、ラテン語の基本文法を学びます。

2. 教育・学習の個別課題

1. ラテン語の名詞や動詞の特徴の学習
2. 代表的なグレゴリア聖歌の歌詞とその聖書の背景の学習

3. 教育・学習の方法

基本的には「テキスト」の構成に従い、パワーポイントを用いて授業を進めていきます。

・準備学習の具体的な方法

授業では毎回、「テキスト」の各章の練習問題を中心に、課題を出します。予習を求めることはありませんが、以上の課題と復習は、毎回、しっかりやってきてください。

4. 評価方法・評価基準

1. 授業の課題 (60%) と定期試験 (40%) にもとづいて総合的に評価します。
2. 総授業回数の 1/3 以上無断欠席した場合、あるいは出席は十分であっても、決められた課題をせずに授業に臨んでいることが多々ある場合、定期試験を受ける資格を失います。

5. 授業予定

第1回 【イントロダクション】ラテン語とキリスト教の関係

【ラテン語】ラテン語の文字と発音

【ラテン語】音節とアクセント

第2回 【ラテン語】動詞活用 現在直説法能動相 第一、第二活用

第3回 【ラテン語】名詞活用 第一活用

第4回 【ラテン語】動詞活用 現在直説法能動相 第三、第四、第五活用

第5回 【ラテン語のまとめ】動詞活用 現在直説法能動相

【キリスト教】グレゴリア聖歌の基礎知識

第6回 【ラテン語】名詞 第二活用 (1)

第7回 【ラテン語】形容詞活用 第一、第二活用 (1)

第8回 【ラテン語】未完了過去直説法能動相

第9回 【ラテン語】名詞 第二活用 (2)

第10回 【ラテン語】形容詞 第一、第二活用 (2)

第11回 【ラテン語のまとめ】名詞・形容詞 第一、第二活用

第12回 【ラテン語】未来直説法能動相

【ラテン語】前置詞

【ラテン語】所格

【ラテン語】eo

第13回 【キリスト教】「アヴェ・マリア」

第14回 【ラテン語】不定詞 (現在能動相)

【ラテン語】sum, possum

第15回 【ラテン語のまとめ】未完了過去直説法能動相、未来直説法能動相

6. 留意事項

質問は、授業中または授業後に教室で受け付けます。

講義コード	22543401			
科目名	キリスト教とラテン語Ⅱ 学ぼう、ラテン語。味読しよう、グレゴリア聖歌。			
担当者	山口 雅広			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『ラテン語初歩 改訂版』 田中利光 岩波書店 2002 以上の「テキスト」は各自、入手の上、授業時には毎回持参してください。			
参考文献	『Novum Testamentum Latine』 Kurt Asand and Barbara Aland (eds.) American Bible Society 1984 『新約聖書 原文校訂による口語訳』 フランシスコ会聖書研究所 (訳注) サンパウロ 2012 『はじめてのラテン語』 大西英文 講談社現代新書 1353 1997 『羅和辞典 改訂版』 水谷智洋 (編) 研究社 2009 『グレゴリオ聖歌選集』 十枝正子 (編著) サンパウロ 2004			
備考	<旧>225422 初歩のラテン語Ⅱ 「キリスト教とラテン語Ⅰ」を履修済み又はそれと同程度のラテン語学力を有すること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

前期に引き続き、代表的なグレゴリア聖歌の歌詞を味読することもできるようなラテン語力の習得を目指し、ラテン語の基本文法を学びます。

2. 教育・学習の個別課題

1. ラテン語の名詞や動詞の特徴の学習
2. 代表的なグレゴリア聖歌の歌詞とその聖書の背景の学習

3. 教育・学習の方法

基本的には「テキスト」の構成に従い、パワーポイントを用いて授業を進めていきます。

・準備学習の具体的な方法

授業では毎回、「テキスト」の各章の練習問題を中心に、課題を出します。予習を求めることはありませんが、以上の課題と復習は、毎回、しっかりやってきてください。

4. 評価方法・評価基準

1. 授業の課題 (60%) と定期試験 (40%) にもとづいて総合的に評価します。
2. 総授業回数の 1/3 以上無断欠席した場合、あるいは出席は十分であっても、決められた課題をせずに授業に臨んでいることが多々ある場合、定期試験を受ける資格を失います。

5. 授業予定

第1回 【ラテン語】「キリスト教とラテン語Ⅰ」の復習 名詞と動詞を中心に

第2回 【ラテン語】名詞 第三活用 (1)

【ラテン語】形容詞 第三活用 (1)

第3回 【ラテン語】完了直説法能動相

第4回 【ラテン語】過去完了および未来完了直説法能動相

第5回 【ラテン語】名詞 第三活用 (2)

第6回 【ラテン語】現在、未完了過去および未来の直説法受動相

第7回 【ラテン語】名詞 第三活用 (3)

第8回 【ラテン語】形容詞 第三活用 (2)

第9回 【ラテン語】完了、過去完了および未来完了の直説法受動相

第10回 【ラテン語】動詞の主要部分

【ラテン語】volo, nolo, malo

【ラテン語】名詞 第四、第五活用

【ラテン語】能相欠如動詞

【ラテン語】fio, fero

第11回 【ラテン語】疑問代名詞および不定代名詞

【ラテン語】指示代名詞および限定代名詞

第12回 【キリスト教】「マニフィカト」(1)

第13回 【キリスト教】「マニフィカト」(2)、「グローリア」(1)

第14回 【キリスト教】「グローリア」(2)

第15回 【ラテン語のまとめ】名詞・形容詞 第三活用

【ラテン語のまとめ】動詞 完了、過去完了および未来完了 直説法能動相

6. 留意事項

質問は、授業中または授業後に教室で受け付けます。

講義コード	22543501			
科目名	音楽文化概論 作曲家で迎える時代と音楽文化			
担当者	久野 将健			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『学生のための音楽史と鑑賞』 教育芸術社 2011年 適宜プリントを配布する。			
参考文献	『新西洋音楽史 上中下』 グラウト／パリスカ 音楽之友社 1998年 『詳説総合音楽史年表』 皆川達夫／倉田喜弘監修 教育芸術社 2003年 適宜授業中に紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

音楽は時代の風潮や思想から大きな影響を受けています。それぞれの音楽がどのような特徴を持ち変遷していったのか、大作曲家の生涯を辿りながら考えていきたいと思います。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) 西洋の歴史・文化に興味を持ち、理解に努める。
- 2) 音楽を静かに鑑賞し、味わう。
- 3) 学んだことや感じとったことを適切に文章化する。

3. 教育・学習の方法

1. 授業実施方法

講義。レポートを課すことがある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目を通しておく。

3. 使用教材 テキスト、プリント、CD、DVD等。

・準備学習の具体的な方法

予習箇所を指定するので予め読んでおいてほしい。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加度（30点）、定期試験（50点）、レポート（20点）に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 はじめのあたって
- 第2回 J.S.バッハ①
- 第3回 J.S.バッハ②
- 第4回 ヘンデル
- 第5回 モーツァルト①
- 第6回 モーツァルト②
- 第7回 ベートーヴェン①
- 第8回 ベートーヴェン②
- 第9回 ベートーヴェン③
- 第10回 ブルックナー
- 第11回 ショパン
- 第12回 ワグナー
- 第13回 ドビュッシー
- 第14回 ラヴェル
- 第15回 メシアン

6. 留意事項

講義コード	22543601			
科目名	歌曲論 詩と音楽の関連性を探る			
担当者	久野 将健			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『フランス歌曲とドイツ歌曲』 エヴラン・ルテール 白水社			
参考文献	『賛美、それは沈黙のあふれ』 新垣壬敏 教文館 2001年 『フォーレとその歌曲』 河本喜介 音楽之友社 1990年			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

この授業では歌詞（言葉）と音楽の関わりに重点を置き、日本、フランス、ドイツ歌曲の中からいくつかを選び考察する。それぞれの楽曲に込められた思い（感情）を理解し、感じ取ってほしい。なお楽譜や歌詞はプリントで配布する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 言葉と旋律
2. 音楽と感性
3. 歌詞とそのころ

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法・・・①CD等で楽曲の演奏を聴く。②歌詞の意味を調べる。③歌詞と旋律がいかに対応しているかを考える。
2. 学習方法・・・①音楽の時代様式を理解する。②国によっての相違点を調べる。③理解したことを言葉にして発表する。

・準備学習の具体的な方法

外国語の歌詞の場合はあらかじめ意味を調べておくことが望ましい。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加度（30点）、定期試験（50点）、レポート（20点）に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 詩と音楽について概説
- 第2回 山田耕筰「この道」
- 第3回 山田耕筰「からたちの花」①
- 第4回 山田耕筰「からたちの花」②
- 第5回 信時潔「丹沢」
- 第6回 モーツァルト「すみれ」①
- 第7回 モーツァルト「すみれ」②
- 第8回 モーツァルト「寂しい森で」
- 第9回 シューベルト「冬の旅」より①
- 第10回 シューベルト「冬の旅」より②
- 第11回 シューベルト「冬の旅」より③
- 第12回 シューベルト「冬の旅」より④
- 第13回 フォーレ「リディア」
- 第14回 フォーレ「夢のあとで」
- 第15回 フォーレ「月の光」

6. 留意事項

講義コード	22543701			
科目名	典礼音楽特講 グレゴリオ聖歌の世界			
担当者	久野 将健			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『グレゴリオ聖歌選集』 十枝正子編著 サンパウロ 2004年			
参考文献	『グレゴリオ聖歌』 水嶋良雄 音楽之友社 『グレゴリオ聖歌入門』 ドム・ダニエル・ソルニエ サンパウロ 2008年			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

グレゴリオ聖歌は西洋音楽の源であり、その後の音楽発展の基礎ともなっている音楽です。この授業ではグレゴリオ聖歌の起源、変遷からネウマ譜の読み方、ラテン語での歌い方を学びます。初心者でもグレゴリオ聖歌に関心があれば大丈夫です。

2. 教育・学習の個別課題

1. グレゴリオ聖歌の楽譜 2. グレゴリオ聖歌のリズム 3. ラテン語の発音

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法・・・①テキスト掲載の楽譜をもとに音程を確認する。②ラテン語の歌詞の発音と意味を考える。

2. 学習方法・・・①CDを聴いてみる。②実際に歌ってみる。

・準備学習の具体的な方法

次回に学ぶ聖歌を指定しておくので、歌詞の発音や音程などを予習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加度（30点）、レポート（70点）に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 グレゴリオ聖歌について
- 第2回 ネウマ譜の読み方、基本的なラテン語の読み方
- 第3回 グレゴリオ聖歌理論の基礎
- 第4回 ミサ通常唱 キリアーレ<シンプレクスI>
- 第5回 ミサ通常唱 キリアーレ<シンプレクスII>
- 第6回 聖母賛歌 アヴェ マリア
- 第7回 聖母賛歌 サルヴェ レジナ
- 第8回 季節の聖歌 聖霊降臨
- 第9回 季節の聖歌 待降節
- 第10回 季節の聖歌 降誕節
- 第11回 ミサ固有唱 入祭唱
- 第12回 ミサ固有唱 アレルヤ唱
- 第13回 ミサ固有唱 奉納唱
- 第14回 ミサ固有唱 拝領唱
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22900501			
科目名	専門演習Ⅰ 出版と情報文化ゼミ			
担当者	鎌田 均			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	テキスト なし			
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

出版、活字文化、そして、それと密接に関わってきた図書館は長い歴史を経て発展してきたが、現在の情報化社会においてそれらは大きく変わりつつある。このゼミでは、出版、図書館を含むが、それに捉われない、情報というものをテーマの一つとして、情報を探す、利用する、保存する、発信する、また提供する、といった点における様々な問題や過去から現在への流れについて、考える。さらにグローバル化社会における情報にかかわる諸問題、また文化と情報との関係、文化を発信する力といった面もとりあげる。そして、書物などの、過去から現在に至る多様な資料を読みとって、なにかを発見したり、検証する能力を身につける。

2. 教育・学習の個別課題

1. 出版、情報の歴史、諸問題について理解を深める。
2. 情報を探索し、分析、または繋げて行くことで研究テーマを見つける。
3. 調査、研究、論文、プレゼンテーション等での発表の方法を習得する。

3. 教育・学習の方法

受講者全員がその日に学ぶ部分のテキストや論文を読んできたことを前提に、ディスカッションを実施し、内容に関する議論・分析を行う。授業の内容によっては、各自が発表を行う。

・準備学習の具体的な方法

テキストの事前に指定した箇所、および配布資料を読んで理解し、疑問点をまとめる。調査、情報収集が必要な課題については、図書館、インターネット等で調べてくる。

4. 評価方法・評価基準

授業参加（40%）、授業ごとの諸課題のレポート、クラス発表などによる評価（60%）の総合点で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス（ゼミの進め方、各自の興味のあるテーマについてなど）
- 第2回 情報の見方1
- 第3回 情報の見方2
- 第4回 情報の見方3
- 第5回 情報の見方4
- 第6回 情報の見方5
- 第7回 情報の見方6
- 第8回 研究テーマの探求：情報から何を読み取るか
- 第9回 研究テーマ探求のための情報収集
- 第10回 調査、研究方法
- 第11回 論文の構成と各項目の役割
- 第12回 各自の興味あるテーマに関しての発表(1)
- 第13回 各自の興味あるテーマに関しての発表(2)
- 第14回 各自の興味あるテーマに関しての発表(3)
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22900502			
科目名	専門演習Ⅰ 日本語と古典の文化			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	プリントを配布する			
参考文献	授業や個別指導の際に指示する			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> このゼミでは、日本語学と日本古典文学をあつかう。受講者の関心領域を中心に、さまざまな文献の読み方、調べ方について演習を行う。後期の「専門演習Ⅱ」で、卒業研究のよいテーマが見つげられるよう、広く、時に深く、さまざまな視点から文献を読み進めたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 日本古典文学の読み方、研究のしかたを学ぶ
2. 日本語学の研究法を学ぶ
3. 日本の祭祀や民間信仰に関する研究に触れる
4. 情報検索のしかた、参考文献の探し方を学ぶ
5. 仮テーマを設定し、口頭発表を行い、レポートを作成する
6. 何らかのテーマを決め、古典文学ゆかりの地にフィールドワークに出かける。

3. 教育・学習の方法

1. 講義と文献講読を中心に授業を進める
2. 受講生の関心領域に関する口頭発表を行う
3. 先輩の論文や他大学の卒業論文を読む
4. 文献の調べ方について、図書館ツアーを実施する

・準備学習の具体的な方法

1. 事前に指示された調査課題・発表課題の準備をしておくこと
2. 授業で配布された文献を事前に読んでおくこと
3. 文献調査や情報収集を行い、口頭発表を行うこと

4. 評価方法・評価基準

授業参加度の評点40%、発表やレポートの成績60%で評価を行う。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. 授業予定

- 第1回 導入授業 一よい卒業論文とは
- 第2回 古典籍を調べる参考書 一国書総目録、古事類苑、広文庫
- 第3回 古語や漢字を調べる参考書 一日本国語大辞典、類聚名義抄、大漢和辞典、康熙字典
- 第4回 記紀神話を読む
- 第5回 万葉集・古今集・新古今集を読み比べる
- 第6回 勅撰和歌集と家集を読む一国歌大観、八代集抄
- 第7回 伊勢物語・大和物語を読む
- 第8回 平家物語を読む
- 第9回 今昔物語集を読む
- 第10回 枕草子を読む
- 第11回 卒論仮テーマを決定する
- 第12回 仮テーマにもとづく調査発表
- 第13回 仮テーマにもとづく調査発表
- 第14回 フィールドワーク (実施回未定)
- 第15回 総括 (レポート提出)

6. 留意事項

講義コード	22900503			
科目名	専門演習 I			
担当者	岩崎 れい			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	授業中に紹介する。			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 子どもについて、メディアや文化や教育の側面から考察する。具体的なテーマとしては、子どもの読書の意義、子どもの学習における情報利用、図書館と表現の自由、育児における「おはなし」の重要性、ハンディキャップのある子どもへの文化的側面からの支援、口承文化としての昔話・伝説の魅力と特徴、現代教育における課題と展望、テレビゲームやインターネットなど現代的なメディアと子どもとの関係など、さまざまな切り口が考えられるので、学生は自分の研究課題を見つけ、そのテーマを掘り下げて、最終的に卒業論文として仕上げることになる。

2. 教育・学習の個別課題

1. 各自が関心のあるテーマを探し、それについて学ぶと同時に、研究対象とするために明確な問題意識を持つ。
2. 卒業論文執筆のプロセスを学び、その方法を身につける。
 - 1) 卒業論文の作成プロセスを学ぶと共に、文献探索法を身につける。
 - 2) 各自の研究テーマに基づき、研究計画を立てる。

3) 各自のテーマに沿って、調査・研究を進める中で、情報の収集だけでなく、その選択・利用の方法を学ぶ。

3. 教育・学習の方法

1. この科目は、自分の「問い」を見つけ、卒業論文に結実させていくための準備をする大切な役割をもつ。
2. 子どもの文化、といっても幅が広いので、具体的な内容は受講生の関心に合わせて調整する。
3. 文献を読んだり、現場を見学したりすることで、テーマに関する基本的な知識や現状、他者の考え方を把握する。
4. 3をもとに、ゼミの中で討論することで、他の学生の考え方を知り、自分の考察を深めていく。

・準備学習の具体的な方法

1. 文献読解では担当する文献を事前に読み、その要約に考察を加えたレジュメを作成する。
2. フィールドワークには必ず参加し、座学では得られない学習成果をあげられるようにつとめる。
3. 卒業論文の準備では、各自学びたい自分のためのテーマを積極的に探し、常にそのテーマを探求するようつとめる。

4. 評価方法・評価基準

討論などへの参加・課題報告の準備・内容についての理解・提出物 70%、授業参加 30%とし、総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 論文執筆のプロセス
- 第3回 卒業論文テーマの探し方
- 第4回 卒論のための図書館利用と文献探索の基礎
- 第5回 テーマ探索のための解説と討議
- 第6回 テーマ (1) 解説
- 第7回 テーマ (2) 解説
- 第8回 テーマ (3) 解説
- 第9回 卒論のための図書館利用と文献探索の応用 (1)
- 第10回 卒論テーマ探しのプロセス発表 (ゼミ発表)
- 第11回 文献読解と発表
- 第12回 フィールドワーク (1)
- 第13回 文献読解と発表
- 第14回 研究方法の模索 (ゼミ発表)
- 第15回 夏休みに向けての課題 (ゼミ発表)

6. 留意事項

講義コード	22900504			
科目名	専門演習 I			
担当者	長沼 光彦			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	『読むための理論』 石原千秋・他 世織書房 『岩波講座文学』 小森陽一・他 岩波書店 『限界芸術論』 鶴見俊輔 筑摩書房 『映像の原則』 富野由悠季 キネマ旬報社 『フィールドワーク』 佐藤郁哉 新曜社			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 表現文化研究は、自分の興味の方により、作家論、物語の構造論、同時代の文化との比較、異文化との比較研究など、様々な研究方法がある。また、文化研究にも多様な方法があり、各自の興味にしたがい、題材や研究方法を選ぶことができる。

ただし、他の人に耳を傾けてもらうためには、共通の理解をふまえた手続きが必要だ。意見を述べるには、その手続きを学ばなければならない。口頭発表や話し合いを通じて、研究方法の習得、実践を行い、意見をまとめる力を身につけよう。

2. 教育・学習の個別課題

・文学表現など文化研究を志す者が意見をまとめるための、研究方法を習

得する。

- ・既存の研究論文などを参照し、意見の述べ方や、考えをまとめる方法を学ぶ。
- ・参考文献や資料を調べながら、文献収集の方法や整理の仕方を学ぶ。
- ・口頭発表を通じて、意見のまとめ方を実習する。
- ・発表をもとに討議を行い、相手の意見を理解し応答する力を養う。

3. 教育・学習の方法

- ・プリントなどにより表現・文化研究の方法を学ぶ。
- ・参加者は全員、研究方法をふまえ発表をする。
- ・図書館などを利用し資料収集を実践する。
- ・フィールドワークを通じて観察力を養う。
- ・レジュメにまとめ発表し、プレゼンテーション能力を養う。
- ・討議を通じてコミュニケーション能力を養う。
- ・レポート作成を通じて、文章表現力を養う。
- ・準備学習の具体的な方法
- ・発表の題材となる作品をあらかじめ読むなどして、発表者に対し自分の意見を提示できるように考えをまとめておく。
- ・関連の参考文献を積極的に読み知識を広げ、自分の発表の準備をしておく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加（30%）、ゼミでの発言内容（20%）、ゼミ発表およびレポート（50%）により行う。研究方法を学ぶための過程であり、ゼミでの質疑応答を通じてコミュニケーション能力を養うことも目標となるため、出席することを重視する。

5. 授業予定

- 第1回 ゼミの概説
- 第2回 表現研究の方法論について
- 第3回 文化研究の方法論について
- 第4回 資料収集の実践（図書館利用）
- 第5回 フィールドワーク入門
- 第6回 ゼミ発表（1）
- 第7回 ゼミ発表（2）
- 第8回 ゼミ発表（3）
- 第9回 ゼミ発表（4）
- 第10回 ゼミ発表（5）
- 第11回 ゼミ発表（6）
- 第12回 ゼミ発表（7）
- 第13回 フィールドワーク実践
- 第14回 フィールドワーク実践
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22900505			
科目名	専門演習 I 地域社会と国際交流ゼミ			
担当者	野田 四郎			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『論文の書き方』 花井 等・若松 篤 有斐閣アルマ 1999 『論文レポートの書き方と作文技法』 時事教育研究会 画文堂 2000 『論文・ゼミ論の書き方』 早稲田大学出版部編 早稲田大学出版部 2000 『卒業論文を書くテーマ設定と史料の扱い方』 歴史科学協議会編 山川出版社 1998			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

世界の様々な地域に目を向け、各ゼミ生の関心に応じて特定地域の社会・政治・文化・歴史・宗教などを採り上げる、言わば地域研究的アプローチ、あるいはそうした地域間の交流や比較に着目する比較社会・文化的

なアプローチにより、世界の多様性について理解を深める。専門演習 I（前期）では、自分が書きたい卒論のテーマは何かを見極めるため、幾つかのテーマについて発表をする過程で、テーマの絞り込みを行うのが「ねらい」である。

2. 教育・学習の個別課題

各ゼミ生が、4年次で卒業論文完成のため、自らの卒論テーマを絞り込むための作業を行います。

1. 方法論の説明：論文とは何か、どのように完成されていくのか、といった基本的な知識を学ぶ。
2. 各学生は、自らが本当に関心のあるテーマとは何かと言う視点から、その根拠を成す問題意識を深める。
3. 上記の問題意識から、4年次になって作成する卒論の大まかなテーマを絞り込む。

3. 教育・学習の方法

最初の5～6回は、以下の項目を扱う。

- 1) 授業の進め方について。
- 2) 論文とは何か、そして、どのようにして完成するのか。
- 3) 論文の主要な型（パターン）。
- 4) 図書館や情報演習室において、情報検索・収集の方法・手段を学ぶ。
- 5) 具体的な論文紹介。
- 6) 各ゼミ生による発表。
- 7) 毎回クラス討論を行う中で、テーマの修正や変更、あるいは新しい視点などを探求する。

・準備学習の具体的な方法

- ① 各自の関心や問題意識に基づき、図書館、インターネット並びに書店等において、どのような文献・資料があるか検索し、調べる。
- ② クラスにおける発表のため、それが自らの問題意識とどのように関わっているかを常に念頭におきながら、文献や資料の紹介のための準備をする。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業全体や討論への積極的参加並びに発表における準備度合い及び内容の充実度、そして発表報告書（レポート）を総合的に判断したうえで行う。具体的には、発表＝45%、積極的参加度合い＝25%、レポート＝30%として評価を行う。

5. 授業予定

- 第1回 ゼミの進め方を説明する。
- 第2回 論文とは何か、そしてどのように完成するのか。
- 第3回 論文の主な型（パターン）
- 第4回 図書館情報・資料検索オリエンテーション
- 第5回 具体的な論文の紹介
- 第6回 各ゼミ生による発表（クラス討論）
- 第7回 各ゼミ生による発表（クラス討論）
- 第8回 各ゼミ生による発表（クラス討論）
- 第9回 各ゼミ生による発表（クラス討論）
- 第10回 具体的な論文の紹介
- 第11回 各ゼミ生による発表（クラス討論）
- 第12回 各ゼミ生による発表（クラス討論）
- 第13回 各ゼミ生による発表（クラス討論）
- 第14回 具体的な論文の紹介
- 第15回 各ゼミ生による発表（クラス討論）

6. 留意事項

卒論は、4年次に書けばよいという安易な考えをもつ学生諸君がいます。実際には、4年次になると就職活動のため相当な時間をとられるので、3年のゼミで卒論の土台をしっかりと固める覚悟が必要です。

講義コード	22900506			
科目名	専門演習 I 芸術学ゼミ			
担当者	小川 光			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	特別なテキストは使用しないが、ゼミで資料を配布しテキストとすることがある。			
参考文献	ゼミで文献資料を適宜配布する。			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・

理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 専門教育科目で得られた知識を踏まえ、個々の担当教員の指導の下に、より高度な専門分野の研究法を習得する。したがって、受講生の興味と関心とによる、小人数のゼミ単位の授業となる。この科目を通して、卒業論文作成の基礎知識を養成する。

2. 教育・学習の個別課題

研究の第一歩は、適切な研究テーマを見つけることから始まる。各人が研究していく上で特に興味のあるテーマを見つけ、それをまとめた発表を試みる。発表後、発表者の学生とゼミ生間で発表内容について互いに討議し、そのことで発表者だけでなく全員が、芸術・音楽作品への造詣を深めることを目指す。

3. 教育・学習の方法

少人数の演習(ゼミ)形式で、ゼミ生が主体の活発な討議を中心とする。

・準備学習の具体的な方法

発表予定者は、ゼミ担当教員と事前に内容とフォーマットに関して詳細に打ち合わせをする。他のゼミ生は、前週に知らされた発表内容について可能な限り調べておき、発表後にコメントができるようにする。

4. 評価方法・評価基準

評価は、学生一人ひとりの、諸芸術に対する理解度が試されるテーマごとの発表や研究の内容に対する成績評価80%、ゼミ時の質問に対する正答率や研究の進展の度合いへの評価を20%とする。また、一度の欠席により研究の進展が妨げられるので、毎回の出席は絶対条件。

5. 授業予定

- 第1回 ゼミナールというものの自体の説明
- 第2回 ゼミで芸術学を勉強することの意義の討論
- 第3回 1・2年次で履修した芸術学関係の授業で学んだ内容の再確認
- 第4回 ゼミ研究としての芸術学1
- 第5回 ゼミ研究としての芸術学2
- 第6回 ゼミ研究としての芸術学3
- 第7回 各人が研究していく上で興味のあるテーマについて話す
- 第8回 ゼミ発表1
- 第9回 ゼミ発表2
- 第10回 ゼミ発表3
- 第11回 ゼミ発表4
- 第12回 ゼミ発表5
- 第13回 発表全体の講評
- 第14回 ゼミ発表と卒業論文との関連づけの試み
- 第15回 前期ゼミまとめ

6. 留意事項

ゼミでは各人が積極的に自分の興味をもつテーマに関わることが重要である。研究の第一歩となる適切な研究テーマを見つけることも、自分は何が分らないのか、という当たり前のようなことが明確に分かってはじめて可能となる。それにはゼミ生各自が自律して、自己の知的興味に則って様々な知識を吸収しながらそれらを教養に結びつけ、大学での勉学全体を進めることが基本にして最重要である。

講義コード	22900507			
科目名	専門演習 I 話しことばゼミ			
担当者	平野 美保			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『レポート・論文・プレゼン スキルズ』 石坂春秋 くろしお出版 2003 その他、適宜プリントを配付します。			
参考文献	『音声言語指導大事典』 高橋俊三編 明治図書 1999 『日本語の発声レッスン』 川和孝 新水社 1981			
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、各人に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

話しことばについて概観し、話しことばに関する技能について振り返るこ

とを通して、自らの興味・関心を見つけ、卒業研究に向けての「問い」を考える。

2. 教育・学習の個別課題

(1) 話しことばに関する基礎知識を理解し深めるとともに、技能向上に努めることで、「話しことば」について考察し、卒業研究のテーマを考える。

(2) 研究方法の基礎を習得する。

3. 教育・学習の方法

- (1) 論文作成のための内容・方法の基礎を把握する。
- (2) 話しことばに関する文献をまとめ、発表し、全員で討議をする。
- (3) 発音練習等の話しことばに関する基礎練習をする。
- (4) 各人の興味・関心によるテーマについて発表し、ゼミで討議する。
- (5) 毎回、1週間の振り返り(アイデア・問い)、本日の目標、学習内容、意見・感想について記録する。
- (6) 職業現場での話し方を観察する(フィールドワーク)。

・準備学習の具体的な方法

・文献購読については、担当分について不明点や関連の内容を調べ、要約し、発表の準備をする。担当以外の受講生は読んでおく。

・各人の興味・関心のある仮テーマについて調査し、まとめ、発表の準備をする。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度30%、記録30%、発表の成績40%に基づいて、総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 論文作成方法の概要①: 論文の書式・構成、手順と準備
- 第3回 論文作成方法の概要②: テーマの考え方、アウトライン、資料・データの収集
- 第4回 図書館での資料の探し方
- 第5回 論文作成方法の概要③: 資料・データの整理、執筆・表記法、引用・参考のしかた
- 第6回 ゼミ発表: 話すこと(文献のまとめ、討議)
- 第7回 ゼミ発表: 話し合うこと(文献のまとめ、討議)
- 第8回 ゼミ発表: 朗読(文献のまとめ、討議)
- 第9回 ゼミ発表: 話しことば教育に関する歴史(文献のまとめ、討議)
- 第10回 ゼミ発表: 話しことばに関する報告(文献のまとめ、討議)
- 第11回 ゼミ発表: 話しことばに関する報告(文献のまとめ、討議)
- 第12回 ゼミ発表(各人関心のあるテーマ)
- 第13回 ゼミ発表(各人関心のあるテーマ)
- 第14回 フィールドワーク: サービス業等の現場(実施回未定)
- 第15回 総括、各人の研究計画発表

6. 留意事項

講義コード	22900508			
科目名	専門演習 I 漢字と多文化交流 ゼミ			
担当者	朱 鳳			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	適時にプリントを配布する。			
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

このクラスでは二つのねらいがある。

1. 日中両言語共通の漢字、語彙に関する基本知識を学ぶ。

2. 卒業論文をまとめるに必要な論文作成のいろはを身につける。

2. 教育・学習の個別課題

ゼミ生の卒業論文テーマによって、学習課題を微調整するが、主に次の課題を取り扱う。

1. 資料の探し方、論文作成に必要な文献リストの作り方。

2. 漢字文化圏で使われている漢字の比較。

- 日中の近代における翻訳語の誕生と翻訳語の共有について
- 現代社会における日中語彙交流を考察する。
- 近代中国と日本における宣教師の言語学習及び出版活動

3. 教育・学習の方法

- 文献、研究論文を読む。
- それぞれの興味のあるテーマを見つける。
- 自分のテーマに関する参考書を調べ、文献リストを作る。

・準備学習の具体的な方法

上記の作業を繰り返し行い、参考文献の調査方法、参考書、研究論文の読み方を覚えてもらう。また前期では発表も随時に行い、レジュメの作り方、図書の調べ方なども身につけてもらう。

4. 評価方法・評価基準

評価は授業参加30点、発表内容及び課題提出70点による総合評価である。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 漢字の東アジアへの伝播に関する論文を読む(1)
- 第3回 漢字の東アジアへの伝播に関する論文を読む(2)
- 第4回 レジュメ及び参考文献リストの作成方法
- 第5回 フィールドワーク(1)
- 第6回 発表(1)
- 第7回 図書館での論文作成資料の探し方
- 第8回 日本の漢字と中国の漢字に関する考察(1)
- 第9回 日本の漢字と中国の漢字に関する考察(2)
- 第10回 フィールドワーク(2)
- 第11回 発表(2)
- 第12回 日中の近代における翻訳語の誕生を考察する
- 第13回 日中の近代における翻訳語の共有に関する論文を読む(1)
- 第14回 論文の組み立てについて
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22900509			
科目名	専門演習Ⅰ キリスト教と文化			
担当者	中里 郁子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『新共同訳聖書旧約聖書統編付』 日本聖書協会			
参考文献	授業中に紹介する。			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 聖書の研究を通してキリスト教の思想と文化について理解を深めることを目的とする。イエス・キリストの愛と従順の生き方、神の国のメッセージ、イエスの語ったたとえ話、弟子たちの体験と信仰、信仰の共同体の発展などを、聖書の背景となる、ヘブライ世界及びギリシア・ローマ世界の歴史、地理、文化との関連において考察し、聖書における世界観、人間観、キリスト教思想とキリスト教文化の関連を研究する。

2. 教育・学習の個別課題

1 各自が卒業論文のテーマを見出すために、専門分野の知識を深め、研究方法を学ぶ。2 論文作成のための文献収集法を学び研究の計画を立てる。3 発表の仕方を学ぶ。

3. 教育・学習の方法

1 文化的背景を考慮しつつ聖書を解釈するためのさまざまな方法を読んで聖書のテキストを釈義する。2 聖書のテキストを基礎としてキリスト教の影響を受けつつ発展してきた人々の習慣、芸術、文学などを考察し、様々な文化へのキリスト教の影響を聖書との関連に基づいて研究し、発表する。

・準備学習の具体的な方法

1 聖書の読解では担当する箇所と参考文献を事前に読み、発表するためのレジュメを用意する。2 聖書と関連ある文化を人々の習慣、芸術、文学などの中から、各自の興味に応じて選び、聖書と関連付けながら考察

し、発表するための視覚資料や音声資料などを準備する。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度(30%)、発表・レポート(70%)に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 論文作成の方法(1)
- 第3回 論文作成の方法(2)
- 第4回 卒業論文のテーマの選び方
- 第5回 聖書と参考文献の読み方(1)
- 第6回 聖書と参考文献の読み方(2)
- 第7回 読解と発表および質疑
- 第8回 読解と発表および質疑
- 第9回 フィールドワーク
- 第10回 読解と発表および質疑
- 第11回 読解と発表および質疑
- 第12回 読解と発表および質疑
- 第13回 フィールドワーク
- 第14回 卒業論文テーマ選びの経過発表
- 第15回 I I (後期)に向けて

6. 留意事項

講義コード	22900510			
科目名	専門演習Ⅰ アラブと魔法の文化			
担当者	鷲見 朗子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

アラブと魔法の文化ゼミ(担当者:鷲見朗子)

1. このゼミでは大きく分けて2つの異なる分野を扱い、ゼミ生はいずれの分野からテーマを選んでよい。

1つ目はアラブ・中東・イスラームの分野で、それらについての文学、歴史、宗教、政治、女性学、社会学、芸術等を調査し、明らかにする。中東の映画作品を扱ってもよい。

2つ目は魔法を含めたファンタジーの分野で、この分野は時代、地域の枠にとらわれず、幅広いファンタジー作品を対象にする。ファンタジーとは、魔法を含む超自然的、幻想的、空想的事物をテーマやストーリーの主な要素におき、それらの不可思議さに作品の魅力求めたものを指す。

2. 各自が上の分野から卒業研究テーマを見つけるために、関心のある事柄について学術論文及び本を読む。

3. 論文を書くための基礎となる文献の探し方・読み方と論文の書き方や記述表現なども学んでいく。

2. 教育・学習の個別課題

1. アラブ・中東・イスラームの分野についての調査
2. ファンタジー分野についての調査
3. 文献調査・文献収集
4. 文献の読解・映画の分析
5. 論文の書き方

3. 教育・学習の方法

卒業研究テーマを選ぶために、テキストを含めたさまざまな作品や文献を読む。文献読解によって、知識を深めるとともに、学生が自分自身で問題提起を行い、論理的に主張を組み立て、まとめる力を培う。また、論文を作成するのに必要な文献収集法および発表に必要な発表資料の作り方や発表の仕方などのスキルも学んでいく。

・準備学習の具体的な方法

1. 課題作品・文献や自分の興味のあるテーマに関する文献を読む。
2. 読んだ作品・文献についてほかのゼミ生と意見交換を行う。

4. 評価方法・評価基準

授業参加態度 50%、発表・レポート 50%によって評価する。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 テーマの選び方
- 第3回 アラブ・中東・イスラーム
- 第4回 アラブ・中東・イスラーム
- 第5回 アラブ・中東・イスラーム
- 第6回 文献精読とパラフレーズ
- 第7回 ファンタジー
- 第8回 ファンタジー
- 第9回 ファンタジー
- 第10回 論文の書き方
- 第11回 文献調査法・文献収集法
- 第12回 発表の仕方、発表資料の作り方
- 第13回 アラブ・中東・イスラーム
- 第14回 ファンタジー
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22900511			
科目名	専門演習 I ネット社会の文化ゼミ			
担当者	吉田 智子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『いちばんやさしいネットワークの本』 五十嵐順子 著 技術評論社 2009			
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

ゼミ生全体の共通理解として、インターネットの発展の歴史とその設計思想の基礎となるネットワーク技術の基礎を学ぶ。その後、この技術でどのようなコミュニケーションシステムが形成されているかの理解を深める。

2. 教育・学習の個別課題

1. まず、ゼミ生全体の共通理解として、インターネットの発展の歴史とその設計思想を学び、テキストを使ってコンピュータや情報通信技術を学ぶ。これらの学習により、ネットの世界でのコミュニケーションシステムの理解を深める。

2. ゼミ生は、インターネットや情報システムなどを中心とした分野に関して、歴史や社会への影響という側面、教育や利用に関する側面などから、自分の興味あるテーマを見つける。

3. 各自、興味あるテーマの中から研究計画をたてて発表し、全員で討論を行う。

4. 同時に、論文を書くための文献検索、引用方法、論文独特の記述表現についても、配布する論文を読みながら、詳しく学ぶ。

3. 教育・学習の方法

受講者全員がその日に学ぶ部分のテキストや論文を読んできたことを前提に、ゼミナール方式での輪講を実施し、内容に関する議論・分析を行う。授業の内容によっては、各自がレジュメをレポートとして用意する必要がある。

・準備学習の具体的な方法

毎回の授業の対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加する。

4. 評価方法・評価基準

クラスの性格上、クラス活動に参加することが評価のひとつとなる。具体的には、次の通り。授業参加 (40%)、授業ごとの諸課題のレポート、クラス発表などによる評価 (60%) の総合点で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス (ゼミの進め方、各自の興味のあるテーマについてなど)
- 第2回 卒業研究のテーマの見つけ方についてや、論文作成の10の

ステップなど

- 第3回 テキスト1章 (ネットワークの捉え方を攻略しよう) の輪講
- 第4回 テキスト2章 (ネットワークを活用する「表舞台」の仕組み) の輪講と情報交換
- 第5回 テキスト3章 (パケットの送り方を制御する「両端」の仕組み) の輪講と情報交換
- 第6回 テキスト4章 (「中間」でパケットを運ぶ仕組み) の輪講と情報交換
- 第7回 テキスト5章 (パケットを運ぶ仕組み<データリンク編>) の前半の輪講と情報交換
- 第8回 テキスト5章の後半の輪講と情報交換
- 第9回 先行研究の収集に関して、図書館オリエンテーション
- 第10回 社会調査の実施に関してと統計資料の読み方
- 第11回 論文の構成と各項目の役割
- 第12回 各自の興味あるテーマに関する発表(1)
- 第13回 各自の興味あるテーマに関する発表(2)
- 第14回 各自の興味あるテーマに関する発表(3)
- 第15回 4回生の論文中間報告会への参加

6. 留意事項

学内および学外の研究会・活動への積極的な参加を希望する。

講義コード	22900512			
科目名	専門演習 I 美術史ゼミ—人間の体を表象する			
担当者	吉田 朋子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	適宜指示する。小池寿子『内臓の発見』(筑摩選書、2011年)、宮下規久朗『刺青とヌードの美術史—江戸から近代へ』(NHK ブックス、2008年)などを予定している。			
参考文献	適宜紹介する。			
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

このゼミでは、美術作品に表現された人間の体に関する様々な論考を輪読しながら、美術史の研究手法や論文の書き方を学ぶ。また、各自が卒論として掘り下げてみたいテーマを見つける。担当教員の専門は17世紀末~19世紀初頭の西洋美術史だが、卒論のテーマについてはなるべく希望に沿うように柔軟に対応する。

2. 教育・学習の個別課題

- 1. 専門的な文献を批判的に読む力を高める
- 2. 美術作品への様々なアプローチ方法を知る
- 3. 美術作品に関する情報収集能力を高める

3. 教育・学習の方法

- 1. 文献に関するレジュメ作成、発表、議論
- 2. 美術作品に関する情報を集めて、発表を行う

・準備学習の具体的な方法

- 1. 担当者はレジュメを作成し、ゼミ生への説明を考える。
- 2. 担当に当たっていない場合でも、文献を読み、疑問点や感じたことをまとめておく。
- 3. 日頃から、展覧会や寺社仏閣などで美術作品に触れる機会をつくる。
- 4. 卒論で扱ってみたいテーマについて気をつけて考えておく。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 50%、発表の成績 50%で評価を行う。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 文献講読 (1)
- 第3回 文献講読 (1)
- 第4回 文献講読 (1)
- 第5回 文献講読 (1)
- 第6回 文献講読 (1)
- 第7回 文献講読 (1)

- 第8回 文献講読 (1)
- 第9回 文献講読 (1)
- 第10回 文献講読 (1)
- 第11回 文献講読 (1)
- 第12回 受講者による作品紹介
- 第13回 フィールドワーク (実施回未定)
- 第14回 フィールドワーク (実施回未定)
- 第15回 まとめ～卒業論文の作成について～

6. 留意事項

講義コード	22900601			
科目名	専門演習Ⅱ 出版と情報文化ゼミ			
担当者	鎌田 均			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決まられるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

専門演習Ⅰの内容に基づいて、関連する分野で自分の興味のある研究テーマを見つけ、それを研究課題として完成させ、研究計画を作成する方法、研究を進めるに必要な技術を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 発表、ディスカッションを通して、各自が関心のあるテーマから論文として完成可能な課題を見つける。
2. 論文作成の手順、技術またそれに必要な調査、研究方法を習得する。

3. 教育・学習の方法

受講者全員が指示された事前学習を行ったことを前提に、ディスカッションを実施し、内容に関する議論・分析を行う。授業の内容によっては、各自が発表を行う。

・準備学習の具体的な方法

授業で指示した資料を読み、また授業で提示された課題について図書館、インターネット等を利用して事前に調べてくる。

4. 評価方法・評価基準

授業参加 (40%)、授業ごとの諸課題のレポート、クラス発表などによる評価 (60%) の総合点で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 テーマを研究課題にする
- 第2回 テーマを研究課題とするための調査、情報収集
- 第3回 課題の設定と解決方法：必要な調査、情報の同定
- 第4回 課題解決までのステップ：論文アウトライン
- 第5回 情報の入手、分析、課題解決への利用
- 第6回 課題の再確認：達成可能性のチェック
- 第7回 情報の利用、論文作成のルール
- 第8回 議論、論述の方法
- 第9回 実際の論文、論文報告から学ぶ
- 第10回 タスクマネジメント：作業、スケジュールの管理
- 第11回 各自の卒業研究に関する発表(1)
- 第12回 各自の卒業研究に関する発表(2)
- 第13回 各自の卒業研究に関する発表(3)
- 第14回 論文の序章の提出とディスカッション
- 第15回 まとめ (各自の卒業論文完成へのスケジュール管理についての確認)

6. 留意事項

講義コード	22900602			
科目名	専門演習Ⅱ 日本語と古典の文化			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	プリントを配布する			
参考文献	授業や個別指導の際に指示する			
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決まられるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> このゼミでは、日本語学と日本古典文学をあつかう。テキストにより、さまざまな文献の読み方、調べ方について演習を行う。前期「専門演習Ⅰ」で身につけた基礎知識をもとに、広く、時に深く、さまざまな視点から文献を読み、口頭発表を行い、討議を重ねて、早い時期に卒業研究のテーマを決定したい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 日本古典文学の読み方、研究のしかたを学ぶ
2. 日本語学の研究法を学ぶ
3. 情報検索のしかた、参考文献の探し方を学ぶ
4. 卒業研究のテーマを決定する
5. 古典文学ゆかりの地にフィールドワークに出かける

3. 教育・学習の方法

1. 卒業研究のテーマを決定し、口頭発表を行う
2. 先輩の論文や他大学の卒業論文を読んでみる
3. 情報検索のしかた、参考文献の探し方について、学習情報センターで実習を行う

4. 卒業研究テーマを決定し、関連する文献を調べ、レポートを書く

・準備学習の具体的な方法

1. 事前に指示された調査課題・発表課題の準備をしておくこと
2. 授業で配布された文献を事前に読んでくること

4. 評価方法・評価基準

授業態度の評点40%、発表やレポートの成績60%で評価を行う。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. 授業予定

- 第1回 導入授業 一夏休みの研究成果発表
- 第2回 日本語を分析する 一語彙論を中心に
- 第3回 方言研究の方法について学ぶ
- 第4回 源氏物語を読む
- 第5回 方丈記・徒然草を読む
- 第6回 謡曲を読み、観る
- 第7回 芭蕉を読む
- 第8回 蕪村・一茶を読む
- 第9回 雨月物語を読む
- 第10回 江戸時代のさまざまな文献を読む
- 第11回 卒業研究テーマにもとづく発表会
- 第12回 卒業研究テーマにもとづく発表会
- 第13回 卒業研究テーマにもとづく発表会
- 第14回 フィールドワーク (実施回未定)
- 第15回 総括 (卒業研究テーマに関するレポート提出)

6. 留意事項

講義コード	22900603			
科目名	専門演習Ⅱ 子どもの文化ゼミ			
担当者	岩崎 れい			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	授業中に紹介する。			
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 子どもについて、メディアや文化や教育の側面から考察する。具体的なテーマとしては、子どもの読書の意義、子どもの学習における情報利用、図書館と表現の自由、育児における「おはなし」の重要性、ハンディキャップのある子どもへの文化的側面からの支援、口承文化としての昔話・伝説の魅力と特徴、現代教育における課題と展望、テレビゲームやインターネットなど現代的なメディアと子どもとの関係、現代社会における子どもの遊びなど、さまざまな切り口が考えられるので、学生は自分の研究課題を見つけ、そのテーマを掘り下げて、最終的に卒業論文として仕上げることになる。

2. 教育・学習の個別課題

1. 各自のテーマについて明確な問題意識を持ち、そのテーマを多様な視点から考察する。

2. 卒業論文執筆のプロセスを学び、その方法を身につける。(専門演習Ⅰの1)～3)から続く。)

4) 研究テーマに関する知識を増やし、また、批判的思考を伴いながら、論文の目的に向かって内容を掘り下げていく。

5) 論文の内容を深めると共に、引用文献一覧・参考文献一覧の書き方など、論文作成の形式についても学ぶ。

3. 卒業論文のテーマを決め、その準備を進める。

3. 教育・学習の方法

1. この科目は、自分の「問い」を見つけ、卒業論文に結実させていくための準備をする大切な役割をもつ。

2. 各自が自分のテーマに取り組むと共に、他の受講生のテーマについても共に学び、考えていく。

3. 文献を読んだり、現場を見学したりすることで、テーマに関する知識を深め、それについて討論する力を育成する。

4. 3をもとに、自分の「問い」をさらに掘り下げていく。

・準備学習の具体的な方法

1. グループまたは個人で一つのテーマについて資料を集め、掘り下げて考察し、その結果を発表する。

2. フィールドワークには必ず参加し、座学では得られない学習成果をあげられるようにつとめる。

3. 卒業論文の準備では、各自学びたい自分のためのテーマを積極的に探し、常にそのテーマを探求するようつとめる。

4. 評価方法・評価基準

討論などへの参加・課題報告の準備・内容についての理解・提出物70%、授業参加30%とし、総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 前期及び夏休みの成果発表(ゼミ発表)
- 第2回 テーマについての合議
- 第3回 テーマ1についての講義・討論
- 第4回 テーマ2についての講義・討論
- 第5回 フィールドワーク(1)
- 第6回 テーマ3についての講義・討論
- 第7回 卒論のための図書館利用と文献探索の応用
- 第8回 卒論テーマの明確化と問いの探求(ゼミ発表)
- 第9回 テーマ1に関する発表・討論
- 第10回 テーマ2に関する発表・討論
- 第11回 テーマ3に関する発表・討論
- 第12回 フィールドワーク(2)
- 第13回 ゼミ発表及び研究方法についての討論
- 第14回 卒業研究に向けての情報の整理と利用
- 第15回 4年次に向けての準備

6. 留意事項

講義コード	22900604			
科目名	専門演習Ⅱ 日本の近代文学とまんが			
担当者	長沼 光彦			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	『小説の方法』 真銅正宏 萌書房			
	『詩のころを読む』 茨木のり子 岩波ジュニア新書			
	『京都府の歴史散歩』 山本四郎 山川出版社			
	『お気に入りをとじる：やさしい製本入門』 藤井敬子 日本放送出版協会			
	『反社会学講座』 パオロ・マッツァリーノ イースト・プレス			
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

「専門演習Ⅰ」では、表現研究や文化研究の様々な方法論を学び実践してきた。これをふまえ、「専門演習Ⅱ」では、自分の興味の方向を再度確認し、自分が大学でまとめてみようとする研究や制作の計画を立てていこう。意見をまとめるための手続きはすでに学んできたが、これは最低限の約束事である。

今度はむしろ、自分のしたいこと、すべきことを、将来の生活設計を含めて構想してみよう。人のしてきたことを手本とするよりも、自分のしたいことを形にした方が、おもしろい研究や制作になる。自分のしたいことを見つけるのはなかなか難しいが、そこで悩んだ方が、卒業論文や卒業制作をまとめるときの力になる。

2. 教育・学習の個別課題

- ・研究成果を卒業論文・制作をまとめる方法を、実践をとおして身につける。
- ・既存の研究方法を参照しながら、自分の課題にあったやり方を見つける。
- ・参考文献や資料を調べ、文献収集の方法や整理の仕方を実践する。
- ・口頭発表を通じて、意見や論のまとめ方を実践し応用していく。
- ・発表をもとに討議を行い、相手の意見を理解し応答する力を身につける。
- ・自分の目標を明確に決め、卒業論文や卒業制作とすべき題材や研究方法を選ぶ。

3. 教育・学習の方法

・参加者は全員、自分の選択した題材と方法に基づき発表する。

・他者の発表を参照し、自分の研究や制作に役立てる。

・目的に応じた、資料収集やフィールドワークを実践する。

・自分の発表に適したレジュメの形式を工夫する。

・相手の意見をくみ取りながら、自分の意見を提示する意識を高める。

・わかりやすく意図を伝える文章表現力を養う。

・準備学習の具体的な方法

・発表の題材となる作品をあらかじめ読むなどして、自身の研究や制作と比較しながら意見を提示できるように考えをまとめておく。

・関連の参考文献を積極的に読み知識を広げ、自身の研究や制作の幅を広げていく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加(30%)、ゼミでの発言内容(20%)、ゼミ発表およびレポート(50%)により行う。研究方法を学ぶための過程であり、ゼミでの質疑応答を通じてコミュニケーション能力を養うことも目標となるため、出席することを重視する。

5. 授業予定

- 第1回 卒業論文や卒業制作をまとめるための心構え
- 第2回 論文の構成法、制作のプレゼンテーションの方法
- 第3回 卒業論文、卒業制作に必要な準備
- 第4回 フィールドワーク実践
- 第5回 ゼミ発表(1)
- 第6回 ゼミ発表(2)
- 第7回 ゼミ発表(3)
- 第8回 ゼミ発表(4)
- 第9回 ゼミ発表(5)

- 第10回 ゼミ発表 (6)
- 第11回 ゼミ発表 (7)
- 第12回 フィールドワーク実践
- 第13回 卒論構想発表
- 第14回 卒論構想発表
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22900605			
科目名	専門演習Ⅱ 地域社会と国際交流ゼミ			
担当者	野田 四郎			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『論文の書き方』 花井 等・若松 篤 有斐閣アルマ 1999 『論文レポートの書き方と作文技法』 時事教育研究会 画文堂 2000 『論文・ゼミ論の書き方』 早稲田大学出版会編 早稲田大学出版部 2000 『卒業論文を書くテーマ設置と資料の扱い方』 歴史科学協議会編 山川出版社 1998			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

世界の様々な地域に目を向け、各ゼミ生の関心に応じて特定地域の社会・政治・文化・歴史・宗教などを採り上げる、言わば地域研究的アプローチ、あるいはそうした地域間の交流や比較に着目する比較社会・文化的なアプローチにより、世界の多様性について理解を深める。専門演習Ⅱ(後期)では、専門演習Ⅰで既に絞り込んだテーマから一つだけに絞り、卒論の大まかな構成・流れについて考えるのが「ねらい」である。

2. 教育・学習の個別課題

各ゼミ生が、4年次で卒業論文完成のため、自らの卒論題目を一つに絞り込むための作業を行います。

1. 前期の専門演習Ⅰを通して行った「自分探し」を踏まえて、大まかなテーマをより詳しく絞り込む。
2. 自らが選んだテーマについて卒論を作成するために、文献・資料の分析あるいはアンケート調査など、どのようなアプローチが適しているか検討する。
3. 章構成も含め、具体的な論文の流れについて構想を練り始める。

3. 教育・学習の方法

前期の専門演習Ⅰで、大まかなテーマはある程度決まっていることを前提として、

- 1) 各ゼミ生は、そのテーマに関する文献や資料について、自らの問題意識とどのように関連しているかを念頭に置きながら、発表をおこなう。
- 2) 発表を行う過程で受ける、他のゼミ生及び教員の意見・コメントをよく聴いて、論文構想を練り上げるために役立てる。従って、基本的に、後期の専門演習は、発表形式が中心となる。

・準備学習の具体的な方法

- ① 各自の関心や問題意識に基づき、図書館、インターネット並びに書店等において、どのような文献や資料があるか調べる。
- ② クラスにおける発表のため、場合によっては配布プリントの作成なども含めて、文献や資料を紹介するための準備をする。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業全体や討論への積極的参加並びに発表における準備度合い及び内容の充実度、そして発表報告書(レポート)を総合的に判断したうえで行う。具体的には、発表=4.5%、積極的参加度合い=2.5%、レポート=3.0%として評価を行う。

5. 授業予定

- 第1回 基本的なゼミ形式の説明。
ゼミ生による発表、そして他のゼミ生並びに教員を含めた討論とい

った演習形式により、後期の授業を組み立てる。

- 第2回 卒論作成に向けて、各ゼミ生によるテーマ探しにおける進捗状況を報告

発表日付並びに発表者の決定と確認

- 第3回 ゼミ生による発表(クラス討論)
- 第4回 ゼミ生による発表(クラス討論)
- 第5回 ゼミ生による発表(クラス討論)
- 第6回 ゼミ生による発表(クラス討論)
- 第7回 ゼミ生による発表(クラス討論)
- 第8回 ゼミ生による発表(クラス討論)
- 第9回 ゼミ生による発表(クラス討論)
- 第10回 ゼミ生による発表(クラス討論)
- 第11回 ゼミ生による発表(クラス討論)
- 第12回 ゼミ生による発表(クラス討論)
- 第13回 ゼミ生による発表(クラス討論)
- 第14回 ゼミ生による発表(クラス討論)

- 第15回 各自が選定した卒論テーマ(予定)の紹介と発表

6. 留意事項

卒論は、4年次に書けばよいという安易な考えをもつ学生諸君がいます。実際には、4年次になると就職活動のため相当な時間をとられるので、3年のゼミ、とりわけ後期までに、卒論の土台をしっかりと固めるようにしましょう。

講義コード	22900606			
科目名	専門演習Ⅱ 芸術学ゼミ			
担当者	小川 光			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	特別なテキストは使用しないが、ゼミで資料を配布しテキストとすることがある。			
参考文献	ゼミで文献資料を適宜配布する。			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 専門教育科目で得られた知識を踏まえ、個々の担当教員の指導の下に、より高度な専門分野の研究法を習得する。したがって、受講生の興味と関心とによる、小人数のゼミ単位の授業となる。この科目を通して、卒業論文作成の基礎知識を養成する。

2. 教育・学習の個別課題

前期では、各人が研究していく上で特に興味のあるテーマをまとめた発表の後、発表者の学生とゼミ生間での発表内容についての討議によって、ゼミ生全員が芸術・音楽作品への造詣を深めた。後期では、前期で発表し、その後展開させてきたものを、さらに発展させた発表を行い、各人で卒業論文のテーマに収斂させていく。

3. 教育・学習の方法

少人数の演習(ゼミ)形式で、ゼミ生が主体の活発な討議を中心とする。

・準備学習の具体的な方法

発表予定者は、ゼミ担当教員と事前に内容とフォーマットに関して詳細に打ち合わせをする。他のゼミ生は、前週に知らされた発表内容について可能な限り調べておき、発表後にコメントができるようにする。

4. 評価方法・評価基準

評価は、学生一人ひとりの、諸芸術に対する理解度が試されるテーマごとの発表や研究の内容に対する成績評価 80%、ゼミ時の質問に対する正答率や研究の進展の度合いへの評価を 20%とする。また、一度の欠席により研究の進展が妨げられるので、毎回の出席は絶対条件。

5. 授業予定

- 第1回 卒業論文の意義と作成の方法論1
- 第2回 卒業論文の意義と作成の方法論2
- 第3回 卒業論文の意義と作成の方法論3
- 第4回 前期発表と卒業論文の関連づけを話す1
- 第5回 前期発表と卒業論文の関連づけを話す2
- 第6回 芸術学を意識したゼミ発表1
- 第7回 芸術学を意識したゼミ発表2

- 第8回 芸術学を意識したゼミ発表3
- 第9回 芸術学を意識したゼミ発表4
- 第10回 芸術学を意識したゼミ発表5
- 第11回 卒業論文構想発表1
- 第12回 卒業論文構想発表2
- 第13回 卒業論文構想発表3
- 第14回 芸術学ゼミの1年を振り返るー芸術学研究再考
- 第15回 後期ゼミまとめ

6. 留意事項

ゼミでは各人が積極的に自分の興味をもつテーマに関わることが重要である。研究の第一歩となる適切な研究テーマを見つけることも、自分は何が分かっていないのか、という当たり前のようなことが明確に分かってはじめて可能となる。それにはゼミ生各自が自律して、自己の知的興味に則って様々な知識を吸収しながらそれらを教養に結びつけ、大学での勉学全体を進めることが基本にして最重要である。

講義コード	22900607			
科目名	専門演習Ⅱ 話しことばゼミ			
担当者	平野 美保			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	適宜プリントを配付します。			
参考文献	『レポート・論文・プレゼン スキルズ』 石坂春秋 くろしお出版 2003			
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標>人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、各人に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

- (1) 各人のテーマ決定に向けて、関連の内容を学習する。
- (2) 卒業論文作成のための方法を身につける。
- (3) 話しことばに関する技能向上に努めることによって、各人のテーマを深める。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 各人のテーマに関する知識を増やし、多様な視点から考察する。
- (2) 研究に必要な方法について実践的に取り組み、卒業研究に活かせるようにする。
- (3) 「話しことば」に関する技能を向上させる。

3. 教育・学習の方法

- (1) 卒業論文作成のための必要な知識を学ぶ。
- (2) 研究テーマ・内容・方法について理解を深めるために、各人の研究の内容について発表し、全員で討議する。
- (3) 発音練習等の話しことばに関する基礎練習をする。
- (4) 毎回、一週間の振り返り(アイデア・問い等)、本日の目標、学習内容、意見・感想について記録する。
- (5) 職業現場での話し方を観察する(フィールドワーク)。

・準備学習の具体的な方法

- ・各人の仮テーマについて調査し、まとめ、発表の準備をする。
- ・随時、課題をこなす。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度 30%、毎回の記録 30%、発表の成績 40%に基づいて、総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 夏休みの成果発表
- 第2回 卒業論文に必要な知識(受講生のテーマに合わせて実践的に行う)
- 第3回 卒業論文に必要な知識(受講生のテーマに合わせて実践的に行う)
- 第4回 卒業論文に必要な知識(受講生のテーマに合わせて実践的に行う)
- 第5回 ゼミ発表
- 第6回 ゼミ発表
- 第7回 ゼミ発表
- 第8回 ゼミ発表

- 第9回 ゼミ発表
- 第10回 ゼミ発表
- 第11回 ゼミ発表
- 第12回 卒業論文構想
- 第13回 卒業論文構想
- 第14回 フィールドワーク(実施回未定)
- 第15回 総括、今後の計画

6. 留意事項

講義コード	22900608			
科目名	専門演習Ⅱ 漢字と多文化交流ゼミ			
担当者	朱 鳳			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	適時にプリントを配布する。			
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

このクラスでは二つのねらいがある。

1. 日中両言語共通の漢字、語彙に関する基本知識を学ぶ。
2. 卒業論文をまとめるに必要な論文作成のいろはを身につける。

2. 教育・学習の個別課題

ゼミ生の卒業論文テーマによって、学習課題を微調整するが、主に次の課題を取り扱う。

1. 資料の探し方、論文作成に必要な文献リストの作り方。
2. 漢字文化圏で使われている漢字の比較。
3. 日中の近代における翻訳語の誕生と翻訳語の共有について
4. 現代社会における日中語彙交流を考察する。
5. 近代中国と日本における宣教師の言語学習及び出版活動

3. 教育・学習の方法

1. 参考書及び関連論文を読み、自分のテーマに関するレポートを提出し、授業で発表する。
2. クラス全員でお互い発表したテーマについて議論する。
3. 卒業論文のテーマを決める。

・準備学習の具体的な方法

発表と議論を通して、研究論文の構成及び書き方の基本を身につけること。後半では卒業論文の章立てを構成し、4年次の卒業論文作成の基礎をつくる。

4. 評価方法・評価基準

評価は授業参加 30点、発表内容及び課題提出 70点による総合評価である。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 日中の近代における翻訳語の共有に関する論文を読む(2)
- 第2回 現代中国語における日本語語彙に関する資料を読む(1)
- 第3回 現代中国語における日本語語彙に関する資料を読む(2)
- 第4回 卒業論文の構成について
- 第5回 発表(1)
- 第6回 日中共通語彙の将来について議論する(1)
- 第7回 日中共通語彙の将来について議論する(2)
- 第8回 フィールドワーク(1)
- 第9回 近代中国と日本における宣教師の言語学習に関する資料を読む(1)
- 第10回 近代中国と日本における宣教師の言語学習に関する資料を読む(2)
- 第11回 近代中国と日本における宣教師の出版活動に関する資料を読む(1)
- 第12回 近代中国と日本における宣教師の出版活動に関する資料を読む(2)
- 第13回 発表(2)
- 第14回 宣教師と漢字翻訳語の関わりについて考察する
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22900609			
科目名	専門演習Ⅱ キリスト教と文化			
担当者	中里 郁子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『新共同訳聖書旧約聖書続編付』 日本聖書協会			
参考文献	授業中に紹介する。			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 専門演習Ⅰ 参照

2. 教育・学習の個別課題

1 各自が卒業論文のテーマを見出すために、専門分野の知識を深め、研究方法を学ぶ。2 論文作成のための文献収集法を学び研究の計画を立てる。3 発表の仕方を学ぶ。

3. 教育・学習の方法

1 文化的背景を考慮しつつ聖書を解釈するためのさまざまな方法を学んで聖書のテキストを釈義する。2 聖書のテキストを基礎としてキリスト教の影響を受けつつ発展してきた人々の習慣、芸術、文学などを考察し、様々な文化へのキリスト教の影響を聖書との関連に基づいて研究し、発表する。

・準備学習の具体的な方法

1 聖書の読解では担当する箇所と参考文献を事前に読み、発表するためのレジュメを用意する。2 聖書と関連ある文化を人々の習慣、芸術、文学などの中から、各自の興味に応じて選び、聖書と関連付けながら考察し、発表するための視覚資料や音声資料などを準備する。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 (30%)、発表・レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 文献講読
- 第3回 文献講読
- 第4回 文献講読
- 第5回 読解と発表および質疑
- 第6回 読解と発表および質疑
- 第7回 フィールドワーク
- 第8回 読解と発表および質疑
- 第9回 読解と発表および質疑
- 第10回 読解と発表および質疑
- 第11回 読解と発表および質疑
- 第12回 読解と発表および質疑
- 第13回 フィールドワーク
- 第14回 卒業論文題目の決定と発表
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22900610			
科目名	専門演習Ⅱ アラブと魔法の文化			
担当者	鷲見 朗子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> アラブと魔法の文化ゼミ (担当者: 鷲見朗子)

「専門演習Ⅰ」で培った基本的知識と方法論を土台に、卒業研究テーマを絞っていく。アラブ・中東・イスラームの分野かファンタジーの分野から関心のある事柄について学術論文及び本を読み、その内容を報告・発表する。各発表では意見交換を行い、知識を共有することをめざす。また、それぞれにふさわしい方法論を選択し、それらに関する見解を深めていく。

2. 教育・学習の個別課題

1. テーマの選択
2. 発表の実践
3. 引用の仕方・参考文献の書き方

3. 教育・学習の方法

本授業では各自が選んだテーマにそって、関連文献を読み、それについて発表を行うことで、知識を深めるとともに卒業論文を書く準備を整える。論文作成に不可欠となる引用方法や参考文献の明記法もさらに実践を通して習得していく。

・準備学習の具体的な方法

選んだテーマに関連する文献を読んで、発表の準備をする。その際、発表資料も作成する。

4. 評価方法・評価基準

授業参加態度 50%、発表・レポート 50%によって評価する。

5. 授業予定

- 第1回 おおまかなテーマの発表
- 第2回 アラブ・中東・イスラーム分野の文献読解
- 第3回 アラブ・中東・イスラーム分野の文献読解
- 第4回 アラブ・中東・イスラーム分野の文献読解
- 第5回 ゼミ生による発表と討論
- 第6回 ゼミ生による発表と討論
- 第7回 ファンタジー分野の文献読解
- 第8回 ファンタジー分野の文献読解
- 第9回 ファンタジー分野の文献読解
- 第10回 ゼミ生による発表と討論
- 第11回 ゼミ生による発表と討論
- 第12回 引用の仕方
- 第13回 参考文献リストの作成
- 第14回 テーマまたは題目の確定と発表
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22900611			
科目名	専門演習Ⅱ ネット社会の文化ゼミ			
担当者	吉田 智子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『いちばんやさしいネットワークの本』 五十嵐順子 技術評論社 2009			
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

ゼミ生は、インターネットや情報システムなどを中心にした分野に関して、歴史や社会への普及という側面、教育方法に関する側面などから、自分の興味のある研究テーマを見つけて、研究計画の方法論を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

・各自、興味あるテーマの中から研究計画をたてて発表し、全員で討論を行う。

・同時に、論文を書くための文献検索、引用方法、論文独特の記述表現に

についても、配布する論文を読みながら、詳しく学ぶ。

3. 教育・学習の方法

受講者全員がその日に学ぶ部分のテキストや論文を読んできたことを前提に、ゼミナール方式での輪講を実施し、内容に関する議論・分析を行う。授業の内容によっては、各自がレジュメをレポートとして用意する必要がある。

・準備学習の具体的な方法

毎回の授業の対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加する。

4. 評価方法・評価基準

クラスの性格上、クラス活動に参加することが評価のひとつとなる。具体的には、次の通り。 授業参加 (40%)、授業ごとの諸課題のレポート、クラス発表などによる評価 (60%) の総合点で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 論文作成10のステップの実践(1)テーマの選択
- 第2回 論文作成10のステップの実践(2)事前調査
- 第3回 論文作成10のステップの実践(3)仮アウトライン
- 第4回 論文作成10のステップの実践(4)関連文献の調査
- 第5回 論文作成10のステップの実践(5)文献入手
- 第6回 論文作成10のステップの実践(6)文献の読解と整理
- 第7回 論文作成10のステップの実践(7)最終アウトライン
- 第8回 論文作成10のステップの実践(8)これまで進めてきたテーマで卒業研究を続ける場合は、「執筆・校正」の段階に進む。テーマを変更する場合は、(1)からもう一度、やり直す。
- 第9回 4回生の論文報告会への参加
- 第10回 各自の卒業研究に関する発表(1)
- 第11回 各自の卒業研究に関する発表(2)
- 第12回 各自の卒業研究に関する発表(3)
- 第13回 最新の各種白書からのデータの活用方法
- 第14回 各自の序章および1章の提出
- 第15回 総括 (各自の卒業論文完成へのスケジュール管理についての確認)

6. 留意事項

学内および学外の研究会・活動への積極的な参加を希望する。

講義コード	22900612			
科目名	専門演習Ⅱ 美術史ゼミ			
担当者	吉田 朋子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	『はじめての美術史』 マルシア・ポイントン 木下 哲夫訳 スカイデア 1995 『A Survival Guide for Art History Students』 Christina Maranci Prentice Hall 2004			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 1. 専門演習Ⅰで学んだ知識を実践しながら、調査研究を進める。2. 発表と討論の中で、自分の考えを明確にする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 調査・発表・討論を繰り返しながら、テーマの修正や絞込みを行っていく。2. 作品情報、参考文献の入手方法を学ぶ。3. 第三者に自分の考えを伝える訓練を行う。

3. 教育・学習の方法

1. 卒業研究仮テーマを決定し、口頭発表を行う。ゼミ仲間や教員との討論を通して、問題点を明確にし、テーマの修正や絞込みを行っていく。2. 情報検索のしかた、参考文献の探し方について指導する。3. 美術館などの施設で実作品を観察する機会をもつ。4. 卒業研究テーマをほぼ決定し、レポートを書いて提出する。

・準備学習の具体的な方法

1. 各自のテーマについて調査を行い、レジュメを作成する。必要に応じて、画像を用いたプレゼンテーション作成を指示する。2. 指示された調

査課題や文献について、発表レジュメを作成する。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度 50%、発表やレポートの成績 50% で評価を行う。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション 仮テーマ確認
- 第2回 仮テーマについて基礎的な調査の発表
- 第3回 ゼミ発表と討論
- 第4回 ゼミ発表と討論
- 第5回 ゼミ発表と討論
- 第6回 ゼミ発表と討論
- 第7回 ゼミ発表と討論
- 第8回 ゼミ発表と討論
- 第9回 ゼミ発表と討論
- 第10回 ゼミ発表と討論
- 第11回 ゼミ発表と討論
- 第12回 ゼミ発表と討論
- 第13回 フィールドワーク (実施未定)
- 第14回 フィールドワーク (実施未定)
- 第15回 総括、卒論仮テーマに関するレポート提出

6. 留意事項

講義コード	22901201			
科目名	発展演習Ⅰ 音楽の響きを読み解く			
担当者	小川 光			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『音楽と歴史と思想』 第7章「バッハ、ヘンデルにおけるバロック的、合理主義的特質」(p. 168~197)』 フーゴ・ライヒテントリット 音楽之友社 1971年			
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

4年次必修科目「卒業研究」、またその前段階である3年次のゼミ分属に向けて、2年次からは専門教育科目の履修が始まる。そして2年次専門教育の核となるのが、この「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる書物の講読を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについて考える。

2. 教育・学習の個別課題

『音楽と歴史と思想』のうち、第7章「バッハ、ヘンデルにおけるバロック的、合理主義的特質」を読むことを中心に、音楽とその歴史の本質を人間社会・文化活動の総和として考察する。

3. 教育・学習の方法

この授業はゼミ(演習)形式で行い、担当教員からの一方通行の授業では決してなく、受講生間での互いの議論も大いに推奨される。ヨーロッパ近代音楽の幕開けであるバロック音楽の本質を克明に究明し、随時、テキスト内容の例証として実際に音楽を聴く。その際に聴いた音楽の響きを再びテキスト内容とともに反芻して、この時代の音楽の本質、特質の理解を深める。

・準備学習の具体的な方法

- 1. 個々の受講生は、予備知識としてこのシラバスの「教育・学習の個別の課題」「授業一覧」に示される事項の意味などを、学術情報センター(図書館)で調べておくことが必須である。
- 2. そこで調べたことを通じて、この授業であつかう、バロック時代の前後の音楽史上の各時代とそれに関連する歴史・社会的背景の関連をしっかりと理解しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

発表内容や提出課題の成績、また試験結果を評価の基本とするが、出席状況や取りくむ姿勢をも重視する(欠席5回以上で、単位取得は困難となる)

5. 授業予定

- 第1回 ヨーロッパ近代精神史概観：Ⅰ 歴史・文化的背景
- 第2回 ヨーロッパ近代精神史概観：Ⅱ 政治体制的背景
- 第3回 ヨーロッパ近代精神史概観：Ⅲ まとめ
- 第4回 西洋音楽史概観：Ⅰ グレゴリオ聖歌からルネサンスまで
- 第5回 西洋音楽史概観：Ⅱ ルネサンスからバロックまで
- 第6回 バロックとは何か：ヨーロッパ近代精神史を発展的に学ぶ

- 第7回 近代合理主義の時代としてのバロック：ヨーロッパ近代精神史を発展的に学ぶ
 第8回 芸術の一時代としてのバロック：ヨーロッパ近代精神史を発展的に学ぶ
 第9回 バッハとヘンデルの音楽の特質と本質：I バロック時代のパラダイムの収斂として
 第10回 バッハとヘンデルの音楽の特質と本質：II まとめ
 第11回 古典派音楽におけるバッハとヘンデルの音楽の受容の意義
 第12回 ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの音楽
 第13回 ロマン派音楽におけるバッハとヘンデルの音楽の受容の意義
 第14回 メンデルスゾーン、シューマン、ショパンの音楽
 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22901202		
科目名	発展演習 I 情報リテラシー教育		
担当者	鎌田 均		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて授業を受けてもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

コンピュータ、情報テクノロジーを利用できる能力にとどまらない、情報を使いこなす全体的能力としての情報リテラシーについて学習する。「情報が必要ときに、それを認識し、必要な情報を効果的に見つけ出し、評価し、利用することができる能力」とも定義される情報リテラシーに求められる能力を、講義および授業中の各種アクティビティへの参加、レポートの作成を通して習得し、勉学、社会活動に応用できることを目指す。

3. 教育・学習の方法

情報リテラシーについて、レポートを作成することを通じて実践し、授業内でのディスカッションや各種アクティビティに参加することで能動的に学習する。

・準備学習の具体的な方法

前回の授業までに、次の授業の資料を配布するので、読んでおくこと。

4. 評価方法・評価基準

発表内容や提出課題の成績、また試験結果を評価の基本とするが、出席状況や取りくむ姿勢をも重視する(欠席5回以上で、単位取得は困難となる)。

5. 授業予定

- 第1回 演習内容及び課題のプレビュー
 第2回 情報リテラシーとはなにか
 第3回 解決すべき課題とそれに必要な情報とは
 第4回 情報を探索する方法(1)
 第5回 情報を探索する方法(2)
 (この日までにレポート課題(1)を提出)
 第6回 レポート課題(1)の講評とディスカッション
 第7回 情報からなにを読み取るか
 第8回 情報をどのように評価するか
 第9回 情報を課題解決にどのように使うか
 第10回 情報を利用する際の倫理とルール
 第11回 情報リテラシーと現代社会
 (この日までにレポート課題(2)を提出)
 第12回 レポート課題(2)の講評とディスカッション
 第13回 情報リテラシーの教育への導入
 第14回 情報、知識を発信するための技術
 第15回 演習のまとめ

6. 留意事項

講義コード	22901203		
科目名	発展演習 I 話し方を考える		
担当者	平野 美保		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	プリント配布		
参考文献	『話し方コミュニケーション』 竹山昭子 白桃書房 1995		
備考	必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

- ・話し方に関する知識を確認・理解すること
- ・考えや要点を整理し、文章にまとめること
- ・話し方に関する技能向上に努めることを通して、話すということを振り返ること
- ・自分の関心分野について考えること

3. 教育・学習の方法

主に、文献の輪読(音読・朗読)と話し方に関する演習の2つを柱とする。
 ・話し方に関する文献を読み進め、討議したり、要点や意見・感想を文章にまとめたりする。
 ・話し方に関連するさまざまな演習を行い、そこから感じたことなどについて討議したり、意見や感想を文章にまとめたりする。

・準備学習の具体的な方法

- ・担当分をあらかじめ読み、関連の内容や不明点を調べ、声に出して読む練習をし、考えをまとめておく。
- ・担当者以外は、読んでおく。

4. 評価方法・評価基準

発表内容や提出課題の成績、また試験結果を評価の基本とするが、出席状況や取りくむ姿勢をも重視する(欠席5回以上で、単位取得は困難となる)。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
 第2回 輪読(音読・朗読):話し方の基本
 第3回 輪読(音読・朗読):人間関係と話し方
 第4回 輪読(音読・朗読):聞き方の基本
 第5回 輪読(音読・朗読):インタビュー
 第6回 輪読(音読・朗読):説得
 第7回 輪読(音読・朗読):音声表現
 第8回 輪読(音読・朗読):プレゼンテーション・スピーチの話し方
 第9回 輪読(音読・朗読):ことば遣い
 第10回 話し方に関する演習:気付け
 第11回 話し方に関する演習:具体的・抽象的
 第12回 話し方に関する演習:説得する
 第13回 話し方に関する演習:プレゼンテーション①と振り返り
 第14回 話し方に関する演習:プレゼンテーション②と振り返り
 第15回 総括

6. 留意事項

講義コード	22901204			
科目名	発展演習 I			
担当者	長沼 光彦			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『新釈走れメロス』 森見登美彦 祥伝社文庫			
参考文献	『読むための理論』 石原千秋・他 世織書房 『岩波講座文学』 小森陽一・他 岩波書店 『小説の方法』 真銅正宏 萌書房 『森見登美彦の京都ぐるぐる案内』 森見登美彦 新潮社 『京都の歴史散歩』 山本四郎 山川出版社			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

- ・小説の言語表現を味わい、分析・批評する方法を学ぶ。
- ・小説の原作を調べ、比較検討する方法を学ぶ。
- ・小説に登場する京都の地名を調べ、内容と素材とを比較考察する力を養う。
- ・参考文献や資料を調べ、整理する方法を学ぶ。
- ・口頭発表を行い、意見のまとめ方を実習する。
- ・意見交換を通じて、相手の意見を理解する力を養う。

3. 教育・学習の方法

- ・テキストを読み、実際に文学表現に触れる。
- ・京都の地名を調べ、地域の特徴を学ぶ。
- ・参加者は全員、参考文献を調べ発表をする。
- ・レジュメにまとめて発表するプレゼンテーション能力を養う。
- ・討議を通じてコミュニケーション能力を養う。
- ・レポート作成を通じて、文章表現力を養う。
- ・準備学習の具体的な方法
- ・発表の題材となる作品をあらかじめ読み、自分の考えをまとめておく。
- ・関連の参考文献を積極的に読み、意見を提示する準備をする。
- ・小説の舞台となる京都の各地に、実際に出かけしてみる。

4. 評価方法・評価基準

発表内容や提出課題の成績、また試験結果を評価の基本とするが、出席状況や取りくむ姿勢をも重視する(欠席5回以上で、単位取得は困難となる)。

5. 授業予定

- 第1回 文学読解のための概説
- 第2回 京都フィールドワークの概説
- 第3回 資料収集の方法について
- 第4回 発表と討議 (1)
- 第5回 発表と討議 (2)
- 第6回 発表と討議 (3)
- 第7回 発表と討議 (4)
- 第8回 発表と討議 (5)
- 第9回 発表と討議 (6)
- 第10回 発表と討議 (7)
- 第11回 発表と討議 (8)
- 第12回 発表と討議 (9)
- 第13回 発表と討議 (10)
- 第14回 研究実践のための心構え
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22901205			
科目名	発展演習 I ファンタジーの世界			
担当者	鷲見 朗子			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『マチルダは小さな大天才』 ロアルド・ダール 評論社 2005 『チョコレート工場の秘密』については必要部分をコピーして配布する。			
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

本科目では、ファンタジーとは何かという基本的な概念を理解し、実際にファンタジー作品を読解し、それをもとにした映画を鑑賞することで、それらが伝えようとしているメッセージについて、ほかの受講者とともに考え、意見を交わし、明らかにしていく。イギリス出身の児童文学作家ロアルド・ダール(1916-1990)の作品を扱う。部分的に原文を英語で読んで訳す作業によって、英語の読解力も育成する。

2. 教育・学習の個別課題

1. ファンタジーの定義
2. ロアルド・ダールについて
3. 作品の読解と分析
4. 映画の鑑賞と理解
5. 英語原文の読解

3. 教育・学習の方法

1. 講義
2. 課題とそれについての意見交換
3. 発表
4. レポート作成

・準備学習の具体的な方法

1. ロアルド・ダールのオフィシャル・サイト(英文)を読んで、小発表の準備をする。
2. 作品のなかから課された部分を読んで理解する。
3. 発表とレポートの構想を練る。

4. 評価方法・評価基準

発表内容や提出課題の成績、また試験結果を評価の基本とするが、出席状況や取りくむ姿勢をも重視する(欠席5回以上で、単位取得は困難となる)。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション・ファンタジーの定義
- 第2回 ロアルド・ダールについて(サイトより)
- 第3回 ロアルド・ダールについて(サイトより)
- 第4回 『チョコレート工場の秘密』
- 第5回 『チョコレート工場の秘密』
- 第6回 『チョコレート工場の秘密』
- 第7回 映画鑑賞
- 第8回 『マチルダは小さな大天才』
- 第9回 『マチルダは小さな大天才』
- 第10回 『マチルダは小さな大天才』
- 第11回 映画鑑賞
- 第12回 発表の準備・計画
- 第13回 発表
- 第14回 発表
- 第15回 発表

6. 留意事項

映画鑑賞は時間の都合上、宿題にする場合もある。

講義コード	22901301			
科目名	発展演習Ⅱ 和歌・俳句を読む・味わう・作る			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	使用しない			
参考文献	『萬葉集總索引』 正宗敦夫 平凡社 『新編国歌大観』 角川書店 『八代集全註』 山岸徳平 有精堂 『鑑賞俳句歳時記』 山本健吉 文藝春秋 『分類俳句大観』 正岡子規 日本図書センター			
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

4年次必修科目「卒業研究」、またその前段階である3年次のゼミ分属に向けて、2年次からは本格的に専門教育科目の履修が始まる。そして2年次専門教育の核となるのが、この「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる書物の講読を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについて考える。

2. 教育・学習の個別課題

(古代和歌と俳句歳時記を読む)

1. 万葉集、古今集、新古今集の和歌を読み、三集の違いについて理解する。
2. 十三代集の歌の一つを選び、古語辞典をたよりに自分なりの解釈に挑戦する。
3. 歳時記を抄読して、俳句の表現の妙を味わう。
4. 和歌（短歌）と発句（俳句）の違いについて理解する。
5. 和歌のいくつかを暗唱する。
6. 自分の思いや発見を短歌や俳句で表現してみる。
7. 和歌・俳句にちなむ場所にフィールドワークに出かける。

3. 教育・学習の方法

1. 任意に選んだ和歌の解釈・鑑賞について口頭発表を行う。
2. 歳時記から気に入った俳句を選び、解釈・鑑賞文を書いたり、絵に描いたりする。
3. 自分の体験や思いを俳句や短歌に表してみる。
4. 歌かるたに親しむ。

・準備学習の具体的な方法

1. 発表を割り当てられた和歌について、校本万葉集や八代集抄など関連文献を調べ、レジュメを用意すること。
2. 発表が予定されている作品について、事前に予習しておくこと。
3. 歳時記から任意の俳句を選び、鑑賞文を作成すること。

4. 評価方法・評価基準

発表内容や提出課題の成績、また試験結果を評価の基本とするが、出席状況や取りくむ姿勢をも重視する（欠席5回以上で、単位取得は困難となる）

5. 授業予定

- 第1回 和歌・俳句の魅力と歴史
- 第2回 和歌・俳句の読み方、調べ方
- 第3回 万葉集・八代集和歌の解釈と鑑賞
- 第4回 万葉集・八代集和歌の解釈と鑑賞
- 第5回 万葉集・八代集和歌の解釈と鑑賞
- 第6回 万葉集・八代集和歌の解釈と鑑賞
- 第7回 十三代集和歌の解釈と鑑賞
- 第8回 十三代集和歌の解釈と鑑賞
- 第9回 十三代集和歌の解釈と鑑賞
- 第10回 十三代集和歌の解釈と鑑賞
- 第11回 俳句歳時記を読む
- 第12回 俳句歳時記を読む
- 第13回 短歌・俳句を作る
- 第14回 フィールドワーク（実施回未定）
- 第15回 歌かるたに親しむ（実施回未定）

6. 留意事項

講義コード	22901302			
科目名	発展演習Ⅱ 物語を描くーギリシア・ローマ神話を中心に			
担当者	吉田 朋子			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『ギリシア神話の名画はなぜこんなに面白いのか』 井出洋一郎 中経出版 2010 あわせて、オウィディウス、中村善也訳『変身物語 上・下』（岩波文庫）、ホメロス、松平千秋訳『イリア ス 上・下』（岩波文庫）など適宜使用する。			
参考文献	適宜紹介する。			
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

長らく西洋美術においては、物語を視覚的に表現することが至高の目標とされてきた。なかでも、ギリシア・ローマ神話は聖書とならんで最も重要な主題を提供している。有名な主題について、古典文学のテキストとその絵画化の実例を知る。また、まとめとして、小さな展覧会を開催する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 古典文学のテキストに親しむ。
2. 絵画作品を観察し、言語で説明できるようになる。
3. 文学と絵画の表現の違いについて、自分なりに考察する。

3. 教育・学習の方法

1. 文献講読
2. 絵画作品を見ながらの討論
3. 文学作品の朗読を求めることもある

・準備学習の具体的な方法

1. 担当者は、物語のあらすじを分かりやすく説明するべく、準備する。
2. 担当にあたっていない者も、文献を読み、自分の感想をまとめておく
3. 自分の好きな登場人物について、絵画化されている作品例を探し、作品についての情報を集める

4. 評価方法・評価基準

発表内容や提出課題の成績、また試験結果を評価の基本とするが、出席状況や取りくむ姿勢をも重視する（欠席5回以上で、単位取得は困難となる）。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 文献講読と議論（1）～ギリシア・ローマ神話～
- 第3回 文献講読と議論（2）～ギリシア・ローマ神話～
- 第4回 文献講読と議論（3）～ギリシア・ローマ神話～
- 第5回 文献講読と議論（4）～ギリシア・ローマ神話～
- 第6回 文献講読と議論（5）～ギリシア・ローマ神話～
- 第7回 文献講読と議論（6）～ギリシア・ローマ神話～
- 第8回 文献講読と議論（7）～ギリシア・ローマ神話～
- 第9回 文献講読と議論（8）～ギリシア・ローマ神話～
- 第10回 文献講読と議論（9）～ギリシア・ローマ神話～
- 第11回 文献講読と議論（10）～ギリシア・ローマ神話～
- 第12回 さまざまな神話や物語（1）
- 第13回 さまざまな神話や物語（2）
- 第14回 フィールドワーク（実施回未定）
- 第15回 まとめ～展覧会展示～

6. 留意事項

講義コード	22901303			
科目名	発展演習Ⅱ 子どもを取り巻く社会の諸問題を考える			
担当者	岩崎 れい			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	子どもに関する行政資料 や新聞記事(コピーを配布する。)			
参考文献	授業中に適宜紹介します。			
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 子どもに関する基本的な法律を知る。 2. 子どもに関する社会的な問題の存在を知る。 3. 個別の社会問題について、その現状と対策について学ぶ。 4. 3をもとに、原因や解決策について討論し、考察する。

3. 教育・学習の方法

子どもを取り巻く社会は常に移り変わっている。高度情報社会の中で情報リテラシー教育が不可欠になったこと、2000年の子ども読書年をきっかけに子どもの読書支援の方策が模索されていること、いじめや虐待が社会問題化する中でその対処の方法が注目されていること、家族と食の関わりが重視されるようになってきたことなどを踏まえて、子どもに関連のある行政資料やその関連資料を読みながら、その社会的な影響力も考察する。また、その中で、行政資料の探索方法も学ぶ。実際には、数あるトピックの中から受講生の関心に合わせて、3～4つ選び、資料を読んでいく。過去には、少年法改正、少年犯罪、いじめ、食育、育児・早期教育、子どもの学習、子どものインターネット・携帯依存などを取り上げた。

・準備学習の具体的な方法

1. 子どもを取り巻く社会の諸問題に関心を持ち、新聞記事などに目を通しておく。 2. 提示された教材に目を通し、さらに発表があたっている場合は、教材の内容に考察を加えて発表のためのレジュメを作成する。 3. 発表を聞いて、討論に積極的に参加できるように、各自教材の内容について自分の考えをまとめておく。

4. 評価方法・評価基準

発表内容や提出課題の成績、また試験結果を評価の基本とするが、出席状況や取りくむ姿勢をも重視する(欠席5回以上で、単位取得は困難となる)。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「子どもの権利に関する条約」を読む
- 第3回 テーマ1についての文献読解(発表を含む)
- 第4回 テーマ1についての文献読解(発表を含む)
- 第5回 テーマ1についての討論と考察
- 第6回 テーマ1についての討論と考察
- 第7回 テーマ2についての文献読解(発表を含む)
- 第8回 テーマ2についての文献読解(発表を含む)
- 第9回 テーマ2についての討論と考察
- 第10回 テーマ2についての討論と考察
- 第11回 テーマ3についての文献読解(発表を含む)
- 第12回 テーマ3についての文献読解(発表を含む)
- 第13回 テーマ3についての討論と考察
- 第14回 テーマ3についての討論と考察
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

この科目は演習的な性格をもつので、クラスに積極的に参加することが重要である。

講義コード	22901304			
科目名	発展演習Ⅱ			
担当者	野田 四郎			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『キーワードで読みとく世界の紛争』 月刊みんぱく 編集部 河出書房 2003 各自が選択した発表テーマに基づき、該当する箇所を 全員にプリントで配るので、それをテキストとする。			
参考文献	『国際政治をつかむ』 村田晃嗣 有斐閣 2009			
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

上掲の選定テキストが提唱する以下の12のキーワードの中から、自らが最も関心のある項目を選択し、国際関係論の主たるテーマの一つである「紛争」の意味について考える。グローバリズム/反グローバリズム運動/民族/先住民族/国民国家/マイノリティ/ナショナリズム/民族主義/「文明の衝突論」/難民/貧困/持続可能な開発。

3. 教育・学習の方法

選定テキストは、世界の様々な地域で繰り広げられる紛争を扱っており、該当地域の専門家がそれぞれ分析・説明を加えた後、そのほとんどが「参考文献」を各説明文の最後に記している。そこで、テキストだけでなく、参考文献にも目を通すことで、各紛争テーマについて自分なりに調べ、考える訓練をする。

・準備学習の具体的な方法

授業は、各自が関心のあるテーマについて、主に発表形式で行われることから、配布されたプリントをもとに、自らが発表当番でない場合も、選定テキストの該当部分(事前配布済み)を必ず事前に読んでおくこと。それにより、授業での討論がより活発になる効果が期待できる。

4. 評価方法・評価基準

発表内容や提出課題の成績、また試験結果を評価の基本とするが、出席状況や取りくむ姿勢をも重視する(欠席5回以上で、単位取得は困難となる)。

5. 授業予定

- 第1回 授業の進め方、並びに評価方法についての説明
- 第2回 戦後の米ソ2超大国を中心とする冷戦時代
- 第3回 冷戦の終焉とグローバリゼーション/21世紀の世界
- 第4回 発表と討論
- 第5回 発表と討論
- 第6回 発表と討論
- 第7回 発表と討論
- 第8回 発表と討論
- 第9回 発表と討論
- 第10回 発表と討論
- 第11回 発表と討論
- 第12回 発表と討論
- 第13回 発表と討論
- 第14回 発表と討論
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

基本的に、ゼミ形式で授業を進めるので、討論や意見交換へ積極的に参加することが大切です。

講義コード	22901305			
科目名	発展演習Ⅱ 四季折々の言葉を学ぶ			
担当者	朱 鳳			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『ことばの歳月』 山下景子 廣済堂出版 2010			
参考文献	授業中に適宜紹介する。			
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 日本語における漢語と和語の違いを説明する。
2. 日本語と中国語における漢語共有の歴史を把握する。
3. 四季を表現する季節感のある語彙を確認する。

3. 教育・学習の方法

毎回教科書の教ページを読む。その上、語彙に関する歴史的背景を丁寧に説明する。グループディスカッションも行う予定。

・準備学習の具体的な方法

教科書を読むことを通して、四季折々と日常生活を表現する和語、漢語を確認していく。また数回のレポート提出と発表によって、これらの語彙の応用法も具体的に学習する。

4. 評価方法・評価基準

発表内容や提出課題の成績、また試験結果を評価の基本とするが、出席状況や取りくむ姿勢をも重視する(欠席5回以上で、単位取得は困難となる)。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 日本語にある和語と漢語について
- 第3回 「星の章」を読む
- 第4回 「月の章」を読む
- 第5回 「空の章」を読む
- 第6回 「雲の章」を読む
- 第7回 発表(1)
- 第8回 「陽の章」を読む
- 第9回 「地の章」を読む
- 第10回 「雨の章」を読む
- 第11回 「水の章」を読む
- 第12回 「雪の章」を読む
- 第13回 「風の章」を読む
- 第14回 発表(2)
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22901306			
科目名	発展演習Ⅱ ～スティーブ・ジョブズに学ぶプレゼンテーション～			
担当者	吉田 智子			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『スティーブ・ジョブズ脅威のプレゼン』 カーマイン・ガロ著 日経BP 2010年			
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

2. 教育・学習の個別課題

魅力的なプレゼンテーションをするためには、準備と練習が必要です。しかし、ただやみくもに時間をかけて準備や練習をするのではなく、優れたプレゼンテーションのテクニックを学び、活用することが大切です。

そこでこの授業では、聴衆を魅了することにかけて世界一のコミュニケーターだった、スティーブ・ジョブズから、そのテクニックを学びます。

3. 教育・学習の方法

受講者全員がその日に学ぶ部分のテキストを読んできたことを前提に、ゼミナール方式で、内容に関する議論・分析を行います。合わせて、スティーブ・ジョブズがプレゼンテーションしている具体的内容

(iMac,iPod,iPhone,iPadなどの新商品の発表シーンであることが多い) 自体についても学びます。

毎回の授業では、前回の授業で学んだ「プレゼンテーション・スキル」を発揮する「数分間プレゼンテーション」を、各学生が前に行き、評価し合います。

・準備学習の具体的な方法

次の授業の講義対象となるテキストのページを伝えるので、その部分は必ず熟読し、以下の質問に答えられるようにして、授業に参加してください。

「質問1：テキストの該当部分の概要(あらすじ)

質問2：自分がよく理解・納得できたこと

質問3：最も興味をもった部分

さらに、前回の授業で学んだ「プレゼンテーション・スキル」を発揮する発表内容(授業中に指示した内容)を、毎回、準備してきてください。

4. 評価方法・評価基準

発表内容や提出課題の成績、また試験結果を評価の基本とするが、出席状況や取りくむ姿勢をも重視する(欠席5回以上で、単位取得は困難となる)。

5. 授業予定

第1回 ガイダンス(テキストについての説明、授業の進め方の説明など)

宿題：シーン1を読んでくる、シーン1からシーン18のタイトル部分に注目してみる。

第2回 【シーン1：構想はアナログでまとめる】

優れたプレゼンテーションを作るために最も必要なのは、「筋書き作り」です。アイデアはアナログでまとめます。

実施するプレゼン：ある「物」を紹介する(2分)

宿題：シーン2を読んでくる、ジョブズのスタンフォード大学でのスピーチをYouTubeで観てくる

第3回 【シーン2：一番大切な問いに答える】

プレゼンテーションでは、「聴衆がなぜその話に関心があるのか」をきちんと話す必要があります。

実施するプレゼン：ジョブズのスタンフォード大学でのスピーチに関して、興味を持ったことを紙に書いて、それを紹介する(2分)

宿題：シーン3を読んでくる、シーン2の実践スピーチを考えてくる

第4回 【シーン3：救世主的な目的意識を持つ】

ジョブズによるプレゼンテーションや説得からは、彼の熱い想いが伝染してしまい、ノーと言える人はまずいないと言われていました。

実施するプレゼン：シーン2の実践として「聴衆が〇〇に注目すべき理由」を明らかにする(2分)

宿題：シーン4を読んでくる、みんなに紹介する「名言」を調べてくる

第5回 【シーン4：ツイッターのようなヘッドライン】

ヘッドラインと呼ばれる短い文章で製品を的確に表現する手法を学びます。例えば、2007年1月にiPhoneを紹介するとき、ジョブズは

「アップルが電話を再発明する」という言葉を5回使っています。実施するプレゼン：シーン3の実践として「名言」を紹介する(2分)

宿題：シーン5を読んでくる、この授業紹介のヘッドラインを書いてくる

第6回 【シーン5：ロードマップを描く】

重要な点を3つに絞り込んで、その3つの部分で構成されたロードマップを示すことで、はっきりとした輪郭が浮かび上がり、聞き手の頭が楽に話につながるようになります。この例が、2001年のiPod発表のプレゼンです。

実施するプレゼン：この授業紹介（2分）
宿題：シーン6と7を読んでくる

第7回 【シーン6：敵役を導入する】
【シーン7：正義の味方を登場させる】
敵役として現状の問題を登場させることで、聴衆が主人公（解決策としての商品）を応援したくなります。
実施するプレゼン：この授業の紹介、この授業の教科書について、ステイプジョブズについて（いずれかを2分）
宿題：シーン8を読んでくる

第8回 【シーン8：禅の心で伝える】
非常にシンプルで箇条書きがないのが、禅の精神を好んでいるジョブズのスライドの特長です。2008年9月のiTunes ミュージックストアの新機能と、iPodの新モデルの発表を例とします。
宿題：シーン9と10を読んでくる、「数字をドレスアップした例」を考えてくる

第9回 【シーン9：数字をドレスアップする】
2001年10月に初めて発売されたiPod（185g、5GB内蔵）は、人々に衝撃を与えました。ジョブズが「1000曲をポケットに入れて持ち運べる」と表現したからです。「5ギガバイトの容量を持つ、185グラムのミュージックプレイヤー」という表現では、多くの人にとって実感がわかなかっただけでしょう。このような、効果的な「数字のアナロジー」を学びます。
【シーン10：キレがよい言葉を使う】
ジョブズは、専門用語ではなく、日常使われるキレのよい用語を使って、新製品を紹介

第10回 【シーン11：聴衆とステージを共有する】
ジョブズのプレゼンテーションは、聴衆とステージを共有することでも有名です。
【シーン12：小道具を上手に使う】
ジョブズは、機能説明のデモを劇のように演出します。2008年1月、茶封筒から取り出し、薄さを強調したMacBook Airのデモなどから、小道具の使い方を学びます。
実施するプレゼン：聴衆とステージを共有できる発表（2分）
宿題：シーン13を読んでくる、「最終プレゼン（6分間）」のテーマを決める

第11回 【シーン13：聴衆が驚く瞬間を演出する】
聞き手が「うっそー！」と驚くような瞬間を作ることで、印象的なプレゼンテーションをすることができます。
宿題：シーン14、15を読んでくる、「最終プレゼン」の台本を書く

第12回 【シーン14：存在感の出し方を身につける】
【シーン15：簡単そうに見せる】
「台本のあるプレゼン」を思いっぴのままに自然にしゃべっているように聞かせるには、練習が大切です。その準備を始めます。
宿題：シーン16、17、18を読んでくる、「最終プレゼン」の企画書を書いてくる

第13回 【シーン16：目的にあった服装をする】
【シーン17：台本を捨てる】
【シーン18：自分が楽しむ】
宿題：最終プレゼンの用意をしとくる

第14回 最終のプレゼンテーション発表会（各自が工夫したプレゼンテーションをスライドや小道具を使って披露）

第15回 この授業および、「最終のプレゼンテーション発表会」のふりかえり

6. 留意事項

約400ページのテキストをすべて読む必要があるのと同時に、人前で発表する機会が多いので、授業の準備が大変であることが予想されます。また、ステイプ・ジョブズの映像は、日本語字幕はつくものの、英語のスピーチを味わう必要があるため、英語が好きであることが好ましいでしょう。さらに、プレゼンテーションのテーマがパソコン関連商品であることも多いので、これらの商品に興味を持っている必要もあります。

講義コード	22901101～22901113			
科目名	卒業研究 よい卒業研究のために			
担当者	専任教員			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

2. 教育・学習の個別課題

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

3. 教育・学習の方法

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける

・準備学習の具体的な方法

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること

4. 評価方法・評価基準

提出された論文ないし作品に対し主査（指導教員）および副査（1名）による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

5. 留意事項

研究テーマ、草稿、本論文（制作作品）、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については人間文化学科「論文作成の手引き」参照。

講義コード	24301301			
科目名	生活福祉文化概論			
担当者	桐野 由美子・竹原 広実・萩原 暢子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

人間の生活上の基本的な願いである、健康で質の高い豊かな暮らしのあり方と、その実現のための方策についての基本的な考え方を、文化と生活を基礎としながらライフデザイン（生活）領域とソーシャルワーク（福祉）領域の各領域から学習し、さらに健康という角度からも検討することで、生活福祉文化とは何かを総合的に理解することを目標におく。

2. 教育・学習の個別課題

各分野のそれぞれの個別課題については下記のように定め、集中的に理解を深める。

1. ライフデザイン領域

1)生活福祉文化で何を学び、学んだものを実生活にどう生かすかをイメージする。

2)生活福祉文化の中に占めるライフデザイン領域を理解する。

3)自分のライフスタイルを知り、健康的なライフスタイルを考える。

2. ソーシャルワーク領域

1) 現代社会における社会福祉の意義の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）を理解する。

2) 社会福祉分野の援助者であるソーシャルワーカーの専門性を明らかにし、その初歩を学ぶ。

3. 教育・学習の方法

1) 各領域ごとにオムニバス形式で全体で15回連続の講義をおこなう。

2) 必要に応じてスライド、OHP、ビデオなどを使用して学習効果を図る。

・準備学習の具体的な方法

シラバスに沿って予習を義務付ける。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度（30%）、レポートまたは授業後の小テスト（各担当教員ごとに評価したものの平均とする。70%）などで総合的に評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. 授業予定

オムニバス/全15回

（萩原暢子/5回/ライフデザイン・ソーシャルワーク領域）

第1回 1)オリエンテーション ①「生活福祉文化概論」の意義と内容（目的と進め方） ②ライフデザイン基礎論、ソーシャルワーク基礎論との関係、生活福祉文化とは

第2回 2)（前回の続き 生活文化学部の教育理念と教育目標）、健康な生活とは、「食事と健康のかかわり」（DVD鑑賞）

第3回 3) 毎日の食事から、どれくらいのカロリーを摂取しているか調べる。

第4回 4) 朝起きてから夜寝るまで、どれくらいのカロリーを消費しているか調べる。

第5回 5)「自分の食事と生活活動とのエネルギーのバランスについて」というテーマで、自分のデータに基づいてレポート作成

（竹原広実/5回/ライフデザイン領域）

第6回 1) 豊かな生活と持続可能性

第7回 2) ごみ問題、廃棄物とリサイクル

第8回 3) 世界の食料安全保障

第9回 4) パーチャルウォーター

第10回 5) 世界の環境モデル都市

（桐野由美子/5回/ソーシャルワーク領域）

第11回 1) 現代社会における社会福祉の意義

第12回 2) 社会福祉の理念

第13回 3) 社会福祉分野の援助者であるソーシャルワーカーの専門性

第14回 4) ソーシャルワーカーの役割と機能

第15回 5) 人との関係がよくなるコミュニケーションスキル

6. 留意事項

この科目は本学科の基礎的な重要科目であり、必修科目であるので全回出席を原則とする。

講義コード	24401401			
科目名	社会福祉原論Ⅰ			
担当者	野村 武夫			
単位数	2	配当学年	12	
資格	[福][社][精][保]			
前提科目				
テキスト	『社会福祉概論[第2版]』 基礎からの社会福祉編集委員会 ミネルヴァ書房 2011			
参考文献	『社会福祉用語辞典』 ミネルヴァ書房 2010年 『社会福祉小六法』 ミネルヴァ書房 2011年			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

1. 現代社会における社会福祉の政策、制度、サービスなどについて、その基本的な原理、理念、制度や仕組み、またその歴史などについて理解するとともに、社会福祉の現代社会における意義、今日的課題などについて基本的な理解を得ることを目標とする。

2. 社会福祉サービス体系の全容を理解し、サービス対象者（利用者）がどのように援助され、保護されているかその制度的仕組みを理解する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関連について理解する。

2. 社会福祉の原理と思想について理解する。

3. 社会福祉発達の歴史について理解する。

4. 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。

5. 社会福祉の法や制度、行財政について理解する。

3. 教育・学習の方法

テキストは『シリーズ・基礎からの社会福祉①社会福祉概論[第2版]』（ミネルヴァ書房）を中心に講義形式で行う。ビデオを活用する。

・準備学習の具体的な方法

1. 個々の学習項目は相互に関連するので特に復習をしてその週の講義内容の理解につとめることが次の授業の準備につながる。

2. 専門用語については授業でも触れるが、社会福祉辞典などにも目を通して理解を深める。

4. 評価方法・評価基準

1. 授業参加度30%、定期試験70%をもとに総合的に行う。

2. 欠席、遅刻は減点対象となる。

5. 授業予定

第1回 社会福祉の概念と理念

第2回 現代社会の社会福祉と生活問題

第3回 現代社会における社会福祉の役割と意義

第4回 福祉制度の発達過程（歴史）1（英国）

第5回 福祉制度の発達過程（歴史）2（アメリカ）

第6回 福祉制度の発達過程（歴史）3（日本）

第7回 社会福祉サービスの事業体系

第8回 社会福祉の思想（1）先駆者たちの福祉実践思想

第9回 社会福祉の思想（2）社会福祉の人権・人間尊重の思想

第10回 社会資源の概念・福祉の需要・ニーズ

第11回 社会福祉の仕組み（1）社会福祉の法制度の意義と体系

第12回 社会福祉の仕組み（2）福祉サービスの主要な法律

第13回 社会福祉の仕組み（3）社会保障制度

第14回 社会福祉の仕組み（4）社会福祉の行財政

第15回 前期のまとめ

6. 留意事項

1. 教科書は授業で使用するので必ず購入すること。

2. カードリーダーで出欠を確認する。学生カードは必ず携帯すること。

講義コード	24401601			
科目名	社会保障論Ⅰ			
担当者	井手 巧			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[社][精]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『新・社会福祉士養成講座 12「社会保障」』 中央法規出版 最新版 『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 19「社会保障」』 ミネルヴァ書房 最新版			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

私たちの日常生活からかけ離れた存在にも感じられる社会保障制度が、実はいろいろな場面で接点を持ち、時として人の生死にも関わる身近で重要な存在・制度であることを学ぶ。社会保障論Ⅰでは、現在の制度に至るまでの歴史的展開を振り返り、同時に社会保障の理念、意義や機能について学ぶ。さらに、制度の概要を把握し理解するために、制度の体系と内容、問題点や課題について学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

- ・生存権の保障に関わる問題として、マスコミ報道を含め身の回りで発生する事象について、どのように捉え考える必要があるのか、その視点を学ぶ。
- ・社会、経済状況の移り変わり和社会保障制度のあり方について、諸外国における制度の変遷も参考にしながら、概観的に捉えられるよう学ぶ。
- ・社会保障とは何か、各々の生活との関わりから捉えられるよう学ぶ。

3. 教育・学習の方法

授業は、資料のプリントを配布し、参考事例を交えながら進める。

・準備学習の具体的な方法

授業予定の項目について、参考文献などに目を通し予め内容の把握に努めておく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加状況等の平常点(40点)、形成テスト(60点)により総合的にを行う。

5. 授業予定

- 第1回 社会保障とは何か
- 第2回 社会経済状況の変化と社会保障
- 第3回 社会保障の概念と範囲
- 第4回 社会保障の理念と機能
- 第5回 世界における社会保障の歴史的展開
- 第6回 日本における社会保障の歴史的展開
- 第7回 社会保障制度の体系 ①社会保険と社会扶助
- 第8回 社会保障制度の体系 ②役割機能・負担給付
- 第9回 社会保障給付費と財源
- 第10回 年金保険と医療保険
- 第11回 労働保険・介護保険
- 第12回 生活保護制度と社会手当
- 第13回 社会福祉と福祉行政
- 第14回 社会保障の問題・課題
- 第15回 まとめ及び形成テスト

6. 留意事項

講義コード	24401701			
科目名	レクリエーション論			
担当者	森 美和子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[レ][保]			
前提科目				
テキスト	特になし			
参考文献	『(財)日本レクリエーション協会編「レクリエーション支援の基礎」』 日本レクリエーション協会 2007 『レクリエーションの基礎理論』 池田勝 永吉宏英 西野仁 原田宗彦 杏林書院 1989 『レクリエーション活動援助法』 吉田圭一 茅野宏明 ミネルヴァ書房 2007 『楽しいをつくる やさしいレクリエーション実践』 日本レクリエーション協会 2000			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

外来語である『レクリエーション』の概念は、近年日本の様々な分野で活用されるようになってきている。医療福祉、地域の社会教育、そして個人の日常生活にいたるまで現代社会の中に浸透してきている。それぞれの分野で認識されているレクリエーション概念と実践は、その形態や意味合いに特徴がある。レクリエーションの基本的概念を学習し、様々な分野でのレクリエーション実践やその支援法を知ること目標とする。そして、それらの知識を活用し、レクリエーションプログラムの基本的な企画・運営・管理方法を体験を通して学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. レクリエーション発祥の歴史から基本的概念を学ぶ。
2. 様々な分野でのレクリエーション実践例を知り、レクリエーションへの認識を広げる。
3. 具体的なレクリエーション活動を体験し、その意義を理解する。
4. レクリエーションプログラムの立案方法を学ぶ。

3. 教育・学習の方法

授業の実施方法 1. 主に講義形式で行い、適宜資料を配布する。2. 講義の中で課題を提示し、個人もしくはグループで課題に取り組みながら解決していく。3. 具体的なレクリエーション活動を実際に体験し、そのプログラムの意図と効果を理解する。4. 実際の例からレクリエーションプログラムを構成する要素を学び、その立案に必要な知識を獲得する。

学習の方法 1. 学習内容についてやグループワークの中での積極的な発言を意識する。2. 本講義で学んだものを自分の日常生活に照らし合わせ、活用できる部分は出来るように意識する。3. 課題を通して、事柄を分析する力、人に伝える力の向上を意識する。

・準備学習の具体的な方法

1. 自分の人生の中でレクリエーションに関係する要素を見つけ、振り返ってみる。
2. 現代の日常生活に存在するレクリエーションに関する事柄があれば、それを紹介し共有する。
3. 講義を通してレクリエーションプログラムの企画・運営に関する課題を提示する(ケーススタディやイベント企画等)。その発表を通して、レクリエーションプログラムを立案する能力と楽しさを知る。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業参加度(30%)、グループ課題達成度(25%)、講義内の小レポート・小テスト(15%)、定期試験(30%)。

欠席が4回に達した受講者は原則として単位は認定できないものとする。

5. 授業予定

- 第1回 レクリエーションの基礎理論
- 第2回 レクリエーション支援の理論
- 第3回 教育現場でのレクリエーション
- 第4回 地域におけるレクリエーション
- 第5回 医療福祉現場のレクリエーション
- 第6回 セラピューティックレクリエーション
- 第7回 ネイチャーゲーム、インシアティブゲームの実践
- 第8回 ものづくり系・暮らし遊び系活動種目の実践
- 第9回 室内レクリエーションの実践
- 第10回 対象者と支援の場の想定
- 第11回 ニーズの把握と目標設定
- 第12回 レクリエーション財の選び方
- 第13回 プログラム立案
- 第14回 プログラム立案の振り返り

6. 留意事項

講義コード	24402301		
科目名	ライフデザイン基礎論		
担当者	萩原 暢子・石井 浩子・牛田 好美・加藤 佐千子・竹原 広実・鳥居本 幸代・中村 久美・米田 泰子		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

新しいライフデザインを創造するため、現代の生活課題に関する文化的な背景を理解し、課題解決に必要な基礎知識を衣・食・住・健康・保育の分野といった多角的な視点から修得する。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) 現代の生活課題を理解する。
- 2) 現代生活における解決課題を見出す
- 3) 快適な生活を送るために必要な知識と技術について理解する
- 4) 1)～3)をベースに、生活課題の解決方法を考える基礎力を養う

3. 教育・学習の方法

授業は講義形式とする。講義は、ライフデザイン領域の衣・食・住・健康・保育の分野ごとに各教員連続2回のオムニバス形式で行う。授業内容に応じて、ビデオ、OHP、スライドを用い、参考資料を配布する。

・準備学習の具体的な方法

シラバスに沿って予習を義務付ける。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度45%、形成テスト(各担当教員が授業内に実施する)55%で評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

第1回 1-2回 鳥居本 幸代

第2回 日本の衣生活は、明治維新の洋装導入によって大きな変革を遂げた。ファッションの変遷について、日本とヨーロッパを対照しながら概説することによって、和服から洋服中心の衣生活を考える。

第3回 3-4回 米田 泰子

第4回 明治、大正の食生活を継承してきた昭和前期の食生活、ファーストフードが隆盛期を迎えた昭和後期の食生活、飽食時代に入った平成時代の食生活について述べ、スローフードを目指す未来の食生活を考える。

第5回 5-6回 牛田 好美

第6回 人はなぜ衣服を着用するのか、衣服の役割について心理的機能、生理的機能、社会的機能の点から理解し、より快適な衣生活を営むことができるよう現代の衣生活を分析するとともに、これからの衣生活について考える。

第7回 7-8回 加藤 佐千子

第8回 現代社会が肥満を脅かす状況にあることや、若い女性の肥満とダイエットの関係、およびその問題点について講義する。この講義を通して、自分の食生活を振り返り、考察する力を養うことを目的とする

第9回 9-10回 中村 久美

第10回 ライフデザインの基盤となる住まいと住生活について、①風土との関係、②社会との関係の2つの視点から基本的な考え方を解説する。

第11回 11-12回 竹原 広実

第12回 生活の営みに欠かせない住まいの条件のうち、特に視覚特性の観点から住まいのあり方を考える。ここでは光環境を取り上げて、日照の効果と採光を得やすい住環境計画について、また人工照明の量と質を考慮した照明計画について考察する。

第13回 13回 萩原 暢子

健康的なライフデザインを築くためには、栄養・運動・休養の3つの要素をバランス良く取り入れることが不可欠である。特に女性の身体の健康管理の基本を学び、病気の予防法を理解する。

第14回 14-15回 石井 浩子

第15回 子どもの心とからだの健やかな成長を願うならば、まず、乳幼児期に栄養(食事)・運動(あそび)・休養(睡眠)を大切にすることが重要である。現在の子どもの生活実態と子どもたちの抱える問題を取り上げて、その原因と対策について考える。

6. 留意事項

講義コード	24402401		
科目名	ソーシャルワーク基礎論		
担当者	桐野 由美子・鶴飼 真理子・酒井 久美子・佐藤 純・畠山 寛・三好 明夫・村田 久行・矢島 雅子・山本 智也		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

現代社会における様々な領域について、その基礎的な知識、思想、課題などを学び、ソーシャルワークを展開するうえでの基礎的かつ総合的理解を得ることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 社会福祉の意義
2. 対人援助の意義・基本原則
3. 現代の児童問題
4. 非行と家族の問題
5. 高齢者や障害者の問題や福祉の制度
6. 現代の子どもや保育の現状、地域での子育て
7. 子どもの成長と遊び
8. 地域の生活問題と福祉

3. 教育・学習の方法

福祉関連教員によるオムニバス形式の授業で行う。授業のすすめ方としては各教員によって異なるが、講義、演習形式、学生による討議などで行う。授業ではプリントのほかに、授業によってはビデオ、パワーポイントなどを使用する。

・準備学習の具体的な方法

事前に各回のテーマに沿った内容の新聞記事や情報など目を通して概要をつかんでおくこと。

4. 評価方法・評価基準

以下の点を総合的に評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。(1) 授業参加度(60点)(2) レポート(40点)

5. 授業予定

第1回 現代社会福祉の意義と課題

第2回 対人援助の意義と基本原則

第3回 ソーシャルワークの価値とワーカーの専門性

第4回 虐待する親や子どもへの援助

第5回 少年非行と家族

第6回 家庭教育の重要性

第7回 高齢者問題の現状と高齢者福祉

第8回 介護保険と介護専門職のあり方

第9回 障害者問題の現状と障害者福祉

第10回 こころの病と精神保健福祉士の役割

第11回 ケアする人を支える

第12回 地域における生活問題と福祉

第13回 地域福祉の推進とネットワークの構築

第14回 現代の子どものおかれた環境と保育のあり方

第15回 子どもの成長と遊び・運動の重要性について

6. 留意事項

講義コード	24402501～24402507			
科目名	生活福祉文化基礎演習 I A～G			
担当者	専任教員			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『知へのステップ 改訂版』 学習技術出版会編 くろしお出版 その他は別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	24402601～24402607			
科目名	生活福祉文化基礎演習 II A～G			
担当者	専任教員			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『知へのステップ 改訂版』 学習技術研究会 くろしお出版 (2007) その他は別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本演習は、生活福祉文化基礎演習 II とともに生活福祉文化学科の入門科目である。

生活福祉文化概論と対応しつつ、本学科の第1学年学習基礎科目として位置づけられる。

10数名の少人数に分かれて、全員、同一のシラバスに基づき演習を行う。

本演習の目標は現代日本の生活・福祉・文化の諸問題について、その社会的、歴史的、思想的な背景を、主体的に考える力を学生が身につけることとする。

そのために読む・書く・発表する・まとめる・ディスカッションするといった演習を行うものである。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) 一定期間に書籍を一冊読みきる。
- 2) レポート作成を通して文章の書き方、文献の調べ方を身につける。
- 3) ディスカッションを通して考える力、発言する力を養う。
- 4) 夏期休暇中に数冊の新書を読むことを課題とする。これは生活福祉文化基礎演習 II の評価に加える。

3. 教育・学習の方法

- 1) 10 数名程度の少人数単位のクラスに分かれて行われる。このクラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、生活福祉文化基礎演習 II のクラスと同一である。
- 2) 毎回の授業までに必ずテキストを予習、読んでおく。
- 3) 毎週だされる課題は必ず行うこと。
- 4) テキスト：別途購入を指示する。

・準備学習の具体的な方法

毎週だされる課題については、テキストの該当箇所を熟読して取り組んでいくこと。

4. 評価方法・評価基準

原則全出席とする。

授業態度、課題の取り組み、各テキスト終了時のレポート課題に対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス①
- 第2回 ガイダンス②
- 第3回 テキスト1：「文献を読む」
- 第4回 テキスト1：「文献を読む」
- 第5回 テキスト1：「考察する」
- 第6回 テキスト1：「まとめる、意見を述べる」
- 第7回 テキスト2：「文献を読む」
- 第8回 テキスト2：「考察する」
- 第9回 テキスト2：「まとめる、意見を述べる」
- 第10回 テキスト3：「文献を読む」
- 第11回 テキスト3：「考察する」
- 第12回 テキスト3：「まとめる、意見を述べる」
- 第13回 テキスト4：「文献を読む」
- 第14回 テキスト4：「考察する」
- 第15回 全体の振り返り

6. 留意事項

1. 科目の教育目標

本演習は、生活福祉文化基礎演習 I によって修得した「学ぶ力」をさらに発展させ、深く現代日本の生活・福祉・文化の諸問題に取り組むことをめざしている。生活福祉文化基礎演習 I と同じ少人数グループにより、フィールドワークをはさみながら演習を行う。学生は自らの関心に応じて調査テーマを選択決定し、それについてグループで調べる・議論する・体験する・まとめる・発表する過程で、それぞれのテーマの内容について理解を深めるとともに、主体的に学習する態度を身につけることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) 夏期休暇中の課題を土台としたディスカッションをすることにより、問題提起、自らの力でそれを解決する能力と考察力を養う
- 2) 発表を通してプレゼンテーション能力を身につける

3. 教育・学習の方法

- 1) 10 数名程度の少人数単位のクラスに分かれて行われる。このクラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、生活福祉文化基礎演習 I のクラスと同一である。
- 2) 毎回の授業までに必要な資料を揃えておく。

・準備学習の具体的な方法

自ら取り組む課題について、文献その他の資料に事前にあたることは、発表のための準備作業などに丹念に取り組むこと。

4. 評価方法・評価基準

原則全出席とする。

授業態度、課題への取り組み、実施した調査のレポートに対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 フィールドワークテーマの決定
- 第3回 フィールドワークテーマの決定
- 第4回 フィールドワークテーマの決定
- 第5回 フィールドワーク活動
- 第6回 フィールドワーク活動
- 第7回 フィールドワーク活動
- 第8回 フィールドワーク活動
- 第9回 フィールドワーク活動
- 第10回 データ整理
- 第11回 データ整理
- 第12回 プレゼンテーション作成
- 第13回 プレゼンテーション作成
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 プレゼンテーション

6. 留意事項

講義コード	24501601		
科目名	食品学		
担当者	真部 真里子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[家][健][フ]		
前提科目			
テキスト	『新 食品・栄養科学シリーズ 食品学総論』 森田潤司・成田宏史 化学同人 2003		
参考文献	『最新食品学—総論・各論—(第3版)』 渡辺忠雄・榎本則行・竜口和恵 講談社 2006 『イラスト食品学総論』 種村安子 ほか 東京教学社 2010 『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』 数研出版編集部 数研出版 2006		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

人々の健康への関心は極めて高く、これを反映して、マスコミ等から食品に関する情報が日々大量に供給されている。しかし、これらの情報を有効に活用するためには、受け手の私たちに、自分のライフスタイルに合わせて、各情報を適切に取捨選択する判断力が必要である。そこで、本講義では、食品中に含有される主要な成分の化学的性質と特徴、さらに食品の貯蔵・加工・調理の過程で起こる食品成分の変化、また成分間での相互作用について講述し、多種多様な食品の特性を科学的に理解し日常生活に生かすことができるようになることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 食品の主要成分および微量・特殊成分の働き、化学的性質、どんな食品に存在するかなどについて理解する。
- (2) 食品別に、含まれる成分の化学的特徴を基に、食材としての特徴を理解する。

3. 教育・学習の方法

(1) 授業の実施方法
講義形式で行う。テキストを使用するが、授業中に小冊子を配布する。講義内容は、テキスト、配布資料の範囲にとどまらず解説を加えるので、必ずノートに適切に記録すること。また、テキスト、小冊子に記載の重要事項は、あとでわかるように印をつけておくことよい。

(2) 学習方法
講義中、不明な点や納得のいかない点があれば、すぐ（もしくは授業終了後）に質問すること。授業ごとに、その日の学びの要点を次の回に提出してもらおう。この要点をまとめる作業で、わからないことがあれば、必ず次回に確認すること。

・準備学習の具体的な方法

日常的に食材を手に取り観察したり、実際に調理する習慣をつけること。配布資料に「食品学」に必要な化学の基礎をまとめておくので、理解できない場合は自習もしくは質問し理解できるようにする。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（欠席は減点する）(15%)、提出物 (25%)、定期試験 (60%) の総合評価とする。但し、定期試験または追試験を受験しなかった場合には0点とする。

5. 授業予定

- 第1回 食品学を学ぶ前に
- 第2回 食品とは、食品成分表
- 第3回 水分
- 第4回 糖質（炭水化物）の化学的性質と特徴
- 第5回 脂質の化学的性質と特徴
- 第6回 油脂の酸化
- 第7回 タンパク質の化学的性質と特徴
- 第8回 無機質の化学的性質と特徴
- 第9回 ビタミンの化学的性質と特徴
- 第10回 嗜好性成分—色素—
- 第11回 嗜好性成分—褐変—
- 第12回 嗜好性成分—おい・味—
- 第13回 食品各論—植物性食品の特性—
- 第14回 食品各論—動物性食品の特性—
- 第15回 食品の物性

6. 留意事項

講義コード	24501901		
科目名	調理学		
担当者	米田 泰子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[フ]		
前提科目			
テキスト	『新エスカ21 調理学』 洪川他7名 同文書院		
参考文献	『新版調理と理論』 山崎清子他 株式会社同文書院 2011		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

調理の際に起こる科学的、物理的变化を我々は“料理のこつ”と呼び家庭では母親から娘に、外食産業では料理人から弟子にと伝えられてきた。このこつのメカニズムを人間の嗜好性つまりおいしさを科学するところから、また調理操作別、食品別に解説し、食材の特徴を生かした献立の立て方を学ぶ。さらに調理用具、機器の合理的な利用法と用具、機器の違いによる調理性をも学ぶ。また諸外国との比較を機内食を通して使用される食材、献立、食文化の面からも考察する。ここで得た知識は調理実習を通して更に理解を深め、調理を科学する面と食文化の2面で調理学分野の卒業研究に発展させる。

2. 教育・学習の個別課題

1. 人間の食物に対する嗜好性つまりおいしさを科学し、同時に食文化の面からも論じる。
2. 調理操作別、食材別に調理中に起こる現象のメカニズムを科学し、同時に調理操作を食文化の面からも論じる。
3. 調理用具、機器の合理的な利用法と調理性を論じる。
4. 現在求められる多種多様な献立を提案する。
5. 機内食から世界の食文化を比較する。

3. 教育・学習の方法

- ・テキストと配布資料をもとに講義で授業を進める。
- ・各授業終了時に質問形式による小テストを行い、授業をまとめる。

・準備学習の具体的な方法

- ・シラバスにそって必ず予習を義務付ける。

4. 評価方法・評価基準

- ・成績はレポートの提出20%、筆記試験50%、各授業時の小テスト30%で評価する。
- ・欠席回数3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 食物摂取行動を科学的、文化的にみる
- 第2回 食物の嗜好性を科学的、文化的にみる（食べ物のおいしさ）
- 第3回 食物の嗜好性を科学的、文化的にみる（化学的な味）
- 第4回 食物の嗜好性を科学的、文化的にみる（おいしさに影響するその他の要因）
- 第5回 調理操作ごとに特徴ある調理性をみる（加熱操作）
- 第6回 調理操作ごとに特徴ある調理性をみる（加熱操作）
- 第7回 調理操作ごとに特徴ある調理性をみる（加熱以外の操作）
- 第8回 調理道具、機器ごとに特徴ある調理性をみる
- 第9回 食品ごとに特徴ある調理性をみる（穀類、砂糖、芋）
- 第10回 食品ごとに特徴ある調理性をみる（寒天とゼラチン、卵）
- 第11回 食品ごとに特徴ある調理性をみる（肉、魚、豆）
- 第12回 食品ごとに特徴ある調理性をみる（牛乳、野菜、果物）
- 第13回 献立方法
- 第14回 献立方法、レポート提出、筆記試験
- 第15回 機内食による世界の食文化比較

6. 留意事項

講義コード	24502301			
科目名	空間意匠論			
担当者	竹原 広実			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[建][イ]			
前提科目				
テキスト	『インテリアデザイン』 小宮容一他 井上書院			
参考文献	『モダンリビング(婦人画報社)、新建築などのインテリア、建築情報誌』 『新建築』			
備考	定員20人 「住居製図Ⅱ」の履修者であること(同時履修可)。 ※入学年度により履修条件が異なる。詳細は学生便覧を参照。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

住環境学、福祉住環境学で修得された知見・感覚をさらに総合化し、かつ具体的な空間認識として会得し、それを具体的な住宅設計計画段階に組み込み、それを表現する方法を学ぶことを目的としている。まず住宅空間を特徴づける構成要素について学び、それらの構成要素をどのように配することによって雰囲気や計画することができるかを考える。また住宅計画への応用を具現化する手段として、居住者を設定し、その住宅コンセプトに合わせたインテリア計画をプレゼンテーションボードを作成することにより表現する

2. 教育・学習の個別課題

1. 住宅内インテリア構成要素(家具、照明器具、ウインドウトリートメント)の種類と、それらを用いた室内雰囲気計画について学ぶ
2. インテリアイメージと空間構成要素との関係を学ぶ
3. インテリア構成要素を含めた住宅設計の考え方を学ぶ
4. 平面図、展開図、パース図、3D住宅イメージソフトを用いた表現手法を修得する

3. 教育・学習の方法

前半は主に受講者ひとりひとりによる課題発表の実施とレポートが課せられる。後半はそれらの知識をもとに空間計画、意匠計画の作品課題に取り組む。

・準備学習の具体的な方法

平日頃から意識してインテリア雑誌を読むなど多くの事例に触れ、センスを養っておきたい。

4. 評価方法・評価基準

評価は、課題作成・課題発表とレポート、演習(70)小テスト(20)、授業参加度(10)により行う。本科目の性格上、全出席を求める。また欠席回数(3分の1)を超過した場合や課題未提出の場合は原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 カラーコーディネート演習
- 第3回 課題発表(天井、壁、床材)
- 第4回 課題発表(ウインドウトリートメント)
- 第5回 課題発表(家具:アンティーク)
- 第6回 課題発表(家具:モダン)とインテリアエレメントに関する小テスト
- 第7回 家具模型課題1
- 第8回 家具模型課題2
- 第9回 家具模型課題3
- 第10回 家具模型課題4
- 第11回 展開図、パース図表現
- 第12回 3D住宅イメージソフトを用いた表現
- 第13回 3D住宅イメージソフトを用いた表現
- 第14回 3D住宅イメージソフトを用いた表現
- 第15回 発表及び講評

6. 留意事項

1. 毎回の演習が中心であるので、全出席を求める
2. 本科目の受講者は住居製図の履修が前提条件となるが、住環境学、福祉住環境学、住生活学も受講していることが望ましい。
3. 本科目は定員制(20名まで)をとる。
4. 課題はすべて提出すること

講義コード	24502401			
科目名	住生活学			
担当者	中村 久美			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[家][建][イ]			
前提科目				
テキスト	毎回資料を配布する			
参考文献	『住環境の計画1 住まいを考える』 彰国社			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

居住面にあらわれる生活様式である「住様式」は、歴史的、社会的に発展し、それぞれの時代、社会に応じて特色ある様式を形成する。本講は、この住様式を主対象とし、その種々相について問題を論じる。その内容は、まず近代以降の住宅平面の発展とそれに伴う住様式の変化を概説したうえで、家族の変化や地球環境問題、地域問題や集住などの視点から、今日的な住生活の問題を考察する。本講は歴史的、社会的背景の認識のうえで住生活のあり方を深く掘り下げて考え、これからの発展すべき方向への探求力を身につけると同時に、住宅計画の基盤となる考え方への理解を目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. 住生活、住様式概念とその視点の重要性への理解
2. 住様式の問題に関する過去の研究成果の理解
3. 平面の発展と機能分化過程の把握
4. 授業のポイントをつかみそれを的確にまとめる力、それをもとに住生活の問題を考える力、さらには自分のまとめを発表したり、他の発表に対する意見や質問を行う力を養う。

3. 教育・学習の方法

配布資料と併行して、パワーポイントにより授業を展開する。毎回の授業の主要ポイントを「授業ポートフォリオ」にまとめる。それを次回授業で発表。その発表に対し意見や質問を求めクラス全体で前回授業を振り返る。

・準備学習の具体的な方法

シラバスをみて次回授業のテーマを確認しておくこと。できれば参考図書(の次回テーマに関連する部分)に目を通しておく。

4. 評価方法・評価基準

まとめのテスト(70%)と授業への参加状況(30%)により評価する。

5. 授業予定

- 第1回 住まいの意味と住居観 生活様式と住様式
- 第2回 住宅平面の分化と住様式の変化
- 第3回 公私分離とリビングルーム
- 第4回 起居様式の洋式化と和室の動向
- 第5回 入浴様式と浴室
- 第6回 食生活、衣生活と住まい
- 第7回 家族と住生活 家族関係と住生活の問題
- 第8回 家族と住生活 ライフサイクルと住まい
- 第9回 家族と住生活 世帯の変化と新しい居住のあり方
- 第10回 地球環境問題と住まい 自然との応答性ある住まいと住み方
- 第11回 地球環境問題と住まい 住まいの寿命と住宅管理
- 第12回 地球環境問題と住まい モノの保有と生活財管理
- 第13回 住環境と地域生活 地域生活とコミュニティ
- 第14回 住環境と地域生活 集合住宅と住生活
- 第15回 住環境と地域生活 住民参加とまちづくり

6. 留意事項

講義コード	24502501			
科目名	住宅論			
担当者	中村 久美			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[建][イ]			
前提科目				
テキスト	毎回資料を配布する			
参考文献	『図説・近代日本住宅史』 内田青蔵ほか 鹿島出版会			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

シラバス、および対面セッション時に配布した授業スケジュールにそってテキストを読んでおくこと

4. 評価方法・評価基準

まとめのテスト（70%）と授業参加状況（30%）より評価する

5. 授業予定

- 第1回 住居史の視点
- 第2回 堅穴住居の復元
- 第3回 高床住居と平地住居 および原始集落
- 第4回 神社と住宅 古代初期の貴族の邸宅
- 第5回 古代の都市と宮殿
- 第6回 寝殿造1 敷地と建物構成
- 第7回 寝殿造2 空間構成としつらえ
- 第8回 平安末期の寝殿造
- 第9回 中世武士の住宅
- 第10回 書院造の成立
- 第11回 数奇屋風書院造
- 第12回 庶民住宅の流れ
- 第13回 明治の洋館 上流階級の住まいの近代化
- 第14回 中流層の住宅
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24502701		
科目名	家庭管理		
担当者	横山 淳人		
単位数	2	配当学年	34
資格	[家]		
前提科目			
テキスト	『新検定簿記ワークブック [3級/商業簿記]』 渡部・北村・片山 中央経済社		
参考文献	『新検定簿記講義 [3級/商業簿記]』 渡部・北村・片山 中央経済社 『初級簿記の知識』 山浦・大倉 日経文庫 『「家庭簿記」入門』 依田 家計会計協会		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

この授業では、近代以降、現代までの日本住居そのものの変容と、その基盤となる住まいに対する思想的変化、計画論の変遷を、欧米の住宅思想や様々な建築運動と関連付けながら講義する。それにより、近代以降の日本の住宅の諸相を理解するとともに、住宅のとらえ方（住宅論）が地域や社会のあり様、階層により異なるものであることを理解する。さらに、日本においては歴史の浅い都市型高密度居住としての積層型共同住宅におけるさまざまな試みや、コーポラティブ住宅、コレクティブ住宅など、居住への新しい動きを解説する。以上の理解より、現在の住宅問題、および将来の住宅のあり方を考える素地をつくることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 社会、地域、風土と住宅の関係の理解 2. 住宅の諸相の理解 3. 現代の住宅問題の認識 4. 毎回の授業で登場する諸住宅に対し、社会的見地から評価するとともに、自身の「住宅論」を構築し、主張できることを目指す

3. 教育・学習の方法

パワーポイントと配布資料により授業をすすめる。授業配布資料による復習を行うこと。毎回の授業で登場する住宅について、その評価を述べたり、他者の意見を評価したりして、自身の「住宅論」を形成していく。

・準備学習の具体的な方法

シラバス、および対面セッション時に配布した授業スケジュールにそって参考文献等を読んでおくこと

4. 評価方法・評価基準

まとめのテスト（70%）、授業への参加状況（30%）により評価する

5. 授業予定

- 第1回 住宅論とは 住宅の持続と変容
- 第2回 サラリーマンの住宅 - 近代化の過程
- 第3回 文化住宅 - 住宅改良の動き
- 第4回 都市・郊外と住まい
- 第5回 モダンズム住宅
- 第6回 現代日本住居の系譜
- 第7回 都市LDK型住宅
- 第8回 建築家の設計した住宅1
- 第9回 建築家の設計した住宅2
- 第10回 集合住宅 - 生活像と住戸の計画
- 第11回 集合住宅 - 集住のしくみ
- 第12回 居住者参加の集合住宅
- 第13回 新しい都市住宅の提案1
- 第14回 新しい都市住宅の提案2
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24502601		
科目名	住居史		
担当者	中村 久美		
単位数	2	配当学年	234
資格	[建][イ]		
前提科目			
テキスト	『日本住宅史図集』 住宅史研究会編 理工図書		
参考文献	『図説日本住宅史』 太田博太郎 彰国社 『日本建築史』 藤田勝也 古賀秀策 昭和堂		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

日本の住まいの歴史を振り返り、そのよって立つところを明らかにすることは、これからの住宅の有り様を考えるうえで非常に重要である。住居史では、現在の住環境を歴史的視点から評価し、住宅建築の将来の発展を考えるための基礎的知識を習得することを目標とする。この講義は、先史から近代にいたる、日本の住居の空間構成や意匠の歴史的変容を、そこで展開される生活にまで目を向け講述するものである。

2. 教育・学習の個別課題

1. 各時代の様式を、そこで展開される生活も含めて理解する 2. 住宅平面や意匠における変容を理解する 3. 支配階級の住宅と庶民住宅それぞれの発展の過程を把握する

3. 教育・学習の方法

テキストとパワーポイントにより授業をすすめる。 配布資料やテキストによる復習を行うこと

・準備学習の具体的な方法

1. 科目の教育目標

家計のストック化が進み、生活の全般において市場への依存度が強まり、また長寿化により生涯時間が延長している今日、個々の家計においては短期・長期両面での生活設計・管理がますます重要なテーマになりつつある。自らのライフプランを立てるに当たって、バランスシートの発想を持った家計簿をつけたり、金融商品を選択するときに財務諸表を参考にすることもあろう。そのために本科目では、まず複式簿記の基本的な手順を身につけ、次に生活や国民経済のなかで家計を位置づけて、家計のしくみや構造を理解することにより、これからの少子・高齢社会において、生涯を見つめて家計を計画し管理する必要性を学ぶことを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 日商簿記検定4級程度の知識を得ること。
2. 財務諸表を作成し、読めるようになること。
3. 家計のしくみや構造を理解すること。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法
 - (1)プリントを用いた講義形式による。
 - (2)毎回、解説のあとテキストの問題練習を行う。
2. 学習方法
 - (1)配布するプリントを理解すること。
 - (2)テキストの問題は自分で計算して解くこと。

・準備学習の具体的な方法

予習は特に必要としないが、復習としては、授業時間内にできなかった練習問題を解くこと。可能であれば、間違った練習問題を解き直してみる。練習問題を解くことが、理解の早道である。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（30%）、定期試験（70%）により行う。欠席・遅刻は、減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 簿記の意義・目的
- 第2回 資産・負債・資本と貸借対照表
- 第3回 収益・費用と損益計算書
- 第4回 取引

- 第5回 仕訳
- 第6回 転記
- 第7回 帳簿
- 第8回 試算表の作成
- 第9回 精算表
- 第10回 決算(1)
- 第11回 決算(2)
- 第12回 現金
- 第13回 当座預金・当座借越
- 第14回 家庭簿記(1)
- 第15回 家庭簿記(2)

6. 留意事項

電卓（10桁程度、関数機能不要）を必ず毎時間持ってくること。

講義コード	24502801		
科目名	家庭経済		
担当者	横山 淳人		
単位数	2	配当学年	34
資格	[家]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『経済統計』 田中勝人 岩波書店 2009 『統計のはなし』 大村平 日科技連 2002 『入門はじめての統計解析』 石村貞夫 東京図書 2006		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

21世紀前半のわが国は、世界の国々が経験したことの無いスピードで超高齢社会に突入することになる。反面、少子化とそれに伴う生産年齢人口の減少は、高齢者の生活を支える能力を家庭内にも社会的にも大幅に減少させることになる。このような背景で家庭経済が直面している課題を、種々の経済データを用いた統計分析を通じて、様々な角度から分析し考察する。なお、この授業では数式は扱うが数学ではなく、データの加工の仕方について学ぶものである。

2. 教育・学習の個別課題

1. 記述統計について理解を深めること。
2. データの分析方法について学び、家庭経済に関する経済データを用いた統計分析が行えるようになること。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法
 - (1) プリントを用いた講義形式による。
 - (2) 配布するデータを用いて、実際に分析してもらう。
2. 学習方法
 - (1) 配布するプリントを理解すること。
 - (2) 練習問題は必ず自分で計算してみる。

・準備学習の具体的な方法

テレビや新聞で報道されている経済データに注意しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（45%）、レポート（55%）により行う。欠席・遅刻は、減点対象となる。

欠席回数が4分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 経済データの分類
- 第2回 人口分布 (1) (度数分布とヒストグラム)
- 第3回 人口分布 (2) (構成比、特化係数など)
- 第4回 所得・貯蓄 (1) (分布の代表値)
- 第5回 所得・貯蓄 (2) (バラツキの尺度)
- 第6回 偏差値
- 第7回 正規分布 (1)
- 第8回 正規分布 (2)
- 第9回 消費 (1) (家計調査について)
- 第10回 消費 (2)
- 第11回 物価指数
- 第12回 相関係数
- 第13回 回帰
- 第14回 時系列分析 (移動平均法)
- 第15回 記述統計学から推測統計学へ

6. 留意事項

電卓（10桁程度、√の計算ができるものが望ましい）を必ず毎時間持ってくること。

講義コード	24503001			
科目名	家族関係			
担当者	山本 智也			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[家][保][子]			
前提科目				
テキスト	『新しい家族社会学(四訂版)』 森岡清美・望月嵩 培風館 2004			
参考文献	『家族心理学入門(補訂版)』 岡堂哲雄編 培風館 1999			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

現代の家族は、危機に直面していると言われている。少年非行、家庭内暴力、児童虐待、家庭内離婚、離婚といった問題はそれぞれに深刻化してきている。

こうした問題状況に対処し、人間が健やかに生活していくためには、家族を取り巻く状況を理解し、人間としての基盤ともいべき家族の役割を再認識していく作業が不可欠である。

そこで、本科目では、家族が直面する具体的な問題について認識を深めつつ、家族に関して体系的に理解していくことを目指している。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 家族と社会との関わり
- (2) 家族の定義と家族関係
- (3) 家族の定義と家族に関する制度
- (4) 家族の発達理論
- (5) 家族の役割
- (6) 家族の危機とその対処

3. 教育・学習の方法

上記の課題について、テキスト及び配布するプリントを用いて、講義を進めていく。

各回授業終了時に、授業で学んだことをまとめたシートを提出してもらうこととする。

・準備学習の具体的な方法

授業で取り上げる内容について、事前にテキストを熟読しておく他、新聞などで取り上げられる家族に関する記事を読むなどして、現代社会と家族との関わりについて知識を日々深めておくことが求められる。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（30%）、レポート（30%）、形成テスト（40%）による行う。

ただし、レポート未提出者は他の評価項目の点数にかかわらず、不合格とする。

5. 授業予定

- 第1回 家族と社会とのかかわり
- 第2回 家族の定義と家族に関する制度
- 第3回 家族の機能と心理構造
- 第4回 恋愛と配偶者選択
- 第5回 結婚の意義と機能
- 第6回 家族の発達段階
- 第7回 子どもの養育と社会化
- 第8回 高齢者の扶養と家族
- 第9回 家族の変動
- 第10回 問題行動と家族1
- 第11回 問題行動と家族2
- 第12回 問題行動と家族3
- 第13回 家族に対する援助理論
- 第14回 形成テストによる到達度の把握
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24506701			
科目名	公的扶助論 低所得者に対する支援と生活保護制度			
担当者	井手 巧			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[社][精][保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『新・社会福祉士養成講座 16「低所得者に対する支援と生活保護制度」』 中央法規出版 最新版 『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 14「公的扶助論」』 ミネルヴァ書房 最新版 『「保護のてびき」』 第一法規 最新版			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

現代社会における公的扶助の理念と意義について、生活保護制度の内容やしくみ及びその動向等を中心に学ぶことにより、理解することをねらいとする。福祉事務所や専門職の役割及びあり方等について、生活保護の現状や相談援助活動の実際などを学ぶことを通して理解することをねらいとする。

2. 教育・学習の個別課題

- ・公的扶助、つまりわが国においては生活保護に代表される制度が、なぜ必要でどのような役割や意義を持っているのか、その歴史の変遷、生活保護の現状や課題などから学ぶ。
- ・格差や貧困など、今私たちの周りで問題となっている様々な事象をどのように捉え理解するのか学ぶ。
- ・生活保護における自立支援とともに、低所得者に対する支援の実際及びあり方について学ぶ。

3. 教育・学習の方法

授業は、配布資料や参考事例により進める。

・準備学習の具体的な方法

授業予定の項目について、参考文献等に十分目を通し予め内容の把握に努めておく。また、生活保護等に関連する新聞記事などには普段から注意して目を通しておく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加状況等の平常点 (40 点)、形成テスト (60 点) により総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 公的扶助とは何か
- 第2回 現代における貧困・低所得者問題
- 第3回 世界における公的扶助の歴史的展開
- 第4回 日本における公的扶助の歴史的展開
- 第5回 公的扶助の概念と役割・意義 (整理)
- 第6回 生活保護制度の内容・しくみ①理念・原理・原則
- 第7回 生活保護制度の内容・しくみ②保護の種類
- 第8回 保護施設、被保護者の権利・義務等
- 第9回 生活保護の基準と最低生活
- 第10回 生活保護事務と実施体制
- 第11回 福祉専門職の役割と連携
- 第12回 生活保護の動向及び財源・予算
- 第13回 低所得者対策の概要
- 第14回 相談援助活動の実際と自立支援プログラム
- 第15回 まとめ及び形成テスト

6. 留意事項

講義コード	24506901			
科目名	老人福祉論 I 高齢社会の到来と福祉の課題			
担当者	三好 明夫			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[福][社]			
前提科目				
テキスト	『高齢者福祉学』 三好明夫、西尾隆司編著 学文社			
参考文献	随時紹介する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

現代社会は階層性のある社会である。その階層性の中で低位に位置づけられる存在が安心して生活できるならば、その社会は多くの人が安心して生活できる社会である。低位に位置づけられる存在とはいわゆる社会的弱者であり、その中の最大の層が高齢者である。すなわち、高齢者が安心して生活できる社会は多くの人が安心して生活できる社会である。逆もまた真である。老人の福祉を問うことは自分自身の生活保障を問うことである。社会に階層性がある以上、老いにも階層性がある。この授業では生活困難に見舞われている高齢者の問題を中心に扱う。特に我が国における老いと高齢化、高齢者自身を巡る問題に焦点を当て、高齢者の福祉を考えていく基礎を構築する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 高齢者をめぐる福祉課題の拡大化について学ぶ
2. 高齢者福祉に関わる歴史について学ぶ
3. 高齢者福祉に関わる制度の概要と各種サービスについて学ぶ
4. 老人福祉法について理解する

3. 教育・学習の方法

教科書を使用しつつも授業時に配布する資料も活用しながら講義を行う。視覚教材も使用して理解を深めてもらう。講義終了時には毎回の講義の理解度を確認するために指定する様式での小テストを提出する。

・準備学習の具体的な方法

高齢者福祉の現状は日々刻々と変化している。タイムリーな話題として高齢者福祉等に関する新聞記事などを紹介また印刷するが、その場合に受講生に意見感想を求めめるのでできるだけ日常の高齢者関連問題には留意すること。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業参加度 (30%)、小テスト・レポート (20%)、定期試験 (50%) とし、その総合点を最終評価とする。欠席回数が3分の1を超えた場合は原則単位認定しない。

5. 授業予定

- 第1回 高齢者の社会的理解
- 第2回 高齢者の身体的・精神的理解
- 第3回 少子高齢社会の現状と課題
- 第4回 高齢者をめぐるさまざまな問題
- 第5回 高齢者福祉の歴史
- 第6回 高齢者福祉制度の発展
- 第7回 高齢者福祉に関する制度の体系
- 第8回 老人福祉法について
- 第9回 老人と医療について
- 第10回 高齢者虐待防止法
- 第11回 高齢者に関する法規
- 第12回 介護保険制度
- 第13回 介護保険制度の目的・理念
- 第14回 介護保険制度の動向 (1)
- 第15回 介護保険制度の動向 (2)

6. 留意事項

社会福祉士資格の取得をめざす学生は、本科目と老人福祉論 II を併せて履修しなければならない。

講義コード	24507301			
科目名	社会福祉援助技術演習 I A			
担当者	村田 久行			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[社][保]			
前提科目				
テキスト	テキストは、特に指定しない。			
参考文献	テキストは、特に指定しない。授業のテーマ、必要に応じてプリント、参考資料などを配付する。			
備考	定員 20 人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24507302			
科目名	社会福祉援助技術演習 I B			
担当者	村田 久行			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[社][保]			
前提科目				
テキスト	テキストは、特に指定しない。			
参考文献	テキストは、特に指定しない。授業のテーマ、必要に応じてプリント、参考資料などを配付する。			
備考	定員 20 人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本演習は「社会福祉援助技術論」の履修を基礎とした「社会福祉援助技術現場実習」の事前授業、ならびに現場実習後の事後指導科目として位置づけられる。本演習で学生は実習の体験を生かしつつ、さまざまな社会福祉実践の場で対人援助に従事する専門職としての基礎的な能力を身につけることをめざしている。

2. 教育・学習の個別課題

社会福祉対人援助の意味を明確にしつつ、その対人援助実践能力を身につけることである。そのために対人援助職としての専門的なくもの見方と考え方、＜援助者の態度＞、＜コミュニケーションスキル＞、＜援助プロセスの実際＞を、観察・考察の演習と事例検討を通して学習する。

3. 教育・学習の方法

授業方法：①資料／映像の提示 ②社会福祉援助技術の視点からの講義と解説 ③グループディスカッション、ロールプレイ、グループワークを中心とした参加型クラスであり、各学生が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養う。後期は、＜援助プロセスの実際＞、＜事例検討＞を行う。

・準備学習の具体的な方法

毎回、次回の授業内容を示し、参考資料の予習を指示する。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加の態度(20%)、コミュニケーション能力と事例分析演習のレポート(80%)などの評価を以て総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 授業紹介と授業の進め方
- 第2回 社会福祉援助技術演習の意味、レポートの書き方
- 第3回 ものの見方・考え方①…「障害」とは何かについて
- 第4回 ものの見方・考え方②…レポートの発表とディスカッション
- 第5回 ものの見方・考え方③…「個性」とは何かについて
- 第6回 ものの見方・考え方④…「個性」についてのレポート発表とディスカッション
- 第7回 援助者の態度①…共感、受容、指導など
- 第8回 援助者の態度②…共感、受容、指導など
- 第9回 コミュニケーションスキル①…傾聴と共感
- 第10回 コミュニケーションスキル②…傾聴と共感
- 第11回 コミュニケーションスキル③…反復の技術
- 第12回 コミュニケーションスキル④…反復の技術
- 第13回 対人援助の意味 事例にもとづく援助プロセスの理解①
- 第14回 対人援助の意味 事例にもとづく援助プロセスの理解②
- 第15回 前半のまとめとレポート課題の説明
- 第16回 事例にもとづく援助プロセスの理解③
- 第17回 事例にもとづく援助プロセスの理解④
- 第18回 事例にもとづく援助プロセスの理解⑤

- 第19回 事例にもとづく援助プロセスの理解⑥
- 第20回 カンファレンスの実際①
- 第21回 カンファレンスの実際②
- 第22回 カンファレンスの実際③
- 第23回 カンファレンスの実際④
- 第24回 カンファレンスの実際⑤
- 第25回 カンファレンスの実際⑥
- 第26回 事例にもとづくソーシャルワーク理論の理解①
- 第27回 事例にもとづくソーシャルワーク理論の理解②
- 第28回 事例にもとづくソーシャルワーク理論の理解③
- 第29回 最終レポートの演習
- 第30回 最終レポート課題

6. 留意事項

講義コード	24507358			
科目名	社会福祉援助技術演習 I Y			
担当者	矢島 雅子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[社][保]			
前提科目				
テキスト	テキストは、特に指定しない。			
参考文献	『社会福祉士相談援助演習』 白澤政和、福山和女、石川久展編 中央法規 2009 『ソーシャルワーク演習ワークブック』 相澤謙治、植戸貴子編 みらい 2008 『ワークブック社会福祉援助技術演習』 山辺朗子 ミネルヴァ書房 2003 『ソーシャルワーク入門』 空閑浩人編 ミネルヴァ書房 2009 テキストは、特に指定しない。授業のテーマ、必要に応じてプリント、参考資料などを配付する。			
備考	定員 20 人 保育士養成課程専用(社会福祉士資格同時取得希望者専用)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本演習は「社会福祉援助技術論」の履修を基礎とした「社会福祉援助技術現場実習」の事前授業、ならびに現場実習後の事後指導科目として位置づけられる。本演習で学生は実習の体験を生かしつつ、さまざまな社会福祉実践の場で対人援助に従事する専門職としての基礎的な能力を身につけることをめざしている。

2. 教育・学習の個別課題

社会福祉対人援助の意味を明確にしつつ、その対人援助実践能力を身につけることである。そのために対人援助職としての専門的なくもの見方と考え方、＜援助者の態度＞、＜コミュニケーションスキル＞、＜援助プロセスの実際＞を、観察・考察の演習と事例検討を通して学習する。

3. 教育・学習の方法

授業方法：①資料／映像の提示 ②社会福祉援助技術の視点からの講義と解説 ③グループディスカッション、ロールプレイ、グループワークを中心とした参加型授業であり、各学生が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養う。後期は、＜援助プロセスの実際＞、＜事例検討＞を行う。

・準備学習の具体的な方法

毎回、次回の授業内容を示し、参考資料の予習を指示する。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加の態度(30%)、レポート(50%)、毎回の授業振り返りシート(20%)の評価を以て総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション、アイスブレイキング
- 第2回 自己理解と自己覚知
- 第3回 他者を理解すること
- 第4回 専門職としての価値・倫理 I
- 第5回 専門職としての価値・倫理 II
- 第6回 ソーシャルワーカーの使命と役割 I
- 第7回 ソーシャルワーカーの使命と役割 II
- 第8回 事例学習 I 社会的排除について
- 第9回 事例学習 II 虐待の問題について
- 第10回 事例学習 III 様々な生活問題について
- 第11回 事例学習のまとめ
- 第12回 相談援助におけるコミュニケーション技法

- 第13回 コミュニケーションとは何か
- 第14回 居心地の良い距離・視線
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 相談援助における基本技術 人を理解する
- 第17回 相談援助における基本技術 人のこころを理解する
- 第18回 相談援助における基本技術 人の気持ちを理解する
- 第19回 相談援助における基本技術 人の行動を理解する
- 第20回 相談援助における面接の目的と特性
- 第21回 インテーク面接の場面
- 第22回 面接における基本的応答技法Ⅰ
- 第23回 面接における基本的応答技法Ⅱ ロールプレイ
- 第24回 面接における基本的応答技法Ⅲ ロールプレイ
- 第25回 面接の展開
- 第26回 非言語コミュニケーション 姿勢・距離
- 第27回 非言語コミュニケーション 視線・表情・反応
- 第28回 支援計画を作成する
- 第29回 支援計画を発表する
- 第30回 後期のまとめ

6. 留意事項

- ・演習は学生の参加を前提とし、主体的態度をもって臨むこと
- ・グループワークは互いに尊重し、受容的な姿勢で参加すること

講義コード	24507359			
科目名	社会福祉援助技術演習ⅠZ			
担当者	村田 久行			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[社][保]			
前提科目				
テキスト	テキストは、特に指定しない。			
参考文献	テキストは、特に指定しない。授業のテーマ、必要に応じてプリント参考資料等をを配付する。			
備考	定員20人 保育士養成課程専用			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本演習は「社会福祉援助技術論」の履修を基礎とした「社会福祉援助技術現場実習」の事前授業、ならびに現場実習後の事後指導科目として位置づけられる。本演習で学生は実習の体験を生かしつつ、さまざまな社会福祉実践の場で対人援助に従事する専門職としての基礎的な能力を身につけることをめざしている。

2. 教育・学習の個別課題

社会福祉対人援助の意味を明確にしつつ、その対人援助実践能力を身につけることである。そのために対人援助職としての専門的なくもの見方と考え方、＜援助者の態度＞、＜コミュニケーションスキル＞、＜援助プロセスの実際＞を、観察・考察の演習と事例検討を通して学習する。

3. 教育・学習の方法

授業方法：①資料/映像の提示 ②社会福祉援助技術の視点からの講義と解説 ③グループディスカッション、ロールプレイ、グループワークを中心とした参加型クラスであり、各学生が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養う。後期は、＜援助プロセスの実際＞、＜事例検討＞を行う。

・準備学習の具体的な方法

毎回、次回の授業内容を示し、参考資料などでの予習を指示する。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加の態度(20%)、コミュニケーション能力と事例分析の演習レポート(80%)などの評価を以て総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 授業紹介と授業の進め方
- 第2回 社会福祉援助技術演習の意味、レポートの書き方
- 第3回 ものの見方・考え方①・・・「障害」とは何かについて
- 第4回 ものの見方・考え方②・・・レポートの発表とディスカッション
- 第5回 ものの見方・考え方③・・・「個性」とは何かについて
- 第6回 ものの見方・考え方④・・・「個性」についてのレポート発表とディスカッション
- 第7回 援助者の態度①・・・共感、受容、指導など
- 第8回 援助者の態度②・・・共感、受容、指導など
- 第9回 コミュニケーションスキル①・・・傾聴と共感
- 第10回 コミュニケーションスキル②・・・傾聴と共感
- 第11回 コミュニケーションスキル③・・・反復の技術

- 第12回 コミュニケーションスキル④・・・反復の技術
- 第13回 対人援助の意味 事例にもとづく援助プロセスの理解①
- 第14回 対人援助の意味 事例にもとづく援助プロセスの理解②
- 第15回 前半のまとめとレポート課題の説明
- 第16回 事例にもとづく援助プロセスの理解③
- 第17回 事例にもとづく援助プロセスの理解④
- 第18回 事例にもとづく援助プロセスの理解⑤
- 第19回 事例にもとづく援助プロセスの理解⑥
- 第20回 カンファレンスの実際①
- 第21回 カンファレンスの実際②
- 第22回 カンファレンスの実際③
- 第23回 カンファレンスの実際④
- 第24回 カンファレンスの実際⑤
- 第25回 カンファレンスの実際⑥
- 第26回 事例にもとづくソーシャルワーク理論の理解①
- 第27回 事例にもとづくソーシャルワーク理論の理解②
- 第28回 事例にもとづくソーシャルワーク理論の理解③
- 第29回 最終レポートの演習
- 第30回 最終レポート課題

6. 留意事項

講義コード	24507401			
科目名	医学一般Ⅰ 人体の構造と機能及び疾病			
担当者	萩原 暢子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[社][健][精]			
前提科目				
テキスト	『社会福祉士養成講座「1 人体の構造と機能及び疾病」 —医学一般— 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2011			
参考文献	『からだの地図帳』 高橋長雄 講談社 1997 『病気の地図帳』 山口和克 講談社 2000			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

近年、iPS細胞や遺伝子治療など医学・医療の進展は目覚ましく、医療機関の機能は益々複雑になりつつある。医療が疾病構造の変化や国民の意識、患者のニーズによって時代と共に変遷することはいうまでもないが、「病める人」を治療したり、ケアするという医療の本質は、いつの世も変わらないことを銘記しておく必要がある。最近の医療では、サービスの質の向上や、専門分野の高度化により、医師だけでは完結できないことも多くなっている。今日の老化の問題を含めて、福祉医療に携わる将来のために、基礎的、かつ実践でも役立つ一般的な医学的教養を学習する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 人の成長・発達と老化
2. 身体構造と心身の機能
3. 疾病の概要
4. 障害の概要
5. リハビリテーションの概要
6. 国際生活機能分類の概要
7. 健康のとらえ方

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法 講義形式
2. 学習方法
 - (1)テキストに沿って行う、プリントで内容補充。
 - (2)人体模型やオーバーヘッドプロジェクター、パワーポイントを用い、頭の中にイメージを作っていく。
 - (3)授業の終わりに理解度と質問事項の調査を行い、次回の講義で解説する。
 - (4)毎回復習をすること。
3. テキスト・文献など
 - (1)テキストは社会福祉士養成講座『医学一般』(中央法規)を用いる。
 - (2)参考文献
 - ①『からだの地図帳』(講談社)
 - ②『病気の地図帳』(講談社)

・準備学習の具体的な方法

1. 毎回復習をして、内容を理解すること。毎時間補助プリントを配付するので、しっかり読んでおくこと。分からないところは、次の授業で必ず質問すること。

2. テキストの大項目と太字のところを読んでおくこと。

4. 評価方法・評価基準

1. 成績は、中間テスト(20%)、定期テスト(70%)、授業参加度(10%)の総合評価とする。

2. 3分の2以上の出席がないものは、成績は評価しない。

5. 授業予定

- 第1回 第1章人の成長・発達と老化 第1節、第2節
- 第2回 第1章人の成長・発達と老化 第3節、第2章身体構造と心身の機能 第1節、第2節1~3
- 第3回 第2章身体構造と心身の機能 第2節4~7
- 第4回 第2章身体構造と心身の機能 第2節7、8、第3章疾病の概要 第1節~第2節
- 第5回 第3章 疾病の概要 第3節~第5節
- 第6回 第3章 疾病の概要 第6節~第9節
- 第7回 第3章 疾病の概要 第10節~第14節
- 第8回 中間テスト 第3章 疾病の概要 第15節~17節
- 第9回 第4章 障害の概要 第1節~第4節
- 第10回 第4章 障害の概要 第5節~第8節
- 第11回 第4章 障害の概要 第9節~第10節、第5章リハビリテーションの概要 第1節
- 第12回 第5章リハビリテーションの概要 第2節~第5節
- 第13回 第6章 国際生活機能分類の概要 第1節~第4節 第7章 健康のとらえ方 第1節
- 第14回 第7章 健康のとらえ方 第2節~第7節
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24507501			
科目名	介護概論 介護福祉の専門性と独自性			
担当者	三好 明夫			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[福][社][健]			
前提科目				
テキスト	『介護福祉学』 三好明夫編著 学文社			
参考文献	『ケアの本質』 ミルトン・メイヤロフ 著 田村真他訳 ゆみる出版			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

1. 「介護福祉」とは何かを理解する。2. 介護福祉の知識・技術・倫理への理解を深める。3. 福祉・保健・医療の連携・統合の必要性を学ぶ。4. 在宅福祉、介護機器・住宅改修の適用を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 介護福祉の意義や目標、機能 2. 介護福祉サービスを必要とする人間の理解 3. 介護保険制度における介護 4. 介護福祉を展開する際に必要な知識

3. 教育・学習の方法

教科書を使用しつつも授業時に配布する資料も活用しながら講義を行う。視覚教材も使用して理解を深めてもらう。講義終了時には毎回の講義の理解度を確認するために指定する様式での小テストを提出する。

・準備学習の具体的な方法

高齢者介護福祉の現状は日々刻々と変化している。タイムリーな話題として高齢者介護福祉等に関する新聞記事などを紹介また印刷するが、その場合に受講生に意見感想を求めているので日常の高齢者介護の関連問題には留意すること。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業参加度(30%)、小テスト・レポート(20%)、定期試験(50%)とし、その総合点を最終評価とする。欠席回数(3分の1を超えた場合は原則単位認定しない)。

5. 授業予定

- 第1回 「介護福祉」とは何か
- 第2回 介護福祉の理念
- 第3回 介護福祉利用者の理解
- 第4回 介護過程の概要
- 第5回 介護過程の展開
- 第6回 介護と自立支援
- 第7回 介護の実際(1)
- 第8回 介護の実際(2)

- 第9回 介護の実際(3)
- 第10回 認知症と介護
- 第11回 終末期と介護
- 第12回 高齢者の住環境
- 第13回 高齢者介護の課題
- 第14回 高齢者へのさまざまな支援
- 第15回 高齢者介護の推進およびまとめ

6. 留意事項

社会福祉士資格の取得をめざす学生は本科目を履修しなければならない。

講義コード	24508101			
科目名	レクリエーション実習			
担当者	樫 智子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[レ][保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『楽しいをつくるーやさしいレクリエーションの実践ー』 (財)日本レクリエーション協会 『楽しいアイスブレイキングゲーム集』 (財)日本レクリエーション協会 『やさしい折り紙』 主婦の友社 『こどものおりがみ』 ブティック社 『レクリエーション支援の基礎』 (財)日本レクリエーション協会			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

レクリエーションとは、個別の種目ではなく大変幅の広い様々な活動を含む概念である。それらの活動に共通することは、「楽しさ」「健やかさ」を含んでいることで、その結果「気晴らし」になったり「リフレッシュ」されたり、「健康」の保持・増進に役立ったり、「生きがい」にも繋がっている。これらのベネフィットを上手く引き出すための様々なレクリエーション財について、実践を通して体験・理解し、実際に指導する際に必要な技術を身につけ、リーダーとして活躍できる実践力を養うことを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

- ①アイスブレイキング(人と人が楽しさを通じて自然にふれあい、仲間意識をもてるようになるための方法)を身につける。
- ②ホスピタリティ・トレーニング(話すこと、聴くこと、表現力を身につける)
- ③レクリエーション活動の企画・実践(プログラムの立案から評価までの演習)
- ④レクリエーション財の活用(暮らし遊び系、身体表現系、スポーツ系、自然活動系等)

3. 教育・学習の方法

- ①実技の実践を中心として授業を進めるが、ただ体を動かすのではなく、リーダーとしての実践力を高める高めるために、実践した内容を記録したり、プログラムを企画・指導することに重点を置き進めていく。
- ②グループ活動によって、コミュニケーション能力や色々な役割での実践力を身につける。
- ③資料は、別の欄に記載した書籍を参考文献として活用し、その中から適宜配布する。

・準備学習の具体的な方法

レクリエーション現場実習(事業参加)など、関連する科目と共にレクリエーション活動に対する理解を総合的に深めること。また、単に授業に参加するだけでなく、「支援者として、自分などのように参加者を支援するか」を念頭に置きながら授業に臨むこと。

4. 評価方法・評価基準

- ①評価資格=出席率が80%以上の者に関して、資格を与える。
- ②遅刻(15以内)は3回で1回の欠席とし、見学・早退は2分の1出席とする。
- ③代替措置=「公欠」を含み出席率が80%に満たない場合に限り、レポート等の代替措置を実施する。
- ④評価基準=授業態度・取り組み(40%)、理解力[提出物の内容](30%)、演習に関する取り組み・指導力(20%)、学外実習[事業参加](10%)
- ⑤評価の観点=a)積極性 b)企画・指導力 c)リーダーシップ d)サポート役としての活動 e)実践力 の5つを軸とし、レクリエーション・インストラクターとしての資質を見る。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方、ノート提出、出席・評価について)
- 第2回 アイスブレイキングゲーム①(出会い・紹介のゲーム)

- 第3回 コミュニケーション・ワーク
- 第4回 言葉遊び①
- 第5回 クラフト① (梅雨の風景～折り紙でパーツ作り～)
- 第6回 クラフト② (梅雨の風景～作品制作・グループワーク～)
- 第7回 クラフト③ (水族館～遊びの材料作り～)
- 第8回 チーム対抗 (リレー形式) ゲーム
- 第9回 クラフト① (七夕飾り～折り紙・切り紙～)
- 第10回 アイスブレーキングゲーム② (ジャンケンゲーム)
- 第11回 アイスブレーキングゲーム③ (小グループでの交流)
- 第12回 手遊び・指遊び
- 第13回 知的・イメージゲーム①
- 第14回 知的・イメージゲーム②
- 第15回 まとめ (前期の振り返り、ノート提出)
- 第16回 後期授業のガイダンス
(ニュースポーツについて、指導演習について)
- 第17回 ニュースポーツ① (チャレンジ・ザ・ゲーム)
- 第18回 ニュースポーツ② (ペタンク)
- 第19回 ニュースポーツ③ (ソフトバレーボール)
- 第20回 ニュースポーツ④ (インディアカ)
- 第21回 指導演習①
- 第22回 指導演習②
- 第23回 指導演習③
- 第24回 指導演習④
- 第25回 クラフト⑤ (クリスマス飾り～折り紙～)
- 第26回 クラフト⑥ (リース作り)
- 第27回 クラフト⑦ (クリスマス飾り～松ぼっくりのミニツリー作り～)
- 第28回 一文字表現+ちぎり絵
- 第29回 言葉遊び②
- 第30回 まとめ (一年間の振り返り、ノート・レポート提出)

6. 留意事項

運動に適したウェア・シューズの着用を義務付ける場合や使用教室の変更がある場合、また各自持参する備品などに関する事を事前に口頭で連絡をするので注意すること。

講義コード	24508201			
科目名	レクリエーション現場実習			
担当者	三好 明夫			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[レ][保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	通年にわたり集中			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本科目は、都道府県及び市区町村レクリエーション協会等が開催する事業に、十分な知識を持って参加出来るようにするための事前指導、参加した事業の評価を行う事後指導、授業として履修者全員でイベントに参加することを中心に、レクリエーションインストラクターとしての現場での実践力を身に付けることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 開催されるレクリエーションのイベントについて理解する。2. 参加した事業について分析し、より良い事業にするためのアイデアを生み出す。3. 参加者、スタッフ、責任者それぞれの立場から見た事業について理解する。4. レクリエーションインストラクターとしての資質を身につける。

3. 教育・学習の方法

1. (財)日本レクリエーション協会等が開催するレクリエーション関連事業についての説明を講義形式で行う。2. 事業に関する事前、事後指導を行う。(事前指導は一斉、事後指導は個別) 3. 履修者全員でレクリエーションのイベントに参加する。(参加イベントについては授業で告知)

・準備学習の具体的な方法

「レクリエーション論」「レクリエーション実習」で学んだ内容を再確認してから事業参加すること。

4. 評価方法・評価基準

「事業・イベント」に参加した時のレポートの内容及び、レクリエーションイベントに参加した際の様子及び参加レポートから、インストラクター

としての資質について検討し評価を行う。現場の実習をすべて終了した受講者(履修カードに10回分のスタンプが捺印され、報告レポートをすべて提出)を評価の対象とする。

5. 授業予定

以下の内容を順次行っていく。(全体での講義と個別指導)

- ①事前指導 (事業への参加の仕方、心得、レポートの書き方等の指導)
- ②事業参加のレポートを基に、事後指導を行う
- ③イベントに参加するための計画・準備を行い、実践し、振り返りを行う
- ④受講者全員でイベントに参加し、レクリエーションの運営について学ぶ (イベントはイベントのスケジュールと受講者の予定を調整して決定する)

6. 留意事項

初回の講義は、レクリエーションの現場実習への参加の仕方について、4月中旬に行う予定である。4月初旬に日時について掲示を行うので確認のうえ、必ず参加すること。

講義コード	24508301			
科目名	リハビリテーション論			
担当者	蘆田 ひろみ			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『リハビリテーション医学』 三上真弘 編 南江堂 1993年 『リハビリテーションの理論と実際』 上田敏 編 ミネルヴァ書房 2005年			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

リハビリテーションという言葉は、現在では世界一般に広く知られ、また福祉社会の中では、それは社会的にも経済的にも大きな役割をもつ。そしてリハビリを理解するためには、単に手技だけでなく生物学領域の基本知識も必要である。

この授業では、現在実際に医療現場で行われているリハビリテーションの概略を説明するとともにリハビリテーションのもつ社会的役割、歴史的経過について学びたい。授業はスライドを用いて実践現場での手技、方法等を説明する。まず整形外科的基礎知識(骨、関節、筋肉、神経)次にその動きを学び、障害された状態、具体的なリハビリの方法について学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

関節、骨、筋肉、上肢の運動、歩行、神経。

3. 教育・学習の方法

講義

・準備学習の具体的な方法

前の時間に配るアジェンダを使用

4. 評価方法・評価基準

- 1. 評価は、期末試験を中心とするが、平常点を加え総合して行う。
- 2. 授業日数の2/3以上の出席を求める。

5. 授業予定

- 第1回 リハビリテーションの概略
- 第2回 リハビリの基礎医学
- 第3回 関節、骨、筋肉
- 第4回 上肢の運動
- 第5回 下肢の運動、歩行
- 第6回 神経、循環
- 第7回 リハビリの評価、診断
- 第8回 言語、視覚、聴覚領域のリハビリ
- 第9回 介護領域のリハビリのリハビリ実践
- 第10回 小児科領域のリハビリ、姿勢について
- 第11回 医療領域のリハビリの実際
- 第12回 高齢者のリハビリ、認知症とのかねあい
- 第13回 現実のリハビリの工夫
- 第14回 試験勉強
- 第15回 試験

6. 留意事項

プロジェクターを使うので部屋を暗くすることもある。

講義コード	24508401			
科目名	福祉レクリエーション論			
担当者	マーレー 寛子			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『事例でなっとく！よく分かる福祉レクリエーション・サービス実施マニュアル①』 日本レクリエーション協会			
参考文献備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24508501			
科目名	福祉レクリエーション援助論			
担当者	マーレー 寛子			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『事例でなっとく！よく分かる福祉レクリエーション・サービス実施マニュアル②』 日本レクリエーション協会			
参考文献備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

社会福祉援助の現場におけるレクリエーションとは、個人個人が持っている価値観や性格、文化など、様々な要素からなるその人の生活の中の楽しみや喜びを引き出すことである。ここでは援助技術の一つとしてのレクリエーションの理論、福祉レクリエーションワーカーの役割などを体系的に学び、又、その実践理論を学ぶ。またレクリエーション援助が社会福祉援助の中にどのように位置づけられるかを学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

(1) 「楽しむこと」についての理解 (2) 「楽しむこと」「遊び」に関する諸理論を理解 (3) 福祉レクリエーションの理論と援助方法を理解 (4) 福祉レクリエーションの法体系と行政施策を理解 (5) 福祉レクリエーションの展開分野の概観を理解 (6) 福祉レクリエーション援助者の基本スタンスの理解

3. 教育・学習の方法

「事例でなっとく！よく分かる福祉レクリエーション・サービス実施マニュアル①」(日本レクリエーション協会出版)をテキストに授業を展開する。また授業の効率化を図る目的でスライドやビデオの視聴および必要に応じプリント資料を配付する。

・準備学習の具体的な方法

「余暇」「遊び」に関する文献を読む。

4. 評価方法・評価基準

出席状況および授業参加態度(10%)レポート(40%)確認テスト(50%)の総合評価とする。3分の1以上の欠席がある場合、成績の評価は行わない。

5. 授業予定

- 第1回 社会福祉におけるレクリエーションの意義
- 第2回 福祉レクリエーションの概念
- 第3回 遊び論
- 第4回 フロー理論と楽しみの要素
- 第5回 福祉レクリエーションの機能
- 第6回 福祉レクリエーションの歴史
- 第7回 福祉レクリエーション実践領域：
老人福祉施設での実践
幼老統合ケアの実践
- 第8回 福祉レクリエーション実践領域：
身体障害者・知的障害者諸施設での実践
児童福祉施設での実践
- 第9回 福祉レクリエーション実践領域：精神保健福祉領域での実践
- 第10回 福祉レクリエーション援助者の役割と資質
- 第11回 福祉レクリエーションのためのグループづくり
- 第12回 福祉レクリエーションとグループワーク
- 第13回 セラピューティックレクリエーションの意義
- 第14回 福祉レクリエーションの法体系と行政施策
- 第15回 福祉レクリエーションの課題

6. 留意事項

1. 科目の教育目標

福祉レクリエーション論で学んだ理論を踏まえ、福祉レクリエーションを実際に展開する時のプログラムや対人関係のあり方を学ぶ。またセラピューティックレクリエーションの考え方に基づき、レクリエーションの総合的プログラム計画を学び、アセスメント・計画・実施・評価というエーパイロセスの方法を学ぶ。実践現場の現状を踏まえつつ、理論の応用について学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

(1) セラピューティックレクリエーションの理論を理解する
(2) 総合的プログラム計画及びエーパイロセスの理解を深める
(3) 福祉レクリエーションの考え方をもとに対象者への個別援助計画の方法を理解する
(4) グループワークを通した福祉レクリエーション援助の方法が理解できる

3. 教育・学習の方法

「事例でなっとく！よく分かる福祉レクリエーション・サービス実施マニュアル②」(日本レクリエーション協会出版)をテキストに授業を展開する。また授業の効率化を図る目的でスライドやビデオの視聴および必要に応じプリント資料を配付する。

・準備学習の具体的な方法

障害者・高齢者の生きがいに関する文献を読む。子どもと遊びに関する文献を読む。

4. 評価方法・評価基準

出席状況および授業参加態度(10%)レポート課題(40%)確認テスト(50%)の総合評価とする。3分の1以上の欠席がある場合、成績の評価は行わない。

5. 授業予定

- 第1回 福祉レクリエーション援助の基本的な考え方
- 第2回 総合プログラム計画、援助の目的、援助プロセス
- 第3回 APIE プロセス
- 第4回 アセスメントの方法、考え方
- 第5回 福祉レクリエーションプログラム個別援助計画
- 第6回 福祉レクリエーションプログラム企画計画方法
- 第7回 福祉レクリエーションプログラム実施方法
- 第8回 福祉レクリエーションプログラム評価方法
- 第9回 福祉レクリエーション援助の記録方法
- 第10回 レジャー教育、レジャーカウンセリング
- 第11回 福祉レクリエーションにおけるICFの活用
- 第12回 福祉レクリエーション援助における社会資源の分析と分類方法
- 第13回 福祉レクリエーションにおける対人援助法
- 第14回 レクリエーション財の開発とアレンジ法
- 第15回 総合まとめ

6. 留意事項

講義コード	24508601			
科目名	福祉レクリエーション援助技術			
担当者	マーレー 寛子			
単位数	2	配当学年	34	
資格	【保】			
前提科目				
テキスト	『事例でなっとく！よく分かる福祉レクリエーション・サービス実施マニュアル③』 日本レクリエーション協会			
参考文献				
備考	「福祉レクリエーション論」、「福祉レクリエーション援助論」の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

人々が生活の中で楽しみを見つけそれを生活の中に生かしていくことが生きていく上で重要な要素であることを認識し、福祉援助の中においても欠いてはならないものであることを理解することができる。

2. 教育・学習の個別課題

福祉援助領域において人々が喜び生きることを援助するための具体的な理論に裏打ちされた援助技術を理解し、実践できる力をつける。

3. 教育・学習の方法

福祉レクリエーション論、福祉レクリエーション援助論を下にグループ討議などを通し、具体的なレクリエーション計画を立てる。また、実際にロールプレイやグループ発表を通し具体的な援助の方法を身につける。

・準備学習の具体的な方法

授業で発表する為の事前準備。図書館等での資料を収集。

4. 評価方法・評価基準

レポート、プロジェクト等の提出物 30%

グループ参加 30%

発表 20%

出席 20%

(1/3以上の欠席があった場合単位は認めない。遅刻3回で欠席1回とする)

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 レクリエーション援助とコミュニケーション
- 第3回 レクリエーション援助とコミュニケーション
- 第4回 回想法
- 第5回 レクリエーションゲームについて
- 第6回 レクリエーションゲームの中のリーダー
- 第7回 発表
- 第8回 レクリエーション援助の中の社会資源
- 第9回 レクリエーション援助の中の社会資源
- 第10回 障がい擬似レクリエーション体験
- 第11回 アクティビティ分析
- 第12回 アクティビティ分析
- 第13回 プログラムアレンジについて
- 第14回 グループ発表
- 第15回 グループ発表
- 第16回 総合的プログラム計画
- 第17回 総合的プログラム計画：組織の理念
- 第18回 総合的プログラム計画：分析
- 第19回 個別援助計画(レクリエーションアセスメント)
- 第20回 個別援助計画(レクリエーションプランニング)
- 第21回 個別援助計画(評価)
- 第22回 発表
- 第23回 グループを介したレクリエーション援助
- 第24回 グループを介したレクリエーション援助
- 第25回 発表
- 第26回 発表
- 第27回 SOAP 記録のとり方
- 第28回 SOAP 記録のとり方
- 第29回 福祉レクリエーション総合演習
- 第30回 福祉レクリエーション総合演習

6. 留意事項

講義コード	24508801			
科目名	介護技術			
担当者	中村 美智代			
単位数	2	配当学年	2	
資格	【福】			
前提科目				
テキスト	『介護技術学』 三好明夫・仲田勝美 学文社 別途指示する。			
参考文献	『介護福祉士初任者のための実践ガイドブック』 日本介護福祉士会・編 中央法規出版 『障がい者自立生活センターの介助サービストラブルの実態と予防・対処への提言』 松山光生 明石書店			
備考	定員 15名			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

人権意識と利用者の多様性を理解する。

そのために必要なコミュニケーション能力、介護技術を身につける。

2. 教育・学習の個別課題

1. 介護技術を学ぶ意義と人権保障について習得する。
2. コミュニケーション技法、観察・技法について学習する。
3. 環境整備と福祉用具の使い方についての知識を習得する。
4. 生活場面の移乗・移動介助について理解し、介助の技術を身につける。
5. 食事の介護について知識を身につけ、介助できるようにする。
6. 排泄の意義と目的を理解した上で、介助技術を習得する。
7. 着脱と整容の介護についてその意味を理解し、介助できるようにする。
8. 清潔の介護の意義を理解し、介助技術を習得する。
9. 医療との連携の必要性と意義を理解し、緊急時の対応について学習する。
10. 事例検討を通して、介護計画を作成しアセスメントの重要性を学ぶ。
11. 立案した介護計画に基づいてディスカッションを行う。

3. 教育・学習の方法

授業方法は講義・演習・小テスト・ディスカッションによる。

・準備学習の具体的な方法

- 1 人体の構造と機能についての予備学習(プリント、DVD)
- 2 演習に入る前に講義による知識を得て、デモンストレーション・実技を実施する。

4. 評価方法・評価基準

①欠席回数が3分の1を超越したら受験資格を失う。

②出席および授業参加度 30%

③小テスト 20%

④最終試験 50% で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 介護技術を学ぶ意義 -その基本視点- 介護技術と人権保障
- 第2回 コミュニケーションの技法
- 第3回 観察・記録の技法
- 第4回 環境整備 住環境、寝具の整備 福祉用具の使い方
- 第5回 社会生活維持拡大の技法
移乗・移動介助 I -ベッドサイドの移動・移乗の介護-
- 第6回 社会生活維持拡大の技法
移乗・移動介助 II -歩行の介護と車いす利用時の介護-
- 第7回 食事の介護
- 第8回 排泄介護 I -トイレでの排泄介護-
- 第9回 排泄介護 II -介助用品利用の排泄介護-
- 第10回 着脱(整容)の介護
- 第11回 清潔の介護 I -入浴の介護-
- 第12回 清潔の介護 II -身体清潔・整容の介護-
- 第13回 医療との連携 急変・事故の時の対応
- 第14回 事例検討 I -介護過程の展開に基づいて-
- 第15回 事例検討 II -コミュニケーションの技術に焦点を当てて-

6. 留意事項

講義コード	24510901			
科目名	食品加工学(実験を含む)			
担当者	加藤 佐千子			
単位数	3	配当学年	234	
資格	[フ]			
前提科目				
テキスト	『食品加工学実験書』 森 孝夫 化学同人 2008 必要に応じて資料を配布する			
参考文献	『基礎からの食品・栄養学実験』 村上俊男 建帛社 1998 『食品加工実習・実験書』 吉田企世子 医歯薬出版 2003			
備考	定員 24 人 週 2 コマ連続			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

私たちは、日頃、摂取する食品のエネルギー量に気をつけることはあるが、食品成分の化学変化やその食品がどのように加工されているかを意識することは少ない。そこで、この授業では、身近な加工食品について、定性実験、定量実験、及び加工実習を通して、食品成分の化学的変化、食品の物理的性質および加工過程や原理を理解することを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 化学実験の基礎技術(器具装置の扱い方、試料の調整法、試薬の扱い方、データの処理の仕方)を身につける。
2. 定量実験・定性実験の手法・原理を理解する。
3. 食品成分の化学変化、物理的性質を理解する。
4. 食品加工の製造過程、原理を理解する。

3. 教育・学習の方法

1. 3~4人のグループで実習する。
2. 実験法・操作法の講義と実験または実習で授業を構成する。
3. 原則として、所定の授業時間内に完了する内容とするが、必要に応じて時間割上の時間以外にも出席して実験する必要もある。
4. 事前に予習をする。
5. 実習後にレポート提出を行う。
6. 積極的に参加し、必ず自分の手で操作する。

・準備学習の具体的な方法

1. 教科書、配布冊子を熟読する(授業の内容と関連する教科書のページは以下の通り)。
第1回~第5回(配布資料)、第6回(61~69頁)、第7回(配布資料)、第8回(12~18頁)、第9回(配布資料)、第10回(27~38頁)、第11回(75~86頁)、第12回(43~45頁、81~91頁)、第13回(配布資料)、第14回(39~41、97~98頁)
2. レポート作成では、教科書や配布冊子以外に専門書や文献を用いて理解を深めて記述するとよい。
3. 食品成分表や食事摂取基準のデータを元に、実験で用いた食品や加工実験で製造した食品について調べて記述するとよい。

4. 評価方法・評価基準

- 評価基準・レポートの提出ができたか。各実験の原理や、食品加工の基礎を理解できたか。意欲的に取り組んでいたか。
- 評価方法・レポート提出59%、レポート内容30%、平常点(実験への参加度・態度)11%。
- ・10回以上の出席がない場合は、評価の対象とすることができない。
 - ・5回以内の欠席なら自学習してレポートを提出すればレポート提出点を与えられる。

5. 授業予定

- 第1回 器具・簡単な装置の扱い方、試料の調整法、試薬の扱い方
- 第2回 食品、飲料のpHの測定 食品の塩分と糖度の測定
- 第3回 食品(こんにやく、はんぺん、かまぼこ、魚肉ソーセージ、畜肉ソーセージ、チーズ、絹ごし豆腐)の硬さの測定、食品の色(味噌の色)の測定
- 第4回 果実の有機酸の定量・ヨーグルトの酸度の定量(pH、糖度の測定、規定液の秤量と中和滴定)
- 第5回 ペクチンゼリーに対するペクチン、pH及び糖濃度の影響(粘度の測定)
- 第6回 果物の加工(マーマレード、林檎ジャムの製造、糖度の測定、瓶詰め)
- 第7回 小麦粉に関する実験(吸水率、湿麩・乾麩量、pHとドウの粘弾性との関係、デンプンの糊化)
- 第8回 穀物の加工(うどん、中華麺、パスタの製造)

- 第9回 豆乳の凝固試験(塩類の影響、塩濃度の影響、加熱温度の影響)
- 第10回 豆の加工(みそ・豆腐・湯葉の製造)
- 第11回 乳の加工(カッテージチーズ・発酵乳・バター・アイスクリームの製造とpHの測定)
- 第12回 卵の加工(マヨネーズの製造、粘度測定)、いもの加工(こんにやくの製造)
- 第13回 野菜の加工(トマトピューレの製造、糖度の測定、瓶詰め)
- 第14回 海藻の加工(昆布のつくだに) 豆の加工(あんの製造)
- 第15回 授業のまとめ

6. 留意事項

- ・実験中は、種々の危険が伴うので、安全に気をつけるとともに、私語は慎むこと。
- ・食品加工に使用する材料費(実費4000円位)が必要。
- ・白衣を着用すること。
- ・各回のレポート提出の期限は、翌週の授業開始前とする。

講義コード	24511001			
科目名	食品安全性学			
担当者	根立 恵子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[フ]			
前提科目				
テキスト	『食品の安全性』 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 2011			
参考文献	『健康・栄養科学シリーズ「食べ物と健康Ⅲ」食品の安全性』 菅野道廣等編 南江堂 2006			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

食品の安全性を図ること、つまり食品による健康障害を起こさないように予防対策を講じることは、多種多様な食品が様々な方法で入手できる現在、必要不可欠である。食生活の安全を確保するためには、生産者や製造・加工・流通に関わる者、行政だけでなく、消費者も正しい知識を持ち、的確に選択、保管、消費しなくてはならない。これらの観点から、食品の安全性を高めるための基本的知識を身につけることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 食品の安全を脅かす因子と発生原因を知る。
2. 食品の安全性を高めるための方策を学び、それを食生活に生かす方法を考える。

3. 教育・学習の方法

授業方法は講義形式で、テキストを使用して行い、プリントやスライド等で補足する。

・準備学習の具体的な方法

1. 予習
 - ・テキストを読むと共に、食の安全性に関する新聞などの記事を読み、食の安全性の現状と問題点を把握しておく。
2. 復習
 - ・受講した内容を復習して知識を定着させるとともに、不明な点を明らかにして質問できるようにする。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度(30%)、授業態度(10%)、レポート(20%)、筆記試験(40%)の総合評価とする。

5. 授業予定

- 第1回 食品の安全性
- 第2回 食品の腐敗・変敗とその防止
- 第3回 食中毒(食中毒の分類と発生状況)
- 第4回 食中毒(微生物性食中毒)
- 第5回 食中毒(自然毒食中毒)
- 第6回 食中毒(化学性食中毒、経口的寄生虫疾患)
- 第7回 食品の安全性の確保(食肉・食肉加工品、生鮮魚介類、水産加工品、野菜・果実類、牛乳・乳製品)
- 第8回 食品の安全性の確保(鶏卵、惣菜類、弁当・にぎり飯・米飯・調理パン、食用油脂および油脂を多く含む食品、冷凍食品)
- 第9回 家庭における食品の安全保持
- 第10回 環境汚染と食品
- 第11回 器具および容器包装
- 第12回 水の衛生
- 第13回 食品の安全流通と表示(食品の表示、食品添加物)

第14回 食品の安全流通と表示（輸入食品、遺伝子組換え食品、食品とアレルギー、発ガン物質）、食品の安全管理

第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24511101			
科目名	栄養学概論			
担当者	小林 ゆき子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[家][健][フ][保]			
前提科目				
テキスト	『見てわかる！栄養の図解事典』 中村丁次著 PHP 研究所			
参考文献	『NEXT 基礎栄養学』 木戸・中坊編 講談社			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

人が生命を維持し、健康を保ち活動するために必須である「栄養」について理解し、栄養素やエネルギーの代謝とその生理的意義を生活している人の観点から理解するとともに、食品機能成分の働きならびに生体機能調節の分子機構に関する知識も習得することを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 「栄養」とは何か、および「食べる」意義について理解する
2. エネルギーの代謝とその生理的意義を理解する
3. 各栄養素の代謝とその生理的意義を理解する
4. 健康と栄養の関係について理解する

3. 教育・学習の方法

授業は講義形式で、板書中心で進行する。その他、テキスト、補足プリント、スライド、DVD等を使用する。

・準備学習の具体的な方法

毎回の授業内容について、教科書と板書を照らし合わせてまとめたノートを作成し、内容を把握してから次の授業に臨むこと。

4. 評価方法・評価基準

出席は試験受験資格として評価する。筆記試験 80%およびレポート 20% + α で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 食生活と健康とは・日本の「食糧」について考える
- 第2回 何をどれだけ食べればいいのか1～空腹と食欲のメカニズムを知る
- 第3回 何をどれだけ食べればいいのか2～日本人の食事摂取基準を知る
- 第4回 何をどれだけ食べればいいのか3～食生活指針と食事バランスガイドを使う
- 第5回 身体にとってエネルギーとは
- 第6回 身体にとって炭水化物とは
- 第7回 身体にとって脂質とは
- 第8回 身体にとってタンパク質とは
- 第9回 身体にとってビタミンとは
- 第10回 身体にとってミネラルとは
- 第11回 身体にとって水・アルコールとは
- 第12回 身体にとって食物繊維とは
- 第13回 健康情報の読み方～間違った情報から身を守る手段を知る
- 第14回 生活習慣病と栄養
- 第15回 健康保持、健康増進、疾病予防、疾病治療と栄養

6. 留意事項

課題は2回提出有り、詳細は講義中指示する。私語は厳禁。守れない場合は退席を求める。

講義コード	24511201			
科目名	ライフステージと食生活			
担当者	加藤 佐千子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[健][保]			
前提科目				
テキスト	『<はじめて学ぶ>健康・栄養系教科書シリーズ⑥応用栄養学適切な食生活を実践するために』 奥田あかり、上山恵子、尾関清子ら 科学同人 2011			
参考文献	『応用栄養学ライフステージからみた人間栄養学第9版』 森 基子ら 医歯薬出版			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

現代の私たちの食生活は社会の変化とともに大きく変化し、同時に、多くの問題も抱えている。本講義では、食生活と栄養、健康についての基本的な知識を養うことを目的とする。特に、各ライフステージにおける、食生活のあり方、問題点について興味を持ち、健康とは何か、そのためには食生活はどうあるべきかについて理解を深めることを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

5大栄養素の働きを理解する。

ライフステージ別の身体的、生理的特徴を理解する。

各ライフステージの食生活の特徴、必要な栄養素、健康問題について基本的な知識を養う。

各ライフステージにおける健康的な食生活の課題について理解する。

食生活管理の具体的な方法を生活環境と関連付けて理解する。

自主的に学習を進め、知識の習得に努める。

課題をまとめ、発表する。

3. 教育・学習の方法

テキスト、配布プリントを元に、演習形式や講義形式で行う。

グループディスカッションやビデオ視聴、グループ発表などを取り入れながら授業を進める。

・準備学習の具体的な方法

内容については以下の頁を事前に読んで授業に臨むこと。乳児期 (27-42 頁)、幼児期 (43-54 頁)、学童期 (55-66 頁)、思春期 (69-76 頁)、成人・更年期 (79-97 頁)、高齢期 (99-114 頁)。また、各栄養素の働き (炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、水) について基本的な事柄を各自で整理しておくことよい。

4. 評価方法・評価基準

評価基準 ・ライフステージごとの望ましい食事のあり方を理解できたか。

・積極的に討論できたか。

・グループ発表に参加したか。

・決められた課題のレポートを提出したか。

評価方法 ・テスト (50%)、レポート (35%)、発表 (15%) の総合点を最終評価とする。

欠席は1回につき、最終評価から3点を減点する。

30分以上の遅刻は欠席扱いとする。

10回以上出席しなければ、評価の対象としない。

備考：授業中の私語、居眠り、飲食など著しく態度が悪く、他の受講者の迷惑となる場合は、退出してもらうこともある。

5. 授業予定

- 第1回 本講義の進め方、評価の説明
- 第2回 栄養素 (炭水化物、タンパク質) の働き・特徴の解説
- 第3回 栄養素 (脂質、ビタミン、無機質) の働き・特徴の解説
- 第4回 水・アルコール・嗜好品の解説
- 第5回 乳児・幼児の発育と食生活の解説とビデオ視聴
- 第6回 学童期・思春期の発育と食生活の解説とビデオ視聴
- 第7回 若い女性の食生活の解説とビデオ視聴
- 第8回 肥満と痩せの解説と摂食障害のビデオ視聴
- 第9回 妊娠期、産褥期、授乳期の健康と食生活の解説
- 第10回 成人・更年期の特徴と食生活の解説
- 第11回 高齢期の症状と食生活の解説
- 第12回 運動・スポーツ時の変化と食生活の解説
環境と栄養 (ストレスなど)
- 第13回 課題発表 (1) と討論
- 第14回 課題発表 (2) と討論
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24511701		
科目名	衣生活学-福祉の視点より-		
担当者	牛田 好美		
単位数	2	配当学年	23
資格	[家]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『シリーズ 21世紀の社会心理学 8巻 被服行動の社会心理学』 北大路書房 『シリーズ 21世紀の社会心理学 9巻 化粧行動の社会心理学』 北大路書房		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

少子高齢社会が急速に進むにつれて、保護を必要とする乳幼児・高齢者・身体障がい者など社会的障がいを持つ人々だけでなく、すべての人が普通に生活できるような社会を構築できるよう支援しなければならない。そのためにはさまざまな暮らしをしている人々の衣食住に関する実践的・専門的知識が必要である。なかでも衣生活については、年齢に応じて異なる生理機能や障がいの種類などに最も影響を受けると思われる。そこで福祉の視点から、高齢者、障がい者、健康者すべての人々にもっとも適した衣服について考え、ファッションイメージを描き、それを実践する能力を養うことを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 快適な衣服環境
2. 衣生活とユニバーサルデザイン
3. 衣生活とパーソナルデザイン
4. ユニバーサルファッションの実践

3. 教育・学習の方法

主に講義形式で授業を行う。授業はビデオやスライドを用いてできるだけ、具体的に快適な衣生活の実践方法が理解できるようにする。必要に応じて資料を配布する。

・準備学習の具体的な方法

日常生活の中で、被服や化粧のはたらきを意識すること、また、身体との関係を考え、より満足感を高めるための工夫をすること。あらゆる年代、障がいの方の声を耳をすませること。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度(30%)、授業中の課題(50%)、授業への意欲・積極性(20%)により総合判断する。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 衣生活と福祉
- 第2回 衣生活とデザイン
- 第3回 ユニバーサルデザインについて
- 第4回 ユニバーサルファッションについて
- 第5回 ファッションイメージとパーソナルデザインについて
- 第6回 障がい者に適した衣生活について
- 第7回 高齢者に適した衣生活について
- 第8回 乳幼児に適した衣生活について
- 第9回 コスチュームデザインについて
- 第10回 ユニフォームについて①
- 第11回 ユニフォームについて②(ANAのユニフォームを例にあげて)
- 第12回 ライフサイクルと衣生活
- 第13回 ユニバーサルファッションの実践・評価
- 第14回 課題
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24511801		
科目名	衣生活情報論		
担当者	牛田 好美		
単位数	2	配当学年	34
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

衣服は人間の身体の一部としての機能を持つものであり、衣服を着用することは人間のみに与えられた生活行為である。そして、人間はこの行為を自己表現の手段として用いる。すなわち、人間は自分で衣服を選択し、着装して外観的な面だけではなく、内面的な人間性までも表現する。現在はほとんど既製服が着用されているので、衣服の選択は購買行動である。衣服は素材・色柄・形の三要素によって構成され、それらの表現性を利用して商品はディスプレイされる。また情報技術の進化に伴い、衣服はアパレルCADというコンピュータにより製作され、着装感や着装状態はCGによって表現されるようになった。このように衣生活には情報という要素が深く関わるようになってきている。そこで、服飾環境を形成する要素と衣生活に関わる情報技術について、理解を深め、衣生活をよりよく整え営むことができる能力を養うことを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 衣服と人間
2. 衣服と社会
3. 衣生活と文化
4. 衣生活と情報

3. 教育・学習の方法

講義形式で授業を進める。授業はビデオやスライドを用いてできるだけ、具体的なデザインの要素や情報環境が理解できるようにする。必要に応じて資料を配布する。

・準備学習の具体的な方法

新聞、雑誌などを読み、社会情勢に敏感になっておくこと。ファッションとは何かを意識し、市場に出回っているものを、機会あるごとに多く見ること。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度(30%)、課題(50%)、授業への意欲・積極性(20%)を総合して評価する。欠席回数3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 衣生活と情報について
- 第2回 ファッションビジネスについて
- 第3回 ファッション業界の仕事
- 第4回 ファッションマーケティング
- 第5回 ファッションマーチャンダイジング
- 第6回 ファッションマーチャンダイジング演習①
- 第7回 ファッションマーチャンダイジング演習②
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 ファッションコーディネート
- 第10回 ファッションコーディネート演習①
- 第11回 ファッションコーディネート演習②
- 第12回 ファッションコーディネート演習③
- 第13回 着装シミュレーションの仕組みと機能
- 第14回 課題
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24511901		
科目名	衣生活文化史		
担当者	鳥居本 幸代		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	プリントを配布する		
参考文献	『万葉集の服飾文化』 上・下 小川安朗 六興出版 『奈良朝服飾の研究』 関根真隆 吉川弘文館 『有識故実図典』 鈴木敬三 吉川弘文館 『平安朝のファッション文化』 鳥居本幸代 春秋社 『江戸服飾史』 金沢康隆 青蛙房		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

人間が健全な生活し、活動するために不可欠である服飾は、それを取りまくさまざまな生活環境や文化の影響をうけながら発達し、展開する。服飾は文化の所産であり、時代背景を無視することはできない。本講義では、人類と衣服の出会いから現在のキモノのルーツである江戸時代の小袖までを概説する。

2. 教育・学習の個別課題

- ①服飾発生の5つの起源説
- ②縄文・弥生文化の服飾
- ③古墳時代の服飾
- ④飛鳥・白鳳時代の服飾
- ⑤天平時代の服飾
- ⑥平安貴族の服飾
- ⑦鎌倉・室町時代の武家服飾
- ⑧江戸町衆の服飾

3. 教育・学習の方法

講義形式を取り、パワーポイントやビデオを活用しながら視覚的にも理解を深める。

・準備学習の具体的な方法

第1回目の授業以降、事前に時代背景を把握し、まとめておくことを指示する。授業終了前に、毎回、まとめの小テストを実施する。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度(30%)、小テスト(20%)、確認テスト(50%)に基づいて、総合的に行う。欠席・遅刻は、減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 序論 服飾発生の起源
- 第2回 土偶から推測した縄文時代の服飾
- 第3回 『魏志倭人伝』にみる服飾
- 第4回 埴輪と記紀からみた古墳時代の服飾
- 第5回 冠位十二階の制にみる冠の制度
- 第6回 大宝律令・衣服令に定められた服飾
- 第7回 正倉院の染織
- 第8回 平安朝ファッションの特色
- 第9回 平安時代の男性ファッション
- 第10回 平安時代の女性ファッション
- 第11回 武家服飾の成立
- 第12回 小袖時代の幕開け
- 第13回 江戸時代前期のファッション 雛形本の登場
- 第14回 江戸時代中期のファッション 宮崎友禅斎と尾形光琳
- 第15回 江戸時代後期のファッション 俵約令と縞物

6. 留意事項

講義コード	24512001		
科目名	服飾文化論		
担当者	鳥居本 幸代		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	『平安朝のファッション文化』 鳥居本幸代 春秋社 2003年		
参考文献	『有識故実図典』 鈴木敬三 吉川弘文館 1995年 『かさねの色目』 長崎盛輝 京都書院 1998年 『日本の伝統色』 長崎盛輝 京都書院 1988年 『平安朝の生活と文学』 池田亀鑑 角川書店 1994年		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

京都で誕生した平安王朝の貴族ファッション文化について、『源氏物語』や『枕の草子』などの記述を例に挙げながら、衣・食・住生活各分野の文化との関わりから考察する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 衣生活文化としては、王朝人の宗教観・自然観と色彩との関連について述べる。
2. 食生活文化としては食材、調理法、および容姿との関連、行食事などについて述べる。
3. 住生活文化としては都市計画、住生活環境、および衣生活文化との関わりについて述べる。

3. 教育・学習の方法

パワーポイントやビデオなどを使用して講義を進める。とくに、文学作品をはじめ、絵巻物や肖像画などの絵画資料の提示を積極的に行う。

・準備学習の具体的な方法

第1回の授業以降、事前にテキストの指定ページを指示し、あらかじめ読んでおくことを求める。準備学習の成果を第2回以降、授業冒頭で小テストを実施して見極める。

第2回 P5~6,P30,P72~73,P162~168

第4回 P25~38

第5回 P38~49

第6回 P50~60

第7回 P60~66

第8回 P66~74

第9回 P75~99

第10回 P99~117

第11回 P120~124,P133~135,P148~155

第12回 P17~20

第13回 P119~120

第14回 P10~13

第15回 P14~16

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度(30%)、小テスト(20%)、確認テスト(50%)に基づいて総合的に行う。欠席・遅刻は、減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 序論 平安時代の流れ
- 第2回 貴族文化の背景
- 第3回 『源氏物語』を例に、女流文学作品の概説 DVD鑑賞
- 第4回 平安時代の美男・美女
- 第5回 かぶり物からみた男性ファッション
- 第6回 男性の晴装束
- 第7回 くつろぎの女性ファッション
- 第8回 女性の晴装束
- 第9回 王朝の色彩感覚
- 第10回 王朝の模様
- 第11回 平安朝の教養あふれる娯楽
- 第12回 平安朝貴族の食生活
- 第13回 年中行事と行食事
- 第14回 平安京の都市計画
- 第15回 平安京の住生活環境

6. 留意事項

講義コード	24512101			
科目名	衣生活材料学			
担当者	牛田 好美			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[家]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

感性の時代といわれている現在、人々の衣服・服装に対する欲求が、自分なりの服装の確立を目指すものとなってきた。そのため繊維・アパレル業界はこの高度な消費者の欲求を満たすために様々な科学技術を開発して、従来の衣服素材を改良・改質し、全く新しい製品を作り出している。私達はこれらの衣服素材の種類や諸性能について理解し、種々の衣服素材の中から適切に目的に応じたものを選択することが出来る能力が必要である。この能力を取得することを目標に講義をすすめる。

2. 教育・学習の個別課題

1. 衣服素材の種類と性能
2. 衣服素材の改良・改質法
3. 繊維の鑑別と品質表示

3. 教育・学習の方法

授業は講義形式で行う。適宜必要資料を配布する。繊維素材の試料を見たり、様々な加工素材を見たり、必要に応じてビデオやスライドを観る。

・準備学習の具体的な方法

常日頃から、衣料品の素材について興味をもつこと。また、衣料品の洗濯や保管など、素材を扱う経験をできるだけ多くしておくこと。

4. 評価方法・評価基準

成績評価は、授業参加度(30%)、学習意欲の有無(20%)、レポート(20%)、課題(30%)により総合的に評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 衣生活材料について
- 第2回 繊維について
- 第3回 繊維の分類
- 第4回 天然繊維について
- 第5回 化学繊維について
- 第6回 糸について
- 第7回 糸の構造
- 第8回 布について
- 第9回 織物と編物
- 第10回 織物構造について
- 第11回 衣生活材料の加工技術と機能性
- 第12回 繊維性能に関する実験
- 第13回 衣服の品質表示について
- 第14回 課題
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24512201			
科目名	アパレルデザイン			
担当者	牛田 好美			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

人間は生活する上で快適な環境を構築するため、さまざまなモノをデザインし、造形している。生活とデザインには密接な関係があり、人間性に

基づいたデザインが基本的な要素として必要になる。すなわち、デザインには「用」(機能性)と「美」(審美性)の2つの基本的な性能が必要であり、これらの2つの性質を形として表現することがデザインである。アパレルデザインは他のさまざまなデザインと異なり、人間という動き、表情、個性などが多くの要素が加わった形で表現される。人間らしく、快適で個性を尊重したアパレルデザインを追求することを目標に、衣服がアパレルデザインとして企画され、製作され、販売される過程を理解し、理想的なアパレルデザインについて学習する。

2. 教育・学習の個別課題

アパレルデザインの本質を正しく理解するためのデザインの基礎、および造形美の諸原則を中心に講義する。

3. 教育・学習の方法

主に講義形式で授業を進めるが、必要に応じて、演習形式の時間も設ける。授業はビデオやスライドを用いてできるだけ、具体的なデザインの要素が理解できるようにする。必要に応じて資料を配布する。

・準備学習の具体的な方法

できるだけ多くの衣服を見たり、触ったり、すること。また、歴史や文化に関する本を多く読むこと。映画や舞台芸術を積極的に鑑賞し、身体、衣装、身体表現(パフォーマンス)について考え、自分の意見を持つこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度(30%)、学習意欲の有無(20%)、発表など平常の課題学習(20%)、課題(30%)により総合的に判断する。欠席回数3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 アパレル業界のしくみとアパレルデザイン
- 第2回 ファッションの変遷とその背景①
- 第3回 ファッションの変遷とその背景②
- 第4回 服飾デザインの基礎
- 第5回 フォーム
- 第6回 カラー①
- 第7回 カラー②
- 第8回 デキスタイル
- 第9回 デザイン演習
- 第10回 ファッションイラストレーションの描き方(基礎)
- 第11回 ファッションイラストレーションの描き方(応用)
- 第12回 デザインとイメージ①
- 第13回 デザインとイメージ②
- 第14回 課題
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24512501			
科目名	福祉住環境学			
担当者	竹原 広実			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[家][建][イ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『空間デザインの原点』岡田光正著 理工学社 『インテリアの計画と設計』小原二郎編 彰国社 『人間の空間』R.ソマー著 鹿島出版会 『人間工学入門』人間工学研究会編 日刊工業新聞社			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

科学技術の進歩は住宅においても目覚ましいものがあり、こういった技術を導入するべく住まいの造りは変わり、新しい設備器具などが次々と開発されている。一方、人間の営みは長い年月の間に営々と築きあげられてきたものである。そのため、時には人がモノと均衡がとれない事態も生じ、この場合多くは人側に障害が表れ安全性が脅かされる。本来人間が持つ機能や特性を活かした住宅のあり方が求められる。講義では特に建築的側面からの人間工学について、人間の身体的、動作的、心理的、生理的特性に沿った住宅環境や設備のあり方について理解することを目的としている。

2. 教育・学習の個別課題

1. 生活空間における建築・住宅意匠のあり方
2. 空間感覚の体得
3. 建築・住宅設備の基礎的デザインへの理解

3. 教育・学習の方法

講義が中心であり、適宜配布するプリントで欠を補う。

・準備学習の具体的な方法

人間工学的配慮が日常生活のどのような場面で活かされているか、関心をもつこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は、形成テスト(90)と平常点(10)である。これにレポート課題が加わる場合は形成テスト(75)、レポート(15)、平常点(10)となる。

5. 授業予定

- 第1回 人間工学とは
- 第2回 人体寸法を利用した建築・住宅各部位設計寸法
- 第3回 作業域を考慮した住宅設備環境のあり方1
- 第4回 作業域を考慮した住宅設備環境のあり方2
- 第5回 動作寸法と動作空間1
- 第6回 動作寸法と動作空間2
- 第7回 単位空間の考え方(生活行為と動線からみた住宅計画)
- 第8回 行動・動作特性を考慮した公共空間の建築設備計画
- 第9回 パーソナルスペースを考慮した公共空間の建築設備計画
- 第10回 高齢者の身体的、生理的特性
- 第11回 高齢者のための建築環境のあり方1
- 第12回 高齢者のための建築環境のあり方2
- 第13回 高齢者のための建築環境のあり方3
- 第14回 インテリアの安全性
- 第15回 形成テストとまとめ

6. 留意事項

講義コード	24512601		
科目名	建築材料学		
担当者	竹原 広実		
単位数	2	配当学年	34
資格	[建][イ]		
前提科目	建築一般構造		
テキスト	『図説やさしい建築材料』 松本進著 学芸出版社		
参考文献	『初学者のための建築材料入門』 櫻野紀元著 鹿島出版社 『棟梁も学ぶ木材のはなし』 上村武著 丸善株式会社		
備考	定員20人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

建築物は人間の生活や活動を営むための容器であり、同時に街や都市をつくるひとつの単位でもある。そして建築物を形づくるのは材料であり、建築物に使用される材料はその時代の分野や文明、その土地の風土を反映するものである。また、使用する材料によって建築物の性格や品質が左右され、強く長く持ちするか、好感をもたれるか、など建築物がどのようなものになるかは材料の用い方にかかっており、建築材料に対する知識を持ち、それらを適材適所に使い分けることは重要である。授業では建築物をつかっていく上で必要な材料についての知識を深め、材料を用いる際の基本事項は何かについて考えていきたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 材料の種類や性質など知識の修得
2. 建築の用途・機能に適した材料の用い方への理解
3. 構造材と仕上材の使い分けの理解

3. 教育・学習の方法

- (1) テキスト及びプリントを用いる。
- (2) 毎回、前週授業の小テストを実施する。
- (3) 住宅研究所において実習を行う。

・準備学習の具体的な方法

テキストやあらかじめ配布されたプリントを読むなどして予習をすること。また毎回前授業内容の小テストを行うので、復習が必要である。

4. 評価方法・評価基準

原則として全出席を前提として評価は行われる。評価は、毎授業時に実施する小試験(70)と実習レポート(20)、授業の参加度(10)で行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 建築材料とは
- 第2回 建築材料計画
- 第3回 天然材料1(木材、石材、れんが)
- 第4回 天然材料2(木材、石材、れんが)
- 第5回 天然材料3(木材、石材、れんが)
- 第6回 天然材料4(木材、石材、れんが)

- 第7回 近代建築における基幹材料1(コンクリート、鉄鋼、ガラス)
- 第8回 近代建築における基幹材料2(コンクリート、鉄鋼、ガラス)
- 第9回 近代建築における基幹材料3(コンクリート、鉄鋼、ガラス)
- 第10回 近代建築における基幹材料4(コンクリート、鉄鋼、ガラス)
- 第11回 近代建築における基幹材料5(コンクリート、鉄鋼、ガラス)
- 第12回 近代建築における基幹材料6(コンクリート、鉄鋼、ガラス)
- 第13回 近代建築における基幹材料7(コンクリート、鉄鋼、ガラス)
- 第14回 造作用材料
- 第15回 学外実習

6. 留意事項

全出席を原則とする。

1. 本科目の受講者は前提科目として「建築一般構造を修得済み」でなければならない。
2. 全出席を前提とする。
3. 20名の定員とする。
4. 実習費用が別途¥3000程度必要になる。
5. 実習は平日の一日を要する。(実施日は初回授業時に伝える)

講義コード	24512701		
科目名	建築一般構造		
担当者	中村 久美		
単位数	2	配当学年	234
資格	[建][イ]		
前提科目			
テキスト	『初めての建築一般構造』 <建築のテキスト>編集委員会 芸出版社		
参考文献	『分り易く図で学ぶ 建築一般構造』 江上外人・林静雄 共立出版株式会社 『一般構造』 青木博文監修 実教出版		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

住宅や建築を学ぶうえでは、骨組みとしての構造や仕上げの仕組みなどの建築一般構造への理解が大前提となる。この講義では、建築材料や施工法とも関連付けながら、建築構造の種別とそれぞれの概要、およびインテリアデザインの基礎となる内部造作の仕組みについて解説する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 構造種別を理解する。
2. 各構法の知識を養う。
3. インテリアとしての造作とその仕組みを理解する。

3. 教育・学習の方法

テキストの内容をパワーポイントによって補足しながら授業をすすめる。授業後はテキストと配布資料で建築の部材や構造、施工に関する用語の復習を必ず行うこと

・準備学習の具体的な方法

シラバス、および対面セッション時に配布した授業スケジュールにそってテキストを読んでおくこと

4. 評価方法・評価基準

確認試験(50%)、授業参加状況(20%)、および毎回の小テスト(30%)より評価する

5. 授業予定

- 第1回 建築構造の種別
- 第2回 木構造の特徴と構造形式
- 第3回 軸組構法と枠組構法
- 第4回 鉄筋コンクリートの材料と力学的性質
- 第5回 鉄筋コンクリート造の架構と部材の力学
- 第6回 鉄筋コンクリート工事
- 第7回 鋼材とその接合
- 第8回 鉄骨構造
- 第9回 その他の構造
- 第10回 住宅被覆の仕組み
- 第11回 住宅内部の仕上げ
- 第12回 開口部と建具
- 第13回 和風造作
- 第14回 地震による被害と耐震設計
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24512901		
科目名	住計画演習Ⅰ		
担当者	岸 研一		
単位数	2	配当学年	34
資格	[建][イ]		
前提科目	「住居製図Ⅰ」「住居製図Ⅱ」		
テキスト			
参考文献			
備考	定員25人 週1.5コマ連続		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

現代社会における個人と家族、社会との関係の考察や、情報化や環境問題の課題の検討を行いつつ、一戸建住宅、集合住宅の計画・設計の一連の作業を演習する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 住宅設計における計画能力の養成 2. 空間構成能力及び造形能力の養成 3. 住宅および周辺環境に対する新たな視点の獲得

3. 教育・学習の方法

1. 基本的に、半期1～2つの設計課題を通じて指導する。 2. 演習課題は担当者が作成する。 3. 各課題は、図面で表現する。CADによる作図も取り入れる。 4. 課題は作図のみならず、コンセプトワークや先行事例のレビューを充分に行ない、図面・パース・イメージ写真・文章等でプレゼンテーションの訓練も行う。 5. 計画した住宅を立体的な空間として把握するため模型製作を行なうこともある。材料費は実費の場合もある。(1500円程度) 6. 各課題は、計画段階で何度かエスキスチェックを行い、1人ずつ講評する。

・準備学習の具体的な方法

課題への取り組みは、締め切りを念頭において、授業空き時間を利用し計画的に行うこと。

4. 評価方法・評価基準

提出課題(70%)および授業の取り組み状況(30%)により評価する

5. 授業予定

- 第1回 「集合住宅のリフォーム・インフィルの設計」(課題発表)
リフォームデザインの考え方
- 第2回 エスキスチェック(1)(コンセプト)
- 第3回 エスキスチェック(2)(ゾーニング、ラフプラン)
- 第4回 エスキスチェック(3)(作図)
- 第5回 エスキスチェック(4)(仕上げ、表現、プレゼンテーション)
- 第6回 提出課題の縦覧と講評
- 第7回 「個人住宅の設計」(課題発表)
戸建て住宅デザインの考え方
- 第8回 エスキスチェック(1)(コンセプト)
- 第9回 エスキスチェック(2)(ゾーニング、ラフプラン)
- 第10回 エスキスチェック(3)(作図)
- 第11回 中間発表と講評
- 第12回 エスキスチェック(4)(作図)
- 第13回 エスキスチェック(5)(作図)
- 第14回 エスキスチェック(4)(仕上げ、表現、プレゼンテーション)
- 第15回 提出課題の縦覧と講評

6. 留意事項

「設計方法論」を住計画演習の前段階として位置付けているので、同じ年度に両方合わせて受講することが望ましい。

講義コード	24513001		
科目名	住計画演習Ⅱ		
担当者	岸 研一		
単位数	2	配当学年	34
資格	[建][イ]		
前提科目	「住居製図Ⅰ」「住居製図Ⅱ」「住計画演習Ⅰ」		
テキスト			
参考文献			
備考	定員25人 週1.5コマ連続 ※入学年度により履修条件が異なる。詳細は学生便覧を参照。		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

「住計画演習Ⅰ」の授業をふまえ、本演習では、個々の住宅のみならず、居住地全体を含めた住環境の計画・設計を演習する

2. 教育・学習の個別課題

1. 住宅設計における計画能力の養成 2. 空間構成能力及び造形能力の養成 3. 住宅に対する新たな視点の獲得

3. 教育・学習の方法

1. 基本的に、半期1～2つの設計課題を通じて指導する。 2. 演習課題は担当者が設定 3. 各課題は、図面で表現する。CADによる作図も取り入れる。 4. 課題は作図のみならず、コンセプトワークや先行事例のレビューを充分に行ない、図面・パース・イメージ写真・文章等でプレゼンテーションの訓練も行う。また、グループワークを行なう場合もある。 5. 計画した住宅を立体的な空間として把握するため模型製作を行なうこともある。材料費は実費の場合もある。(1500円程度)

・準備学習の具体的な方法

課題への取り組みは、締め切りを念頭において、授業空き時間を利用し計画的に行うこと。

4. 評価方法・評価基準

提出課題(70%)と課題の取り組み状況(30%)により評価する

5. 授業予定

- 第1回 建築研究
- 第2回 集合住宅団地の計画(課題発表)
- 第3回 先行事例のレビュー
- 第4回 集住のデザインの考え方
- 第5回 エスキスチェック(1)(コンセプト、ゾーニング)
- 第6回 エスキスチェック(2)(作図)
- 第7回 全体計画の発表 講評
- 第8回 各住宅の計画、作図、模型制作(1)(コンセプト、ラフプラン)
- 第9回 各住宅の計画、作図、模型制作(2)(作図)
- 第10回 各住宅の計画、作図、模型制作(3)(模型製作)
- 第11回 エスキスチェック(1)(作図)
- 第12回 エスキスチェック(2)(作図)
- 第13回 エスキスチェック(3)(作図、模型製作)
- 第14回 エスキスチェック(4)(模型製作、表現、プレゼンテーション)
- 第15回 提出と発表 講評

6. 留意事項

「設計方法論」を住計画演習の前段階として位置付けているので、同じ年度に両方合わせて受講することが望ましい。

講義コード	24513301			
科目名	家庭教育学			
担当者	山本 智也			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	プリントを配布する。			
参考文献	『人間関係トレーニング』 津村俊充・山口真人編 ナカニシヤ出版 2005 『ファシリテーター・トレーニング第2版』 津村 俊充、石田 裕久編 ナカニシヤ出版 2010 『非行臨床から家庭教育支援へ』 山本智也 ナカニシヤ出版 2005			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

近年、家庭の教育力の低下が子どもの問題に大きく影響していると言われている。

それでは、この家庭の教育力とは、いかなるものであろうか。人それぞれによって、そのとらえ方は多種多様である。しかし、ここで共通した課題は、家庭の教育力の担い手である大人がいかに成長していくのか、その大人の成長をどのように支援していくのかということであると考える。

そこで、本科目では、家庭教育の担い手にとって重要な意味を持つ自己理解、他者理解、集団理解といった課題について、人間関係トレーニングの手法を用いた体験学習などを取り入れた形で学びを深める機会を提供したい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 家庭教育の担い手である親、さらには親となろうとしている者にとっての自己理解の意味を理解するために、受講生自身が自己理解を深め、そのことを言語化できること

2. 子どもとの関係のあり方を理解するために、他者を理解し、関わっていくために必要な態度、姿勢、技法について、認識を深めること

3. 子ども集団、子どもと家族の関係のあり方を理解するために、小集団における力動関係について、認識を深めること

3. 教育・学習の方法

(1) 授業の方法

下記授業予定一覧に示した課題について、それぞれ体験的な学習を取り入れながら、理解を図っていく。

(2) 授業期間中の課題

ア プロセス・レコードの作成

毎回の授業において、前回の授業から今回の授業までの間に、自分と他者との関わりの中で印象のこったやりとりとそこから学んだことを記載したものの提出させ、学びの促進を図る。

イ レポートの作成

受講動機レポート、中間レポート(2回)を作成することを通して、自らの学びをあり方についての認識を深める機会とする。

・準備学習の具体的な方法

プロセス・レコードの作成など授業で学んだことを日常の場面で生かしていくことなどを通して、対人感受性を高めていくことが求められる。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度(15%)、レポート(プロセス・レコードを含む)(40%)及び形成テスト(45%)に基づき行う。

レポート(プロセス・レコードを含む)については、いずれか一つでも未提出の場合、その者は失格とする。

試験については、各回で学んだことを踏まえて、自己理解、他者理解、集団理解のあり方をどのように理解しているかを評価の視点とする。

5. 授業予定

第1回 家庭教育の担い手としての自己理解、他者理解、集団理解の意味

第2回 自分に関わるⅠ パーソナル・アイデンティティ

第3回 自分に関わるⅡ 自己評価

第4回 自分に関わるⅢ 自我同一性

第5回 自分に関わるⅣ 自己実現

第6回 他者に関わるⅠ 積極的傾聴

第7回 他者に関わるⅡ 社会的スキル

第8回 他者に関わるⅢ アサーション

第9回 他者に関わるⅣ 交流分析

第10回 グループに関わるⅠ 課題解決

第11回 グループに関わるⅡ リーダーシップ

第12回 グループに関わるⅢ コンセンサス

第13回 グループに関わるⅣ グループプロセス

第14回 家庭教育支援の今日的課題とその方向性

第15回 形成テストによる到達度の把握とまとめ

6. 留意事項

授業においても、自分、他者、グループに関わる機会が多くあるので、積極的な受講意欲と態度が不可欠である。

講義コード	24513401			
科目名	家族援助論			
担当者	山本 智也			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『家族福祉論』 相澤譲治・栗山直子編 勁草書房 2002			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

子どもを取り巻く環境は、核家族化、都市化、共働き世帯の増加、地域社会における人間関係の希薄化、教育の偏重、さらには仲間同士の遊びや遊び方に至るまで大きく変化してきている。核家族の中で子育て不安、子育て困難な状況など家庭における育児機能が低下し、育児ノイローゼ、児童虐待、不登校、家庭内暴力、学校内外における諸事件などは近年とみに多発し社会問題化している。

こうした観点に立ち、子どもに関わるあらゆる機関、あらゆる機会において、子育て支援の社会的役割は大きく、児童、親を含めた「全体としての家族」に対する支援として捉えることが必要である。

そこで、子どもの育ちを支える基盤ともいえる家族について、家族自体の動向、さらには家族をめぐる社会的状況を理解した上で、「全体としての家族」と家族をとらえた上での援助の在り方について、関係機関との連携の在り方も含めて理解を深めることを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

(1) 家族の意味と機能

(2) 今日の家族関係

(3) 「子育て支援」を中心とした家族への支援体制

(4) 家族への援助技術

3. 教育・学習の方法

上記の課題について、テキストと配付資料を併用して、講義を進めていく。各回授業終了時に、授業で学んだことをまとめたシートを提出してもらうこととする。

・準備学習の具体的な方法

授業で取り上げる内容について、事前にテキストを熟読しておく他、新聞などで取り上げられる家族に関する記事を読むなどして、現代社会と家族との関わりについて知識を日々深めておくことが求められる。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席・授業参加度(35%)、形成テスト(65%)により総合判断する。

5. 授業予定

第1回 家族の定義

第2回 家族の機能

第3回 家族の動向1 少子化とその社会状況

第4回 家族の動向2 婚姻をめぐる動向

第5回 家族の動向3 離婚をめぐる動向

第6回 家族の動向4 親権、面会交流をめぐる動向

第7回 家族の動向5 虐待、非行等をめぐる動向

第8回 家族に関する制度1 幼稚園、保育所における家族援助

第9回 家族に関する制度2 児童福祉施設における家族援助

第10回 家族に関する制度3 子育て支援サービス機関

第11回 家族に関する制度4 家庭裁判所、児童相談所

第12回 家族福祉の援助技術1 家族アセスメント

第13回 家族福祉の援助技術2 家族システム理論

第14回 形成テストによる到達度の把握

第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24513701		
科目名	社会福祉史		
担当者	酒井 久美子		
単位数	2	配当学年	23
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	隔年開講1		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

わが国の社会福祉の生成過程や展開については、時代の社会的、経済的背景など、歴史的展開に影響されている。また、欧米など諸外国の動向にも影響を受けて展開されている。そこで、社会福祉の歴史的なあゆみについて海外の動向と日本の動向をたどり、その特徴や概略を理解する。そして、各時代の社会福祉問題と社会福祉に関する法制度との関連を理解したうえで、現代社会における社会福祉問題とその解決策として展開されている現代の社会福祉の現状や課題について検討する。それらを踏まえたうえで、今後の社会福祉の展望について考察する。

2. 教育・学習の個別課題

1. イギリス、アメリカを中心に諸外国の社会福祉の歩みや概要を理解する。
2. 日本における社会福祉の歩みや特徴を理解する。
3. 今後の日本における社会福祉の課題や展望について考える。

3. 教育・学習の方法

配付資料をもとに講義をおこなう。

参考文献などは随時紹介する。

・準備学習の具体的な方法

授業内容の理解を深めるため、毎回簡単な復習クイズをおこなう。毎回の授業を復習し、次の授業に臨むこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席率・授業参加度(30%)、復習クイズ(10%)、形成テスト(60%)に基づいて総合的におこなう。欠席や遅刻は減点の対象とする。欠席が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。受講態度や参加度についても考慮しておこなう。

5. 授業予定

- 第1回 イギリスの社会福祉のあゆみ (慈善事業)
- 第2回 イギリスの社会福祉のあゆみ (救貧法)
- 第3回 イギリスの社会福祉のあゆみ (社会事業)
- 第4回 イギリスの社会福祉のあゆみ (社会保障制度)
- 第5回 アメリカの社会福祉のあゆみ
- 第6回 日本の社会福祉のあゆみ (前近代社会における慈善・救済)
- 第7回 日本の社会福祉のあゆみ (明治期の慈善・救済事業)
- 第8回 日本の社会福祉のあゆみ (明治末期の感化救済事業)
- 第9回 日本の社会福祉のあゆみ (大正期の社会事業成立)
- 第10回 日本の社会福祉のあゆみ (方面委員制度の成立とその後の展開)
- 第11回 日本の社会福祉のあゆみ (救護法と戦後厚生事業)
- 第12回 日本の社会福祉のあゆみ (敗戦後の社会福祉の展開)
- 第13回 日本の社会福祉のあゆみ (日本経済と社会福祉)
- 第14回 日本の社会福祉のあゆみ (現代の社会福祉の動向)
- 第15回 形成テスト

6. 留意事項

講義コード	24514001			
科目名	社会福祉援助技術現場実習			
担当者	酒井 久美子. 桐野 由美子. 三好 明夫. 矢島 雅子			
単位数	6	配当学年	3	
資格	[福][社]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」履修者であること。現場実習終了後、「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を履修しなければならない。「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を同一年度に履修すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

社会福祉援助に関する専門科目で学んだ理論、知識、技術をふまえて、主として相談援助に従事する社会福祉専門職に必要な専門知識、専門的な援助技術および関連技術を深め、また、援助者としての資質や能力の習得を目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 各自が実習する分野の社会福祉施設・機関の役割・機能、日常的な運営、職員配置、他の専門職との連携、地域との関係などについて理解を深める。
2. 利用者とのコミュニケーション能力を高め、利用者のニーズやさまざまな行動、態度などに対する洞察能力を養う。
3. 実習を通して援助者としての自己の気づき(自己覚知)を深める。
4. 実習現場の指導者によるスーパービジョンを受けながら、特定の利用者やケースに対する援助計画を立案し、援助する経験をもつ。
5. 施設のみならず、地域や在宅での援助の方法を幅広く理解し、他の職種との連携を含めて、現代的なニーズへの総合的な対応について学ぶ。

3. 教育・学習の方法

1. 社会福祉士受験資格取得希望者に対して指定された社会福祉施設での180時間(24日)以上の現場実習をおこなう。
2. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録、教員の実習巡回の際にスーパービジョンなどにより指導をおこなう。
3. テキストは実習ハンドブックや配付資料を用いる。

・準備学習の具体的な方法

各自配属された実習施設の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどおこなうこと。

4. 評価方法・評価基準

実習修了者には60点、実習施設による評価(15点)、担当教員による評価(15点)、その他提出物、実習ノートなど(10点)で総合的に評価する。

5. 授業予定

実習施設・機関等の指導のもと、180時間以上の実習に取り組む。

6. 留意事項

1. 社会福祉援助技術実習指導Ⅱを履修していること。
2. この科目は社会福祉士受験資格取得の必須科目である。現場実習修了後、社会福祉援助技術実習指導Ⅲを履修しなければならない。
3. 実習期間は施設・機関側との調整で決定されるため、8、9月以外の時期になる場合もある。
4. 実習状況によっては、実習途中で実習を中止することもある。

講義コード	24514101			
科目名	社会福祉援助技術実習指導Ⅲ			
担当者	酒井 久美子、桐野 由美子、三好 明夫、矢島 雅子			
単位数	1	配当学年	3	
資格	[福][社]			
前提科目	「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」			
テキスト				
参考文献				
備考	「社会福祉援助技術現場実習」「社会福祉援助技術現場実習」「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を同一年度に履修すること。 H20 以前入学者は2単位 ※入学年度により履修条件が異なる。詳細は学生便覧を参照。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

社会福祉援助技術現場実習の振り返りとして、実習記録をもとにしたスーパービジョンを中心に、各自の援助技術を評価し、相談援助に従事する社会福祉専門職として専門知識や関連知識を深め、さらに援助者としての資質や能力を向上させることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 実習記録をもとに、利用者とのコミュニケーション、援助者としての役割のあり方、利用者のニーズやさまざまな行動、態度などに対する洞察能力を強める。 2. 実習記録をもとに、スーパービジョンを受けながら自分の援助、援助者としての役割や援助技術について再評価する。 3. 実習内容をふりかえり、自己覚知を深める。 4. 専門援助者としての次への展開のための新たな課題の認識を深める。

3. 教育・学習の方法

集中授業であり、小クラス方式および個別指導（スーパービジョン中心）によっておこなう。各クラスの担当教員指導のもとにおこなうこととする。

・準備学習の具体的な方法

現場実習を各自振り返り、専門職としての自己覚知に努める。

4. 評価方法・評価基準

実習レポートの提出および内容（80点）、事後指導の内容（10点）、実習報告会、事後指導などへの参加、授業参加度（10点）で総合的に評価する。

5. 授業予定

- 1 現場実習中に巡回指導をおこない、実習施設担当者との面談、実習生への指導、スーパービジョンをおこなう。
- 2 実習記録をもとに、小クラス、実習施設単位、個別に実習全体の振り返りをおこなう。そのうえで、実習総括レポート（社会福祉実習報告集）の作成をおこなう。
- 3 実習施設による実習評価票をもとに、各自の実習達成度、課題などについて個別に指導する。
- 4 実習の評価全体総括会として、「実習報告会」と「実習懇談会」をおこなう。実習報告会においては、相互評価をおこなう。実習懇談会においては、実習施設担当者、学生、大学の三者による懇談、実習報告と意見交換をおこなう。
- 5 現場実習終了後には実習内容について、その達成度を評価しつつ、課題について個別指導をおこなう。

6. 留意事項

講義コード	24514201			
科目名	社会福祉運営論			
担当者	三好 明夫			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[福][社]			
前提科目				
テキスト	できるだけタイムリーな社会福祉の現場実践の情報を印刷物で紹介していきたい。初回授業で紹介する。			
参考文献	『社会福祉士シリーズ『福祉サービスの組織と経営』弘文社 授業時に適宜紹介する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

社会福祉サービスに関する組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会）等について理解を深める。社会福祉のサービスの組織団体と経営に関する基礎理論を理解を深める。社会福祉サービスの経営と管理運営について理解を深める。

2. 教育・学習の個別課題

1. 社会福祉運営管理の基礎的な概念を把握する。 2. 社会福祉の環境の中での社会福祉運営の展開方法と課題を学ぶ。 3. さまざまな社会福祉サービス展開の中で注目されている組織団体の役割と経営全般について学ぶ。 4. 社会福祉運営管理（ソーシャルアドミニストレーション）、社会福祉施設運営管理（ソーシャル・ウェルフェア・アドミニストレーション）を理解する。 5. 社会福祉基礎構造改革、特定非営利活動促進法、介護保険法など社会福祉の運営枠組み変化での社会福祉運営管理について方法や展開について学ぶ。

3. 教育・学習の方法

社会福祉サービスにおける運営と管理の具体的な内容と性格について確認していく。社会福祉行政の運営管理の方法、社会福祉施設の運営管理の方法、社会福祉協議会の運営管理の方法などを習得して課題や将来展望について考え、間接援助技術の技法のひとつとしてまとめることができるようにする。

・準備学習の具体的な方法

社会福祉の運営や管理等についての話題提供と理解を深めるために社会福祉運営管理等に関する新聞記事などを紹介また印刷するが、その場合に受講生に意見感想を求めらるのでできるだけ日常の社会福祉運営管理等の関連問題には留意すること。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業参加度（30%）、小テスト・レポート（20%）、定期試験（50%）とし、その総合点を最終評価とする。欠席回数が3分の1を超えた場合は原則単位認定しない。

5. 授業予定

- 第1回 社会福祉運営管理の概念（1）
- 第2回 社会福祉運営管理の概念（2）
- 第3回 社会福祉運営管理の展開
- 第4回 民間社会福祉団体の役割と運営管理（1）
- 第5回 民間社会福祉団体の役割と運営管理（2）
- 第6回 社会福祉行政の運営管理（1）
- 第7回 社会福祉行政の運営管理（2）
- 第8回 社会福祉行政の計画・調整と管理運営
- 第9回 社会福祉施設の運営管理（1）
- 第10回 社会福祉施設の運営管理（2）
- 第11回 社会福祉施設の運営管理（3）
- 第12回 社会福祉施設の運営管理（4）
- 第13回 社会福祉協議会の運営管理（1）
- 第14回 社会福祉協議会の運営管理（2）
- 第15回 社会福祉運営管理の意義と課題

6. 留意事項

社会福祉士資格の取得をめざす学生は本科目を履修しておく必要がある。

講義コード	24514501			
科目名	社会福祉調査法Ⅰ 社会調査の意義と目標、方法などを理解して、社会福祉の実態を明らかにする調査票の作成をおこなう。			
担当者	平尾 良治			
単位数	2	配当学年	12	
資格	[社]			
前提科目				
テキスト	『社会調査へのアプローチ(第2版)』 大谷信介ほか編 ミネルヴァ書房 2005			
参考文献	『社会福祉の基礎理論』 林博幸・安井喜行編著 ミネルヴァ書房 2002年 『社会調査の基礎』 岩永ほか編著 放送大学教育振興会 2003年			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24514601			
科目名	社会福祉調査法Ⅱ 社会福祉調査の特徴をふまえて、調査データの集計・分析力を身につける			
担当者	平尾 良治			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト	『社会調査へのアプローチ(第2版)』 大谷信介ほか編 ミネルヴァ書房 2005 なおテキストは、畠中宗一・木村直子著『社会福祉調査入門』 ミネルヴァ書房を使った学生はそれを使ってもよい。			
参考文献	『数学嫌いのための社会統計学』 津島昌寛ほか編 法律文化社 2010 授業で随時、紹介する。			
備考	「社会福祉調査法Ⅰ」の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

社会的現実を把握するときには、一定の理論や仮説をもちいながら、対象にアプローチし、現象を支配している何らかの法則を明らかにすることが求められる。その際に有効な技術としての「社会調査法」が必要となる。ここでは社会的現実の一つである「社会福祉」を対象として、質的調査と量的調査の具体的な方法を学ぶ。とくに社会福祉の対象である国民の生活問題をどのようにとらえ、どのように調査・分析すべきかについて、具体的な調査データの分析作業を通して考える。同時に受講生とともに福祉現場の実態を明らかにする「調査票」づくりをおこなう。

2. 教育・学習の個別課題

- ・社会福祉と生活問題の構造
- ・社会認識の方法としての社会・福祉調査(標本・標本抽出)
- ・社会・福祉調査の種類と内容(質的・量的調査)
- ・仮説づくり(生活問題をとらえる視点と枠組み)
- ・社会福祉調査の手順・個人情報保護
- ・調査データの点検・集計・分析(統計法の基礎)

3. 教育・学習の方法

授業形式は、講義を中心にしながら、小グループでの討議、作業、発表などをおこなう。テキストは『社会調査へのアプローチ(第2版)』 ミネルヴァ書房をもちいる。事前にテキストの学習範囲を指定するので、参考資料も併せて可能な限り目を通して頂くことを期待したい。なお、授業内容は、数学が苦手な人にも分かりやすく、卒業論文にも役立つように、実際に実施した調査をもとにして具体的にすすめる。この授業では集計・分析方法を理解した上で、具体的な調査票作成までを目標とする。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

評価は学習状況(態度・発表)30%、小レポート30%、期末テスト40%により総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会的現実を見る視点
- 第3回 社会(福祉)調査とは何か(基本ルール)
- 第4回 社会(福祉)調査の基本と手順および調査における倫理と個人情報
- 第5回 量的調査の方法・質的調査の方法
- 第6回 調査票づくりにおける仮説構築
- 第7回 調査票づくりにおける分析枠組
- 第8回 調査票の設計(質問文の作成/選択肢)
- 第9回 サンプリングの実際
- 第10回 調査票調査の種類とプロセス
- 第11回 調査票の回収と点検/データ化
- 第12回 調査のための統計解析(単純集計)
- 第13回 調査のための統計解析(クロス集計)
- 第14回 調査票の作成(受講者のテーマにもとづく調査項目)
- 第15回 まとめ(実際の調査票の批判的考察)

6. 留意事項

受講者のグループをつくり、役割を決めて発表し、討論をする学習形態をとるので主体的な参加を期待する。

1. 科目の教育目標

ここでは「社会福祉調査Ⅰ」で学んだことを基礎にして、調査データの集計・点検・分析を実際のデータをもとにして深める。具体的には調査データの分析に必要な統計方法を基礎から学びつつ、統計ソフト Excel を駆使して、データのコーディング、データ・クリーニング、集計、分析を自分で出来るようにすることをめざす。またその作業を通して統計ソフト SPSS などの基礎統計量の意味を理解する。

2. 教育・学習の個別課題

- ・社会福祉調査とは何か
- ・理論仮説・作業仮説の理解
- ・サンプリングと調査の実施
- ・調査データの集計、分析
- ・基礎統計量の理解
- ・検定の種類と使い方

3. 教育・学習の方法

授業形式は、小グループでの討論、作業、報告、ドリルなどを織りまぜておこなう。テキストは「社会福祉調査Ⅰ」で用いた「社会調査へのアプローチ」の後半部分を活用する。データ分析には、基礎的な統計理解が必要となるが、数学の苦手な受講者でもわかるように、Excel を使いながら理解を深める。

・準備学習の具体的な方法

毎回、作業に必要な調査データを配布し作業を行う。授業はゆっくりすすめるが、コンピュータ操作に慣れ、操作・分析を自分のものにするために、受講者は授業後、必ず復習をすること。

4. 評価方法・評価基準

評価は学習状況(態度・発表)30%、小レポート30%、期末テスト40%により総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 社会福祉調査とはなにか
- 第2回 社会福祉の対象課題である生活問題の構造
- 第3回 社会福祉調査の分析枠組み、仮説づくり、調査票の設計
- 第4回 福祉調査分析の事前処理(回収、点検、コーディング、クリーニング)
- 第5回 福祉調査分析1(単純集計、クロス集計)
- 第6回 福祉調査分析2(単純集計、クロス集計)
- 第7回 福祉調査分析3(単純集計、クロス集計)
- 第8回 福祉調査分析4(グラフの作成)
- 第9回 福祉調査分析5(グラフの作成)
- 第10回 福祉調査分析6(標準化)
- 第11回 福祉調査分析7(因果関係)
- 第12回 福祉調査分析6(相関関係)
- 第13回 福祉調査分析6(予測)
- 第14回 福祉調査分析6(要因分析)
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

受講者の PC 操作の力量を考慮して授業をすすめる。Excel を活用して統計・調査の基本をおさえ、後半では SPSS の操作の基本を習得する予定である。

講義コード	24515001			
科目名	食品官能評価論			
担当者	加藤 佐千子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[フ]			
前提科目				
テキスト	『新版 食品官能評価・鑑別演習第3版』 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社			
参考文献	『おいしさを測る食品官能評価の実際』 古川秀子 幸書房 『調理科学実験』 大羽和子, 川端明子 学研書院 『官能評価士テキスト』 日本官能評価学会 建帛社 『調理と食品の官能評価』 松元伸子 建帛社 2012			
備考	定員24人 週2コマ連続			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

食品を選択するという行為には、多くの背景と動機が存在している。フードスペシャリストには、どんな場面においても種々の食品についての深い知識とそれらの品質を見抜く技能が必要である。そこで、「食品官能評価論」では、科学的・物理的な評価法、嗜好に結びつく官能的な食品の評価法の技術を実際の実験・演習を通して身につける。また、個々の食品の鑑別に役立つ知識の習得を目指す。

2. 教育・学習の個別課題

- ・食品の科学的評価法、物理的評価法を理解する
- ・食品の官能評価の方法を理解する
- ・個々の食品に関する知識を身につけ、食品の鑑別に役立てることができる

3. 教育・学習の方法

- ・3～4人のグループで実験・演習を行う
- ・講義と実験、演習を組み合わせた授業を構成する
- ・事前に予習をする
- ・実習後にレポートを提出する
- ・積極的に参加し、必ず自分で評価してみる
- ・準備学習の具体的な方法
- ・個別食品鑑別についてのワークシートを配布するので、それをを用いて予習・復習すること
- ・専門書を利用して、さらに深く学習し、それをレポートに記載するとよい

4. 評価方法・評価基準

評価基準・・・レポートの提出ができたか
各評価の方法を理解できたか
統計分析の方法が理解できたか
個別食品の鑑別に関する知識が身についたか

評価方法・・・レポート提出 59%
レポート内容 30%
授業への参加度 11%

10回以上の出席がない場合は、評価の対象としない。
欠席しても自学習してレポートを提出すればレポート提出点は与えられる。

5. 授業予定

- 第1回 本講義の進め方・評価の方法、実験室・器具の使い方の説明と食品の品質、食品の官能評価の概要
- 第2回 官能評価の基本・実施法の講義と官能評価(閾値の測定、5味の鑑別)
- 第3回 米・小麦粉製品の鑑別の講義と官能評価(2点識別試験法・2点嗜好試験法)
そば・イモ類の鑑別の講義と官能評価(3点識別試験法)
- 第4回 豆類・種実類の鑑別の講義と官能評価(順位法1)
- 第5回 野菜類・キノコ類・果実類の鑑別の講義と官能評価法(順位法2)
- 第6回 海藻類・肉類鑑別の鑑別の講義と官能評価(順位法3)
- 第7回 乳と乳製品・卵とその加工品の鑑別の講義と卵の鮮度・調理性の実験(ハウユニット測定法)
- 第8回 魚介類とその加工品・油脂の鑑別の講義と物理的評価(色・粘度の測定)
- 第9回 果実類・醸造食品・調味料の鑑別の講義と物理的評価(レオロジー・テクスチャー測定)
- 第10回 香辛料・酒類の鑑別の講義と化学的評価法(酵素的褐変)
- 第11回 茶類、清涼飲料の鑑別の講義と化学的評価法(非酵素的褐変)
- 第12回 コーヒー・ココアの鑑別の講義と科学的評価法(糖度・酸度)
- 第13回 清涼飲料・菓子類インスタント食品・弁当・惣菜の鑑別の講

義と官能評価(評点法・SD法)

第14回 官能評価の計画

第15回 計画案の実践とまとめ

6. 留意事項

- ・実験中は、種々の危険が伴うので、安全に気をつけること。
- ・実験中は、白衣を着用すること。
- ・実験中、官能評価中は私語を慎むこと。
- ・1クラス定員24人とする。
- ・レポート提出は、翌週の授業開始前とする
- ・官能評価の食品代金が必要

講義コード	24515101			
科目名	食品流通論			
担当者	工藤 春代			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[フ]			
前提科目				
テキスト	『新版 食品の消費と流通』 日本フードスペシャリスト協会 建帛社 2008			
参考文献	『食料経済－フードシステムからみた食料問題－』 高橋正朗 理工学社 2010 『フードシステムの経済学』 時子山ひろみ・荏開津典生 医歯薬出版株式会社 2008			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

食品が私たちの手元に届くまでには、生産・加工・流通という多段階にわたる複雑なプロセスをたどるため、その現状や実態は見えにくい。そこで本講義では、食品が消費者に届くまでの仕組みと、生産・加工・流通にかかわる事業主体の行動(マーケティング活動など)について理解することを目標とする。また食生活の変化やそれがフードシステムに与える影響についても理解する。食の現在と、私たちが直面している食をめぐる問題を考える。

2. 教育・学習の個別課題

食生活の変化とその背景、フードビジネス(小売業、卸売業、外食産業、中食産業)の行動や全体的な構造、また現在の食品消費の課題(環境問題や食品安全問題)について理解する。

3. 教育・学習の方法

テキストを用いて行う。毎回レジュメを配布し、スライドやビデオを活用する。

・準備学習の具体的な方法

日ごろから食に関することに興味を持ち、新聞・ニュース等を通じて情報を収集すること。事前にテキスト(授業予定分)を読んでおくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度と授業態度(20%)および定期試験(80%)で評価する。毎回講義後に、簡単な課題を提出してもらう。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス：食生活や食品生産・流通の仕組みを理解する意義について、フードシステムという概念をもとに説明する。
- 第2回 食生活形態と食品消費の変化①：現在の私たちの食生活の特徴について理解する。食生活形態の変化や、変化の要因について説明する。
- 第3回 食生活形態と食品消費の変化②：品目別消費量の変化や、食の変化を示すキーワードについて学ぶ。
- 第4回 フードマーケティング①：マーケティングの基礎知識を学ぶ。またフードマーケティングの事例も紹介する。
- 第5回 フードマーケティング②：企業や消費者を取り巻く大きな環境変化について説明する。
- 第6回 食料品の中間流通①：生鮮品の流通に大きな役割を果たしている卸売市場について説明する。
- 第7回 食料品の中間流通②：加工食品を扱う食品問屋について説明する。
- 第8回 食品市場と食品流通①：食品小売業の行動(マーケティング戦略など)や全体的な構造を解説する。
- 第9回 食品市場と食品流通②：外食産業の行動(マーケティング戦略など)や全体的な構造を解説する。
- 第10回 食品市場と食品流通③：中食産業の行動(マーケティング戦略など)や全体的な構造を解説する。
- 第11回 食品市場と食品流通④：第8～10回の授業に関連する具体的な

- な事例について学ぶ（ビデオ教材）。
- 第12回 新しい食品消費の課題①：環境保全のための国や企業の取り組みを解説する。
- 第13回 新しい食品消費の課題②：食の安全確保のための考え方や、そのための仕組みを解説する（前半）。
- 第14回 新しい食品消費の課題③：食の安全確保のための考え方や、そのための仕組みを解説する（後半）。
- 第15回 新しい食品消費の課題④：第12～14回の授業に関連する具体的な取り組み事例について学ぶ（ビデオ教材）。

6. 留意事項

講義コード	24520001			
科目名	アパレル造形学（実習を含む）			
担当者	牛田 好美・鳥居本 幸代			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[家]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員24人 週1.5コマ連続			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

被服構成の方法には立体構成と平面構成とがある。日本において前者は洋服、後者は和服に代表される。今年度は、浴衣を課題とし、両者の考え方の違いを理解しながら、着衣基体である人体の理解と、家庭科教員免許状に必要な基礎技術の習得をはかる。立体裁断、平面製図について、それぞれの解説を行い、理解をうながす。

2. 教育・学習の個別課題

被服構成の理論を浴衣の製作を通じて理解し、実習技術を習得する。

3. 教育・学習の方法

随時、プリントを配布する。

・準備学習の具体的な方法

配布資料をよく読むこと。浴衣製作においては、その授業内で仕上げられなかったことは、必ず、次週までに仕上げ、次の授業に臨むこと。

4. 評価方法・評価基準

作品の提出(50%)、授業参加度(30%) 授業への意欲(20%)により、総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 立体構成法と平面構成法の相違点について、
- 第2回 採寸による人体把握
- 第3回 浴衣製作の概要説明
- 第4回 生地と裁縫用具について
- 第5回 浴衣製作① 柄合わせ、裁断
- 第6回 浴衣製作② しるしつけ
- 第7回 浴衣製作③ 袖
- 第8回 浴衣製作④ 背縫い
- 第9回 浴衣製作⑤ 脇縫い
- 第10回 浴衣製作⑥ おくみ付け
- 第11回 浴衣製作⑦ えり付け
- 第12回 浴衣製作⑧ 袖付け
- 第13回 仕上げ
- 第14回 着付け
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

材料費については、自己負担です。
実習を含む講義であるため、欠席した場合、履修生の負担は大きくなります。

講義コード	24520101			
科目名	ベーシックキュース・イン			
担当者	根立 恵子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[家][フ]			
前提科目				
テキスト	『おばんざいからもてなし料理』 米田泰子 日商社 2003			
参考文献	『NEW 調理と理論』 山崎清子、島田キミエ、渋川祥子、下村道子、市川朝子、杉山久仁子 同文書院 2011 『日本食品標準成分表 2010』 栄養関係出版社			
備考	定員32人 週2コマ連続			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本実習を通じ、調理学や食品学等で学んだ知識の理解度を深めることは言うまでもないが、それだけにとどまらず、実際の行動にその知識を生かす能力を養い、心身の健康を維持し、豊かな魅力ある食生活の実践性を高めることを目標とする。

具体的には、日本料理・中国料理・西洋料理の基礎技術と調理理論、食事時のマナー・サーブの仕方、喫食者に対応した食事作りの方法、大量調理等を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 調理の基礎技術
2. 調理に必要な理論
3. 食事のマナー、サーブの仕方
4. 献立作成
5. 創る楽しみ、供する喜び

3. 教育・学習の方法

授業方法

- 1) 調理の理論や注意点等を説明した後、実習・試食し、出来上りを評価する。
- 2) 実習ノート、栄養計算を提出する。

・準備学習の具体的な方法

1. 予習・次回の実習内容と課題を示すので、調べてから授業に臨む。
2. 復習・実習した内容を記録して考察し、自宅で再調理する。

4. 評価方法・評価基準

評価は授業参加度（30%）、授業態度・技術水準（30%）、各種提出物・試験（40%）に基づいて総合的に行う。欠席・遅刻は、減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 調理の基本と理論
- 第2回 白飯、清汁、筍の木の芽和え、即席漬け
- 第3回 かやくご飯、味噌汁、出し巻き卵、煮物、みかん羹
- 第4回 筍ご飯、味噌汁、煮魚、和え物、蜜豆
- 第5回 中国料理
- 第6回 西洋料理
- 第7回 懐石料理
- 第8回 三色おはぎ、けんちん汁、酢の物、献立作成
- 第9回 会席料理
- 第10回 すし3種、清汁
- 第11回 五色そうめん、なすの田楽、和菓子
- 第12回 松花堂弁当
- 第13回 茶飯、清汁、揚げ物盛り合わせ、和え物、煮物
- 第14回 丼物、沢煮椀、揚げ物、冷し鉢
- 第15回 まとめ、実習室の掃除

6. 留意事項

受講者はテキスト代、食材費、その他諸費として15,000円が必要。実習時には白衣着用の事。

講義コード	24520201			
科目名	アドバンスクイーズ イン			
担当者	米田 泰子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[フ]			
前提科目	ベーシッククイーズ イン (基礎調理実習)			
テキスト	『調理のよこび』 シスターテレサマーガレット著 『おぼんざいからもてなし料理』 米田泰子著			
参考文献				
備考	定員 32 人 週 2 コマ連続			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

ベーシッククイーズ インで習得した調理技術を基に、より高度な技術を学びながら、多方面にわたる応用力を身につける。また実習によって学ぶ過程から高度な問題意識を持つ能力を養う。さらに国によって異なる食卓の演出方法(食器の選び方、食べ物の盛り付け方、テーブルウェアの使い方)、食事時のマナー(座り方、食べ方、話し方)、サーブの仕方(する側、される側)などを実践を持って学ぶ。授業終了時には如何なる席に出席してもレベルの高い行動がとれるようになることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 各国の食材、調理技術、食卓文化
2. 各国のミールプランニング
3. 各国のテーブルウェア
4. 各国の食事時のマナー
5. 各国の食事サービスの方法

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法

1) 実習時間の配分

15 分間・・説明、130 分間・・調理・試食、35 分間・・後始末

2) 実習ノート、レポートの提出

2. テキスト

1) 調理のよこび

2) おぼんざいからもてなし料理

3) 資料を適宜配布する

・準備学習の具体的な方法

- ・授業終了後レポートをまとめ、次週に提出する。
- ・シラバスにそって必ず予習をすることを義務付ける。

4. 評価方法・評価基準

・評価は授業参加度 30%、技術水準 20%、実習ノート 40%、レポート 10%などで評価する。

・欠席回数が 3 分の 1 を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. 授業予定

第 1 回 世界の代表的な食べ物と料理についての講義、実習室の使い方の説明、小麦粉の基礎調理

第 2 回 洋風朝食メニュー

第 3 回 洋風昼食メニュー

第 4 回 洋風夕食メニュー

第 5 回 地中海料理

第 6 回 ドイツ料理

第 7 回 ロシア料理

第 8 回 中国料理

第 9 回 タイ料理

第 10 回 クリスマスディナー

第 11 回 懐石料理

第 12 回 正月料理

第 13 回 精進料理

第 14 回 パフェ式ティーパーティ

第 15 回 まとめ・実習室の大掃除

6. 留意事項

受講者はテキスト代、食材費、その他諸費として 15,000 円が必要。

授業時には白衣を着用する。

講義コード	24520301			
科目名	フードコーディネーター論			
担当者	米田 泰子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[フ]			
前提科目				
テキスト	『三訂フードコーディネーター論』 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社			
参考文献	『フードコーディネーター教本』 日本フードコーディネーター協会 柴田書店 1998			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

飽食の時代の中で、食生活を満足させるための高度な付加価値とは何かを、フードコーディネーターの基本理念と課題、また食文化とその課題等で学ぶ。実際に食事の目的と、準備される食事、周りの環境が一致するようなコーディネーターのできる能力をミールプランニングやテーブルサービス・マナー等を学ぶことによって身につける。また食を提供する事業を遂行するためのフードマネジメント、フードコーディネーターの情報と企画、食環境とフードシステム等を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 食をコーディネートするセンスを養う。
2. 事業として食を提供するノウハウを学ぶ。

3. 教育・学習の方法

- ・テキストに沿って講義で授業を進める。
- ・実際にグループでテーブルコーディネーターをする。
- ・事業として食を提供するレポートを作成し、発表する。

・準備学習の具体的な方法

- ・シラバスにそって教科書の範囲を予習することを義務付ける。

4. 評価方法・評価基準

・成績は授業時の課題 2～3 の小レポート (30%) 及び最後のレポート A4 で 7 枚 (70%) で評価する。

・欠席回数が 3 分の 1 を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. 授業予定

第 1 回 フードコーディネーターの基本理念

第 2 回 食事の文化

第 3 回 食事の文化

第 4 回 食卓のコーディネーター

第 5 回 食卓のコーディネーター

第 6 回 食卓のサービスとマナー

第 7 回 メニュープランニング

第 8 回 メニュープランニング

第 9 回 食空間のコーディネーター

第 10 回 食空間のコーディネーター

第 11 回 フードサービスマネジメント

第 12 回 フードサービスマネジメント

第 13 回 食企画の実践コーディネーター

第 14 回 レポート発表 (各自が作成した食企画の実践コーディネーターのレポートの発表)

第 15 回 レポート発表 (各自が作成した食企画の実践コーディネーターのレポートの発表)

6. 留意事項

講義コード	24520401			
科目名	住環境学 (製図を含む)			
担当者	竹原 広実			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[家][建][イ]			
前提科目				
テキスト	『図解住居学 5 住まいの環境』 図解住居学編集委員会編 彰国社			
参考文献	表題に環境工学、建築環境工学、建築環境 と銘打った書籍であれば参考になる			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

私たちの生活環境は向上し、快適な住宅に暮らしていると考えられている。しかし、現在の住環境において新たに発生している問題も多い。講義では健康で、安全で、より豊かな生活を実現するための住宅環境全般に渡る基礎的知識の習得をはかり、同時に住まいに対するより深い理解と実生活への積極的な応用を目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. 住宅を取り巻く環境について理解する。
2. 物理的側面からの「快適」を把握する。
3. 基礎的専門用語を正しく理解する。

3. 教育・学習の方法

- (1)講義主体
- (2)講義は教科書を中心に進行
- (3)適宜配布するプリントで教科書の欠を補う

・準備学習の具体的な方法

テキストを読むなどして予習をするとともに、前回授業の復習をしっかりとして知識を定着させておくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は形成テスト(90)、授業の参加度(10)を基本として行う

5. 授業予定

- 第1回 住環境計画とは
- 第2回 音の特性、音の伝わり方1
- 第3回 音の特性、音の伝わり方2
- 第4回 遮音1
- 第5回 遮音2
- 第6回 吸音
- 第7回 伝熱
- 第8回 熱損失、断熱
- 第9回 熱貫流
- 第10回 熱容量
- 第11回 日照、照明環境1
- 第12回 日照、照明環境2
- 第13回 空気汚染物質、換気計画1
- 第14回 空気汚染物質、換気計画2
- 第15回 形成テストとまとめ

6. 留意事項

講義コード	24520501		
科目名	京都衣生活論 京都からキモノを知る		
担当者	鳥居本 幸代		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ホ]		
前提科目			
テキスト	プリントを配布する		
参考文献	『日本の染織4『小袖』 長崎巖 京都書院 1993年 『日本の染織2『辻が花』 河上繁樹 京都書院 1993年 『日本の染織5『友禅染』 丸山伸彦 京都書院 1993年 『都風俗化粧伝』 佐山半七丸 平凡社 1982年 『近世風俗志』 喜田川守貞 名著刊行会 1979年		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

京都は平安京遷都以来、ファッションの発信地であった。キモノを彩る染と織の技術は、奈良時代、中国との交流によって伝来し、平安時代には織部司を設置してその技法伝承に務めたが、応仁の乱によって高度な染織技術は灰燼に帰してしまう。その後、明貿易によって異国の目新しい染織品がもたらされ、戦禍を逃れた職人たちは西陣跡に大舎人座を結成し、新しい息吹を吹き込んだ。17～18世紀には友禅染が誕生し、小袖の上着化にともなって大いに発展した。本講義では、現代にも受け継がれているキモノの源流である安土桃山時代の近世初期小袖から江戸時代にみる小袖の意匠、その染織技法について述べるとともに、キモノを通して「和」の文化を再認識し、京都の衣生活文化を探究する。

2. 教育・学習の個別課題

- ①中世の京都
- ②応仁の乱と染織界

- ③安土桃山時代の服飾
- ④小袖の形態的変遷
- ⑤雛形本にみる小袖意匠
- ⑥小袖を彩る染織技法
- ⑦京都の伝統産業と衣生活—西陣織・友禅染・縮緬
- ⑧京坂と江戸の衣生活比較
- ⑨『都風俗化粧伝』からみた化粧
- ⑩ 京都の仕事着
- ⑪現在のキモノ

3. 教育・学習の方法

講義形式をとり、パワーポイントやビデオを使用して視覚的理解を促す。第1回以降、授業終了後にまとめの小テストを行う。

・準備学習の具体的な方法

授業予定に則して、事前に与えられた課題（たとえば、第3回では友禅染についての知識）を調べてまとめておく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（30%）、小テスト（20%）、確認テスト（50%）に基づいて総合的に行う。欠席・遅刻は、減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 序論 キモノのルーツを探る 大袖から小袖へ
- 第2回 近世初期小袖のデザイン
- 第3回 雛型本から流行の小袖を知る
- 第4回 友禅染
- 第5回 時代祭にみるファッションの変遷
- 第6回 尾形光琳の小袖製作と影響
- 第7回 江戸好みの小袖
- 第8回 『近世風俗志』による京坂と江戸の衣生活の比較
- 第9回 染と織の基礎
- 第10回 西陣織と縮緬 京都の伝統産業の現状についてもふれる
- 第11回 キモノの模様
- 第12回 祇園祭と染織品
- 第13回 『都風俗化粧伝』から知るメイク
- 第14回 販婦の衣裳からみた京都の仕事着
- 第15回 現代のキモノ

6. 留意事項

講義コード	24520601		
科目名	京都食生活論		
担当者	米田 泰子		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	隔年開講1		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

794年奈良から京都に都が移されて以来、築き上げられた京都の食生活を他国の食生活と比較しながら、時代を追ってみる。そこから食生活に影響を及ぼす要因を探究し、我々にとって大切な食生活のかたちを提案していく裏づけを見つける。

京都から全国に、また世界に発信してきた食文化の影響がどれほど大きかったかをも見る。

2. 教育・学習の個別課題

1. 食生活と食文化
2. 世界の食生活と食文化
3. 時代ごとの京都の食生活と食文化
4. 京都の食生活が影響を与えたとされる地域の食文化

3. 教育・学習の方法

主に講義形式で授業を進めるが、必要に応じてビデオを用いることがある。テーマに基づいて指定した現地を見学し、レポートをまとめる。

・準備学習の具体的な方法

各授業の終わりに次回までに調べてくる課題を与える。

4. 評価方法・評価基準

評価は授業中の課題提出（30%）レポート（70%）で行う。

5. 授業予定

- 第1回 食生活と食文化
- 第2回 世界の四大文明と食

- 第3回 世界の三大料理と文化
- 第4回 縄文、弥生時代の文化と食生活
- 第5回 古墳、飛鳥時代の文化と食生活
- 第6回 奈良時代の文化と食生活
- 第7回 平安時代、京都の文化と食生活
- 第8回 鎌倉時代、京都の文化と食生活
- 第9回 室町時代、京都の文化と食生活
- 第10回 江戸時代、京都の文化と食生活
- 第11回 明治、大正時代、京都の文化と食生活
- 第12回 昭和時代、京都の文化と食生活
- 第13回 京都から全国に発信した食文化
- 第14回 京都から世界に発信した食文化
- 第15回 レポートの発表

第15回 プレゼンテーションの講評とまとめ

6. 留意事項

講義コード	24520801			
科目名	京都生活産業実習			
担当者	牛田 好美・加藤 佐千子・竹原 広実・鳥居本 幸代・中村 久美・米田 泰子			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員 20人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

6. 留意事項

講義コード	24520701			
科目名	京都住生活論			
担当者	増井 正哉			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[建][イ]			
前提科目				
テキスト	授業時間中に資料を配布する。			
参考文献	『まち祇園祭すまい』 谷直樹・増井正哉編 思文閣出版			
	『京町家・千年のあゆみ 都にいきづく住まいの原型』 高橋康夫 学芸出版社			
	『京町家づくり千年の知恵―「間口三間」を生かす独自のこしらえ』 山本茂 祥伝社			
	『京町家』 新谷昭夫 光村推古書院			
	『京町家のしきたり 218年の歳中覚』 杉本節子 光文社			
備考	『東京育ちの京町家暮らし』 麻生圭子, 文芸春秋社			
	『京町家の春夏秋冬』 小島富佐江, 文英堂			
	『町家再生の技と知恵―京町家のしくみと改修のてびき』 京町家作事組, 学芸出版社			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この科目では、京都での生活や伝統産業を学び、関連する地域や企業の見学研修および作品制作を行う。ライフデザイン領域で学んだ、専門的な「衣食住」の知識や技術を活かし、女性ならではの感性を活かした企画・提案を行う。京都の伝統を直接に感じ、地域へのより一層の理解や連携に発展することを期待する。

2. 教育・学習の個別課題

1 京都の歴史や伝統および地元産業への理解を深める 2 職業意識の向上 3 発想力の養成 4 専門分野に関して、現場での応用・実践をすることで、より確かな知識や技術の習得

3. 教育・学習の方法

1 事前授業 2 見学実習 3 担当教員の指導 4 実習報告および作品発表

・準備学習の具体的な方法

京都の伝統や文化を感じるため、積極的に、京都の神社仏閣を訪れたり、街中にてかけてください。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度(30%)、発表とレポート(50%)、授業への意欲・積極性(20%)で行う。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 事前授業(京都の食文化)
- 第3回 事前授業見学(京都の住文化)
- 第4回 事前授業実習(京都の衣文化) 報告および作品発表会
- 第5回 町家見学①
- 第6回 町家見学②
- 第7回 町家見学③
- 第8回 町家見学④
- 第9回 町家見学⑤
- 第10回 町家で体験実習①
- 第11回 町家で体験実習②
- 第12回 町家で体験実習③
- 第13回 町家で体験実習④
- 第14回 町家で体験実習⑤
- 第15回 中間発表会
- 第16回 学外講師による特別授業①
- 第17回 学外講師による特別授業②
- 第18回 生活造形実習(衣分野①)
- 第19回 生活造形実習(衣分野②)
- 第20回 生活造形実習(衣分野③)
- 第21回 生活造形実習(住分野①)
- 第22回 生活造形実習(住分野②)
- 第23回 生活造形実習(住分野③)
- 第24回 生活造形実習(食分野①)
- 第25回 生活造形実習(食分野②)
- 第26回 生活造形実習(食分野③)
- 第27回 マーケティング実習①
- 第28回 マーケティング実習②
- 第29回 マーケティング実習③
- 第30回 報告および作品発表会

6. 留意事項

見学および実習は、土・日曜日や夏期休暇期間中に行うことがあります。見学および実習にかかる費用(交通費および材料費)は自己負担となります。

見学先や体験実習の内容については、授業内で発表します。

1. 科目の教育目標

京都における住生活と生活空間の関連性を、町家→町内→都市という空間的スケールを縦軸に、日常・非日常という横軸を組みあわせて考え、その歴史と現代的課題を理解する。

2. 教育・学習の個別課題

講義を通して知識をえるとともに、できるだけ町をあるき、京都の住生活と生活空間に触れること。

3. 教育・学習の方法

第12回までを講義とする。途中で適宜、見学を行う。第5回目に京都における住生活に関するレポートを課し、第13、14回に各自その内容を発表し、相互に論評しあう。

・準備学習の具体的な方法

毎回の授業の終わりに、準備学習の参考になるように、次回までの小課題を課す。

4. 評価方法・評価基準

レポートの評価(40%)、最終プレゼンテーション(第13回、第14回)の評価(40%)、講義中の質疑応答(20%)で、最終評価を行う。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション 京都における住生活と都市・住宅
- 第2回 住生活の舞台 その1 町家
- 第3回 住生活の舞台 その2 町内と都市
- 第4回 生活空間の形成 その1 平安京から町衆の都市へ
- 第5回 生活空間の形成 その2 伝統的都市空間とその近代的変容
- 第6回 町家の暮らし
- 第7回 町内の暮らし
- 第8回 都市祭礼と町家・町並み その1
- 第9回 都市祭礼と町家・町並み その2
- 第10回 京都の町づくりと住生活
- 第11回 京町家再生の現状と課題
- 第12回 京都ブランドと住生活の未来
- 第13回 プレゼンテーション その1
- 第14回 プレゼンテーション その2

講義コード	24520901			
科目名	ビジネスの基礎 こらからの20年、30年を考える力をつけよう			
担当者	新村 佳史			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	テキストは特に使用しません。毎回、受講者の意見を聞きながらプリントを準備します。			
参考文献	世界地図 新聞			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

ビジネスの基礎、というタイトルですが、この授業で学ぶ「基礎」とは、社会人として求められるコミュニケーション力、それも、「自分が考えていることをきちんと人に伝える」力を身につけよう、ということです。教育や福祉などの仕事でも、最も求められている力です。それを楽しく身につけていくために、音楽やファッション、食べものなど身近なことをまず見つけて、それが世界のどこで、どう生まれてきたかという知識を身につけます。楽しく、系統だった雑学ですね。そこから今度は、自分なりの考えをまとめていく、と言う企画力作りに入ります。短期間で成長が実感できる、そういう授業を目指しています。ことに自分の未来を考える力を養ってください。書く、考える、話し合う、意見を発表する量が多くなります。就職試験で求められる面接やグループディスカッション対策にもなる講義です。

2. 教育・学習の個別課題

- ・基礎教養の再確認 世界を広げるための基礎力チェックとその養成、ことに宗教と民族の特性について
- ・メディアの特質とその個性 新聞、テレビ、映画、通信、広告などの役割
- ・社会参加の様々な方法を知ろう
- ・ビジネスにおける情報の価値を知る グローバル社会の意味と怖さ
- ・コミュニケーション力とはなにか 相手を知らないと始まらない
- ・世代論の基礎 自分たち世代の強み、弱みを知ろう
- ・企画とはなにか すべては上手な目標設定から
- ・企画を実際に立ててみよう 上手に自分の考えを伝える手法

3. 教育・学習の方法

毎回プリントを準備し、さまざまなテーマについて読み、考えるという作業を行います。また、企画書の作成はもちろんのこと、その回のテーマについて考えたことを多様なスタイルで「書く」ことで、自分の考え方の確認をするとともに、言葉を用いての情報発信の技術を身につけていきます。書くことがきつと、楽しくなります。プリント、作成物をまとめておくファイルを必ず準備してください。

・準備学習の具体的な方法

新聞を読む、ニュースを見るという習慣を身につけて置いてください。また海外への関心の高い人を歓迎します。講義を通して、みなさんが旅行したくなる場所を見つけてくれれば幸いです。

4. 評価方法・評価基準

試験は行いません。授業中の態度と制作物で判断します。
授業態度・姿勢 30%、授業での課題（作文など） 30%、
最終制作物（企画書） 40%
毎回の課題、授業態度の評価度合いが高いので、欠席が多いようだと単位の認定は難しくなります。注意してください。

5. 授業予定

- 第1回 メディアについて知ろう
日本のメディアの特質と、広告論、聞く力の重要性
- 第2回 世界を知る基礎教養・1
世界のこともっと知ろう 宗教、民族の基礎
- 第3回 世界を知る基礎教養・2
面白い現代史 アジアと西洋をつなぐもの
- 第4回 今を知る基礎教養・1
不景気はなぜ生まれるの 経済に関心
- 第5回 今を知る基礎教養・2
会社とは何だろう これから会社はどうなるのか
- 第6回 国際コミュニケーション力とは何か
語学はツール、問題は中身
- 第7回 世代を知ろう 今の20代を大人はどう見ているか知ろう
- 第8回 さまざまな人の中での自分の客観化 「私」はどこにいる
- 第9回 ターゲット、という考え方

- 第10回 企画力をつける・1 目的の立て方
- 第11回 企画力をつける・2 手順の確認と評価の仕方
- 第12回 企画書を作る・1 まず自分の旅行計画書を作ってみよう
- 第13回 企画書を作る・2 根拠を示すための数字の使い方
- 第14回 企画書を作る・3 課題に沿って企画書を作る
- 第15回 発表

6. 留意事項

講義コード	24521001			
科目名	マーケティング論 数字に強い生活者になろう			
担当者	新村 佳史			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	今年度は特定のテキストは使用しません。毎回、プリントを準備します。			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「映画も好き、食べることも好き、音楽も好き、彼氏も好き」・好き、という言葉は何にでも使えますよね？でも、「好き」の中身は微妙に異なるはず。なんとかその違いを、うまく言い表せないかな、と考えたときに、役に立つのが「数字」です。感覚的なことを、上手に数値化できないかな、というのが現在の「マーケティング」です。形容詞でなく、数字で語ることができる、数字を読むことができる基礎を育てる授業です。また、数字を使うための上手な調査アンケートの作り方については、時間をかけてじっくり学べるように考えています。正しい情報、データを見抜き、賢い消費者になれる力を育てます。数字が苦手でも、数字の面白さがわかるように進めていきます。

2. 教育・学習の個別課題

- ・データの読み方、集め方・企業の商品開発の進め方・集めたデータから何を取り出すか・イメージの数値化・好き、嫌いの感覚を分析する手法・自分がビジネスをしたら・ビジネスチャンスをデータから発見する・調査票を作る・データは取り方で変化する

3. 教育・学習の方法

基本的には数字をさまざまに用いてデータを個々で蓄積していきます。また簡単なアンケート票の作成、発表をグループ単位で実施。実習的な演習を行います。各自の趣味、関心領域について「自分がなぜそれを好きになったのか」を探りながら、現代社会における企業の戦略についても各々が「気づく」ことを意識して授業を進めます。それにより、社会や企業活動に関心が深まることを期待しています。また、「だまされない生活者」になってください。

・準備学習の具体的な方法

自分が好きなこと（音楽、ファッション等なんでもいいです）を、他の人に論理的に説明できるかどうか、考えてみてください。あなたはなぜ、それが好きなんですか？ペットと彼氏とスイーツの「好き」に順位をつけることはできますか？とにかく考えることを重視します。論理的に考えることの重要性を理解してください。

4. 評価方法・評価基準

出席、および授業中の姿勢（30%）。授業時の課題・発表（30%）。学期末の試験（40%）。授業中の積極的な発言、課題への真剣な取り組みを高く評価します。

5. 授業予定

- 第1回 自分たちの「好み」とその形成をふりかえって好きになるって何？
- 第2回 企業が「好み」をつかまえる技術・マーケティングの考え方と流行の誕生
- 第3回 ニーズから行動へ 購買行動を考える
- 第4回 リーダーはどこにいる イノベーターという考え方
- 第5回 調査計画を立ててみよう さまざまな調査の行ない方
- 第6回 質問紙作成のテクニック 調査は「聞き方」で決まる
- 第7回 グループで調査計画、質問紙を作成してみよう
- 第8回 調査結果の上手な報告の仕方について
- 第9回 グループごとに調査結果を報告してみよう
- 第10回 消費者集団とはなにか 自分ははたして「普通」だろうか
- 第11回 差別化戦略とその具体的な方法論
- 第12回 マーケティングはどんな業種で求められているのか

- 第13回 さまざまな統計処理の方法
 第14回 現在のマーケティングの課題、
 これからのマーケティングの可能性
 第15回 総論、まとめ

6. 留意事項

講義コード	24521101			
科目名	女性起業論 生活福祉分野で起業する			
担当者	吉村 恵			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	授業内で紹介する			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

女性が会社や組織を設立する動きが活発化している。こうした女性による起業の動機や背景、経営手法などをみると、男性とは異なる特徴が多く見出される。仕事や生活、地域活動等を通じた力量やネットワークを活かして起業し、「進化」を続ける女性起業家が少なくない。この科目では、生活・福祉の分野を中心に女性起業家の実像に迫っていく。また、一部の時間はグループワークにおいて、アイデアを出し合って事業計画を立て、プレゼンテーションを行う。近年、企業においても、高い起業マインドや企画力、プレゼンテーション能力を持つ人材を求める傾向が強まっている。起業に興味のある人はもちろん、就職活動に必要な企画力、プレゼンテーション力を身につけたい人にも受講してほしい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 女性のライフスタイルと雇用環境の変化を把握する
2. 自己分析と自己アピールの手法を学ぶ
3. 女性起業家と事業の特徴を把握する
4. 起業の多様な形態や起業支援策を把握する
5. 新たなニーズに対応した商品・サービスに注目する
6. 事業計画、経営計画をたてる
7. 効果的なプレゼンテーションを行う

3. 教育・学習の方法

毎回配布するレジメに沿った講義が基本である。適宜、ビデオやDVDを使用し、受講生が具体的なイメージを持てるように努める。グループワークとプレゼンテーションも行う。

・準備学習の具体的な方法

受講生は、日頃から生活の様々な局面で、今、どのような商品やサービスが求められているかを常に意識してほしい。また、新聞や雑誌、文献を通じて、社会的ニーズや起業に関する情報収集が求められる。一方では、広く多くの情報を収集する訓練と他方では、一つの問題を深く多面的に掘り下げる訓練を行なってほしい。

4. 評価方法・評価基準

授業参加態度 30%、グループワーク、プレゼンテーション 40%、提出物 30%。

5. 授業予定

- 第1回 はじめに一授業の目的と計画、起業とは何かー
- 第2回 自己分析と自己アピールの効果的な方法
- 第3回 女性の雇用環境ーワークライフバランス、子育て支援などー
- 第4回 女性起業家の現状と課題
- 第5回 女性起業家支援策
- 第6回 女性起業家ケーススタディ I
- 第7回 " II
- 第8回 コミュニティビジネス
- 第9回 社会起業家
- 第10回 注目される新商品・サービス
- 第11回 事業計画をたてる
- 第12回 グループワーク
- 第13回 グループワーク
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24521201		
科目名	消費者教育		
担当者	工藤 春代		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献	『新版 生涯消費者教育論ー地域消費者力を育むためにー』 谷村賢治・小川直樹編 晃洋書房 2007		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

我々の生活は多くが商品やサービスを消費することで成り立っている。2004年の消費者基本法では、消費者の権利を尊重すると共に、消費者の自立を支援することが定められている。しかしここ数年で、消費者を取り巻く環境は大きく変化しており、規制緩和の進展やインターネットの普及等により、消費者被害は増加している。同時に消費者被害の対象は広範囲に及び、問題が複雑化・多様化しているのが現状である。本講義では、一人一人が適切な「選ぶ目、決める力」を身につけるにはどうすればよいかを考える。

2. 教育・学習の個別課題

製品や取引をめぐる様々な消費者被害の実態を詳しく理解する。消費者を取り巻く新たな環境について学び、今後消費者に求められること、身につけておくべきことについて考える。

3. 教育・学習の方法

テキストは使用せず、毎回資料を配布する。スライドやビデオを活用する。

・準備学習の具体的な方法

日常的に消費者問題に関心を持ち、新聞やニュース等で情報を収集しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度と授業態度（20%）、小課題（10%）、レポート（70%）で評価する。毎回、小課題を提出してもらおう。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 消費者の意思決定プロセス①：私たちは商品・サービスの購入の際に、どのような意思決定プロセスをとるのだろうか。またものごとを認知するときにはどのようなバイアスがかかっているのだろうか。消費者の情報処理の特徴を知ること、どのような問題が発生しやすいかの理解が可能になる。
- 第3回 消費者の意思決定プロセス②：第2回の続きを行う。
- 第4回 情報との付き合い方：私たちはメディア等を通して情報を受け取っている。メディアの情報提供方法や問題点を通じて、情報収集の際に気をつけるべきことを考える。
- 第5回 消費者問題の歴史：戦後から現在に至るまで、日本ではどのような消費者被害が発生し、問題はどのように変わってきたのかについて説明する。
- 第6回 消費者被害の実際①：様々な悪質商法による被害の実際とその対策について概説する。
- 第7回 消費者被害の実際②：生活用品に関する消費者被害の実際とその対策について概説する。
- 第8回 消費者被害の実際③：携帯・インターネット、金融問題などに関する消費者被害の実際とその対策について概説する。
- 第9回 食品に関する知識①：消費者の関心の高い食品を取り上げ、その安全確保の仕組みや考え方、表示制度を説明する。
- 第10回 食品に関する知識②：「健康食品」の問題を考える。
- 第11回 消費者行政・制度①：消費者行政の仕組みや法律、消費者被害の救済制度について概説する（前半）。
- 第12回 消費者行政・制度②：消費者行政の仕組みや法律、消費者被害の救済制度について概説する（後半）。
- 第13回 競争政策：事業者間の公正な競争を確保するために、どのような仕組みが整えられているかを説明する。
- 第14回 消費行動の影響：私たちの消費行動が社会にどのような影響を与えているか、具体的な事例をもとに考える。
- 第15回 消費者に必要とされること：上記の内容を踏まえて、これから消費者に必要とされること、身につけておくべきことは何かを考える。

6. 留意事項

講義コード	24521301			
科目名	保育学(実習及び家庭看護を含む) 現代社会における子育て法			
担当者	萩原 暢子			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[家]			
前提科目				
テキスト	『新保育学』 岡野雅子ほか 南山堂			
参考文献	『育児の百科』 松田道雄 岩波書店 『子どもは素晴らしい』 牛尾信也ほか 金原出版			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

人間の子どもは他の動物と異なり、自立のために親が長期にわたって世話をし、育てはぐくむ必要がある。子どもをしっかりと育てることは社会全体の最大の責任である。保育書を読んだり、ニュース等について考える時には、基礎となる正しい医学的・生物学的・社会学的知識を身に付けている必要がある。本講義の目的は、教養ある母親としての常識的な判断力を養い、世間の風評に左右されない保育者を育てることである。

2. 教育・学習の個別課題

1. 保育を学ぶ 2. 子どもの発達 3. 子どもを育てる 4. 子どもの育つ環境の整備 5. 子どもとふれ合う(保育実習) 6. 家庭における看護

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法 講義形式、見学実習では、現場へ出向する。
2. 学習方法 (1) テキストに沿って行く。プリント、OHC、パワーポイントで内容補充。(2) 提起された問題点を“一緒に考える”といった態度で授業に臨んで欲しい。

3. テキスト・文献等

(1) テキストは『新保育学』(南山堂)を用いる。
(2) 参考文献『育児の百科』(岩波書店)、『子どもは素晴らしい』(金原出版)・準備学習の具体的な方法

・次回の講義分のテキストを、しっかりと読んでくること。

4. 評価方法・評価基準

1. 評価は、レポート(10%)、授業参加度(10%)、定期試験(80%)の総合評価とする。2. 3分の2以上の授業参加度がないものは、成績を評価しない。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
第1章 保育を学ぶ(育児学と保育学)
第2章 子どもの発達 A. 母体の健康管理と子どもの誕生(I)
第2回 第2章 子どもの発達 A. 母体の健康管理と子どもの誕生(II)
B. 子どもの心身の発育・発達(I)
(新生児の生活現象)
第3回 第2章 子どもの発達 B. 子どもの心身の発育・発達(II)
(パーセントイル)
第4回 第3章 子どもを育てる A. 愛着と自律
宿題「愛着行動の重要性について」レポート
第5回 第3章 子どもを育てる B. 親のかかわりと人格形成
第6回 第3章 子どもを育てる C. 親の保育責任
(DVD『頑張れ!お父さん』)(基本的生活習慣)
第7回 第3章 D. 親の不適切なかかわりとその影響(児童虐待)
第4章 子どもの育つ環境の整備 A. 子どもの生活と遊び(I)
(母乳栄養と離乳の意義)
第8回 第4章 子どもの育つ環境の整備 A. 子どもの生活と遊び(II)
第9回 第4章 B. 家庭保育と集団保育子どもの育つ環境の整備
C. 児童福祉、子育て支援(不登校の話)
第10回 第6章 家庭における看護 A. 病気や事故の予防と手当て(I)
(死因、感染症)
第11回 第6章 家庭における看護 A. 病気や事故の予防と手当て(II)
(小児生活習慣病、発達障害)
第12回 第6章 家庭における看護 B. 家庭における看護
(事故、火傷、人工蘇生法)
第13回 第6章 家庭における看護 C. 乳児の人工蘇生法実技演習
まとめ(I)
第14回 形成テスト
第15回 形成テストの解説と評価
第16回 第5章 子どもとふれ合う(保育園見学実習 事前・事後指導)

6. 留意事項

半日の保育園見学実習を行います。その日程により、事前・事後指導の日程が決まります。

講義コード	24521401			
科目名	健康科学概論 健康的に美しくあるために			
担当者	萩原 暢子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[健][保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『これからの健康とスポーツの科学』 安部 孝・琉子友男 講談社サイエンティフィック 2001			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

平均寿命が世界第一位となった今、充実した人生を送るために、健康の意味をもう一度考え直し、健康を維持するための基本的な知識を理解する。特に、女性の体の仕組みを理解し、女性特有の健康を維持する方法を学ぶ。また、世界レベルの保健政策を行っている世界保健機関(WHO)の仕組みと役割を認識し、国際的視野から先進国日本の置かれている状況を学習する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 健康と体力の概念および世界保健機関の仕組みと役割 2. 骨粗しょう症について理解する。 3. 肥満とやせについて理解する。 4. 健康食品について理解する。 5. エイズの正体と予防、および性感染症について理解する。 6. 女性の体の仕組みと妊娠および避妊について理解する。 7. 健康を害する疾病や喫煙や薬物などの外的環境について理解する。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法 パワーポイントと配布プリントによる講義
2. 学習方法 (1) 講義をしっかりと聴いて、ノートを確実に取る。(2) 毎授業初めにスモールテスト(持ち込み)を行い、終了時に授業評価を行う。
3. テキスト・文献など (1) テキストは、特に用いない。(2) 参考文献『これからの健康とスポーツの科学』(講談社サイエンティフィック)

・準備学習の具体的な方法

分からないところは、FD用紙を使って質問し、必ず理解するように努めること。

4. 評価方法・評価基準

1. 評価は、授業参加度(20%)、定期テスト(80%)の総合評価とする。2. 3分の2以上の出席がないものは、成績を評価しない。

5. 授業予定

- 第1回 健康と体力、女性のオリンピック史
第2回 骨と健康I(骨の役割、骨粗しょう症とは?栄養の効果、カルシウムとビタミンD)
第3回 骨と健康II(運動の効果、女性ホルモンの役割、骨とダイエット)
第4回 健康食品の落とし穴(肥満とやせ、医学的に安全なダイエット、サプリメントは大丈夫?)
第5回 世界保健機関(WHO)の仕組みと役割(組織の沿革と活動、わが国との関係、NGO、NPO、ODEとは?)
第6回 エイズそのI(正体と予防、女性カウンセラーの体験実話と指導のDVD鑑賞)
第7回 エイズそのII(実態と治療の現状、恐ろしい性感染症の話I(性感染症の知識、若者の現状、自分のこととして考える))
第8回 排卵の仕組み(女性の生殖器、排卵が起こる仕組み、男性の生殖器、受精・妊娠)
第9回 正しい避妊法I(避妊法の知識、低用量ピルの話)
第10回 正しい避妊法II、子宮頸がん予防について
第11回 健康を害するものI(喫煙・薬物乱用のDVD鑑賞)
第12回 健康を害するものII(環境ホルモンの正体、化粧品の話など)
第13回 健康を害するものIII(インフルエンザ、日本に定着したO-157、結核)
第14回 形成テスト
第15回 形成テストについて解説と評価

6. 留意事項

講義コード	24521501			
科目名	家庭科教育法Ⅰ			
担当者	加藤 佐千子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『中学校学習指導要領解説―技術・家庭科編―』 文部科学省 教育図書 『高等学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省 開隆堂 『小学校家庭科教育法ワークブック』 鈴木洋子 家政教育社 『小学校家庭科概論―生活の学びを深めるために』 加地芳子・大塚眞理子 ミネルヴァ書房 2011			
参考文献	『文部科学省検定済中学校技術・家庭教科書「家庭分野」』 開隆堂 『文部科学省検定済高等学校家庭基礎』 教育図書			
備考	([教] 家庭科必修)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

中学校家庭分野、および高等学校家庭科の学習指導の基礎となる専門的な内容・技術の中で主に生活の自立や衣食住に関する内容を中心に引き上げ、それについての十分な理解と知識・技術の習得を目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

- ・中学校、高等学校における指導内容を理解する。
- ・基礎的知識、技術の習得と理解に努める。
- ・自主的に学習を進め、知識の習得に努める。

3. 教育・学習の方法

講義形式、討論形式、実習、演習、実験、ロールプレイ、ビデオ視聴、発表などを取り入れながら授業を進める。見学、特別講師による授業を取り入れることもある。

・準備学習の具体的な方法

テキストをよく読むこと 衣・食・住と関連する専門書を読んで、知識の習得に努めること レポートは、教える立場に立って、学習者が理解しやすいようにするにはどのように工夫すればよいかを考えながら作成するとよい。

4. 評価方法・評価基準

評価基準・学習指導要領を理解できたか

家庭科に必要な内容を理解できたか

家庭科に必要な基本的技術を習得できたか

教材の作成に積極的に取り組めたか

評価方法・試験(50%)、レポート(30%)、発表(20%)

- ・原則として遅刻・欠席は認めない
- ・10回以上の出席がなければ試験を受けることができない。

5. 授業予定

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 授業の進め方と評価についての説明、学習指導要領の解説1 |
| 第2回 | 学習指導要領の解説2 |
| 第3回 | 繊維・糸についての教授法の説明と演習 |
| 第4回 | 織・布についての教授法の講義と演習 |
| 第5回 | 界面活性剤の働きと、吸水性、吸湿性についての教授法の説明と実験 |
| 第6回 | 和装、洋装の原型の製図と教授法 |
| 第7回 | 基礎縫いの実技および和装の着用と和装キットの製作とその教授法 |
| 第8回 | 食品添加物の検出、だしのお味を対比する実験とその教授法 |
| 第9回 | 栄養素、食品の組み合わせ、食事バランスガイドの解説と料理カードを使った演習及びその教授法 |
| 第10回 | 食品の成分(小麦粉のグルテン抽出)、砂糖の温度変化についての解説と実験及びその教授法 |
| 第11回 | 住生活の自立の内容の解説と平面図とその記号を理解する演習とその教授法 |
| 第12回 | 学習ソフトを用いた教授法とソフトの使用法の理解(栄養計算ソフト使用) |
| 第13回 | 学習ソフトを用いた教授法とソフトの使用法の理解(服飾ソフト使用) |
| 第14回 | 課題発表(1) |
| 第15回 | 課題発表(2) |

6. 留意事項

- ・原則として2年次前期に履修すること。
- ・家庭科教師になりたいという強い希望を持つ学生を対象とする。
- ・上記に示したテキスト以外に、「家庭科教育法」のテキストおよび、中学校家庭の教科書が必要(授業の中で指示する)

講義コード	24521601			
科目名	家庭科教育法Ⅱ			
担当者	加藤 佐千子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『中学校学習指導要領解説―技術・家庭科編―』 文部科学省 教育図書 『高等学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省 開隆堂 『小学校家庭科教育法ワークブック』 鈴木洋子 家政教育社 『小学校家庭科概論 生活の学びを深めるために』 加地芳子・大塚眞理子 ミネルヴァ書房 2011			
参考文献	『文部科学省検定済中学校技術・家庭教科書「家庭分野」』 開隆堂 『文部科学省検定済高等学校家庭基礎』 教育図書			
備考	原則として「家庭科教育法Ⅰ(生活の自立と衣食住)」履修者であること([教] 家庭科必修)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

中学校家庭分野、および高等学校家庭科の学習指導の基礎となる専門的な内容・技術について、主に家族や家庭生活・福祉の内容を引き上げ、それについての十分な理解と知識・技術の習得を目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

- ・中学校、高等学校における指導内容を理解する。
- ・基礎的知識、技術の習得と理解に努める。
- ・自主的に学習を進め、知識の習得に努める。

3. 教育・学習の方法

講義形式、討論形式、実習、演習、実験、ロールプレイ、ビデオ視聴、発表などを取り入れながら授業を進める。見学、特別講師による授業を取り入れることもある。

・準備学習の具体的な方法

レポート作成は、教える立場に立って、学習者にどのような方法を用いて教えると理解しやすいかを考えて、作成するとよい。

日頃から子供や高齢者と接する機会を持つこと。

家族に関する法律や保険制度などについて日頃から興味を持ち、知識を高めるよう努力することが大切。

ホームプロジェクトを行うために、日常生活上の問題点や課題を見つけておくことと良い。

専門書で、十分な知識の習得を行うこと。

4. 評価方法・評価基準

評価基準・学習指導要領を理解できたか

家庭科に必要な内容論を理解できたか

家庭科に必要な基本的技術を習得できたか

教材の作成に積極的に取り組めたか

評価方法・試験(50%)、レポート(20%)、発表(30%)

- ・原則として遅刻・欠席は認めない。
- ・10回以上出席しなければ試験を受けることができない。

5. 授業予定

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 本講義の進め方、評価の仕方の説明、学習指導要領の解説 |
| 第2回 | 家族と家庭生活の歴史的变化、現代の家族の特徴の講義とその教授法 |
| 第3回 | 家庭・家族の機能についての講義と教授法(ビデオ視聴) |
| 第4回 | 自立に向けた人生を考えさせる教授法(法律・保障を知るための冊子の利用法) |
| 第5回 | 自立に向けた人生を考えさせる教授法(人生すごろく作成の仕方、家計費のゲームの利用法) |
| 第6回 | ホームプロジェクトの進め方と実践(ビデオ視聴) |
| 第7回 | 乳児の発達と保育を理解させる教授法(教材ソフトの活用) |
| 第8回 | 保育実習のための準備と心得の教授法(DVD視聴) |
| 第9回 | 高齢者福祉施設の種類と内容を理解するための教授法(ビデオ) |
| 第10回 | 高齢者理解の教授法(高齢者疑似体験、ブラインド・ウォーク) |

- 第11回 高齢者の介助と基礎介護の教授法（排泄・着脱・清拭、食事介助体験、嚥下体験）
 第12回 消費者教育についての教授法（消費者と販売者のロールプレイ）
 第13回 消費者教育についての教授法（カードの使い方のビデオ視聴）
 第14回 課題発表（ホームプロジェクト1）
 第15回 課題発表（ホームプロジェクト2）

6. 留意事項

- ・原則として家庭科教育法Ⅰを履修したものの。
- ・原則として2年次後期で履修のこと。
- ・家庭科教師になりたいという強い希望を持つ学生を対象とする。

講義コード	24521701			
科目名	家庭科教育法Ⅲ			
担当者	加藤 佐千子			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『中学校教科書『新しい技術・家庭分野』 東京書籍 『高等学校教科書『家庭総合』 東京書籍			
参考文献	『家庭科教育法』 貴田康乃編著 佛教大学通信教育部 『平成14年度新観点別学習状況の評価基準表中学校・技術・家庭-ABC判定基準-』 北尾倫彦 図書文化社			
備考	原則として家庭科教育法Ⅰ（生活の自立と衣食住）と家庭科教育法Ⅱ（家族・家庭生活と福祉）を履修済みであること（[教] 家庭科必修）			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本講義では、家庭科教育の意義、本質、家庭科の目標と指導内容、家庭科の歴史の変遷についての基礎的理解と、家庭科の指導案の作成や教材作成の技術を身につけ、生徒の知識、実践や体験を生きる力に結びつけられるような授業を計画・設計し、実践する指導方法を身につけることを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

- ・中学校、高等学校における指導方法を理解する。
- ・指導案の作成、評価の仕方を理解する。

3. 教育・学習の方法

・講義、発表、教材制作、模擬授業等によって授業を進める。特別講師の講義も取り入れることもある。

・準備学習の具体的な方法

人の前で話す練習や、大きな声を出す練習をしておくことよい。

板書の練習をしておくことよい。

教科に関する専門書をよく読み知識の習得につとめるとよい。

4. 評価方法・評価基準

評価基準・・学習指導要領を理解できたか

- ・指導案の作成方法がわかったか
- ・模擬授業を工夫して実施できたか
- ・授業観察の方法がわかったか

評価方法・・試験（60%）、発表（10%）・レポート（30%）

特別な事情がない限り、遅刻、欠席は認めない。著しく態度が悪く、改善の様子がうかがえない場合、教師の資質に欠けると判断し、評価の対象から外すこともある。

5. 授業予定

- 第1回 本講義の進め方と評価の説明、家庭科教育の特質と家庭科の歴史の変遷、家庭科の目標についての解説
 第2回 学習指導要領の解説、改訂の経緯の説明
 第3回 学習指導要領の見方、利用の仕方についての解説と演習
 第4回 小学校、中学校、高等学校の家庭科の位置づけの解説
 第5回 家庭科の学習指導の種類と内容、評価についての解説
 第6回 消費者教育をもちいた教育方法の説明
 第7回 教育機器の使用方法（黒板、カード、TP、OHC、OHP）の解説と実践
 第8回 評価法についての解説、家庭科の施設と設備の説明
 第9回 家庭科指導計画案の作成方法の説明（A、B、C案）
 第10回 指導案作成と指導（演習）

- 第11回 食生活に関する教材作成（カード、表の作成）
 第12回 保育に関する教材作成（視聴覚教材の利用と演習）
 第13回 指導案作成と指導（演習）
 第14回 指導案作成と指導（演習）
 第15回 まとめ

6. 留意事項

- ・原則として家庭科教育法Ⅰ（生活の自立と衣食住）、家庭科教育法Ⅱ（家族・家庭生活と福祉）を履修済のもの。
- ・3年次前期で履修のこと。
- ・家庭科教師になりたいという強い希望を持つ学生を対象とする。
- ・教科書は家庭科教育法Ⅰ、Ⅱで使用したものと同じものが必要。

講義コード	24521801			
科目名	家庭科教育法Ⅳ			
担当者	加藤 佐千子			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	家庭科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで使用したものと同じ。			
参考文献	『家庭科教育法』 貴田康乃編著 佛教大学通信教育部 『平成14年度新観点別学習状況の評価基準表中学校・技術・家庭-ABC判定基準-』 北尾倫彦 図書文化社			
備考	原則として「家庭科教育法Ⅲ（指導法と教材作成）」の履修者であること（[教] 家庭科必修）			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本講義では、模擬授業を通して、教育方法や教材の活用の仕方、授業評価について学び、指導や評価方法を体得することを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

- ・実際に教壇に立ち模擬授業を行う。
- ・模擬授業や教材開発・研究を通じて指導や評価方法を体得する。

3. 教育・学習の方法

・実際に授業を行う。

・他者の授業評価ができる。

・準備学習の具体的な方法

人の前で、喋る練習をしておくことよい。

大きな声を出す練習をしておくことよい。

教科に関する専門的な知識を身に付けておくことよい。

4. 評価方法・評価基準

評価基準・・学習指導要領を理解できたか
 指導案の作成方法がわかったか
 模擬授業を工夫して実施できたか
 授業観察の方法がわかったか

評価方法・・指導案の提出(50%)、指導案の内容(25%)、模擬授業(25%)。

- ・試験は行わない。
- ・特別な事情がない限り、遅刻、欠席は認めない。
- ・10回以上の出席がない場合は評価の対象としない。
- ・著しく態度が悪く、改善の様子がうかがえない場合、教師の資質に欠けると判断し、評価の対象から外すこともある。

5. 授業予定

- 第1回 本講義の進め方と評価についての説明、学習指導要領改訂の経緯の解説
 第2回 家庭科の教育評価・学習評価、評価基準、観点別評価の説明
 第3回 学習指導案の必要性・作成方法、学習指導の方法
 第4回 家庭科の施設・設備の説明
 第5回 学習指導案の作成と指導
 第6回 作成した指導案の指導と修正（1）
 第7回 模擬授業実施（1）
 第8回 作成した指導案の指導と修正（2）
 第9回 模擬授業実施（2）
 第10回 作成した指導案の指導と修正（3）
 第11回 模擬授業実施（3）
 第12回 作成した指導案の指導と修正（4）
 第13回 模擬授業実施（4）
 第14回 反省と評価（模擬授業収録ビデオの視聴）
 第15回 まとめ

6. 留意事項

- ・模擬授業を行う2週間前前に面接による指導を受けること（予約制）。
- ・原則として家庭科教育法Ⅰ，Ⅱ，Ⅲを履修済のもの。
- ・3年次後期で履修のこと。
- ・教師になりたいという強い希望を持つ学生を対象とする。
- ・教科書は家庭科教育法Ⅰ，Ⅱ，Ⅲで使用したものと同じものが必要。

講義コード	24521901		
科目名	住居製図Ⅰ		
担当者	竹原 広実		
単位数	1	配当学年	2
資格	[建][イ]		
前提科目			
テキスト	『建築製図 基本の基本』 櫻井良明 学芸出版社		
参考文献	『新しい建築の製図』 編集委員会編 学芸出版社		
備考	定員20人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

住宅の計画、設計に欠かせない建築設計製図の基礎知識の理解と製図技法の習得を目指すものである。基本図法を学んだ上で、各種図面の作図、表現方法を演習する。同時に様々な住宅図面を読み取り空間感覚を養うこと、空間に配置される多様なもののスケールへの認識を深めることも合わせて行う。

2. 教育・学習の個別課題

製図法の基礎知識の理解 各種図面の理解と製図技法の習得

3. 教育・学習の方法

課題の演習を基本とする

・準備学習の具体的な方法

日常目に触れる広告などの図面に関心をもつこと

4. 評価方法・評価基準

授業の性格上、全出席を求める。提出課題の評価(90)を中心に、授業への参加状況(10)などを加味して総合評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合や課題未提出の場合は単位を与えない

5. 授業予定

- 第1回 図面の種類、図面記号、図面の描き方
- 第2回 木造住宅配置図 トレース課題演習1
- 第3回 木造住宅平面図 トレース課題演習2
- 第4回 木造住宅平面図 トレース課題演習3
- 第5回 木造住宅平面図 トレース課題演習4
- 第6回 木造住宅平面図 トレース課題演習5
- 第7回 木造住宅平面図 トレース課題演習6
- 第8回 住宅立面図トレース課題演習1
- 第9回 住宅立面図トレース課題演習2
- 第10回 住宅立面図トレース課題演習3
- 第11回 住宅展開図トレース課題演習1
- 第12回 住宅展開図トレース課題演習2
- 第13回 住宅模型課題演習1
- 第14回 住宅模型課題演習2
- 第15回 住宅模型課題演習3

6. 留意事項

科目の性格上、全出席が原則である。またテキストを必ず用意すること(テキストに沿って課題を行う)

講義コード	24522001		
科目名	住居製図Ⅱ		
担当者	中村 久美		
単位数	1	配当学年	2
資格	[建][イ]		
前提科目			
テキスト	操作講習に関するオリジナルのマニュアル、資料を配布		
参考文献			
備考	定員20人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

CADによる製図の技法を学ぶ。実習課題(トレース)を通し、住宅の計画、設計に欠かせない建築設計製図の基礎知識や、各種スペース・設備等のスケール感を養う。CAD操作の仕方を身につけたうえで、集合住宅の1室の間取りやインテリア装備の設計・製図をCADを使って行う。

2. 教育・学習の個別課題

1. 製図法の基礎知識の理解
2. 各種図面の理解と製図技法の習得
3. CAD操作の習得

3. 教育・学習の方法

1. 課題の演習を基本とする。
2. 進捗状況により、授業空き時間を利用して課題の作成を各自すすめること。
3. 教員や他の受講者とのコミュニケーションから、積極的にCAD技術を習得する
4. 自分の習得レベルに応じて各種検定試験に挑戦するなど、能動的に学習する。

・準備学習の具体的な方法

課題への取り組みは、締め切りを念頭に置いて、授業空き時間を利用して計画的に行うこと。様々な建築、都市空間を積極的に体感したり、日常の住生活において空間やモノのスケール感を養うこと。

4. 評価方法・評価基準

提出された課題(70%)と授業参加状況(30%)により評価する。

5. 授業予定

- 第1回 CADの概要と基本操作
- 第2回 基本図形の演習
- 第3回 課題1「住宅部品の作成」
- 第4回 課題2「簡易なマンション平面図のトレース」レイヤーの理解
- 第5回 " 壁と柱の包絡 開口部処理 文字記入
- 第6回 課題3「木造住宅平面図」グリッドを使った在来木造平面図の理解
- 第7回 " 柱、壁、建具や家具記入
- 第8回 " 畳の割付 寸法・文字記入
- 第9回 " 仕上げ 印刷設定
- 第10回 課題4「木造住宅立面図」CADによる立面図 USCアイコンの設定
- 第11回 " 仕上げ レイアウトの作成
- 第12回 課題5「木造住宅増築案」3Dモデリング レンダリングの理解
- 第13回 " 住宅のモデリング
- 第14回 "
- 第15回 課題5の講評 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24522101		
科目名	設計方法論		
担当者	岸 研一		
単位数	2	配当学年	34
資格	[建]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	※平成21年度以後入学者に適用 「住居製図Ⅰ」履修者であること(同時履修可)。		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

建築・デザインについて興味を持ち、設計の手順・手法を含め、建築について幅広く知識を養う。建築は、常に人間の視点から計画し設計しなければならない。まずは人間の多様性、心理、行動など人間そのものを理解し、建築と住まう人並びに周辺環境との関係を考え、快適で、安全で、環境に配慮し、かつ美しい建築を計画・設計することを目標とし、小規模な住宅の計画(設計)が出来るようになる。

2. 教育・学習の個別課題

1. 建築・デザインに興味を持つ
2. 作品事例や建築家の紹介を行い、幅広く建築(設計、デザイン)の知識を養う
3. 設計を行うために必要な知識の養成
4. 条件や周辺環境に対する視点の獲得
5. スケール感や、空間構成能力の養成

6.発表やプレゼンテーションを通して、考え方を相手に理解させる。

3. 教育・学習の方法

- 1.建築作品事例の紹介
- 2.実物の見学による空間、スケール感を体感する
- 3.実測等によりスケール感を養う
- 4.実例を基に一連の設計の流れを理解し、実際にコンセプトワークを行いディスカッションする
- 5.小規模住宅の設計演習課題を通して計画やプレゼンテーションを行う。

・準備学習の具体的な方法

事前に配布する資料や参考文献の熟読。参考事例（建築物）を見に行き、レポートやスケッチ、写真撮影などを行う。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度（30%）、授業への取り組み状況、及びレポート又は課題提出など（70%）を総合して評価する

5. 授業予定

- 第1回 設計とは、設計に必要な要素とは
- 第2回 著名建築家、作品などの事例紹介（海外・巨匠）
- 第3回 著名建築家、作品などの事例紹介（海外）
- 第4回 著名建築家、作品などの事例紹介（日本）
- 第5回 身近にある著名建築作品の見学（予定）
- 第6回 建築の様々な形態や工法、素材の種類について
- 第7回 人間の行動について、スケール感について（ヒューマンスケール）空間をデザインする方法（事例紹介）
- 第8回 安全性、福祉性環境、環境への配慮について
- 第9回 設計条件や周辺環境の解説について（事例紹介）
- 第10回 設計の手順（考え方、進め方）、設計の一連の流れ（実例を基に計画（エスキス）から竣工まで）
- 第11回 実例を基にしたコンセプトワーク（グループディスカッション）
- 第12回 製図演習
- 第13回 製図演習、演習課題発表
- 第14回 エスキス指導
- 第15回 演習課題提出・プレゼンテーション、講評

6. 留意事項

住居製図Ⅰの履修者であること（同時履修可）

- 第1回 建築関連法規の体系、法令の読み方、建築士法<竹原>
- 第2回 単体規程1（建築物の用語と定義）<竹原>
- 第3回 単体規程2（防火上、設計及び工事上の用語と定義）<竹原>
- 第4回 単体規程3（面積及び高さの算定）<竹原>
- 第5回 単体規程4（単体規程総論 採光、換気）<竹原>
- 第6回 単体規程5（一般構造、天井高、階段）<竹原>
- 第7回 単体規程 テストと総括<竹原>
- 第8回 集団規程1（道路と敷地 用途地域）<中村>
- 第9回 集団規程2（建蔽率 容積率）<中村>
- 第10回 集団規程3（高さ制限）<中村>
- 第11回 集団規程4（まちづくり関係）<中村>
- 第12回 手続き規程と建築行政<中村>
- 第13回 消防法<中村>
- 第14回 都市計画法<中村>
- 第15回 集団規定 テストと総括<中村>

6. 留意事項

講義コード	24522301		
科目名	建築構造力学		
担当者	金澤 稔		
単位数	2	配当学年	34
資格	[建]		
前提科目	建築一般構造		
テキスト	『図解入門よくわかる構造力学の基本』 松本慎也 秀和システム 2003/11 特になし		
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	24522201		
科目名	建築法規		
担当者	中村 久美・竹原 広実		
単位数	2	配当学年	23
資格	[建][イ]		
前提科目	建築一般構造		
テキスト	『建築法規用教材』（最新版） 日本建築学会		
参考文献	『建築基準法令集』（最新版） オーム社		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

建築物の計画・設計・工事管理や建築行政に関する法規の知識を習得し、法規的取り扱いや手続きのしくみを理解することを目標とする。 建築基準法の単体規程、集団規程、制度規程を中心に、都市計画法、消防法、建築士法などについて学習する。建築計画における法規的課題の解決に必要な知識と建築士業務への倫理的態度を養う。

2. 教育・学習の個別課題

- 1.建築関係法令の法体系を理解する
- 2.建築基準法の単体規程、集団規程の法知識を習得する
- 3.建築士の位置づけ、業務のあり方を理解する
- 4.法規の成立の背景や意図、さらには法規の遂行・順守によって発生する課題についても考える

3. 教育・学習の方法

- 1.テキスト、配布資料、パワーポイントにより授業をすすめる
- 2.毎回登場する法規についてその都度テキストや配布資料により復習しておくこと
- 3.法規を現実に適用する際の考え方や実務、計画基準値の計算などの実際を演習する。

・準備学習の具体的な方法

シラバスに書かれた授業予定にそってテキストを前もって読んでおくこと

4. 評価方法・評価基準

確認試験（50%）と授業参加状況（20%）、授業途中で適宜行う小テスト（30%）により評価する

5. 授業予定

1. 科目の教育目標

建築物にはさまざまな外力が作用する。与えられた外力に対して構造物が安全であるためには、その外力によって構造物がどのように変形し、構造物を構成している各部材にどのような応力が発生するかを把握する必要がある。この科目では、主に二級建築士資格の取得に必須の静定構造物についての応力計算・断面設計、変形計算に関する基礎知識の取得を目標にする。

2. 教育・学習の個別課題

難しいと思われがちな建築構造力学の基礎は、「中学の理科レベル+α」の知識で十分に対応できることの理解に重点を置く。

- 1.作用・反作用の知識による反力との計算
- 2.反力と外力をもとにしたはりや門形骨組みの曲げモーメントとせん断力の計算
- 3.Hookeの法則を活用したはりや柱断面の応力の計算
- 4.Hookeの法則を活用したはりの変形(たわみ)の計算等

3. 教育・学習の方法

テキスト内容の解説、プリントを使用した例題による解説、類似問題の板書きによる説明、類似問題での演習 を適宜おまぜて実践的な内容の講義を進める。

・準備学習の具体的な方法

- (1)シラバスに書かれた授業予定に沿って、前もってテキストに目を通しておく。
- (2)前回の講義で作成したノートや配布されたプリントの内容、実施した演習問題の解答を再確認して、理解できない箇所については当日の講師への質問により解決できるように準備する。

4. 評価方法・評価基準

5回程度の小テスト(30点を配分)と期末テスト(70点を配分)の総合評価による。

5. 授業予定

- 第1回 構造力学とは
- 第2回 力とつりあい(1)
- 第3回 断面に作用する応力
- 第4回 荷重、せん断力および曲げモーメント
- 第5回 応力度、ひずみ度
- 第6回 断面の性質
- 第7回 部材の変形
- 第8回 仕事とエネルギー
- 第9回 静定構造と静不定構造
- 第10回 静定骨組みの応力(1) 両端支持はり

- 第11回 静定骨組みの応力(2) 片持ちばり
- 第12回 静定骨組みの応力(3) 門形骨組み
- 第13回 静定ばりの変形(1) たわみ角法
- 第14回 静定ばりの変形(2) 仮想仕事法
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24522401		
科目名	建築施工		
担当者	金澤 稔		
単位数	2	配当学年	23
資格	[建]		
前提科目	建築一般構造		
テキスト	『初学者の建築講座 建築施工』 中沢・角田共著 市谷出版社		
参考文献	『日本建築学会 建築工事標準仕様書』 『国交省宮繕部 公共建築工事標準仕様書』		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

建築施工とは、設計図書に従って工事現場で実際に建築物をつくっていく行為であり、計画、材料、構造、法規などの広範な基礎的知識が要求される。しかし、建築施工は施工者に必須の知識であるばかりでなく、施工者の対極にある建築士やインテリアコーディネーター、福祉住環境コーディネーターなどをめざす人にも必須の知識でもある。講義では、テキストを補足するわかりやすいパワーポイントを使用して、施工法と施工管理について計画、材料、構造、法規とどのような関連があるのかということもあわせて取り上げる。二級建築士をはじめとする各種の資格取得に際して最も取つき難い分野とされている建築施工に対する理解を深める。

2. 教育・学習の個別課題

女性の社会進出のためにも、建築生産現場に対する認識を深めて貰うとともに、二級建築士等の資格試験への備えとするために、次のような点を重点的に取り上げる。

- (1) 建築に関わる法律にはどのようなものがあるか
- (2) 建築工事の施工標準にはどのようなものがあるか
- (3) 建築工事の管理はどのようにして行われているか

3. 教育・学習の方法

- (1) テキスト 初学者の建築講座 建築施工 中沢・角田共著 市谷出版社
- (2) 講義方法 テキストの内容を図や写真を交えたパワーポイントで視覚化するとともに、黒板への板書きを併用して講義を進める。理解度を把握するために5問程度の簡単な小テストを5回実施する。
- (3) 学習方法 講義で強調したテキストの記述部分にはマーキングやメモ書きをして後日の復習に役立たせる。

・準備学習の具体的な方法

前回の講義内容をテキストに書き込んだマーキングやメモ書きを見ながら復習するとともに、今回の講義の内容は何かを確認しておく。

4. 評価方法・評価基準

5回の小テスト(30点を配分)と期末テスト(70点を配分)の総合評価による。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション 請負契約・請負制度
- 第2回 施工計画と施工管理
- 第3回 地盤調査 仮設工事
- 第4回 土工事
- 第5回 地業工事
- 第6回 鉄筋コンクリート工事(1)
- 第7回 鉄筋コンクリート工事(2)
- 第8回 鉄骨工事(1)
- 第9回 鉄骨工事(2)
- 第10回 ブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事 防水工事
- 第11回 石工事 タイル工事
- 第12回 木工事 屋根工事 金属工事
- 第13回 左官工事 建具工事
- 第14回 塗装工事 内装工事
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24522501		
科目名	西洋建築史 ヨーロッパの代表的な歴史建築を見る		
担当者	西田 雅嗣		
単位数	2	配当学年	23
資格	[建]		
前提科目			
テキスト	『図説建築の歴史 西洋・日本・近代』 西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎/編 学芸出版社 2003年		
参考文献	『西洋建築史図集』 日本建築学会/編 彰国社 1981年 『もういちど読む山川世界史』 「世界の歴史」編集委員会/編 山川出版社 2009年 『ヨーロッパ建築史』 西田雅嗣/編 昭和堂 1998年		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

- (1) ヨーロッパ文化における建築とは何なのかを、代表的な歴史建築を見て行く事で学び、建物と人間の付き合い方のヨーロッパ的なあり方を知る。
- (2) 建築や環境を巡る現在の問題に対して、自分の意見を持てるようになるための基礎的な判断材料を、ヨーロッパの歴史建築を学ぶ事で習得する。
- (3) 建築を鑑賞することを知る。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) ヨーロッパの代表的な歴史建築物にはどのようなものがあり、それらがどのような姿・形をしていてどのような特徴を持っているのかを知る。
- (2) ヨーロッパの建築の歴史的な変遷について、基礎的な様式を覚えることで理解する。
- (3) 歴史建築を見る事を通じて、建築を身近に感じる感性を養う。

3. 教育・学習の方法

- (1) 指定した教科書の<第1章>西洋建築史を教科書の順に講述します。教科書は様式の時代順です。原則として毎回一つの様式を扱います。
- (2) 各章で大きく扱われている、その様式を代表する個別のいくつかの建築を、毎回の講義の主人公として扱って解説します。
- (3) 教科書の記述では、各項目が断片的に扱われていますが、授業ではこれら断片的な要素をできるだけ一貫した話でまとめて講述するようつとめて、毎回一つのまとまった様式の理解を得るようにします。
- (4) 授業では、パワーポイントで建物の写真をたくさん写します。一回一回の講義が独立した講演だと思ってください。

・準備学習の具体的な方法

- (1) 高等学校の「世界史」にあるヨーロッパの歴史程度の基礎的な知識があると、講義内容の理解の助けになります。参考文献にある『もういちど読む山川世界史』の様な本(もちろん高校の世界史の教科書でも結構です)を読んでおいてください。
- (2) 毎回の授業は教科書の各章に原則的に対応しているので、授業の前には、その回の授業に対応する教科書の章を読んで来ててください。いきなり教科書を読んでも良く理解できないかも知れませんが、理解できなくても構わないので、授業の前には教科書の該当箇所を目を通して来ててください。事前に目を通すと通さないのでは、授業への興味の度合いが違って来ます。

4. 評価方法・評価基準

授業最終日に提出するA4版5頁程度の長文レポート(80%)と、出席状況・授業参加度(20%)により評価する。レポート課題出題日までの授業欠席回数が、その時点までの授業総回数の3分の1以上の学生には、長文レポートの提出を認めない。

5. 授業予定

- 第1回 建築とは? 建築の歴史とは? 様式とは?
- 第2回 古代-1 <古代オリエント・古代エジプト建築>: パペルの塔の高さの意味
- 第3回 古代-2 <ギリシア建築 1・2>: パルテノンの美しさ
- 第4回 古代-3 <ローマ建築 1・2>: ローマのパンテオンに見る「建築」
- 第5回 中世-1 <古代末期・中世初期の建築>: キリスト教の最初の建築のかたち
- 第6回 中世-2 <ビザンツ建築>: ドームの建築ハギア・ソフィア大聖堂
- 第7回 中世-3 <ロマネスク建築 1・2>: 修道院と教会堂
- 第8回 中世-4 <ゴシック建築 1・2>: ノートル＝ダムの大聖堂たち

- 第9回 近世—1 <ルネサンス建築 1・2>：レオナルドたちが夢見た建築
 第10回 近世—2 <ルネサンス建築 3>：イタリアに憧れるヨーロッパ
 第11回 近世—3 <バロック建築 1>：建築とプロパガンダ
 第12回 近世—4 <バロック建築 2・3>：宮殿の魅惑と威厳
 第13回 近世—5 <新古典主義建築 1・2>：パリのパンテオンの古代デザイン
 第14回 近世—6 <歴史主義建築 1・2>：イギリス国会議事堂に復活するゴシック
 第15回 建築とは？ ウィトルウィウス、ヴィラール・ド・オヌール、アルベルティの三人

6. 留意事項

講義コード	24525001			
科目名	社会福祉援助技術Ⅰ ソーシャルワークの基礎と専門職(1)			
担当者	桐野 由美子			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[福][社][精][保]			
前提科目				
テキスト	『ソーシャルワーク入門—相談援助の基盤と専門職—』 空閑浩人編 ミネルヴァ書房 2010年			
参考文献	『保育者のための社会福祉援助技術』 桐野由美子(編著) 樹村房 2006 授業中に適宜プリントを配布しその他の参考文献等を提示する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本科目は文部科学省令・厚生労働省令が定めた社会福祉に関する基礎科目「相談援助の基盤と専門職」の前半部分に該当する。本科目では、ソーシャルワークの概念、理念、価値、歴史的展開、倫理、体系、援助の展開過程(プロセス)など、ソーシャルワーク(社会福祉援助の総体)の基盤に関する理解を深めることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. ソーシャルワーカー(社会福祉士等)の役割と意義を理解する。
2. ソーシャルワーク(相談援助)の概念と範囲について理解する。
3. ソーシャルワークの理念について理解する。
4. ソーシャルワークにおける権利擁護の意義と範囲について理解する。
5. ソーシャルワーカーの専門性と倫理について理解する。
6. 総合的かつ包括的援助と多職種連携の意義と内容を理解する。

3. 教育・学習の方法

講義を中心に行う。より理解を深めるためビデオを使用する。また、受講生によるロールプレイを実施する。

・準備学習の具体的な方法

学生は各授業の準備として、授業テーマに該当するテキストの章を熟読しておく。その詳細は、第1回目の授業の配布資料で提示する。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度(30%)、授業中成果(10%)、試験とまとめ(60%)を総合評価する。遅刻・欠席は減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ソーシャルワーカー(社会福祉士等)の仕事
- 第3回 ソーシャルワーカーの法的位置づけ
- 第4回 ソーシャルワーカーの使命と役割
- 第5回 ソーシャルワーク(相談援助)の定義と専門性
- 第6回 ソーシャルワークの歴史的展開
- 第7回 ソーシャルワークの基本理念
- 第8回 ソーシャルワークの価値
- 第9回 ソーシャルワークの倫理
- 第10回 ソーシャルワークの実践とジレンマ
- 第11回 ソーシャルワークの共通基盤
- 第12回 ソーシャルワークの体系
- 第13回 ソーシャルワークの展開過程(プロセス)(1)
- 第14回 ソーシャルワークの展開過程(プロセス)(2)
- 第15回 総括(試験とまとめ)

6. 留意事項

講義コード	24525101			
科目名	社会福祉援助技術Ⅱ ソーシャルワークの基礎(その2)・人との関わり			
担当者	野村 武夫			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[福][社][精][保]			
前提科目				
テキスト	『ソーシャルワーク入門—相談援助の基盤と専門職—』 空閑浩人編著 ミネルヴァ書房 2010年 授業はテキストを中心に進めるので必ず購入すること。			
参考文献	『社会福祉援助技術論』 基礎からの社会福祉編集委員会 ミネルヴァ書房 2005年 『社会福祉概論[第2版]』 ミネルヴァ書房 2011年			
備考	「社会福祉援助技術Ⅰ」の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本科目は社会福祉援助技術Ⅰの後半にあたる。科目の教育目標としては以下の五つである。

1. 相談援助にかかわる社会福祉専門職の概念、援助の価値、援助のあり方などについて理解する。
2. 多様な社会福祉機関や施設における専門職の施設、援助の価値などについて理解する。
3. 相談援助(ソーシャルワーク)における援助関係とその構築について学ぶ。
4. 相談援助(ソーシャルワーク)における権利擁護と福祉専門職の役割について学ぶ。
5. 総合的・包括的な援助と他職種連携についてその現状とそこでの福祉専門職の役割を理解する。

2. 教育・学習の個別課題

1. ソーシャルワーク(相談援助)に係る専門職の概念と範囲。
2. 相談援助におけるコミュニケーションの問題。
3. 相談援助における権利擁護の意義。
4. 総合的活包括的な援助と他職種との連携。
5. 地域における援助活動

3. 教育・学習の方法

テキストを中心に講義をすすめる。必要に応じVHS、DVDなどを使用する。

・準備学習の具体的な方法

個々の授業内容は相互に関連するので予習と復習につとめ、次回の授業の理解につとめることが望ましい。

4. 評価方法・評価基準

1. 授業参加度30%、定期試験70%をもとに総合的に行う。
2. 欠席、遅刻は減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 相談援助(ソーシャルワーク)の意義と役割、援助の基本的な構造
- 第2回 ソーシャルワークにおける問題理解と福祉専門職の役割
- 第3回 福祉行政における専門職とその活動(1)
福祉事務所、児童相談所、精神保健福祉センター、保健所など。
- 第4回 福祉行政における専門職とその活動(2)
身体障害者厚生相談所、知的障害者更生相談所、社会福祉協議会
- 第5回 福祉施設における専門職
- 第6回 地域包括支援センター
- 第7回 相談援助における援助関係(1)—コミュニケーションの意義と重要性
- 第8回 相談援助における援助関係(2)—援助者の基本姿勢と援助関係の構築
- 第9回 相談援助における援助関係(3)
児童福祉施設での実践例
- 第10回 福祉専門職の自己覚知とスーパービジョン
- 第11回 相談援助における権利擁護とその実践
- 第12回 総合的・包括的な援助と他職種との連携
- 第13回 地域生活支援の考え方とICF
- 第14回 社会福祉基礎構造改革とソーシャルワークの課題
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

カードリーダーで出欠を確認するので、学生カードは必ず携帯すること。

講義コード	24525201			
科目名	社会福祉援助技術Ⅲ			
担当者	村田 久行			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[社][保]			
前提科目				
テキスト	『相談援助の理論と方法Ⅰ』 中央法規出版 2010			
参考文献				
備考	「社会福祉援助技術Ⅰ・Ⅱ(新)」の履修者であること			
科目読替	社会福祉援助技術Ⅱ[通年4単位] (「社会福祉援助技術Ⅲ」と「社会福祉援助技術Ⅳ」を合わせて履修すること)			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この科目では社会福祉援助技術Ⅰ,Ⅱを踏まえ、より深く、体系的に理解するために、下記の目標を設定する。1. 人権尊重、権利擁護、自立支援などの観点を踏まえた社会福祉サービスと援助の関係を理解する。2. 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系(特に直接援助技術)について理解する。3. 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 社会福祉援助についての基本的理解を深める。2. 社会福祉援助の歩みについて(イギリスとアメリカにおける援助技術を中心に。)3. 社会福祉援助技術の価値、理念、原則、倫理などについてさらに理解を深める。4. 援助技術の体系と共通する援助過程について理解する。5. 直接援助技術としての個別援助技術について理解する。

3. 教育・学習の方法

テキスト『相談援助の理論と方法Ⅰ』(中央法規出版)を中心に講義と一部演習形式を交えて行う。ビデオ、外部講師の講義など適宜実施する。

・準備学習の具体的な方法

毎回、次の授業の見通しを示し、それに関連するテキスト部分や参考資料の予習を指示する。

4. 評価方法・評価基準

レポートを重視し(80%)、授業参加度(20%)などで総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 授業紹介
- 第2回 相談援助とは(人権尊重、権利擁護、自立支援などの視点からの学習の意義)
- 第3回 相談援助とは(対象と場面)
- 第4回 相談援助の構造と機能Ⅰ
- 第5回 相談援助の構造と機能Ⅱ
- 第6回 相談援助の構造と機能Ⅲ
- 第7回 人と環境の相互作用
- 第8回 相談援助における援助関係Ⅰ
- 第9回 相談援助における援助関係Ⅱ
- 第10回 相談援助における援助関係Ⅲ
- 第11回 相談援助の展開過程Ⅰ
- 第12回 相談援助の展開過程Ⅱ
- 第13回 相談援助の展開過程Ⅲ
- 第14回 相談援助の展開過程Ⅳ
- 第15回 まとめと最終課題

6. 留意事項

この科目は社会福祉士受験資格及び高校福祉科教員資格の教職課程の必修科目である。全回数出席を原則とする。

講義コード	24525301			
科目名	社会福祉援助技術Ⅳ			
担当者	村田 久行			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[社][保]			
前提科目				
テキスト	『相談援助の理論と方法Ⅰ』 中央法規出版 2010			
参考文献				
備考	「社会福祉援助技術Ⅰ～Ⅲ」の履修者であること			
科目読替	社会福祉援助技術Ⅱ[通年4単位] (「社会福祉援助技術Ⅲ」と「社会福祉援助技術Ⅳ」を合わせて履修すること)			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この科目は社会福祉援助技術Ⅲを踏まえ、より深く体系的に社会福祉援助技術について理解することを目的とする。具体的には1. 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解する。2. 社会福祉の展開過程を重視しながら、その目的価値・原則及び体系と、そこにおける共通課題について理解する。3. アセスメントと介入の方法を中心に援助技術の実際とその基礎となる理論を深める。

2. 教育・学習の個別課題

1. 直接援助技術の展開過程について、そのすすめ方、基本的な理念、援助の際の原則などについて理解させる。2. 面接の実際的諸課題について考えさせる。3. 相談援助のための記録について理解する。4. これからの社会福祉援助技術の基礎となっている理論を概観する。

3. 教育・学習の方法

テキスト『相談援助の理論と方法Ⅰ』を中心に講義、演習形式で行う。ビデオなど視聴覚素材を適宜使用する。

・準備学習の具体的な方法

毎回、次の授業の見通しを示し、それに関連するテキスト部分や参考資料の予習を指示する。

4. 評価方法・評価基準

レポートを重視し(80%)、授業参加度(20%)などで総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 授業紹介
- 第2回 相談援助のためのアセスメントの技術Ⅰ
- 第3回 相談援助のためのアセスメントの技術Ⅱ
- 第4回 相談援助のためのアセスメントの技術Ⅲ
- 第5回 相談援助のための介入の技術Ⅰ
- 第6回 相談援助のための介入の技術Ⅱ
- 第7回 相談援助のための介入の技術Ⅲ
- 第8回 相談援助のための経過観察の技術
- 第9回 相談援助のための面接の技術Ⅰ
- 第10回 相談援助のための面接の技術Ⅱ
- 第11回 相談援助のための記録の技術
- 第12回 個別相談援助の理論と方法1
- 第13回 個別相談援助の理論と方法2
- 第14回 個別相談援助の理論と方法3
- 第15回 まとめと最終課題

6. 留意事項

この科目は社会福祉士受験資格及び高校福祉科教員資格の教職課程の必修科目である。全回数出席を原則とする。

講義コード	24525401			
科目名	ボランティアマネジメント論			
担当者	酒井 久美子			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

ボランティアに関する基礎的な知識を確認したうえで、ボランティア活動を円滑に進めるために必要なことが何かを検討する。ボランティア活動は多様化し、ボランティア活動をする人と求める人のニーズも多様である。そうしたなかでボランティアをマネジメントするということの重要性や課題について考える。

2. 教育・学習の個別課題

1. ボランティアとは何かについて理解する。2. ボランティア・マネジメントの必要性について理解する。3. ボランティア活動を地域社会で展開するために必要なことが何かを学ぶ。

3. 教育・学習の方法

配付資料などのプリントによって授業をおこなう。参考文献については随時紹介する。講義だけではなく、各自のボランティア体験やボランティアに対する意識などを踏まえて、ディスカッションやグループワークなどをおこなう。

・準備学習の具体的な方法

各自のボランティア体験などをもとにして、ボランティアとは何か、ボランティアマネジメントとは何か、またその必要性について事例を通して検

討しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席率・授業参加度(40%)、発表(20%) レポート課題(40%)に基づいて総合的におこなう。欠席や遅刻は減点の対象とする。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておくこと。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ボランティアとは
- 第3回 ボランティア活動の役割と意義について
- 第4回 ボランティア活動の変遷
- 第5回 ボランティア活動の現状と課題
- 第6回 NPOとボランティア
- 第7回 ボランティア・コーディネーターとは
- 第8回 ボランティア・コーディネーターの役割
- 第9回 ボランティアセンターの役割
- 第10回 ボランティア・マネジメントとは
- 第11回 ボランティア・マネジメントの必要性
- 第12回 ボランティア・コーディネーターからボランティア・マネジメントへの展開
- 第13回 ボランティア・マネジメントの流れ
- 第14回 ボランティア活動を推進するために
- 第15回 各自のボランティア体験をもとにした発表と総括

6. 留意事項

自発的活動であるボランティア、その円滑な活動や継続した活動への支援であるボランティア・マネジメントを学ぶ科目であるため、履修者は自発的、積極的な態度で臨むこと。

講義コード	24525801			
科目名	精神医学Ⅰ 精神医学の基礎を理解する			
担当者	河瀬 雅紀			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト	『精神保健福祉士養成テキストブック 精神医学』 伊藤哲寛 ミネルヴァ書房			
参考文献	『うつ病 知る・治す・防ぐ』 福居顯二 金芳堂 『医療心理学』 忠井俊明 星和書店 『がん患者 グループ療法の実際』 河瀬雅紀 金芳堂			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

精神的健康の保持や増進のため、またカウンセリングや臨床心理学、精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。代表的な精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の原因、診断方法、治療法などを体系的に理解していく。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 精神障害に関する基礎的用語を使うことができる
2. 精神障害の分類と診断方法について説明することができる
3. 代表的な精神障害について、原因、症状、治療方法を説明することができる
4. 精神障害者の支援のあり方について説明することができる

2. 教育・学習の個別課題

1. 統合失調症の特徴と治療・対応について説明できる
2. 躁病・うつ病の特徴と治療・対応について説明できる
3. 各種神経症性障害の特徴と治療・対応について説明できる
4. 統合失調症と躁病・うつ病、神経症性障害の違いについて説明できる
5. 摂食障害の特徴と治療・対応について説明できる

3. 教育・学習の方法

講義形式で、テキスト、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する
・準備学習の具体的な方法

該当箇所をテキストおよび参考図書で予習する

4. 評価方法・評価基準

授業参加度・授業態度(15%)と定期試験(85%)により総合判断する。欠席・遅刻は減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 精神医学概論(精神保健・福祉の歴史を含む)
- 第2回 統合失調症とは(1)

(精神保健・福祉の歴史を含む)

- 第3回 統合失調症とは(2)
- 第4回 統合失調症とは(3)
- 第5回 統合失調症とは(4)
- 第6回 躁うつ病概論・うつ病
(精神保健・福祉の歴史を含む)
- 第7回 うつ病および躁病(1)
- 第8回 うつ病および躁病(2)
- 第9回 神経症性障害・総論
- 第10回 神経症性障害・各論(1)ーパニック障害などー
- 第11回 神経症性障害・各論(2)ー対人恐怖・社会不安障害などー
- 第12回 神経症性障害・各論(3)ー強迫性障害などー
- 第13回 神経症性障害・各論(4)ー転換性障害、解離性障害などー
- 第14回 摂食障害(1)
- 第15回 摂食障害(2)

6. 留意事項

・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。
・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント(レジュメ)を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

講義コード	24525901			
科目名	精神医学Ⅱ 精神医学の理解を深める			
担当者	河瀬 雅紀			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト	『精神保健福祉士養成テキストブック 精神医学』 伊藤哲寛 ミネルヴァ書房			
参考文献	『うつ病 知る・治す・防ぐ』 福居顯二 金芳堂 『医療心理学』 忠井俊明 星和書店 『がん患者 グループ療法の実際』 河瀬雅紀 金芳堂			
備考	「精神医学Ⅰ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

精神的健康の保持や増進のため、またカウンセリングや臨床心理学、精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。各種精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の原因、診断方法、治療法などを体系的に理解し、また地域精神保健の展開についても理解を深めていく。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 精神障害に関する基礎的用語を使うことができる
2. 精神障害の分類と診断方法について説明することができる
3. 代表的な精神障害について、原因、症状、治療方法を説明することができる
4. 精神障害者の支援のあり方について説明することができる

2. 教育・学習の個別課題

1. PTSD、適応障害の特徴と治療・対応について説明できる
2. 人格障害の特徴と治療・対応について説明できる
3. 発達障害の特徴と治療・対応について説明できる
4. アルコール依存・薬物依存の特徴と治療・対応について説明できる
5. 心身症の特徴と治療・対応について説明できる
6. 主な睡眠障害の特徴を説明できる
7. 主な認知症の症状と対応について説明できる
8. 地域で暮らす精神障害者の支援とその課題について具体的に述べるることができる
9. 社会的問題について精神医学的視点から説明することが出来る

3. 教育・学習の方法

講義形式を中心とし、テキスト、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する。毎回の講義後、配付資料およびテキストにより復習をすること。

・準備学習の具体的な方法

テキストおよび参考図書で、該当箇所を読んでおくこと

4. 評価方法・評価基準

討議を含む授業参加度・授業態度(15%)、試験(確認テストなど)(85%)による総合評価。欠席・遅刻は減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 ストレス関連障害(1)ーPTSD、適応障害などー
- 第2回 ストレス関連障害(2)ーPTSD、適応障害などー
- 第3回 人格障害(1)

- 第4回 人格障害 (2)
- 第5回 アルコール依存、薬物依存
- 第6回 発達障害 (1)
- 第7回 発達障害 (2)
- 第8回 発達障害 (3)
- 第9回 心身症、睡眠障害 (1)
- 第10回 睡眠障害 (2)、てんかん (1)
(精神医学-診断法を含む)
- 第11回 てんかん (2)
(精神医学-診断法を含む)
- 第12回 器質性精神障害 (認知症など) について
(精神医学-神経系の構造と機能および症候学を含む)
- 第13回 精神医学・治療法-精神療法を中心に
- 第14回 精神保健福祉の歴史と現在、病院精神医療および地域精神医療
- 第15回 まとめ

- 第11回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ (2)
教員の精神保健
- 第12回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ (3)
学校における精神保健福祉士の役割
- 第13回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ (1) 現代日本の労働環境
- 第14回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ (2) うつ病と過労自殺
- 第15回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ (3) 職場における精神保健福祉士の役割

6. 留意事項

・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。

・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント (レジュメ) を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

講義コード	24526001			
科目名	精神保健学 I 「心の健康」について学び考える			
担当者	佐藤 純			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座 精神保健の課題と支援』 日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規 2012			
参考文献				
備考	「精神保健学 I」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「こころの健康」を保持増進するための精神保健学は、精神医学・公衆衛生学・発達心理学・臨床心理学などとともに発展してきた実践的な学問です。「こころの健康」を個人・集団・環境などさまざまな観点から考え、現代社会が直面している精神保健の課題を全般的に理解し、広い視野を持ってその課題を見る視点について学びます。

2. 教育・学習の個別課題

「こころの健康」を自分や家族の身近なテーマとして意識することからはじめ、現代社会を生きる人々の「こころの健康」をどうとらえ、どう支援をしていくかについて自分の考えを述べられるようになることを目指します。

3. 教育・学習の方法

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。

・準備学習の具体的な方法

該当する部分を教科書等で整理しておくこと

4. 評価方法・評価基準

定期試験 50 点、授業参加度 15 点、レポート 35 点で評価を行う。出席回数 3 分の 2 に満たない者は評価の対象とならない

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 精神保健の歴史と課題
- 第3回 ライフサイクルと精神の健康
- 第4回 ストレスと精神の健康
- 第5回 精神保健に関する予防
- 第6回 精神保健に関するシステムと専門職
- 第7回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ (1) 結婚と育児
- 第8回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ (2) 社会的引きこもり
- 第9回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ (3) 病気療養や介護
- 第10回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ (1) 現代の学校教育と生徒児童の特徴

6. 留意事項

講義コード	24526101			
科目名	精神保健学 II 「心の健康」について学び考える			
担当者	佐藤 純			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[精][保]			
前提科目				
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座 (2) 精神保健の課題と支援』 日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規 2012			
参考文献				
備考	「精神保健学 II」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

精神保健学 II の基本的知識をふまえて、「こころの健康」の個別の課題に対して理解を深め、現代社会が直面している精神保健の課題に対する具体的な解決方法について学びます。

2. 教育・学習の個別課題

現代社会を生きる人々の「こころの健康」の個別課題についてどうとらえ、どう支援をしていくかについて自分の考えを述べられるようになることを目指します。

3. 教育・学習の方法

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。

・準備学習の具体的な方法

該当する部分を教科書等で整理しておくこと

4. 評価方法・評価基準

定期試験 50 点、授業参加度 15 点、レポート 35 点で評価を行う。出席回数 3 分の 2 に満たない者は評価の対象とならない

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 発達障害とこころの健康
- 第3回 アルコール問題とこころの健康
- 第4回 うつ病・自殺対策とこころの健康
- 第5回 認知症とこころの健康
- 第6回 災害とこころの健康
- 第7回 犯罪被害者とこころの健康
- 第8回 ニート・若年無業者とこころの健康
- 第9回 貧困問題とこころの健康
- 第10回 性同一性障害とこころの健康
- 第11回 ターミナルケアとこころの健康
- 第12回 精神保健に関する調査・資源開発
- 第13回 地域精神保健と関係法規
- 第14回 諸外国の精神保健活動の現状及び対策
- 第15回 まとめと振り返り

6. 留意事項

講義コード	24526201		
科目名	精神科リハビリテーション学Ⅰ		
担当者	橋本 史人		
単位数	2	配当学年	34
資格	[精]		
前提科目			
テキスト	『新精神保健福祉士養成講座(4)精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』中央法規 *テキストは使用しないが、適宜読むこと。		
参考文献備考	適宜紹介する		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

その人の人生をどう支援していくかを、講義、視聴覚教材、グループワークなどを通して、身体(生物学的)・こころ(心理学的)・環境(社会的)から見る事が出来るよう、自身を含めた身近なコトとして一緒に考えていきたいと思います。

2. 教育・学習の個別課題

1. 障害を疾患や生活、そして環境といった観点からとらえる力を身につける
2. 障害を持つ人の人生を支援していくリハビリテーション理念とその構成について理解する
3. 精神保健福祉士が行うリハビリテーションを理解する

3. 教育・学習の方法

講義、視聴覚教材、プリント、グループワーク、レポートなど。講義時にその日の質問、感想、意見を記述したペーパーを提出する。

・準備学習の具体的な方法

テキストの該当部分を読む。メンタルヘルス(精神保健)について、疑問を持つ。

4. 評価方法・評価基準

定期試験(30%)、授業参加(30%)、レポート・提出課題(40%)。出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。

5. 授業予定

- 第1回 精神保健医療福祉の歴史と動向Ⅰ
- 第2回 精神保健医療福祉の歴史と動向Ⅱ
- 第3回 精神障害とはー精神疾患と障害の理解1
- 第4回 精神障害とはー精神疾患と障害の理解2
- 第5回 精神科リハビリテーションとはーその理念、意義
- 第6回 精神科リハビリテーションとはー構成と展開
- 第7回 日本における精神科リハビリテーションの現状ー諸外国との比較
- 第8回 精神科リハビリテーションのプロセスー回復と支援プロセス
- 第9回 精神科リハビリテーションのプロセスーライフサイクルと支援プロセス
- 第10回 精神保健福祉士の役割
- 第11回 医療的リハビリテーションー専門療法
- 第12回 医療的リハビリテーションー家族教育プログラム・デイケア
- 第13回 医療的リハビリテーションーアウトリーチ・チーム医療
- 第14回 精神障害者支援の実践モデルⅠ
- 第15回 精神障害者支援の実践モデルⅡ

6. 留意事項

授業中の迷惑行為に関しては大きく評価を減点する。

講義コード	24526301		
科目名	精神科リハビリテーション学Ⅱ		
担当者	橋本 史人		
単位数	2	配当学年	34
資格	[精]		
前提科目			
テキスト	『新精神保健福祉士養成講座(4)精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』中央法規 *テキストは使用しないが適宜読むこと。		
参考文献備考	適宜紹介する		
科目読替	「精神科リハビリテーション学Ⅰ」履修者であること		
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

その人の人生をどう支援していくかを、講義、視聴覚教材、演習などを通して、身体(生物学的)・こころ(心理学的)・環境(社会的)から見る事が出来るよう、自身を含めた身近なコトとして一緒に考えていきたいと思います。

2. 教育・学習の個別課題

1. 障害を持つ人へのリハビリテーション技術を理解する
2. 他職種等とのチームワーク、関係機関とのネットワークの重要性を理解する

3. 教育・学習の方法

講義、視聴覚教材、プリント、グループワーク、レポートなど。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したペーパーを提出する。

・準備学習の具体的な方法

テキストの該当部分を読む。ニュースなどの話題に上るメンタルヘルス(精神保健)について、疑問を持つ。

4. 評価方法・評価基準

定期試験(30%)、授業参加(30%)、レポート・提出課題(40%)。出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。

5. 授業予定

- 第1回 精神科リハビリテーションの概念Ⅰ
- 第2回 精神科リハビリテーションの概念Ⅱ
- 第3回 地域を基盤にした相談援助ー受理面接
- 第4回 地域を基盤にした相談援助ー支援の計画と終結
- 第5回 地域を基盤にした相談援助ー家族の支援
- 第6回 集団療法
- 第7回 行動療法
- 第8回 面接技法Ⅰ
- 第9回 面接技法Ⅱ
- 第10回 ケアマネジメント1
- 第11回 ケアマネジメント2
- 第12回 スーパービジョン
- 第13回 コンサルテーション
- 第14回 ネットワーキングとセルフヘルプ
- 第15回 これからの精神科リハビリテーションの課題

6. 留意事項

授業中の迷惑行為に関しては大きく評価を減点する。

講義コード	24526401			
科目名	精神保健福祉論Ⅰ			
担当者	佐藤 純			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト	『新精神保健福祉士養成講座(7)精神障害者の生活支援システム』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規 2012			
参考文献備考	授業時に紹介する			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

精神障害者の地域での自立と社会参加を促進し、支援するために必要な相談支援、居住支援、就労支援、権利擁護を含む地域での総合的・継続的なシステムづくりを可能とする知識と技術を習得し、より実践力の高い精神保健福祉士となることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 精神「障害」という言葉が指す事態を、総合的に理解すること
2. 精神「障害」のある人が置かれている現状を学び、地域で生活を支える方向性と視点を培うこと
3. 精神に「障害」のある人の生活を支える精神保健福祉士のあり方について理解すること

3. 教育・学習の方法

教科書に基づいて講義を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出する。

・準備学習の具体的な方法

理念や理論を中心とした内容であり、当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。

4. 評価方法・評価基準

定期試験（50点）、授業参加度（15点）、レポート点（35点）で評価を行う。出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。

5. 授業予定

- 第1回 精神障害者の概念Ⅰ 精神疾患とは
- 第2回 精神障害者の概念Ⅱ 精神疾患と精神障害
- 第3回 精神障害者の生活の実際
- 第4回 精神障害者の生活と人権
- 第5回 精神障害者の自立と社会参加のための地域生活支援
- 第6回 雇用以外の就労
- 第7回 余暇活動
- 第8回 ソーシャルサポートネットワーク
- 第9回 精神障害者の居住支援
- 第10回 居住支援の実際と精神保健福祉士の役割
- 第11回 精神障害者の雇用・就業支援Ⅰ 理念と制度
- 第12回 精神障害者の雇用・就業支援Ⅱ 就労支援
- 第13回 精神障害者の雇用・就業支援Ⅲ いわゆる福祉的就労
- 第14回 行政における精神保健福祉士の役割
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

テキスト購入の上、持参すること。

講義コード	24526501			
科目名	精神保健福祉論Ⅱ			
担当者	佐藤 純			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座（6）精神保健福祉に関する制度とサービス』 日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規 2012			
参考文献	授業時に紹介する			
備考	「精神保健福祉論Ⅰ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

精神保健福祉法やその施策を理解し、立ち後れている精神障害者の支援や施策について現状と課題を修得する。さらに、今後の課題に向けての精神保健福祉士の視点を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

- 1 精神保健福祉法の意義と内容を理解する。
- 2 精神保健福祉法概要について理解する。

3. 教育・学習の方法

教科書に基づいて講義を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出する。

・準備学習の具体的な方法

理念や理論を中心とした内容であり、当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。

4. 評価方法・評価基準

定期試験（50点）、授業参加度（15点）、レポート点（35点）で評価を行う。出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービス
- 第3回 精神障害者監護法から精神保健法成立までの経緯Ⅰ 精神衛生法成立まで
- 第4回 精神障害者監護法から精神保健法成立までの経緯Ⅱ 精神衛生法の改正
- 第5回 精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯
- 第6回 精神保健福祉法成立の意義とその後の展開
- 第7回 精神保健福祉法の構成（1・目的と対象）
- 第8回 精神保健福祉法の構成（2・医療及び保護）
- 第9回 精神保健福祉法の構成（3・保健及び福祉）
- 第10回 精神保健福祉法の構成（4・課題）
- 第11回 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割
- 第12回 障害者基本法と精神障害者施策との関わり
- 第13回 障害者自立支援法における精神障害者の福祉サービスの実際
- 第14回 精神障害者等を対象とした福祉施策・事業の実際
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

テキストを購入の上持参すること。

講義コード	24526601			
科目名	精神保健福祉論Ⅲ			
担当者	佐藤 純			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座（6）精神保健福祉に関する制度とサービス』 日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規 2012			
参考文献				
備考	「精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

精神保健福祉法等の法や施策を理解し、立ち後れている精神障害者の支援関連の法や施策について現状と課題を修得する。さらに、今後の課題に向けての精神保健福祉士のあり方について検討する。

2. 教育・学習の個別課題

精神保健福祉の関連施策について理解する。

3. 教育・学習の方法

教科書に基づいて講義を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出する。

・準備学習の具体的な方法

理念や理論を中心とした内容であり、当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること

4. 評価方法・評価基準

授業参加度（50点）、毎回の小テスト（50点）で評価を行う。出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会保障制度と社会福祉制度
- 第3回 医療保険制度
- 第4回 介護保険制度
- 第5回 生活保護制度
- 第6回 年金保険制度
- 第7回 社会手当・雇用保険など
- 第8回 相談援助に係わる行政組織と民間組織
- 第9回 福祉サービス提供施設・機関の役割
- 第10回 刑事司法と更生保護制度（1） 司法の仕組み
- 第11回 刑事司法と更生保護制度（2） 更生保護
- 第12回 医療観察法の意義と内容（1） 目的と対象
- 第13回 医療観察法の意義と内容（2） 制度と課題
- 第14回 社会調査の意義と目的
- 第15回 量的調査法と質的調査法の違いと活用における留意点

6. 留意事項

テキストは精神保健福祉論Ⅱで使用したものであるため、授業に持参すること。

講義コード	24526901			
科目名	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ			
担当者	渡辺 恵司			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座（新カリキュラム対応）第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』 日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規 2012			
参考文献				
備考	「社会福祉援助技術Ⅰ・Ⅱ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本講義では、精神障害者の置かれてきた社会的状況を念頭に置き、精神保健福祉士として求められる知識と技術の習得を目的としています。人と「向き合い」、「寄り添い」、そして「支援する」ということを一緒に考えていきます。(1) 地域移行支援について、(2) 精神障害者と家族について、(3) 個別支援について等を具体的事例に基づきながら理解を深めていきます。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 人と「向き合い」、「寄り添い」、「支援する」について
- (2) 社会的入院ー地域移行ー地域定着について
- (3) 家族支援について
- (4) 個人に対する援助方法（ケースワーク）
- (5) グループを用いて援助する方法（グループワーク）
- (6) 専門性について

3. 教育・学習の方法

講義をグループディスカッション、ロールプレイ、発表など参加型の授業を行いたいと思います。また、現場の生の声を届けられるような工夫を考えています。将来的に精神保健福祉士としての実践の基礎となる授業を行います。

・準備学習の具体的な方法

テキストの該当箇所を事前に読んで概要をつかんでおくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（40点）、レポート（20点）、試験（40点）の総合評価とする。欠席、遅刻は減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 地域移行支援について
- 第3回 地域移行を推進する事業の展開
- 第4回 精神保健福祉士の役割と他職種との連携
- 第5回 地域移行に関する具体的事例検討
- 第6回 精神障害者と家族
- 第7回 家族支援について
- 第8回 家族支援ー具体的事例検討
- 第9回 個別支援について
- 第10回 集団を活用した支援
- 第11回 相談援助活動ー具体的事例検討
- 第12回 精神障害者を取り巻く社会的状況
- 第13回 地域相談援助について
- 第14回 当事者から学ぶーその1
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24527001			
科目名	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ			
担当者	渡辺 恵司			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座（新カリキュラム対応）第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』日本精神保健福祉士養成協会 中央法規 2012			
参考文献				
備考	「社会福祉援助技術Ⅰ・Ⅱ」「精神保健福祉援助技術各論Ⅰ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本講義では、本講義では、精神障害者の置かれてきた社会的状況を念頭に置き、精神保健福祉士として求められる知識と技術の習得を目的としています。人と「向き合い」、「寄り添い」、そして「支援する」ということを一緒に考えていきます。(1) 地域生活支援について、(2) 精神障害者ケアマネジメントについて、(3) 個別支援について等について、「精神保健福祉援助技術各論Ⅰ」での学びをさらに展開させ、生活者支援の視点から具体的事例に基づき理解を深めていきます。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) ケースワーク・グループワーク・コミュニティワークの応用
- (2) 精神障害者ケアマネジメント
- (3) 精神障害者支援のためのチームアプローチ
- (4) 個別支援

3. 教育・学習の方法

グループディスカッション、ロールプレイ、発表など参加型の授業を行いたいと思います。将来的に精神保健福祉士としての実践の基盤となる理論や技術の応用力の習得を目指します。

・準備学習の具体的な方法

テキストの該当箇所を事前に読んで概要をつかんでおくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（40点）、レポート（20点）、試験（40点）の総合評価とする。欠席、遅刻は減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 地域ネットワークについて
- 第2回 アウトリーチについて
- 第3回 地域生活支援事業と訪問援助
- 第4回 家族会およびセルフヘルプグループ
- 第5回 専門職から学ぶ
- 第6回 ケアマネジメントについて
- 第7回 チームケアとチームワーク
- 第8回 ケアマネジメントー具体的事例検討
- 第9回 地域における支援について
- 第10回 地域における支援の具体的事例検討
- 第11回 包括的な支援の意義と展開
- 第12回 相談援助ー面接
- 第13回 相談援助ー記録
- 第14回 当事者から学ぶーその2
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24527101			
科目名	精神保健福祉援助演習Ⅰ			
担当者	佐藤 純			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座（8） 精神保健福祉援助演習（基礎・専門）』日本精神保健福祉士養成協会編集 中央法規 2012			
参考文献				
備考	3 年次秋の選考試験により、履修が認められた者のみが受講できる			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

精神に「障害」のある人の「人生」を支援する精神保健福祉士の視点とその支援技術を養うために、見学やロールプレイ・事例検討などの演習を通じて修得する。それらを通じて自己を客視する力、主体的に行動する力、そして精神に「障害」のある人の生活や人生を深く理解する力を養う。

2. 教育・学習の個別課題

- 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について習得する。
- 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

3. 教育・学習の方法

テキストを題材に演習・事例検討・ロールプレイを行う。視聴覚教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したりアクションペーパーを提出する。

・準備学習の具体的な方法

テキストの該当する部分を概読しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度（50点）、各テーマ毎のレポート（50点）で評価を行う。出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。授業中の他の学生の迷惑行為に関しては大きく減点をする。

5. 授業予定

- 第1回 ケースワーク技術ー面接相談
- 第2回 ケースワーク技術ー電話相談
- 第3回 ケースワーク技術ー訪問援助
- 第4回 グループワーク技術ーグループワーク体験
- 第5回 グループワーク技術ーSST
- 第6回 コミュニティワーク技術ー社会資源の活用
- 第7回 コミュニティワーク技術ーネットワーキング
- 第8回 ケアマネジメント技術ーアセスメント
- 第9回 ケアマネジメント技術ープランニング

- 第10回 チームアプローチ
- 第11回 精神科医療機関における事例の検討
- 第12回 生活支援事業所における事例の検討
- 第13回 就労支援事業所における事例の検討
- 第14回 地域相談機関における事例の検討
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24527201			
科目名	精神保健福祉援助演習Ⅱ			
担当者	佐藤 純			
単位数	1	配当学年	4	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト	『新精神保健福祉士養成講座(7) 精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』 日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規 2012			
参考文献				
備考	「精神保健福祉援助演習Ⅰ」履修者であること 3年次秋の選考試験により、履修が認められた者のみが受講できる			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

精神に「障害」のある人の「人生」を支援する精神保健福祉士の視点とその支援技術を修得するとともに、それらを通じて自己を客体視する力、主体的に行動する力、そして精神に「障害」のある人の生活や人生を深く理解する力を養う。

2. 教育・学習の個別課題

- 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について習得する。
- 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

3. 教育・学習の方法

テキストを題材に演習・事例検討・ロールプレイを行う。視聴覚教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出する。

・準備学習の具体的な方法

テキストの該当する部分を概読しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度(50点)、各テーマ毎のレポート(50点)で評価を行う。出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。授業中の他の学生の迷惑行為に関しては大きく減点をする。

5. 授業予定

- 第1回 実習の振り返りー自己覚知
- 第2回 実習の振り返りー自己覚知
- 第3回 実習時の支援事例の検討
- 第4回 実習時の支援事例の検討
- 第5回 実習時の支援事例の検討
- 第6回 精神保健福祉士の倫理1
- 第7回 精神保健福祉士の倫理2
- 第8回 事例演習ー医療に結びつける援助
- 第9回 事例演習ー危機的状況における援助
- 第10回 事例演習ー児童虐待・DV
- 第11回 事例演習ー地域ネットワーク実習時の支援事例の検討
- 第12回 事例演習ー社会資源の開発
- 第13回 セルフヘルプへの支援技術
- 第14回 セルフヘルプへの支援技術ー事例に基づいて
- 第15回 まとめー精神保健福祉士の専門的援助技術とは何か

6. 留意事項

講義コード	24527301			
科目名	精神保健福祉援助実習			
担当者	佐藤 純			
単位数	6	配当学年	4	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	授業時に紹介する			
備考	3年次秋の選考試験により、履修が認められた者のみが受講できる			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

現場実習体験を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方の理解を深める。また、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学び、専門職としての自覚に基づいた実践ができるようになり、またそれをもとに専門的技術として体系だてて概念化・理論化する能力を涵養する。

2. 教育・学習の個別課題

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

3. 教育・学習の方法

授業開始時に配付する資料に基づいて講義演習を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出する。

・準備学習の具体的な方法

前の講義で指示された準備学習をしておくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度やレポートなどの事前学習における評価(50点)、実習の評価(50点)で評価を行う。

5. 授業予定

- 第1回 実習オリエンテーション
- 第2回 精神科医療機関における精神保健福祉士の実際
- 第3回 精神科診療所における精神保健福祉士の実際
- 第4回 生活支援事業所における精神保健福祉士の実際
- 第5回 就労支援事業所における精神保健福祉士の実際
- 第6回 行政、相談機関における精神保健福祉士の実際
- 第7回 実習先施設の事前訪問・見学実習
- 第8回 実習計画書の作成 1
- 第9回 実習計画書の作成 2
- 第10回 実習記録の書き方 1
- 第11回 実習記録の書き方 2
- 第12回 実習上のマナー・接遇
- 第13回 実習直前指導 1
- 第14回 実習直前指導 2
- 第15回 配属実習

6. 留意事項

講義コード	24527401			
科目名	障害者福祉論			
担当者	矢島 雅子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[福][社][精][保]			
前提科目				
テキスト	『障害者福祉の世界』 佐藤久夫・小澤温 有斐閣 2010			
参考文献	『よくわかる障害者福祉』 小澤温 ミネルヴァ書房 2008 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2012 『障害者と地域生活』 佐藤久夫・北野誠一・三田優子編 中央法規 2002 『障害をもつ人たちの自立生活とケアマネジメント』 谷口明広 ミネルヴァ書房 2005 『障害のある人の支援と社会福祉』 志村健一・岩田直子編 ミネルヴァ書房 2008 授業時にも紹介する			
備考				
科目読替	障害者福祉論Ⅰ ※平成20年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

わが国の人口の約5%を占める障害のある人は、様々なきっかけを通じ、障害のある状態となり、生活上の困難を抱えながら生活している。障害のある人が日常生活の中でどのような不自由さを感じているのかについて実際の事例を通して理解を深める。そして、生活のしづらさを解決する障害者福祉の制度・サービス体系・支援方法を学び、どうすれば生活上の困難を解決することができるのか解決策を提示できるようにする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 国際障害分類と国際生活機能分類を学び、障害を構造的に理解する。
2. 障害のある人の基本的人権、ノーマライゼーション、リハビリテーションと自立生活運動、エンパワーメントの思想を学び、思想を学ぶ意義を説明することができる。
3. 戦前から今日に至るまでの障害者福祉制度の流れを説明することができる。
4. 障害のある人の生活ニーズについて理解を深め、生活困難を解決する支援方法を提示することができる。
5. 障害のある人の生活を支えるサービス体系のあり方について考える。

3. 教育・学習の方法

パワーポイントと配布資料に基づいて講義を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。グループワークを取り入れる。

・準備学習の具体的な方法

事前にテキストを読み、概要を把握した上で出席すること

4. 評価方法・評価基準

定期試験 50%、出席率・授業参加度 30%、レポート 20%で評価を行う。出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。

5. 授業予定

- 第1回 障害とは何か
- 第2回 国際障害分類と国際生活機能分類
- 第3回 障害のある人の人権―優生思想と社会防衛思想―
- 第4回 ノーマライゼーションの理念
- 第5回 リハビリテーションと自立生活運動
- 第6回 エンパワーメントの理念
- 第7回 障害者福祉制度の流れ―戦前から戦後の障害者福祉―
- 第8回 障害者福祉制度の流れ―制度の見直しと今後の障害者福祉―
- 第9回 障害のある人の生活ニーズ
- 第10回 障害のある人の生活ニーズを解決する生活支援
- 第11回 障害者総合支援法の概要
- 第12回 障害のある人の生活基盤を支えるサービス
- 第13回 障害のある人の社会参加を支えるサービス
- 第14回 共生社会への道
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24527501			
科目名	児童福祉論			
担当者	桐野 由美子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[福][社][保]			
前提科目				
テキスト	『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 13：児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』 芝野 松次郎・高橋 重宏・松原 康雄 ミネルヴァ書房 2009			
参考文献	授業中に適宜紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

最近、少子化の進行、家庭や地域の子育て機能の低下、子どもや家族を取り巻く環境の変化は著しい。本科目ではまず、そうした状況の中で子どもが心身ともに健やかに生まれ、かつ育っていく子どもの権利を理解し、子どもと家族を支援するために、彼らの生活実態・社会情勢・福祉需要などを学ぶ。次に、保育、養護、自立支援、家族支援といった児童福祉の各領域における制度の発展過程及び諸機関における相談援助に係る法制度に関して、具体的な事例にも触れながら、理解を深める。

2. 教育・学習の個別課題

1. 子どもとその家族の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や、子育て、一人親家庭、児童虐待およびドメスティックバイオレンス（DV）などの福祉需要について理解する。
2. 子どもと家族の福祉制度の発展過程について理解する。
3. 子どもの権利について理解する。
4. 相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法 講義を中心に行う。より理解を深めるためビデオ等も使用する。また、児童福祉現場の最前線で現在活躍している行政機関の実践家を一授業に招き、日本の児童福祉の現状とその課題について講義していただき、その後学生達とディスカッションを行う。

2. テキスト・文献等 (1)テキスト：芝野松次郎,松原康雄,高橋重宏編著 (2009)『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 13：児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』 ミネルヴァ書房を用いる。(2)参考文献：授業中に適宜紹介する。

・準備学習の具体的な方法

学生は各授業の準備として、授業テーマに該当するテキストの章を熟読しておく。その詳細は、第1回目授業の配布資料で提示する。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（30%）、授業中成果（10%）、試験とまとめ（60%）を総合評価する。遅刻・欠席は減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 子どもと家族の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（DV）、地域における子育て支援及び青少年育成の実態）と実際
- 第2回 子どもと家族の福祉制度の発展過程
- 第3回 子どもの定義と権利
- 第4回 児童福祉法
- 第5回 児童虐待の防止に関する法律（児童虐待防止法）
- 第6回 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV法）
- 第7回 母子及び寡婦福祉法
- 第8回 母子保健法
- 第9回 児童手当法と児童扶養手当法と特別児童扶養手当等の支給に関する法律
- 第10回 次世代育成支援推進法
- 第11回 少子化社会対策基本法
- 第12回 売春防止法
- 第13回 子どもと家族の福祉制度における組織・団体・専門職の役割と実際
- 第14回 子どもと家族の福祉制度における他職種連携、ネットワークと実際
- 第15回 総括（試験とまとめ）

6. 留意事項

講義コード	24527601			
科目名	社会福祉援助技術Ⅴ			
担当者	佐藤 純			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[社][保]			
前提科目				
テキスト	『相談援助の理論と方法2』 社会福祉士養成校協会編集 中央法規			
参考文献				
備考	「社会福祉援助技術Ⅰ～Ⅳ」の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この科目では、社会福祉援助技術Ⅲ、Ⅳを踏まえ、主に間接援助技術を中心としたより専門的なソーシャルワーク実践力を有する社会福祉士に求められる知識と理解を深める

2. 教育・学習の個別課題

- 1 集団援助に求められる知識と技術についてより深く理解する
- 2 ネットワーキングやケアマネジメントなどについてより深く理解する
- 3 スーパービジョンに求められる知識と技術についてより深く理解する
- 4 相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解する

3. 教育・学習の方法

教科書に基づいて講義を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出する

・準備学習の具体的な方法

テキストの該当する部分を概読しておくこと

4. 評価方法・評価基準

定期試験（50点）、授業参加度（15点）、レポート（35点）で評価を行う。出席回数の3分の2に満たない者は評価の対象とならない

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション 本科目の位置づけと学ぶ内容
- 第2回 相談援助における対象の理解
- 第3回 ケアマネジメントの理論と方法1 インテーク
- 第4回 ケアマネジメントの理論と方法2 アセスメント
- 第5回 ケアマネジメントの理論と方法3 ケア計画
- 第6回 ケアマネジメントの理論と方法4 モニタリング・終結
- 第7回 グループを活用した相談援助1
グループアプローチ
- 第8回 グループを活用した相談援助2
グループミーティングの進め方 グループの力を使う工夫
- 第9回 グループを活用した相談援助3
グループミーティングの進め方 問題解決技法を使って
- 第10回 コーディネーションとネットワーキング1
ケアコーディネーション
- 第11回 コーディネーションとネットワーキング2
ネットワーキング
- 第12回 相談援助における社会資源の活用・調整
- 第13回 相談援助における社会資源の開発
- 第14回 理解度テスト
- 第15回 理解度テスト解説とまとめ

6. 留意事項

講義コード	24527701			
科目名	社会福祉援助技術Ⅵ			
担当者	佐藤 純			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[社][保]			
前提科目				
テキスト	『相談援助の理論と方法2』 社会福祉士養成校協会編集 中央法規			
参考文献				
備考	「社会福祉援助技術Ⅰ～Ⅴ」の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この科目では、社会福祉援助技術Ⅲ、Ⅳを踏まえ、主に間接援助技術を中心としたより専門的なソーシャルワーク実践力を有する社会福祉士に求められる知識と理解を深める

2. 教育・学習の個別課題

- 1 スーパービジョンに求められる知識と技術についてより深く理解する
- 2 相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解する

3. 教育・学習の方法

教科書に基づいて講義を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出する

・準備学習の具体的な方法

テキストの該当する部分を概読しておくこと

4. 評価方法・評価基準

定期試験（50点）、授業参加度（15点）、レポート（35点）で評価を行う。出席回数の3分の2に満たない者は評価の対象とならない

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション 本科目の位置づけと学ぶ内容
- 第2回 さまざまな実践モデルとアプローチⅠ
医学モデル、生活モデル
- 第3回 さまざまな実践モデルとアプローチⅠ
ストレングスマデル
- 第4回 さまざまな実践モデルとアプローチⅡ
心理社会的アプローチなど
- 第5回 さまざまな実践モデルとアプローチⅡ
危機介入アプローチなど
- 第6回 さまざまな実践モデルとアプローチⅢ
エンパワメントアプローチなど
- 第7回 さまざまな実践モデルとアプローチⅢ
ナラティブアプローチなど
- 第8回 スーパービジョン
- 第9回 コンサルテーション
- 第10回 ケースカンファレンス
- 第11回 個人情報の保護
- 第12回 事例研究・事例分析
- 第13回 相談援助の実際1 さまざまなアプローチを使って
児童福祉
- 第14回 相談援助の実際2 さまざまなアプローチを使って
障害者福祉
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24527801			
科目名	社会福祉援助技術演習Ⅲ 地域を基盤にしたソーシャルワークへの展開			
担当者	酒井 久美子			
単位数	1	配当学年	4	
資格	[社][保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員20人 「社会福祉援助技術演習Ⅰ、Ⅱ」の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

相談援助には、個別支援にとどまらず、さまざまな問題を総合的・包括的な視点で捉え、地域支援へと展開することが求められている。また、地域における各種の課題や問題状況を把握、分析したうえで、必要な専門職等との連携・協働を視野に入れながら、解決するための方法を模索することも求められる。そこで本演習では、社会福祉士（専門職）として必要な知識をもとに、実践的な力を習得することを目標とする。特に、地域支援や地域福祉の基盤整備と開発にかかわる実践力の習得をめざす。

2. 教育・学習の個別課題

- ①利用者のニーズから地域課題を考える。
- ②地域の現状把握と地域における生活課題、福祉課題を考える。
- ③地域福祉を推進するための情報収集、課題の分析、計画づくりの過程について学ぶ。

3. 教育・学習の方法

現場実習で体験した内容や具体的な事例をもとに、個人ワーク、グループワーク、ディスカッション等をおこなう。そのために学生の主体的な参加、取り組みを求める。

・準備学習の具体的な方法

各自の現場実習を振り返り、成果や課題を明確にしておくこと。
地域福祉にかかわる情報や社会資源について情報収集しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率および授業参加度（40%）、レポート課題（60%）で総合的にこなす。欠席や遅刻は減点の対象とする。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておくこと。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 現場実習の振り返りと総括
- 第3回 実習の学びを事例にした演習①
- 第4回 実習の学びを事例にした演習②
- 第5回 実習の学びを事例にした演習③
- 第6回 実習の学びを事例にした演習④
- 第7回 個別支援から地域支援を考える
- 第8回 個別ニーズの具体的事例から地域支援への展開①
- 第9回 個別ニーズの具体的事例から地域支援への展開②
- 第10回 地域福祉計画の策定過程について
- 第11回 地域の情報収集について
- 第12回 地域の課題把握・分析について
- 第13回 サービス評価について
- 第14回 計画づくりについて
- 第15回 総括

6. 留意事項

社会福祉士受験資格取得を希望する場合は、必ず受講すること。
専門職に必要な演習科目のため、受講者一人ひとりが自主的、積極的に演習に取り組むこと。

講義コード	24527901			
科目名	社会福祉援助技術実習指導Ⅰ			
担当者	酒井 久美子・三好 明夫・矢島 雅子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[福][社]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	週2コマ連続 「社会福祉援助技術Ⅰ」「社会福祉原論Ⅰ」を履修済であること			
科目読替	社会福祉援助技術実習指導Ⅰ（見学実習等）※平成20年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

- 社会福祉施設での現場実習に先立つ総合的な事前学習として位置づけ、現場実習の効果的な導入をはかる。
- 施設等の運営の実際、利用者、援助の内容、職員の役割等について理解を深める。
- 実習場面を想定した事例研究や援助に関する演習などをおこない、実際的な実習指導を深める。

2. 教育・学習の個別課題

以下の点について掘り下げ、理解を深める。

- 社会福祉援助技術現場実習の意義と目的を理解する。
- 社会福祉施設等の総合的理解を獲得する。
- 体験学習により実習に必要な援助技術を知る。
- 見学により社会福祉施設等での援助の実際を学ぶ。
- 分野別の講義等で福祉現場や援助の基本的姿勢について学ぶ。

3. 教育・学習の方法

講義、見学、体験学習などによる総合的な実習事前学習とする。社会福祉施設等現場経験のある講師による講義、全体クラスと小クラスによる事前指導、および見学、講義などの振り返りなどにより理解を深める。

・準備学習の具体的な方法

各分野の講義、見学実習に備えて、事前に関係する法律、社会福祉現場の現状等について調べ、問題意識を持って参加し、質問などできるように準備をしておくこと。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業参加度（50点）、レポート（40点）、その他授業中の態度や参加度など平常点（10点）で総合的に評価する。欠席・遅刻は原則減点（欠席1回につき、5点）とする。

5. 授業予定

第1回 実習に関するオリエンテーション（授業のねらい、実習の意義、位置づけなど）

実際の社会福祉援助の理解—講義1（高齢者福祉分野）

第2回 実習現場における現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験を含む）見学授業1 高齢者福祉施設

第3回 実際の社会福祉援助の理解—講義2（児童福祉分野）

見学実習1の振り返り

第4回 実習現場における現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験を含む）見学授業2 児童福祉施設

第5回 実際の社会福祉援助の理解—講義3（障害者福祉分野）

見学実習2の振り返り

第6回 実習現場における現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験を含む）見学授業3 障害児・者福祉施設

第7回 実際の社会福祉援助の理解—講義4（福祉機関・社会福祉協議会）

見学実習3の振り返り

実習施設選択の相談

第8回 実際の社会福祉援助の理解—講義5（母子生活支援施設）

実習を終えた学生による評価全体総括会（実習報告会）への参加

第9回 実際の社会福祉援助の理解—講義6（福祉機関・地域包括支援センター）

第10回 実習分野に関する個別面談

第11回 利用者体験学習—体験学習1 車いす介助とブラインドウォーク

第12回 利用者体験学習—体験学習2 高齢者疑似体験

第13回 現場実習に向けたグループディスカッション

第14回 総括

第15回 社会福祉集中セミナー

現場実習に必要な演習などをおこない、現場実習に向けての意欲を高める実習指導Ⅰの振り返り、実習指導Ⅱ、現場実習、実習指導Ⅲに向けてのガイダンス

6. 留意事項

- この科目は社会福祉士受験資格の必修科目である。社会福祉援助技術Ⅰおよび社会福祉原論Ⅰを履修済みであることを原則とする。
- 施設見学では大学より施設までの帰路を含む交通費は各自負担。
- 原則として、欠席・遅刻は認めない。

講義コード	24528001			
科目名	社会福祉援助技術実習指導Ⅱ			
担当者	酒井 久美子・桐野 由美子・三好 明夫・矢島 雅子			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[福][社]			
前提科目	「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」			
テキスト				
参考文献	『社会福祉援助技術現場実習ハンドブック』			
備考	「社会福祉援助技術Ⅱ」「社会福祉原論Ⅱ」を履修済みであること。 「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を同一年度に履修すること。 ※入学年度により履修条件が異なる。詳細は学生便覧を参照。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

社会福祉援助技術現場実習に必要な知識や技術などの具体的項目について、ガイダンス、相談指導などによって効果的な現場実習ができるように指導する。

2. 教育・学習の個別課題

- 各自が実習する分野の社会福祉施設・機関の役割・機能、日常的な運営、職員配置、他の専門職との連携、地域との関係などについて理解を深め、専門職としての自覚を促す。
- 行動観察と記録の作成について指導する。
- 実習計画表の作成を指導する。
- 介護技術に必要な学生に対して介護の知識や技術を指導する。
- 専門職として求められる資質や技能、倫理などについて、各分野に関する講義を通して理解する。

3. 教育・学習の方法

1. 担当教員制による小クラスでのガイダンス、個別指導、スーパービジョンや全体クラスによる講義、ガイダンスなどをおこなう。
2. 社会福祉施設等現場経験のある講師による講義、4年次生による実習報告会などを実施し、必要な知識や方向づけをおこなう。
3. テキストは実習ハンドブックや配付資料を用いる。

・準備学習の具体的な方法

各実習施設に関する根拠法や現状等に関する情報の収集に努める。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業参加度（50点）、レポート（40点）、その他授業中の態度や参加度など平常点（10点）で総合的に評価する。欠席・遅刻は原則減点（欠席1回につき、5点）とする。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション 提出書類の書き方などの説明
- 第2回 分野別講義1（実習生に期待する・障害者分野）
- 第3回 分野別講義2（実習生に期待する・児童分野）
- 第4回 分野別講義3（実習生に期待する・福祉機関・社会福祉協議会）
- 第5回 分野別講義4（実習生に期待する・高齢者分野）
- 第6回 提出必要書類、実習計画書の指導
- 第7回 実習計画書の指導
- 第8回 前年度実習修了生による評価全体総括会（実習報告会）への参加
- 第9回 講義「感染症について」
- 第10回 小クラスおよび個別指導により、実習の意義、目的を理解したうえで、実習計画書の作成を指導し、事前オリエンテーションに向けての指導などをおこなう。
- 第11回 実習に向けての直前ガイダンス・視聴覚教材を活用して、実習に向けての事前学習から現場実習までの流れや目的、実際を理解する。（「介護の現場で学ぶ-高校生のための社会福祉実習-」・プライバシーの保護と守秘義務などに関する理解を促す。
- 第12回 実習記録の書き方1
- 第13回 実習記録の書き方2
- 第14回 「実習に関するガイダンス」（4年次生の実習経験者を困んで）
- 第15回 実習直前指導（各自の実習目標、実習に臨む態度など再確認）

*各分野別講義は専門職としての倫理、技術、専門性、実習生としての留意事項などについて包括的な内容のものである。

- (注) 1 社会福祉援助技術現場実習を効果的に進めるため、実習生用の実習指導マニュアルとして「社会福祉援助技術現場実習ハンドブック」、実習記録ノートとして「社会福祉援助技術現場実習ノート」を作成し、実習指導に活用して、指導をおこなう。
- 2 分野別講義や実習に向けてのガイダンスなどにより、援助の基本的姿勢や福祉現場について

6. 留意事項

1. 社会福祉援助技術実習指導Ⅰ、社会福祉援助技術Ⅱおよび社会福祉原論Ⅱを履修済みであること。
2. 老人福祉論Ⅰ・Ⅱ、児童福祉論、障害者福祉論を履修済みであることが望ましい。
3. 社会福祉援助技術演習Ⅰを履修済み、社会福祉援助技術演習Ⅱを履修中であることが望ましい。
4. 受講態度や適性などによっては現場実習を認めない場合もある。
5. 原則として、欠席・遅刻は認めない。

講義コード	24528101		
科目名	地域福祉論Ⅰ 地域福祉の理論		
担当者	酒井 久美子		
単位数	2	配当学年	34
資格	[社][精][保]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告 地域福祉における「新たな支え合い」を求めて—住民 と行政の協働による新しい福祉—』 全国社会福祉協 議会 2008		
備考	※平成21年度以後入学者に適用		
科目読替	地域福祉論 ※平成20年度以前入学者に適用		
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

私たちの生活基盤である地域にはさまざまな人々が暮らし、さま

ざまな生活問題や社会福祉問題が山積しているのが現状である。それらを解決し、誰もが住みやすく、一人ひとりが安心して暮らしていける地域社会を構築していくためにはどのようなことが必要なのであろうか。

このような問題を地域福祉の概念や理論の歴史的展開、社会的背景などを学ぶことを通して考え、地域の現状や課題を理解し、地域に根差した福祉とは何かを理解することをねらいとする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 「地域福祉」とは何か、なぜ「地域福祉」なのか。地域福祉の理念・考え方（概念）・歴史的背景・枠組みから学ぶ。
2. 地域福祉を推進するための課題について学ぶ。
3. 地域福祉の原理・原則を理解し、地域福祉推進のために必要なことについて学ぶ。

3. 教育・学習の方法

配付資料、参考事例の紹介などによって進める。

参考文献については随時紹介する。

・準備学習の具体的な方法

地域福祉に関連する社会福祉法や参考文献に挙げた報告書などを事前に確認しておくことが望ましい。

また、各自が暮らししている地域についても、どのような施策が講じられているのか確認し、地域福祉の具体的な取り組みを調べておくことが望ましい。

理解度を促進するため、毎回復習クイズを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと復習をして臨むこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加度（30%）、復習クイズ（10%）、形成テスト（70%）に基づいて総合的におこなう。欠席や遅刻は減点の対象とする。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 地域福祉の概念 ①地域とは何か
- 第3回 地域福祉の概念 ②地域福祉とは何か
- 第4回 地域福祉の形成と歴史的展開 ①地域福祉の源流（欧米の歴史的展開）
- 第5回 地域福祉の形成と歴史的展開 ②戦後わが国における地域福祉の形成過程
- 第6回 社会福祉法における地域福祉の位置づけ
- 第7回 地域福祉計画と地域福祉活動計画
- 第8回 地域福祉の推進組織・団体 ①社会福祉協議会
- 第9回 地域福祉の推進組織・団体 ②民生・児童委員
- 第10回 地域福祉の推進組織・団体 ③NPO、ボランティア活動など
- 第11回 地域福祉の推進組織・団体 ④各種地域支援組織
- 第12回 地域福祉と利用者保護
- 第13回 地域福祉の人材・財源
- 第14回 地域福祉推進の課題と展望
- 第15回 総括および形成テスト

6. 留意事項

講義コード	24528201		
科目名	地域福祉論Ⅱ 地域福祉推進のための主体と方法		
担当者	酒井 久美子		
単位数	2	配当学年	34
資格	[社][保]		
前提科目	「地域福祉論Ⅰ」		
テキスト			
参考文献			
備考	※入学年度により履修条件が異なる。詳細は学生便覧を参照。		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

地域福祉を推進するためには、そこで暮らす地域の住民による主体的な取り組みも重要である。地域住民の主体的な取り組みを推し進めていくためには、住民の主体形成、地域の組織化を進めていくことが必要である。そこで、住民主体の原則を再度確認し、なぜ住民が主体なのか、住民の主体的な取り組みの必要性について、理解を深め、地域福祉を推進するための方法について考える。

2. 教育・学習の個別課題

1. 住民の主体的な取り組みの必要性について考える。

2. 住民が主体的に取り組むために必要な支援について考える。
3. 特に小地域の取り組みについて検討する。

3. 教育・学習の方法

配付資料、参考事例の紹介などによって進める。

参考文献については随時紹介する。

・準備学習の具体的な方法

各自が暮らしている地域の住民活動について調べておくことが望ましい。住民活動への支援体制について調べておくことが望ましい。理解度を促進するため、毎回復習クイズを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと復習をして臨むこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加度(30%)、復習クイズ(10%)、形成テスト(70%)に基づいて総合的におこなう。欠席や遅刻は減点の対象とする。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 地域福祉と福祉教育
- 第3回 福祉教育の概念・展開
- 第4回 地域福祉と住民参加
- 第5回 コミュニティソーシャルワークについて
- 第6回 ソーシャルサポートネットワークについて
- 第7回 地域の組織化
- 第8回 社会資源の活用
- 第9回 地域特性の把握について
- 第10回 地域における生活問題、課題の把握について
- 第11回 地域活動への支援体制について
- 第12回 地域における連携・協働とは
- 第13回 小地域における住民活動の実践
- 第14回 住民主体の地域福祉活動について課題と展望
- 第15回 総括および形成テスト

6. 留意事項

社会福祉士に必要な地域福祉推進にかかわる専門的知識や技術、方法に関する内容が中心となるため、その点を十分考慮したうえで、履修登録すること。

講義コード	24528301			
科目名	福祉行政財政と福祉計画			
担当者	井手 巧			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[社]			
前提科目				
テキスト	『新・社会福祉士養成講座10「福祉行政財政と福祉計画」』中央法規出版 最新版			
参考文献				
備考	※平成21年度以後入学者に適用			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

福祉専門職として、広い意味での社会福祉実践をより有効で質の高いものにするためには、単に社会福祉援助のみならず、福祉行政・福祉財政、各種福祉計画全般について、理解しておくことが必要となる。そのため法制度などの基盤を知るとともに、実施主体となる様々な福祉行政機関等が、どのような展開をみせているのか、また、地域でのネットワークや連携の中で、住民が必要としているものは何か等々、福祉計画の実践などを学ぶ中で、福祉専門職の必要性や今後のあり方など理解することをねらいとする。

2. 教育・学習の個別課題

- ・福祉行政の実施主体について、各々の役割や関係及び財源等を学ぶ。
- ・福祉行政機関等の組織、さらにそれらに配置される専門職の役割等について学ぶ。
- ・福祉計画の意義や目的、主体や方法について学ぶ。
- ・福祉行政財政や福祉計画の実践について学ぶ。

3. 教育・学習の方法

授業は、テキストに沿って進めるが、必要なものは随時参考資料等を配布または回覧する。

・準備学習の具体的な方法

授業予定項目は、テキストに十分目を通し予め内容の把握に努めておく、関連する科目で履修済みのものは、積極的に復習しておくことが望ましい。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加状況等の平常点(40点)、形成テスト(60点)により総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 「福祉行政財政と福祉計画」で何を学ぶか?
- 第2回 福祉法制度の展開と福祉計画の概要
- 第3回 福祉行政における国・地方自治体の役割と関係
- 第4回 福祉財政
- 第5回 社会福祉基礎構造改革と相談支援体制
- 第6回 福祉行政機関等と専門職の役割①
- 第7回 福祉行政機関等と専門職の役割②
- 第8回 福祉計画の意義・目的、種類・主体
- 第9回 福祉計画策定の過程・方法
- 第10回 福祉計画の評価方法
- 第11回 福祉計画の実践①高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
- 第12回 福祉計画の実践②障害者計画・障害福祉計画
- 第13回 福祉計画の実践③次世代育成支援計画
- 第14回 福祉計画の実践④住民参加と地域福祉計画
- 第15回 まとめ及び形成テスト

6. 留意事項

講義コード	24528401			
科目名	就労支援			
担当者	佐藤 純・井手 巧			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[社]			
前提科目				
テキスト	『新・社会福祉士養成講座〈18〉就労支援サービス』社会福祉士養成講座編集委員会(編集)中央法規2010			
参考文献				
備考	※平成21年度以後入学者に適用			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「働く」ということは単に収入を得るだけではなく、その人がその人らしく生活するために、重要な要素である。そのような観点から、「障害」者や生活保護受給者などの就労支援を中心に、当事者への相談援助や就労サポートシステムの構築など、社会福祉士に求められる役割について学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

- 1 相談援助活動における自立支援の観点から、各種の就労支援制度の概要について理解する
- 2 就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する
- 3 就労支援分野との連携について理解する

3. 教育・学習の方法

教科書や授業開始時に配付する資料に基づいて講義を行う。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出する。

・準備学習の具体的な方法

授業で指示された事前学習の課題をしてくること。

4. 評価方法・評価基準

定期試験(50点)、授業参加度(50点)で評価を行う。出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。

5. 授業予定

- 第1回 「働く」とは何か
- 第2回 雇用・就労の動向、労働法規の概要
- 第3回 就労支援に係る組織、団体の役割と実際
- 第4回 障害者福祉施策における就労支援制度
- 第5回 障害者雇用施策の概要と専門職の役割
- 第6回 生活保護制度における就労支援制度
- 第7回 生活保護制度に係る専門職の役割
- 第8回 生活保護制度におけるハローワークとの連携

6. 留意事項

講義コード	24528501			
科目名	権利擁護と成年後見制度			
担当者	土井 裕明			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[社]			
前提科目				
テキスト	『わかりやすい成年後見・権利擁護』 村田彰ほか 民法法研究会 2009			
参考文献	※平成21年度以後入学者に適用			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

多重債務、消費者被害、虐待、生活保護など、高齢者・障がい者を取りまく諸問題と、ソーシャルワークに必要とされる基本的な法律知識を学ぶ。成年後見制度と地域福祉権利擁護事業(日常生活自立支援事業)はもちろんであるが、契約、親族、相続、消費者法(悪徳商法対策)などの一般的な法律知識も対象とする。ただし、法律については、日常生活で関わる可能性の高い初歩的なものにとどめ、けっして難解な法律論を展開するものではない。

抽象的な法律学習ではなく、現実の社会でどのような問題が起きており、どのような支援が行われ、また必要とされているか、現場の具体例を多く示しながら、権利擁護支援の全体像を理解する。

2. 教育・学習の個別課題

高齢者・障がい者に発生しがちな諸事件の実態

成年後見制度の概要

地域福祉権利擁護事業(日常生活自立支援事業)の概要

相談援助活動に求められる初歩的な法知識

権利擁護活動の実態

3. 教育・学習の方法

毎回、テキストを使いながら講義を行う。必要に応じて、新聞記事、パンフレットなどの参考資料を配布する。なお、法律の条文については、講義の進行に沿って条文集を用意する予定であるので、六法は持参しなくともよい。

・準備学習の具体的な方法

講義だけでは、詳細まで網羅できないので、講義の前後に、各自でテキストをよく読むことが望ましい。特に、社会福祉士試験を受ける予定の学生は、テキストの熟読は必要である。

4. 評価方法・評価基準

基本的には定期試験の結果をもって評価する。講義内容に関する意見や感想を簡単なレポートとして提出させることがある。

5. 授業予定

- 第1回 序論 本講義の全体像 法律とソーシャルワーク
権利擁護を必要とする人たちが抱える諸問題と法律を活用してできる支援
- 第2回 1 相談援助活動に求められる法知識(1)
憲法、行政手続、行政争訟
- 第3回 1 相談援助活動に求められる法知識(2)
民法財産編
- 第4回 1 相談援助活動に求められる法知識(3)
民法親族相続編
- 第5回 2 成年後見制度の概要(1)
後見、保佐、補助、任意後見の概要
- 第6回 2 成年後見制度の概要(2)
成年後見の実務、成年後見制度の最近の動向
- 第7回 3 成年後見と関わる諸制度
地域福祉権利擁護事業(日常生活自立支援事業)、成年後見制度利用支援事業、その他
- 第8回 4 権利擁護支援の局面と法的制度の活用(1)
認知症高齢者
- 第9回 4 権利擁護支援の局面と法的制度の活用(2)
消費者被害
- 第10回 4 権利擁護支援の局面と法的制度の活用(3)
多重債務
- 第11回 4 権利擁護支援の局面と法的制度の活用(4)
虐待
- 第12回 4 権利擁護支援の局面と法的制度の活用(5)
障がい者への支援
- 第13回 4 権利擁護支援の局面と法的制度の活用(6)
アルコール・薬物依存、ホームレス支援

- 第14回 5 成年後見制度に関わる組織・団体とその役割
第15回 まとめ これからの権利擁護の課題と展望

6. 留意事項

講義コード	24528601			
科目名	更生保護制度			
担当者	山本 智也			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[社]			
前提科目				
テキスト	『更生保護制度』 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2010年			
参考文献	『よくわかる司法福祉』 村尾泰弘・廣井亮一編 2004年 ミネルヴァ書房 『Q&A 少年非行を知るための基礎知識』 村尾泰弘 2008年 明石書店			
備考	7.5コマ ※平成21年度以後入学者に適用			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

成人の犯罪、子どもの非行といった問題に対して、その解決のために裁判所などの刑事司法、少年司法諸機関や更生保護機関が関与している。しかし、こうした課題解決にあたっては、司法的な側面ばかりではなく、福祉的な側面も視野に入れ、関係機関との連携を図っていかねばならないという今日的な状況を見逃すことは出来ない。

また、ソーシャルワーカーとして取り組む相談援助活動の場面においても、更生保護制度を中心とした刑事司法・少年司法制度についての理解は不可欠な状況である。

こうした観点から、司法の枠組みの中で展開される社会福祉的機能や社会福祉的実践について、具体的な問題を中心に学ぶことを通して、更生保護制度について知識を深め、視点を広げることを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

- 1 刑事司法・少年司法制度について理解する。
- 2 更生保護制度の枠組を理解する。
- 3 更生保護制度を支える組織、専門職について理解する。
- 4 関係機関との連携のあり方について理解する。

3. 教育・学習の方法

講義により行う。

本科目は、社会福祉士国家試験科目であり、受験予定者は特に丹念な学習が不可欠である。

・準備学習の具体的な方法

事前にテキストの講義で取り扱う箇所を事前に熟読しておくことが不可欠である。

4. 評価方法・評価基準

レポート(30%)、形成テスト(70%)によって評価を行う。

ただし、レポートの提出がない場合、形成テストの点数如何に関わらず不合格とする。

5. 授業予定

- 第1回 刑事・少年司法制度と更生保護
- 第2回 仮釈放等の制度
- 第3回 保護観察の制度と生活環境の調整
- 第4回 更生保護制度の担い手
- 第5回 緊急更生保護と関係機関・団体との連携
- 第6回 医療観察制度の概要
- 第7回 更生保護における犯罪被害者等施策
- 第8回 形成テストと解説

6. 留意事項

講義コード	24528701			
科目名	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）			
担当者	佐藤 純			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『新・精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）』 日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規			
参考文献	授業中に示す			
備考	平成24年度以後入学者に適用			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

精神保健福祉士の役割、相談援助の定義・理念、精神保健福祉士と他の専門職の概念と範囲、多職種連携などについて学習することで、精神保健福祉士の行う相談援助の基盤となる理念・業務・役割などを習得する。

2. 教育・学習の個別課題

- 1 精神保健福祉士の役割と意義を学ぶ
- 2 精神保健福祉士の相談援助の定義、理念、権利擁護について学ぶ
- 3 精神保健福祉分野における相談援助の体系
- 4 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲と総合的・包括的な援助や多職種連携について学ぶ

3. 教育・学習の方法

教科書に基づいて講義を行う。視覚教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出する。

・準備学習の具体的な方法

理念や理論を中心とした内容であり、当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。

4. 評価方法・評価基準

定期試験（50点）、授業参加度（15点）、レポート点（35点）で評価を行う。出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション 精神保健福祉士の支援とは
- 第2回 精神保健福祉士の役割と意義Ⅰ（意義）
- 第3回 精神保健福祉士の役割と意義Ⅱ（役割）
- 第4回 精神保健福祉士の役割と意義Ⅲ（精神保健福祉士法）
- 第5回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅰ（偏見）
- 第6回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅱ（医療）
- 第7回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅲ（地域生活）
- 第8回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅳ（社会生活）
- 第9回 精神保健福祉分野における相談援助の体系Ⅰ（ソーシャルワーク）
- 第10回 精神保健福祉分野における相談援助の体系Ⅱ（支援技術）
- 第11回 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲Ⅰ（医療職）
- 第12回 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲Ⅱ（その他）
- 第13回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携Ⅰ（包括的な支援）
- 第14回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携Ⅱ（ネットワーク）
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24530001			
科目名	保育原理Ⅰ			
担当者	石井 浩子			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『最新保育講座①保育原理』 森上史朗・小林紀子・若月芳浩 ミネルヴァ書房 2009年 『幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷』 民秋 言編 萌文書林 2008年			
参考文献	『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年 『ここが変わった！NEW 幼稚園教育要領・保育所保育指針 ガイドブック』 無藤 隆・民秋 言 フレーベル館 2008年			
備考	保育士資格取得希望者は履修すること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

現在の子どもを取り巻く環境は、社会の変化に影響を受け、大きく変化している。また、社会の変化により、保育所に求められる役割も多様化している。このような中で、健全な子どもたちの育ちを担うため、保育者として、まず、保育の意義や目的、保育の歴史と現状、保育所保育の原理と内容について理解する。さらに、子どもの発達とその過程に応じた保育の内容について学ぶ。また、乳幼児の生活実態を把握し、保育所保育の計画の基本、さらに、保育士の資質とその役割・任務について習得する。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 子どもを取り巻く環境や保育の現状について理解する。
- (2) 保育の目的、保育実践の内容や方法を学ぶ。
- (3) 子どもの発達や幼児理解、カリキュラムについて理解する。
- (4) 保育者の資質について考察する。

3. 教育・学習の方法

講義形式で、教科書に沿って授業を進める。適宜、プリントやパワーポイントによる資料提示をする。また、ディスカッション、レポート課題、テストを実施する。

・準備学習の具体的な方法

- ・教科書「第12章保育の現状と課題」について読んで把握しておくこと。
- ・また、「保育所保育指針」を事前によんでおくこと。
- ・事前に、また授業後にも教科書と資料を読んで、「保育」の理解に努めること。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業参加度(10%)、課題の提出(20%)、定期試験(70%)に基づいて、総合的に評価する（欠席・遅刻は減点する）。

5. 授業予定

- 第1回 保育の本質
 - (1) 保育の意義とその思想
 - (2) 保育の目標
- 第2回
 - (3) 子どもの発達特性
 - (4) 保育の原理
- 第3回 保育の制度と現状
- 第4回 保育の歴史と現状
 - (1) 西欧における保育施設の誕生と発展
 - (2) 日本における保育施設の誕生と発展
- 第5回 保育所保育の原理
 - (1) 保育の特性
 - (2) 保育の目標
- 第7回
 - (3) 保育の方法
- 第8回
 - (4) 保育の環境
- 第9回 保育所保育の内容
 - (1) 保育の内容構成の基本方針
- 第10回
 - (2) ねらい、内容、領域
- 第11回
 - (3) 遊びと生活
 - (4) 保育形態と保育方法
- 第12回 保育所保育の計画
 - (1) 保育の計画作成上の基本的視点
 - (2) 保育計画と指導計画
 - (3) 保育の計画作成上の留意事項
- 第13回 保育士の資質と任務
 - (1) 資格制度と専門性
 - (2) 子ども、保護者とのかかわり

(3)保育者間の連携
第15回 子どもが抱える問題

6. 留意事項

講義コード	24530101		
科目名	保育原理Ⅱ 保育者論		
担当者	石井 浩子		
単位数	2	配当学年	2
資格	[保]		
前提科目			
テキスト	『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年		
参考文献			
備考	「保育原理Ⅰ」の履修者であること		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

子どもを取り巻く地域社会や家庭のあり方の変化などにより、基本的な生活習慣の欠如やコミュニケーション能力の不足などが指摘されている。そのため、保育所の機能や保育者の役割が期待され、仕事も多様化している。

よって、このような状況に対して、子どもたちへの援助やその保護者、また、地域の子育て中の家庭への支援について、保育者としてできることやすべきことについて考察する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 乳幼児を取り巻く社会の状況や背景、家庭のあり方等について学ぶ。
2. 求められる保育者の専門性を学ぶ。
3. 家庭との連携や子育て支援について学ぶ。

3. 教育・学習の方法

提示した資料や配布資料によって、講義形式ですすめていく。また、演習も行う。

・準備学習の具体的な方法

- ・事前に、「保育所保育指針」と「保育所保育指針解説書」を読んでおくこと。
- ・前回の授業内容について、配布資料などを見るなど、復習をしておくこと。

4. 評価方法・評価基準

1. 成績評価は、出席率や授業参加度(10%)、提出課題(20%)、形成テスト(70%)等によって総合的に判断する。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
保育者について
- 第2回 保育者の一日
- 第3回 保育者に求められるもの
(1)保育者のさまざまな役割
- 第4回 保育者に求められるもの
(2)保育所保育指針からみた保育者の役割
- 第5回 保育者に求められるもの
(3)乳幼児、保護者、同僚、地域の家族からみた保育者の資質
- 第6回 保育者の職務と専門性
- 第7回 子どもの発達と保育①
- 第8回 子どもの発達と保育②
- 第9回 保育の実践と計画
- 第10回 家庭支援
保護者とのさまざまな連携
- 第11回 地域における子育て支援
- 第12回 保育者の自己研鑽と研修について
- 第13回 保育評価と苦情処理について
- 第14回 保育の現状と課題①
- 第15回 保育の現状と課題②

6. 留意事項

保育士資格取得のための必修科目のため、受講するにあたって保育の基本的知識を必要とする(「保育原理Ⅰ」の履修者であること)。

講義コード	24530259		
科目名	養護原理		
担当者	芹澤 出		
単位数	2	配当学年	2
資格	[保]		
前提科目			
テキスト	『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』 新保育士養成講座編纂委員会/編 全国社会福祉協議会		
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

子どもは家庭で養育されることが望ましいが、事情により家庭だけで育てを行うことが出来ない場合があり、家庭を離れて施設で生活をしたり、家庭から通園して養護を受けることがある。本科目では、児童福祉施設の目的と機能を理解し、児童の正常な成長・発達を保証するために必要な知識、技術について学ぶと共に、問題発生の予防的側面や家族の再統合的機能についても学習する。

2. 教育・学習の個別課題

施設養護において、一人ひとりの児童の権利が守られ、その正常な成長・発達を保証し、援助することのできる知識、技術の理解と児童観 施設養護観の醸成を図るとともに、児童福祉施設の運営・管理、児童養護における今後の課題について理解する。

3. 教育・学習の方法

授業は教科書を中心に進めますが、事例やビデオを取り入れて知識を深めるとともに、実感としての理解を大切にします。必要に応じてプリントを配布する。

・準備学習の具体的な方法

児童福祉施設でのボランティアやアルバイト、施設見学などを通して、児童福祉施設についての理解を深める。

4. 評価方法・評価基準

成績評価は出席、学習意欲の有無、小レポート、期末テストにより総合判断する。

5. 授業予定

- 第1回 養護における子ども観①
- 第2回 養護における子ども観②
- 第3回 養護における子ども観③
- 第4回 社会的養護の理念と概念
- 第5回 社会的養護の歴史的変換
- 第6回 児童家庭福祉と社会的養護の関係性
- 第7回 児童の権利養護と社会的養護
- 第8回 社会的養護の制度と法体系
- 第9回 社会的養護の仕組みと実施体制
- 第10回 社会的養護と施設養護
- 第11回 社会的養護の専門職
- 第12回 施設養護の実践
- 第13回 施設養護とソーシャルワーク
- 第14回 社会的養護の課題と展望
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

授業中に意見を求めたり、考えを整理して発表してもらう事があります。積極的に授業に参加する姿勢で受講して下さい。

講義コード	24530301		
科目名	教育学		
担当者	山本 智也		
単位数	2	配当学年	1
資格	[教][保]		
前提科目			
テキスト	『学生のための教育学』 西川信廣・長瀬美子編 ナカニシヤ出版 2010		
参考文献	『臨床教育学入門』 河合隼雄 岩波書店 1995 『講義中に適宜紹介する』		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

本科目は、教育の概念、思想、歴史、制度、内容、方法等について、子どもの福祉との関連を明らかにしつつ、基礎的、体系的な理解を深め、人間にとって教育とは何かを考えることを目標とする。

しかし、様々な子どもや家族をめぐる諸問題に当面している現在、教育の意義を単に知識としてのみとらえるのでは不十分である。そうした前提に立ち、本講義では、こうした問題行動に直面した子どもに関わる援助者、保護者、家族たちが教育をめぐる現実の問題にどのようにとらえ、どのように課題に取り組んでいくのかという現実を原点とした営みとして教育をとらえる臨床教育学の視点を重視していきたい。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 子どもの現状を踏まえ、子どもの福祉との関連を明らかにしつつ、教育の意味を考える。
- (2) 教育思想や教育制度の歴史的展開をとらえ、教育の基礎的概念と諸理論の今日的意義を考える。
- (3) 発達段階を踏まえ、教育の内容・方法を考える。
- (4) 生涯学習としての社会教育、家庭教育の現状と今後の方向性を考える。
- (5) 教育を担う者の人材育成のあり方を考える。

3. 教育・学習の方法

現実的教育問題について具体的に事例を挙げながら取り上げ、受講生との対話的な関わりを重視し、受講生が能動的に参加する授業にしたい。

そのために、受講生は各回取り上げるテーマに関するレポートを講義前に作成した上で出席することを義務づける。なお、レポートを持参せずに出席することや授業中のレポート作成は一切認めない。

・準備学習の具体的な方法

各回提出するレポートについては、インターネット上の情報だけではなく、文献にあたることを強く推奨する。

その上で、調べた内容と共に、自らの教育観を明確化するプロセスもレポートに含めたものであることを求める。

4. 評価方法・評価基準

評価は、レポート(40%)及び形成テスト(60%)をもとに行う。

5. 授業予定

- 第1回 人間形成と教育—臨床教育学の視点—
- 第2回 子どもの問題行動と生徒指導
- 第3回 教育課程の変遷と子どもの学力
- 第4回 格差社会と教育—子どもの福祉と教育—
- 第5回 教育思想の歴史と展開 1
- 第6回 教育思想の歴史と展開 2
- 第7回 教育方法論の歴史的展開
- 第8回 教育制度と教育法規
- 第9回 就学前教育と展望
- 第10回 学級・学校経営の機能と構造
- 第11回 新しい学校の理念と実践
- 第12回 教員養成制度の歴史と展開
- 第13回 生涯学習社会と教育
- 第14回 形成テストによる到達度の把握
- 第15回 教育評価 全体のまとめ

6. 留意事項

講義コード	24530659			
科目名	小児保健 I 子どもの健やかな発達・発育を目指して			
担当者	萩原 暢子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[保][子]			
前提科目				
テキスト	『子どもの保健—理論と実際—』 岸井勇雄ほか 同文書院 2011			
参考文献	『新・小児保健』 今村栄一ほか 診断と治療社 2010			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

生命の保持と情緒の安定を図る保育において、子どもの健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を理解する。また、子どもの発育・発達を把握し、発育の中心となる食生活や栄養の意義を学習する。また、心の発達にも注目し、精神発達の過程を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 子どもの保健の基本について理解する

2. 子どもの身体発育・精神発達を理解する
3. 子どもの生理・運動機能を理解する
4. 子どもの食生活や栄養について理解する
5. 子どもの生活について理解する

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法

講義形式

2. 学習方法

- (1) テキストに沿って行う、プリントで内容補充
- (2) パワーポイント、DVD を用い、頭の中にイメージを作っていく。
- (3) 授業の始めに設問を与え、授業中に解答する。授業終了時回収し、次回返却。

(4) 授業の終わりに理解度と質問事項の調査を行い、次回の講義で解説する。 3. テキスト・参考文献

- (1) テキストは「子どもの保健」(同文書院)
- (2) 参考文献 新・小児保健(診断と治療社)

・準備学習の具体的な方法

1. テキストの次回講義範囲をしっかりと読んでおくこと。
2. 分からないところは、直接尋ねるかあるいはFD用紙を使ってかならず解決しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

1. 評価は、FD用紙への記入(10%)、授業参加度(10%)、定期試験(80%)の総合評価とする。

2. 3分の2以上の出席がないものは、成績を評価しない。

5. 授業予定

- 第1回 第1章 子どもと保健
- 第2回 第2章 子どもの成長と発達 I
- 第3回 第2章 子どもの成長と発達 II
- 第4回 第3章 子どもの精神保健 I
- 第5回 第3章 子どもの精神保健 II
- 第6回 第4章 子どもの生活と保健 I
- 第7回 第4章 子どもの生活と保健 II
- 第8回 第4章 子どもの生活と保健 III
- 第9回 第5章 子どもの食 I
- 第10回 第5章 子どもの食 II
- 第11回 第5章 子どもの食 III
- 第12回 第6章 保育現場での保健の実際 I
- 第13回 第6章 保育現場での保健の実際 II、まとめ
- 第14回 形成テスト
- 第15回 形成テストの解説と評価

6. 留意事項

講義コード	24530759			
科目名	小児保健 II 子どもの病気や異常事態への対応			
担当者	萩原 暢子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[保][子]			
前提科目				
テキスト	『子どもの保健—理論と実際—』 岸井勇雄ほか 同文書院 2011			
参考文献	『子どもは素晴らしい』 金原出版 『新・小児保健』 今村栄一 診断と治療社 2010 『子どもの保健』 渡辺 博 中山書店 2012			
備考	「小児保健 I」の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

子どもの病気の特徴を理解し、特に感染症と予防接種について詳しく述べる。また、事故と安全対策については、その実態を学ぶとともに、救急処置を含む対処法および、事故を未然に防ぐ方策について述べる。さらに、保育所と家庭との連携を通じた保健の重要性を理解させ、母子保健の実際を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 子どもの病気の特徴、特に感染症と予防接種について
2. 事故と応急処置について
3. 母子保健の現状

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法

講義形式

2. 学習方法

- (1) テキストに沿って行う、プリントで内容補充
- (2) パワーポイント、DVD を使い、頭の中にイメージを作っていく。
- (3) 授業の始めに設問を与え、授業中に解答する。授業終了時回収し、次回返却。
- (4) 授業の終わりに理解度と質問事項の調査を行い、次回の講義で解説する。

3. テキスト・参考文献

- (1) テキスト 子どもの保健 (同文書院)
- (2) 参考文献 新・小児保健 (診断と治療社)
子どもは素晴らしい (金原出版)

・準備学習の具体的な方法

1. テキストの次回講義範囲をしっかりと読んでおくこと。
2. 分からないところは、直接質問するか、あるいはFD用紙を使ってかならず解決しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

1. 評価は、授業参加度 (10%)、定期試験 (90%) の総合評価とする。
2. 3分の2以上の出席がないものは、成績を評価しない。

5. 授業予定

- | | | |
|------|------|--|
| 第1回 | 第7章 | 子どもの病気と保育I |
| 第2回 | 第7章 | 子どもの病気と保育II |
| 第3回 | 第7章 | 子どもの病気と保育III (アレルギー) |
| 第4回 | 第7章 | 子どもの病気と保育IV (感染症 総論と各論) |
| 第5回 | 第7章 | 子どもの病気と保育V (感染症 各論) |
| 第6回 | 第7章 | 子どもの病気と保育VI (予防接種) |
| 第7回 | 第7章 | 子どもの病気と保育VII (食中毒、循環器、血液、腎臓の病気) |
| 第8回 | 第7章 | 子どもの病気と保育VIII (消化器、へそ、皮膚の病気) |
| 第9回 | 第7章 | 子どもの病気と保育IX (代謝、内分泌、神経疾患、障害のある子どもたち) (不登校) |
| 第10回 | 第8章 | 救急処置について |
| 第11回 | 第9章 | 保育所と家庭の連携 |
| 第12回 | 第10章 | 母と子どもの保健I |
| 第13回 | 第10章 | 母と子どもの保健II III (児童虐待について) |
| 第14回 | | 形成テスト |
| 第15回 | | 形成テストの解説と評価 |

6. 留意事項

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度(10%)、授業態度(10%)、確認テスト(10%)、期末テスト(70%)により総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 食べることの基本的な理解
- 第2回 食行動に関わる要因
- 第3回 子どもたちの食の背景
- 第4回 子どもたちの食の姿
- 第5回 食べる機能の発達と食行動 (1)
- 第6回 食べる機能の発達と食行動 (2)
- 第7回 栄養の基礎知識 (1)
- 第8回 栄養の基礎知識 (2)
- 第9回 乳児期の特徴と食事 (1)
- 第10回 乳児期の特徴と食事 (2)
- 第11回 幼児期の特徴と食事 (1)
- 第12回 幼児期の特徴と食事 (2)
- 第13回 障害児の特徴と食事
- 第14回 楽しい食事の演出とその実際
- 第15回 栄養バランスをどのように教えるか

6. 留意事項

講義コード	24530958			
科目名	小児栄養P			
担当者	木戸 康博			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト	『よくわかる小児栄養』 大谷貴美子編集 ミネルヴァ書房			
参考文献				
備考	特別選択科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24530901			
科目名	小児栄養Z			
担当者	木戸 康博			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『よくわかる小児栄養』 大谷貴美子編集 ミネルヴァ書房			
参考文献				
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

小児期の栄養と食生活が生涯にわたる健康と生活の基礎であること、保育における食生活が心の健康にも影響することを、栄養に関する基礎的な知識に関する内容も取り上げながら理解させる。また、保育との関連のなかで、小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義、小児に適切な食事が提供できることの意義を理解させる。さらに、食生活と家族・地域との関連性、生活全般や環境の望ましい姿を理解させる。

2. 教育・学習の個別課題

1. 栄養と食生活が生涯にわたる健康と生活の基礎であることを理解する。
2. 保育における食生活が心の健康にも影響することを理解する。
3. 小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を理解する。
4. 小児に適切な食事が提供できることの意義を理解する。
5. 食生活と家族・地域との関連性、生活全般や環境の望ましい姿を理解する。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法：講義形式を主とし、適宜演習を取り入れる。
2. 学習方法：毎回確認テストを実施するとともに、講義の要点、質問事項を記入させ、次回に解説する。
3. テキスト：大谷貴美子編「よくわかる小児栄養」(ミネルヴァ書房)

・準備学習の具体的な方法

1. 科目の教育目標

小児期の栄養と食生活が生涯にわたる健康と生活の基礎であること、保育における食生活が心の健康にも影響することを、栄養に関する基礎的な知識に関する内容も取り上げながら理解させる。また、保育との関連のなかで、小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義、小児に適切な食事が提供できることの意義を理解させる。さらに、食生活と家族・地域との関連性、生活全般や環境の望ましい姿を理解させる。

2. 教育・学習の個別課題

1. 栄養と食生活が生涯にわたる健康と生活の基礎であることを理解する。
2. 保育における食生活が心の健康にも影響することを理解する。
3. 小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を理解する。
4. 小児に適切な食事が提供できることの意義を理解する。
5. 食生活と家族・地域との関連性、生活全般や環境の望ましい姿を理解する。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法：講義形式を主とし、適宜演習を取り入れる。
2. 学習方法：毎回確認テストを実施するとともに、講義の要点、質問事項を記入させ、次回に解説する。
3. テキスト：大谷貴美子編「よくわかる小児栄養」(ミネルヴァ書房)

・準備学習の具体的な方法

4. 評価方法・評価基準

授業参加度(10%)、授業態度(10%)、確認テスト(10%)、期末テスト(70%)により総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 食べることの基本的な理解
- 第2回 食行動に関わる要因
- 第3回 子どもたちの食の背景
- 第4回 子どもたちの食の姿
- 第5回 食べる機能の発達と食行動 (1)
- 第6回 食べる機能の発達と食行動 (2)
- 第7回 栄養の基礎知識 (1)
- 第8回 栄養の基礎知識 (2)
- 第9回 乳児期の特徴と食事 (1)
- 第10回 乳児期の特徴と食事 (2)
- 第11回 幼児期の特徴と食事 (1)

- 第12回 幼児期の特徴と食事 (2)
 第13回 障害児の特徴と食事
 第14回 楽しい食事の演出と実際
 第15回 栄養バランスをどのように教えるか

6. 留意事項

講義コード	24531058		
科目名	保育内容 I P		
担当者	石井 浩子		
単位数	1	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年		
参考文献	『幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷』 民秋 言編 萌文書林 2008年 『乳幼児の健康第2版』 前橋明編著・石井浩子・岩城淳子・佐野裕子・宗高弘子・星 永・松尾瑞穂 大学教育出版 2010年		
備考	半年の半分 特別選択科目		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

保育内容とは、保育所において保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味するものであることを理解する。ここでは、5領域のうち、「健康」について学ぶとともに、他領域との関連を踏まえながら総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。

また、乳幼児の心身の発達を理解して適切な援助ができるように、保育者はどのような役割を果たし援助していけばよいのかを考える。

2. 教育・学習の個別課題

- (1)子どもの心身の成長・発達について理解する。
- (2)基本的生活習慣について理解し、その援助について考える。
- (3)領域「健康」のねらい及び内容を理解する。

3. 教育・学習の方法

講義形式で教科書を使って進めていくが、適宜演習を取り入れる。適宜、資料配布やパワーポイントによる資料提示で講義を進める。

・準備学習の具体的な方法

- ・保育所保育指針や保育所保育指針解説書を事前に読んでおくこと。
- ・授業終了後には、配布資料などを見て復習をすること。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業参加度(10%)、課題提出(20%)、確認テスト(70%)に基づいて、総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 保育内容「健康」の意義
- 第2回 乳幼児の心身の発達
運動発達について
- 第3回 あそびを通じた指導
- 第4回 運動遊びの指導
指導計画と評価
- 第5回 基本的生活習慣とその指導
- 第6回 食生活と食育
- 第7回 安全環境と安全教育
- 第8回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24531059		
科目名	保育内容 I Z		
担当者	石井 浩子		
単位数	1	配当学年	2
資格	[保]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷』 民秋 言編 萌文書林 2008年 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年 『乳幼児の健康第2版』 前橋明編著・石井浩子・岩城淳子・佐野裕子・宗高弘子・星 永・松尾瑞穂 大学教育出版 2010年		
備考	保育士養成課程専用クラス 半年の半分		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

保育内容とは、保育所において保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味するものであることを理解する。ここでは、5領域のうち、「健康」について学ぶとともに、他領域との関連を踏まえながら総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。

また、乳幼児の心身の発達を理解して適切な援助ができるように、保育者はどのような役割を果たし援助していけばよいのかを考える。

2. 教育・学習の個別課題

- (1)子どもの心身の成長・発達について理解する。
- (2)基本的生活習慣について理解し、その援助について考える。
- (3)領域「健康」のねらい及び内容を理解する。

3. 教育・学習の方法

講義形式で教科書を使って進めていくが、適宜演習を取り入れる。適宜、資料配布やパワーポイントによる資料提示で講義を進める。

・準備学習の具体的な方法

- ・保育所保育指針や保育所保育指針解説書を事前に読んでおくこと。
- ・授業終了後には、配布資料などを見て復習をすること。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業参加度(10%)、課題提出(20%)、確認テスト(70%)に基づいて、総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 保育内容「健康」の意義
- 第2回 乳幼児の心身の発達
運動発達について
- 第3回 あそびを通じた指導
- 第4回 運動遊びの指導
指導計画と評価
- 第5回 基本的生活習慣とその指導
- 第6回 食生活と食育
- 第7回 安全環境と安全教育
- 第8回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24531158			
科目名	保育内容ⅡP			
担当者	鵜飼 真理子			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷』 民秋 言 萌文書林 2008年 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年			
参考文献	『最新保育講座9保育内容「環境」』 柴崎正行、若月芳浩 ミネルヴァ書房 『保育講座11保育内容「表現」』 平田智久、小林紀子、砂上史子 ミネルヴァ書房			
備考	特別選択科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

保育所において、保育の目標を達成するために展開されている保育内容の「表現」「環境」の領域について学ぶ。また、他の領域を含め、総合的にとらえる視点を養う。保育の全体構造の理解に基づき、保育課程に即した乳幼児の発達を理解し、総合的に援助や指導が行えるような実践的な力を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 保育所における乳幼児の発達の理解とふさわしい環境について理解を深める
- (2) 保育所における安全危機、衛生危機について、必要な知識を習得する。
- (3) 保育者として感性を磨き、乳幼児の表現への必要な援助を学ぶ。
- (4) 保育者の役割・援助について理解を深める

3. 教育・学習の方法

講義形式と演習形式で行う。
適宜、プリント等資料を配布する。

・準備学習の具体的な方法

- ・保育所保育指針を読む。
- ・乳幼児に関する新聞等の切り抜きや実習の振り返りを行う。

4. 評価方法・評価基準

- ・授業参加度・授業態度(10%)、提出物(20%)、確認テスト(70%)に基づいて、総合的に評価する。
- ・欠席回数が1/3を超えた場合は、原則として単位を与えない

5. 授業予定

- 第1回 保育内容とは何か。
領域の確認
- 第2回 保育における「環境」とは
- 第3回 3歳未満児の「環境」を考える
- 第4回 3歳以上児の「環境」を考える
- 第5回 「環境」と「表現」との総合的な視点
- 第6回 3歳未満児の発達と「表現」
- 第7回 3歳以上児の発達と「表現」
- 第8回 環境と表現活動
- 第9回 子どもの遊びと心の育ち①
- 第10回 子どもの遊びと心の育ち②
- 第11回 子どもの遊びと心の育ち③
- 第12回 保育計画「環境」
- 第13回 保育計画「表現」
- 第14回 確認テスト
- 第15回 答え合わせ・まとめ

6. 留意事項

講義コード	24531159			
科目名	保育内容ⅡZ			
担当者	鵜飼 真理子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷』 民秋 言 萌文書林 2008年 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年 保育士養成課程で共通のテキストです。			
参考文献	『最新保育講座9保育内容「環境」』 柴崎正行、若月芳浩 ミネルヴァ書房 『保育講座11保育内容「表現」』 平田智久、小林紀子、砂上史子 ミネルヴァ書房			
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

保育所において、保育の目標を達成するために展開されている保育内容の「表現」「環境」の領域について学ぶ。また、他の領域を含め、総合的にとらえる視点を養う。保育の全体構造の理解に基づき、保育課程に即した乳幼児の発達を理解し、総合的に援助や指導が行えるような実践的な力を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 保育所における乳幼児の発達の理解とふさわしい環境について理解を深める
- (2) 保育所における安全危機、衛生危機について、必要な知識を習得する。
- (3) 保育者として感性を磨き、乳幼児の表現への必要な援助を学ぶ。
- (4) 保育者の役割・援助について理解を深める

3. 教育・学習の方法

講義形式と演習形式で行う。
適宜、プリント等資料を配布する。

・準備学習の具体的な方法

- ・保育所保育指針を読む。
- ・乳幼児に関する新聞等の切り抜きや実習の振り返りを行う。

4. 評価方法・評価基準

- ・授業参加度・授業態度(10%)、提出物(20%)、確認テスト(70%)に基づいて、総合的に評価する。
- ・欠席回数が1/3を超えた場合は、原則として単位を与えない

5. 授業予定

- 第1回 保育内容とは何か。
領域の確認
- 第2回 保育における「環境」とは
- 第3回 3歳未満児の「環境」を考える
- 第4回 3歳以上児の「環境」を考える
- 第5回 「環境」と「表現」との総合的な視点
- 第6回 3歳未満児の発達と「表現」
- 第7回 3歳以上児の発達と「表現」
- 第8回 環境と表現活動
- 第9回 子どもの遊びと心の育ち①
- 第10回 子どもの遊びと心の育ち②
- 第11回 子どもの遊びと心の育ち③
- 第12回 保育計画「環境」
- 第13回 保育計画「表現」
- 第14回 確認テスト
- 第15回 答え合わせ・まとめ

6. 留意事項

講義コード	24531258			
科目名	保育内容ⅢP			
担当者	畠山 寛			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『保育所保育指針』 『保育内容 人間関係』 濱名 浩 編 みらい 2009 『保育内容 ことば〔第2版〕』 成田徹男 編 みらい 2010			
参考文献				
備考	特別選択科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この科目では、保育所において保育の目標のために展開される保育内容の「人間関係」及び「言葉」について理解する。それぞれの領域について学ぶとともに、他の領域を含めた保育を総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもも理解や保育の方法について理解する。さらに、発達過程に即して子どもも理解すること、総合的に指導・援助が行えるよう実践的な力を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 保育内容「人間関係」の内容・方法と課題、2. 保育内容「言葉」の内容・方法と課題、3. 保育内容と子どもの発達

3. 教育・学習の方法

講義形式と演習形式で行う

・準備学習の具体的な方法

各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

4. 評価方法・評価基準

1. 欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。
2. 成績は授業時の課題（30%）、提出物（70%）で総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 保育内容とは何か？
- 第2回 人間関係の歴史の変遷
- 第3回 子どもの発達と人間関係①
- 第4回 子どもの発達と人間関係②
- 第5回 人間関係における子どもの活動と保育環境と援助
- 第6回 人間関係と保育計画
- 第7回 人間関係の課題
- 第8回 言葉の歴史の変遷
- 第9回 子どもの発達と言葉①
- 第10回 子どもの発達と言葉②
- 第11回 言葉における子どもの活動と保育環境と援助
- 第12回 言葉と保育計画
- 第13回 言葉の課題
- 第14回 保育内容人間関係及び言葉のまとめ①
- 第15回 保育内容人間関係及び言葉のまとめ②

6. 留意事項

講義コード	24531259			
科目名	保育内容ⅢZ			
担当者	畠山 寛			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『保育所保育指針』 『保育内容 人間関係』 濱名 浩 編 みらい 2009 『保育内容 ことば〔第2版〕』 成田徹男 編 みらい 2010			
参考文献				
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この科目では、保育所において保育の目標を達成するために展開される保育内容の「人間関係」、及び「言葉」について理解する。それぞれの領域について学ぶとともに、他の領域を含めた保育を総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について理解する。さらに、発達過程に即して子どもも理解すること、総合的に指導・援助が行えるよう実践的な力を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 保育内容「人間関係」の内容・方法と課題 2. 保育内容「言葉」の内容・方法と課題 3. 保育内容と子どもの発達

3. 教育・学習の方法

講義形式と演習形式で行う。

・準備学習の具体的な方法

各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

4. 評価方法・評価基準

1. 欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。
2. 成績は、授業時の課題（30%）、提出物（70%）で総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 保育内容とは何か？「人間関係」と「言葉」について
- 第2回 「人間関係」の歴史の変遷
- 第3回 子どもの発達と「人間関係」①
- 第4回 子どもの発達と「人間関係」②
- 第5回 「人間関係」における子どもの活動と保育環境と援助
- 第6回 「人間関係」と保育計画
- 第7回 「人間関係」の課題
- 第8回 「人間関係」のまとめ
- 第9回 「言葉」の歴史の変遷
- 第10回 子どもの発達と「言葉」①
- 第11回 子どもの発達と「言葉」②
- 第12回 「言葉」における子どもの活動と保育環境と援助
- 第13回 「言葉」と保育計画
- 第14回 「言葉」の課題
- 第15回 「言葉」のまとめ

6. 留意事項

講義コード	24531301			
科目名	乳児保育Z			
担当者	石井 浩子			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『見る・考える・創りだす乳児保育』 CHS 子育て文化研究所編 萌文書林 2009年			
参考文献	『新版 資料でわかる乳児の保育新時代』 乳児保育研究会編 ひとなる書房 2010年			
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

わが国における乳児保育の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を確認しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚する。保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育士として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。広く乳児期（3歳未満児）の発達と保育について学びながら、そこに関わる大人の役割について、事例をもとに具体的に理解する。乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題を討議しながら考え、問題解決の方法を理解する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 乳幼児保育を取り巻く様々な問題について学ぶ。
2. 乳幼児の発達の理解とともに、その保育環境や実際の援助について学ぶ。
3. 保育所と家庭や他機関・地域との連携について考察する。

3. 教育・学習の方法

講義形式で授業を進めるが、適宜演習を取り入れる。教科書と資料の内容に沿って進め、適宜ビデオ視聴により具体的内容を確認しながら学ぶ。

・準備学習の具体的な方法

事前に指定教科書の「乳幼児期の心身の発達」を読んで、おおまかな子どもの発達について理解しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業参加度(10%)、課題提出(15%)、資料整理(5%)、確認テスト(70%)に基づいて、総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 乳児保育の意義
 (1)乳児・乳児保育の概念
 (2)保育ニーズと乳児保育の考え方の基本
- 第2回 乳児保育の発展の経緯と現状
 (1)乳児に対する保育感の変遷
 (2)乳児保育の一般化への過程
- 第3回 (3)保育所・乳児院の役割と乳児保育の位置づけ
- 第4回 乳児の発達と保育
 (1)0歳児の発達と保育(新生時期、0歳児前期、0歳児後期)
- 第5回 (2)1才児の発達と保育
- 第6回 (3)2歳児の発達と保育
- 第7回 (4)乳児の発達と保育(援助の基本的視点の獲得)
- 第8回 乳児の保育
 (1)乳児保育の計画(保育課程、指導計画)
- 第9回 (2)保育形態と保育の環境構成
- 第10回 (3)職員の協力体制
- 第11回 (4)家庭・他機関・地域との連携
- 第12回 保育の計画と記録・評価
 (1)記録・評価
- 第13回 (2)保育者の専門性
- 第14回 今後の課題
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24531358		
科目名	乳児保育P		
担当者	石井 浩子		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト	『見る・考える・創りだす乳児保育』 CHS 子育て文化研究所編 萌文書林 2009年		
参考文献	『新版 資料でわかる乳児の保育新時代』 乳児保育研究会編 ひとなる書房 2010年		
備考	特別選択科目		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

わが国における乳児保育の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を確認しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚する。

保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育者として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。広く乳児期(3歳未満児)の発達と保育について学びながら、そこに関わる大人の役割について、事例をもとに具体的に理解する。

乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題を討議しながら考え、問題解決の方法を理解する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 乳幼児保育を取り巻く様々な問題について学ぶ。
2. 乳幼児の発達の理解とともに、その保育環境や実際の援助について学ぶ。
3. 保育所と家庭や他機関・地域との連携について考察する。

3. 教育・学習の方法

講義形式で授業を進めるが、適宜演習を取り入れる。教科書と資料の内容に沿って進め、適宜ビデオ視聴により具体的内容を確認しながら学ぶ。

・準備学習の具体的な方法

事前に指定教科書の「乳幼児期の心身の発達」を読んで、おおまかな子どもの発達について理解しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業参加度(10%)、課題提出(15%)、資料整理(5%)、確認テスト(70%)に基づいて、総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 乳児保育の意義
 (1)乳児・乳児保育の概念
 (2)保育ニーズと乳児保育の考え方の基本
- 第2回 乳児保育の発展の経緯と現状
 (1)乳児に対する保育感の変遷
 (2)乳児保育の一般化への過程
- 第3回 (3)保育所・乳児院の役割と乳児保育の位置づけ
- 第4回 乳児の発達と保育

- (1)0歳児の発達と保育(新生時期、0歳児前期、0歳児後期)
- 第5回 (2)1才児の発達と保育
- 第6回 (3)2歳児の発達と保育
- 第7回 (4)乳児の発達と保育(援助の基本的視点の獲得)
- 第8回 乳児の保育
 (1)乳児保育の計画(保育課程、指導計画)
- 第9回 (2)保育形態と保育の環境構成
- 第10回 (3)職員の協力体制
- 第11回 (4)家庭・他機関・地域との連携
- 第12回 保育の計画と記録・評価
 (1)記録・評価
- 第13回 (2)保育者の専門性
- 第14回 今後の課題
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24531401		
科目名	障害児保育乙		
担当者	畠山 寛		
単位数	2	配当学年	34
資格	[保]		
前提科目			
テキスト	『新・障害のある子どもの保育 [第2版]』 伊藤健次編 みらい 2011		
参考文献			
備考	保育士養成課程専用クラス		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

障害児保育の理念や多様な障害について理解するとともに、障害を持つ子どものニーズに基づいた保育の方法等について学ぶ。また、家族への支援や関係機関、地域との連携のありかたについても学ぶことを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 障害児保育の理念の理解
2. 保育の現状や専門機関との連携の理解
3. 個別の障害理解と保育支援の理解
4. 家庭に対する支援の理解

3. 教育・学習の方法

1. 講義と演習の両方を用いる。
2. 適宜、プリント等を配布する。
3. 必要に応じて視聴覚教材の利用を行う。

・準備学習の具体的な方法

各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

4. 評価方法・評価基準

1. 欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。
2. 成績は授業時間内に実施する確認テスト(50%)、提出物(50%)で総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 障害児保育とは？－障害児保育の理念－
- 第2回 障害児保育の歴史と現状①
- 第3回 障害児保育の歴史と現状②
- 第4回 障害の理解と保育：知的障害
- 第5回 障害の理解と保育：自閉症
- 第6回 障害の理解と保育：ADHD・LD
- 第7回 障害の理解と保育：視覚障害
- 第8回 障害の理解と保育：聴覚障害
- 第9回 障害の理解と保育：肢体不自由
- 第10回 障害の理解と保育：言語障害
- 第11回 障害児の家族への支援①
- 第12回 障害児の家族への支援②
- 第13回 専門機関や地域との連携①
- 第14回 専門機関や地域との連携②
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24531458			
科目名	障害児保育P			
担当者	畠山 寛			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト	『新・障害のある子どもの保育 [第2版]』 伊藤健次編 みらい 2011			
参考文献				
備考	特別選択科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

障害児保育の理念や多様な障害について理解するとともに、障害を持つ子どものニーズに基づいた保育の方法等について学ぶ。また、家族への支援や関係機関、地域との連携のありかたについても学ぶことを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 障害児保育の理念の理解
2. 保育の現状や専門機関との連携の理解
3. 個別の障害理解と保育支援の理解
4. 家庭に対する支援の理解

3. 教育・学習の方法

1. 講義と演習の両方を用いる。
2. 適宜、プリント等を配布する。
3. 必要に応じて視聴覚教材の利用を行う。

・準備学習の具体的な方法

各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

4. 評価方法・評価基準

1. 欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。
2. 成績は授業時間内に実施する確認テスト(50%)、提出物(50%)で総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 障害児保育とは？－障害児保育の理念－
- 第2回 障害児保育の歴史と現状①
- 第3回 障害児保育の歴史と現状②
- 第4回 障害の理解と保育：知的障害
- 第5回 障害の理解と保育：自閉症
- 第6回 障害の理解と保育：ADHD・LD
- 第7回 障害の理解と保育：視覚障害
- 第8回 障害の理解と保育：聴覚障害
- 第9回 障害の理解と保育：肢体不自由
- 第10回 障害の理解と保育：言語障害
- 第11回 障害児の家族への支援①
- 第12回 障害児の家族への支援②
- 第13回 専門機関や地域との連携①
- 第14回 専門機関や地域との連携②
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24531501			
科目名	養護内容Z			
担当者	石塚 かおる			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	子どもの福祉と養護内容 著者 浅倉恵一・峰島厚 出版社ミネルヴァ書房			
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

児童養護施設の子どもたちの現状・支援を通して、子どもの最善の利益・子どもの権利擁護について、一緒に考えたいと思います。

2. 教育・学習の個別課題

児童福祉施設の現状 子どもの生活と支援 虐待への支援 ソーシャルワーク 自己決定支援 権利擁護

3. 教育・学習の方法

基本的に、事例を中心にした講義形式です。1, 2回ディスカッションの時間をとることがあるかもしれません。毎回の講義後、用紙を配り、短い感想・質問等を書いてもらいます。その内容を、次の講義時に反映します。

・準備学習の具体的な方法

各回授業のテーマに関し、保育実習1-2(施設実習)で自らの経験を振り返りながら、準備学習をすすめましょう。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席・授業参加度50%

毎回の講義後の感想・質問カードに記載された内容を通しての理解度50%

5. 授業予定

- 第1回 児童養護施設とは
- 第2回 居住型福祉施設利用者現状と課題
- 第3回 居住型福祉施設における援助の理念
- 第4回 児童養護施設の現状と課題－虐待児のケアをめぐる－
- 第5回 居住型福祉施設における日常生活援助1－その重要性－
- 第6回 居住型福祉施設における日常生活援助2－子どもの力・集団の力－
- 第7回 居住型福祉施設における日常生活援助3－生活づくり・集団づくり－
- 第8回 居住型福祉施設における日常生活援助4－食生活をめぐって－
- 第9回 児童福祉施設における援助者のあり方1－『普通』でいること－
- 第10回 児童福祉施設における援助者のあり方2－子どもとの距離感－
- 第11回 児童福祉施設における日常業務の現状と課題
- 第12回 児童福祉施設におけるアフターケアのあり方
- 第13回 児童福祉施設における権利擁護と具体的な援助のあり方－子どもとの向き合い方・親との向き合い方を中心に－
- 第14回 児童福祉施設における援助計画－支援計画立案をめぐる－
- 第15回 養護内容

6. 留意事項

養護内容を考える上での今後の課題

講義コード	24531502			
科目名	養護内容P			
担当者	山本 智也			
単位数	1	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト	『よくわかる社会的養護内容』 小木曾 宏ほか編 ミネルヴァ書房 2012			
参考文献				
備考	特別選択科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。

2. 施設養護及び他の社会的養護の実践について学ぶ。

3. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。

4. 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解する。

5. 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。

2. 教育・学習の個別課題

児童福祉施設の現状 子どもの生活と支援 虐待への支援 ソーシャルワーク 自己決定支援 権利擁護

3. 教育・学習の方法

受講生による発表及び前授業で取り上げた内容についての小テストを原則として毎回実施する。

・準備学習の具体的な方法

発表準備のための予習、前授業で取り上げた内容についての小テストのための復習が必須である。

4. 評価方法・評価基準

小テスト(40%)及び期末テスト(60%)により総合判断する。

5. 授業予定

- 第1回 社会的養護の実施体系 1
- 第2回 社会的養護の実施体系 2
- 第3回 社会的養護の実施体系 3
- 第4回 支援の計画と内容および事例分析 1
- 第5回 支援の計画と内容および事例分析 2
- 第6回 支援の計画と内容および事例分析 3

- 第7回 支援の計画と内容および事例分析 4
- 第8回 社会的養護に関わる専門的技術 1
- 第9回 社会的養護に関わる専門的技術 2
- 第10回 社会的養護の課題と展望 1
- 第11回 社会的養護の課題と展望 2
- 第12回 社会的養護の課題と展望 3
- 第13回 子どもの権利擁護と保育士等の倫理および責務 1
- 第14回 子どもの権利擁護と保育士等の倫理および責務 2
- 第15回 近年の子ども家庭福祉の動向

6. 留意事項

講義コード	24531657			
科目名	基礎技能音楽 I P			
担当者	小林 多津子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	オリエンテーション時に指示する			
参考文献				
備考	特別選択科目			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

音楽が子どもの成長発達において重要な役割を担うということをベースにして、保育の中で扱う歌唱教材を取り入れながら、歌唱の基本的な知識・技能を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

- ・子どもと音楽について理解する。
- ・歌唱（発声）の技法を習得する。
- ・音楽する楽しさや喜びを自ら体験する。
- ・グループ活動を通して、音楽づくりをする。
- ・楽譜を見て歌えるようにする。

3. 教育・学習の方法

講義や実技演習を織り込みながら進める。
歌唱を中心として授業である。
保育現場の実践的な活動を想定して、模擬保育なども行う。

・準備学習の具体的な方法

実技を伴うものなので、自ら積極的に課題に取り組むことが必要である。
進捗は個人差が出てくるので、基本課題（オリエンテーション時に伝える）は必ずクリアすること

4. 評価方法・評価基準

出席・授業参加度（40%）、歌唱実技（50%）、レポート（10%）等に基づき総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 子どもと音楽表現
- 第3回 子どもにとって歌うということ
- 第4回 基本的な発声の技法
- 第5回 課題（テキスト）に基づき個別のレッスン1
- 第6回 課題（テキスト）に基づき個別のレッスン2
- 第7回 課題（テキスト）に基づき個別のレッスン3
- 第8回 課題（テキスト）の確認テスト
- 第9回 子どもの歌唱教材による歌唱指導1
- 第10回 子どもの歌唱教材による歌唱指導2
- 第11回 子どもの歌唱教材による歌唱指導3
- 第12回 模擬保育1
- 第13回 模擬保育2
- 第14回 音楽遊びと音楽づくり
- 第15回 まとめと発表会

6. 留意事項

講義コード	24531658			
科目名	基礎技能音楽 I Y			
担当者	鵜飼 真理子			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	特に必要なし（プリント配布）			
参考文献				
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24531659			
科目名	基礎技能音楽 I Z			
担当者	鵜飼 真理子			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	特に必要なし（プリント配布）			
参考文献				
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「保育者自身の感性を豊かにすること」、「保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するための必要な知識や技能を習得すること」を目的とし、子どもの発達段階や子ども一人ひとりの状況に応じた課題を理解した上で、聴く・歌う・演奏する・表現するための基礎的知識や技能を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 音楽の基礎的知識・・・コードの使い方を身につける。メロディーに伴奏をつける合奏のための楽譜を作成できるようにする。
- (2) 聴く・・・いろいろなジャンルの曲を聴き、感性を磨く。
- (3) 歌う・・・発声法を身につける。歌詞の意味を大切に、感情をこめた歌い方を身につける。
- (4) 演奏する・・・ピアノその他の鍵盤楽器、打楽器などの使い方を知る。音色を大切に演奏する。
- (5) 表現する・・・感じたことを音やリズムに表す。

3. 教育・学習の方法

個人のピアノの技術を習得するために課題に取り組む。また、子どもの歌の伴奏をするための童謡などの伴奏をすることと歌うこと、リズムを考えて合奏するなどの課題に取り組む。取り組みを全体の中で発表する。

・準備学習の具体的な方法

鍵盤楽器に慣れること、楽器の種類や持ち方・鳴らし方、リズムを刻むなど普段の音楽に触れる機会に意識しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

出席・授業参加度（40%）、実技（50%）、提出物（10%）等に基づき総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 音楽理論、リズム打ち、ピアノ、歌
- 第2回 音楽理論、リズム打ち、ピアノ、歌
- 第3回 音楽理論、リズム打ち、ピアノ、歌
- 第4回 ピアノ、歌、課題曲（個人）
- 第5回 ピアノ、歌、課題曲（個人）
- 第6回 子どもと音楽表現、楽器、ピアノ、歌、課題曲（個人）
- 第7回 子どもと音楽表現、楽器、ピアノ、歌、課題曲（個人、保育）
- 第8回 子どもと音楽表現、楽器、ピアノ、歌、課題曲（保育）
- 第9回 楽器、ピアノ、歌、課題曲（保育）
- 第10回 グループ活動、歌、課題曲（保育）
- 第11回 グループ活動、歌、課題曲（保育）
- 第12回 発表、歌、課題曲（個人、保育）
- 第13回 歌、課題曲（個人、保育）
- 第14回 課題曲発表会
- 第15回 まとめと基礎技能音楽IIへの導入

6. 留意事項

講義コード	24531701			
科目名	基礎技能音楽Ⅱ乙			
担当者	鶴飼 真理子			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『コンコーネ50』 全音楽譜出版社 『子どもの音楽表現』 保育出版社 5線ノート 基礎技能音楽Ⅰで配布の楽譜 上記を必ず持参すること			
参考文献				
備考	「基礎技能音楽Ⅰ」履修者であること 保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

保育の中で取り扱う教材を取り入れながら、保育における音楽表現について理解する。音楽表現における技能を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 子どもに歌唱指導する方法や技術を習得する
- (2) 楽器の特性と演奏の方法や技能を習得する。
- (3) 子どもの音楽体験や表現の援助技術を習得する。

3. 教育・学習の方法

演習形式で行う。

・準備学習の具体的な方法

発声練習、リズム打ちの練習を普段から行っておく。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度・授業態度（15%）、技能習得、課題への取り組み態度（30%）、発表（55%）

5. 授業予定

- 第1回 音楽と表現
- 第2回 子どもの発達と音楽（遊びと音楽づくり）
- 第3回 コードづけと伴奏
- 第4回 コードづけと伴奏、メロディ作成
- 第5回 コードづけとメロディ作成
- 第6回 子どもの音楽表現①リトミック
- 第7回 子どもの音楽表現②リトミック
- 第8回 子どもの音楽表現③リトミック
- 第9回 子どもの音楽表現④合奏
- 第10回 子どもの音楽表現⑤合奏
- 第11回 子どもの音楽表現⑥合奏
- 第12回 子どもの音楽表現⑦創作歌
- 第13回 子どもの音楽表現⑧創作歌
- 第14回 発表
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24531758			
科目名	基礎技能音楽ⅡP			
担当者	小林 多津子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	オリエンテーション時に指示する			
参考文献				
備考	「基礎技能音楽Ⅰ」履修者であること 特別選択科目			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

音楽が子どもの成長発達において重要な役割を担うということをベースにして、ピアノの基本的な知識や演奏技能を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

- ・バイエル教則本を終了すること。
- ・童謡の伴奏ができること。

- ・子どもと音楽について理解すること。
- ・ピアノ演奏技法を習得すること。
- ・音楽する楽しさや喜びを自ら体験すること。
- ・楽譜を見てピアノが弾けるようになること。

3. 教育・学習の方法

ピアノの演奏を中心とした授業内容である。

保育現場の実践的な活動を想定して、模擬保育なども行う。

・準備学習の具体的な方法

実技を伴う授業であるので、自ら積極的に課題に取り組むことが必要である。

進度は個人差が出てくるので、15回の授業内で、少なくともバイエル教則本をマスターすることが単位習得の条件になる。

4. 評価方法・評価基準

出席・授業への参加度（30%）、ピアノ実技（60%）、レポート（10%）等に基づき、総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ピアノレッスン1
- 第3回 ピアノレッスン2
- 第4回 ピアノレッスン3
- 第5回 ピアノレッスン4
- 第6回 ピアノレッスン5
- 第7回 中間発表会
- 第8回 ピアノレッスン6
- 第9回 ピアノレッスン7
- 第10回 ピアノレッスン8
- 第11回 ピアノレッスン9
- 第12回 ピアノレッスン10
- 第13回 ピアノレッスン11
- 第14回 ピアノ演奏会
- 第15回 ピアノ演奏会・まとめ

6. 留意事項

講義コード	24531801			
科目名	基礎技能造形Ⅱ 創造する喜び			
担当者	今尾 栄仁			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

日常生活上の感性の磨きや創造する事の喜びを根底におきながら、幼児教育にかかわりある造形の基礎的な技能や知識を作品の制作を通して体験的に学び、保育の実践時に取り扱う教材やそれらの展開に必要な基礎技能を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

平面（具象、抽象絵画）での造形活動時における用具、材料の基礎的知識と技能の習得。立体（紙工作、粘土塑造）での造形活動時における用具、材料の基礎的知識と技能の習得。

3. 教育・学習の方法

スケッチブック・はさみ・カッターナイフ・のり・ボンド・鉛筆（B～4B）・消しゴム・水彩絵の具・筆（大、中、小）・クレパス等を使った実技演習。授業内容により他教材も使用する。

・準備学習の具体的な方法

日常生活で美しいと感じた事物に造形的視点（色、形）を持って関心を持ち接する。スケッチ、撮影・展覧会鑑賞等積極的な活動を伴う事が望ましい。

4. 評価方法・評価基準

出席状況（関心・意欲）、授業時の提出作品の水準で総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 自然物をモチーフとした描画（鉛筆画）
- 第2回 自然物をモチーフとした描画（鉛筆したがき）
- 第3回 自然物をモチーフとした描画（絵の具で着色）
- 第4回 様々な描画材料、用具を使用した多様な表現（デカルコマニー、プリンティング、フィンガーペインティング、にじみ絵、スバツタリング、フロッタージュ、パチック、ドリッピング、スクラッチ等）

- 第5回 様々な描画材料、用具を使用した多様な表現(デカルコマニー、プリンティング、フィンガーペインティング、にじみ絵、スパッタリング、フロッタージュ、パチック、ドリッピング、スクラッチ等)
- 第6回 4、5で行った表現技法を使い作品制作
- 第7回 4、5で行った表現技法を使い作品制作
- 第8回 紙工作(紙袋、貼り絵)
- 第9回 紙工作(切り絵)
- 第10回 紙工作(切り紙による模様作り)
- 第11回 紙工作(ポップアップカード)
- 第12回 粘土造形(紙粘土)
- 第13回 粘土造形(紙粘土)
- 第14回 児童作品鑑賞(ノートルダム学院小学校写生展鑑賞)
- 第15回 粘土造形(紙粘土)

6. 留意事項

演習時の服装(汚れてもよい又はエプロン等を持参)。追加教材の必要な時は費用の負担があります。(約1000円～2000円)

講義コード	24531858			
科目名	基礎技能造形P			
担当者	藤本 陽三			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	特別選択科目			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「幼稚園教育要領」に示された「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」の具現化を図るため、幼児教育における造形の指導を行ううえで必要となる基礎的・基本的な知識や技能を習得するとともに、受講者自身が造形の楽しさや喜びを体験し、感性を豊かにする。

2. 教育・学習の個別課題

- 造形活動に必要な材料・用具についての基礎的・基本的な知識・技能を習得する。
- さまざまな表現方法を体験し、「かくこと」「つくること」の楽しさや喜びを味わいつつ、感性を豊かにする。

3. 教育・学習の方法

- 実技演習を中心としながら、適宜、講義を行う。
- 個人の活動とともにグループでの活動も行う。

・準備学習の具体的な方法

今回の演習に向けて、発想を広げたり、身の回りの素材を造形的視点を持ってみたり、集めたりする。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度(関心・態度)60%、課題提出40%

5. 授業予定

- オリエンテーション
- 造形遊び①(材料・素材遊び…並べる・積む)
- 造形遊び②(材料・素材遊び…組み合わせる)
- 造形遊び③(技法・道具遊び)
- 絵や立体に表す①(材料・用具の使い方…パス・クレヨン他)
- 絵や立体に表す②(材料・用具の使い方…絵具他)
- 絵や立体に表す③(観察からの表現)
- 絵や立体に表す④(経験からの表現)
- 絵や立体に表す⑤(お話・空想からの表現)
- 絵や立体に表す⑥(まとめ…心象表現)
- 遊んだり・使ったりするものをつくる①(用途を考えた表現…「使う」)
- 遊んだり・使ったりするものをつくる②(用途を考えた表現…「飾る」)
- 遊んだり・使ったりするものをつくる③(機能を考えた表現…「動く」)
- 遊んだり・使ったりするものをつくる④(機能を考えた表現…「音が出る」)
- 遊んだり・使ったりするものをつくる⑤(まとめ…適用表現)

6. 留意事項

実技演習に適した服装で授業に臨むこと。
水彩絵の具セットを各自用意すること。

必要により材料費を徴収することもある。

講義コード	24531901			
科目名	基礎技能体育Z			
担当者	原田 健次			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『幼児体育(初級)』日本幼児体育学会 大学教育出版 2007年			
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「体育あそび」が生涯において生活の一部として「楽しめる」ものになってほしい。そのために乳幼児期の「体育あそび」をどのように提供し、展開していけばよいかを専門的に学び、保育者として必要な「専門知識」や「指導技術」を身につけることが大切である。本授業では、体育的なあそびを実践していくことによって、その遊びの意義・指導法を学習することを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

- 保育者に必要な技術・知識を深め、身につける。
- 子どもの生活リズムと運動との関連性を知る。
- 子どもの発育・発達と運動発現メカニズムを知る。
- 幼児体育の指導上の留意点を理解する。

3. 教育・学習の方法

・演習形式で行う。実技で「実践化」を行い、講義で「理論化」を行う。また、実際の保育場面を観察(ビデオ映像)し、子どもも理解を行う。

・準備学習の具体的な方法

・日々の学習において、子どもの行動や、保育者の援助、指導方法を観察としておくこと。

4. 評価方法・評価基準

・出席、授業参加度、受講態度(40%)、課題提出(40%)、課題「模擬保育」(20%)において総合的に評価する。・欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- オリエンテーション 「幼児体育」の理念
- 仲間づくりプログラム① 「ふれあいムーブメント」
- 仲間づくりプログラム② 「いすとりゲームムーブメント」
- 仲間づくりプログラム③ 「フルーツバスケットムーブメント」
- 仲間づくりプログラム④ 「組体操風ムーブメント」
- 手具を使用する遊び① 「フープ」「ボール」
- 手具を使用する遊び② 「短なわ」「長なわ」
- 手具を使用する遊び③ 「バラバレーン」
- 身近な物を使用する遊び 「新聞紙」「レジ袋」「タオル」
- 模擬授業① 指導上の留意点
- 模擬授業② 指導上の留意点
- 模擬授業③ 指導上の留意点
- 模擬授業④ 指導上の留意点
- 模擬授業⑤ 指導上の留意点
- まとめ

6. 留意事項

実技の時には更衣をすること。随時、指示する。

講義コード	24531958			
科目名	基礎技能体育P 遊びを通して身体運動の基礎・基本を習得する			
担当者	内田 和寿			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	特別選択科目			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本科目は、保育の内容を理解し、展開するために必要な体育に関する知識や技能について、子どもの発達段階や個々の状況も意識した理論・実践力を習得することを目的としている。

2. 教育・学習の個別課題

- ・保育実践において必要な体育に関する知識と技能を習得する。
- ・運動遊びにおける安全管理、事故時の対処法を理解する。
- ・幼児の運動遊びや伝承遊びを自ら理解し、遊びを工夫する。
- ・幼児の感性や表現力を引き出すための題材、環境、構成、援助について理解する。

3. 教育・学習の方法

- ・実習を中心とするが、実践者、観察者、幼児役それぞれの観点からの議論も行う。
- ・グループ学習によって、様々な役割を体験するとともに、相互理解を深める活動を行う。
- ・資料は適宜配布する。

・準備学習の具体的な方法

ニュースや新聞の記事を注視し、幼児の運動についての問題点や疑問点を常に持つように心がけること。

4. 評価方法・評価基準

授業における態度、関心意欲の高さ（40%）、理論に関する課題（30%）、実技に関する課題（30%）とし、総合的に評価する。なお、4回以上の欠席者は、評価の対象としない。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション、幼児における運動の意義
- 第2回 簡単な体操、手遊び、伝承遊び
- 第3回 親子体操、ゲーム、鬼ごっこ
- 第4回 ボールを使った様々な運動遊び
- 第5回 ロープを使った運動遊び（個人）
- 第6回 ロープを使った運動遊び（集団）
- 第7回 マットを使った運動遊び
- 第8回 跳び箱を使った運動遊び
- 第9回 マット、跳び箱のまとめ、遊びの開発
- 第10回 幼児の運動について（ビデオを基に議論）
- 第11回 表現遊び
- 第12回 表現、リズム遊び
- 第13回 遊戯創作1（グループワーク）
- 第14回 遊戯創作2（発表）
- 第15回 基礎技能体育のまとめ、安全管理、事故への対処

6. 留意事項

講義コード	24532001			
科目名	基礎技能演習			
担当者	鶴飼 真理子			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	『幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷』 民秋 言 萌文書林 2008年 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年 『保育講座11保育内容「表現」』 平田智久、小林紀子、砂上史子 ミネルヴァ書房			
備考	「基礎技能音楽Ⅰ・Ⅱ」「基礎技能造形」「基礎技能体育」履修者であること 保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

基礎技能音楽や保育内容で学んだことを演習を通して深め、保育者としての技能や表現力を高める。季節の装飾、年齢にあった紙芝居や手作りおもちゃなどの製作や手遊びなどを通し、子どもの発達や遊びについての理解を深め、技能を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 保育者として必要な技能を高める。
- (2) グループ活動における協調性、調整力を身につける。
- (3) 豊かな表現力を身につける。

3. 教育・学習の方法

演習形式で行う。
適宜、資料等を配布する。

・準備学習の具体的な方法

行事や季節の装飾について調べる。
絵本や紙芝居について理解を深める。
保育に必要な遊び（ゲームや手遊び、歌など）、手作りおもちゃや表現活動について理解を深める。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度・授業態度（15%）、提出物（40%）、創作提出物（45%）に基づいて、総合的に評価する。
欠席回数が1/3を超えた場合、原則として単位は与えない。

5. 授業予定

- 第1回 絵本、手遊び、手作りおもちゃについて
- 第2回 絵本、手遊び、手作りおもちゃについて
- 第3回 手作りおもちゃ製作（画用紙）
- 第4回 手作りおもちゃ製作（画用紙）
- 第5回 グループ活動（創作お話、紙芝居製作）
- 第6回 グループ活動（創作お話の紙芝居製作）
- 第7回 グループ活動（創作お話、紙芝居製作）
- 第8回 グループ活動（創作お話、紙芝居製作）発表
- 第9回 手作りおもちゃ製作（牛乳パック）
- 第10回 手作りおもちゃ製作（牛乳パック）
- 第11回 手作りおもちゃ発表、クリスマス装飾製作
- 第12回 クリスマスリース、装飾製作
- 第13回 創作手作りおもちゃ製作
- 第14回 創作手作りおもちゃ発表
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24532201			
科目名	保育実習Ⅰ－１ 保育所実習			
担当者	萩原 暢子・石井 浩子・鶴飼 真理 子・畠山 寛・山本 智也			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[保]			
前提科目	「保育原理Ⅰ・Ⅱ」、「保育実習Ⅰ－１・Ⅰ－２」			
テキスト				
参考文献	『やさしく学べる保育実践ポートフォリオ』植原邦子 ミネルヴァ書房 2005年 『幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷』民秋 言 萌文書林 2008年 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 2008年			
備考	事前に「保育実習指導Ⅰ」を履修していなければならない 保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

保育所において乳幼児と生活をともにし、乳幼児の理解を深めるとともに、保育士の仕事に助手的に携わることを通して、保育所の機能と保育士の職務について学ぶ。また、乳幼児をとりまく現代の家庭や社会についての考えを深め、保育士を志す者としての自覚を高める。

そして、これまでに学んだ知識・技術・考え方等と実践の統合を図り、さらに新しい学習課題を見出す契機とする。

2. 教育・学習の個別課題

(1) 保育所の概要を把握し、保育の一日の流れや乳幼児の発達の特性などをつかむ。

(2) 保育者の助手的な役割をしながら、保育の実践について学ぶ。

(3) 保育の指導案作成や準備を行ってから、実際に責任をもって保育をし、反省・評価して次への課題を見出す。

3. 教育・学習の方法

(1) 指定された保育所において、おおむね10日間の現場実習を行う。

(2) 実習では、所(園)長や実習担当の保育士から指導を受ける。

(3) 実習の巡回指導として、大学実習担当教員から指導を受ける。

・準備学習の具体的な方法

・これまで履修した講義や演習について、保育での実践に役立つようまとめておく。

・保育所実習に必要な事柄を教科書や配布資料を基に再度確認しておく。

・実習時における具体的な自己課題を明確にしておく。

4. 評価方法・評価基準

実習態度、実習評価をもとに、総合的に評価する。

5. 授業予定

- ・実習施設について理解する。
- ・保育における一日の生活の流れの全体的理解をして参加する。
- ・子どもの観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する。
- ・保育計画や指導計画を理解する。
- ・生活指導の態度およびその技術、遊びの展開とその関わり方について学ぶ。
- ・生活や遊びなどの一部を担当し、保育技術を習得する。
- ・人的・物的条件の理解、乳幼児の集団行動・個別行動の観察を行う。
- ・保育士の職務内容と役割、他の職員とのチームワークなどを学ぶ。
- ・記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、家庭や地域社会について理解する。
- ・子どもの最善の利益を具体的に具体化する方法について学ぶ。
- ・保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ。
- ・乳幼児の健康・安全に対する配慮、疾病予防への配慮などについて理解する。
- ・実習の段階と内容
- ①観察実習
- ②参加実習
- ③部分実習
- ・保育士の指導のもと、指導案を作成して保育を行う。

6. 留意事項

・「保育実習指導Ⅰ」を履修済みでなければ、「保育実習Ⅰ－１」を履修することはできない。また、履修済みであっても、その授業態度及び保育士資格関係科目の単位取得状況、履修状況によっては履修を許可しないこともあるので注意すること。

・説明会や事後指導などを行う際には、支持された日時に必ず参加すること。

・事前準備として健康診断受け、実習前に細菌(検便)検査をし、結果を実習施設に提出しなければならない。

講義コード	24532301			
科目名	保育実習Ⅰ－２ 児童福祉施設実習(保育所を除く)			
担当者	萩原 暢子・石井 浩子・鶴飼 真理 子・畠山 寛・山本 智也			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[保]			
前提科目	「保育原理Ⅰ・Ⅱ」、「保育実習Ⅰ－１・Ⅰ－２」			
テキスト				
参考文献	『三訂 福祉施設実習ハンドブック』(株)みらい			
備考	事前に「保育実習指導Ⅰ」を履修していなければならない 保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

居住型の乳児院や児童養護施設、障害児施設などの生活の場に参加し、施設の役割と機能、施設における保育士の職務、養護内容、乳幼児や利用者に対する理解を深めるとともに、施設と学校との連携や地域に果たす役割などを学ぶ。また、取得した知識・技能を基礎とし、それらを総合的に実践する応用力を養う。実習課題を個々が明確にし、保育士を志す者としての自覚を高めることをめざす。

2. 教育・学習の個別課題

(1) 福祉施設の意義・機能などを実践の場で観察・体験を通して理解する。

(2) 親元を離れ、福祉施設で生活する子どもの現状から、その最善の利益の具現化について学ぶ。

(3) 保育士としての職務内容、子どもの生活の保障における保育士の役割、保育士として働くことの意義を体験する。

3. 教育・学習の方法

実習生は、実習施設の職員に準じて勤務実習する。指導には、施設長及び、施設長が任命する実習指導担当者が当たる。実習巡回時に、実習担当教員により指導を行う。

・準備学習の具体的な方法

・実習までに履修した講義や演習を実習での実践に役立つようまとめておく。

・施設実習に必要な事柄を教科書や配布資料を基に再度確認しておく。

・実習時における具体的な自己課題を明確にしておく。

4. 評価方法・評価基準

実習態度、実習評価などから総合的に評価する。

5. 授業予定

- ・実習施設の沿革と現状(職員構成、各職種の職務分担、勤務形態、勤務時間、とくに保育士の職務内容と役割等)、施設の地理的条件、設備等について理解する。
- ・施設の定員、在籍数、年齢、性別居室構成、措置理由、在所期間、心身の発達状況、障害の程度などについて個別に理解する。
- ・子どもの観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する。
- ・心身の発達や障害の程度を考慮して居室が配置・構成されている状況を学ぶ。
- ・養護の一日の流れを理解し、参加する。(子どもの日常生活がどのように確保され、指導されているのかを学ぶ。)
- ・援助計画を理解し、子どもの日常生活における基本的生活習慣の形成や生活技術の習得、移動・食事・排泄などの援助の一部を担当し、保育士の養護活動や援助技術、異業種との協力体制について体験を通じて習得する。
- ・職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
- ・記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、施設と家庭や地域社会との連携の実態について理解する。
- ・子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。
- ・保育士としての職業倫理(守秘義務の)を具体的に学ぶ。
- ・安全及び、疾病予防への配慮について理解する。
- ・見学・観察実習(実習施設の役割や機能などを知り、施設や施設養護の特質について理解を深めるとともに、保育士や指導員の助手として手伝いながら、子どもの年齢や性別、入所理由、入所期間、心身の発達の状況、障害の程度、生活居室の運営と職員の活動状況、職員の構成と勤務の状況、一日の生活など、子どもの状況と施設養護の実態を観察・理解する)
- ・参加・助手実習(子どもの生活集団の構成員の一人として加わり、子どもの身の世話や生活上の指導に補足的に関わりながら、子どもの個性や個人差などに応じた関わり方や生活面の指導の仕方など

を学ぶ)

6. 留意事項

- ・「保育実習指導」を履修済みでなければ、「保育実習Ⅰ-2」を履修することはできない。また、その授業態度及び他の保育士資格関係科目の単位取得状況、履修状況によっては履修を許可しないことがあるので注意すること。
- ・必要に応じて説明会、事後指導等を行うので必ず出席すること。
- ・事前準備として、健康診断と実習前に細菌（検便）検査（赤痢菌、サルモネラ菌、O-157、虫卵）をし、結果を実習施設に提出しなければならない。できれば、インフルエンザ予防接種も行うこと。

講義コード	24532401			
科目名	保育実習Ⅱ A 保育所実習			
担当者	萩原 暢子・石井 浩子・鶴飼 真理子・畠山 寛・山本 智也			
単位数	2	配当学年	34	
資格	【保】			
前提科目	保育原理Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ-Ⅰ-1-2、保育実習指導Ⅱ			
テキスト				
参考文献	『幼稚園教育要領・保育所保育指針成立と変遷』 民秋 言 萌文書林 2008年 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年			
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24532402			
科目名	保育実習Ⅱ B 保育所実習			
担当者	萩原 暢子・石井 浩子・鶴飼 真理子・畠山 寛・山本 智也			
単位数	2	配当学年	34	
資格	【保】			
前提科目	保育原理Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ-Ⅰ-1-2、保育実習指導Ⅱ			
テキスト				
参考文献	『幼稚園教育要領・保育所保育指針成立と変遷』 民秋 言 萌文書林 2008年 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年			
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

保育所の役割を踏まえ、実際に体験することで保育士としての資質・能力・機能などを学ぶ。子どもの最善の利益を保障することの意義、各関係機関との連携、保護者との連携、家庭への援助、地域とのかかわりや地域の在宅親子への支援など、保育所の担っている社会的役割への理解を深める。また、実習Ⅰ-1からの反省や課題を明確化し、自己課題への取り組みを積極的に行い、指導案の立案、実施をする。

2. 教育・学習の個別課題

- (1)保育所の目的・役割、意義や機能など、保育現場での体験を通して理解を深める。
- (2)保育所保育指針に基づき、子どもの発達過程を理解し、子どもの一人ひとりへの援助や集団としての保育を捉え、保育の指導案を立案して実践する。
- (3)実習Ⅰ-1を振り返ることにより、自己課題を明確化し、課題への取り組みを積極的に行う。

3. 教育・学習の方法

実習生は、実習施設の職員に準じて勤務実習する。実習では、園長や実習担当の保育士から指導を受ける。実習の巡回指導時には、実習担当教員が指導を行う。

・準備学習の具体的な方法

- ・実習Ⅰ-1で学んだことを振り返り、指導案や実習記録などを見直す。
- ・関係授業の復習をしておく。

4. 評価方法・評価基準

実習態度や実習評価、実習記録・指導案などの提出物や出席状況などから、総合的に評価する。

5. 授業予定

- ・実習Ⅰ-1を振り返り、課題などを確認する。
- ・これまでの実習の振り返りと次の実習への課題を確認する。
- ・保育実習Ⅱの意義と目的について、理解を深める。
- ・保育所が担う社会的役割の理解と地域とのかかわりについて学ぶ。
- ・子どもの発達理解を深めるとともに、子ども一人ひとりへの援助、家庭との連携や援助、各関係機関との連携などについて学ぶ。
- ・指導案を作成し、実践・評価反省をする。
- ・保育士の職業倫理を理解する。
- ・保育士に求められる資質、能力、技術など確認し、自己課題を明確化する。
- ・安全危機管理、衛生危機管理などの理解と子どもの最善の利益を保障することの配慮について理解を深める。

6. 留意事項

- ・「保育実習指導Ⅰ」と「保育実習Ⅰ-1、Ⅰ-2」を履修済みでなければ履修することはできない。
- ・保育実習Ⅱと保育実習Ⅲは、どちらかを選択して履修する。
- ・保育士資格関係科目の単位取得状況や履修状況によっては、実習を許可しないことがあるので注意すること。
- ・実習に向けての説明会や事後指導を行うため、必ず出席すること。
- ・事前準備として、健康診断を受けて実習前に細菌検査をし、結果を実習施設に提出しなければならない。インフルエンザ予防接種もしておくことが望ましい。

講義コード	24532501			
科目名	保育実習Ⅲ A 児童福祉施設実習（保育所を除く）			
担当者	萩原 暢子・石井 浩子・鶴飼 真理子・畠山 寛・山本 智也			
単位数	2	配当学年	34	
資格	【保】			
前提科目	保育原理Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ-Ⅰ-1-2、保育実習指導Ⅲ			
テキスト				
参考文献	『三訂 福祉施設実習ハンドブック』（株）みらい			
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24532502			
科目名	保育実習Ⅲ B 児童福祉施設実習（保育所を除く）			
担当者	萩原 暢子・石井 浩子・鶴飼 真理子・畠山 寛・山本 智也			
単位数	2	配当学年	34	
資格	【保】			
前提科目	保育原理Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ-Ⅰ-1-2、保育実習指導Ⅲ			
テキスト				
参考文献	『三訂 福祉施設実習ハンドブック』（株）みらい			
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設の養護を実際に体験することにより、保育士として必要な資質・能力・技術を学ぶ。実習施設は、児童厚生施設又は知的障害児通園施設、その他社会福祉関係法令の規定に基づき設置されている施設であり、保育実習を行う施設として適当と認められるもの（保育所を除く）である。実習では、家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。また、保育実習Ⅰ-2

の反省点をふまえ、さらに自己の課題を明確化していく。

2. 教育・学習の個別課題

1. 福祉施設の意義・機能などを実践の現での体験を通して理解する。
2. 指導担当者の指導の下、子ども（利用者）のニーズへの対応や援助計画の立案・実践を行う。
3. 保育実習Ⅰ-2の反省点をふまえ、自己課題を明確にして積極的に取り組む。

3. 教育・学習の方法

実習生は、実習施設の職員に準じて勤務実習する。指導には、施設長及び、施設長が任命する実習指導担当者が当たる。実習巡回時に、実習担当教員より指導を行う。

・準備学習の具体的な方法

・これまで履修した講義や演習を実習における実践に役立つようまとめておく。

- ・施設実習に必要な事柄を教科書や配布資料を基に再度確認しておく。
- ・保育実習Ⅰ-2での反省から、実習時における具体的な自己課題を明確にしておく。

4. 評価方法・評価基準

実習態度、実習評価などから総合的に評価する。

5. 授業予定

- ・ 養護全般に参加し、養護技術を習得する。
- ・ 子ども（利用者）の個人差のニーズについて理解し、その対応を習得する。
- ・ 援助計画を立案し、実践する。
- ・ 子どもと家族とのコミュニケーションの方法を具体的な事例を通して学ぶ。
- ・ 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について、具体的に学ぶ。
- ・ 子ども（利用者）の最善の利益への配慮を学ぶ。
- ・ 施設保育士として、職業倫理を理解する。
- ・ 児童福祉施設などの保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。

6. 留意事項

- ・「保育実習指導」と「保育実習Ⅰ-1、Ⅰ-2」を履修済みでなければ、「保育実習Ⅲ」を履修することはできない。また、「保育実習Ⅱ」と「保育実習Ⅲ」はどちらかを選択し、履修する。
- ・保育士資格関係科目の単位取得状況、履修状況によっては履修を許可しないことがあるので注意すること。
- ・説明会やオリエンテーション、実習後には事後指導を行うので必ず出席しなければならない。
- ・事前準備として、健康診断と実習前に細菌（検便）検査（赤痢菌、サルモネラ菌、O-157、虫卵）をし、結果を実習施設に提出しなければならない。できれば、インフルエンザ予防接種も行うこと。

講義コード	24532601			
科目名	保育総合演習			
担当者	石井 浩子・鵜飼 真理子・畠山 寛			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[保]			
前提科目	保育原理Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2			
テキスト				
参考文献	講義の中で適宜知らせる。			
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

保育士の社会的役割、保育所を含む児童福祉施設における職務等の理解を踏まえたうえで、現代の保育に関する課題や問題に対応できる力を養うことを目的とする。具体的には、課題・問題・ニーズなどを把握し、総合的に分析・判断する能力、対応する能力を科目横断的に習得することである。

2. 教育・学習の個別課題

1. 現代の保育に関する課題や問題点を明確にし、対応方法・解決方法について考察する。
2. 保育実践のための計画や方法・援助について考察する。
3. 子どもの発達を援助するための保育技術を演習する。

3. 教育・学習の方法

3名によるオムニバス形式での演習であるが、担当者全員で実施する授業もある。

・準備学習の具体的な方法

1. 各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

4. 評価方法・評価基準

成績は3名の担当者がそれぞれの担当分において、授業参加・平常点40%、レポート・課題・制作等60%で評価する。最終的な成績は3名の平均点とする。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 保育に関する課題や問題点について～保育に関する課題や問題点とは何か？
- 第3回 保育に関する課題や問題点について～情報収集
- 第4回 保育に関する課題や問題点について～情報整理
- 第5回 保育に関する課題や問題点について～考察
- 第6回 保育に関する課題や問題点について～レジュメ及びパワーポイントの作成～
- 第7回 保育に関する課題や問題点について～全体発表会～
- 第8回 あそびの指導実習・評価①：グループ演習
- 第9回 あそびの指導実習・評価②：打ち合わせ、グループ発表・評価
- 第10回 あそびの指導実習・評価③：グループ発表・評価
- 第11回 あそびの指導実習・評価④：グループ発表・評価
- 第12回 あそびの指導実習・評価⑤：まとめ
- 第13回 保育者のための演習と理論①：手作りおもちゃ
- 第14回 保育者のための演習と理論②：創作活動
- 第15回 保育者のための演習と理論③：創作活動とまとめ

6. 留意事項

- ・持参物がある場合は、その都度支持する。
- ・授業内容によって、指定教室外で実施する場合もある。

講義コード	24532701			
科目名	子どもと言語表現			
担当者	畠山 寛			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	成田徹男編（2011）保育内容 ことば（第2版）、みらい			
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この科目では、子どもの言語表現の大切さを理解するとともに、子どもの言語表現を促す方法について理解したり、実践することを目標とする。具体的には、ペープサート、パネルシアター、言葉あそびなどの技術について理解を深め、実践できるようになることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 子どもの言語表現について理解する。
2. 子どもの言語表現、言語活動を促す方法について理解する。
3. 言語表現を促す実践的基礎技能を身につける。

3. 教育・学習の方法

言語表現などに関する知識や技能を習得するために、講義形式・演習形式の両形式で実施する。

・準備学習の具体的な方法

各授業の最後に次回の授業の準備学習について案内する。

4. 評価方法・評価基準

1. 3分の2以上の出席以上を満たさなければ単位を与えない。
2. 言語表現の内容と指導についての理解（20点）
3. 各実践についての取り組み（80点）

5. 授業予定

- 第1回 子どもと言語表現とは何か？
- 第2回 言語表現の内容と指導について①
- 第3回 言語表現の内容と指導について②
- 第4回 子どもと言語表現を促す実践的方法について
- 第5回 ペープサートを作って演じよう①
- 第6回 ペープサートを作って演じよう②
- 第7回 ペープサートを作って演じよう③
- 第8回 ペープサートを作って演じよう④
- 第9回 パネルシアターを作って演じよう①
- 第10回 パネルシアターを作って演じよう②
- 第11回 パネルシアターを作って演じよう③
- 第12回 パネルシアターを作って演じよう④
- 第13回 言葉あそび①

第14回 言葉あそび②

第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24534101		
科目名	保育の心理学ⅠA		
担当者	畠山 寛		
単位数	2	配当学年	1
資格	[保][子]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	24534159		
科目名	保育の心理学ⅠZ		
担当者	畠山 寛		
単位数	2	配当学年	1
資格	[保]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	保育士養成課程専用クラス		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

1. 保育実践に関わる心理学の知識を習得する。
2. 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。
3. 人との相互的な関わりを通した発達について理解する。
4. 生涯発達の観点から発達の過程や初期経験の重要性を理解し、保育との関連を考察する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 心理学の基礎を学ぶとともに、保育に必要な発達理解を深める
2. 発達理解の観点から、子ども理解を深める。
3. 発達の要因としての環境の重要性を理解する。
4. 生涯発達を踏まえたうえで乳幼児期の重要性を理解する。

3. 教育・学習の方法

講義形式で行う。適宜、プリント等を配布する。必要に応じて視聴覚教材を利用する。

・準備学習の具体的な方法

各回の授業終了時に、次週に向けての課題・指示を与える。

4. 評価方法・評価基準

1. 欠席回数が3分の1を超過した場合には、原則として単位を与えない。
2. 成績は、提出物30%、試験70%で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス：保育の心理学とは何か？
- 第2回 発達の規定因と生涯発達
- 第3回 初期経験の重要性について
- 第4回 子どもの発達理解①：身体・運動機能の発達
- 第5回 子どもの発達理解②：知覚・認知の発達
- 第6回 子どもの発達理解③：自我、及び、感情の発達
- 第7回 子どもの発達理解④：言葉の発達
- 第8回 子どもの発達理解⑤：社会性の発達～基本的信頼感～
- 第9回 子どもの発達理解⑥：乳幼児期の社会的相互作用
- 第10回 子どもの発達の理解⑦：児童期・青年期の社会的相互作用
- 第11回 発達理解と子ども理解について①
- 第12回 発達理解と子ども理解について②
- 第13回 保育実践とその評価①
- 第14回 保育実践とその評価②
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24534258			
科目名	保育の心理学ⅡP			
担当者	畠山 寛			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	特に指定しない。			
参考文献	授業の中で適宜紹介する。			
備考	特別選択科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。
2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。
3. 保育における発達援助について学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 発達の基礎をふまえたうえで、適切な実践について理解する。
2. 生活や遊びの大切さを理解する。
3. 発達支援の重要性を理解する。

3. 教育・学習の方法

演習形式で行う。適宜、プリント等を配布する。また、視聴覚教材を用いる。

・準備学習の具体的な方法

各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

4. 評価方法・評価基準

1. 欠席回数が3分の1を超過した場合には原則として単位を与えない。
2. 成績はレポートを含む提出物が70%。演習の取り組み状況が30%とする。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス：保育の心理学Ⅱとは何か？
- 第2回 子どもの発達と保育実践①：子ども理解と発達支援①
- 第3回 子どもの発達と保育実践②：子ども理解と発達支援②
- 第4回 子どもの発達と保育実践③：個人差や発達段階を考慮した保育実践
- 第5回 子どもの発達と保育実践④：人との関わりを通した保育実践
- 第6回 子どもの生活と学び
- 第7回 子どもの遊びと学び
- 第8回 基本的生活習慣の獲得と発達援助
- 第9回 主体性の形成と発達援助
- 第10回 発達課題に応じた援助
- 第11回 発達の連続性と就学
- 第12回 保護者との連携と発達援助
- 第13回 専門職との連携と発達援助
- 第14回 現代社会における発達と保育の問題
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24534259			
科目名	保育の心理学ⅡZ			
担当者	畠山 寛			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	特に指定しない。			
参考文献				
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。
2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。
3. 保育における発達援助について学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 発達の基礎をふまえたうえで、適切な実践について理解する。
2. 生活や遊びの大切さを理解する。

3. 発達支援の重要性を理解する。

3. 教育・学習の方法

演習形式で行う。適宜、プリント等を配布する。また、視聴覚教材を用いる。

・準備学習の具体的な方法

各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

4. 評価方法・評価基準

1. 欠席回数が3分の1を超過した場合には原則として単位を与えない。
2. 成績はレポートを含む提出物が70%。演習の取り組み状況が30%とする。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス：保育の心理学Ⅱとは何か？
- 第2回 子どもの発達と保育実践①：子ども理解と発達支援①
- 第3回 子どもの発達と保育実践②：子ども理解と発達支援②
- 第4回 子どもの発達と保育実践③：個人差や発達段階を考慮した保育実践
- 第5回 子どもの発達と保育実践④：人との関わりと保育実践
- 第6回 子どもの生活と学び
- 第7回 子どもの遊びと学び
- 第8回 基本的生活習慣の獲得と発達援助
- 第9回 主体性の形成と発達援助
- 第10回 発達課題に応じた援助
- 第11回 発達の連続性と就学
- 第12回 保護者との連携と発達援助
- 第13回 専門職との連携と発達援助
- 第14回 現代社会における発達と保育の問題
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24534358			
科目名	小児保健演習P			
担当者	萩原 暢子			
単位数	1	配当学年	23	
資格				
前提科目				
テキスト	『子どもの保健演習ガイド』 高内正子編 建帛社 2011			
参考文献	『子どもの保健Ⅱ演習』 白野幸子 医歯薬出版 2011			
備考	「小児保健Ⅰ」の履修者であること 特別選択科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

小児の心身の健康維持への取り組みについては、現場を想定した学習が必要である。そのために乳児モデルを用いて、乳幼児の養護や症状に対する看護を学ぶ。沐浴についても、各自が実際に人形で演習する。また、救急事態に対しては、現場を再現し実際の人形を用いた人工蘇生法の実技を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 小児の健康状態の観察 2. 小児の異常症状と手当 3. 小児の養護と看護 4. 手洗いと沐浴指導 5. 小児の歯の健康 6. 応急処置と心肺蘇生法

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法 グループに分かれて演習を行う。
2. 学習方法
 - (1) 実際の実技を学ぶ。
 - (2) 毎回の実習記録をまとめて、最後に提出する。
3. テキスト・参考文献
 - (1) テキストは子どもの保健演習ガイド (建帛社)
 - (2) 参考文献 子どもの保健Ⅱ演習 (医歯薬出版)

・準備学習の具体的な方法

1. テキストの次回講義範囲を読んでおくこと。2. 分からないところは質問して、必ず解決しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

- (1) 評価は、毎回提出用紙(20%)、授業参加度(30%)、形成テスト(50%)の総合評価とする。
- (2) 3分の2以上の出席がないものは、成績を評価しない。

5. 授業予定

- 第1回 子どもの保健演習について(オリエンテーションと演習の準備)

第2回 子どもの健康状態の観察・健康観察の要点

第3回 乳幼児の養護(抱き方、衣服の着せ方、おむつの替え方、ミルクの飲ませ方)

第4回 乳幼児の異常症状と手当

第5回 乳幼児の歯の健康

第6回 乳幼児の清潔(手洗い演習)

第7回 沐浴の演習とテスト

第8回 乳幼児の事故と応急手当(総論)

第9回 乳幼児の事故と応急手当(各論)

第10回 応急手当でビデオ学習とグループディスカッション

第11回 心肺蘇生法 DVD 学習、心肺蘇生法の演習とテスト

第12回 保育演習の振り返りとグループディスカッション

第13回 グループ別発表、個別発表(演習の片付け)

第14回 形成テスト

第15回 形成テストの解説と評価

6. 留意事項

グループで学習する。赤ちゃんの人形を使った実技を行う。

講義コード	24534359			
科目名	小児保健演習Z			
担当者	萩原 暢子			
単位数	1	配当学年	23	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『子どもの保健演習ガイド』 高内正子編 建帛社 2011			
参考文献	『子どもの保健Ⅱ演習』 白野幸子 医歯薬出版 2011			
備考	「小児保健Ⅰ」の履修者であること 保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

小児の心身の健康維持への取り組みについては、現場を想定した学習が必要である。そのために乳児モデルを用いて、乳幼児の養護や症状に対する看護を学ぶ。沐浴についても、各自が実際に人形で演習する。また、救急事態に対しては、現場を再現し実際の人形を用いた人工蘇生法の実技を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 小児の健康状態の観察 2. 小児の異常症状と手当 3. 小児の養護と看護 4. 手洗いと沐浴指導 5. 小児の歯の健康 6. 応急処置と心肺蘇生法

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法 グループに分かれて演習を行う。
2. 学習方法
 - (1) 実際の実技を学ぶ。
 - (2) 毎回の実習記録をまとめて、最後に提出する。
3. テキスト・参考文献
 - (1) テキストは子どもの保健演習ガイド (建帛社)
 - (2) 参考文献 子どもの保健Ⅱ演習 (医歯薬出版)

・準備学習の具体的な方法

1. テキストの次回講義範囲を読んでおくこと。2. 分からないところは質問して、必ず解決しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

- (1) 評価は、毎回提出用紙(20%)、授業参加度(30%)、形成テスト(50%)の総合評価とする。
- (2) 3分の2以上の出席がないものは、成績を評価しない。

5. 授業予定

- 第1回 子どもの保健演習について(オリエンテーションと演習の準備)
- 第2回 子どもの健康状態の観察・健康観察の要点
- 第3回 乳幼児の養護(抱き方、衣服の着せ方、おむつの替え方、ミルクの飲ませ方)
- 第4回 乳幼児の異常症状と手当
- 第5回 乳幼児の歯の健康
- 第6回 乳幼児の清潔(手洗い演習)
- 第7回 沐浴の演習とテスト
- 第8回 乳幼児の事故と応急手当(総論)
- 第9回 乳幼児の事故と応急手当(各論)
- 第10回 応急手当でビデオ学習とグループディスカッション
- 第11回 心肺蘇生法ビデオ学習、心肺蘇生法の演習とテスト

- 第12回 保育演習の振り返り、グループディスカッション
 第13回 グループ別発表、個別発表（演習の片付け）
 第14回 形成テスト
 第15回 形成テストの解説と評価

6. 留意事項

グループで学習する。赤ちゃんの人形を使った実技を行う。

講義コード	24534459		
科目名	保育課程論		
担当者	石井 浩子		
単位数	2	配当学年	23
資格	[保]		
前提科目			
テキスト	『教育課程・保育課程を学ぶ』 松村和子・近藤幹生・ 椋島香代 ななみ書房 2012年 『幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷』 民 秋 言 編 萌文書林 2008年		
参考文献	『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル 館 2008年 『保育課程・教育課程総論』 柴崎正行・戸田雅美・ 増田まゆみ編 ミネルヴァ書房 2010年		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

保育課程の意義と編成の方法についての基礎的事項を理解するとともに、指導計画の実際とその展開について具体的に学ぶ。保育は、「子ども理解から、計画・実践・評価・改善」と循環しながら行われており、この全体構造をとらえることを目指す。

また、計画を作成する際には、園の保育目標や子どもの発達、環境構成、保育者の援助のあり方、家庭や地域との連携など様々な内容を把握・検討した上で作成されることを学習する。

2. 教育・学習の個別課題

- (1)保育課程と指導計画の種類と役割について理解する。
- (2)年齢別の指導計画の作成方法と展開について理解する。
- (3)指導計画の評価とその意義について理解する。

3. 教育・学習の方法

講義形式で教科書を使って進めていくが、適宜演習を取り入れる。また、適宜、資料配布によっても講義を進める。

・準備学習の具体的な方法

- ・事前に、保育所保育指針と保育所保育指針解説書を読んでおくこと。
- ・授業終了後は、指定の教科書と資料を読んで復習をすること。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業参加度(10%)、課題提出(20%)、定期試験(70%)に基づいて、総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
 保育所保育指針について
 第2回 保育課程とは
 第3回 指導計画とは
 第4回 保育課程の編成
 保育課程編成の意義
 保育課程編成の手順
 第5回 保育課程編成の手順
 第6回 保育課程編成の実際
 第7回 指導計画の作成と作成上の留意事項
 第8回 指導計画作成の手順
 第9回 指導計画の実際と展開
 第10回 3歳未満児クラスの指導計画
 第11回 3歳以上児クラスの指導計画
 第12回 保育の評価と記録
 第13回 保育所における自己評価の実際
 第14回 保育課程と指導計画の再編成
 第15回 保育所児童保育要録について

6. 留意事項

講義コード	24534558		
科目名	保育内容総論P		
担当者	石井 浩子		
単位数	1	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷』 民 秋 言 編 萌文書林 2008年		
参考文献	『新・保育内容総論第2版』 太田悦生編 (株)みら い 2010年 『新保育内容総論』 阿部和子・前原 寛・久富陽子 萌文書林 2010年		
備考	半年の半分 特別選択科目		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

保育内容とは、保育所において保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味するものであることを理解する。そして、領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）別の教科の学びとともに、それらを総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。

また、保育士として、子ども、保護者、保育所を取り巻く環境・社会情勢についての理解や発達過程に即した子どもの理解、そして、総合的に指導、援助が行えるよう、実践的な力を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

- (1)5領域を視野に入れた、子どもと保育内容について理解する。
- (2)幼児理解や指導計画、援助方法、保育の評価と反省など、保育の流れを概観しながらそれぞれについて具体的に検討、考察する。
- (3)保育内容の諸項目概観し、乳幼児期にどのような保育が必要かを理解する。

3. 教育・学習の方法

講義形式で教科書を使って進めていくが、適宜演習を取り入れる。適宜、資料配布やパワーポイントによる資料提示で講義を進める。

・準備学習の具体的な方法

- ・事前に、保育所保育指針及び保育所保育指針解説書を読んでおくこと。
- ・授業終了後にも復習をすること。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業参加度(10%)、課題提出(20%)、確認テスト(70%)に基づいて、総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 保育内容とは何か
 第2回 「保育所保育指針」と保育内容
 5領域について
 第3回 保育の一日と保育の内容
 3歳未満児と3歳以上児の生活と保育内容
 第4回 発達のとらえ方と保育内容
 保育所保育指針における発達のとらえ方
 第5回 保育内容における遊びの意味
 保育内容としての遊び
 生活と遊びの関係
 第6回 保育内容とその展開
 (保育計画と指導計画、保育の評価と記録)
 第7回 保育内容の歴史の変遷
 第8回 現代の保育課題と保育内容
 まとめ

6. 留意事項

講義コード	24534559		
科目名	保育内容総論Ⅱ		
担当者	石井 浩子		
単位数	1	配当学年	2
資格	【保】		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷』 民秋 言編 萌文書林 2008年 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年 『新保育内容総論』 阿部和子・前原 寛・久富陽子 萌文書林 2010年		
備考	半年の半分 保育士養成課程専用クラス		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

保育内容とは、保育所において保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味するものであることを理解する。そして、領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）別の教科の学びとともに、それらを総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。

また、保育士として、子ども、保護者、保育所を取り巻く環境・社会情勢についての理解や発達過程に即した子どもの理解、そして、総合的に指導、援助が行えるよう、実践的な力を習得する。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 5領域を視野に入れた、子どもと保育内容について理解する。
- (2) 幼児理解や指導計画、援助方法、保育の評価と反省など、保育の流れを概観しながらそれぞれについて具体的に検討、考察する。
- (3) 保育内容の諸項目概観し、乳幼児期にどのような保育が必要かを理解する。

3. 教育・学習の方法

講義形式で教科書を使って進めていくが、適宜演習を取り入れる。適宜、資料配布やパワーポイントによる資料提示で講義を進める。

・準備学習の具体的な方法

事前に、保育所保育指針及び保育所保育指針解説書を読んでおくこと。授業終了後にも復習をすること。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業参加度(10%)、課題提出(20%)、確認テスト(70%)に基づいて、総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 保育内容とは何か
- 第2回 「保育所保育指針」と保育内容
5領域について
- 第3回 保育の一日と保育の内容
3歳未満児と3歳以上児の生活と保育内容
- 第4回 発達のとらえ方と保育内容
保育所保育指針における発達のとらえ方
- 第5回 保育内容における遊びの意味
保育内容としての遊び
生活と遊びの関係
- 第6回 保育内容とその展開
(保育計画と指導計画、保育の評価と記録)
- 第7回 保育内容の歴史の変遷
- 第8回 現代の保育課題と保育内容
まとめ

6. 留意事項

講義コード	24534658			
科目名	保育相談支援P			
担当者	山本 智也			
単位数	1	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト	『保育実践に求められるソーシャルワーク』 橋本好市/直島正樹編著 ミネルヴァ書房 2012			
参考文献	『保育相談支援』 柏女霊峰/橋本 真紀編著 ミネルヴァ書房 2011 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008			
備考	特別選択科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

子どもの保育の専門性を有する保育士として、保育に関する専門的知識・技術を背景としながら、保護者が求めている子育ての問題や課題に対して、保護者の気持ちを受け止めつつ、安定した親子関係や養育力の向上を目指して、保護者に対する支援を行っていくことが求められている。

本科目では、保護者に対する支援を行っていくための実践力の基礎を体得していくことを目指している。

2. 教育・学習の個別課題

1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。
2. 保護者支援の基本を理解する。
3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。
4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

3. 教育・学習の方法

ロールプレイングやグループ討議、事例研究などの方法を取り入れながら授業を行う。

受講生による発表及び前回授業で取り上げた内容について的小テストを原則として毎回実施する。

・準備学習の具体的な方法

発表準備のための予習、前回授業で取り上げた内容について的小テストのための復習が必須である。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度(30%)、小テスト(30%)、形成テスト(40%)に基づいて、総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 保育とソーシャルワーク
- 第2回 保育におけるソーシャルワークの考え方と視点
- 第3回 保育におけるソーシャルワークの機能と実際
- 第4回 保育におけるソーシャルワークの方法と技術
- 第5回 保育相談支援の重要性
- 第6回 保護者との関係構築
- 第7回 地域子育て支援
- 第8回 事例分析に必要な手法
- 第9回 保育士としての資質向上に向けた事例分析1
- 第10回 保育士としての資質向上に向けた事例分析2
- 第11回 保育士としての資質向上に向けた事例分析3
- 第12回 保育士としての資質向上に向けた事例分析4
- 第13回 保育士としての資質向上に向けた事例分析5
- 第14回 保育士としての資質向上に向けた事例分析6
- 第15回 形成テストと総括

6. 留意事項

講義コード	24534659			
科目名	保育相談支援Ⅱ			
担当者	山本 智也			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『保育実践に求められるソーシャルワーク』 橋本好市/直島正樹編著 ミネルヴァ書房 2012			
参考文献	『保育相談支援』 柏女霊峰/橋本 真紀編著 ミネルヴァ書房 2011 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008			
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

子どもの保育の専門性を有する保育士として、保育に関する専門的知識・技術を背景としながら、保護者が求めている子育ての問題や課題に対して、保護者の気持ちを受け止めつつ、安定した親子関係や養育力の向上を目指して、保護者に対する支援を行っていくことが求められている。

本科目では、保護者に対する支援を行っていくための実践力の基礎を体得していくことを目指している。

2. 教育・学習の個別課題

1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。
2. 保護者支援の基本を理解する。
3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。
4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

3. 教育・学習の方法

ロールプレイングやグループ討議、事例研究などの方法を取り入れながら授業を行う。

受講生による発表及び前回授業で取り上げた内容について的小テストを原則として毎回実施する。

・準備学習の具体的な方法

発表準備のための予習、前回授業で取り上げた内容について的小テストのための復習が必須である。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度(30%)、小テスト(30%)、形成テスト(40%)に基づいて、総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 保育とソーシャルワーク
- 第2回 保育におけるソーシャルワークの考え方と視点
- 第3回 保育におけるソーシャルワークの機能と実際
- 第4回 保育におけるソーシャルワークの方法と技術
- 第5回 保育相談支援の重要性
- 第6回 保護者との関係構築
- 第7回 地域子育て支援
- 第8回 事例分析に必要な手法
- 第9回 保育士としての資質向上に向けた事例分析1
- 第10回 保育士としての資質向上に向けた事例分析2
- 第11回 保育士としての資質向上に向けた事例分析3
- 第12回 保育士としての資質向上に向けた事例分析4
- 第13回 保育士としての資質向上に向けた事例分析5
- 第14回 保育士としての資質向上に向けた事例分析6
- 第15回 形成テストと総括

6. 留意事項

講義コード	24534701			
科目名	保育実習指導Ⅰ			
事前事後指導				
担当者	萩原 暢子・石井 浩子・鶴飼 真理子・畠山 寛・山本 智也			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『三訂 福祉施設実習ハンドブック』 岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲・児玉俊郎 (株)みらい 2011年			
参考文献	『幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷』 民秋 言 萌文書林 2008年 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年 『やさしく学べる保育実践ポートフォリオ』 植原邦子 ミネルヴァ書房 2005年			
備考	「保育原理Ⅰ・Ⅱ」の履修者であること 保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

保育所及び施設における実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を実りあるものにすることを目標とする。具体的には、保育所と施設の制度、役割、機能、子どもの発達、観察の仕方、援助の仕方、指導計画の立て方、記録の方法など、基礎的な項目について学ぶことにより、保育実習への理解を深めるとともに、実習の心構えを身につけることをめざす。

事後指導では、実習を通して学んだことや反省などから、今後の自己の学習内容や課題を探ることをめざす。

2. 教育・学習の個別課題

- (1)実習の目的や内容、方法、留意事項などを具体的に理解する。
- (2)保育観察の方法や「実習記録」の記入の仕方、指導計画の作成方法、基礎的な保育技能・技法を身につける。
- (3)実習を評価・反省し、実習後の学習課題を明確にする。

3. 教育・学習の方法

講義によって、実習に必要な事柄を理解するとともに、心構えについて学ぶ。また、実習施設への見学や保育に参加することにより、事前に現場の状況を理解する。

実習に必要な保育技術や知識について、レポートを課す。

実習中に、施設の実習担当者との連携のもと、実習生への指導を行う。

事後指導は、実習終了後に行う。日時については、事前実習指導授業内に知らせるので、必ず出席すること。

・準備学習の具体的な方法

これまで履修した講義から、保育所や施設の制度や役割、機能、また、保育者の役割などについて再確認しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業の出席率・授業参加度(50%)、確認テスト・課題・事前事後指導への出席・発表状況など(50%)に基づいて、総合的に評価する。

なお、原則として欠席は認められない。提出物の制限は厳守すること。

5. 授業予定

- 第1回 保育実習オリエンテーション
保育実習の意義と目的
- 第2回 実習の内容と方法、実習の流れや手続きなど
- 第3回 保育所実習について
保育所とは
- 第4回 園行事や一日の流れの理解
- 第5回 乳幼児の園生活と保育環境
- 第6回 乳幼児の発達と保育、乳幼児の活動と保育者の関わり
- 第7回 保育園での具体的な援助と指導実践の基礎理解
- 第8回 観察方法、記録のとり方
実習記録の書き方の実際と注意事項
- 第9回 児童文化財を使った実技を含む模擬保育指導計画の立て方
- 第10回 保育所見学
- 第11回 指導案の作成と模擬保育(討議)
- 第12回 実習課題の作成
- 第13回 観察方法と記録のとり方
実習記録の書き方の実際と注意事項
- 第14回 学内オリエンテーション
- 第15回 実習終了後
事後指導〔実習報告、成績開示、個別指導〕

- 第16回 施設実習オリエンテーション
施設実習の意義と目的
実習の内容と方法、実習の流れや手続きなど
- 第17回 施設実習について
児童福祉施設の機能と内容、乳児院、母子生活支援施設と入所児の生活の理解
- 第18回 児童養護施設、知的障害児施設と入所者生活の理解
- 第19回 肢体不自由児施設、重症心身障害児施設など入所者の生活の理解
- 第20回 知的障害者更生施設、知的障害者授産施設と入所者の生活の理解
- 第21回 盲ろうあ児施設、児童自立支援施設などの理解
- 第22回 施設見学
- 第23回 施設での生活と保育者・指導員の役割
- 第24回 個人票作成
- 第25回 実習施設についての理解
施設行事や一日の流れの理解
- 第26回 障害児・者の介護・援助、指導など
- 第27回 実習課題の作成
- 第28回 観察方法と記録のとり方
実習記録の書き方の実際と注意事項
- 第29回 学内オリエンテーション
- 第30回 実習終了後
事後指導〔実習報告、成績開示、個別指導〕

6. 留意事項

- ・この授業を履修しなければ、「保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2」は履修できない。
- ・授業時間以外にも、必要に応じて授業を行う場合がある。必ず出席すること。
- ・出席不足や資格取得に必要な科目の履修状況から、履修や実習を中止することもあるので注意すること。

講義コード	24534801		
科目名	保育実習指導Ⅱ A 保育所実習Ⅱ 事前事後指導		
担当者	萩原 暢子・石井 浩子・鶴飼 真理子・畠山 寛・山本 智也		
単位数	1	配当学年	34
資格	〔保〕		
前提科目	保育原理Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2		
テキスト			
参考文献	『健康福祉シリーズ③ 実習指導概説 保育・教育・施設実習』 前橋 明・石井浩子編著 ふくろう出版 2012年 『やさしく学べる保育実践ポートフォリオ』 植原邦子 ミネルヴァ書房 2005年		
備考 科目読替	保育士養成課程専用クラス		
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	24534802		
科目名	保育実習指導Ⅱ B 保育所実習Ⅱ 事前事後指導		
担当者	萩原 暢子・石井 浩子・鶴飼 真理子・畠山 寛・山本 智也		
単位数	1	配当学年	34
資格	〔保〕		
前提科目	保育原理Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2		
テキスト			
参考文献	『健康福祉シリーズ③ 実習指導概説 保育・教育・施設実習』 前橋 明・石井浩子編著 ふくろう出版 2012年 『やさしく学べる保育実践ポートフォリオ』 植原邦子 ミネルヴァ書房 2005年		
備考 科目読替	保育士養成課程専用クラス		
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

この科目は、保育実習Ⅱ(保育所実習)の事前学習と事後指導を行うものである。保育実習Ⅱの意義と目的、その内容について理解を深め、保育について総合的に学ぶ。よって、これまで履修した科目の内容や「保育実習Ⅰ」での学び、また、新たな自己課題を踏まえ、総合的に実践する応用能力を培うことをめざす。

事後指導では、自己評価やグループディスカッションを通して、実習総括を行うとともに、今後の自己の課題を明確にすることをめざす。

2. 教育・学習の個別課題

・保育実習Ⅱでは、前回の実習からさらに進んだ実習の目的と内容であることを理解する。

・前回の実習の経験を生かし、保育や子どもたちの観察、子どもたちの関わり、実習記録への記入、指導計画の作成、保育技能・技法などの習得を身につける。

3. 教育・学習の方法

・講義によって、保育実習Ⅱに必要な事柄を理解するとともに、心構えについても学ぶ。

・実習前後に課題を出す。

・事後指導は、実習終了後に行う。

4. 準備学習の具体的な方法

・保育実習Ⅰの実習内容をふりかえり、自己課題を明確にしておくこと。

・これまで履修した科目から、保育所の制度や役割、機能、また、保育者の役割などについて、再確認をすること。

4. 評価方法・評価基準

授業の出席率・授業参加度(30%)、提出物の状況(30%)、確認テスト・課題(40%)に基づいて、総合的に評価する。

5. 授業予定

第1回 保育実習Ⅱ(保育所実習)の意義と目的

第2回 実習記録の意義と方法の理解

第3回 実習の流れや手続きなど

実習に必要な書類作成、課題設定など

第4回 実習記録の理解① 実習日誌の意義と書き方

第5回 実習記録の理解② 実習日誌を振り返る(Ⅰ・Ⅱ)

第6回 保育所見学① 見学

第7回 保育所見学② 観察・参加

第8回 指導計画の理解① 指導実習について(部分実習)

第9回 指導計画の理解② 部分実習指導案作成

第10回 指導計画の理解③ 指導実習について(半日実習・一日実習)

第11回 指導計画の理解④ 半日実習・一日実習指導案作成

第12回 実習の心構え 実習課題の明確化

第13回 学内オリエンテーション

第14回 事後指導① 実習報告

第15回 事後指導② まとめ、実習記録および成績票による個別面接指導

6. 留意事項

- ・この授業を履修しなければ、「保育実習Ⅱ」は履修できない。
- ・原則として欠席は認められない。提出物の期限は厳守すること。

講義コード	24534901		
科目名	保育実習指導Ⅲ A		
担当者	萩原 暢子・石井 浩子・鶴飼 真理子・畠山 寛・山本 智也		
単位数	1	配当学年	34
資格	〔保〕		
前提科目	保育原理Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2		
テキスト			
参考文献	『三訂 福祉施設実習ハンドブック』 岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲・児玉俊郎 (株)みらい 2011年		
備考 科目読替	保育士養成課程専用クラス		
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	24534902			
科目名	保育実習指導ⅢB			
担当者	萩原 暢子・石井 浩子・鶴飼 真理子・畠山 寛・山本 智也			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[保]			
前提科目	保育原理Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2			
テキスト				
参考文献	『三訂 福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲・児玉俊郎 (株)みらい 2011年			
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24801101			
科目名	色彩学A 色によるイメージ伝達を体系的に学ぶ			
担当者	森田 麻祐子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[建][イ]			
前提科目				
テキスト	『新配色カード199a』 日本色彩研究所			
参考文献	『カラーコーディネーター入門 色彩』 大井義雄・川崎秀昭 日本色研事業(株) 2007年			
備考	定員30人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

1. 保育実習の意義と目的を理解し、養護・療育について総合的に学ぶ。
2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

2. 教育・学習の個別課題

- (1)実習の目的や内容、方法、留意事項などを具体的に理解する。
- (2)保育観察の方法や「実習記録」の記入の仕方、指導計画の作成方法、基礎的な保育技能・技法を身につける。
- (3)実習を評価・反省し、実習後の学習課題を明確にする。

3. 教育・学習の方法

講義によって、実習に必要な事柄を理解するとともに、心構えについて学ぶ。また、実習施設への見学や保育に参加することにより、事前に現場の状況を理解する。

実習に必要な保育技術や知識について、レポートを課す。

実習中に、施設の実習担当者との連携のもと、実習生への指導を行う。事後指導は、実習終了後に行う。日時については、事前実習指導授業内に知らせるので、必ず出席すること。

・準備学習の具体的な方法

これまで履修した講義から、保育所や施設の制度や役割、機能、また、保育者の役割などについて再確認しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業の出席率・授業参加度(50%)、確認テスト・課題・事前事後指導への出席・発表状況など(50%)に基づいて、総合的に評価する。

なお、原則として欠席は認められない。提出物の制限は厳守すること。

5. 授業予定

- 第1回 事前指導①：保育実習Ⅲの内容と目的
- 第2回 事前指導②：子どもの最善の利益を考慮した養護・療育の具体的な理解
- 第3回 事前指導③：子どもの養護・療育と保護者支援
- 第4回 事前指導④：子どもの状態に応じた適切ななかかわり①
- 第5回 事前指導⑤：子どもの状態に応じた適切ななかかわり②
- 第6回 事前指導⑥：保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践①
- 第7回 事前指導⑦：保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践②
- 第8回 事前指導⑧：養護・療育の観察、記録、自己評価に基づく養護・療育の改善
- 第9回 事前指導⑨：保育士の専門性と職業倫理
- 第10回 事前指導⑩：実習計画を作成する①
～実習Ⅰ-Ⅱを振り返る～
- 第11回 事前指導⑪：実習計画を作成する②
～実習Ⅲの課題を明確化する～
- 第12回 事前指導⑫：個人票等の作成
- 第13回 事後指導①：個人発表
- 第14回 事後指導②：グループ討議
- 第15回 事後指導③：面談

6. 留意事項

講義コード	24801102			
科目名	色彩学B 色によるイメージ伝達を体系的に学ぶ			
担当者	森田 麻祐子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[建][イ]			
前提科目				
テキスト	『新配色カード199a』 日本色彩研究所			
参考文献	『カラーコーディネーター入門 色彩』 大井義雄・川崎秀昭 日本色研事業(株) 2007年			
備考	定員30人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

「色」は造形活動のうえで、形、テクスチャーとともに、表現するための重要な要素ともいえる。「色」を体系的に学ぶことにより、色彩システムの基本知識を習得し、色彩表現、色彩計画において色を有効に活用できるように、色の区別、再現、配色方法に関する理解を深める。

2. 教育・学習の個別課題

1. 12色相環の作成
2. 色の三属性を把握する配色演習
3. 季節感の色彩構成
4. 日本の色のブックカバーデザイン
5. 配色技法を用いたパターン制作
6. エクステリアの色彩設計
7. インテリアの色彩設計

3. 教育・学習の方法

配付プリントと画像資料を用いて理論を学んだ後、配色カードや絵の具による実技演習を行う。必要な文具・画材等は適宜指示する。

・準備学習の具体的な方法

気に入ったデザインやテキスタイルがどのような配色になっているかを観察すること。

4. 評価方法・評価基準

授業時の課題・授業参加度(50%)と定期試験(50%)の総合評価とする。

5. 授業予定

- 第1回 色の本質(色と視覚、色の分類、色知覚の三属性)
- 第2回 演習課題1、12色相環の作成(目的色の出し方、混色方法)
- 第3回 色の体系(色名と日本色研配色体系、マンセル表色系)
- 第4回 演習課題2、色の三属性を把握する配色演習
- 第5回 色の見え方(対比と同化、面積効果など)
- 第6回 演習課題3、季節感の色彩構成(色のイメージ表現)
- 第7回 色の心理(色のイメージと感情効果)
- 第8回 演習課題4、日本の色のブックカバーデザイン
- 第9回 色の調和と配色
- 第10回 演習課題5、配色技法を用いたパターン制作
- 第11回 建築の色彩設計
- 第12回 演習課題6、エクステリアの色彩設計
- 第13回 インテリアとエクステリアの色彩調和
- 第14回 演習課題7、インテリアの色彩設計
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

課題を行う際、配色カードの他に絵具やケント紙などの画材が必要となります。

講義コード	24801201		
科目名	デザイン論Ⅰ 近代デザインの歴史		
担当者	山田 由希代		
単位数	2	配当学年	12
資格	[建][イ]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『近代建築史』 石田潤一郎、中川理編 昭天堂 1998		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

住環境にまつわる形態表現について考察する。具体的には、建築をはじめとして、私たちの身の回りに存在してきた日用品の数々を含めた作品のなかから、「かたち」がどのように構成されているのかを読み解くことによって、近代デザインの歴史と特徴を習得することを目標とする。それによって、作品に込められた「かたち」や「空間」のとらえ方を的確に把握するとともに、より豊かな見方を養うことを目指したい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 作品を鑑賞する。
2. 作品の制作背景を学ぶ。
3. 作品に込められた意味を理解する。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法

配布プリントと画像資料を用いて講義を進める。

2. テキスト・参考文献など

必要ときにプリントを配布する。
参考文献は、授業中に適宜指示する。

・準備学習の具体的な方法

参考文献もしくは参考文献に準じる近代建築史に関する図書に目を通しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

期末試験 (60%)、授業参加度 (30%)、授業内での小レポート (10%) を総合して行う。

5. 授業予定

- 第1回 産業革命について
- 第2回 産業革命と建築
- 第3回 ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動
- 第4回 アーツ・アンド・クラフツ運動のデザイン
- 第5回 アール・ヌーヴォーのデザイン
- 第6回 アール・ヌーヴォーと日本文化
- 第7回 アバンギャルド
- 第8回 アール・デコのデザイン
- 第9回 アール・デコと都市文化
- 第10回 バウハウス
- 第11回 近代建築家 フランク・ロイド・ライト (1)
- 第12回 近代建築家 フランク・ロイド・ライト (2)
- 第13回 近代建築家 ル・コルビュジエ
- 第14回 近代建築家 ミース・ファン・デル・ローエ
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

建築物や作品の特徴をしっかりと把握すること。

講義コード	24801301		
科目名	デザイン論Ⅱ 空間の歴史		
担当者	山田 由希代		
単位数	2	配当学年	34
資格	[建][イ]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

絵画、彫刻、写真、音楽をはじめとして、あらゆる芸術分野の横断が活発となった今日、建築やインテリアのデザインが、どのような意味をもつのかについて考えることは重要である。本講義では、西洋および日本の建築の歴史を見ていくことで、人間が造りだしてきた空間がどのようなものであったのか、また、造りだされた空間にはどのような意味があるのかについて学ぶことを目的とする。東西の建築や空間を紹介し、その鑑賞を通して、なぜこのような空間が生まれたのか、あるいはこのような空間が何を表現するのかについて考察する。なお、すでに「デザイン論Ⅰ」を受講していること。

2. 教育・学習の個別課題

1. 各時代、分野を代表する作品を鑑賞する。
2. 各時代、分野を代表する作品の制作背景を学ぶ。
3. 作り手の思想を読み取る。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法

配布プリントと画像資料を用いて講義を進める。

2. テキスト・参考文献など

基本的に、毎回プリントを配布する。
参考文献は、授業中に適宜指示する。

・準備学習の具体的な方法

授業予定一覧にあげた内容について、あらかじめ図書館などで確認しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

期末試験 (60%)、授業参加度 (30%)、授業内での小レポート (10%) を総合して行う。

5. 授業予定

- 第1回 I 西洋建築
古代ギリシア・ローマ
- 第2回 中世キリスト教
- 第3回 ロマネスク
- 第4回 ゴシック
- 第5回 ルネサンス
- 第6回 バロック
- 第7回 ロココ
- 第8回 新古典主義
- 第9回 II 日本建築
寺院・神社
- 第10回 住宅
- 第11回 城郭
- 第12回 数奇屋・茶室
- 第13回 和洋折衷の建築
- 第14回 モダニズム建築
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

空間に関連して、建築に限らず、表現における幅広い知識を得ること。

講義コード	24801401		
科目名	家庭電気・機械及び情報処理		
担当者	遠藤 久満		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[家][イ]		
前提科目			
テキスト	テキスト使用せず		
参考文献	『21世紀の生活環境をつくる家庭電気・情報・機械』 松山正彦 医歯薬出版 『新家庭機械・電気』 岡部 嶺 編集 医歯薬出版 『電気がわかる本』 松原洋平 オーム社		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

豊かな人生を送るための基盤となる家庭生活を便利で快適かつ安全なものにするために、家庭で使われる機器に対する、電気・機械・情報処理などに関する基礎知識を理解することにより、それらを安全で適切に使いこなす能力を養うことを目標とする。さらに、これら機器の利用にかかわる環境負荷についても学び、機器を利用した豊かな生活の継続を図るための意識を高める。

2. 教育・学習の個別課題

- 身近な機器（家庭の電化製品や機械、情報機器）の動作原理を理解し、適切・安全・効率的な使用方法を学ぶ。
- 電気（電気・磁気現象、送配電）の基礎知識を学ぶ。
- 機械の要素技術の基礎知識を学ぶ。
- 情報・通信技術の基礎知識を学ぶ。
- 環境への配慮について理解を深める。

3. 教育・学習の方法

- 講義と演習をセットとし、学習効果を確かめながら行う。
- 適宜、資料を配布するが、OHC、板書を用いて進めるためノートをとること。
- 受講生全員に、当日の講義内容に対する質問・コメント票を提出してもらい、学習効果の確認、講義内容の改善に資する。
- 講義の進度や受講者の理解度を勘案して、小テストを実施する。

・準備学習の具体的な方法

- 受講者の理解度や、講義の進度に応じて、適宜、事前に準備課題を与える。
- 学習結果をレポートとして提出することを求める場合もある。

4. 評価方法・評価基準

評価は ・ 30%：出席率・授業参加率（質問・コメント票により確認）や授業態度（不適切な発言や行為）、 ・ 20%：準備課題レポートや小テストの評価、 ・ 50%：最終試験等を総合して実施する。なお、欠席回数が3分の1を超過した場合には原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 電気・磁気現象の基礎
- 第3回 家庭への電力供給と電気の安全な利用
- 第4回 家電機器の動作原理と取扱い（1）
- 第5回 家電機器の動作原理と取扱い（2）
- 第6回 家電機器の動作原理と取扱い（3）
- 第7回 機械工学の基礎
- 第8回 機械の要素技術
- 第9回 身近な機械の動作原理と取扱い（1）
- 第10回 身近な機械の動作原理と取扱い（2）
- 第11回 情報処理技術の基礎
- 第12回 情報処理機器の原理と取扱い（1）
- 第13回 情報処理機器の原理と取扱い（2）
- 第14回 環境への配慮
- 第15回 当該授業全体にわたるまとめ

6. 留意事項

授業はテキストを中心に講義形式で行う。必要に応じてビデオやスライドを使用する。

・準備学習の具体的な方法

1. 個々の授業内容は相互に関連するので復習につとめ、次の授業の理解に備えることが望ましい。
2. 専門用語については社会福祉辞典などに目を通し、十分な理解を得ておくことが望ましい。

4. 評価方法・評価基準

1. 授業参加度30%、定期試験70%をもとに総合的に評価を行う。
2. 欠席、遅刻は減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 社会福祉の専門職と専門職制度
- 第2回 社会福祉専門職の専門性と倫理
- 第3回 社会福祉援助の意義
- 第4回 社会福祉援助の価値と原理
- 第5回 社会福祉援助技術の体系とその内容（1）直接援助技術と間接援助技術
- 第6回 社会福祉援助技術の体系とその内容（2）その他の関連技術
- 第7回 社会福祉の実践機関と施設（1）児童福祉、高齢者福祉（地域包括支援センターを含む）
- 第8回 社会福祉の実践機関と施設（2）障害者、地域福祉
- 第9回 社会福祉の実践機関と施設（3）生活保護、母子福祉
- 第10回 非専門職の役割—民生委員、ボランティア
- 第11回 世界の社会福祉（1）
- 第12回 世界の社会福祉（2）アメリカ
- 第13回 世界の社会福祉（3）北欧
- 第14回 世界の社会福祉（4）アジア
- 第15回 これからの社会福祉のあり方と展望

6. 留意事項

1. 授業は教科書にそって行うので必ず購入しておくこと。
2. カードリーダーで出欠を確認するので、必ず学生カードは携帯すること。

講義コード	24801901			
科目名	社会福祉原論Ⅱ			
担当者	野村 武夫			
単位数	2	配当学年	12	
資格	[福][社][精][保]			
前提科目				
テキスト	『社会福祉概論[第2版]』 基礎からの社会福祉編集委員会 ミネルヴァ書房 2011年			
参考文献	『社会福祉用語辞典』 ミネルヴァ書房 2010年 『社会福祉基本用語集』 ミネルヴァ書房 2010年 『社会福祉小六法』 ミネルヴァ書房 2010年			
備考	「社会福祉原論Ⅰ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

1. 個人や家族などが抱える生活上の問題を解決・支援する社会福祉専門職に関する制度、専門性、倫理などについて理解する。
2. 社会福祉の対象(利用者) についての問題理解とともに、問題解決のために活用される社会福祉援助技術の体系と内容についての理解する。
3. 社会福祉援助の視点、援助における専門職の役割や援助のあり方について学ぶ。
4. 社会福祉機関や施設のサービスと従事する専門職、また他領域の専門職種との連携について学ぶ。
5. 社会福祉をめぐる諸外国の動向と日本の現状を知り、これからの社会福祉のあり方について考える。

2. 教育・学習の個別課題

1. 社会福祉の専門職と専門職制度
2. 専門職の専門性と倫理
3. 社会福祉の援助と専門技術
4. 社会福祉の実践機関、施設、社会資源
5. 世界の社会福祉の動向

3. 教育・学習の方法

講義コード	24802001			
科目名	老人福祉論Ⅱ 高齢者に対する援助と福祉サービス			
担当者	三好 明夫			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[福][社]			
前提科目				
テキスト	『高齢者福祉学』 三好明夫 西尾隆司編著 学文社			
参考文献	随時紹介する			
備考	「老人福祉論Ⅰ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

高齢者を対象とした主要な社会福祉援助は法的制度に裏付けられて展開される。そこで、高齢者を対象とした主要な社会制度である老人福祉法、老人保健法、介護保険法の概要と具体的なサービス内容を理解することを目指す。その上で、高齢者福祉に関する政策動向を吟味するとともに実際に援助を担う専門職について理解を深め、専門職が援助を展開する際に活用する社会福祉援助技術の手法の獲得を目指し、人権擁護に根差した高齢者社会の構築を模索する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 高齢者福祉サービスの概要を学ぶ
2. 介護保険法についての理解を深める
3. 高齢者福祉の関連施策について学ぶ
4. 高齢者を支援する社会福祉援助技術の実践について学ぶ
5. 高齢者の人権擁護の実践について学ぶ

3. 教育・学習の方法

教科書の活用とともに適宜配布する資料も活用して進めていく。限られた時間ではあるが資料の熟読も必要になってくる。講義終了時には理解度を確かめるための小テストを毎回実施する。

・準備学習の具体的な方法

高齢者福祉に関する新聞記事なども紹介、印刷するが、受講生にはその内容についての意見感想を求めたので日頃から高齢者に関する話題については意識しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業参加度(30%)、小テスト(20%)、定期試験(50%)とし、その総合点を最終評価とする。欠席回数が3分の1を超えた場合には原則単位認定しない。

5. 授業予定

- 第1回 介護保険制度の仕組み (1)
- 第2回 介護保険制度の仕組み (2)
- 第3回 介護保険制度の仕組み (3)
- 第4回 介護保険制度の仕組み (4)
- 第5回 介護保険サービス (1)
- 第6回 介護保険サービス (2)
- 第7回 介護保険サービス (3)
- 第8回 高齢者福祉行政
- 第9回 地域生活支援センター
- 第10回 社会福祉協議会
- 第11回 NPO とボランティア
- 第12回 高齢者援助の方法 (1)
- 第13回 高齢者援助の方法 (2)
- 第14回 専門職の役割
- 第15回 専門職の実際

6. 留意事項

本科目と老人福祉論Ⅰは社会福祉士資格の取得をめざす学生は、併せて履修しなければならない。

講義コード	24802501			
科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ A 支援を必要としている人たちの安心と安全をまもる			
担当者	三好 明夫			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[社][保]			
前提科目				
テキスト	『保育ソーシャルワークのフロンティア』 伊藤高良 晃洋書房 2011			
参考文献	『相談援助演習』 弘文社			
備考	定員 20 人 「社会福祉援助技術演習Ⅰ」の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24802502			
科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ B 支援を必要としている人たちの安心と安全をまもる			
担当者	三好 明夫			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[社][保]			
前提科目				
テキスト	『保育ソーシャルワークのフロンティア』 伊藤高良 晃洋書房 2011			
参考文献	『相談援助演習』 弘文社			
備考	定員 20 人 「社会福祉援助技術演習Ⅰ」の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本演習は「社会福祉援助技術」、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」の履修を基礎とした「社会福祉援助技術現場実習」の事後授業、ならびにこれまで修得した社会福祉援助技術のまとめの科目として位置づけられる。本演習で学生は実習の体験を活かしつつ、さまざまな社会福祉実践の場で対人援助に従事する専門職としてのより専門的な能力を身につけることをめざしている。

2. 教育・学習の個別課題

社会福祉援助技術、対人援助の意味と役割を明確にしつつ、現場の実践に活かせる対人援助能力を身につけることである。そのために対人援助技術の基礎的理論を確認しつつ、対人援助専門職としての専門的なく援助者の態度、＜コミュニケーション技術＞、＜援助プロセスの実際＞を、観察・考察する演習と事例検討を通して学習する。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法：1 社会福祉援助技術の実際資料／映像の提示 2 社会

福祉援助技術の視点からの講義と解説 3 ロールプレイ、カンファレンスを含んだ演習、事例検討を行う。本演習では、各学生が自分自身で学習し、考え、主体的に参加し行動発言することを求める。後半では受講生が1事例ずつソーシャルワーカー役となり担当していく。

・準備学習の具体的な方法

社会福祉実践の現場はさまざまに変化を続けている。生身の人間の生活を支援するということではこの演習は将来対人援助に携わることを想定しているため、日常からテレビや新聞等で社会福祉関連の話題や記事を見つけて理解度を深めておく必要がある。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加度（グループワーク、ロールプレイ等）（50%）と演習課題レポート（50%）をもって総合評価する。欠席回数が3分の1を超えた場合には原則単位認定することはできない。

5. 授業予定

- 第1回 社会福祉援助技術実践とは何か
- 第2回 社会福祉援助技術演習の意義と方法
- 第3回 自己理解と他者理解
- 第4回 コミュニケーション技法、プレゼンテーション技法
- 第5回 ネゴシエーション技法、ディベート技法
- 第6回 面接技法、記録技法
- 第7回 マッピング技法
- 第8回 評価技法と価値と倫理
- 第9回 相談援助のプロセス
- 第10回 ケースワーク、グループワーク
- 第11回 コミュニティワーク、ケアマネジメント
- 第12回 チームアプローチ、アウトリーチ
- 第13回 ネットワーキング
- 第14回 社会福祉調査
- 第15回 社会資源
- 第16回 こどもと事例検討
- 第17回 高齢者と事例検討
- 第18回 家族関係と事例検討
- 第19回 生活保護と事例検討
- 第20回 事例検討1
- 第21回 事例検討2
- 第22回 事例検討3
- 第23回 事例検討4
- 第24回 事例検討5
- 第25回 事例検討6
- 第26回 事例検討7
- 第27回 事例検討8
- 第28回 事例検討9
- 第29回 事例検討10
- 第30回 社会福祉援助技術のマインドと体験学習

6. 留意事項

社会福祉士受験予定者は必ず受講すること

講義コード	24802901			
科目名	医学一般Ⅱ			
担当者	大野 まどか			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[社][健][精]			
前提科目				
テキスト	『ベーシックシリーズ ソーシャルウェルフェア 保健医療サービス』 児島美都子・成清美治・牧洋子編著 学文社 2009年			
参考文献	『新・社会福祉士養成講座17 「保健医療サービス」第3版』 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2012			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

傷病は時として人間の生活に大きな社会的、心理的問題を引き起こすことがあり、医療と福祉は相互に深い関連性を持っている。本講義では、現代の日本の保健医療をとりまく状況とその中で望まれる保健医療サービスのあり方を考察する。また保健医療分野を理解するために必要な、医療保障制度（医療保険制度、公費負担制度等）・診療報酬制度・介護保険制度について理解する。さらに、保健医療サービスの各専門職の役割を理解し、特に保健医療ソーシャルワークについて、その援助過程や援助の実際

を事例を通して検討し、理解を深める。

2. 教育・学習の個別課題

- ①保健医療領域を理解するための基本的な知識を習得する。
- ②疾患と生活問題について理解する。
- ③保健医療分野でのソーシャルワークについて理解する。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法

講義形式

2. 学習方法

①講義においてはテキストを使用し、適宜資料を配布する。

②事前にテキストに目を通し、予習をして授業に臨む。

③授業においてわからないことがあった場合には積極的に質問をすること。

・準備学習の具体的な方法

一つのテーマについての講義が終了した時点で次のテーマとその予習箇所を指示します。必ず予習をして講義に臨むこと。また、すでに他の授業で学んだソーシャルワークの価値や方法、知識をふまえて講義を進めるので、各講義において学んできたことを統合して講義を聞くこと。

4. 評価方法・評価基準

定期試験（80%）と講義内において実施する数回の小レポート（20%）の総合評価とします。全講義の2/3以上の出席を必要とする。

5. 授業予定

第1回 オリエンテーション

第2回 現代社会における保健医療サービスの意義

第3回 医療保険制度と医療システム

第4回 診療報酬制度

第5回 公費負担制度

第6回 医療機関の機能分化

第7回 保健・医療・福祉の連携と介護保険制度

第8回 保健医療サービスにおける専門職の役割

第9回 保健医療ソーシャルワークの援助の実際～療養中の心理的・社会的問題への援助、社会復帰援助、受診・受療援助～

第10回 保健医療ソーシャルワークの援助の実際～退院援助、経済的問題への援助、地域活動～

第11回 保健医療ソーシャルワークの援助の実際～個別援助に係る業務の具体的展開、患者の主体性の尊重、プライバシーの保護～

第12回 保健医療ソーシャルワークの援助の実際～他の保健医療スタッフ及び地域の関係機関との連携、受診・受療援助と医師の指示～

第13回 保健医療ソーシャルワークの援助の実際～問題の予測と計画的対応、記録の作成等～

第14回 事例検討

第15回 まとめ

6. 留意事項

テキストを必ず購入すること

講義コード	24803001			
科目名	社会保障論Ⅱ			
担当者	井手 巧			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[社][精]			
前提科目	社会保障論Ⅰ（H22以前入学者）			
テキスト				
参考文献	『新・社会福祉士養成講座 12「社会保障」』 中央法規出版 最新版 『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 19「社会保障」』 ミネルヴァ書房 最新版			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

私たちの日常生活からかけ離れた存在にも感じられる社会保障制度が、実はいろいろな場面で接点を持ち、時として人の生死にも関わる身近で重要な存在・制度であることを学ぶ。社会保障論Ⅱでは、社会保障の各制度の概要についてより具体的に学び、社会保険等の公的施策及び民間保険の役割や機能などについて知ることをねらいとする。さらに、諸外国の社会保障制度等について学ぶことで我国の制度のあり方について考える。

2. 教育・学習の個別課題

・社会保障の各制度の内容を把握するとともに、それらの持つ問題や課題について理解する。特に、社会・経済状況や人口構造の変化がもたらす制度への影響について、今後の制度のあり方も合わせて学ぶ。

・社会福祉実践の総合的な展開に求められる社会保障各制度等について、

事例等を通して学び、私たちの生活に密接に関わっている制度であることを理解する。

3. 教育・学習の方法

授業は、配布資料や参考事例をもとに進める。

・準備学習の具体的な方法

社会保障論Ⅰと違い制度の詳細を学ぶため、授業予定の項目については、必ず参考文献等に目を通し予め自分なりに内容の把握に努めておく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、出席率・授業参加状況等の平常点（40点）、形成テスト（60点）により総合的に行う。

5. 授業予定

第1回 年金保険制度 沿革・内容としくみ・現状と課題等①

第2回 年金保険制度 沿革・内容としくみ・現状と課題等②

第3回 年金保険制度 沿革・内容としくみ・現状と課題等③

第4回 医療保険制度 沿革・内容としくみ・現状と課題等①

第5回 医療保険制度 沿革・内容としくみ・現状と課題等②

第6回 医療保険制度 沿革・内容としくみ・現状と課題等③

第7回 労働保険制度 沿革・内容としくみ・現状と課題等①

第8回 労働保険制度 沿革・内容としくみ・現状と課題等②

第9回 労働保険制度 沿革・内容としくみ・現状と課題等③

第10回 介護保険制度 沿革・内容としくみ・現状と課題等①

第11回 介護保険制度 沿革・内容としくみ・現状と課題等②

第12回 社会福祉の諸制度

第13回 民間保険の役割と課題

第14回 社会保障制度の国際動向

第15回 まとめ及び形成テスト

6. 留意事項

講義コード	24901001～24901015			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	専任教員			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 通年 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要だと考えられる。

そこで、専門的かつ個別的なテーマを探究するために、これまで基礎科目や専門科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における研究動向、研究方法についての理解を深め、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化することを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2) 各専門分野における研究動向を理解する。
- (3) 各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4) (1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

3. 教育・学習の方法

- (1) 各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習を行う。
- (2) 各専門分野に応じて、適宜の方法で学習を行う。

・準備学習の具体的な方法

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

4. 評価方法・評価基準

原則全出席とする（全授業回数の3分の2以上の出席がない場合は不合格とする）。授業参加度（30%）、平常点（形成テスト等を含む）（40%）、レポート（30%）により行う。

5. 授業予定

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

6. 留意事項

クラス（ゼミ）への分属については、本科目の履修に先立ち実施するゼミ

分属説明会及び学生による分属希望調査（いずれも2年次1月）を踏まえ、受け入れ可能人員などを勘案して、指定する。

講義コード	24901101～24901118			
科目名	卒業研究			
担当者	専任教員			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 通年			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追求する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要だと考えられる。

そこで、これまで基礎科目や専門科目、3年次の生活福祉文化特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別的に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

3. 教育・学習の方法

- (1) 各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習を行う。
- (2) 各専門分野に応じて、適宜の方法で学習を行う。

・準備学習の具体的な方法

卒業論文作成にあたっては、文献購読、調査、論文作成などの授業時間以外の活動は必須である。

4. 評価方法・評価基準

以下の点を総合的に評価する。

- (1) 卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）
- (2) 卒業論文要旨（体裁、構成力）
- (3) 口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）

5. 留意事項

前年度生活福祉文化特論のクラスで継続して履修する。

講義コード	26301101		
科目名	心理学概論(心と行動)		
担当者	上田 恵津子		
単位数	2	配当学年	1
資格	[情]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

心理学の対象は、我々が日常生活で経験している行動である。本科目では、人間のさまざまな行動をよりよく理解し、その精神活動の内面をうかがい知るために、人間の心理や行動の基礎にある原理について概説する。特に、知覚、学習、記憶、パーソナリティ、欲求、適応について、そのしくみを概観し、心理学の基本的な考え方を学ぶ。これらの講義を通して、人間の日常的な行動が示す心理現象を理解すること、および心理学の基礎用語や知識を習得することを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. 知覚、特に視覚を通して外界を認識するしくみを理解する。
2. 学習と記憶のメカニズムを理解する。
3. 心理学において人間の個性をどのように捉えるのかを理解する。
4. 欲求と適応について考える。

3. 教育・学習の方法

1. 主として講義形式による。教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
2. 各自、手書きでノートをとること。
3. ただ講義を聞いて知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深める学習態度が望まれる。

・準備学習の具体的な方法

前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

試験（70%）、授業時の課題（30%）を総合して評価する。欠席は減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 知覚のしくみ（1）
- 第3回 知覚のしくみ（2）
- 第4回 学習の成立（1）
- 第5回 学習の成立（2）
- 第6回 学習の成立（3）
- 第7回 記憶（1）
- 第8回 記憶（2）
- 第9回 パーソナリティ（1）
- 第10回 パーソナリティ（2）
- 第11回 パーソナリティ（3）
- 第12回 欲求
- 第13回 適応
- 第14回 発達
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26301201		
科目名	心理学概論(心と社会)		
担当者	廣瀬 直哉		
単位数	2	配当学年	1
資格	[情]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

人は、他者によって、また自分自身の所属する、あるいは取り巻く集団、社会的環境の存在によって、自己の思考・感情・行動に影響を受ける社会的存在である。本科目では、他者の存在や集団、社会的環境によって人々の思考、感情、および行動がどのように影響を受けるか、また、自己の思考、感情、行動が他者にどのような影響を与えるのか、その仕組みについて心理学的に考える。

2. 教育・学習の個別課題

1. 人は、日常生活の中で他者をどのように知覚し印象を形成しているか。
2. 人は、言語を通して、あるいは言語を用いずに、どのように他者とのコミュニケーションをとるのか。
3. 人は、様々な対人関係の中でどのように意志決定をし、振舞うのか。
4. 人は、社会の中でどのように学び、発達するのか。
5. 人は、社会的な環境の中でどのように行動しているのか。

3. 教育・学習の方法

PowerPoint や映像資料を使って、主として講義形式により、それぞれのトピックの解説を行う。テキストは使用しない。必要な授業資料等は、Web から入手してもらう。原則として、毎回の授業時に、その日の授業内容に関する短い当日レポートを書いてもらう。

・準備学習の具体的な方法

各授業前に、Web から授業資料を入手・印刷して、読んで予習しておくこと（具体的な方法は、初回に説明する）。

4. 評価方法・評価基準

授業時に実施する当日レポート(50%)と学期末に行うテスト(50%)を総合して評価を行う。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 印象形成
- 第3回 対人魅力
- 第4回 説得的コミュニケーション
- 第5回 非言語コミュニケーション
- 第6回 援助行動
- 第7回 集団の影響
- 第8回 支配と服従
- 第9回 社会的発達
- 第10回 社会的学習
- 第11回 社会的推論
- 第12回 感情
- 第13回 環境の認知
- 第14回 社会への応用
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26301401		
科目名	質問紙調査法		
担当者	向山 泰代		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	開講前に掲示にて指示する。		
参考文献	『心理学マニュアル質問紙法』 鎌原雅彦ほか 北大路書房 1998 『心理学研究法9 質問紙調査』 続有恒 東京大学出版会 1975 『改訂新版 心理学論文の書き方』 松井豊 河出書房新社 2010		
備考	必修 学校心理専攻は選択		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

あらかじめ定めた質問項目に対する回答をもとに、個人の内面を幅広くとらえる質問紙調査法は、用途が広く実施も比較的容易であることから、人間の内面に迫る心理学の研究分野では欠かせない方法である。しかし、質問紙によるデータを有効に活用するためには、質問項目の作成や調査対象者の選出をはじめとする、専門的な知識・技術と入念な準備が必要である。講義では、質問紙調査法の基礎から質問紙の作成、データ処理や結果の表現法、調査の倫理などについて卒業論文での活用を視野に入れて解説する。また講義の後半では、質問紙調査では見落とされがちなデータの質的側面を捉える方法として、インタビューや観察などの質的研究法についても解説する。講義に加え、データ処理や図表の作成などの課題を通して実践的な知識と技術の習得を目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. 質問紙調査法の特徴、利点と限界について学ぶ。 2. 質問紙の作成に関する知識や技術を習得する。 3. 調査の計画や実施の際に考慮すべき事柄を知る。 4. 集計やデータ処理に関する基礎的知識を習得する。 5. 結果の表現法や調査の倫理について学ぶ。

3. 教育・学習の方法

授業では、テキストを補足するために必要に応じてプリントを配布するので、各自で整理して学習に活用すること。講義期間の半ばに中間テストを行う。また、適宜、講義内容に関連した課題や提出物を課す。

・準備学習の具体的な方法

テキストを開講前に掲示にて指示するので、開講時までに各自で購入し、事前に通読しておくこと。また講義の中では「心理統計法」「心理学研究法」での学習内容が参照されることがあるため、これらの科目について各自で復習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

期末に実施するテスト（70%）、中間テスト（15%）、課題・提出物・授業への取り組み態度（15%）により評価する。授業への出欠に関しては、オーバーカットを適用する。

5. 授業予定

- 第1回 データの種類：質的データと量的データ
- 第2回 仮説と変数の設定、測定と尺度
- 第3回 データ収集の方法
- 第4回 調査対象者の選出：全数調査と標本調査
- 第5回 研究のデザインと調査の方法
- 第6回 質問項目の作成（1）：質問と回答の種類
- 第7回 質問項目の作成（2）：質問項目の収集と作成
- 第8回 調査票や質問紙の作成
- 第9回 調査における信頼性と妥当性
- 第10回 調査データの整理（1）：基礎整理
- 第11回 調査データの整理（2）：データ処理
- 第12回 データにおける質的側面
- 第13回 質的研究法
- 第14回 結果の表現法
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26301701		
科目名	心理テスト入門		
	心理テストは人の心をどのように捉えるのか？		
担当者	伊藤 一美		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	授業中にプリントを配布する。		
参考文献	『心理テスト法入門』 渡辺洋（編著） 福村出版 1993 『心理尺度のつくり方』 村上宜寛 北大路出版 2006 『心理テスト法入門（第4版）』 松原達哉（編著） 日本文化科学社 2002 『臨床心理アセスメントハンドブック』 村上宜寛・村上千恵子 北大路出版 2004		
備考	※平成24年度入学者は全専攻必修 ※平成25年度以後入学者は臨床心理専攻必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

この授業では、心理テストの成り立ちと有効に活用するための基礎知識を得ることを目的とする。後に学ぶ「心理テスト実習」「臨床心理アセスメント」といった、心理アセスメントに関する科目群の入門編である。心の「個人差」を捉えようとしてきた心理学の歴史をたどりつつ、知能・発達・パーソナリティ・適性などを測る代表的な心理テストについて、その特徴や理論的背景を学ぶ。そのうえで、テストに必要な信頼性と妥当性、標準化テストとそうでないテストのちがいを理解する。さらに、心理テストを使用する際の倫理的配慮についても学習する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 心理テストの成り立ちと歴史を学ぶ。
2. 心理テストの利用目的を知る。
3. 代表的な心理テストの理論と特徴を知る。
4. 心理テストが備えておくべき条件を学び、その効用と限界を学ぶ。

5. テストの実施、結果の利用にあたっての倫理を学ぶ。

3. 教育・学習の方法

スライドと配布プリントによる講義形式。ワークプリントで、心理テストの模擬体験なども行う。その中で、心理テストの組み立てや心理テストが備えるべき条件を理解する。また、さまざまな側面から個人差を捉えることの難しさと興味深さを学ぶ。

・準備学習の具体的な方法

*授業中に実施したプリントワークなどの内容について、必要に応じて教員に尋ねる、上記の参考図書で学ぶなど、自主的に学習すること。

*日ごろから一般向けの雑誌やネットなどで紹介されている「心理テスト的なもの」のものにも興味を持つ。そして、どんな内容が多いのか、人々がどのように関心を持っているのか、それにどのような問題点があるのかについて考えておくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加態度（20%、出席状況を含む）、期末定期試験および授業時間中のプリント課題（80%）の提出に基づき、総合的に評価を行う。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション・・・人の「人となり」はどうやったら測れるのか？
- 第2回 心理テストのなりたちと利用の目的
- 第3回 心理テストの歴史
- 第4回 知能の理論
- 第5回 知能テスト（1）ビネーの知能検査
- 第6回 知能テスト（2）ウェクスラーの知能検査
- 第7回 パーソナリティの理論
- 第8回 パーソナリティテスト（1）質問紙法・作業検査法
- 第9回 パーソナリティテスト（2）投影法
- 第10回 さまざまな心理テスト
- 第11回 心理テストの信頼性と妥当性・・・測りたいものがちゃんと測れているのか？
- 第12回 心理テストの標準化・・・まっとうな心理検査にするために
- 第13回 テスト・バッテリーと現場での心理テスト
- 第14回 心理テストを利用する際の倫理的配慮
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26301801		
科目名	心理テスト実習		
担当者	三好 智子・田中 誉樹・鶴田 薫・福山 幸子・向山 泰代		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	臨床心理専攻必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

本科目では、臨床心理の実践現場で用いられている心理テストを被検者として実際に体験することを通して、心理テストについて体験的に学ぶ。体験後はレポートを作成し、被検者体験を通して感じた事柄を言葉にし文章としてまとめていくことで、心理テストについて理解を深めていく。一部の実習では、受講生同士で検査者および被検者となり、ロールプレイ形式で実習を行うことがある。こうした体験学習を通して、検査者の役割や姿勢についても理解するとともに、心理テストに関する倫理感覚の基礎を養っていく。

2. 教育・学習の個別課題

質問紙法、作業検査法、投影法の各種類をとりあげ、性格、認知の特性、対人関係のあり方をはかる心理テストの実習を行う。各テストの目的を理解するとともに、実施方法、結果の整理の仕方、分析・解釈の方法について学ぶ。また、検査者の役割や姿勢、心理テストを行う上で注意すべき点についても、体験を通して学んでほしい。

3. 教育・学習の方法

1. 受講生は4つのグループに分かれて、合計4つの実習を行う。実習ごとに担当教員が交代し、それぞれの指導を受ける。1つの実習は、3週間連続で行う。
2. 遅刻、欠席は実習の妨げになるため、厳禁である。欠席すると、その実習レポートの評価を受ける資格がなくなるので、注意すること。
3. 各実習終了後は、レポート課題が課される。担当教員の指示に従って、

所定の期日までに教務学事課に提出する。

- 配布された資料や返却されたレポートは、次年度以降も参考にできるようにきちんとファイリングして、保存しておくこと。
- テキストは使用しない。教材・資料は、実習ごとに適宜、配布や貸し出しを行う。参考文献についても、実習ごとに適宜、指示する。

・準備学習の具体的な方法

- 各心理テストについて、文献などで調べ理解しておくこと。
- 1年次前期「心理テスト入門」の受講者は、その授業内容を復習しつつ授業に臨むこと。
- 返却されたレポートを見直し、文章やレポートの書き方を習得しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

各実習のレポート得点を総合して評価を行う（各実習の評価 25 点満点×4）。ただし、オリエンテーション、合同講義、および、各実習における欠席・遅刻は、減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション①
- 第2回 オリエンテーション②
- 第3回 質問紙法による心理テスト①
- 第4回 質問紙法による心理テスト②
- 第5回 質問紙法による心理テスト③
- 第6回 作業検査法による心理テスト①
- 第7回 作業検査法による心理テスト②
- 第8回 作業検査法による心理テスト③
- 第9回 投影法による心理テストA①
- 第10回 投影法による心理テストA②
- 第11回 投影法による心理テストA③
- 第12回 投影法による心理テストB①
- 第13回 投影法による心理テストB②
- 第14回 投影法による心理テストB③
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

- 1、2回目のオリエンテーションと15回目のまとめの授業は、全員で行う。グループ分けや各実習の教室等については、1、2回目のオリエンテーションの際に伝達する。
- 複数のグループに分かれて実習を行うことから、実習の順序は上記と入れ替わることがある。

講義コード	26302801		
科目名	初級実験実習Ⅰ		
担当者	廣瀬 直哉, 中村 千珠		
単位数	1	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『教材心理学』 木下富雄他（編） ナカニシヤ出版		
参考文献			
備考	※現代心理専攻必修、学校心理専攻・臨床心理専攻選択必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

心理学は、実証科学であり、その研究方法は仮説検証法（仮説を立て、それを観察や実験、調査を通して得た事実に基づいて検証していく）に依っている。この授業は、心理学実験法の初歩的な理論、方法論、原則等を、自らが実験者または被験者となって主体的に参加することによって、経験的に学習することを目的とする。また、実験条件設定の意味やデータ処理の仕方を具体的に学習していく。さらに、実験の実施だけでなく、実験後のレポート作成についても、実験の目的、方法、結果、考察等を明確にし、文章化して、資料を図表にまとめ、適切な様式で報告するための方法論的な基礎を身につけることを目指している。

2. 教育・学習の個別課題

- 心理学実験に関するレポートの書き方を習得する。
- 実験課題ごとの理論的な背景と実験目的を明確にする。
- 実験目的および実験仮説を実験方法にどのように反映させるのかを考える。
- 実験者と被験者、教示の仕方を学習する。
- 刺激と反応の関係を理解する。
- 実験条件、たとえば実験群と統制群の設定の仕方を学習する。
- 被験者の反応をデータとして収集する方法を学習する。データ集計表の活用の意味を知る。

8. 図表を作成することと、読む人がその内容を理解できるようにわかりやすく文書化する方法を学習していく。
9. 表の書き方として、たとえば条件ごとの平均・標準偏差・被験者数（試行数）の記載方法を習得する。
10. 簡単な統計の検定法を使って、データ分析の意味を理解する。
11. 図の作成にあたっては、縦軸と横軸の意味を十分に把握できるように心がける。
12. 実験結果は、可能な視点から、様々に考察するように心がける。

3. 教育・学習の方法

- 4 課題の実験を実施する。
- 課題ごとの実験実習は、3週にわたり（1課題につき連続3回）行い、担当者と実験場所が変わる場合があるので注意する。
- レポートは、実験終了後、所定の期日までに教務学事課に提出する。

・準備学習の具体的な方法

1. 各実験課題について、文献などで調べ理解しておくこと。
2. 返却されたレポートを見直し、レポートの書き方を習得しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

各実験のレポート(25%)×4回分を総合して評価を行う。なお、オリエンテーション、まとめ、合同講義、および、各実験への欠席・遅刻は、減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 錯視（理論）
- 第3回 錯視（実験）
- 第4回 錯視（分析）
- 第5回 鏡映描写（理論）
- 第6回 鏡映描写（実験）
- 第7回 鏡映描写（分析）
- 第8回 語の記銘（理論）
- 第9回 語の記銘（実験）
- 第10回 語の記銘（分析）
- 第11回 認知的葛藤（理論）
- 第12回 認知的葛藤（実験）
- 第13回 認知的葛藤（分析）
- 第14回 まとめ
- 第15回 合同講義

6. 留意事項

授業は実験実習という性質から受講生の参加をもって初めて成立するので、やむを得ない事情を除いて、必ず出席すること。また、遅れてくると実験に参加できない場合もあるので、遅刻も厳禁である。欠席した場合は、次回までにしておくべきことを自分で終了し準備しておくこと。

講義コード	26302901		
科目名	初級実験実習Ⅱ		
担当者	薦田 未央, 中村 千珠		
単位数	1	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『教材心理学』 木下富雄他（編） ナカニシヤ出版		
参考文献			
備考	※現代心理専攻必修、学校心理専攻・臨床心理専攻選択必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

心理学は、実証科学であり、その研究方法は仮説検証法（仮説を立て、それを観察や実験、調査を通して得た事実に基づいて検証していく）に依っている。この授業は、心理学実験法の初歩的な理論、方法論、原則等を、自らが実験者または被験者となって主体的に参加することによって、経験的に学習することを目的とする。また、実験条件設定の意味やデータ処理の仕方を具体的に学習していく。さらに、実験の実施だけでなく、実験後のレポート作成についても、実験の目的、方法、結果、考察等を明確にし、文章化して、資料を図表にまとめ、適切な様式で報告するための方法論的な基礎を身につけることを目指している。

2. 教育・学習の個別課題

1. 心理学実験に関するレポートの書き方を習得する。
2. 実験課題ごとの理論的な背景と実験目的を明確にする。
3. 実験目的および実験仮説を実験方法にどのように反映させるのかを考える。
4. 実験者と被験者、教示の仕方を学習する。
5. 刺激と反応の関係を理解する。
6. 実験条件、

たとえば実験群と統制群の設定の仕方を学習する。7. 被験者の反応をデータとして収集する方法を学習する。データ集計表の活用を知る。8. 図表を作成することと、読む人がその内容を理解できるようにわかりやすく文書化する方法を学習していく。9. 表の書き方として、たとえば条件ごとの平均・標準偏差・被験者数(試行数)の記載方法を習得する。10. 簡単な統計の検定法を使って、データ分析の意味を理解する。11. 図の作成にあたっては、縦軸と横軸の意味を十分に把握できるように心がける。12. 実験結果は、可能な視点から、様々に考察するように心がける。

3. 教育・学習の方法

1. 4課題の実験を実施する。2. 課題ごとの実験実習は、3週にわたり(1課題につき連続3回)行い、担当者と実験場所が変わる場合があるので注意する。3. レポートは、実験終了後、所定の期日までに教務学事課に提出する。その他、担当者による教材および資料配布による。コンピュータによる刺激提示や反応の取り込み、データ処理を行う課題も含むので、日頃からパソコン操作に親しんでおくこと。

・準備学習の具体的な方法

1. 各実験課題について、文献などで調べ理解しておくこと。2. 返却されたレポートを見直し、レポートの書き方を習得しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

各実験のレポート(25%)×4回分を総合して評価を行う。なお、オリエンテーション、まとめ、合同講義、および、各実験への欠席・遅刻は、減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 大きさの恒常性(理論)
- 第3回 大きさの恒常性(実験)
- 第4回 大きさの恒常性(分析)
- 第5回 一対比較法(理論)
- 第6回 一対比較法(実験)
- 第7回 一対比較法(分析)
- 第8回 要求水準(理論)
- 第9回 要求水準(実験)
- 第10回 要求水準(分析)
- 第11回 重さの弁別閾(理論)
- 第12回 重さの弁別閾(実験)
- 第13回 重さの弁別閾(分析)
- 第14回 まとめ
- 第15回 合同講義

6. 留意事項

授業は実験実習という性質から受講生の参加をもって初めて成立するので、やむを得ない事情を除いて、必ず出席すること。また、遅れてくると実験に参加できない場合もあるので、遅刻も厳禁である。欠席した場合は、次回までにしておくべきことを自分で終了し準備しておくこと。

講義コード	26303101		
科目名	心理検査法実習		
担当者	松島 るみ・伊藤 一美・上田 恵津子・尾崎 仁美・中村 千珠		
単位数	1	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 学校心理専攻は選択		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

代表的な心理検査の被験者となり、その結果をレポートで記述報告する。レポートでは検査の目的、手順、結果などを要領よくまとめるだけでなく、検査で感じた問題点なども考察し、担当者が添削をしたコメントを通して、心理検査への理解をさらに深める。一部の検査では、学生相互に検査者および被験者になって、体験訓練を行うことがある。そうした体験学習を通して、自らが検査者として活動する場合の素地を形成する。

2. 教育・学習の個別課題

主として、質問紙法、作業検査法、投影法による性格検査等を行う。それぞれの検査の目的を理解し、その実施方法、結果の整理方法、分析のしかたを学ぶ。そして、各検査について、実施上注意すべき点を体験によって習得してほしい。

3. 教育・学習の方法

1. 心理検査ごとに交代する担当教員の指導を受ける。1つの検査は、2

週間連続して行う。受講生は複数のグループに分けられる。

2. 遅刻、欠席は実習の妨げになるので、厳禁である。実習を欠席するとその検査のレポートを書く資格がなくなることをよく肝に銘じておくこと。

3. 各検査終了後は、レポート課題が課される。担当教員の指示に従って、所定の期日までに教務学事課に提出する。

4. 配布された資料や返却されたレポートは、次年度以降も参考にできるようにきちんとファイリングして、保存しておくこと。

5. テキストは使用しない。教材、資料は、検査ごとに適宜配布および貸し出しをする。参考文献も検査ごとに適宜指示する。

・準備学習の具体的な方法

1年次の必修科目である「心理検査入門」の授業内容を復習しつつ授業に臨むこと。

4. 評価方法・評価基準

成績は、各実習ごとのレポート得点を総合して評価を行う(各レポートの評価20点満点×5)。ただし、オリエンテーション、合同講義、および、各実習の欠席および遅刻は、減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 質問紙法による性格検査①(YG性格検査の実習)
- 第3回 質問紙法による性格検査②(YG性格検査結果の解釈)
- 第4回 質問紙法による性格検査①(東大式エゴグラムの実習)
- 第5回 質問紙法による性格検査②(東大式エゴグラムの解釈)
- 第6回 作業検査法による性格検査①(内田・クレペリン精神検査の実習)
- 第7回 作業検査法による性格検査②(内田・クレペリン精神検査の解釈)
- 第8回 投影法による性格検査①(文章完成法の実習)
- 第9回 投影法による性格検査②(文章完成法の解釈)
- 第10回 投影法による性格検査①(PFスタディの実習)
- 第11回 投影法による性格検査②(PFスタディの解釈)
- 第12回 心理検査に関する補足説明(その他の心理検査の実習)
- 第13回 心理検査に関する補足説明(その他の心理検査の解釈)
- 第14回 心理検査法実習の振り返り
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

複数のクラス分けを行うことから、実施検査の順序は上記と入れ替わることもある。

講義コード	26303201			
科目名	中級実験実習			
担当者	高井 直美・薦田 未央・廣瀬 直哉・松島 るみ			
単位数	1	配当学年	3	
資格				
前提科目	「初級実験実習Ⅰ」または「初級実験実習Ⅱ」(平成25年度以後入学者に適用)			
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

初級実験実習で学んだ心理学実験に関する基礎知識を復習しながら、さらに現代の心理学で活用されることの多い研究方法を具体的に学ぶ。受講生は実験計画や刺激素材の作成、実験・観察の設定などを主体的に行い、実験法・調査法・観察法によりデータを収集し、分析を行う。そして、データに基づいた心理学研究方法、つまり実証科学的方法の基盤となる力を身につけることを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. 実験の目的および仮説の立て方から実験の実施・結果の整理、レポート作成までのプロセスを、4種類の実験課題で体験する。
2. 仮説を検証するにはどのような実験計画がもっとも有効か、考える力を身につける。
3. 刺激材料の作成や実験機器の準備については、教員の指導のもと、受講生も主体的に関与する。
4. 実験者の立場にあるものが実験を行う際に留意すべき点(手続き、教示のしかた、倫理的配慮など)について具体的に学ぶ。
5. データの整理方法や統計的検定について、複数の実験でいろいろな方法を学ぶ。

- 必要に応じて、パソコンを使って統計ソフトによるデータ解析も学ぶ。
- 操作的定義に基づく概念の定義やデータの分類に習熟する。
- レポートの書き方については、初級実験実習で学習した要点を復習し、さらなる熟達を促す。
- 参考文献を熟読することは、問題設定や考察において重要である。行う実験に関連する文献を探ることを通して、実験の位置づけを明確にする。
- 実験結果をまとめ、考察することを通して、新たな実験計画を立てる力をつけていく。

3. 教育・学習の方法

- 受講生をいくつかのグループに分け、少人数で効率よく実験実習を行う。
- 半期で4つの課題に取り組む。
- 課題ごとの実験実習は、連続して3週にわたり、1つの課題が終わると、担当者で実験場所が変わる。受講生は、自分のグループの集合場所を確認し遅刻することがないように十分注意すること。
- 課題ごとにレポートが課せられる。受講生は実験終了後、レポートを所定の期日までに教務学事課に提出すること。
- レポートは、担当教員が添削を行って返却する。受講生は添削された問題点を次のレポート作成に生かすよう復習しておくこと。
- 授業全体に関わるテキストは用いない。参考図書は、各課題を担当する教員が随時紹介する。

・準備学習の具体的な方法

- 実験課題のテーマとなる心理学的事象について、背景理論を文献などで調べ理解しておくこと。
- それぞれの課題において学ぶ研究方法について、授業で配られたレジュメや解説、紹介された文献などで理解を深めておくこと。
- レポート・論文の基本的な書き方について初級実験実習を振り返り、復習をしておくこと。

4. 評価方法・評価基準

毎回の出席、受講態度、レポートによって総合的に評価する。評価の内訳は、各担当者がレポートを採点し評価する（25%×4実験）。また、合同講義、各課題への欠席・遅刻は減点の対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 合同講義（オリエンテーション・実験研究の方法について）
- 第2回 記憶に関する実験（1）
- 第3回 記憶に関する実験（2）
- 第4回 記憶に関する実験（3）
- 第5回 知覚と認知に関する実験（1）
- 第6回 知覚と認知に関する実験（2）
- 第7回 知覚と認知に関する実験（3）
- 第8回 イメージや態度の測定を行う質問紙による調査的研究（1）
- 第9回 イメージや態度の測定を行う質問紙による調査的研究（2）
- 第10回 イメージや態度の測定を行う質問紙による調査的研究（3）
- 第11回 事象見本法あるいは時間見本法を用いた観察的研究（1）
- 第12回 事象見本法あるいは時間見本法を用いた観察的研究（2）
- 第13回 事象見本法あるいは時間見本法を用いた観察的研究（3）
- 第14回 研究方法についての補足説明
- 第15回 合同講義（実験研究についてのまとめ）

* なお、各実験課題については、グループにより順番が入れ替わる。

6. 留意事項

実験実習は、授業に参加し経験的に研究方法を学ぶため、やむを得ない事情がない限り出席すること。遅刻した場合は、実験に参加できない場合もある。

講義コード	26303301		
科目名	心理統計法 I A 心理学における統計的な考え方を身につける		
担当者	高井 直美		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史、村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004		
参考文献			
備考	必修（学校心理専攻は選択必修） クラス指定		
科目読替	心理統計法（I・II合わせて）		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26303302		
科目名	心理統計法 I B 心理学における統計的な考え方を身につける		
担当者	古賀 一男		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史、村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004		
参考文献			
備考	必修（学校心理専攻は選択必修） クラス指定		
科目読替	心理統計法（I・II合わせて）		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

心理学の研究を科学的、実証的に進めていくためには、研究目的に適合した研究計画を立てること、そしてその計画のもとに実証的データを収集し、統計的分析を行うことが必要となる。

そのために習得しておかなければならない統計的方法に関する基礎知識と基礎的な方法を学ぶ。

そして、この科目は、推測統計学、心理学情報処理など、2年次生以上に配当されている、より高度な心理統計に関する科目を学ぶための重要な基盤を形成するものとして位置付けられている。

2. 教育・学習の個別課題

前期に配当されるこの科目では、まず統計的な考え方になじむため、日常的な具体例などで、心理統計の基礎的な考え方の理解を促していく。そして、記述統計に関する重要な基礎知識を具体例を通して理解し、統計的手法を実践的に身に付けていくことを課題とする。

3. 教育・学習の方法

講義と各自で行うプリント教材等によるワークを組み合わせ、授業を進めていく。復習のための課題も適宜出していく。

また授業時間内に理解の程度を確認するための、小テストを行うこともある。理解度の悪い場合は、再テストを行うなどして、完全習得学習を目指す。

・準備学習の具体的な方法

新聞、雑誌、TV、インターネットなどのメディアで公表された各種統計データに日頃から関心をもってもらいたい。また図表を作成したり、熟練された表計算をするためには、情報関係の授業や休み時間を利用して、Excelの使用になじんでおくことも重要となる。

4. 評価方法・評価基準

小テスト、課題の提出状況、学期末テストなどによる総合的な評価を行う。

5. 授業予定

- 第1回 心理学と数字（心理統計の基本的な考え方）
- 第2回 心理統計の実際（一般的な統計資料の収集方法）
- 第3回 変数と尺度水準
- 第4回 データの図表化①（既存統計資料の読み方）
- 第5回 データの図表化②（ヒストグラムと棒グラフの作成）
- 第6回 データの代表値（平均、中央値、最頻値など）
- 第7回 データの散らばり（分散と標準偏差）
- 第8回 既存統計資料における標準偏差の読み方
- 第9回 データの標準化（z得点と偏差値）
- 第10回 散布図と共分散
- 第11回 既存統計資料の散布図の読み方
- 第12回 相関係数が示す相関関係
- 第13回 クロス集計とφ係数（連関）
- 第14回 理解度を測るテスト
- 第15回 因果関係と相関関係の違い

6. 留意事項

受講生の理解度を見ながら進めていくので、授業予定で示した順番や内容が、多少変わることもある。

講義コード	26303401		
科目名	心理統計法ⅡA 心理学における統計的な考え方を身につける		
担当者	高井 直美		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史、村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004		
参考文献			
備考	必修(学校心理専攻は選択必修) クラス指定 「心理統計法Ⅰ」履修者であること		
科目読替	心理統計法(Ⅰ・Ⅱ合わせて)		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26303402		
科目名	心理統計法ⅡB 心理学における統計的な考え方を身につける		
担当者	古賀 一男		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史、村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004		
参考文献			
備考	必修(学校心理専攻は選択必修) クラス指定 「心理統計法Ⅰ」履修者であること		
科目読替	心理統計法(Ⅰ・Ⅱ合わせて)		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

心理学の研究を科学的、実証的に進めていくためには、研究目的に適合した研究計画を立てること、そしてその計画のもとに実証的データを収集し、統計的分析を行うことが必要となる。

そのために習得しておかなければならない統計的方法に関する基礎知識と基礎的な方法を学ぶ。

そして、この科目は、推測統計学、心理学情報処理など、2年次生以上に配当されている、より高度な心理統計に関する科目を学ぶための重要な基盤を形成するものとして位置付けられている。

2. 教育・学習の個別課題

後期に配当されているこの科目では、記述統計学と推測統計学を区別し、統計的仮説検定の基本的な考え方について学び、基本的な検定の初歩的な方法を身に付けることを課題とする。

3. 教育・学習の方法

心理統計法Ⅰと同様に、講義と各自で行うプリント教材等によるワークを組み合わせて、授業を進めていく。復習のための課題も適宜出していく。また授業時間内に理解の程度を確認するための、小テストを行うこともある。理解度の悪い場合は、再テストを行うなどして、完全習得学習を目指す。

・準備学習の具体的な方法

心理統計法Ⅰで学んだことをテキストおよびプリント教材で復習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

小テスト、課題の提出状況、学期末テストなどによる総合的な評価を行う。

5. 授業予定

- 第1回 記述統計と推測統計
- 第2回 母集団と標本
- 第3回 正規分布とは
- 第4回 標準正規分布表
- 第5回 標本分布
- 第6回 統計的仮説検定①
- 第7回 統計的仮説検定②
- 第8回 復習のための小テスト
- 第9回 有意水準とは
- 第10回 両側検定と片側検定

- 第11回 基礎的な統計的仮説検定①
- 第12回 基礎的な統計的仮説検定②
- 第13回 基礎的な統計的仮説検定③
- 第14回 理解度を測るまとめのテスト
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

授業の内容や順番は変わることもある。

講義コード	26303501		
科目名	心理学研究法 サイエンスとしての心理学研究を目指して		
担当者	古賀 一男		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献	『新編・感覚知覚心理学ハンドブック』 大山正・他 誠信書房 1994 『新編 感覚・知覚心理学ハンドブック・Part2』 大山正・他 誠信書房 2007 『講座 感覚・知覚の科学 第1巻 視覚Ⅰ』 内川 恵二・編 朝倉書店 2007 『シリーズ心理学研究法・第1巻 知覚』 村上郁也・編 誠信書房 2011 『知覚の正体』 古賀一男 河出書房新社 2011		
備考	※平成24年度入学者は全専攻必修 ※平成25年度以後入学者 現代心理専攻・臨床心理専攻必修、学校心理専攻選択必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

心理学研究法では基本的な研究の方法について知識を学習し、各研究法について一定の理解をすることで心理学が自然科学(ナチュラル・サイエンス)の一部であることを学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

大きくわけて質的研究法と量的研究法について各種の方法論を概説するが、両者の研究法にとって最も基本的な方法論である観察法を深く理解するために隣接諸科学で現在行われている観察法について紹介することから始まって、心理学独自の研究法である実験法の基礎を教授する。具体的には知覚と運動の関係を例として研究をおこなうには広汎な技術が必須であることも学んでゆく。

3. 教育・学習の方法

講義と各回に配布する資料によって学習を行う。

・準備学習の具体的な方法

参考文献にあげた書籍をあらかじめ必読しておくことが必要である。

4. 評価方法・評価基準

試験を課す

5. 授業予定

- 第1回 自然科学における研究法とは何か(1)
- 第2回 自然科学における研究法とは何か(2)
- 第3回 隣接諸科学における研究法の紹介(1)
- 第4回 隣接諸科学における研究法の紹介(2)
- 第5回 隣接諸科学における研究法の紹介(3)
- 第6回 様々な心理学における共通の研究法について(1)
- 第7回 様々な心理学における共通の研究法について(2)
- 第8回 自然科学としての心理学に必要な研究法(1) 観察法
- 第9回 自然科学としての心理学に必要な研究法(2) 実験法・基礎編(その1)
- 第10回 自然科学としての心理学に必要な研究法(2) 実験法・基礎編(その2)
- 第11回 自然科学としての心理学に必要な研究法(3) 実験法・応用編(その1)
- 第12回 自然科学としての心理学に必要な研究法(3) 実験法・応用編(その2)
- 第13回 ヒトの行動を理解する心理学に必要な方法論としての研究法
- 第14回 ヒトの思考を理解する心理学に必要な方法論としての研究法
- 第15回 様々な特殊環境におけるヒトの行動を理解するための心理学研究法

6. 留意事項

講義コード	26311001			
科目名	心理学基礎演習Ⅰ 大学での学びの基盤づくり			
担当者	工藤 哲夫、伊藤 一美、上田 恵津子、小林 多津子、佐藤 睦子、高井 直美、田中 豊樹、三好 智子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

共に学ぶ友人や心理学部教員との関わりを通して、大学での学びの基盤を形成する。そして、日本語の文章や数字で表されるデータについて、「読むこと」「理解すること」「書くこと」「伝えること」の力に磨きをかける。

2. 教育・学習の個別課題

- ①アカデミックリテラシー（大学教育に必要な基礎的日本語能力やデータ活用の基礎を学ぶ）
- ②人間関係の構築（学生同士および担任を核とする心理学部教員との関わり）

3. 教育・学習の方法

- ①教員によるオリエンテーション
- ②ドリル学習
- ③グループでの作業
- ④討論
- ⑤発表
- ⑥小レポート

・準備学習の具体的な方法

小学校～高校での国語、数学の学習や総合的な学習の時間での発表学習を繰り返す。

4. 評価方法・評価基準

出席状況・参加態度 70%、発表・レポート 30%

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション（全体は8クラスに分けられる）
- 第2回 「日本語活用術」テーマ1
- 第3回 「日本語活用術」テーマ1
- 第4回 「日本語活用術」テーマ1
- 第5回 「データ活用術」テーマ1
- 第6回 「データ活用術」テーマ1
- 第7回 「データ活用術」テーマ1
- 第8回 中間オリエンテーション
- 第9回 「日本語活用術」テーマ2
- 第10回 「日本語活用術」テーマ2
- 第11回 「日本語活用術」テーマ2
- 第12回 「データ活用術」テーマ2
- 第13回 「データ活用術」テーマ2
- 第14回 「データ活用術」テーマ2
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

クラスによって「日本語活用術」（テーマ1,2）、「データ活用術」（テーマ1,2）の実施順は異なる。

講義コード	26311101			
科目名	心理学基礎演習Ⅱ 心理学部専門教育への導入			
担当者	神月 紀輔、内田 和寿、尾崎 仁美、薦田 未央、廣瀬 直哉、藤川 洋子、松島 るみ、向山 泰代			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	授業中に紹介する。			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

友人や心理学部教員との関わりを深め、心理学部の専門科目を学ぶ基盤を形成する。そして、「読むこと」「理解すること」「書くこと」「伝えること」の力に、さらなる磨きをかける。

2. 教育・学習の個別課題

- 1.アカデミックリテラシー（日本語活用術やデータ活用術を極める）
- 2.人間関係の構築（学生同士および担任を核とする心理学部教員との関わりを深める）
- 3.専門教育への導入（心理学部の専門教育を受けるための基盤形成）

3. 教育・学習の方法

教員によるオリエンテーション、ドリル学習、グループでの作業、討論、発表、小レポート

・準備学習の具体的な方法

心理学基礎演習Ⅰでの学習内容を繰り返す。

4. 評価方法・評価基準

出席状況・参加態度 70%、発表・レポート 30%

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション（全体は8クラスに分けられる）
- 第2回 「日本語活用術」テーマ3
- 第3回 「日本語活用術」テーマ3
- 第4回 「日本語活用術」テーマ3
- 第5回 「データ活用術」テーマ3
- 第6回 「データ活用術」テーマ3
- 第7回 「データ活用術」テーマ3
- 第8回 中間オリエンテーション
- 第9回 「日本語活用術」テーマ4
- 第10回 「日本語活用術」テーマ4
- 第11回 「日本語活用術」テーマ4
- 第12回 「データ活用術」テーマ4
- 第13回 「データ活用術」テーマ4
- 第14回 「データ活用術」テーマ4
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

クラスによって「日本語活用術」（テーマ3,4）、「データ活用術」（テーマ3,4）の実施順は異なる。

講義コード	26401501			
科目名	学校心理学概論			
担当者	廣瀬 直哉			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	平成25年度まで開講			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

学校心理学とは、学校に関する様々な問題について心理学的手法を通して明らかにし、学校教育の効果を高めるための学問領域である。本科目では、学校教育場面における児童・生徒の学習、発達、適応の問題に焦点を当て、心理学的観点から学校・教育についての理解と考察を深める。

2. 教育・学習の個別課題

1. 児童・生徒の心身の発達の理解
2. 学習と教授の基礎的理解
3. 児童・生徒の個性の理解
4. 学校と社会の問題の理解

3. 教育・学習の方法

PowerPoint や映像資料を使って、主として講義形式により、それぞれのトピックの解説を行う。テキストは使用しない。必要な授業資料等は、Web から入手してもらう。毎回、その日の授業内容に関する課題を出し、グループで話し合ってもらい、回答を提出してもらう。

・準備学習の具体的な方法

各授業前に、Web から授業資料を入手・印刷して、読んで予習しておくこと（具体的な方法は、初回に説明する）。

4. 評価方法・評価基準

毎回の授業時に実施する当日レポート(50%)と学期末に行うテスト(50%)を総合して評価を行う。

(参考)H24年度の成績結果： M=70.0、SD=19.4、単位取得率 85.3%

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 発達と教育

- 第3回 学習の理論
- 第4回 内発的動機づけ
- 第5回 達成動機と自己効力
- 第6回 知識の獲得
- 第7回 教養的知識の獲得
- 第8回 科学的知識の獲得
- 第9回 言語的知識の獲得
- 第10回 個性の理解
- 第11回 教師と学級集団
- 第12回 文化と認知
- 第13回 学校と社会
- 第14回 学習の評価
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

グループでの活動を含むので、他者と協働することができない者や、頻繁に欠席する者は受講しないこと。

次年度以降は、開講されない場合があるので、留意すること。

講義コード	26401701			
科目名	臨床心理学概論A			
担当者	藤川 洋子			
単位数	2	配当学年	1[2]	
資格	[情]			
前提科目				
テキスト	『非行は語る—家裁調査官の事例ファイル』 藤川洋子 新潮社 2002 『少年犯罪の深層』 藤川洋子 筑摩書房 2005			
参考文献				
備考	臨床心理専攻必修 ※平成24年度以前入学者は2年次配当			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26401601			
科目名	発達心理学概論 発達の基礎理論を学ぶ			
担当者	高井 直美			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	用いない。			
参考文献	授業中に指示する。			
備考	発達心理専攻必修 平成25年度まで開講			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

発達心理学の基礎理論を様々な観点から学び、現在までに実証されている研究成果について知る。また発達心理学の今後の課題についても理解を促す。

2. 教育・学習の個別課題

①発達の要因となる遺伝と環境について、歴史的にどのような議論がされてきたか学ぶ。②ピアジェの認知発達理論について習得する。③ヴィゴツキーの理論について学ぶ。④フロンの理論について学ぶ。⑤エリクソンの理論について学ぶ。⑥対象年齢ごとに最新の発達研究のトピックスを知る。

3. 教育・学習の方法

講義が中心となるが、教員が配布する文献資料を読んできて、発表する機会も設ける。

・準備学習の具体的な方法

日常生活のなかで、どのような年齢の子どもがどのような行動を行っているか、どのような発言をしているか、親子の関わりかたなどについて、観察しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

学期末テスト80%、発表20%で評価するが、欠席の多い場合は、減点の対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 遺伝と環境をめぐる議論と研究について
- 第2回 初期経験や早期教育をめぐる議論と研究について
- 第3回 ピアジェの発達理論の概説
- 第4回 ピアジェの感覚運動的知能に関する文献の発表①
- 第5回 ピアジェの感覚運動的知能に関する文献の発表②
- 第6回 ピアジェの感覚運動的知能に関する文献の発表③
- 第7回 ヴィゴツキーの発達理論について
- 第8回 フロンの発達理論について
- 第9回 エリクソンの発達理論について
- 第10回 0歳児の発達について
- 第11回 1歳、2歳児の発達について
- 第12回 3～5歳児の発達について
- 第13回 児童期に関する発達について
- 第14回 青年期の発達について
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

順番や内容は変わることもある。

1. 科目の教育目標

さまざまなストレスを抱えて、不登校、うつ、ひきこもりあるいは対人関係の悩みといった心の不調を抱える人は少なくない。また、犯罪や非行やいじめの被害者、加害者を理解して、心の健康を取り戻してもらうことは家族ばかりでなく、社会の責務である。臨床心理学は、さまざまな心の不調を解決するために、どのような理解枠を用いるか等を学ぶ学問である。人間に対する深い洞察と、広い視野、そして自他を客観的にとらえる科学的態度を身につけることが重要である。

授業では、フロイト、アドラー、ユングの業績からはじめ、近年の脳科学の発展も視野に入れて、精神障害や発達障害がからむ犯罪・非行などの事例を解明する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 臨床心理学における基礎理論や基本的概念を理解する。
2. 心理臨床についての考え方や症状のとらえ方等についてその基本を理解する。
3. さまざまな心理現象をとらえる臨床心理学的視点とともに、脳科学が明らかにした生物的要因について学ぶ。
4. 少年犯罪の事例をもとに、生物—心理—社会という3要因から理解することの重要性を学ぶ。

3. 教育・学習の方法

授業方法：パワーポイントを用い、主に講義を中心に進めていくが、後半は、テキストを利用して事例理解の基本的な枠組を身につける。

・準備学習の具体的な方法

テキストには実例が数多く紹介されているので、臨床心理学の一分野である犯罪心理学、司法精神医学の実情を頭に入れておく。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席及び出席態度点50%と試験（提出課題を含む）50%により行う。

5. 授業予定

- 第1回 臨床心理学とは
- 第2回 臨床心理学における基礎概念
- 第3回 精神分析学（フロイトの生涯とその業績）
- 第4回 精神分析学（フロイトの生涯とその業績）
- 第5回 個人心理学（アドラーの生涯とその業績）
- 第6回 個人心理学（アドラーの生涯とその業績）
- 第7回 分析心理学（ユングの生涯とその業績）
- 第8回 分析心理学（ユングの生涯とその業績）
- 第9回 臨床心理学の展開（脳科学が明らかにしたもの）
- 第10回 臨床心理学の展開（脳科学が明らかにしたもの）
- 第11回 生物学的要因への注目
- 第12回 発達障害の理解と支援
- 第13回 有効な臨床心理学的アプローチ
- 第14回 行動療法 認知療法 認知行動療法
- 第15回 まとめと振り返り

6. 留意事項

講義コード	26401702			
科目名	臨床心理学概論B			
担当者	藤川 洋子			
単位数	2	配当学年	1[2]	
資格	[情]			
前提科目				
テキスト	『非行は語る―家裁調査官の事例ファイル』 藤川洋子 新潮社 2002 『少年犯罪の深層』 藤川洋子 筑摩書房 2005			
参考文献				
備考	臨床心理専攻必修 ※平成24年度以前入学者は2年次配当			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

さまざまなストレスを抱えて、不登校、うつ、ひきこもりあるいは対人関係の悩みといった心の不調を抱える人は少なくない。また、犯罪や非行やいじめの被害者、加害者を理解して、心の健康を取り戻してもらうことは家族ばかりでなく、社会の責務である。臨床心理学は、さまざまな心の不調を解決するために、どのような理解枠を用いるか等を学ぶ学問である。人間に対する深い洞察と、広い視野、そして自他を客観的にとらえる科学的態度を身につけることが重要である。

授業では、フロイト、アドラー、ユングの業績からはじめ、近年の脳科学の発展も視野に入れて、精神障害や発達障害がからむ犯罪・非行などの事例を解明する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 臨床心理学における基礎理論や基本的概念を理解する。
2. 心理臨床についての考え方や症状のとらえ方等についてその基本を理解する。
3. さまざまな心理現象をとらえる臨床心理学的視点とともに、脳科学が明らかにした生物的要因について学ぶ。
4. 少年犯罪の事例をもとに、生物―心理―社会という3要因から理解することの重要性を学ぶ。

3. 教育・学習の方法

授業方法：パワーポイントを用い、主に講義を中心に進めていくが、後半は、テキストを利用して事例理解の基本的な枠組を身につける。

・準備学習の具体的な方法

テキストには実例が数多く紹介されているので、臨床心理学の一分野である犯罪心理学、司法精神医学の実情を頭に入れておく。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席及び出席態度点50%と試験（提出課題を含む）50%により行う。

5. 授業予定

- 第1回 臨床心理学とは
- 第2回 臨床心理学における基礎概念
- 第3回 精神分析学（フロイトの生涯とその業績）
- 第4回 精神分析学（フロイトの生涯とその業績）
- 第5回 個人心理学（アドラーの生涯とその業績）
- 第6回 個人心理学（アドラーの生涯とその業績）
- 第7回 分析心理学（ユングの生涯とその業績）
- 第8回 分析心理学（ユングの生涯とその業績）
- 第9回 臨床心理学の展開（脳科学が明らかにしたもの）
- 第10回 臨床心理学の展開（脳科学が明らかにしたもの）
- 第11回 発達障害への注目
- 第12回 発達障害の理解と支援
- 第13回 有効な臨床心理学的アプローチ
- 第14回 行動療法 認知療法 認知行動療法
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26501501			
科目名	教育評価			
担当者	工藤 哲夫			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『学習評価基本ハンドブック』 辰野千壽 図書文化			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

教育評価は学校教育の中で極めて基本的な活動である。評価と測定についての基礎と実践について具体的に学習し、学校における評価を考えるきっかけとする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 教育評価の理論
2. 教育評価の類型
3. 評価の妥当性
4. 学校現場の教育評価

3. 教育・学習の方法

1. 講義形式
2. 討論
3. 発表
4. 模擬評価
5. 小レポート

・準備学習の具体的な方法

1. 小学校時代の通知表やテストを見直す。
2. 小学校時代の通知表やテストで、持って来られるものは、一回目の授業に持ってくる。

4. 評価方法・評価基準

毎回の出席と授業参加と小レポート提出（50%）。発表（20%）。課題提出またはテスト（30%）。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育評価の基本概念
- 第3回 教育評価の立場の変遷
- 第4回 教育評価の位相と展開
- 第5回 教育目標と教育評価の関係
- 第6回 指導に活かす評価のありかた
- 第7回 教育評価の方法原理
- 第8回 学力評価のさまざまな方法
- 第9回 各教科における学力評価
- 第10回 指導要録
- 第11回 通知表
- 第12回 入試制度
- 第13回 教育評価の経営
- 第14回 レポートの作成
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26501601			
科目名	教育方法学 主体的な学びを創造する			
担当者	神月 紀輔			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領』 文部科学省 東京書籍 2008			
参考文献	授業中にその都度提示します			
備考	情報機器及び教材の活用を含む			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

幼稚園、小学校の各発達段階において、望ましい教育方法を探求し、その実践を行えるようにする。具体的には、主体的な学びの創造、情報活用能力の育成、社会的構成主義学習理論に基づくコミュニケーションを生かした教育方法等である。

2. 教育・学習の個別課題

下記の3項目について、理解した上で、その実践的指導を学校教育の指導の中で行えるようにする。・思考力、想像力を育む児童生徒の主体的な学習活動・情報活用の実践力を育む授業実践方法・社会的構成主義学習理論に基づく、コミュニケーションを生かした授業づくり

3. 教育・学習の方法

グループによる自律型の学習を主とする。積極的にグループディスカッションに参加し、学習を深めることを期待する。2回程度、インターネットを介したe-Learningによる授業を取り入れる予定である。評価は基本的に自己評価により行う。

・準備学習の具体的な方法

授業内で話し合う機会が多いので、教員が提示する各トピックに対して準備を行う必要がある。

4. 評価方法・評価基準

基本的には下記の項目について、自己評価を取り入れる。

授業に参加する態度(40%) 各個人の状況に応じて、出席したかどうかのみだけでなく、授業中の態度も含めて、最終授業時に40点満点で自己採点を行う。

レポート(40%) 3回提出の予定である。その都度、教員からレポート内容についての評価項目を示すので、それに従って自己評価を行う。

グループへの参加態度(20%) 最終授業時に行うグループ内相互評価をもとに、教員の示す評価基準で自己採点を行う。

上記の自己採点を基本とし、教員が総合的に判断し、評価を行う。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 教育とは
- 第3回 学習理論(e-Learningの予定)
- 第4回 主体的な学びとは
- 第5回 主体的な学びを促進する授業1(グループディスカッション)
- 第6回 主体的な学びを促進する授業2(グループディスカッション)
- 第7回 主体的な学びを促進する教師の役割(パネル発表)
- 第8回 情報教育の目標(e-Learningの予定)
- 第9回 情報活用能力の育成(グループディスカッション)
- 第10回 情報活用実践力を育てる授業1(グループディスカッション)
- 第11回 情報活用実践力を育てる授業2(パネル発表)
- 第12回 コミュニケーションを生かした授業(e-Learningの予定)
- 第13回 コミュニケーションを生かした授業の実践1(グループディスカッション)
- 第14回 コミュニケーションを生かした授業の実践2(パネル発表)
- 第15回 理想の教育方法とは(グループディスカッション)

6. 留意事項

自ら進んで学ぶ態度が必要になります。

講義コード	26501701		
科目名	現代社会の心理学		
担当者	上田 恵津子		
単位数	2	配当学年	34
資格	[情]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

人間は社会の一員として生活している。いいかえれば、他者との関わりの中で、互いに影響を与え合いながら日常生活を送っている。そのような人と人との関わりや相互作用のあり方を研究するのが、社会心理学である。

本科目では、社会的相互作用における様々な心理過程のメカニズムを論じる。特に、他者との関わりの中で生じる認知や行動のしくみ、個人と集団との関わり、集団の中での人間行動、集団間関係、などについて詳述する。主要なトピックスに関する具体的な研究例とそこから見出された知見を解説しながら、社会心理学の代表的な理論や概念を理解することを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. 社会的相互作用における個人の心理過程を理解する。
2. 対人行動のメカニズムを理解する。
3. 集団の中での人間行動について考える。
4. 集団間関係について考える。

5. マスコミュニケーションの影響と集合現象を学ぶ。

6. 文化と人間行動との相互関係を考える。

3. 教育・学習の方法

1. 主として講義形式による。教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。

2. 各自、手書きでノートをとること。

3. ただ講義を聞いて知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深める学習態度が望まれる。

・準備学習の具体的な方法

前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

試験(90%)、授業態度(10%)を総合して評価する。欠席は減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 社会的態度(1) 社会的態度の理論
- 第2回 社会的態度(2) 説得と態度変化
- 第3回 帰属過程
- 第4回 援助行動と攻撃行動
- 第5回 化粧行動
- 第6回 被服行動
- 第7回 集団の影響
- 第8回 集団の構造
- 第9回 協同と競争
- 第10回 リーダーシップ
- 第11回 社会的勢力、集団間関係
- 第12回 マスコミュニケーション
- 第13回 集合現象
- 第14回 文化と人間
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	22515302 人間文化学科専門教育科目		
科目名	情報科学概論B コンピュータと親友になるう		
担当者	神月 紀輔		
単位数	2	配当学年	34
資格	[情][ウ][フ]		
前提科目			
テキスト	『痛快コンピュータ学』 坂村 健 集英社 2002 上記のテキストを主とするが、それ以外にも、随時、プリント資料を配布して使用する。		
参考文献	『大人のための「情報」教科書』 坂村 健 数研出版 2003 『計算機科学入門』 L. ゴールドシュレーガー, A. リスター 近代科学社 2000 『計算機科学入門』 M. アービブ他 サイエンス社 1984 『ファイマン計算機科学』 R. P. ファインマン 岩波書店 1999 『新版 情報工学』 都倉 信樹 放送大学教育振興会 1999 ※ 配布プリントで引用する可能性のあるものを挙げた。文献4,5は品切れ中。ただし、4の原書は出ている。これ以外にも、授業時に随時、参考文献を紹介する。		
備考	3年次生はBクラスを履修すること 4年次生はどちらかを履修してもよい		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

21世紀になり10年以上経つ今日、われわれの日常生活はかつてないほどコンピュータ(パソコンのみならず、携帯電話、家電製品に組み込まれているコンピュータも含む)、およびそのネットワークと結びついて来ている。世界的に観ても、インターネットや携帯電話の力を介した政治体系の変革まで生じている。

本授業は、このコンピュータという驚異の箱の舞台裏を垣間見、その動作のからくりを迫ろうとするものである。それは情報科学の基礎を概観する旅をすることでもある。

地味ではあるが、受講者のコンピュータとのつき合いに資するものがある… 情報技術をふかいところから理解し、その新たな変化にたいしても自信をもって対応することができるようになる… と確信している。

2. 教育・学習の個別課題

- 情報のデータ表現について学ぶ。
- コンピュータの構成とデータ処理の仕組みについて学ぶ。(ソフトウェアおよびハードウェア)
- コンピュータを効率よく運用する仕組みについて学ぶ。
- 人間や社会とコンピュータの関わりについてかんがえる。

3. 教育・学習の方法

講義形式でおこなう。大筋は教科書に沿ってすすむ。必要に応じてプリント資料を配布して補強する。ときどき問題演習の時間も取る予定である。

・準備学習の具体的な方法

授業中にプリント等で採りあげた演習問題などを復習する。新たなトピックに入る前にキーワードを提示する。それらについて教科書・参考書等をざっと目とおしておくとよい。

4. 評価方法・評価基準

定期試験(100%)

基礎的な内容にする予定である。

5. 授業予定

- 第1回 序論: 情報とコンピュータ
- 第2回 情報のデータ表現 --- 整数、p 進法
- 第3回 情報のデータ表現 --- 実数
- 第4回 情報のデータ表現 --- 文字
- 第5回 情報のデータ表現 --- 画像
- 第6回 情報の効率的なデータ表現 --- 符号化
- 第7回 情報の効率的なデータ表現 --- ハフマン符号
- 第8回 情報の効率的なデータ表現 --- 符号化の効率
- 第9回 情報の誤りを見つける、訂正する
- 第10回 コンピュータの動作原理 --- 全体の構成
- 第11回 コンピュータの動作原理 --- ソフトウェア
- 第12回 コンピュータの動作原理 --- ハードウェア
- 第13回 オペレーティングシステム
- 第14回 通信・ネットワーク、フリーソフト
- 第15回 総まとめ

6. 留意事項

「情報科学応用」、「プログラミング概論」などの実習科目も、本授業と同時期あるいはその後、選択するとよりいっそう理解が深まると思う。

講義コード	26502101		
科目名	学習の心理学		
担当者	上田 恵津子		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

人間は経験を通して学ぶ。経験とその結果としての行動の変化に関する規則性を明らかにしようとするのが、学習心理学である。

まず、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、洞察説、社会的学習理論などの学習理論について説明し、学習成立の基礎過程を理解させる。次に、記憶や思考などの人間の認知過程について述べる。さらに、何をいかに教えるかという教授・学習の問題や、どのようにすれば主体的に学習に取り組ませることができるかという学習意欲の問題に関する教授・学習過程について講述する。

これらの講義を通して、学習のしくみを理解し、教育と学習との関わりについて考察することを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

- 学習のメカニズムを理解する。
- 記憶や思考のしくみを知り、人間の認知過程を理解する。
- 教授・学習法を理解し、効果的な学習指導のあり方を考える。
- 動機づけのメカニズムを理解し、学習意欲を高める教育を考える。

3. 教育・学習の方法

- 主として講義形式による。教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
- 各自、手書きでノートをとること。
- ただ講義を聞いて知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深める学習態度が望まれる。

・準備学習の具体的な方法

前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

試験(90%)、授業時の課題(10%)を総合して評価する。欠席は減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 学習とは
- 第2回 学習理論(古典的条件づけ)
- 第3回 学習理論(道具的条件づけ)
- 第4回 学習理論(オペラント条件づけ)
- 第5回 学習理論(洞察説、社会的学習理論)
- 第6回 記憶
- 第7回 思考
- 第8回 技能学習
- 第9回 適応のための学習
- 第10回 教授・学習法
- 第11回 動機づけ、達成動機
- 第12回 自己効力感、原因帰属
- 第13回 動機づけを高めるために、学習支援
- 第14回 評価
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26502201		
科目名	学校教育の心理学 教育を心理学的側面から理解する		
担当者	松島 るみ		
単位数	2	配当学年	1
資格	[教][情]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『心理学事典』 中島義明ら(編) 有斐閣 『教育心理学事典』 辰野千寿ら(編) 教育出版 『新教育心理学事典』 依田新(監) 金子書房 『教育心理学キーワード』 森敏昭・秋田喜代美(編) 有斐閣		
備考	障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む 学校心理専攻必修(平成25年度以後入学者に適用)		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

教育過程における人間の心の働きや、学校教育現場における課題について、心理学的な知識、方法、視点から理解することを目指す。特に幼児、児童、生徒の心身の発達、学習の過程、知的・情意的側面の測定・評価を中心に学び、教育心理学の基本用語の習得を目指す。また、障害をもつ幼児、児童および生徒の心身の発達、学習過程について概説し、各障害についての理解を深める。

2. 教育・学習の個別課題

- 子どもの身体的、心理的諸側面の発達とその特徴を理解し、年齢・発達に応じた教育について考察する。
- 効果的な学習を援助する教授法や認知の働きを学ぶ。
- 知能や学力、性格における個人差の評価を学ぶ。
- 障害をもつ幼児、児童、生徒の心身の発達の特徴と学習過程、その関連事項について理解する。
- 学級集団における児童・生徒について学ぶ。
- 現代の学校教育の現状や問題点を心理学の立場から考える。

3. 教育・学習の方法

- 講義形式で進める。
- 毎回授業後に、授業内容のコメントを求める。
- 講義内容をただ覚えるだけではなく、自分の身のまわりから事例を探したり、これまで自身が学校教育で経験してきたことと関連づけるなど、受け身的ではなく、積極的に講義に臨むことを期待したい。

・準備学習の具体的な方法

授業予定一覧に記載されている内容に基づいて、予め自分なりの考えをまとめた上で授業に臨むことが望ましい。

4. 評価方法・評価基準

持ち込みなしの期末テスト(90%)、授業参加度(10%)により総合的に判断する。欠席・遅刻は減点の対象とし、欠席が授業回数の1/3を超えた場合、原則として期末テストは受けられない。

5. 授業予定

- 第1回 教育心理学とは

- 第2回 教育心理学の研究法
- 第3回 教育と発達
- 第4回 子どもの個人差 (知能・性格)
- 第5回 動機づけ理論1 (古典的な動機づけ理論)
- 第6回 動機づけ理論2 (近年の動機づけ理論)
- 第7回 原因帰属理論
- 第8回 学習を阻害する要因
- 第9回 知識の獲得方法
- 第10回 学級集団
- 第11回 学級環境が子どもに及ぼす影響
- 第12回 学校カウンセリング、障害をもつ子どもの理解
- 第13回 生徒指導、進路指導、進路選択
- 第14回 教育評価、教育評価の目的と方法
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26502301		
科目名	人間関係論 二者関係の社会心理学		
担当者	上田 恵津子		
単位数	2	配当学年	34
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	平成25年度まで開講		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

人間関係とは、人と人との関係を総称するものである。

本科目では、自己と他者との関係において生じる諸問題を、社会心理学の立場から論じる。友人関係や恋愛関係をはじめとする人間関係の形成、維持、崩壊の過程、他者との関係を築く上で基礎となる自己認知のしくみ、人間関係と対人行動、日本人の人間関係、などについて詳述する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 社会的相互作用における対人認知と対人行動のメカニズムを理解する。
2. 人間関係の形成過程、維持と進展の過程、および葛藤と崩壊のメカニズムを理解する。
3. 自己に対する認知と評価のあり方について考える。
4. 人間関係における自己表現について理解する。
5. 日本人の人間関係の特徴を考える。

3. 教育・学習の方法

1. 主として講義形式による。教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
2. 各自、手書きでノートをとること。
3. ただ講義を聞いて知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深める学習態度が望まれる。

・準備学習の具体的な方法

前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

試験 (90%)、授業態度 (10%) を総合して評価する。欠席は減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 人間関係と対人関係
- 第2回 対人認知 (1)
- 第3回 対人認知 (2)
- 第4回 対人魅力
- 第5回 対人的コミュニケーション
- 第6回 人間関係の形成 (1) 友人関係
- 第7回 人間関係の形成 (2) 恋愛関係
- 第8回 人間関係の維持
- 第9回 人間関係の崩壊
- 第10回 人間関係における自己 (1) 自己とは、自己概念
- 第11回 人間関係における自己 (2) 自己開示、自己呈示
- 第12回 人間関係における自己 (3) 自己評価
- 第13回 人間関係における自己 (4) 自己意識、対人不安
- 第14回 日本人の人間関係
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26502401		
科目名	教育心理学研究法		
担当者	尾崎 仁美		
単位数	2	配当学年	34
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献	『教育心理学研究の技法』 大村彰道編著 福村出版 2001		
備考	平成25年度まで開講		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

教育心理学研究では、さまざまな研究方法が用いられるが、それぞれの方法は、長・短の特徴をもっており、相互補完的に捉えることが必要である。本科目では、調査法、観察法、実験法など、教育心理学における代表的な研究方法を取り上げ、それぞれの特徴や実施の際の留意点について理解することを目標とする。また、具体的研究事例に触れることにより、教育心理学研究の具体的なかつ実際的な理解をめざすとともに、自ら研究を計画する際の基礎を形成することを目標とする。加えて、教育心理学研究における倫理的問題についても考える。

2. 教育・学習の個別課題

1. 教育心理学研究で用いられる研究方法について、その特徴および実施の際の留意点を理解する。
2. 自分で研究計画を立てるための基礎を身につける。
3. 教育心理学研究において求められる倫理的問題を考える。

3. 教育・学習の方法

1. テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。
2. 主に講義を中心に進めるが、研究方法を理解・習得するための課題を課すことがある。

・準備学習の具体的な方法

事前に前回の講義ノートに目を通しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業中に行う課題や小テストおよび学期末に実施するテスト (90%)、授業参加度 (10%) により総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 教育心理学研究のテーマと方法
- 第2回 測定的基础
- 第3回 調査法 (1)
- 第4回 調査法 (2)
- 第5回 調査法を用いた研究の実際
- 第6回 観察法 (1)
- 第7回 観察法 (2)
- 第8回 観察法を用いた研究の実際
- 第9回 実験法 (1)
- 第10回 実験法 (2)
- 第11回 実験法を用いた研究の実際
- 第12回 教育心理学研究における倫理的問題 (1)
- 第13回 教育心理学研究における倫理的問題 (2)
- 第14回 研究計画の立案
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26502501		
科目名	教育相談論		
担当者	尾崎 仁美		
単位数	2	配当学年	34
資格	[教][情]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	カウンセリングに関する基礎的な知識を含む		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

この授業では、学校教育相談の基礎知識を習得するとともに、学校にお

ける教育相談の意義や役割、その限界について理解することを目標とする。また、児童・生徒理解の視点と方法を学ぶとともに、現在の児童・生徒が学校現場で抱える悩みや問題についても理解を深める。さらに、教育相談およびカウンセリングの基礎理論の学習を通して、学校現場で生じる諸問題に対応する基本的姿勢を身につける。

2. 教育・学習の個別課題

1. 学校教育相談についての基礎知識を習得する。
2. 個々の児童・生徒を理解する視点と方法を学ぶ。
3. 学校現場で生じる不登校、いじめなどの諸問題について理解を深め、それらの問題に対応するための基本姿勢を身につける。

3. 教育・学習の方法

1. テキストは用いず、適宜資料を配布する。
2. 主に講義を中心に進めていくが、講義内容に関連した作業を課したり、実習を行うことがある。

・準備学習の具体的な方法

事前に前回の講義ノートに目を通しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業中に行う課題・学期末に実施するテスト（90%）、授業参加度（10%）により総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 教育相談とは
- 第2回 児童・生徒理解の枠組み
- 第3回 児童・生徒理解の方法
- 第4回 教師の自己理解
- 第5回 教師の児童・生徒認知の影響
- 第6回 学級理解
- 第7回 学級運営にまつわる諸問題
- 第8回 主な問題行動の理解と対応①不登校
- 第9回 主な問題行動の理解と対応②いじめ
- 第10回 主な問題行動への対応の具体例
- 第11回 カウンセリング・マインド
- 第12回 カウンセリングの理論
- 第13回 カウンセリングの技法
- 第14回 教育相談の現状と課題
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26502601			
科目名	学校教育概論 学校教育の基本を知ろう			
担当者	神月 紀輔			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領』 文部科学省 東京書籍 2008			
参考文献	『小学校学習指導要領解説 総則編、総合的な学習の時間編』 文部科学省			
備考	学校心理専攻必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

学校教育の現状を理解し、これから学ぶ教職課程の授業内容につなげていく。

2. 教育・学習の個別課題

学校教育とは何か理解する。学校教育の現状を知り、問題点を把握する。教育・学習と心理学の接点を理解し、積極的に心理学を活用する姿勢を作る。学校における教職員・児童・生徒・保護者・地域の方々の関係を理解し、広い視点で教育を見れるようにする。

3. 教育・学習の方法

グループによる自学自習を基本とし、自律的に学習を進める。学習の進捗を共有するために、コメントの提出を毎回求める。評価を自己評価で行うので、他者の意見やコメントに留意し、自分の学習を把握しておく必要がある。必要に応じて、グループ内やグループ間での相互評価も行う。期間中、1・2回インターネットを介したe-Learningを行うことがある。

・準備学習の具体的な方法

大学に入って初めての授業であるので、自学自習に慣れ、自分から主体的に学習できるように準備しておきたい。具体的には、わからない単語や言葉は、次の時間までに自分で調べるか、友だちや教員に聴くなどして解決しておくなどである。出席することだけや、レポートを出すだけでは、

現在の自分の学習が広がらない。他者の意見を聴くことや文献を調べる習慣をつけていきたい。

4. 評価方法・評価基準

授業に参加する態度（40%）単に出席したかどうかだけでなく、グループ活動への参画度や自分で学習を深めるなど、授業をどう生かそうとしているかを、最終授業時に教員の示す評価規準によって数値で自己評価する。小テスト（20%）復習と重要ポイントの確認のため、期間中月に1回ペースで3回実施する。

レポート（20%）期間中数回出題する。レポート提出時に教員の示す評価規準によって数値で自己評価する。

グループ活動への参加態度（20%）グループのメンバーによる相互評価や、他のグループからの相互評価をもとに自分で数値で自己評価する。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション、学習の進め方、グループ編成
- 第2回 学校教育とは何か
- 第3回 教育・学習と心理学
- 第4回 学校教育の歴史
- 第5回 教育基本法と教育法規
- 第6回 教育課程と学習指導要領
- 第7回 各教科の学習・総合的な学習の時間と子どもの学力
- 第8回 教育評価
- 第9回 特別活動と学級活動
- 第10回 生徒指導・心の病と学校
- 第11回 人権教育、保護者・地域と学校
- 第12回 環境教育と食育
- 第13回 国際理解教育と外国語教育
- 第14回 国際的な学力とこれからの教育
- 第15回 自己評価、相互評価

6. 留意事項

グループ活動が主になるので、積極的に授業に参加し、グループ内で協力すること。本講義は概論であるので、詳しい内容は各授業で深めること。

講義コード	26502701			
科目名	学校心理学文献講読 I（心理）			
担当者	尾崎 仁美			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『たのしく学べる最新教育心理学』 桜井茂男 図書文化社 2004			
参考文献	『新・教育心理学事典』 依田新 金子書房 1977			
備考	※学校心理専攻必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

学校心理学は、学校教育の過程とその関連事象を、心理学的な観点から科学的に研究しようとする学問である。

この科目では、①学校心理学の文献を読むことになじむこと、②学校心理学の専門用語の基礎知識を身につけること、③積極的に文献を読む能力・態度を養うことを目的とする。

具体的には、まず、学校心理学の概説書を教材に用い、受講者各自に文献の特定部分を割り当て、内容をまとめて発表・討論させる。その際、専門用語については、各自が事典を用いて調べ、自分の言葉で説明できるようにする訓練を行う。さらに、各自の関心にもとづき、より専門的な文献や最近の研究論文等を読むことも試みたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 学校心理学の文献を読むことに慣れる。
2. 学校心理学の専門用語を学習し、意味を的確に理解する。
3. 学校心理学の文献・論文の内容を理解できるようにする。

3. 教育・学習の方法

1. 受講者が発表し、互いに討論する形式で行う。発表者は、自分の担当部分を要約するレジュメを作成・配布して、それをもとに発表する。発表後、発表者と聴講者が、発表内容に関して討論する。
2. 自分なりに問題意識をもって考察を深める学習態度と、積極的に討論に参加する意欲とが望まれる。

・準備学習の具体的な方法

1. 発表者は、担当部分を要約するレジュメを作成すること。その際、不明な箇所や専門用語は事典等で調べ、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
2. 発表者以外の受講生は、教科書の発表予定部分を通読しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

1. 評価は、授業参加度（20%）、発表（60%）、レポート（20%）により総合的に行う。
2. 発表・討論形式であるので、遅刻なく出席し、積極的に関心をもって、発表および討論に参加すること。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索とレジュメ作成
- 第3回 発表と討論
- 第4回 発表と討論
- 第5回 発表と討論
- 第6回 発表と討論
- 第7回 発表と討論
- 第8回 発表と討論
- 第9回 発表と討論
- 第10回 発表と討論
- 第11回 発表と討論
- 第12回 発表と討論
- 第13回 発表と討論
- 第14回 発表と討論
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26502801			
科目名	学校心理学文献講読Ⅱ（教育）			
担当者	藤本 陽三			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『教えるということ』 大村はま 共文社 1973 『子どもと学校』 河合隼雄 岩波書店 1992			
参考文献				
備考	平成25年度まで開講			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

教職を志す者、あるいは学校教育に関心を寄せる者が、教育活動の本質、源流となる先人の教育思想・教育実践・教育の史的変遷等の不易性と、現代的教育課題・教育の将来的展望等の流行性の両側面から考察する意義は大きい。本講義は学校教育にかかわる専門的な文献を読みこなすとともに幼児・児童・生徒の作文を読み解くことを通して、教職の専門職としての見識を一層深め、学校教育現場のさまざまな教育活動を多様な側面から捉え解釈できる素養を育成することをねらいとする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 学校教育にかかわる文献の中から、特に不易性の高い文献を熟読、その教育思想の意義について考察する。
2. 理解した内容、考察した成果をレジュメに整理し、相互交流を行う。
3. 他者の講読した文献に論述されている教育思想との比較、教育の史的変遷上の意味について理解する。

3. 教育・学習の方法

全体による講義と、個別課題に分かれたグループ別文献講読を行う。さらに要点をレジュメにまとめて配布し、全体によるディスカッションを行う。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示する。

4. 評価方法・評価基準

ディスカッションと発表が主体となるため、課題への主体的な取り組み方を重視する。成績は、授業参加度（40%）、レポート（30%）、最終レポート（30%）によって総合的に判断する。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 大村はま『教えるということ』より「教えるということ」を読む。
- 第3回 大村はま『教えるということ』より「教師の仕事」を読む。（前半）
- 第4回 大村はま『教えるということ』より「教師の仕事」を読む。（後半）
- 第5回 大村はま『教えるということ』より『「ことば」について』を読む。
- 第6回 大村はまの教育思想について考察する。
- 第7回 河合隼雄『子どもと学校』より「教育の価値を見直す」を読む。
- 第8回 河合隼雄『子どもと学校』より「大人が子どもにかかわること」を読む。
- 第9回 河合隼雄『子どもと学校』より「教える側、教わる側」を読む。
- 第10回 河合隼雄『子どもと学校』より「こころが育つ環境」を読む。

- 第11回 河合隼雄の教育思想について考察する。
- 第12回 被災地の子ども80人の作文集『つなみ』を読む。（討論）
- 第13回 被災地の子ども80人の作文集『つなみ』を読む。（発表前半）
- 第14回 被災地の子ども80人の作文集『つなみ』を読む。（発表後半）
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26502901			
科目名	教育社会学A			
担当者	大野 順子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『[教師教育テキストシリーズ5] 教育社会学』 久富善之・長谷川裕編 学文社 2008年			
参考文献	適時、指示する。			
備考	(A) 心理学部対象クラス (B) 人間文化学部・生活福祉文化学部対象クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部のみで対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係をもっていることが多々あります。

そこで本講義では、そういった状況を踏まえた上で、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。

皆さんがこれまでの学校生活で直接経験してきた身近な教育問題から地域や国の政策レベルでの取り組み、そして海外における事例等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性を学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。

2. 教育・学習の個別課題

1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。
2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。
3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。
4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見を表現し、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。

3. 教育・学習の方法

講義形式を中心としますが、適時、受講生全員で扱う教育問題についてどのように考えているかそれぞれ発表してもらい、問題解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。そこで、よりよい議論の時間を保証するためにも、毎時、取り扱うテーマに関する文献等を読み、それを講義日までに要約してきてもらいます（毎回それを提出してもらうことになります）。

・準備学習の具体的な方法

指定しているテキストを購入し、講義で扱うテーマに該当する部分を要約しておいて下さい。そして日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておいてください。また、履修する学生の皆さんには本講義用に1冊ノートを作成してもらいます。そのノートに上記、予習や新聞等の切り抜き等を貼り付けるなど利用して下さい（まとめかたは自由）。※ノートは提出してもらっても構いません。

4. 評価方法・評価基準

出席・授業参加度(20%)、試験(50%)、課題・ノート(30%)により総合的に評価（予定）

※出席が80%に満たない場合は成績評価の対象外とします。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション 教育社会学とは
- 第2回 近代学校教育制度
- 第3回 教師と子ども
- 第4回 校則・体罰
- 第5回 いじめ
- 第6回 不登校
- 第7回 教育格差・階層問題Ⅰ
- 第8回 教育格差・階層問題Ⅱ
- 第9回 国の教育政策
- 第10回 地域と学校Ⅰ

- 第11回 地域と学校Ⅱ
- 第12回 海外の事例（米・英・オーストラリアなど）
- 第13回 海外の事例（発展途上国における教育問題）
- 第14回 在日外国人の子どもたち
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義計画については、履修学生の皆さんの状況により若干予定を変更する場合がありますのでご了承ください。

皆さんの積極的な授業への参加を期待しています。

実習や就職活動などで長期に欠席する場合は単位取得にも影響するので事前に相談してください。

講義コード	26503001			
科目名	教育課程論（初）			
担当者	工藤 哲夫			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[教][情]			
前提科目				
テキスト	『よくわかる教育課程』 田中耕治編 ミネルヴァ書房			
参考文献				
備考	小幼専用科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

教育課程に関する基礎的理論を学習し、教育課程策定の実際や課題を具体的に理解する。そして、学校における教育課程の実際を検討するきっかけとする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 教育課程の理論
2. 教育課程の種類
3. 学校現場の教育課程

3. 教育・学習の方法

1. 講義形式
2. 討論
3. 発表
4. 教育課程の作成
5. 小レポート

・準備学習の具体的な方法

1. 小学校時代の通知票に書かれている教育目標をよく読んでおく。
2. 小学校時代の通知票に書かれている教育目標を一回目の授業に記録して持ってくる。

4. 評価方法・評価基準

毎回の出席と授業参加と小レポート提出（50%）。発表（20%）。課題提出またはテスト（30%）。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学校づくりと学習指導要領とカリキュラム
- 第3回 内容選択の基準
- 第4回 カリキュラム編成の原理
- 第5回 子どもの発達とカリキュラム
- 第6回 教科書
- 第7回 カリキュラムと教育環境
- 第8回 達成されたカリキュラム
- 第9回 カリキュラムの履修スタイル
- 第10回 教科のカリキュラム
- 第11回 教科外のカリキュラム
- 第12回 近年のカリキュラム改革の動向
- 第13回 日本の教育改革の歴史
- 第14回 レポートの作成
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26503101			
科目名	保育概論 幼稚園教育を中心に			
担当者	小川 圭子			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[幼]			
前提科目				
テキスト	『新・保育原理—すばらしき保育の世界へ—』 三宅茂夫編（株）みらい 2009年 『幼稚園教育要領』 文部科学省 フレーベル館 2008年 『保育所保育指針』 厚生労働省 フレーベル館 2008年			
参考文献	『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 2008年 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

少子化、親の子育てのあり方、社会状況等、現在の幼児を取り巻く現状は大きく変化しつつある。そこで、わが国における保育の変遷と幼稚園や保育所、家庭の状況を確認しながら、幼稚園や保育所の果たすべき役割や保育を担当する保育者としての役割について理解する。具体的には、幼稚園教育の基本や役割、幼児期の発達の特性、幼児理解、教育課程と指導計画、指導・援助、保育内容の変遷などである。

2. 教育・学習の個別課題

1. 幼稚園教育の基本や役割等について学ぶ。
2. 幼児期の発達の特性、幼児理解、教育課程と指導計画、指導・援助などについて学ぶ。
3. 幼稚園教育の重要性を認識するとともに、幼児教育の意味について考察する。

3. 教育・学習の方法

テキストを中心に講義形式で授業を進める。適宜、資料を配布したり、DVDやパワーポイントなどによる資料提示を行う。

自習学習による課題レポート（初回授業で説明する）、小テストにより学習内容を定着させる。

・準備学習の具体的な方法

指定の教科書と資料を事前に読んでくるとともに、授業終了後にも復習をすること。

4. 評価方法・評価基準

1. 平常点（出席率、授業参加度）10%、課題レポートなど40%、小テスト50%などで、総合的に評価する。
2. 3分の2以上の出席を求める。

5. 授業予定

- 第1回 幼稚園と保育所の保育の基本とその役割
- 第2回 幼稚園と保育所の保育の基本とその役割
幼稚園と保育所的一天
- 第3回 今日の保育・幼児教育の課題（少子化対策・子育て支援）
- 第4回 教育の歴史
- 第5回 幼稚園と保育所の歴史
(幼稚園教育要領と保育所保育指針の変遷)
- 第6回 保育内容の構造（幼稚園教育要領が示す保育内容）
- 第7回 保育内容の構造（保育所保育指針が示す保育内容）
- 第8回 子どもの保育内容（年齢別のふわわしい園生活の展開）
- 第9回 教育課程と指導計画
- 第10回 保育課程と指導計画
- 第11回 子どもの発達について（乳幼児期の発達の特性や幼児理解）
- 第12回 保育における指導・援助
- 第13回 子どものあそび
(あそびのとりえ方、あそびを見る視点とその援助)
- 第14回 保育の評価と保育者に求められる姿
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

この授業では、保育をめぐる「問題」を通じて、保育とは何なのか、保育のあるべき姿を問います。

日ごろから幼児教育についての情報を得るように努めてください。

講義コード	26503201			
科目名	学校臨床心理学 スクールカウンセラーの事例を通じてクライアントについて考える			
担当者	佐藤 睦子			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

学校臨床には、幅広い領域に関する知識が必要とされる。また、対象となるクライアントも、児童生徒・教員・保護者と多岐にわたる。本講義では、初めにすべての心理学に共通な学校臨床心理の基本的概念を学んだ後、学校における実践例を提示しながら、さまざまな症状を訴える児童生徒に対するカウンセリング、教員・保護者に対するコンサルテーションのありかたについて、実践例を交えて考察し、学んでいく。

2. 教育・学習の個別課題

1. 学校臨床におけるクライアントと面接における目的を明らかにし、学校臨床の特色や、スクールカウンセラーとはどのような仕事をするのかを学ぶ。
2. 学校で相談活動を行なう上でのクライアントとスクールカウンセラーとの関係性・責任・倫理について学ぶ。
3. スクールカウンセラーが学校に存在する意味について理解する。

3. 教育・学習の方法

授業は講義とディスカッションを中心に行なう。実践例を提示した場合には、クライアントに対するアプローチについてのディスカッションと、クライアントの病理について解説する講義を2回に分けて行ない、時間をかけて考察することとなる。各自のディスカッションへの積極的な参加姿勢を期待している。また、実践例の授業が終了するごとにレポートを課す。これらの体験の中から、学校臨床とは何か、スクールカウンセラーの役割とは何かを考え理解することを目標として学習を進める。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業内で課されるレポートの内容と期末に行なわれる課題をもとに、授業参加度・授業態度・ディスカッションに積極的に参加しているかどうかなど総合的に判断する。

5. 授業予定

- 第1回 学校臨床とは何か
- 第2回 学校現場における事例の提示とディスカッション（不登校生母親の事例）
- 第3回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第4回 学校現場における事例の提示とディスカッション（神経症の生徒の事例）
- 第5回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第6回 学校現場における事例の提示と個人課題（非行の事例）
- 第7回 学校現場における事例の提示とディスカッション（虐待が疑われる事例）
- 第8回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第9回 学校現場における事例の提示とディスカッション（PTSDの生徒の事例）
- 第10回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第11回 学校現場における事例の提示とディスカッション（発達障害の事例）
- 第12回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第13回 6事例の振り返りとまとめ
- 第14回 到達度確認の課題
- 第15回 到達度確認課題結果の振り返りとまとめ

6. 留意事項

ディスカッションのグループは、前半と後半で組み替える予定である。

講義コード	26503301			
科目名	生徒指導・進路指導			
担当者	工藤 哲夫			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト	『最新 生徒指導・進路指導論—ガイダンスとキャリア教育の理論と実践』 吉田辰雄 図書文化			
参考文献	『規範意識をはぐむ生徒指導体制—小学校・中学校・高等学校の実践事例22から学ぶ（生徒指導資料）』 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 東洋館出版社			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

教育目標達成のために学習指導を通して確かな学力が身についた実感をもたせることと同時に、生徒指導・進路指導を行うことによって、社会人としてどのように社会に貢献していくのかを、児童・生徒に考える事ができるようにする。また実際の事例を通し、学校の教育目標と生徒指導・進路指導の関連を学習指導要領上の位置づけの中で学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 生徒指導・進路指導の意義
2. 生徒指導・進路指導の実際
3. 学校現場の指導体制

3. 教育・学習の方法

1. 講義形式
2. 討論
3. 発表
4. 小レポート

・準備学習の具体的な方法

1. 小学校中学校時代の通知票に書かれている所見欄をよく読んでおく。
2. 小学校中学校時代の通知票に書かれている所見欄の中から、印象的なものを一回目の授業に記録して持ってくる。

4. 評価方法・評価基準

毎回の出席と授業参加と小レポート提出（50%）。発表（20%）。課題提出またはテスト（30%）。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 生徒指導・進路指導の歴史と発展
- 第3回 学習指導要領・教育課程における生徒指導・進路指導
- 第4回 ガイダンス・カウンセリングの基礎的理論
- 第5回 生徒指導の理念と性格
- 第6回 進路指導の理念と性格
- 第7回 児童生徒理解の方法・技術
- 第8回 生徒指導・進路指導の組織と運営
- 第9回 教育相談・進路相談の方法・技術
- 第10回 学校における生徒指導の計画と実践
- 第11回 学校におけるキャリア教育の計画と実践
- 第12回 児童生徒の問題行動
- 第13回 生徒指導・進路指導のアセスメント
- 第14回 レポートの作成
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26503601			
科目名	国際理解教育			
担当者	大槻 雅俊			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト	テキストなし			
参考文献				
備考	平成25年度まで開講			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本講義は、子どもに視点をあて、国際理解教育について考察を行う。学校教育のなかで取りあげる人権、多文化、自文化などの内容を子どもとの関わりから迫っていく。国際社会のなかで多様な価値観があり、それらを認識することをとおして国際理解教育への関心を高め、受講者が国際社会に活躍するための基礎的な素地を養うことを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

国際化にむけて社会がますます進展する中、教育との関連において考えていく。1.世界のできごと、文化、習慣に関心を持つ。2.アジアの国における子どもの生活と人権・教育を考える。3.在日、来日外国人と学校教育のあり方を考える。4.今もある紛争・戦争と子どもの生活。5.地球規模の諸問題を考える。6.これからの国際理解教育のあり方を考える。

3. 教育・学習の方法

授業について、前半は講義を行い、後半は受講者による発表形式で授業すすめ、その後、全員で意見交換をすることを基本とする。

・準備学習の具体的な方法

事前に課題を提示するので、予習をきっちりしておくこと。課題の報告者はレジュメを準備しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

平常点 (20%)、試験 (60%)、レポート (20%)

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション・「国際理解教育」の意義を考える
- 第2回 学校教育と国際理解教育
- 第3回 進展する国際化社会
- 第4回 人権と共生を考える
- 第5回 人権教育の取り組み
- 第6回 多文化社会と異文化理解
- 第7回 相互依存関係の社会
- 第8回 アジアの国々と向き合う
- 第9回 アジアの国々と文化
- 第10回 韓国・朝鮮の文化
- 第11回 和文化の再認識
- 第12回 地球規模の諸問題
- 第13回 貧困・食料問題
- 第14回 紛争と平和
- 第15回 国際理解教育の今後の方向

6. 留意事項

受講者の積極的な参加を期待する。

講義コード	26503701			
科目名	環境教育			
担当者	菅井 啓之			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『地球のささやき』 龍村仁 角川ソフィア文庫 2000 『環境の哲学』 桑子敏雄 講談社学術文庫 1999 『沈黙の春』 レイチェル・カーソン			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

地球環境問題は年々悪化の一途を辿っている。環境問題の解決には両輪が必要である。その一つは、法規制や政治的経済的政策と個人々の環境に配慮した行動など目の前の問題に対しての対処療法。もう一つは人々の環境に対する考え方やライフスタイルの変革など抜本的な意識改革を目指す体質改善である。教育においては、環境に対する知識や理解を深める学習と、環境倫理を深めや意識改革を進める実践的な学習が必要である。環境教育はこれらの両輪を意図的に計画的に推進することを目標としている。この授業では環境教育を多面的にとらえ実践に結びつく教育のあり方を探る。

2. 教育・学習の個別課題

1. 環境教育の重要性を認識する 2. 環境教育で育成すべき能力や態度 3. ベオグラード憲章の内容を理解する 4. 日本の環境教育の歴史 5. 学校における環境教育の現状と課題 6. 環境教育の実践に向けて体験的に学ぶ

3. 教育・学習の方法

講義を主とするが、野外実習も行う。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示するが、今日話題となる地球環境問題に目を向け、その問題や課題について自分なりに考えてみるのが大切。

4. 評価方法・評価基準

課題レポート 40%、毎時間小レポート 20%、学習態度 20%、小テスト 20%によって評価する。

5. 授業予定

- 第1回 環境問題の何を教育するのか
- 第2回 環境教育の目的とベオグラード憲章
- 第3回 日本の環境教育の歴史
- 第4回 学校における環境教育の現状と課題
- 第5回 環境省や地域が行う環境教育の現状
- 第6回 環境教育の実践事例とその検討
- 第7回 理科、社会科、総合的な学習等における環境教育のあり方
- 第8回 食育と環境教育
- 第9回 自然観察と環境教育
- 第10回 環境倫理・環境哲学について
- 第11回 日本の自然観と環境教育
- 第12回 南方熊楠の環境思想
- 第13回 世界文化遺産「下鴨神社の糺の森」における環境教育の実習
- 第14回 里山における環境教育のあり方
- 第15回 環境教育の今後の課題

6. 留意事項

講義コード	26503901			
科目名	情報教育 情報活用能力の育成と授業でのICT活用			
担当者	神月 紀輔			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[教][情]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『高等学校学習指導要領解説情報編』 文部科学省 開隆館出版販売 2010			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

情報教育の目標やその教育方法に関して解説し、学校園における学習指導要領で定められている情報教育の授業実践が行えるよう実践的指導力の育成をめざす。

2. 教育・学習の個別課題

情報活用能力の3つの構成要素、
・情報活用の実践力
・情報の科学的理解
・情報社会に参画する態度の育成
に関して正しく理解し、児童生徒に指導できるようにする。

3. 教育・学習の方法

講義による解説と受講者の小グループによるディスカッションを適時、導入し、受講生が主体的に講義に参加できる学習方法を取り入れて行う。また、e-learningを行うことがある。

・準備学習の具体的な方法

前回までの復習をしておくこと。
学習指導要領や教育要綱をよくみておくこと。
自分が授業をするというイメージをもって授業に臨むこと。
グループでの活動に積極的に参加すること

4. 評価方法・評価基準

授業への参加意欲・態度 (40%)
課題やレポートに対する自己評価・相互評価 (30%)
期末レポート (30%)

5. 授業予定

- 第1回 講義オリエンテーション
学習理論の復習
- 第2回 情報教育の目標
- 第3回 授業におけるICT活用と、教員に求められるICT活用指導能力
- 第4回 教員によるICT活用での授業計画
- 第5回 教員によるICT活用の授業実践
- 第6回 情報の科学的理解とデジタル化

- 第7回 情報のデジタル化の仕組み
- 第8回 児童生徒が主体的に情報を活用するために
- 第9回 児童生徒が主体的に情報を活用するための授業実践
- 第10回 情報社会に参画する態度
- 第11回 情報モラル教育の事例研究
- 第12回 コミュニケーションの活性化とICTの役割
- 第13回 情報活用能力を社会で生かすために
- 第14回 本当の意味での情報活用能力とは
- 第15回 学校における情報教育の今後の課題

6. 留意事項

毎回、小グループによるディスカッションを行うので、講義に主体的に参加することが重要である。ディスカッションに主体的に参加することで、教育実習時の実践的指導力につながる。

講義コード	26504001			
科目名	食と健康の教育 自分自身の食生活、子どもの食生活			
担当者	内田 和寿			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本科目は、自分自身の食生活について振り返り、バランスの良い食事について理解すると共に、学校給食について理解し、食育について考察を深める講義である。学校給食は、児童の体位の向上、栄養の量的補給・確保を重要課題としているが、最近では家庭における「孤食」も問題となっており、給食時間は食べるだけでなく、人間関係育成の場としても重要な役割を果たしていることを理解し、その指導法についても理解を深めることがねらいである。

2. 教育・学習の個別課題

- ・3大栄養素、5大栄養素とは何かを学び、バランスの良い食事について理解する。
- ・自分自身の食生活について振り返り、栄養のバランス、食事のタイミング等について検討する。
- ・教育現場における給食、弁当に関する諸問題について理解する。
- ・給食の時間における、食べ物や栄養に関する指導について理解する。
- ・学校、家庭、地域が連携した食に関する指導について理解する。
- ・給食時間のマナー、教室の雰囲気作りについて理解する。

3. 教育・学習の方法

- ・講義とそれに基づく課題についてのディスカッションを中心に展開する。
- ・テキストについては講義の中で指示を行い、資料については適宜配布する。

・準備学習の具体的な方法

自身の食生活に関する分析シートを講義で配布するので、データを記録すること。工場見学について、質問事項を明確にして参加すること。レポート作成に関して、食に関するニュースや事件について情報収集しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業内における活動から60点満点で評価。小レポート・レポート等から、食と健康に関する教育への理解力・考え方について40点満点で評価。

5. 授業予定

- 第1回 自分自身の食生活について振り返る
- 第2回 食事のバランス、摂取のタイミングについて
- 第3回 スポーツ選手の競技力向上と食事の関係
- 第4回 家庭での食事スタイルについて（諸外国との比較）
- 第5回 現代の子どもの家庭での食事について（2週）
- 第6回 学校給食の諸問題について
- 第7回 給食、お弁当を食べるときのマナー、教室の雰囲気について
- 第8回 学校における給食時間の工夫、家庭、地域との連携について
- 第9回 食物アレルギーや、好き嫌いが多い児童に対する指導について
- 第10回 食品の品質表示について
- 第11回 昨今の食品偽装問題について①
- 第12回 昨今の食品偽装問題について②
- 第13回 工場見学（昨年度はコココーラ工場・おたべ工場）

- 第14回 工場見学（昨年度はコココーラ工場・おたべ工場）
- 第15回 工場見学（昨年度はコココーラ工場・おたべ工場）

6. 留意事項

工場見学に関わる費用は自費となります（京都市内の工場見学を予定）。

講義コード	26504102			
科目名	教育経営論			
担当者	小林 多津子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	心理学部対象クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

我が国の学校教育を中心として、日常的な教育課題に適切に対応する学校経営のあり方、また教育目標を達成するための教育のあり方など、教育経営について理解する。併せて、「学校とは」「教育とは」「教師とは」「子どもとは」について、自分の考えを明確に論じられるよう認識を深めていく。

2. 教育・学習の個別課題

1. 教育経営の原理について理解する。
2. 学校経営における諸問題について理解し、その解決方法を見出せるようにする。
3. これからの学校教育のあり方を考察していく。

3. 教育・学習の方法

講義により教育経営の基本的な考え方を習得していく。VTRやDVD、参考資料を活用しながら、現在の学校教育経営に関するテーマのレポートやディスカッション等で意識化する。

・準備学習の具体的な方法

日常のニュース等で、教育の今日的課題を見つけておく。

4. 評価方法・評価基準

授業後のコメントやレポート（30%）、テスト（50%）出席・授業参加度（20%）に基づき総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育経営の原理
- 第3回 学校とは（法的根拠を基にして）
- 第4回 学校とは（学校の現状と課題）
- 第5回 学校とは（学校のあるべき姿）
- 第6回 教育とは（原理）
- 第7回 教育とは（顕在的カリキュラムを通して）
- 第8回 教育とは（潜在的カリキュラムを通して）
- 第9回 教師とは（求められる資質・能力）
- 第10回 教師とは（教職員と組織）
- 第11回 児童・生徒とは（学校教育の諸問題を通して）
- 第12回 学校教育の今日的課題について
- 第13回 教育経営の実際
- 第14回 望ましい教育経営とは
- 第15回 テストとまとめ

6. 留意事項

講義コード	26505201			
科目名	児童心理学 子どもの心理を理解する			
担当者	高井 直美			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[教][日][子]			
前提科目				
テキスト	使用しない。プリントを配布。			
参考文献	『児童心理』 岡本夏木 岩波書店 1991			
備考	学校心理専攻必修（平成25年度以後入学者に適用）			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

子どもの心の発達過程の特徴を学ぶことは、人間のさまざまな精神的機能の発生のメカニズムを理解することにもつながる。子どもの心理を理解することを通して、人間の精神活動の仕組みに関する基礎知識を身につけることを第1の目標とする。そして、その知識をもとにして、子どもと関わったり、子どもを教育するための素養を身につけることを第2の目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. さまざまな発達段階の特徴について学ぶ。
2. 対人活動の発達・認知発達・言語発達・自我形成等について、おおまかな発達のプロセスを理解する。
3. 発達を規定する要因として、個人的要因、子どもを取り巻く学校・社会・文化といった環境的役割について理解を深める。

3. 教育・学習の方法

授業は講義を中心に配布プリントを用いて行う。

・準備学習の具体的な方法

授業中に紹介した図書・文献を読むとともに、実際に子どもを観察したり、子どもと関わることを通じて、子どもの心理に関して理解を深めてほしい。

4. 評価方法・評価基準

学期末テストによって評価するが、欠席が多い場合は減点の対象とする。

5. 授業予定

- 第1回 発達の方向性および発達段階の考え方
- 第2回 初期経験はその後の発達にどの程度影響を及ぼすのか？
- 第3回 対人活動の発達①（親子関係を中心に）
- 第4回 対人活動の発達②（遊びを中心に）
- 第5回 ピアジェの示した認知発達
- 第6回 ピアジェ以降の認知発達研究
- 第7回 言語活動の発達①（言葉の育つ要因）
- 第8回 言語活動の発達②（言葉の発達のプロセス）
- 第9回 言語活動の発達③（思考と言葉の関係）
- 第10回 仲間関係の発達
- 第11回 心の理論の発達
- 第12回 自我形成の発達
- 第13回 道徳性および自尊感情の発達
- 第14回 社会文化的視点からみた発達
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

授業の順番や内容が変わることがある。

講義コード	26505401		
科目名	乳幼児心理学 乳幼児期の発達とその後に影響する要因を探る		
担当者	薦田 未央		
単位数	2	配当学年	2
資格	[幼][子]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『よくわかる乳幼児心理学』 内田伸子（編） ミネルヴァ書房 2008 『乳幼児の心理』 麻生武 サイエンス社 2002 『乳幼児心理学』 無藤隆・岩立京子（編著） 北大路書房 2009 『発達科学入門（2）胎児期～児童期』 高橋恵子・湯川良三・安藤寿康・秋山弘子（編） 東京大学出版会 2012		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

ヒトの発達において乳幼児期の特徴やその後の発達に影響する要因を学び、発達のメカニズムを探る。ヒトが生まれてから加齢とともに老いていく中、乳幼児期の発達は質・量ともに様々な機能が着しく発達する時期である。近年では、科学的な発達研究から乳児の有能さが明らかになっている。この様な新しい知見も含め、乳幼児期における認知発達、言語発達、人間関係の形成、自我の形成等の発達について学び、乳幼児の理解を通してヒトの発達についての理解を深める。

2. 教育・学習の個別課題

1. ヒトを理解するために重要な発達の理論を学ぶ。
2. ヒトの発達に影響する生理的要因や社会的要因の相互作用を学び、理解する。
3. 乳幼児期の認知発達、言語発達、人間関係の形成、自我形成等の発達

の特徴を学ぶ。

4. 乳幼児期の発達を阻害する要因について学び、理解する。
5. 乳幼児期の発達がその後の発達にどのように影響するのか理解を深め、発達支援について考察する。

3. 教育・学習の方法

講義形式で行う。授業中に適宜資料を配布する。

・準備学習の具体的な方法

参考文献に提示した文献や授業中に提示する参考文献を中心に、乳幼児期を中心とした子どもの発達について勉強しておくこと。また、積極的に子どもと接する機会をもつことや、日常生活の中で見かける子どもの姿を観察をして、イメージづくりを心がけると授業の理解も深まるだろう。

4. 評価方法・評価基準

授業中に行う課題（20%）、期末テスト（80%）で総合評価とする。

5. 授業予定

- 第1回 乳児の有能さ
- 第2回 乳幼児期の身体的・心理的特徴
- 第3回 主要な発達の理論（成熟論・学習理論）
- 第4回 主要な発達の理論（認知発達・社会的発達）
- 第5回 乳幼児期の親子関係
- 第6回 乳幼児期における言葉発達の基盤
- 第7回 乳幼児期における言語発達
- 第8回 乳幼児期における記憶発達
- 第9回 乳幼児期における思考の発達
- 第10回 幼児期における想像性
- 第11回 乳幼児期における概念の発達
- 第12回 乳幼児期における自己・他者理解
- 第13回 乳幼児期における遊びと友だち関係
- 第14回 乳幼児期における発達阻害要因と発達支援
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

予定された授業は順序が入れ替わることもある

講義コード	26505501		
科目名	老年期の心理学 成人期以降の人生を考える		
担当者	伊藤 一美		
単位数	2	配当学年	34
資格			
前提科目			
テキスト	授業中にプリントを配布する。		
参考文献	『老年心理学』 下仲順子（編） 培風館 1997 『老いることの意味』 南・山田（編） 金子書房 1995 『高齢期の心理と臨床心理学』 下仲順子（編） 培風館 2007 『エピソードでつかむ老年心理学』 大川・宇都宮・日下・奥村・土田（著） ミネルヴァ書房 2011		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

高齢化社会の到来とともに、発達心理学においても老年期をも含めた生涯発達の観点から理論が再構築されつつある。この講義では、個人差が拡大する成人期から老年期について、心理・社会学的データを背景に、生涯発達の観点から生理・認知・パーソナリティ・対人関係・病理などの特徴や変化について学ぶ。さらに、心理臨床現場で必要となる高齢者に対する心理的な検査・治療・援助などの方法論についても学ぶ。また、異世代が共存する社会の中で若年層の果たす役割と、若いゆく存在として必要になるエイジング・エデュケーションについても考察を深めたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 成人期から中年期、老年期へと向かう過程での、心理・社会的な変化について学ぶ。
2. 現代の高齢者の心理社会的な位置付けと心理的諸側面を発達および臨床の両面から学ぶ。
3. 実践の場で必要になるテストや援助のスキルを学ぶ。
4. 老若の関係性と若年層へのエイジング・エデュケーションについて、実践を通して学ぶ。

3. 教育・学習の方法

指定テキストはなし。適宜資料を配布、テキストの紹介をする。講義を中心に、映像やワークなど実際に体験できるような課題も行い、それらを素材に共有・ディスカッションも行いたい。

・準備学習の具体的な方法

*授業中に提示された資料、テキストなどを積極的に参照し、持ち帰りとなるワークについては、自らの経験と学んだ知識とを関連付けて自主的に学ぶ。*新聞・テレビ・インターネット等メディアで取り上げられる「若い」や「高齢者」の問題について、トピックを拾っておく。*身近な人々の年代、発達課題などを考えるべく、さまざまな年代の方と接点を持つように心がける。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加態度 (20%。出席状況を含む)、授業内のワークプリント (30%)、期末レポート試験 (50%) に基づき、総合的に行う。また、欠席が3分の1を超えた場合には、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ライフサイクルの諸理論 (1)
- 第3回 ライフサイクルの諸理論 (2)
- 第4回 青年期から成人前期へ
- 第5回 中年期の心理社会的特徴
- 第6回 老化・加齢・老年期に関する概念および理論
- 第7回 老年期の知能
- 第8回 老年期の認知機能
- 第9回 老年期のパーソナリティと適応
- 第10回 老年期の対人関係と社会性
- 第11回 老年期の精神疾患
- 第12回 高齢者と死
- 第13回 高齢者に対する心理検査と心理療法
- 第14回 他世代との関係性とエイジング・エデュケーション
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26505601			
科目名	発達検査論			
担当者	高井 直美			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト	テキストは用いない。			
参考文献	授業中に紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

まず、発達検査・知能検査の歴史を学ぶ。次に、発達検査を通して発達の見方について学んでいく。また代表的な発達検査・知能検査の実施方法、結果の読み取り方について、理解する。さらにその結果をどのように発達支援や学校教育に生かしていくのかということについて、応用的に考えていく。

2. 教育・学習の個別課題

1. 発達検査・知能検査の歴史を学ぶ。
2. 発達検査・知能検査の目的と有効性について知る。
3. 新版K式発達検査の歴史を知る。
4. 新版K式発達検査を通して、乳幼児期の発達のプロセスについて学ぶ。
5. WISC-IVやK-ABCの特長を理解し、教育への応用のしかたを探る。
6. 発達検査を行ってわかることとわからないことは何か考える。

3. 教育・学習の方法

講義を中心に行うが、授業中 (あるいは宿題で) 筆記課題を行うことがある。

・準備学習の具体的な方法

身近な子どもを観察し、何歳の子どものような行動をしているのか、知っておく。また同じ年齢でも一人ひとり行動に違いが見られる。人の個性はどのような点に見られるか、考えてみよう。

4. 評価方法・評価基準

学期末の試験で評価を行うが、出席状況が悪い場合は減点する。

5. 授業予定

- 第1回 発達検査・知能検査の歴史
- 第2回 発達の遅れや障がいについて
- 第3回 発達のアセスメントの目的
- 第4回 新版K式発達検査① (乳児期前半)
- 第5回 新版K式発達検査② (乳児期後半)
- 第6回 新版K式発達検査③ (幼児期前半)

- 第7回 新版K式発達検査④ (幼児期後半)
- 第8回 新版K式発達検査のまとめ
- 第9回 K-ABC心理・教育アセスメントバッテリーについて①
- 第10回 K-ABC心理・教育アセスメントバッテリーについて②
- 第11回 WISC-IVについて①
- 第12回 WISC-IVについて②
- 第13回 発達検査、知能検査を通して障がいや問題行動の理解方法について学ぶ
- 第14回 検査者に必要な資質および倫理的配慮
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

順番は入れ替わることがある。

講義コード	26505701			
科目名	発達心理学研究法			
担当者	山形 恭子			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト	テキストは使用せずに毎回プリントを配布します。			
参考文献	『「発達研究の技法」』 田島・西野 (編著) 福村出版 2000 『心理学マニュアル「観察法」』 中澤・大野木・南 (編著) 北大路書房 1997 『心理学マニュアル「質問紙法」』 鎌原・宮下・大野木・中澤 (編著) 北大路書房 1997 その他、実証研究に必要な参考書を授業中に紹介します。			
備考	平成25年度まで開講			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

発達心理学研究では乳児から高齢者にわたる広範な研究対象に関してその発達過程とメカニズムの解明をめざして多様な研究方法が用いられています。本授業ではこのような多彩な研究方法を理解し習得して、受講生が実際に研究を実施していく際に研究目的に照らした適切な方法を選択できるように、多様な研究方法の実際を学び、発達研究に関する諸方法の基礎を身に付けます。

2. 教育・学習の個別課題

1. 発達心理学の多様な研究方法を理解し学びます。
2. 具体的に観察・実験・調査・インタビュー・検査・量的研究などの研究方法の特徴とその手法を研究目的との関連のもとに習得します。
3. 実際に研究計画を立てて実証研究をおこない、研究法の実際を学びます。
4. 研究結果の分析方法についてもあわせて学びます。

3. 教育・学習の方法

講義と実習を併用して授業を進めていきます。授業ではプリントを配布しますが、受講生の皆さんは参考図書も利用しながら勉強して下さい。また、研究方法の実際を身につけるために実習として実証研究をおこないますが、その際には具体的な研究計画の立案とその実施 (データの収集) ・結果の分析などの一連の作業を実際におこない、レポート・報告書にまとめます。

・準備学習の具体的な方法

参考図書を読んで実証研究の諸方法に関して理解しておいて下さい。また、実習ではグループを作り、研究テーマを決めて研究計画を立案し、実際にデータを収集します。その場合、グループメンバーとの共同作業や話し合いが必要となりますので、協力して作業に当たって下さい。

4. 評価方法・評価基準

レポート (60%) ・授業参加度 (15%) ・実習への参加度 (25%) などにより総合的に評価します。

5. 授業予定

- 第1回 発達研究の目的と方法
- 第2回 発達研究の代表的な方法
- 第3回 観察研究の方法とその実際。
- 第4回 観察研究の実施。研究テーマを決めて観察研究を実際を実施する。
- 第5回 実験研究の方法とその実際。
- 第6回 質問紙研究の方法とその実際。
- 第7回 質問紙の作成と結果の分析。
- 第8回 質問紙調査の実施。
- 第9回 面接法の種類と方法。
- 第10回 面接法の実際。
- 第11回 量的質的研究法
- 第12回 プロトコル分析法

- 第13回 グループインタビュー
 第14回 検査法の種類と実施上の問題
 第15回 実習の問題点と授業のまとめ

6. 留意事項

実習としての実証研究はグループでおこないますので、全員が参加して協力するようにして下さい。

講義コード	26505901			
科目名	発達心理学文献講読			
担当者	山形 恭子			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	テキストは使いませんが、毎回、購読する論文・著書などの文献をプリントにして配布します。			
参考文献	授業中に適宜文献を紹介いたします。			
備考	発達心理専攻必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26506001			
科目名	障害児心理学 障害の概念や子どもの実態について理解を深める			
担当者	薦田 未央			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[教][日][子]			
前提科目				
テキスト	テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。			
参考文献	『発達障害の基礎』 有馬正高(監修) 日本文化科学社 1999 『障害臨床学』 中村義行・大石史博(編) ナカニシヤ出版 2003 『発達障害とその周辺の問題』 宮本信也 他 中山書店 2008 その他、授業中に適宜紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

発達心理学の文献を毎週読み、文献の内容を理解・読解する力を身に付けます。また、文献の読解を通じて発達心理学研究における問題設定・方法・結果の分析・考察といった一連の研究方法について具体的に理解するとともに、今後の研究に向けた問題設定ならびに実証方法について学び、発達心理学を研究するための基礎を習得します。

2. 教育・学習の個別課題

1. 発達心理学に関する論文・著書を読み、内容を正確に把握します。
2. 文献中に不明な箇所があれば、自分で調べて理解します。
3. 文献の実験・調査などの結果・事実・資料を読み解く力を身につけます。
4. 文献の要旨をまとめて発表・紹介する力を育てます。
5. 文献の要旨・問題点をレポートにまとめる力を身に付けます。
6. 文献を批判的に読み解く力を養います。

3. 教育・学習の方法

発達心理学の諸領域に関する著書・論文を毎回教材として選定します。購読する文献は全員が必ず読みますが、授業では発表担当者を決めて文献の内容を紹介し、その問題点などを相互に出しあって検討し、議論します。また、授業終了後に受講生が各自文献・論文の要約・問題・感想などをレポートにまとめて提出します。

・準備学習の具体的な方法

配布文献を毎週読んで予習をします。また、理解できない箇所があれば各自調べ、授業中に不明な点を質問するように準備しておきます。

4. 評価方法・評価基準

発表(10%)・レポート(70%)・授業参加度(15%)・議論への参加(10%)に基づいて総合的に評価します。

5. 授業予定

- 第1回 授業の目的・方針・やり方を紹介します。
- 第2回 乳幼児期の母子関係の発達に関する文献を読みます。
- 第3回 乳幼児期の社会的発達に関する文献を読みます。
- 第4回 言語獲得に関する文献を読みます。
- 第5回 乳幼児期の認知発達に関する文献を読みます。(1)
- 第6回 乳幼児期の認知発達に関する文献を読みます。(2)
- 第7回 児童期・青年期の社会的発達に関する文献を読みます。(1)
- 第8回 児童期・青年期の社会的発達に関する文献を読みます。(2)
- 第9回 児童期・青年期の認知発達に関する文献を読みます。
- 第10回 成人期の発達に関する文献を読みます。(1)
- 第11回 成人期の発達に関する文献を読みます。(2)
- 第12回 中年期の発達に関する文献を読みます。
- 第13回 高齢期に関する文献を読みます。
- 第14回 高齢期に関する質的研究論文を読みます。
- 第15回 高齢社会に関する文献を読みます。

6. 留意事項

毎回、配布する文献を読み、その要約をレポートにまとめて提出します。必ず文献を丁寧に何度も読んで理解するように努めて下さい。

1. 科目の教育目標

障害という言葉の持つ意味は多様であり、それを定義する概念も難しい。当然、障害を持つ子どもといってもその様相は多様である。それらの障害の内容と特徴を理解する。具体的には、障害の要因やその生理的、身体的問題について考え、行動特徴や精神機能、心理的特徴の理解を深めていく。更に、障害を持つ子どもの親の心理、社会的資源を含めた環境の問題、また、子どもの発達過程における社会・心理的問題などにも触れる。特に、学校教育の中での支援についても取り上げる。

2. 教育・学習の個別課題

1. 障害とは何かを理解する。
2. 障害の生理的基盤を理解する。
3. 各障害の定義や種類と実際の子どもたちの状態について考える。
4. 障害による心理的特徴を理解する。
5. 障害を持つ子どもがおかれる環境と発達過程における問題について理解する。

3. 教育・学習の方法

講義形式で行い、必要に応じてワーク等を実施する。

・準備学習の具体的な方法

1. 授業中に紹介する文献やテキストを参考に、障害や疾病についての理解を深めておくこと。
2. 3～4回に一度、講義の振り返りとまとめの意味で小テストを行う。授業で提示された資料やレジュメをもとに、復習しておくこと。
3. 多様な障害について考えるため、日ごろから社会で取り上げられる障害や疾病にまつわるトピックスには関心をもって調べておくこと。

4. 評価方法・評価基準

期末試験は行わない。授業中に実施する小テストや課題への取り組み、ならびに出席や授業態度を総合的に評価する。内訳は、小テストを60%(15%×4回分)、授業中の課題25%、授業態度・出席を15%とする。

5. 授業予定

- 第1回 障害の概念に関する歴史的背景
- 第2回 医療、福祉、教育における障害の概念
- 第3回 発達過程からみる「発達の遅れ」とは
- 第4回 障害の生理的要因(脳機能の発達)
- 第5回 障害の生理的要因と環境要因(遺伝と環境)
- 第6回 障害の分類 (1) 精神遅滞
- 第7回 障害の分類 (2) 運動障害
- 第8回 障害の分類 (3) 視覚・聴覚障害
- 第9回 障害の分類 (4) 重複障害
- 第10回 障害の分類 (5) 言語・学力に関する障害
- 第11回 障害の分類 (6) 行動・情緒の障害
- 第12回 障害の分類 (7) 自閉症
- 第13回 障害児の親(養育者)の心理について
- 第14回 学校教育における現状と問題について
- 第15回 支援資源について、まとめ

6. 留意事項

予定されている授業内容は、順序が入り替わることがある。授業中に行われる小テストについては、初回授業で実施日程を告知する。やむを得ない事情を除いて、欠席のためテストを受けなかった場合、そのテストについては評価点0となる可能性がある。

講義コード	26506201			
科目名	現代青年の心理学			
担当者	尾崎 仁美			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

青年期とは、人生の発達段階の一ステージである。この時期は、子どもから大人への移行期であるが、第二の誕生と言われるように、心身ともに重要な変容の段階でもある。青年にまつわる問題は古くから存在するが、同時に青年の行動や思考とは、時代を如実に反映するものであり、常に新しい問題を含んでいる。この授業では、青年期がどのようにとらえられてきたかに始まり、青年期に特有な身体と心の問題、自己意識、対人関係(友人関係、親子関係、異性との関係)、進路決定等の観点から、現代青年の心理について理解を深めることを目標とする。また、受講生の多くが青年期にあることから、受講生自身の自己理解に結びつくような作業や実習等も取り入れながら授業を進めていく。

2. 教育・学習の個別課題

1. 従来の諸学説を学び、青年期がどのようにとらえられてきたかを理解する。
2. さまざまなデータや現象記述を通して、現代青年の心理について多面的に考察する。
3. 体験的学習をもとに、自分自身への理解を深める。

3. 教育・学習の方法

1. テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。
2. 講義を中心に進めていくが、適宜、受講者の自己理解に結びつくような体験的学習も取り入れる。その際、課題レポートの提出を求める。
3. 講義内容を受身的に覚えるのではなく、自分自身の体験や周囲の人たちと関連づけて考える主体的な受講態度が望まれる。

・準備学習の具体的な方法

事前に前回の講義ノートに目を通しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

課題レポート・期末に実施するテスト(90%)、授業参加度(10%)により総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 青年期とは
- 第2回 青年期のとらえ方
- 第3回 青年期の身体と心
- 第4回 現代青年の身体と心をめぐる問題
- 第5回 青年期の自己意識
- 第6回 青年期におけるアイデンティティ
- 第7回 現代青年の自己・アイデンティティをめぐる問題
- 第8回 青年期の親子関係
- 第9回 現代青年の親子関係
- 第10回 青年期の友人関係
- 第11回 現代青年の友人関係
- 第12回 青年期の異性関係
- 第13回 青年期の進路決定
- 第14回 現代青年の進路をめぐる問題
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26509501			
科目名	臨床心理アセスメントA			
担当者	鶴田 薫			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目	「心理検査法実習」(平成24年度以前入学者に適用) 「心理テスト実習」(平成25年度以後入学者に適用)			
テキスト	授業中に資料を配布			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26509502			
科目名	臨床心理アセスメントB			
担当者	田中 誉樹			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目	「心理検査法実習」(平成24年度以前入学者に適用) 「心理テスト実習」(平成25年度以後入学者に適用)			
テキスト	授業中に資料を配布			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

臨床心理アセスメントとは、対象となる患者やクライアントの治療方針や処遇や援助の方針を立てるために、症状・問題行動・パーソナリティなどの個人的な状態像を評価・検査・観察といった手法により見立て、また種々の環境要因の状況を把握していくことである。また、そこで得られたデータを臨床的・発達の・精神医学的理論と臨床経験を基盤に読み取り、複数の情報を組み立て、問題の改善に向けての指針を出していくという、専門的作業でもある。アセスメントを行う者として心理検査の技法に習熟することはもちろんのこと、相手とのスタンスをどう取るか、自らの主観的判断をどう扱うかという自分自身の理解も必要となる。この講義では、先に学んだ「心理検査法入門」や「心理検査法実習」を手がかりとしながら、心理学や精神医学の理論を背景に、対象者に必要とされるデータは何かを見て取り、どのようにデータを得て、得られたデータをもとに対象を多面的・統合的に捉えるための知識や姿勢を学ぶことを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. データの読み取りに必要な理論背景を学ぶ。
2. アセスメントのための観察や面接の方法を学ぶ。
3. 心理検査の種類や技法、臨床場面での扱い方を学ぶ。
4. 検査者としての態度やスタンス、倫理的な常識について学ぶ。

3. 教育・学習の方法

基本的に、講義形式で行うが、必要に応じて実習的な内容も取り入れていく。テキストは指定せず、適宜資料を配布、テキストの紹介を行う。

・準備学習の具体的な方法

*授業で紹介されたテキストやプリントなどについて、自主的に理解を深める。*日ごろから、直接あるいはメディアなどを通じて人の営みに関心を持ち、個々人の抱える問題や背景に対する配慮を持つように心がける。

4. 評価方法・評価基準

授業参加態度(30%、出席状況を含む)、期末レポートおよび授業時間内のプリント課題(70%)に基づいて、総合的に行う。欠席や遅刻は減点の対象となる。欠席回数が3分の1を超えた場合には、原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 臨床心理アセスメントとは(1)
- 第2回 臨床心理アセスメントとは(2)
- 第3回 アセスメントの流れ(1)
- 第4回 アセスメントの流れ(2)
- 第5回 インテーク面接を体験する(1)
- 第6回 インテーク面接を体験する(2)
- 第7回 観察法によるアセスメント
- 第8回 面接法によるアセスメント
- 第9回 心理検査によるアセスメント
- 第10回 心理検査の種類と技法(1)

- 第11回 心理検査の種類と技法 (2)
- 第12回 心理検査の種類と技法 (3)
- 第13回 データの読み方とまとめ方～テストバッテリーも含めて～
- 第14回 アセスメントを実施・報告する際の倫理的問題
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

「心理検査法実習」(2年前期)を履修していること。

講義コード	26509601			
科目名	臨床相談実習			
担当者	三好 智子・佐藤 睦子・鶴田 薫・福山 幸子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	臨床心理専攻必修(平成25年度以後入学者に適用) 週2コマ連続			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

心理臨床における代表的な技法を体験的に習得する。

グループAは、個人療法に関する実習を行う。

グループBは、集団療法に関する実習を行う。

グループCは、立体的なイメージを用いた実習を行う。

グループDは、平面的なイメージを用いた実習を行う

上記の通り、グループ実習は、それぞれ4回とも異なる実習を行うので、

1グループだけの出席は不可能である。

2. 教育・学習の個別課題

1. 心理臨床に必要な基本技法を体験する。

2. 技法を実施している場面において、どのような態度での観察方法が最適であるかを学ぶ。

3. 全体実習では、行ってきた技法の感想を共有するとともに、全員で1つの実習を行う。

3. 教育・学習の方法

授業はすべて実習形式である。1回2コマ分(4時限分)の通し授業で、通年時間数を半期で集中的におこなう。登録学生は、4グループの編成で、それぞれの技法について3週間の実習(全体実習を含む)をおこない、ローテーションによって4技法全てを体験する。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

欠席者が出るとローテーションに支障をきたし、また2コマ分連続欠席となるため、体験効果にも大きな影響が出る。よって、原則として欠席および遅刻は認めず、全回出席をもって単位認定の基本条件とする。その上で、授業への参加態度、グループごとに課されるレポートの内容などを総合して評価を行う。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 グループ実習A
- 第3回 グループ実習A
- 第4回 グループ実習Aの共有と全体実習
- 第5回 グループ実習B
- 第6回 グループ実習B
- 第7回 グループ実習Bの共有と全体実習
- 第8回 グループ実習C
- 第9回 グループ実習C
- 第10回 グループ実習Cの共有と全体実習
- 第11回 グループ実習D
- 第12回 グループ実習D
- 第13回 グループ実習Dの共有と全体実習
- 第14回 全体の実習に対する振り返りを兼ねた到達度確認課題
- 第15回 フォローアップ

6. 留意事項

本実習は心理療法の体験学習であるため、少なからず、個人の問題に直面する場合がございます。万が一、そのような状況に陥った場合には、担当教員に必ず相談してほしい。

講義コード	26509901			
科目名	臨床心理学文献講読A			
担当者	福山 幸子			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『カウンセリングの実際』 河合隼雄 岩波書店 2009			
参考文献				
備考	臨床心理専攻必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この授業の目的は次の3つである。

1. カウンセリングの基本的態度を学ぶ

2. 心理学を学ぶ上で必要とされる基礎的な用語を身につけ、専門的な文献を読みこなすための基礎づくりを行う

3. テキスト以外にも文献や論文に触れ、幅広く臨床心理学を学ぶ

2. 教育・学習の個別課題

1. テキストを各自予習する 2. 発表者はテキストを熟読のうえ、要点をまとめたレジュメを作成し発表する 3. レジュメをもとにディスカッションを行い、さらに理解を深める 4. 毎回、学んだことや考察をレポートにまとめる

3. 教育・学習の方法

授業方法：演習形式で進める。発表者は要点をレジュメにまとめ、各自の問題意識を伝える。発表をもとにディスカッションを行い、テキストを多面的により深く理解する。授業の最後には、学んだことをレポートにまとめる。

・準備学習の具体的な方法

テキストの熟読が基本である。また、臨床心理学の中で興味がある分野について、文献・資料を読んでいくこと。テキスト以外の文献や論文を折に触れて紹介するので、それらも参照すること。

4. 評価方法・評価基準

発表とディスカッションが主体の授業であるため、受講者の主体的参加が大前提である。授業参加度50% 発表、レポート、ディスカッションへの参加状況など50%。

5. 授業予定

- 第1回 授業オリエンテーションと発表の準備、テキストの紹介
- 第2回 カウンセリングの入門講義とレジュメの書き方指導
- 第3回 テキスト 第1章 カウンセリングとは何か
- 第4回 テキスト 第2章 カウンセリングの課程 (その1)
- 第5回 テキスト 第2章 カウンセリングの課程 (その2)
- 第6回 テキスト 第3章 心の構造 (その1)
- 第7回 テキスト 第3章 心の構造 (その2)
- 第8回 カウンセリングの実際
- 第9回 テキスト 第4章 カウンセラーの態度と理論 (その1)
- 第10回 テキスト 第4章 カウンセラーの態度と理論 (その2)
- 第11回 テキスト 第4章 カウンセラーの態度と理論 (その3)
- 第12回 テキスト 第5章 ひとつの事例
- 第13回 テキスト 第7章 カウンセラーとクライアントの関係 (その1)
- 第14回 テキスト 第7章 カウンセラーとクライアントの関係 (その2)
- 第15回 まとめとふりかえり

6. 留意事項

講義コード	26509902			
科目名	臨床心理学文献講読B			
担当者	中村 千珠			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『カウンセリングの実際』 河合隼雄 岩波現代文庫 2009			
参考文献				
備考	臨床心理専攻必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

この授業では、臨床心理学を学ぶ上で必要とされる基礎的な用語を身につけ、専門的な文献を読みこなすための基礎づくりを行う。

さらに、テキスト以外にも、論文紹介や体験的内容も取り入れ、幅広く臨床心理学を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 指定文献を各自予習する。
2. 発表者は文献を熟読のうえ、要点をレジュメにまとめ、発表を行う。
3. レジュメをもとに、ディスカッションを行い、さらに理解を深める。

3. 教育・学習の方法

授業方法；演習形式で進める。毎回、2～3章ずつ読み進める。発表者は要点をレジュメにまとめ、また各自の問題意識をフロアに伝え、それらをもとにディスカッションを行い、テキストを多面的により深く読み進める。

・準備学習の具体的な方法

テキストの熟読を基本とする。理解できない用語などは各自調べたり、授業中に不明な点を質問できるように準備をすること。

4. 評価方法・評価基準

発表とディスカッションが主体の授業であるため、受講者の主体的参加が大前提である。授業参加度 50% 発表、レポート、ディスカッションへの参加状況など 50%。

5. 授業予定

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 授業オリエンテーション |
| 第2回 | テキストの紹介およびレジュメの書き方の指導 |
| 第3回 | テキスト カウンセリングとは何か |
| 第4回 | テキスト カウンセリングの過程 その1 |
| 第5回 | テキスト カウンセリングの過程 その2 |
| 第6回 | テキスト 心の構造 |
| 第7回 | 体験実習 |
| 第8回 | テキスト カウンセラーの態度と理論 その1 |
| 第9回 | テキスト カウンセラーの態度と理論 その2 |
| 第10回 | テキスト 事例 その1 |
| 第11回 | テキスト 事例 その2 |
| 第12回 | テキスト カウンセラーとクライアントとの関係 その1 |
| 第13回 | テキスト カウンセラーとクライアントとの関係 その2 |
| 第14回 | 論文紹介 |
| 第15回 | まとめ 質疑応答など |

6. 留意事項

以上のようなスケジュールで行うが、進み具合により内容を変更・省略することがあり得る。また、講義内容にそって体験的内容を取り入れるたり、レポートも課すこともある。

講義コード	26509903			
科目名	臨床心理学文献講読C			
担当者	中村 千珠			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『カウンセリングの実際』 河合隼雄 岩波現代文庫 2009			
参考文献				
備考	臨床心理専攻必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

この授業では、臨床心理学を学ぶ上で必要とされる基礎的な用語を身につけ、専門的な文献を読みこなすための基礎づくりを行う。

さらに、テキスト以外にも、論文紹介や体験的内容も取り入れ、幅広く臨床心理学を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 指定文献を各自予習する。
2. 発表者は文献を熟読のうえ、要点をレジュメにまとめ、発表を行う。
3. レジュメをもとに、ディスカッションを行い、さらに理解を深める。

3. 教育・学習の方法

授業方法；演習形式で進める。毎回、2～3章ずつ読み進める。発表者は要点をレジュメにまとめ、また各自の問題意識をフロアに伝え、それらをもとにディスカッションを行い、テキストを多面的により深く読み進める。

・準備学習の具体的な方法

テキストの熟読を基本とする。理解できない用語などは各自調べたり、授業中に不明な点を質問できるように準備をすること。

4. 評価方法・評価基準

発表とディスカッションが主体の授業であるため、受講者の主体的参加が大前提である。授業参加度 50% 発表、レポート、ディスカッションへの参加状況など 50%。

5. 授業予定

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 授業オリエンテーション |
| 第2回 | テキストの紹介およびレジュメの書き方の指導 |
| 第3回 | テキスト カウンセリングとは何か |
| 第4回 | テキスト カウンセリングの過程 その1 |
| 第5回 | テキスト カウンセリングの過程 その2 |
| 第6回 | テキスト 心の構造 |
| 第7回 | 体験実習 |
| 第8回 | テキスト カウンセラーの態度と理論 その1 |
| 第9回 | テキスト カウンセラーの態度と理論 その2 |
| 第10回 | テキスト 事例 その1 |
| 第11回 | テキスト 事例 その2 |
| 第12回 | テキスト カウンセラーとクライアントとの関係 その1 |
| 第13回 | テキスト カウンセラーとクライアントとの関係 その2 |
| 第14回 | 論文紹介 |
| 第15回 | まとめ 質疑応答など |

6. 留意事項

以上のようなスケジュールで行うが、進み具合により内容を変更・省略することがあり得る。また、講義内容にそって体験的内容を取り入れるたり、レポートも課すこともある。

講義コード	26510001			
科目名	カウンセリング概論			
担当者	多田 昌代			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	特に指定しない。			
参考文献	授業時間内に適宜紹介する。			
備考	臨床心理専攻必修 (平成 25 年度以後入学者に適用)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

スクールカウンセリングの普及等によって、カウンセリング・心理療法は世間に広く知られるようになったが、誤解や偏見をもたれていると感じることも多い。また細部を見ていくと様々な理論・技法があり、どのような方向性で勉強していけばよいか、迷いやすい状況となっている。本科目では専門的学習への基礎作りとして、カウンセリング・心理療法の基本的考え方を学び、様々な技法について理解することで、カウンセリング・心理療法の全般的な印象をおおまかにつかむことを目的とする。さらにカウンセリングの経過、聴くためのスキルなどの実際をより具体的に理解し、身につけることを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. カウンセリング・心理療法の基本的考え、様々な理論・技法を理解する。
2. カウンセリング・心理療法のプロセスやスキルについて、具体的に理解する。

3. 教育・学習の方法

1. 講義形式で授業を行う。基本的には毎回レジュメを配布して、それに応じた内容で進める。

2. 理論的な学習をした次の回は確認のため小テストを行う。体験的内容の回には小レポート(感想)の提出を求める。これらは毎回授業時間内に行い、評価に使用する。

・準備学習の具体的な方法

必要に応じて授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

成績は、授業時間内に行う小テスト・小レポート(60%)、定期試験(40%)の総合評価とする。

5. 授業予定

- 第1回 導入
- 第2回 『グローリアと3人のセラピスト』より①
- 第3回 『グローリアと3人のセラピスト』より②
- 第4回 様々な技法①(精神分析)
- 第5回 様々な技法②(認知行動療法)
- 第6回 様々な技法③(ナラティブ・アプローチ)
- 第7回 初回面接・アセスメント
- 第8回 心の健康
- 第9回 映画の中のカウンセリング場面①
- 第10回 映画の中のカウンセリング場面②
- 第11回 聴くためのスキル
- 第12回 様々な技法④(家族療法他)
- 第13回 ストレス・マネージメント
- 第14回 心のことを考える心
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

授業進度に応じて変更が生じることがある。またテーマにそって視聴覚教材や体験的内容を取り入れる。

授業は、基本的に講義形式で行うが、受講生にも発現、発表の機会を与える。適宜、ビデオ、プロジェクター等の視聴覚教材を用いる。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

出席、授業への出席態度、試験などにより総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 「無意識」概念の臨床心理学における重要性について(臨床心理学の歴史から)
- 第2回 精神分析の誕生と「無意識」発見の過程(1)…日常的な誤り行為への注目
- 第3回 精神分析の誕生と「無意識」発見の過程(2)…シャルコーのヒステリー治療
- 第4回 精神分析の誕生と「無意識」発見の過程(3)…神経症と無意識(症例O,アンナ)
- 第5回 精神分析の誕生と「無意識」発見の過程(4)…神経症症状と無意識(症例エリザベート嬢)
- 第6回 精神分析の誕生と「無意識」発見の過程(5)…フロイトの自己分析
- 第7回 精神分析の誕生と「無意識」発見の過程(6)…夢と無意識
- 第8回 フロイトの人格論(1)…局所論
- 第9回 フロイトの人格論(2)…構造論
- 第10回 フロイトの人格論(3)…神経症のメカニズム
- 第11回 精神分析の方法(1)…治療法(催眠から自由連想法へ)
- 第12回 精神分析の方法(2)…抵抗と徹底操作
- 第13回 精神分析の方法(3)…退行
- 第14回 精神分析の方法(3)…転移と逆転移
- 第15回 無意識と文化…フロイトの芸術論

6. 留意事項

講義コード	26510101			
科目名	無意識の心理学 心の深層を理解するために			
担当者	田中 誉樹			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	必要に応じて教員が準備する。			
参考文献	授業中に、適宜、紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

普段の生活の中で、私たちは、「自分には、そんなつもりはないのに、思わぬ失敗をしてしまった」というような経験をすることが、よくある。例えば、毎日顔を合せている友達の名前を急に「度忘れ」したり、「いい間違え」たりするなどである。また、別に怖い夢を見たいと思って眠る訳ではないのに、悪夢にうなされて目覚めたり、行ったこともない場所や見知らぬ人が夢の中に出てくるといったことも、多くの人が経験していることであろう。私たちは、自分の「心」を、自分の意志する通りにコントロールしたいと思っている。しかし、上にあげた例のように、他でもない自分自身の「心」であるにも拘らず、感情・態度・夢の内容を思うようにコントロールできないのも事実である。Freud,S は、このような、日常の何気ない「言い間違い」、「度忘れ」、「訳のわからない感情」「夢」などは、私たちの意志とは異なる原理、原則に則って機能する、普段は意識されていない心の働きによるものではないかと考え、これを「無意識」と呼んだ。そして、神経症を始めとする様々な心理的問題の背景にも、この「無意識」が関与していると主張したのである。現代においても、「無意識」という概念は、精神分析的な方向性を持つ心理療法の基本的な前提となる概念である。この講義では、主に Freud,S の精神分析理論を概説し、無意識の基本的な機能、構造、性質などを概観することによって、より深い人間理解の眼を養うことを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

- 1. 精神分析における「無意識」発見の歴史について学び、「無意識」という心的領域の存在を想定するに到る過程を理解する。
- 2. 「無意識」が抽象的、思弁的な概念ではなく、私達の日常生活にも大きな影響を与えている現実的、経験的な現象であることを理解する。
- 3. 神経症、人格障害、統合失調症などの精神疾患や、自傷・自殺など、無差別殺人など、現代において問題となっている事柄と「無意識」との関係について理解する。
- 4. 自由連想、夢分析など、「無意識」を理解するための精神分析的方法についても言及する。

3. 教育・学習の方法

1. 科目の教育目標

私たちは誰もが家族としての体験をもっており、それぞれの家族観をもっている。しかし、その限定された体験から現代社会の家族の問題や現象を読み解くことはできない。私たちは家族についてのより広い視野を持ち、問題の背景を考えるべきではないだろうか。家族心理学は比較的歴史の浅い分野であるが、そのような理解を手助けしてくれる学問である。

本科目では、社会の最小単位として家族が成立し、家族関係が変化していく様子を改めて見直していく。その過程で現代の家族が直面している課題を様々な側面からとらえ、理解を深めるとともに、心理的援助の実際を学んでいく。

2. 教育・学習の個別課題

- 1. 家族心理学の枠組みを知る
- 2. 家族とは何かということを知り直す
- 3. 家族への心理的援助の実際を学ぶ

3. 教育・学習の方法

主として講義形式で行うが、必要に応じてグループでのディスカッションや発表を取り入れる。また、授業時にミニレポートを課し、学んだことを基に自分で考え、表現する力を養う。

・準備学習の具体的な方法

前回までの講義ノートをもとめなおし、疑問点を明らかにしたうえで授業に臨むこと。興味をもった分野については図書館で文献を探し、自主的にさらに深く学ぶこと。

4. 評価方法・評価基準

成績評価は授業参加度および授業時のミニレポート(50%)、期末レポート及び提出課題(50%)

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション：家族心理学とは
- 第2回 家族とは何だろうか①：家族のイメージ
- 第3回 家族とは何だろうか②：家族の機能

- 第4回 家族とは何だろう③：家族の変化と発達
- 第5回 恋愛から結婚への人間関係
- 第6回 結婚と夫婦関係
- 第7回 家族と子育て
- 第8回 家族と介護
- 第9回 家族とライフステージ
- 第10回 家族とジェンダー
- 第11回 家族への心理的援助の実際①：親子関係・虐待
- 第12回 家族への心理的援助の実際②：夫婦関係・DV
- 第13回 家族への心理的援助の実際③：子育て支援
- 第14回 家族への心理的援助の実際④：家族心理教育
- 第15回 まとめとふりかえり

6. 留意事項

講義コード	26510401		
科目名	パーソナリティ心理学		
担当者	向山 泰代		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	開講前に掲示にて指示する。		
参考文献	『性格心理学の技法』 杉山憲司・堀毛一也（編著） 福村出版 1999 『性格の測定と評価』 詫摩武俊他（編） プレーン 出版 2000 『パーソナリティ心理学』 榎本博明他（著） 有斐 閣 2009 『パーソナリティと臨床の心理学』 杉浦義典・丹野 義彦（共著） 有斐閣 2008		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

この授業では、パーソナリティ形成や変化における個体内要因と環境要因の影響、パーソナリティと対人認知・対人行動等のトピックについて、具体的なかつ日常的な例を通して学習する。また、パーソナリティに関する代表的アプローチである類型論、特性論、精神分析学、現象学、認知・行動主義等について講述し、各理論が基礎とする人間観について学ぶ。この他、パーソナリティの測定と査定についての基礎知識を習得するため、代表的な検査や測定法を紹介し、各方法の特徴について論じる。また測定や査定にあたっての心構えや倫理の問題にも言及する。

2. 教育・学習の個別課題

1. パーソナリティの形成や変化の要因について考える。 2. パーソナリティに関する代表的アプローチについて学ぶ。 3. パーソナリティの測定法およびその特徴について学ぶ。 4. 価値や道徳による評価とは異なる立場から、個人差を捉える視点を持つ。

3. 教育・学習の方法

必要に応じて授業中にプリントを配布するので、各自で整理して学習に活用すること。また、毎回の講義で「前回の講義内容の復習」の時間を設けるので、この時間を活用して各自が講義内容の繋がりを理解し、知識の定着に努めること。

・準備学習の具体的な方法

テキストは掲示にて指定するので、開講までに各自で購入し、通読しておくこと。「心理学概論」「心理検査法入門」の講義で学んだ性格や性格検査に関連する事項について復習し、この授業においても適宜参照できるようにしておくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業中に実施する到達度確認テスト（70%）、課題・提出物・授業への取り組み態度（30%）で評価する。授業への出欠に関しては、オーバーカットを適用する。

5. 授業予定

- 第1回 パーソナリティとは
- 第2回 パーソナリティ研究の歴史
- 第3回 パーソナリティ形成と変化の要因：遺伝と環境
- 第4回 パーソナリティの理論（1）
- 第5回 パーソナリティの理論（2）
- 第6回 パーソナリティの理論（3）
- 第7回 パーソナリティの理論（4）
- 第8回 パーソナリティと対人認知
- 第9回 パーソナリティと対人行動

- 第10回 パーソナリティ測定の歴史
- 第11回 パーソナリティ測定法：質問紙法
- 第12回 パーソナリティ測定法：作業検査法・投影法
- 第13回 パーソナリティ測定法：観察法・実験法・面接法
- 第14回 測定・査定における留意点と倫理
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

授業中に講義内容に関連した簡単な教材に反応を求めたり、作業を課したりすることがある。

講義コード	26510501		
科目名	心理療法概論		
担当者	三好 智子		
単位数	2	配当学年	34
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

心理療法における様々な技法のうち、言語的アプローチとイメージを媒介としたアプローチの技法について学ぶ。心理療法では、語る・聴くといった言葉を通してのコミュニケーションが重要であることはもちろんであるが、一方で、言葉でコミュニケーションできる事柄は限られており、非言語レベルでのコミュニケーションやイメージを介した理解が重要になってくる。

本科目では、通常の面接における言語的アプローチについて学ぶとともに、非言語レベルでのコミュニケーションのあり様や、イメージを用いたアプローチの技法について学び、その特徴を理解することを目標とする。イメージを媒介としたアプローチを学ぶうえでは、実際にそれを体験することも大切であるため、可能な範囲で体験的な内容も取り入れる予定である。

2. 教育・学習の個別課題

- (1)心理療法における言語的アプローチについて学ぶ。
- (2)心理療法における非言語レベルのコミュニケーションの重要性を知る。
- (3)イメージを媒介としたアプローチの技法について学び、その特徴を理解する。
- (4)イメージを媒介としたアプローチの技法を実際に体験することを通して、こころの表現としてのイメージのありようを知る。

3. 教育・学習の方法

基本的には、プリントを配布し講義形式で行うが、随時、ビデオを観賞したり体験的な内容を取り入れる予定である。その際、内容に応じてレポート課題を出す。

・準備学習の具体的な方法

前回までのレジュメや配布資料を見直し、疑問点を明らかにしたうえで授業に臨むこと。また、授業時間中に参考文献を紹介するので、興味をもった内容については、文献を読むなどして、自分でさらに学ぶこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度(25%)、レポート(25%)、学期末試験(50%)に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション：心理療法における技法①
- 第2回 心理療法における技法②
- 第3回 言語的アプローチの技法①
- 第4回 言語的アプローチの技法②
- 第5回 言語的アプローチの技法③
- 第6回 言語的アプローチの技法④
- 第7回 言語的アプローチの技法⑤
- 第8回 心理療法におけるイメージ
- 第9回 イメージを媒介としたアプローチの技法：箱庭療法①
- 第10回 イメージを媒介としたアプローチの技法：箱庭療法②
- 第11回 イメージを媒介としたアプローチの技法：描画療法①
- 第12回 イメージを媒介としたアプローチの技法：描画療法②
- 第13回 イメージを媒介としたアプローチの技法：その他、イメージ技法
- 第14回 イメージを媒介としたアプローチの技法：その他、イメージ技法
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26521001			
科目名	心理・教育フィールド研修 a 自然と遊ぼう！			
担当者	高井 直美・伊藤 一美・薦田 未央・ 菅井 啓之・藤本 陽三			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	授業中に紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

地域社会の子どもと大学生が、自然の中であるいは自然の素材を用いて交流する「自然と遊ぼう！」プログラムに、年2回企画段階から関わることを通して、地域社会への能動的発信力や対人関係スキルを身につける。

2. 教育・学習の個別課題

①自然の面白さ・不思議さを子どもに伝える力・感性を身につける ②新たな遊びを考案する創造力を養う ③他者と共同作業を行う際の協調性を身につける ④幼児・児童の心理や関わり方を実践的に学ぶ ⑤イベント情報を発信するためのスキルと作法を学ぶ

3. 教育・学習の方法

①教員によるオリエンテーション ②グループでの自然観察および遊びの企画 ③参加者募集のチラシ作成 ④フィールドの下見や実施の準備 ⑤「自然と遊ぼう！」の実施 ⑥討論による振り返りとショートレポート・準備学習の具体的な方法

身近な自然（草木花、木の実、昆虫など）に興味を持ち、観察する。身近にいる子どもに関心を持ち、どのくらいの年齢の子どものような行動をするか、何に興味を示すのか、しっかりと観察する。

4. 評価方法・評価基準

出席状況・参加態度 90%、ショートレポート 10%

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 大学近辺の自然観察
- 第3回 グループに分かれて「自然と遊ぼう！①」の企画・立案と準備を行う。グループは、自然観察企画班、遊び企画班、チラシ企画班に分かれる。
- 第4回 「自然と遊ぼう！①」を実施する野外フィールドに出かけ、グループごとの企画をまとめ、全体の枠組みを固める。
- 第5回 第4回目の続きで、同じ内容で行う。
- 第6回 野外フィールドにおいて「自然と遊ぼう！①」の実施
- 第7回 第6回目の続きで、同じ内容で行う。
- 第8回 「自然と遊ぼう！①」についての振り返り（ショートレポートを作成）
- 第9回 全体会での「自然と遊ぼう！②」の企画・立案
- 第10回 第9回目の続きで、同じ内容で行う。
- 第11回 グループに分かれて「自然と遊ぼう！②」の企画・立案と準備を行う。グループは、自然観察企画班、遊び企画班、チラシ企画班に分かれる。
- 第12回 第11回目の続きで、同じ内容で行う。
- 第13回 屋内（本学アリーナにて）「自然と遊ぼう！②」の実施
- 第14回 第13回目の続きで、同じ内容で行う。
- 第15回 「自然と遊ぼう！②」についての振り返り（ショートレポートを作成）

6. 留意事項

授業日時は不定期（土曜、日曜も含む）となるため、登録前に必ず確認しておくこと。

講義コード	26800901			
科目名	心理学文献研究			
担当者	古賀 一男			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	平成25年度まで開講			
科目読替	心理学文献解題 ※平成20年度以前入学者に適用			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

これは何なんだろう、このところはどうなっているのだろう、なぜこんなことになるんだろう、このことについて来週までにレポートを書きなさい、卒業論文をまとめる時期がやってきた、等々大学における私達の毎日は解決しなければならないことで充ち満ちている。このような時に先ず私達がやらなければならないことは何だろう。自分の経験や記憶を手掛かりにして仕事を始める人もいるだろう。私達が子供のころはほとんどそのようなやりかたで眼の前の問題を解決していた。「もっと良い方法がありますよ」と先生が助け船を出してくれたことを思い出してみよう。昔は何でも先生が教えてくれたが、それは経験を積んだ大人の知識を頼りにしていたにすぎない。大学では誰も助けてくれない。自分ひとりで解決しなければならないことばかりである。その時の最も基本的な資源（リソース）がこれまででなされてきた研究を調べ尽くすことである。そうすればこれから自分が何をしなければならないかということが自然に眼の前に現れてくる。それが『文献』という名前の倉庫の鍵を開けることに他ならない。倉庫の中は宝の山で一杯である。本科目では文献という倉庫を開ける鍵を諸君に渡すことを目標としている。

2. 教育・学習の個別課題

1) 科学はどのようにして成立してきたのか、その成立の歴史を知る。2) 文献を記載することの意味を知る。3) 正しくない研究の背後に潜み誤った文献の使用方法を知る。4) 文献の種類とその記載方法を知る。5) 文献を検索する方法を学ぶ。6) 文献を正しく読む。7) 文献を正しく引用する。8) 文献の種類とそれを正しく記載する方法を知る。9) 実際に短い論文を書いてみる。10) 論文に文献を記載する方法を練習する。

3. 教育・学習の方法

各種の視聴覚教材を用いて論文と文献の実体を多面的に学習する。必用な資料は事前に配布するか各自が学内のLANから取得する場合もある。実際の文献検索は授業時にLAN経由でデータベースにアクセスし適切な検索方法を正しく学習する方法を学ぶ。

・準備学習の具体的な方法

文献検索に習熟する方法は、出された課題について学内のLANから実際のデータベースにアクセスすることを時間外の作業としておこななければならない。また仮想的な実験とデータを用いて実際に報告書を作成し適切な文献リストを読み引用するという課題も時間外におこななければならない。

4. 評価方法・評価基準

時間内に与えられた課題についてレポートを提出することが必用だが、それに加えて学期末には試験をおこなう。レポートと試験について同じ比重で採点し両方の合計点で最終的な評価をおこなう。

5. 授業予定

- 第1回 概略の説明と計画
- 第2回 サイエンスにおける文献の歴史的な意義
- 第3回 誤った論文の書き方
- 第4回 文献の読み方（1）
- 第5回 文献の読み方（2）
- 第6回 文献検索（入門）
- 第7回 文献検索（日本語文献）
- 第8回 文献検索（外国語文献）
- 第9回 文献の引用方法
- 第10回 文献の記載方法
- 第11回 仮想的な実験を計画する
- 第12回 仮想的な実験について文献を収集する
- 第13回 仮想的な実験について結果を予想し幾種類かのデータを予想する
- 第14回 結果をもとにして考察をおこないレポートを作成する
- 第15回 文献の検索と記載を中心にしたレポートの作成方法についてまとめと反省を文章にする

6. 留意事項

講義コード	26801001		
科目名	心理学史		
担当者	山形 恭子		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	テキストは使用せず、プリントを毎回配布します。		
参考文献	『「心理学史への招待」 梅本・大山(編著) サイエンス社 1994 『「心理学史」 大山正(著) サイエンス社 2010 『「心理学史の新しいかたち」 佐藤達哉(編著) 誠信書房 2005		
備考	平成25年度まで開講		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26801201		
科目名	神経心理学		
担当者	河瀬 雅紀		
単位数	2	配当学年	34
資格			
前提科目			
テキスト	『脳のふしぎ-神経心理学の臨床から』 山鳥 重 とうろん社 2003 『神経心理学入門』 山鳥 重 医学書院 1985		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

科学としての心理学の成立は他の学問領域に比較して新しく19世紀末といわれています。しかし、人間を対象とする心理学のルーツはギリシャ時代にまで遡ることができ、長い伝統をもっています。現代心理学はこのように古代から現在に至る長い時代を踏まえて、その研究対象や方法を練磨し、精緻化してきました。本授業では古代・中世・近世哲学の系譜を簡単に眺めた後に、科学としての心理学の成立以降に心理学が人間や心を解明するために、如何にその方法と理論を進展させてきたのかを見ていきます。このような心理学の理論的発展の歴史を把握することを通じて、現代心理学の問題点ならびに将来の課題と展望に関して示唆をえるとともに、受講生の具体的な研究の追究に当たってその研究の位置づけと意味や理解を深めていくことを目標とします。

2. 教育・学習の個別課題

1. 人間学の成立と発展の歴史を学びます。
2. 科学としての心理学の理論的発展を歴史的に理解します。
3. 心理学の各領域における時代による研究対象の変化とその研究方法の発展を理解します。
4. 心理学の諸理論の発展を理解します。
5. 今後の研究の方向と課題について学びます。

3. 教育・学習の方法

授業中にプリントを配布します。また、適宜、参考図書・文献を紹介します。

・準備学習の具体的な方法

授業の進行にともなって、適宜、授業に関連する参考図書・文献を読み、授業理解を深めるように準備して下さい。

4. 評価方法・評価基準

期末テストと授業中の小レポート・出席によって総合的に評価します。評価の配点は期末テスト70%、授業中の小レポート・授業参加度をそれぞれ15%とします。

5. 授業予定

- 第1回 本授業の目的・ギリシャ・中世哲学における人間理解
- 第2回 近世の哲学・科学の発展と人間理解
- 第3回 精神物理学的研究
- 第4回 実験心理学の成立
- 第5回 記憶研究の成立
- 第6回 発達心理学の成立
- 第7回 ゲシュタルト心理学派とその現代的意義
- 第8回 精神分析学の成立と発展
- 第9回 行動主義・新行動主義心理学 一学習理論を中心に一
- 第10回 情報処理理論と認知研究の発展
- 第11回 認知心理学・認知発達心理学研究の発展
- 第12回 個人差研究の成立と発展
- 第13回 臨床心理学の成立と発展
- 第14回 社会心理学の発展
- 第15回 脳研究・神経生理心理学と今後の課題と方向

6. 留意事項

現代心理学における理論とそこで用いられている方法を念頭に置きながら、心理学史におけるそれぞれの時代の多様な理論とその方法論について理解し、その特徴を考慮しながら学習するように努めてください。

1. 科目の教育目標

神経心理学は、話す、理解する、想像する、道具を使うなど日常生活のさまざまな行為を可能にしているメカニズムを脳の働きから理解する、心理学と医学に関連した学問領域である。そこで、授業の内容を理解するためには、心理学に関する十分な知識と論理的な思考が要求され、また講義後の復習が重要である。

本科目では、

「大脳の主な構造と機能を神経心理学の専門用語を用いて説明することができる」「人間の心理・行動を脳のメカニズムから説明することができる」「子どもの発達障害に関連する症状を脳のメカニズムから説明することができる」ことを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 大脳皮質の構造(葉、回など)と機能局在を説明できる。
2. ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語について説明できる。
3. 観念運動失行のメカニズムについて説明できる。
4. 各種視覚失認の違いを述べることが出来る。
5. 純粋失読のメカニズムについて説明できる。
6. ブレインイメージングを用いた実験から顔認知や表情認知のメカニズムを説明できる。
7. ブレインイメージングを用いた実験からワーキングメモリのメカニズムを説明できる。

8. ブレインイメージングを用いた実験から心の理論と関連した脳のメカニズムを説明できる。

3. 教育・学習の方法

1. プリントを配布する。プリントには必要な基礎事項を掲載する。
2. 講義にはスライドや視聴覚教材も用いる。スライドでは、図を多く用いて理解の助けとする。

・準備学習の具体的な方法

参考図書などで該当箇所を予習する

4. 評価方法・評価基準

授業参加度・授業態度(15%)と定期試験(85%)により総合判断する。欠席・遅刻は減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 神経心理学とは。脳の構造について(1)
ーヒトの脳の特徴とはー
- 第2回 脳の構造について(2)ーヒトの脳の特徴とはー
- 第3回 失語症(1)
「言っている意味はわかるのに、伝えることができない」
- 第4回 失語症(2)
「話すことが出来るのに、人の言っていることが理解できない」
- 第5回 失語症(3)「言っている意味はわかるのに復唱ができない」
- 第6回 失行について(1)
「目の前の道具の使い方は分かっているのに、使うことができない」
- 第7回 失行について(2)
「わかっているのに、身振りの動作ができない」
- 第8回 失認について(1)
「字が書けるのに字が読めない(失読)」など
- 第9回 失認について(2)ー視覚性失認についてー
「顔を見ても誰かわからない、住みなれた街がどこなのかわからない」など
- 第10回 心の理論と脳(1)
- 第11回 ワーキングメモリーについて
- 第12回 心の理論と脳(2)
- 第13回 情動について
- 第14回 まとめ(1)
- 第15回 まとめ(2)

6. 留意事項

- ・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。
- ・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント（レジュメ）を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

講義コード	26801401			
科目名	知覚心理学			
担当者	古賀 一男			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[情]			
前提科目				
テキスト	『知覚の正体』 古賀一男 河出書房新社 2011			
参考文献	『心理学研究法 1』 村上郁也（編） 誠信書房 2011 『感覚知覚の科学 視覚 I』 篠森敬三（編） 朝倉書店 2007 『新編 感覚・知覚・心理学ハンドブック』 大山・今井・和氣（編） 誠信書房 1994 『新編 感覚・知覚・心理学ハンドブック Part 2』 大山・今井・和氣・菊池（編） 誠信書房 2007			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

心理学はその黎明期から知覚と感覚の研究に始まり今日に至っている。それは心理学がどのような学問から派生したことに深く関係している。もとより心理学は生理学の一分野であるヒトの知覚と感覚の中樞機能を研究するところから始まり、周辺の研究領域である医学、神経科学、生理工学と緊密な連絡を持ちながら軸足を知覚の研究の中の中樞機能の解明においている。一報、他方の足を認知科学にも踏み込んでいることも確かである。もちろん心理学全体の研究領域は広い範囲をカバーしているが、本講義では知覚を中心にヒトの行動を解説することを目的とする。その応用的な研究として例えば宇宙飛行士の行動を例として視知覚と地球の重力との関係についても話題を広げる。

2. 教育・学習の個別課題

1) 知覚の成立過程の生理学の基礎を末梢と中枢について学ぶ。2) 知覚の種類を末梢と中枢の双方について学ぶ。3) 知覚の中の視覚について詳しく解説する。4) 視覚と運動の関係、とりわけ眼の動きと運動知覚の関係について学ぶ。5) 知覚と『芸術』の関係について学ぶ。6) 異なる複数の知覚（感覚）が関連する複合感覚について解説する。

3. 教育・学習の方法

各種の視聴覚教材を用いて知覚の様々な機能を多面的に学習する。必要な資料は事前に配布するが各自が学内のLANから取得する場合もある。

・準備学習の具体的な方法

事前に配布された資料を講義の前と後共に十分に読みこなし理解すること。また参考文献のいくつかを副読本として読みながら受講することが望ましい。

4. 評価方法・評価基準

試験で評価をおこなう。

5. 授業予定

- 第1回 講義計画の紹介と目的の解説
- 第2回 知覚の成立 (1) 知覚の成立
- 第3回 知覚の成立 (2) 視覚の成立機構
- 第4回 知覚の成立 (3) 視覚が成立する様々な要件
- 第5回 知覚の機能 (1) 末梢機能
- 第6回 知覚の機能 (2) 末梢機能
- 第7回 知覚の機能 (1) 中枢機能
- 第8回 知覚の機能 (2) 中枢機能
- 第9回 知覚の機能 (3) 中枢機能
- 第10回 運動と知覚
- 第11回 視覚と運動機能 (1) 視覚と重力
- 第12回 視覚と運動機能 (2) 視覚と眼球運動
- 第13回 視覚と芸術 (1)
- 第14回 視覚と芸術 (2)
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26801601			
科目名	認知心理学			
担当者	森下 正修			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[教][日][情]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『対話で学ぶ認知心理学』 塩見邦雄 ナカニシヤ出版 2006 『認知心理学—知性のメカニズムの探求』 太田信夫・邑本俊亮・永井淳一 培風館 2011 『日常認知の心理学』 井上毅・佐藤浩一 北大路書房 2002 『認知心理学』 箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 有斐閣 2010 『イラストレクチャー 認知神経科学』 村上郁也 オーム社 2010			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「認知」とは、人が世界を認識し、そこから知識を獲得し、それをもとに世界にはたらきかけるための心の情報処理を意味します。人が日常でおこなう様々な活動が、認知心理学の研究対象に含まれます。

顔や表情を認識すること。心の中に物体のイメージや、ある空間の地図を思い浮かべること。何かに注意を向けたり記憶したりすること。言葉を理解し、推理をしたり判断をしたりすること。そして、それらの情報処理を感情とのかかわりの中でおこなうこと。

学生は、こうした人の認知に関する基礎的な理論を身につけるとともに、自分の日常生活の中のさまざまな行動を、心理学や脳科学的な視点から説明できるようにになります。

2. 教育・学習の個別課題

1. 上記のような人の認知に関わる心理学理論を理解すること
2. 認知的な実験課題やデモに触れ、理論に対する具体的なイメージをもつこと
3. 日常の認知行動と、心理学的な説明を対応づけること
4. 人の認知行動と脳との関連を理解すること

3. 教育・学習の方法

1. 授業の実施方法：独自に作成したプリントを配布し、PowerPointによるスライドで講義を進めます 2. 学習の方法（初回ガイダンスで説明します）：予習として、上記の認知活動が日常のどのような行動に当てはまるかを事前に考えてもらいます

・準備学習の具体的な方法

参考文献に挙げた認知心理学の概論書や、人の心・行動に関する科学ニュースを読むなどしておく、講義が理解しやすくなると思います。

4. 評価方法・評価基準

出席・授業参加度（30%）とテスト（70%）により総合的に評価します。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス、認知心理学の歴史と内容、研究方法
- 第2回 顔の認知① 顔の知覚
- 第3回 顔の認知② 顔の記憶
- 第4回 物体の認知、イメージ
- 第5回 空間認知、認知地図
- 第6回 注意① 選択的注意
- 第7回 注意② 注意資源とアクションスリップ
- 第8回 記憶① 記憶の分類と過程、記憶障害
- 第9回 記憶② 短期の記憶、ワーキングメモリ
- 第10回 記憶③ 長期の記憶、知識と表象
- 第11回 記憶④ 日常の記憶
- 第12回 言語理解
- 第13回 推論と問題解決
- 第14回 判断と意思決定
- 第15回 認知と感情

6. 留意事項

講義コード	26802001			
科目名	心理関係法規論 実務としての心理臨床			
担当者	川畑 隆			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『心の専門家が会える法律 第3版～臨床実践のために～』 佐藤監修、津川・元永編 誠信書房 2009 『カウンセラー～専門家としての条件～』 金沢吉展 誠信書房 1998 『解説 社会福祉六法・関係法事典 改訂版』 関西人間学会編 晃洋書房 2004 『カウンセラーのための法律相談～心理援助をささえる実践的Q&A～』 <心理臨床と法>研究会編 新曜社 2009			
備考	夏期集中			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

現在、心理臨床家は、教育、医療、福祉、司法、産業などのさまざまな領域や職場で働いている。そこでは心理アセスメントや心理療法の技法を駆使して業務を遂行していくわけだが、そのためには社会のなかで実務を行なうための規範（ルール）を習得し、遵守することが重要となる。それは心理臨床家としての倫理に関するものだけでなく、それぞれの領域や職場、職種の立脚基盤となる法律や関連のある各種の法律を理解することでもある。本科目では、心理臨床家が社会で実務を行なう場合にその法的な側面の裏づけを知り、つきあっていくそのあり様を伝え、また、とくに児童福祉領域での心理臨床と法律の関係を、具体的な事例もまじえながら紹介することを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 心理臨床家としての倫理の理解
2. 心理臨床家が働く領域、関連する職種の理解
3. 各領域と関連する法律等の知識の習得
4. 児童福祉領域の心理臨床実務の理解
5. 児童相談所での具体的な事例を通じた現場実務への理解

3. 教育・学習の方法

プリントを用いた講義形式中心だが、視聴覚教材を適宜用いる。また、実務現場の具体的な紹介を多く取り入れ、グループワークを実施したり、レポートも課す。

・準備学習の具体的な方法

新聞やテレビ、インターネット等で、医療、保健、福祉、教育、司法等々に関する様々な社会的事象に触れ、その行政的、法的側面について思いを巡らせる練習をしておくことよい。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度・授業態度（70%）、レポート課題等（30%）にて評価を行う。

5. 授業予定

- 第1回 心理臨床と職業、関連法規
- 第2回 児童福祉法・児童虐待防止法・子どもの権利条約
- 第3回 児童相談所の心理臨床と関連法規
- 第4回 児童福祉施設の心理臨床と関連法規
- 第5回 児童虐待
- 第6回 母子保健領域の心理臨床と関連法規
- 第7回 社会福祉領域の心理臨床と関連法規（DV関係を含む）
- 第8回 障害者福祉領域の心理臨床と関連法規
- 第9回 医療・精神保健領域の心理臨床と関連法規
- 第10回 教育領域の心理臨床と関連法規
- 第11回 司法領域の心理臨床と関連法規
- 第12回 心理臨床家としての倫理
- 第13回 臨床心理士倫理綱領・守秘義務・資格と専門性
- 第14回 守秘義務の実務上の限界性ほか
- 第15回 まとめのワーク

*状況によって授業の内容や順序に変更のある場合がある。

6. 留意事項

講義コード	26802101			
科目名	心理学情報処理A 心理データの処理と解析			
担当者	松島 るみ			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[情]			
前提科目	推測統計学 I・II			
テキスト				
参考文献				
備考	定員 48人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26802102			
科目名	心理学情報処理B 心理データの処理と解析			
担当者	松島 るみ			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[情]			
前提科目	推測統計学 I・II			
テキスト				
参考文献				
備考	定員 48人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

情報処理とは入力されたデータに何らかの加工を施して情報をあらわにすることである。したがって、この科目では、心理学の実験・調査において得られた数値的・非数値的なデータを、コンピュータを利用して解析することによって、心理学的事実を見つけ出す技法に習熟することを目的とする。

統計学の基礎的な知識の上に、統計解析に関わる知識の獲得と統計解析プログラムソフトの活用技法について習得しなければならない。あわせて、データをコンピュータ処理する場合のさまざまな問題点（データ入力でのエラー、処理プログラムの適用エラーなど）について認識を深めることが期待される。

2. 教育・学習の個別課題

- 1) 測定及び記述統計学の基礎知識を獲得していること。
- 2) Excel, SPSSの基本操作に習熟すること。
- 3) 統計的検定の基本概念を理解すること。
- 4) 分散分析の概念を理解すること。
- 5) 多変量解析の概要を理解すること。

3. 教育・学習の方法

・授業は演習室での実習・演習形式で行う。

・統計解析について考え方を理解することと適用方法を具体的に把握するために、各自でコンピュータ操作をしなければならない。時には授業時間以外の時間帯にコンピュータ操作が必要となることがある。

・準備学習の具体的な方法

「心理統計法」「推測統計学」の授業内容を常に復習しつつ授業に臨むこと。

4. 評価方法・評価基準

各分析ごとの課題提出（各分析法の解説の後、その分析プログラムを実行し、得られた結果をもとに文章化する）（50%）と最終課題の内容（30%）および授業参加度（20%）により、総合的に評価を行う。なお、遅刻、欠席は減点の対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 統計学基礎知識の復習
- 第2回 統計的検定の考え方の復習
- 第3回 Excel と SPSS の基礎操作の確認
- 第4回 相関係数の解説、相関係数の算出と結果の記述
- 第5回 t 検定の概要と解説
- 第6回 t 検定の実行と結果の記述
- 第7回 分散分析の概要と解説
- 第8回 1 要因分散分析（被験者間要因）の実行と結果の記述
- 第9回 1 要因分散分析（被験者内要因）の実行と結果の記述
- 第10回 2 要因分散分析の実行と結果の記述 1（2 要因被験者間）
- 第11回 2 要因分散分析の実行と結果の記述 2（2 要因被験者内）

- 第12回 2要因分散分析の実行と結果の記述3（2要因混合計画）
 第13回 多変量解析の概要と解説、因子分析の概要の解説
 第14回 因子分析の実行と結果の記述
 第15回 重回帰分析の概念の解説と実行および結果の記述

6. 留意事項

受講者の進捗状況によって、授業内容が入れ替わることがあったり、時間的制約のためにある種のプログラムの実行が省略されることがなくはないが、予定している項目は上記の通りである

講義コード	26802201		
科目名	心理学英文講読		
担当者	中村 千珠		
単位数	2	配当学年	34
資格			
前提科目			
テキスト	心理学の文献を適宜配布する。		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

最新の心理学の知見に触れるためには、英語の文献にあたること大事である。そこで、この授業では、心理学演習や実験、卒業論文の準備などをする際に必要となる、心理学の英語文献を自力で読めるようになるための基礎的な訓練をおこなう。そのために、心理学の入門書を通して、主要分野から、いくつかトピックを選び、そこでの専門用語、基本的概念を英語により確認し、習得することを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 英語の文献を読むことに慣れる。
2. 心理学の専門用語や基本的概念を英語により確認し、意味を理解する。
3. 心理学の英語の文献や論文の内容を理解できるようにする。

3. 教育・学習の方法

1. 各自が、適宜配布した文献を丁寧に和訳して授業に臨む。
2. 授業による読解を通して、各自の理解度をチェックする。

・準備学習の具体的な方法

事前に配布した文献を予習することを基本とする。理解できない用語は各自調べておくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度や授業態度、発表内容により総合的に評価を行う。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献読解
- 第3回 文献読解
- 第4回 文献読解
- 第5回 文献読解
- 第6回 文献読解
- 第7回 文献読解
- 第8回 文献読解
- 第9回 文献読解
- 第10回 文献読解
- 第11回 文献読解
- 第12回 文献読解
- 第13回 文献読解
- 第14回 論文紹介
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

事前予習が不可欠である。

講義コード	26802301		
科目名	精神医学Ⅰ 精神医学の基礎を理解する		
担当者	河瀬 雅紀		
単位数	2	配当学年	34
資格	[情]		
前提科目			
テキスト	『精神保健福祉士養成テキストブック 精神医学』伊藤哲寛 ミネルヴァ書房		
参考文献	『うつ病 知る・治す・防ぐ』 福居顯二 金芳堂 『医療心理学』 忠井俊明 星和書店 『がん患者 グループ療法の実際』 河瀬雅紀 金芳堂		
備考	[旧]精神保健学(学校心理専攻平成23年度以前入学者は他専攻科目)		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

精神的健康の保持や増進のため、またカウンセリングや臨床心理学、精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。代表的な精神障害の説明を通して、精神医学の考え方や、精神障害の原因、診断方法、治療法などを体系的に理解していく。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 精神障害に関する基礎的用語を使うことができる
2. 精神障害の分類と診断方法について説明することができる
3. 代表的な精神障害について、原因、症状、治療方法を説明することができる
4. 精神障害者

2. 教育・学習の個別課題

1. 統合失調症の特徴と治療・対応について説明できる
2. 躁病・うつ病の特徴と治療・対応について説明できる
3. 各種神経症性障害の特徴と治療・対応について説明できる
4. 統合失調症と躁病・うつ病、神経症性障害の違いについて説明できる
5. 摂食障害の特徴と治療・対応について説明できる

3. 教育・学習の方法

講義形式で、テキスト、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する

・準備学習の具体的な方法

該当箇所をテキストおよび参考図書で予習する

4. 評価方法・評価基準

授業参加度・授業態度(15%)と定期試験(85%)により総合判断する。欠席・遅刻は減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 精神医学概論(精神保健・福祉の歴史を含む)
- 第2回 統合失調症とは(1)(精神保健・福祉の歴史を含む)
- 第3回 統合失調症とは(2)
- 第4回 統合失調症とは(3)
- 第5回 統合失調症とは(4)
- 第6回 躁うつ病概論・うつ病(精神保健・福祉の歴史を含む)
- 第7回 うつ病および躁病(1)
- 第8回 うつ病および躁病(2)
- 第9回 神経症性障害・総論
- 第10回 神経症性障害・各論(1)ーパニック障害などー
- 第11回 神経症性障害・各論(2)ー対人恐怖・社会不安障害などー
- 第12回 神経症性障害・各論(3)ー強迫性障害などー
- 第13回 神経症性障害・各論(4)ー転換性障害、解離性障害などー
- 第14回 摂食障害(1)
- 第15回 摂食障害(2)

6. 留意事項

・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。

・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント(レジュメ)を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

講義コード	26802401			
科目名	精神医学Ⅱ 精神医学の理解を深める			
担当者	河瀬 雅紀			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[情]			
前提科目				
テキスト	『精神保健福祉士養成テキストブック 精神医学』 伊藤哲寛 ミネルヴァ書房			
参考文献	『うつ病 知る・治す・防ぐ』 福居顯二 金芳堂 『医療心理学』 忠井俊明 星和書店 『がん患者 グループ療法の実際』 河瀬雅紀 金芳堂			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

精神的健康の保持や増進のため、またカウンセリングや臨床心理学、精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。各種精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の原因、診断方法、治療法などを体系的に理解し、また地域精神保健の展開についても理解を深めていく。ていく。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 精神障害に関する基礎的用語を使うことができる
2. 精神障害の分類と診断方法について説明することができる
3. 代表的な精神障害について、原因、症状、治療方法

2. 教育・学習の個別課題

1. PTSD、適応障害の特徴と治療・対応について説明できる
2. 人格障害の特徴と治療・対応について説明できる
3. 発達障害の特徴と治療・対応について説明できる
4. アルコール依存・薬物依存の特徴と治療・対応について説明できる
5. 心身症の特徴と治療・対応について説明できる
6. 主な睡眠障害の特徴を説明できる
7. 主な認知症の症状と対応について説明できる
8. 地域で暮らす精神障害者の支援とその課題について具体的に述べることができる
9. 社会的問題について精神医学的視点から説明することが出来る

3. 教育・学習の方法

講義形式を中心とし、テキスト、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する。毎回の講義後、配布資料およびテキストにより復習をすること。

・準備学習の具体的な方法

テキストおよび参考図書で、該当箇所を読んでおくこと

4. 評価方法・評価基準

討議を含む授業参加度・授業態度 (15%)、試験 (確認テストなど) (85%) による総合評価。欠席・遅刻は減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 ストレス関連障害 (1) -PTSD、適応障害など-
- 第2回 ストレス関連障害 (2) -PTSD、適応障害など-
- 第3回 人格障害 (1)
- 第4回 人格障害 (2)
- 第5回 アルコール依存、薬物依存
- 第6回 発達障害 (1)
- 第7回 発達障害 (2)
- 第8回 発達障害 (3)
- 第9回 心身症、睡眠障害 (1)
- 第10回 睡眠障害 (2)、てんかん (1)
(精神医学-診断法を含む)
- 第11回 てんかん (2)
(精神医学-診断法を含む)
- 第12回 器質性精神障害 (認知症など) について
(精神医学-神経系の構造と機能および症候学を含む)
- 第13回 精神医学・治療法-精神療法を中心に
- 第14回 精神保健福祉の歴史と現在、病院精神医療および地域精神医療
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

- ・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。
- ・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント (レジュメ) を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

講義コード	26803001			
科目名	国語科教育			
担当者	工藤 哲夫			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『小学校 国語科授業研究』 田近 洵一、塚田 泰彦、大熊 徹 教育出版 『小学校学習指導要領解説 国語編 2008年8月』 文部科学省			
参考文献	『実践へのヒント 国語科 授業用語の手引き 第二版』 中原國明・大熊徹 編 教育出版			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

国語科の教科構造・目標・内容・学習指導要領・教科書の理解を深め、学習者のことばの力を育てるための学習指導法や教材研究の方法などを身につけ、どのような姿勢で国語教育に臨むかを考えるきっかけとする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 国語科の目標と指導内容
2. 各領域の具体的な指導内容
3. 指導計画・教材研究・評価・指導案作りの方法
4. 授業の基本事項

3. 教育・学習の方法

1. 講義形式
2. 討論
3. 発表
4. 小レポート

・準備学習の具体的な方法

1. 小学校時代に学習した国語教材で心に残るものを読み返す。
2. 小学校時代に使用した国語の教科書を一回目の授業に持参する。

4. 評価方法・評価基準

毎回の出席と授業参加と小レポート提出 (50%)。発表 (20%)。課題提出またはテスト (30%)。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 国語科の目標
- 第3回 「話すこと・聞くこと」の指導①
- 第4回 「話すこと・聞くこと」の指導②
- 第5回 「書くこと」の指導①
- 第6回 「書くこと」の指導②
- 第7回 「読むこと」の指導①
- 第8回 「読むこと」の指導②
- 第9回 学習指導の計画と評価
- 第10回 授業と指導法
- 第11回 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導
- 第12回 読書指導の方法・国語以外の教科や総合との関連指導
- 第13回 書写の指導 国語科の基礎知識
- 第14回 レポートの作成
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26803101			
科目名	社会科教育			
担当者	奥野 浩之			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[小]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	授業の中で、適宜紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

小学校社会科を教える際に理解しておきたい内容について概説する。具体的には、各学年で学習すべき国土に関する内容、産業に関する内容、歴史的内容、公民的内容について確認していく。また、地図、学習参考書、年表、写真、動画、具体物、統計資料といった様々な資料の活用についても考察したい。

2. 教育・学習の個別課題

- ・新学習指導要領に至る学習指導要領の変遷について理解する。
- ・小学校社会科における目標について考察する。
- ・各学年で学習する内容について理解する。
- ・様々な資料の活用について考察する。
- ・現代的な社会問題を随時検討し、社会科に課せられた課題を議論する。

3. 教育・学習の方法

講義を中心とするが、演習も交えながら進める。

・準備学習の具体的な方法

各回配布したプリントはファイリングし、次の授業までに前回の復習をしておくこと。毎回の予習は特に求めないが、必要に応じて予習課題を出す。

4. 評価方法・評価基準

受講態度 (20%)、小テスト (20%)、定期試験 (60%) で総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学習指導要領変遷にみる社会科
- 第3回 小学校社会科の目標
- 第4回 自分たちの住んでいる地域社会の学習①
- 第5回 自分たちの住んでいる地域社会の学習②
- 第6回 国土の地理的環境とそこで営まれている産業に関する学習①
- 第7回 国土の地理的環境とそこで営まれている産業に関する学習②
- 第8回 我が国の歴史に関する学習①
- 第9回 我が国の歴史に関する学習②
- 第10回 我が国の政治に関する学習①
- 第11回 我が国の政治に関する学習②
- 第12回 国際理解に関する学習
- 第13回 新学習指導要領において追加された内容
- 第14回 様々な資料の活用
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

出席回数が3分の2以上に満たない者は原則として単位を認めない。

(20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。)

評価方法にあるように、この授業は自己評価が中心となるので、自分の学習の進捗状況を自分で毎回とらえる必要がある。そのため、毎回提出する授業コメントは授業内にて紹介し、他の学習者がどの程度の学習を行っているかを常に把握しておく必要がある。教育制度は改革期を向かえ、テキストの内容だけを学習しては追いつかなくなっている。自ら、新聞・テレビ・インターネットなどの情報源を駆使して、教育改革についての情報を集めておく姿勢が必要である。

4. 評価方法・評価基準

この授業は、自らが小学校教員として算数教育を進めることができるかを、授業内で得た知識や自分での学習を総合して、自ら下記項目によって評価を行う。授業における態度 (40%) 単に出席したかどうかだけでなく、授業に主体的に取り組んだか、グループ活動への参加意欲はどうか、算数への理解を自ら行おうとしたか、などを最終授業において教員の提示する項目に数値による自己評価を行う。レポート (40%) 期間中3回程度出題されるレポートについて、教員からの評価規準に基づき、自己採点を行う。グループ活動 (20%) 期間中数回行われるグループ間相互評価の内容とグループ内の構成員からの相互評価をもとに自己評価する。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 なぜ小学校で算数を学ぶのか
- 第3回 算数・数学教育の歴史
- 第4回 4領域と算数的活動および新学習指導要領での改革ポイント
- 第5回 グループディスカッションと相互評価1
- 第6回 教育課程の編成と幼小、小中連携
- 第7回 評価と4観点
- 第8回 グループディスカッションと相互評価2
- 第9回 教科書をどう扱うか
- 第10回 教材研究のポイント
- 第11回 教材研究の実際
- 第12回 グループディスカッションと相互評価3
- 第13回 学習指導案の作成とポイント
- 第14回 実践的指導案の作成
- 第15回 グループディスカッションと相互評価4

6. 留意事項

・グループでの活動や討議が授業の中心になるので、積極的に授業に参加すること。

・講師・他の学習者を含め、他者からの学びを重視し、様々な角度から算数科教育について考える姿勢で臨むこと。

・常に自分の学習の進捗を意識し、足りないところはグループ内で解決するか、講師への質問を行うなど、自ら解決しようとする。

講義コード	26803201		
科目名	算数科教育 算数の授業を創造しよう		
担当者	神月 紀輔		
単位数	2	配当学年	2
資格	[教]		
前提科目			
テキスト	『小学校学習指導要領解説 算数編』 文部科学省 東洋館出版社 2008		
参考文献	『初等算数科教育法』 黒田恭史 ミネルヴァ書房 2010		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		✓
	コミュニケーションする力	✓	
	思考・解決する力	✓	
	共生・協働する力		✓
	創造・発信する力		
	主体的に行動する力	✓	

1. 科目の教育目標

小学校算数科の学習指導要領の内容を理解した上で、幼稚園・中学校の教育課程も考慮しながら、小学校算数科の授業内容を考え、実践力を身につける。

2. 教育・学習の個別課題

- ・小学校算数科の学習指導要領の内容を理解する。
- ・実践的指導力を身につけ、教材研究の方法を学ぶ。
- ・一般的な小学校算数科学習指導案の作成ができるようになる。

3. 教育・学習の方法

- ・基本的にはグループ学習による自学自習で自律的に学習する。
- ・グループ間での発表活動を数回行い、相互評価を行う。
- ・1~2回、インターネットを利用したe-Learningを行うことがある。
- ・学習を進めるために、ほぼ毎回コメントの提出を求める。
- ・評価に関しては、自己評価を取り入れる。
- ・準備学習の具体的な方法

講義コード	26803301		
科目名	理科教育		
担当者	菅井 啓之		
単位数	2	配当学年	2
資格	[小]		
前提科目			
テキスト	『小学校学習指導要領解説理科編』 文部科学省 2010		
参考文献	『もの見方を育む自然観察入門』 菅井啓之 文溪堂 2004		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. 科目の教育目標

理科は自然を直接観察して、そこに法則性を見出し自然の素晴らしさを実感することが重要である。まずは身近な自然の素材から自然を実感的に楽しむことから始めたい。次に理科の果たすべき役割を、理科の目標論や学習論、カリキュラム論などから考え、理解を深めると共に、学習指導要領解説理科編の詳解や理科教育の歴史を通じて人間形成を目指す理科教育のあるべき姿を考察する。

2. 教育・学習の個別課題

- 1、理科教育の目標について理解する。
- 2、様々な理科学習論について理解する。
- 3、理科教育のカリキュラム編成の理論を理解する。
- 4、理科教育と環境教育、総合的な学習などとの関連を認識する。

3. 教育・学習の方法

講義と観察実習を主に、具体的な教材を扱いながら実感を伴う理解ができるように進める予定。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示するが、自然界の事物現象に興味を持って見聞し、

進んで体験するように心がけておくことが重要。

4. 評価方法・評価基準

課題レポート 50%、毎時間の小レポート（観察したことなどをまとめる）25%、授業態度 25%で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 理科の目標の分析
- 第2回 理科の内容と方法
- 第3回 理科教育の学習論
- 第4回 理科教育の歴史とカリキュラム
- 第5回 理科の評価
- 第6回 「身近な自然の観察」の概要
- 第7回 理科における環境教育
- 第8回 科学読み物と理科教育
- 第9回 理科教育と安全指導
- 第10回 分析と総合、理科と総合的な学習
- 第11回 植物・動物教材の見方
- 第12回 物理・化学教材の見方
- 第13回 地学教材の見方
- 第14回 理科における観察カードとノート指導
- 第15回 理科の生活化と発展

6. 留意事項

講義コード	26803401		
科目名	生活科教育		
担当者	菅井 啓之		
単位数	2	配当学年	2
資格	[教]		
前提科目			
テキスト	『小学校学習指導要領解説生活編』		
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

生活科は平成元年に低学年理科、社会科を廃止して新設された。その設立の趣旨は、活動や体験を軸に自然や社会と直接かかわりながら問題解決や探究活動を行い、自立の基礎を養うことにある。このような教科としての特徴を明らかにしながら、この教科の現代の教育に対する意味や意義を考え、自らの学びの育成という視点から学校教育のあり方を再考する。また、幼児教育や他教科との連携、総合的な学習との関連についても明らかにしていく。

2. 教育・学習の個別課題

1. 学習指導要領解説生活編により、教科としての特徴を目標、内容、方法、評価という教科構成原理から理解する。
2. 学習指導要領を具体化した教科書から、生活科の活動の概要や、2年間のカリキュラムについて理解する。
3. 教育方法の視点から、生活科の指導及び評価の難しさとその具体的方法について理解する。
4. 生活科の指導を支える自由な探究活動と表現活動、交流の3つの原理から、単元の指導展開や評価のあり方を学ぶ。
5. 幼児教育からの継承、総合的な学習への発展という視点から生活科の意義と役割を理解する。

3. 教育・学習の方法

1. 講義とそれに基づく課題の提示、課題についての発表とそれに対する討論という形態を基本に進める。
 2. 町探検や秋見つけ、校庭の自然観察等の実際の活動を行い、その成果をまとめることにより子どもの目からの自然や人々の見方を体験する。
- ・準備学習の具体的な方法
詳細は授業中に指示するが、身近な暮らしの中で生活科にかかわる視点を持って問題点や疑問を整理しておくことが大切。

4. 評価方法・評価基準

課題レポート 50%、日々の小レポート（毎時間観察したことなどをまとめる）40%、授業態度 10%で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 生活科の目標の分析
- 第2回 生活科の内容と方法
- 第3回 体験的に学ぶという学習論
- 第4回 生活科の設立経緯
- 第5回 生活科の評価
- 第6回 生活科と身近な自然の観察

- 第7回 生活科における環境教育
- 第8回 生活科と総合的な学習
- 第9回 幼児教育と生活科
- 第10回 町探検の実践的学び
- 第11回 町探検の発表と交流
- 第12回 生活科における飼育と栽培
- 第13回 生活科の表現活動
- 第14回 生活科におけるポートフォリオ
- 第15回 生活科の生活化と発展

6. 留意事項

講義コード	26803501		
科目名	音楽科教育		
担当者	小林 多津子		
単位数	2	配当学年	2
資格	[教]		
前提科目			
テキスト	『教員養成課程 小学校音楽科教育法』 教育芸術社		
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

創造性や豊かな感受性を培う音楽科教育が人間教育にとって重要である。そのために、歌唱、リコーダー等の基礎的・基本的な技能を習得し、また楽典の基礎的・基本的知識を理解する。学習指導要領における音楽科教育の理念や内容を理解し、音楽科教育のあるべき姿を考察する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 学校教育における音楽科教育の位置づけや、歩みについて理解する。
2. 音楽科における歌唱共通教材が歌えること。
3. ソプラノリコーダーの演奏ができる。
4. 楽典の基礎的・基本的な知識を習得する。

3. 教育・学習の方法

1. 講義や実技演習を交えながら進めていく。
2. 歌唱、ソプラノリコーダー演奏を取り入れる。
3. リコーダーの実技テストを行なう。
4. 女声合唱を行なう。
5. 楽典の確認テストを行う。

・準備学習の具体的な方法

実技は積み重ねが必要なので、リコーダーや歌唱の日々の練習を怠らないこと。

小・中・高等学校等で学習してきた楽典について復習しておくこと。教材の伴奏ができるように、ピアノも練習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

出席・授業参加度・合唱（30%）、テスト（理論40%）、リコーダー演奏（30%）等に基づき総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 歌唱・発声の技法
- 第3回 リコーダーの技法
- 第4回 音楽の基礎知識の習得（歌唱・リコーダー・楽典を含む）
- 第5回 音楽の基礎知識の習得（歌唱・リコーダー・楽典を含む）
- 第6回 音楽の基礎知識の習得（歌唱・リコーダー・楽典を含む）
- 第7回 音楽の基礎知識の習得（歌唱・リコーダー・楽典を含む）
- 第8回 音楽の基礎知識の習得（歌唱・リコーダー・楽典を含む）
- 第9回 音楽の基礎知識の習得（歌唱・リコーダー・楽典を含む）
- 第10回 リコーダーのテスト
- 第11回 音楽科教育の目指すもの
- 第12回 音楽教育の歩み
- 第13回 音楽鑑賞
- 第14回 理論のまとめと確認テスト
- 第15回 合唱とまとめ

6. 留意事項

講義コード	26803601			
科目名	図工科教育			
担当者	藤本 陽三			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『美術教育概論(改訂版)』 大橋 功 日本文教出版 2009 『小学校学習指導要領解説 図画工作』 文部科学省 日本文教出版 2008			
参考文献備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

図画工作科が担うべき役割とその目指すところ、内容構成の考え方や、各領域の内容の概要について、小学校学習指導要領、教科書等から理解する。そして、その目標を具現化するための方法を、美術と教育の本質から考える。そのために、各領域の題材についての教材研究や学校教育現場での実践例等を通して、子どもたちが、感性を働かせながら「つくりだす喜び」を味わい、一人一人のよさを発揮しながら自己実現を図るための図画工作科教育のあるべき姿を考察する。

2. 教育・学習の個別課題

- ・ 図画工作科の性格と目標について理解する。
- ・ 図画工作科教育の変遷と今日的課題について理解する。
- ・ 図画工作科の内容構成について理解する。
- ・ 図画工作科の指導内容について、各領域の題材についての教材研究を通して把握する。

3. 教育・学習の方法

講義、討論、実習、演習を中心に進める。具体的な題材に関する実習も必要に応じて行う。

・ 準備学習の具体的な方法

毎回の学習内容と対応する教科書の章を読んでおくこと（第1回「図画工作科の担うべき役割と目指すもの」は第1部 第1章「美術教育の目標」、第2回以降は講義の中で指示する）

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（30%）、小レポート[作品等の提出課題も含む]（40%）、試験に替えるレポート（30%）により行う。

5. 授業予定

- 第1回 図画工作科の担うべき役割と目指すもの
- 第2回 図画工作科教育の変遷
- 第3回 小学校学習指導要領の変遷と今日的課題
- 第4回 図画工作科の性格と目標
- 第5回 図画工作科の内容構成
- 第6回 造形遊び①（指導内容についての理論研究）
- 第7回 造形遊び②（演習）
- 第8回 絵や立体に表す①（指導内容についての理論研究）
- 第9回 絵や立体に表す②（演習）
- 第10回 工作に表す①（指導内容についての理論研究）
- 第11回 工作に表す②（演習）
- 第12回 鑑賞①（指導内容についての理論研究）
- 第13回 鑑賞②（演習）
- 第14回 図画工作科の指導と評価
- 第15回 指導計画の作成及び各教科・領域等との関連、まとめ

6. 留意事項

講義コード	26803701			
科目名	家庭科教育			
担当者	大路 雅子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[小]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領解説（家庭編）』 文部科学省 東洋館出版社 『「新しい家庭」5・6年』 渡邊彩子他 東京書籍			
参考文献備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

家庭科教育の意義、目標、特質、歴史など基礎的事項の理解と家庭科の授業実践に関する内容を習得し、家庭科教育の課題と展望について考察する。

小学校における家庭科教育について理解を深めるため、家庭生活に視点をあて、食生活・衣生活を中心とする基礎的事項と各領域の研究動向等を理解する。さらに、自分の生活を見直し、充実した家庭生活を営むために応用・発展できる力、自信を持って教育実習に臨める知識と技能を身につける。

2. 教育・学習の個別課題

- ・ 家庭科教育の特質と小学校家庭科が果たす役割について理解する。
- ・ 具体的な学習指導内容を通して、実践的能力を養う。
- ・ 家族との関わりを考えながら、家庭生活に必要な知識と技能を身につける。
- ・ 家族の一員としての自覚と生活を工夫できる実践的な態度を養うにはどうすればよいか探究する。

3. 教育・学習の方法

基本的には講義、発表・レポート・小テスト。実技に必要な物は事前に指示する。

・ 準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示する。

4. 評価方法・評価基準

課題・提出物（40%）、テスト（40%）、授業参加度（20%）で総合評価する。遅刻・欠席は減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 家庭科教育の意義・目標・変遷
- 第2回 小学校教育の中で家庭科が果たす役割と教科の特質
- 第3回 家庭生活と家族①自分の成長と家族
- 第4回 ②家庭の仕事と生活時間
- 第5回 ③家族・近隣の人々との関わり
- 第6回 日常の食事と調理の基礎①食事の役割と工夫
- 第7回 ②栄養素の種類と働き
- 第8回 ③食品の組み合わせと献立
- 第9回 ④調理計画・調理方法の基礎
- 第10回 快適な衣服と住まい①着用と手入れ
- 第11回 ②快適な住まい方
- 第12回 ③生活に役立つ物
- 第13回 消費生活と環境①物や金銭の使い方と買物
- 第14回 ②環境に配慮した生活の工夫
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26803801			
科目名	体育科教育			
担当者	内田 和寿			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領解説（体育編）』 文部科学省 東洋館 2008年			
参考文献備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

体育科の性格、目標、学習内容などに関する基本的な知識について理解する。また、現在の小学校における体育に係る諸問題について検討していくことで、体育で身に付けることのできる学力、体育科教育の果たす役割について理解を深めることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

- ・生涯スポーツと学校体育について考察する。
- ・体育科の特性と役割について学習指導要領から理解する。
- ・教科の内容、各運動領域の特性とねらいについて理解する。
- ・体育の学習指導計画、教科以外の保健、体育について理解する。

3. 教育・学習の方法

- ・講義とそれに基づく課題についてのディスカッションを中心に展開する。
- ・テキストについては講義の中で指示をする。

4. 評価方法・評価基準

毎時、次週の内容について説明するので、小学校学習指導要領解説（体育編）を熟読した上で参加すること。

5. 授業予定

テストは教員採用試験同等レベルの内容とし、得点が60点に満たなかった受講者に対しては、受講態度やレポートの評価に関わらず、単位認定には至らない。

5. 授業予定

- 第1回 スポーツの歴史、体育の歴史
- 第2回 教科としての体育、体育の目標・内容
- 第3回 体育の教育課程
- 第4回 学習主体について
- 第5回 体育の指導計画の作成と手順
- 第6回 学習者の発達段階の違いと体育授業
- 第7回 体育の教材・教具、学習環境
- 第8回 運動の特性を理解した授業の組み立てⅠ
- 第9回 運動の特性を理解した授業の組み立てⅡ
- 第10回 運動の特性を理解した授業の組み立てⅢ
- 第11回 体育の学習評価（様々な評価方法、知識・理解の評価、技能・表現の評価）
- 第12回 体育の授業評価（形成的評価、授業分析、授業観察法、教師行動）
- 第13回 良い体育の授業とは
- 第14回 安全管理・事故時の対処法
- 第15回 まとめ・講義の総括。

6. 留意事項

講義コード	26803901			
科目名	国語科指導法			
担当者	工藤 哲夫			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト	『実践へのヒント 国語科 授業用語の手引き 第二版』 中原國明・大熊徹 編 教育出版 『小学校学習指導要領解説 国語編 2008年8月』 文部科学省			
参考文献				
備考	書写を含む			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

国語科の基礎・基本を実践例にもとづき、国語科の授業用語の観点から学習する。これにより、学習者のことばの力をどのような時点でどのように育てるのか具体的に理解する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 国語科の授業の具体的な構想
2. 国語の授業の工夫
3. 各領域の具体的な指導方法
4. 国語科の評価の方法

3. 教育・学習の方法

1. 講義形式 2. 討論 3. 発表 4. 模擬授業 5. 小レポート
- ・準備学習の具体的な方法

1. 小学校時代の国語のノートを見直す。
2. 小学校時代の国語のノートを一回目の授業に持参する。

4. 評価方法・評価基準

毎回の出席と授業参加と小レポート提出（60%）。発表（20%）。課題提出またはテスト（20%）

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教材研究の方法のヒント
- 第3回 指導計画の作成のヒント
- 第4回 国語の授業の工夫のヒント①
- 第5回 国語の授業の工夫のヒント②
- 第6回 模擬授業①・「話すこと・聞くこと」のヒント①
- 第7回 模擬授業②・「話すこと・聞くこと」のヒント②
- 第8回 模擬授業③・「書くこと」のヒント①
- 第9回 模擬授業④・「書くこと」のヒント②
- 第10回 模擬授業⑤・「読むこと」の工夫（文学的文章）のヒント①
- 第11回 模擬授業⑥・「読むこと」の工夫（説明的文章）のヒント②
- 第12回 模擬授業⑦・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導のヒント
- 第13回 模擬授業⑧・国語科の評価のヒント
- 第14回 模擬授業⑨・レポートの作成
- 第15回 模擬授業⑩・まとめ

6. 留意事項

講義コード	26804001			
科目名	社会科指導法			
担当者	奥野 浩之			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	授業の中で、適宜紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本授業は、社会科における授業づくりの基礎を身につけることを目標とする。前半は、教科書を用いた授業のあり方を考察し、学習指導案の作り方について学ぶ。後半は、個別で指導案を作成する経験や模擬授業を行うなどの演習をし、実践的な場面を想定して社会科における指導法を検討する。

2. 教育・学習の個別課題

- ・教材研究の重要性について理解する。
- ・学習指導案を作成する。
- ・発問や板書などの具体的な指導法を検討する。

3. 教育・学習の方法

講義と模擬授業などの演習を並行して行う。

4. 準備学習の具体的な方法

模擬授業の準備を時間をかけて行うことを求める。授業時間外に教材化のための取材や調査などに出かけたりする必要がある。

4. 評価方法・評価基準

受講態度（20%）、模擬授業（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会科教科書分析（第3、4学年）
- 第3回 社会科教科書分析（第5学年）
- 第4回 社会科教科書分析（第6学年）
- 第5回 学習指導案の作成①
- 第6回 学習指導案の作成②
- 第7回 模擬授業の実施と検討（第3、4学年）①
- 第8回 模擬授業の実施と検討（第3、4学年）②
- 第9回 模擬授業の実施と検討（第3、4学年）③
- 第10回 模擬授業の実施と検討（第5学年）①
- 第11回 模擬授業の実施と検討（第5学年）②
- 第12回 模擬授業の実施と検討（第5学年）③
- 第13回 模擬授業の実施と検討（第6学年）①
- 第14回 模擬授業の実施と検討（第6学年）②
- 第15回 模擬授業の実施と検討（第6学年）③

6. 留意事項

出席回数が3分の2以上に満たない者は原則として単位を認めない。（20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。）

講義コード	26804101			
科目名	算数科指導法 算数科指導の実践力をあげる			
担当者	神月 紀輔			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領解説 算数編』 文部科学省 東洋館出版社 2008			
参考文献	『初等算数科教育法』 黒田恭史 ミネルヴァ書房 2010			
備考	「算数科教育」履修者であること			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

算数科教育で学んだ算数科教育の基礎をもとに、実践的指導力をつける。

2. 教育・学習の個別課題

2～3回のマイクロティーチングにより、自らの指導力の向上を目指すとともに、子どもの立場から算数科指導のあり方を見直し、相互評価できるようにする。

3. 教育・学習の方法

2～3回、定められたテーマについて1時間(45分)分の指導計画を考え、そのうちの5分間をマイクロティーチングとして行う。3回目は複数指導(チームティーチング)を取り入れた授業設計をする。単に授業演習をするだけでなく、他の学習者の授業に参加し、相互評価する中で、仲間としてともに成長するようにディスカッションを多く取り入れる。マイクロティーチングは、ビデオ撮影し、自分の反省の材料とする。また、事後にはグループによる反省会を設ける。

・準備学習の具体的な方法

できるだけたくさん資料を図書館やインターネットを用いて閲覧し、広い視野から指導法を考えるようにしておきたい。授業内では、他の学習者と多くディスカッションを行い、指導法についてさまざまな方法を模索するので、事前に自分の考え方を整理しておきたい。

4. 評価方法・評価基準

2～3回のマイクロティーチングについての自己評価(40%) 他の学習者からの指導法についての相互評価(20%) 出席点(20%) グループ学習への参加態度(20%) 以上を総合的に判断し評価を行う。定期テストは行わない。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション、グループ編成
- 第2回 トピック1による学習指導案の作成
- 第3回 作成した指導案のグループでの検討
- 第4回 作成した指導案でのグループ内でのプレ・マイクロティーチング
- 第5回 5分間のマイクロティーチング(全員が行う)
- 第6回 指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション
- 第7回 トピック2による学習指導案の作成
- 第8回 作成した指導案のグループでの検討
- 第9回 作成した指導案でのグループ内でのプレ・マイクロティーチング
- 第10回 5分間のマイクロティーチング(全員が行う)
- 第11回 指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション
- 第12回 チームティーチングをとり入れた学習指導案の作成
- 第13回 作成した指導案のグループでの検討およびプレ・マイクロティーチング
- 第14回 10分間のマイクロティーチング(全グループが行う)
- 第15回 指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション

6. 留意事項

文部科学省検定小学校教科書は貸し出しをします。マイクロティーチングだけが重要なのではなく、総合的に実践力を上げることが目的です。そのためには他者の授業から学び、相互評価できるようにしましょう。

講義コード	26804201			
科目名	理科指導法			
担当者	菅井 啓之			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領解説理科編』			
参考文献	『もの見方を育む自然観察入門』 菅井啓之 文溪堂 2004			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

児童の主体的な問題解決活動を引き出し、それを支援することによって科学的なものの見方や考え方を身に付け、確かな知識理解を習得していく指導のあり方を学ぶ。そのためには、学習指導要領の具体的な内容に即して学び、的確な支援や助言ができるような力量を習得することを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1、自然から直接学ぶという姿勢を養う。 2、身近な自然の教材化の仕方、教材研究の実際を学ぶ。 3、指導計画の立て方と指導案の書き方を習得する。 4、観察実験のさせ方、飼育栽培・もの作り等の方法を学ぶ。 5、ノート指導や導入のあり方、発問、板書の仕方、教材教具の開発の仕方などを学ぶ。 6、問題解決学習の具体的な方法論、指導のあり方を学ぶ。 7、理科学習の模擬授業を行的確な指導方法を身につける。 8、野外活動の指導方法や安全面への配慮について基本的な事項を学ぶ。

3. 教育・学習の方法

講義と演習、実習を併用しながら展開する。また、野外実習を行い実践的な指導方法を習得する。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示するが、小学校理科の教科書を詳細に見ておくこと(教科書は貸出もしている)。

4. 評価方法・評価基準

教材研究課題レポート50%、指導案作成30%、毎時間の小レポート10%、授業態度10%、により評価する。

5. 授業予定

- 第1回 問題解決学習の指導課程
- 第2回 観察と実験の指導法
- 第3回 実験観察記録の取り方と考察の仕方
- 第4回 理科における教材化の方法
- 第5回 野外観察の指導
- 第6回 問題意識を持たせる導入の工夫
- 第7回 教科書の活用法、理科学習指導案の書き方
- 第8回 飼育栽培と教材化
- 第9回 「比較観察」の指導の仕方
- 第10回 「因果関係」および「仮説検証」の指導の仕方
- 第11回 安全に対する配慮
- 第12回 顕微鏡観察の指導
- 第13回 スケッチ指導のあり方
- 第14回 科学的思考力をどう育てるか
- 第15回 植物園・動物園・博物館等の公共施設の利用法と理科の生活化

6. 留意事項

講義コード	26804301			
科目名	生活科指導法			
担当者	菅井 啓之			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領解説生活編』 文部科学省 2010			
参考文献	『生活科活動ずかん』 文溪堂 2009			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

前年度に履修している「生活科教育」の内容を受けて、生活科の学習の特質を踏まえた具体的な指導法のあり方を学び習得することを目的とする。生活科は社会認識、自然認識、自己認識の3つの柱を統合した教科であることから、常に自分との関わりで社会や自然を捉えるための指導に重点を置いて具体的な実践的な指導法を体験的に学ぶことを目指す。

2. 教育・学習の個別課題

1. 自分を取り巻く身近な生活圏を見直し捉えなおすことから始める。2. 人・社会・自然を自分とのかかわりにおいて一体的とらえることを身に付ける。3. 思考・判断・表現を一体的にとらえ問題解決の過程で学ぶことを習得する。4. 社会や自然とのかかわりの中で、価値ある気付きをとらえまとめ発表するプロセスを体験的に学ぶ。5. 指導にとつての生活上必要な生活習慣や技能の内容を整理しその指導法を取得する。

3. 教育・学習の方法

具体的・実践的な指導法を習得のため実習や野外活動などをできるだけ取り込み、それをグループに分かれてまとめ討議するなどの演習を行う。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。

4. 評価方法・評価基準

課題レポート50%、毎時間的小レポート(観察したことなどをまとめる)20%、野外実習レポート20%、授業態度10%で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 生活科の教科書の構成と活用方法
- 第2回 指導計画作成時の基本的な考え方
- 第3回 指導案の書き方とその実践的な活用法
- 第4回 地域環境の生かし方と地域マップづくり
- 第5回 問題発見とその課題化について
- 第6回 玩具作りと遊びの構成
- 第7回 個人活動と班活動の指導の仕方
- 第8回 「見つけたよカード」の指導と生かし方
- 第9回 伝え合い交流する場の持ち方
- 第10回 「生活科活動ずかん」の活用方法
- 第11回 個人差への対応と多様性を生かす指導法
- 第12回 生活科の各単元における自己認識の指導
- 第13回 野外における自然観察活動の実際的指導
- 第14回 「わたしの宝箱」「公園マップづくり」の実践とその評価
- 第15回 生活科における環境教育の重要性

6. 留意事項

講義コード	26804401			
科目名	音楽科指導法			
担当者	小林 多津子			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト	音楽科教育で使用したものを使う			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

小学校音楽科教育の目標を踏まえ、具体的に教材(歌唱・器楽・創作・鑑賞)を取り上げ、音楽科における授業づくり(教材研究・単元指導計画・授業計画・授業分析・評価等)の基礎を身につける。また実践的な場面を想定し、学習指導案を作成したり、模擬授業をする中で、音楽科指導法について学ぶ。ピアノ実技の課題をクリアすること。

2. 教育・学習の個別課題

1. 学習指導要領の内容を理解する。
2. 歌唱教材の楽曲分析の方法を理解する。
3. 各領域における(歌唱・器楽・創作・鑑賞)教材の選択の仕方を学ぶ。
4. 各領域(歌唱・器楽・創作・鑑賞)における学習指導案を作成する。模擬授業を通して、実践的な指導力を身につける。
5. 歌唱教材の弾き歌いをする。
6. グループ演奏を通して、音楽を作り上げる過程を学ぶ。
7. 手作り楽器の製作をする。
8. ピアノ実技課題を演奏する。

3. 教育・学習の方法

1. 講義、実技演習、発表、模擬授業、鑑賞などを織り込みながら授業を進める。
2. 参考資料等はその都度配布する。

3. 課外としてピアノ実技を行う。

4. 手作り楽器を作る。

・準備学習の具体的な方法

ピアノの実技を課外で実施するので、課題曲が弾けるように毎日練習をする。歌唱教材の弾き歌いの練習をする。

4. 評価方法・評価基準

学習指導案(20%)、弾き歌い・ピアノ実技(40%)、出席と授業態度(20%)、その他<手作り楽器(10%)>、<グループ活動・模擬授業(10%)>等に基つきを評価する。但し、弾き歌い、ピアノ実技は単位認定には必須条件とする。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 小学校学習指導要領(音楽科)の内容
- 第3回 小学校音楽科教育の目標・内容と指導の留意点
- 第4回 教材研究(歌唱教材の楽曲分析)
- 第5回 学習指導案(歌唱)の作成
- 第6回 教材研究(器楽教材の楽曲分析)
- 第7回 学習指導案(器楽)の作成
- 第8回 教材研究(音楽づくりについて)
- 第9回 学習指導案(音楽づくり)の作成
- 第10回 教材研究(鑑賞教材の楽曲分析)
- 第11回 学習指導案の作成の実際
- 第12回 学習指導案の吟味と模擬授業の準備
- 第13回 模擬授業その1
- 第14回 模擬授業その2
- 第15回 まとめと手作り楽器による演奏と合唱

課外:歌唱教材の弾き歌い(ピアノ)とピアノ実技

6. 留意事項

ピアノ実技については、提示した課題を各自任意に選択し、弾けるように練習をし課外で確認テストを受ける。

講義コード	26804501			
科目名	図工科指導法			
担当者	藤本 陽三			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト	『美術教育概論(改訂版)』大橋 功 日本文教出版 2009 『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省 日本文教出版 2008			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

子どもたちが表現や鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら「つくりだす喜び」を味わい、一人一人のよさを発揮しながら自己実現を図るための図画工作科の実践的な指導力を習得する。そのために、小学校学習指導要領の内容や教科の特質を踏まえつつ、各領域の題材についての教材研究、学習指導案の作成、模擬授業とその分析等を通して、授業づくりの基礎を身につけ、具体的な指導法を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

- ・ 図画工作科の性格、目標、内容について、小学校学習指導要領、教科書等を通して理解する。
- ・ 指導計画及び学習指導案の作成方法を理解する。
- ・ 各領域の題材についての教材研究を通して、その内容と指導法を理解する。
- ・ 学習指導案を作成し、模擬授業とその分析を通して、授業づくりの基礎を身につける。
- ・ 材料・用具の使い方や安全面での配慮について理解する。

3. 教育・学習の方法

講義、討論、演習及び実習を中心に進める。

・準備学習の具体的な方法

第1回から第7回の受講に際しては、毎回の学習内容と対応する教科書の章を読んでおくこと。(第1回「図画工作科の性格・目標について」は第III部 第1章「図画工作科の性格と目標」、第2回以降は講義の中で指示する)第8回から第13回については、題材について各自で教材研究するとともに、個別に必要な物を準備する。第14回・第15回については、授業についての分析を整理しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（30%）、学習指導案、模擬授業とその分析（40%）、試験に替えてのレポート（30%）により行う。

5. 授業予定

- 第1回 図画工作科の性格、目標について
- 第2回 図画工作科の授業づくりについて、教科書、学校教育現場における授業実践等から学ぶ
- 第3回 指導計画と評価、学習指導案の作成方法について
- 第4回 「造形遊び」の指導について
- 第5回 「絵や立体に表す」の指導について
- 第6回 「工作」の指導について
- 第7回 「鑑賞」の指導について
- 第8回 模擬授業の題材選択と教材研究
- 第9回 模擬授業の題材についての教材研究
- 第10回 模擬授業の学習指導案作成（題材についての項目）
- 第11回 模擬授業の学習指導案作成（本時についての項目）
- 第12回 模擬授業（前半）
- 第13回 模擬授業（後半）
- 第14回 模擬授業の分析、考察（各班ごと）
- 第15回 模擬授業の分析、考察（全体、まとめ）

6. 留意事項

講義コード	26804601			
科目名	家庭科指導法			
担当者	大路 雅子			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領解説（家庭編）』 文部科学省 東洋館出版社 『「新しい家庭」5・6年』 渡邊彩子他 東京書籍 『小学校家庭科教育法ワークブック』 鈴木洋子編 家政教育社			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

小学校家庭科の学習指導に必要な知識と技能を習得する。指導計画・評価計画の作成、指導方法などの学習を通して、豊かな教育観をもち、自ら学び、判断し、行動できる、優れた家庭科教師としての資質を養う。

生きる力を育む家庭科教育を進めるための授業づくりに関する方法と情報活用・実践的能力を身につける。

2. 教育・学習の個別課題

- ・小学校家庭科の内容とねらいについて理解を深める。
- ・授業設計について理解し、模擬授業を通して実践的な指導力を身につける。
- ・模擬授業を評価することで授業の改善点・改善方法を理解する。

3. 教育・学習の方法

講義と演習・実習を併用する。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示する。

4. 評価方法・評価基準

毎時間の学習事項をファイルしたポートフォリオ（20%）、学習指導案作成力（20%）、模擬授業実践力（30%）、授業評価分析（30%）欠席は減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 生きる力を育む家庭科教育の在り方
- 第2回 学習指導計画の作成手順
- 第3回 授業設計の基本的な考え方
- 第4回 年間指導計画の作成
- 第5回 題材の指導計画の作成手順
- 第6回 学習指導案（本時）の作成
- 第7回 家庭科の学習評価
- 第8回 教材・教具の工夫と教材開発
- 第9回 模擬授業①
- 第10回 模擬授業②
- 第11回 模擬授業③
- 第12回 模擬授業④
- 第13回 模擬授業⑤
- 第14回 模擬授業⑥

第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26804701			
科目名	体育科指導法 運動指導について実践から学ぶ			
担当者	内田 和寿			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「体育科教育」及び「健康スポーツ実習(教職)」で学習したことを基に、小学校において児童が熱中して運動に取り組む体育授業を展開することが出来るように、単元設計、授業計画、教材の工夫、授業評価の仕方等を理解し、実践する能力を養うことを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

- ・教科の内容、各運動領域の特性とねらいについて理解を深める。
- ・学習指導案の作成、学習カードの作成、発問の仕方等について理解する。
- ・運動の苦手な児童に対する支援や助言の仕方について理解する。
- ・指導案を作成し、模擬授業を通して実践的な指導力を身につける。
- ・模擬授業を評価することで授業の改善点に気づき、改善方法を理解する。

3. 教育・学習の方法

・講義と演習（教材作成、発表、模擬授業、グループ別活動等）を中心に行う。

・テキストについては講義の中で指示を行い、資料については適宜配布する。

・準備学習の具体的な方法

指導案は「体育科教育」「健康スポーツ実習(教職)」で学んだ内容に即して作成すること。

模擬授業の分析レポートを作成すること。（詳細は講義で説明）

4. 評価方法・評価基準

学習指導案の作成力 20点、模擬授業の実践力 40点、授業評価の分析力 20点（レポート）、協力的活動態度 20点として総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 体育科の目標、教科の内容について（講義）
- 第2回 指導計画、学習資料、教材作成について（講義）
- 第3回 準備運動、場の設定、めあての設定、学習評価について（講義）
- 第4回 模擬授業の準備（講義・演習）
- 第5回 保健授業の実際（下級生を学生役として模擬授業を行う）
- 第6回 保健授業の実際（下級生を学生役として模擬授業を行う）
- 第7回 体育授業の実際①基本の運動、ゲーム、体づくり運動、器械運動、陸上運動、ボール運動、表現運動から選択
- 第8回 体育授業の実際②基本の運動、ゲーム、体づくり運動、器械運動、陸上運動、ボール運動、表現運動から選択
- 第9回 体育授業の実際③基本の運動、ゲーム、体づくり運動、器械運動、陸上運動、ボール運動、表現運動から選択
- 第10回 体育授業の実際④基本の運動、ゲーム、体づくり運動、器械運動、陸上運動、ボール運動、表現運動から選択
- 第11回 体育授業の実際⑤基本の運動、ゲーム、体づくり運動、器械運動、陸上運動、ボール運動、表現運動から選択
- 第12回 体育授業の実際⑥基本の運動、ゲーム、体づくり運動、器械運動、陸上運動、ボール運動、表現運動から選択
- 第13回 体育授業の実際⑦基本の運動、ゲーム、体づくり運動、器械運動、陸上運動、ボール運動、表現運動から選択
- 第14回 体育授業の実際⑧基本の運動、ゲーム、体づくり運動、器械運動、陸上運動、ボール運動、表現運動から選択
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

「体育科教育」の単位未修得者には、理論のテストを課す。「健康スポーツ実習(教職)」の単位未修得者には、講義の時間外で教員採用試験相当の実技試験を課す。

講義コード	26804801			
科目名	保育内容指導法（健康） 保育実践のための領域「健康」を理解しよう			
担当者	小川 圭子			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[幼]			
前提科目				
テキスト	『新保育シリーズ 保育内容 健康』 杉原 隆 光 生館			
参考文献	『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「幼稚園教育要領」に「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」とあるように、幼児の心と身体の健全な発達には幼児教育を考える上での最も基礎的な要件である。

これらを培うためには、周囲の人々との温かいふれあひの中で心と体を十分に働かせて活動することが欠かせない。また、それらを通して、生きる事に喜びを感じ、自ら健康、安全で幸せな生活を作り出していこうとする力の基礎を培う事が重要である。

ここでは、これら領域「健康」に関する、ねらいや内容・指導方法等について具体的に学びながら、意図的・計画的な教育を理解する。

2. 教育・学習の個別課題

- 1 保育内容「健康」のねらいや内容について学ぶ。
- 2 領域「健康」の側面から見た幼児の心身の発達について学ぶ。
- 3 遊び環境と運動遊びの指導を理解する。
- 4 生活環境と生活習慣の指導法について学ぶ。
- 5 食生活と食育を通じた指導を学ぶ。
- 6 安全環境と安全教育について学ぶ。
- 7 疾病と救急対応を学ぶ。
- 8 指導計画や、その作成について学ぶ。具体的には、教材研究・一人ひとりの発達の特性に応じるための望ましい環境構成や教師の援助等について学ぶ。
- 9 作成した指導計画に基づいて模擬保育をし、教育の実際を学ぶ。

3. 教育・学習の方法

- 1 講義形式を中心にしながら、演習、ディスカッション、レポート、小テストを実施する。
- 2 学習方法として、学生自身がお互いに協議し合い考え合うことも重要視する。
- 3 指導計画を立案し、それに従って模擬保育をする。
- 4 意図的・計画的な教育の実際を体験する。

・準備学習の具体的な方法

・テキスト及び参考文献の予習・復習をすること。

4. 評価方法・評価基準

- 1 成績評価は、授業参加度(10%)、授業態度(10%)、提出課題(30%)、小テスト(50%)等によって総合判断する。
- 2 3分の2以上の出席を求める。

5. 授業予定

- 第1回 領域「健康」のねらいと内容について
- 第2回 幼児の生活環境と生活習慣の指導について
- 第3回 幼児の身体発育と運動発達について
- 第4回 幼児の疾病と救急対応について
- 第5回 幼児の安全環境と安全教育
- 第6回 保育事例について検討する
- 第7回 幼児の食生活と食育について
- 第8回 指導上の基本と指導内容
- 第9回 日の指導計画の作成
- 第10回 部分指導計画の作成
- 第11回 模擬保育とその反省・評価
- 第12回 模擬保育とその反省・評価
- 第13回 園行事の指導計画の検討
- 第14回 小テスト
- 第15回 まとめと講評

6. 留意事項

小テスト時に欠席の学生は別の課題を課す

講義コード	26804901			
科目名	保育内容指導法（人間関係）			
担当者	石川 恵美			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[幼]			
前提科目				
テキスト	『保育内容「人間関係」』 森上史朗他 ミネルヴァ書房 2001年			
参考文献	『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 2008年 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

保育内容「人間関係」は、子どもの自立心を育てること、人とのかかわる力を養うこと等に視点を置いた領域である。日々成長する子どもの人間関係や、保育者としての望ましい援助方法を共に考察していく。将来保育者となる学生自身の人間関係についての問い直しも課題にする。また、保育内容「人間関係」の意義やねらいを明らかにし、保育を行う上での基礎知識を身につけることを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

- 1 「幼稚園教育要領」の領域「人間関係」のねらいや内容について学ぶ。
- 2 領域「人間関係」の側面から見た幼児の遊びと育ちについて学ぶ。
- 3 領域「人間関係」のねらい・内容を育てるための、指導方法について学ぶ。

3. 教育・学習の方法

- 1 講義形式を中心にしながら演習も行う。
- 2 学習方法として、学生自身がお互いに協議し合い考え合うことも重要視する。

・準備学習の具体的な方法

幼稚園教育要領の「人間関係」領域について読んでおく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度(30%) 授業態度(20%) 確認テスト(50%)に基づいて総合的に評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション 保育内容「人間関係」とは
- 第2回 保育の基本と人とのかかわり
- 第3回 乳児の人とのかかわりの発達
- 第4回 幼児の人とのかかわりの発達
- 第5回 園における生活と人とのかかわり
- 第6回 地域における生活と人とのかかわり
- 第7回 遊びのなかで育つ人とのかかわり
- 第8回 人とのかかわりを育てる保育の実践
- 第9回 人とのかかわりが難しい子どもへの支援
- 第10回 人とのかかわりが難しい子どもの保護者支援
- 第11回 人とのかかわりを育てる保育者の役割
- 第12回 「人間関係」の記録・指導案
- 第13回 領域「人間関係」をめぐる諸問題
- 第14回 まとめ
- 第15回 確認テストと解説

6. 留意事項

ノートを1冊ご用意の上、毎回ご持参ください。

講義コード	26805001		
科目名	保育内容指導法（環境）		
担当者	石川 恵美		
単位数	2	配当学年	2
資格	[幼]		
前提科目			
テキスト	『保育と環境』 矢野正 小川圭子 嵯峨野書院 2011年		
参考文献	『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 2008年 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

子どもを取り巻く環境は変化している。人的・物的・空間的環境が、子どもにどのような影響を与え、どのような役割があるのかを共に考察していくこととする。また、保育内容「環境」の意義やねらいを明らかにし、保育を行う上での基礎知識を身につけることを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 「幼稚園教育要領」の領域「環境」のねらいや内容について学ぶ。
- (2) 領域「環境」の側面から見た幼児の遊びと育ちについて学ぶ。
- (3) 領域「環境」のねらい・内容を育てるための、指導方法について学ぶ。
- (4) 一人一人の発達の特性に合った望ましい環境構成や教師の援助等について学ぶ。

3. 教育・学習の方法

1 講義形式を中心にしながら演習も行う。2 学習方法として、学生自身がお互いに協議し合い考え合うことも重要視する。

・準備学習の具体的な方法

幼稚園教育要領の「環境」領域について読んでおく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（30％）授業態度（20％）確認テスト（50％）に基づいて総合的に評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション 保育内容「環境」とは
- 第2回 保育の基本と領域「環境」
- 第3回 子どもの発達と保育内容「環境」
- 第4回 好奇心・探究心を豊かに育む
- 第5回 思考力の芽生えを育む指導
- 第6回 身近な生活の中でのかわりと指導
- 第7回 環境を生活に取り入れる指導
- 第8回 人的環境としての保育者・友だち
- 第9回 物的環境としての園具・遊具・素材
- 第10回 自然環境としての動植物
- 第11回 安全教育・保育環境のデザイン
- 第12回 保育計画と指導
- 第13回 小学校教育との連携
- 第14回 保育内容「環境」の実践事例
- 第15回 確認テストと解説

6. 留意事項

ノートを1冊ご用意の上、毎回ご持参ください。

講義コード	26805101			
科目名	保育内容指導法（言葉）			
担当者	高井 直美			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[幼]			
前提科目				
テキスト	テキストは用いない。			
参考文献	参考図書は授業中に紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

幼児期は言葉の発達の著しい時期である。幼児期初期の1語発話から始まって、3歳ころには比較的スムーズな日常会話が可能となる。さらに、言語的概念の発達や言語的思考の発達は、3～5歳の幼児期後半に著しい。これらの発達を支えるのは家庭でのコミュニケーションや幼稚園等における集団での保育者あるいは友だちとの関わりである。本科目では、言葉の発達のメカニズムを理解したうえで、その発達を支えるために行う幼稚園教育での言葉に関する取り組みを実践的に学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 幼児期における言葉の発達全般について概観し、言葉の発達がスムーズにいかない場合の諸問題についても理解する。
2. 言葉が育つ環境として、家庭と幼稚園のもつそれぞれの役割を理解する。
3. 「しつけの言葉」「思考の発達を促す言葉」など、親や保育者から伝わる言葉が、幼児の自我形成や認識・思考の発達に及ぼす影響について学ぶ。
4. 遊びを通して言葉はどのように育つのかについて理解する。
5. 絵本の世界に子どもが浸ることとイメージの発達との関係を学ぶ。
6. 絵本の読み聞かせの練習を行う。
7. ペープサートの台本を作成し上演を行う。
8. 言葉を使ったさまざまな遊びを行う。

3. 教育・学習の方法

講義と実習の両方を行う。実習では絵本の読み聞かせの練習とペープサートの作成と上演を行う。絵本の読み聞かせは1人1冊は必ず行う。ペープサートは班に分かれて、受講生がアイデアを出しながら台本と材料を作成し、上演する。各班によって上演されたペープサートを視聴し、お互いに批判しながら、よりよい上演をするにはどのようにしたらよいか考える機会を提供する。

・準備学習の具体的な方法

書店に行ったときに、絵本コーナーに立ち寄ってみよう。興味を引く絵本が見つかるはずである。自分で多くの絵本をよく見て、時には声に出して読み、楽しんでおいてほしい。

4. 評価方法・評価基準

評価は受講態度、実習への取り組み、レポートによって、総合的に行う。不真面目な態度は、厳しく減点の対象にする。

5. 授業予定

- 第1回 言葉の発達のしくみ①（生得説と環境説）
- 第2回 言葉の発達のしくみ②（0歳から5歳までの言語発達プロセス）
- 第3回 言葉の発達の障害と支援
- 第4回 言葉の発達の問題と支援
- 第5回 ごっこ遊び・想像性の発達
- 第6回 言葉が育つ環境
- 第7回 絵本の読み聞かせの意義
- 第8回 絵本の読み聞かせ①
- 第9回 絵本の読み聞かせ②
- 第10回 ペープサート作成と上演
- 第11回 ペープサート作成と上演
- 第12回 ペープサート作成と上演
- 第13回 言葉の発達を促す遊び
- 第14回 幼稚園教育における言葉の発達を促す試み
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

授業予定の順番は変わることもある

講義コード	26805201		
科目名	保育内容指導法（表現）		
担当者	松岡 宏明		
単位数	2	配当学年	2
資格	[幼]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『美術教育概論（改訂版）』 松岡宏明他編著 日本文教出版 2009 『事例で学ぶ保育内容表現』 浜口順子編著代表 萌文書林 2007 『保育をひらく造形表現』 楨英子 萌文書林 2008		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	

1. 科目の教育目標

幼稚園教育要領の領域「表現」について、五領域の中における位置づけを確認し、そのねらいと内容について歴史的考察を踏まえて把握するとともに、幼児の未分化な表現とその指導についての理解を深める。また、様々な表現方法を体験して自らの表現技術を高めるとともに、「学生」の目線から保育者の視点獲得へと意識のステップアップを図り、幼児の表現を引き出し、育てるための「受容—共感—反応」していく力量を養う。

2. 教育・学習の個別課題

1. 「幼稚園教育要領」の領域「表現」のねらいと内容について学ぶ。
2. 造形、音楽、劇（ごっこ）、身体、言葉といった表現媒体についてそれぞれ理解を深めるとともに、それらが未分化な形として表現される幼児への具体的な指導方法を体験的に学ぶ。
3. 幼児の豊かな表現を引き出す基盤として自らの発想を拡げ、仲間とともに感性を磨く。

3. 教育・学習の方法

- ・講義と演習、実技を織り交ぜて行う。
- ・演習、実技においてはチームで学習を進める。
- ・授業の終わりの5分程度で、毎回質問や感想を「受講ノート」（授業内に詳述）に記入する。（担当者は毎回返事を書く。）
- ・「授業ノート」（授業内に詳述）を創造的にしっかり記入、管理していくこと。

・準備学習の具体的な方法

1. 「幼稚園教育要領」第1章総則、とりわけ第1幼稚園教育の基本について事前に熟読し理解しておくこと。
2. 「幼稚園教育要領」のねらい及び内容の「表現」について目を通しておくこと。
3. 心と体の調子を整え、優しく受容的な気持ちで、かつアクティブな姿勢を携えて授業にやってくること。

4. 評価方法・評価基準

受講ノート（20%）、表現・発表内容（20%）、レポート（20%）、作成保育案（20%）、授業ノート（20%）
具体的なルーブリック（評価基準）は授業内に示します。なお、保育者にとっては自ら表現する力よりもむしろ、幼児の表現を受け入れ、共感し、反応していく力が重要です。ゆえに、「表現・発表内容」といっても、その技術を評価するわけではありませんので安心を。

5. 授業予定

第1回

- ・オリエンテーション（本授業のねらい、内容、評価について）
- ・グループ編成
- ・講義「表現（教育）を学ぶキーワード」

第2回

- ・講義「幼児と大人の世界観の違い」その1
- ・活動「見立て遊びからの表現(造形・音楽・劇・言葉)」その1

第3回

- ・講義「幼児と大人の世界観の違い」その2
- ・活動「見立て遊びからの表現(造形・音楽・劇・言葉)」その2

第4回

- ・講義「子供の造形活動への発達の側面からのアプローチ」その1
- ・活動「見立て遊びからの表現(造形・音楽・劇・言葉)」その3

第5回

- ・講義「子供の造形活動への発達の側面からのアプローチ」その2
- ・活動「見立て遊びからの表現(造形・音楽・劇・言葉)」その4

第6回

- ・講義「子供の造形活動への特徴的側面からのアプローチ」その1
- ・活動「見立て遊びからの表現(造形・音楽・劇・言葉)」その5

第7回

- ・講義「子供の造形活動への特徴的側面からのアプローチ」その2
- ・活動「見立て遊びからの表現(造形・音楽・劇・言葉)」その6

第8回

- ・講義「子供の造形活動への心理的側面と美的側面からのアプローチ」
- ・活動「見立て遊びからの表現(造形・音楽・劇・言葉)」その7

第9回

- ・講義「幼児の未分化な表現の指導方法について」
- ・活動「見立て遊びからの表現(造形・音楽・劇・言葉)」その8

第10回

- ・講義「幼稚園教育要領における領域の変遷と『表現』について」
- ・講義「幼稚園教育要領のねらいと内容」

第11回

- ・講義「幼児が初めて出会う芸術としての絵本」

第12回

- ・活動「絵本からはじまる表現活動」その1

第13回

- ・活動「絵本からはじまる表現活動」その2

●上記保育案提出

第14回

- ・講義「園における造形活動」
- ・講義「発達に合わせた題材設定」

●レポート提出

●授業ノート提出

第15回

- ・講義「幼児の豊かな表現を引き出す保育者の感性」

・まとめ

6. 留意事項

A4 サイズのノート（40枚）を一冊準備しておいてください。それが上記の「授業ノート」です。これに板書を写し、ノートを取り、配布のプリント、仲間からの配布物、レポートなどの全てを貼り付けていきます。自分

なりの創造的なノートにしていくことを求めます。

講義コード	26805301			
科目名	犯罪心理学 生物—心理—社会的視点の重要性			
担当者	藤川 洋子			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト	『発達障害と少年非行』 藤川洋子 金剛出版 2008			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

2009年5月から裁判員制度が始まり、国民すべてが、犯罪を裁く立場になる可能性が生じた。誰にとっても犯罪が身近になった現在、重大事件の前に、私たちは何をどのように整理して考える必要があるのか。少年事件を中心に、法の仕組み、少年事件の特徴と「発達障害」という生物的特性に注目することの意義を学ぶ。また、冤罪防止のために、司法面接（事実を明らかにする面接）のテクニックに対する需要が高まっており、誘導のない面接とは何かを学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

一般の学生にとっては、犯罪や処遇機関は縁遠い存在であると思われることから、DVDなど視聴覚教材を利用して、冤罪の成り立ちや犯罪者処遇のイメージを持ってもらう。

3. 教育・学習の方法

講義形式が中心であるが、事例を提示して、処遇についての意見の発表を挿入する。

・準備学習の具体的な方法

近年、非常に注目されている、犯罪における生物学的な要因について、テキストを熟読することによって学ぶ。

4. 評価方法・評価基準

講義とテキストの理解を試験によって評価する。授業参加度50%、試験50%。

5. 授業予定

- 第1回 犯罪にかかわる専門機関（捜査、調査、裁判、鑑定、処遇）
- 第2回 犯罪解明の歴史（心理学の貢献）
- 第3回 ジェノグラムを書く
- 第4回 犯罪心理の解明の手法①司法面接
- 第5回 犯罪心理の解明の手法②司法面接
- 第6回 犯罪心理の解明の手法③発達障害への注目
- 第7回 冤罪はなぜ起きたか①（DVD）

- 第8回 冤罪はなぜ起きたか② (DVD)
- 第9回 特性を踏まえた処遇のありかた―触法障害者という視点
- 第10回 精神障害、発達障害と刑事責任能力
- 第11回 精神障害と医療観察法
- 第12回 犯罪者の処遇のために臨床心理学ができること
- 第13回 再犯防止という観点
- 第14回 犯罪心理学の未来
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26805601		
科目名	教師論A		
担当者	菅井 啓之		
単位数	2	配当学年	1
資格	[教]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『小学校学習指導要領解説総則編』 文部科学省 大日本印刷 2010 『新編教えるということ』 大村はま ちくま学芸文庫 2009		
備考	心理学部対象クラス		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

教職の意義や教員の役割についての理解を深めるとともに、教師のあるべき姿を専門性と人間性の両側面から探求する。専門職として求められる資質や能力とは何か、学び続ける知識人、教養人、社会人として求められるものとは何か、人間性として期待されるものは何かなどの多面的な視点から考察し、自覚ある教員を育成することをめざす。

2. 教育・学習の個別課題

1、教育者としての使命を理解する。 2、人間の成長発達について理解を深める。 3、児童、生徒に対する教育的愛情についての理解を深める。 4、教科等に関する専門的知識についての理解 5、広く豊かな一般的教養についての理解 6、職務内容についての理解 7、地球や人類、国家、家庭等のあり方についての理解 8、一人一人のよさや個性、適性を見出し、受容して返すためのセンサー、コミュニケーション能力についての理解 9、学び続ける知識人、教養人、社会人としての教師自身の確立についての理解 10、教師自身の人間性について

3. 教育・学習の方法

基本は講義だが内容によって演習を併用しながら展開する。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示するが、現代の教育事情や話題をとらえ、それらの新聞の論説や書籍に目を向けておく。

4. 評価方法・評価基準

課題レポート 50%、毎時間の小レポート 30%、学習態度 20%により評価する。

5. 授業予定

- 第1回 教師の法的位置付けと社会的位置付け
- 第2回 教育基本法・学校教育法の概要
- 第3回 校務分掌と地域における教師の役割
- 第4回 研修(研究と修養)の意義
- 第5回 教育者としての使命と心構え
- 第6回 教えることと育てること
- 第7回 教科教育と人間教育(専門性と人間性)
- 第8回 授業力を高める手法
- 第9回 特別支援教育と学級指導
- 第10回 学校安全と危機管理について
- 第11回 教師の主体性と自己教育力
- 第12回 全人教育とキャリア教育
- 第13回 統計から教育を考える
- 第14回 教師として考えて置くべき教育課題
- 第15回 理想の教師像と生きる力を考える

6. 留意事項

講義コード	26805801			
科目名	道徳の指導法A			
担当者	菅井 啓之			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領解説 道徳編』			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

学校教育全般にわたって行われる道徳教育と週1時間の道徳の時間の指導のあり方との関係についての理解を深め、道徳的価値の内面化・自覚化・行動化を図るための指導のあり方を明らかにし、その指導を身につけることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1、教育課程における道徳の位置づけと、その目標、内容、方法について理解する。 2、内面の自覚を促すという道徳教育の方法原理とその実現のための方法について理解する。 3、道徳のカリキュラム構成のあり方について、学校教育全体からの位置づけを理解する。 4、道徳の指導及び評価のあり方について理解し、実践する指導力をつける。

3. 教育・学習の方法

講義とそれにもとづく、指導案の作成も含めての模擬授業とその評価による指導力の養成

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示する。

4. 評価方法・評価基準

課題レポート 40%、模擬授業 30%、毎時間の振り返りカード 20%、授業態度 10%で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 教育課程と道徳教育の位置づけ
- 第2回 学習指導要領解説、道徳編の解説
- 第3回 教育方法からみた道徳の特徴と指導及び評価のあり方
- 第4回 素材の教材化の仕方
- 第5回 指導案の書き方
- 第6回 模擬授業とその評価および検討(1)
- 第7回 模擬授業とその評価および検討(2)
- 第8回 模擬授業とその評価および検討(3)
- 第9回 模擬授業とその評価および検討(4)
- 第10回 模擬授業とその評価および検討(5)
- 第11回 児童生徒への評価の返し方
- 第12回 副教材の活用の仕方
- 第13回 道徳指導における体験的な学びのあり方
- 第14回 道徳といのちの教育、環境教育との関係
- 第15回 道徳と宗教教育

6. 留意事項

講義コード	26805901			
科目名	特別活動の指導法A			
担当者	工藤 哲夫			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『よりよい人間関係を築く特別活動』 杉田洋 図書文化 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 文部科学省 東洋館出版社			
参考文献				
備考	心理学部対象クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

児童・生徒が、よりよい集団活動を通して、調和のとれた人間関係を作り、教科学習とは違う活躍の場を与えられ、集団の一員として充実感を持

って学校生活を送ることができるようにするために、教員はどのように指導すべきかを学ぶ。また自分の小学校・中学校・高等学校の特別活動を振り返り、よりよい特別活動を企画できるように学習する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 特別活動の意義
2. 特別活動の実際
3. 学校現場の指導体制

3. 教育・学習の方法

1. 講義形式
2. 討論
3. 発表
4. 小レポート

・準備学習の具体的な方法

1. 小学校中学校時代の学級通信や行事のしおりなどを見直す。
2. 小学校中学校時代の学級通信や行事のしおりなどの中から、一つ以上一回目の授業に持参する。

4. 評価方法・評価基準

授業参加と小レポート提出 (60%)。発表 (10%)。課題提出またはテスト (30%)。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 特別活動の歴史と目標
- 第3回 子どもたちの状況
- 第4回 学校の抱える問題
- 第5回 特別活動と人間関係
- 第6回 学級活動の理論
- 第7回 学級活動の実践
- 第8回 児童会・生徒会活動
- 第9回 クラブ活動
- 第10回 学校行事 儀式的行事 文化的行事 健康安全・体育的行事
- 第11回 学校行事 遠足・集団宿泊の行事 勤労生産・奉仕的行事
- 第12回 特別活動の課題とプランづくり
- 第13回 教師の人間関係能力
- 第14回 レポートの作成
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	26806101		
科目名	推測統計学 I A		
担当者	尾崎 仁美		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004 クラスによって、使用テキスト・教材が異なる場合があるため注意すること。		
参考文献	『初歩の心理教育統計法』 住田幸次郎 ミネルヴァ書房 1988		
備考	必修 学校心理専攻は選択 クラス指定		
科目読替	推測統計学 (I・II 合わせて)		
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26806102		
科目名	推測統計学 I B		
担当者	松島 るみ		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004 クラスによって、使用テキスト・教材が異なる場合があるため注意すること。		
参考文献	『初歩の心理教育統計法』 住田幸次郎 ミネルヴァ書房 1988		
備考	必修 学校心理専攻は選択 クラス指定		
科目読替	推測統計学 (I・II 合わせて)		
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26806103		
科目名	推測統計学 I C		
担当者	伴 碧		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004 クラスによって、使用テキスト・教材が異なる場合があるため注意すること。		
参考文献	『初歩の心理教育統計法』 住田幸次郎 ミネルヴァ書房 1988		
備考	必修 学校心理専攻は選択 クラス指定		
科目読替	推測統計学 (I・II 合わせて)		
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

簡単に電卓やコンピュータプログラムで統計的検定が機械的におこなうことが可能な時代になってきているが、その意味を理解できる(できていない)者はあまりみられないのが実情である。

本講義ではやさしい言葉と豊富な実例を提示することによって、授業をすすめたい。なお、1年次の「心理統計法」を十分理解した上で、この科目と取り組んで頂きたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 統計的検定の意味をよく理解すること。
2. 統計的検定で何がわかり、何がわからないかを頭に入れておくこと。誤用に特に注意すること。
3. 根本的には確率的な考え方から成立していることを理解していくこと。

3. 教育・学習の方法

授業は演習室において、講義と演習を並行して行う予定である。

・準備学習の具体的な方法

1年次の必修科目である「心理統計法」を復習しつつ授業に出ること。

4. 評価方法・評価基準

持込みなしの筆記テスト (90%)、小テスト・授業参加度 (10%) を併せて総合的に評価を行う。なお、授業への遅刻・欠席は減点の対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 記述統計の復習① (代表値)
- 第3回 記述統計の復習② (散布度)
- 第4回 統計的検定の考え方① (統計的検定とは何か)
- 第5回 統計的検定の考え方② (標本と母集団, 標本抽出)
- 第6回 統計的検定の考え方③ (統計的検定・帰無仮説)
- 第7回 統計的検定の考え方④ (有意水準, 検定結果の報告)
- 第8回 統計的検定の考え方⑤ (統計的検定における2種類の誤り)
- 第9回 統計的検定の考え方⑥ (両側検定・片側検定)
- 第10回 相関係数① (ピアソンの相関係数)
- 第11回 相関係数② (順位相関係数)
- 第12回 相関係数③ (偏相関)
- 第13回 t検定① (独立2平均のt検定)
- 第14回 t検定② (連関する2平均のt検定)
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

日常生活の中で、つねに実験条件等を考え、実際にデータを取ったりして、統計の手法を具体的に学習するようにしてほしい。特に Excel の操作方法は、自己学習をしながら向上させていくこと。

講義コード	26806201		
科目名	推測統計学Ⅱ A		
担当者	尾崎 仁美		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004 『WEB教材』 クラスによって、使用テキスト・教材が異なる場合があるため注意すること。		
参考文献	『初歩の心理教育統計法』 住田幸次郎 ナカニシヤ 1988		
備考	必修 学校心理専攻は選択 クラス指定		
科目読替	推測統計学 (I・II 合わせて)		
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26806202		
科目名	推測統計学Ⅱ B		
担当者	松島 るみ		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004 『WEB教材』 クラスによって、使用テキスト・教材が異なる場合があるため注意すること。		
参考文献	『初歩の心理教育統計法』 住田幸次郎 ナカニシヤ 1988		
備考	必修 学校心理専攻は選択 クラス指定		
科目読替	推測統計学 (I・II 合わせて)		
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26806203		
科目名	推測統計学Ⅱ C		
担当者	伴 碧		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004 『WEB教材』 クラスによって、使用テキスト・教材が異なる場合があるため注意すること。		
参考文献	『初歩の心理教育統計法』 住田幸次郎 ナカニシヤ 1988		
備考	必修 学校心理専攻は選択 クラス指定		
科目読替	推測統計学 (I・II 合わせて)		
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

簡単に電卓やコンピュータプログラムで統計的検定が機械的におこなうことが可能な時代になってきているが、その意味を理解できる(できている)者はあまりみられないのが実情である。

本講義ではやさしい言葉と豊富な実例を提示することによって、授業をすすめたい。なお、1年次の「心理統計法」を十分理解した上で、この科目と取り組んで頂きたい。

2. 教育・学習の個別課題

1. 統計的検定の意味をよく理解すること。
2. 統計的検定で何がわかり、何がわからないかを頭に入れておくこと。誤用に特に注意すること。
3. 根本的には確率的な考え方から成立していることを理解していくこと。

3. 教育・学習の方法

授業は演習室において、講義と演習を並行して行う予定である。

・準備学習の具体的な方法

1年次の必修科目である「心理統計法」を復習しつつ授業に出ること。

4. 評価方法・評価基準

持込みなしの筆記テスト(90%)、小テスト・授業参加度(10%)を併せて総合的に評価を行う。なお、授業への遅刻・欠席は減点の対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 前期の復習(1)
- 第2回 前期の復習(2)
- 第3回 χ^2 検定① (χ^2 検定の前提条件)
- 第4回 χ^2 検定② (χ^2 検定：一標本の検定)
- 第5回 χ^2 検定③ (χ^2 検定：2×2分割表の検定)
- 第6回 χ^2 検定④ (χ^2 検定：イェーツの修正)
- 第7回 分散分析とは
- 第8回 一要因分散分析① (被験者間要因)
- 第9回 一要因分散分析② (被験者内要因)
- 第10回 二要因分散分析① (被験者間要因)
- 第11回 二要因分散分析② (被験者内要因)
- 第12回 二要因分散分析③ (混合計画)
- 第13回 二要因分散分析④ (交互作用)
- 第14回 二要因分散分析⑤ (多重比較)
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

日常生活の中で、つねに実験条件等を考え、実際にデータを取ったりして、統計の手法を具体的に学習するようにしてほしい。特にExcelの操作方法は、自己学習をしながら向上させていくこと。

講義コード	26807001・85010102			
科目名	書写			
担当者	奥 小風			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[小]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	教職専用科目(小学校のみ) 卒業要件単位とならない			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

小学校教員免許状の取得を目指す者、書写能力の基礎を養うことを目標とする。硬筆と毛筆の両面にわたって、実技・技能とその理論、書写指導の能力をさらに高めるとともに、いろいろな立場から、さまざまな変化と調和に伝統的な言語文化と国語の特質を支える文字教育の一環としての書写教育、単に教員養成のためではなく、広く小学校教育現場における指導力強化のため、さらに、社会教育、あるいは自己学習としても活用できるように、新たな機軸を追求していくことである。

2. 教育・学習の個別課題

1. 知識・理解と書写指導力の目標
文字の書き方の技能を知的に理解させることで、知覚、識別力、学習用語力、技能説明力等が関わる。
2. 技能・能力の目標
用具の使い方、姿勢、腕法、指法、書写技能形成力(練習を含む)等である。
3. 態度・習慣の目標
文字を正しく整えて速く書くための目的意識、必要感、興味、意欲、身構え等の学習持続力がある。
4. 鑑賞・評価の目標
教材文字の価値の感得、文字の善し悪しの価値づけをする評価眼(感性)等がある。

3. 教育・学習の方法

1. 授業は講義と実技形式で行う。
2. 授業中に補助プリント配布と視聴覚教材の活用、書写指導力の理解を深める為に模擬授業を実施する。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業中に指示する。特に模擬授業実施のため、学習指導案作成は事前に指示される。さまざまな課題に、しっかり取り組むこと。

4. 評価方法・評価基準

出席率20%、出席は授業回数の三分の二以上を要求する。欠席、遅刻は減点の対象となる。課題提出・授業態度20%、模擬授業20%、期末の課題レポートと作品40%に基づいて総合的に評価を行う。

5. 授業予定

第1回 総説

文字の特質と書写教育・国語表記の特質・文字と書写・書写教育の役割・字形、字体、書体など・学習指導要領と書写の指導・書写指導の内容及び授業時数・書写の指導計画（年間、単元、毎時の指導計画・硬筆、硬筆と毛筆）・書写の指導方法。

第2回 第1学年と第2学年の書写指導（1）

硬筆書写に用いる用具・字を書く姿勢や筆記具の持ち方・硬筆平仮名の字形、点画の長短・方向、点画の接し方、交わり方・方向、筆順、書き方。

第3回 第1学年と第2学年の書写指導（2）

硬筆片仮名の字形、点画の長短・方向、点画の接し方、交わり方・方向、筆順、書き方・硬筆文字の形、点画の長短・方向、点画の接し方、交わり方・方向、文字の中心、筆順、書き方。

第4回 第1学年と第2学年の書写指導（3）

第1・2学年の書写指導のまとめの模擬授業とその評価及び検討。

第5回 第3学年と第4学年の書写指導（1）

毛筆書写に用いる用具・毛筆の姿勢、筆の持ち方、筆の部分の名前・用具の置き方と扱い方・筆使いと基本点画（始筆、送筆、終筆）・基本点画の書き方（1）・漢字の組み立て方、形、筆順、字形、配列などと書き方。

第6回 第3学年と第4学年の書写指導（2）

基本点画の書き方（2）・毛筆の漢字の組み立て方、形、文字の大きさや配列、筆順と書き方・硬筆の漢字の組み立て方、筆順と字形、文字の中心・横書き。

第7回 第3学年と第4学年の書写指導（3）

筆使い平仮名の字源と書き方・始筆の筆使い、送筆の筆使い、終筆の筆使い。

第8回 第3学年と第4学年の書写指導（4）

硬筆と毛筆の関連・漢字や仮名の大きさ、配列、字配り、点画・硬筆と毛筆それぞれの本来の性能を発揮する・諸書式の書き方（原稿用紙、封筒、葉書、年賀状など）。

第9回 第3学年と第4学年の書写指導（5）

第3・4学年の書写指導のまとめの模擬授業とその評価及び検討。

第10回 第5学年と第6学年の書写指導（1）

姿勢と筆記具の選択・いろいろな筆記具の持ち方を確かめよう・学習の進め方（漢字・楷書、いろいろな点画と点画のつながり、筆順と字形、文字の大きさや配列、配置、用紙と文字の大きさ、筆圧・筆速のコントロール）。

第11回 第5学年と第6学年の書写指導（2）

筆使い片仮名の字源と書き方・始筆の筆使い、送筆の筆使い、終筆の筆使い。

第12回 第5学年と第6学年の書写指導（3）

硬筆と手紙、メモなどの書き方（横書き、縦書き）・硬筆の点画のつながりと書く速さ・筆順と字形、用紙と文字の大きさ・配列、筆記具の選び方・ローマ字の書き方。

第13回 第5学年と第6学年の書写指導（4）

毛筆の漢字と仮名の書き方・漢字仮名交じりの書の書き方（点画のつながり、漢字と仮名の筆順と字形、筆の筆圧、字配り、用紙と文字の大きさ、書く速さなど）。

第14回 第5学年と第6学年の書写指導（5）

毛筆と硬筆の姿勢再度確認・筆記具の持ち方の確認・いろいろな筆記具の特性の理解・学習の進め方を考える（書写で培った知識や技能を、日常生活の文字を書く場面に生かすこと）。学んだことを生かして、作品を作ろうと発表展示評価。

第15回 第5学年と第6学年の書写指導（6）

第5・6学年の書写指導のまとめの模擬授業とその評価及び検討。

6. 留意事項

やむを得ず欠席する場合は、前回の補助プリントなどに自己学習して、次の授業に支障のない状態で臨んでください。

講義コード	26901401～26901421			
科目名	心理学演習 I			
担当者	専任教員			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業論文作成のための研究へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

2. 教育・学習の個別課題

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

3. 教育・学習の方法

1. ゼミに分属し、ゼミ担当教員（指導教員）の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

・準備学習の具体的な方法

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

5. 授業予定

各担当教員から個別に指示する。

6. 留意事項

水曜日4講時、出席必須

講義コード	26901501～26901522			
科目名	心理学演習 II			
担当者	専任教員			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

心理学演習 I で学習した内容を踏まえ、卒業論文の作成に取り組む。基礎文献の探索と理解及びまとめ、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習と実施、収集したデータの分析と考察など、その分野の特徴を活かした個別指導により、卒業論文の完成を目指す。

1. 適切に研究を遂行することができる
2. 卒業論文を執筆することができる

2. 教育・学習の個別課題

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する

3. 教育・学習の方法

ゼミ別に個別指導を行う。

・準備学習の具体的な方法

授業時間以外の学習活動が重要である。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度、卒業研究に取り組む熱意や態度を総合的に評価する。

5. 授業予定

各担当教員から個別に指示する。

6. 留意事項

1. 各ゼミごとに曜日・講時を設定する。出席必須。
2. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
3. 配布される「卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

講義コード	26901301～26901322			
科目名	卒業研究			
担当者	専任教員			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

心理学部における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

2. 教育・学習の個別課題

各自が卒業研究として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式（表紙、本文、要約、引用文献など）にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

3. 教育・学習の方法

各ゼミ別に個別指導を行う。

・準備学習の具体的な方法

授業時間以外の学習が重要である。

4. 評価方法・評価基準

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。

5. 留意事項

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

講義コード	80001001			
科目名	教師論A			
担当者	菅井 啓之			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『小学校学習指導要領解説総則編』 文部科学省 大日本印刷 2010 『新編教えるということ』 大村はま ちくま学芸文庫 2009			
備考	心理学部対象クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

教職の意義や教員の役割についての理解を深めると共に、教師のあるべき姿を専門性と人間性の両側面から探求する。専門職として求められる資質や能力とは何か、学び続ける知識、教養人、社会人として求められるものとは何か、人間性として期待されるものは何かなどの多面的な視点から考察し、自覚ある教員を育成することをめざす。

2. 教育・学習の個別課題

1. 教育者としての使命を理解する。 2. 人間の成長発達について理解を深める。 3. 児童、生徒に対する教育的愛情についての理解を深める。 4. 教科等に関する専門的知識についての理解 5. 広く豊かな一般的教養についての理解 6. 職務内容についての理解 7. 地球や人類、国家、家庭等のあり方についての理解 8. 一人一人のよさや個性、適性を見出し、受容して返すためのセンサー、コミュニケーション能力についての理解 9. 学び続ける知識人、教養人、社会人としての教師自身の確立についての理解 10. 教師自身の人間性について

3. 教育・学習の方法

基本は講義だが内容によって演習を併用しながら展開する。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示するが、現代の教育事情や話題をとらえ、それらの新聞の論説や書籍に目を向けておく。

4. 評価方法・評価基準

課題レポート 50%、毎時間の小レポート 30%、学習態度 20%により評価する。

5. 授業予定

- 第1回 教師の法的位置付けと社会的位置付け
- 第2回 教育基本法・学校教育法の概要
- 第3回 校務分掌と地域における教師の役割
- 第4回 研修（研究と修養）の意義
- 第5回 教育者としての使命と心構え
- 第6回 教えることと育てること
- 第7回 教科教育と人間教育（専門性と人間性）
- 第8回 授業力を高める手法
- 第9回 特別支援教育と学級指導
- 第10回 学校安全と危機管理について
- 第11回 教師の主体性と自己教育力
- 第12回 全人教育とキャリア教育
- 第13回 統計から教育を考える
- 第14回 教師として考えて置くべき教育課題
- 第15回 理想の教師像と生きる力を考える

6. 留意事項

講義コード	80001002			
科目名	教師論B			
担当者	大槻 雅俊			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『教職とは エピソードからみえる教師・学校』 教職とは？編集委員会 教育出版 2012年			
参考文献				
備考	人間文化学部・生活福祉文化学部対象クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

教員に対する社会的要請（教職観、資質能力）をとらえ、教職の意義および教員の役割を理解するとともに、服務や研修など法令の規定を踏まえたうえで教員の職務内容を理解する。

2. 教育・学習の個別課題

- 1. 教員の役割を理解することをとおして教員としての自覚の素地を養うことができる。
- 2. 自己の個性が発揮できる教員像をもつことができる。
- 3. 実践的な知見を身につけ即応性のある教員としての力量の素地を養うことができる。

3. 教育・学習の方法

教員志望の受講者が教育理念を確立するとともに、教員の職務内容を理解することをとおして、教員としての資質能力の素地を形成することを旨とする。授業形態は講義を基本としながら適宜グループディスカッション等を取り入れる。

・準備学習の具体的な方法

講義を中心とするが、事前の課題についてプレゼンおよび意見交換を行うことも取り入れる。課題については受講生全員がきっちり予習をしておくこと。

4. 評価方法・評価基準

受講態度（20%）、課題提出（20%）、定期テスト（60%）

5. 授業予定

- 第1回 教職を考えることの意義
- 第2回 学校教育の現状と課題
- 第3回 教職について考える：人々は教員をどのようにみているか。
- 第4回 求められる教員の資質能力(1)
- 第5回 求められる教員の資質能力(2)
- 第6回 教職員の種類と資格
- 第7回 教員の身分保障：勤務条件、分限、懲戒
- 第8回 教職員の研修と向上心
- 第9回 教員の力量と学習指導
- 第10回 教員の力量と校務の分担
- 第11回 教員の適性と留意事項：校内の職務
- 第12回 教員の適性と留意事項：校外の職務
- 第13回 学校、家庭、地域の連携と教員のかかわり
- 第14回 教育現場の諸問題
- 第15回 理想としての教員像と自己の課題

6. 留意事項

教員の仕事は専門性の高い職業である。それゆえ人間性を磨くとともに教養、専門的知見、指導技術を修得する必要があり、その過程では苦労があり、相応の努力がいる。しかし教員として職に就けば得がたい喜びや充実感を味わうことができるだろう。本講義では社会的要請に応えられる教員の具体的なイメージを確立し、教員としての基礎的資質を醸成してくれることを期待する。

講義コード	80001101			
科目名	教育学			
担当者	山本 智也			
単位数	2	配当学年	1（人間文化学部・生活福祉文化学部） 23（心理学部）	
資格	[教][博]			
前提科目				
テキスト	『学生のための教育学』 西川信廣・長瀬美子編 ナカニシヤ出版 2010			
参考文献	『臨床教育学入門』 河合隼雄 岩波書店 1995 『講義中に適宜紹介する』			
備考	中高必修・幼小選択 生活福祉文化学部は専門教育科目（24530301）を履修すること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本科目は、教育の概念、思想、歴史、制度、内容、方法等について、子どもの福祉との関連を明らかにしつつ、基礎的、体系的な理解を深め、人間にとって教育とは何かを考えることを目標とする。

しかし、様々な子どもや家族をめぐる諸問題に直面している現在、教育の意義を単に知識としてのみとらえるのでは不十分である。そうした前提に立ち、本講義では、こうした問題行動に直面した子どもに関わる援助者、保護者、家族たちが教育をめぐる現実の問題にどのようにとらえ、どのよ

うに課題に取り組んでいくのかという現実を原点とした営みとして教育をとらえる臨床教育学の視点を重視していきたい。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 子どもの現状を踏まえ、子どもの福祉との関連を明らかにしつつ、教育の意味を考える。
- (2) 教育思想や教育制度の歴史的展開をとらえ、教育の基礎的概念と諸理論の今日的意義を考える。
- (3) 発達段階を踏まえ、教育の内容・方法を考える。
- (4) 生涯学習としての社会教育、家庭教育の現状と今後の方向性を考える。
- (5) 教育を担う者の人材育成のあり方を考える。

3. 教育・学習の方法

現実的教育問題について具体的に事例を挙げながら取り上げ、受講生との対話的な関わりを重視し、受講生が能動的に参加する授業にしたい。そのために、受講生は各回取り上げるテーマに関するレポートを講義前に作成した上で出席することを義務づける。なお、レポートを持参せずに出席することや授業中のレポート作成は一切認めない。

・準備学習の具体的な方法

各回提出するレポートについては、インターネット上の情報だけでなく、文献にあたることを強く推奨する。

その上で、調べた内容と共に、自らの教育観を明確化するプロセスもレポートに含めたものであることを求める。

4. 評価方法・評価基準

評価は、レポート(40%)及び形成テスト(60%)をもとに行う。

5. 授業予定

- 第1回 人間形成と教育—臨床教育学の視点—
- 第2回 子どもの問題行動と生徒指導
- 第3回 教育課程の変遷と子どもの学力
- 第4回 格差社会と教育 —子どもの福祉と教育—
- 第5回 教育思想の歴史と展開1
- 第6回 教育思想の歴史と展開2
- 第7回 教育方法論の歴史的展開
- 第8回 教育制度と教育法規
- 第9回 就学前教育と展望
- 第10回 学級・学校経営の機能と構造
- 第11回 新しい学校の理念と実践
- 第12回 教員養成制度の歴史と展開
- 第13回 生涯学習社会と教育
- 第14回 形成テストによる到達度の把握
- 第15回 教育評価 全体のまとめ

6. 留意事項

講義コード	80001201			
科目名	発達と学習の教育心理			
担当者	畠山 寛			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教][日]			
前提科目				
テキスト	特に指定しない			
参考文献	講義の中で適宜知らせる			
備考	隔週 中高必修 障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

教育活動における心理学的理解は重要である。教授方法や学習理論、あるいは、教育の対象である児童・生徒の理解がなければ、適切で効果的な教育活動は行えない。この科目では、学習心理学、発達心理学、社会心理学の基礎的な知見の紹介にとどまらず、教育に活かす方法について講義することによって、適切で効果的な教育活動について理解することを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 教育に関する心理学的法則
2. 教育の対象である児童・生徒の心身の発達、及び、障害等の理解
3. 効果的な教育活動

3. 教育・学習の方法

1. 授業は講義形式・演習形式で行う。適宜必要なプリントなどを配布する。2. 必要に応じてパワーポイント、ビデオなどを使用する。3. 毎授業終了時に、授業内容の理解度評価を行う。

・準備学習の具体的な方法

1. 各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

4. 評価方法・評価基準

1. 欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。
2. 評価は試験(90%)、及び、課題の提出状況(10%)を総合して評価する。

5. 授業予定

- 第1回 教育心理学とは何か?教育心理学の役割・意義について
- 第2回 記憶
- 第3回 学習①
- 第4回 学習②
- 第5回 動機づけ
- 第6回 教授過程
- 第7回 教育評価
- 第8回 発達Ⅰ:乳児・幼児期
- 第9回 発達Ⅱ:児童・青年期
- 第10回 発達障害の理解①
- 第11回 発達障害の理解②
- 第12回 個人差の理解
- 第13回 学級集団の理解:教師-生徒関係
- 第14回 学級集団の理解:生徒間関係
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	80001302			
科目名	教育社会学B			
担当者	大野 順子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『[教師教育テキストシリーズ5]教育社会学』久富善之・長谷川裕編 学文社 2008年			
参考文献	適時、指示する。			
備考	人間文化学部・生活福祉文化学部対象クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部のみで対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係をもっていることが多々あります。

そこで本講義では、そういった状況を踏まえた上で、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。

皆さんがこれまでの学校生活で直接経験してきた身近な教育問題から地域や国の政策レベルでの取り組み、そして海外における事例等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性を学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。

2. 教育・学習の個別課題

1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。
2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。
3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。
4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見を表現し、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。

3. 教育・学習の方法

講義形式を中心としますが、適時、受講生全員で扱う教育問題についてどのように考えているかそれぞれ発表してもらい、問題解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。そこで、よりよい議論の時間を保証するためにも、毎時、取り扱うテーマに関する文献等を読み、それを講義日までに要約してきてもらいます(毎回それを提出してもらうことになります)。

・準備学習の具体的な方法

指定しているテキストを購入し、講義で扱うテーマに該当する部分を要約しておいて下さい。そして日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておいてください。また、履修する学生の皆さんには本講義用に1冊ノートを作成してもらいます。そのノートに上記、予習や新聞等の切り抜き等を貼り付けるなど利用して下さい(まとめかたは自由)。*ノートは提出してもらうこともあります。

4. 評価方法・評価基準

出席・授業参加度(20%)、試験(50%)、課題・ノート(30%)により総合的に

評価（予定）

※出席が80%に満たない場合は成績評価の対象外とします。

5. 授業予定

- 第1回 イントロダクション 教育社会学とは
- 第2回 近代学校教育制度
- 第3回 教師と子ども
- 第4回 校則・体罰
- 第5回 いじめ
- 第6回 不登校
- 第7回 教育格差・階層問題Ⅰ
- 第8回 教育格差・階層問題Ⅱ
- 第9回 国の教育政策
- 第10回 地域と学校Ⅰ
- 第11回 地域と学校Ⅱ
- 第12回 海外の事例（米・英・オーストラリアなど）
- 第13回 海外の事例（発展途上国における教育問題）
- 第14回 在日外国人の子どもたち
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義計画については、履修学生の皆さんの状況により若干予定を変更する場合がありますのでご了承ください。

皆さんの積極的な授業への参加を期待しています。

実習や就職活動などで長期に欠席する場合は単位取得にも影響するので事前に相談してください。

講義コード	80001401			
科目名	教育課程論 教育課程の意義と歴史を踏まえて、実践する力をつけよう			
担当者	趙 卿我			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『新しい時代の教育課程』 田中耕治ほか 有斐閣アルマ 2009年 改定版			
参考文献	『よくわかる教育課程』 田中耕治ほか ミネルヴァ書房 2009年 適宜紹介する			
備考	必修 中高専用科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本授業では、教育課程の編成に関する基本的な概念・原理を検討すると共に、日本における教育課程の歴史の変遷や諸外国のカリキュラム改革の遺産に学びつつ、近年の教育課程改革をめぐる課題について考察する。

2. 教育・学習の個別課題

教育課程の編成に関する基礎的な理論と具体的な方法を理解することをめざす。

具体的には、次の3つを主な内容として取り上げる。

1. 教育課程とは何か、教育課程の編成原理と類型、領域論
2. 日本における教育課程の歴史の変遷
3. 教育課程改革に関する近年の動向

3. 教育・学習の方法

・レジュメに沿っての講義に加え、具体的な教材を使って作業することをを行う。

・授業中に必要な資料・プリントを配布する。また、参考書は授業の中で適宜紹介する。

・興味や関心を持った課題については、それらを元に追究してほしい。毎時間、ワークシートを書いて提出してもらう。

・準備学習の具体的な方法

・配布したレジュメや資料は毎回持ってくること。
 ・ワークシートは返還するので、資料と一緒に蓄積し、自分の学習履歴として活用してほしい。
 ・資料・プリントなどを事前に配布するので分からない用語を調べておくこと。

4. 評価方法・評価基準

- (1) 平常点 (50%)

適宜、講義中に作成してもらったワークシートや感想用紙などの提出を求め、成績に反映させる。

- (2) 期末レポート (50%)

講義中に扱った内容の中から興味を持ったものを自由に選んでテーマを設定し、執筆する。

5. 授業予定

- 第1回 教育課程（カリキュラム）とは何か
- 第2回 教育課程づくりの基盤
- 第3回 教育課程の編成原理（学問中心主義と子ども中心主義）と類型
- 第4回 教育課程の構造（領域論）①教科学習と総合学習
- 第5回 教育課程の構造（領域論）②教科学習と教科外学習
- 第6回 教育課程の構造（領域論）③ルーブリックづくり、検討会
- 第7回 学習指導要領に見る教育課程の変遷①戦後初期のカリキュラム改革運動
- 第8回 学習指導要領に見る教育課程の変遷②教育内容の現代化
- 第9回 学習指導要領に見る教育課程の変遷③ゆとり教育以降
- 第10回 教育内容と教育方法
- 第11回 教育課程づくりの新しい動き①メディア・リテラシー
- 第12回 教育課程づくりの新しい動き②環境教育
- 第13回 教育課程づくりの新しい動き③いのち教育
- 第14回 諸外国におけるカリキュラム改革の動向
- 第15回 教育課程の評価と改善

6. 留意事項

講義コード	80001901			
科目名	道徳の指導法A			
担当者	菅井 啓之			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[小]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領解説 道徳編』			
参考文献				
備考	心理学部対象クラス（小のみ）			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

学校教育全般にわたって行われる道徳教育と週1時間の道徳の時間の指導のあり方との関係についての理解を深め、道徳的価値の内面化・自覚化・行動化を図るための指導のあり方を明らかにし、その指導を身につけることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 教育課程における道徳の位置づけと、その目標、内容、方法について理解する。 2. 内面の自覚を促すという道徳教育の方法原理とその実現のための方法について理解する。 3. 道徳のカリキュラム構成のあり方について、学校教育全体からの位置づけを理解する。 4. 道徳の指導及び評価のあり方について理解し、実践する指導力をつける。

3. 教育・学習の方法

講義とそれにもとづく、指導案の作成も含めての模擬授業とその評価による指導力の養成

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示する。

4. 評価方法・評価基準

課題レポート40%、模擬授業30%、毎時間の振り返りカード20%、授業態度10%で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 教育課程と道徳教育の位置づけ
- 第2回 学習指導要領解説、道徳編の解説
- 第3回 教育方法からみた道徳の特徴と指導及び評価のあり方
- 第4回 素材の教材化の仕方
- 第5回 指導案の書き方
- 第6回 模擬授業とその評価および検討（1）
- 第7回 模擬授業とその評価および検討（2）
- 第8回 模擬授業とその評価および検討（3）
- 第9回 模擬授業とその評価および検討（4）
- 第10回 模擬授業とその評価および検討（5）
- 第11回 児童生徒への評価の返し方
- 第12回 副教材の活用仕方
- 第13回 道徳指導における体験的な学びのあり方
- 第14回 道徳といのちの教育、環境教育との関係
- 第15回 道徳と宗教教育

6. 留意事項

講義コード	80001902			
科目名	道徳の指導法B			
担当者	菅井 啓之			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[中]			
前提科目				
テキスト	『中学校学習指導要領解説 道徳編』			
参考文献				
備考	人間文化学部・生活福祉文化学部対象クラス 中学校必修。高校のみの免許取得者も履修することが望ましい(教科又は教職に関する科目に充当)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

学校教育全般にわたって行われる道徳教育と週1時間の道徳の時間の指導のあり方との関係についての理解を深め、道徳的価値の内面化・自覚化・行動化を図るための指導のあり方を明らかにし、その指導を身につけることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

1、教育課程における道徳の位置づけと、その目標、内容、方法について理解する。 2、内面の自覚を促すという道徳教育の方法原理とその実現のための方法について理解する。 3、道徳のカリキュラム構成のあり方について、学校教育全体からの位置づけを理解する。 4、道徳の指導及び評価のあり方について理解し、実践する指導力をつける。

3. 教育・学習の方法

講義とそれにもとづく、指導案の作成も含めての模擬授業とその評価による指導力の養成

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示するが、日常における道徳性の課題に関して興味関心を持っておくことが大切。

4. 評価方法・評価基準

課題レポート40%、模擬授業30%、毎時間の振り返りカード20%、授業態度10%で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 教育課程と道徳教育の位置づけ
- 第2回 学習指導要領解説、道徳編の解説
- 第3回 教育方法からみた道徳の特徴と指導及び評価のあり方
- 第4回 素材の教材化の仕方
- 第5回 指導案の書き方
- 第6回 模擬授業とその評価および検討(1)
- 第7回 模擬授業とその評価および検討(2)
- 第8回 模擬授業とその評価および検討(3)
- 第9回 模擬授業とその評価および検討(4)
- 第10回 模擬授業とその評価および検討(5)
- 第11回 生徒への評価の返し方
- 第12回 副教材の活用仕方
- 第13回 道徳指導における体験的な学びのあり方
- 第14回 道徳といのちの教育、環境教育との関係
- 第15回 道徳と宗教教育

6. 留意事項

講義コード	80002001			
科目名	特別活動の指導法A			
担当者	工藤 哲夫			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『よりよい人間関係を築く特別活動』 杉田洋 図書文化 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 文部科学省 東洋館出版社			
参考文献				
備考	心理学部対象クラス(小のみ)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

児童・生徒が、よりよい集団活動を通して、調和のとれた人間関係を作り、教科学習とは違う活躍の場を与えられ、集団の一員として充実感を持って学校生活を送ることができるようにするために、教員はどのように指導すべきかを学ぶ。また自分の小学校・中学校・高等学校の特別活動を振り返り、よりよい特別活動を企画できるように学習する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 特別活動の意義
2. 特別活動の実際
3. 学校現場の指導体制

3. 教育・学習の方法

1. 講義形式
2. 討論
3. 発表
4. 小レポート

・準備学習の具体的な方法

1. 小学校中学校時代の学級通信や行事のしおりなどを見直す。
2. 小学校中学校時代の学級通信や行事のしおりなどの中から、一つ以上一回目の授業に持参する。

4. 評価方法・評価基準

毎回の出席と授業参加と小レポート提出(60%)。発表(10%)。課題提出またはテスト(30%)。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 特別活動の歴史と目標
- 第3回 子どもたちの状況
- 第4回 学校の抱える問題
- 第5回 特別活動と人間関係
- 第6回 学級活動の理論
- 第7回 学級活動の実践
- 第8回 児童会・生徒会活動
- 第9回 クラブ活動
- 第10回 学校行事 儀式的行事 文化的行事 健康安全・体育的行事
- 第11回 学校行事 遠足・集団宿泊の行事 勤労生産・奉仕的行事
- 第12回 特別活動の課題とプランづくり
- 第13回 教師の人間関係能力
- 第14回 レポートの作成
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	80002002			
科目名	特別活動の指導法B 「よりよい生活・よりよい人間関係を築こうとする態度」を育む特別活動			
担当者	天野 義美			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	講義の中で資料を配布する。			
参考文献	『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 文部科学省 ぎょうせい 2008年 『よりよい人間関係を築く特別活動』 杉田洋 図書文化 2009年 『特別活動と人間形成』 山口 満 学文社 2011年			
備考	人間文化学部・生活福祉文化学部対象クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

近年、子ども達を取り巻く社会の状況は急激に変化してきている。少子化、都市化、情報化、核家族化や地域社会における人間関係の希薄化などが進む中で、子どもたちが社会性、自主性を身に付ける機会が激減している。そのため、望ましい集団活動を通して人格の調和的な発達を図り、健全な社会生活を営む上で必要な資質を養うことを目標とする特別活動は、一層重要視されている。

本科目では、特別活動の目標を具現化する理論や実践を明らかにし、特別活動の教育的意義を踏まえた実践的な指導力をつける。

2. 教育・学習の個別課題

1. 学校教育における特別活動の位置づけとその意義
2. 子ども達の現状と特別活動の特質
3. 特別活動の変遷と今日的意義

4. 特別活動の内容とその具体的な活動内容
5. 特別活動の指導計画
6. 特別活動と他の教育活動との関連
7. 特別活動の評価

3. 教育・学習の方法

一方的な講義に終始するのではなく、話し合いや担当者自身の実践の紹介等を織り交ぜながら、特別活動の大切さを共に追究していく。

・準備学習の具体的な方法

児童・生徒の現状と問題に関心を持ち、その要因と対策、解決への道筋などを教育課題として主体的に考えて授業に臨むこと。

4. 評価方法・評価基準

長文レポート(80%) 授業時の課題・授業参加度・授業態度(20%)により総合的に評価する。欠席5日以上は原則として評価対象外とする。

5. 授業予定

- 第1回 特別活動の概要
- 第2回 特別活動の特質
- 第3回 特別活動の変遷
- 第4回 特別活動の目標と内容
- 第5回 学級活動(ホームルーム活動)の目標と内容
- 第6回 生徒会活動(児童会活動)の目標と内容
- 第7回 学校行事の目標と内容
- 第8回 特別活動の指導計画
- 第9回 特別活動と他の教育活動との関連
- 第10回 特別活動と学校・学年・学級経営
- 第11回 特別活動の指導実践(学級活動を中心に)
- 第12回 特別活動の評価
- 第13回 特別活動をめぐる諸問題
- 第14回 これからの学校教育と特別活動
- 第15回 特別活動の指導法のまとめ

6. 留意事項

「為すことによって学ぶ」という特別活動の指導原理に基づいて、講義中のグループワークにも自主的・実践的に参加すること。

講義コード	80002101			
科目名	教育の方法及び技術			
担当者	東郷 多津			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『新しい教育の方法及び技術』 篠原正典、宮寺晃夫編著 ミネルヴァ書房 2012			
参考文献	『学習ガイドブック教育の技術と方法 チームによる問題解決のために』 西之園晴夫編著 ミネルヴァ書房			
備考	中高必修 情報機器及び教材の活用を含む			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間における学習指導の方法と技術およびそれらを支える学級づくり、生徒指導等についての指導の方法と技術、評価の仕方および教育機器の効果的な使用方法などを、クラス内のメンバーと協調しながら習得することを目指します。

2. 教育・学習の個別課題

1. 教科、道徳、特別活動、総合的な学習の特質を、指導と評価のあり方に関して、教育技術的な視点から理解する
2. 教科書及び関連文献をもとに、授業設計のあり方を理解する。
3. 実際に学習指導案を作成し、模擬授業を行う中で、クラス内のメンバー相互で指導の技術について理解し習得する。
4. 基本的な教育機器の操作方法について実践的に理解する。

3. 教育・学習の方法

演習を中心として授業を展開します。学生のみなさんは教師役と生徒役の両者を体験することにより、教師主導に偏らない学習指導方法の習得を目指します。演習中はクラス全体が「学習する組織」として機能するよう活発な意見交換が求められます。

・準備学習の具体的な方法

毎回該当する章を読んで、お互いに議論や質問できる状態になっていること

4. 評価方法・評価基準

評価方法は最初に提示しますので、各自到達目標をめざして計画に学習を進めてください。

授業中の参加度 30%、

発表 30%、
課題レポート 40%

5. 授業予定

- 第1回 講義の概要とアイスブレイキング
- 第2回 ディスカッション1
- 第3回 ディスカッション2
- 第4回 模擬授業1 ディスカッション3
- 第5回 模擬授業2とディスカッション4
- 第6回 模擬授業3とディスカッション5
- 第7回 模擬授業4とディスカッション6
- 第8回 全体活動1
- 第9回 模擬授業5とディスカッション7
- 第10回 模擬授業6とディスカッション8
- 第11回 模擬授業7とディスカッション9
- 第12回 全体活動2
- 第13回 模擬授業8とディスカッション10
- 第14回 全体活動3
- 第15回 全体活動4(教育機器の利用を含む)

6. 留意事項

遅刻は授業の進行の妨げとなるため、10分以上の遅刻は欠席とします。授業中は積極的な参加が求められます。全員に意見を求めますので、必ず指定された予習や課題を行って授業に臨んでください。

また、実習等でやむを得ず欠席する場合は、欠席した箇所の授業DVDを観て、レポートにまとめて提出してください。

講義コード	80002201			
科目名	生徒指導・進路指導の理論及び方法			
担当者	池島 徳大			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『ピア・サポートによるトラブル・けんか解決法！ー指導用ビデオと指導案ですぐできるピア・メディエーションとクラスづくり』 池島徳大監修・他著 ほんの森出版 2011			
参考文献	『図説生徒指導と教育臨床』 秋山俊夫監修 北大路書房 1993 『いじめ解決への教育的支援』 池島徳大 日本教育新聞社 1997 『学校カウンセリングの理論と実践』 佐藤修策総監修、池島徳大他著 ナカニシヤ出版 2007 必要に応じて資料を配布する。			
備考	中高必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本授業では、すべての生徒の健全な発達を促す生徒指導の視点から、思春期・青年期の心理に触れながら、生徒指導上の諸問題について、講義と演習を織り混ぜて行う。

2. 教育・学習の個別課題

1. 生徒指導(進路指導)の意義と課題が分かる。
2. 思春期・青年期の心理と多様な生徒理解の方法が分かる。
3. 学校で生起する生徒指導上の諸問題への対応と方法が分かる。
4. 生徒指導における教育相談の意義と方法が分かる。

3. 教育・学習の方法

上記課題1については、講義形式を主として進める。2については、適宜、関連する文献及び資料を参照しながらワーク形式で進める。3については、いじめや不登校、非行等の指導事例をグループで議論し、各自の意見を発表することを通して理解を深める。4については、講義と演習を取り入れて行う。最後は、まとめとしてレポートを課す。

・準備学習の具体的な方法

いじめや不登校など up-to-date な問題も取り上げるので、強い課題意識を持っての受講を期待します。そのため、本講義と関わる書籍や文献を読んでおくこと。また、自身が中・高等学校で体験したことなどについて発表できるように準備しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

おおよそ以下の割合で評価を行う(一部演習方式を含めるため、授業の出席及び参加の態度を重要視する)

授業への出席: 30%

参加度(発表・討論など): 20%

課題レポート：50%

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション・生徒指導の意義と課題
- 第2回 生徒指導の原理
- 第3回 青年期の心理と生徒指導
- 第4回 生徒理解
- 第5回 生徒指導と教育課程
- 第6回 進路指導の意義と課題
- 第7回 進路指導の原理と方法
- 第8回 学校における生徒指導・進路指導体制
- 第9回 生徒指導における教育相談の意義と進め方
- 第10回 進路指導における教育相談の意義と進め方
- 第11回 少年非行の現状と対応
- 第12回 いじめの現状と対応
- 第13回 不登校の現状と対応
- 第14回 開発的・予防的視点にたつ生徒指導の在り方
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

生徒指導に関する知識の獲得、演習によるスキルの獲得、感受性の開発の3つをキーワードに進めます。講義中心からできる限り演習を取り入れた授業を展開します。生徒指導に関して多様な視点からの確に対応できる基礎能力の育成を目指します。従って、強い課題意識を持っての受講を期待します。

講義コード	80002301			
科目名	教育相談の理論及び方法			
担当者	山本 健治			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	特になし			
参考文献	『よくわかる教育相談』 春日井敏之・伊藤美奈子編 ミネルヴァ書房 2011 『学校カウンセリングの考え方・進め方』 樺澤徹二 金子書房 2003			
備考	中高必修 カウンセリングに関する基礎的な知識を含む			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

不登校、いじめ問題等、学校教育現場には児童生徒が抱える様々な課題が山積している。そこであらためて教育相談の重要性を認識し、その理論や技法を学ぶことを通じてこれらの問題行動や抱える発達課題についての理解を深めることを目指す。また、児童生徒への関わり方はもとより、保護者やスクールカウンセラー等との連携の在り方について学ぶことをねらいとする。

2. 教育・学習の個別課題

- 1. 教育相談の基礎（意味と意義）を知る。
- 2. カウンセリングの理論・技法を知る。
- 3. 様々な問題の理解と対応を学ぶ。
- 4. ロールプレイング体験を通しての実践力を身につける。

3. 教育・学習の方法

資料、VTR等を活用しながら、より具体的に学習ができるように工夫する。また、ロールプレイング演習を取り入れ実践的に学ぶことを取り入れる。また、ミニレポートを求め、授業で学んだことから、考察する機会をたくさん取り入れる予定である。

・準備学習の具体的な方法

講義に際し、具体的な事例を多く提供する予定である。授業中に講義内容にもとづいたレポートを求めるともある。

4. 評価方法・評価基準

定期テストにかわるレポート（50%）、授業の参加度（30%）及び平常評価（20%）で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 学校における教育相談とは
- 第2回 カウンセリングとは
- 第3回 来談者中心療法との考え方
- 第4回 精神分析的カウンセリングの考え方
- 第5回 行動療法の考え方
- 第6回 ロールプレイングⅠ（聴き方）
- 第7回 ロールプレイングⅡ（事例）

- 第8回 不登校の理解と対応
- 第9回 家庭内暴力の理解とその対応
- 第10回 神経症的問題の理解とその対応
- 第11回 いじめ問題の理解とその対応
- 第12回 反社会的な行動の理解とその対応
- 第13回 発達障害の理解とその支援
- 第14回 教員とスクールカウンセラーとの連携
- 第15回 保護者支援と関係機関との連携・総括

6. 留意事項

講義コード	80002501			
科目名	教育実習事前事後指導A			
担当者	小林 多津子・内田 和寿・工藤 哲夫・ 神月 紀輔・菅井 啓之・藤本 陽三			
単位数	1	配当学年	4	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	集中 必修 教育実習と同一年度に履修すること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

教育実習を有効かつ円滑に行い、実りあるものにするため、事前指導においては、実習に際して必要不可欠な基礎的・基本的な事柄や、心構えを確実に身につけることをめざす。さらに事後指導においては、実習を通して学んだ成果や反省をもとに、今後の自己の学習の方向づけを援助することをめざす。

2. 教育・学習の個別課題

実習の意義をよく理解すること。教育に関する知識や技能を教育の場で再構成できるよう準備すること。実習体験を、今後の自己の教育に活かすよう心掛けること。

3. 教育・学習の方法

- 1. 事前事後指導：事前指導にあつては、教育実習に当たって必要な事柄を理解し、教育実習の心構え等を学ぶ。事後指導においては、教育実習の報告反省会、レポート提出等を行う。
- 2. 文献、参考資料等はその都度配布する。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示する。

4. 評価方法・評価基準

レポート、日常の意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので、注意すること。

5. 授業予定

- 第1回 教育実習オリエンテーション・教育実習の意義、内容、目的、実習手続、評価の観点
- 第2回 教育実習の具体的な内容と心構え：心構えと自覚、服装、授業の予習復習、礼儀等
- 第3回 教育実習ノートの書き方
- 第4回 教育実習担当教員との打ち合わせ等について
- 第5回 人権教育（特別講師）
- 第6回 人権教育（特別講師）
- 第7回 授業参観で学ぶこと・字の書き方・板書の書き方
- 第8回 授業についての指導技術
- 第9回 特別支援教育（特別講師）
- 第10回 特別支援教育（特別講師）
- 第11回 校種別指導Ⅰ（幼稚園・小学校別）に実施）教科教育から見た授業の進め方 <幼稚園（特別講師）>
- 第12回 校種別指導Ⅱ（幼稚園・小学校別）に実施）学校経営、児童理解と指示支援について <幼稚園（特別講師）>
- 第13回 教育実習に当たっての最終確認及び心構え等
- 第14回 教育実習事後指導：実習で学んだことをグループで話し合う、報告書の書き方等も含む
- 第15回 教育実習事後指導：実習における問題点の整理、討論

6. 留意事項

1. 教育実習、事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚

- し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。
- このような理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用による欠席は認められていない。
 - 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

講義コード	80002502			
科目名	教育実習事前事後指導B			
担当者	橘堂 弘文・加藤 佐千子・堀 勝博・山本 智也			
単位数	1	配当学年	4	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	集中 必修 教育実習と同一年度に履修すること。各教科の教育法の合格者であること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「教育実習事前・事後指導」は、教育実習の事前と事後に行う教育実習に関する指導を通して、教育実習の目的達成をより確かなものとするために行う。そのため「事前指導」では、大学での教育と教育実習との間の距離を可能な限り埋め、教育実習に抵抗感なく臨めるようにするため、実習に際して必要不可欠な基礎的・基本的な事柄を確実に身につけることをめざす。「事後指導」では、教育実習での学び、体験、反省をもとに、実習前の自己の教育観、学校観、生徒観との比較、整理を行い、教職への意義を高めることを目的とする。また、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、自らの学習や研究課題に役立てることをめざす。

2. 教育・学習の個別課題

- 教育実習の意義・心構えを理解する。
- 実習に意欲的に取り組もうとする意識を持つ。
- 特別支援教育・人権教育について理解する。
- 記録や参観の意義、方法がわかる。
- 実習を振り返り客観的に自己を見つめる。

3. 教育・学習の方法

講義、演習形式および特別講師による講義により行う。
事後指導は、個別指導、全体学習および、報告会での発表形式により行う。

・準備学習の具体的な方法

教育実習に行くための自覚を持つこと。
各教科の教材研究や資料の準備を常に心がけること。

4. 評価方法・評価基準

<評価基準>

- 実習における意義や心構えを理解し、意欲的な態度であったか
- 指導案の書き方、基本的な事柄が理解できたか
- 実習を振り返り、客観的に自己を見つめることができたか

<評価方法>

- 記録・レポートの内容 (50%)
- 発表内容・態度 (50%)
- 原則として欠席・遅刻・早退は認めない

5. 授業予定

- 第1回 教育実習オリエンテーション、実習の手続き、評価の観点
- 第2回 教育実習の意義、内容、心構えと自覚、服装、授業の予習・復習、礼儀、実習日誌の書き方
- 第3回 教員に求められる資質 (特別講師)
- 第4回 教育課程と教育目標
- 第5回 人権教育 (特別講師)
- 第6回 人権教育 (特別講師)
- 第7回 学級経営・道徳・特別活動・生徒指導
- 第8回 教員の仕事内容、勤務等 (特別講師)
- 第9回 特別支援教育 (特別講師)
- 第10回 特別支援教育 (特別講師)
- 第11回 教科別指導
- 第12回 教科別指導
- 第13回 実習直前指導・報告書の書き方
- 第14回 事後指導 (実習の報告・反省・まとめ)
- 第15回 事後指導 (実習の報告・反省・まとめ)

6. 留意事項

特別な事情 (病欠には診断書、その他は証明書が必要) 以外の欠席は認め

ない。
特別講師による講義のときは、黒スーツで講義を受け、礼儀正しくすること。
「教育実習事前・事後指導」と「教育実習」は一体となっている。そのため、いずれかが不合格の場合は、両方の科目が不合格となる。
各教科の指導法をすべて合格しているものしか履修できない。
教育実習に関する各種説明会への出席、書類提出など、重要な連絡事項は掲示によって行われるので注意されたい。

講義コード	80002601			
科目名	教育実習 I			
担当者	橘堂 弘文・加藤 佐千子・堀 勝博・山本 智也			
単位数	2	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「教育実習」は、学校現場において教育活動全般にわたり実際に体験することを通じて、教育や教師に関する理解や認識を深めることを目的とする。また、様々な学校教育活動にかかわることで、職業人としての教師のあり方を実践的に学習するとともに、実践的指導力を獲得し、教師としての職務を遂行する能力を養うことを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

教育活動の実態にふれ、教職のあり方について認識を深める。
教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できるようにする。

教員としての専門的な知識や技能を習得する。

教員としての使命感にふれ、教職についての自覚を持つ。

教員としての自分の長所と短所に気づき、資質向上のための努力目標を知る。
学校という組織の一員としての職責・義務を自覚する。

指導案作成や教壇実習を経験し、実践的指導力の基礎を確認する。

3. 教育・学習の方法

実習校や実習指導教員の指導により、授業の準備、授業、授業参観、学級経営、生徒指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の教育活動全般にわたって、主体的、積極的に取り組み、実際に体験して学習する。

具体的な内容や実施計画については、実習生本人が、教育実習校や実習指導担当教員とよく打ち合わせや相談を行い、指導を踏まえて取り組むこと。

研究授業の際には、大学の巡回指導教員が実習校を訪問・参加するので、教科指導などについて指導を受ける。

・準備学習の具体的な方法

教育実習生としての自覚を持つこと
教材研究を十分に行うこと

4. 評価方法・評価基準

<評価基準>

- 実習に積極的に臨んだか

<評価方法>

- レポート (20%)
- 実習校の評価 (60%)
- 教育実習ノート (20%)

原則として欠席・遅刻・早退は認めない

5. 留意事項

特別な事情 (病欠には診断書、その他は証明書が必要) 以外の欠席は認めない。

就職活動、スポーツ・文化クラブ活動などの欠席も認めない。

「教育実習事前・事後指導」と「教育実習」は一体となっている。そのため、いずれかが不合格の場合は、両方の科目が不合格となる。
教職を目指すものとしてふさわしくない行動があった場合は、直ちに実習中止とする。

教育実習は、高度な専門的能力が要求されている。失敗ややり直しの許されないものであることを自ら自覚し、謙虚に熱心に取り組まねばならない。

講義コード	80002701			
科目名	教育実習Ⅱ			
担当者	橘堂 弘文・加藤 佐千子・堀 勝博・山本 智也			
単位数	2	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	中学校必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

「教育実習」は、学校現場において教育活動全般にわたり実際に体験することを通じて、教育や教師に関する理解や認識を深めることを目的とする。また、様々な学校教育活動にかかわることで、職業人としての教師のあり方を実践的に学習するとともに、実践的指導力を獲得し、教師としての職務を遂行する能力を養うことを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

教育活動の実態にふれ、教職のあり方について認識を深める。
 教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できるようにする。
 教員としての専門的な知識や技能を習得する。
 教員としての使命感にふれ、教職についての自覚を持つ。
 教員としての自分の長所と短所に気づき、資質向上のための努力目標を知る。
 学校という組織の一員としての職責・義務を自覚する。
 指導案作成や教壇実習を経験し、実践的指導力の基礎を確認する。

3. 教育・学習の方法

実習校や実習指導教員の指導により、授業の準備、授業、授業参観、学級経営、生徒指導、道徳・特別活動など、教師の生活と仕事の教育活動全般にわたって、主体的、積極的に取り組み、実際に体験して学習する。
 具体的な内容や実施計画については、実習生本人が、教育実習校や実習指導担当教員とよく打ち合わせせよと相談を行い、指導を踏まえて取り組むこと。
 研究授業の際には、大学の巡回指導教員が実習校を訪問・参加するので、教科指導などについて指導を受ける。

・準備学習の具体的な方法

教育実習生としての自覚を持つこと
 教材研究を十分行うこと

4. 評価方法・評価基準

<評価基準>
 実習に積極的に臨んだか
 <評価方法>
 レポート (20%)
 実習校の評価 (60%)
 教育実習ノート (20%)

原則として欠席・遅刻・早退は認めない

5. 留意事項

特別な事情（病欠には診断書、その他は証明書が必要）以外の欠席は認めない。

「教育実習事前・事後指導」と「教育実習」は一体となっている。そのため、いずれかが不合格の場合は、両方の科目が不合格となる。
 教職を目指すものとしてふさわしくない行動があった場合は、直ちに実習中止とする。

教育実習は、高度な専門的能力が要求されている。失敗ややり直しの許されないものであることを自ら自覚し、謙虚に熱心に取り組まねばならない。

講義コード	80003002			
科目名	教育経営論A			
担当者	小林 多津子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	人間文化学部・生活福祉文化学部対象クラス（隔年開講2）			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

我が国の学校教育を中心として、日常的な教育課題に適切に対応する学校経営のあり方、また教育目標を達成するための教育のあり方など、教育経営について理解する。併せて、「学校とは」「教育とは」「教師とは」「子どもとは」について、自分の考えが明確に論じられるよう認識を深める。

2. 教育・学習の個別課題

1. 教育経営の原理について理解する。
 2. 学校経営における諸問題について理解し、その解決方法を見出せるようにする。
 3. これからの学校教育の在り方を考察していく。

3. 教育・学習の方法

講義により教育経営の基本的な考え方を習得していく。
 VTR・DVD、参考資料等を活用しながら、現在の学校教育経営に関するテーマのレポートやディスカッション等で意識化する。

・準備学習の具体的な方法

日常のニュース等で、教育の今日的課題を見つけておく。

4. 評価方法・評価基準

授業後のコメントやレポート (30%)、課題テスト (50%)、出席・授業参加度 (20%) に基づき総合的に評価する。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育経営の原理
- 第3回 学校とは (法的根拠をもとにして)
- 第4回 学校とは (学校の現状と課題)
- 第5回 学校とは (学校のあるべき姿)
- 第6回 教育とは (原理)
- 第7回 教育とは (顕在的カリキュラムを通して)
- 第8回 教育とは (潜在的カリキュラムを通して)
- 第9回 教師とは (求められる資質・能力)
- 第10回 教師とは (教職員と組織)
- 第11回 児童・生徒とは (学校教育の諸問題を通して)
- 第12回 学校教育の今日的課題について
- 第13回 教育経営の実際
- 第14回 望ましい教育経営とは
- 第15回 まとめとテスト

6. 留意事項

講義コード	80004401			
科目名	国語科教育法Ⅰ 国語科教育入門			
担当者	長沼 光彦			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[国]			
前提科目				
テキスト	『新しい国語2(文科省検定済教科書)』 東京書籍 『新国語の研究』 明治書院 『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 東洋館出版社			
参考文献	『高等学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 東洋館出版社 『教育実習生のための学習指導案作成教本国語科』 教育実習を考える会 蒼丘書林 『評論・論説の教え方』 右文書院 『小説の教え方』 右文書院 『近代詩の教え方』 右文書院			
備考	国語科必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

中等国語教育の準拠すべき学習指導要領について認識を深めながら、模擬授業を行い、国語教師とはどのような仕事か、どのような視点や知識が求められるのかを学習し考察する。

学習指導要領や指導法に関わる知識を身につけたうえで、学習指導案を作成し、模擬授業を行い、実践的に教育方法を学ぶ。
また、さまざまな補助教材により、国語教師として身につけておくべき教科内容に関する基礎知識について学習する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 教育文化行政の動向と国語科教育の意義について理解する。
2. 中学校・高等学校国語科学習指導要領について理解する。
3. 中等国語教育であつかわれる言語事項について習熟する。
4. 授業実施のために必要な基本的知識を習得する。
5. 学習指導案を作成し、模擬授業を実施する力を身につける。

3. 教育・学習の方法

1. 講義も行うが、主として体験的・実践的学習により知識を身につける。
2. 学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、相互に批評し合う。
3. 文部科学省発行「学習指導要領」を読解し理解する。
4. 漢字力や語彙力を養成するため、毎時間小テストを実施する。

・準備学習の具体的な方法

- ・指示される課題について取り組み。
- ・毎時間課される小テストの勉強を行う。
- ・模擬授業実施のための学習指導案作成を、入念に行う。

4. 評価方法・評価基準

小テストおよび模擬授業の実践(40%)、相互の批評的態度や発言の妥当性など平常点(30%)、レポート(30%)によって評価する。ただし、出席回数か総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。また、常用漢字の書き取り試験の成績が6割未満の者は、単位認定対象外とする。

5. 授業予定

- 第1回 はじめに
- 第2回 国語科教師に求められるもの
- 第3回 国語教育の目的と学習指導要領
- 第4回 学習指導計画について
- 第5回 学習指導案の作り方
- 第6回 授業の組み立て方
- 第7回 教材研究の仕方(1)
- 第8回 教材研究の仕方(2)
- 第9回 教材研究の仕方(3)
- 第10回 模擬授業の実践と相互批評(1)
- 第11回 模擬授業の実践と相互批評(2)
- 第12回 模擬授業の実践と相互批評(3)
- 第13回 模擬授業の実践と相互批評(4)
- 第14回 模擬授業の実践と相互批評(5)
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

- ・国語科教諭免許課程履修者は必修科目である。

講義コード	80004501			
科目名	国語科教育法Ⅱ 国語科教育入門			
担当者	長沼 光彦			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[国]			
前提科目				
テキスト	『新しい国語2(文科省検定済教科書)』 東京書籍 『中学校学習指導要領解説』 文部科学省 東洋館出版			
参考文献	『教育実習生のための学習指導案作成教本』 教育実習を考える会 蒼丘書林 『古典の教え方(物語・小説編)』 右文書院 『古典文法の教え方』 右文書院 『豊かな国語教室』 右文書院 『銀の匙』の国語教室』 橋本武 岩波ジュニア新書			
備考	国語科必修 「国語科教育法Ⅰ」履修済みであること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

国語科教育法Ⅱで学んだ知識や心得をふまえ、実際に教室で授業を運営できる伎倆を養う。模擬授業を中心に、学習指導案の作成や授業の進め方、生徒との関わり方を、実践的に学んでいく。とくに、教科書や研究書を読むだけでは気づきにくい、教室でとるべき教師の態度、生徒への目配り、授業展開上の方法などを、自身の実践を振り返りながら身につける。

2. 教育・学習の個別課題

1. 学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
2. 国語科教育に必要な種々の方法を実践的に習得する。
3. 教室で生徒と関わる意義を実践的に理解する。
4. 様々な国語教育の知識を、教室で生かすことができるようにする。

3. 教育・学習の方法

1. 模擬授業を中心に実施する。実践をとおして、知識を定着させ、教育の方法を理解する。
2. 教育現場で教師がどのような工夫をして授業に望んでいるか、いくつかの事例をとおして理解し、自分の模擬授業に応用する。
3. プリントや補助教材の作り方を学び、自分の模擬授業に応用する。
4. 相互に授業を評価し合い、自己の模擬授業に生かす。

・準備学習の具体的な方法

- ・授業で紹介する参考文献を中心に、国語教育に対する予備知識を増やす。
- ・模擬授業の準備を十分に行う。
- ・模擬授業の実践を振り返り、必要な参考文献を広く読みまわす。

4. 評価方法・評価基準

模擬授業の実践(40%)、相互の批評的態度や発言の妥当性など平常点(30%)、レポート(30%)によって評価する。ただし、出席回数か総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. 授業予定

- 第1回 教室における教師の役割
- 第2回 生徒と教師の関わり方
- 第3回 プリントや補助教材の作り方
- 第4回 話すこと・聞くことの指導(1)
- 第5回 話すこと・聞くことの指導(2)
- 第6回 模擬授業実施(現代文)(1)
- 第7回 模擬授業実施(現代文)(2)
- 第8回 模擬授業実施(韻文)(1)
- 第9回 模擬授業実施(韻文)(2)
- 第10回 現代文の指導における留意点
- 第11回 模擬授業実施(古文)(1)
- 第12回 模擬授業実施(古文)(2)
- 第13回 模擬授業実施(漢文)(1)
- 第14回 模擬授業実施(漢文)(2)
- 第15回 古典の指導における留意点

6. 留意事項

- ・国語科教諭免許課程履修者は必修科目である。

講義コード	80004601			
科目名	国語科教育法Ⅲ 国語科教育 実践力を磨く			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[国]			
前提科目				
テキスト	『精選国語総合(国総026)』 東京書籍 平成19年 『体系古典文法』 数研出版 『パスワード古文単語』 浜島書店 『発展30日完成漢文高校初級用』 日栄社			
参考文献	『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省			
備考	国語科必修「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」履修済みであること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

国語科の教育実践に必要なさまざまな知識や心得について学び、教壇の即戦力となれるような伎倆を身につける。講義をまじえつつ、学習指導案の作成や模擬授業実施など、実践的学習を多くとり入れる。また、補助教材により、古典文法、有職故実、漢文、古典単語などについても学習する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 国語科の教育実践に必要なさまざまなノウハウを習得する
2. 学習指導案を作成し、模擬授業を実施する
3. 観点別評価について理解する
4. 補助教材により、古典文法、古文単語、漢文などについて学習する

3. 教育・学習の方法

1. 高校の教科書を用いて、指導案を作成し、模擬授業を実施する。各受講者、数回の模擬授業実施をめざす。学期末には、公開研究授業を実施する。
2. 古文単語に関する小テストを実施する。
3. 古典文法への理解を深めるため、小テストを実施する。
4. 漢文テキストを夏休みの独習テキストとする。

・準備学習の具体的な方法

事前に指示されるさまざまな課題について取り組むこと。毎時間課される小テストの勉強を怠らぬこと。また、模擬授業実施のための学習指導案作成は、時間をかけて準備すること。

4. 評価方法・評価基準

授業態度の評点20%、平常点10%、模擬授業の内容30%、定期試験の成績40%で評価する。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。また、常用漢字の書き取り試験の成績が70点未満の者は、単位認定対象外とする。

5. 授業予定

- 第1回 導入授業
- 第2回 国語科教師の使命
- 第3回 観点別評価とは
- 第4回 教材研究の方法
- 第5回 文学的文章(散文)の授業
- 第6回 文学的文章(韻文)の授業
- 第7回 説明的文章の授業
- 第8回 古文の授業
- 第9回 漢文の授業
- 第10回 模擬授業実施
- 第11回 模擬授業実施
- 第12回 模擬授業実施
- 第13回 模擬授業実施
- 第14回 模擬授業実施
- 第15回 総括

6. 留意事項

国語科教諭免許課程履修者必修科目。この科目が履修できるのは、国語科教育法Ⅰ・Ⅱの単位を修得した者に限る。

講義コード	80004701			
科目名	国語科教育法Ⅳ 教育実習に向けた授業力錬成			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[国]			
前提科目				
テキスト	『精選国語総合(国総026)』 明治書院 『体系古典文法』 数研出版 『パスワード古文単語』 浜島書店 『発展30日完成漢文高校初級用』 日栄社			
参考文献	『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省			
備考	国語科必修「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」履修済みであること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

国語科の教育実践に必要なさまざまな知識や心得について学び、教壇の即戦力となれるような伎倆を身につける。講義をまじえつつ、学習指導案の作成や模擬授業実施など、実践的学習を多くとり入れる。また、補助教材により、古典の音読、古典文法、有職故実、漢文、古典単語などについても学習する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 国語科の教育実践に必要なさまざまなノウハウを習得する。
2. 学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
3. 観点別評価について理解する。
4. 補助教材により、古典の音読、古典文法、古文単語、漢文などについて学習する。

3. 教育・学習の方法

1. 教育実習を念頭において各自任意の教材をとりあげ、指導案を作成し、模擬授業を実施する。各受講者、数回の模擬授業実施をめざす。学期末には、公開研究授業を実施する。
2. 古典の文章の音読に習熟する。
3. 古文単語に関する小テストを実施する。
4. 古典文法への理解を深めるため、小テストを実施する。
5. 漢文テキストを独習テキストとし、漢文読解力の見きわめ試験を行う。

・準備学習の具体的な方法

事前に指示されるさまざまな課題について取り組むこと。毎時間課される小テストの勉強を怠らぬこと。また、模擬授業実施のための学習指導案作成は、時間をかけて準備すること。

4. 評価方法・評価基準

授業態度の評点20%、平常点10%、模擬授業の内容30%、定期試験の成績40%で評価する。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。また、常用漢字の書き取り試験の成績が80点未満の者、古典文法の試験、漢文読解力試験いずれも成績が60点未満の者は、単位認定対象外とする。

5. 授業予定

- 第1回 導入授業
- 第2回 話すこと・聞くことの指導
- 第3回 書くことの指導
- 第4回 読むことの指導
- 第5回 書写の指導
- 第6回 読書指導
- 第7回 ノート指導
- 第8回 模擬授業実施
- 第9回 模擬授業実施
- 第10回 模擬授業実施
- 第11回 模擬授業実施
- 第12回 模擬授業実施
- 第13回 模擬授業実施
- 第14回 模擬授業実施
- 第15回 総括

6. 留意事項

国語科教諭免許課程履修者必修科目。この科目が履修できるのは、国語科教育法Ⅰ～Ⅲの単位を修得した者に限る。

講義コード	80103901			
科目名	小学校教育実習Ⅰ			
担当者	菅井 啓之. 内田 和寿. 工藤 哲夫. 神月 紀輔. 小林 多津子. 藤本 陽三			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[小]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	小又は幼のどちらか計4単位必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この科目は教員となることを熱望し、教職科目・教科に関する科目を履修してきた学生が、身につけた知識や技能を学校教育の場に適用し、具体的に体験しながら教師としての資質や技能を磨いていく総仕上げともいべきものである。これは学生にはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、十分な準備とともに、心構えを確立しておくなければならない。

2. 教育・学習の個別課題

大学で学んだ教育の理論や事前事後指導において教えられた内容を十分に理解し、教育実習に積極的に取り組むようにすること。

3. 教育・学習の方法

実習校および実習指導教員の指導により、授業とその準備、学級経営および園児や児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示する。

4. 評価方法・評価基準

レポート、日常の意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので、注意すること。

5. 留意事項

1. 教育実習、事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。(4月3日(水)より開講)
2. このような理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用による欠席は認められていない。
3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

講義コード	80104001			
科目名	小学校教育実習Ⅱ			
担当者	菅井 啓之. 内田 和寿. 工藤 哲夫. 神月 紀輔. 小林 多津子. 藤本 陽三			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[小]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	小又は幼のどちらか計4単位必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この科目は教員となることを熱望し、教職科目・教科に関する科目を履修してきた学生が、身につけた知識や技能を学校教育の場に適用し、具体的に体験しながら教師としての資質や技能を磨いていく総仕上げともいべきものである。これは学生にはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われる

ことにもなるものであるため、十分な準備とともに、心構えを確立しておくなければならない。

2. 教育・学習の個別課題

大学で学んだ教育の理論や事前事後指導において教えられた内容を十分に理解し、教育実習に積極的に取り組むようにすること。

3. 教育・学習の方法

実習校および実習指導教員の指導により、授業とその準備、学級経営および園児や児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示する。

4. 評価方法・評価基準

レポート、日常の意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので、注意すること。

5. 留意事項

1. 教育実習、事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。(4月3日(水)より開講)
2. このような理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用による欠席は認められていない。
3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

講義コード	80104101			
科目名	幼稚園教育実習Ⅰ			
担当者	菅井 啓之、内田 和寿、工藤 哲夫、神月 紀輔、小林 多津子、藤本 陽三			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[幼]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	小又は幼のどちらか計4単位必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この科目は教員となることを熱望し、教職科目・教科に関する科目を履修してきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場に適用し、具体的に体験しながら教師としての資質や技能を磨いていく総仕上げともいべきものである。これは学生にはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、十分な準備とともに、心構えを確立しておくなければならない。

2. 教育・学習の個別課題

大学で学んだ教育の理論や事前事後指導において教えられた内容を十分に理解し、教育実習に積極的に取り組むようにすること。

3. 教育・学習の方法

実習校および実習指導教員の指導により、授業とその準備、学級経営および園児や児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示する。

4. 評価方法・評価基準

レポート、日常の意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので、注意すること。

5. 留意事項

1. 教育実習、事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。(4月3日(水)より開講)

2. このような理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用による欠席は認められていない。

3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

講義コード	80104201			
科目名	幼稚園教育実習Ⅱ			
担当者	菅井 啓之、内田 和寿、工藤 哲夫、神月 紀輔、小林 多津子、藤本 陽三			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[幼]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	小又は幼のどちらか計4単位必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この科目は教員となることを熱望し、教職科目・教科に関する科目を履修してきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場に適用し、具体的に体験しながら教師としての資質や技能を磨いていく総仕上げともいべきものである。これは学生にはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われる

ことにもなるものであるため、十分な準備とともに、心構えを確立しておくなければならない。

2. 教育・学習の個別課題

大学で学んだ教育の理論や事前事後指導において教えられた内容を十分に理解し、教育実習に積極的に取り組むようにすること。

3. 教育・学習の方法

実習校および実習指導教員の指導により、授業とその準備、学級経営および園児や児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示する。

4. 評価方法・評価基準

レポート、日常の意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので、注意すること。

5. 留意事項

1. 教育実習、事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。(4月3日(水)より開講)

2. このような理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用による欠席は認められていない。

3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

講義コード	80105001			
科目名	教職実践演習(幼・小)			
担当者	藤本 陽三、内田 和寿、工藤 哲夫、神月 紀輔、小林 多津子、菅井 啓之			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	テキストは特に指定しない。必要に応じて担当教員が資料等を配布する。			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

将来教員になる上で必要な知識・技能等に関して、自己の課題を自覚するとともに、必要に応じて不足している点を補うなどし、その定着を図る。授業は、「教育・学習の個別課題」で示された4つの項目の領域を中心に、主として、各テーマに沿った講義を踏まえて、討論やロールプレイングなどの演習を行い、各人の教師の資質に関する課題について、問題解決を図ることを目標とする。最終段階の授業では、各教科における課題を各自が取り上げ、それを深化、研究し、その成果を模擬授業や授業研究を行うことにより、課題の共有化を図る。授業を通し、教師としての生きる意思を再確認し、自己の教職への使命感を認識することを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

これまでに学んだ教職および教科に関する知識と、教育実習体験を通して得られた実践的指導力との統合を図りながら、主に以下の4つの事項についての講義・演習を通して学び、教師としての資質の向上を図る。

①現代社会において教師に求められる使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項

②教職に必要な社会性や対人関係能力に関する事項

③生徒の心理発達および集団としての生徒理解に関する事項

④教科および道徳の指導力に関する事項

3. 教育・学習の方法

講義と演習(グループ討論・ロールプレイング・模擬授業等)及び学校現場の見学・調査を中心に行う。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示する。

4. 評価方法・評価基準

実技指導、グループ討議、補充授業、模擬授業、総括レポートの結果などを踏まえ、教員としての資質能力が身に付いているかを総合的に判断するとともに授業参加度も加味して評価する。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
(授業のねらい・授業計画・履修履歴の確認等)
- 第2回 これまでの教職に関する学習の振り返り
- 第3回 教職の意義と教師の役割、職務内容に関するグループ討議・ロールプレイング
- 第4回 子どもに対する責任等についてのグループ討議・ロールプレイング
- 第5回 教職人生を実現させる意味についての講義
(京都市内小学校校長・本学OGによる講話)
- 第6回 地域と連携した取組についての講義
(京都市内小学校校長講話)
- 第7回 学校現場の見学・調査(京都市内小学校)
- 第8回 実習で遭遇した生徒指導事例とロールプレイング
- 第9回 保護者との意思疎通を図ることについての講義、ロールプレイング
学級通信を通した自己実現についての講義、作成演習
- 第10回 模擬授業と授業研究(Ⅰ)教材研究
- 第11回 模擬授業と授業研究(Ⅱ)指導案作成
- 第12回 模擬授業と授業研究(Ⅲ)模擬授業
- 第13回 模擬授業と授業研究(Ⅳ)分析・考察
- 第14回 学級経営案についての講義と作成演習
- 第15回 総括(教職に就いたときの自己の課題についての討議)

6. 留意事項

講義コード	80105101			
科目名	教職実践演習(中・高)			
担当者	山本 智也・加藤 佐千子・橋堂 弘 文・堀 勝博			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	テキストは特に指定しない。必要に応じて担当教員が資料等を配布する。			
参考文献	必要に応じて担当教員から提示する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

教員として求められる実践的指導力を学生が体得すること及び教職課程での学びにおける実践的指導力の体得過程を可視化することを通して、教員としての適格性を最終確認することを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

- ① 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 (A領域)
- ② 社会性や対人関係能力に関する事項 (B領域)
- ③ 生徒理解や学級経営等に関する事項 (C領域)
- ④ 教科内容等の指導力に関する事項 (D領域)

3. 教育・学習の方法

教員として求められる使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、教科内容等の指導力などに関する事項について、ロールプレイングやグループ討議、事例研究、模擬授業などの方法を取り入れながら授業を行う。こうした多様な方法を取り入れた授業という性質上、2コマ連続の開講方式を導入する。

・準備学習の具体的な方法

ロールプレイング、グループ討議のための準備資料作り、模擬授業の指導案など、授業内容に応じて適宜準備学習が必須となる。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席(10%) 提出物(20%)、レポート(30%)、試験(40%)として評価するが、学習状況が著しく不良で、教員としての実践的指導力の適格性がないと判断する場合は、全担当教員の合意の上で、評定点にかかわらず不合格とする。

また、10回以上の出席を前提に評価するが、その場合においても、A～Dの各領域中、いずれかが全て欠席の場合、不合格とする。

5. 授業予定

- 第1回 11月28日1講時
学校が当面する諸問題と教職の使命、責任感、教育的愛情①
(事例研究)(A領域)
- 第2回 11月28日2講時
学校が当面する諸問題と教職の使命、責任感、教育的愛情②
(事例研究)(A領域)
- 第3回 12月5日1講時
教員としての基本的対人関係能力

- (ロールプレイング及びグループ討議)(B領域)
- 第4回 12月5日2講時
教員における対人援助職としての専門性
(ロールプレイング及びグループ討議)(B領域)
- 第5回 12月12日1講時
生徒指導上当面する諸問題に対する対応①
(ロールプレイング及びグループ討議)(C領域)
- 第6回 12月12日2講時
生徒指導上当面する諸問題に対する対応②
(ロールプレイング及びグループ討議)(C領域)
- 第7回 12月19日1講時
学級経営上当面する諸問題に対する対応①
(ロールプレイング及びグループ討議)(C領域)
- 第8回 12月19日2講時
学級経営上当面する諸問題に対する対応②
(ロールプレイング及びグループ討議)(C領域)
- 第9回 12月26日1講時
授業研究(計画、実践、分析)①(事例研究、模擬授業)(D領域)
- 第10回 12月26日2講時
授業研究(計画、実践、分析)②(事例研究、模擬授業)(D領域)
- 第11回 12月26日3講時
業研究(計画、実践、分析)③(事例研究、模擬授業)(D領域)
- 第12回 12月26日4講時
授業研究(計画、実践、分析)④(事例研究、模擬授業)(D領域)
- 第13回 1月9日1講時
授業研究(計画、実践、分析)⑤(事例研究、模擬授業)(D領域)
- 第14回 1月9日1講時
授業研究(計画、実践、分析)⑥(事例研究、模擬授業)(D領域)
- 第15回 1月16日2講時
教職としての実践的指導力の体得過程についての相互確認
(A,B,C,D領域)

6. 留意事項

11月28日から毎週木曜日1,2講時の開講とする。

さらに12月26日は1～4講時の開講とする。

講義コード	80110101			
科目名	学校心理学文献講読Ⅲ（教育）			
担当者	藤本 陽三			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	授業で資料プリントを配布する。			
参考文献	授業において指示する。			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本講義は文献の講読を通して、教員として必要な資質や知識を身につけることを目標とする。教育現場において教員は教育に関わる法規に則り、その職責の遂行に努めなければならない。また、保育園、幼稚園、小学校、中学校等、他校種間での連携、家庭・地域との連携のあり方等を始めとする様々な教育の今日的課題について理解し、日々実践することが求められる。そこで本講義では、教育法規に関する知識、及び教育の今日的課題についての知識を身につけることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

- ・教育六法をはじめとする教育法規の通読と考察
- ・教育の今日的課題に関する考察と小論文作成

3. 教育・学習の方法

テキストを用いて講義を行う。小グループでの討論も必要に応じて行う。後半では教育の今日的課題についての考察をもとに小論文を作成、知識の定着をはかる。

・準備学習の具体的な方法

事前に配布する文献資料を精読し、理解を深めておくこと。

4. 評価方法・評価基準

成績は授業参加度（30%）、小論文（40%）、最終レポート（30%）によって総合的に判断する。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション 教職に必要な教養とは何か
- 第2回 日本国憲法と教育基本法についての理解
- 第3回 学校教育法および学校教育法施行令、学校教育法施行規則についての理解
- 第4回 教育公務員特例法および教育職員免許法についての理解
- 第5回 学校保健法および学校図書館法についての理解
- 第6回 教育行政、教育福祉に関する法規についての理解
- 第7回 人権に関する法規等についての理解
- 第8回 教育の今日的課題についての考察(1) 他校種間、家庭・地域との連携
- 第9回 教育の今日的課題についての考察(2) 人権教育
- 第10回 教育の今日的課題についての考察(3) 特別支援教育他
- 第11回 教育の今日的課題についての考察(4) キャリア教育他
- 第12回 小論文（教育の今日的課題について…他校種間、家庭・地域との連携）作成
- 第13回 小論文（教育の今日的課題について…人権教育）作成
- 第14回 小論文（教育の今日的課題について…特別支援教育・キャリア教育他）作成
- 第15回 ふりかえり

6. 留意事項

講義コード	80201001			
科目名	介護等体験			
担当者	矢島 雅子			
単位数	1	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』 全国特殊学校長会編 ジアース教育新社 2005 『新版・よくわかる社会福祉施設』 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 2011			
参考文献	『介護等体験マニュアルノート』 東京都社会福祉協議会 東京都社会福祉協議会 2012 『介護等体験の手引き』 徳田克己、名川勝編 協同出版 2002 『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック』 現代教師養成研究会編 東京大修館書店 2008			
備考	小・中学校免許取得者に必要			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

小学校・中学校の免許状取得の必要条件である介護等体験について理解した上で、実際に特別支援学校、社会福祉施設その他の施設において計7日間の体験を行う。単に免許のために必要だからということではなく、教職をめざすための貴重な体験であることを自覚すること。併せて、お互いを尊重し、思いやりのある、共に生きる社会の実現をめざす原動力になること。

2. 教育・学習の個別課題

1. 介護等体験の制度とその趣旨について理解し、手続きを適切に行う。
2. 体験にあたっての心構えや体験先でのマナーについて理解する。
3. 特別支援学校における介護等体験の実際について理解する。
4. 社会福祉施設その他の施設における介護等体験の実際について理解する。
5. 特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、介護等の体験を行う。
6. 体験を振り返り、教職を目指す者としての自覚を深める。

3. 教育・学習の方法

1. 事前指導は講義を中心とするが、適宜演習等も取り入れる。
2. 事後指導ではグループ討議等を行う。
3. 毎講義後レポート提出を義務づけている。

・準備学習の具体的な方法

授業が始まるまでに、テキストを必ず購入しておくこと。大学を離れて体験に行くため、社会人としての心構えを日頃からしておくこと。

4. 評価方法・評価基準

事前指導・事後指導への皆出席、レポート課題提出（毎時間）、介護等体験証明書（合計7日間分）提出すること。以上すべてを満たした者に単位を与える。

5. 授業予定

- 第1回 事前指導：介護等体験の制度と趣旨、申込手続きについて
- 第2回 事前指導：介護等体験にあたっての心構え（上級生の体験発表）
- 第3回 事前指導：アイマスクを使った体験、車椅子の介助方法
- 第4回 事前指導：体験日誌の記入について
- 第5回 事前指導：特別支援学校における介護等体験（外部特別講師による講義）
- 第6回 事前指導：社会福祉施設その他の施設における介護等体験（外部特別講師による講義）
- 第7回 事前指導のまとめ
- 第8回 事後指導：体験を振り返る

6. 留意事項

1. 学生便覧の該当ページを熟読しておくこと。
2. 正当な理由なく欠席することは認めない。
3. 事前指導において申込書・誓約書の提出を求める。
4. 4年次生は、体験時期が2月以降になった場合、単位認定できないことがある。
5. 多くの人に迷惑をかけながら実施するため、しっかりと意識を持って受講すること。

講義コード	85001001			
科目名	健康スポーツ実習(教職) A スポーツの楽しみ方を学ぶ			
担当者	内田 和寿			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	幼小選択必修 心理学部対象クラス			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本科目の履修者自身が、スポーツの実践を通して健康や体力の向上についての理解を深め、生涯を通してスポーツに親しむ態度を育成することを目標とする。また、教育現場では体育専科の教師でなくとも、遠足・運動会・部活動といった教育活動に携わらなければならないので、本科目で様々なスポーツやレクリエーション・遊びの実践を通して、スポーツの良さや有効な活用方法について理解し、実践する指導力を養うことも目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

- ・スポーツの実践を通して運動の楽しさを味わうだけでなく、遊び方を工夫してスポーツの「楽しみ方」を学ぶ。
- ・健康の増進や体力の向上にはスポーツ活動が重要な役割を果たすことを理解する。
- ・仲間と運動することで「コミュニケーション能力」の向上を図る。
- ・体育教師でなくても知っておかなければならない健康安全・体育行事、部活動、業間体育等へのかかわり方についての理解を深める。

3. 教育・学習の方法

スポーツの実践を中心に行うが、ただ身体を動かすのではなく、目的をしっかりと持って実践し、評価を行い、さらに良い実践に発展していくための工夫について検討しながら活動を進めていく。集団を動かす能力の育成のために、グループに分かれて模擬授業形式でスポーツの実践を行うこともある。

・準備学習の具体的な方法

運動種目の特性やねらいについて学習指導要領解説書を熟読した上で参加すること。

4. 評価方法・評価基準

授業に取り組む姿勢・意欲・運動技能(80点)、授業の実践に関するレポート及びスポーツに関するビデオのレポート(20点)として総合的に評価を行う。

5. 授業予定

第1回	オリエンテーション
第2回	体づくり運動
第3回	陸上運動
第4回	リレー遊び・リレー
第5回	ゲーム
第6回	ボール運動
第7回	ボール運動
第8回	観るスポーツについて(講義)
第9回	投げる
第10回	投げる(講義・動作分析)
第11回	表現運動
第12回	レクリエーションスポーツ
第13回	跳び箱・マット運動
第14回	跳び箱・マット運動
第15回	まとめ

6. 留意事項

前期集中講義。講義日程は初回のオリエンテーション時に履修者と相談して決定する。初回のオリエンテーションは4月中旬を予定しており、4月初旬に掲示板で案内を行う。

講義コード	90001001			
科目名	生涯学習概論 生きることを支える学びとは？			
担当者	齋藤 尚志			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[図][博]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 博物館学芸員に関する科目を兼ねる			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この講義では、(1)学習や教育を語る際の基本的な概念、(2)生涯学習や社会教育に関する理論(本質や意義など)と歴史(法制度や施策など)、(3)今日のさまざまな社会的課題と生涯学習の関わりや可能性(学校・家庭・地域など)の連携や社会教育施設の役割および支援のあり方など、について理解を深めることを目的とします。

2. 教育・学習の個別課題

生涯学習とは、学校のようなフォーマルな教育の場にとどまらない、より広範な、そして多様な場や機会で行われる学習活動です。そのため、生涯学習を支援・援助するためには、幅広く、柔軟な、そしてより深い人間理解(子ども理解など)や学習観を必要とします。まずは、学習や教育を語る際の基本的な概念について説明していきます。知らず知らずのうちに自明のこととしている、たとえば教育といえば学校教育と思い込んでしまっていることなどを改めいくことから始めます。次に、生涯学習や社会教育の本質とはなにか、それらの人間社会における意義などについて、ラングランやジェルビらの生涯学習観をもとに明らかにします。合わせて、世界および日本の生涯学習および社会教育に関する法制度や施策などを振り返ります。最後に、今日のさまざまな社会的課題、子どもの貧困や雇用・就労の問題などと生涯学習および社会教育の関わりや対応への可能性について、学校・家庭・地域などとの連携や社会教育施設の役割および支援のあり方などを提示し、理解を深めていきます。

- ・教育のもつ抑圧(管理や強制)を認識すること。
- ・学校教育の限界と社会教育の可能性を知ること。
- ・生涯学習における自己決定や解放の意義を理解すること。
- ・生涯学習における世界と日本の状況を把握すること。
- ・社会教育施設における生涯学習施策・活動を調査しまとめること。

3. 教育・学習の方法

授業の実施方法は、講義・プリント・発表(調査報告)・課題レポートです。授業で意識すべきことは、自ら学ぶ姿勢や態度を示すこと。そのためには、これらどのように生きていきたいのか、なぜ司書等の資格を取りたいのか、司書等としてどのような仕事をしたいのかなどを各自で自ら問うておくこと。

・準備学習の具体的な方法

準備学習としては、教育・学習・子ども・社会教育・生涯学習などに関する新聞記事やニュースに自ら関心をもち、収集し、読んで(見て)おくこと。

4. 評価方法・評価基準

出席・授業態度(参加姿勢や態度)[30%]
グループ報告(社会教育施設における生涯学習施策・活動の報告)[30%]
課題レポート[40%]
※出席は4/5以上の出席をもって評価対象とする。
※出席を満たしていたとしても、グループ報告(そのための調査や準備など)へ非協力・消極的である場合や課題レポートの内容によっては単位を与えない。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション：講義概要の説明・自学への助言。導入として、おとなと子どもの同じと違い、読み書きができる／できないとは？教育問題と社会問題の関連、などについて受講生に問いを投げかけ、受講生の学習観や教育観をふさぶ。
- 第2回 教育と学習①：事例や映像を基に、教育の必要性や可能性／不可能性(限界)について学ぶ。
- 第3回 教育と学習②：事例や映像を基に、教育の抑圧性を認識した上での教育と学習のあり方を確認する。
- 第4回 生涯学習の理念①：生涯学習が登場してきた社会的背景をおさえる。
- 第5回 生涯学習の理念②：2回を通じて、ラングラン、ジェルビ、ユネスコなどの生涯教育観の意義を学ぶ。
- 第6回 生涯学習の理念③：2回を通じて、ラングラン、ジェルビ、ユネスコなどの生涯教育観の意義を学ぶ。

- 第7回 生涯学習の法制度：日本の社会教育および生涯学習の法制度の変遷を通史で学ぶ。
- 第8回 生涯学習の施策史①：臨時教育審議会以前の社会教育および生涯学習施策の変遷と歴史的意義を学ぶ。
- 第9回 生涯学習の施策史②：臨時教育審議会およびそれ以後の社会教育および生涯学習施策の変遷と歴史的意義を学ぶ。
- 第10回 生涯学習と社会問題①：同和問題、在日コリアン問題、ニューカマーなどの識字を題材にして、生涯学習と人権について考える。
- 第11回 生涯学習と社会問題②：学校教育からこぼれ落ちる子どもたちへの対応をその子どもたちの生活背景(社会背景)をおさえつつ、生涯学習からの支援・援助の可能性やあり方を考える。
- 第12回 生涯学習施策の実践①：3回を通じて、具体的な社会問題や社会からのニーズにどのように現今の社会教育施設は応えているのかを実地調査(フィールドワーク)し、報告する。
- 第13回 生涯学習施策の実践②：3回を通じて、具体的な社会問題や社会からのニーズにどのように現今の社会教育施設は応えているのかを実地調査(フィールドワーク)し、報告する。
- 第14回 生涯学習施策の実践③：3回を通じて、具体的な社会問題や社会からのニーズにどのように現今の社会教育施設は応えているのかを実地調査(フィールドワーク)し、報告する。
- 第15回 まとめ：講義で学んだことを基に「これからの生涯学習」についてまとめる。

6. 留意事項

講義コード	90001101		
科目名	図書館概論		
担当者	鎌田 均		
単位数	2	配当学年	23
資格	[図]		
前提科目			
テキスト	『図書館概論』 大串夏美・常世田良 学文社 2010		
参考文献			
備考	必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

この科目は、図書館情報学の基礎となるものである。司書課程を履修するにあたり、まず図書館についての基本事項を理解し、さらに図書・雑誌から電子出版物にいたる多種多様な情報資源と、それらを扱う図書館の役割と機能を理解する。また、これら情報資源が共有資源であるとの理念を学び、情報ネットワークの時代における図書館の責任や役割について認識を深める。

2. 教育・学習の個別課題

1. 大学図書館や公共図書館など、多種多様に存在する情報機関を知り、ネットワーク時代の図書館の存在を理解する。
2. 図書館関連の基本法規や「図書館の自由」について理解を深め、市民社会における図書館および司書の役割を学ぶ。
3. 図書館現場の諸問題の具体例を検討し、将来の展望を考察する。

3. 教育・学習の方法

1. 講義を主体に図書館の基本的事項を学ぶ。
2. 与えられた課題についてレポートを作成することで講義内容、テキストの内容の理解を深める

・準備学習の具体的な方法

テキストの次回講義に関連のある箇所を事前に読み、理解しておく。

4. 評価方法・評価基準

期間レポート(2回)により、授業でとりあげたトピックの理解度と応用度、期末レポートにより科目内容の総合的理解度を判定する。また、授業での諸活動への参加を平常点として評価する。

5. 授業予定

- 第1回 はじめに：図書館とは何か
- 第2回 身近な図書館—さまざまな館種
- 第3回 図書館の連携、ネットワーク
- 第4回 図書館の国際的動向
- 第5回 国内外の図書館関連組織
- 第6回 情報のネットワーク化
- 第7回 情報の組織と情報へのアクセス
- 第8回 情報・資料の流通
- 第9回 情報資料の共有
- 第10回 情報の保存
- 第11回 越境する図書館：図書館以外の分野、機関との関係

- 第12回 図書館法および関連法規
- 第13回 図書館と著作権
- 第14回 図書館の自由
- 第15回 図書館をめぐる諸課題—まとめにかえて

6. 留意事項

2年次生(3年次生から履修の場合は3年次生の時点)に履修するのが望ましい。

講義コード	90001501		
科目名	レファレンスサービス演習 情報探索のプロセスを学ぶ		
担当者	岩崎 れい		
単位数	2	配当学年	234
資格	[図]		
前提科目			
テキスト	『新版 情報源としてのレファレンスブックス』 長澤雅男 石黒祐子共著 日本図書館協会 最新版		
参考文献	必要に応じて、授業中に紹介します。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

レファレンス・サービスは、多様な利用者の質問に対して情報を提供する図書館の重要な業務のひとつである。利用者の情報要求を正確に把握し、適切な資料を使って、適切なプロセスで情報を得ることができるようにする。また、レポート作成のプロセスを学び、そのプロセスに従って、情報探索を行いながらレポート執筆の練習をする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 調べる事柄によって、利用する情報源を使い分けることを知り、それぞれの資料についての知識を得、情報探索のプロセスを体験しながら習得する。
2. 未知の事柄について知識を得る楽しさを知る。
3. レポート作成のプロセスを学ぶ。

3. 教育・学習の方法

1. テキストを中心にレファレンス・サービスのための参考図書についての知識や利用方法を把握する。(「情報サービス論」で学習したことを各自復習する。)
2. 図書館で各自課題をこなし、授業中に発表する。
3. レポート作成のプロセスを学ぶと共に、文献探索の技術を身につける。

・準備学習の具体的な方法

1. 「情報サービス概説」の授業内容を踏まえて演習を実施するため、復習しておく。
2. 前の週までに各回の課題を配布するので、各自割り当てられた課題をこなし、所定の様式でレジュメを作成し、クラス人数分準備する。
3. レポートについては、その作成プロセスも提出する。授業中の指示に従い、ステップ1・2はメール提出、ステップ3は授業中にレジュメを利用し発表(レポート中間発表第1回)、ステップ4・5・6は所定の提出場所に文献カード・情報カードを提出、ステップ7は授業中にレジュメを利用し発表(レポート中間発表第2回)となるので、各自締切日・発表日までに課題を終えるよう準備しておく。

4. 評価方法・評価基準

レポート(学期中のレポート関連の提出物及び中間発表を含む)50%、演習課題の発表及び提出50%とし、その合計で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 演習方法説明、レポート作成プロセスに関する講義
- 第2回 演習課題発表(3章：事物・事象情報の探索)
- 第3回 演習課題発表(2章：言語・文字情報の探索)
- 第4回 演習課題発表(5章：地理・地名情報の探索)
- 第5回 レポート作成プロセスに関する講義等
- 第6回 レポート中間発表(第1回)(1)
- 第7回 レポート中間発表(第1回)(2)
- 第8回 パスファインダーの作成演習
- 第9回 演習課題発表(4章：歴史・日時情報の探索)
- 第10回 演習課題発表(6章：人物・団体情報の探索)
- 第11回 演習課題発表(7章：図書・叢書情報の探索)
- 第12回 演習課題発表(8章：新聞・雑誌情報の探索)
- 第13回 レポート中間発表(第2回)(1)
- 第14回 レポート中間発表(第2回)(2)
- 第15回 演習課題発表(1章：参考図書・データベース情報の探索)

6. 留意事項

「情報サービス論」を先に履修すること。その内容を学んでいることを前提に演習を進める。

講義コード	90002101			
科目名	児童サービス論 豊かな子ども時代のために			
担当者	岩崎 れい			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[図]			
前提科目				
テキスト	『児童サービス論』 鈴木佳苗編 樹村房 2012			
参考文献	授業中に紹介します。			
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

児童サービスの基本を知識として身につけるだけでなく、実践的に学んで雰囲気をつかむこと、読書や情報サービスに関わる社会的問題にも広く目を向けることをめざす。

2. 教育・学習の個別課題

1. 児童サービスの理念及び基本的事項をしっかりと把握する。 2. 児童サービスに深く関連する子どもの心理、子どもの読書、子ども観の移り変わり、児童書などについても併せて学ぶ。 3. ブックトークやストーリーテリングなどの読書プログラムについて、基本的な事項を把握した上で実践的に学ぶ。

3. 教育・学習の方法

1. 講義・実習を併せて行う。 2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。 3. ブックトーク・ストーリーテリングなどの読書プログラム実習を行う。

・準備学習の具体的な方法

1. 公共図書館の児童サービスコーナーを見る機会をできるだけ多く持つ。
2. 児童書をできるだけたくさん読んでおく。

4. 評価方法・評価基準

筆記試験 60%、読書プログラム実習を含む授業中の課題 40%とし、その合計で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 1. 児童サービス概論
- 第2回 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
 - 1) 読み聞かせ 2) 紙芝居
- 第3回 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
 - 3) ストーリーテリング
- 第4回 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
 - 4) ペープサート 5) パネルシアター 6) エプロンシアター
- 第5回 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
 - 7) ブックトーク
- 第6回 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
 - 7) ブックトーク (続き) 8) 読書のアニメーション
- 第7回 3. 児童サービスの歴史
 - ※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第8回 4. 乳幼児サービス
 - ※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第9回 5. ヤングアダルトサービス
 - ※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第10回 6. 児童サービスをめぐる課題
 - ※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第11回 7. 児童資料論(1)
 - ※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第12回 7. 児童資料論(2)
 - ※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第13回 8. 児童書選択
- 第14回 9. 子どもと読書・情報をめぐる諸問題
- 第15回 10. まとめ

6. 留意事項

前提として、児童書に関する知識も必要です。できるだけ多くの児童書を読む機会を持ってください。

講義コード	90101101			
科目名	図書館制度・経営論			
担当者	鎌田 均			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[図]			
前提科目				
テキスト	『図書館経営論』 柳 与志夫 学文社 2007			
参考文献				
備考	必修 <旧>900012 図書館経営論			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

図書館という組織を軽蔑することの意味を理解し、図書館を有機的に機能、発展させるための図書館経営、および図書館関係の法律、政策に関する知識を習得する。図書館司書に求められる基礎知識、図書館経営に必要な基礎事項について講義しつつ、国内外の図書館経営の実際例、最近の動向等を紹介し、検討することにより、図書館経営について多角的視点をもって考察する。

2. 教育・学習の個別課題

- 1 図書館経営、及び図書館関係法律、政策の基礎知識を得る
- 2 図書館経営に活用できるマネジメント技術を理解する
- 3 図書館経営に関する幅広い視野、柔軟な思考力を身につける

3. 教育・学習の方法

授業外でテキストを読み、内容を理解することを踏まえて、授業ではケーススタディーなどを通して、図書館経営の理念から図書館経営に活用できるマネジメント技術などを能動的に学習する。

・準備学習の具体的な方法

毎回、テキストの指定された章を読み、内容を理解すること。

4. 評価方法・評価基準

2回の期間レポートから、授業で取り上げた内容の理解度と応用力を評価し、期末レポートで科目全般の総合的理解度を判定する。さらに、授業への参加を平常点として評価する。

5. 授業予定

- 第1回 講義内容及び課題のプレビュー
- 第2回 図書館の法的、組織的、政策的位置づけ
テキスト1、10章
- 第3回 図書館経営概観
テキスト2、3章
- 第4回 図書館のミッションとビジョン：運営目的の設定
- 第5回 運営戦略(ストラテジックプラン)：戦略の意義と策定
テキスト12章
- 第6回 図書館評価：評価の方法と実践
- 第7回 図書館内組織：組織構成例と比較
テキスト5章、期間レポート(1)提出
- 第8回 期間レポート(1)講評
- 第9回 予算編成と管理：予算構成例と比較、予算獲得
テキスト3、8章
- 第10回 人的資源管理：人材の確保、配置、育成と評価
テキスト4章
- 第11回 業務プロセスの遂行およびサービスの提供
テキスト6、9章
- 第12回 新規サービス、業務の開発(プロジェクトマネジメント)
テキスト11章
- 第13回 図書館設備、場所としての図書館
テキスト7章
- 第14回 図書館経営と図書館環境の変化
テキスト13章、期間レポート(2)提出
- 第15回 全体のまとめと期間レポート(2)講評

6. 留意事項

講義コード	90101301			
科目名	図書館サービス概論 市民の生涯学習を支援する図書館サービス			
担当者	岩崎 れい			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[図]			
前提科目				
テキスト	『図書館サービス論 新編図書館学教育資料集成3』 塩見昇 教育資料出版会 最新版			
参考文献				
備考	定員 35 人 必修 <旧>900013 図書館サービス論 「図書館概論」 履修者であること			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

市民社会において、生涯学習の環境が整っていることは不可欠であり、図書館はそのための必須の施設である。高度情報社会においてその重要性はさらに増している。その中で、日常生活や学習環境を豊かにするために、利用者の立場に立って、利用者のニーズを充たすのが図書館サービスであることを基礎とし、図書館サービスの専門的意義を知り、サービスの種類と特質について深く理解する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 図書館が一つのサービス機関であることを理解する。特に、すべての人に図書館のサービスを受ける権利があることを学ぶ。
2. 図書館サービスに対するニーズを充たすためには、どのような業務が必要であるかを理解する。
3. テーマ展示の意義を理解し、実際に企画から展示までの実習をする。

3. 教育・学習の方法

1. 講義・実習を併せて行う。
2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。
3. テキスト・プリント・ビデオ等を利用する。
4. テーマ展示実習を行う。

・準備学習の具体的な方法

1. 事前に予習する箇所を提示するので、教科書を読んで、割り当てられた箇所については要約し、コメントをつけてくる。
2. テーマ展示実習については、各自企画書を書くことも含めて選書・作業を分担するので、グループごとに指定の授業日までに準備してくる。
3. このクラスではメーリングリストを実習・演習のために利用するので、各自随時必要な情報をメーリングリストに送り、また他のグループの情報や授業の指示をチェックする。

4. 評価方法・評価基準

学期末試験 70%、実習を含む授業中の課題 30%とし、その合計で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 図書館サービスの理念、関連法・条例
- 第2回 図書館サービスのPRと企画(1)
- 第3回 図書館サービスのPRと企画(2)
- 第4回 図書館におけるテーマ展示の準備(1)
- 第5回 図書館におけるテーマ展示の準備(2)
- 第6回 図書館におけるテーマ展示の実施
- 第7回 日本の図書館サービスの発達史
- 第8回 公共図書館の社会的機能
- 第9回 学術情報基盤としての大学図書館の機能、図書館サービスと著作権
- 第10回 図書館施設の計画と利用
- 第11回 対象者の理解と利用対象別サービスの意義・高齢者サービス
- 第12回 障がい者サービス
- 第13回 多文化サービス
- 第14回 病院患者サービス
- 第15回 図書館サービスの連携・協力

6. 留意事項

1. 〈図書館概論〉を履修していることを前提とする。
2. 図書館実習・演習のため、人数制限がある。

講義コード	90101401			
科目名	情報サービス論 図書館をより身近なものに			
担当者	中島 幸子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[図]			
前提科目				
テキスト	『情報サービス論』 山崎久道編 樹村房 2012 『新版 情報源としてのレファレンスブックス』 長澤雅男 石黒祐子共著 日本図書館協会 2004			
参考文献	『図書館に訊け!』 井上真琴著 筑摩書房 2004 『まちの図書館でしらべる』 「まちの図書館でしらべる」編集委員会 柏書房 2002 『情報探索と情報利用』 田村俊作編 勁草書房 2001 『新版 問題解決のためのレファレンスサービス』 長澤雅男 石黒祐子共著 日本図書館協会 2007			
備考	必修 <旧>900014 情報サービス概説			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

図書館における情報サービスは、利用者の問題解決を支援するために今日ますますその重要性を増している。情報サービスの意義、利用者の情報ニーズへの対応、レファレンスプロセスについて理解を深め、利用者と資料を結び付ける図書館員の役割について考える。また、電子メディアを含めた情報源についての知識を習得し、適切なレファレンスサービスを提供できる基礎的な力を習得することを目的とする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 情報サービスの意義と利用者の情報ニーズにどのように対応するかを理解する。
2. 情報ニーズに合った適切な情報を提供する、あるいは利用者の情報探索を支援するために、図書館員の果たす役割を知る。
3. さまざまな情報源の特徴、活用のしかたについて基本的な知識を得る。
4. 近年、公共図書館で盛んに提供されるビジネス支援や健康情報支援などについて実情と課題について考える。

3. 教育・学習の方法

1. 基本的な事項については、講義及びビデオを通して学ぶ。
2. レファレンス質問を分析し、適切な情報源を選択して、適確な回答を見つけるレファレンスプロセスを事例を通して体験する。
3. さまざまな領域の情報源の特徴を活用例を通して理解する。

・準備学習の具体的な方法

1. テキストを読んで授業に臨む。
2. 公共図書館のレファレンスコレクションを利用してみる。
3. 公共図書館でレファレンス質問を体験してみる。

4. 評価方法・評価基準

試験 (60%)、授業中の提出物、課題 (20%)、授業への参加度 (20%) を総合して評価する。欠席・遅刻は減点対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション 図書館での情報サービス利用体験
- 第2回 図書館による情報サービスの意義と実際
- 第3回 レファレンスサービスの理論と実際 1
- 第4回 レファレンスサービスの理論と実際 2
- 第5回 情報検索とは何か
- 第6回 インターネット検索のしくみ
- 第7回 発信型情報サービスの展開
- 第8回 利用者教育の現状と展望
- 第9回 レファレンス・サービスのための情報源の特徴と利用法一言語文字情報
- 第10回 レファレンス・サービスのための情報源の特徴と利用法一事物象情報
- 第11回 レファレンス・サービスのための情報源の特徴と利用法一人物団体情報
- 第12回 レファレンス・サービスのための情報源の特徴と利用法一図書書情報
- 第13回 レファレンス・サービスのための情報源の特徴と利用法一レファレンスツール情報
- 第14回 情報サービスの課題
- 第15回 まとめと試験

6. 留意事項

この科目は〈情報サービス演習〉の前提科目である。

講義コード	90101501		
科目名	情報サービス演習Ⅰ 必要な知識・情報を探索する技術		
担当者	鎌田 均		
単位数	2	配当学年	234
資格	[図][ブ]		
前提科目			
テキスト	課題を授業中に配布		
参考文献			
備考	定員46人 必修 <旧>900016 情報検索演習		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 コミュニケーションする力 創造・発信する力 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力		

講義コード	90001601・22531501		
科目名	情報検索演習 必要な知識・情報を探索する技術		
担当者	鎌田 均		
単位数	2	配当学年	234
資格	[図]		
前提科目			
テキスト	課題を授業中に配布		
参考文献			
備考	定員46人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 コミュニケーションする力 創造・発信する力 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力		

1. 科目の教育目標

情報の氾濫する状況のもとで情報検索を行う場合には、まず何が検索の主題であるかを明確にすることが必要であり、それによって検索を効率的に行うことができるようになる。本演習では実習を通して、その情報検索能力を習得する。また、情報ニーズを認識し、情報を探索し、評価・選択し、利用する能力である情報リテラシーを身につける。

2. 教育・学習の個別課題

1. 探索事項と検索語の関係分析できるようにする。 2. 利用するデータベースの性質を理解する。 3. 実習を通じて、情報検索に習熟する。 4. 情報を探索・評価・選択・利用する体験を通して、情報リテラシーを身につける。

3. 教育・学習の方法

1. コンピュータ端末を利用して、検索インターフェースの利用に慣れる。 2. 各種データベースによる情報検索を学ぶ。 3. 論理演算等の情報検索の基礎的事項を学ぶ。 4. 演習を通じて、情報の入手、評価・選択、利用の方法を習得する。

・準備学習の具体的な方法

この演習においては事前学習よりも、課題についての授業中の説明を理解し、提示された課題をこなすことが重要である。そのため各演習課題について、わからないことは必ず質問し、提出締切日までに各演習課題をすべて終えるようにする。

4. 評価方法・評価基準

演習課題の提出100%とし、その合計で総合的に評価する。その内訳は演習課題1～13は各7%、総合演習問題9%である。筆記試験は実施しない。

5. 授業予定

- 第1回 演習方法説明、基本事項に関する講義
- 第2回 本学図書館 OPAC の利用法 (演習課題1)
- 第3回 資料検索法 (総合目録等を利用する図書の探索法) (演習課題2)
- 第4回 雑誌記事の探索法 (演習課題3)
- 第5回 新聞記事の探索法(1) (演習課題4)
- 第6回 新聞記事の探索法(2) (演習課題5)
- 第7回 各種情報探索法1 (単位・通貨の換算) (演習課題6)
- 第8回 各種情報探索法2 (日時情報の探索) (演習課題7)
- 第9回 各種情報探索法3 (就職情報の探索) (演習課題8)
- 第10回 各種情報探索法4 (画像情報の探索) (演習課題9)
- 第11回 情報の評価・選択 (演習課題10)
- 第12回 情報の利用(1) (演習課題11)
- 第13回 情報の利用(2) (演習課題12)

第14回 復習問題 (演習課題13)

第15回 総合演習問題

6. 留意事項

1. 演習室利用のため、人数制限がある。 2. 出席し、演習に参加することが第一条件である。

講義コード	90101601		
科目名	情報サービス演習Ⅱ 情報探索のプロセスを学ぶ		
担当者	岩崎 れい		
単位数	2	配当学年	234
資格	[図]		
前提科目			
テキスト	『新版 情報源としてのレファレンスブックス』 長澤雅男 石黒祐子共著 日本図書館協会 最新版		
参考文献	必要に応じて、授業中に紹介します。		
備考	定員40人 必修 <旧>900015 レファレンスサービス演習 「情報サービス論」履修者であること		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓		

1. 科目の教育目標

レファレンス・サービスは、多様な利用者の質問に対して情報を提供する図書館の重要な業務のひとつである。利用者の情報要求を正確に把握し、適切な資料を使って、適切なプロセスで情報を得ることができるようにする。また、レポート作成のプロセスを学び、そのプロセスに従って、情報探索を行いながらレポート執筆の練習をする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 調べる事柄によって、利用する情報源を使い分けることを知り、それぞれの資料についての知識を得、情報探索のプロセスを体験しながら習得する。 2. 未知の事柄について知識を得る楽しさを知る。 3. レポート作成のプロセスを学ぶ。

3. 教育・学習の方法

1. テキストを中心にレファレンス・サービスのための参考図書についての知識や利用方法を把握する。(「情報サービス論」で学習したことを各自復習する。) 2. 図書館で各自課題をこなし、授業中に発表する。 3. レポート作成のプロセスを学ぶと共に、文献探索の技術を身につける。

・準備学習の具体的な方法

1. 「情報サービス概説」の授業内容を踏まえて演習を実施するため、復習しておく。 2. 前の週までに各回の課題を配布するので、各自割り当てられた課題をこなし、所定の様式でレジュメを作成し、クラス人数分準備する。 3. レポートについては、その作成プロセスも提出する。授業中の指示に従い、ステップ1・2はメール提出、ステップ3は授業中にレジュメを利用し発表(レポート中間発表第1回)、ステップ4・5・6は所定の提出場所に文献カード・情報カードを提出、ステップ7は授業中にレジュメを利用し発表(レポート中間発表第2回)となるので、各自締切日・発表日までに課題を終えるよう準備しておく。

4. 評価方法・評価基準

レポート(学期中のレポート関連の提出物及び中間発表を含む)50%、演習課題の発表及び提出50%とし、その合計で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 演習方法説明、レポート作成プロセスに関する講義
- 第2回 演習課題発表(3章:事物・事象情報の探索)
- 第3回 演習課題発表(2章:言語・文字情報の探索)
- 第4回 演習課題発表(5章:地理・地名情報の探索)
- 第5回 レポート作成プロセスに関する講義等
- 第6回 レポート中間発表(第1回)(1)
- 第7回 レポート中間発表(第1回)(2)
- 第8回 パスファインダーの作成演習
- 第9回 演習課題発表(4章:歴史・日時情報の探索)
- 第10回 演習課題発表(6章:人物・団体情報の探索)
- 第11回 演習課題発表(7章:図書・叢書情報の探索)
- 第12回 演習課題発表(8章:新聞・雑誌情報の探索)
- 第13回 レポート中間発表(第2回)(1)
- 第14回 レポート中間発表(第2回)(2)
- 第15回 演習課題発表(1章:参考図書・データベース情報の探索)

6. 留意事項

「情報サービス論」を先に履修すること。その内容を学んでいることを前提に演習を進める。

講義コード	90101701			
科目名	図書館情報資源概論A 人類の知的遺産の継承とその利用			
担当者	中島 幸子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[図]			
前提科目				
テキスト	『図書館情報資源概論』 高山正也, 平野英俊 (編) 樹村房 2012			
参考文献	『江戸時代の書物と読書』 長友千代治 東京堂出版 2001 『印刷革命』 E. L. アイゼンスタイン著別宮貞徳監訳 みすず書房 1987 『蔵書構成と図書選択』 河井弘志編 日本図書館協会 1992			
備考	必修 <旧>900017 図書館資料論			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	90101702			
科目名	図書館情報資源概論B 人類の知的遺産の継承とその利用			
担当者	中島 幸子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[図]			
前提科目				
テキスト	『図書館情報資源概論』 高山正也, 平野英俊 (編) 樹村房 2012			
参考文献	『江戸時代の書物と読書』 長友千代治 東京堂出版 2001 『印刷革命』 E. L. アイゼンスタイン著別宮貞徳監訳 みすず書房 1987 『蔵書構成と図書選択』 河井弘志編 日本図書館協会 1992			
備考	必修 <旧>900017 図書館資料論			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

図書館資料は利用者に情報提供するための基本的資源であることを学ぶ。印刷資料から、視聴覚資料、ネットワーク情報源とさまざまなメディアの形態を持つ図書館資料についての知識を深める。図書館における選択、収集を含めたコレクション構築、出版流通の状況と課題、資料の保存や知的自由についても理解する。図書館資料は人類の知的遺産であり、それを共有し社会に役立てることの意味を考える。製本技術講習会に参加し、書物の成り立ちを知り、製本技術について体験する。

2. 教育・学習の個別課題

1. さまざまな図書館資料について、その特徴と役割を理解する。
2. 図書館におけるコレクション構築の理論について理解し、その実際を知る。
3. 出版流通について知識を深める。
4. 資料保存や知的自由・知的所有権など社会的な課題に関心を持ち、新聞記事などに目を通しておくこと
5. 製本技術を習得する。

3. 教育・学習の方法

1. 講義、ビデオを通して学習する。
2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。
3. 製本技術講習会に必ず出席する。

・準備学習の具体的な方法

テキストを読んで授業にのぞむこと。大学図書館、公共図書館へ足を運び、自分の目でさまざまな媒体の資料に触れ、蔵書構成について関心を持つこと。出版状況について新聞、雑誌、その他のメディアでの最新記事を読むようにすること。

4. 評価方法・評価基準

定期試験 (60%)、授業中の課題および参加度 (20%)、製本技術講習会への出席とレポート (20%) を総合して評価。欠席、遅刻は減点の対象となる。

5. 授業予定

- 第1回 図書館情報資源とはなにか
- 第2回 図書館情報資源の種類と特質—有形出版物としての図書館資料
- 第3回 図書館情報資源の種類と特質—無形出版物としての図書館資料
- 第4回 図書館情報資源の種類と特質—政府刊行物と地域資料
- 第5回 図書館情報資源の種類と特質—人文・社会・自然科学および生活分野の情報資源と特性—
- 第6回 図書館情報資源の収集とコレクション構築—コレクション構築とそのプロセス
- 第7回 図書館情報資源の収集とコレクション構築—資料選択のプロセス
- 第8回 図書館情報資源の収集とコレクション構築—資料収集、蓄積・保管のプロセス
- 第9回 図書館情報資源の収集とコレクション構築—コレクションの評価・再編のプロセス
- 第10回 情報資源の生産・流通と図書館
- 第11回 学術出版と円滑な流通促進の取り組み
- 第12回 情報資源の生産・流通と図書館コレクション利用の権利
- 第13回 「知る自由」及び「図書館の自由」
- 第14回 図書館資料の今日的課題
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	90101801			
科目名	情報資源組織論			
担当者	北 克一・慈道 佐代子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[図]			
前提科目				
テキスト	『分類・目録法入門 新改訂第5版』 木原・志保田 第一法規 2007			
参考文献	『書誌ユーティリティ』 宮澤彰 丸善 2002 『電子図書館』 日本図書館情報学研究委員会編 勉誠出版 2001 『図書館目録とメタデータ』 曾根原登 [ほか] 編著 勉誠出版 2004 『メタデータ技術とセマンティックウェブ』 東京電気大学出版局 2006			
備考	必修 <旧>900019 資料組織概説 「図書館概論」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

図書館は資料・情報を収集・整理・保存し、提供する社会的記憶装置である。図書館活動を基礎で支える資料や情報の組織化について、その意義の理解を進める。電子書籍やネットワーク情報資源の組織化についても触れる。

2. 教育・学習の個別課題

実務で用いるツール等の基礎知識を獲得することを目的とする。『資料組織概説』は、大きく分けて記述目録法と主題索引法で構成される。記述目録法は、『日本目録規則 1987年版改訂3版』、『英米目録規則第2版改訂版』の規則構成を理解する。主題索引法は、『日本十進分類法第9版』、『基本件名標目表第4版』の規則構成を理解する。

3. 教育・学習の方法

教科書に従って、上記の資料組織の基本ツールの規則構成、規則適用の考え方を講義する。必要に応じて、理解を助けるための補助プリントを配布する。また、理解度の自己確認のために、自己評価用の確認問題を示す。

・準備学習の具体的な方法

『日本目録規則 1987年版改訂3版』、『基本件名表目録第4版』、『日本十進分類法第9版』を一度手にとっておくこと。

4. 評価方法・評価基準

講義内容は、資料組織概説(目録)と資料組織概説(主題)に分かれる。それぞれの単位で理解度確認のためのテストを実施する。成績は合算で評価する。

5. 授業予定

- 第1回 書誌コントロールと資料組織化の目的と意義、歴史
- 第2回 目録の機能、目録規則の構成原理、その適用
- 第3回 記述目録法
- 第4回 典拠コントロールの目的と機能
- 第5回 書誌レコードと典拠ファイル
- 第6回 総合目録、ILL等への展開、メタデータ、検索エンジンなど

- 第7回 中間まとめと理解度確認
- 第8回 主題索引法
- 第9回 分類法と件名索引法
- 第10回 分類法と件名索引法
- 第11回 書架分類と書誌分類
- 第12回 件名標目とキーワード検索、全文検索
- 第13回 件名標目とキーワード検索、全文検索
- 第14回 索引と書誌記述
- 第15回 最終まとめと理解度確認

6. 留意事項

夏の短期間での集中講義です。体調に留意しましょう。

講義コード	90101901		
科目名	情報資源組織演習		
担当者	慈道 佐代子・西尾 純子		
単位数	4	配当学年	234
資格	[図]		
前提科目			
テキスト	『資料組織演習—書誌ユーティリティ、コンピュータ目録 改訂第2版』北 克一・村上泰子共著 エム・ピー・エー 2008		
参考文献			
備考	定員46人 必修 <旧>900020 資料組織演習 「図書館概論」「情報資源組織論」履修者であること 週2コマ		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

<ねらい>「情報資源組織論」において学習した、記述目録法および主題組織法の内容について、更に理解を深めるため、実際の目録作成、主題索引作業を行う。<到達目標>①書誌作成のルールが理解できる。②書誌ユーティリティ環境下で、目録作成することの意義、ルール、方法、などの実際が理解できる。③ネットワーク情報資源のメタデータを作成できる。④日本十進分類法(NDC)、基本件名標目表(BSH)を使用し主題索引作業を行うことができる。

2. 教育・学習の個別課題

資料組織演習(主題)では『日本十進分類法』および『基本件名標目表』の使用能力を身に付ける。資料組織演習(目録)では、書誌ユーティリティを活用した書誌レコードの作成(和図書、洋図書)、所蔵データの作成等を行う。

3. 教育・学習の方法

講義・演習は資料組織演習(主題)、資料組織演習(目録)に分けて実施される。資料組織演習(主題)では、多くの演習問題を通じて、実践的能力を獲得する。資料組織演習(目録)では、コンピュータを使用し、書誌ユーティリティを活用して、書誌データベース構築を演習する。

・準備学習の具体的な方法

夏季集中で受講する「資料組織概説」を復習しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

主題、目録のそれぞれについて、演習課題のレポート提出、理解度テスト、授業参加度その他で総合的に評価し、合算して最終的評価とする。

5. 授業予定

- 第1回 科目概要の確認、目録作成の基礎
- 第2回 書誌ユーティリティの基礎、和図書目録作成の実際
- 第3回 和図書目録作成の実際
- 第4回 洋図書目録作成の実際
- 第5回 洋図書目録作成の実際
- 第6回 著名典拠コントロールの実際
- 第7回 雑誌目録作成の実際
- 第8回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成の実際
- 第9回 日本十進分類法(NDC)と日本件名標目表(BSH)の確認と実際
- 第10回 分類法Ⅰ：本表
- 第11回 分類法Ⅱ：補助表
- 第12回 分類法Ⅲ：関連索引
- 第13回 件名標目表Ⅰ：本表
- 第14回 件名標目表Ⅱ：細目、その他
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

目録演習では、コンピュータを使用するため、マウスやキーボードの操

作、かな漢字変換などは事前に習得しておくことが望ましい。また、各自の演習データ保存用に、USBメモリーを毎回必ず持参すること。

講義コード	90102001		
科目名	図書館情報資源特論 京都資料を知る		
担当者	鎌田 均		
単位数	1	配当学年	234
資格	[図]		
前提科目			
テキスト	教員が用意する		
参考文献	授業の中で紹介する		
備考	必修 <旧>900018 専門資料論 半年の半分		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

本講義は、さまざまな図書館情報資源のうちの「地域資料(郷土資料)」をとりあげ、地元である京都の情報資料について理解を深めていく。具体的には、選択したテーマに関する代表的な資料を探索し、パスファインダーとしてまとめることで、さまざまな京都関係資料を知る体験をする。

2. 教育・学習の個別課題

1 古典籍や古地図、またその古典籍の複製版や活字版、インターネット掲出版など情報資源の形態を知る。

2 京都関係の文献目録や辞典、年表などの参考図書を使いこなせるようにする。

3. 教育・学習の方法

選択したテーマについて、グループで京都関連の資料を調べ、パスファインダーを作成して発表する。

・準備学習の具体的な方法

パスファインダーを作成する為に必要な資料を探索する。

4. 評価方法・評価基準

パスファインダー作成への参加、および期末レポートによる授業内容全般の理解度を評価する。

5. 授業予定

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 地域資料の概要と京都資料
- 第3回 一次資料と二次資料
- 第4回 宗教(社寺)
- 第5回 芸術、芸能
- 第6回 衣食住
- 第7回 その他のテーマ
- 第8回 まとめ、資料から何を読み取るか

6. 留意事項

講義コード	90102201		
科目名	図書館サービス特論		
担当者	田尻 彰		
単位数	2	配当学年	234
資格	[図]		
前提科目			
テキスト	『日本点字表記法(2001年版)』日本点字委員会編		
参考文献	適宜資料配布		
備考	定員25人 選択必修 <旧>900023 資料特論		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. 科目の教育目標

視覚障害者の情報環境と情報提供支援について理解できる。

2. 教育・学習の個別課題

①視覚障害者の情報入手と情報提供支援の現状について学ぶ。

②視覚障害=情報障害者と言われる「障害特性」に対する情報支援の有り方について概説する。

③点字及び点字図書館(視覚障害者情報提供施設)の歴史と現状について概説する。

- ④公共図書館と点字図書館の特色と両者の比較検討による社会的役割について学ぶ。
- ⑤情報のバリアフリーの現状と課題についても考え、IT 技術が情報障害をどのようにして軽減しているのかを具体的に学習する。
- ⑥視覚障害者とのコミュニケーションの実際と情報手段の一つである『点字』について体験学習を行う。
- ⑦視聴覚教材を通じて、視覚障害者の暮らしの周辺の実情について学習する。
- ⑧視聴覚情報提供施設における事業内容と、利用者サービスの現状について、現場実習を通して学習する。

3. 教育・学習の方法

- ①講義：資料配布を原則として講義する。
- ②視聴覚教材の利用：ビデオ及びDVD等を駆使して、視覚障害者の情報環境や施設の紹介、日常生活の理解が容易にできるよう、工夫する。
- ③ワークショップ：
- 情報支援機器の紹介とデモンストレーション
 - 点字体験学習（点字の書き方、読み方実践）
 - 視覚障害に対する介助と支援方法
 - 盲導犬情報についての解説

・準備学習の具体的な方法

- ①街中の点字表示の事例について着目する。
- ②視覚障害者の移動支援方法について体験する。
- ③「見えない、見えにくい」シュミレーション体験の経験があれば、そのことを通じて視覚閉鎖の状況について考えを整理しておく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、レポート（60%）、授業への参加態度（40%）

※出欠確認は、各授業毎に受講者名簿に基づいて口頭で行うことを原則とします。

遅刻、又はやむを得ない事態が発生した時は、速やかに相談、連絡して下さい。

5. 授業予定

- 第1回 講義Ⅰ 「点字図書館の歴史と視覚障害者の情報環境」 1
- 第2回 講義Ⅱ 「点字発達の歴史と点字の市民権獲得のあゆみ」
- 第3回 ワークショップA 「情報機器の紹介とデモンストレーション」
- 第4回 ワークショップB 「点字の書き方、読み方（基礎編）」→点字の配列構成と表記法の基本
- 第5回 ワークショップC 「視覚障害者の介助方法とコミュニケーション支援」（ビデオ上映と実技指導）
- 第6回 講義Ⅲ 「情報アクセス支援施策」
- 第7回 講義Ⅳ 「視覚障害者福祉を担うボランティア活動」
- 第8回 ワークショップD 「点字の書き方、読み方」（単語・短文の教材を使って）
- 第9回 ワークショップE 「点字絵本の研究と製作過程の学習」
- 第10回 ワークショップF 「見学事前学習－視覚障害児・者福祉施設の役割と事業内容について」（DVDの施設案内から学ぶ）
- 第11回 講義Ⅴ 「視覚障害者福祉・教育・社会参加の現状について」
- 第12回 講義Ⅵ 「日本の点字表記法の特徴と墨字（活字）表記との相違点について」
- 第13回 ワークショップG 「暮らしの中の点字－点字サイン、バリアフリーマップなど、ユニバーサルデザインの事例紹介等」
- 第14回 施設見学 社会福祉法人京都ライトハウス見学
- 第15回 視聴覚情報提供施設実習
- 視覚障害児・者に対する図書館サービスの体験実習
 - 点字図書館の資料の所蔵・配架状況の閲覧
 - 点訳・音訳図書ができるまでの製作・貸出までのプロセスの学習
 - 最新のIT技術を活用した情報ネットワークサービスの活用体験
 - 図書館利用者の利用状況等、閲覧室及び、サービスカウンターでの日常的な事業運営の見聞
 - 対面読書、代筆・代読サービス及び、支援の具体的な方法についての体験学習

6. 留意事項

<施設見学先案内>

施設名：社会福祉法人京都ライトハウス

所在地：京都市北区千本北大路西側下がる50メートル
(市バス「京都ライトハウス前」)

住所：〒603-8302 京都市北区紫野花ノ坊町11 京都ライトハウス
TEL：075-462-4400

講義コード	90102301			
科目名	図書・図書館史 知識集積の歴史とその継承			
担当者	平野 翠			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[図]			
前提科目				
テキスト	担当者が作成したレジュメと資料を配布する。			
参考文献	『日本図書館史概説』 岩猿敏生 日外アソシエーツ 2007.1 『図説図書館の歴史』 スチュアート・A.P. マレー 原書房 2011.11 『本と図書館の歴史－ラクダの移動図書館から電子書籍まで』 モーリン・サワ 西村書店 2010.12 その他、授業のなかで随時紹介していく。			
備考	選択必修 <旧>900022 図書及び図書館史			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

様々なメディアによる図書の歴史や図書館の歴史を、日本を中心に西洋、中国に及んで学習し、現在の日本の図書や図書館がどのようになりたってきたかを知る。

2. 教育・学習の個別課題

各種の情報資源（主に図書）のメディア及び形態の歴史、流通の歴史、またそれを収集保存してきた図書館の歴史的発展について、日本を中心に、近代以降に大きな影響を与えた西洋や、それまでの文化に大きな影響を与えてきた中国の歴史について学び、今私たちの身近にある図書や図書館がどのように成立してきたかを学ぶ。

3. 教育・学習の方法

- 西洋の図書館の発展と中国・日本の図書館の発展の違いを認識する。
- 図書史については、現物と図版を示して理解を深める。
- 現在の図書館を例にあげながら、知の集積としての図書館の様々を考える。

・準備学習の具体的な方法

博物館や展覧会に行き、古典籍をみておく。
国立国会図書館などのHPの電子展示会を閲覧する。
自分が住んでいる地域図書館の歴史を知っておく。

4. 評価方法・評価基準

授業に取り組む態度20% 授業中課題20% 授業最終日の確認試験60%

5. 授業予定

- 第1回 文字の誕生と様々なメディア－紙発明以前のメディア
- 第2回 西洋の図書・図書館史①－古代 アレクサンドリア図書館
- 第3回 西洋の図書・図書館史②－中世～近世 修道院図書室から王室の図書館へ、活版印刷の誕生
- 第4回 西洋の図書・図書館史③－近代 国立図書館と公共図書館の発展、大量印刷の時代
- 第5回 東洋（中国・日本）の図書のすがたとかたち
- 第6回 中国の図書・図書館史①－竹簡・木簡、紙の発明、写本から刊本へ
- 第7回 中国の図書・図書館史②－四部目録の完成、『永楽大典』と『四庫全書』
- 第8回 日本の図書・図書館史①古代－文字・紙の移入と『百万塔陀羅尼』
- 第9回 日本の図書・図書館史②古代－貴族の文庫（芸亭など）と摺経・摺仏、平安朝物語
- 第10回 日本の図書・図書館史③中世－武家文庫（金沢文庫、足利学校）と寺院版
- 第11回 日本の図書・図書館史④近世－きりしたん版と古活字版から商業出版へ
- 第12回 日本の図書・図書館史⑤近世－徳川幕府の文庫、大名文庫、個人文庫
- 第13回 日本の図書・図書館史⑥近代－近代図書館制度
- 第14回 日本の図書・図書館史⑦近代－活字印刷の時代、新聞発行と大手出版社の登場
- 第15回 図書・図書館史の確認とまとめ

6. 留意事項

講義コード	90102401			
科目名	図書館総合演習 ネットで探る図書館の動向			
担当者	鎌田 均			
単位数	1	配当学年	234	
資格	[図]			
前提科目				
テキスト	教員が用意する			
参考文献	授業の中で紹介する			
備考	選択必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

国内外の各種図書館が発信するインターネット上の情報から、図書館が開発している新しいサービス、動向を探り、個別の事例を検討する。これを通して図書館全般における現状、また今後の展望をを総合的に理解する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 図書館における現在の諸問題、動向について理解する。
2. さまざまな図書館で実践されている新しい動向を発見し、検証する。

3. 教育・学習の方法

1. 前半の講義から、図書館における現状、動向に関する大きなテーマについて理解する。
2. 図書館ウェブサイトを調べ、新しい動き、取組みを発見し、それについて検証し、授業で発表する。

・準備学習の具体的な方法

1. 授業中適宜指示された資料を読み、内容を理解する。
2. インターネット、図書館などを利用して課題について調べ、授業の発表で利用するプレゼンテーションの材料、資料を作成する。

4. 評価方法・評価基準

授業への参加 40%、プレゼンテーション 60%

5. 授業予定

- 第1回 授業の進め方についての説明
- 第2回 (1) 新しい図書館の「場」の創出
- 第3回 (2) ヴァーチャルな場での図書館サービス
- 第4回 (3) 図書館と利用者を繋げる試み
- 第5回 (4) 電子資料と、情報へのアクセスの変化
- 第6回 (5) 資料のデジタル化とデジタル資料の管理、保存
- 第7回 (6) 他分野との連携
- 第8回 テーマ (1) に関する事例発表
- 第9回 テーマ (2) に関する事例発表
- 第10回 テーマ (3) に関する事例発表
- 第11回 テーマ (4) に関する事例発表
- 第12回 テーマ (5) に関する事例発表
- 第13回 テーマ (6) に関する事例発表
- 第14回 その他のテーマに関する事例発表
- 第15回 まとめ：各テーマを総合する

6. 留意事項

講義コード	91000301			
科目名	博物館経営論			
担当者	明珍 健二			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[博]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

博物館の経営における形態面および活動面における適切な管理・運営手法について理解し、ミュージアムマネジメントに関する基礎的能力を養成する。

2. 教育・学習の個別課題

博物館の経営基盤に関し、職員と組織がスムーズに連動するために財

務・行財政システム・施設と設備がいかにあるべきかを理解し、博物館の使命とは何か、その評価とは何かを考えるものとする。また博物館における行動規範を理解し、危機管理対応も理解する。さらに博物館の連携体制について、市民参画に必要な体制作りが友の会・ボランティアにとどまらず他館との連携あるいは産官学の連携までを含み、その結果、地域社会と博物館の連携が地域活性化する原動力となることを理解する。

3. 教育・学習の方法

講義形式とするが、テーマによっては討論を行うことがある。

・準備学習の具体的な方法

詳細は授業時に指示するが、多くの博物館を見学することを望む。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度およびレポートによる評価を行う。

5. 授業予定

- 第1回 ミュージアムマネジメントとは何か
- 第2回 公立・私立博物館の行財政制度
- 第3回 博物館活動における財務とは何か
- 第4回 博物館施設および設備はどのようにあるべきか
- 第5回 博物館施設の在り方（諸法令との関連）
- 第6回 博物館設備の在り方（諸法令との関連）
- 第7回 博物館の組織および職員体制
- 第8回 博物館の使命、事業計画、博物館評価とは
- 第9回 博物館倫理（行動規範）とは何か
- 第10回 博物館における危機管理とは何か
- 第11回 友の会、ボランティア、支援組織と市民参画の在り方
- 第12回 博物館のネットワーク化・他館との連携
- 第13回 行政、大学、研究機関等との連携
- 第14回 地域社会との連携・活性化をはかる博物館とは
- 第15回 まとめ（博物館経営基盤とは）

6. 留意事項

講義コード	91000401			
科目名	博物館資料論 博物館資料についての理解			
担当者	山田 由希代			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[博]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	授業中に適宜紹介する。			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

博物館を他の社会教育施設や研究書等と区別する指標は、博物館資料の存在である。博物館におけるさまざまな活動は、博物館資料なしには成り立たない。そして、博物館資料の取り扱い、学芸員の最も基本的な業務である。そのため、博物館資料とは何かといったことから、どのように収集、整理、保管、展示するのか、その活用に至るまでを学習する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 博物館資料の種類と分類に関する視点を理解する。
2. 資料の収集・保管について理解する。
3. 資料の調査・研究について理解する。
4. 資料の展示・公開について理解する。
5. 資料を取り巻く多様な課題について考察する。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法

*必要に応じて資料を配布し、講義を行う。

2. テキスト・参考資料

*テキストは使用しない。

*参考文献については必要に応じて紹介する。

3. その他

*他の博物館学関連の科目と緊密に関連するため、それらにも留意して学習する。

*博物館施設見学の費用は履修者の負担とする。

・準備学習の具体的な方法

講義が中心であるが、履修者の積極的な発言を求め、博物館や美術館に足を運び、展覧会および博物館施設の諸活動を現場で観察する機会を多く持つよう心がけること。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（態度、発言内容）やレポート等により、総合的に行う。

評価基準は、授業への参加態度 50%、まとめのレポート 50%とする。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 博物館資料とはなにか
- 第3回 文化財に関する法律
- 第4回 資料化の過程
- 第5回 収集1 購入、価格評価、寄託制度
- 第6回 収集2 コレクション
- 第7回 分類、整理、記録など
- 第8回 調査方法
- 第9回 保管
- 第10回 展示
- 第11回 運搬
- 第12回 研究
- 第13回 修復
- 第14回 活用
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	91000801			
科目名	博物館実習 I			
担当者	吉田 朋子			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[博]			
前提科目				
テキスト	『新時代の博物館学』 全国大学博物館学講座協議会 西日本部会 芙蓉出版 2012			
参考文献	適宜紹介する			
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

学芸員資格に向けた最終段階の科目の一つとして、学芸員業務に関する実践的な力を養う。

2. 教育・学習の個別課題

様々な館の見学、作品取り扱いの実習、学内展示の企画・実施を通して、博物館学の知識を実地に応用する。

3. 教育・学習の方法

- ・博物館施設を見学し、展示等について検討する
- ・作品管理に関わる実務、取り扱いについて実習を行い、博物館実習Ⅱに備える

- ・学内展示の企画・実施

・準備学習の具体的な方法

- ・指示された課題を準備すること
- ・施設のスケジュールによっては、時間内に見学を実施することが不可能なので、各自が個別に見学を行うことを求める可能性もある

4. 評価方法・評価基準

・参加態度 50%、課題の成果 50% (3分の1以上の欠席で単位取得は困難となる)

5. 授業予定

- 第1回 博物館実習の意義について・展示企画の検討
- 第2回 美術系博物館の見学と検討
- 第3回 考古系博物館の見学と検討
- 第4回 自然系博物館の見学と検討
- 第5回 調書の作成について
- 第6回 自記記録計・照度計の扱い
- 第7回 作品の取り扱い 1
- 第8回 作品の取り扱い 2
- 第9回 作品の写真撮影
- 第10回 展示内容の企画案発表会 (より早い回に実施する可能性がある)
- 第11回 博物館における印刷物の作成について
- 第12回 展示図面の作成
- 第13回 作品貸出・借用の実際について
- 第14回 解説・キャプションの作成
- 第15回 展示作業とギャラリー・トーク

6. 留意事項

博物館実習Ⅰ・Ⅱは、学芸員課程の最終段階に位置づけられる科目の一つであるので、その他の必要科目をほとんど取得していることが望ましい。

講義コード	91000901			
科目名	博物館実習Ⅱ			
担当者	吉田 朋子			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[博]			
前提科目				
テキスト	適宜紹介する。			
参考文献				
備考	必修 現場実習			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

博物館・美術館での実習を通して、学芸員の業務を深く理解する。事前準備と事後報告を行い、博物館学的な観点から総括する。

2. 教育・学習の個別課題

1. 学芸員の業務 2. 美術品・資料の取り扱いについて 3. 美術館・博物館の様々な業務について

3. 教育・学習の方法

- ・実習前に、派遣先についての調査を行い、発表する。
- ・実習内容については、各博物館、美術館、資料館の学芸員のカリキュラムに従う。

- ・実習後は、実習内容についてのレポートを書き、発表する。

・準備学習の具体的な方法

博物館学芸員資格科目で学習したことを実習で活かせるように復習し、実習先の施設についてできるだけ多くの情報を収集しておくこと。

4. 評価方法・評価基準

事前・事後の取り組み、博物館などから返却された博物館日誌の内容と実習後に提出するレポートとを合わせて評価する。

5. 授業予定

- 第1回 博物館実習の目的と留意点について
- 第2回 派遣先博物館・美術館に関する事前調査の発表
- 第3回 実習内容については、各派遣先の指示に従う。
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 実習体験についての発表

6. 留意事項

博物館実習Ⅰ・Ⅱは、学芸員課程の最終段階に位置づけられる科目の一つであるので、その他の必要科目をほとんど取得していることが望ましい。また、各受入施設は、多忙な業務の中で、実習生を受け入れていることを念頭に置き、大学を代表していることを忘れずに、礼儀正しく真摯な態度で実習に参加すること。

講義コード	91001001			
科目名	博物館資料保存論			
担当者	上羽 真弓			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[博]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『博物館資料保存論』 石崎武志 (編著) 講談社 2012 『文化財の保存環境』 東京文化財研究所 (編) 中央公論美術出版 2011 その他、適宜紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

館で展示を観察する機会を多く持つように心がけること。

4. 評価方法・評価基準

評価は、授業参加度（態度、発言内容）やレポート等により、総合的に行う。評価基準は、授業への参加態度 50%、まとめのレポート 50%とする。

5. 授業予定

- 第1回 博物館展示の意義について
- 第2回 展示と展示論の歴史
- 第3回 展示の社会性
- 第4回 コミュニケーションとしての展示
- 第5回 博物館展示の諸形態 1
- 第6回 博物館展示の諸形態 2
- 第7回 見学 1
- 第8回 展示の製作（企画・デザイン）
- 第9回 展示解説（図録・パンフレット）
- 第10回 展示パネル・解説パネル
- 第11回 関係者との協力（業者等）
- 第12回 人・機器による解説
- 第13回 展示の評価と改善について
- 第14回 見学 2
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	91001201			
科目名	博物館教育論			
担当者	吉田 朋子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[博]			
前提科目				
テキスト	『新時代の博物館学』 全国大学博物館学講座協議会 西日本部会 芙蓉出版 2012 適宜配布する。			
参考文献	適宜指示する。			
備考	必修 <旧>800011 教育学			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

博物館における資料の保存及び展示・収蔵環境を科学的に捉え、資料保存を良好な状態でおこなって行くための必要な知識を習得することを通じて、資料保存に関する基礎的能力を養う。

2. 教育・学習の個別課題

資料保存の歴史・意義を学び、その重要性を知る。
資料保存のための環境管理について学ぶ。
資料の種類ごとに修復処置の内容と意味を理解する。
美術館における保存修復活動を見学し、理解を深める。

3. 教育・学習の方法

講義を中心に授業を進める。
第12回～第14回の授業は「美術館における保存修復活動」の見学に充てる。

※施設見学に関わる費用は履修者の負担とする。

・準備学習の具体的な方法

授業中に適宜指示する。

4. 評価方法・評価基準

評価の基準として、授業参加態度 50%、レポート 50%とする。

5. 授業予定

- 第1回 博物館における資料保存の意義
- 第2回 文化財保護の歴史
- 第3回 資料の保存環境－温湿度・光・空気－
- 第4回 資料の保存環境－生物被害と IPM（総合的有害生物管理）－
- 第5回 資料の保存環境－災害対策－
- 第6回 資料の保存環境－梱包と輸送－
- 第7回 資料の保存環境－伝統的な保存方法－
- 第8回 資料の科学的調査について
- 第9回 資料の修復（日本画）
- 第10回 資料の修復（洋画）
- 第11回 資料の修復（紙資料）
- 第12回 美術館の保存修復活動の見学
- 第13回 美術館の保存修復活動の見学
- 第14回 美術館の保存修復活動の見学
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

内容や進行状況に応じて各回の内容は変わります。

講義コード	91001101			
科目名	博物館展示論			
担当者	山田 由希代			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[博]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	授業中に適宜紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する知識及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の点字機能に関する基礎的能力を養う。

2. 教育・学習の個別課題

1. 博物館において中心的活動のひとつである展示についての知識を身につける。
2. 展示方法、技術について学び、博物館において展示が及ぼす影響について多角的に考察する。

3. 教育・学習の方法

1. 授業方法
 - * 必要に応じて資料を配布し、講義を行う。
2. テキスト・参考資料
 - * テキストは使用しない。
 - * 参考文献については必要に応じて紹介する。
3. その他
 - * 他の博物館学関連の科目と緊密に関連するため、それらにも留意して学習する。
 - * 博物館施設見学の費用は履修者の負担とする。

・準備学習の具体的な方法

講義が中心であるが、履修者の積極的な発言を求めため、博物館や美術

1. 科目の教育目標

社会教育施設としての博物館の特性を理解する。博物館の教育は双方向的なものであり、すべての人に開かれなければならないことを理解する。

2. 教育・学習の個別課題

博物館での教育活動の基礎となる理論や知識、方法論を習得する。

3. 教育・学習の方法

講義形式、ディスカッション、ワークショップ。適宜、課題を提示する。

・準備学習の具体的な方法

指示された課題に取り組むこと。また、機会があれば、美術館や博物館で行われているワークショップや解説会などを体験すること。

4. 評価方法・評価基準

参加態度 50%、課題の成果 50%で評価する。3分の1以上の欠席で、単位修得は著しく困難となる。

5. 授業予定

- 第1回 博物館における教育とはなにか
- 第2回 博物館教育の歴史
- 第3回 博物館の利用実態と様々な学びの形態
- 第4回 博物館教育の双方向性について
- 第5回 展示とおとした教育
- 第6回 自己学習と博物館
- 第7回 学校教育と博物館
- 第8回 生涯学習と博物館
- 第9回 地域と博物館
- 第10回 ユニヴァーサルな博物館を目指して
- 第11回 博物館教育活動の様々な手法について
- 第12回 博物館教育活動の企画と実施の実務について
- 第13回 ワークショップの企画と実施（1）
- 第14回 ワークショップの企画と実施（2）
- 第15回 博物館教育の評価について

6. 留意事項

講義コード	92000101			
科目名	学校経営と学校図書館			
担当者	西尾 純子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[司教]			
前提科目				
テキスト	『学校経営と学校図書館、その展望 改訂版』 北克一 青弓社 2009			
参考文献	『学校図書館・司書教諭講習資料 第7版』 全国学校図書館協議会編 全国学校図書館協議会 2012 その他、授業の進度にそって適宜紹介します。			
備考	必修 教職課程履修者に限る			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

学校図書館の教育的意義や経営、その現状について総合的に学習する。また、学校図書館の運営・管理にあたる司書教諭の任務と役割について、学校図書館職員や地域との連携についても触れる。

2. 教育・学習の個別課題

1. 学校図書館の意義と役割
2. 学校図書館の機能
3. 司書教諭の使命

3. 教育・学習の方法

必ずしもテキスト通りに授業を進めませんが、科目理解のために必ず手元において予習・復習に使用してください。

履修する学生の理解度などを見て、授業計画を変更する可能性があります。

・準備学習の具体的な方法

テキストを読むだけでなく、大学の図書館を利用してください。

4. 評価方法・評価基準

授業参加態度(50%)、小レポート(50%)

小レポートでは、授業で習得した知識・技術などを評価の対象とします。

5. 授業予定

- 第1回 ガイダンス、学校図書館の現状
- 第2回 学校図書館の歴史
- 第3回 教育行政・教育課程と学校図書館
- 第4回 学校図書館の制度・法規・基準
- 第5回 学校経営と学校図書館
- 第6回 メディアセンターとしての学校図書館
- 第7回 学校図書館職員
- 第8回 学校図書館メディア I
- 第9回 学校図書館メディア II
- 第10回 学校図書館の施設・設備
- 第11回 学校図書館の活動 I
- 第12回 学校図書館の活動 II
- 第13回 地域と学校図書館の連携
- 第14回 学校図書館の評価と改善
- 第15回 これまでのまとめ

6. 留意事項

公欠の場合は考慮します。事前に申し出てください。

講義コード	92000201			
科目名	学校図書館メディアの構成			
担当者	西尾 純子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[司教]			
前提科目				
テキスト	『新版 学校図書館メディアの構成』 北克一/平井尊士 放送大学教育振興会 2012			
参考文献	『学校図書館・司書教諭講習資料 第7版』 全国学校図書館協議会編 全国学校図書館協議会 2012 その他、授業の進度にそって適宜紹介します。			
備考	必修 教職課程履修者に限る			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

さまざまな情報メディアが発達した現代において、学校図書館が、「学習情報センター」として、また「教材・教育情報センター」、「読書センター」として、その機能を発揮していくには、どのような学校図書館メディアを備えていなければならないのだろうか。まずそのことを、メディアの形態、内容の両面から考え、学校図書館メディアの収集について、提供の実情をふまえて学習し、理解を深める。

次に、収集された学校図書館メディアは、有効に利用されるためには、どのように分類・排架されなければならないか、また、利用のための検索手段はどのように整備されなければならないかを学習し、初歩的な実務能力も身につけられるようにする。

2. 教育・学習の個別課題

- ① 学校図書館メディアとは何か
- ② 学校図書館メディアの収集
- ③ 学校図書館メディアの組織化

3. 教育・学習の方法

必ずしもテキスト通りに授業を進めませんが、科目理解のために必ず手元において予習・復習に使用してください。

履修する学生の理解度などを見て、授業計画を変更する可能性があります。

・準備学習の具体的な方法

テキストを読むだけでなく、大学の図書館を利用してください。

4. 評価方法・評価基準

授業参加態度(50%)、小レポート(50%)

小レポートでは、授業で習得した知識・技術などを評価の対象とします。

5. 授業予定

- 第1回 学校図書館メディアの構成 科目概要
- 第2回 学校図書館メディアの種別とその特性
- 第3回 学校図書館メディアの収集・選択
- 第4回 学校図書館メディアの組織化－記述目録法の基礎
- 第5回 学校図書館メディアの組織化－記述目録法 I
- 第6回 学校図書館メディアの組織化－記述目録法 II
- 第7回 学校図書館メディアの組織化－記述目録法 III
- 第8回 学校図書館メディアの組織化－書誌記述とその実際
- 第9回 学校図書館メディアの組織化－典拠コントロールの意義・機能・方法
- 第10回 学校図書館メディアの組織化－図書館目録の変遷
- 第11回 学校図書館メディアの組織化－図書館目録の変遷
- 第12回 学校図書館メディアの組織化－主題索引法の基礎（分類法・件名法）
- 第13回 学校図書館メディアの組織化－分類法
- 第14回 学校図書館メディアの組織化－一件名法・シソーラス
- 第15回 これまでの課題のまとめ

6. 留意事項

公欠の場合は考慮します。事前に申し出てください。

講義コード	92000301			
科目名	学習指導と学校図書館 学校図書館による学習支援			
担当者	岩崎 れい			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[司教]			
前提科目				
テキスト	プリントを配布			
参考文献	『学校教育と図書館』 志保田務他編著 第一法規 上記以外は授業中に紹介			
備考	必修 教職課程履修者に限る			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

学校図書館は、学校における教育・学習の重要な支援機関である。具体的には、どのような支援を行うのか、また、情報の溢れる現代社会の中で新たにどのような役割が求められるようになるのかを学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 学校教育・子どもの学習において学校図書館が果たす役割を学ぶ。
2. 現代社会において求められる情報リテラシーの獲得に、学校図書館がどのような支援を行うことができるかを米国の学校図書館基準などをもとに考察する。
3. 学校図書館を活用する教科学習の具体案を作成する。

3. 教育・学習の方法

1. 講義・課題発表を併せて行う。
2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。
3. 学校図書館の具体的な活用方法を考え、実際に計画を立ててみる。
4. プリント・ビデオ等を利用する。

・準備学習の具体的な方法

1. 提示する教材にあらかじめ目を通してくる。 2. 教科学習と学校図書館との関わりについて自分の考えを構築する。 3. 各学習項目についての具体的な準備学習の方法は授業中に提示する。

4. 評価方法・評価基準

筆記試験 60%、授業中の課題及び提出物 40%とし、その合計で評価する。

5. 授業予定

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 1. 学校教育の支援機関としての学校図書館
1) 学校図書館と関連法
2) 学校図書館の役割についての基本理念 |
| 第2回 | 2. 子どもの学習と情報利用
1) 子どもの学習の基本概念
2) 情報メディアの探索と収集 |
| 第3回 | 2. 子どもの学習と情報利用
3) 情報メディアの利用
4) 情報のまとめ方および伝達・評価 |
| 第4回 | 2. 子どもの学習と情報利用
5) 学校図書館が子どもの学習に果たす役割 |
| 第5回 | 3. 情報探索とレファレンスサービス(1) (演習) |
| 第6回 | 3. 情報探索とレファレンスサービス(2) (演習) |
| 第7回 | 4. パスファインダーの作成(1) (演習) |
| 第8回 | 4. パスファインダーの作成(2) (演習) |
| 第9回 | 5. 情報リテラシーの獲得
1) 情報リテラシー概説
2) 情報リテラシーと学校図書館 |
| 第10回 | 6. 学習のプロセスと情報リテラシー
1) 米国の学校図書館基準
2) 学習プロセスと情報探索プロセス |
| 第11回 | 6. 学習のプロセスと情報リテラシー
3) 学習の評価と学校図書館 |
| 第12回 | 7. 学習支援機関としての学校図書館の新しい潮流 |
| 第13回 | 8. 学校図書館を活用する教科学習の具体案(1)
(課題の作成・発表を含む) |
| 第14回 | 8. 学校図書館を活用する教科学習の具体案(2)
(課題の作成・発表を含む) |
| 第15回 | 9. まとめ |

6. 留意事項

講義コード	92000401			
科目名	読書と豊かな人間性 子どもの読書における学校図書館の役割			
担当者	岩崎 れい			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[司教]			
前提科目				
テキスト	必要に応じて、プリントを配布			
参考文献	『学校教育と図書館』 志保田務他編著 第一法規 その他の参考文献は、授業中に紹介する。			
備考	必修 教職課程履修者に限る			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

子どもが成長していく過程において読書がどのような意義を持つかを考察する。また、子どもが読書の楽しさを知るために、学校図書館はどのような役割を果たすことができるかを、実習を交えながら学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

1. 子どもの読書能力と読書興味の発達段階を学ぶ。
2. 子ども観の移り変わりの中で、子どもの読書の意義についての考え方がどのように変わってきたかを把握する。
3. ブックトークやストーリーテリングなど読書に関する学校図書館の重要なサービスについて、基本的な事項を把握した上で実践的に学ぶ。
4. 読書に関する日・英・米の行政施策や民間の取り組みについて学ぶ。
5. 子どもの読書や文化を取り巻く問題点について考察する。

3. 教育・学習の方法

1. 講義・実習を併せて行う。
2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。(ワークシートを利用した学習、方法論習得のための作業を伴う学習など)
3. ブックトーク・ストーリーテリングなどの読書プログラム実習を行う。
4. プリント・ビデオ等を利用する。

・準備学習の具体的な方法

1. 講義に関しては、各学習項目ごとに、事前学習や作業の方法を指示する。
2. 読書プログラム実習に関しては、準備方法を授業中に指示する。
3. ある程度児童文学や絵本を読んでいることが学習効果を高めるので、各自積極的に読んでおくことが望ましい。

4. 評価方法・評価基準

筆記試験 60%、読書プログラム実習を含む授業中の課題 40%とし、その合計で評価する。

5. 授業予定

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 序 「読む」とは |
| 第2回 | 1. 読書能力・読書興味の発達段階 |
| 第3回 | 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
1) 読み聞かせ 2) 紙芝居 |
| 第4回 | 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
3) ストーリーテリング |
| 第5回 | 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
4) パネルシアター 5) ペープサート
6) エブロンシアター |
| 第6回 | 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
7) ブックトーク |
| 第7回 | 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
7) ブックトーク (続き) 8) 読書のアニメーション |
| 第8回 | 3. 児童資料論(1) |
| 第9回 | 3. 児童資料論(2) |
| 第10回 | 4. 子ども観の移り変わり |
| 第11回 | 5. 子どもへの読書支援
1) 日本の行政施策と民間の取り組み |
| 第12回 | 5. 子どもへの読書支援
2) 英国の行政施策と民間の取り組み
3) 米国の行政施策と民間の取り組み |
| 第13回 | 6. 子どもと読書・情報をめぐる諸問題 |
| 第14回 | 7. 子どもにとっての読書の意義 |
| 第15回 | 8. まとめ |

6. 留意事項

講義コード	92000501			
科目名	情報メディアの活用			
担当者	西尾 純子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[司教]			
前提科目				
テキスト	『情報メディアの活用』 シリーズ学校図書館学編集委員会編 全国学校図書館協議会 2010			
参考文献	『学校図書館・司書教諭講習資料 第7版』 全国学校図書館協議会編 全国学校図書館協議会 2012 その他、授業の進度にそって適宜紹介します。			
備考	定員 46 人 必修 教職課程履修者に限る			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

学校図書館の役割には、「学習情報センター」、「教材・教育情報センター」、「読書センター」の三つがある。司書教諭はこれらの役割を実現するキーパーソンとなることが求められる。本科目では学校図書館におけるメディア活用能力を身につけ、さらに生徒を指導する能力を獲得することを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 司書教諭としての必要な各種メディアの現状、特性、活用等について学習する。
- (2) 関連法規、情報倫理等について学習する。
- (3) 課題に沿って自ら企画し、調べた結果を発表する。

3. 教育・学習の方法

必ずしもテキスト通りに授業を進めませんが、科目理解のために必ず手元において予習・復習に使用してください。授業は講義だけでなく、演習も行います。

履修する学生の理解度などを見て、授業計画を変更する可能性があります。

・準備学習の具体的な方法

テキストを読むだけでなく、大学の図書館を利用してください。

4. 評価方法・評価基準

授業参加態度(50%)、小レポート(50%)

小レポートでは理論だけでなく、実際に演習で習得した知識・技術などを

評価の対象とします。

5. 授業予定

- 第1回 当該科目「情報メディアの活用」の概要と授業進行計画およびアンケート 司書教諭科目5科目の科目構成と当該科目「情報メディアの活用」の位置、概要を説明する。履修する学生の状況を把握するためのアンケートを実施する。
- 第2回 情報化社会と学校図書館(1) 学校図書館と資料・情報の関係を確認し、これらを情報メディアの視点から整理する。
- 第3回 情報化社会と学校図書館(2) 学校図書館と資料・情報の関係を確認し、これらを情報メディアの視点から整理する。
- 第4回 情報メディアの特性・種別と選択(1) 情報メディアの特性・種別について、さまざま区別、特性からこれを把握する。
- 第5回 情報メディアの特性・種別と選択(2) 情報メディアの特性・種別について、さまざま区別、特性からこれを把握する。
- 第6回 情報メディアの生産・流通と選択(1) 情報メディアの生産・流通の現状と問題点、今後の方向について学習する。
- 第7回 情報メディアの生産・流通と選択(2) 情報メディアの生産・流通の現状と問題点、今後の方向について学習する。
- 第8回 情報メディアの生産・流通と選択(3) 情報メディアの生産・流通の現状と問題点、今後の方向について学習する。
- 第9回 情報メディアの生産・流通と選択(4) 情報メディアの生産・流通の現状と問題点、今後の方向について学習する。
- 第10回 情報メディアの選択、活用とその留意点(1) 情報メディアの選択、活用の基本とそこにおける留意点を取り上げる。
- 第11回 情報メディアの選択、活用とその留意点(2) 情報メディアの選択、活用の基本とそこにおける留意点を取り上げる。
- 第12回 ネットワークモラル、著作権など(1) ネットワークモラル、倫理、および著作権法の基礎、電子メディアと著作権などを学校図書館との関係において取り上げる。
- 第13回 ネットワークモラル、著作権など(2) ネットワークモラル、倫理、および著作権法の基礎、電子メディアと著作権などを学校図書館との関係において取り上げる。
- 第14回 ネットワークモラル、著作権など(3) ネットワークモラル、倫理、および著作権法の基礎、電子メディアと著作権などを学校図書館との関係において取り上げる。
- 第15回 これまでの課題のまとめ

6. 留意事項

公欠の場合は考慮します。事前に申し出てください。

講義コード	92205701			
科目名	日本語教授法			
担当者	田中 貴子			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	毎回、ハンドアウトを配布する			
参考文献	『日本語教授法を理解する本 歴史と理論編』 西口光一 バベルプレス 1995 『日本語教授法を理解する本 実践編』 三牧陽子 バベルプレス 1996 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』 川口義一&横溝紳一郎 ひつじ書房 2005 『日本語教授法』 石田敏子 大修館書店 1995 『日本語教育ハンドブック』 林大他 大修館書店 1990 国際交流基金日本語教授法シリーズ 第1巻～14巻 凡人社			
備考	必修 日本語教員養成課程専用科目(言語と教育)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

本科目は、前期「日本語教育入門」での学習をふまえた上で、実際の授業を行うために必要な知識やスキル、考え方などを身につけることを目標とする。日本語学習者の増加に伴い、その背景や学習動機などは実に多様化しており、授業の実践方法もさまざまである。日本国内における外国人児童、生徒への日本語教育支援も、将来小学校や中学校の教員を目指している人にとって考えておかなければならない問題である。どのような状況でも、学習者のために自ら考え、実践できる教師の育成を目指す。

2. 教育・学習の個別課題

国内外の日本語学習についてその背景を知る。

さまざまな教授法を学び、それぞれの特徴や問題点を考える。

外国語としての日本語に関する知識を学ぶ。

第二言語教育の技能を学ぶ。

教材や教室活動、授業の組み立て方を学び、実践する。

3. 教育・学習の方法

講義で基礎的な知識を学んだ後は、外国語として日本語をとらえる視点を持つ。

各自あるいはグループで実際に教案作成や教材分析などを行う。

日本文化および多文化共生について考える。

授業への積極的な参加が求められる。

・準備学習の具体的な方法

事前に資料を読んでおくこと。

4. 評価方法・評価基準

授業参加度(50%)、課題(20%)、試験(30%)の総合評価とする。出席回数が3分の2に満たない場合は、不合格とする。

5. 授業予定

- 第1回 国内外の日本語教育の現状
- 第2回 コースデザイン
- 第3回 教授法の歴史と言語学習理論1
- 第4回 教授法の歴史と言語学習理論2
- 第5回 教室活動の種類と目的1
- 第6回 教室活動の種類と目的2
- 第7回 教材分析
- 第8回 授業の実際1 会話教育
- 第9回 授業の実際2 聴解教育
- 第10回 授業の実際3 読解教育
- 第11回 授業の実際4 作文教育
- 第12回 評価論
- 第13回 授業の実践1
- 第14回 授業の実践2
- 第15回 授業の実践3 今までのまとめ

6. 留意事項

講義コード	92205801			
科目名	日本語教育実習 I A			
担当者	日比 伊奈穂			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	ハンドアウト配布。			
参考文献	授業中、適宜指示する。			
備考	必修 日本語教員養成課程専用科目(言語と教育)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

模擬授業を通して、日本語を教えるための技術を身につける。どのような学習者にも対応できるよう、初級、中級、上級というレベルに応じた指導法はもちろん、文法、会話、読解、作文といった科目別の具体的な指導方法も学ぶ。実践を通して、日本語教授法で学んだ知識を日本語教師として必要な技術に結びつけることが本科目の目標である。

2. 教育・学習の個別課題

・日本語教育における日本語文法を学ぶ。

・レベル別、科目別の模擬授業を通して、指導法の基礎を身につける。

・どのような授業を行うか、自ら考え、工夫する。

・さまざまな教材の特徴を学び、効果的な使用法を考える。

3. 教育・学習の方法

授業前半は日本語文法の基礎を学ぶ。後半は教授法を確認しながら、グループ、あるいは個人で模擬授業の準備、実践を行う。自らの実践だけでなく、他学生の模擬授業からも学ぶことは多い。積極的に授業に参加すること。

・準備学習の具体的な方法

・日本語文法や教授法はさまざまな書物にあり、自ら積極的に学ぶこと。

・模擬授業の前には教案を提出すること。

4. 評価方法・評価基準

授業への参加度(出席率も含む):40%、課題・実習:60%

出席が3分の2以上に満たない者は評価しない(不合格)。

5. 授業予定

- 第1回 はじめに(オリエンテーション)
- 第2回 初級の授業(1)
- 第3回 初級の授業(2)

- 第4回 初級の授業 (3)
- 第5回 初級の授業 (4)
- 第6回 中級の授業 (1)
- 第7回 中級の授業 (2)
- 第8回 中級の授業 (3)
- 第9回 中級の授業 (4)
- 第10回 上級の授業 (1)
- 第11回 上級の授業 (2)
- 第12回 上級の授業 (3)
- 第13回 評価方法 (1)
- 第14回 評価方法 (2)
- 第15回 総括

6. 留意事項

講義コード	92205802			
科目名	日本語教育実習ⅠB			
担当者	田中 貴子			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	『みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ』 スリーエーネットワーク ハンドアウトを配布する。			
参考文献	『初級を教える人のためのハンドブック』 スリーエーネットワーク 『中級を教える人のためのハンドブック』 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語文型練習帳』 スリーエーネットワーク 『日本語初級1・2 大地』 スリーエーネットワーク 『トピックにより日本語総合演習 中級前期・中級後期・上級』 スリーエーネットワーク 『日本語文型辞典』(くろしお出版) 『生きた例文で学ぶ日本語表現文型辞典』(アスク) 『初級日本語文型と教え方のポイント』(スリーエーネットワーク) 『中級日本語文型と教え方のポイント』(スリーエーネットワーク) 『おたすけタスク』(くろしお出版) 『コミュニケーション・ゲーム』(凡人社) 『絵で導入・絵で練習』(凡人社) 『クラス活動集101』(スリーエーネットワーク) 『続クラス活動集131』(スリーエーネットワーク) 『文化中級日本語Ⅰ・Ⅱ』(文化外国語専門学校)			
備考	必修 日本語教員養成課程専用科目(言語と教育)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

教室実習を通して、日本語教師としての知識やスキル・考え方を身につける。「日本語教授法」での学習をふまえて、聴解、会話、読解、作文といった科目別の具体的な指導方法を学ぶ。また初級、中級、上級というレベルに応じた指導法を知り、多様な学習者に柔軟に対応できるような日本語教授法を学ぶ。

2. 教育・学習の個別課題

・学習者のレベル別、目的別にどのような授業を行うべきか実践を通して考える。

- ・さまざまな教材・教具の特徴を知り、授業での効果的な使用方法を学ぶ。
- ・外国語としての日本語を客観的に分析し、言語に関する知識を学ぶ。

3. 教育・学習の方法

グループ、あるいは個人で模擬授業の準備、実践を行うことが授業の中心となる。自らの実践だけでなく、他学生の模擬授業からも学べることは多い。積極的に授業への参加が求められる。

・準備学習の具体的な方法

授業の前に資料を読んでおくこと。
模擬授業の前には指導項目を分析し、教案を提出すること。

4. 評価方法・評価基準

出席率・授業参加度(30%)、課題・実習(50%)、試験(20%)
出席が3分の2に満たない者は不合格とする。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 初級の教え方1

- 第3回 初級の教え方2
- 第4回 初級の教え方3
- 第5回 初級の教え方4
- 第6回 初級の教え方5
- 第7回 初級の教え方6
- 第8回 中級の教え方1
- 第9回 中級の教え方2
- 第10回 中級の教え方3
- 第11回 上級の教え方1
- 第12回 上級の教え方2
- 第13回 上級の教え方3
- 第14回 評価方法
- 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	92205901			
科目名	日本語教育実習Ⅱ			
担当者	田中 貴子			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	『日本語初級大地』 山崎佳子ほか スリーエーネットワーク 『トピックによる日本語総合演習中級前期・中級後期』 スリーエーネットワーク 日本語初級・初中級・中級テキスト			
参考文献	『みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ』 スリーエーネットワーク 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 スリーエーネットワーク 『中級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 スリーエーネットワーク 『日本語文型辞典』くろしお出版 『くらべてわかる日本語表現文型辞典』Jリサーチ 『日本語初級大地 文型説明と翻訳 英語版』スリーエーネットワーク 『日本語初級大地 教師用ガイド 教え方と文型説明』スリーエーネットワーク 『どなたときどう使う日本語表現文型辞典』アルク 『生きた例文で学ぶ日本語表現文型辞典』アスク 『みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ 書いて覚える文型練習帳』スリーエーネットワーク 『おたすけタスク』くろしお出版 『コミュニケーション・ゲーム』凡人社 『コミュニケーションのためのクラス活動40』スリーエーネットワーク 『絵で導入・絵で練習』凡人社 『クラス活動集』			
備考	選択必修 日本語教員養成課程専用科目(言語と教育) 学外実習			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

1. 教育実習

本科目は1,2,3年で学習した日本語教員養成科目の総仕上げとして、実際に外国人学習者に日本語教育の授業実践を行なうことにより、日本語教師としての知識、技能、考え方を身につけることを目標とする。ここでは、既に実施している教室実習とは異なり、多様な学習者に対応した指導技術、問題解決能力、コミュニケーション力などが求められる。グローバル社会において、自ら考え実践できる日本語教師の育成を目指す。

2. 事前事後指導

実習を実りあるものにするため、事前指導では基本的な授業技能や心構えを身につけることを目標とする。また、実習において円滑な実践が行なわれるよう、十分な課題準備が求められる。事後指導においては、実習体験が今後の自立学習に活かされるよう意識付けをする。

2. 教育・学習の個別課題

1. 様々な日本語教育の現状を知る。
2. 学習者に応じたコースデザイン・指導内容を考える。
3. さまざまな教授法をふまえて、指導案作成・教材準備を行う。
4. 実践を通して、効果的な指導技能、教室活動を学ぶ。
5. 日本語学習者との相互理解を深める。

3. 教育・学習の方法

講義で事前事後指導を行なう。実習先では授業実践およびフィードバックを行なう。授業実践の前には指導案の提出が求められる。学生は授業実践および授業見学を通して共に日本語教育についての技能を深める。

・準備学習の具体的な方法

事前授業では、さまざまな学習者に対するコースデザインを行う。また、日本語教材の比較・分析を通して授業実践の準備を行う。

実習中は、指導内容の研究が不可欠で、授業に対する適切で効果的な指導法や教材・教具などを考えて指導案を作成することが求められる。

4. 評価方法・評価基準

評価は出席率、指導案提出、教育実習、課題提出により総合的に行う。なお、原則として欠席は認めないので注意すること。

5. 授業予定

- 第1回 事前指導 1. 教育実習オリエンテーション:教育実習の意義、心構え、学習者の多様性と異文化コミュニケーション
第2回 事前指導 2. 教育実習準備: プレースメントテスト作成、コースデザイン、教材分析、オリエンテーション準備
第3回 事前指導 3. 教育実習準備: 指導案作成、教材・教具準備
第4回 実習 1. オリエンテーション、プレースメントテスト実施
第5回 実習 2. 初級授業実践、フィードバック
第6回 実習 3. 初級授業実践、フィードバック
第7回 実習 4. 初級授業実践、フィードバック
第8回 実習 5. 初中級授業実践、フィードバック
第9回 実習 6. 初中級授業実践、フィードバック
第10回 実習 7. 初中級授業実践、フィードバック
第11回 実習 8. 中級授業実践、フィードバック
第12回 実習 9. 中級授業実践、フィードバック
第13回 実習 10. 中級授業実践、フィードバック
第14回 事後指導 1. 教育実習報告・反省
第15回 事後指導 2. 実習日誌、レポート提出、総括、今後の自己学習

6. 留意事項

講義コード	92206001			
科目名	日本語教育実習Ⅲ 海外での日本語教育実習			
担当者	堀 勝博・朱 鳳			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	海外実習校との打ち合わせによって決定する			
参考文献	授業の中で指示する			
備考	定員10人 選択必修 日本語教員養成課程専用科目(言語と教育) 学外実習			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この科目は、本学日本語教員養成課程の主要科目を修得した最終年次生が、実際に海外の日本語教育の現場(香港中文大学專業新修学院の予定)に赴き、外国人学習者を直接教えることで、日本語教育の実践的知識を体得することを目的とするものである。

2. 教育・学習の個別課題

1. 本学における事前の準備学習および実習計画
2. 実習校日本語クラスの見学
3. 実習校教員の業務補助(補助教材作成、教室での教授補助等)
4. 実習校教科書にもとづく指導案の作成ならびに研究授業の実施
5. 日本文化・日本事情に関するプレゼンテーションの実施(茶華道の実演等—受講生の得意分野による)
6. その他、実習校教員の指示にもとづく事項
7. 本学におけるレポート作成および総括

3. 教育・学習の方法

事前事後指導は、本学における講義。実習は、海外現地研修の形式で行う。海外滞在は、2週間前後の予定。

・準備学習の具体的な方法

指示された課題は、事前にきちんと準備すること。とくに、海外実習校においては、事前学習・教材研究は周到に行うこと。

4. 評価方法・評価基準

取り組み姿勢の評点30%、作成教材、指導案および実施模擬授業の内容60%、最終レポートの内容10%で評価する。なお、この科目に関しては、遅刻はゆるぎされない。欠席した者は単位不認定となる。

5. 授業予定

- 第1回 事前指導(実習の目的・方法・注意事項等の講義)
第2回 事前指導(実習の目的・方法・注意事項等の講義)
第3回 事前指導(実習の目的・方法・注意事項等の講義)
第4回 海外教室での実習(授業見学、教材作成補助等)
第5回 海外教室での実習(授業見学、教材作成補助等)
第6回 海外教室での実習(授業見学、教材作成補助等)
第7回 海外教室での実習(授業見学、教材作成補助等)
第8回 海外教室での実習(授業見学、教材作成補助等)
第9回 海外教室での実習(指導案作成、授業実施)
第10回 海外教室での実習(指導案作成、授業実施)
第11回 海外教室での実習(指導案作成、授業実施)
第12回 海外教室での実習(指導案作成、授業実施)
第13回 海外教室での実習(指導案作成、授業実施)
第14回 海外教室での実習(指導案作成、授業実施)
第15回 事後指導(実習報告レポート作成を含む)

6. 留意事項

別途渡航費が必要である。また、この授業の履修条件は、以下の通りである。日本語教育実習Ⅰの単位を修得済みであり、かつ必修科目22単位のうち16単位以上を修得済みであること。留学生は、日本留学試験日本語科目(3領域総合得点)335点以上の成績を取得していること。

講義コード	92210101			
科目名	日本語教育実習Ⅳ 海外での長期日本語教育実習			
担当者	堀 勝博			
単位数	4	配当学年	4	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	海外実習校との打ち合わせによって決定する			
参考文献	授業の中で指示する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

この科目は、本学日本語教員養成課程の主要科目を修得した最終年次生が、実際に海外の日本語教育の現場(実習先未定)に赴き、外国人学習者を直接教えることで、日本語教育の実践的知識を体得することを目的とするものである。

2. 教育・学習の個別課題

1. 本学における事前の準備学習および実習計画
2. 実習校日本語クラスの見学
3. 実習校教員の業務補助(補助教材作成、教室での教授補助等)
4. 実習校教科書にもとづく指導案の作成ならびに研究授業の実施
5. 日本文化・日本事情に関するプレゼンテーションの実施(茶華道の実演等—受講生の得意分野による)
6. その他、実習校教員の指示にもとづく事項
7. 本学におけるレポート作成および総括

3. 教育・学習の方法

事前事後指導は、本学における講義。実習は、海外現地研修の形式で行う。海外滞在は、1ヶ月前後の予定。

・準備学習の具体的な方法

指示された課題は、事前にきちんと準備すること。とくに、海外実習校においては、教材研究・指導案作成は周到に行うこと。

4. 評価方法・評価基準

現地教員の評価をもとに、実習期間中に作成した教材や指導案、最終レポートなどにより、総合的に判定する。なお、遅刻・欠席した者は単位不認定となる。

5. 授業予定

- 第1回 事前指導(実習の目的・方法・注意事項等の講義)
第2回 海外教室での実習(授業見学、教材作成補助等)
第3回 海外教室での実習(指導案作成、授業実施)
第4回 海外教室での実習(指導案作成、授業実施)
第5回 海外教室での実習(指導案作成、授業実施)
第6回 海外教室での実習(指導案作成、授業実施)
第7回 海外教室での実習(指導案作成、授業実施)
第8回 海外教室での実習(指導案作成、授業実施)
第9回 海外教室での実習(指導案作成、授業実施)
第10回 海外教室での実習(指導案作成、授業実施)
第11回 海外教室での実習(指導案作成、授業実施)
第12回 海外教室での実習(指導案作成、授業実施)

- 第13回 海外教室での実習（指導案作成、授業実施）
 第14回 海外教室での実習（指導案作成、授業実施）
 第15回 事後指導（実習報告レポート作成を含む）

6. 留意事項

別途渡航費が必要である。また、この授業の履修条件は、以下の通りである。日本語教育実習Ⅰの単位を修得済みであり、かつ必修科目22単位のうち16単位以上を修得済みであること。留学生は、日本留学試験日本語科目（3領域総合得点）33.5点以上の成績を取得していること。

講義コード	94001001			
科目名	応用プレゼンテーション演習			
担当者	平野 美保			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『ビジネスプレゼンテーション』 武田秀子編 実教出版 2011			
参考文献				
備考	定員30人 「プレゼンテーション演習」履修済みが望ましい			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

視覚資料の特性や作成上の留意点などを理解した上で資料作成を行い、効果的なプレゼンテーションができるようになる。

2. 教育・学習の個別課題

・プレゼンテーションの基礎知識をもとに、視覚資料に関する意義、種類、特徴などを理解する。
 ・商品企画など図表や図解表現などを使った資料作成をしながら実践的なプレゼンテーション力を身につける。

3. 教育・学習の方法

・各課題について、学習、準備、練習、発表を、個人ないしはグループで行う。
 ・発表ごとに、発表に関する自己評価（工夫点、反省点）、他者の発表から得たこと、今後の課題、感想等についての報告書を提出する（4回）。
 ・準備学習の具体的な方法
 ・毎回のテーマについて、下準備を行う。
 ・授業内でできなかったことは、次週までに仕上げておく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、最終プレゼンテーション（30%）、出席率・授業参加度（40%）、報告書（40%）に基づき、総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 ビジュアル化の意義：
 視覚資料のポイントと図解、プレゼンテーション演習（準備）
 第3回 ビジュアル化の意義：
 図解を使ったプレゼンテーション演習（発表①）
 第4回 視覚資料の種類と特徴：
 視覚資料の理解と視覚資料を使ったプレゼンテーション演習（準備）
 第5回 視覚資料の種類と特徴：
 視覚資料を使ったプレゼンテーション（準備）
 第6回 視覚資料の種類と特徴：
 視覚資料を使ったプレゼンテーション演習（発表②）
 第7回 資料引用と著作権への配慮
 第8回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点：
 特徴と留意点の把握、プレゼンテーション演習（準備）
 第9回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点：
 プレゼンテーション演習（準備）
 第10回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点：
 プレゼンテーション演習（発表③）
 第11回 プレゼンテーション演習：準備（企画）
 第12回 プレゼンテーション演習：準備（視覚資料作成、練習）
 第13回 プレゼンテーション演習：準備（リハーサル、相互評価）
 第14回 プレゼンテーション演習：発表④
 第15回 まとめ

6. 留意事項

講義コード	94001101			
科目名	情報機器利用プレゼンテーション演習			
担当者	平野 美保			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『ビジネスプレゼンテーション』 武田秀子編 実教出版 2011			
参考文献	『Power Point スライドデザイン』 宮野公樹 化学同人 2009 『プレゼンテーション zen 第2版』 ガー・レイノルズ ピアソン 2009 『プレゼンテーション zen デザイン』 ガー・レイノルズ ピアソン 2010 『シンプル・プレゼン』 ガー・レイノルズ 日経 BP 2011			
備考	定員30人 「プレゼンテーション演習」履修済みが望ましい			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

効果的なプレゼンテーションについての考え方や技法を学び、情報機器を持つ特性を活用して、効果的なプレゼンテーションができるようになる。

2. 教育・学習の個別課題

・情報機器を活用して効果的なプレゼンテーションの方法を習得する。
 ・効果的なプレゼンテーションになるよう自ら創意工夫する。

3. 教育・学習の方法

・プレゼンテーション用ソフトの Power Point を用いて、毎回のテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。
 ・発表ごとに、発表に関する自己評価（工夫点、反省点）、他者の発表から得たこと、今後の課題、感想等についての報告書を提出する（3回）。
 ・準備学習の具体的な方法
 ・次回の課題内容について、下調べをする。
 ・授業時間内にできなかったことは、次週までに仕上げておく。

4. 評価方法・評価基準

評価は、最終プレゼンテーション（30%）、出席率・授業参加度（40%）、報告書（30%）に基づき、総合的に行う。

5. 授業予定

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 Power Point を活用してプレゼンテーション演習：
 文字で伝える
 第3回 Power Point を活用してプレゼンテーション演習：
 図解で伝える
 第4回 Power Point を活用してプレゼンテーション演習：
 写真を活用して伝える
 第5回 Power Point を活用してプレゼンテーション演習：
 データを活用して伝える
 第6回 プレゼンテーション演習①：準備（文字、図解、写真を活用）
 第7回 プレゼンテーション演習①：発表（文字、図解、写真を活用）
 第8回 プレゼンテーション演習②：準備（ストーリー作り等）
 第9回 プレゼンテーション演習①：準備
 （Power Point 等の準備、練習）
 第10回 プレゼンテーション演習②：発表
 （Power Point 等を活用して説明）
 第11回 プレゼンテーション演習③：準備（企画等）
 第12回 プレゼンテーション演習③：準備
 （Power Point 等の準備、練習）
 第13回 プレゼンテーション演習③：リハーサル、相互評価
 第14回 プレゼンテーション演習③：発表
 第15回 まとめ

6. 留意事項

・本授業では、パワーポイントの基礎を習得していることを前提に授業を進める。

